

(2) 土坑 (第211～213図 PL.159～162・221・222 遺物観察表P.462・463)

V区古代～古墳時代遺構面で検出された土坑は、南区で5基、北区で21基である。土坑は北区に偏在しており、南区では散在していた。北区では竪穴住居やピット群の分布を取り巻くような位置にあり、集落内に有機的配置があったことが想定される。この遺構集中分布はIV区北西隅の遺構分布へ連続しているものである。ほとんどの土坑が浅間C軽石を含む黒褐色土で埋まっており、古墳時代の土坑と推定される。中央区では本面の遺構確認を実施していないので、西側への土坑分布の広がりについては不明と言わざるを得ない。

それぞれの土坑の位置や規模は、P.434の表にまとめた。以下各遺構の調査所見を、南区―北区の順に記載する。

a. 南区の土坑

20号土坑は不整楕円形の土坑で、22号溝の西側で検出された。断面形は皿状。黒褐色粘質土で埋まっていた。遺物は出土しなかった。

21号土坑は不整楕円形の土坑で、22号溝の東側で検出された。断面形は浅いボール状。浅間C軽石を微量含む暗灰色粘質土で埋まっていた。遺物は出土しなかった。

22号土坑は不整長方形の土坑で、1号流路の東側で検出された。断面形は浅いボール状。底面には凹凸がある。微量の浅間C軽石、黒色粘質土塊を含む暗灰色粘質土で埋まっていた。遺物は出土しなかった。

23号土坑は不整楕円形の土坑で、22号土坑の北東側で検出された。断面形はボール状。上層は浅間C軽石を微量含む灰色粘質土で、下層は暗灰色粘質土と黒色粘質土、黄灰色粘質土の混土で埋まっていた。遺物は出土しなかった。

24号土坑は不整楕円形の土坑で、23号土坑の東側で検出された。断面形は浅いボール状。底面は南東部がやや深くなっている。微量の浅間C軽石、黒色粘質土塊を含む暗灰色粘質土で埋まっていた。遺物は出土しなかった。

b. 北区の土坑

36号土坑はほぼ円形の土坑で、36号溝に区切られた北側のほぼ中央で検出された。断面形はやや上方に開く箱形。上層は浅間C軽石・地山ローム粒を含む黒褐色軽植

土で、下層は浅間C軽石・地山ローム塊を含む黒色軽植土で埋まっていた。遺物は比較的多く出土した。図示した土師器壺(第211図1)は北壁際底面上27.4cmで出土した。他に埋没土中から土師器壺破片5点、高坏破片1点、甕破片45点、S字甕破片23点、台付甕破片1点が出土した。土坑の時期は古墳時代前期と推定される。

37号土坑は円形の土坑で、36号土坑の東側に検出された。断面はフラスコ状。浅間C軽石・地山ローム粒を含む黒色軽植土で埋まっていた。遺物は出土しなかった。土坑の時期は埋没土の特徴から古墳時代前期と推定される。

51号土坑はほぼ円形の土坑で、37号土坑の南側で検出された。上層は浅間C軽石・暗褐色壤土塊を含む黒褐色軽植土で、下層は暗褐色土と地山ローム塊の混土で埋まっていた。遺物は出土しなかった。

52号土坑は丸い楕円形の土坑で、51号土坑の南西側で検出された。浅間C軽石・暗褐色壤土塊を含む黒色重植土で埋まっていた。埋没土中から土師器壺破片21点、器台破片1点、S字甕破片39点が出土した。出土遺物から土坑の時期は古墳時代前期と考えられる。

53号土坑はほぼ円形の土坑で、61号土坑の北側で検出された。断面形は筒形。上層は浅間C軽石・暗褐色壤土塊を含む黒褐色壤土で、下層は浅間C軽石・炭化物粒を含む黒色壤土で埋まっていた。図示した土師器壺(第211図2)は南部底面上15.4cmで出土した。他に埋没土中から土師器壺破片31点、S字甕破片29点が出土した。土坑の時期は古墳時代前期と考えられる。

54号土坑は楕円形の土坑で、62号土坑の北側で検出された。断面形は浅いボール状。浅間C軽石・地山ローム塊を含む黒褐色壤土で埋まっていた。埋没土中からS字甕破片4点が出土した。出土遺物から土坑の時期は古墳時代前期と考えられる。

55号土坑は小型の円形土坑で、発掘区北端で69号土坑と並んで検出された。断面形は皿状。地山ローム粒を含む黒褐色壤土で埋まっていた。遺物は出土しなかった。

58号土坑は不整楕円形の土坑で、断面形は筒形。上層は浅間C軽石を含む黒褐色植土で、下層は浅間C軽石・地山ローム粒を含む黒色軽植土、黒色シルト質土で埋まっていた。図示した土師器器台(第212図1)は南部底面上27.5cmで、S字甕(3・4)は中央部底面上28.8cm、

壺(2)は北部底面直上で出土した。他に埋没土中から土師器壺破片3点、高坏破片1点、S字甕破片8点が出土した。土坑の時期は古墳時代前期と推定される。

59号土坑は楕円形の土坑で、68号土坑と接して検出された。断面形は上方が開く筒形。上層は浅間C軽石を含む黒褐色・黒色軽埴土で、下層は浅間C軽石・暗褐色壤土粒・地山ローム粒等を含む黒色壤土、黒色軽埴土で埋まっていた。図示した土師器S字甕(第212図5)は中央部底面上2.5cmで出土した。他に埋没土中から、土師器ミニチュア破片1点、壺破片65点、埴破片4点、S字甕破片76点が出土した。土坑の時期は古墳時代前期と推定される。

60号、68号土坑と44号ピットは、59号土坑の南側に接して検出された。68号土坑が最も古く、44号ピット、60号土坑の順に掘られたものとみられる。60号土坑は楕円形の土坑で、上層は浅間C軽石を含む黒褐色重埴土、下層は浅間C軽石・黄褐色シルト質壤土塊を含む黒褐色軽埴土で埋まっていた。遺物は出土しなかった。

68号土坑は小型の楕円形の土坑で、白色軽石・暗褐色壤土小塊を含む黒褐色軽埴土で埋まっていた。遺物は出土しなかった。

61号土坑は円形の土坑で、59号土坑の東側で検出された。断面形はフラスコ状。上半部は浅間C軽石を含む黒色壤土で、白色軽石を含む黒褐色重埴土で埋まっていた。図示した土師器小型丸底壺(第212図6)は埋没土中から出土した。他に土師器壺破片2点、S字甕破片16点が埋没土中から出土した。土坑の時期は古墳時代前期と推定される。

62号土坑は楕円形の土坑で、54号土坑の南側で検出された。底面には凹凸が著しい。浅間C軽石・黄褐色シルト質壤土小塊を含む黒褐色軽埴土で埋まっていた。埋没土中から土師器壺破片8点、S字甕破片14点が出土した。

64号土坑は丸い楕円形の土坑で、58号土坑の東側で検出された。断面形は皿状。浅間C軽石を比較的多く含む黒色軽埴土で埋まっていた。遺物は出土しなかった。

65号土坑は発掘区東端にあり、東半分が発掘区域外となり、全形がとらえられなかったが、楕円形と推定される。浅間C軽石を含む黒色軽埴土で埋まっていた。埋没土中から土師器壺破片12点、高坏破片1点、坏破片1点、甕破片7点、S字甕破片51点が出土した。埋没土と出土

遺物から古墳時代前期の土坑と推定される。

69号土坑は円形の土坑で55号土坑に接して検出された。断面形は皿状。地山ローム粒を含む黒褐色壤土で埋まっていた。遺物は出土しなかった。

70号土坑は隅丸長方形の土坑で、36号溝の西端近くで重複して検出された。溝との新旧関係は不明である。浅間C軽石・地山ローム塊を含む黒褐色軽埴土で埋まっていた。埋没土中から土師器壺破片1点、S字甕破片3点が出土した。出土遺物から古墳時代前期の土坑と推定される。

71号土坑は楕円形の土坑で、発掘区北部39号溝の南側に検出された。断面形はすり鉢状。上位に浅間C軽石を含む黒褐色壤土塊、下層には地山ローム塊を含む黒褐色壤土で埋まっていた。本土坑からは遺物が多量に出土した。図示した土師器器台(第213図1)は北壁沿い底面上11.7cmで出土した。他に埋没土中から土師器壺破片53点、埴破片4点、S字甕18点が出土した。出土遺物から古墳時代前期の土坑と推定される。

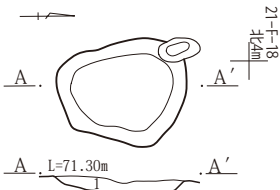
72号土坑は北半分が発掘区域外になり、全形がとらえられなかったが、楕円形と推定される。断面形は皿状。浅間C軽石を含む黒色軽埴土で埋まっていた。遺物は出土しなかった。

74号土坑は小型の円形の土坑で、72号土坑の南東部に近接して検出された。断面形は筒状。上層は浅間C軽石・砂粒を含む黒褐色砂質壤土で、下層は浅間C軽石・褐色シルト質壤土塊を含む黒褐色壤土で埋まっていた。図示した土師器甕(第213図2)は中央部底面上19.5cmで出土した。他に埋没土中から土師器S字甕18点が出土した。埋没土や出土遺物から古墳時代前期の土坑と推定される。

76号土坑は北側の大部分が発掘区域外になり、全形がとらえられなかったが、楕円形あるいは円形と推定される。断面形は皿状。61号、85号ピットと重複していたが、新旧関係は不明である。浅間C軽石を含む黒褐色軽埴土で埋まっていた。埋没土中から土師器壺破片1点、S字甕7点が出土した。埋没土と出土遺物から古墳時代前期の土坑と推定される。

第6章 古代～古墳時代の遺構と遺物

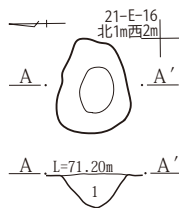
V区20号土坑



V区20号土坑A-A'

1. 黒褐色粘質土

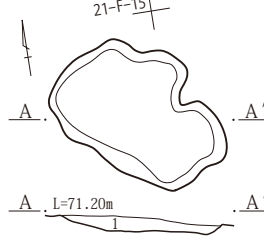
V区21号土坑



V区21号土坑A-A'

1. 暗灰色粘質土 As-Cを微量含む。極めて粘性の強い層。

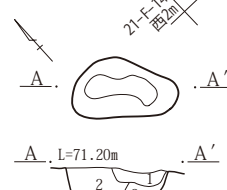
V区22号土坑



V区22号土坑A-A'

1. 暗灰色粘質土 As-Cを微量含む。暗灰色粘質土中に黒色粘質土塊を少量含む。

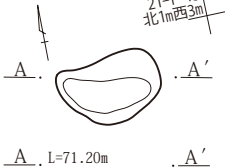
V区23号土坑



V区23号土坑A-A'

1. 灰色粘質土 As-Cを極微量含む粘質土。鉄分と思われる黄色細粒を均一に含む。
2. 暗灰色粘質土 暗灰色粘質土・黒色粘質土・黄灰色粘質土との混土。
3. 灰色粘質土 均一な灰色粘質土(掘り過ぎかもしれない)

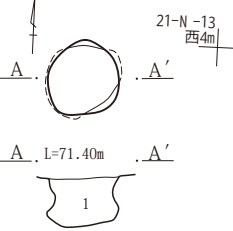
V区24号土坑



V区24号土坑A-A'

1. 暗灰色粘質土 白色細粒・軽石を微量含む。
2. 掘り過ぎ

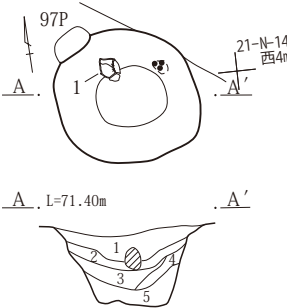
V区37号土坑



V区37号土坑A-A'

1. 黒色軽植土 As-Cを含む。底部近くに地山褐色ロームのぼやけた斑3%含む。ややしまっている。

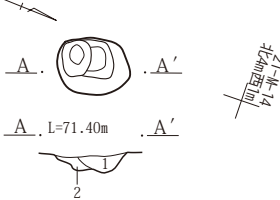
V区36号土坑



V区36号土坑A-A'

1. 黒色軽植土 As-Cを含む。地山褐色ローム小塊1%含む。しまっている。
2. 黒褐色軽植土 As-Cを含む。地山褐色ローム粒5%含む。ややしまっている。
3. 黒色軽植土 As-Cを含む。地山褐色ロームのぼやけた斑7%含む。ややしまっている。
4. 黒色軽植土 As-Cを含む。にぶい黄褐色土シルト質壤土(地山YP相当層近く)の小斑3%含む。ややしまっている。
5. 黒色重植土 As-Cを含む。地山褐色ロームのぼやけた斑3%含む。しまり弱い。

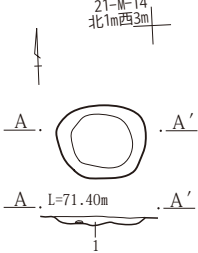
V区51号土坑



V区51号土坑A-A'

1. 黒褐色重植土 As-C含む。暗褐色壤土を斑状に2%含む。固くしまっている。
2. 混土 1層50%、暗褐色～褐色地山ローム塊50%の混土。固くしまっている。

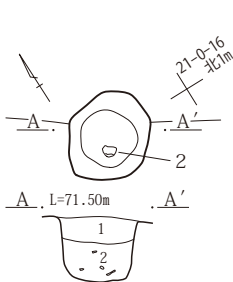
V区52号土坑



V区52号土坑A-A'

1. 黒色重植土 As-C含む。暗褐色壤土小塊を1%含む。固くしまっている。

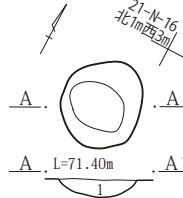
V区53号土坑



V区53号土坑A-A'

1. 黒褐色壤土 As-Cを含む。暗褐色壤土の小斑7%含む。しまりやや弱い。
2. 黒色壤土 As-C少量含む。炭化物粒少量含む。ややしまっている。壁面近くは木の根により攪乱を受けている。

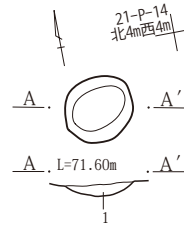
V区54号土坑



V区54号土坑A-A'

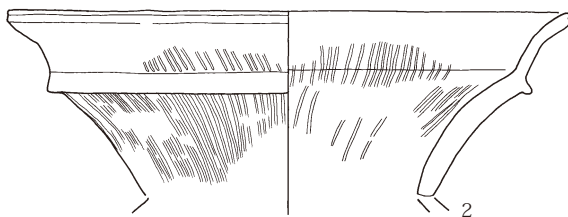
1. 黒褐色重植土 As-Cを含む。にぶい黄褐色(地山ローム)を斑状に1%含む。固くしまっている。

V区55号土坑



V区55号土坑A-A'

1. 黒褐色壤土 混入物少ない。地山ローム粒を含む。ややしまっている。

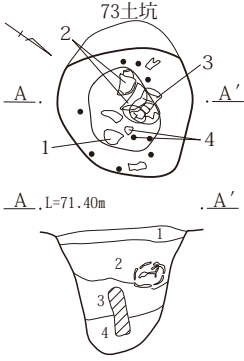


0 1:3 5cm

0 1:60 2m

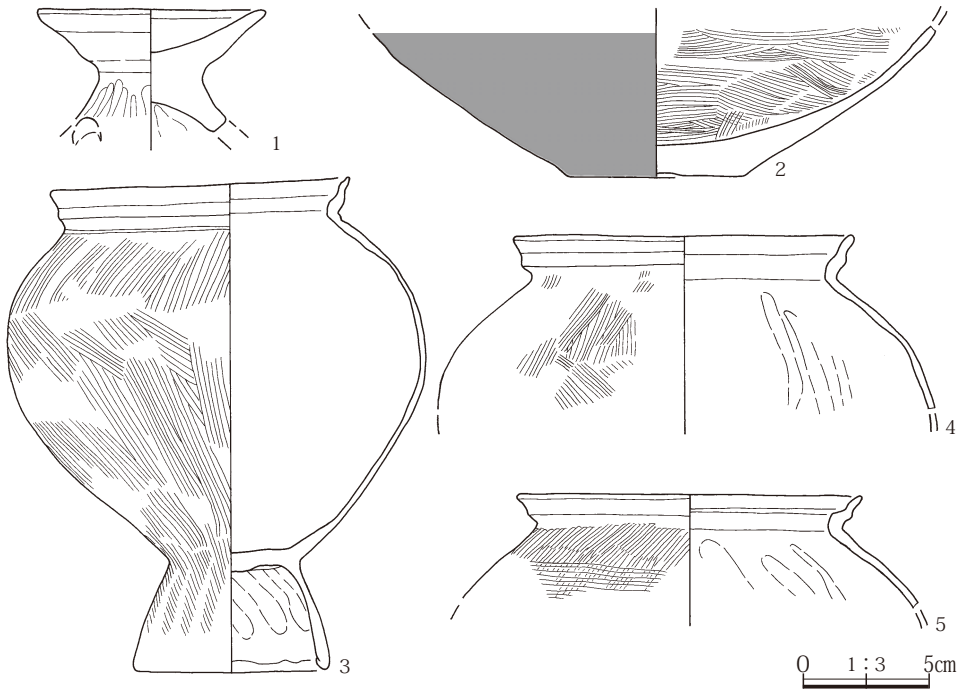
第211図 V区土坑(1)と出土遺物

V区58号土坑

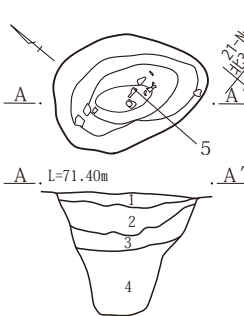


V区58号土坑A-A'

1. 黒褐色重埴土 白色軽石粒含む。固くしまっている。
2. 黒褐色軽埴土 As-Cを含む。ややしまっている。
3. 黒色軽埴土 As-Cを含む。褐色(地山ローム)粒1%含む。土器片を含む。しまりやや弱い。
4. 黒色シルト質埴土 As-Cを含む。黒褐色を斑状に5%含む。しまり弱い。



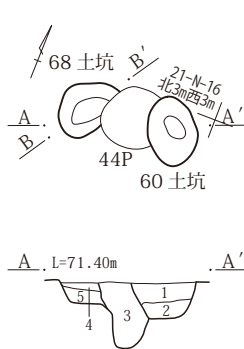
V区59号土坑



V区59号土坑A-A'

1. 黒褐色軽埴土 As-Cを含む。固くしまっている。
2. 黒色軽埴土 As-C比較的多く含む。暗褐色壤土斑1%含む。しまっている。
3. 黒色壤土 As-Cを含む。暗褐色壤土粒多く含む。にぶい黄橙色シルト質壤土斑1%含む。ややしまっている。
4. 黒色軽埴土 As-Cを含む。暗褐色壤土小塊5%含む。しまり弱い。

V区60号・68号土坑・44号ピット



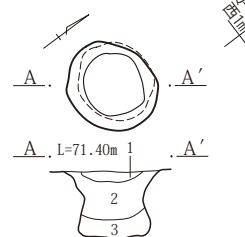
V区60号土坑A-A'

1. 黒褐色重埴土 As-Cを含む。固くしまっている。(60号土坑埋没土)
2. 黒褐色軽埴土 As-Cを含む。にぶい黄橙色シルト質壤土(地山YP相当層近く)の小斑1%含む。しまっている。(60号土坑埋没土)
3. 黒褐色軽埴土 As-Cを含む。暗褐色壤土小塊を1%含む。ややしまっている。(44号ピット埋没土)
4. 黒褐色軽埴土 白色軽石粒含む。しまっている。(68号土坑埋没土)
5. 黒褐色軽埴土 白色軽石粒含む。暗褐色壤土の小塊1%含む。しまっている。(68号土坑埋没土)

V区68号土坑B-B'

1. 地山ローム塊が酸化したもの。鉄分を含み固くなっている。
2. 黒褐色重埴土 As-Cを含む。ローム粒を含む。固くしまっている。
3. 黒褐色重埴土 As-Cを含む。褐色壤土を斑状に7%含む。固くしまっている。

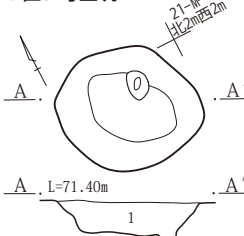
V区61号土坑



V区61号土坑A-A'

1. 黒色壤土 As-Cを含む。暗褐色～褐色地山ローム塊の小斑3%含む。しまりやや弱い。
2. 黒色壤土 As-Cを含む。他の混入物ない。ややしまっている。
3. 黒褐色重埴土 白色軽石粒含む。固くしまっている。

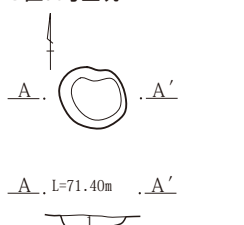
V区62号土坑



V区62号土坑A-A'

1. 黒褐色軽埴土 As-Cを含む。下位ににぶい黄橙色シルト質壤土(地山YP相当層近く)の小斑を3%含む。しまっている。

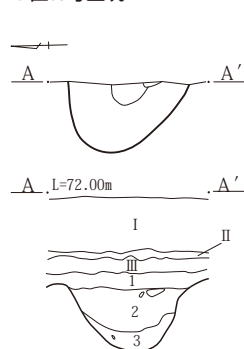
V区64号土坑



V区64号土坑A-A'

1. 黒色軽埴土 As-Cを比較的多く含む。固くしまっている。

V区65号土坑

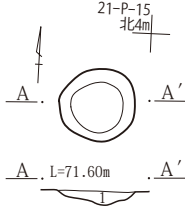


V区65号土坑A-A'

- I. 灰褐色土 表土。
- II. 黄褐色シルト 洪水層。
- III. 黒褐色砂質土 As-Bを含む。
1. 黒色軽埴土 混入物少ない。As-Cを含まない。しまり弱い。
2. 黒色軽埴土 As-Cを含む。鉄分の凝集粒を含む。しまりやや弱い。
3. 黒褐色重埴土 白色軽石粒含む。固くしまっている。

第212図 V区土坑(2)と出土遺物

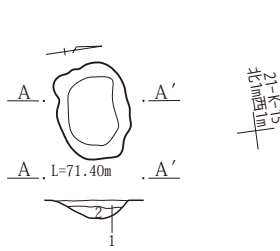
V区69号土坑



V区69号土坑A-A'

1. 黒褐色壤土 混入物少ない。地山ローム粒を含む。ややしまっている。

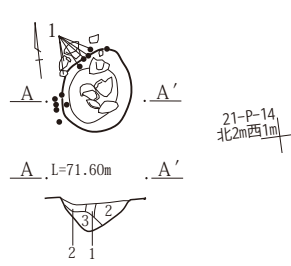
V区70号土坑



V区70号土坑A-A'

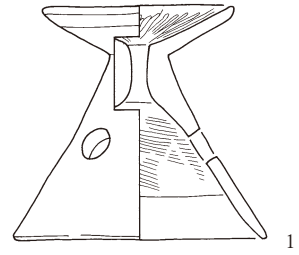
1. 黒褐色軽埴土 As-Cを含む。にぶい黄橙色(地山ローム)斑30%含む。固くしまっている。
2. 黒褐色軽埴土 As-Cを含む。にぶい黄橙色(地山ローム)斑10%含む。固くしまっている。

V区71号土坑

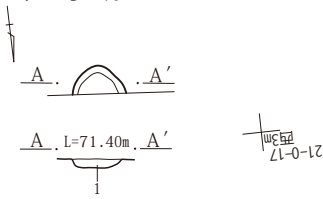


V区71号土坑A-A'

1. 黒褐色壤土 As-Cを含む。ややしまっている。
2. 混土 褐色崩れた地山ローム塊の集合。固くしまっている。
3. 混土 褐色地山ローム塊の集合。黒褐色As-C混壤土30%含む。ややしまっている。



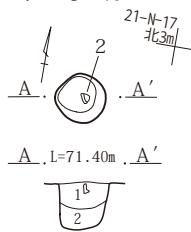
V区72号土坑



V区72号土坑A-A'

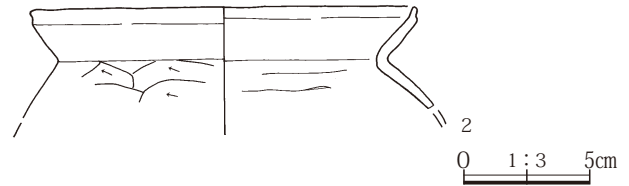
1. 黒色軽埴土 As-Cを含む。固くしまっている。

V区74号土坑

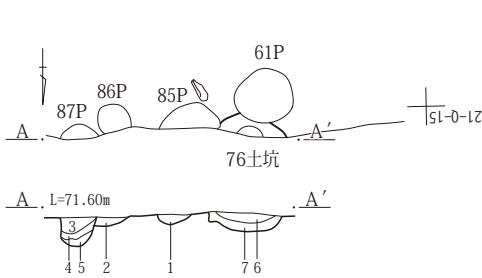


V区74号土坑A-A'

1. 黒褐色砂質壤土 As-Cを含む。砂粒多く含む。ややしまっている。
2. 黒褐色壤土 As-Cを含む。褐色シルト質壤土斑1%含む。しまりやや弱い。

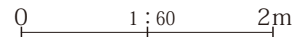


V区76号土坑・85号ピット



V区76号土坑A-A'

1. 黒褐色壤土 As-Cを含む。褐色(地山ローム)粒含む。焼土粒少量含む。ややしまっている。(76号土坑埋没土)
2. 黒褐色壤土 As-Cを含む。褐色(地山ローム)小斑1%含む。ややしまっている。(76号土坑埋没土)
3. 黒褐色壤土 As-Cを含む。褐色土(地山ローム)小斑1%含む。ややしまっている。(85号ピット埋没土)
4. 黒褐色壤土 As-Cを含む。褐色土(地山ローム)小斑1%含む。ややしまっている。(86号ピット埋没土)
5. 暗褐色壤土 As-Cを含む。にぶい黄橙色土(地山ローム)斑20%含む。しまっている。(87号ピット埋没土)
6. 黒褐色壤土 As-Cを含む。にぶい黄橙色土(地山ローム)粒及び小斑30%含む。しまっている。(87号ピット埋没土)
7. 混土 褐色地山ローム塊の集合。黒褐色As-C混壤土30%含む。しまっている。(87号ピット埋没土)



第213図 V区土坑(3)と出土遺物

(3) ピット (第214～216図 PL.162～165)

V区古代～古墳時代遺構面で検出したピットは、南区で2基、北区で55基である。西区では古代～古墳時代遺構面のピットは検出されなかった。検出されたピットはほとんどが浅間C軽石と推定される白色軽石を含む黒褐色土で埋まっており、すべてではないが古墳時代前期の遺物を出土することから、古代～古墳時代遺構面の遺構として報告した。それぞれのピットの位置や規模は、P.438・439の表にまとめた。以下各調査区のピットの調査所見を記載する。

a. 南区のピット

南区では、9号ピット・11号ピットが発掘区の両端で検出された。いずれのピットの埋没土にも浅間C軽石の記載がないが、確認面が一致していることから古代～古墳時代遺構面の遺構として報告した。

9号ピットは23号溝の西側、20号土坑の南側で検出された。少量の灰色シルト塊を含む黒色粘質土で埋まっていた。遺物は出土しなかった。

11号ピットは16号溝の北側で検出された。浅間C軽石を含む黒色粘質土で埋まっていた。遺物は出土しなかった。

b. 北区のピット（第214～216図 PL.162～165）

北区では、35号～98号ピットが発掘区北部に集中して検出された。この地点は発掘区の中なかでも微高地部分で、竪穴住居も検出された。より高い北半部にピットが、南側の微高地裾部に土坑がというように分布が分かっていた。規格的な配置のピットは検出されなかったが、2号住居やL字状に屈曲する39号溝に重複して検出されたピットもある。また、77号～80号ピットは5号流路とした地表面の凹地と思われる溝状の遺構の西端に並ぶように検出された。いずれのピットも、浅間C軽石と推定される白色軽石と、地山の黄褐色ロームや黄白色土小塊を含む暗褐色土で埋まっていた。多くのピットは古墳時代前期の遺構と推定される。各ピットの機能・用途は明確にできなかった。

35号ピットの埋没土中からは土師器S字甕破片2点が出土した。

36号ピットの埋没土中からは土師器S字甕破片3点が出土した。

45号ピットの埋没土中からは土師器S字甕破片2点が出土した。2号住居の主柱穴の可能性はある。

46号ピットの埋没土中から、土師器S字甕破片1点が出土した。

47号ピットの埋没土中から、土師器壺破片3点、S字甕破片12点が出土した。

49号ピットの埋没土中から、土師器壺破片1点が出土した。

51号ピットの埋没土中から、須恵器瓶破片1点が出土した。ピットの時期は古代の可能性はある。

54号ピットの埋没土中から、土師器S字甕破片1点が出土した。

58号ピットの埋没土中から、土師器壺破片3点、S字甕破片5点が出土した。

59号ピットの埋没土中から、土師器壺破片2点、S字甕破片3点が出土した。

60号ピットの埋没土中から、土師器壺破片4点、S字甕破片7点が出土した。

65号ピットの埋没土中から、土師器甕破片2点が出土した。

68号ピットの埋没土中から、土師器S字甕破片2点が出土した。

71号ピットの埋没土中から、土師器壺破片5点、S字甕破片10点が出土した。

72号ピットの埋没土中から、土師器S字甕破片2点が出土した。

73号ピットの埋没土中から、土師器S字甕破片7点が出土した。

75号ピットの埋没土中から、土師器S字甕破片1点が出土した。

76号ピットの埋没土中から、土師器S字甕破片1点が出土した。

80号ピットの埋没土中から、土師器甕破片1点が出土した。

82号ピットの埋没土中から、土師器S字甕破片5点が出土した。

89号ピットの埋没土中から、土師器壺破片1点、S字甕破片2点が出土した。

93号ピットの埋没土中から、土師器壺破10点、坏破片3点、S字甕破片9点が出土した。ピットの時期は古代の可能性はある。

98号ピットの埋没土中から、土師器S字甕破片2点が出土した。

その他のピットからは遺物は出土しなかった。

以上のように、いくつかのピットからは土器が埋没土中から出土しており、ピットの時期は51号・93号ピットを除き、古墳時代前期と考えておきたい。

(4) 溝

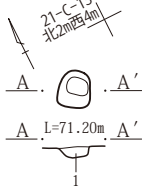
V区古代～古墳時代遺構面では、9条の溝が検出された。溝の位置や規模はP.444の表にまとめた。以下各溝の調査所見を記載する。なお、溝の平面図は個別図を作成せず、1/300の各区全体図でこれに変えた。埋没土層断面図は個々に掲載した。

V区16号溝（第217・264図 PL.166）

16号溝は、V区南区南部で検出された直線の溝である。東端はIV区16号溝に連続する。

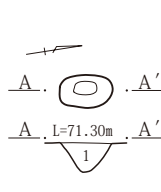
走向は北区でN-72°-W、上幅は0.42～2.14m、深さは0.15m、調査長10.43mである。断面形は浅い台形で、底面は平坦で、標高は北西端が0.10m高かった。溝内は浅間C軽石を含む黒褐色土で埋まっていた。遺物は

V区9号ピット



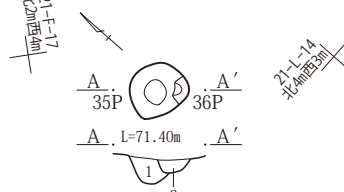
V区9号ピットA-A'
1. 黒色粘質土 少量の灰色シルトの2～3cm大塊を含む。

V区11号ピット



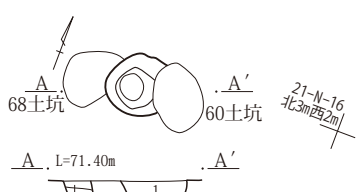
V区11号ピットA-A'
1. 黒色土 As-Cを微量、均一に含む。

V区35号・36号ピット



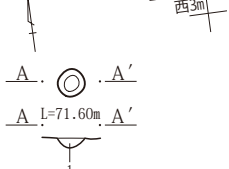
V区35号・36号ピットA-A'
1. 黒褐色重埴土 As-Cを含む。固くしまっている。
2. 黒褐色重埴土 As-Cを含む。暗褐色埴土小塊を1%含む。しまっている。

V区44号ピット



V区44号ピットA-A'
1. 黒褐色重埴土 As-Cを含む。固くしまっている。(60号土坑埋没土)
2. 黒褐色軽埴土 As-Cを含む。にぶい黄橙色シルト質埴土(地山YP相当層近く)の小斑1%含む。しまっている。(60号土坑埋没土)
3. 黒褐色軽埴土 As-Cを含む。暗褐色埴土小塊を1%含む。ややしまっている。(44号ピット埋没土)
4. 黒褐色軽埴土 白色軽石粒含む。しまっている。(68号土坑埋没土)
5. 黒褐色軽埴土 白色軽石粒含む。暗褐色埴土の小塊1%含む。しまっている。(68号土坑埋没土)

V区48号ピット



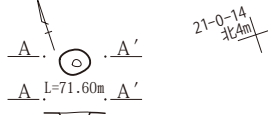
V区48号ピットA-A'
1. 黒褐色埴土 As-Cを含む。褐色土(地山ローム)を斑状に30%含む。ややしまっている。

V区49号ピット



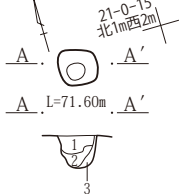
V区49号ピットA-A'
1. 黒褐色埴土 As-Cを含む。褐色土(地山ローム)を斑状に5%含む。ややしまっている。

V区50号ピット



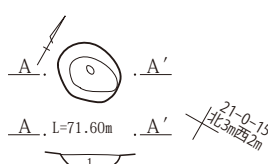
V区50号ピットA-A'
1. 黒褐色埴土 As-Cを含む。褐色土(地山ローム)を斑状に1%含む。ややしまっている。

V区51号ピット



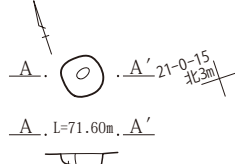
V区51号ピットA-A'
1. 黒褐色埴土 As-Cを含む。褐色土(地山ローム)を斑状に1%含む。ややしまっている。
2. 黒褐色軽埴土 As-Cを含む。褐色土(地山ローム)粒3%含む。しまりやや弱い。
3. 黒褐色埴土 As-Cを含む。褐色土(地山ローム)を斑状に10%含む。しまっている。

V区52号ピット



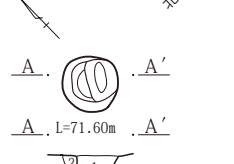
V区52号ピットA-A'
1. 黒褐色埴土 As-Cを含む。褐色土(地山ローム)を斑状に20%含む。ややしまっている。

V区53号ピット



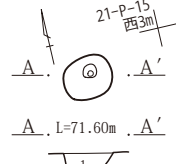
V区53号ピットA-A'
1. 黒褐色埴土 As-Cを含む。暗褐色埴土を斑状に15%含む。ややしまっている。
2. 黒褐色軽埴土 As-Cを含む。しまっている。

V区54号ピット



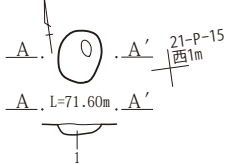
V区54号ピットA-A'
1. 黒褐色埴土 As-Cを含む。暗褐色埴土を斑状に3%含む。しまっている。
2. 掘り過ぎ

V区55号ピット



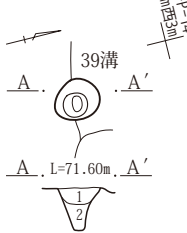
V区55号ピットA-A'
1. 黒褐色埴土 As-Cを含む。暗褐色埴土を斑状に1%含む。ややしまっている。

V区56号ピット



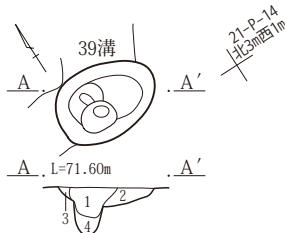
V区56号ピットA-A'
1. 黒褐色埴土 As-Cを含む。ややしまっている。

V区58号ピット



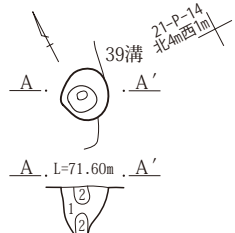
V区58号ピットA-A'
1. 黒褐色埴土 As-Cを含む。褐色土(地山ローム)粒1%含む。しまりやや弱い。
2. 暗褐色軽埴土 As-Cを含む。褐色土(地山ローム)塊20%含む。固くしまっている。

V区59号ピット



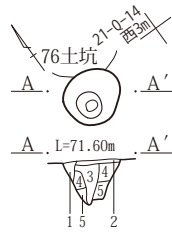
V区59号ピットA-A'
1. 黒褐色埴土 As-Cを含む。褐色土(地山ローム)小塊1%・同粒1%含む。しまりやや弱い。
2. 黒褐色埴土 As-Cを含む。褐色土(地山ローム)塊10%含む。しまっている。
3. 暗褐色埴土 As-Cを含む。褐色土(地山ローム)塊3%含む。しまっている。
4. 黒褐色埴土 As-Cを含む。褐色土(地山ローム)小塊1%含む。ややしまっている。

V区60号ピット



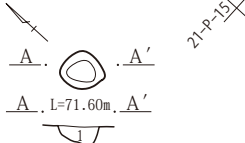
V区60号ピットA-A'
1. 混土 褐色土(地山ローム)塊50%・黒褐色As-Cを含む埴土50%の混土。ややしまっている。
2. 黒褐色埴土 As-Cを含む。しまり弱い。

V区61号ピット



V区61号ピットA-A'
1. 掘り過ぎ
2. 黒褐色軽埴土 As-Cを含む。しまっている。
3. 黒褐色埴土 As-Cを含む。褐色土(地山ローム)粒1%含む。しまりやや弱い。
4. 黒褐色埴土 褐色土(地山ローム)の崩れた塊50%・黒褐色As-Cを含む埴土50%の混土。しまっている。
5. 黒褐色埴土 As-Cを含む。褐色土(地山ローム)小塊15%含む。しまりやや弱い。

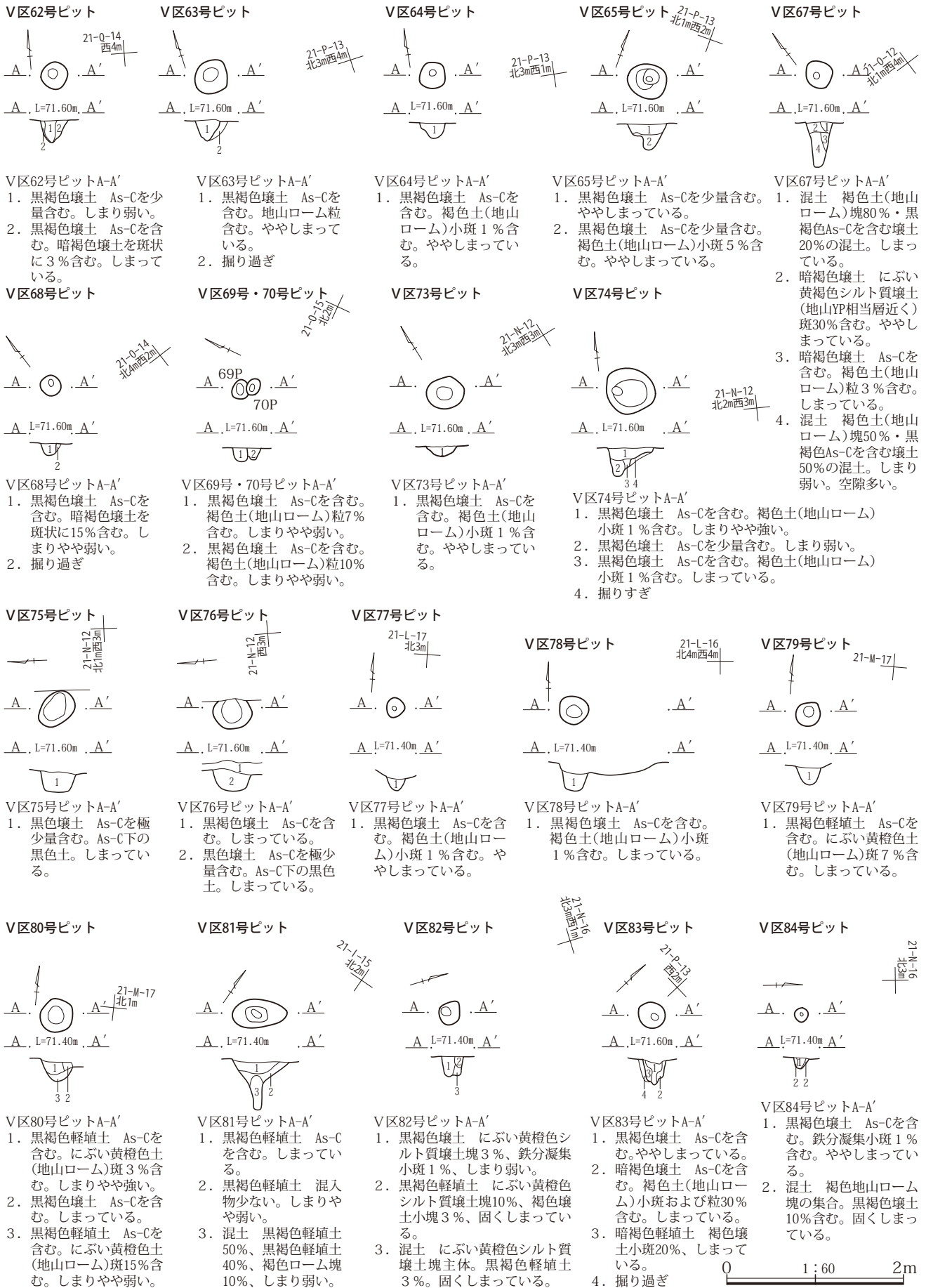
V区57号ピット



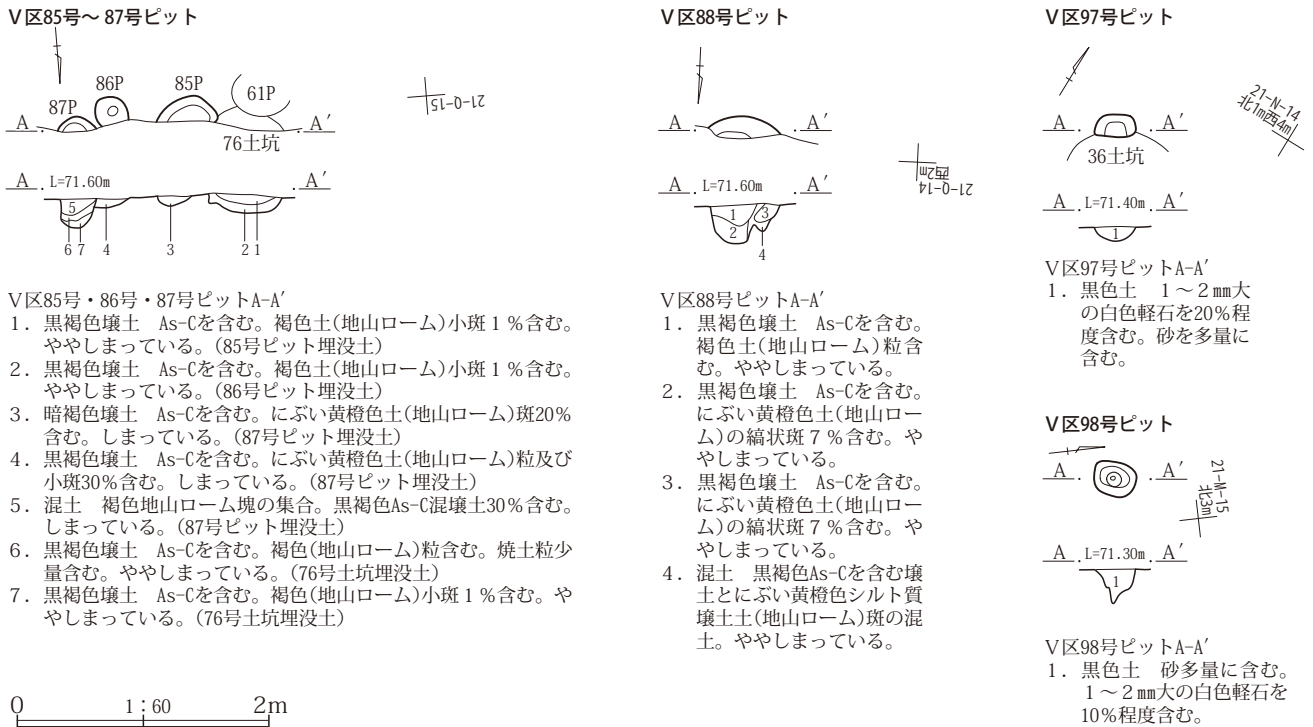
V区57号ピットA-A'
1. 黒褐色埴土 As-Cを含む。褐色埴土を斑状に1%含む。ややしまっている。



第214図 V区ピット(1)



第215図 V区ピット(2)



第216図 V区ピット(3)

出土しなかった。

埋没土や遺構確認面から、古墳時代前期の溝と考えられる。砂礫等の埋没はないので、集落内の区画溝であろう。

V区23号溝 (第217・264図 PL.166)

23号溝は、V区南区西部で検出されたほぼ直線の南北方向の溝である。北端は西区に連続すると思われるが、調査では確認できなかった。南端は発掘区域外となる。

走向はN-16°-W、上幅は0.35～0.58m、深さは0.15m、調査長は20.12mである。断面形は浅いU字形で、底面はやや凹凸がある。底面の標高は北西端が0.05m高かった。溝内は浅間C軽石を微量含む黒色粘質土や暗褐色粘質土で埋まっていた。遺物は出土しなかった。

埋没土や遺構確認面から、古墳時代前期の溝と考えられる。砂礫等の埋没はないので、集落内の区画溝であろう。

V区35号溝

(第218・264図 PL.166・167 遺物観察表P.463)

35号溝は、V区北区北東隅で検出されたほぼ直線の南北方向の溝である。北端は発掘区域外になる。南端は34号溝に切られている。41号溝と重複するが、新旧関係は不明である。

走向はN-7°-E、上幅は0.50～0.73m、深さは0.20m、調査長は12.50mである。断面形は浅いU字形で、底面はやや凹凸がある。底面の標高は北西端が0.05m高かった。本溝は遺憾ながら埋没土の記載がない。

遺物は、埋没土中から土師器坏(第218図2)、甕(3)、須恵器坏身か蓋(1)が出土した。また、土師器壺破片305点、埴破片15点、高坏破片3点、坏破片29片、甕破片14点、S字甕破片32点、須恵器瓶破片1点、蓋破片1点出土した。出土遺物には古墳時代前期の土器が多いが、これは本溝が周囲の当該期の遺構を壊して掘られているからと考えられる。

新しい様相の出土土器から、古墳時代後期の溝と考えられる。

V区36号溝

(第217・264図 PL.165・222 遺物観察表P.463)

36号溝は、V区北区南東部で検出された溝である。西端は浅くなり検出できなくなる。東端はIV区36号溝に連続する。6号溝と重複するが、6号溝の方が新しい。70号土坑と重複するが、新旧関係は不明である。

走向はN-68°-E、上幅は0.22～1.17m、深さは0.05m、調査長は6.48mである。断面形は浅いU字形で、底

面はやや凹凸がある。平面形状も乱れている。底面の標高は南西端が0.17m高かった。本溝は遺憾ながら埋没土の記載がない。

遺物は、東半部で土師器甕(第217図1)が底面直上で出土した。甕(2)、壺(3)、S字甕(4)が埋設土中から出土した。また、埋没土中から土師器壺破片9点、S字甕破片9点が出土した。

出土遺物から、本溝は古墳時代前期の溝と考えられる。

北側の古墳時代前期の集落の南側を区画する溝であろう。IV区と合わせて37.5mとなる大規模な区画溝である。

V区37号溝(第264図 PL.167)

37号溝は、V区北区西部で検出された溝である。西端は発掘区域外となり、東端は浅くなり検出できなくなる。3号凹地と重複するが、新旧関係は不明である。

溝の走向はN-87°-E、上幅は0.38~0.45m、深さは0.17m、調査長は4.28mである。断面形は浅いU字形で、底面は平坦である。底面の標高は西端が0.08m高かった。本溝は遺憾ながら埋没土の記載がない。

遺物は、埋没土中から土師器S字甕破片1点が出土した。出土遺物から、本溝は古墳時代前期の溝と考えられるが、詳細は不明である。

V区38号溝(第217・264図 PL.167)

38号溝は、V区北区北西部で検出された小規模な溝である。北西端は発掘区域外となり、南東端は浅くなり検出できなくなる。重複は無い。

溝の走向はN-52°-W、上幅は0.48~0.70m、深さは0.29m、調査長は2.14mである。断面形はU字形で、底面は平坦である。底面の標高は北西端が0.13m高かった。溝内は浅間C軽石と地山ローム塊を含む黒褐色壤土で埋まっていた。

遺物は、埋没土中から土師器壺破片14点、甕破片2点、S字甕破片19点が出土した。

出土遺物と埋没土の特徴から、本溝は古墳時代前期の溝と考えられる。2号住居西壁や後述する41号溝の走向と直交する方向の溝であり、何らかの区画をしたものと推定される。

V区39号溝(第217・264図 PL.167・168)

39号溝は、V区北区北端部で検出されたL字形に廻る溝である。北端は発掘区域外となり、南西端は浅くなり検出できなくなる。58号~60号ピットと重複するが新旧関係は不明である。

溝の走向は南辺の溝でN-79°-W、上幅は0.20~0.34m、深さは0.07m、調査長は3.70mである。断面形は皿状で、底面は平坦である。底面の標高は南西端が0.28m高かった。溝内は浅間C軽石と地山ローム塊を含む黒褐色壤土で埋まっていた。遺物は出土しなかった。

埋没土の特徴から、本溝は古墳時代前期の溝と考えられる。周囲には多くのピットが検出されたが、関連性は不明である。

V区41号溝(第217・264図 PL.168)

41号溝は、V区北区北東部で検出された溝である。北東端・南西端ともに浅くなり検出できなくなる。35号溝と重複するが、本溝の方が古い。

溝の走向はN-43°-E、上幅は0.43~0.62m、深さは0.03m、調査長は6.50mである。断面形は皿状で、底面は平坦である。底面の標高は北東端が0.07m高かった。溝内は浅間C軽石と地山ローム塊を含む黒褐色壤土で埋まっていた。遺物は埋没土中から土師器甕破片10点、S字甕破片2点が出土した。

埋没土の特徴から、本溝は古墳時代前期の溝と考えられる。本溝は2号竪穴住居西壁と方向が共通しており、何らかの区画溝であろう。

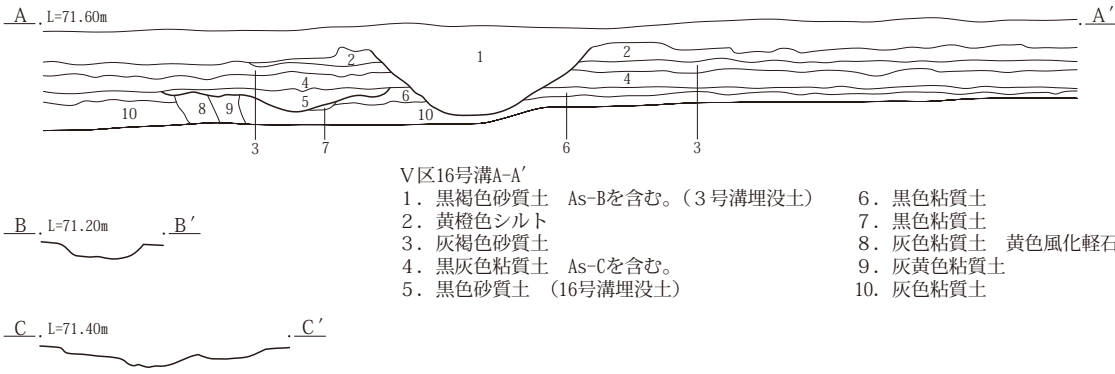
V区42号溝(第264図 PL.168)

42号溝は、V区北区南西隅で検出された東西方向の溝である。3号凹地と重複するが、新旧関係は不明である。

溝の走向はN-87°-E、上幅は0.27~0.54m、深さは0.03m、調査長は8.80mである。断面形は皿状で、底面は平坦である。底面の標高は東端が0.02m高かった。本溝は遺憾ながら埋没土の記載がない。遺物も出土しなかった。遺構確認面から、本溝は古墳時代前期の溝と考えられるが、詳細は不明である。

第6章 古代～古墳時代の遺構と遺物

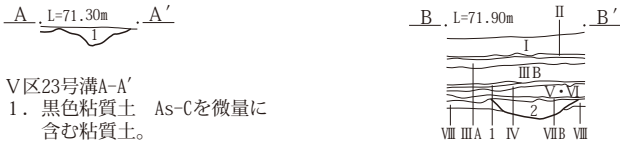
V区16号溝



V区16号溝A-A'

- 1. 黒褐色砂質土 As-Bを含む。(3号溝埋没土)
- 2. 黄橙色シルト
- 3. 灰褐色砂質土
- 4. 黒灰色粘質土 As-Cを含む。
- 5. 黒色砂質土 (16号溝埋没土)
- 6. 黒色粘質土
- 7. 黒色粘質土
- 8. 灰色粘質土 黄色風化軽石少量含む。
- 9. 灰黄色粘質土
- 10. 灰色粘質土

V区23号溝



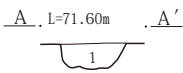
V区23号溝A-A'

- 1. 黒色粘質土 As-Cを微量に含む粘質土。

V区23号溝B-B'

- I. 表土
- II. 黄褐色シルト 洪水層。
- III A. 黒褐色砂質土
- III B. 黒褐色砂質土 As-Bを多く含む。
- IV. 黒色粘質土
- V・VI. 暗灰色粘質土
- VII B. 黒色粘質土 As-C下黒色粘質土相当。
- 2. 暗褐色土 灰色粘質土主体。A-A'の土層よりも明るく、粘性は弱い。(23号溝埋没土)
- VIII. 灰色～灰褐色粘質土

V区38号溝



V区38号溝A-A'

- 1. 黒褐色壤土 As-Cを含む。地山褐色ローム小塊及び粒3%含む。ややしまっている。

V区39号溝



V区39号溝A-A'

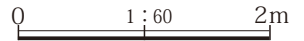
- 1. 黒褐色壤土 As-Cを含む。にぶい黄橙色(地山ローム)斑7%含む。ややしまっている。

V区41号溝

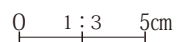
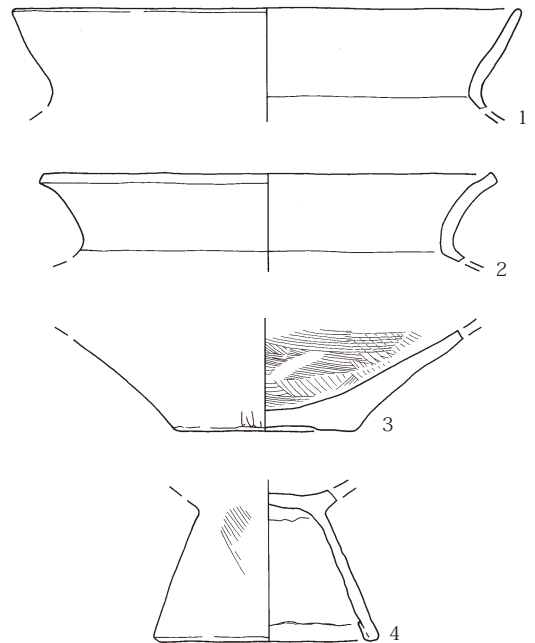
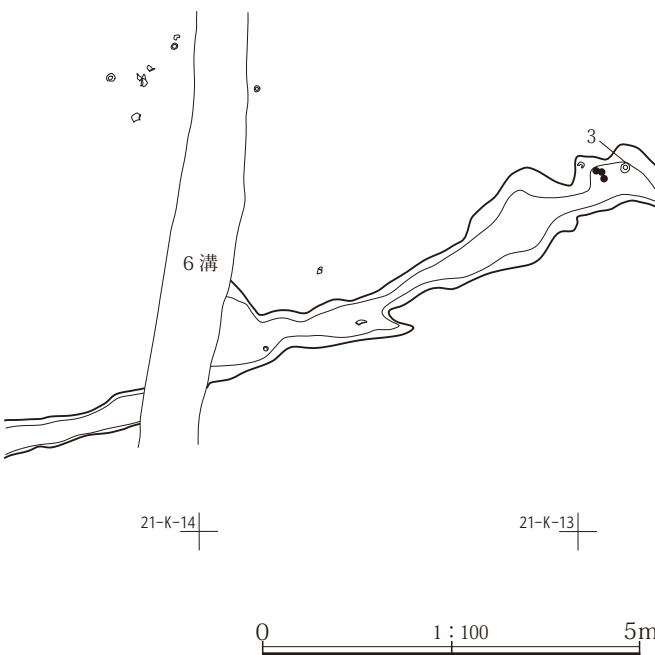


V区41号溝A-A'

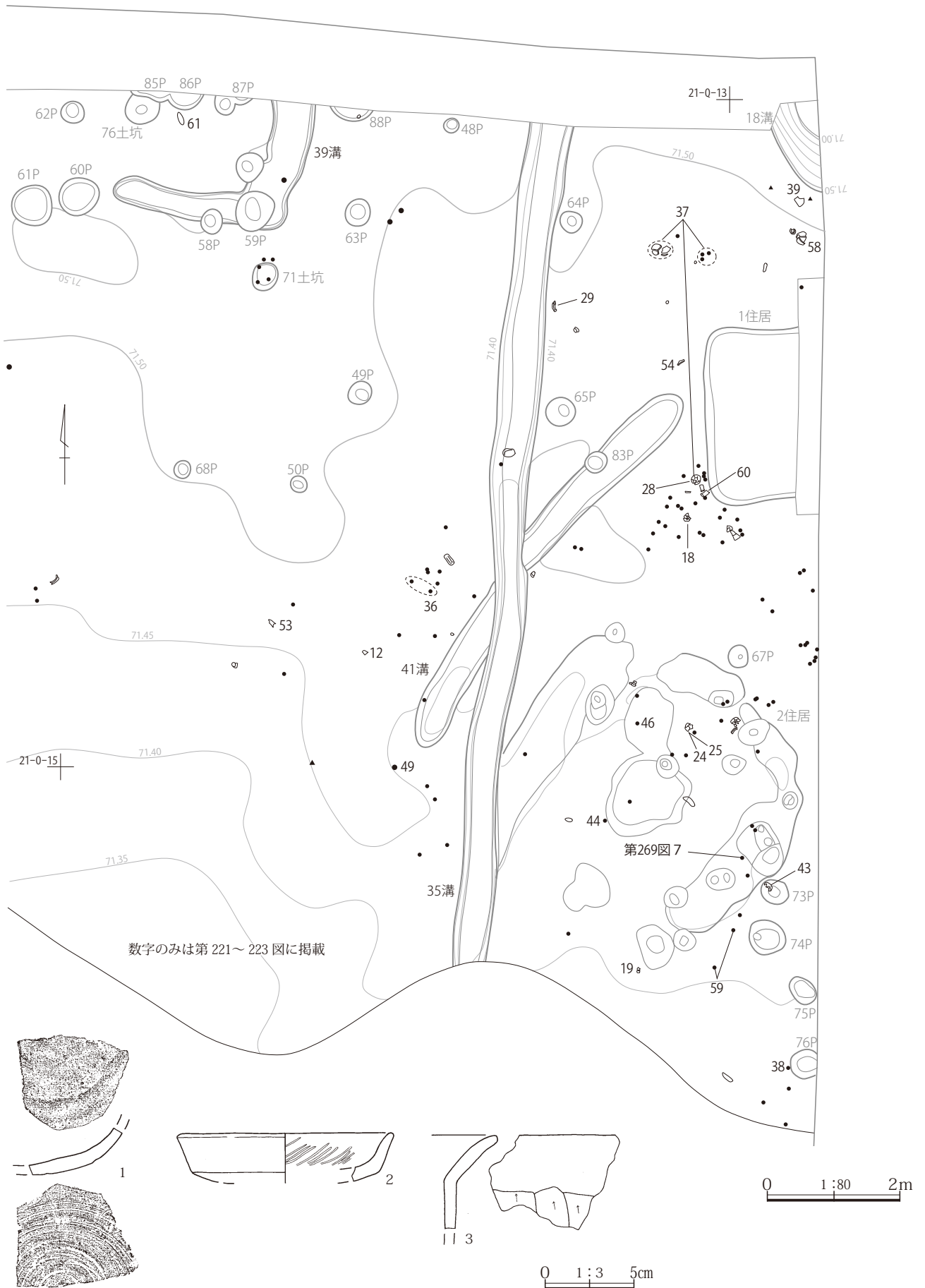
- 1. 黒褐色壤土 As-Cを含む。地山褐色ローム小塊3%含む。ややしまっている。



V区36号溝



第217図 V区溝と出土遺物



第218図 V区35号溝出土遺物と周辺の遺構外出土遺物の分布

(5) 凹地

Vでは2号～4号の3条の凹地を検出した。調査時には「1号・5号・6号流路」として記録したものである。人工物ではないが、遺物が多数出土していること、遺構の分布に関連することから、ここで記載することとする。

報告にあたっては遺構番号の統合と付け替えを行った。その作業の結果については、凹地の位置や規模とともにP.445の表にまとめた。以下各凹地の調査所見を記載する。

V区2号凹地 (第219・264図 PL.168)

2号凹地は幅1.80～3.04m、深さ0.05mで、南から長さ4.90mの部分、3.60mの部分、11.0mの部分の3地点が検出された。断面形は緩やかな皿状であるが、底面は凹凸が著しく、2号凹地は一連の大きな凹地の深い部分のみ残ったと推定される。凹地内には浅間C軽石を含む砂質の黒褐色土が堆積していた。流水を示唆する砂礫層はないが、表流水等が集まり形成されたものと推定される。16号溝と重複するが、新旧関係は不明である。調査では16号溝が新しいと確認した。

遺物は出土しなかった。

V区3号凹地

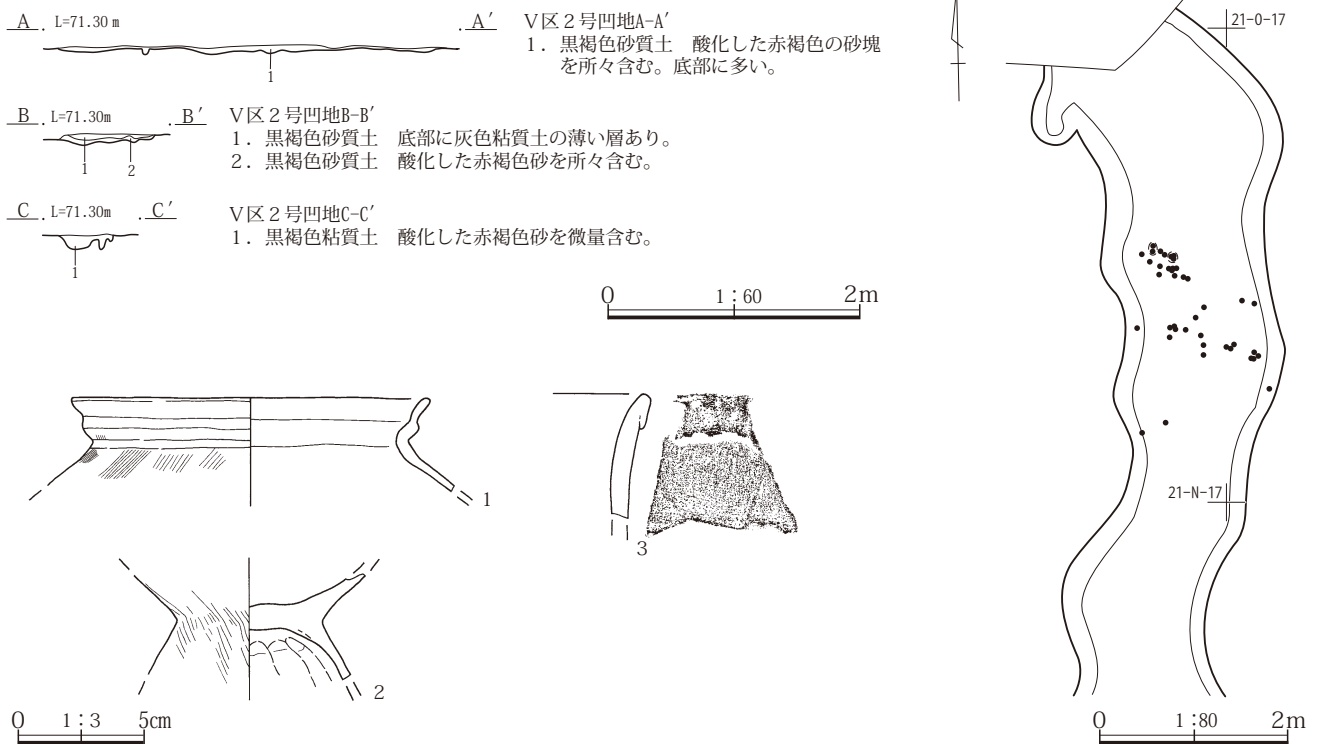
(第219図 PL.168・222 遺物観察表P.463)

3号凹地は幅0.89～2.36m、深さ0.10mで、長さ28.50mに亘って北区西端で検出された。断面形は緩やかな皿状であるが、底面は凹凸が著しかった。遺憾ながら本凹地の埋没土の記載はない。流水を示唆する砂礫層はないが、表流水等が集まり形成されたものと推定される。37号・42号溝と重複するが、新旧関係は不明である。

北端部で多くの遺物が出土した。土師器壺(第219図3)、S字甕(1・2)は底面上20cmで出土した。他に埋没土中から土師器壺破片63点、甕破片1点、S字甕破片119点、台付甕破片1点が出土した。

V区4号凹地 (第264図 PL.165)

4号凹地は幅2.68～4.51m、深さ0.06mで、長さ28.20mに亘って北区南半部で検出された。断面形は緩やかな皿状であるが、底面は凹凸が著しかった。遺憾ながら本凹地の埋没土の記載はない。流水を示唆する砂礫層はないが、表流水等が集まり形成されたものと推定される。36号・37号溝・3号凹地と重複するが、新旧関係は不明である。遺物は出土しなかった。



第219図 V区2号・3号凹地と出土遺物

(6) 畝

V区では、南区西端で浅間C軽石を含む黒褐色粘質土で畝間を埋めている畝跡が検出された。耕作面は削平されており、不定型な溝あるいはピット状に畝間溝底面が検出され、畝の痕跡を記録できたにとどまった。

V区2号畝(第220図 PL.168)

V区の南区西端に、東西約6m、南北10mの範囲に、畝跡が検出された。畝間溝を埋めていたのは白色軽石を含む暗褐色土である。白色軽石は浅間C軽石と推定される。23号溝と重複するが、溝より新しい。

畝間溝の幅は0.1~0.60m、深さは0.02~0.06mでごく浅かった。長さは最も長く検出されたもので2.43mである。ピット状の落ち込みの連続が残っていただけのところもあった。畝間溝の底面が断続的に検出されたのであろう。

畝間溝の方向は、北西部はN-10~13°-Eで、単位の違う畝が重なっている可能性がある。溝の間隔は芯々間で0.18~0.9mで一定でない。畝の間隔あるいは耕作時期が異なった複数単位の畝間溝の集合の可能が高い。

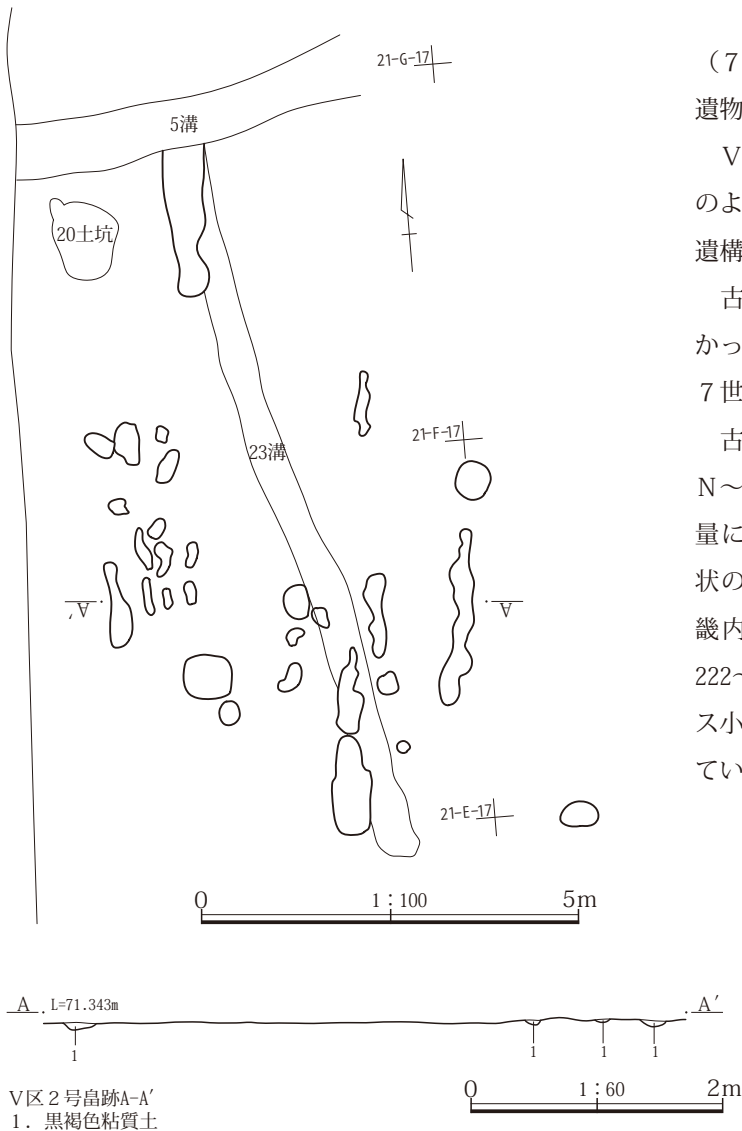
埋没土中から土師器甕破片1点が出土したが、畝に伴う遺物は出土しなかった。耕作面は失われているが、古代~古墳時代のいずれかの時期に畝作耕地として利用されたことを示している。

(7) 遺構外の出土遺物(第221~223図 PL.222・223 遺物観察表P.452・463・464)

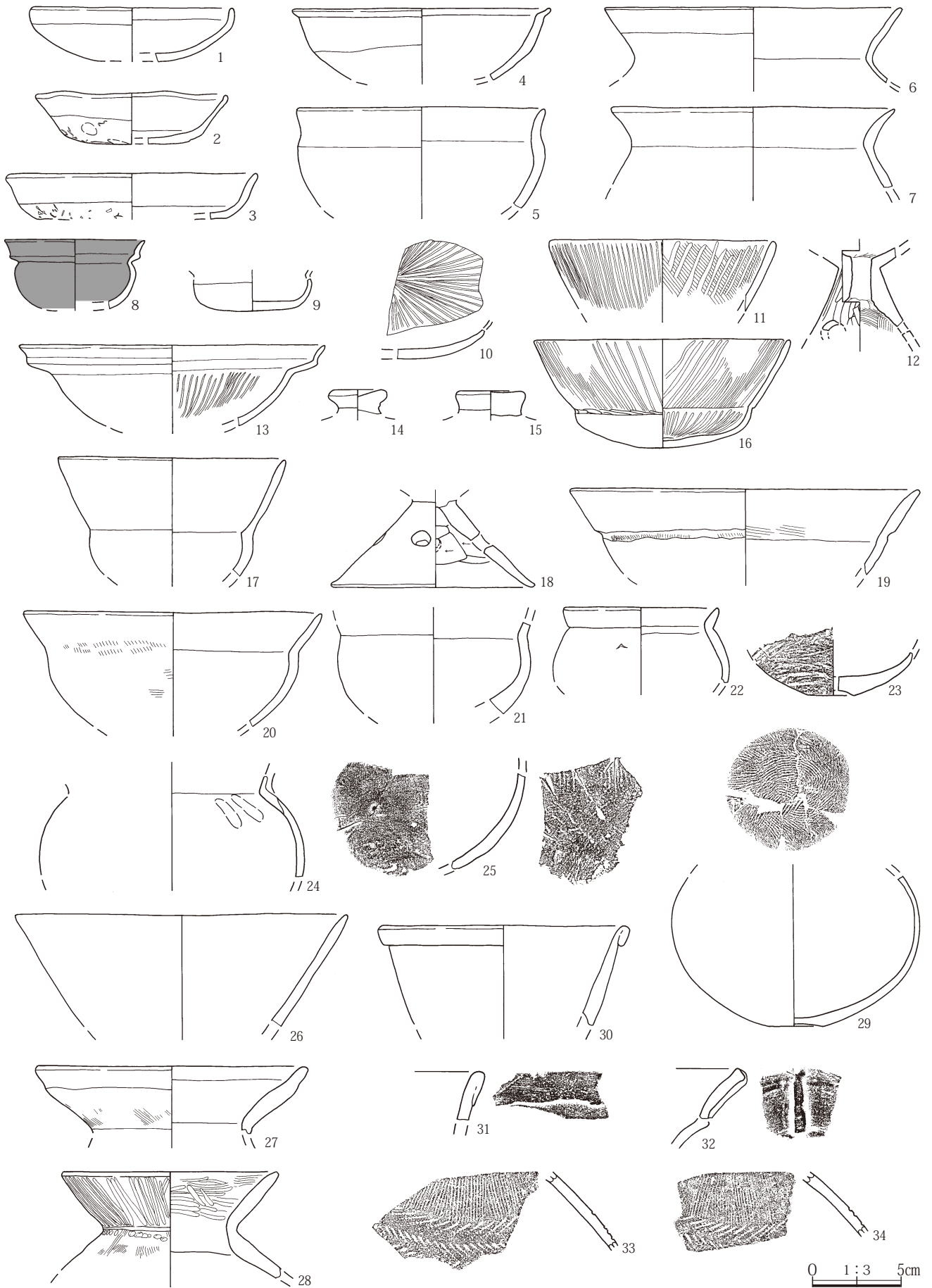
V区調査の遺構確認中に、遺構に伴わない形で第11表のように多くの遺物を出土した。ここでは、Ⅷ層上面の遺構確認時に出土した遺物を掲載した。

古墳時代中・後期の遺構は発掘区内では検出されなかったが、5世紀の内斜口縁の土師器坏(第221図4)や7世紀頃の土師器坏(第221図1)等が出土した。

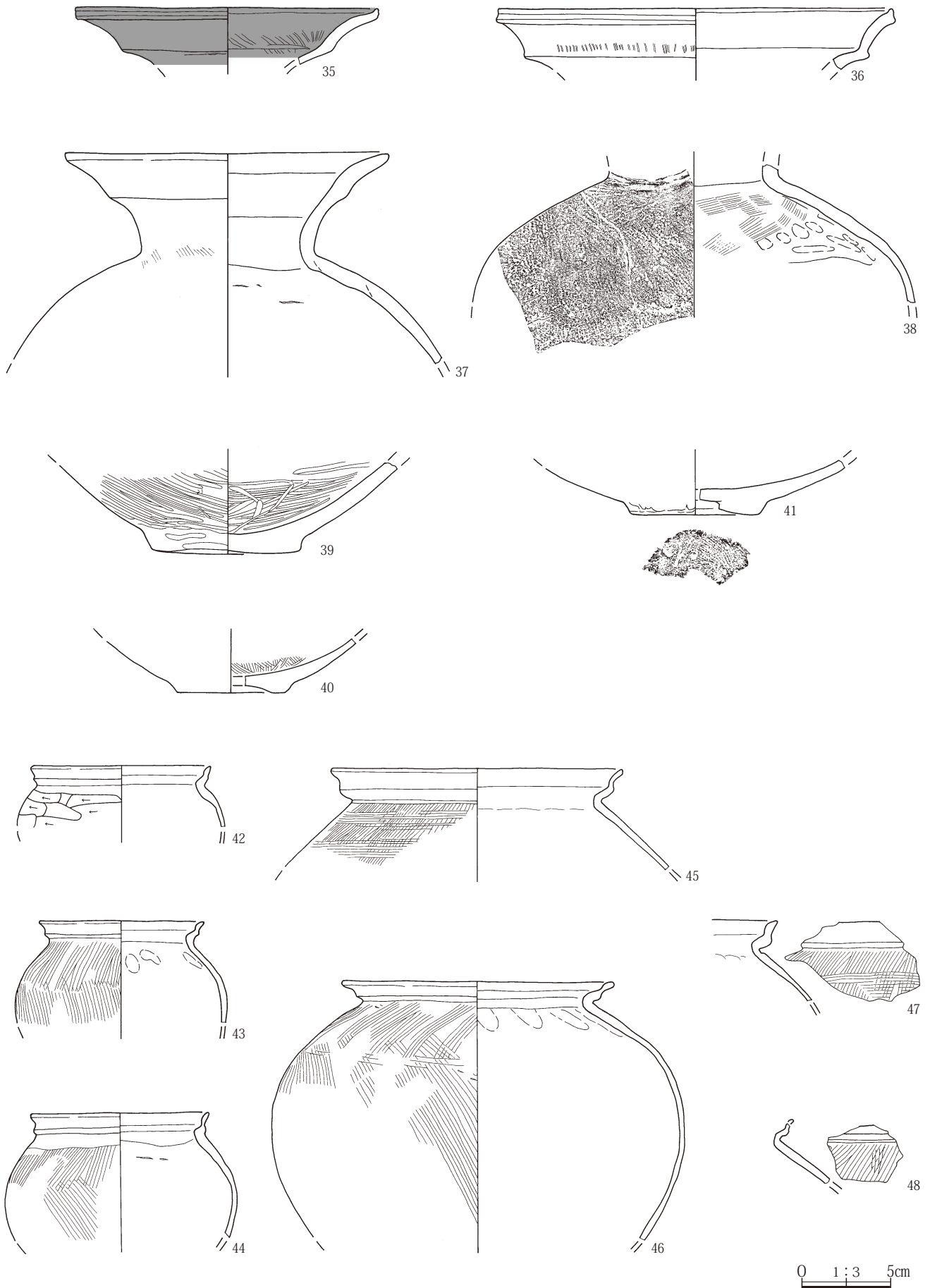
古墳時代前期の土器は、第218図に示したように21-N~P-12~15グリットの35号溝の周辺Ⅷ層内から多量に出土した。赤色塗彩の小型鉢(第221図8)や暗文状の磨きが施された鉢(第221図13)、小型丸底壺(16)、畿内系の器台破片(第221図18)、多くのS字甕破片(第222~223図)、変質デイサイトの敲石(第223図61)、ガラス小玉(第223図62)、蛇紋岩製管玉(第223図63)が出土している。



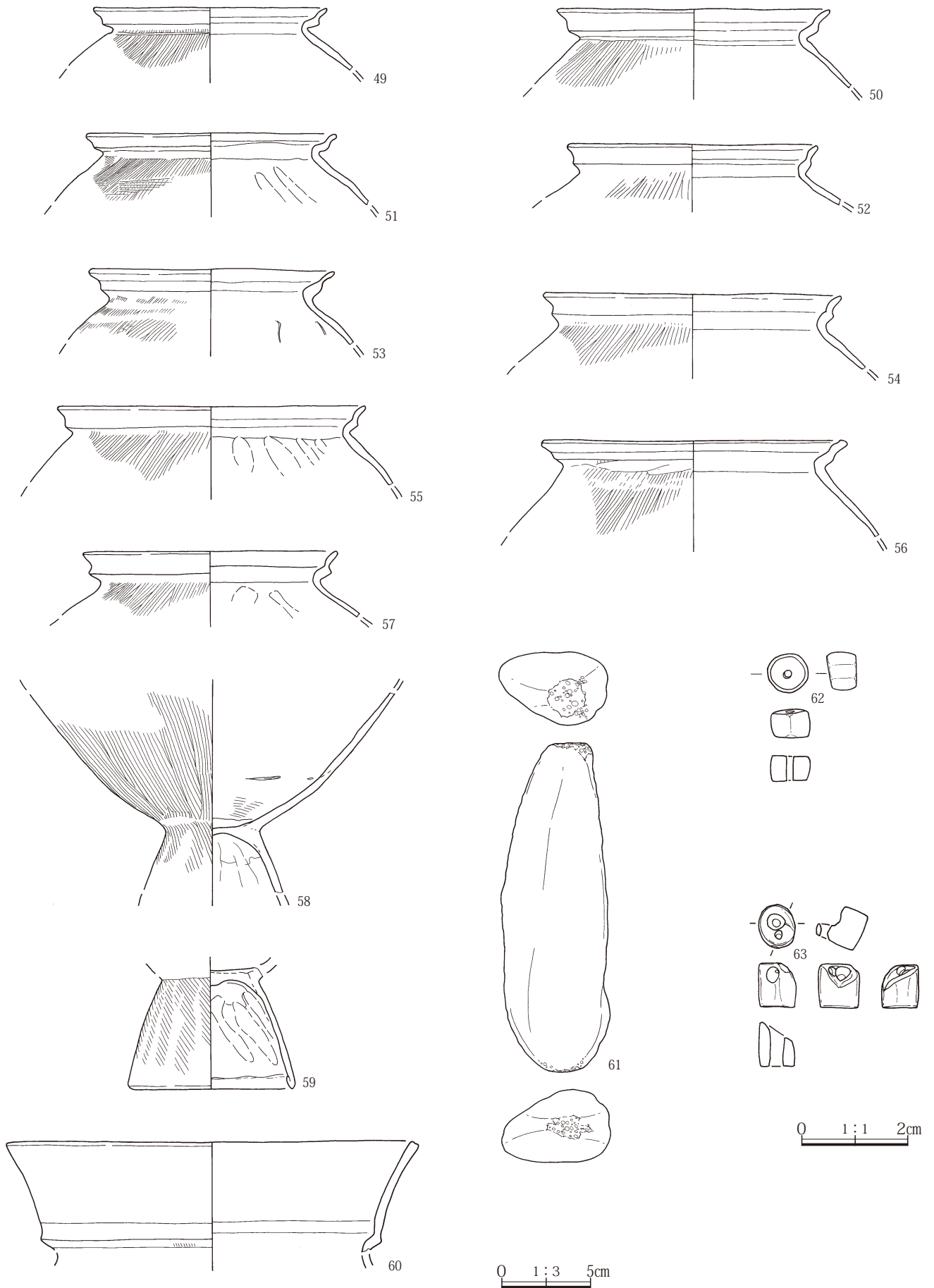
第220図 V区2号畝



第221図 V区遺構外の出土遺物(1)(古代～古墳時代)



第222図 V区遺構外の出土遺物(2)(古代～古墳時代)



第223図 V区遺構外の出土遺物(3)(古代～古墳時代)

7. VI区の遺構と遺物

(1)周溝をもつ建物

VI区1号住居

(第224・225図 PL.170・171・223 遺物観察表P.464)

位置 55-41-H~K-3~6 G**形状** 主柱穴の位置から正方形と推定される。床面が残存しないので竪穴か平地式かは確定はできないが、竪穴住居と推定される。外側に各辺のほぼ中央が切れる方形区画の周溝が付属する。**重複** 無し**規模** 長軸推定6.60m 短軸推定6.44m

残存壁高 柱穴のみ残存のため計測不能

周溝外形 長軸14.8m 短軸13.6m

長軸方位 N-32°-W**埋没土** 主柱穴は、上層は粘性としまりのある黒褐色土で、下層は黒褐色土と暗褐色土の混土で埋まっていた。竪穴内の周溝は黒褐色土と灰褐色土の混土で埋まっていた。**火処** 削平を受けて床面は残存していなかったため、火処の存在は不明である。存在したとすれば、出土遺物の時期から炉である可能性が高いと推定される。**柱穴** 周溝で囲まれた範囲のほぼ中央に4本の主柱穴が検出された。主柱穴の規模(長径×短径×残存深度m)は、P1が0.59×0.47×0.42m、P2が0.52×0.47×0.42m、P3が0.58×0.52×0.70m、P4が0.46×0.44×0.54mである。

また、P3の北内側にはP5、P4の北内側にはP6が検出された。建て替えによる柱穴の移動の可能性もあるが、削平によって柱穴の新旧関係をとらえることができなかつたので、建て替えがどうかを確定することはできなかつた。さらにP5・P6はP3・P4より浅く、柱穴として機能したかどうかは疑問があり、主柱穴とは異なる補助的な機能をもった柱穴の可能性もある。P5は当初2つのピットと認識されていたが、中央が深くなることから、1つの柱穴と判断した。P5の規模は0.62m×0.37m×0.30mである。P5の規模は0.44m×0.36m×0.33mである。P5埋没土中から土師器S字甕破片1点が出土した。

周溝 主柱穴の外側0.3~0.4mの位置に掘られていた

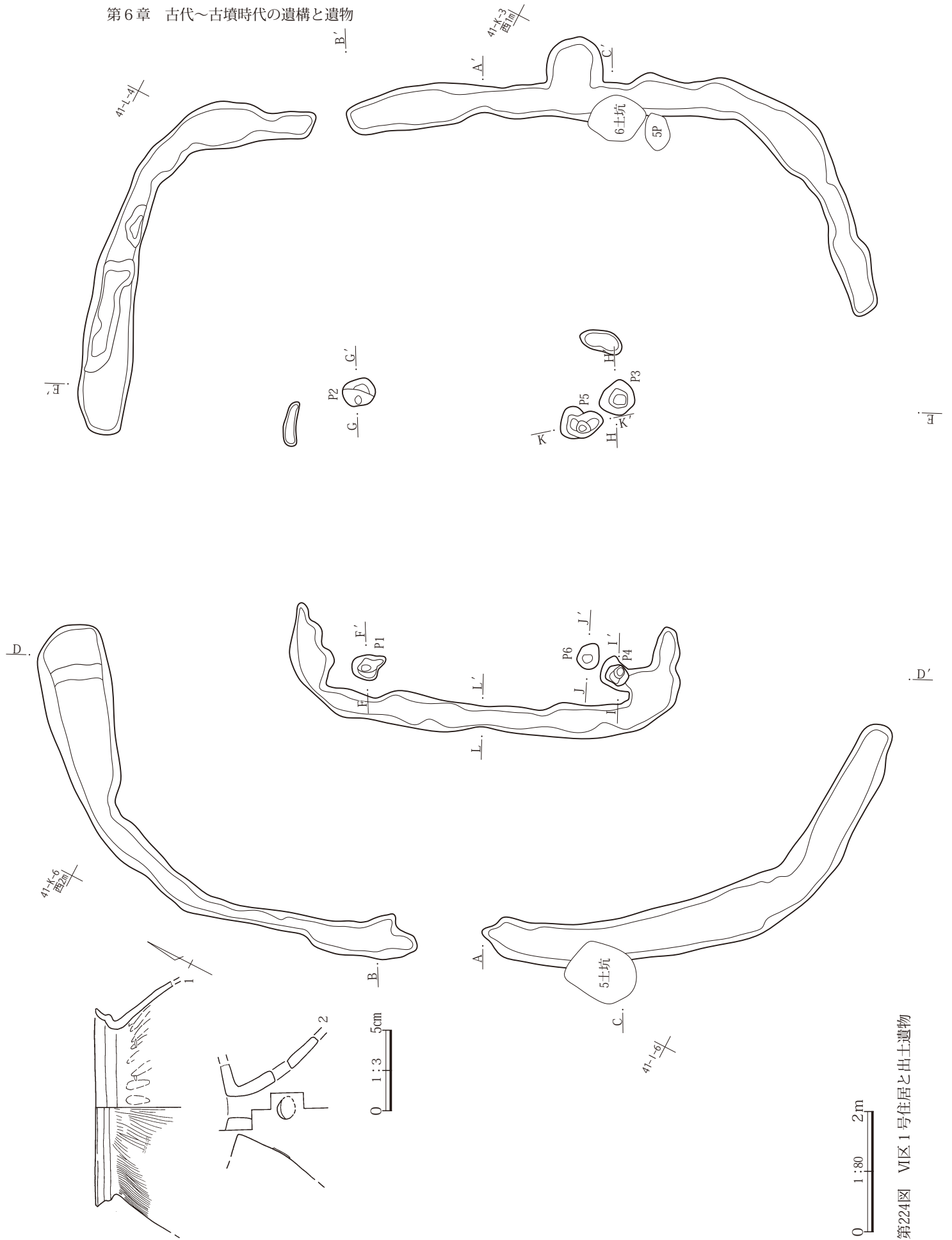
周溝は、屋内の周溝と推定される。この周溝は、北西隅から南西隅の西辺と、北東隅と南東隅の一部で残存していた。この周溝の規模は、上幅0.3~0.6m、深さ0.10mほどであった。通常の竪穴住居の壁周溝としてはやや幅が広く、主柱穴を結ぶ線に近接していることが異なっている。

屋内の周溝と推定される周溝の外側3mのところにさらに周溝が掘られていた。これは屋外の周溝と推定される。この屋外周溝の北辺、西辺、南辺のほぼ中央は途切れて、東辺は中央よりやや北側の0.5m部分が途切れているのみであった。これは周溝底面の凹凸が反映していると推定され、本来は6.7mが切れている南辺の中央が掘り残され、他の部分は掘り込みが回っていたと推定される。

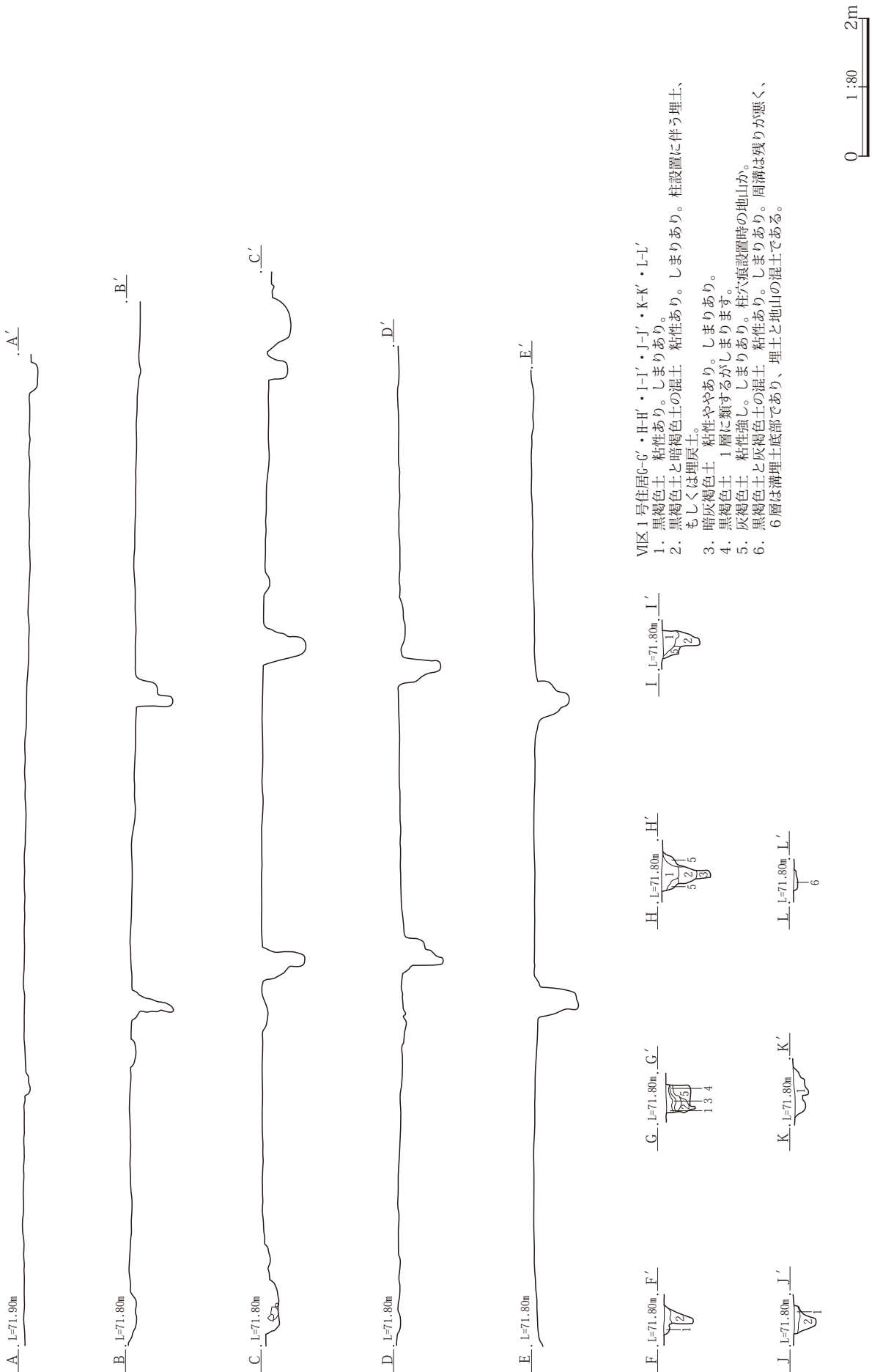
貯蔵穴 住居内の貯蔵穴は検出されなかつた。**床面** 住居床面は検出されなかつた。**遺物出土状況** 遺物は比較的少ない。図示した土師器器台(第224図2)は住居内埋没土中から、S字甕(1)はP4埋没土中から出土した。その他に磁器破片1点、土師器埴破片2点、高環破片4点、甕破片15、S字甕破片12点が出土した。磁器は混入である。**所見** 出土遺物から古墳時代前期の遺構と考えられる。

本遺構は、Ⅲ区9号住居と同様な屋外に周溝をもつ建物と推定される。Ⅲ区9号住居と同様、周囲に他の遺構がほとんどない地点に単独でつくられていた。Ⅲ区9号住居と異なる点は、屋外の周溝幅がやや狭いこと、東西南北すべてに周溝が途切れる部分があること、屋内の周溝と推定される内側の周溝が検出されたこと等があげられる。また南側のP3・P4の内側にP5・P6が補助的に掘られていることも本住居の特徴である。

VI区1号住居は、東西が小規模な谷地に挟まれた微高地の頂部にあり、西側は幾重かの溝で区画されている。南側には、遺構の無い空間を囲むような位置に本住居と主軸をほぼ同じくする掘立柱建物が建てられている。住居と掘立柱建物が同時に建てられていたかは出土土器がないことから明らかにできなかったが、このような遺構の分布状況からみると、VI区1号住居もⅢ区9号住居とともに、一般の竪穴住居とは異なった機能を有する建物である可能性が高い。



第224図 VI区 1号住居と出土遺物



VI区1号住居G-C'・H-H'・I-I'・J-J'・K-K'・L-L'

1. 黒褐色土 粘性あり。しまりあり。
2. 黒褐色土と暗褐色土の混土 粘性あり。しまりあり。柱設置に伴う埋土、もしくは埋戻土。
3. 暗灰褐色土 粘性ややあり。しまりあり。
4. 黒褐色土 1層に類するがしまりませぬ。
5. 灰褐色土 粘性強し。しまりあり。柱設置時の地山か。
6. 黒褐色土と灰褐色土の混土 粘性あり。しまりあり。周溝は残りが悪く、6層は溝埋土底部であり、埋土と地山の混土である。

第225図 VI区1号住居土層断面

VI区2号住居 (第226図 PL.172)

位置 55-41-H・I-3・4 G

形状 支柱穴位置から長方形と推定される。床面が残存しないので確定はできないが、竪穴住居の残存と推定される。

重複 VI区1号住居の南側周溝の途切れた部分に位置する。埋没土の重なりを確認できなかったため、新旧関係は不明であるが、1号住居とは同時に存在しえない位置関係にある。

規模 長軸4.00m以上 短軸3.46m以上

残存壁高 柱穴のみ残存のため計測不能

長軸方位 P1とP4を結んだラインはN-23°-W

埋没土 支柱穴は、粘性としまりのある暗褐色土と黒褐色土の混土で埋まっていた。

火処 削平を受けて床面は残存していなかったため、火処の存在はわからなかった。存在したとすれば、検出面が古墳時代面であることから炉である可能性が高いと推定される。

柱穴 4か所の支柱穴が検出された。いずれも2本ずつが近接しており、P1～P4が支柱穴の建物と、P5～

P8が支柱穴の建物との建て替えがあったと推定される。明確な柱穴の新旧関係がわかる断面記録がなく、拡張なのかの確証はない。支柱穴の規模(長径×短径×残存深度m)は、P1が0.30×0.24×0.40m、P5が0.38以上×0.38×0.33m、P2が0.35×0.28×0.38m、P6が0.64×0.31×0.27m、P3が0.34×0.31×0.59m、P7が0.38×0.34×0.52m、P4が0.35×0.28×0.62m、P8が0.32×0.31×0.24mである。

周溝 検出されなかった。

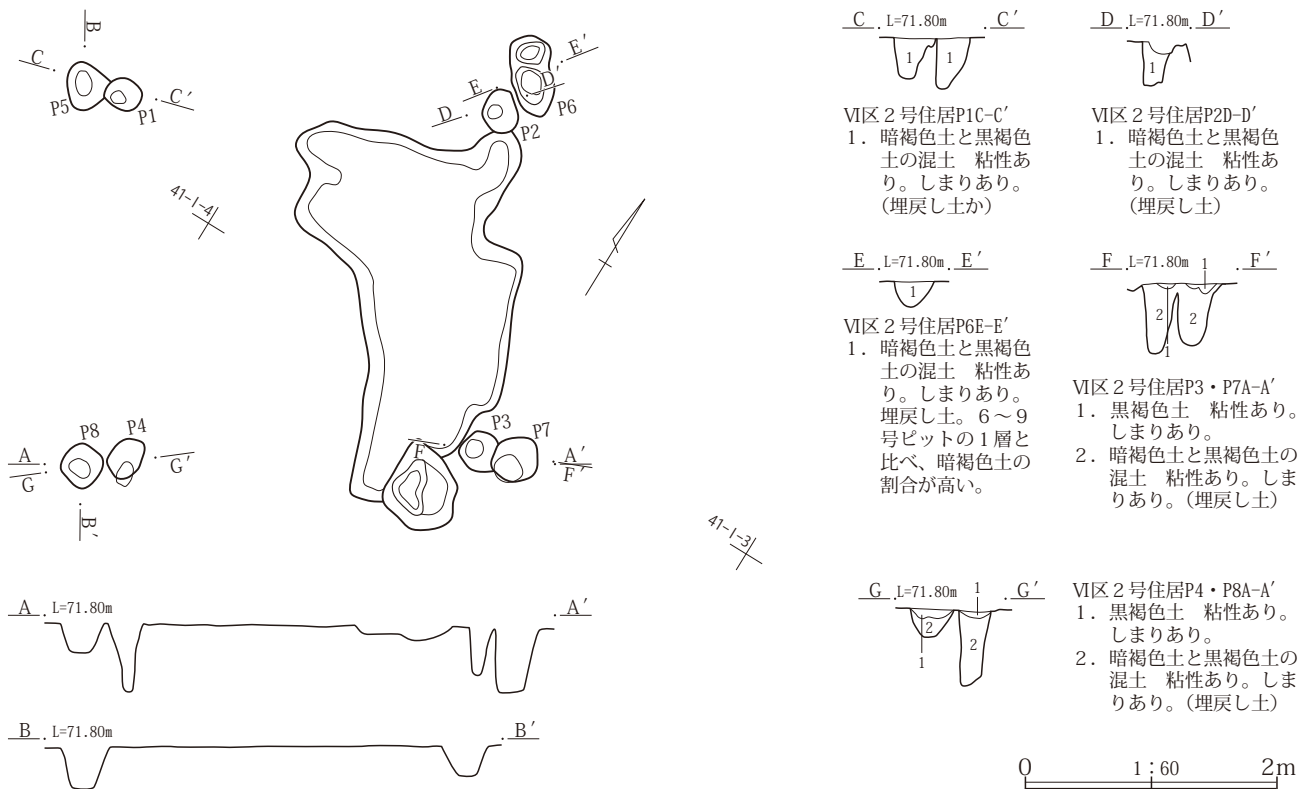
貯蔵穴 支柱穴のP3の南西脇に楕円形の土坑が検出されたが、貯蔵穴の可能性もある。規模(長径×短径×残存深度m)は.73×0.59×0.07mである。遺物は出土しなかった。

床面 住居床面は検出されなかった。

掘り方 住居北東壁に沿って、幅1.35m、長さ3m、深さ0.11mほどの不定型な掘り込みがあった。住居床面下の掘り方の可能性も考えられる。

遺物出土状況 遺物は出土しなかった。

所見 確認面および形態から、古墳時代前期の竪穴住居の掘り方の痕跡遺構と推定される。



第226図 VI区2号住居

(2) 竪穴遺構

VI区1号竪穴遺構(第227図 PL.172 遺物観察表P.464)

位置 55-31-D・E-20、41-D・E-1 G

形状 不整楕円形 外形・底面ともに凹凸が著しい。

重複 なし

規模 長軸2.69m 短軸0.67m 残存壁高0.07m

長軸方位 N-45°-E

埋没土 白色軽石を含むしまりのある黒褐色土で埋まっていた。

柱穴 柱穴は検出されなかった。

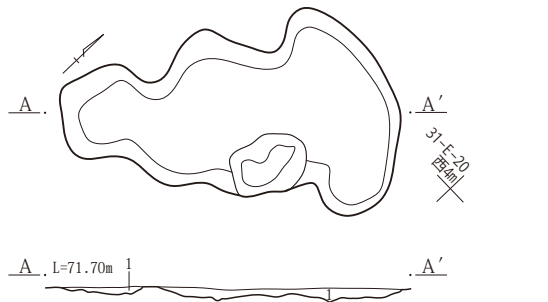
周溝 周溝は検出されなかった。

床面 底面は凹凸が著しく、中央部はやや平坦で硬化していた。

掘り方 掘り方はなかった。

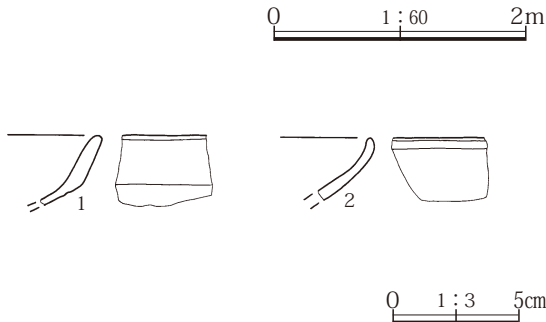
遺物出土状況 埋没土中から、土師器の壺破片4点、坏破片31点、甕破片26点、S字甕破片42点が出土した。S字甕の破片が多い一方で、8世紀とみられる土師器坏の破片も多く出土している(第227図1・2)。

所見 出土遺物から8世紀代の遺構と考えられる。形状から竪穴住居の掘り方底面の可能性もある。



VI区1号竪穴A-A'

1. 黒褐色土 粘性やや弱し。しまりあり。直径1mm以下の白色軽石粒含む。



第227図 VI区1号竪穴遺構と出土遺物

(3) 掘立柱建物

VI区1号掘立柱建物(第228図 PL.173)

位置 55-41-L・M-4・5 G

主軸方位 N-20°-W

重複 無し。

形態 1×2間(3.72~3.74m×3.23~3.40m・12.5×11尺)、面積12.01㎡の東西棟。柱間は桁行が3.68~3.74m、梁行が1.58~1.90m。

東辺・西辺ともにいずれの柱穴も柱筋を通る。西辺のP4が南にずれ、東辺のP3が北にずれていることからP4・P5間の柱間が相対的に長くなっている。

P1とP6の土層断面で柱痕跡を確認したが、他の柱穴では柱痕跡は検出できなかった。柱穴の形状は楕円形および不定型な楕円形で、規模は長径0.40~0.63m、短径0.35~0.46m、深さ0.35~0.50mで、比較的大型の柱穴で、ばらつきは少ない。

内部施設 無し

出土遺物 出土遺物はなかった。

所見 柱穴は、浅間C軽石との特定はないが、白色軽石を含む黒褐色土で埋まっていることや、遺構確認面が1号住居等と共通していることから、古墳時代前期の建物跡と考えられる。

VI区2号掘立柱建物

(第229・230図 PL.173~175 遺物観察表P.464)

位置 55-41-H・I-1~3 G

主軸方位 N-36°-W

重複 46号土坑と重複しているが、新旧関係は不明である。

形態 身舎部分は3×3間(6.03~6.05m×4.37~4.67m・20尺×14.5尺)、面積38.49㎡の南北棟。西側に1.78~1.96mの間隔をとって庇が付き、全体として6.33×6.10mの規模となる。柱間は桁行が1.81~2.23m、梁行が1.30~1.56m。

東辺はP4がやや東にずれるものの、ほぼ柱筋を通る。柱間はP1の南にP2、P4の南にP5というやや小型で浅いピットが近接した位置にあるが、P1、P3、P4、P6の主要な柱穴の柱間はそれぞれ、2.05m、1.81m、2.18mと中央の柱間がやや短くなっている。このような柱配置は西辺でも共通しており、P14の南にP13、P10の南にP9というピットがあり、主要な柱穴である

P14、P12、P10、P8の柱間はそれぞれ北から2.23m、1.83m、2.06mとやはり中央が狭くなっている。東辺と異なるのは、P9とP13の深さがそれぞれ0.22m、0.35mと深くなっていることである。

北辺はP16がやや柱筋から北にずれているが、概ね通っている。柱間は1.30m～1.48mとややばらつきがある。南辺は北辺のP16に対応する柱穴が検出できなかった。その他の3本の柱穴は柱筋を通る。北辺の柱間は南辺より短い。

庇と考えらえる柱列の柱穴はほぼ柱筋にのり、柱間はほぼ等間隔である。したがって中央部のP18とP19は身舎部分の柱筋とはややずれが生じている。またP18とP19の内側にはほぼ接するようにP22とP23があり、何らかの施設があったものと推定される。

いずれの柱穴でも明確な柱痕跡は検出できなかった。柱穴の形状は不整形円形および不定型な楕円形で、規模は長径0.26～0.62m、短径0.23～0.55m、深さ0.22～0.42mで、ばらつきが大きい。

内部施設 身舎部分には8号、10号、18号、47号、49号土坑、147号、156号、168号ピットが検出されているが、本掘立柱建物の内部施設として確定できる遺構はなかった。

出土遺物 P9の埋没土中から土師器S字甕胴部破片1点(第229図1)が出土した。

所見 少ない出土遺物のみから、建物の時期を決めることはできないが、柱穴の埋没土が浅間C軽石を含む黒色土であることから、古墳時代前期の遺構と考えたい。

本建物は、細長い微高地の頂部に位置し周溝をもつVI区1号住居と主軸を一致させた建物で、建物の規模や庇をもつ形態は、特異と言わざるを得ない。1号住居と同時に存在したかは確定できないが、住居南側にある空間に向けて庇を設けている様相からは、同時にあった可能性を否定できない。

VI区3号掘立柱建物(第231図 PL.175・176)

位置 55-31・41-E・F-20・1G

主軸方位 N-29°-W

重複 2号、6号井戸、38号土坑と重複している。いずれも本建物より新しい。

形態 1×3間(3.41～3.60m×5.10m・11.5尺×17尺)、面積18.36㎡の南北棟。柱間は桁行が1.60～1.80m、

梁行が3.36～3.55m。

東辺はP3が6号井戸北西縁法面で検出された。やや柱筋から東にずれるが、他の柱穴は柱筋にのる。間隔は等間隔でなくP3-P4間がやや長い。南辺はP4、P5ともに柱筋にのる。西辺は北から2番目の柱穴が2号井戸に壊されて検出できなかった。他の柱穴は柱筋にのる。P5-P6間の柱間は東辺よりやや短い。

P5、P6の断面で柱痕跡が確認できた。柱穴の形状は不整形円形および楕円形で、規模は長径0.30～0.50m、短径0.26～0.39m、深さ0.17～0.43mで、P2、P4がやや浅い。

内部施設 P3、P4を結ぶ線上で建物の中心に44号土坑が検出された。上層は白色軽石を含む黒褐色土、下層は地山ローム塊を混じる黒褐色土で埋まっていた。44号土坑からは遺物は出土しなかった。

しかし、他の古墳時代前期の遺物を出土した土坑と埋没土は共通している。内部施設という確証はないが、位置の規格性から、その可能性を提起しておきたい。

出土遺物 柱穴からの出土遺物はなかった。

所見 出土遺物から建物の時期を決めることはできないが、柱穴の埋没土が浅間C軽石を含む黒色土であることから、古墳時代前期の遺構と考えたい。

本建物も、VI区1号住居や2号掘立柱建物と主軸をほぼ一致させた建物で、細長い微高地上に有機的關係をもって配置されたと考えることも可能である。これらの遺構が同時にあった可能性は否定できない。

(4) 柱穴列

VI区1号柱穴列(第232図 PL.176)

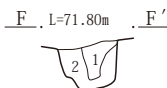
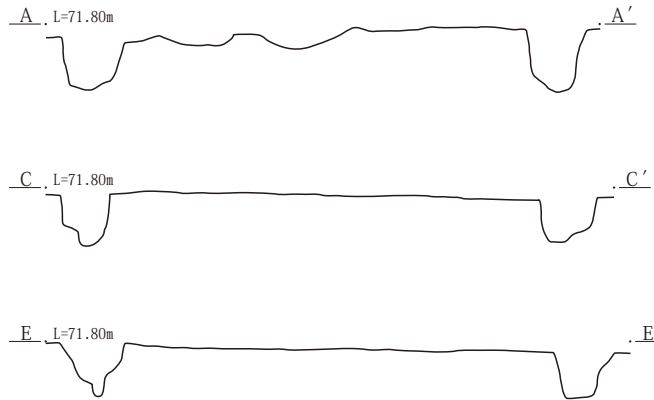
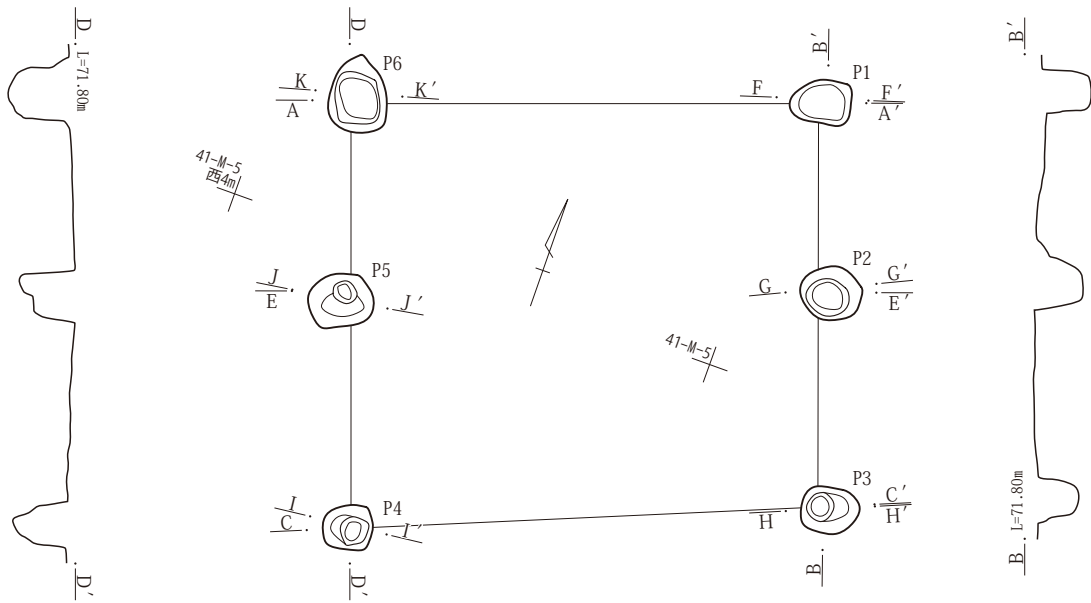
位置 55-41-F・G-4・5G

主軸方位 N-39°-W **重複** 無し。

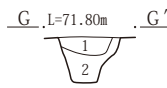
形態 3×3間(6.00～6.30m・10尺×10尺)の区画のうち、北辺と東辺のL字形の柱穴列を検出した。柱間は1.80～2.20mで、ほぼ等間隔である。

各柱穴とも柱筋を通る。いずれの柱穴も柱痕跡を確認できなかった。柱穴の形状は不整形楕円形および楕円形で、規模は長径0.27～0.47m、短径0.22～0.36m、深さ0.24～0.37mで、ばらつきは少ない。P7、P8は柱筋からものはずれ、浅い。

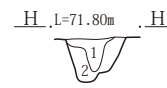
出土遺物 遺物は出土しなかった。



- VI区1号掘立柱建物P1F-F'
1. 黒褐色土 粘性あり。しまりあり。直径1mm以下の白色軽石粒含む。
 2. 暗灰褐色土 粘性あり。しまりあり。



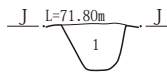
- VI区1号掘立柱建物P2G-G'
1. 黒褐色土と暗灰褐色土の混土 粘性あり。しまりあり。
 2. 暗灰褐色土 粘性あり。しまりあり。



- VI区1号掘立柱建物P3H-H'
1. 黒褐色土 粘性あり。しまりあり。直径1mm以下の白色軽石粒含む。
 2. 暗灰褐色土 粘性あり。しまりあり。



- VI区1号掘立柱建物P4I-I'
1. 黒褐色土と暗灰褐色土の混土 粘性あり。しまりあり。



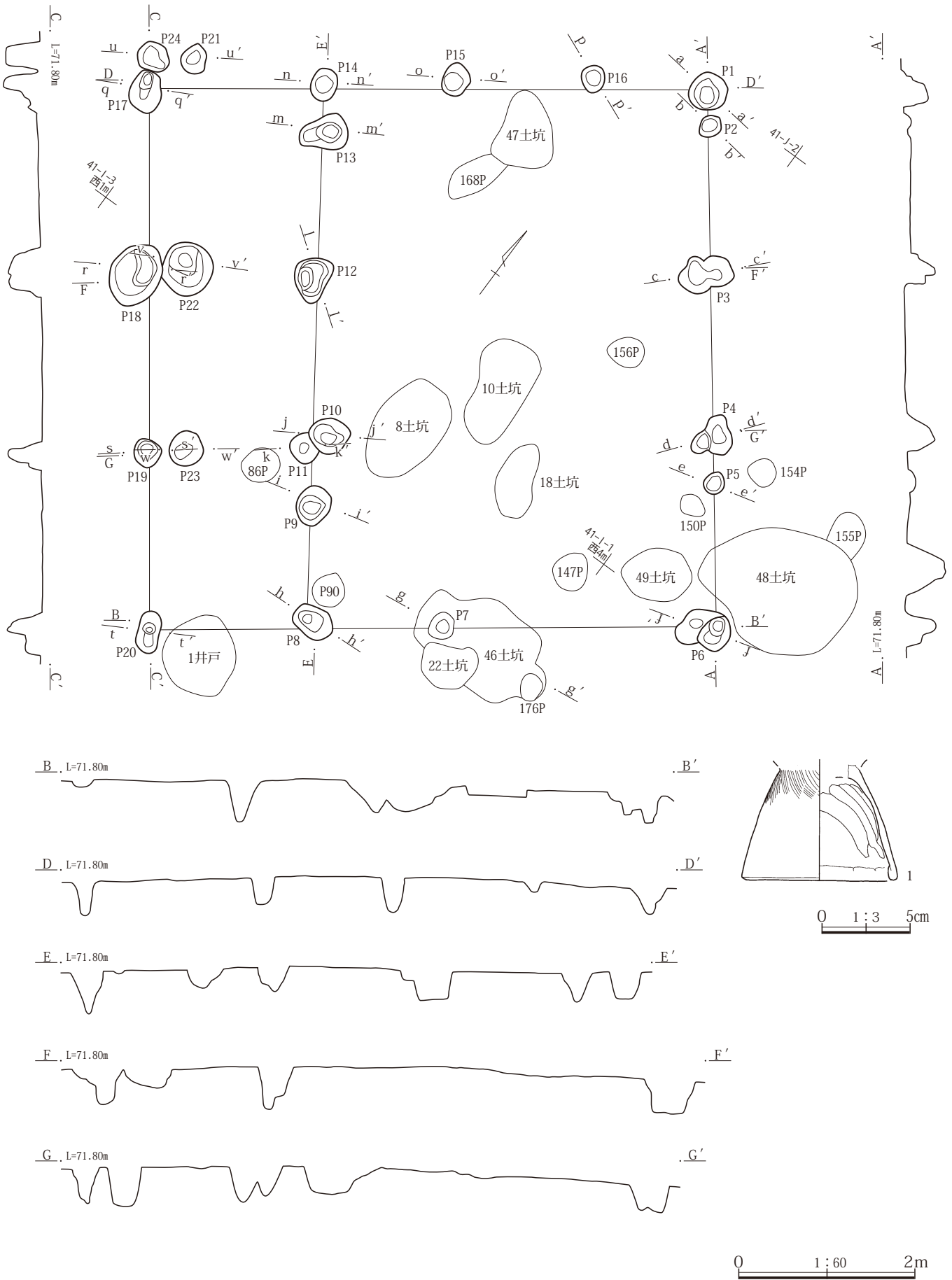
- VI区1号掘立柱建物P5J-J'
1. 黒褐色土と暗灰褐色土の混土 粘性あり。しまりあり。



- VI区1号掘立柱建物P6K-K'
1. 黒褐色土 粘性あり。しまりあり。直径1mm以下の白色軽石粒含む。
 2. 暗灰褐色土 粘性あり。しまりあり。



第228図 VI区1号掘立柱建物



第229図 VI区2号掘立柱建物(1)と出土遺物

7. VI区の遺構と遺物

a. L=71.80m . a'



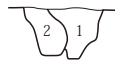
- VI区 2号掘立柱建物P1a-a'
1. 黒褐色土 粘性あり。しまりあり。直径1mm以下の白色軽石粒含む。
 2. 黒褐色土と暗灰褐色土の混土 粘性あり。しまりあり。

b. L=71.80m . b'



- VI区 2号掘立柱建物P2b-b'
1. 黒褐色土 粘性あり。しまりあり。直径1mm以下の白色軽石粒含む。

c. L=71.80m . c'



- VI区 2号掘立柱建物P3c-c'
1. 黒褐色土 粘性あり。しまりあり。直径1mm以下の白色軽石粒含む。
 2. 黒褐色土と暗灰褐色土の混土 粘性あり。しまりあり。

d. L=71.80m . d'



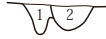
- VI区 2号掘立柱建物P4d-d'
1. 黒褐色土 粘性あり。しまりあり。直径1mm以下の白色軽石粒含む。
 2. 黒褐色土と暗灰褐色土の混土 粘性あり。しまりあり。

e. L=71.80m . e'



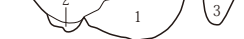
- VI区 2号掘立柱建物P5e-e'
1. 黒褐色土 粘性あり。しまりあり。直径1mm以下の白色軽石粒含む。
 2. 暗灰褐色土 粘性あり。しまりあり。

f. L=71.80m . f'



- VI区 2号掘立柱建物P6f-f'
1. 黒褐色土 粘性あり。しまりあり。直径1mm以下の白色軽石粒含む。
 2. 黒褐色土と暗灰褐色土の混土 粘性あり。しまりあり。

g. L=71.80m . g'



- VI区 2号掘立柱建物P7g-g'
1. 黒褐色土 粘性あり。しまりあり。直径1mm以下の白色軽石粒含む。(46号土坑埋没土)
 2. 黒褐色土と茶褐色土の混土 粘性あり。しまりあり。(175号ピット埋没土)
 3. 暗褐色土 粘性あり。しまりあり。(176号ピット埋没土)

h. L=71.80m . h'



- VI区 2号掘立柱建物P8h-h'
1. 黒褐色土 粘性あり。しまりあり。直径1mm以下の白色軽石粒含む。
 2. 暗灰褐色土 粘性あり。しまりあり。
 3. 黒褐色土と暗灰褐色土の混土 粘性あり。しまりあり。

i. L=71.80m . i'



- VI区 2号掘立柱建物P9i-i'
1. 黒褐色土 粘性あり。しまりあり。直径1mm以下の白色軽石粒含む。

j. L=71.80m . j'



- VI区 2号掘立柱建物P10j-j'
1. 黒褐色土 粘性あり。しまりあり。直径1mm以下の白色軽石粒含む。
 2. 黒褐色土と暗灰褐色土の混土 粘性あり。しまりあり。

k. L=71.80m . k'



- VI区 2号掘立柱建物P11k-k'
1. 黒褐色土 粘性あり。しまりあり。直径1mm以下の白色軽石粒含む。
 2. 暗灰褐色土 粘性あり。しまりあり。

l. L=71.80m . l'



- VI区 2号掘立柱建物P12l-l'
1. 黒褐色土 粘性あり。しまりあり。直径1mm以下の白色軽石粒含む。
 2. 暗灰褐色土 粘性あり。しまりあり。

m. L=71.80m . m'



- VI区 2号掘立柱建物P13m-m'
1. 黒褐色土 粘性あり。しまりあり。直径1mm以下の白色軽石粒含む。
 2. 暗灰褐色土 粘性あり。しまりあり。

n. L=71.80m . n'



- VI区 2号掘立柱建物P14n-n'
1. 黒褐色土 粘性あり。しまりあり。直径1mm以下の白色軽石粒含む。
 2. 暗灰褐色土 粘性あり。しまりあり。

o. L=71.80m . o'



- VI区 2号掘立柱建物P15o-o'
1. 黒褐色土 粘性あり。しまりあり。直径1mm以下の白色軽石粒含む。
 2. 黒褐色土と暗灰褐色土の混土 粘性あり。しまりあり。

p. L=71.80m . p'



- VI区 2号掘立柱建物P16p-p'
1. 黒褐色土 粘性あり。しまりあり。直径1mm以下の白色軽石粒含む。

q. L=71.80m . q'



- VI区 2号掘立柱建物P17q-q'
1. 黒褐色土と暗灰褐色土の混土 粘性あり。しまりあり。

r. L=71.80m . r'



- VI区 2号掘立柱建物P18r-r'
1. 黒褐色土 粘性あり。しまりあり。直径1mm以下の白色軽石粒含む。
 2. 暗灰褐色土 粘性あり。しまりあり。

s. L=71.80m . s'



- VI区 2号掘立柱建物P19s-s'
1. 黒褐色土と暗灰褐色土の混土 粘性あり。しまりあり。

t. L=71.80m . t'



- VI区 2号掘立柱建物P20t-t'
1. 黒褐色土と暗灰褐色土の混土 粘性あり。しまりあり。

u. L=71.80m . u'



- VI区 2号掘立柱建物P21・24u-u'
1. 暗灰褐色土 粘性あり。しまりあり。

v. L=71.80m . v'

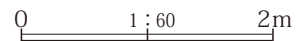


- VI区 2号掘立柱建物P22v-v'
1. 黒褐色土 粘性あり。しまりあり。直径1mm以下の白色軽石粒含む。
 2. 暗灰褐色土 粘性あり。しまりあり。

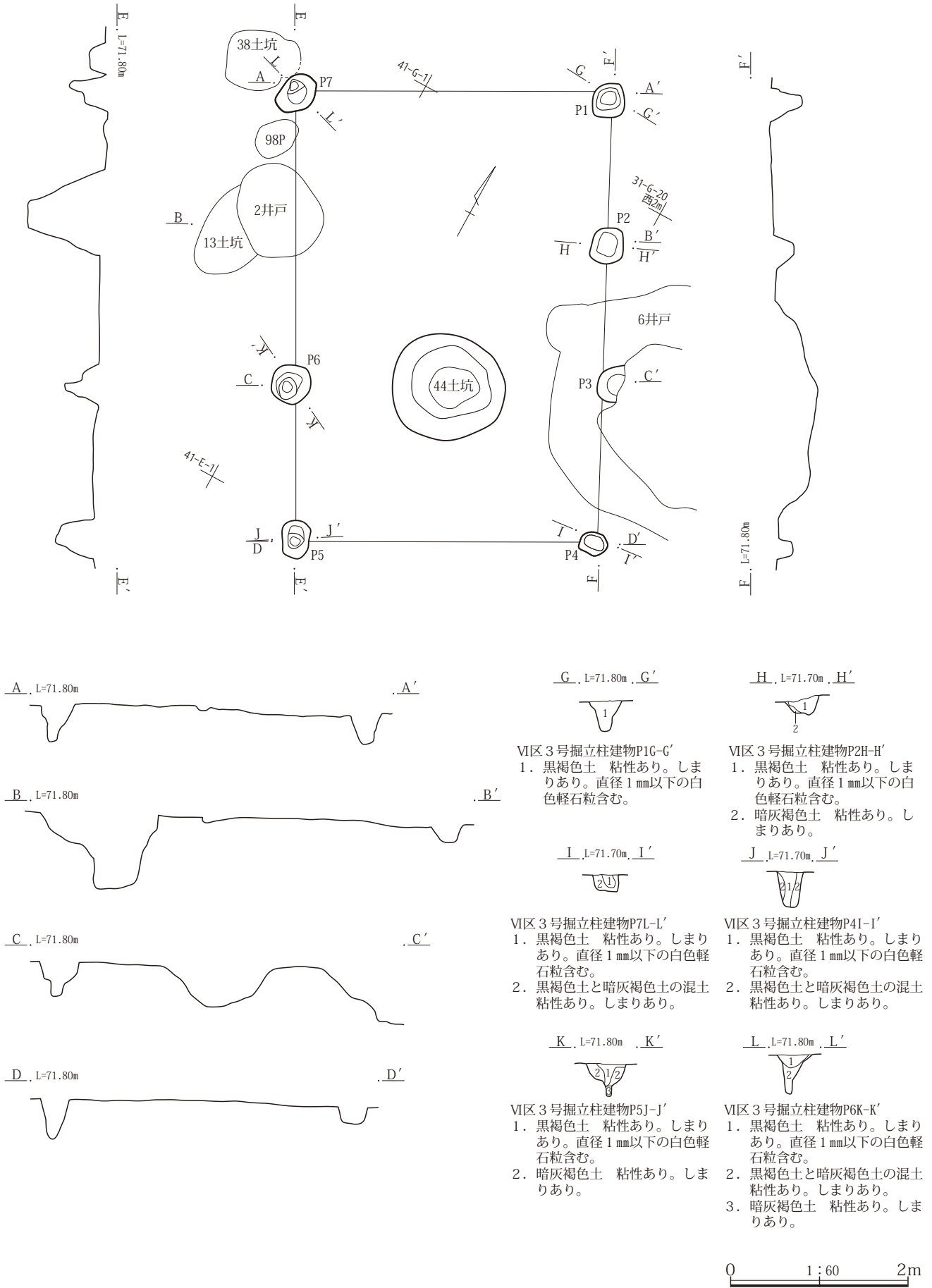
w. L=71.80m . w'



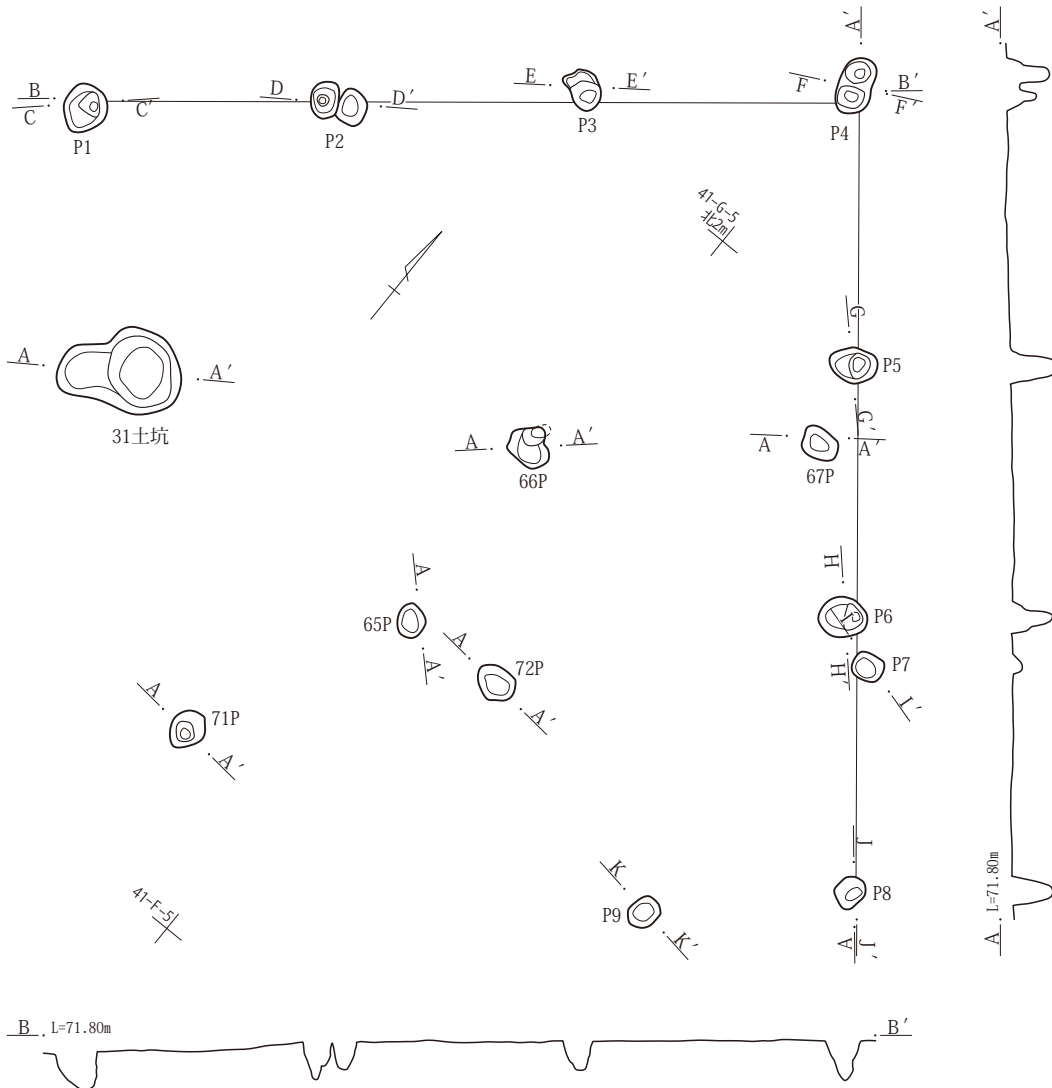
- VI区 2号掘立柱建物P23w-w'
1. 黒褐色土と暗灰褐色土の混土 粘性あり。しまりあり。



第230図 VI区 2号掘立柱建物(2)



第231図 VI区 3号掘立柱建物



C, L=71.80m, C'



VI区1号柱穴列P1C-C'
1. 黒褐色土 粘性あり。しまりあり。直径1mm以下の白色軽石粒含む。

D, L=71.80m, D'



VI区1号柱穴列P2D-D'
1. 黒褐色土 粘性あり。しまりあり。直径1mm以下の白色軽石粒含む。

E, L=71.80m, E'



VI区1号柱穴列P3E-E'
1. 黒褐色土と暗灰褐色土の混土 粘性あり。しまりあり。

F, L=71.80m, F'



VI区1号柱穴列P4F-F'
1. 暗灰褐色土 粘性あり。しまりあり。
2. 黒褐色土 粘性あり。しまりあり。直径1mm以下の白色軽石粒含む。

G, L=71.80m, G'



VI区1号柱穴列P5G-G'
1. 黒褐色土 粘性あり。しまりあり。直径1mm以下の白色軽石粒含む。

H, L=71.80m, H'



VI区1号柱穴列P6H-H'
1. 黒褐色土と暗灰褐色土の混土 粘性あり。しまりあり。

I, L=71.80m, I'



VI区1号柱穴列P7I-I'
1. 黒褐色土 粘性あり。しまりあり。直径1mm以下の白色軽石粒含む。

J, L=71.80m, J'



VI区1号柱穴列P8J-J'
1. 黒褐色土 粘性あり。しまりあり。直径1mm以下の白色軽石粒含む。
2. 暗灰褐色土 粘性あり。しまりあり。

K, L=71.80m, K'



VI区1号柱穴列P9K-K'
1. 黒褐色土と暗灰褐色土の混土 粘性あり。しまりあり。



第232図 VI区1号柱穴列

所見 柱穴は浅間C軽石を含む黒褐色土で埋まっていることから、古墳時代前期の遺構と考えたい。また、VI区1号住居南側の空間を隔てて、西側に相対する位置にあり、やや主軸方向はずれるが、他の遺構と同様に、細長い微高地上に有機的関係をもって配置されたと考えることも可能である。これらの遺構が同時にあった可能性は否定できない。

(5) 井戸

VI区3号井戸(第233図 PL.177 遺物観察表P.464)

位置 VI区55-41-D-1・2G

形状 不整楕円形 **重複** なし

規模 長軸1.08m 短軸0.78m 残存壁高0.80m

長軸方位 N-60°-E

断面形 上端がやや開いた筒形をしている。壁の中位よりやや上に段がある。

埋没土 茶褐色土粒、白色軽石粒を含む粘性のある黒褐色土で埋まっていた。

底面 底面は平坦である。

遺物出土状況 図示した土師器高坏(第233図1)、S字甕(2)は埋没土中から出土した。他に埋没土中から土師器壺破片1点、坏破片1点、甕破片3点、S字甕破片5点が出土した。

所見 出土遺物から古墳時代前期の遺構と考えられる。西側に検出された竪穴住居群からなる集落の井戸と考えられる。

VI区4号井戸(第233図 PL.177・223 遺物観察表P.465)

位置 VI区55-31-D-20G

形状 円形 **重複** なし

規模 長軸0.88m 短軸0.85m 残存壁高0.77m

長軸方位 N-37°-W

断面形 上端がやや開いた筒形をしている。壁の中位よりやや上に段がある。

埋没土 粘性、しまりの強い黒褐色土で埋まっていた。

底面 底面は平坦である。

遺物出土状況 図示したS字甕脚部(第233図3)は埋没土中から出土した。他に埋没土中から土師器高坏破片2点、甕破片4点、S字甕破片13点が出土した。

所見 出土遺物から古墳時代前期の遺構と考えられる。

VI区5号井戸(第233図 PL.177)

位置 VI区55-41-F-12G

形状 楕円形 **重複** なし

規模 長軸0.92m 短軸0.81m 残存壁高0.90m

長軸方位 N-4°-W

断面形 筒形をしている。壁の中位よりやや下に段があり、下位は筒状に細くなっている。

埋没土 粘性、しまりが強く、白色軽石を含む黒褐色土で埋まっていた。

底面 底面は平坦である。

遺物出土状況 遺物は出土しなかった。

所見 遺構の確認面および埋没土の共通性から古墳時代前期の遺構と推定される。

VI区6号井戸(第234図 PL.177・223 遺物観察表P.465)

位置 VI区55-31-F-19・20G

形状 楕円形

重複 43号土坑と重複するが、43号土坑より新しい。

規模 長軸3.66m 短軸2.80m 残存壁高0.75m

長軸方位 N-77°-E

断面形 浅いすり鉢形。壁の中位にテラス状の段があり、中央の湧水部がやや凹んでいる。

埋没土 粘性、しまりの強い暗褐色土で埋まっていた。

底面 湧水部の東側には凹凸はあるもののやや広いテラスがある。

遺物出土状況 図示した土師器坏(第234図1~8)、須恵器坏(第234図9)は埋没土中から出土した。他に埋没土中から土師器埴破片7点、壺破片37点、高坏破片2点、椀破片5点、坏破片125点、甕破片133点、S字甕破片76点、須恵器坏破片3点が出土した。

所見 本井戸からは多量の遺物が出土したが、出土遺物には古墳時代前期と8世紀ころの遺物が混在している。ここでは新しい遺物の時期を重視して、8世紀ころの遺構と考えたい。

VI区7号井戸(第233図 PL.178・223 遺物観察表P.465)

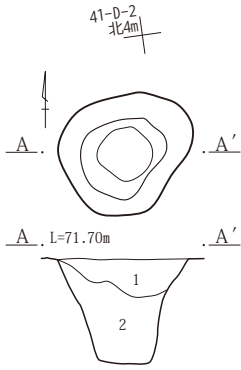
位置 55-31-E-20G

形状 不定形 **重複** なし

規模 長軸1.27m 短軸1.25m 残存壁高0.92m

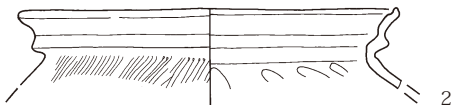
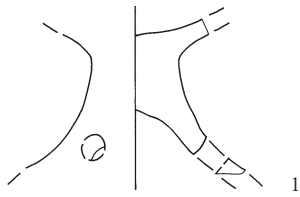
長軸方位 N-53°-W

VI区3号井戸

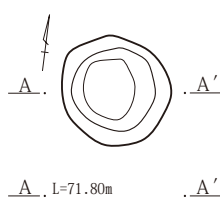


VI区3号井戸A-A'

1. 黒褐色土 粘性あり。しまりあり。径5mm以下の茶褐色粒・径1mm以下の白色軽石粒含む。
2. 黒褐色土 1層に類するが、粘性・しまります。

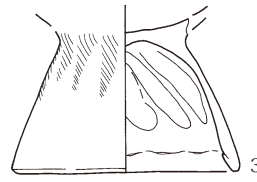


VI区4号井戸

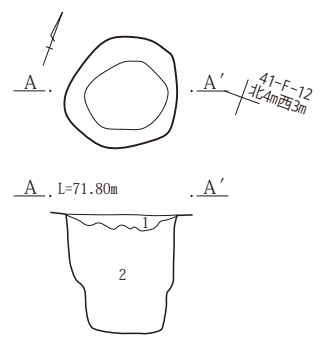


VI区4号井戸A-A'

1. 黒褐色土 粘性強し。縮まり強し。



VI区5号井戸

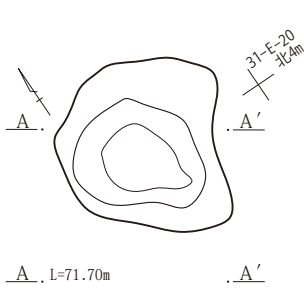


VI区5号井戸A-A'

1. 暗褐色土 粘性あり。しまりあり。径1mm以下の白色軽石粒含む。
2. 黒褐色土 粘性強し。しまり強し。径1mm以下の白色軽石粒含む。

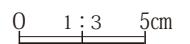
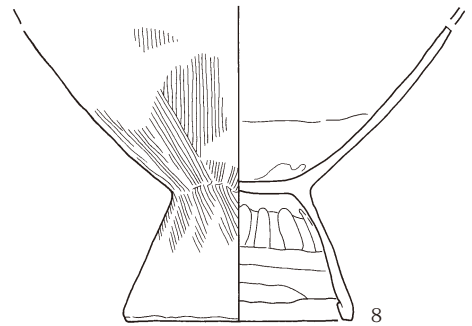
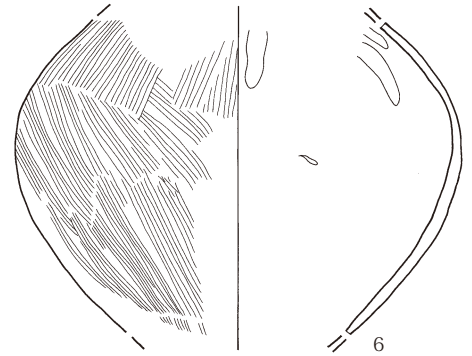
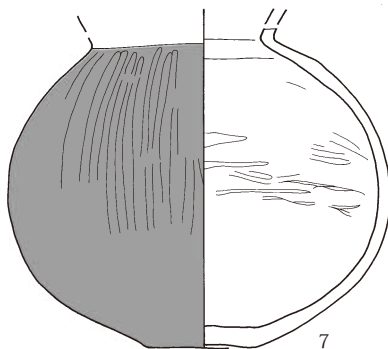
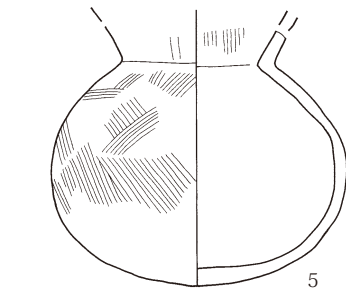
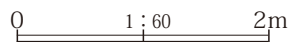


VI区7号井戸

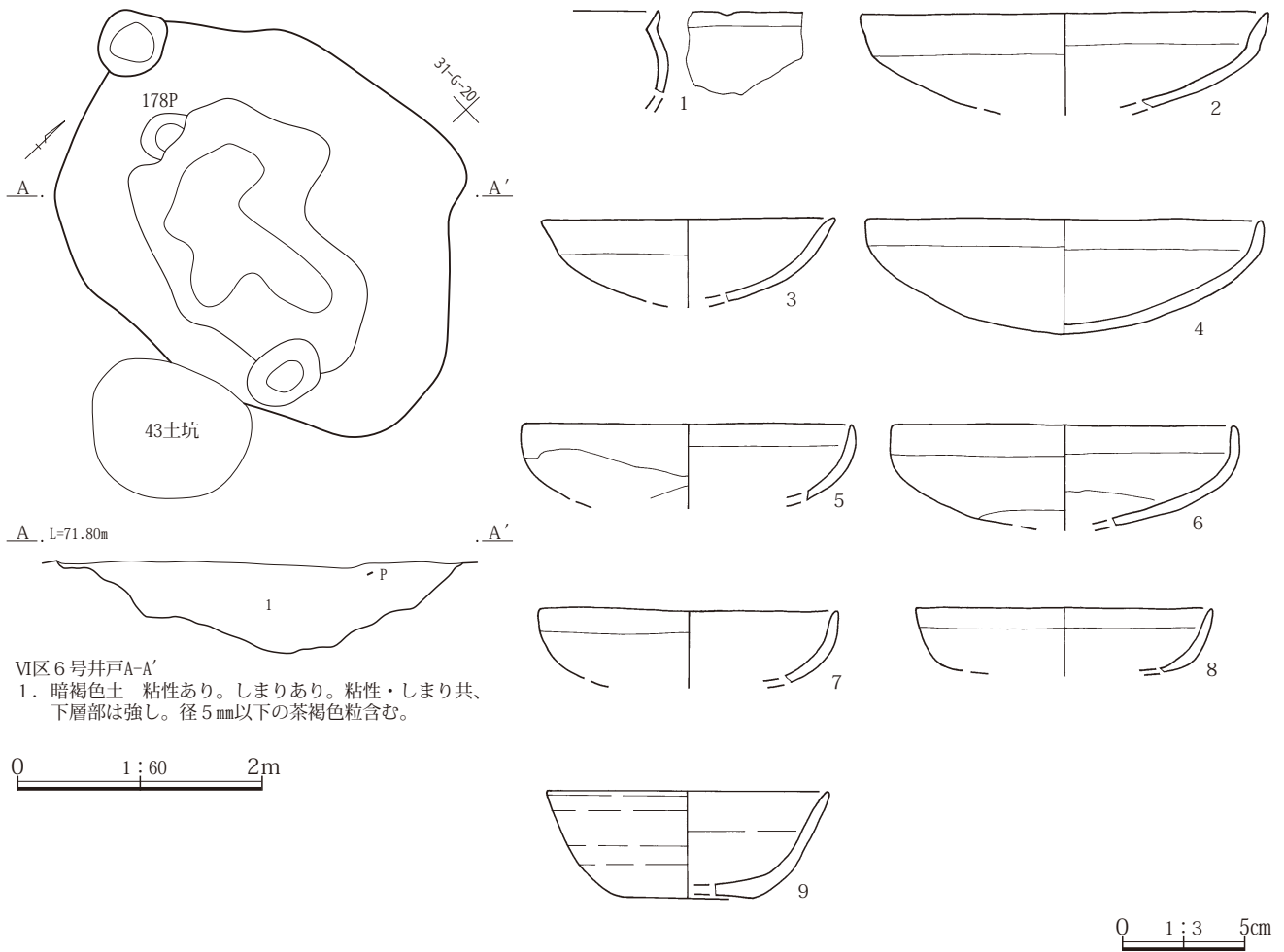


VI区7号井戸A-A'

1. 黒褐色土 粘性強し。しまり強し。
2. 灰褐色土 粘性強し。しまり強し。全体にザラつきあり。



第233図 VI区井戸と出土遺物



第234図 VI区6号井戸と出土遺物

断面形 上端がやや開いたボール形をしている。

埋没土 上層は粘性、しまりの強い黒褐色土で、下層は粘性、しまりの強い灰褐色土で埋まっていた。

底面 底面は小さなピット状を呈する。

遺物出土状況 図示した土師器直口壺(第233図5・7)、高坏(4)、S字甕(6・8)は埋没土中から出土した。他に埋没土中から焙烙破片1点、土師器壺・埴破片76点、S字甕破片51点が出土した。焙烙破片は混入であろう。

所見 出土遺物から古墳時代前期の遺構と考えられる。本井戸と3号井戸を結んだラインは、微高地の最高部にある1号住居の東西軸と共通し、北東にある4号井戸とともに1号住居や掘立柱建物群が集まる微高地南部を画するような位置に掘られている。

(6) 土坑(第235～237図 PL.179～182・223・224 遺物観察表P.465)

VI区古代～古墳時代遺構面で検出された土坑は29基である。これらの土坑は中央部に北西から南東方向にのびる微高地の南東裾野を取り囲むように群在する一群と、西部の凹地に散在する一群がある。VII区では本面で遺構確認を実施していないため、西側への土坑分布の広がりについては不明と言わざるを得ない。東側は遺構の分布が希薄であり、低地内に21号土坑が検出されたのみである。V区でも本面で遺構確認を実施していないため、東側への土坑分布の広がりについては不明である。

また、本面で検出された土坑のなかには、8世紀頃の遺物を出土する土坑が含まれている。本報告書の記載にあたっては、調査時の遺構確認の単位ごとに記載しているので、時期の異なる遺構が混在していることに注意を要する。報告書のまとめでは、各時期の遺構分布の実態を反映した記載をした。

それぞれの土坑の位置や規模は、P.434・435の表にまとめられた。以下各遺構の調査所見を記載する。

8号土坑は楕円形の土坑で、土坑集中部の中央部で検出された。断面形はU字形。上層は浅間C軽石を含む粘質黒色土で、中層はローム塊を含む暗黄褐色土で、下層は浅間C軽石を含む黒褐色土で埋まっていた。埋没土中から土師器杯1点が出土した。出土遺物の特徴は古代の遺構である可能性を示している。

9号土坑は細長い楕円形の土坑で土坑集中部の西部で検出された。断面形はすり鉢状。浅間C軽石・ローム粒を含む黒色土で埋まっていた。埋没土中から土器破片2点、土師器甕破片3点、S字甕1点が出土した。埋没土の特徴は古代の遺構である可能性を示している。

21号土坑は楕円形の土坑で、13号溝と重複して検出された。13号溝との新旧関係は不明である。断面形は上方が開くU字形。土坑はざらつきのある暗褐色土で埋まっていた。中央部底面上5cmのところ完形の須恵器杯(第235図1)が出土した。13号溝は浅間B軽石を混じる土で埋まっていることから中世以降と考えられる。21号土坑の時期は出土遺物から8世紀ころと推定される。

25号土坑は楕円形の土坑で、2号井戸の北東側で検出された。断面形はすり鉢状。南西端が深いピット状に掘り込まれている。上層は粘性のある黒褐色土で、下層は粘性があり、茶褐色土塊を含む暗褐色土で埋まっていた。埋没土中から土師器杯破片1点、甕破片3点、須恵器碗破片1点が出土した。土坑の時期は出土遺物からすれば古代の可能性が高い。

26号土坑は3号掘立柱建物の北側で、27号土坑と検出された。土層断面の観察から26号土坑が新しい。26号土坑は楕円形の土坑で、断面形は筒状。白色軽石を含む黒褐色土で埋まっていた。遺物は出土しなかった。

27号土坑は隅丸方形の土坑で、断面形は筒状。白色軽石を含む、しまりのある黒褐色土で埋まっていた。埋没土中から土師器台付甕(第235図2)と甕破片1点が出土した。出土遺物からは古墳時代前期の遺構と考えられる。

28号土坑は不整楕円形の土坑で、屋外周溝のある1号竪穴住居の西側で検出された。断面形は皿状。底面は凹凸が著しい。上層は白色軽石を含む黒褐色土で、下層は暗灰褐色土と黒褐色土の混土で埋まっていた。埋没土中

から土師器壺破片18点、甕破片1点、S字甕11点が出土した。図示できる破片でなかったが、土坑の時期は古墳時代前期と考えられる。

29号土坑は円形の土坑で、屋外周溝のある1号竪穴住居の南西側で検出された。断面形は浅いボール状。白色軽石を含む黒褐色土で埋まっていた。埋没土中から土師器壺破片2点、甕破片3点、S字甕1点が出土した。出土遺物からは古墳時代前期の遺構と考えられる。

30号土坑は不整楕円形の土坑で、29号土坑の東側で検出された。断面形は浅いボール状。底面は凹凸が著しい。上層は白色軽石を含む黒褐色土で、下層は白色軽石を含む黒褐色土と暗灰褐色土の混土で埋まっていた。埋没土中から土師器甕破片8点、S字甕2点が出土した。出土遺物からは古墳時代前期の遺構と考えられる。

31号土坑は円形の土坑で、南西側が楕円形に窪んでいた。1号柱穴列の南西側で検出されたが、柱筋にはのっていない。断面形はピット状。白色軽石を含む黒褐色土で埋まっていた。図示した土師器S字甕(第235図3)は埋没土中から出土した。他に土師器高坏破片2点、甕破片3点、S字甕破片13点が出土した。出土遺物からは古墳時代前期の遺構と考えられる。

32号土坑は円形の土坑で、1号柱穴列の南側で検出されたが、柱筋にはのっていない。断面形は筒状。上層は粘性のある黒褐色土、下層はしまりのある黒褐色土で埋まっていた。遺物は出土しなかった。

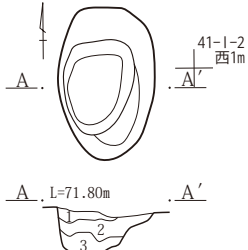
33号土坑は不整楕円形の土坑で、1号柱穴列と3号掘立柱建物間で検出された。断面形は皿状。底面中央がやや窪んでいた。茶褐色土粒・白色軽石を含む黒褐色土と暗灰褐色土の混土で埋まっていた。遺物は出土しなかった。

34号土坑は楕円形の土坑で、33号土坑の南側で検出された。断面形は筒状。上層は白色軽石を含む黒褐色土で、下層は黒褐色土と暗灰褐色土の混土で埋まっていた。遺物は出土しなかった。

35号土坑は楕円形の土坑で、34号土坑の東側で検出された。断面形はピット状。中央部は茶褐色土塊を含む黒褐色土で、下層は黒褐色土と暗灰褐色土の混土で埋まっていた。遺物は出土しなかった。

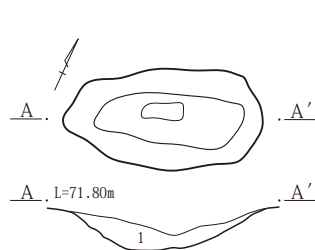
36号土坑は丸い楕円形の土坑で、4号井戸の北西側で37号土坑と接して検出された。断面形は箱状。白色軽石

VI区 8号土坑



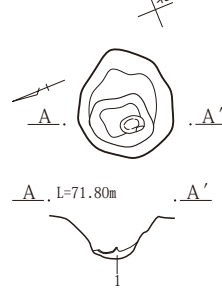
- VI区 8号土坑A-A'
1. 黒色土 As-Cを含む。粘質土。
 2. 暗黄褐色土 ローム塊混入土。
 3. 黒褐色土 As-Cを含む。

VI区 9号土坑

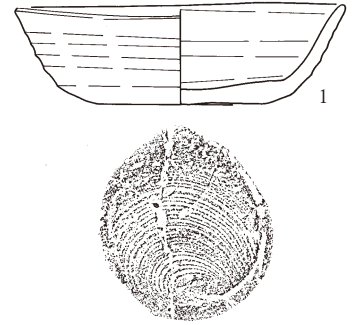


- VI区 9号土坑 A-A'
1. 黒色土 黄色ローム少量混入。As-C混土。

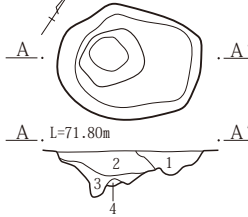
VI区 21号土坑



- VI区 21号土坑A-A'
1. 暗褐色土 粘性ややあり。しまりややあり。全体にザラつきあり。

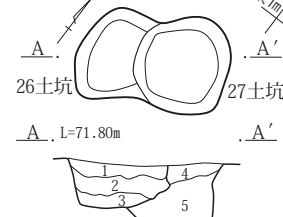


VI区 25号土坑

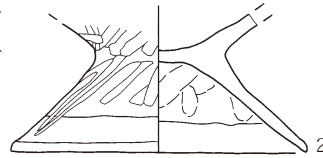


- VI区 25号土坑A-A'
1. 暗褐色土 粘性ややあり。しまりあり。全体にザラつきあり。
 2. 黒褐色土 粘性ややあり。しまりあり。全体にザラつきあり。
 3. 暗褐色土 粘性あり。しまりあり。全体にザラつき強い。径100mm以下の茶褐色土塊が散見される。
 4. 暗褐色土と茶褐色土 粘性あり。しまりあり。全体にザラつきあり。

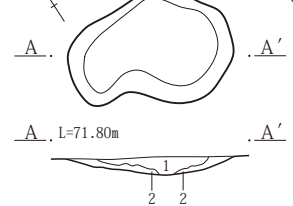
VI区 26号・27号土坑



- VI区 26号・27号土坑A-A'
1. 黒褐色土 粘性あり。しまりあり。直径1mm以下の白色軽石粒含む。4層に比べ黒味薄れる。(26号土坑埋没土)
 2. 暗褐色土と暗灰褐色土の混土粘性あり。しまりあり。(26号土坑埋没土)
 3. 灰褐色土 粘性強し。しまりあり。全体にザラつきあり。(26号土坑埋没土)
 4. 黒褐色土 粘性あり。しまりあり。直径1mm以下の白色軽石粒含む。(27号土坑埋没土)
 5. 黒褐色土 4層に類するが、しまります。(27号土坑埋没土)

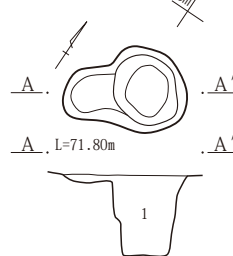


VI区 28号土坑



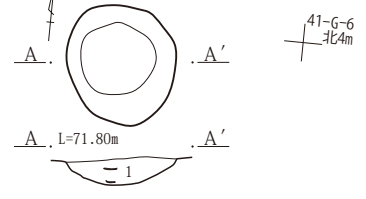
- VI区 28号土坑A-A'
1. 黒褐色土 粘性あり。しまりあり。直径1mm以下の白色軽石粒含む。
 2. 黒褐色土と暗灰褐色土の混土 粘性あり。しまりあり。茶褐色の斑点が見られる。

VI区 31号土坑



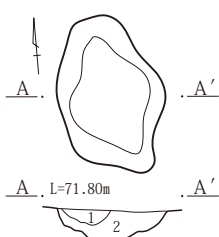
- VI区 31号土坑A-A'
1. 黒褐色土 粘性あり。しまりあり。直径1mm以下の白色軽石粒含む。下層部は水がついている。

VI区 29号土坑



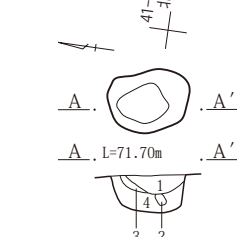
- VI区 29号土坑A-A'
1. 黒褐色土 粘性あり。しまりあり。直径1mm以下の白色軽石粒含む。

VI区 30号土坑

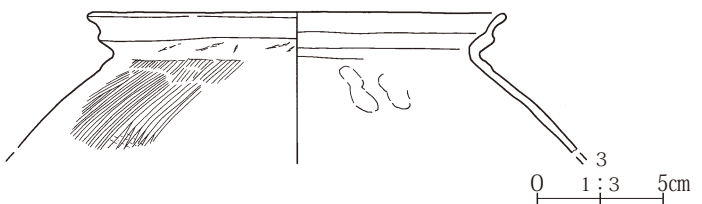


- VI区 30号土坑A-A'
1. 黒褐色土 粘性あり。しまりあり。直径1mm以下の白色軽石粒含む。
 2. 黒褐色土と暗灰褐色土の混土 粘性あり。しまりあり。直径1mm以下の白色軽石粒含む。

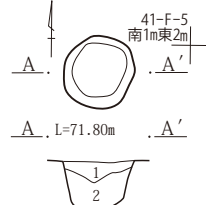
VI区 34号土坑



- VI区 34号土坑A-A'
1. 黒褐色土 粘性ややあり。しまりあり。直径1mm以下の白色軽石粒含む。
 2. 黒褐色土 1層に類するが、粘性・しまります。
 3. 暗褐色土 粘性あり。しまりあり。
 4. 黒褐色土と暗灰褐色土の混土 粘性あり。しまりあり。埋土(黒褐)と地山(暗灰褐)の混土。

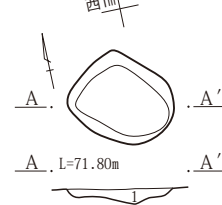


VI区 32号土坑

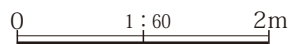


- VI区 32号土坑A-A'
1. 黒褐色土 粘性あり。しまりあり。
 2. 黒褐色土 1層に類するが、しまります。

VI区 33号土坑



- VI区 33号土坑A-A'
1. 黒褐色土と暗灰褐色土の混土 粘性あり。しまりあり。直径5mm以下の茶褐色土粒・直径1mm以下の白色軽石粒含む。



第235図 VI区土坑(1)と出土遺物

を含む黒褐色土で埋まっていた。埋没土中から土師器甕破片1点、S字甕破片5点が出土した。出土遺物から古墳時代前期の土坑と考えられる。

37号土坑は円形の土坑で、4号井戸の北西側で36号土坑と接して検出された。断面形は箱状。上層は白色軽石を含む黒褐色土で、下層はしまりのある褐色土で埋まっていた。遺物は出土しなかった。

38号土坑は北東部が突出した楕円形の土坑で、3号掘立柱建物北西隅のP7の外側に接して検出された。3号掘立柱建物との新旧関係は不明である。北東部の突出は別の遺構が重複している可能性が高いが、調査では確認できなかった。断面形はすり鉢状。上層は白色軽石を含む暗褐色土で、下層は暗褐色土と褐色土の混土で埋まっていた。遺物は出土しなかった。

39号土坑は不整形の土坑で、発掘区西部20号溝の西側で検出された。断面形はすり鉢状。白色軽石を含む黒褐色土と暗灰褐色土の混土で埋まっていた。埋没土中から7世紀後半とみられる土師器環(第236図1)が出土した。土坑の時期は出土遺物から7世紀後半と考えられる。

40号土坑は北西隅が突出した隅丸方形の土坑で、39号土坑の南側で検出された。断面形はボール状。北西部の突出は別の遺構が重複している可能性もあるが、土層断面では明確な新旧関係は認められなかった。上層は白色軽石を含む黒褐色土で、下層は黒褐色土・茶褐色土・小礫等で埋まっていた。遺物は出土しなかった。

41号土坑は東部が突出した不整形の大型土坑で、40号土坑の南側で検出された。113号・114号ピットと重複していたが、新旧関係は不明である。断面形はすり鉢状。底面はピット状に掘り込まれていた。茶褐色土粒・白色軽石を含む黒褐色土で埋まっていた。北部法面で土師器環(第236図2)が完形で出土した。また埋没土中から環破片(3)が出土した。他に埋没土中から土師器環破片17点、甕破片2点、S字甕破片2点が出土した。新しい土器を重視すれば、8世紀代の土坑と考えられる。

42号土坑は不整形隅丸長方形の土坑で、19号溝と重複して検出された。19号溝の方が新しい。断面形は浅いボール状。粘性の強い暗灰褐色土や、暗褐色土と暗灰褐色土の混土で埋まっていた。図示した土師器直口壺(第236図4)は埋没土中から出土した。他に埋没土中から土師器壺5点が出土した。出土土器から古墳時代前期の土坑と

推定される。

43号土坑は丸い楕円形の土坑で、6号井戸の南側で検出された。6号井戸より古い。断面形はすり鉢状である。白色軽石を含む黒褐色土で埋まっていた。埋没土中から土師器環(第237図1・2)、S字甕(3)が出土した。他に埋没土中から土師器壺1点、埴1点、環18点、甕16点、S字甕17点が出土した。環は8世紀のものと考えられることから、本土坑の時期は8世紀である可能性が高い。

44号土坑は円形の土坑で、3号掘立柱建物の内側で検出された。その位置からは掘立柱建物の付属であった可能性もあるが、調査では確認できなかった。断面形はすり鉢状。上層は茶褐色土粒・白色軽石を含む黒褐色土で、下層は黒褐色土と暗灰褐色土の混土で埋まっていた。遺物は出土しなかった。

45号土坑は不整形の土坑で、2号掘立柱建物も南側で52号土坑と並んで検出された。断面形は箱状。上層は白色軽石を含む黒褐色土で、下層は黒褐色土と暗灰褐色土の混土で埋まっていた。埋没土中から土師器高環破片1点が出土した。

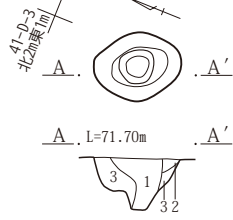
46号土坑は楕円形の土坑で、2号掘立柱建物、22号土坑、175号・176号ピットと重複して検出された。22号土坑の方が新しく、2号掘立柱建物やピットとの新旧関係は不明である。断面形はU字形。白色軽石を含む黒褐色土で埋まっていた。埋没土中から土師器壺破片1点、環破片1点、甕破片4点、S字甕破片16点、小型甕破片1点が出土した。土師器環破片は小片で時期を特定できない。ここでは古代～古墳時代の土坑としておきたい。

47号土坑は隅丸三角形の土坑で、2号掘立柱建物の北辺内側で検出された。掘立柱建物との関係は不明である。断面形はU字形。白色軽石を含む黒褐色土で埋まっていた。遺物は出土しなかった。

48号土坑は不整形楕円形の土坑で、2号掘立柱建物の南東隅外側で検出された。掘立柱建物との関係は不明である。西半の突出部は別のピットの可能性が高い。断面形は皿状。上層は白色軽石を含む黒褐色土で埋まっていた。下層は粘性のある黒褐色土や茶褐色土で埋まっていた。図示した土師器環(第237図4)は埋没土中から出土した。他に埋没土中から土師器環破片1点、甕破片10点、S字甕破片18点が出土した。土師器環は古墳時代後期のものであることから、新しい遺物を重視すれば土坑の時期は

第6章 古代～古墳時代の遺構と遺物

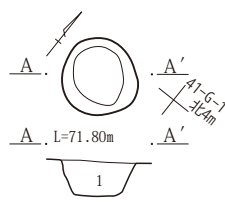
VI区35号土坑



VI区35号土坑A-A'

1. 黒褐色土 粘性あり。しまりあり。直径10cm以下の茶褐色土塊含む。
2. 暗褐色土 粘性あり。しまりあり。
3. 黒褐色土と暗灰褐色土の混土 粘性あり。しまりあり。埋土(黒褐)と地山(暗灰褐)の混土。

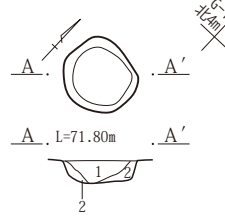
VI区36号土坑



VI区36号土坑A-A'

1. 黒褐色土 粘性あり。しまりあり。直径1mm以下の白色軽石粒含む。

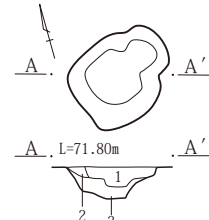
VI区37号土坑



VI区37号土坑A-A'

1. 暗褐色土 粘性あり。しまりあり。直径1mm以下の白色軽石粒含む。
2. 褐色土 粘性あり。しまりあり。

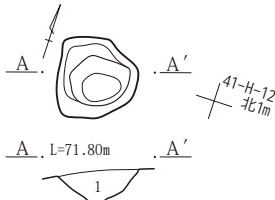
VI区38号土坑



VI区38号土坑A-A'

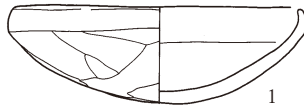
1. 暗褐色土 粘性あり。しまりあり。直径1mm以下の白色軽石粒含む。
2. 暗褐色土 粘性あり。しまりあり。全体にザラつきあり。1mm以下の白色軽石粒含む。1層に比べやや明るい色味。
3. 暗褐色土と褐色土の混土 粘性あり。しまりあり。

VI区39号土坑

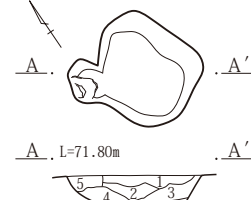


VI区39号土坑A-A'

1. 黒褐色土と暗灰褐色土の混土 粘性あり。しまりあり。上層部では直径1mm以下の白色軽石粒が含まれる。



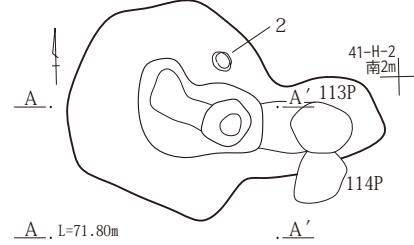
VI区40号土坑



VI区40号土坑A-A'

1. 黒褐色土 粘性あり。しまりあり。直径1mm以下の白色軽石粒含む。
2. 黒褐色土と茶褐色土の混土粘性あり。しまりあり。
3. 茶褐色土 粘性あり。しまりあり。
4. 暗赤褐色礫土 粘性強し。しまり強し。小礫多し。
5. 黒褐色土と茶褐色土の混土粘性ややあり。しまりあり。

VI区41号土坑

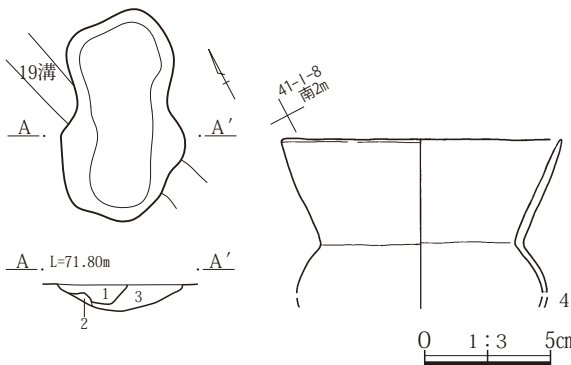


VI区41号土坑A-A'

1. 黒褐色土 粘性強し。しまりあり。直径5mm以下の茶褐色土粒・直径1mm以下の白色軽石粒含む。下層部は水がついている。

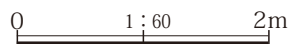


VI区42号土坑

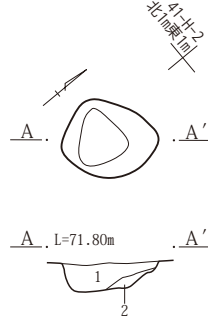


VI区42号土坑A-A'

1. 黒褐色土 (19号溝埋没土)
2. 暗灰褐色土 粘性強し。しまり強し。
3. 暗灰褐色土と暗褐色土の混土 粘性あり。しまりあり。



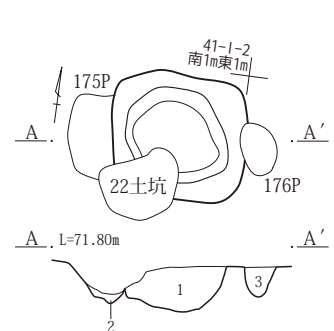
VI区45号土坑



VI区45号土坑A-A'

1. 黒褐色土 粘性あり。しまりあり。直径1mm以下の白色軽石粒含む。
2. 黒褐色土と茶褐色土の混土 粘性あり。しまりあり。地山と埋土の混土。

VI区46号土坑



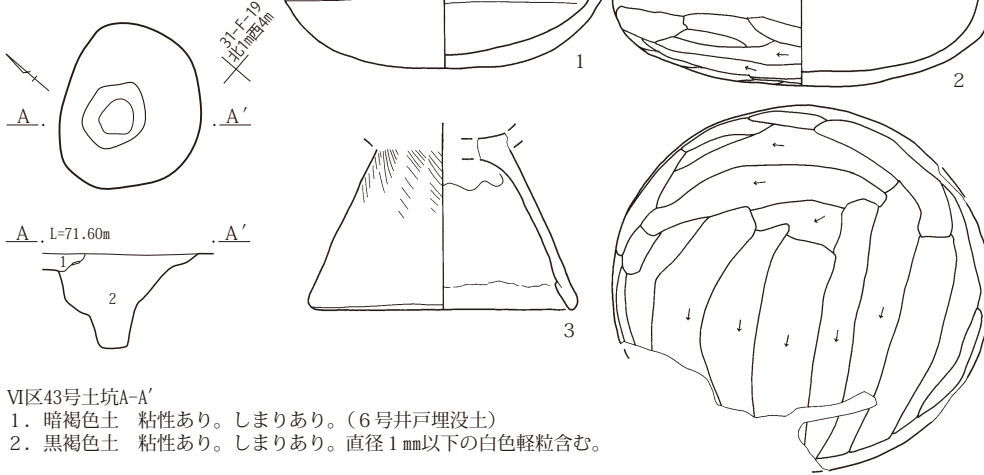
VI区46号土坑A-A'

1. 黒褐色土 粘性あり。しまりあり。直径1mm以下の白色軽石粒含む。(46号土坑埋没土)
2. 黒褐色土と茶褐色土の混土 粘性あり。しまりあり。(2号掘立柱建物P7埋没土)
3. 暗褐色土 粘性あり。しまりあり。(176号ピット埋没土)

第236図 VI区土坑(2)と出土遺物

7. VI区の遺構と遺物

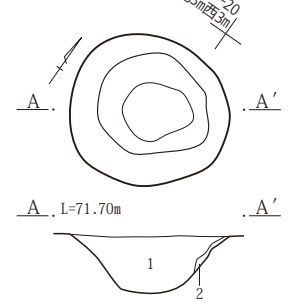
VI区43号土坑



VI区43号土坑A-A'

1. 暗褐色土 粘性あり。しまりあり。(6号井戸埋没土)
2. 黒褐色土 粘性あり。しまりあり。直径1mm以下の白色軽石粒含む。

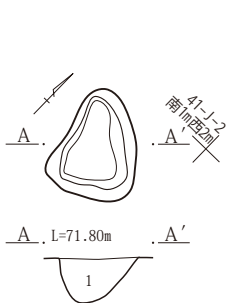
VI区44号土坑



VI区44号土坑A-A'

1. 黒褐色土 粘性あり。しまりあり。直径50mm以下の茶褐色土塊・直径1mm以下の白色軽石粒含む。
2. 茶褐色土と黒褐色土の混土 粘性あり。しまりあり。地山と埋土の混土。

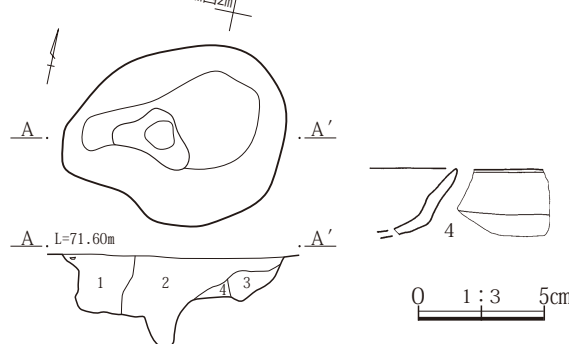
VI区47号土坑



VI区47号土坑A-A'

1. 黒褐色土 粘性あり。しまりあり。直径1mm以下の白色軽石粒含む。

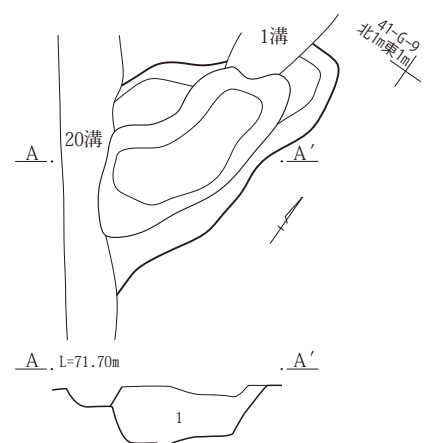
VI区48号土坑



VI区48号土坑A-A'

1. 黒褐色土 粘性ややあり。しまりややあり。直径1mm以下の白色軽石粒含む。
2. 黒褐色土 粘性あり。しまりあり。直径5mm以下の茶褐色土粒・直径1mm以下の白色軽石粒含む。
3. 暗褐色土 粘性あり。しまりあり。
4. 茶褐色土 粘性強し。しまり強し。

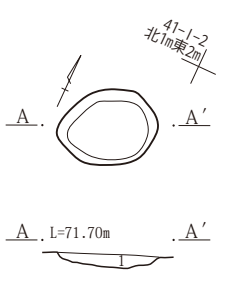
VI区54号土坑



VI区54号土坑A-A'

1. 黒褐色土 粘性強し。しまり強し。直径1mm以下の白色軽石粒含む。

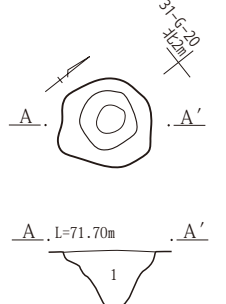
VI区49号土坑



VI区49号土坑A-A'

1. 黒褐色土 粘性あり。しまりあり。直径1mm以下の白色軽石粒含む。

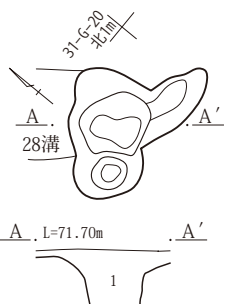
VI区50号土坑



VI区50号土坑A-A'

1. 黒褐色土 粘性あり。しまりあり。直径1mm以下の白色軽石粒含む。

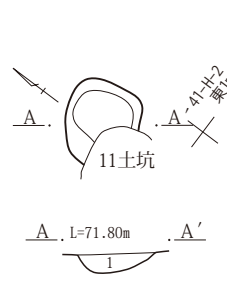
VI区51号土坑



VI区51号土坑A-A'

1. 黒褐色土 粘性あり。しまりあり。直径1mm以下の白色軽石粒含む。

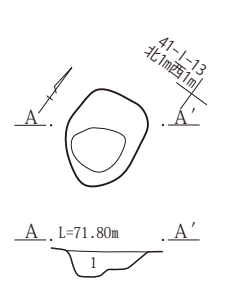
VI区52号土坑



VI区52号土坑A-A'

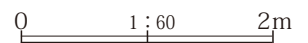
1. 黒褐色土 粘性あり。しまりあり。直径1mm以下の白色軽石粒含む。

VI区53号土坑



VI区53号土坑A-A'

1. 暗褐色土 粘性あり。しまりあり。直径1mm以下の白色軽石粒含む。



第237図 VI区土坑(3)と出土遺物

古墳時代後期の可能性が高い。

49号土坑は楕円形の土坑で、48号土坑の西側で検出された。断面形は皿状。土坑の位置は2号掘立柱建物の内側であるが、建物との関係は不明である。白色軽石を含む黒褐色土で埋まっていた。遺物は出土しなかった。

50号土坑は不整形の土坑で、3号掘立柱建物の東側で検出された。断面形はすり鉢状。白色軽石を含む黒褐色土で埋まっていた。遺物は出土しなかった。

51号土坑は不整形楕円形の土坑で、南西・南東側の突出部は別のピットである可能性が高い。中央の土坑の断面形は筒状。白色軽石を含む黒褐色土で埋まっていた。遺物は出土しなかった。

52号土坑は不整形の土坑で、南西部は11号土坑に切られていた。断面形は皿状。白色軽石を含む黒褐色土で埋まっていた。埋没土中から土師器坏破片1点が出土した。土師器坏はやや厚手で古墳時代後期のものと推定されることから、土坑の時期は古墳時代後期の可能性が高い。

53号土坑は楕円形の土坑で、発掘区西端で検出された。底面には段がある。白色軽石を含む黒褐色土で埋まっていた。遺物は出土しなかった。

54号土坑は不整形楕円形で、1号・20号溝と重複して検出された。1号溝より古い。20号溝との関係は不明である。白色軽石を含む黒褐色土で埋まっていた。遺物は出土しなかった。

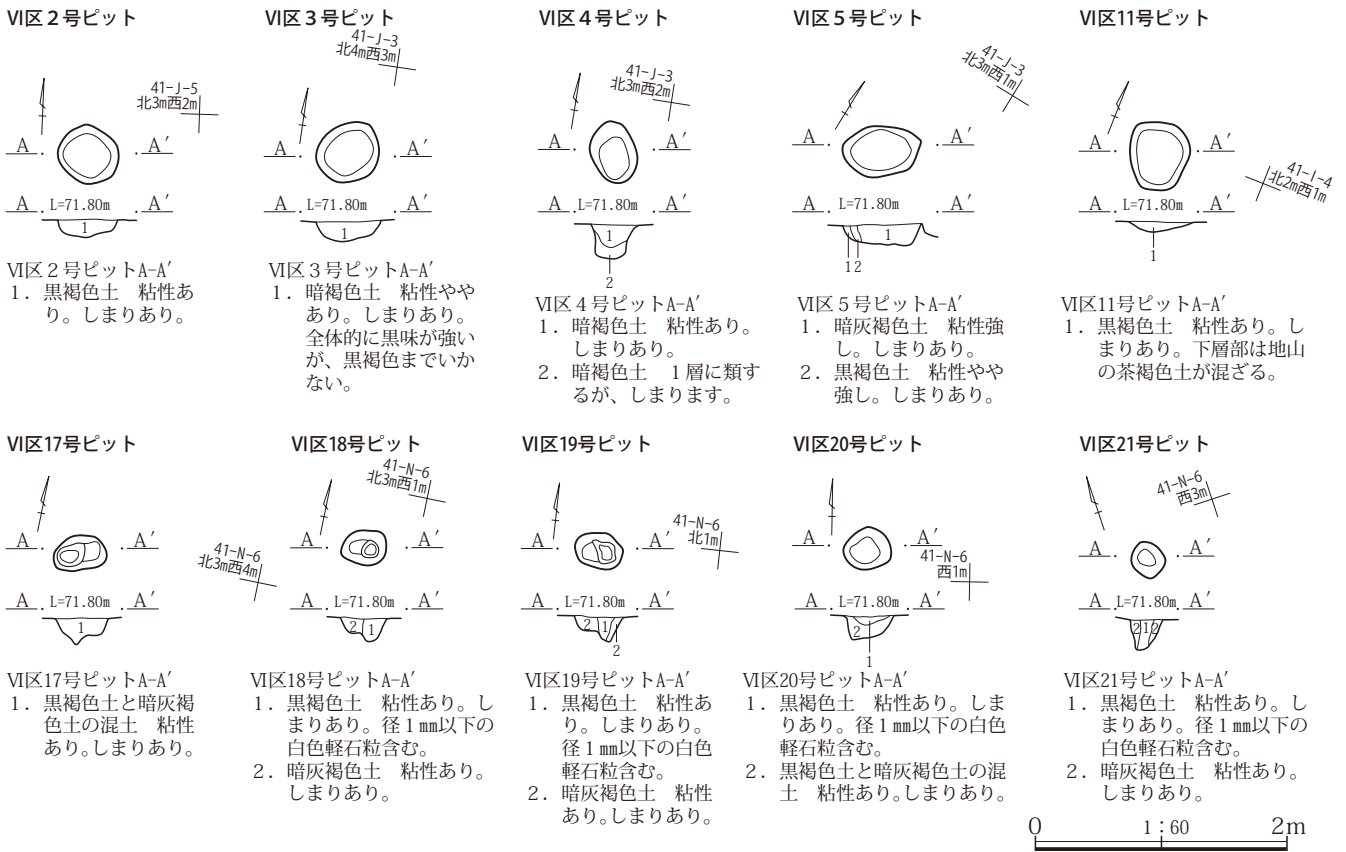
(7) ピット

(第238～243図 PL.182～188・224 遺物観察表P.465)

VI区古代～古墳時代遺構面で検出したピットは全部で176基であった。そのうち54基は、調査時あるいは整理作業時に、竪穴住居・掘立柱建物および柱穴列の柱穴と判断して記録し、報告している。本項で報告するのは、残りの122基の単独のピットについてである。

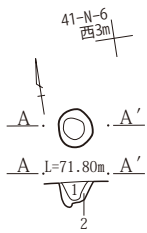
VI区のピットは、屋外周溝の付随する1号竪穴住居がある南北に長い微高地の周囲を取り囲むように掘られていた。その集中の範囲内に掘立柱建物や柱穴列も建てられていた。また、中央の微高地の西側にある浅い谷を隔てた西側の微高地東縁辺に9基のピットが偏在していた。

これらのピットには、浅間C軽石と推定される白色軽石を含む黒褐色土で埋まっているものと、白色軽石の記載がなく黒褐色土と暗灰褐色土の混土で埋まっているも



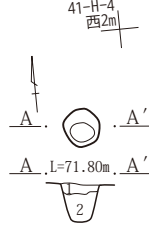
第238図 VI区ピット(1)

VI区22号ピット



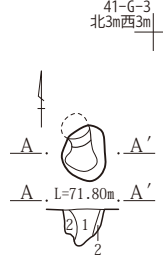
- VI区22号ピットA-A'
1. 黒褐色土 粘性あり。しまりあり。径1mm以下の白色軽石粒含む。
 2. 暗灰褐色土 粘性あり。しまりあり。

VI区23号ピット



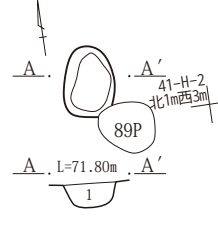
- VI区23号ピットA-A'
1. 黒褐色土 粘性あり。しまりあり。径1mm以下の白色軽石粒含む。
 2. 暗灰褐色土 粘性あり。しまりあり。

VI区24号ピット



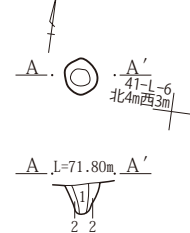
- VI区24号ピットA-A'
1. 黒褐色土 粘性あり。しまりあり。径1mm以下の白色軽石粒含む。
 2. 暗灰褐色土 粘性あり。しまりあり。

VI区25号ピット



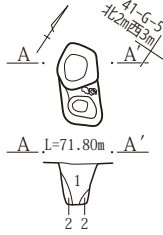
- VI区25号ピットA-A'
1. 黒褐色土 粘性あり。しまりあり。径1mm以下の白色軽石粒含む。

VI区28号ピット



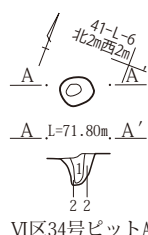
- VI区28号ピットA-A'
1. 黒褐色土 粘性あり。しまりあり。径1mm以下の白色軽石粒含む。
 2. 暗褐色土 粘性あり。しまりあり。

VI区30号ピット



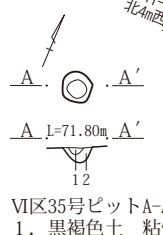
- VI区30号ピットA-A'
1. 黒褐色土 粘性あり。しまりあり。径1mm以下の白色軽石粒含む。
 2. 黒褐色土と暗灰褐色土の混土 粘性あり。しまりあり。

VI区34号ピット



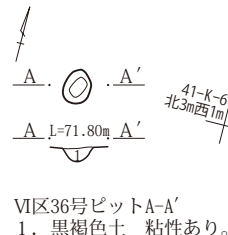
- VI区34号ピットA-A'
1. 黒褐色土 粘性あり。しまりあり。径1mm以下の白色軽石粒含む。
 2. 暗灰褐色土 粘性あり。しまりあり。

VI区35号ピット



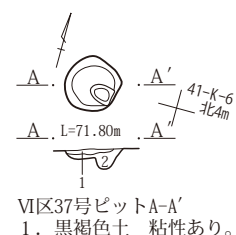
- VI区35号ピットA-A'
1. 黒褐色土 粘性あり。しまりあり。径1mm以下の白色軽石粒含む。
 2. 黒褐色土と暗灰褐色土の混土 粘性あり。しまりあり。

VI区36号ピット



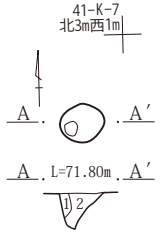
- VI区36号ピットA-A'
1. 黒褐色土 粘性あり。しまりあり。径1mm以下の白色軽石粒含む。

VI区37号ピット

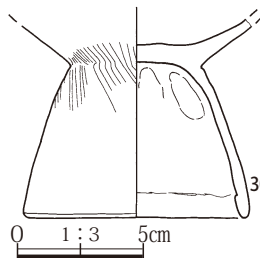


- VI区37号ピットA-A'
1. 黒褐色土 粘性あり。しまりあり。径1mm以下の白色軽石粒含む。
 2. 黒褐色土と暗灰褐色土の混土 粘性あり。しまりあり。

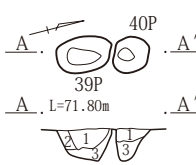
VI区38号ピット



- VI区38号ピットA-A'
1. 暗灰褐色土 粘性あり。しまりあり。
 2. 黒褐色土 粘性あり。しまりあり。径1mm以下の白色軽石粒含む。

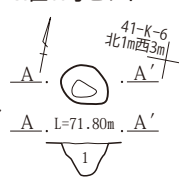


VI区39号・40号ピット



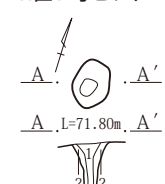
- VI区39号・40号ピットA-A'
1. 黒褐色土 粘性あり。しまりあり。径1mm以下の白色軽石粒含む。
 2. 暗褐色土 粘性あり。しまりあり。
 3. 暗灰褐色土 粘性あり。しまりあり。

VI区41号ピット



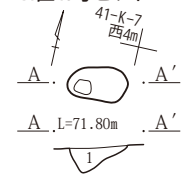
- VI区41号ピットA-A'
1. 黒褐色土と暗灰褐色土の混土 粘性あり。しまりあり。

VI区42号ピット



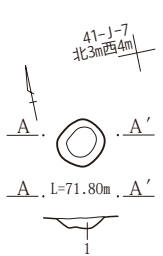
- VI区42号ピットA-A'
1. 黒褐色土 粘性あり。しまりあり。径1mm以下の白色軽石粒含む。
 2. 黒褐色土と暗灰褐色土の混土 粘性あり。しまりあり。

VI区43号ピット



- VI区43号ピットA-A'
1. 黒褐色土 粘性あり。しまりあり。径1mm以下の白色軽石粒含む。

VI区44号ピット



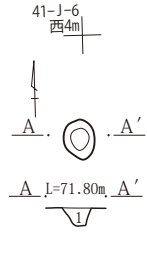
- VI区44号ピットA-A'
1. 黒褐色土と暗灰褐色土の混土 粘性あり。しまりあり。

VI区45号ピット



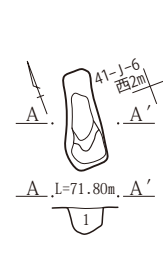
- VI区45号ピットA-A'
1. 暗褐色土 粘性あり。しまりあり。

VI区46号ピット



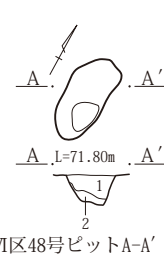
- VI区46号ピットA-A'
1. 黒褐色土 粘性あり。しまりあり。径1mm以下の白色軽石粒含む。

VI区47号ピット

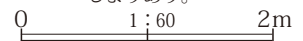


- VI区47号ピットA-A'
1. 黒褐色土 粘性あり。しまりあり。径1mm以下の白色軽石粒含む。

VI区48号ピット



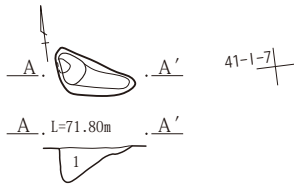
- VI区48号ピットA-A'
1. 黒褐色土 粘性あり。しまりあり。径1mm以下の白色軽石粒含む。
 2. 暗灰褐色土 粘性あり。しまりあり。



第239図 VI区ピット(2)と出土遺物

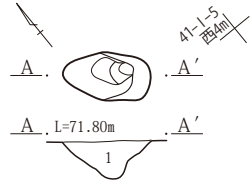
第6章 古代～古墳時代の遺構と遺物

VI区49号ピット



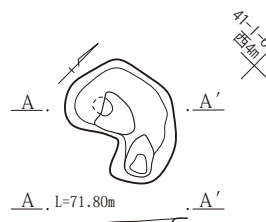
VI区49号ピットA-A'
1. 黒褐色土 粘性あり。しまりあり。径1mm以下の白色軽石粒含む。

VI区50号ピット



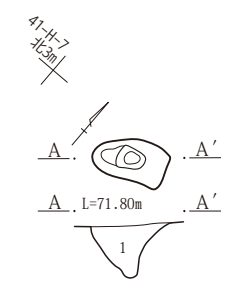
VI区50号ピットA-A'
1. 黒褐色土 粘性あり。しまりあり。径1mm以下の白色軽石粒含む。

VI区51号ピット



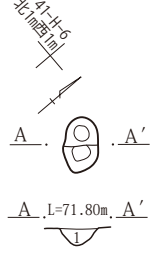
VI区51号ピットA-A'
1. 黒褐色土 粘性あり。しまりあり。径1mm以下の白色軽石粒含む。

VI区52号ピット



VI区52号ピットA-A'
1. 黒褐色土 粘性あり。しまりあり。径1mm以下の白色軽石粒含む。

VI区53号ピット



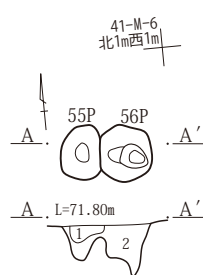
VI区53号ピットA-A'
1. 黒褐色土 粘性あり。しまりあり。径1mm以下の白色軽石粒含む。

VI区54号ピット



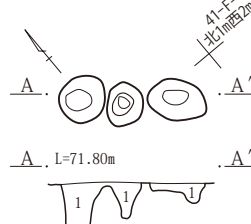
VI区54号ピットA-A'
1. 黒褐色土と暗灰褐色土の混土 粘性あり。しまりあり。

VI区55号・56号ピット



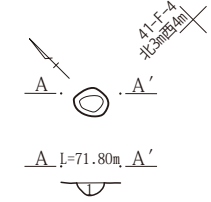
VI区55号・56号ピットA-A'
1. 黒褐色土 粘性あり。しまりあり。径1mm以下の白色軽石粒含む。
2. 暗灰褐色土 粘性あり。しまりあり。

VI区64号ピット



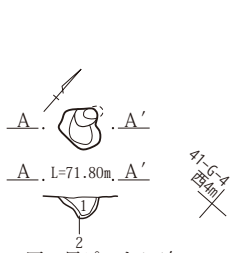
VI区64号ピットA-A'
1. 黒褐色土と暗灰褐色土の混土 粘性あり。しまりあり。

VI区65号ピット



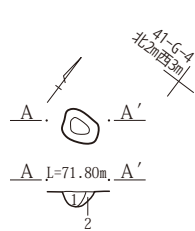
VI区65号ピットA-A'
1. 黒褐色土と暗灰褐色土の混土 粘性あり。しまりあり。

VI区66号ピット



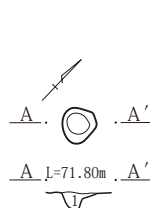
VI区66号ピットA-A'
1. 黒褐色土 粘性あり。しまりあり。径1mm以下の白色軽石粒含む。
2. 暗灰褐色土 粘性あり。しまりあり。

VI区67号ピット



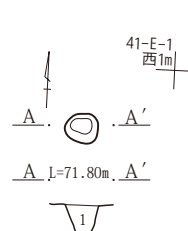
VI区67号ピットA-A'
1. 黒褐色土 粘性あり。しまりあり。径1mm以下の白色軽石粒含む。
2. 黒褐色土と暗灰褐色土の混土 粘性あり。しまりあり。

VI区69号ピット



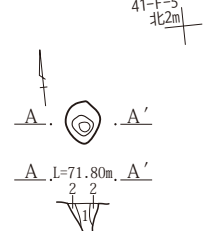
VI区69号ピットA-A'
1. 黒褐色土 粘性あり。しまりあり。径1mm以下の白色軽石粒含む。

VI区70号ピット



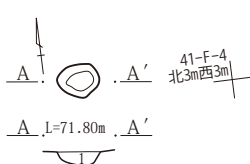
VI区70号ピットA-A'
1. 黒褐色土 粘性あり。しまりあり。径1mm以下の白色軽石粒含む。

VI区71号ピット



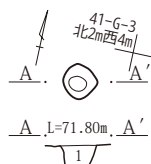
VI区71号ピットA-A'
1. 黒褐色土 粘性あり。しまりあり。径1mm以下の白色軽石粒含む。
2. 暗灰褐色土 粘性あり。しまりあり。

VI区72号ピット



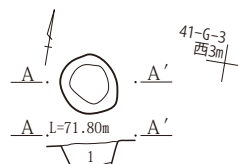
VI区72号ピットA-A'
1. 黒褐色土と暗灰褐色土の混土 粘性あり。しまりあり。

VI区73号ピット



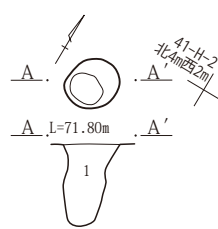
VI区73号ピットA-A'
1. 黒褐色土と暗灰褐色土の混土 粘性あり。しまりあり。

VI区74号ピット



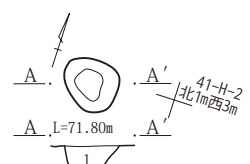
VI区74号ピットA-A'
1. 黒褐色土 粘性あり。しまりあり。径1mm以下の白色軽石粒含む。
2. 暗灰褐色土 粘性あり。しまりあり。

VI区86号ピット

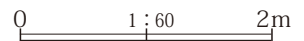


VI区86号ピットA-A'
1. 黒褐色土と暗灰褐色土の混土 粘性あり。しまりあり。

VI区89号ピット



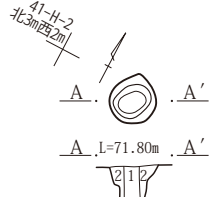
VI区89号ピットA-A'
1. 黒褐色土と暗灰褐色土の混土 粘性あり。しまりあり。



第240図 VI区ピット(3)

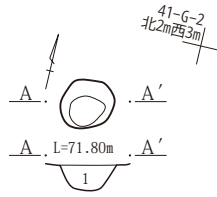
7. VI区の遺構と遺物

VI区90号ピット



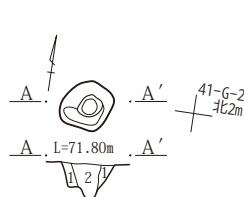
- VI区90号ピットA-A'
1. 黒褐色土 粘性あり。しまりあり。径1mm以下の白色軽石粒含む。
 2. 暗灰褐色土 粘性あり。しまりあり。

VI区91号ピット



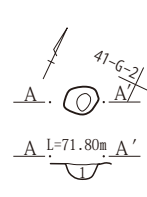
- VI区91号ピットA-A'
1. 黒褐色土と暗灰褐色土の混土 粘性あり。しまりあり。

VI区92号ピット



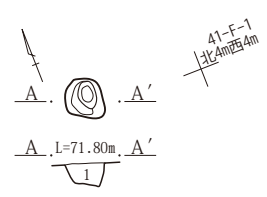
- VI区92号ピットA-A'
1. 暗灰褐色土 粘性あり。しまりあり。
 2. 黒褐色土 粘性あり。しまりあり。径1mm以下の白色軽石粒含む。

VI区93号ピット



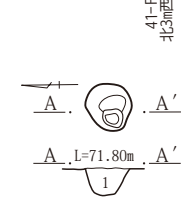
- VI区93号ピットA-A'
1. 黒褐色土 粘性あり。しまりあり。径1mm以下の白色軽石粒含む。

VI区94号ピット



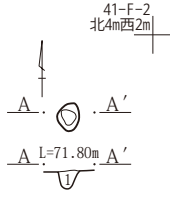
- VI区94号ピットA-A'
1. 黒褐色土と暗灰褐色土の混土 粘性あり。しまりあり。

VI区95号ピット



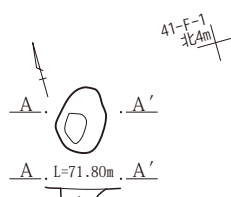
- VI区95号ピットA-A'
1. 黒褐色土と暗灰褐色土の混土 粘性あり。しまりあり。

VI区96号ピット



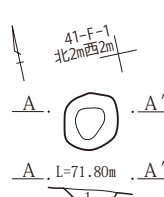
- VI区96号ピットA-A'
1. 黒褐色土 粘性あり。しまりあり。径1mm以下の白色軽石粒含む。

VI区98号ピット



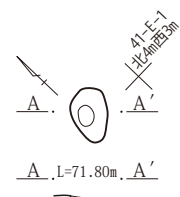
- VI区98号ピットA-A'
1. 黒褐色土 粘性あり。しまりあり。径1mm以下の白色軽石粒含む。

VI区100号ピット



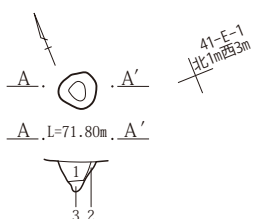
- VI区100号ピットA-A'
1. 黒褐色土 粘性あり。しまりあり。径1mm以下の白色軽石粒含む。

VI区101号ピット



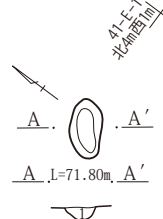
- VI区101号ピットA-A'
1. 黒褐色土 粘性あり。しまりあり。径1mm以下の白色軽石粒含む。

VI区102号ピット



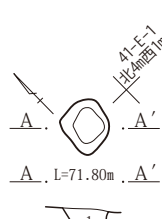
- VI区102号ピットA-A'
1. 黒褐色土 粘性あり。しまりあり。径1mm以下の白色軽石粒含む。
 2. 黒褐色土と暗灰褐色土の混土 粘性あり。しまりあり。
 3. 暗灰褐色土 粘性あり。しまりあり。

VI区103号ピット



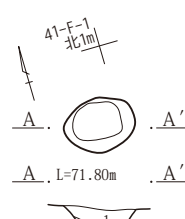
- VI区103号ピットA-A'
1. 黒褐色土 粘性あり。しまりあり。径1mm以下の白色軽石粒含む。

VI区104号ピット



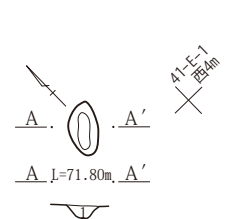
- VI区104号ピットA-A'
1. 黒褐色土 粘性あり。しまりあり。径1mm以下の白色軽石粒含む。

VI区105号ピット



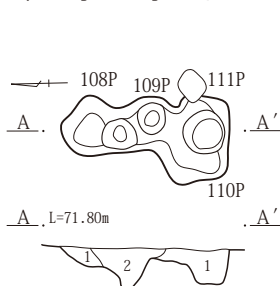
- VI区105号ピットA-A'
1. 黒褐色土 粘性あり。しまりあり。径1mm以下の白色軽石粒含む。
 2. 暗灰褐色土 粘性あり。しまりあり。

VI区107号ピット



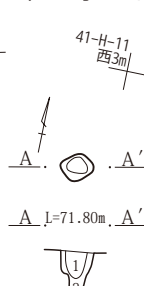
- VI区107号ピットA-A'
1. 黒褐色土 粘性あり。しまりあり。径1mm以下の白色軽石粒含む。

VI区108号～110号ピット



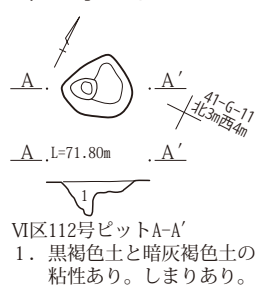
- VI区108号～110号ピットA-A'
1. 黒褐色土 粘性あり。しまりあり。径1mm以下の白色軽石粒含む。
 2. 黒褐色土と暗灰褐色土の混土 粘性あり。しまりあり。

VI区111号ピット



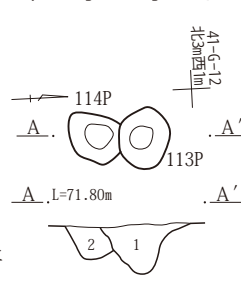
- VI区111号ピットA-A'
1. 黒褐色土と暗灰褐色土の混土 粘性あり。しまりあり。
 2. 暗灰褐色土 粘性あり。しまりあり。

VI区112号ピット



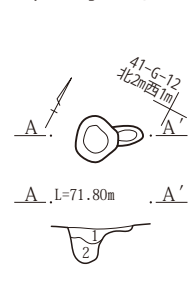
- VI区112号ピットA-A'
1. 黒褐色土と暗灰褐色土の混土 粘性あり。しまりあり。

VI区113号・114号ピット

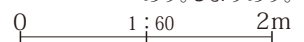


- VI区113号・114号ピットA-A'
1. 黒褐色土 粘性あり。しまりあり。径1mm以下の白色軽石粒含む。
 2. 暗褐色土 粘性あり。しまりあり。

VI区117号ピット



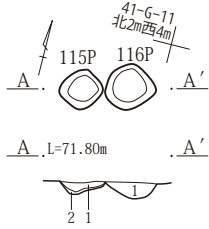
- VI区117号ピットA-A'
1. 黒褐色土 粘性あり。しまりあり。径1mm以下の白色軽石粒含む。
 2. 暗灰褐色土 粘性あり。しまりあり。



第241図 VI区ピット(4)

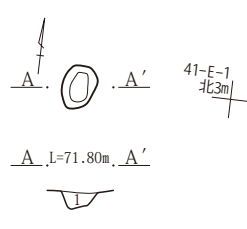
第6章 古代～古墳時代の遺構と遺物

VI区115号・116号ピット



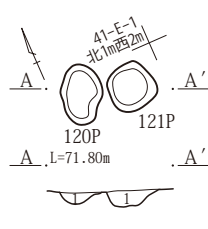
- VI区115号・116号ピットA-A'
1. 黒褐色土 粘性あり。しまりあり。径1mm以下の白色軽石粒含む。
 2. 黒褐色土と暗灰褐色土の混土 粘性あり。しまりあり。

VI区119号ピット



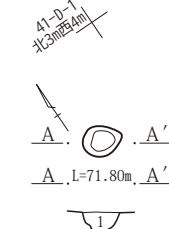
- VI区119号ピットA-A'
1. 黒褐色土 粘性あり。しまりあり。径1mm以下の白色軽石粒含む。

VI区120号・121号ピット



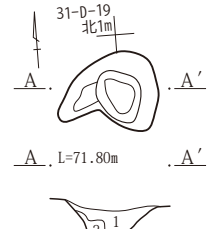
- VI区120号・121号ピットA-A'
1. 黒褐色土 粘性あり。しまりあり。径1mm以下の白色軽石粒含む。

VI区122号ピット



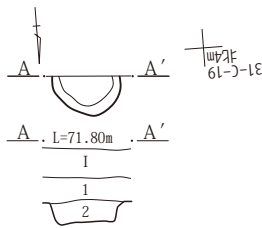
- VI区122号ピットA-A'
1. 黒褐色土 粘性あり。しまりあり。径1mm以下の白色軽石粒含む。

VI区123号ピット



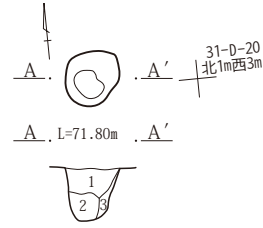
- VI区123号ピットA-A'
1. 黒褐色土 粘性あり。しまりあり。径1mm以下の白色軽石粒含む。
 2. 暗灰褐色土 粘性あり。しまりあり。

VI区124号ピット



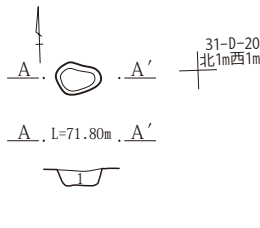
- VI区124号ピットA-A'
1. 表土
 1. 黒褐色土 B水田床土。
 2. 黒褐色土 粘性あり。しまりあり。径1mm以下の白色軽石粒含む。

VI区125号ピット



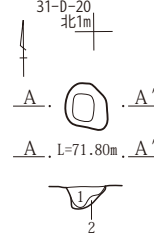
- VI区125号ピットA-A'
1. 黒褐色土 粘性あり。しまりあり。径1mm以下の白色軽石粒含む。
 2. 暗灰褐色土 粘性あり。しまりあり。
 3. 黒褐色土と暗灰褐色土の混土 粘性あり。しまりあり。

VI区126号ピット



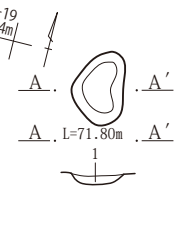
- VI区126号ピットA-A'
1. 黒褐色土と暗灰褐色土の混土 粘性あり。しまりあり。

VI区127号ピット



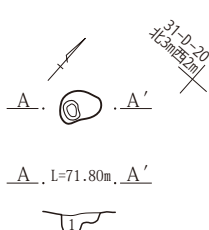
- VI区127号ピットA-A'
1. 黒褐色土 粘性あり。しまりあり。径1mm以下の白色軽石粒含む。
 2. 暗灰褐色土 粘性あり。しまりあり。

VI区128号ピット



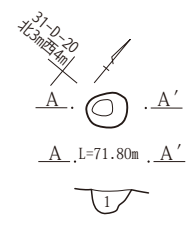
- VI区128号ピットA-A'
1. 黒褐色土と暗灰褐色土の混土 粘性あり。しまりあり。

VI区129号ピット



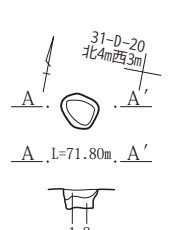
- VI区129号ピットA-A'
1. 黒褐色土と暗灰褐色土の混土 粘性あり。しまりあり。

VI区130号ピット



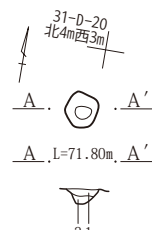
- VI区130号ピットA-A'
1. 黒褐色土 粘性あり。しまりあり。径1mm以下の白色軽石粒含む。

VI区131号ピット



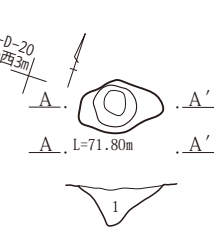
- VI区131号ピットA-A'
1. 黒褐色土 粘性あり。しまりあり。径1mm以下の白色軽石粒含む。
 2. 暗灰褐色土 粘性あり。しまりあり。

VI区132号ピット



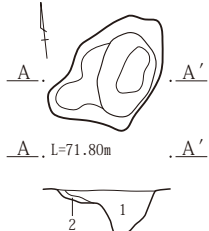
- VI区132号ピットA-A'
1. 黒褐色土 粘性あり。しまりあり。径1mm以下の白色軽石粒含む。
 2. 暗灰褐色土 粘性あり。しまりあり。

VI区133号ピット



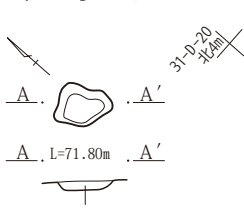
- VI区133号ピットA-A'
1. 黒褐色土 粘性あり。しまりあり。径1mm以下の白色軽石粒含む。

VI区134号ピット



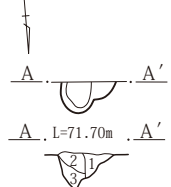
- VI区134号ピットA-A'
1. 黒褐色土 粘性あり。しまりあり。径1mm以下の白色軽石粒含む。
 2. 暗灰褐色土 粘性あり。しまりあり。

VI区135号ピット



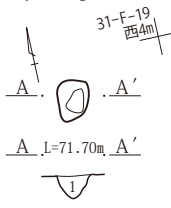
- VI区135号ピットA-A'
1. 黒褐色土と暗灰褐色土の混土 粘性あり。しまりあり。

VI区137号ピット



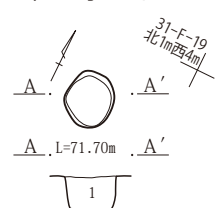
- VI区137号ピットA-A'
1. 黒褐色土 粘性あり。しまりあり。径1mm以下の白色軽石粒含む。
 2. 黒褐色土と暗灰褐色土の混土 粘性あり。しまりあり。
 3. 暗灰褐色土 粘性あり。しまりあり。

VI区138号ピット



- VI区138号ピットA-A'
1. 黒褐色土 粘性あり。しまりあり。径1mm以下の白色軽石粒含む。

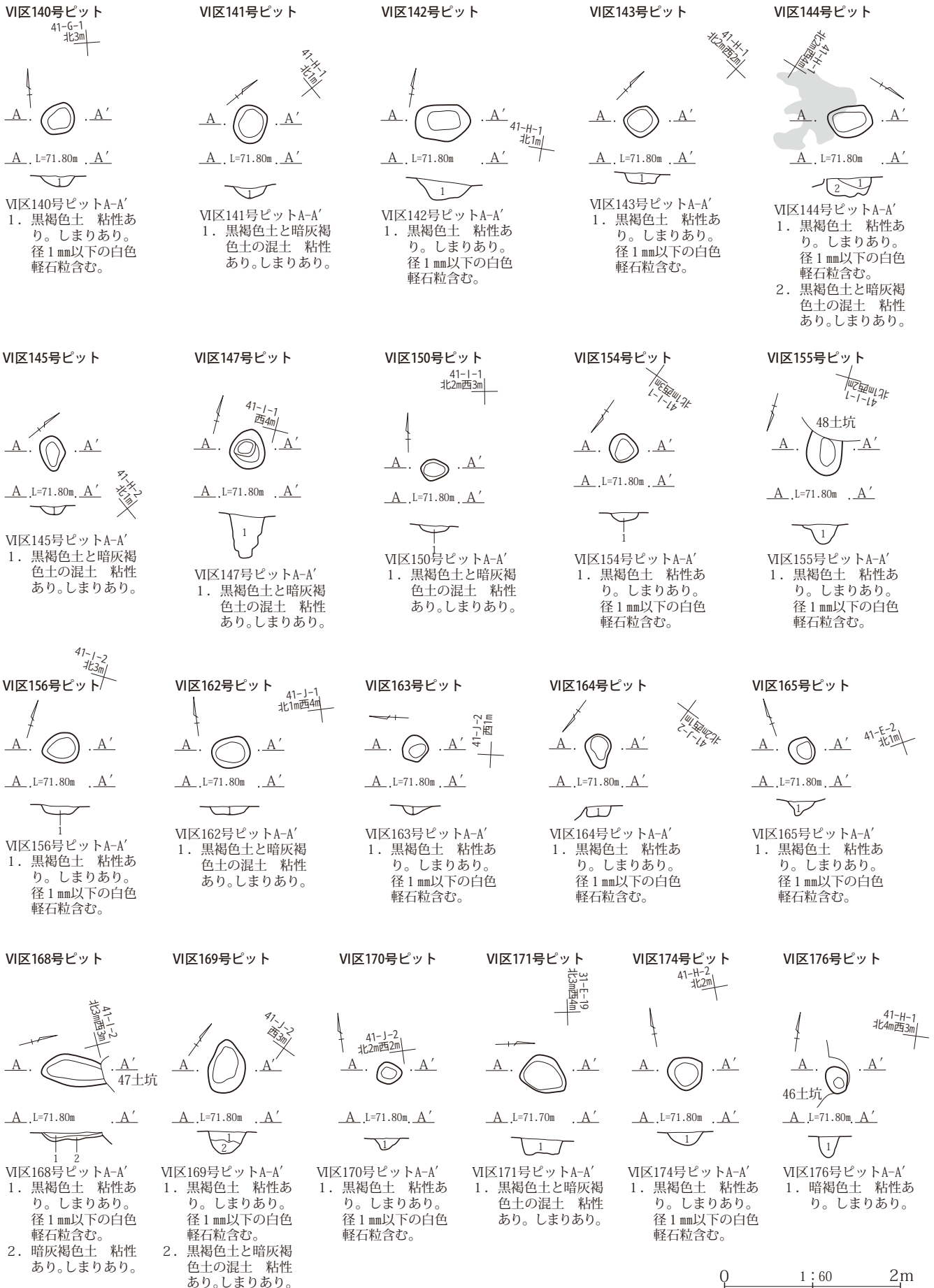
VI区139号ピット



- VI区139号ピットA-A'
1. 黒褐色土 粘性あり。しまりあり。径1mm以下の白色軽石粒含む。



第242図 VI区ピット(5)



第243図 VI区ピット(6)

0 1:60 2m

の2種類がある。ピットからの出土遺物はすべて古墳時代前期の土器の破片であった。これのみでピットの時期をすべて古墳時代前期とすることはできない。土坑には古墳時代末から奈良時代の土器を出土するものがあったことから、ピットのなかにも遺物こそ出土しなかったが、古墳時代末から奈良時代の遺構が含まれている可能性は残されている。

それぞれのピットの位置や規模は、P.439～441の表にまとめた。

30号ピットの埋没土中から、土師器S字甕破片2点が出土した。そのうち1点を図示した(第239図1)

49号ピットの埋没土中から、土師器小型S字甕破片1点が出土した。

54号ピットの埋没土中から、土師器甕破片1点が出土した。

68号ピットの埋没土中から、土師器甕破片1点が出土した。

74号ピットの埋没土中から、鍋破片1点、土師器壺破片1点、甕破片1点、S字甕破片4点が出土した。鍋破片は混入である。

90号ピットの埋没土中から、土師器壺破片1点、高坏破片1点が出土した。

133号ピットの埋没土中から、土師器坏破片1点、甕破片2点、S字甕破片1点が出土した。

134号ピットの埋没土中から、土師器S字甕破片2点が出土した。

139号ピットの埋没土中から、土師器S字甕破片16点が出土した。

142号ピットの埋没土中から、土師器S字甕破片3点が出土した。

144号ピットの埋没土中から、土師器甕破片1点が出土した。

154号ピットの埋没土中から、土師器甕破片1点が出土した。

174号ピットの埋没土中から、土師器壺破片3点が出土した。

その他のピットからは遺物は出土しなかった。以上のように、いくつかのピットからは土器が埋没土中から出土しており、ピットの時期は133号ピットを除き古墳時代前期と考えておきたい。

(8) 溝

VI区古代～古墳時代遺構面では、16条の溝が検出された。溝の位置や規模はP.444の表にまとめた。以下各溝の調査所見を記載する。

なお、溝の平面図は個別図を作成せず、1/300の各区全体図でこれに変えた。埋没土層断面図は個々に掲載した。

VI区14号溝

(第244・263図 PL.189・224 遺物観察表P.465)

14号溝は、VI区中央やや西側で検出された南北方向の溝である。前述した屋外周溝をもつ竪穴住居が立地する細長い微高地の西縁の一部にあたる。南北両端とも浅くなり確認できなくなる。土器が多量に出土した。

走向はN-8°-W、上幅は0.49～0.70m、深さは0.07m、調査長3.86mである。断面形は皿状で、底面には凹凸があった。底面の標高は南北端とも同じで、中央部がやや低い。溝内は黒褐色土と暗灰褐色土の混土で埋まっていた。北半部に土器が集中して出土した。土師器壺(第244図2)、S字甕(3～6)が底面直上で出土した。また埋没土中から土師器鉢(1)が出土した。他に埋没土中から土師器壺破片11点、高坏破片1点、S字甕破片122点、台付甕破片1点が出土した。

出土遺物や遺構確認面から、古墳時代前期の溝と考えられる。砂礫等の堆積はないので、集落内の区画溝であろう。

VI区15号溝 (第244・263図 PL.189 遺物観察表P.465)

15号溝は、VI区中央やや西側、14号溝の南側で検出された南北方向の溝である。前述した屋外周溝をもつ竪穴住居が立地する細長い微高地の西縁の一部にあたる。南北両端は土坑状に立ち上がる。埋没土中から土器が出土した。

走向はN-18°-E、上幅は0.65～0.83m、深さは0.31m、調査長2.04mである。断面形は箱形で、底面はほぼ平坦である。底面の標高は南端が北端より0.05m高かった。溝内は浅間C軽石を含む黒褐色土、黒褐色土と暗灰褐色土の混土で埋まっていた。埋没土中から土師器S字甕(第244図7)が出土した。他に土師器壺破片18点、S字甕破片151点が出土した。

出土遺物や遺構確認面から、古墳時代前期の遺構と考

えらえる。溝として記録したが、長楕円形の土坑と考えられることも可能であろう。

VI区16号溝

(第244・263図 PL.189・190・224 遺物観察表P.465)

16号溝は、VI区中央やや西側で、15号溝の西側で検出された南北方向の溝である。前述した屋外周溝をもつ竪穴住居が立地する細長い微高地の西縁の一部にあたる。南北両端とも浅くなり確認できなくなる。

走向はN-10°-E、上幅は0.30~0.56m、深さは0.21m、調査長5.86mである。断面形はU字形で、底面にはやや凹凸があった。底面の標高は北端が南端より0.01m高かった。溝内は浅間C軽石を含む黒褐色土で埋まっていた。遺物は土器が多量に出土した。埋没土中から土師器壺類(第244図14)、高坏(9・10)、器台(8)、壺(12)、S字甕(11・13)が出土した。他に土師器壺破片45点、埴破片5点、高坏破片14点、坏破片6点、甕破片3点、S字甕破片226点が出土した。

出土遺物や遺構確認面から、古墳時代前期の溝と考えられる。砂礫等の堆積はないので、集落内の区画溝であろう。南側の21号溝につながり、弧状に微高地を区画していると推定される。

VI区17号溝 (第244・263図 PL.190・191)

17号溝は、VI区中央やや南西側で検出された溝である。前述した屋外周溝をもつ竪穴住居が立地する細長い微高地の南西縁の一部にあたる。両端とも浅くなり確認できなくなる。

走向はN-31°-W、上幅は0.36~0.96m、深さは0.09m、調査長8.91mである。断面形は浅いU字形で、底面には凹凸が著しかった。底面の標高は南東端が北西端より0.03m高かった。溝内は浅間C軽石を含む黒褐色土で埋まっていた。遺物は出土しなかった。

埋没土や遺構確認面から、古墳時代前期の溝と考えられる。砂礫等の堆積はないので、集落内の区画溝であろう。

VI区18号溝 (第245・246・263図 PL.191・224 遺物観察表P.452・465・466)

18号溝は、VI区南部で検出された溝である。前述した屋外周溝をもつ竪穴住居が立地する細長い微高地の南西

縁の一部にあたる。溝としては不定形で、北東部には帯状に深い部分や突出部があるが、土層観察の結果では新旧関係のある別遺構とはいえなかった。両端とも直に立ち上がる。土器が多量に出土した。

走向はN-45°-W、上幅は0.88~1.88m、深さは0.37m、調査長7.62mである。断面形は浅い箱形で、底面にはやや凹凸があった。底面の標高は南東端が北西端より0.05m高かった。溝内は茶褐色土粒を含む黒褐色土で埋まっていた。埋没土中から土師器小型丸底壺(第245図1)、直口壺(5)、高坏(3)、甕(9)、壺(6~8・10)、S字甕(第245図11~15、第246図16~20)、変質デイサイト敲石(第246図21)が出土した。他に土師器壺破片167点、埴破片10点、高坏破片32点、小型S字甕破片58点、S字甕破片911点、小型甕破片2点が出土した。

出土遺物や遺構確認面から、古墳時代前期の溝と考えられる。砂礫等の堆積はないので、集落内の区画溝であろう。本溝は柱筋に平行な走向で1号柱穴列の南西脇にある。何らかの関連のある溝とも考えられる。

VI区19号溝 (第246・263図 PL.192)

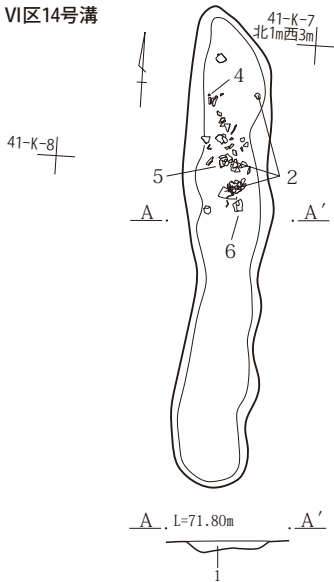
19号溝は、VI区南西部で検出された溝である。前述した屋外周溝をもつ竪穴住居が立地する細長い微高地の南西側にほぼ直線的に掘られていた。北端は27号溝と重複しているが、新旧関係は不明である。南端は発掘区域外となる。また25号・26号溝と重複しているが、新旧関係は不明である。42号土坑と重複しているが、19号溝が新しい。

走向はN-21°-W、上幅は0.26~0.52m、深さは0.19m、調査長37.20mである。断面形は浅いU字形で、底面は平坦である。底面の標高は北西端が南東端より0.16m高かった。溝内は白色軽石を含む暗灰褐色土で埋まっていた。遺物は出土しなかった。

埋没土や遺構確認面から、古墳時代前期の溝と考えられる。砂礫等の埋没はないので、集落内の区画溝であろう。屋外周溝のある竪穴住居が選地していた微高地の西側には緩やかな谷地形が形成されていた。本溝はその谷の東縁辺に掘られている。底面の高低差からすれば水路の可能性もある。

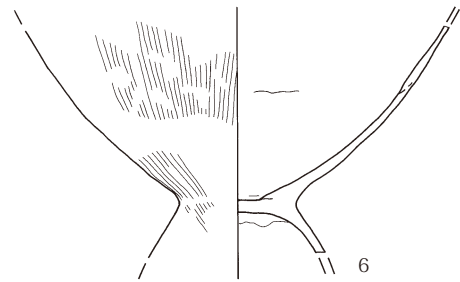
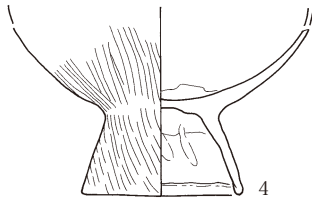
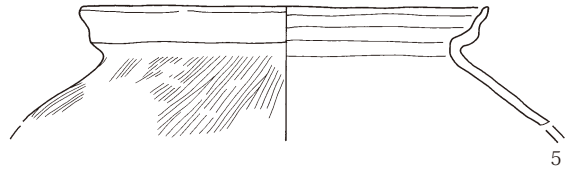
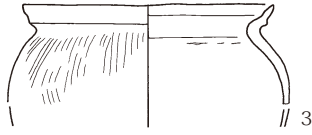
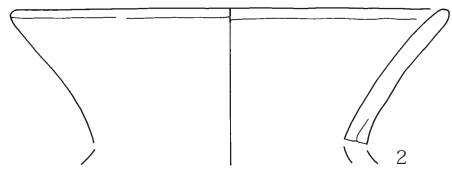
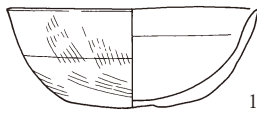
第6章 古代～古墳時代の遺構と遺物

VI区14号溝



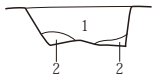
Ⅷ区14号溝A-A'

1. 黄灰色砂 シルト分多い。黄褐色シルトの小塊をわずかに含む。



VI区15号溝

A L=71.80m A'



VI区15号溝A-A'

1. 黒褐色土 粘性あり。しまりあり。直径2mm以下の白色軽石粒を含む。As-C混土か。
2. 黒褐色土と暗灰褐色土の混土 粘性あり。しまりあり。埋没土と地山の混土。

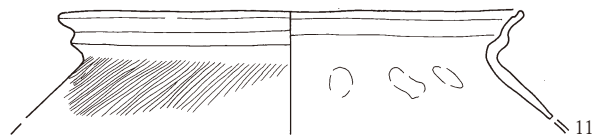
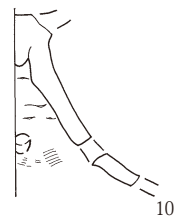
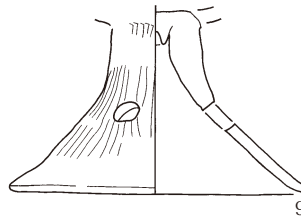
VI区16号溝

A L=71.80m A'



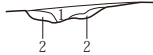
VI区16号溝A-A'

1. 黒褐色土 粘性強し。しまりあり。直径2mm以下の白色軽石粒を含む。As-C混土か。



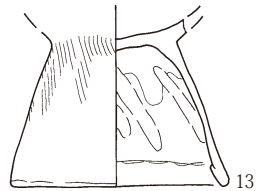
VI区17号溝

A L=71.80m A'



VI区17号溝A-A'

1. 黒褐色土 粘性ややあり。しまりあり。直径1mm以下の白色軽石粒含む。
2. 暗褐色土 粘性強し。しまりあり。



0 1:60 2m

0 1:3 5cm

第244図 VI区溝と出土遺物(1)

VI区20号溝

(第246・263図 PL.192・194 遺物観察表P.466)

20号溝は、VI区西部で検出された溝である。前述した屋外周溝をもつ竪穴住居が立地する細長い微高地の南西側にほぼ直線的に掘られていた。北端・南端ともに発掘区域外となる。27号溝と重複しているが、20号溝が新しい。また、22号溝とVI区南部で合流しているが新旧関係は不明である。

走向はN-34°-W、上幅は0.28～0.61m、深さは0.17m、調査長52.80mである。断面形は浅いU字形で、底面は平坦である。底面の標高は北西端が南東端より0.19m高かった。溝内は白色軽石を含む暗灰褐色土で埋まっていた。埋没土中から土師器壺(第246図23・24)、小型甕(22)が出土した。

出土遺物や埋没土、遺構確認面から、古墳時代前期の溝と考えられる。砂礫等の堆積はないので、集落内の区画溝であろう。屋外周溝のある竪穴住居が選地していた微高地の西側には緩やかな谷地形が形成されていた。本溝はその谷の中央の最低位に掘られている。底面の高低差からすれば排水路の可能性もある。

VI区21号溝 (第247・248・263図 PL.192・224・225 遺物観察表P.466)

21号溝は、VI区中央やや南西側で、16号溝の南側で検出された弧状に湾曲する南北方向の溝である。前述した屋外周溝をもつ竪穴住居が立地する細長い微高地の西縁の一部にあたる。南北両端とも浅くなり確認できなくなる。25号溝と重複するが、21号溝が古い。

走向は中央部でN-33°-W、上幅は0.39～1.08m、深さは0.49m、調査長17.68mである。断面形は箱形で、底面は平坦であった。底面の標高は北端が南西端より0.13m高かった。溝内は浅間C軽石を含む黒褐色土で埋まっていた。遺物は土器が多量に出土した。埋没土中から土師器鉢(第247図4)、器台(1)、高坏?(2)、小型甕(3)、直口壺(10)、壺(5～9)、大型の直口壺(11)、甕(第248図12～14)、S字甕(15～21)が出土した。他に土師器小型壺37点、壺破片150点、坩破片5点、高坏破片23点、器台破片4点、椀破片2点、坏破片3点、鉢破片3点、甕破片78、S字甕破片1271点が出土した。

出土遺物や遺構確認面から、古墳時代前期の溝と考え

られる。砂礫等の堆積はないので、集落内の区画溝であろう。北側の16号溝につながり、弧状に微高地の西縁を区画していると推定される。

VI区22号溝 (第246・263図 PL.193)

22号溝は、VI区南西隅で検出された東西方向の溝である。西端は浅くなり確認できなくなる。東端は20号溝に合流しているが、新旧関係は不明である。

走向はN-83°-W、上幅は0.22～0.44m、深さは0.17m、調査長17.64mである。断面形は皿状で、底面は平坦であった。底面の標高は西端が東端より0.06m高かった。溝内は浅間C軽石を含む黒褐色土で埋まっていた。遺物は出土しなかった。

埋没土中や遺構確認面から、古墳時代前期の溝と考えられる。砂礫等の堆積はないので、集落内の区画溝であろう。

VI区23号溝 (第246・263図 PL.193)

23号溝は、VI区南西隅で検出された。北東端・南東端はピット状の底面のみが検出された。中央部で途切れている。別の溝である可能性もあるが、詳細は不明である。重複はない。

走向は中央部でN-39°-E、上幅は0.16～0.34m、深さは0.07m、調査長8.50mである。断面形は浅いU字状で、底面はピット状の凹凸があった。底面の標高は南西端が北東端より0.04m高かった。溝内は浅間C軽石を含む黒褐色土で埋まっていた。遺物は出土しなかった。

埋没土中や遺構確認面から、古墳時代前期の溝と考えられる。溝の性格は不明である。

VI区24号溝

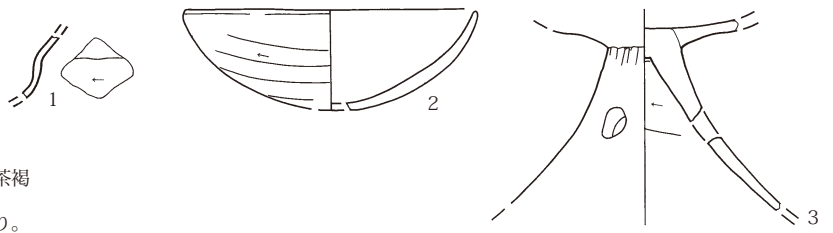
(第249・263図 PL.193・225・226 遺物観察表P.467)

24号溝は、VI区南西隅で検出された。北東部は直線的であるが、南西部は弧状に屈曲していた。重複はない。

走向は直線部でN-50°-E、上幅は0.36～0.70m、深さは0.41m、調査長12.0mである。断面形は箱形で、底面は平坦であった。底面の標高は西端が北東端より0.06m高かった。溝内は浅間C軽石を含む黒褐色土で埋まっていた。遺物は土器が多量に出土した。埋没土中から土師器直口壺(第249図3)、壺(4)、S字甕(2・5・

第6章 古代～古墳時代の遺構と遺物

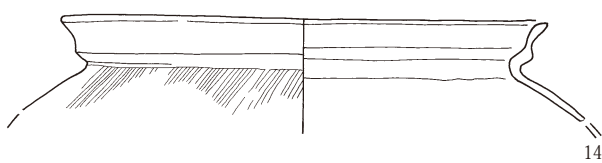
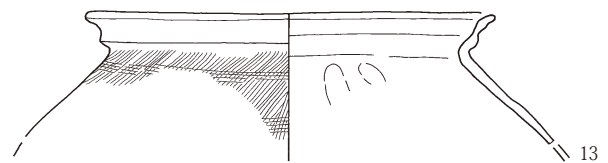
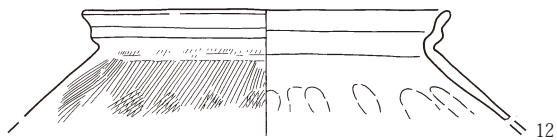
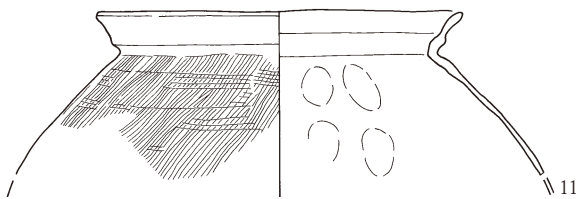
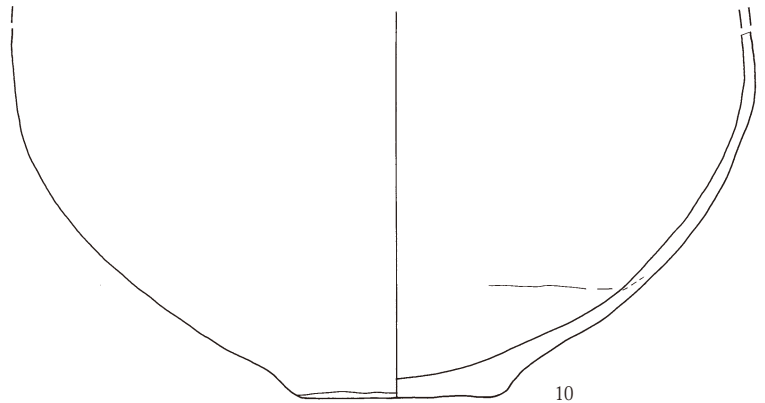
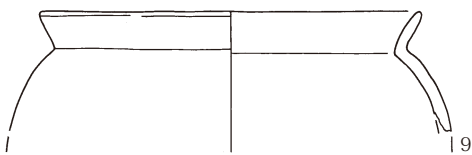
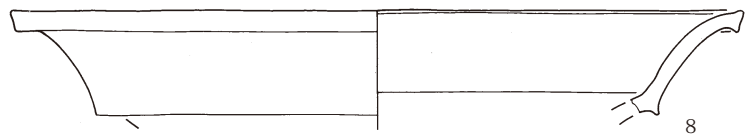
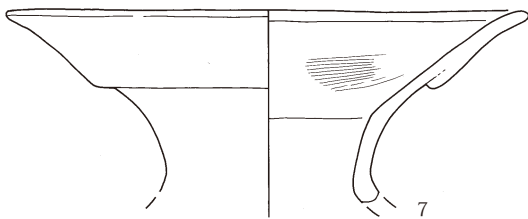
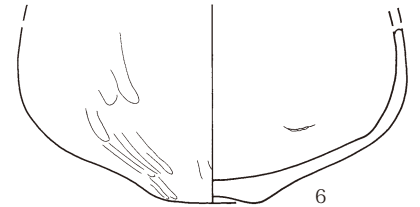
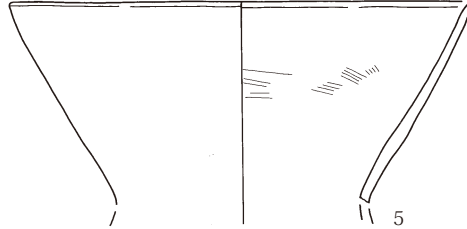
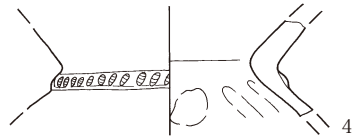
VI区18号溝



VI区18号溝A-A'

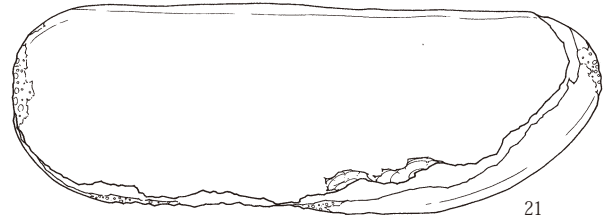
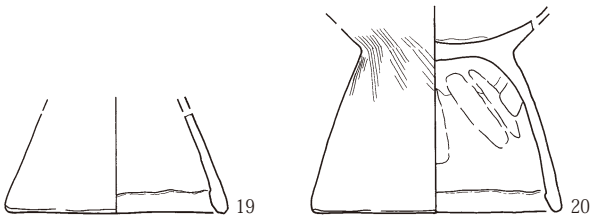
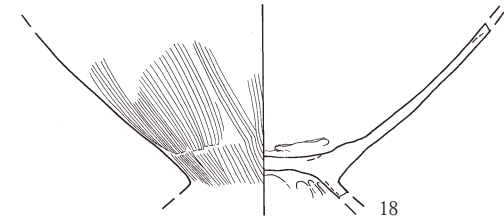
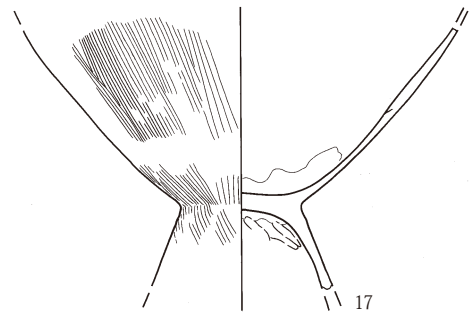
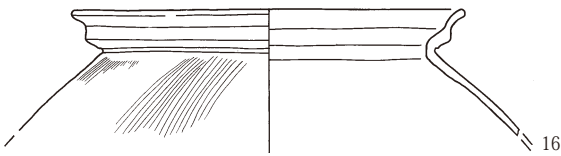
1. 黒褐色土 粘性強し。しまりあり。直径2mm以下の茶褐色粒微量含む。
2. 暗黄褐色土と黒褐色土の混土 粘性強し。しまりあり。地山(暗黄褐色土)と埋没土の混土。

0 1:60 2m



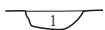
0 1:3 5cm

第245図 VI区溝(2)と出土遺物



VI区19号溝

A, L=71.80m, A'

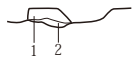


VI区19号溝A-A'

1. 暗灰褐色土 粘性あり。しまりあり。1mm以下の白色軽石粒含む。

VI区20号溝

A, L=71.80m, A'



VI区20号・27号溝A-A'

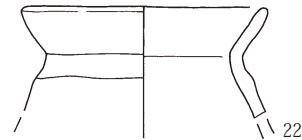
1. 黒褐色土 粘性あり。しまりあり。直径1mm以下の白色軽石粒含む。(27号溝埋没土)
2. 暗灰褐色土 粘性あり。しまりあり。(27号溝埋没土)

B, L=71.80m, B'



VI区20号溝B-B'

1. 黒褐色土 粘性あり。しまりあり。直径1mm以下の白色軽石粒含む。



VI区22号溝

A, L=71.80m, A'



VI区22号溝A-A'

1. 黒褐色土 粘性あり。しまりあり。直径1mm以下の白色軽石粒含む。
2. 黒褐色土と暗灰褐色土の混土 粘性あり。しまりあり。直径1mm以下の白色軽石粒含む。埋没土(黒)と地山(暗灰)の混土。

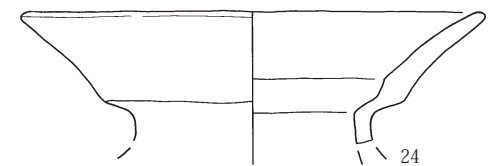
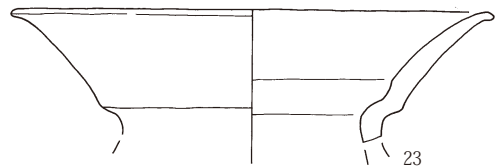
VI区23号溝

A, L=71.80m, A'



VI区23号溝A-A'

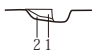
1. 黒褐色土 粘性あり。しまりあり。長直径15cmの暗灰褐色塊、直径1mm以下の白色軽石粒含む。



0 1:3 5cm

VI区27号溝

A, L=71.80m, A'



VI区27号溝A-A'

1. 黒褐色土 粘性あり。しまりあり。直径1mm以下の白色軽石粒含む。
2. 暗灰褐色土 粘性あり。しまりあり。

VI区29号溝

A, L=71.60m, A'

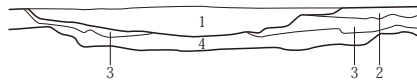


VI区29号溝A-A'

1. 黒褐色土と暗灰褐色土の混土 粘性あり。しまりあり。直径1mm以下の白色軽石粒含む。埋没土(黒褐)と地山(暗灰褐)の混土。

VI区25号溝

A, L=71.80m, A'



VI区25号溝A-A'

1. 暗褐色土 粘性あり。しまりあり。直径1mm以下の白色軽石粒含む。赤褐色の斑点が広がる。(25号溝埋没土)
2. 暗褐色土 粘性やや弱し。しまりあり。全体にザラつきあり。(21号溝埋没土)
3. 黒褐色土 粘性あり。しまりあり。直径1mm以下の白色軽石粒含む。(21号溝埋没土)
4. 暗灰褐色と灰褐色土 粘性強し。しまりあり。21号溝埋没土(暗灰)と地山(灰褐)の混土。

0 1:60 2m

第246図 VI区溝(3)と出土遺物

VI区21号溝

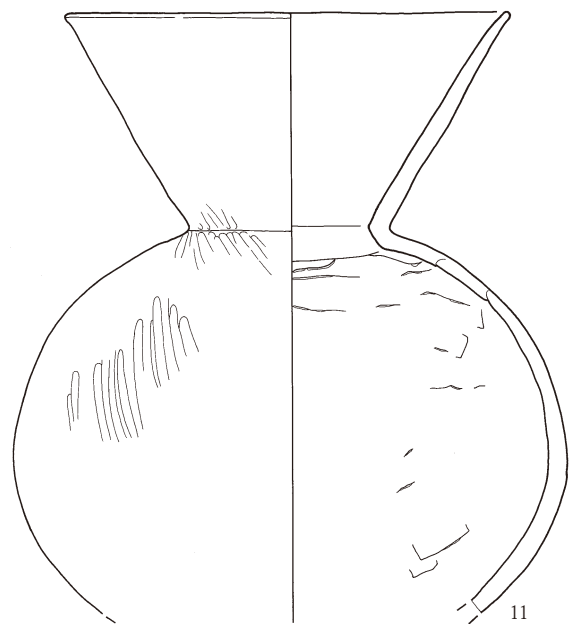
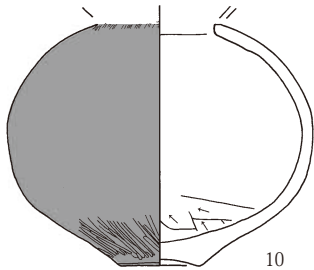
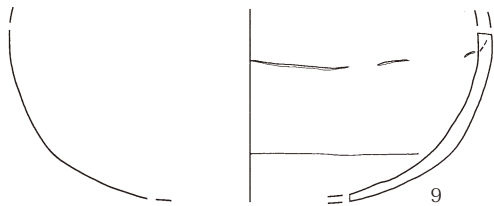
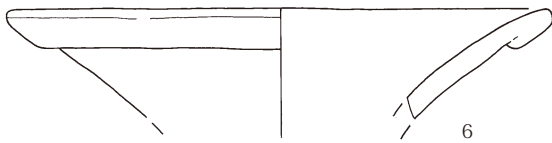
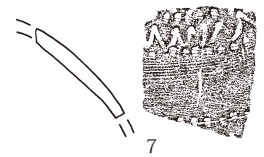
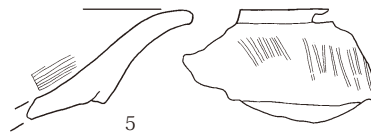
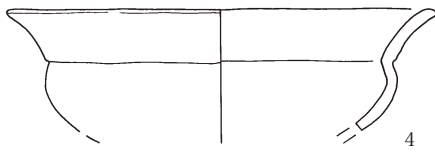
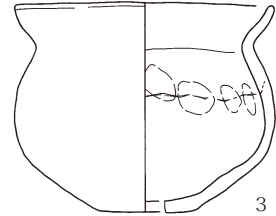
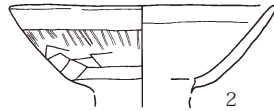
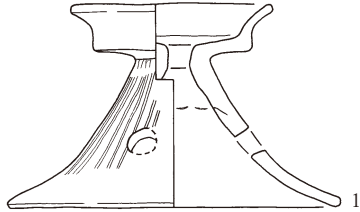
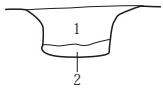
A, L=71.80m

A'

VI区21号溝A-A'

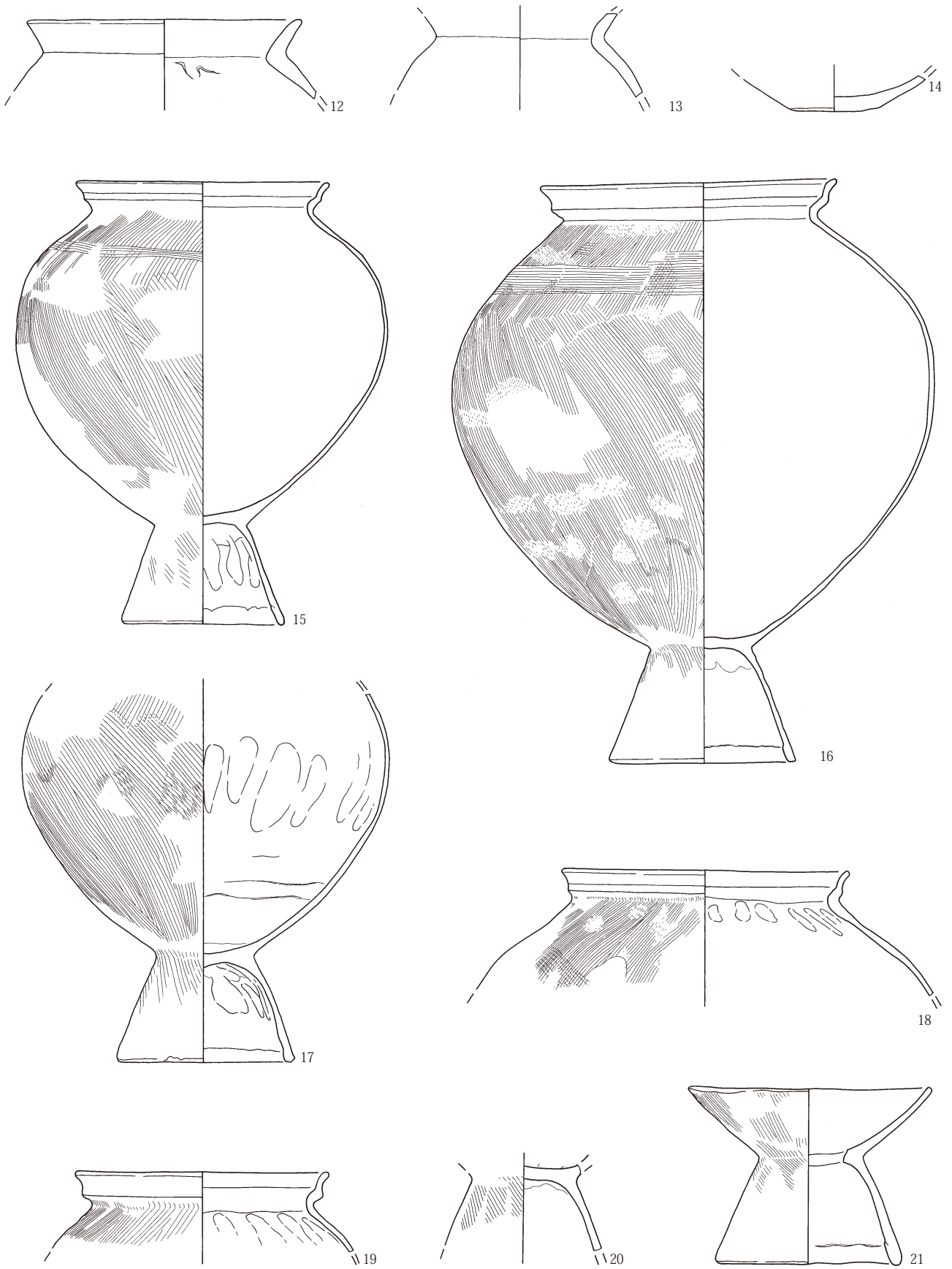
1. 黒褐色土 粘性あり。しまりあり。直径1mm以下の白色軽石粒含む。
2. 黒褐色土と暗灰褐色土の混土 粘性あり。しまりあり。直径1mm以下の白色軽石粒含む。地山(暗灰褐色土)と埋没土(黒褐色土)の混土。

0 1:60 2m



0 1:3 5cm

第247図 VI区溝(4)と出土遺物



第248図 VI区溝(5)と出土遺物

6～8)、高坏(ミニチュアか)(9)、壺(1)が出土した。他に埋没土中から土師器壺破片19点、坏破片14点、甕破片32点、S字甕208点が出土した。

出土遺物や遺構確認面から、古墳時代前期の溝と考えられる。砂礫等の堆積はないので、集落内の区画溝であろう。

VI区25号溝(第246・263図 PL.193・194)

25号溝は、VI区南中央やや西側で検出された。屋外周溝をもつ竪穴住居が立地する細長い微高地の西側の低地にあたる。東西端とも浅くなり検出できなくなる。底面には楕円形ピットが並び、西半部は楕円形ピットのみが検出された。19号・20号溝と重複するが新旧関係は不明である。21号溝と重複するが、25号溝が新しい。

走向はN-78°-E、上幅は0.40～2.50m、深さは0.26m、調査長13.38mである。断面形は浅い箱形で、底面はピット状の凹凸があった。底面の標高は北東端が南西端より0.16m高かった。溝内は浅間C軽石を含む黒褐色土で埋まっていた。埋没土中から土師器甕破片2点、S字甕破片22点が出土した。

出土遺物や遺構確認面から、古墳時代前期の溝と考えられる。溝の性格は不明である。

VI区26号溝(第249・263図 PL.194 遺物観察表P.467)

26号溝は、VI区南中央やや西側で検出された。中央部で屈曲する、くの字形の溝である。屋外周溝をもつ竪穴住居が立地する細長い微高地の西縁にあたる。北端・南西端とも浅くなり検出できなくなる。19号溝と重複するが、26号溝が新しい。

走向は北東部でN-14°-E、南西部でN-65°-E、上幅は0.34～1.22m、深さは0.10m、調査長8.14mである。断面形は浅い箱形で、底面は平坦である。底面の標高は北端が南西端より0.14m高かった。溝内は浅間C軽石を含む黒褐色土で埋まっていた。図示したS字甕(第249図10)は埋没土中から出土した。他に埋没土中から土師器S字甕破片9点が出土した。

出土遺物や遺構確認面から、古墳時代前期の溝と考えられる。溝の性格は不明である。

VI区27号溝(第246・263図 PL.194)

27号溝は、VI区北西部で検出された。一部が途切れるが、直線的な溝である。屋外周溝をもつ竪穴住居が立地する細長い微高地の西側にある低地内に掘られていた。西端は20号溝と合流するが新旧関係は調査したが認識できなかった。同時に使われていた可能性もあるが、詳細は不明である。北東端は浅くなり検出できなくなる。19号溝とも重複するが、新旧関係は不明である。

走向はN-59°-E、上幅は0.34～0.72m、深さは0.18m、調査長13.25mである。断面形は浅いU字形で、底面は平坦である。底面の標高は南西端が北東端より0.09m高かった。溝内は浅間C軽石を含む黒褐色土で埋まっていた。遺物は出土しなかった。

埋没土や遺構確認面から、古墳時代前期の溝と考えられる。溝の性格は不明である。

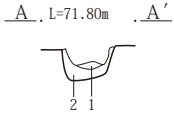
VI区28号溝(第249・263図 PL.194)

28号溝は、VI区中央部で検出された。屋外周溝をもつ竪穴住居が立地する細長い微高地の東側縁辺を囲むように掘られている。北半部は直線的、南半部は一部途切れるが、緩やかに湾曲している。北半部の直線部の走向は、屋外周溝のある竪穴住居の主軸や、溝のすぐ西側にある2号・3号掘立柱建物の柱筋に平行しており、何らかの規格を意識して掘られたものと推定される。重複遺構はない。

走向は直線部でN-37°-W、上幅は0.16～0.82m、深さは0.17m、調査長62.50mである。断面形は浅いU字形で、底面は平坦である。底面の標高は北西端が南東端より0.09m高かった。溝内は浅間C軽石を含む黒褐色土で埋まっていた。遺物は埋没土中から土師器壺20点、S字甕破片9点が出土した。

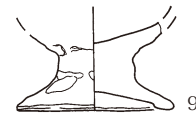
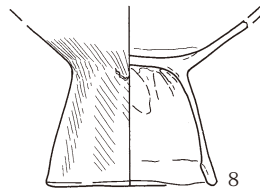
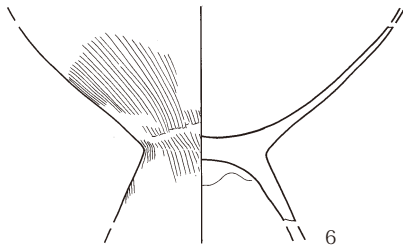
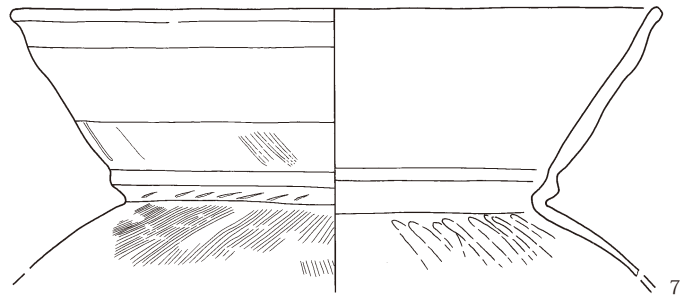
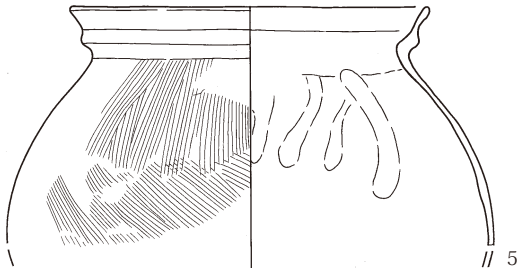
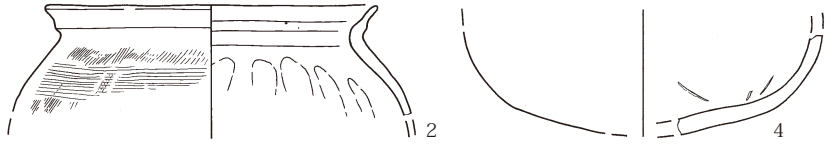
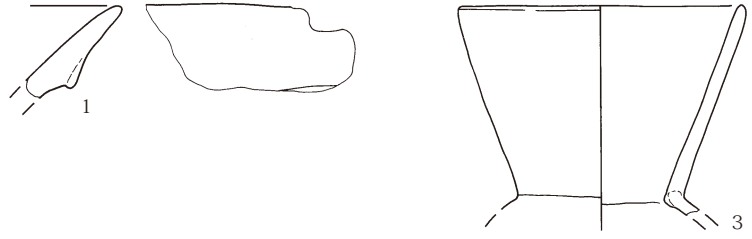
出土遺物、埋没土の特徴や、遺構配置、遺構確認面から、古墳時代前期の溝と考えられる。砂礫等の堆積はないので、集落内の区画溝であろう。屋外周溝のある竪穴住居や掘立柱建物等の古墳時代前期の遺構群は本溝の西側にすべてあることから、これらの遺構からなる特殊な空間を区画した重要な溝と考えられる。

VI区24号溝

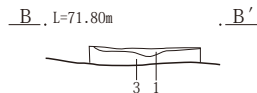


VI区24号溝A-A'

1. 黒褐色土 粘性あり。しまりあり。直径1mm以下の白色軽石粒含む。
2. 黒褐色土と暗灰褐色土の混土 粘性あり。しまりあり。直径1mm以下の白色軽石粒含む。地山と埋没土の混土。

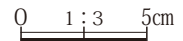


VI区26号溝

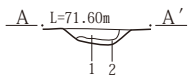


VI区26号溝A-A'・B-B'

1. 黒褐色土 粘性やや弱し。しまりあり。直径1mm以下の白色軽石粒含む。
2. 褐色土 粘性やや弱し。しまりあり。
3. 暗灰褐色土 粘性やや弱し。しまりあり。直径1mm以下の白色軽石粒含む。

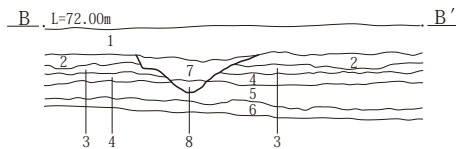


VI区28号溝



VI区28号溝A-A'

1. 黒褐色土 粘性あり。しまりあり。直径1mm以下の白色軽石粒含む。
2. 黒褐色土と暗黄褐色土の混土 粘性あり。しまりあり。地山(暗黄褐色)と埋没土(黒褐)の混土。



VI区28号溝B-B'

1. 暗褐色土 表土
2. 黒褐色土 白色軽石粒含む。
3. 黒褐色土 2層に類するが白色軽石粒増す。
4. 黒褐色土と褐色土の混土 ローム漸移層。黒褐色土の割合多い。
5. 暗黄褐色土 ローム漸移層。黒褐色土塊状に含む。
6. 暗黄褐色土 ローム層。
7. 黒褐色土 粘性あり。しまりあり。直径1mm以下の白色軽石粒含む。
8. 黒褐色土と暗黄褐色土の混土 粘性あり。しまりあり。地山(暗黄褐色)と埋没土(黒褐)の混土。



第249図 VI区溝(6)と出土遺物

VI区29号溝 (第246・263図 PL.194)

29号溝は、VI区北東隅で検出された直線的な溝である。屋外周溝をもつ竪穴住居が立地する細長い微高地の東側にある低地のほぼ中央に掘られていた。南半部は浅くなり、その痕跡しか確認できなかった。重複遺構はない。

走向はN-42°-W、上幅は0.30~0.56m、深さは0.04m、調査長約30.0mである。断面形は浅いU字形で、底面は平坦である。底面の標高は北西端が南東端より0.09m高かった。溝内は浅間C軽石を含む黒褐色土で埋まっていた。遺物は出土しなかった。

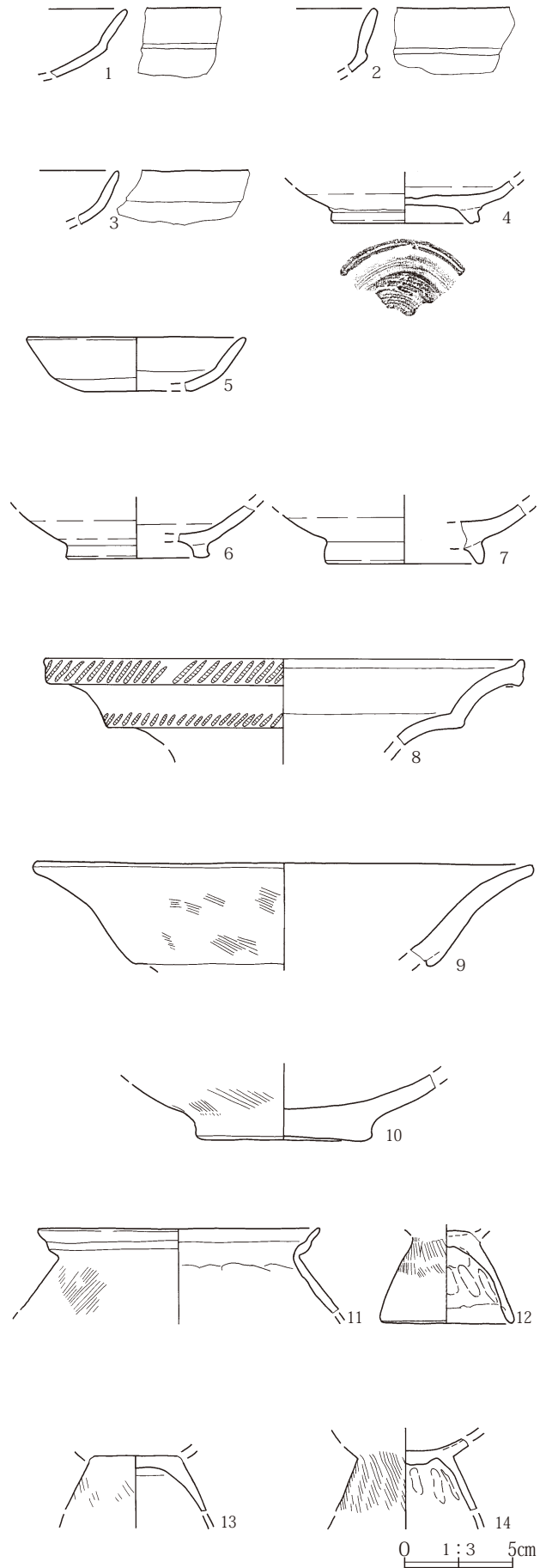
埋没土や遺構確認面から、古墳時代前期の溝と考えらる。砂礫等の堆積はないので、集落内の区画溝であろう。

(9) 遺構外の出土遺物

(第250図 PL.226 遺物観察表P.467)

VI区調査の遺構確認中に、遺構に伴わない形で第11表のように多くの遺物を出土した。ここでは、Ⅷ層上面の遺構確認時に出土した遺物を掲載した。

古代の遺物では、灰釉陶器碗(第250図7)、須恵器椀(4・6)、土師器坏(5)が出土した。古墳時代中・後期の遺物では、発掘区内では遺構は検出されなかったが、いわゆる須恵器模倣の土師器坏(1~3)が出土した。古墳時代前期の土器は多量に出土したが、土師器壺(8~10)、S字甕(11~14)を図示した。



第250図 VI区遺構外の出土遺物(古代～古墳時代)

8. VIII区の遺構と遺物

(1) 土坑 (第251図 PL.196)

VIII区古代～古墳時代遺構面で検出された土坑は1基である。VIII区西壁沿いに検出された。土坑の位置や規模は、P.435の表にまとめた。以下遺構の調査所見を記載する。

12号土坑は不整楕円形と推定される土坑で、粘性のある黒色粘土で埋まっていた。底面にはやや凹凸がある。遺物は出土しなかったが、埋没土の特徴から古墳時代の遺構と推定される。

(2) ピット (第251図 PL.196)

VIII区古代～古墳時代遺構面で検出したピットは3基である。北西部に2基、南西部に1基が散在していた。それぞれのピットの位置や規模は、P.441の表にまとめた。以下ピットの調査所見を記載する。

1号ピットは円形のピットで、5号溝の南側で検出された。細砂・白色軽石を含む黒褐色粘土で埋まっていた。遺物は出土しなかった。

2号ピットは円形のピットで、8号溝の東側で検出された。細砂を含む黒色粘土で埋まっていた。遺物は出土しなかった。

3号ピットは楕円形のピットで、8号溝の西側で検出された。細砂・白色軽石を含む黒褐色粘質土で埋まっていた。遺物は出土しなかった。

(3) 溝

VIII区古代～古墳時代遺構面では、10条の溝が検出された。溝の位置や規模はP.444・445の表にまとめた。以下各溝の調査所見を記載する。なお、溝の平面図は個別図を作成せず、1/300の各区全体図でこれに変えた。埋没土層断面図は個々に掲載した。

VIII区5号溝 (第252・262図 PL.196・197)

5号溝は、VIII区南西部で検出された北西から南東方向の直線的な溝である。北西端・南東端ともに発掘区域外となる。8号溝と重複するが、8号溝が新しい。また、10号溝と重複するが、10号溝が新しい。

走向はN-59°-W、上幅は0.50~0.90m、深さは0.19m、調査長39.40mである。断面形は浅いU字形で、底面は凹凸であった。底面の標高は北西端が南東端より0.09m高かった。

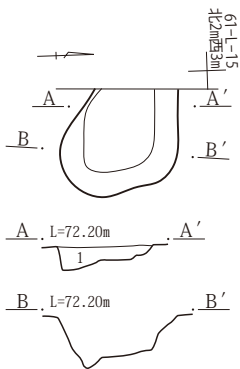
溝内は白色軽石や砂粒を含む黒褐色粘質土で埋まっていた。遺物は出土しなかった。

埋没土や遺構確認面から、古墳時代以降、浅間Bテフラ降下以前の溝と考えられるが、詳細は不明である。

VIII区6号溝 (第252・262図 PL.197)

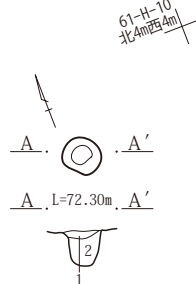
6号溝は、VIII区南西隅で検出された北西から南東方向の直線的な溝である。北西端・南東端ともに発掘区域外となる。南西脇に0.8mほどの間隔をもって7号溝が並

VIII区12号土坑



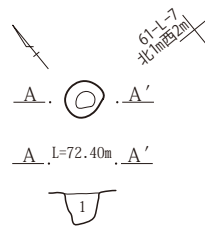
VIII区12号土坑A-A'
1. 黒色粘土 粘性あり。固くしまっている。

VIII区1号ピット



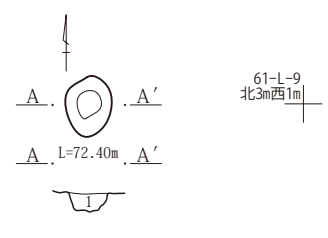
VIII区1号ピットA-A'
1. 黒褐色粘土 細砂粒・白色軽石を含む。
2. 黒色粘土 細砂粒を少量含む。固くしまっている。

VIII区2号ピット

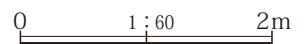


VIII区2号ピットA-A'
1. 黒色粘土 細砂粒を含む。固くしまっている。

VIII区3号ピット



VIII区3号ピットA-A'
1. 黒褐色粘質土 細砂粒・白色軽石を含む。固くしまっている。



第251図 VIII区土坑とピット

行する。一部重複するが、7号溝が新しい。また、8号溝と重複するが、8号溝が新しい。

走向はN-44°-W、上幅は0.25～0.54m、深さは0.09m、調査長23.70mである。断面形は浅いU字形で、底面は平坦であった。底面の標高は南東端が北西端より0.01m高かった。

溝内は白色軽石や砂粒を含む黒褐色粘質土で埋まっていた。埋没土中から土師器甕破片1点が出土した。

埋没土や遺構確認面から、古墳時代以降、浅間Bテフラ降下以前の溝と考えられるが、詳細は不明である。

Ⅷ区7号溝

(第252・253・262図 PL.197・226 遺物観察表P.467)

7号溝は、Ⅷ区南西隅で検出された北西から南東方向の直線的な溝である。北西端・南東端ともに発掘区域外となる。北東脇に0.8mほどの間隔をもって6号溝が並行する。一部重複するが、7号溝が新しい。8号溝とも重複するが、8号溝が新しい。

走向はN-45°-W、上幅は1.90～5.45m、深さは0.09m、調査長18.90mである。断面形は浅いV字形で、底面には凹凸があった。底面の標高は北西端が南東端より0.12m高かった。

溝内は白色軽石や砂粒を含む黒褐色粘質土で埋まっていた。図示した内斜口縁の土師器鉢(第253図1)、受け口あるいはS字状口縁甕破片(2)、壺底部(3)、甕口縁部(4)、S字甕(5)は埋没土中から出土した。他に埋没土中から土師器ミニチュアS字甕破片3点、甕破片36点、S字甕破片16点、コの字口縁甕破片7点が出土した。埋没土中から出土したコの字口縁甕破片は9世紀ころの土器である。

埋没土や遺構確認面から、古墳時代以降、浅間Bテフラ降下以前の溝と考えられる。図示できるような大型破片は古墳時代前期および中期の土器であるが、新しい出土遺物を重視すれば、本溝は古代の溝である可能性が高い。南西部は上幅が広がり、底面も高くなって、何らかの施設が設けられていた可能性もあるが、詳細を明らかにすることはできなかった。

Ⅷ区8号溝(第254・262図 PL.198・199)

8号溝は、Ⅷ区西部で検出された北東から南西方向の

直線的な溝である。北東端は発掘区域外となる。南西端は7号溝と重複するが、8号溝が新しい。不定型な掘り方の溝で、底面の凹凸が著しい。北東半部では南西側に、ピット状の掘り込みが列になった1号ピット列を伴う。これが8号溝に付随するものかどうかは不明である。ピット列は中央付近で検出できなくなる。南西半部の溝も不定形である。

走向はN-42°-E、上幅は0.40～1.70m、深さは0.06m、調査長33.10mである。断面形は浅い台形で、底面には凹凸が著しかった。底面の標高は北東端が南西端より0.13m高かった。

溝内は細砂粒を含む黒色粘質土で埋まっていた。埋没土中から土師器坏破片2点、S字甕破片6点が出土した。

Ⅷ区8号溝は、埋没土や遺構確認面から、古墳時代以降、浅間Bテフラ降下以前の溝と考えられる。埋没土中から出土した土師器坏破片は内斜口縁の坏で古墳時代中期ころの土器であることから、新しい出土遺物を重視すれば、本溝は古墳時代中期の溝の可能性が高い。また、底面凹凸の著しい形状から動物の歩行痕跡が溝状になったとも考えられる。

Ⅷ区1号ピット列(第254・262図 PL.198)

1号ピット列は、Ⅷ区西部で検出された8号溝の北東半部で、溝の南西側に斜めに交わる形で検出された。溝との新旧関係は明確でない。

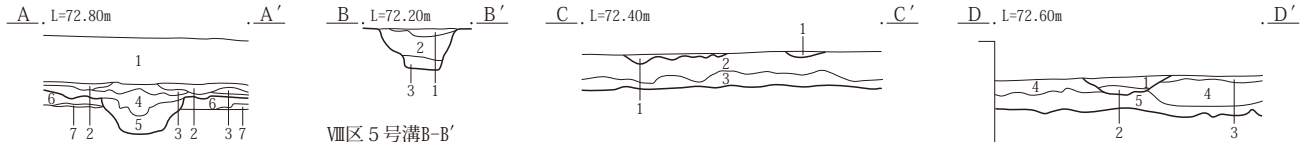
個々のピットの形状は不定型な楕円形、大きさは直径0.25～0.40m、深さは0.05～0.15mほどでまちまちである。ピットの間隔は芯々間で0.35mである。ピット列は明確なもので14.0mほど連続しており、痕跡と思われるものを含めると23.0mまでになる。

ピット内は黒褐色砂質土で埋まっていた。遺物は出土しなかった。埋没土や遺構確認面から、古墳時代以降、浅間Bテフラ降下以前の遺構と考えられるが、詳細は不明である。

Ⅷ区9号溝(第254・262図 PL.198・199)

9号溝は、Ⅷ区中央部で検出された北西から南東方向に緩やかに屈曲しながら流れる溝である。北西端・南東端ともに発掘区域外となる。8号溝と重複するが、8号溝が新しい。10号・11号溝と重複するが、10号・11号溝

VIII区 5号溝



VIII区 5号溝A-A'

1. 盛土と現代の耕作土 くずれやすく、区分していない。
2. オリーブ褐色土 As-Aを含む。固くしまっている。
3. 黒褐色粘土 白色軽石を含む。固くしまっている。
4. 黒色粘土 白色軽石を含む。固くしまっている。
5. 黒褐色粘質土 灰黄色粘質土塊を含む。白色軽石が少し混じる。粘性あり。固くしまっている。
6. 暗灰黄色粘質土 白色軽石・砂粒を含む。固くしまっている。
7. 暗灰黄色粘質土 白色軽石・細砂粒を含む。固くしまっている。

VIII区 5号溝B-B'

1. 黒褐色粘土 白色軽石を含む。固くしまっている。
2. 黒色粘土 白色軽石・細砂粒を少し含む。粘性あり。固くしまっている。
3. 黒褐色粘土 暗灰黄色粘質土塊を含む。細砂粒が混じる。固くしまっている。

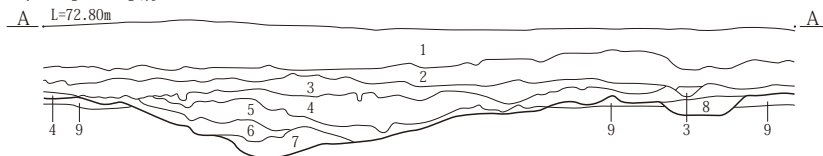
VIII区 5号溝C-C'

1. 黒褐色砂質土 暗灰黄色粘質土塊を少し含む。(8号溝埋没土)
2. 黒色粘土 白色軽石・細砂粒を少し含む。粘性あり。固くしまっている。
3. 黒褐色粘土 暗灰黄色粘質土塊を含む。細砂粒が混じる。固くしまっている。

VIII区 5号溝D-D'

1. 黒色粘土 砂粒を少量含む。(10号溝埋没土)
2. 褐灰色砂 粘質土を含む。鉄分にそまる部分がある。(10号溝埋没土)
3. 黄灰色シルト 砂粒を少量含む。
4. 黒褐色粘土 砂粒をごくわずかに含む。
5. 黒褐色シルト 砂粒・白色軽石を含む。

VIII区 6号・7号溝



VIII区 6号・7号溝A-A'

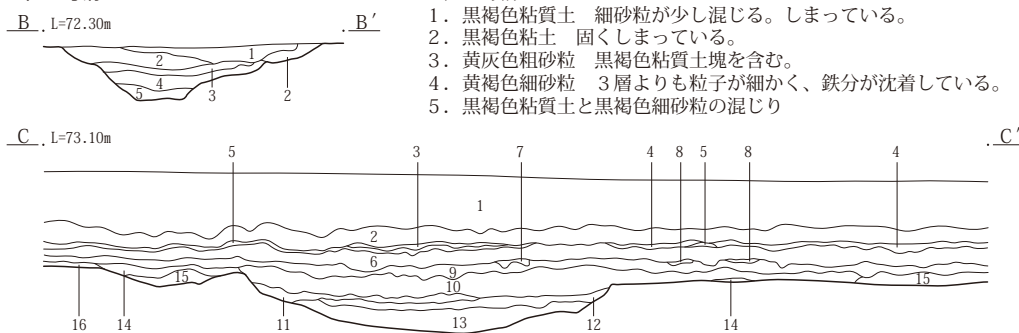
1. 盛土
2. 黒褐色土 As-A軽石を含む。固くしまっている。
3. 黒褐色土 2層よりもA軽石を多く含む。固くしまっている。
4. 黒褐色粘質土 下層に細砂粒が多く混じる。白色軽石をわずかに含む。固くしまっている。
5. 黒色粘土 固くしまっている。
6. 黒褐色粘土 白色軽石・細砂粒を含む。粘性あり。固くしまっている。
7. 黒褐色粘質土 黄灰色粘質土塊・細砂粒を多く含む。しまっている。
8. 黒褐色粘土 白色軽石・細砂粒を含む。粘性あり。固くしまっている。(6号溝埋没土)
9. 暗灰黄色粘質土 白色軽石・細砂粒を含む。固くしまっている。

VIII区 6号溝B-B'

VIII区 6号溝B-B'

1. 黒褐色粘土 白色軽石・細砂粒を少し含む。固くしまっている。

VIII区 7号溝

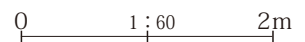


VIII区 7号溝B-B'

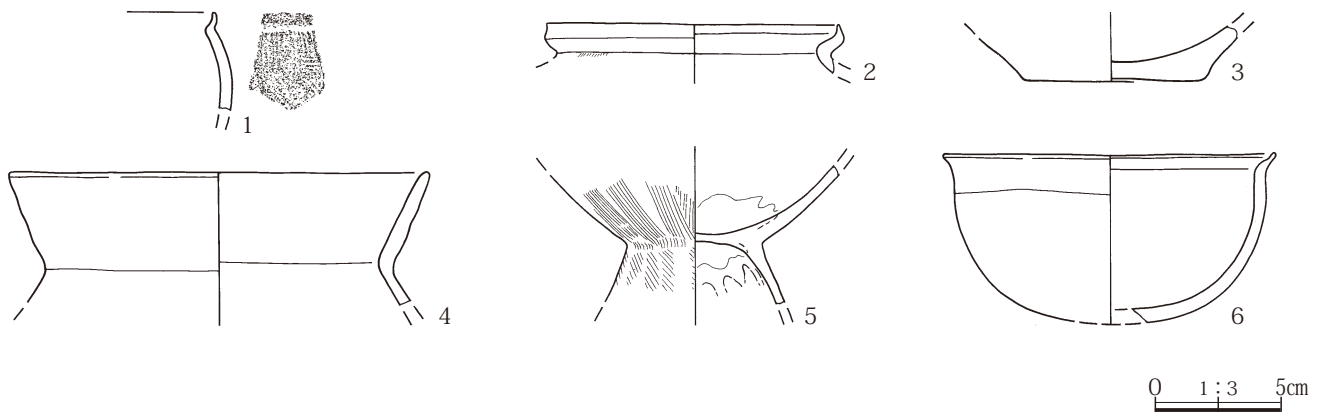
1. 黒褐色粘質土 細砂粒が少し混じる。しまっている。
2. 黒褐色粘土 固くしまっている。
3. 黄灰色粗砂粒 黒褐色粘質土塊を含む。
4. 黄褐色細砂粒 3層よりも粒子が細かく、鉄分が沈着している。
5. 黒褐色粘質土と黒褐色細砂粒の混じり

VIII区 7号溝C-C'

1. 盛土
2. 暗褐色土 As-Aを含む。固くしまっている。
3. 暗灰黄色砂質土 As-B一次堆積層。くずれやすい。
4. オリーブ褐色砂質土 黒褐色粘土小塊を含み、白色軽石が少し混じる。固くしまっている。
5. 黒褐色粘土 細砂粒がわずかに混じる。固くしまっている。
6. 黄灰色シルト 細砂粒を含む。白色軽石が少し混じる。固くしまっている。
7. 黄灰色シルト にぶい黄色砂質土が多く混じる。固くしまっている。
8. 黄灰色シルト 7層よりも、にぶい黄色砂質土が少ない。
9. 黒褐色粘土 細砂粒を含み、白色軽石を少し含む。固くしまっている。粘性あり。
10. 黄灰色砂質土 上層に細砂粒、下層に粗砂粒が多く含まれる。
11. 黒褐色粘土 粗砂粒を少し含む。粘性あり。
12. 黒褐色砂質土 細砂粒を多く含む。
13. 黒褐色砂質土 粗砂粒を多く含む、黒褐色粘質土塊が少し混じる。
14. 黄灰色シルト 粗砂粒を含む。固くしまっている。粘性少しあり。
15. 黄灰色砂質土 細砂粒を多く含む、白色軽石が少し混じる。しまっている。
16. 黄灰色シルト 細砂粒を含み、白色軽石が少し混じる。固くしまっている。粘性少しあり。



第252図 VIII区溝(1)



第253図 VIII区溝(2)出土遺物

が新しい。

走向は斜め部分でN-40°-W、中央部分でN-82°-W、上幅は0.90~1.40m、深さは0.32m、調査長65.20mである。断面形は浅い台形で、底面は平坦であった。底面の標高は北西端が南東端より0.11m高かった。

溝内は白色軽石を含む黒色粘質土・黒褐色粘質土で埋まっていた。底面には黒褐色シルトが堆積していた。遺物は出土しなかった。

埋没土や遺構確認面から、古墳時代以降、浅間Bテフラ降下以前の溝と考えられる。シルト・砂の堆積から流水があったことが示唆される。広域の用水路の可能性があろう。

VIII区10号溝(第254・262図 PL.199・200)

10号溝は、VIII区中央南部で検出された南西から北東方向に緩やかに屈曲しながら流れる溝である。南西端は発掘区域外となる。北東端は斜めに11号溝と接するように合流する。合流地点では10号溝が新しいが、11号溝土層断面A-A'では10号溝は確認できなかった。

走向はN-64°-E、上幅は0.40~1.00m、深さは0.16m、調査長35.60mである。断面形はU字形で、底面は凹凸が著しい。底面の標高は南西端が北東端より0.06m高かった。

溝内は褐灰色粗砂・黄灰色砂で埋まっていた。遺物は出土しなかった。

埋没土や遺構確認面から、古墳時代以降、浅間Bテフラ降下以前の溝と考えられるが、詳細は不明である。

VIII区11号溝(第253・254・262図 PL.199・200・226 遺物観察表P.467)

11号溝は、VIII区北東部で検出された南西から北東方向に緩やかに屈曲しながら流れる溝である。南西端は斜めに10号溝と接するように合流する。合流地点では10号溝が新しいが、11号溝セクションA-A'では10号溝は確認できない。やや深い11号溝が発掘区北東端まで掘られていると思われる。北東端は発掘区域外となる。VII区では11号溝に連続するとみられる溝は検出されなかった。

走向はN-75°-E、上幅は0.36~1.20m、深さは0.15m、調査長46.90mである。断面形はU字形で、底面は凹凸が著しい。底面の標高は南西端が北東端より0.06m高かった。

溝内は褐灰色粗砂・黄灰色砂で埋まっていた。埋没土中から土師器坏破片5点が出土した。内斜口縁の土師器坏(第253図6)が出土した。

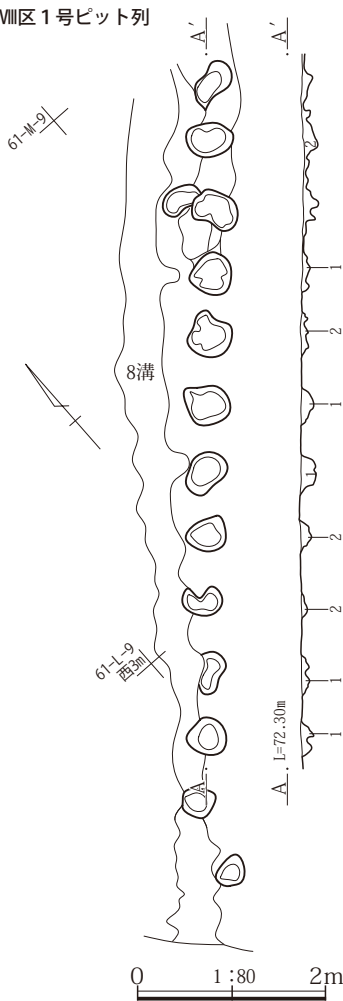
埋没土や遺構確認面から、古墳時代以降、浅間Bテフラ降下以前の溝と考えられる。埋没土中から出土した坏破片は5世紀初頭の内斜口縁の土器であり、本溝は古墳時代中期以降の溝である可能性が高い。

VIII区12号溝(第254・262図 PL.200・201)

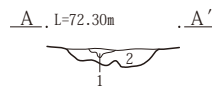
12号溝は、VIII区北東部で検出された北西から南東方向の直線的な溝である。北西端・南東端ともに発掘区域外となる。11号溝と重複しているが、11号溝が新しい。14号溝と重複しているが、14号溝が新しい。

走向はN-51°-W、上幅は0.78~1.40m、深さは0.25m、調査長28.50mである。断面形は浅いU字形で、底面は平坦である。底面の標高は北西端が南東端より

VIII区 1号ピット列



VIII区 8号溝

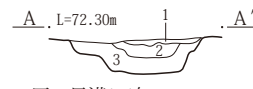


- VIII区 8号溝A-A'
1. 黒褐色粘質土 細砂粒を含む。しまり弱い。
 2. 黒褐色砂質土 地山の黒褐色粘質土塊・黄灰色粘質土塊を含む。しまり弱い。

VIII区 1号ピット列A-A'

1. 黒褐色砂質土 オリーブ褐色粘質土塊をわずかに含む。しまっている。
2. 黒褐色砂質土 1層とほぼ同じだが、粘質土塊が多く混じっている。

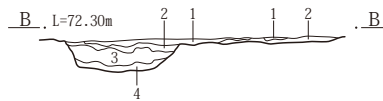
VIII区 9号溝



- VIII区 9号溝A-A'
1. 黒褐色粘土 白色軽石を含む。粘性あり。固くしまっている。
 2. 黒褐色粘土 細砂粒を少量含む。粘性あり。固くしまっている。
 3. 黄灰色シルト 黒褐色粘土・白色軽石を含む。部分的に細砂粒を多く含むところがある。粘性あり。固くしまっている。



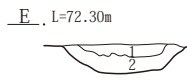
- VIII区 9号溝C-C'
1. 黒褐色砂質土 白色軽石を含む。黒褐色粘質土塊を少し含む。しまっている。(8号溝埋没土)
 2. 黒褐色粘土 白色軽石・細砂粒を含む。粘性あり。固くしまっている。(9号溝埋没土)
 3. 黒褐色粘質土 細砂粒・黄褐色粘質土塊を含む。粘性あり。固くしまっている。(9号溝埋没土)



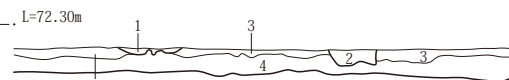
- VIII区 9号溝B-B'
1. 黒色粘土 白色軽石を少量含む。粘性あり。固くしまっている。
 2. 褐灰色シルト 白色軽石・細砂粒を多く含む。粘性あり。固くしまっている。
 3. 黒褐色粘土 白色軽石・細砂粒を含む。粘性あり。固くしまっている。
 4. 黒褐色シルト 細砂粒・地山の黄褐色シルト小塊を含む。粘性あり。固くしまっている。



- VIII区 9号溝D-D'
1. 黒色粘土 粘性強い。白色軽石を少量含む。固くしまっている。
 2. 黒褐色シルト 砂粒を含む。固くしまっている。

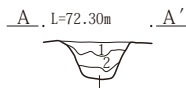


- VIII区 9号溝E-E'
1. 黒色粘土 粘性強い。白色軽石をごく少量含む。固くしまっている。
 2. 黒灰色シルト 砂粒を含む。固くしまっている。



- VIII区 9号溝F-F'
1. 黒褐色粘質土 砂粒を多く含む。(11号溝埋没土)
 2. 黒褐色粘土 砂粒を多く含む。(10号溝埋没土)
 3. 黒褐色粘土 砂粒を少量含む。(9号溝埋没土)
 4. 黄灰色シルト 白色軽石・砂粒を含む。(9号溝埋没土)

VIII区 10号溝



- VIII区 10号溝A-A'
1. 黒色粘土 砂粒を少量含む。固くしまっている。
 2. 褐灰色粗砂 粘土分を含む。鉄分にそまる部分が多い。
 3. 黄灰色砂 粘土分を含む。鉄分にそまる部分が多い。

VIII区 11号溝

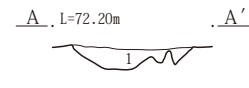


- VIII区 11号溝A-A'
1. 黒色粘土 混じりけ少ない。粘性強い。固くしまっている。(10号溝埋没土)
 2. 黄灰色砂 灰白色粘土小塊を少量含む。(10号溝埋没土)
 3. 黒褐色粘質土 砂粒を少量含む。(11号溝埋没土)
 4. 黄灰色砂と灰白色粘土小塊の混合 固くしまっている。(11号溝埋没土)

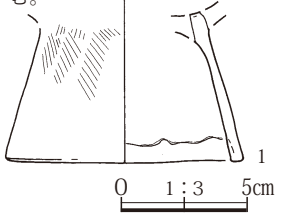


- VIII区 11号溝B-B'
1. 黒褐色粘土 砂粒を含む。(11号溝埋没土)
 2. 黄灰色砂 灰白色粘土小塊をごく少量含む。(11号溝埋没土)
 3. 黄灰色砂質土 灰白色粘土小塊を含む。(13号溝埋没土)

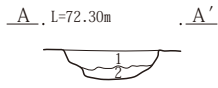
VIII区 14号溝



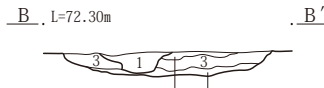
- VIII区 14号溝A-A'
1. 黄灰色砂 シルト分多い。黄褐色シルトの小塊をわずかに含む。



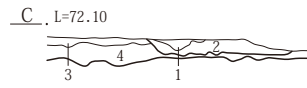
VIII区 12号溝



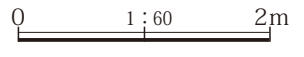
- VIII区 12号溝A-A'
1. 黄灰色シルト 白色軽石を含む。固くしまっている。
 2. 黄灰色砂質シルト 砂粒・灰白色粘土小塊を含む。固くしまっている。



- VIII区 12号溝B-B'
1. 黒褐色シルト 砂粒を多く含む。(11号溝埋没土)
 2. 黄灰色シルト 砂粒を含む。(12号溝埋没土)
 3. 黄灰色砂質シルト 鉄分に斑状に染まる部分がある。砂粒・白色軽石を含む。(12号溝埋没土)
 4. 黄灰色砂質シルト 3層に灰白色粘土小塊を含む。(12号溝埋没土)



- VIII区 12号溝C-C'
1. 黄灰色砂 シルト分多い。(14号溝埋没土)
 2. 暗灰黄色砂質シルト 白色軽石・砂粒を含む。(14号溝埋没土)
 3. 黒褐色粘土 砂粒を含む。(12号溝埋没土)
 4. 暗オリーブ褐色砂質シルト 砂粒を多く含む。灰白色粘土小塊を少量含む。(12号溝埋没土)



第254図 VIII区ピット列・溝(3)と出土遺物

0.06m高かった。

溝内は黄灰色シルト等で埋まっていた。遺物は出土しなかった。

埋没土や遺構確認面から、古墳時代以降、浅間Bテフラ降下以前の溝と考えられるが、詳細は不明である。

Ⅷ区13号溝（第262図 PL.201）

13号溝は、Ⅷ区北東部で検出された。11号溝のすぐ北縁に並行していた。重複関係はない。西端は小ピットが並ぶ痕跡となり、東端は11号溝と12号溝の重複地点で確認できなくなった。一部で不定形に幅が広がる場所がある。

走向はN-72°-E、上幅は0.25~1.15m、深さは0.13m、調査長16.20mである。断面形はU字形で、底面は凹凸が著しい。底面の標高は南西端が北東端より0.03m高かった。

溝内は黄灰色砂質土で埋まっていた。遺物は出土しなかった。

埋没土や遺構確認面から、古墳時代以降、浅間Bテフラ降下以前の溝と考えられる。また、底面凹凸の著しい形状から動物の歩行痕跡が溝状になったとも考えられる。

Ⅷ区14号溝（第254・262図 PL.201 遺物観察表P.467）

14号溝は、Ⅷ区南東隅で検出された南西から北東方向の直線的な溝である。南西端・北東端ともに発掘区域外となる。12号溝と重複するが、14号溝が新しい。

走向はN-45°-E、上幅は0.36~0.94m、深さは0.21m、調査長11.75mである。断面形はU字形で、底面は凹凸が著しい。底面の標高は南西端が北東端より0.09m高かった。

溝内は黄灰色砂で埋まっていた。埋没土中から土師器坏破片3点が出土した。

埋没土や遺構確認面から、古墳時代以降、浅間Bテフラ降下以前の溝と考えられる。埋没土中から出土した土師器坏破片は7~8世紀頃の土器であり、本溝は古代の溝である可能性が高い。また、底面凹凸の著しい形状から動物の歩行痕跡が溝状になったとも考えられる。

Ⅷ区古代～古墳時代遺構面の溝について

10条の溝には大別して、北西-南東方向の溝(5号~7号・9号・12号溝)と、南西から北東方向の溝(8号・10号・11号・13号・14号溝)の二種があった。前者の溝は掘り方が明確で、北西端の標高が高く、遺物が出土しているが、後者の溝は不定形で、底面の凹凸が著しく、底面の標高差はほとんどない。

前者の溝は古墳時代以降、浅間Bテフラ降下以前の各時期に低地内に掘られた人工的な溝で、広域な灌漑水路の一部である可能性が高い。一方、後者の溝は別の要因によって残された遺構と推定される。

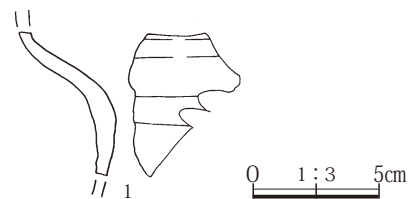
後者の溝のうち、8号・13号・14号溝については、1号ピット列とともに、動物の歩行痕跡が溝状になったものとの可能性が考えられるが、詳細は明らかにできなかった。

(5) 遺構外の出土遺物

(第255図 PL.226 遺物観察表P.467)

Ⅷ区調査の遺構確認中に、遺構に伴わない形で第11表のように多くの遺物を出土した。ここでは、Ⅷ層上面の遺構確認時に出土した遺物を掲載した。

ここでは須恵器短頸壺破片(第255図1)を図示した。



第255図 Ⅷ区遺構外の出土遺物(古代～古墳時代)

9. IX区の遺構と遺物

(1) 井戸

IX区1号井戸

(第256・257図 PL.203・226 遺物観察表P.467)

位置 IX区55-71-N-12・13G

形状 楕円形 重複 なし

規模 長軸3.24m 短軸2.62m 残存壁高0.62m

長軸方位 N-25°-W

断面形 浅いすり鉢形。壁の中位にテラス状の段があり、東端の湧水部がやや凹んでいる。

埋没土 最上層に浅間Bテフラの一次堆積層が覆っている。その下位は細砂・白色軽石を含む黒褐色土と、褐色・黒褐色の砂質土で埋まっていた。また湧水部はシルトの混じる黒色粘土で埋まっていた。

底面 湧水部が東端にあり、その北西部は、凹凸はあるもののやや広いテラス状になっていた。

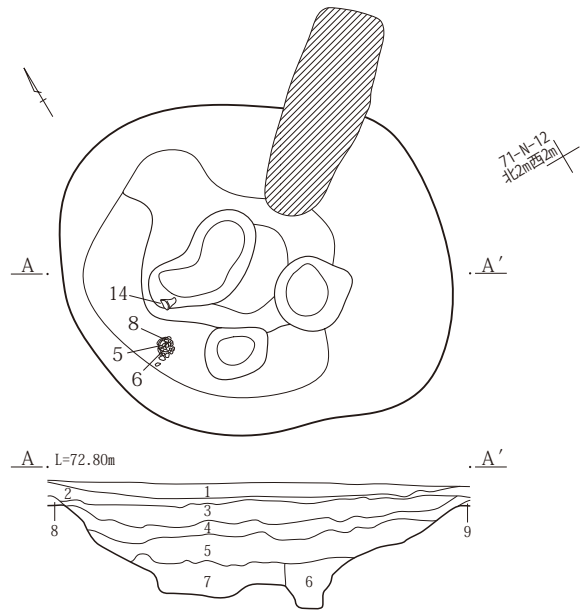
遺物出土状況 テラス状の平坦面直上で、土師器高坏(第257図14)が、須恵器坏(5・6・8)が重なるようにして出土した。また、土師器高坏(9~13・15)、坏(1~4)、甕(16・17)、須恵器坏(7)が埋没土中から出土した。他に埋没土中から土師器埴・高坏破片42点、甕破片148点、土師器坏・鉢破片146点、須恵器坏破片74点が出土した。

所見 出土遺物には4世紀後半の高坏や、8世紀後半の土師器碗、9世紀後半の須恵器坏・碗が混在していた。4世紀後半の高坏は大きな破片が多く、この高坏に限って井戸に投棄された可能性がある。これらの高坏は後世の混入とは考えにくく、本井戸は古墳時代前期から平安時代まで使用されていた可能性が高いと推定される。

(2) 土坑(第258図 PL.203・204)

IX区古代~古墳時代遺構面で検出された土坑は14基である。すべて発掘区西端微高地縁辺に分布していた。これらの土坑の時期は浅間C軽石降下以降、浅間Bテフラ堆積以前である。時期を示す遺物等の調査所見はごく限られていた。各土坑の位置や規模は、P.435・436の表にまとめた。以下遺構の調査所見を記載する。

24号土坑は不整楕円形の土坑で、発掘区西端で検出された。断面形は浅いボール状。砂粒を含む黒褐色土で埋まっていた。遺物は出土しなかった。



IX区1号井戸A-A'

1. As-B一次堆積層。
2. 黒色粘土 細砂粒を含む。白色軽石がわずかに混じる。固くしまっている。
3. 黒褐色粘土 細砂粒を含む。白色軽石が混じる。黄褐色シルト小塊が混じる。固くしまっている。
4. 黒褐色粘土 細砂粒を含む。白色軽石が少し混じる。固くしまっている。粘性少しあり。
5. 褐色砂質土 細砂粒を含む。白色軽石が混じる。黄褐色シルト小塊と灰黄褐色シルト小塊が混じる。固くしまっている。
6. 黒色粘土 細砂粒を含む。黄褐色シルト小塊と褐色粘質土塊が混じる。固くしまっている。粘性少しあり。
7. 黒褐色砂質土 細砂粒を含む。黄褐色シルト小塊と灰黄褐色シルト小塊が多く混じる。しまっている。
8. 黒褐色土 黄褐色シルト小塊・白色軽石を含む。固くしまっている。
9. 黒褐色粘土 細砂粒を含む。白色軽石がわずかに混じる。固くしまっている。

0 1:60 2m

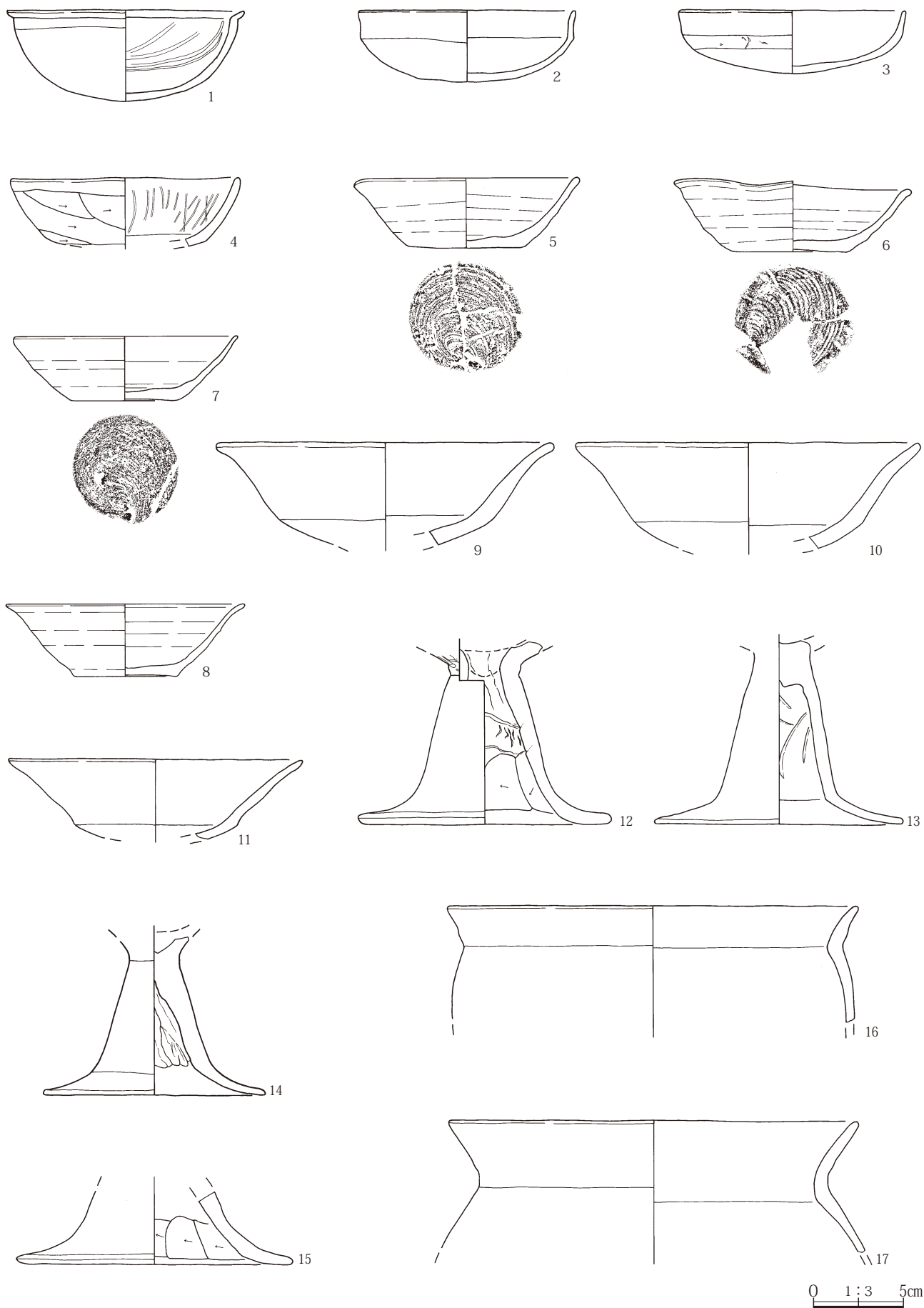
第256図 IX区1号井戸

25号・26号土坑は7号溝の北側で重複して検出された。25号土坑の方が新しい。25号土坑は楕円形の土坑で、断面形は浅いボール状。砂粒と黄褐色シルト粒を含む黒褐色土で埋まっていた。遺物は出土しなかった。

26号土坑は不整楕円形で、断面形は上方が開く箱状。上層は砂粒・黄褐色シルト小塊を含む黒色土で、下層は粘性の強い暗灰黄色粘質土で埋まっていた。遺物は出土しなかった。

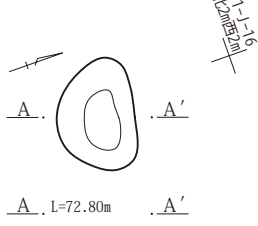
27号土坑は円形の土坑で、26号土坑の東側で検出された。断面形は上方の開く箱状。砂粒・黄褐色シルト小塊を含む黒色土で埋まっていた。遺物は出土しなかった。

28号土坑は西側に突出部のある楕円形の土坑で、26号土坑の北側で検出された。土坑の重複である可能性もある。断面形は浅いボール状。上層は砂粒・黄褐色シルト



第257図 IX区1号井戸出土遺物

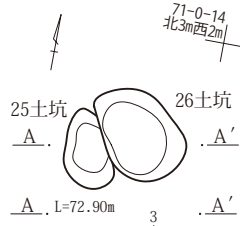
IX区24号土坑



IX区24号土坑A-A'

1. 黒褐色土 砂粒を含む。やや粘性あり。

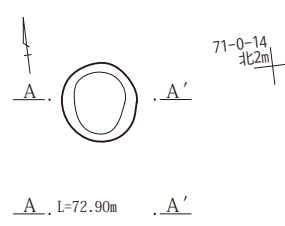
IX区25号・26号土坑



IX区25号・26号土坑A-A'

1. 黒褐色土 砂粒多い。黄褐色シルト粒を含む。(25号土坑埋没土)
2. 黒色土 砂粒・黄褐色シルトの小塊を含む。(26号土坑埋没土)
3. 暗灰黄色粘質土 粘性強い。固くしまっている。(26号土坑埋没土)

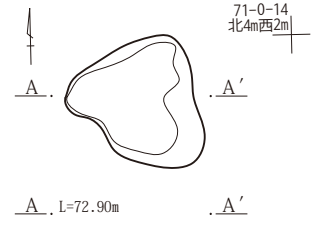
IX区27号土坑



IX区27号土坑A-A'

1. 黒色土 砂粒・黄褐色シルト粒を含む。粘性弱い。

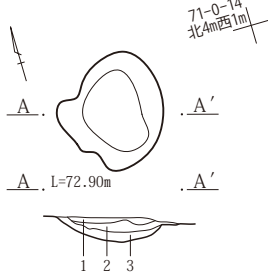
IX区28号土坑



IX区28号土坑A-A'

1. 黒色土 砂粒多い。黄褐色シルト粒を少量含む。
2. オリーブ褐色土 黒褐色土と黄褐色シルトが混合した土。

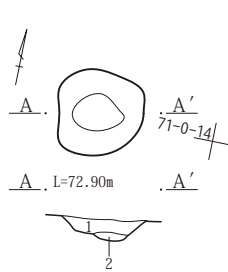
IX区29号土坑



IX区29号土坑A-A'

1. 黒褐色 砂粒・黄褐色シルト粒を含む。
2. 黄灰色砂質土 砂粒を多く含む。
3. 黄褐色土 黒褐色土・黄褐色シルトを含む。

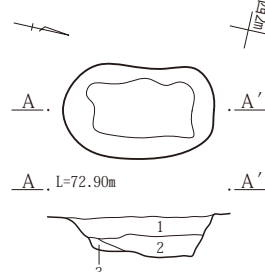
IX区30号土坑



IX区30号土坑A-A'

1. 黒褐色土 砂粒を含む。黄褐色シルトを少量含む。
2. 黄褐色シルト 黒褐色土・砂粒を含む。

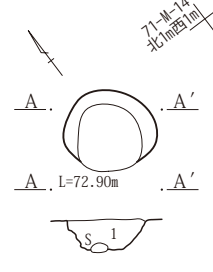
IX区31号土坑



IX区31号土坑A-A'

1. 黒褐色砂質土 砂を層状に含むところがある。
2. 黒色土 やや粘質。黄褐色シルト・砂粒を含む。
3. 黄褐色シルト 粘性あり。黒色土を含む。

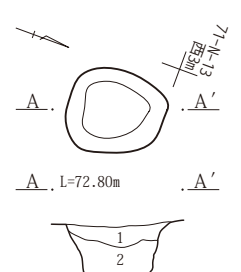
IX区32号土坑



IX区32号土坑A-A'

1. 黒褐色土 黄褐色シルト塊を含む。砂粒を少量含む。

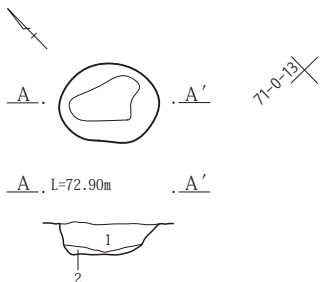
IX区33号土坑



IX区33号土坑A-A'

1. 黒色粘土 細砂粒を含む。固くしまっている。粘性あり。
2. 黒褐色砂質土 粗砂粒を多く含む。にぶい黄褐色粘質土塊が少し混じる。

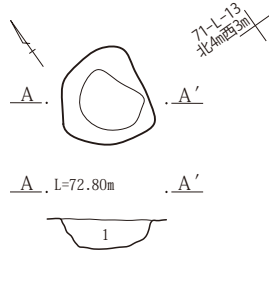
IX区34号土坑



IX区34号土坑A-A'

1. 黒色砂質土 細砂粒を多く含む。褐灰色粘質土塊を少し含む。
2. 黒色粘土 細砂粒を含む。固くしまっている。粘性あり。

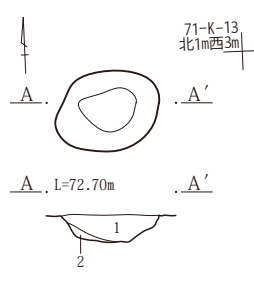
IX区35号土坑



IX区35号土坑A-A'

1. 黒褐色粘土 褐灰色粘質土塊・にぶい黄褐色粘質土塊を少し含む。固くしまっている。粘性少しあり。

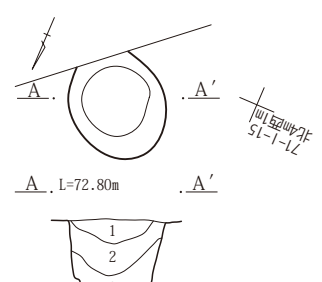
IX区36号土坑



IX区36号土坑A-A'

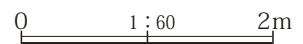
1. 灰黄褐色粘質土塊と黒褐色粘土と黄褐色粘質土塊が混じる。粘性あり。
2. 灰黄褐色粘質土 黒褐色粘質土・粗砂粒を含む。粘性少しあり。

IX区37号土坑



IX区37号土坑A-A'

1. 黒褐色粘土 細砂粒を含む。褐灰色粘質土塊が少し混じる。固くしまっている。粘性少しあり。
2. 黒褐色砂質土 細砂粒を含む。黄灰色粘質土塊とにぶい黄褐色粘質土塊が混じる。固くしまっている。
3. 黒色粘土 細砂粒を含む。褐灰色粘質土塊が少し混じる。固くしまっている。粘性少しあり。



第258図 IX区土坑

粒を含む黒色土で、西側は黒褐色土と黄褐色シルトの混土で埋まっていた。遺物は出土しなかった。

29号土坑は西側に突出部のある楕円形の土坑で、28号土坑の東側で検出された。断面形は浅いボール状。上層は砂粒・黄褐色シルト粒を含む黒褐色土で、下層は砂粒を含む黄灰色砂質土、黒褐色土・黄褐色シルトを含む黄褐色土で埋まっていた。遺物は出土しなかった。

30号土坑は丸い楕円形の土坑で、27号土坑の南側で検出された。断面形は浅いボール状。上層は砂粒・黄褐色シルトを含む黒褐色土で、下層は黒褐色土を含む黄褐色シルトで埋まっていた。遺物は出土しなかった。

31号土坑は隅丸長方形で、30号土坑の南側で検出された。断面形は上方が開く箱状。上層は黒褐色砂質土、中層は黄褐色シルト・砂粒を含む黒色土、下層は黒色土を含む黄褐色シルトで埋まっていた。埋没土中から古墳時代後期のものと推定されるやや厚い土師器坏底部破片1点が出土した。これを重視すれば本土坑は古墳時代後期の土坑である可能性がある。

32号土坑は円形の土坑で、31号土坑の南側で検出された。断面形は上方の開く箱状。黄褐色シルト・砂粒を含む黒褐色土で埋まっていた。遺物は出土しなかった。

33号土坑は不整楕円形の土坑で、30号土坑の東側で検出された。断面形は上方の開く箱状。上層は細砂粒を含む黒色粘土、下層は粗砂・黄褐色粘質土塊を混じる黒褐色砂質土で埋まっていた。遺物は出土しなかった。

34号土坑は丸い楕円形で、31号土坑の南東部で検出された。断面形は箱状。上層は砂粒・褐灰色粘質土塊を含む黒色砂質土で、下層は粗砂を含む黒色粘土で埋まっていた。埋没土中から古墳時代後期のものと推定されるやや厚い土師器甕破片1点が出土した。これを重視すれば本土坑は古墳時代後期である可能性がある。

35号土坑は不整円形の土坑で、32号土坑の南東部で検出された。断面形は浅いボール状。褐灰色粘質土塊・黄褐色粘質土塊を含む黒褐色粘土で埋まっていた。遺物は出土しなかった。

36号土坑は楕円形の土坑で、35号土坑の南側で検出された。断面形は浅いボール状。上層は灰黄褐色粘質土塊と黒褐色粘土の混土で、下層は黒褐色粘質土塊・粗砂を含む灰黄褐色粘質土で埋まっていた。遺物は出土しなかった。

37号土坑は南東部が発掘区域外となり、全形がとらえられなかったが、楕円形の土坑と推定される。断面形は筒状。上層は細砂・褐灰色粘質土塊を混じる黒褐色土で、中層は細砂・黄灰色粘質土塊・黄褐色粘質土塊を混じる黒褐色砂質土で、下層は細砂・褐灰色粘質土塊を混じる黒色粘土で埋まっていた。遺物は出土しなかった。

(3) 溝

IX区古代～古墳時代遺構面では、5条の溝が検出された。溝の位置や規模はP.445の表にまとめた。以下各溝の調査所見を記載する。なお、溝の平面図は個別図を作成せず、1/300の各区全体図でこれに変えた。埋没土層断面図は個々に掲載した。

IX区7号溝（第259・261図 PL.205）

7号溝は、IX区西部の微高地東縁辺で検出された南北方向の溝である。北端・南端ともに浅くなり確認できなくなる。重複遺構は無い。

走向はN-25°-E、上幅は0.25~0.50m、深さは0.10m、調査長14.90mである。断面形は浅いU字形で、底面は凹凸が著しい。底面の標高は北端が南端より0.03m高かった。溝内は黄褐色粘質土塊を含む黒色砂質土で埋まっていた。遺物は出土しなかった。

埋没土や遺構確認面から、古墳時代以降、浅間Bテフラ降下以前の溝と考えられるが、詳細は不明である。

IX区8号溝

(第259・261図 PL.205・226 遺物観察表P.467)

8号溝は、IX区中央やや西部の微高地西縁辺で検出された南北方向の溝である。北端は浅くなり検出できなくなる。南端は発掘区域外となる。中央部がやや広くなる。重複遺構は無い。

走向はN-3°-W、上幅は0.65~2.25m、深さは0.05m、調査長24.60mである。断面形は皿状で、底面は凹凸が著しい。底面の標高は南端が北端より0.09m高かった。溝内は黄灰色粘質土塊を含む黒色粘土で埋まっていた。埋没土中から土師器内斜口縁坏(第259図1)、土師器甕破片2点、台付甕破片1点が出土した。

埋没土や遺構確認面から、古墳時代以降、浅間Bテフラ降下以前の溝と考えられるが、詳細は不明である。

IX区7号溝

A, L=73.00m, A'



IX区7号溝A-A'

1. 黒色砂質土 にぶい黄褐色粘質土小塊を含む。

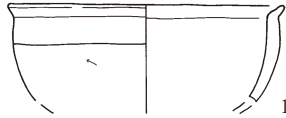
IX区8号溝

A, L=72.60m, A'

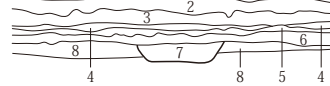


IX区8号溝A-A'

1. 黒褐色砂質土 細砂粒を多く含む。黄灰色粘質土塊が混じる。しまり弱い。



B, L=73.10m, B'



IX区8号溝B-B'

1. 黒褐色土 As-Aを含む。小礫径10mm以下が少し混じる。固くしまっている。
2. 暗灰黄色砂質土 As-Aを下層に多く含む。粗砂粒が混じる。固くしまっている。
3. オリーブ褐色砂質土 As-Bを含む。固くしまっている。
4. 黒褐色砂質土 As-B一次堆積層。
5. 黒褐色粘土 細砂粒を含む。固くしまっている。粘性少しあり。
6. 黄灰色粘土 細砂粒を含む。白色軽石をわずかに含む。固くしまっている。粘性少しあり。
7. 黒色粘土 黄灰色粘質土小塊を少し含む。固くしまっている。粘性あり。
8. 黒褐色粘土 黄褐色シルト小塊を含む。細砂粒を含む。固くしまっている。粘性少しあり。

IX区9号溝

A, L=72.40m, A'



IX区9号溝A-A'

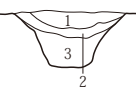
1. 黒褐色粘土 細砂粒を含む。固くしまっている。粘性少しあり。
2. 黒色粘土 細砂粒を含む。固くしまっている。粘性少しあり。
3. 灰黄褐色粘質土 細砂粒を含む。固くしまっている。粘性少しあり。
4. 黒褐色粘土 細砂粒を多く含む。白色軽石が混じる。固くしまっている。
5. 黒褐色粘土 細砂粒を含む。白色軽石が少し混じる。固くしまっている。粘性少しあり。
6. 灰黄褐色粘質土 細砂粒を含む。固くしまっている。粘性少しあり。
7. オリーブ褐色粘質土 細砂粒を含む。固くしまっている。粘性少しあり。

IX区10号溝

A, L=72.50m, A'



B, L=87.30m, B'



IX区10号溝A-A'

1. 黒色粘土 細砂粒を少し含む。黒褐色砂質土が下層に混じる。しまっている。粘性あり。
2. 黒褐色粘土 細砂粒を含み、白色軽石が少し混じる。しまっている。粘性少しあり。
3. 黒褐色粘土 細砂粒を含む。黄褐色粘質土塊が下層に混じる。固くしまっている。粘性少しあり。

IX区10号溝B-B'

1. 黒色粘土 細砂粒を含む。固くしまっている。粘性あり。
2. 黒褐色粘土 細砂粒を多く含む。白色軽石をわずかに含む。固くしまっている。粘性あり。
3. 黒色粘土 細砂粒を含む。暗灰黄色粘質土塊が下層に混じる。固くしまっている。粘性少しあり。

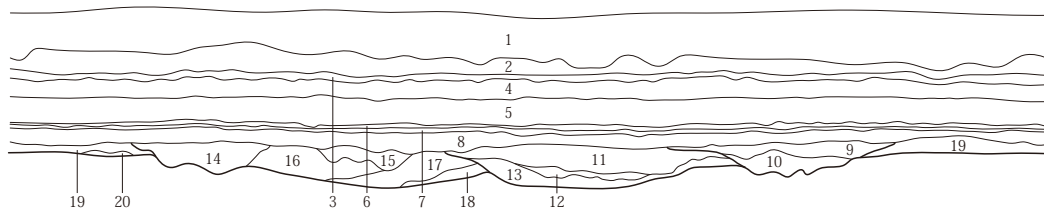
IX区11号溝

A, L=72.40m, A' IX区11号溝A-A'



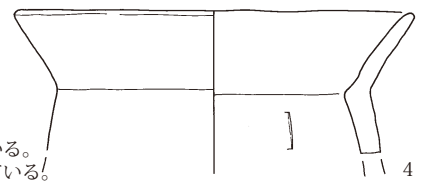
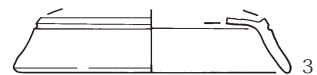
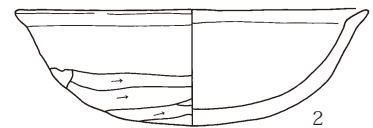
1. 黒褐色粘土 細砂粒を含む。灰黄褐色粘質土小塊を含む。固くしまっている。粘性少しあり。
2. 黒褐色砂質土 細砂粒を多く含む。暗灰黄色粘質土小塊が混じる。固くしまっている。
3. 黒色粘土 細砂粒を含む。白色軽石が少し混じる。固くしまっている。粘性少しあり。
4. 黒褐色砂質土 細砂粒を多く含む。オリーブ褐色粘質土塊が下層に混じる。固くしまっている。

B, L=73.60m, B'



IX区11号溝B-B'

1. 盛土
2. 黒褐色土 As-A・小礫径10mm以下を含む。固くしまっている。(現代までの耕作土)
3. 暗褐色土 As-Aを含む。固くしまっている。
4. 黒褐色土 As-Aが少し混じる。固くしまっている。
5. にぶい黄褐色砂質土 下層にAs-Bを多く含む。固くしまっている。
6. 暗オリーブ褐色土 As-B一次堆積層。くずれやすい。
7. 黒色粘土 細砂粒を含む。固くしまっている。粘性少しあり。
8. 黒褐色粘土 白色軽石・褐色細砂粒小塊を含む。固くしまっている。
9. 黒褐色粘土 細砂粒を含み、褐色細砂粒小塊(FAか?)が多く混じる。白色軽石を含む。固くしまっている。
10. 灰黄褐色砂質土 細砂粒を多く含む。黒褐色粘質土塊が混じる。白色軽石を少し含む。固くしまっている。
11. 黒褐色粘土 細砂粒を含む。褐色細砂粒小塊が多く混じる。固くしまっている。
12. 黒褐色砂質土 細砂粒を多く含む。固くしまっている。
13. 黒褐色砂質土 細砂粒を多く含む。にぶい黄褐色粘質土小塊が混じる。固くしまっている。
14. 黒褐色粘土 細砂粒を含む。褐色細砂粒小塊を多く含む。白色軽石が混じる。固くしまっている。
15. 黒褐色粘土 白色軽石・褐色細砂粒小塊を多く含む。固くしまっている。
16. 黒色粘土 細砂粒を含む。白色軽石・褐色細砂粒小塊が少し混じる。固くしまっている。
17. 灰黄褐色砂質土 黒褐色粘質土塊を含む。固くしまっている。
18. 黒色粘土 細砂粒を含む。褐色細砂粒小塊が少し混じる。しまっている。粘性あり。
19. 黒褐色粘土 細砂粒を含む。褐色細砂粒小塊が多く混じる。白色軽石が少し混じる。固くしまっている。
20. 灰黄褐色粘質土 細砂粒を含む。白色軽石が多く混じる。褐色細砂粒小塊が少し混じる。固くしまっている。



0 1:60 2m

0 1:3 5cm

第259図 IX区溝と出土遺物

Ⅸ区9号溝 (第259・261図 PL.205・206)

9号溝は、Ⅸ区中央部のやや東側で検出された溝である。Ⅸ区東半部には凹地があり、その谷頭部に向かって掘られている。北西端は調査区域外となる。南東端は谷頭に合流する。10号溝と重複するが、9号溝が新しい。

走向はN-23°-W、上幅は1.85~3.28m、深さは0.18m、調査長14.00mである。断面形は浅い皿状で、底面は凹凸が著しい。底面の標高は南端が北端より0.03m高かった。溝内は細砂を黒色粘土で埋まっていた。遺物は出土しなかった。

埋没土や遺構確認面から、古墳時代以降、浅間Bテフラ降下以前の溝と考えられるが、詳細は不明である。

Ⅸ区10号溝 (第259・261図 PL.205・206)

10号溝は、Ⅸ区北東部の微高地南縁辺で検出された溝である。西端は9号溝と重複するが、9号溝が新しい。東端は11号溝と重複し発掘区域外となり、Ⅷ区5号溝に連続する。11号溝との新旧関係は不明である。

走向はN-73°-W、上幅は0.47~1.01m、深さは0.16m、調査長34.20mである。断面形は台形で、底面は平坦である。底面の標高は北西端が南東端より0.11m高かった。溝内は細砂を含む黒色粘土や黒褐色粘土で埋まっていた。遺物は出土しなかった。

埋没土や遺構確認面から、古墳時代以降、浅間Bテフラ降下以前の溝と考えられるが、詳細は不明である。

Ⅸ区11号溝

(第259・261図 PL.205・206・226 遺物観察表P.467・468)

11号溝は、Ⅸ区北東隅の微高地南縁辺で検出された溝である。北端は発掘区域外となる。南東端は10号溝と重複し発掘区域外となり、Ⅷ区7号溝に連続する。10号溝との新旧関係は不明である。

走向はN-45°-W、上幅は1.97~3.72m、深さは0.36m、調査長13.20mである。断面形は浅い皿状で、底面は凹凸が著しい。底面の標高は北西端が南東端より0.06m高かった。

溝内は細砂・黄褐色土塊を含む黒色粘土や黒褐色粘土で埋まっていた。図示した土師器甕(第259図4)、内斜口縁坏(2)、須恵器蓋(3)は埋没土中から出土した。他に埋没土中から土師器碗破片2点、坏破片12点、甕破片

22点、台付甕破片1点が出土した。

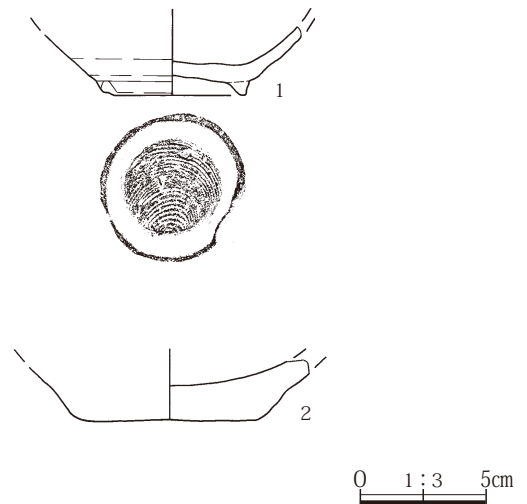
埋没土や遺構確認面から、古墳時代以降、浅間Bテフラ降下以前の溝と考えられる。埋没土中から出土した土師器は5~6世紀のものであり、本溝は古墳時代中・後期の溝である可能性が高い。

(4) 遺構外の出土遺物

(第260図 PL.226 遺物観察表P.468)

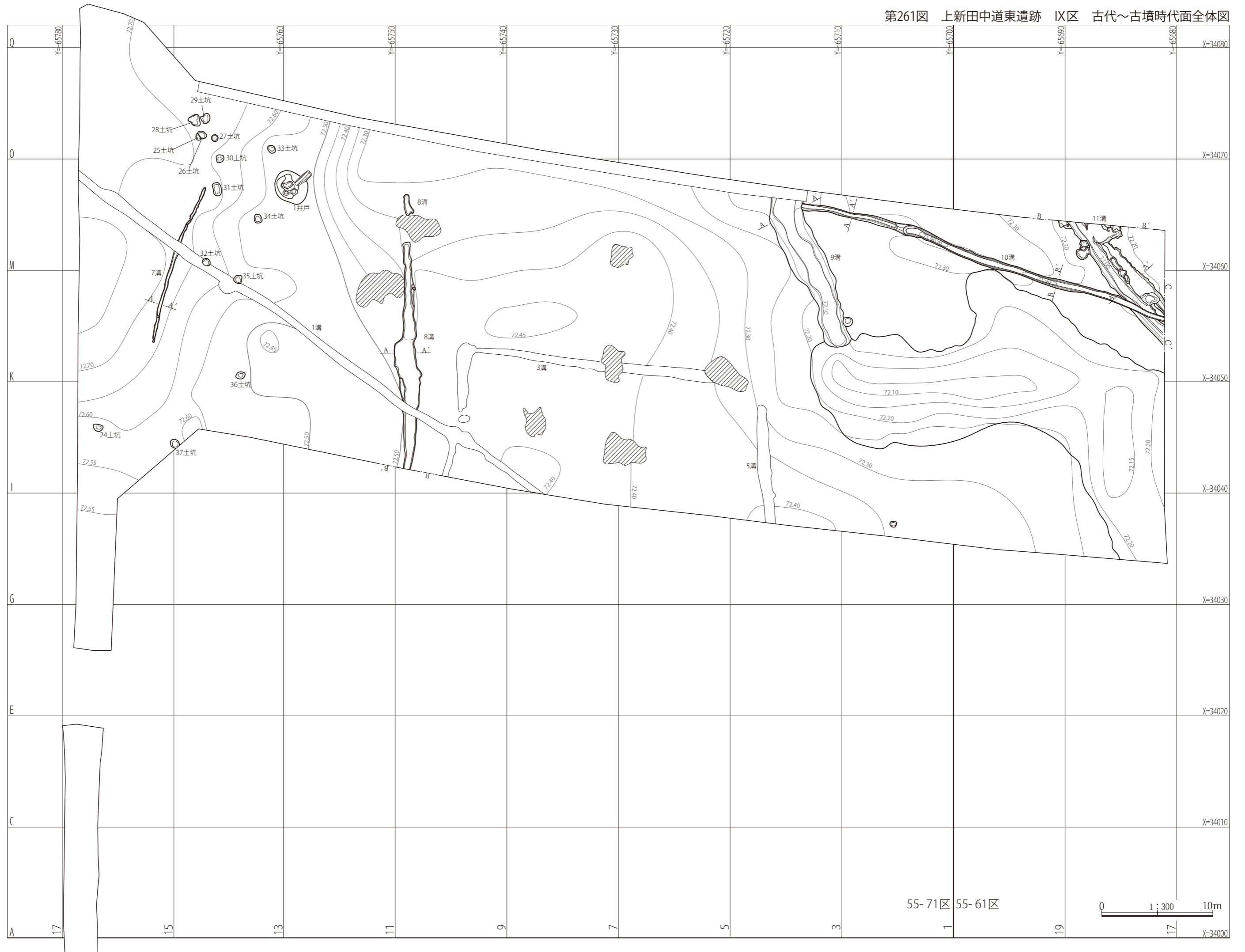
Ⅸ区調査の遺構確認中に、遺構に伴わない形で第11表のように多くの遺物を出土した。ここでは、Ⅷ層上面の遺構確認時に出土した遺物を掲載した。

古代の遺物では、須恵器碗(第260図1)、土師器壺(2)を図示した。



第260図 Ⅸ区遺構外の出土遺物(古代～古墳時代)

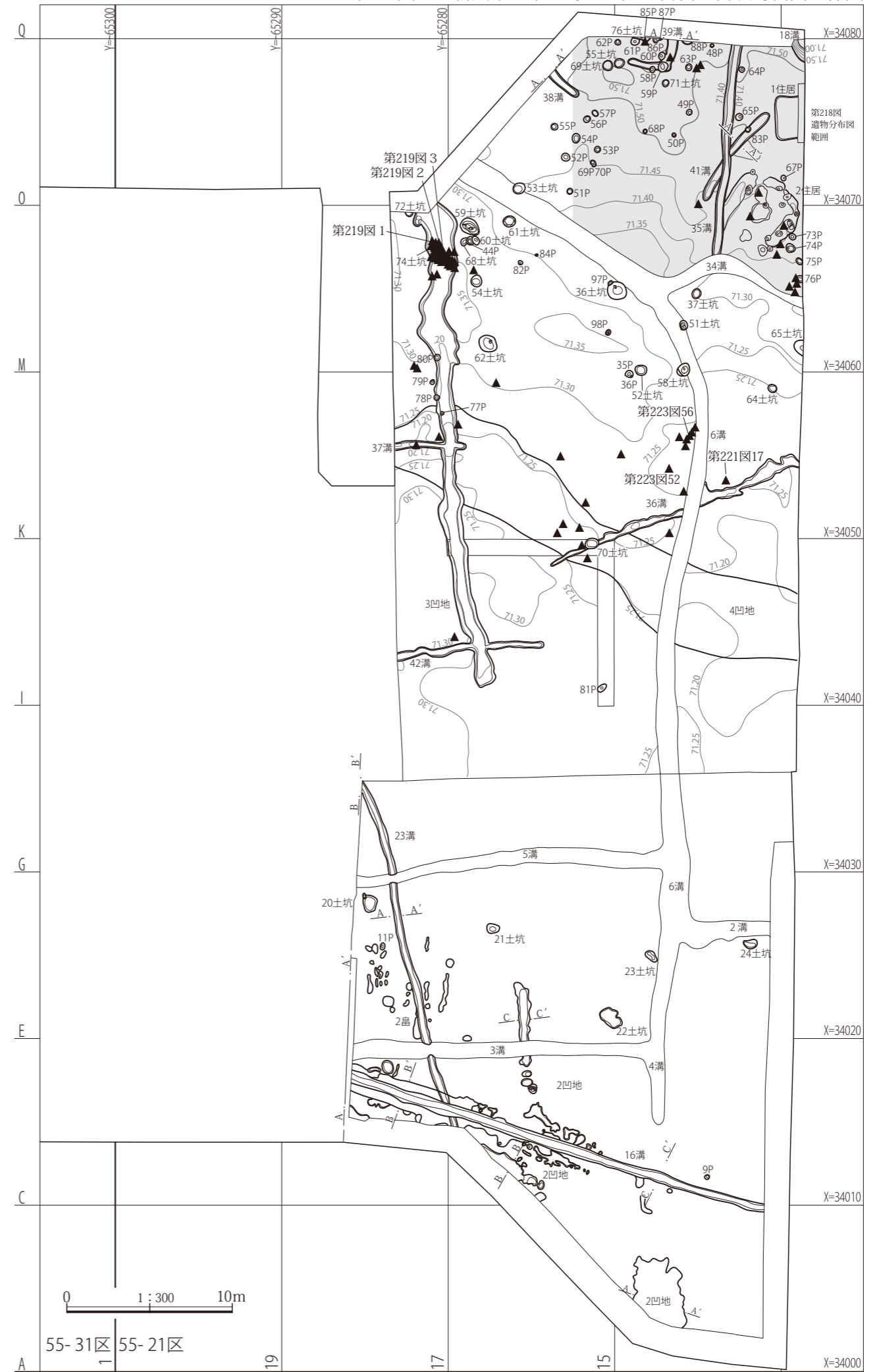
第261図 上新田中道東遺跡 IX区 古代～古墳時代面全体図



第262図 上新田中道東遺跡 VIII区 古代～古墳時代面全体図



第264図 上新田中道東遺跡 V区 古代～古墳時代面全体図



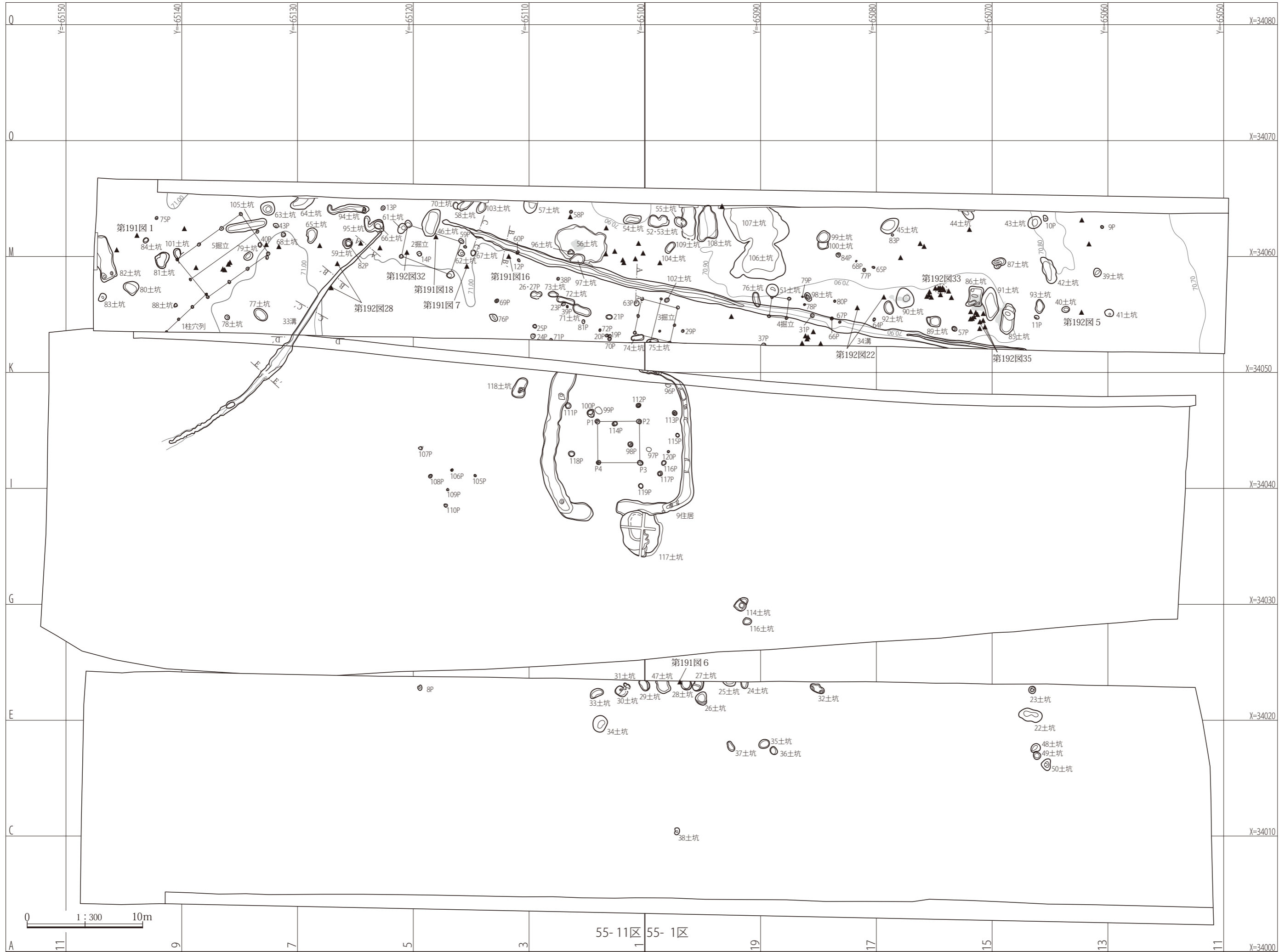


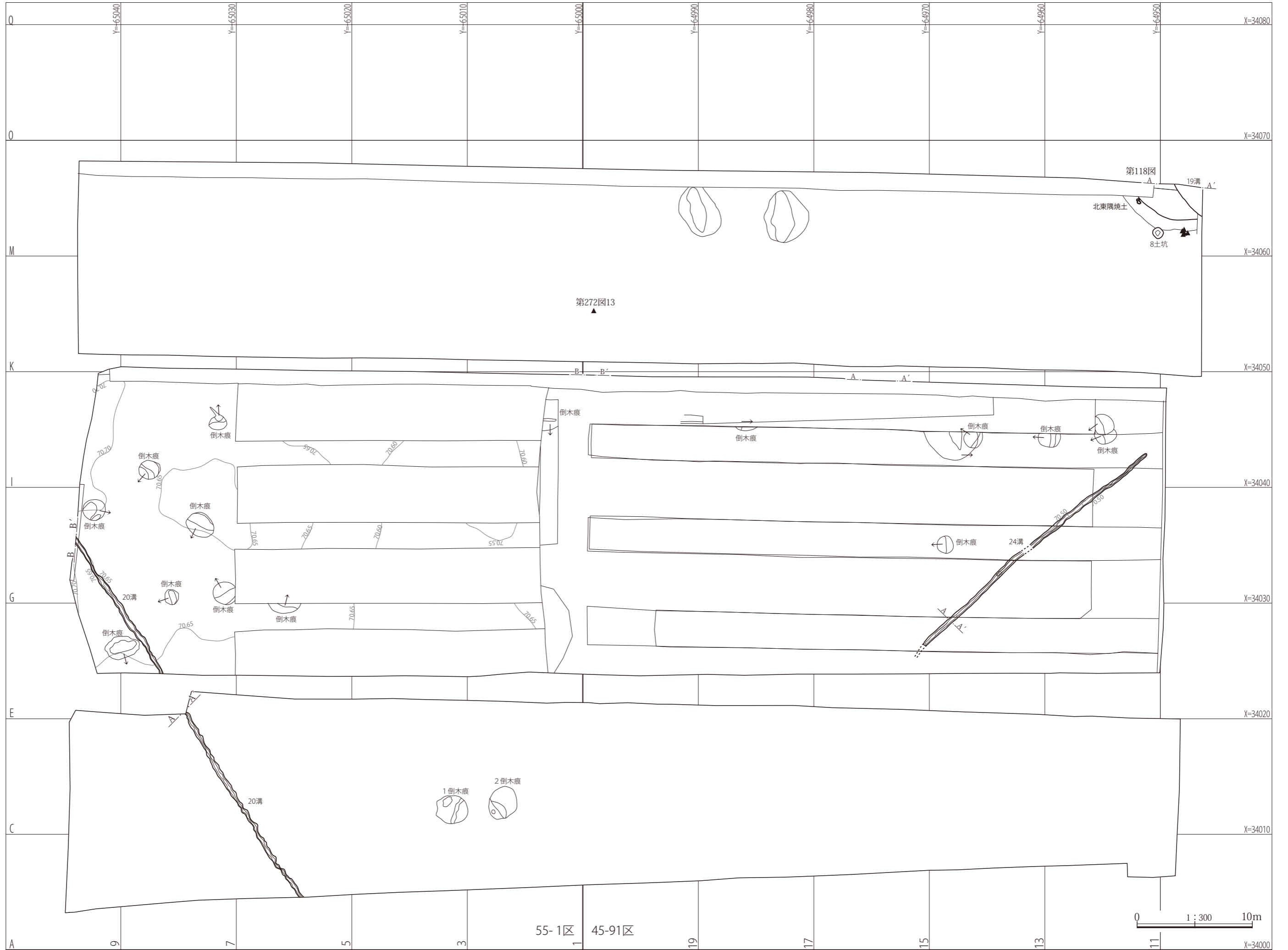
55-21区 55-11区

0 1:300 10m

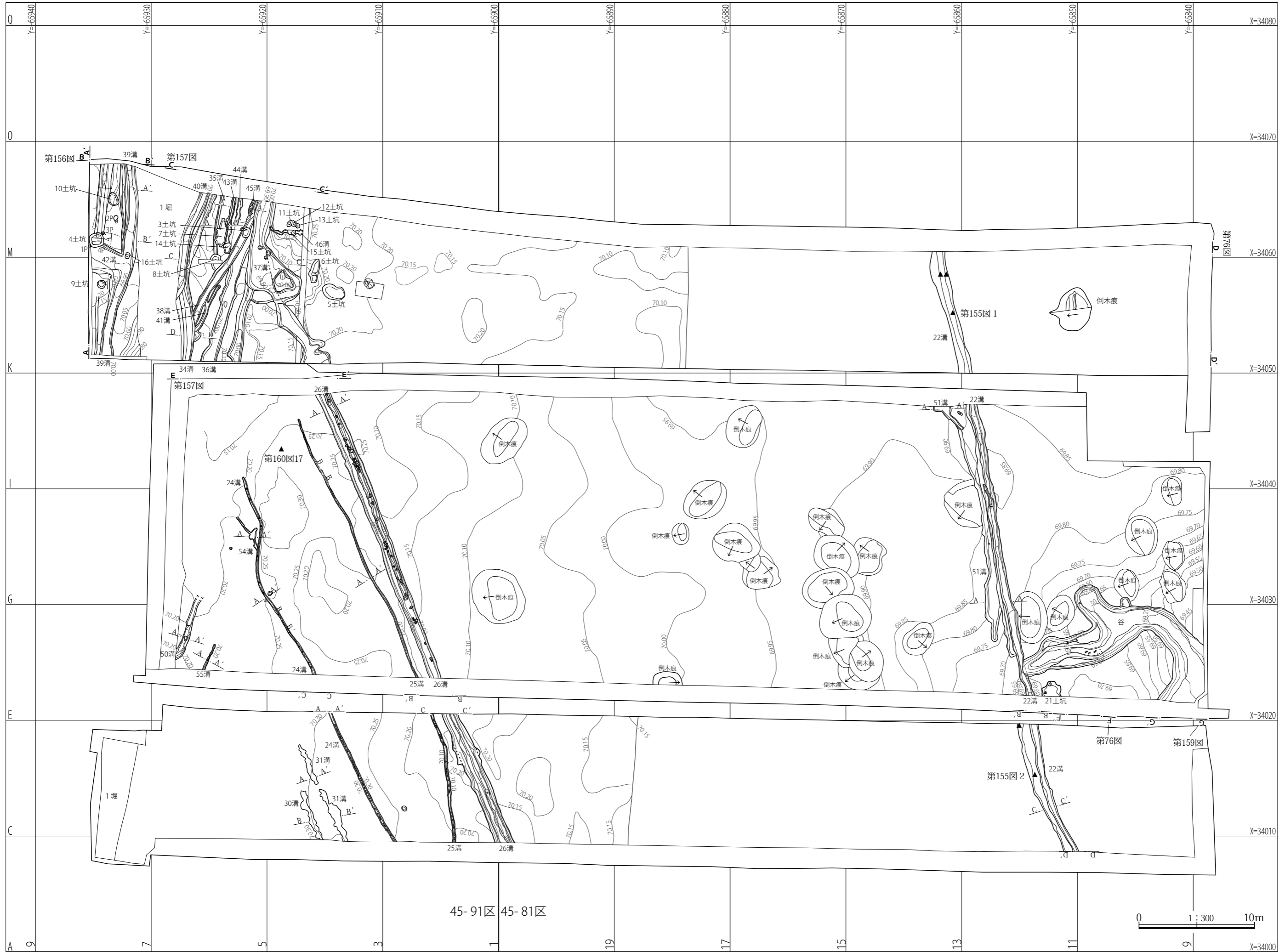
X=34000

第266図 上新田中道東遺跡 Ⅲ区 古代～古墳時代面全体図





第268図 上新田中道東遺跡 I区 古代～古墳時代面全体図



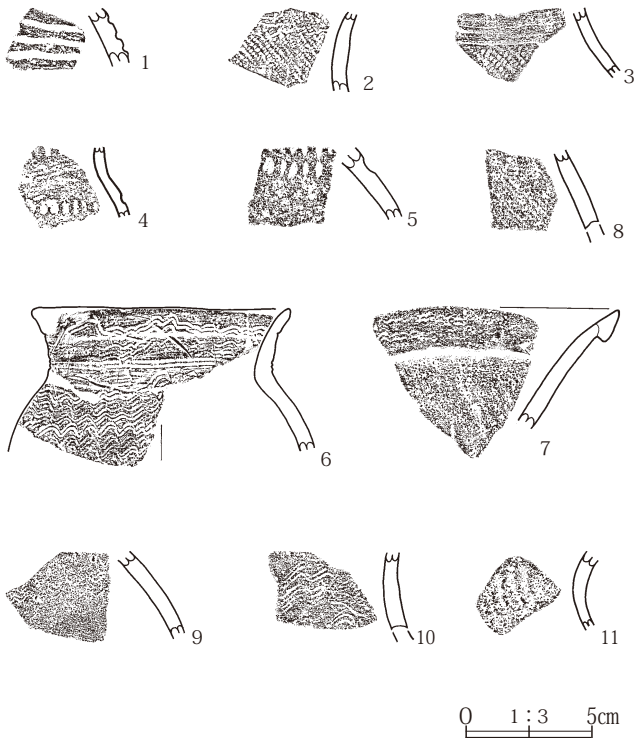
第7章 弥生・縄文時代の出土遺物

1. 概要

上新田中道東遺跡の調査では、遺構に伴わないで出土した遺物を、区・グリッドごとに表面採集遺物として取りあげた。その出土数は第11表に示した。このうち土師器・須恵器・陶器・磁器・土器は各区の確認面出土遺物として、第3章から第6章で報告した。すべての遺物を掲載することはできなかったため、時期や内容を表すように選択して掲載した。

ここでは、本遺跡で出土した弥生時代・縄文時代の遺物を報告する。本遺跡では弥生時代・縄文時代の遺構は検出されていないが、遺構確認面や新しい遺構の埋没土中から、土器や石器が出土した。

弥生時代の遺物は土器11点で、中期後半から後期にかけての破片である。縄文時代の遺物は土器と石器が出土した。縄文土器の出土は6点で、本遺跡で出土した縄文土器の全点である。石器は42点が出土した。このうち33点を掲載した。



第269図 遺構外出土の弥生土器

2. 弥生時代の遺物

(第269図 PL.227 遺物観察表P.469)

上新田中道東遺跡では、弥生時代の遺構は検出されなかったが、その存在は重要であるので遺構外出土の破片11点全点を掲載した。この他に古墳時代前期の、I区4号土坑やIV区1号方形周溝墓周溝埋没土からも弥生土器が出土している。I区4号土坑出土の土器(第153図3)は縄文が施文された吉ヶ谷式系の小型壺形土器で完形である。IV区1号方形周溝墓から出土した土器(第201図2・3)は北総地域の後期弥生土器に類似した破片である。これらはいずれも古墳時代初頭の土器とともに古墳時代初頭の遺構から出土した。

上新田中道東遺跡周辺では、弥生時代の遺跡はごく少ないが、徳丸仲田遺跡や福島飯塚遺跡では中期後半の御新田式土器が出土し、上飯島芝根Ⅱ遺跡では同式期の住居が確認されている。一万田遺跡では中期後半竜見町式期の土坑が検出されている。また、福島飯塚遺跡や神人村Ⅱ遺跡では後期樽式土器や吉ヶ谷式系の土器が出土している。弥生時代後期の遺構は検出されていないが、前橋台地末端の低地内に埋没した微高地上に小規模な集落が立地していることは十分推定されることから、地道な調査が必要と思われる。

ここでは、11点の弥生土器破片を掲載した(第269図 PL.227)。第269図1は中期の壺破片である。2・3は縄文が施文された土器群である。壺か甕であろう。2・3はRLで弥生土器では類例が少ない。4・5は刺突文のある土器である。4は壺で、5は器種不明である。6～11は櫛描文が付された樽式土器である。6は甕、7は壺、8～11は器種不明の小破片である。

これらの弥生土器破片はI区・II区・IV区・V区から出土した。出土位置は発掘区全体の東半部に偏っており、後述する縄文時代遺物に共通する分布傾向を示している。弥生土器が出土したI区・II区・IV区・V区は微高地になっており、特にIV・V区には古墳時代前期の遺構も多数検出されている。周辺の調査の際には、弥生時代の遺構も視野に入れておく必要がある。

3. 縄文時代の遺物

(第270～273図 PL.227・228 遺物観察表P.469・470)

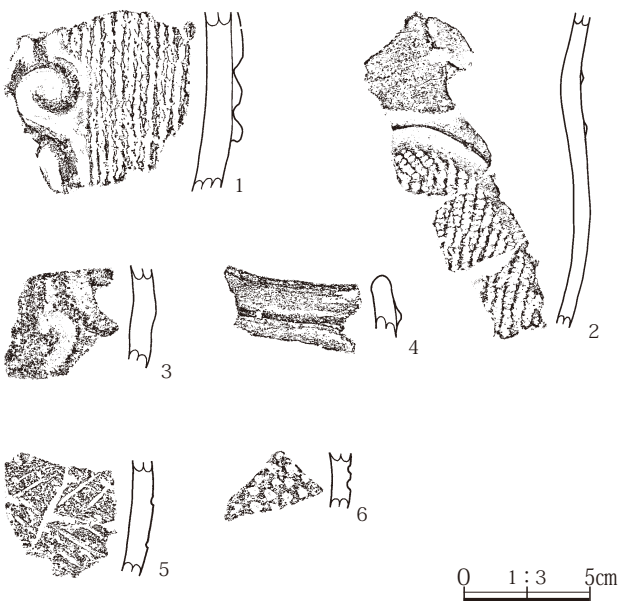
上新田中道東遺跡では遺構が検出されなかったが、縄文時代の石器および土器が出土した。

縄文土器は図示した6点が出土した縄文土器のすべてである。第270図3(加曾利E 3式)のみⅨ区で出土したが、1(加曾利E 2式)と6(堀ノ内式)はⅠ区、5(後期前半)はⅣ区、2と4(加曾利E 4式)はⅤ区から出土し、遺跡東半部に偏在していた。これは後述する石鏃を中心とする縄文石器の偏在性と共通している。(PL.227)

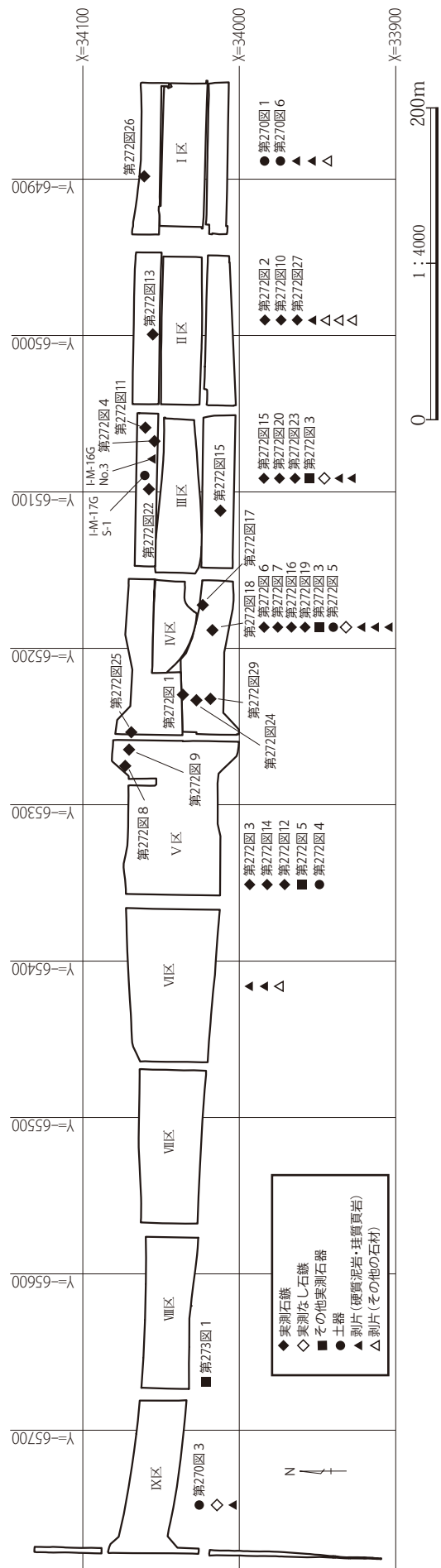
縄文時代の石器類は全点分類し、石器40点、剥片25点に分けられた。剥片の石材の内訳は、硬質泥岩10点、珪質頁岩6点、黒色頁岩1点、黒色安山岩2点、チャート1点、黒曜石1点、石英2点、ホルンフェルス1点である。石材は群馬県内で縄文時代に一般的に利用されていたもので、特殊な石材は見られなかった。

石器40点の内訳は、石匙1点(1点)、石皿1点(1点)、加工痕ある剥片3点(0点)、削器1点(1点)、石鏃28点(25点)、打製石斧2点(2点)、有舌尖頭器4点(3点)である。このうち、小片は除き、上記()内に示した合計33点の石器を実測・掲載した。(PL.227・228)

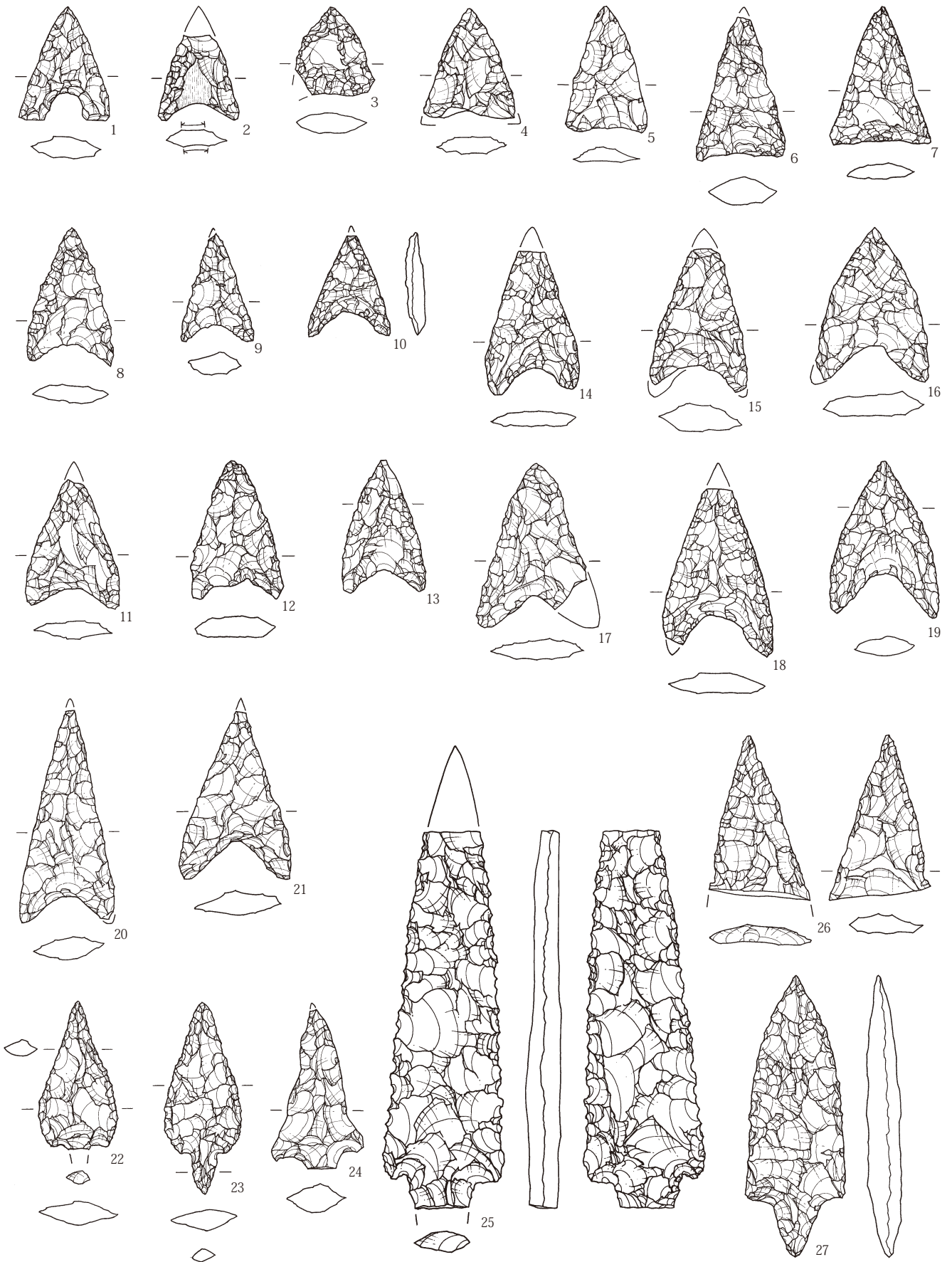
第272図に示したのは最も多く出土した石鏃と有舌尖頭器である。1はチャート製のいわゆる鋏形石鏃で縄文時代早期押型文式期に見られるタイプの石鏃である。2



第270図 遺構外出土の縄文土器



第271図 遺構外出土の縄文時代遺物の分布



0 1:1 2cm

第272図 遺構外出土の石器(1)

は黒曜石製の、研磨してから加工する石鏃で、縄文時代後期に多いと言われている資料である。3～7は平基石鏃で、3・4は黒曜石製で三角形、5は黒色頁岩、6・7はチャート製の二等辺三角形のタイプである。8～21は凹基石鏃であるが、小型(8～13)、やや大型(14～19)、大型で長身(20・21)の3種類に分けられる。石材はチャート・黒曜石・黒色頁岩・黒色安山岩である。22・24は黒色頁岩製の、23は黒色安山岩製の有茎石鏃で縄文時代中・後期の石鏃と言われている。25～27は有舌尖頭器である。25は黒色頁岩製で先端を決しているが、大型で美しい柳葉形をしている。26はチャート、27は黒色頁岩製である。表面の摩耗が著しく図示できなかった28は黒色頁岩製である。写真のみ掲載した。(PL.228)

第273図1は珪質頁岩製の石匙で、1点のみⅧ区から出土した。2は珪質頁岩製の削器、3は硬質泥岩製の分銅型石斧である。4はホルンフェルス製の短冊型石斧である。5は緑色片岩の無縁石皿で、表裏面とも摩耗があり使用されている。

縄文時代の石器の出土位置(第271図)を見ると、第273図1の石匙がⅧ区で、実測対象から外れた石鏃1点がⅨ区で出土しているのを除き、ほとんどが遺跡東半部に集中している。特に石鏃は27点が東半部に偏在して出土した。石器の時期を確定することは困難であるが、縄文時代の狩猟活動を示した分布である可能性が考えられよう。

石鏃28点中未成品は3点のみで、その大部分は完成状態にあった。打製石斧も刃部摩耗等から完成状態にあることは明らかであった。剥片類は25点が出土したのみであるが、碎片が無く大型剥片が多い特徴があった。これらのことから、石鏃等は遺跡内製作とするより搬入石器として理解すべきだろう。これに対して、削器(第273図2)および粗粒輝石安山岩製の1点を除く加工痕ある剥片2点は、出土した剥片類と同サイズの剥片(100g前後の硬質泥岩と珪質頁岩)を用いており、便宜的石器として遺跡内製作された可能性がある。少量の加工具類を製作するような状況が縄文時代のある時期にあったのだろう。剥片類の出土(分布)がそのことを示唆している。



第273図 遺構外出土の石器(2)

第8章 自然科学的分析報告

1. 分析の目的と成果

上新田中道東遺跡では、遺跡の理解を深めるために、下記の目的でそれぞれの専門家に依頼または委託して自然科学的分析を実施した。分析結果は本文の記述および第9章の総括に反映させたが、分析内容の詳細は本章を参照願いたい。

(1) 土壌分析

上新田中道東遺跡では広範囲に沖積層が堆積し、テフラ層や洪水層が挟在していた。発掘調査はこれらの土層を鍵層として実施したので、それらの同定は不可欠であった。そこで、テフラ検出分析・植物珪酸体分析・花粉分析は株式会社古環境研究所に委託して実施した。調査が開始されたⅡ・Ⅲ区で、指標となるテフラについて層位を記載し、テフラの同定をおこなった。浅間Bテフラの直下からは水田面が検出されている。また浅間Bテフラを鋤き込んだ水田痕跡が検出され、両者の比較によって古代から中世にかけての水田耕作の推移を考える資料を得ることができた。

また、浅間Bテフラ直下の黒色粘質土(ⅣA層)は、その成因やテフラ降下直前の植性や環境を解明することが課題となっている。上新田中道東遺跡では顕著に認められたⅠ区で、その課題に対応するために必要な情報を得ることを目的として、植物珪酸体分析および花粉分析を実施した。

Ⅷ区では、古墳時代の地層と考えられる土層が検出されたが、遺物や遺構が伴う出土状態ではなかった。そこで、地層の時期および土地利用を明らかにするために、テフラ分析と植物珪酸体分析を実施した。

(2) 大型植物遺体同定

上新田中道東遺跡Ⅱ・Ⅲ区の井戸や土坑などから大型植物遺体が出土した。これらの植物遺体から、当時の食物や周辺植性を検討する資料を得ることを目的として、株式会社パレオ・ラボに委託して同定作業を実施した。古墳時代前期のⅡ区8号土坑からは栽培植物のモモとイネ、ヒョウタン仲間が出土したことがわかった。また中世遺構と推定されるⅢ区1号井戸からはモモ、Ⅲ区3

号溝からはブナ殻斗が出土していることが判明した。ブナの出土は平野部では希少な出土例であり注目される。

(3) 棒状遺物の材質分析

古墳時代前期のⅡ区8号土坑から出土した棒状遺物は、発掘調査で出土した当初は、木製の火鑿杵と考えていた。整理作業にあたり、樹種の同定を株式会社パレオ・ラボに委託して実施したところ、「植物組織をもたないことから、植物遺体とは考えられない。横断面の顕微鏡観察では多数の気泡を伴う固結発泡した生成物で、有機質と推定される」との結果を得た。

そこで、この遺物の材質を改めて明らかにする必要があることから、有機質の材質分析としてはスタンダードな「赤外分光分析」を株式会社パレオ・ラボに委託して実施した。その結果、「市販品の生漆に近いスペクトルが得られた。」また、外面に見られた植物組織様の圧痕はタケ類の稈に内部組織・構造が類似していることが報告された。

本資料が漆である可能性がでてきたことから、出土資料や既存研究のあまりない古墳時代前期の漆資料を扱うにあたり、原始・古代の木質遺物研究全体のなかで漆の利用を追及しておられる首都大学東京考古学教室の山田昌久教授に広い視野でのご助言を得たいと考え、資料をみていただいた。山田教授から、材質の特定を確実にするため、「熱分解-GC/MS分析」を実施することを勧められ、東京文化財研究所の北野信彦先生に依頼して実施した。山田教授のコメントと北野先生の分析報告および関連調査は第9章にまとめた。

(4) 獣骨の同定・人骨の鑑定

上新田中道東遺跡では主として中世以降の土層中から牛及び馬と推定された骨破片が出土した。調査では生産遺構の層準でウシやウマの蹄跡が検出されており、畜耕等に関わる遺物である可能性があることから、獣種を確定するために生物化学研究所および宮崎重雄氏に委託して、獣骨の同定をおこなった。このうち、Ⅱ区の中世から近世の土層で出土した焼骨破片は「ヒトの可能性が高いが確定できない」との結果がでている。

2. 上新田中道東遺跡 I 区の自然科学分析

I. 自然科学分析の概要

上新田中道東遺跡の発掘調査では、浅間 B テフラ (As-B, 1108年) 直下で層厚数 cm 程度の黒褐色粘質土層が検出された。これは、群馬県南東部の比較的広い範囲で浅間 B テフラ直下において認められている黒褐色腐植土層 (粘質土層) と類似しており、その成因や当時の植生・環境の解明が検討課題となっていた。ここでは、これらの課題に関する情報を収集する目的で植物珪酸体分析および花粉分析を行った。

分析対象は、上新田中道東遺跡の I 区 C 南壁において 5 層～ 12 層から採取された計 12 点である。植物珪酸体分析はこれらのすべてについて、花粉分析は 9 層～ 12 層の計 4 点について分析を行った。試料採取箇所を分析結果の模式柱状図に示す。なお、8 層は浅間 B テフラ (As-B, 1108年)、13 層は浅間 C テフラ (As-C, 4 世紀初頭) 混層である。

II. 植物珪酸体 (プラント・オパール) 分析

1. はじめに

植物珪酸体は、植物の細胞内に珪酸 (SiO_2) が蓄積したもので、植物が枯れたあともガラス質の微化石 (プラント・オパール) となって土壤中に半永久的に残っている。植物珪酸体分析は、この微化石を遺跡土壌などから検出して同定・定量する方法であり、イネをはじめとするイネ科栽培植物の同定および古植生・古環境の推定などに応用されている (杉山, 2000)。

2. 分析法

植物珪酸体の抽出と定量は、ガラスビーズ法 (藤原, 1976) を用いて、次の手順で行った。

- 1) 試料を 105℃ で 24 時間乾燥 (絶乾)
- 2) 試料約 1 g に対し直径約 40 μm のガラスビーズを約 0.02g 添加 (0.1mg の精度で秤量)
- 3) 電気炉灰化法 (550℃ ・ 6 時間) による脱有機物処理
- 4) 超音波水中照射 (300W ・ 42kHz ・ 10 分間) による分散
- 5) 沈底法による 20 μm 以下の微粒子除去
- 6) 封入剤 (オイキット) 中に分散してプレパラート作成
- 7) 検鏡・計数

同定は、400 倍の偏光顕微鏡下で、おもにイネ科植物の機動細胞に由来する植物珪酸体を対象として行った。計数は、ガラスビーズ個数が 400 以上になるまで行った。これはほぼプレパラート 1 枚分の精査に相当する。試料 1 g あたりのガラスビーズ個数に、計数された植物珪酸体とガラスビーズ個数の比率をかけて、試料 1 g 中の植物珪酸体個数を求めた。

また、おもな分類群についてはこの値に試料の仮比重 (1.0 と仮定) と各植物の換算係数 (機動細胞珪酸体 1 個あたりの植物体乾重、単位: 10⁻⁵ g) をかけて、単位面積で層厚 1 cm あたりの植物体生産量を算出した。これにより、各植物の繁茂状況や植物間の占有割合などを具体的にとらえることができる (杉山, 2000)。

3. 分析結果

検出された植物珪酸体の分類群は以下のとおりである。これらの分類群について定量を行い、その結果を表 1 および第 274 図に示した。主要な分類群について顕微鏡写真を示す。

[イネ科]

イネ、ヨシ属、キビ族型、ススキ属型(おもにススキ属)、ウシクサ族 A (チガヤ属など)、ウシクサ族 B (大型)、ジュズダマ属、A タイプ(くさび型)

[イネ科-タケ亜科]

メダケ節型(メダケ属メダケ節・リュウキュウチク節、ヤダケ属)、ネザサ節型(おもにメダケ属ネザサ節)、チマキザサ節型(ササ属チマキザサ節・チシマザサ節など)、ミヤコザサ節型(ササ属ミヤコザサ節など)、未分類等

[イネ科-その他]

表皮毛起源、棒状珪酸体(おもに結合組織細胞由来)、茎部起源、未分類等

[樹木]

その他

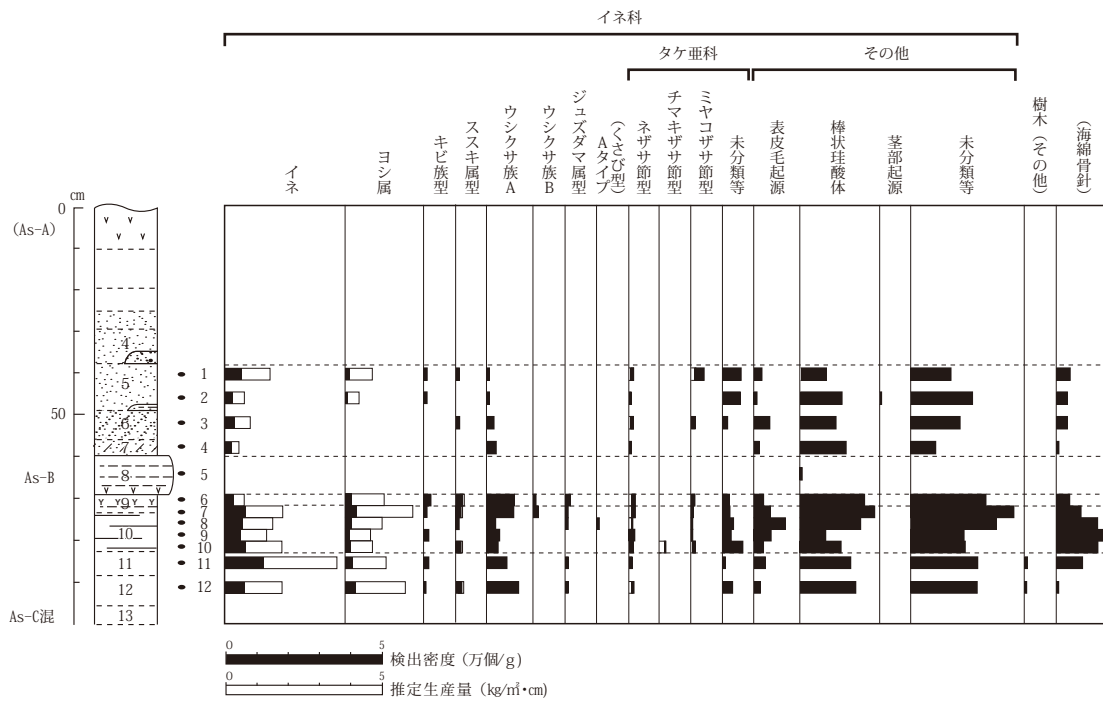
第12表 上新田中道東遺跡における植物珪酸体分析結果

検出密度(単位: ×100個/g)

分類群	学名	地点・試料											
		I 区 C 南壁											
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
イネ科	Gramineae												
イネ	Oryza sativa	49	20	27	14		20	63	52	45	62	125	63
ヨシ属	Phragmites	14	7				20	35	19	13	14	21	31
キビ族型	Paniceae type	7	7				20	7		13		14	6
ススキ属型	Miscanthus type	7		7			20	14	6		14		19
ウシクサ族 A	Andropogoneae A type	7	7	20	28		86	84	26	39	34	62	100
ウシクサ族 B	Andropogoneae B type						7	14					
ジュズダマ属型	Coix type						13	7	6			7	6
A タイプ(くさび型)	A type								6				
タケ亜科	Bambusoideae												
ネザサ節型	Pleiblastus sect. Nezasa	14	7	14	7		20	21	13	19	14	7	13
チマキザサ節型	Sasa sect. Sasa etc.										21		
ミヤコザサ節型	Sasa sect. Crassinodi	42		14			13	7	6	6	14		
未分類等	Others	56	54	14			20	21	32	26	62	7	31
その他のイネ科	Others												
表皮毛起源	Husk hair origin	21	7	48	14		27	49	97	52	28	35	19
棒状珪酸体	Rodshaped	84	135	116	148	7	206	238	195	84	131	159	175
茎部起源	Stem origin		7										
未分類等	Others	127	196	156	78		239	328	273	169	172	215	213
樹木起源	Arboreal												
その他	Others											7	6
(海綿骨針)	Sponge spicules	42	34	34	7		40	77	130	149	131	83	6
植物珪酸体総数	Total	429	447	415	289	7	711	887	734	468	565	659	682

おもな分類群の推定生産量(単位: kg / m²・cm): 試料の仮比重を1.0と仮定して算出

イネ	Oryza sativa	1.45	0.60	0.80	0.41		0.59	1.85	1.53	1.34	1.82	3.68	1.85
ヨシ属	Phragmites	0.89	0.43				1.26	2.20	1.23	0.82	0.87	1.33	1.96
ススキ属型	Miscanthus type	0.09		0.08			0.25	0.17	0.08		0.17		0.24
ネザサ節型	Pleiblastus sect. Nezasa	0.07	0.03	0.07	0.03		0.10	0.10	0.06	0.09	0.07	0.03	0.06
チマキザサ節型	Sasa sect. Sasa etc.										0.16		
ミヤコザサ節型	Sasa sect. Crassinodi	0.13		0.04			0.04	0.02	0.02	0.02	0.04		



第274図 上新田中道東遺跡：I区C南壁における植物珪酸体分析結果

4. 考察

(1) 稲作跡の検討

水田跡(稲作跡)の検証や探査を行う場合、一般にイネの植物珪酸体(プラント・オパール)が試料1gあたり5,000個以上と高い密度で検出された場合に、そこで稲作が行われていた可能性が高いと判断している(杉山, 2000)。なお、密度が3,000個/g程度でも水田遺構が検出される事例があることから、ここでは判断の基準を3,000個/gとして検討を行った。

I区C南壁では、5層(試料1)から12層(試料12)までの層準について分析を行った(第274図)。その結果、浅間Bテフラ層準の8層(試料5)を除く各試料からイネが検出された。このうち、11層(試料11)では密度が12,500個/gとかなり高い値であり、5層上部(試料1)、10層(試料7~10)、12層(試料12)でも4,500~6,300個/gと高い値である。したがって、これらの層準では稲作が行われていた可能性が高いと考えられる。

浅間Bテフラ直下の9層(試料6)では密度が2,000個/gと比較的低い値であり、6層(試料3)と7層(試料4)でも1,400~2,700個/gと比較的低い値である。イネの密度が低い原因としては、1)稲作が行われていた期間が短かったこと、2)土層の堆積速度が速かったこと、3)採取地点が畦畔など耕作面以外であったこと、4)上層や他所からの混入などが考えられる。9層については直上をテフラ層で覆われていることから、1)の要因が大きいと考えられる。

(2) イネ科栽培植物の検討

植物珪酸体分析で同定される分類群のうち栽培植物が含まれるものには、イネ以外にもムギ類、ヒエ属型(ヒエが含まれる)、エノコログサ属型(アワが含まれる)、キビ属型(キビが含まれる)、ジュズダマ属(ハトムギが含まれる)、オヒシバ属(シコクビエが含まれる)、モロコシ属型、トウモロコシ属型などがある。このうち、本遺跡の試料からはジュズダマ属が検出された。

ジュズダマ属は、9層~12層から検出された。ジュズダマ属には食用や薬用となる栽培種のハトムギが含まれるが、現時点では植物珪酸体の形態から栽培種と野草のジュズダマとを完全に識別するには至っていない。また、密度も600~1,300個/gと低い値であることから、ここでジュズダマ属が栽培されていた可能性は低いと考えられる。

イネ科栽培植物の中には未検討のものもあるため、その他の分類群の中にも栽培種に由来するものが含まれている可能性が考えられる。これらの分類群の給源植物の究明については今後の課題としたい。なお、植物珪酸体分析で同定される分類群は主にイネ科植物に限定されるため、根菜類などの畑作物は分析の対象外となっている。

(3) 植物珪酸体分析から推定される植生と環境

上記以外の分類群の検出状況と、そこから推定される植生・環境について検討を行った。下位の12層～11層では、ウシクサ族Aが比較的多く検出され、ヨシ属、キビ族型、ススキ属型、ジュズダマ属型、ネザサ節型、および樹木(その他)も認められた。10層～9層でもおおむね同様の結果であり、ミヤコザサ節型も出現している。浅間Bテフラ層準の8層では、植物珪酸体がほとんど検出されなかった。7層～6層では、ウシクサ族A、ネザサ節型などが検出されたが、いずれも少量である。5層ではヨシ属、キビ族型なども出現しているが、いずれも少量である。おもな分類群の推定生産量によると、12層～9層ではヨシ属が優勢であり、12層～10層ではイネも多くなっている。

以上の結果から、浅間Cテフラ直上の12層から浅間Bテフラ直下の9層にかけては、ヨシ属をはじめジュズダマ属なども生育する湿地的な環境であったと考えられ、そこを利用して12層～10層の時期に水田稲作が行われていたと考えられる。また、周辺の比較的乾燥したところにはキビ族、ススキ属、ウシクサ族、メダケ属(ネザサ節)などのイネ科草本類が生育していたと推定される。

浅間Bテフラ直下の9層でも、おおむね同様の結果であり、とくに明瞭な植生変化は認められなかった。浅間Bテフラ直下では群馬県南東部の比較的広い範囲で黒褐色腐植土層(粘質土層)が認められており、水田が放棄されてヨシ属などが繁茂する湿地に移行していたと推定されているが、(杉山, 2004, 2010)、今回の分析ではこのようなヨシ属の増加は認められなかった。

浅間Bテフラ直上の7層から6層にかけては、ウシクサ族やメダケ属(ネザサ節)などは見られるものの、何らかの原因でイネ科草本類の生育にはあまり適さない環境であったと考えられる。

5. まとめ

植物珪酸体(プラント・オパール)分析の結果、浅間Cテフラ(As-C, 4世紀初頭)直上の12層から浅間Bテフラ(As-B, 1108年)より下位の10層にかけては、イネが多量に検出され、稲作が行われていた可能性が高いと判断された。また、浅間Bテフラ直下の9層および7層～5層でもイネが検出され、稲作が行われていた可能性が認められた。

浅間Cテフラ直上の12層から浅間Bテフラ直下の9層にかけては、ヨシ属をはじめジュズダマ属なども生育する湿地的な環境であったと考えられ、そこを利用して12層～10層の時期に水田稲作が行われていたと考えられる。また、周辺の比較的乾燥したところにはキビ族、ススキ属、ウシクサ族、メダケ属(ネザサ節)などのイネ科草本類が生育していたと推定される。

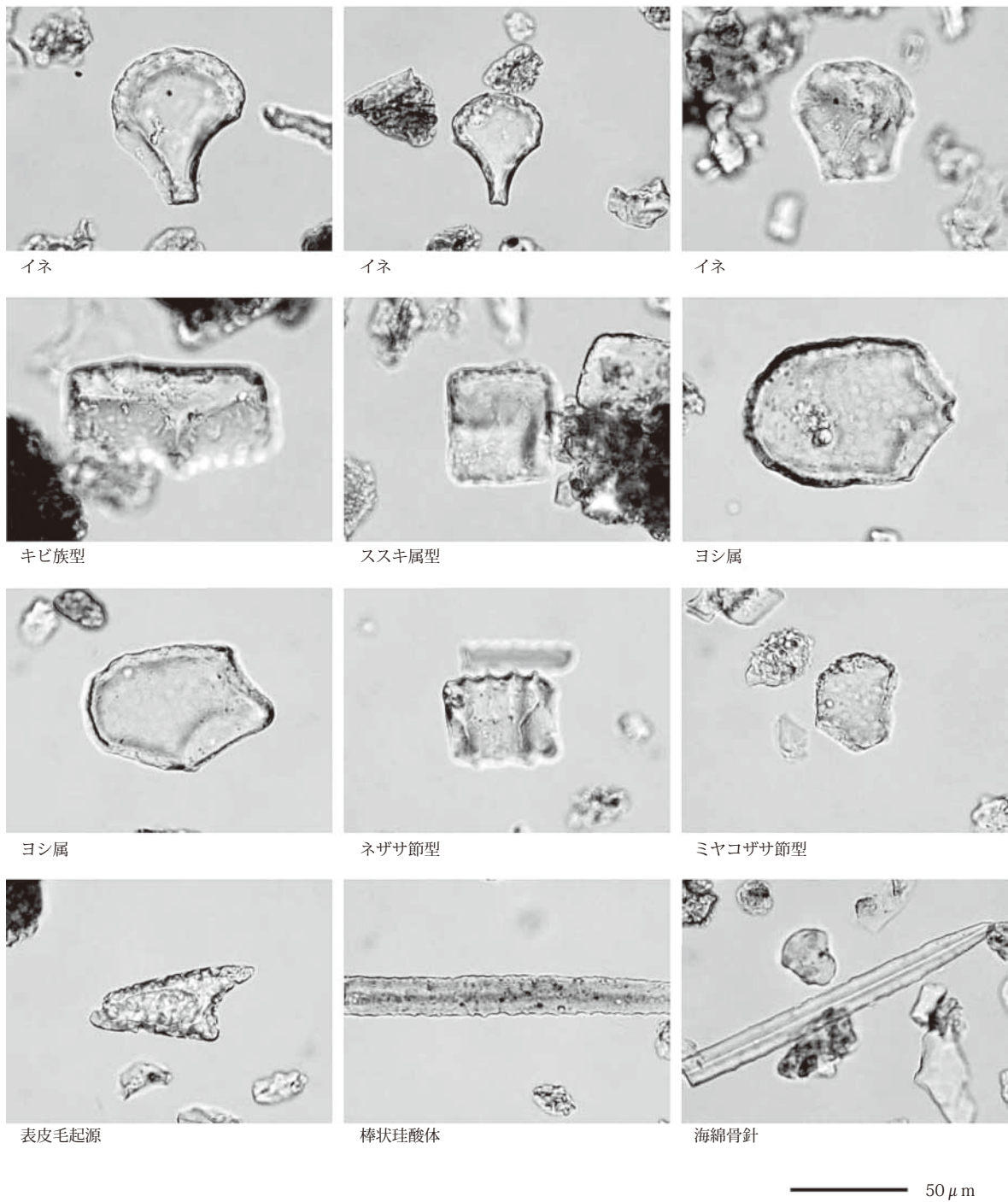


写真1 上新田中道東遺跡I区の植物珩酸体(プラント・オパール)

Ⅲ. 花粉分析

1. はじめに

花粉分析は、一般に低湿地の堆積物を対象とした比較的広域な植生・環境の復原に応用されており、遺跡調査においては遺構内の堆積などを対象とした局地的な植生の推定も試みられている。花粉などの植物遺体は、水成堆積物では保存状況が良好であるが、乾燥的な環境下の堆積物では分解されて残存していない場合もある。

2. 方法

花粉の分離抽出は、中村(1967)の方法をもとに、以下の手順で行った。

- 1) 試料から 1 cm³を秤量
- 2) 0.5%リン酸三ナトリウム(12水)溶液を加えて15分間湯煎
- 3) 水洗処理の後、0.5mmの篩で礫などの大きな粒子を取り除き、沈澱法で砂粒を除去
- 4) 25%フッ化水素酸溶液を加えて30分放置
- 5) 水洗処理の後、氷酢酸によって脱水し、アセトリシス処理(無水酢酸 9 : 濃硫酸 1 のエルドマン氏液を加え 1 分間湯煎)を施す
- 6) 再び氷酢酸を加えて水洗処理
- 7) 沈渣に石炭酸フクシンを加えて染色し、グリセリンゼリーで封入してプレパラート作成
- 8) 検鏡・計数

検鏡は、生物顕微鏡によって300～1000倍で行った。花粉の同定は、島倉(1973)および中村(1980)をアトラスとして、所有の現生標本との対比で行った。結果は同定レベルによって、科、亜科、属、亜属、節および種の階級で分類し、複数の分類群にまたがるものはハイフン(―)で結んで示した。イネ属については、中村(1974, 1977)を参考にして、現生標本の表面模様・大きさ・孔・表層断面の特徴と対比して同定しているが、個体変化や類似種もあることからイネ属型とした。

3. 結果

(1)分類群

出現した分類群は、樹木花粉15、樹木花粉と草本花粉を含むもの 4、草本花粉18、シダ植物孢子 2 形態の計39である。なお、寄生虫卵は認められなかった。分析結果を第13表に示し、花粉数が100個以上計数された試料については花粉総数を基数とする花粉ダイアグラムを示した。主要な分類群について顕微鏡写真を示す。以下に出現した分類群を記載する。

[樹木花粉]

ツガ属、マツ属複雑管束亜属、スギ、イチイ科―イヌガヤ科―ヒノキ科、ハンノキ属、カバノキ属、クマシデ属―アサダ、クリ、シイ属、ブナ属、コナラ属コナラ亜属、コナラ属アカガシ亜属、ニレ属―ケヤキ、エノキ属―ムクノキ、トチノキ

[樹木花粉と草本花粉を含むもの]

クワ科―イラクサ科、バラ科、マメ科、ニワトコ属―ガマズミ属

[草本花粉]

ガマ属―ミクリ属、サジオモダカ属、オモダカ属、イネ科、イネ属型、カヤツリグサ科、タデ属サナエタデ節、ギンギン属、アカザ科―ヒユ科、ナデシコ科、キンポウゲ属、アブラナ科、ワレモコウ属、チドメグサ亜科、セリ亜科、タンポポ科、キク亜科、ヨモギ属

[シダ植物孢子]

単条溝孢子、三条溝孢子

第13表 上新田中道東遺跡における花粉分析結果

学名	分類群	I区C南壁			
		6	8	11	12
Arboreal pollen	樹木花粉				
<i>Tsuga</i>	ツガ属	1			
<i>Pinus subgen. Diploxylon</i>	マツ属複雑管束亜属	2			
<i>Cryptomeria japonica</i>	スギ	6	3	3	4
Taxaceae-Cephalotaxaceae	イチイ科-イヌガヤ科			3	
-Cupressaceae	-ヒノキ科				
<i>Alnus</i>	ハンノキ属		1	9	
<i>Betula</i>	カバノキ属	1	2	9	2
<i>Carpinus-Ostrya japonica</i>	クマシデ属-アサダ	1	4	5	3
<i>Castanea crenata</i>	クリ	11	2	8	3
<i>Castanopsis</i>	シイ属	4	6	5	7
<i>Fagus</i>	ブナ属		1	2	4
<i>Quercus subgen. Lepidobalanus</i>	コナラ属コナラ亜属	33	28	26	16
<i>Quercus subgen. Cyclobalanopsis</i>	コナラ属アカガシ亜属	3	2	18	14
<i>Ulmus-Zelkova serrata</i>	ニレ属-ケヤキ			1	
<i>Celtis-Aphananthe aspera</i>	エノキ属-ムクノキ	1		1	
<i>Aesculus turbinata</i>	トチノキ	3	1	1	3
Arboreal・Nonarboreal pollen	樹木・草本花粉				
Moraceae-Urticaceae	クワ科-イラクサ科	2	2	8	14
Rosaceae	バラ科		1	1	
Leguminosae	マメ科			1	1
<i>Sambucus-Viburnum</i>	ニワトコ属-ガマズミ属				1
Nonarboreal pollen	草本花粉				
<i>Typha-Sparganium</i>	ガマ属-ミクリ属	3	7		2
<i>Alisma</i>	サジオモダカ属		1		
<i>Sagittaria</i>	オモダカ属		1	1	4
Gramineae	イネ科	51	21	39	28
<i>Oryza type</i>	イネ属型			3	2
Cyperaceae	カヤツリグサ科	55	14	7	17
<i>Polygonum sect. Persicaria</i>	タデ属サナエタデ節	14	2		
<i>Rumex</i>	ギシギシ属			1	
Chenopodiaceae-Amaranthaceae	アカザ科-ヒユ科	1			1
Caryophyllaceae	ナデシコ科				28
<i>Ranunculus</i>	キンポウゲ属				1
Cruciferae	アブラナ科		1		
<i>Sanguisorba</i>	ワレモコウ属	18	1		
Hydrocotyloideae	チドメグサ亜科	1			
Apioidae	セリ亜科	3	2	3	
Lactuoidae	タンポポ亜科	2	1		1
Asteroidae	キク亜科	4	1	1	2
<i>Artemisia</i>	ヨモギ属	143	11	16	10
Fern spore	シダ植物孢子				
Monolate type spore	単条溝孢子	13	5	3	5
Trilate type spore	三条溝孢子	1	2		
Arboreal pollen	樹木花粉	66	50	91	56
Arboreal・Nonarboreal pollen	樹木・草本花粉	2	3	10	16
Nonarboreal pollen	草本花粉	295	63	71	96
Total pollen	花粉総数	363	116	172	168
Pollen frequencies of 1cm ³	試料1cm ³ 中の花粉密度	5.0	5.2	1.3	1.2
		×10 ³	×10 ²	×10 ³	×10 ³
Unknown pollen	未同定花粉	15	11	10	7
Fern spore	シダ植物孢子	14	7	3	5
Helminth eggs	寄生虫卵	(-)	(-)	(-)	(-)
Digestion rimeins	明らかな消化残渣	(-)	(-)	(-)	(-)
Charcoal fragments	微細炭化物	(++)	(+)		(+)

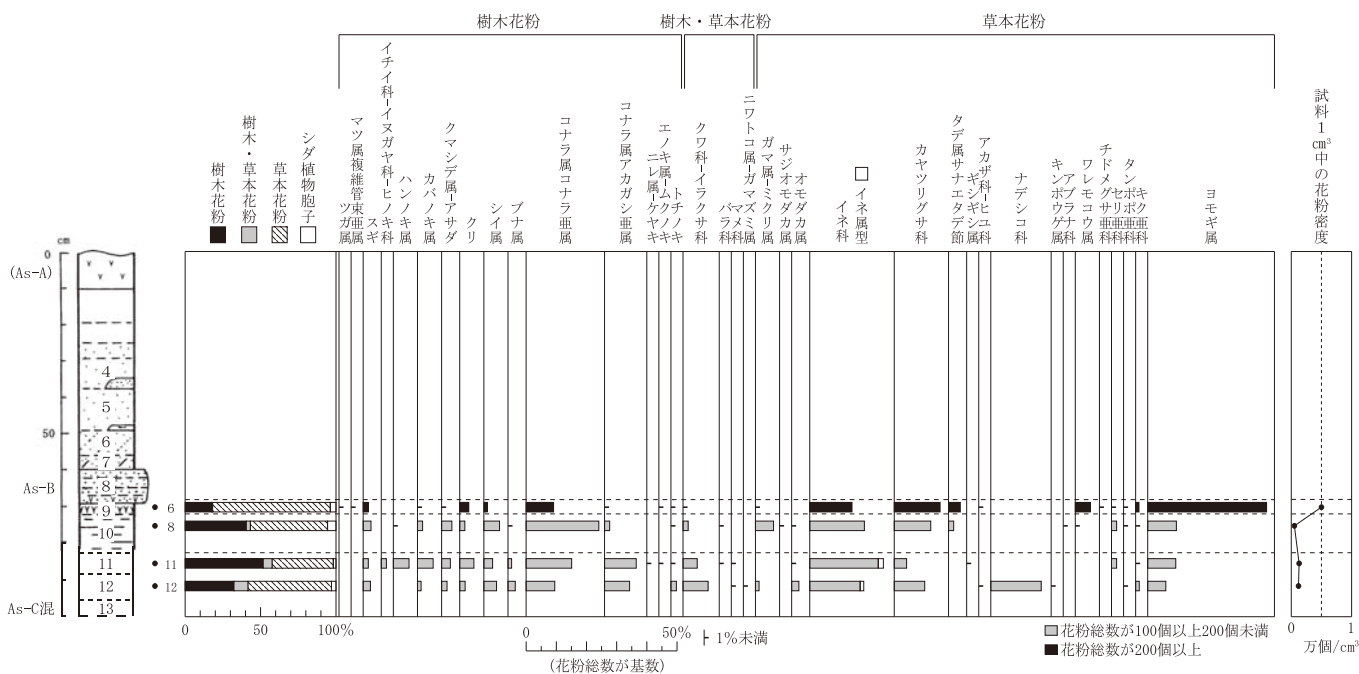
(2)花粉群集の特徴(第275図)

下位の12層(試料12)では、花粉密度が低く、樹木花粉より草本花粉の占める割合が高い。草本花粉ではイネ科(イネ属型を含む)、ナデシコ科、カヤツリグサ科が優勢で、ヨモギ属、オモダカ属などが伴なわれる。樹木花粉ではコナラ属コナラ亜属、コナラ属アカガシ亜属が優勢で、シイ属、カバノキ属、クリ、クマシデ属-アサダ、スギ、ブナ属などが伴われ、樹木・草本花粉のクワ科-イラクサ科も比較的多い。

11層(試料11)では樹木花粉と草本花粉の割合が同程度である。草本花粉ではイネ科(イネ属型を含む)が増加し、ナデシコ科は減少している。樹木花粉ではコナラ属コナラ亜属、ハンノキ属、カバノキ属などが増加している。

10層上部(試料8)では、樹木花粉より草本花粉の占める割合が高い。草本花粉ではカヤツリグサ科が増加し、イネ属型は見られなくなっている。樹木花粉ではコナラ属コナラ亜属が増加し、コナラ属アカガシ亜属、ハンノキ属、カバノキ属、ブナ属は減少している。

9層(試料6)では、花粉密度が増加し、草本花粉の占める割合が約80%に増加している。草本花粉ではヨモギ属が大幅に増加して卓越し、タデ属サナエタデ節、ワレモコウ属も増加している。樹木花粉ではコナラ属コナラ亜属が大幅に減少し、シイ属なども減少している。



第275図 上新田中道東遺跡：I区C南壁における花粉ダイアグラム

4. 花粉分析から推定される植生と環境

浅間Cテフラ(As-C, 4世紀初頭)直上の12層から11層にかけては、イネ科(イネ属型を含む)が優勢であり、オモダカ属などの水生植物(水田雑草)も認められることから、周辺で水田稲作が行われていたと推定される。また、周辺の比較的乾燥したところには、イネ科、ヨモギ属、ナデシコ科、クワ科-イラクサ科などが分布していたと考えられる。森林植生としては、遺跡周辺にコナラ属コナラ亜属を主体としてカバノキ属、クリ、クマシデ属-アサダなども見られる落葉広葉樹、およびコナラ属アカガシ亜属を主体としてシイ属なども見られる照葉樹林が分布しており、11層の時期にはハンノキ属の湿地林も見られたと推定される。

10層(上部)では、何らかの原因で水田が縮小し、ガマ属-ミクリ属やカヤツリグサ科などの湿地が拡大したと考えられる。森林植生では落葉広葉樹のコナラ属コナラ亜属が増加し、照葉樹林要素のコナラ属アカガシ亜属は減少したと推

定される。浅間Bテフラ直下にかけてコナラ属アカガシ亜属が減少する傾向は、花粉分析が行われた高崎市並榎北Ⅱ遺跡、甘楽町甘楽条里跡遺跡、伊勢崎市三和工業団地遺跡などでも認められており、この頃に気候が冷涼化するなど比較的広範囲におよぶ何らかの環境変動があった可能性が示唆される(杉山, 2004, 2010)。

浅間Bテフラ(As-B, 1108年)直下の9層では、ヨモギ属をはじめワレモコウ属なども見られる比較的乾燥した草原植生が拡大し、遺跡周辺ではコナラ属コナラ亜属などの森林植生が減少したと推定される。浅間Bテフラ直下でヨモギ属などの草原植生が増加するのは伊勢崎市の三和工業団地遺跡(古環境研究所, 2004)でも認められるが、高崎市並榎北Ⅱ遺跡や甘楽町甘楽条里跡遺跡ではガマ属一ミクリ属、カヤツリグサ科などが繁茂する湿地的な状況になっており(杉山, 2004, 2010)、遺跡によって植生変遷の様相が大きく異なっている。いずれにしても、浅間Bテフラ直下の時期には何らかの原因で水田が縮小もしくは放棄されていたと推定される。

IV. まとめ

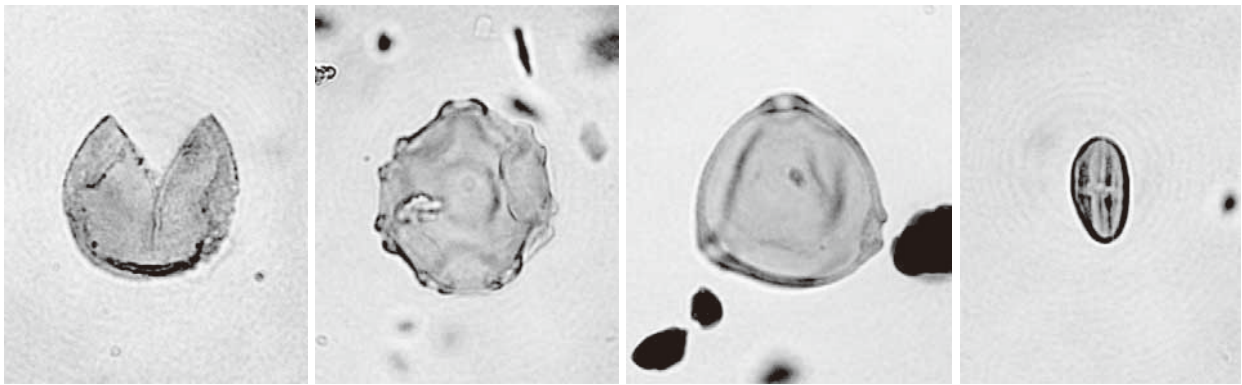
上新田中道東遺跡で認められた浅間Bテフラ(As-B, 1108年)直下の黒褐色粘質土層について、その成因や当時の植生・環境に関する情報を収集する目的で植物珪酸体分析および花粉分析を行った。

その結果、浅間C軽石(As-C, 4世紀初頭)直上の12層から浅間Bテフラより下位の10層にかけては、ヨシ属やジュズダマ属などのイネ科をはじめカヤツリグサ科なども生育する湿地的な環境であったと考えられ、そこを利用して水田稲作が行われていたと推定される。

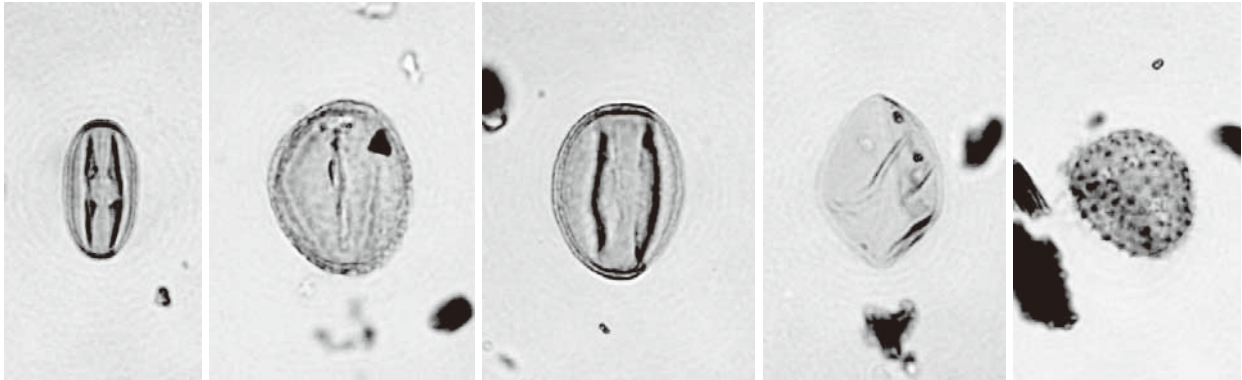
浅間Bテフラ直下の9層では、何らかの原因で水田が縮小もしくは放棄されていたと考えられ、ヨモギ属をはじめワレモコウ属なども見られる比較的乾燥した草原植生が拡大したと推定される。また、浅間Bテフラ直下にかけては照葉樹林要素のコナラ属アカガシ亜属が減少しており、この頃に気候が冷涼化するなど何らかの環境変動があった可能性が示唆される。

文献

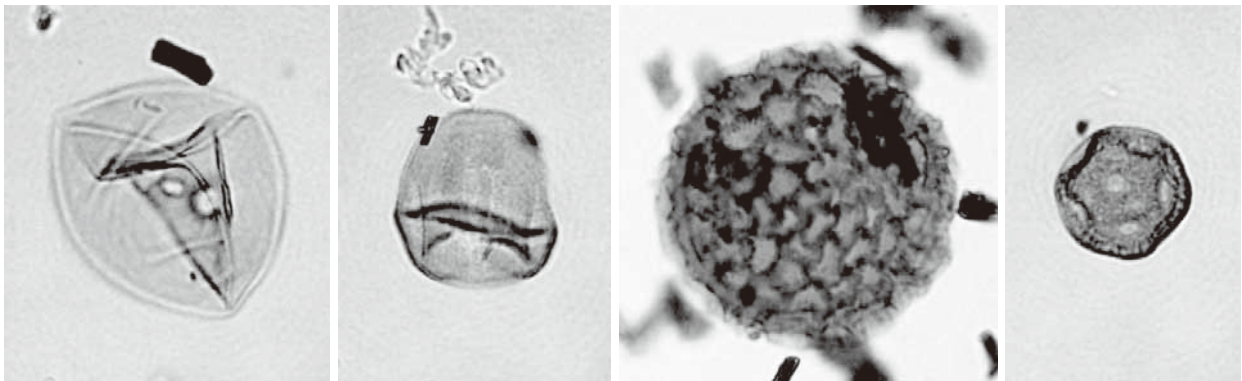
- 金原正明(1993)花粉分析法による古環境復原. 新版古代の日本第10巻古代資料研究の方法, 角川書店, p.248-262.
- 古環境研究所(2004)三和工業団地Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ遺跡—自然科学分析編—. 群馬県企業局, 伊勢崎市文化財調査報告書第54集.
- 杉山真二・藤原宏志(1986)機動細胞珪酸体の形態によるタケ亜科植物の同定—古環境推定の基礎資料として—. 考古学と自然科学, 19, p.69-84.
- 島倉巳三郎(1973)日本植物の花粉形態. 大阪市立自然科学博物館収蔵目録第5集, 60p.
- 杉山真二(2000)植物珪酸体(プラント・オパール). 考古学と植物学. 同成社, p.189-213.
- 杉山真二(2004)自然科学分析が語る平安時代末期の水田跡. かみつけの里博物館第12回特別展図録「1108年—浅間山大噴火、中世への胎動」, p.57-61.
- 杉山真二(2010)自然科学分析から見た浅間Bテフラ(1108年)直下の植生と環境. 浅間Bテフラ直下水田の実体解明に向けた検討会講演要旨.
- 中村純(1973)花粉分析. 古今書院, p.82-110.
- 中村純(1974)イネ科花粉について、とくにイネ(*Oryza sativa*)を中心として. 第四紀研究, 13, p.187-193.
- 中村純(1977)稲作とイネ花粉. 考古学と自然科学, 第10号, p.21-30.
- 中村純(1980)日本産花粉の標徴. 大阪自然史博物館収蔵目録第13集, 91p.
- 藤原宏志(1976)プラント・オパール分析法の基礎的研究(1)—数種イネ科栽培植物の珪酸体標本と定量分析法—. 考古学と自然科学, 9, p.15-29.
- 藤原宏志・杉山真二(1984)プラント・オパール分析法の基礎的研究(5)—プラント・オパール分析による水田址の探査—. 考古学と自然科学, 17, p.73-85.



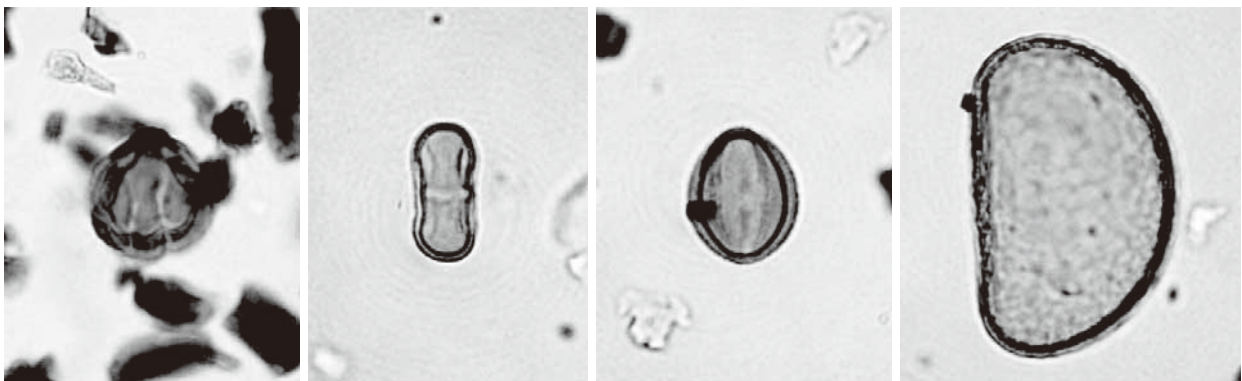
1 スギ 2 ハノノキ属 3 カバノキ属 4 クリ



5 シイ属 6 コナラ属コナラ亜属 7 コナラ属アカガシ亜属 8 クワ科-イラクサ科 9 オモダカ属



10 イネ属型 11 カヤツリグサ科 12 タデ属サナエタデ節 13 ナデシコ科



14 ワレモコウ属 15 セリ亜科 16 ヨモギ属 17 シダ植物単条溝孢子

— 10 μm

写真2 上新田中道東遺跡 I 区の花粉・孢子

3. 上新田中道東遺跡Ⅱ区・Ⅲ区の自然科学分析

1. はじめに

関東平野北西部に位置する群馬県玉村町域とその周辺に分布する後期更新世以降に形成された地層の中には、榛名や浅間など北関東地方とその周辺の火山、中部地方や中国地方さらには九州地方などの火山に由来するテフラ(火山碎屑物、いわゆる火山灰)が多く認められる。テフラの中には、噴出年代が明らかにされている指標テフラがあり、これらとの層位関係を遺跡で求めることで、遺構の構築年代や遺物包含層の堆積年代などを知ることができるようになっている。

そこで、年代が不明な土層や遺構が検出された玉村町上新田中道東遺跡においても、地質調査を行って土層層序を記載するとともに、テフラ検出分析と屈折率測定を行って指標テフラの検出同定を行い、土層や遺構の層位や年代に関する資料を収集することになった。調査分析の対象地点は、Ⅱ区第1地点、Ⅱ区第2地点、Ⅱ区第3地点、Ⅲ区第1地点、Ⅲ区第2地点、Ⅲ区第3地点、Ⅲ区第4地点、Ⅲ区第5地点、Ⅲ区第6地点の9地点である。

2. 土層の層序

(1) Ⅱ区第1地点

Ⅱ区第1地点では、倒木の覆土中に軽石粒子が認められた。この覆土から採取された試料(試料1)についてテフラ分析を行った(後述)。

(2) Ⅱ区第2地点

Ⅱ区第2地点では、下位より灰色砂質シルト層(層厚15cm)、シルト混じりで若干桃色がかった灰色砂層(層厚14cm)、黄白色シルト層(層厚4cm)、桃灰色粗粒火山灰層(層厚8cm)、基底に亜円礫を含む黄白色シルト層(層厚17cm、礫の最大径18mm)、灰色粘質土(層厚8cm)、黒灰色土(層厚8cm)、灰色軽石混じり黒灰色土(層厚3cm、軽石の最大径2mm)、若干色調が暗い灰色粘質土(層厚3cm)、灰色粘質土(層厚3cm)、黄色がかった灰色粘質土(層厚12cm)、暗灰色粘質土(層厚7cm)、成層したテフラ層(層厚2.2cm)、黒灰色土(層厚0.8cm)、若干色調が暗い灰色砂質土(層厚8cm)、黄白色シルト層(層厚2cm)、砂混じり黄灰色土(層厚20cm)、暗灰色表土(層厚19cm)が認められる(第276図)。

これらのうち、桃灰色粗粒火山灰層は、層相から約1.3～1.4万年前*1に浅間火山から噴出した浅間板鼻黄色軽石(As-YP, 新井, 1962, 町田・新井, 1992)に同定される。また成層したテフラ層は、最下部の灰色砂質細粒火山灰層(層厚0.2cm)と、黄灰色粗粒火山灰層(層厚2cm)からなる。このテフラ層は、層相から1108(天仁元)年に浅間火山から噴出した浅間Bテフラ(As-B, 荒牧, 1968, 新井, 1979)に同定される。

(3) Ⅱ区第3地点

Ⅱ区第3地点では、下位より黄灰色粘質土(層厚8cm以上)、灰色土(層厚7cm)、黒灰色土(層厚4cm)、暗灰色土(層厚3cm)、若干色調が暗い灰色土(層厚4cm)、灰色粘質土(層厚3cm)、若干色調が暗い灰色粘質土(層厚9cm)、暗灰色粘質土(層厚7cm)、成層したテフラ層(層厚7.6cm)、黒灰色砂質土(層厚3cm)、暗灰色土(層厚3cm)、黄灰色土(層厚16cm)、暗灰色表土(層厚16cm)が認められる(第277図)。

これらのうち、成層したテフラ層は、下位より灰色砂質細粒火山灰層(層厚0.2cm)、基底に粗粒の褐色軽石を含む黄灰色粗粒火山灰層(層厚2cm、軽石の最大径14mm)、暗灰色粗粒火山灰層(層厚0.5cm)、黄色粗粒火山灰層(層厚0.7cm)、暗灰色粗粒火山灰層(層厚0.8cm)、黄色粗粒火山灰層(層厚1.7cm)からなる。このテフラ層は、層相からAs-Bに同定される。

(4)Ⅲ区第1地点

Ⅲ区第1地点では、下位より灰白色砂質シルト層(層厚15cm)、桃灰色粗粒火山灰層(層厚15cm)、灰色粘質土(層厚17cm)、砂混じり灰色土(層厚7cm, 上面:5面)、黒灰色土(層厚4cm)、灰白色軽石混じり黒灰色土(層厚3cm, 軽石の最大径4mm, 上面:4面)、暗灰色粘質土(層厚5cm)、若干色調が暗い灰色粘質土(層厚3cm, 上面:3面)、粒径が良く揃った黄灰色砂層(層厚2cm)、白色軽石混じり灰色土(層厚18cm, 軽石の最大径12mm, 上面:2面)、粒径が良く揃った黄灰色砂層(層厚3cm)、黄灰色土(層厚16cm, 上面:1面)、灰色砂質土(層厚5cm)、砂混じり黄灰色土(層厚6cm)、暗灰色土(層厚17cm)が認められる(第278図)。

これらのうち、1面を覆う灰色砂質土中には、層位や層相などからAs-Bに由来するテフラ粒子が多く含まれていると考えられている。

(5)Ⅲ区第2地点

Ⅲ区第2地点では、溝遺構の覆土の断面を観察することができた(第279図)。覆土は、下位より暗灰色粘質土(層厚8cm)、砂混じり灰色土(層厚3cm)、砂混じり黄灰色土(層厚8cm)、砂混じり黒灰色土(層厚14cm)からなる。

(6)Ⅲ区第3地点

Ⅲ区第3地点では、水田遺構の畦畔の断面を観察することができた(第280図)。ここでは、下位より暗灰色粘質土(層厚5cm以上)、砂混じり灰色シルト層(層厚5cm)、灰色粘質土(層厚5cm)、砂混じり灰色粘質土(層厚2cm)、砂混じり灰色シルト層(層厚2cm)、若干色調が暗い灰色粘質土(層厚7cm)が認められる。

(7)Ⅲ区第4地点

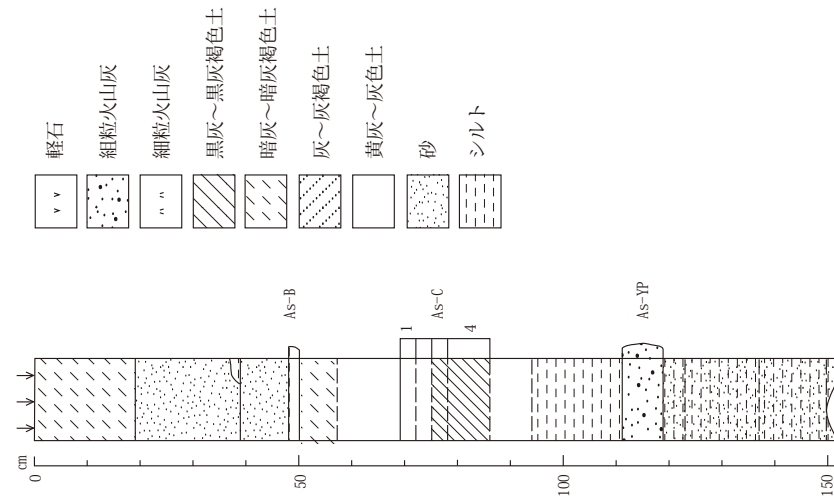
Ⅲ区第4地点では、管玉が検出された。管玉の包含層が黄灰色軽石混じり黒色土である。

(8)Ⅲ区第5地点

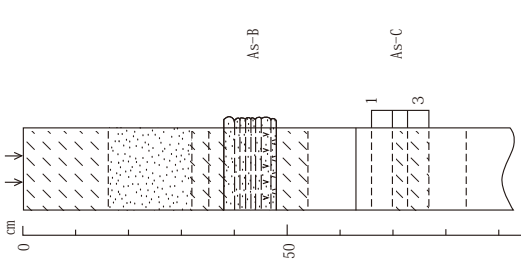
Ⅲ区第5地点では、As-YPより上位に、下位より灰色土(層厚11cm)、暗灰色粘質土(層厚8cm)、暗灰色砂質土(層厚1cm)、若干黄色がかかった灰色シルト層(層厚12cm)などが認められた(第281図)。

(9)Ⅲ区第6地点

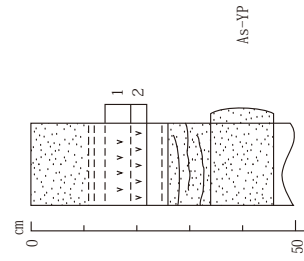
Ⅲ区第6地点では、下位より黄白色シルト層(層厚3cm以上)、若干桃色がかかった灰色粗粒火山灰層(層厚12cm)、層理が発達した黄灰色砂層(層厚8cm)、灰色シルト層(層厚4cm)、黒泥層(層厚3cm)、暗灰色泥層(層厚5cm)、黄白色シルト層(層厚3cm)、灰色砂層(層厚11cm)が認められた(第282図)。



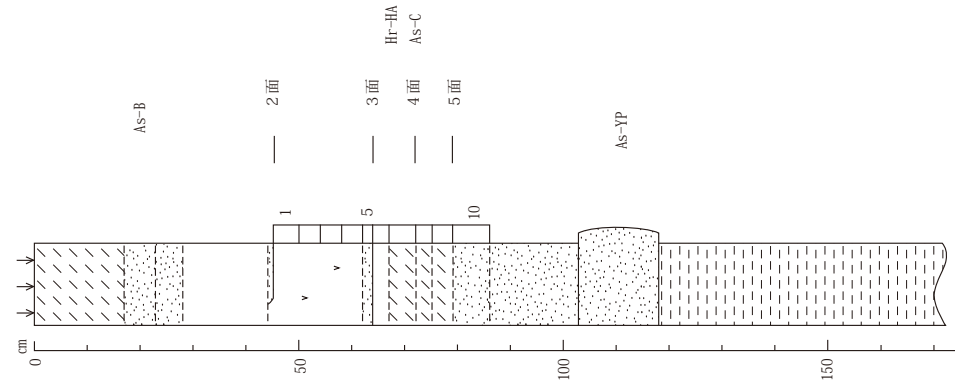
第276図 2区第2地点の土層柱状図
数字はテフアラ分析の試料番号



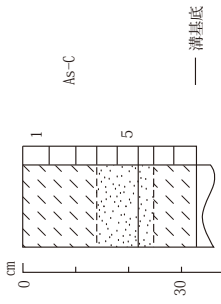
第277図 2区第3地点の土層柱状図
数字はテフアラ分析の試料番号



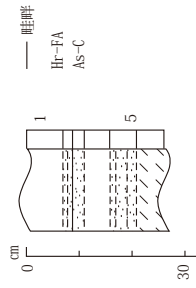
第282図 3区第6地点の土層柱状図
数字はテフアラ分析の試料番号



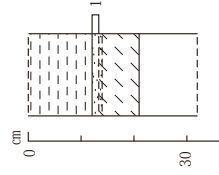
第278図 3区第1地点の土層柱状図
数字はテフアラ分析の試料番号



第279図 3区第2地点の土層柱状図
数字はテフアラ分析の試料番号



第280図 3区第3地点の土層柱状図
数字はテフアラ分析の試料番号



第281図 3区第5地点の土層柱状図
数字はテフアラ分析の試料番号

3. テフラ検出分析

(1)分析試料と分析方法

指標テフラの層位を明らかにするために、上述9地点において採取された試料のうち、37点を対象にテフラ検出分析を行った。分析の手順は次の通りである。

- 1) 試料10gを秤量。
- 2) 超音波洗浄により泥分を除去。
- 3) 80℃で恒温乾燥。
- 4) 実体顕微鏡下で観察し、テフラ粒子の量や特徴を把握。

(2)分析結果

テフラ検出分析の結果を第14表に示す。Ⅱ区第1地点の試料1には、スポンジ状に比較的良好に発泡し、斑晶に斜方輝石や単斜輝石をもつ灰白色軽石(最大径2.4mm)が比較的多く含まれている。火山ガラスとしては、この軽石の細粒物のほか、無色透明の軽石型ガラスも認められる。

Ⅱ区第2地点では、試料3より上位の試料に、スポンジ状に比較的良好に発泡し、斑晶に斜方輝石や単斜輝石をもつ灰白色軽石(最大径1.8mm)が認められた。この軽石は、試料2により多く含まれている。試料2および試料1には、斑晶に角閃石をもつ、さほど発泡が良くない白色軽石(最大径1.5mm)が含まれている。この軽石の顕著な濃集層準は認められないが、産状から灰白色軽石で特徴づけられる軽石とともに、試料2付近にその降灰層準のある可能性が考えられる。火山ガラスとしては、試料4にわずかに無色透明の軽石型ガラスが認められるほか、試料3より上位には軽石の細粒物が含まれている。

Ⅱ区第3地点では、試料2より上位の試料に、スポンジ状に比較的良好に発泡し、斑晶に斜方輝石や単斜輝石をもつ灰白色軽石(最大径2.1mm)が認められた。この軽石は、試料2により多く含まれている。試料2および試料0には、斑晶に角閃石をもつさほど発泡が良くない白色軽石(最大径2.0mm)が少量ずつ含まれている。この軽石の顕著な濃集層準は認められないが、その産状から、灰白色軽石で特徴づけられる軽石とともに、試料2付近にその降灰層準のある可能性が考えられる。火山ガラスとしては、試料2より上位に軽石の細粒物が含まれている。

Ⅲ区第1地点では、試料5をのぞく試料9より上位の試料から、スポンジ状に比較的良好に発泡し、斑晶に斜方輝石や単斜輝石をもつ灰白色軽石(最大径3.1mm)が検出された。この軽石は試料8より上位で増加することから、試料8付近にその降灰層準があると考えられる。試料7より上位では、斑晶に角閃石をもつさほど発泡が良くない白色軽石(最大径4.1mm)が含まれている。この軽石は、とくに試料5より上位に比較的多く含まれている。火山ガラスとしては、試料10に白色の軽石型ガラスが少量含まれているほか、各試料で軽石の細粒物が認められる。

Ⅲ区第2地点では、試料3より上位から、スポンジ状に比較的良好に発泡し、斑晶に斜方輝石や単斜輝石をもつ灰白色軽石(最大径3.6mm)が比較的多く検出された。火山ガラスにも、これらの試料から軽石の細粒物が検出された。したがって、溝遺構は、この軽石で特徴づけられるテフラの降灰層準より下位にあると考えられる。

Ⅲ区第3地点では、試料3をのぞく試料5より上位の試料から、スポンジ状に比較的良好に発泡し、斑晶に斜方輝石や単斜輝石をもつ灰白色軽石(最大径1.9mm)が検出された。これらの中では、試料4により多くの軽石が含まれており、この試料付近に灰白色軽石で特徴づけられるテフラの降灰層準があると推定される。

また試料3および試料2には、斑晶に角閃石をもち、さほど発泡の良くない細粒の白色軽石(最大径1.2mm)が含まれている。その産状から、ここでは試料3付近に白色軽石で特徴づけられるテフラの降灰層準があると思われる。なお火山ガラスとしても、これらの試料から軽石の細粒物が検出された。

Ⅲ区第4地点の試料1には、スポンジ状に比較的良好に発泡し、斑晶に斜方輝石や単斜輝石をもつ灰白色軽石(最大径2.5mm)が比較的多く含まれている。火山ガラスとしても、この軽石の細粒物が比較的多く含まれている。またⅢ区第5

地点の試料1には、この軽石(最大径2.9mm)やその細粒物である軽石型ガラスが多く含まれている。

Ⅲ区第6地点の試料2には、斑晶に斜方輝石や単斜輝石をもつ細粒の白色軽石(最大径1.7mm)や、無色透明の軽石型ガラスが少量含まれている。これらのテフラ粒子は、その特徴からより下位にあるAs-YPなど浅間火山起源の後期更新世テフラに由来する可能性が考えられる。

第14表 テフラ検出分析

調査区	地点	試料	軽石・スコリア			火山ガラス		
			量	色調	最大径	量	形態	色調
2	1	1	++	灰白	2.4	++	pm	灰白>透明
2	2	1	+	白,灰白	1.5,1.2	+	pm	白,灰白
		2	++	灰白>白	1.8,1.3	+	pm	灰白,白
		3	+	灰白	1.3	+	pm	灰白
		4	-	-	-	+	pm	透明
2	3	0	+	灰白,白	2.0,1.2	+	pm	灰白,白
		1	+	灰白	2.1	+	pm	灰白,白
		2	++	灰白>白	2.1,2.0	++	pm	灰白>白
		3	-	-	-	-	-	-
3	1	1	++	灰白,白	3.1,2.1	++	pm	灰白,白
		2	++	白>灰白	3.8,1.4	++	pm	白>灰白
		3	++	白>灰白	2.2,1.3	++	pm	白>灰白
		4	++	白>灰白	4.1,2.0	++	pm	白>灰白
		5	++	白	2.1	++	pm	白
		6	++	灰白>白	2.1,1.1	++	pm	灰白,白
		7	++	灰白>白	1.8,1.1	++	pm	灰白>白
		8	++	灰白	1.6	++	pm	灰白
		9	+	灰白	1.9	+	pm	灰白
		10	-	-	-	+	pm	白
3	2	1	++	灰白	3.6	++	pm	灰白
		2	++	灰白	2.1	++	pm	灰白
		3	++	灰白	2.1	++	pm	灰白
		4	-	-	-	-	-	-
		5	-	-	-	-	-	-
		6	-	-	-	-	-	-
		7	-	-	-	-	-	-
		8	-	-	-	-	-	-
3	3	1	+	灰白	1.3	+	pm	灰白
		2	+	白,灰白	1.1,1.1	+	pm	白,灰白
		3	+	白	1.2	+	pm	白
		4	++	灰白	1.9	++	pm	灰白
		5	+	灰白	1.2	+	pm	灰白
		6	-	-	-	-	-	-
3	4	1	++	灰白	2.5	++	pm	灰白>透明
3	5	1	+++	灰白	2.9	+++	pm	灰白
3	6	1	-	-	-	-	-	-
		2	+	白	1.7	+	pm	透明

++++:とくに多い, +++:多い, ++:中程度, +:少ない, -:認められない。

最大径の単位は, mm. bw:バブル型, pm:軽石型。

4. 屈折率測定

(1)測定試料と測定方法

Ⅱ区第1地点の試料1と、Ⅲ区第4地点の試料1に含まれるテフラ粒子の起源を、より高精度で確かめるために、火山ガラスについて温度変化型屈折率測定装置(MAIOT, 古澤地質調査事務所製作)により、屈折率の測定を行った。

(2)測定結果

屈折率測定の結果を第15表に示す。Ⅱ区第1地点の試料1に含まれる火山ガラスの屈折率は、1.499-1.504および1.513-1.519である。また、Ⅲ区第4地点の試料1に含まれる火山ガラスの屈折率は、1.498-1.502、1.505-1.506、1.514-1.518である。

第15表 屈折率測定結果

調査区	地点	試料	火山ガラス(n)
2	1	1	1.499-1.504, 1.513-1.519
3	4	1	1.498-1.502, 1.505-1.506, 1.514-1.518

測定は、温度変化型屈折率測定法による。

5. 考察

屈折率測定の対象となった試料のうち、Ⅱ区第1地点の試料1に含まれる、屈折率がより低い火山ガラスについては、その値から、より下位の土層中に認められるAs-YPなど後期更新世の浅間火山起源のテフラのほか、約2.4～2.5万年前*1に南九州の始良カルデラから噴出した始良Tn火山灰(AT, 町田・新井, 1976, 松本ほか, 1987, 村山ほか, 1993, 池田ほか, 1995)などに由来すると考えられる。一方、屈折率が高い方の火山ガラスは、その値から3世紀終末～4世紀初頭に浅間火山から噴出した浅間C軽石(As-C, 荒牧, 1968, 新井, 1979, 友廣, 1988, 若狭, 2000)に由来すると考えられる。本試料に含まれる、スポンジ状に比較的良好に発泡し、斑晶に斜方輝石や単斜輝石をもつ灰白色軽石についてもAs-Cと考えられる。このことから、Ⅱ区第1地点の試料1に特徴的に含まれる軽石については、As-Cの可能性が非常に高い。

Ⅲ区第4地点の試料1に含まれる火山ガラスのうち、屈折率(n)が1.498-1.502および1.505-1.506のものは、その値などからAs-YPなど後期更新世の浅間火山起源のテフラのほか、ATなどに由来すると考えられる。また屈折率(n)が1.514-1.518の火山ガラスは、その値からAs-Cに由来すると考えられる。本試料に含まれる、スポンジ状に比較的良好に発泡し、斑晶に斜方輝石や単斜輝石をもつ灰白色軽石についてもAs-Cと考えられる。このことから、Ⅲ区第4地点の試料1に特徴的に含まれる軽石については、As-Cの可能性が非常に高い。したがって、本地点の管玉については、As-C混じりの土層から検出されたと考えられる。

As-Cとはほぼ同じ層準あるいはより上位から検出される、斑晶に角閃石をもつ、さほど発泡の良くない白色軽石については、6世紀初頭に榛名火山から噴出した榛名二ツ岳渋川テフラ(Hr-FA, 新井, 1979, 坂口, 1986, 早田, 1989, 町田・新井, 1992)、あるいは6世紀中葉に榛名火山から噴出した榛名二ツ岳伊香保テフラ(Hr-FP, 新井, 1962, 坂口, 1986, 早田, 1989, 町田・新井, 1992)の火山泥流堆積物に由来すると考えられる。両テフラに含まれるテフラ粒子の識別は、高精度の屈折率測定を行っても難しい。さらに、Hr-FA降灰に先立つ5世紀に榛名火山から噴出した榛名有馬テフラ(Hr-AA, 町田ほか)が本地域に降灰している可能性が高いことも、本遺跡での榛名火山起源の軽石粒子の起源を考える上で問題を複雑にしている。

しかしながら、Hr-AAは前橋および高崎の市街地で厚さ数mmと非常に薄く、本遺跡周辺でも非常に細粒で、テフラ検出分析で検出されることはまれなこと(古環境研究所, 未公表資料)を考慮すると、今回の分析で検出された軽石については、よりテフラや火山泥流堆積物の保存状態の良い地点で土層の観察をする必要があるが、現段階においてはやはりHr-FAあるいはHr-FPの噴火に伴う火山泥流の堆積物(早田, 1989)に由来する可能性が高いと思われる。

以上のことをベースとして、上述以外の各地点におけるテフラの降灰層準と遺構の層位について述べる。Ⅱ区第2地点では、試料2付近にAs-CとHr-FA(あるいはHr-FP火山泥流堆積物)の層準があると考えられる。その上位の9世紀頃と推定されている黄色がかかった灰色粘質土は、As-Bの下位にあり、テフラとの層位関係と推定されている堆積年代は矛盾しない。Ⅱ区第3地点でも、試料2付近にAs-CとHr-FA(あるいはHr-FP火山泥流堆積物)の層準があると考えられる。

Ⅲ区第1地点では、試料8付近にAs-C、試料7付近にHr-FAの層準があると考えられる。またここでは、試料5の砂層中に比較的多くの白色軽石が含まれていることから、この砂層がHr-FPの火山泥流堆積物に対比される可能性がある。これらのことから、5面はAs-Cより下位、4面はAs-CとHr-FAの間、3面はHr-FP火山泥流堆積物直下、2面はHr-FP火山泥流堆積物より上位でAs-Bより下位、1面はAs-Bより下位にあるように思われる。

Ⅲ区第3地点の溝遺構については、試料3付近にAs-Cの降灰層準があると考えられることから、As-Cより下位にある

らしい。また、Ⅲ区第3地点の畦畔の層位は、Hr-FA（あるいはHr-FP火山泥流堆積物）より上位にあると考えられる。Ⅲ区第5地点で検出された若干黄色がかかった灰色シルト層は、As-Cより上位にある。ほかに榛名火山起源のテフラが認められなかったことから、Hr-FAより下位にある可能性がある。

6. まとめ

上新田中道東遺跡において、地質調査、テフラ検出分析、屈折率測定を行った。その結果、下位より浅間板鼻黄色軽石(As-YP, 約1.3～1.4万年前*1)、浅間C軽石(As-C, 3世紀終末～4世紀初頭)、榛名二ツ岳渋川テフラ(Hr-FA, 6世紀初頭)、榛名二ツ岳伊香保テフラ(Hr-FP, 6世紀中葉)の火山泥流堆積物、浅間Bテフラ(As-B, 1108年)やそれらに由来するテフラ粒子を検出することができた。

*1 放射性炭素(14C)年代。

文献

- 新井房夫(1962)関東盆地北西部の第四紀編年. 群馬大学紀要自然科学編, 10, p.1-79.
- 新井房夫(1979)関東地方北西部の縄文時代以降の示標テフラ層. 考古学ジャーナル, no.157, p.41-52.
- 荒牧重雄(1968)浅間火山の地質. 地団研専報, no.45, 65p.
- 池田晃子・奥野 充・中村俊夫・筒井正明・小林哲夫(1995)南九州, 始良カルデラ起源の大隅降下軽石と入戸火砕流中の炭化樹木の加速器質量分析法による14C年代. 第四紀研究, 34, p.377-379.
- 町田 洋・新井房夫(1976)広域に分布する火山灰—始良Tn火山灰の発見とその意義—. 科学, 46, p.339- 347.
- 町田 洋・新井房夫(1992)火山灰アトラス. 東京大学出版会, 276p.
- 町田 洋・新井房夫(2003)新編火山灰アトラス. 東京大学出版会, 336p.
- 町田 洋・新井房夫・小田静夫・遠藤邦彦・杉原重夫(1984)
- 松本英二・前田保夫・竹村恵二・西田史朗(1987)始良Tn火山灰(AT)の14C年代. 第四紀研究, 26, p.79- 83.
- 村山雅史・松本英二・中村俊夫・岡村 真・安田尚登・平 朝彦(1993)四国沖ピストンコア試料を用いた AT火山灰噴出年代の再検討—タンデトロン加速器質量分析計による浮遊性有孔虫の14C年代. 地質雑, 99, p.787-798.
- 坂口 一(1986)榛名二ツ岳起源FA・FP層下の土師器と須恵器. 群馬県教育委員会編「荒砥北原遺跡・今井 神社古墳群・荒砥青柳遺跡」, p.103-119.
- 早田 勉(1989)6世紀における榛名火山の2回の噴火とその災害. 第四紀研究, 27, p.297-312.
- 早田 勉(1996)関東地方～東北地方南部の示標テフラの諸特徴—とくに御岳第1テフラより上位のテフラについて—. 名古屋大学加速器質量分析計業績報告書, 7, p.256-267.
- 友廣哲也(1988)古式土師器出現期の様相と浅間山C軽石. 群馬県埋蔵文化財調査事業団編「群馬の考古学」, p.325-336.
- 若狭 徹(2000)群馬の弥生土器が終わるとき. かみつけの里博物館編「人が動く・土器も動く—古墳が成立する頃の土器の交流」, p.41-43.

4. 上新田中道東遺跡Ⅷ区の自然科学分析

1. 土層とテフラ

1. はじめに

関東地方北西部の平野部には、赤城、榛名、浅間など北関東地方とその周辺に分布する火山のほか、中部地方や中国地方さらには九州地方など遠方に位置する火山から噴出したテフラ(火山砕屑物、いわゆる火山灰)が数多く降灰している。とくに後期更新世以降に降灰したそれらの多くについては、層相や年代さらに岩石記載的な特徴がテフラ・カタログなどに収録されており、遺跡などで調査分析を行いテフラを検出することで、地形や地層の形成年代さらには遺物や遺構の層位や年代などがわかるようになっている。

上新田中道東遺跡の発掘調査区でも、層位や年代が不明な土層が認められたことから、地質調査を実施して土層やテフラの記載を行うとともに、採取した試料を対象にテフラ検出分析と火山ガラスの屈折率測定を実施して、土層の層序や層位さらに年代に関する資料を収集することになった。調査分析の対象となった地点は、Ⅷ区南西地点である。

2. 土層の層序

Ⅷ区南西地点では、下位より灰色粘土層(層厚1cm以上)、暗灰色砂質土(層厚7cm)、黒泥層(層厚6cm)、黄灰色細粒火山灰層ブロックを含む暗灰色泥層(層厚3cm)、暗灰色粘質土(層厚11cm)、白色軽石を多く含む灰褐色砂層(層厚6cm、軽石の最大径5mm)、細粒の白色軽石を含み若干色調が暗い灰褐色土(層厚14cm、軽石の最大径2mm)、垂円礫に富む灰色砂層(層厚29cm、礫の最大径168mm)、黄色土ブロック混じり灰褐色表土(層厚15cm)が認められる(第283図)。これらのうち、灰褐色砂層中とその上位の土層に含まれている白色軽石については、岩相から1783(天明3)年に浅間火山から噴出した浅間A軽石(As-A, 荒牧, 1968, 新井, 1979)に由来すると考えられる。

3. テフラ検出分析

(1) 分析試料と分析方法

Ⅷ区南西地点で採取された3試料について、テフラ粒子の相対的な特徴を把握するテフラ検出分析を実施した。分析の手順は次の通りである。

- 1) 試料8gを秤量後、超音波洗浄装置を用いながらいねいに泥分を除去。
- 2) 80℃で恒温乾燥。
- 3) 実体顕微鏡下で、テフラ粒子の量や色調などを観察。

(2) 分析結果

テフラ検出分析の結果を第16表に示す。Ⅷ区南西地点では、試料3からスポンジ状に比較的良く発泡した灰白色軽石(最大径2.2mm)と、その細粒物である灰白色の軽石型ガラスを比較的多く検出した。その上位の試料2には、この灰白色の軽石型ガラスが少量含まれている。これらの試料では、重鉱物として斜方輝石や単斜輝石が多く、角閃石は認められない。一方、試料1のテフラ層には、さほど発泡の良くない白色の軽石型ガラスが比較的多く含まれている。また、重鉱物として角閃石や斜方輝石が目立つ。

第16表 上新田中道東遺跡におけるテフラ検出分析結果

地点名	試料	軽石・スコリア			火山ガラス	
		量	色調	最大径	形態	色調
8区南西地点	1				**	白
	2				*	灰白
	3	*	灰白	2.2	**	灰白

****: とくに多い, ***: 多い, **: 中程度, *少ない, 最大径の単位は, mm. bw: バブル型, md: 中間型, pm: 軽石型.

4. 屈折率測定

(1)測定試料と測定方法

Ⅷ区南西地点の試料1に含まれる火山ガラスの屈折率(n)を測定し、試料が採取されたテフラ層と指標テフラとの同定精度の向上を図った。測定には、温度変化型屈折率測定装置(古澤地質社製MAIOT)を使用した。

(2)測定結果

測定結果を第17表に示す。Ⅷ区南西地点の試料1に含まれる火山ガラス(26粒子)の屈折率(n)は、1.501-1.503である。

第17表 上新田中道東遺跡における火山ガラスの屈折率測定結果

地点名	試料	屈折率(n)	測定点数
8区南西地点	1	1.501-1.503	26

屈折率の測定は温度変化型屈折率測定装置(MAIOT)による。

5. 考察

テフラ検出分析で認められたテフラ粒子のうち、灰白色軽石やその細粒物である灰白色軽石型ガラスについては、その特徴から4世紀初頭に浅間火山から噴出したと推定されている浅間C軽石(As-C, 荒牧, 1968, 新井, 1979, 友廣, 1988, 若狭, 2000)に由来すると考えられる。試料3にこのテフラ起源の粒子が比較的多く含まれているものの、一次堆積層とは考えにくい。

また、試料1のテフラ層に含まれる白色軽石やその細粒物である白色の軽石型ガラスは、火山ガラスの屈折率を含めたその特徴から6世紀初頭に榛名火山から噴出した榛名二ツ岳渋川テフラ(Hr-FA, 新井, 1979, 坂口, 1986, 早田, 1989, 町田・新井, 1992)に由来すると考えられる。したがって、試料1が採取されたテフラ層はHr-FAと考えられる。ただし、このテフラ層もブロック状に含まれていることから、堆積後に耕作など何らかの攪乱作用を受けていると推定されよう。

6. まとめ

上新田中道東遺跡において、地質調査による土層記載と試料採取、さらにテフラ検出分析と火山ガラスの屈折率測定を実施した。その結果、下位より浅間C軽石(As-C, 4世紀初頭)、榛名二ツ岳渋川テフラ(Hr-FA, 6世紀初頭)、浅間A軽石(As-A, 1783年)のテフラ層やテフラ粒子を検出できた。

文献

- 新井房夫(1979)関東地方北西部の縄文時代以降の示標テフラ層. 考古学ジャーナル, no.157, p.41-52.
- 荒牧重雄(1968)浅間火山の地質. 地団研専報, no.45, 65p.
- 町田 洋・新井房夫(1992)火山灰アトラス. 東京大学出版会, 276p.
- 町田 洋・新井房夫(2003)新編火山灰アトラス. 東京大学出版会, 336p.
- 坂口 一(1986)榛名二ツ岳起源FA・FP層下の土師器と須恵器. 群馬県教育委員会編「荒砥北原遺跡・今井神社古墳群・荒砥青柳遺跡」, p.103-119.
- 早田 勉(1989)6世紀における榛名火山の2回の噴火とその災害. 第四紀研究, 27, p.297-312.
- 友廣哲也(1988)古式土師器出現期の様相と浅間山C軽石. 群馬県埋蔵文化財調査事業団編「群馬の考古学」, p.325-336.
- 若狭 徹(2000)群馬の弥生土器が終わるとき. かみつけの里博物館編「人が動く・土器も動くー古墳が成立する頃の土器の交流」, p.41-43.

II. プラント・オパール分析

1. はじめに

植物珪酸体は、植物の細胞内にガラスの主成分である珪酸(SiO₂)が蓄積したものであり、植物が枯れたあとも微化石(プラント・オパール)となって土壤中に半永久的に残っている。プラント・オパール分析は、この微化石を遺跡土壌などから検出して同定・定量する方法であり、イネの消長を検討することで水田跡(稲作跡)の検証や探査が可能である(藤原・杉山, 1984, 杉山, 2000)。

同定は、400倍の偏光顕微鏡下で、おもにイネ科植物の機動細胞に由来するプラント・オパールを対象として行った。

2. 試料

分析試料は、Ⅷ区南西地点から採取された2点である。試料採取層位を分析結果の柱状図に示す。

3. 分析法

プラント・オパール分析は、ガラスビーズ法(藤原, 1976)を用いて次の手順で行った。

- 1) 試料を105℃で24時間乾燥(絶乾)。
- 2) 試料約1gに対し直径約40μmのガラスビーズを約0.02g添加(電子分析天秤により0.1mgの精度で秤量)。
- 3) 電気炉灰化法(550℃・6時間)による脱有機物処理。
- 4) 超音波水中照射(300W・42KHz・10分間)による分散。
- 5) 沈底法による20μm以下の微粒子除去。
- 6) 封入剤(オイキット)中に分散してプレパラート作成。
- 7) 検鏡・計数。

計数は、ガラスビーズ個数が400以上になるまで行った。これはほぼプレパラート1枚分の精査に相当する。試料1gあたりのガラスビーズ個数に、計数されたプラント・オパールとガラスビーズ個数の比率をかけて、試料1g中のプラント・オパール個数を求めた。

また、おもな分類群についてはこの値に試料の仮比重と各植物の換算係数(機動細胞珪酸体1個あたりの植物体乾重、単位:10-5g)をかけて、単位面積で層厚1cmあたりの植物体生産量を算出した。これにより、各植物の繁茂状況や植物間の占有割合などを具体的にとらえることができる(杉山, 2000)。

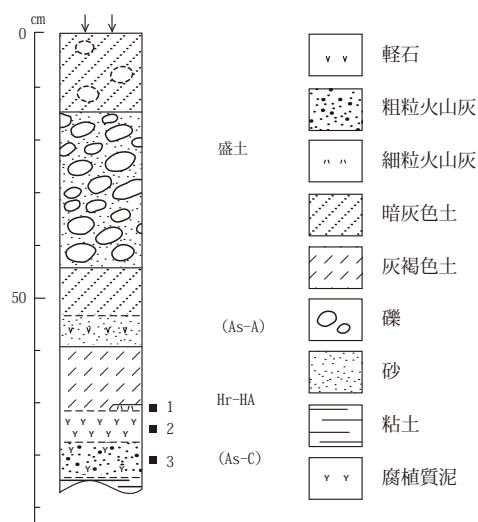
4. 分析結果

プラント・オパール分析では、イネ、ムギ類(穎の表皮細胞)、ヒエ属型、ヨシ属、ススキ属型、タケ亜科の主要な6分類群について同定・定量を行っている。分析結果を第18表および第283図に示し、主要な分類群の顕微鏡写真を写真図版に示す。

5. 考察

(1)水田跡(稲作跡)の検討

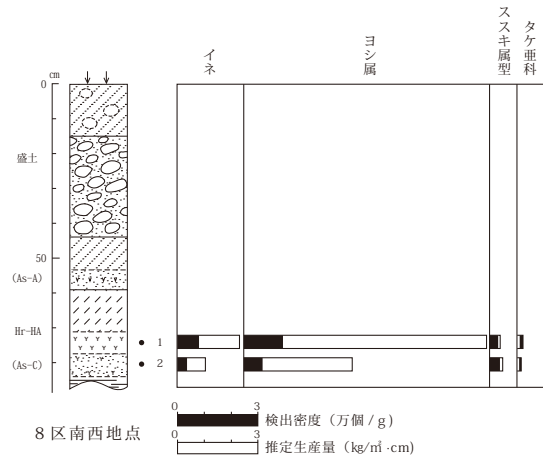
水田跡(稲作跡)の検証や探査を行う場合、一般にイネのプラント・オパールが試料1gあたり5,000個以上と高い密度で検出された場合に、そこで稲作が行われていた可能性が高いと判断している(杉山, 2000)。ただし、密度が3,000個/g程度でも水田遺構が検出される事例があることから、ここでは判断の基準を3,000個/gとして検討を行った。



第283図 Ⅷ区南西地点の土層柱状図
数字はテフラ分析の試料番号

第18表 上新田中道東遺跡におけるプラント・オパール分析結果

検出密度(単位: ×100個/g)			
分類群	地点・試料 学名	8区南西地点	
		1	2
イネ	<i>Oryza sativa</i>	80	36
ヨシ属	<i>Phragmites</i>	145	65
ススキ属型	<i>Miscanthus type</i>	29	36
タケ亜科	Bambusoideae	22	15
推定生産量(単位: kg / m ² ・cm)			
イネ	<i>Oryza sativa</i>	2.34	1.07
ヨシ属	<i>Phragmites</i>	9.15	4.12
ススキ属型	<i>Miscanthus type</i>	0.36	0.45
タケ亜科	Bambusoideae	0.10	0.07



第284図 上新田中道東遺跡におけるプラント・オパール分析結果

Ⅷ区南西地点では、Hr-FA直下層(試料1)とその下位のAs-C混じりの土層(試料2)について分析を行った。その結果、両試料からイネが検出された。このうち、Hr-FA直下層(試料1)では密度が8,000個/gと高い値であり、その下層(試料2)でも3,600個/gと比較的高い値である。したがって、これらの層では稲作が行われていた可能性が高いと考えられる。

(2) 堆積環境の推定

ヨシ属は湿地的なところに生育し、ススキ属やタケ亜科は比較的乾いたところに生育している。このことから、これらの植物の出現状況を検討することによって、堆積当時の環境(乾燥・湿潤)を推定することができる。イネ以外の分類群では、各層ともヨシ属が比較的多く検出され、ススキ属型やタケ亜科は少量である。おもな分類群の推定生産量によると、ヨシ属が優勢であり、とくにHr-FA直下層で多くなっている。

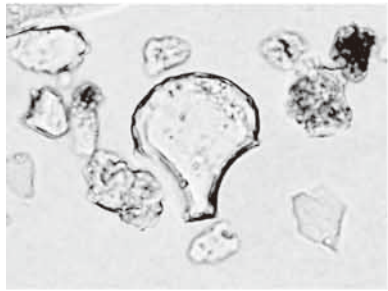
以上のことから、各層準の堆積当時は、ヨシ属が生育するような湿地的な環境であったと考えられ、そこを利用して水田稲作が行われていたと推定される。なお、Hr-FA直下層ではとくにヨシ属が多く見られることから、水田雑草などとしてヨシ属が生育していたことや、休閑期間中にヨシ属が繁茂していたこと、施肥などの目的でヨシ属が水田内に持ち込まれたことなどが想定される。

6. まとめ

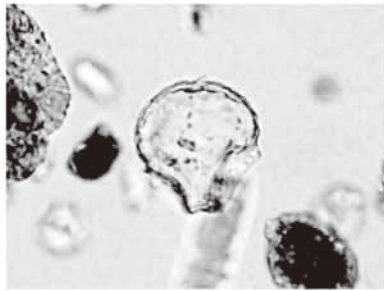
プラント・オパール分析の結果、Ⅷ区南西地点のHr-FA直下層とその下層ではイネが多量に検出され、稲作が行われていた可能性が高いと判断された。各層準の堆積当時は、ヨシ属が生育するような湿地的な環境であったと考えられ、そこを利用して水田稲作が行われていたと推定される。

文献

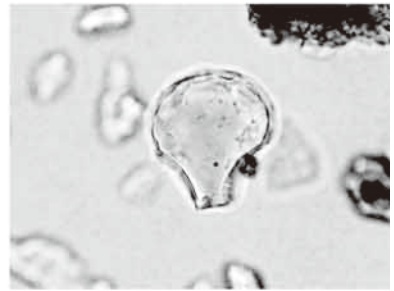
杉山真二(2000)植物珪酸体(プラント・オパール). 考古学と植物学. 同成社, p.189-213.
 藤原宏志(1976)プラント・オパール分析法の基礎的研究(1)—数種イネ科栽培植物の珪酸体標本と定量分析法—. 考古学と自然科学, 9, p.15-29.
 藤原宏志・杉山真二(1984)プラント・オパール分析法の基礎的研究(5)—プラント・オパール分析による水田址の探査—. 考古学と自然科学, 17, p.73-85.



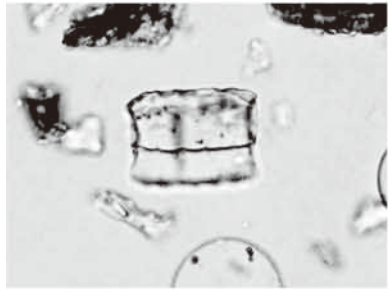
イネ
試料6



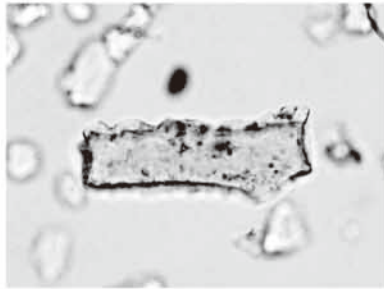
イネ
試料9



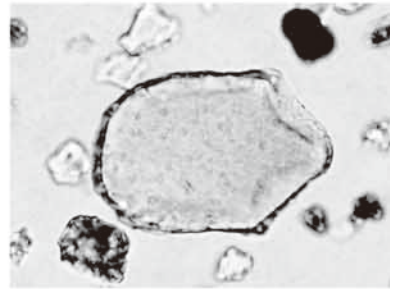
イネ
試料8



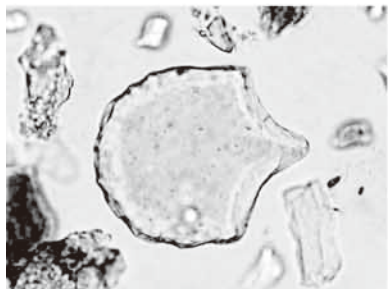
イネ(側面)
試料3



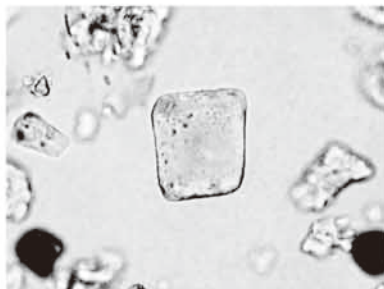
キビ族型
試料7



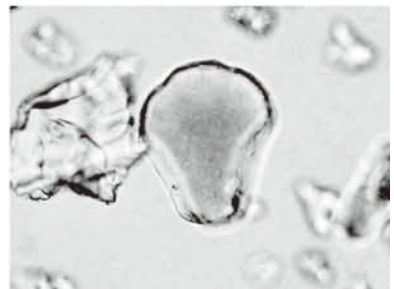
ヨシ属
試料7



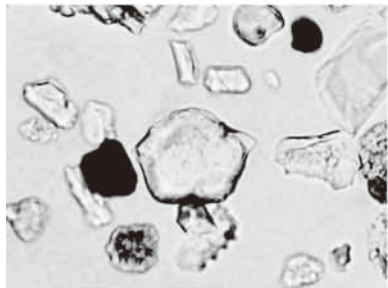
ヨシ属
試料6



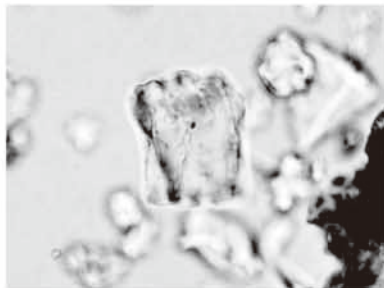
ウシクサ族A
試料6



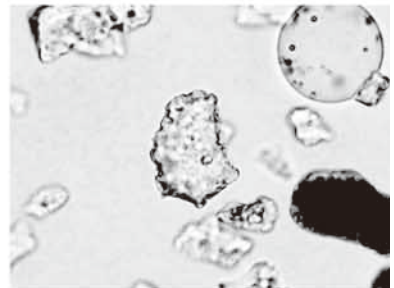
ウシクサ族B
試料7



ジュズダマ属型
試料7



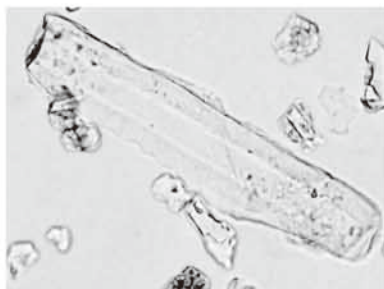
ナザサ節型
試料7



ミヤコザサ節型
試料10



棒状珪酸体
試料3



イネ科の茎部起源
試料2



海綿骨針
試料6

50 μ m

写真3 上新田中道東遺跡Ⅷ区の植物珪酸体(プラント・オパール)

5. 上新田中道東遺跡の大型植物遺体同定

1. はじめに

上新田中道東遺跡は群馬県佐波郡玉村町に位置する複合遺跡である。ここでは古墳時代前期の土坑や中世以降の井戸や溝から取り上げられた大型植物遺体を同定し、食用などに利用された植物あるいは周辺植生について検討する。

2. 試料と方法

試料は発掘調査現場で取り上げられた選別済みの試料である。試料数は6試料で、内訳はⅡN区4面8号土坑出土が3試料、ⅢN区4面1号井戸出土が1試料、同区4面包含層出土が1試料、ⅢS区3号溝内3ピット出土が1試料である。遺構の時期は出土土器型式およびテフラから8号土坑が古墳時代前期(4世紀代)、1号井戸と3号溝が中世以降、包含層出土が時期不明(おそらく古墳時代以降か)である。

大型植物遺体の抽出および同定は、肉眼および実体顕微鏡下で行った。同定された試料は(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団で保管している。

3. 結果

同定の結果、木本植物では広葉樹のオニグルミ核とブナ殻斗、モモ核・炭化核、ブドウ属種子の4分類群、草本植物のヒョウタン仲間種子とオナモミ炭化果実(果苞)、イネ炭化種子(玄米)の3分類群の計7分類群が見いだされた。この他に識別点を欠く同定不能種実が得られた(第19表)。炭化材片は検討の対象外とした。

遺構ごとに種実遺体の産出傾向を記載する(同定不能炭化種実は除く)。

ⅢN区4面1号井戸：モモ核が1点得られた。

ⅢN区4面包含層：オニグルミ核が1点得られた。

ⅡN区4面8号土坑：イネ炭化種子(玄米)が7点とやや多く、モモ核・炭化核とブドウ属種子、ヒョウタン仲間種子、オナモミ炭化果実(果苞)がわずかに得られた。モモ炭化核は破片3点で、1点は1/2個体程度、2点は1/2個体未満で別個体である。ヒョウタン仲間種子は破片をあわせても1/2個体未満である。

ⅢS区3号溝内3ピット：ブナ殻斗が1点得られた。

以下に、種実遺体を記載する。また1分類群につき最低1点の写真を示して同定の根拠とする。

第19表 上新田中道東遺跡出土の大型植物遺体(括弧は破片を示す)

分類群	部位/時期	No. 18		No. 19		No. 20		No. 21		No. 22		No. 23	
		区		ⅢN		ⅡN		ⅢS					
		面		4?		4							
		出土遺構		1号井戸		包含層		8号土坑		3号溝内3ピット			
		中世以降		不明		古墳時代前期				中世以降			
オニグルミ	核			1									
ブナ	殻斗												1
モモ	核	1								1			
	炭化核					(1)				(3)			
ブドウ属	種子					(1)							
ヒョウタン仲間	種子					(3)							
オナモミ	炭化果実(果苞)					1							
イネ	炭化種子(玄米)					6		1					
同定不能	炭化種実					(3)		(1)					

(1) オニグルミ *Juglans mandshurica* Maxim. var. *sieboldiana* (Maxim.) Makino 核 クルミ科

黄褐色で、側面観は広卵形。緻密で硬い。表面に縦方向の縫合線があり、本来浅い溝と凹凸が不規則に入るが、表面が摩滅しておりはっきりしない。上面にげっ歯痕が残る。残存長24.0mm、幅21.3mm、厚さ21.3mm。

(2) ブナ *Fagus crenata* Blume 殻斗 ブナ科

暗褐色で、殻斗は割れると同じ大きさの4片の殻斗片からなる。裂片は高さ10mm以上で柄は短い。裂片上部には太い鱗片がある。長さ23.7mm、幅12.3mm。

(3) モモ *Amygdalus persica* L. 核・炭化核 バラ科

淡褐色? 茶褐色で、上面観は両凸レンズ形、側面観は先が尖る。下端に大きな着点がある。表面に不規則な深い皺がある。また片側側面には縫合線に沿って深い溝が入る。未炭化核の側面観は長楕円形で長さ25.9mm、幅20.2mm、厚さ14.2mm、炭化核の側面観は円形に近い楕円形で復元長17.6mm、復元幅13.6mm。

(4) ブドウ属 *Vitis* spp. 種子 ブドウ科

茶褐色で、上面観は楕円形、側面観は破片であるが本来は先端が尖る卵形。腹面の約1/2が残存している。本来は背面の中央もしくは基部寄りに匙状の着点があり、腹面には縦方向に2本の深い溝がある。種皮は薄く硬い。長さ3.8mm、残存幅2.3mm。

(5) ヒョウタン仲間 *Lagenaria siceraria* (Molina) Standl. 種子 ウリ科

やや淡黄褐色~褐色で、上面観は扁平、側面観は逆三角形。やや湾曲して左右は非対象、本来ならば先端はW字状で、基部から先端まで、浅く広い溝が2本走るが観察できない。壁はややスポンジ質。最大の破片で、残存長8.5mm、残存幅2.3mm。

(6) オナモミ *Xanthium strumarium* L. 炭化果実(果苞) キク科

側面観は卵形。頂部に2本のやや大きめの刺があるが、途中で折れている。表面にはまばらに長さ1.0~2.0mmの刺がある。表面は硬く光沢がある。長さ10.7mm、幅6.1mm。

(7) イネ *Oryza sativa* L. 炭化種子(玄米) イネ科

上面観は両凸レンズ形、側面観は楕円形。一端に胚が脱落した凹みがあり、両面に縦方向の2本の浅い溝があり、中央がやや盛り上がる。写真の個体には胚がわずかに残存する。長さ4.6mm、幅3.1mm。

4. 考察

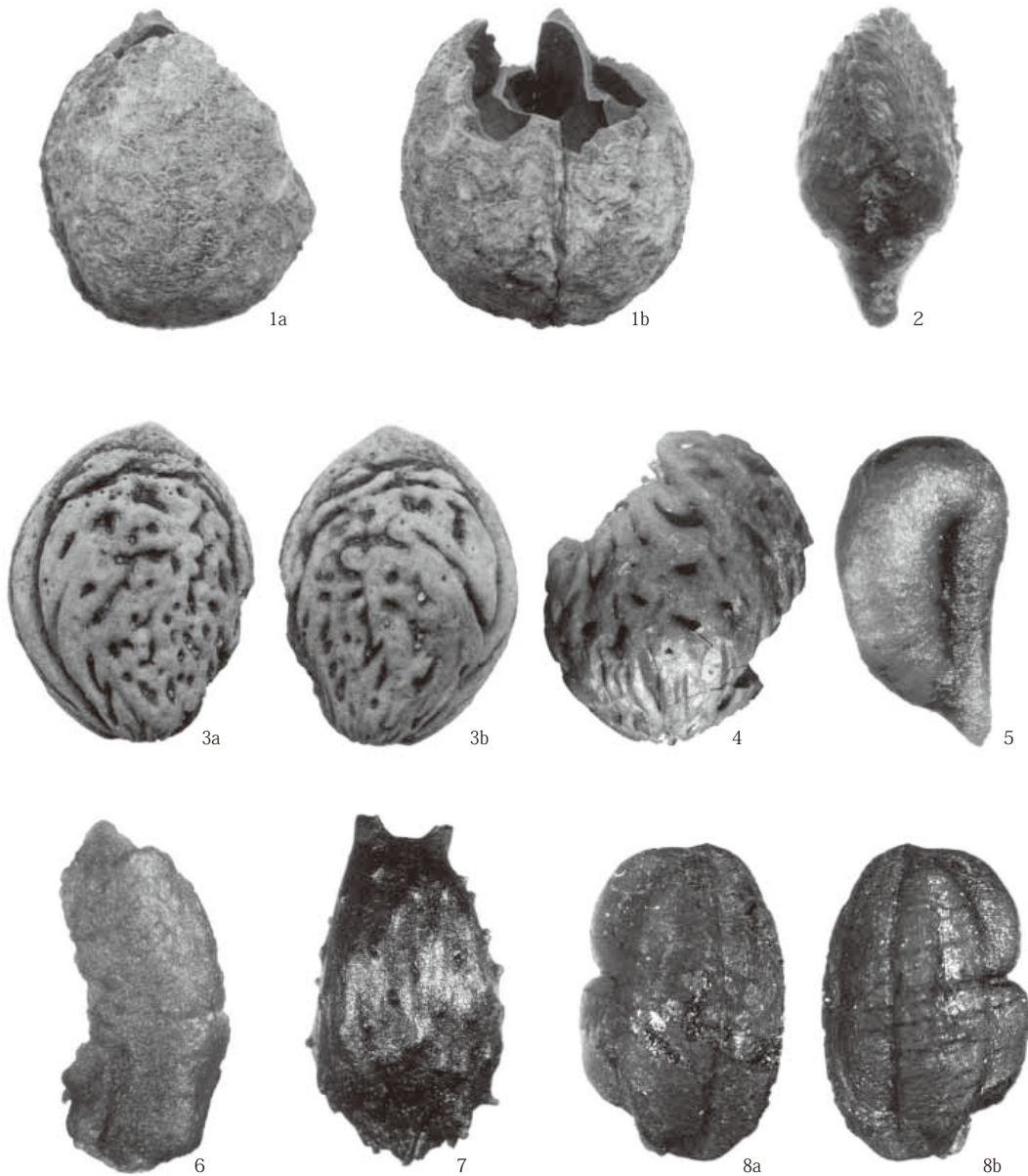
古墳時代前期(4世紀代)のⅡN区4面8号土坑からは栽培植物のモモとイネ、ヒョウタン仲間が得られた。モモとイネは炭化していることから、貯蔵時や調理・加工時などに炭化し、土坑内に廃棄したかまたは周辺から自然堆積した可能性がある。モモは未炭化の個体は長楕円形で、長さ25.9mmと大きかったのに対し、炭化した個体は復元長17.6mmと小さく、かつ円形に近い形状であった。山梨県内の遺跡から出土するモモ核の大きさと形状を検討した新津健(1999)によると、弥生時代のモモは丸味が強いものが多い傾向があり、平安時代から戦国時代にかけては長めのものとなる傾向が指摘されている。本遺跡のモモ核は数点の出土であり、傾向は見いだせないが、古墳時代前期に少なくとも丸くて小さなタイプと長くて大きなタイプが確認された。なお、中世以降の1号井戸から出土した未炭化のモモは長細いタイプで長さ24.2mm、幅17.7mm、厚さ12.6mmであった。また8号土坑からは野生植物であるが食用可能なブドウ属種子がわずかに得られた。オナモミは食用には利用できないが、薬用に利用可能である。しかし、人間による利用の痕跡はみられなかった。オナモミは道端に生育し、人間や動物に付着して移動する随伴植物であり、何らかの要因で炭化して土坑内に入ったと考えられる。同定は行っていないが、本土坑からは炭化材片が複数得られた。

中世以降の遺構である1号井戸からは栽培植物のモモ核、3号溝内3ピットからはブナ殻斗が1点得られた。殻斗は利用しない部位であることから、ブナが遺跡周辺に生育していたと考えられるが、遺跡立地は平野部に位置する低地であり、普通冷温帯に生育するブナが遺跡周辺に生育していたとは考えにくい。

時期不明のⅢN 4 面包含層からはオニグルミ核が1点得られた。オニグルミは上部からネズミ類による食痕が確認できた。

引用文献

新津 健(1999)遺跡から出土するモモ核について—山梨県内の事例から—。山梨考古学論集 I V, 361-374, 山梨県考古学協会。



スケール 1-4,7:5mm,5,6,8:1mm

写真4 上新田中道東遺跡出土の大型植物遺体

1. オニグルミ核(No.19)、
2. ブナ殻斗(No.23)、
3. モモ核(No.18)、
4. モモ炭化核(No.18)、
5. ブドウ属種子(No.20)、
6. ヒョウタン仲間種子(No.20)、
7. オナモミ炭化果実(果苞) (No.20)、
8. イネ炭化種子(玄米) (No.20)

6. 上新田中道東遺跡から出土した棒状遺物の材質分析

1. はじめに

上新田中道東遺跡は、群馬県佐波郡玉村町に所在する遺跡で、古墳時代や平安時代あるいは江戸時代の遺構・遺物が検出される複合遺跡である。調査では、古墳時代前期の土坑からS字状口縁台付甕とともに、硬質の棒状遺物が出土した。この棒状遺物は、やや孤状に曲がった丸棒状を呈し、側面には植物特有の細胞組織が見られた。

ここでは、この棒状遺物の材質について検討した。また、組織構造について森林総合研究所の能城修一氏、東北大学学術資源研究公開センター植物園の鈴木三男氏のご助言をいただいた。

2. 試料と方法

検討した試料は、古墳時代前期のⅡN区4面8号土坑から出土した棒状遺物1点である(図版1-1f)。はじめに、マイクロスコープを用いて表面形態について観察し、写真撮影を行った。さらに、棒状遺物の中央部付近において手術メスを用いて切断した後、カミソリを用いて断面組織の切片を作製し、ガムクロラルに封入して永久プレパラートを作製した。プレパラートは、光学顕微鏡を用いて断面の記載を行った後、写真撮影を行った。なおプレパラートは、パレオ・ラボに保管されている。

3. 結果

この棒状遺物は、やや孤状に曲がった丸棒状を呈し、長さが約21cm、直径が0.8～1.3cm、端部は一方が湾曲した面ともう一方が破断面からなる(図版1-1f)。

マイクロスコープで観察した結果、側面において植物由来と考えられる細胞状の線状組織が見られた(図版1-1e)。また、曲面を呈する端部の観察では、根状あるいは塊状物の付着物が見られた(図版1-1d)。

光学顕微鏡を用いた断面のプレパラート観察では、泡状の空洞が周辺に向かって径を減じて配列していた(図版1-1a～1c)。なお、木材に見られる道管などの組織や果柄などに見られる維管束などは観察されなかった。

なお、当初の肉眼観察では、ユウガオなどの大型果実を支える果柄の可能性が考えられたため、現生のユウガオの果柄と果実について組織観察を行った。なお、現生標本は、(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団の桜岡氏(2010年採集)から提供していただいたユウガオの果柄および果皮である。

(1) 棒状遺物 図版1 1a-1f

横断面では道管はなく、気泡状の空隙が密に散在する。中心部にむかって大きく、外側にむかって小さくなる傾向がある。

(2) ユウガオ *Lagenaria siceraria* (Molina) Standl. var. *hispida* (Thunb.) H.Hara ウリ科 図版2 2a(果柄)・2b-2c(果皮)

果柄横断面：内外両側に篩部があり、木部を挟む外篩複並立維管束が環状に配列する真正中心柱を有する双子葉植物の果柄である。

果皮横断面：横断面では外側から厚壁細胞の厚壁組織、その内側の薄壁組織がみられる。接線断面では多面体の柔細胞がみられる。

ユウガオはつる性の1年草で、熱帯アフリカが原産と考えられる栽培植物である。熟すと果皮は硬化するため、液体容器に利用され、若い果肉は食用とされる。

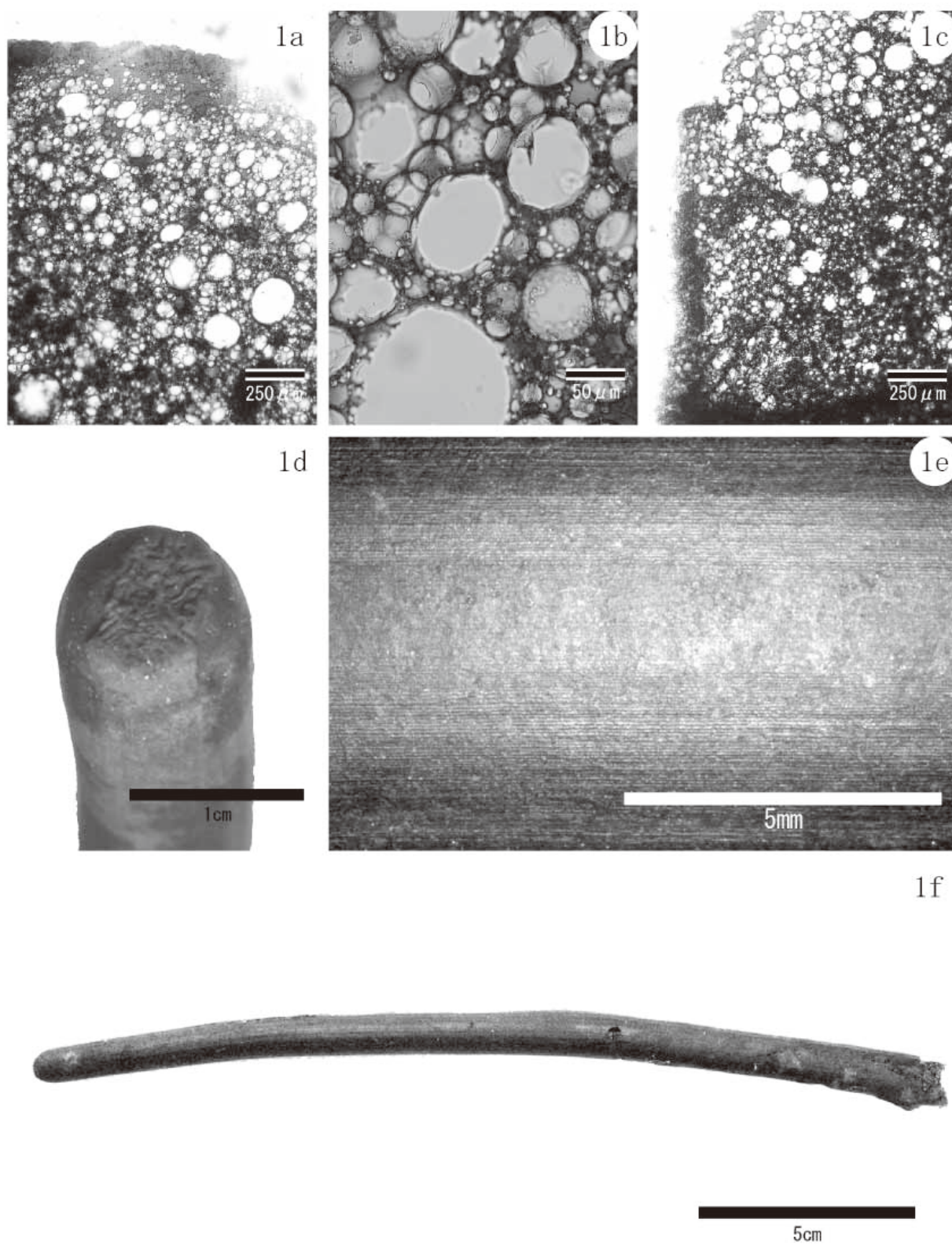


写真5 上新田中道東遺跡出土棒状遺物の光学顕微鏡写真・実体顕微鏡写真

1a-1f. 棒状遺物

(a : 横断面, b : 横断面拡大, c : 接線断面, d : 端部拡大写真, e : 側面拡大写真, f : 全体写真)

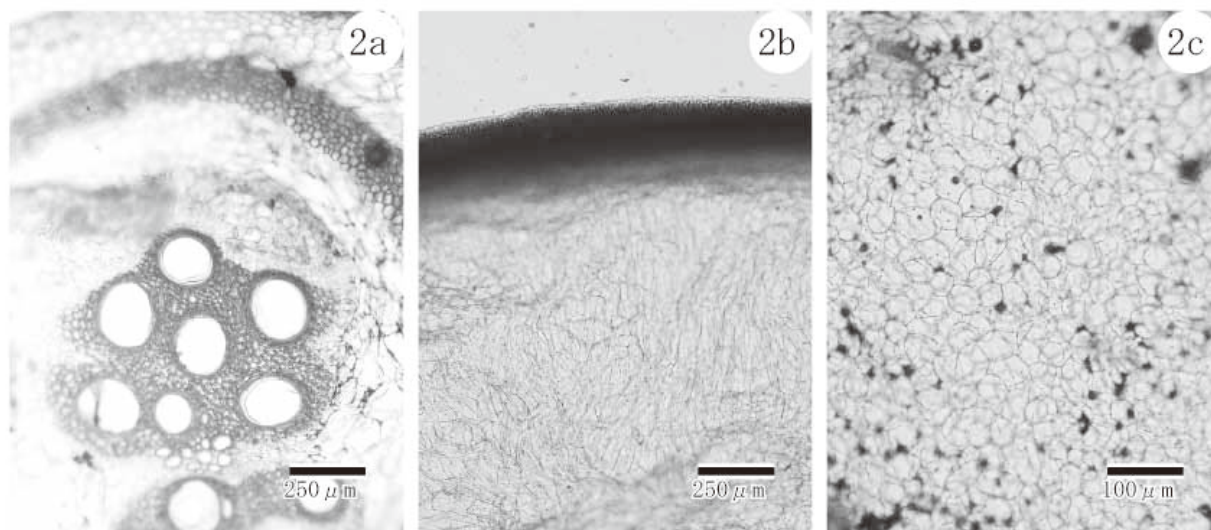


写真6 現生ユウガオの光学顕微鏡写真

2a-2c. ユウガオ

(a : 果柄横断面, b : 果実横断面, c : 果実横断面拡大)

4. 考察

やや孤状に曲がった丸棒状を呈する棒状遺物は、表面の形態観察および断面構造の観察から、泡状の空洞が周辺に向かって径を減ずる構造を示し、ユウガオの果柄に見られる組織構造とは異なっていた。なお、表面形態は、植物由来と思われる細胞状の線状組織が見られた。

以上のことから、この棒状遺物は、内部において植物組織を持たないことから、植物遺体とは考えられない。

7. 上新田中道東遺跡から出土した棒状遺物の赤外分光分析

1. はじめに

群馬県佐波郡玉村町に位置する上新田中道東遺跡の調査では、古墳時代前期の土坑内から表面に植物組織の圧痕を残す棒状遺物が検出された(棒状遺物の材質分析の図版1-1f参照)。同一の棒状遺物について、横断面の光学顕微鏡下による組織観察の検討を行ったが、植物組織は観察されなかった。断面のプレパラート観察では、多数の気泡を伴う固結発泡した生成物で、有機物と推定された(棒状遺物の材質分析の項を参照)。ここでは、棒状遺物の材料を検討するため、有機質材料の同定に有効な赤外分光分析を行い、棒状遺物の材料を検討し、形態について現生標本との比較を行った。なお、現生のタケ類は、富士竹類植物園に現生標本を提供していただいた。記して感謝申し上げます。

2. 試料と方法

試料は、古墳時代前期のⅡN区4面8号土坑から出土した棒状遺物1点である(第20表)。なお、この土坑は、深さ約1.2mの井戸状遺構である。試料は丸い棒状で、直径は最も太い部分で1.2cm、全長は21.3cmであり、やや弓状に曲がっている。端部は、一方は破断しているが、他方は丸みがある。表面には、植物組織様の圧痕が見られた(棒状遺物の材質分析の図版1-1e参照)。

第20表 分析を行った棒状遺物とその詳細

試料No.	遺物名	遺物No.	時期	遺構	形状の特徴	その他
1	棒状遺物	ⅡN区	4面	8号土坑	最大直径1.2cm,全長は21.3cm,弓状湾曲	黒褐色,表面に植物組織様の圧痕

分析は、棒状遺物の材料を調べるために赤外分光分析を行った。試料は、切断面において手術用メスを用いて薄く削り取った後、押しつぶして厚さ1mm程度に裁断した臭化カリウム(KBr)結晶板に挟み、油圧プレス器を用いて約7トンで加圧整形した。測定は、フーリエ変換型顕微赤外分光光度計(日本分光(株)製FT/IR-410、IRT-30-16)を用いて透過法により赤外吸収スペクトルを測定した。

3. 結果および考察

赤外分光分析を行った結果、生漆(市販品)の吸収ピークに近いスペクトルが得られた(図版1-3)。なお、実線が棒状遺物の成分を示し、点線は生漆の成分である。図中の数字は、生漆の主な吸収位置である(第21表)。試料には、漆の成分であるウルシオール(No. 6~8)に近い吸収が見られた。なお、この棒状遺物は、植物遺体ではなく硬質物であることから、変質が少ない安定した成分で構成されていると推定される。

第21表 生漆の赤外吸収位置とその強度

吸収No.	生漆		ウルシ成分
	位置	強度	
1	2925.48	28.534	
2	2854.13	36.217	
3	1710.55	42.035	
4	1633.41	48.833	
5	1454.06	47.195	
6	1351.86	50.803	ウルシオール
7	1270.86	46.334	ウルシオール
8	1218.79	47.536	ウルシオール
9	1087.66	53.843	
10	727.03	75.389	

7. 上新田中道東遺跡から出土した棒状遺物の赤外分光分析

類似した棒状遺物は、埼玉県本庄市の平成22年度、久下前遺跡 A 2 地点の調査において、古墳時代の溝から出土している^(注1)。この遺物は、上新田中道東遺跡の棒状遺物と同様に表面に植物組織様の圧痕が見られ、残存直径もほぼ同じである。なお、この遺物は、表面にタケ類の稈のような組織が残存していたことから、タケ類の稈内で固結した生成物と推定された。

タケ類の稈は、ヤダケ(*Pseudosasa japonica* Makino:伊豆半島海岸部採取)やヒメハチク(*Phyllostachys bambusoides* Sieb.et Zucc.:富士竹類植物園採取)などを半切して観察すると、節を挟んで伸長方向の下側では丸みのある形態を呈するが、上側では段を伴って突出した形態を呈する(図版1-1b, 2b)。また、内面においても、薄皮下に棒状遺物の外面にみられるのと同様の短冊状の長細胞が観察される(図版1-1c, 2c)。上新田中道東遺跡の棒状遺物は、丸みのある残存する部分がタケ類の稈の伸長方向の下側部分の形状に酷似する。

このような遺跡出土の棒状遺物と同様の形状を持つタケ類のうち、古墳時代において利用可能なタケ類としては、前述のヤダケとメダケ(*Pseudosasa simonii* Nakai)などが考えられる。ヤダケは、稈長3～4 m、直径1 cm、節間長30 cmと通直で長い。メダケは、稈長5～6 m、直径2～3 cmである。いずれも関東以西の河川敷などに普通に見られる(内村, 2010)。

以上の点から、棒状遺物は液状でタケ類の稈の中に入れられ、外側のタケ部分は風化した状態で出土したと考えられる。

4. おわりに

古墳時代前期のⅡN区4面8号土坑から出土した棒状遺物について赤外分光分析を行った。その結果、生漆に近いスペクトルが得られた。なお、この棒状遺物は、遺物の残存状況から、変質しにくい安定した成分で構成された生成物と考えられた。

また、形態的には、タケ類の稈の内部形態および内部の表面構造に類似していることから、タケ類の稈内で固結した生成物と推定された。なお、材質や用途の有無についてはさらに検討が必要である。

引用文献

内村悦三(2010)タケ・ササ図鑑～種類・特徴・用途～. 219p, 創森社.

注1)埼玉県本庄市から出土した棒状遺物の記載は、本庄市教育委員会のご厚意によるものである。

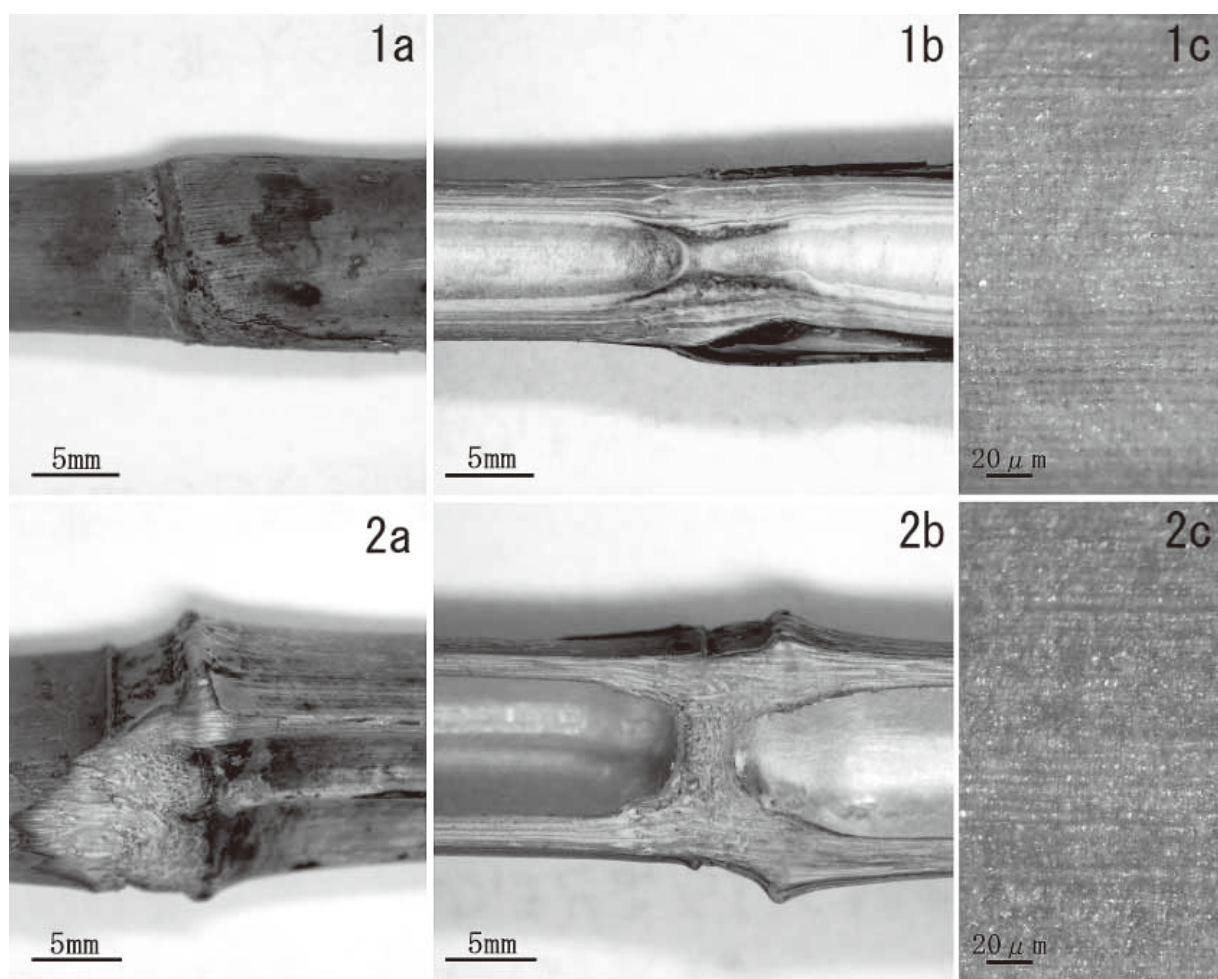


写真7 現生タケ標本の表面・内部形態と棒状遺物の赤外分光スペクトル図

1a. ヤダケの表面(右伸長方向)、1b. ヤダケの内部(右伸長方向)、1c. 内面の組織

2a. ヒメハチクの表面(右伸長方向)、2b. ヒメハチクの内部(右伸長方向)、2c. 内面の組織

3. 棒状遺物の赤外分光スペクトル図(縦軸は透過率、横軸が波数を示す)

実線：棒状遺物、点線：生漆

8. 上新田中道東遺跡出土獣骨

はじめに

上新田中道東遺跡は、群馬県佐波郡玉村町上新田に所在する。(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団による発掘調査が、2004(平成16)年4月～2005(平成17)年3月まで実施された。

本遺跡では、主に、古墳時代前期の住居・方形周溝墓・掘立柱建物・土坑・ピット・溝、平安時代から中世の水田、近世の災害復旧の土坑等が検出されている。

本遺跡の、I区からIV区の主に溝から馬歯を中心とした獣骨が出土したので、以下に報告する。なお、本遺跡の調査区はI区からIX区までであるが、V区からIX区では獣骨は検出されていない。また、本遺跡の中央部の調査は別途実施されているため、北側の区をN区・南側の区をS区としている。したがって、以下の「N」及び「S」は、それぞれ「北」及び「南」を意味する。なお、本稿に記載した遺構面呼称は調査時のままである。

各区に共通して、0面は浅間A軽石復旧溝・1面は浅間Bテフラ下面水田・2面は浅間Bテフラ下位の洪水層下面・3面は浅間C混土上位の黒褐色土面・4面は浅間C混土下位の灰黄色砂質土上面を意味する。

浅間A軽石は天明3(1783)年に、浅間B火山灰は天仁元(1108)年に、浅間C軽石は4世紀中葉に、浅間山が噴火したことによる降下軽石及び火山灰である。調査面の時代は、2面及び3面は平安時代、4面は古墳時代前期に比定される。

馬(ウマ)の年齢区分は、1歳～5歳を幼齢馬・6歳～16歳を壮齢馬・17歳以上を老齢馬とした。また、馬歯の計測方法は、フォン・デン・ドリシュ(von den Driesch, 1976)に従った。さらに、ウマの性別は、犬歯の有無及び寛骨の形態で判定するが、今回、犬歯及び寛骨は出土しなかったため、性別を推定できたものはなかった。

1. I区出土獣骨

I区では、N・0面29号溝とS・1面81-C-16G,同91-C-16G,同91-D-6Gから獣骨が出土している。なお、1面の表面採集で1点が出土しているが、破片であるため詳細は不明である。

(1) N・0面29号溝 [2004年8月26日出土]

29号溝は、I区の東端部を南北に走行している。残念ながら、正確な出土位置は不明である。

獣骨は、歯1本分の破片であると推定される。恐らく、ウマ(*Equus caballus*)の上顎左M3(第3大白歯)であると推定されるが、破片であるため確かではない。

本馬歯の性別は不明、死亡年齢は頬側歯冠高が約29mmであるので、約13歳前後の壮齢馬であると推定される。

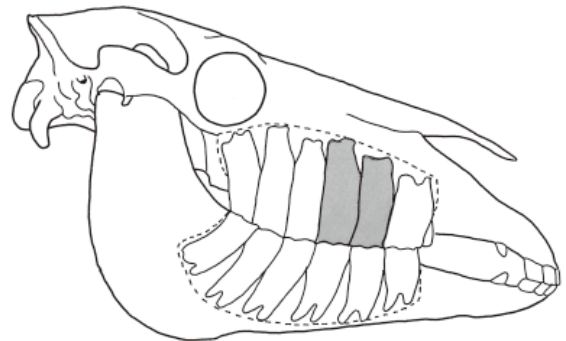
(2) S・1面81-C-16G [2004年8月3日出土]

I区のほぼ中央を北西から南東にかけて走行する18号溝の中央部近くのグリッドから出土している。

獣骨は、ウマ(*Equus caballus*)の上顎白歯3本である。馬歯の色と形態が似ているので、同一個体であると推定される。また歯種は、接着復元の結果、上顎右P3(第3小臼歯)・同P4(第4小臼歯)及び上顎左P4(第4小臼歯)であると推定される。



写真8 I区S・1面81-C-16G出土馬歯(頬側面観)



第285図 I区S・1面81-C-16G出土馬歯出土部位図(右側面)

性別は不明である。歯冠高より、死亡年齢は幅を持たせて約6歳から7歳の壮齢馬であると推定される。

(3) S・1面91-C-6G [2004年8月3日出土]

91-C-16Gは、I区のほぼ東端部に位置する。このグリッドからは、獣歯片が8点出土している。いずれも破片であるため、確かではないが、恐らく、ウシ(*Bos taurus*)の歯であると推定される。

しかしながら、破片であるため、歯種・個体数・性別・死亡年齢は不明である。

(4) S・1面91-D-6G [2004年8月3日出土]

91-D-6Gからは、破片が1点出土している。いずれも破片であるため、確かではないが、恐らく、ウシ(*Bos taurus*)の歯であると推定される。

しかしながら、破片であるため、歯種・個体数・性別・死亡年齢は不明である。

2. II区出土獣骨

II区では、N・2面の表面採集で獣骨が1点、2004年6月21日に出土している。

ウマ(*Equus caballus*)の右下顎白歯片である。破片であるので、歯種は不明であるが、形態から少なくとも、P3・P4・M1・M2のいずれかであると推定される。なお、性別及び死亡年齢は不明である。

3. III区出土獣骨

III区では、N・1面水田耕土及び1面表面採集、N・1面18号溝、N・2面29号溝、N・2面30号溝から獣骨が出土している。

(1) N・1面水田耕土 [2004年6月16日出土]

ウマ(*Equus caballus*)の歯の破片が出土している。上顎白歯であると推定されるが、破片であるため、歯種・性別・死亡年齢は不明である。

(2) N・1面表面採集

ウマ(*Equus caballus*)の歯の破片が出土している。下顎白歯であると推定されるが、破片であるため、歯種・性別・死亡年齢は不明である。

(3) N・1面18号溝 [2004年5月25日出土]

ウマ(*Equus caballus*)の下顎右大白歯3本(M1～M3)が解剖学的位置を保って出土している。また、下顎骨の一部も残存しているので、下顎歯が植立した状態で埋没し

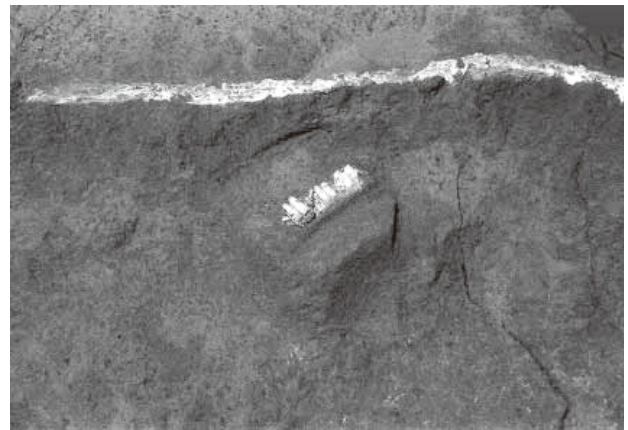
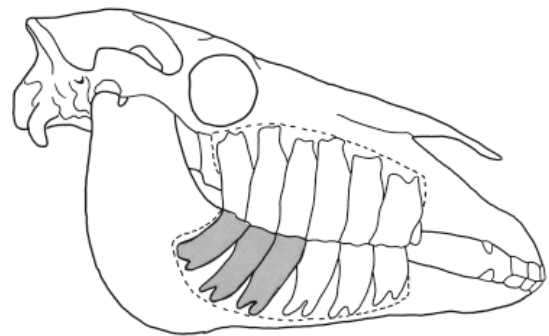


写真9 III区N・1面18号溝出土馬歯出土状況



写真10 III区N・1面18号溝出土馬歯(頬側面観)



第286図 III区N・1面18号溝出土馬歯出土部位図(右側面)

たものと推定される。

3本共に、同一個体で、性別は不明である。歯冠高より、死亡年齢は約13歳から14歳の壮齢馬であると推定される。

(4) N・2面29号溝 [2004年6月18日出土]

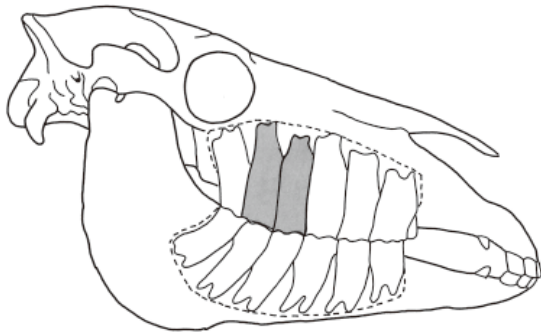
極小破片のみで、種名・性別・死亡年齢等、不明である。

(5) N・2面30号溝 [2004年6月11日出土]

ウマ(*Equus caballus*)の、上下顎白歯である。しかしながら、破片が多いため、計測が可能であったのは、上顎



写真11 Ⅲ区N・2面30号溝出土馬歯(頬側面観)



第287図 Ⅲ区N・2面30号溝出土馬歯出土部位図(右側面)

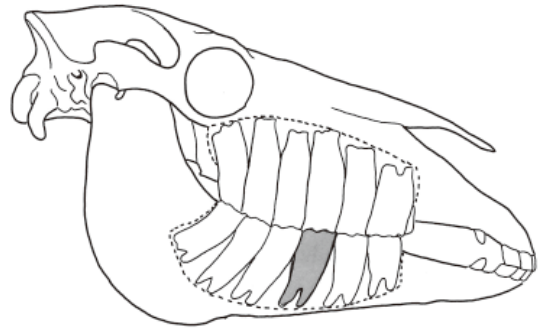
右M1(第1大白歯)及びM2(第2大白歯)のみである。
 上下臼歯は、1個体で、性別は不明である。歯冠高から、死亡年齢は約10歳の牡馬であると推定される。

4. IV区出土獣骨

IV区では、N・1面から獣骨が1点出土している。ウマ(*Equus caballus*)の、下顎右P4(第4小白歯)であると推定される。性別は不明で、死亡年齢は歯冠高より、約6歳の牡馬であると推定される。



写真12 IV区N・1面出土馬歯(頬側面観)



第288図 IV区N・1面出土馬歯(右側面)

まとめ

上新田中道東遺跡のI区からIV区から、獣骨が出土した。まとめは、以下の表23を参照されたい。水田や河川の遺跡であることから、農耕祭祀・祈雨祭祀に伴う殺馬儀礼である可能性が高い。

第22表 上新田中道東遺跡出土獣骨リスト

区名		面	遺構名	種名	性別	死亡年齢
I区	N	0面	29号溝	馬歯	不明	約13歳
	S	1面	81-C-16G	馬歯	不明	約6~7歳
	S	1面	91-C-6G	牛歯?	不明	不明
	S	1面	91-D-6G	牛歯?	不明	不明
II区	N	2面	表面採集	馬歯	不明	不明
III区	N	1面	水田耕土	馬歯	不明	不明
			表面採集	馬歯	不明	不明
			18号溝	馬歯	不明	約13~14歳
	2面	29号溝	不明	不明	不明	
		S	30号溝	馬歯	不明	約10歳
IV区	N	1面	表面採集	馬歯	不明	約6歳

第23表 上新田中道東遺跡出土馬歯計測値

区名	遺構	歯種	MD	BL
I区	81-C-16G	上顎右P3	(24 mm)	(25 mm)
		上顎右P4	(25 mm)	(25 mm)
III区	N1面18号溝	下顎右M1	(25 mm)	(15 mm)
		下顎右M2	(24 mm)	(13 mm)
		下顎右M3	(31.5 mm)	(12 mm)
	N2面30号溝	上顎右M1	23 mm	25 mm
		上顎右M2	23 mm	24 mm
IV区	N1面	下顎右P4	破損	(16 mm)

引用文献

von den DRIESCH, Angela 1976 "A Guide to the Measurement of Animal Bones from Archaeological Sites", Peabody Museum, Harvard University

謝辞

本遺跡出土獣骨を報告する機会を与您にいただき、考古学的情報を与您にいただいた、(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団の小島敦子氏に感謝いたします。

9. 上新田中道東遺跡出土骨類の同定

上新田中道東遺跡Ⅱ区中央区で平成22年度に出土した骨類を同定した結果は、下記の通りである。調査した骨類は2点で、ともに上新田中道東遺跡Ⅱ区中央区Ⅲ層中から出土した。Ⅲ層は、1108(天仁元)年に降下した浅間Bテフラの軽石を多量に含む灰褐色土で、中世から近世前半にかけての時期に生成されたと考えられている土層である。両資料とも遺構に伴った出土状態ではない。

1. 上田中道東Ⅱ区Ⅲ層No. 5

種名：ウマ

部位：右上顎第3前臼歯

全体の形状、歯冠長、咬合面の傾斜などから右上顎第3前臼歯と判断される。舌側面が欠損している。

年令：4才

歯冠高すなわち咬耗度から西中川他(1991)に従って、4才の幼令馬と推定した。この若駒がなぜ死に至ったのか興味のもたれるところである。

性別：不明

臼歯のみでは性別判定は不可能である。

馬格：中型在来馬相当

歯の計測値から日本の中型在来馬相当の馬格であると思われる。

2. 上田中道東Ⅱ区Ⅲ層No. 4

保存全長19.9mmの焼骨片で灰白色をしている。

種名：ヒト？

ヒトの可能性が高いが、確定できない

部位：肢骨

参考文献

西中川駿(1991)『古代遺跡出土骨から見たわが国の牛、馬の渡来時期とその経路に関する研究』平成2年度文部省科学研究費補助金(一般研究B)研究成果報告書

第24表 上顎第3前臼歯計測値

歯冠長	歯冠幅	歯冠高	中附錘幅	咬合面の傾斜
29.4	20.4+	64.2	4.5	95°

単位:mm



写真13 Ⅱ区Ⅲ層出土馬歯

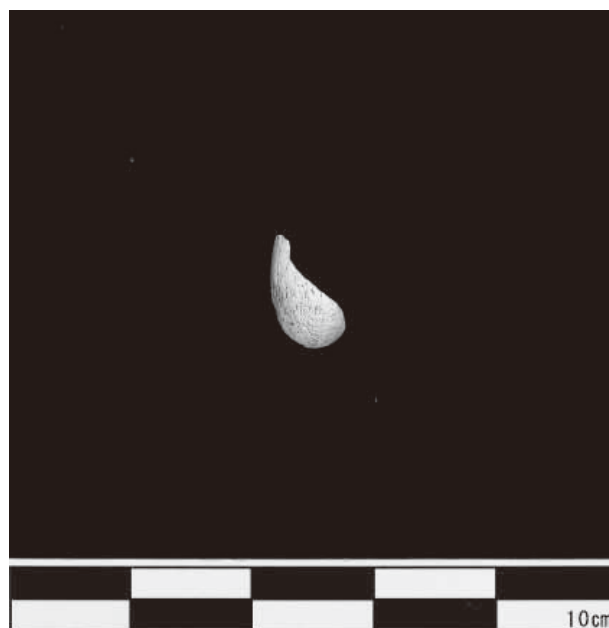


写真14 Ⅱ区Ⅲ層出土骨片

第9章 上新田中道東遺跡発掘調査の総括

1. 発掘調査の成果

上新田中道東遺跡は、これまで報告したように平成16年、20年、21年、22年と4次にわたる発掘調査を実施し、その調査によって前橋台地南部地域における地域史の一端を明らかにすることができた。概略を示せば下記の通りである。

上新田中道東遺跡では縄文時代および弥生時代の遺構は検出されなかったが、少量ながらも遺物が出土しており、これらの出土遺物によって遺跡周辺の縄文時代・弥生時代の状況を考える情報を得ることができた。

古墳時代の遺構は前期の集落の一部が四つの微高地上で検出された。特にⅢ区とⅥ区で検出された「周溝をもつ建物」^(註13)と当該期と推定される掘立柱建物からなる集落は、従来の集落研究に新しい視点が必要なことを示したといえよう。また、古墳時代中・後期の遺構は検出されなかったが、当該時期の特徴をもった土師器破片が少なからず出土している。玉村町地域にも古墳は多数分布していることから、古墳時代中・後期の集落が地域に存在することは明らかである。今後も集落検出への意識的な調査が必要であろう。

平安時代の遺構は発掘区東半部で9世紀後半～末と推定される洪水層が検出され、それに埋没した水路とその洪水層を鋤き込んで耕作した水田痕跡が検出された。またその水田域西側の微高地縁辺には9世紀から10世紀にかけての竪穴住居8軒が検出された。上新田中道東遺跡の東側に隣接する齊田中耕地遺跡(文献83)では同じ時期と推定される洪水層で直接埋まった水田面が検出されており、両遺跡の調査から平安時代後半期における水田耕作過程の一端を明らかにすることができた。

さらに、天仁元(1108)年、中世初期に降下した浅間Bテフラに埋没した水田とそれを鋤き込んだ浅間B混土層下面検出の水田痕跡も重複して検出され、古代末から中世にかけての水田農耕の過程をたどることができる資料を得ることができた。

玉村町地域は近世には新たな用水系が整備され、新田開発が盛んに行われたことが文献資料からわかっている

が、発掘調査では昭和時代の圃場整備直前まで使われた幹線用水路に関連する溝が各地点で検出されて、このことを具体的に示すとみられる資料を得ることができた。

本章では、以上のような成果の内容を時代ごとに詳述して、調査のまとめとしたい。さらに、個別テーマについて、本遺跡調査で明らかになった点や今後の課題について次項で述べる。

(1) 縄文時代の上新田中道東遺跡

上新田中道東遺跡では縄文時代の遺構は検出されなかった。遺物は遺構検出作業時や上層の遺構埋没土中から縄文土器6点、縄文時代のもものと推定される石器40点、剥片25点が出土したのみである。石器の時期は明確にはしがないが、土器の時期は縄文時代中期の加曾利E式、後期の堀之内式であった。(第270～272図)

玉村町地域の縄文時代の周知の遺跡は非常に少なく、第2章で述べたように、福島曲戸遺跡(文献68)、福島大光坊遺跡(文献74)、上之手石塚Ⅲ遺跡(文献18)で中期の、角瀧城遺跡(文献43)で前期の土坑が検出されているが、竪穴住居の検出は知られていない。他に福島飯塚遺跡(文献78)、上新田新田西遺跡(文献82)、上新田重土薬師遺跡(文献84)などで少量の土器が出土しているのみである。これらの調査成果から、縄文時代には本地域は居住に不適な環境であったと推定されている。上新田中道東遺跡の調査成果からもこのことが追認されたといえよう。

しかし、上新田中道東遺跡では草創期の有茎尖頭器3点や石鏃28点が遺跡東半部に集中して出土した(第271図)。縄文時代の遺跡周辺は居住域としての土地利用は困難であったと推定されるが、狩猟等の活動が行われていたことが推定される。

(2) 弥生時代の上新田中道東遺跡

上新田中道東遺跡では弥生時代の遺構も検出されなかったが、遺構外や古墳時代前期遺構の埋没土中から、弥生土器11点が出土した(第269図)。その時期は中期中葉～後期である。主体は後期樽式土器であり、北総系と推定される後期外来系の弥生土器も出土した。

上新田中道東遺跡周辺では、弥生時代の遺跡も縄文時代と同様に少ないが、近年の調査で遺構が検出され始めている。上飯島芝根Ⅱ遺跡(文献46)で中期後半御新田式期の住居1軒、一万田遺跡(文献50)で中期後半の再葬墓1基、上之手石塚Ⅲ遺跡(文献18)で土坑1基が検出された。また、福島飯塚遺跡(文献70)では御新田式等を含む中期後半から後期の土器が出土した。

これまでの調査成果で明らかのように、前橋市北西部や高崎市では榛名山麓、前橋台地・高崎台地上に、新保遺跡や日高遺跡をはじめとする弥生時代中期後半から後期の集落遺跡が数多く分布している。これに対比して玉村町地域の遺跡分布が希薄であることが特徴とされることが多いが、上記のような玉村町地域の弥生時代遺跡の最近の発見例は現水田下に埋没する弥生時代集落の存在を示唆している。今後の調査に期待するとともに、水系や農耕適地といった、それぞれの地形面に即した水田農耕環境に留意した遺跡分布に注目する必要がある。古墳時代前期の集落を含めた、前橋台地の弥生時代の遺跡分布については、次節でまとめた。

(3) 古墳時代の上新田中道東遺跡

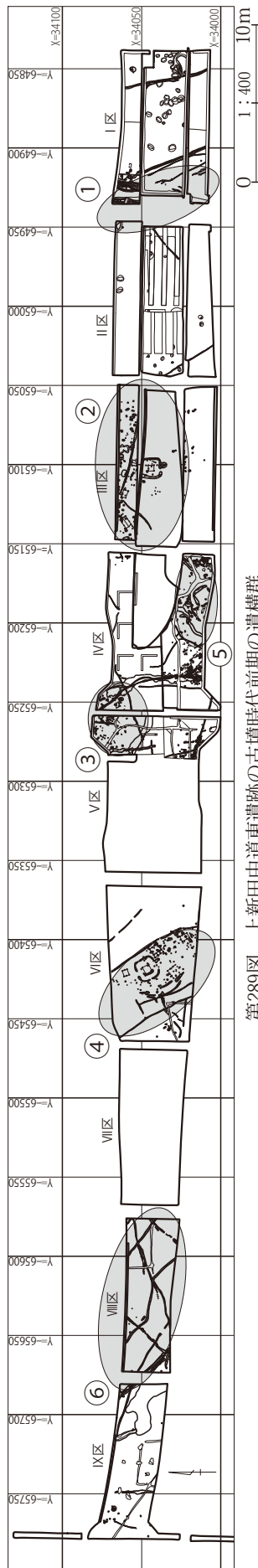
上新田中道東遺跡で検出された古墳時代の遺構・遺物は、点在する前期の集落と、中期から後期にかけての遺物である。上新田中道東遺跡の現況は低平な水田地帯であったが、古墳時代の遺構が検出されたⅧ層上面では微高地と周辺の後背低地が入り混じる地形となっており、微高地には居住域や墓域が、低地部には小河川跡や溝などが検出された。何らかの被覆土層があれば、低地部には水田面が検出されることが想定されるが、上新田中道東遺跡では、古墳時代の水田面は検出されなかった。しかし、地形の傾斜に直交する溝が数条検出されており、これらは農業用水路の可能性があろう。

古墳時代前期の集落のうち居住域は、①Ⅰ区～Ⅱ区にかけての微高地、②Ⅲ区の微高地、③Ⅳ・Ⅴ区の北微高地、④Ⅵ区の微高地の4地点で検出された(第289図)。①では古墳時代前期の土坑が、②～④では多様性のある建物からなる集落の一部が発掘によって検出されたが、全体像を明らかにするまでにはいたらなかった。また、⑤Ⅳ区の南微高地では方形周溝墓からなる墓域の一部が、⑥Ⅷ区からⅨ区にかけては低地部に掘られた溝が検出された。

古墳時代前期の土坑

①のⅠ区～Ⅱ区にかけての微高地では、隅丸方形の土坑が2基検出された(第267・268図)。これらの土坑からは完形もしくはそれに近い多数の土師器や杭等の木製遺物が出土した。周辺には建物や溝は検出されず、Ⅲ区集落ともやや離れた位置にある。このような完形の土器が出土する隅丸方形や円形の土坑は、Ⅲ区で2基、Ⅴ区でも3基検出されているが、こちらは周辺に建物や溝がある居住域内にあり、そこで機能していたと考えられる。Ⅰ・Ⅱ区の土坑は調査区内では集落から離れて位置しているが、発掘区の北側に居住域が展開する可能性もあることから、Ⅰ区・Ⅱ区の隅丸方形土坑も集落内にあり、同様な機能をもった土坑であった可能性を考えておきたい。一方、Ⅵ区でも同規模の土坑が4基検出されたが、井戸として記録した。これらには完形に近い土器は出土せず、形態もやや不整円形であることが異なっていたが、上新田中道東遺跡で検出された古墳時代前期の土坑にはいくつかの形態が認められたが、土坑の機能を発掘調査から判断することはできなかった。

このような土器を多量に出土する土坑は玉村町地域



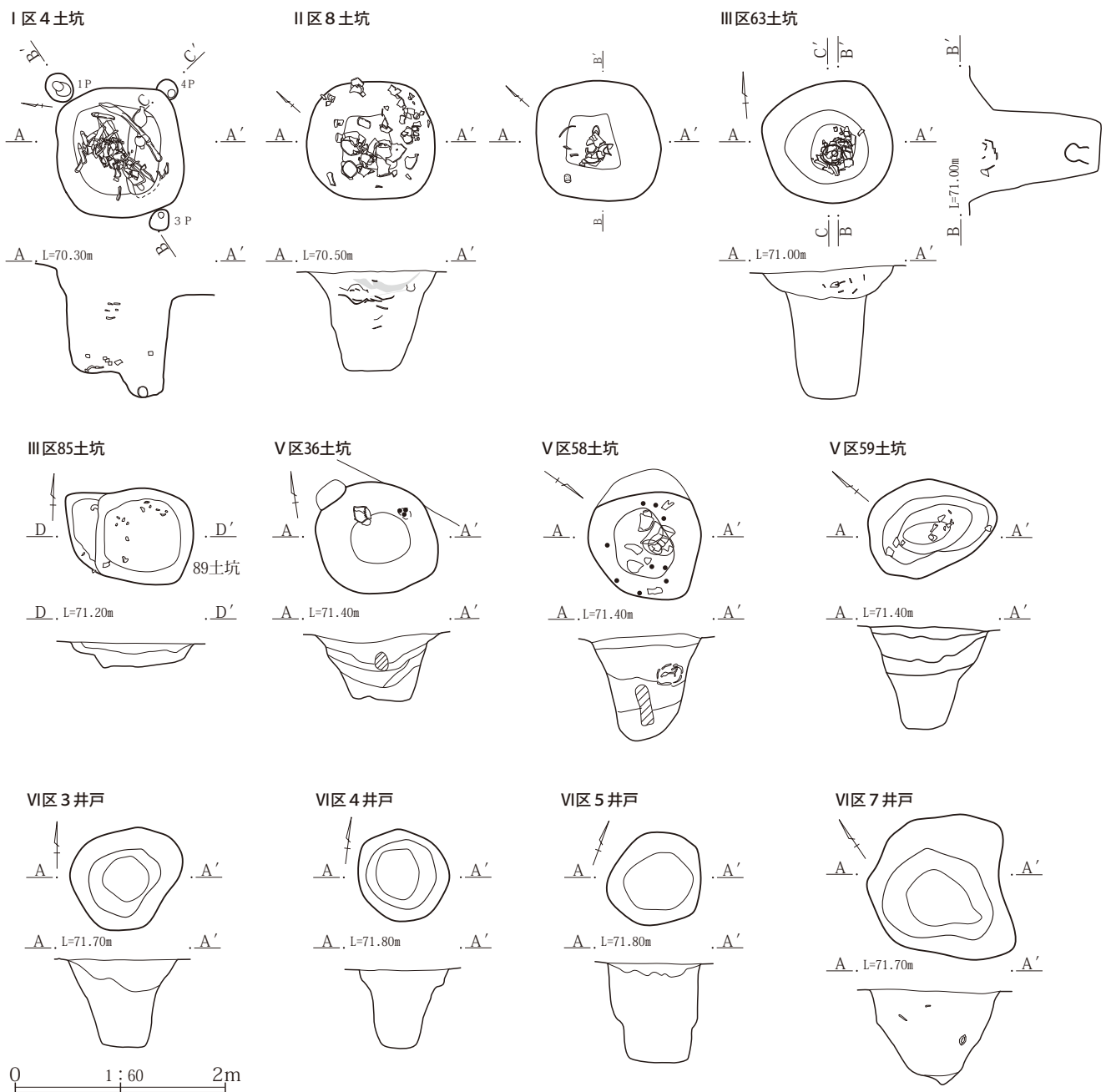
第289図 上新田中道東遺跡の古墳時代前期の遺構群

では複数例が認められ、墓塚の可能性と井戸・祭祀関連遺構との関連性が指摘されている。^(註14)また、前橋市南部の徳丸仲田遺跡(文献71)でも同様の土坑が検出されているが、井戸と考えられている。上新田中道東遺跡のI区・II区の2基の土坑の立地は、註14で指摘されたような墓域の周辺での検出かどうかは発掘区内の調査では明らかにすることができなかった。上新田中道東遺跡の例のなかでも遺物の出土状況や形態に違いが見られたことから、適正な分類が必要であり、このような土坑や井戸の機能の解明は今後の課題となろう。また、これまでこのような土坑の分布は井野川周辺に限られているとの見

方が強いが、形態や分布状況を再度県全体のなかで検討する必要がある。

古墳時代前期の建物と集落 III区およびVI区の微高地上では、「周溝をもつ建物」を中心とし、周囲に掘立柱建物柱が取り巻くように集落の一部が検出された(第291・292図)。またIV区・V区の北側境界部では、小規模な竪穴住居と掘立柱建物が検出された(第292図)。

いずれの区でも掘立柱建物からの出土遺物が限られており、建物の時期を確定することが困難であった。しかし少量ながらも掘立柱建物柱穴埋没土中からの出土遺物が古墳時代前期に限られること、柱穴埋没土が古墳時代前



第290図 上新田中道東遺跡の古墳時代前期の土坑・井戸

期遺構埋没土と共通することから、掘立柱建物が古墳時代前期である可能性が高いと考えられる。

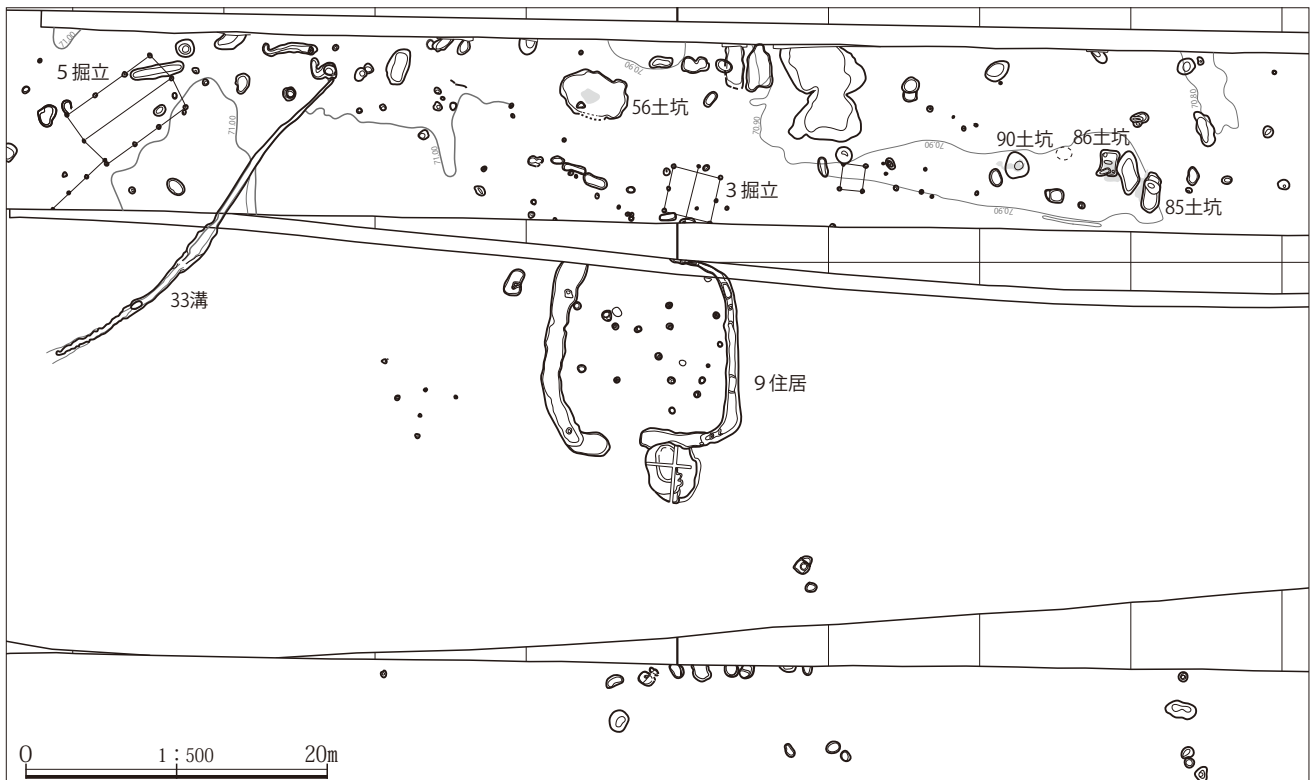
Ⅲ区では中央区に周溝をもつ建物である9号住居、西側に区画溝33号溝、北側に5棟の掘立柱建物と多数の土坑が検出された。掘立柱建物のなかに小規模ながら独立した棟持柱をもつ形態の建物(3号・5号掘立柱建物)が含まれていることが注目される。土坑は不定形のものが多く、分布に規則性はみられなかった。大型の56号・85号・86号・90号土坑には埋没土中に焼土が顕著に確認され、特殊な機能をもつ土坑と推定された(第291図)。

Ⅳ・Ⅴ区では西と南東部、北東部が溝で区切られ、ほぼ中央に小規模な1号住居と、周溝をもつ建物の可能性のある2号住居が検出された。2号住居の西側には軸方向が共通する41号溝がある。北西部で検出された38号溝は41号溝に直交する方向であり、39号溝もL字形で区画溝である可能性がある(第292図上)。この集落域のすぐ北側には、同時期の遺構群が検出された中道東遺跡(文献60)が、玉村町教育委員会によって調査されている。集落の広がりを示す可能性が高い。

Ⅵ区では南北に細長い微高地の東西縁を小規模な溝で区画し、中央部の微高地頂部に周溝をもつ建物である1号住居と掘立柱建物3棟が検出された。特に西側には古

墳時代前期の土器が多数投棄された14号・16号・18号溝や、孤状の区画溝21号溝があり、周溝をもつ建物を囲んでいるように見える。土坑は微高地南東縁に偏在していた(第292図下)。各区の集落内は小規模な溝で区画され、微高地の頂部に中心的な周溝をもつ建物が1棟あり、周囲に掘立柱建物と土坑がつくられるというパターンをもっているように見える。これらの遺構が同時にあったかどうかは建物の時期が確定できないことから厳密には明らかにできないが、重複する遺構はほとんど無いことから、古墳時代前期において関連して建てられた結果と推定される。

このような周溝をもつ建物や掘立柱建物が混在する古墳時代前期の集落は、群馬県内でこれまでも明らかになっている。それらを大別すると、前橋市徳丸仲田遺跡(文献71)や荒砥前田遺跡(文献92)のように1間×2～3間ほどの小規模な掘立柱建物数棟が竪穴住居群内に散在する遺跡と、太田市中溝Ⅱ遺跡・唐桶田遺跡(文献93)のように、竪穴住居と掘立柱建物と周溝のある建物が共存する遺跡、太田市中溝深町遺跡(文献94)のように大きな方形区画内にあり、四面庇を想定させる建物も検出された豪族居館と呼ばれる特殊な遺跡のように、多様性があることがわかっている。



第291図 Ⅲ区の前古墳時代の遺構

上新田中道東遺跡では、周溝をもつ建物と掘立柱建物が共存しており、小規模ながら独立した棟持柱をもつ掘立柱建物が含まれている。同様な様相が見える唐桶田遺跡には隣接して豪族居館とされる中溝深町遺跡があり、建物の組み合わせに重層的な様相が看取される。これまで検出された古墳時代前期の集落では竪穴住居のみの集落が多く認識されていたが、多様性のある遺構群の組み合わせに複数の集落が束ねられた地域農耕社会の一端が表れている可能性を考える必要ができたのであろう。

周溝をもつ建物は、玉村町地域を中心に群馬県内にも類例があり、1999年の検討では形態と時期から「上之手八王子遺跡型」と「三和工業団地型」の2種に分けられ、背景が異なるものとされた。^(註15) 2003年の集成では関連資料も含めて7遺跡29遺構が挙げられている。^(註16) ここでの検討では、周溝は主に、防水・防湿・排水機能を果たしていたものと考えられており、11種に分けられる多様性については東海・北陸・南関東各地から伝えられた設計法や工法が表れていると推定されている。上新田中道東遺跡で検出された周溝をもつ建物は、Ⅲ区9号住居、Ⅵ区1号住居ともに微高地の頂部にあり、特にⅥ区の溝や掘立柱建物の遺構配置は周溝をもつ建物が主要な遺構であった可能性をうかがわせるが、詳細は今後の課題としたい。

また、古墳時代前期の建物には、竪穴住居・周溝をもつ建物・掘立柱建物・平地式建物などがあつた。上新田中道東遺跡の調査では集落の一部のみの調査であったことから、全体像をあきらかにすることはできなかった。これらの形態の異なる建物群の個々の性格を明らかにするとともに、集落構成のなかでの重層性も考慮した考察が今後は課題となる。

一方、Ⅳ区では南東部微高地上に方形周溝墓が2基検出された(第265図)。古墳時代前期の墓域は居住域に隣接して造られていることをここでも追認することができた。2号周溝墓については溝の共通性から周溝墓としたが、断定はできない。1号周溝墓は規模や形態が周溝をもつ建物と似ているが、発掘区のなかでも高い位置にあること、溝の中央が深く掘られていること、内部に柱穴が検出できなかったことから周溝をもつ建物とは考えなかった。上新田中道東遺跡Ⅳ区南東部微高地では居住域に隣接した墓域の一部を検出したものと考えられる。



第292図 IV・V・Ⅵ区の前古墳時代の遺構

上新田中道東遺跡の立地 ここでは前橋台地地域における弥生時代から古墳時代前期の上新田中道東遺跡の立地を考えておこう。第2章で述べたように、本書では「前橋台地」を井野川以東、蕪川以西の範囲に限定して用いる。それは、地形面で農業用水の水系単位を分けることができ、そこでの遺跡立地を考えることが農耕社会解明の最も基礎資料になると考えるからである。特に井野川周辺の遺跡は、「井野川流域」として地域区分されることが多い。しかし、井野川低地帯は約2.1万年前に堆積した前橋泥流(前橋岩なだれ)を開析した古い利根川流路で、約1.1万年前の高崎泥流堆積前には形成されており^(註17)、当然、弥生時代にはすでに比高があり前橋台地西端を区切る地形であった。当時の榛名山麓から前橋台地上にかけて分布する遺跡群は、西部では染谷川や牛池川、東部では端気川や藤川などの小河川の水系ごとに、用水分配や耕作地の開発、居住域・墓域の配置などの集落形成が行われていたと考えられる。井野川低地帯や高崎台地^(註18)にもそれぞれ当時の用水となりうる水系があり、遺跡群を形成していたはずである。前橋台地西半部を含めた、それらの統合としての「井野川流域」という地域があるのかどうかは、次の段階の議論になるであろう。

前橋台地は、榛名山麓の南東縁を北の短辺とし、井野川と蕪川に挟まれた細長い台形である(第293図)^(註19)。北側には標高110m付近で榛名山麓が接し、標高80m付近で総社砂層が堆積する前橋台地2面と総社砂層が及ばなかった前橋台地1面に分けられている。^(註20)榛名山麓では山体に放射状に小河川が流下し、河川沿いに弥生時代中期からの遺跡が立地する。標高110m付近の地形変換点では、榛名山中に水源がある唐澤川、染谷川、牛池川、八幡川、午王頭川などが前橋台地2面に流下して南に流向を変えて流れる。牛池川以西の河川は直接井野川へ流入し、水系が終わっている。

前橋台地2面は前橋市大手町あたりを扇央とする扇形の地形を見ている。ここには染谷川の下流や滝川先行河川^(註21)、利根川先行河川^(註22)などの榛名山麓水源の川が放射状に流下する。現利根川は第2章で述べたように中世後期に変流していることから、弥生時代から古墳時代前期には現在のような下刻の進んだ河道はなかったと推定される。しかし、先行河川が存在が想定されており、公田町や横手町の遺跡はその水系にあたっていると推定されている。^(註23)

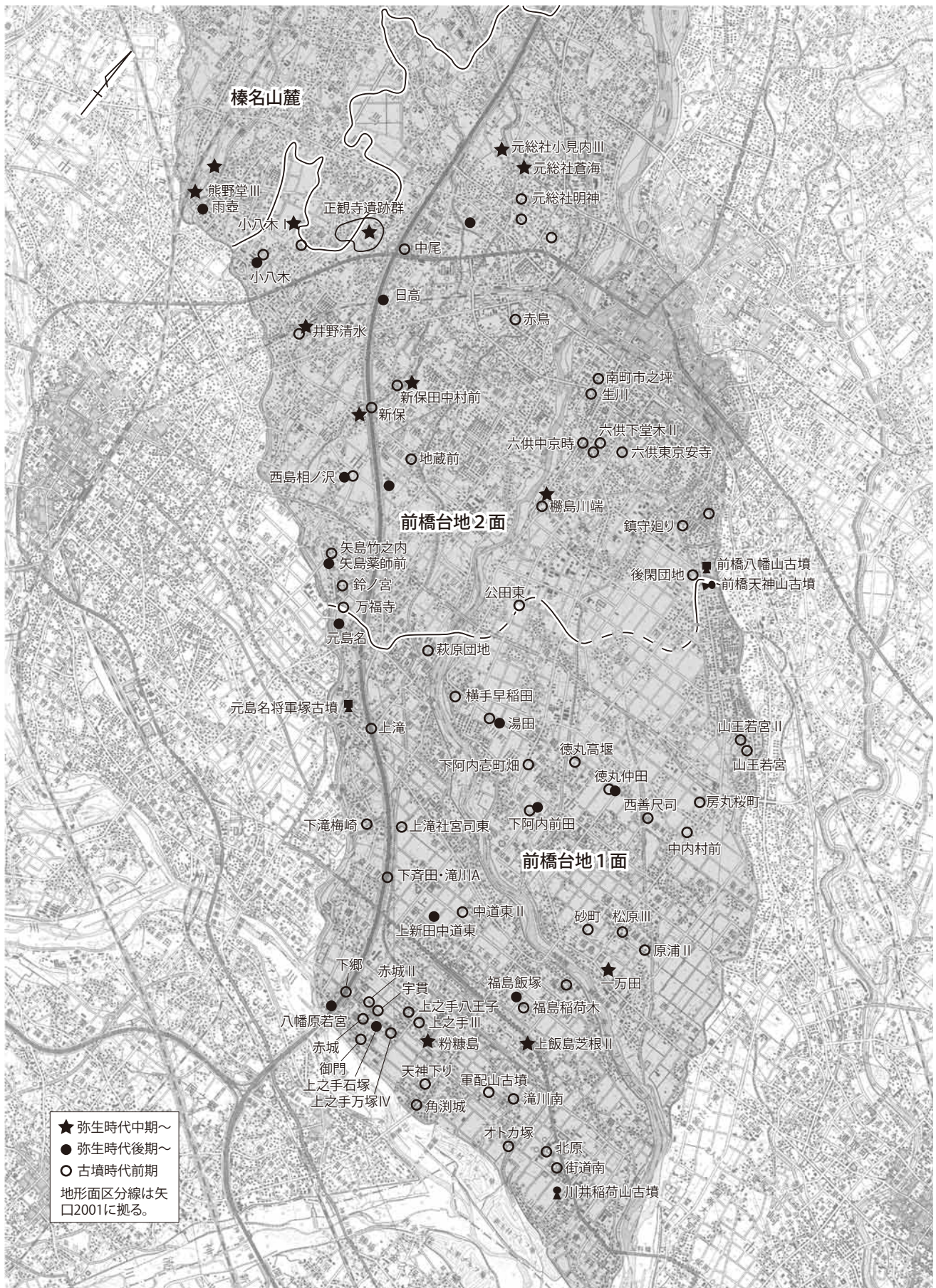
一方、前橋台地2面には、現流河川はないが帯状の小規模な開析谷があり、日高遺跡などの遺構面が埋没していることも発掘調査から判明している。前橋市六供町周辺にも古墳時代前期の遺跡が点在しているが、これらも埋没帯状低地に水田が、周辺の微高地面に集落が点在することを推定させる。ここでは弥生時代の遺跡や遺物はみつからないが、今後の調査を注目したい。

前橋台地1面は、標高80m付近で榛名山麓方向からの北西から南東方向への傾斜が変わり、小河川もその方向にほぼ直流する。上新田中道東遺跡はこの前橋台地1面ほぼ中央に立地している。2面から1面にかけて南へ流れる滝川は、慶長年間に用水路として整備されたことから、現在は配水のため微高地部分を開削した直線的な流路を見せている^(註24)。しかしその先行河川の自然流路は2面では井野川の崖線にほぼ並行し、1面の玉村町内では南東方向に流れる流路をとっていたものと推定される。利根川先行河川も1面では南から南東方向に流れを変えながら烏川か広瀬川低地帯に流入していたと推定される。上新田中道東遺跡Ⅰ区や齊田中耕地遺跡Ⅲ区や、横手湯田遺跡A区・B区(文献73)の発掘調査では、古墳時代以前の著しく蛇行する旧河川跡が検出されている。このような河道跡が、滝川先行河川や利根川先行河川の流路の痕跡とする可能性が高いと考えられる。

前橋台地1面東半部には端気川と藤川が流下している。現状では端気川は前橋市城東町の十六本堰で広瀬川から分水されている。現在広瀬川は渋川市北橋町で利根川から取水されているが、利根川の旧流路である広瀬川低地帯を流れる自然河川である。江戸時代には広瀬川から前橋城下を経由して、端気川を通る船運が行われていた。

広瀬川と接続された端気川の流路は前橋台地北側の崖線を乗り越える形になっており、明らかに自然流路ではなく人工の用水路である。また前橋台地上でも灌漑用水路として整備された直線流路となっている。このような端気川の整備がいつから行われたかは、前橋台地の開発史を解明するうえで重要である。中流域の直線流路は徳丸高堰遺跡(文献77)の発掘調査の結果、17世紀以降に開削されたことが判明しているが、広瀬川から取水する流路の開削時期は未解明である。条里施行期に開削されたという説が出されているが、結論が出ていない。^(註25)

いずれにしても端気川の本来の水源は、前橋台地内に



(国土地理院発行、5万分の1地形図「高崎」平成10年12月1日発行「前橋」平成10年3月1日発行「榛名山」平成10年3月1日発行「寄居」平成5年4月1日発行)
 第293図 前橋台地の弥生～古墳時代前期の遺跡分布

あったか、榛名山麓起源の自然河川であったであろう。前橋台地2面は総社軽石が及んで、1面よりわずかに高燥な地形であり、扇状地状の地形末端からの湧水あるいは前橋台地2面を開析する小規模な谷地があった可能性もあろう。

東方にある藤川も扇状地状の前橋台地2面末端からの湧水を水源とする小河川と推定される。徳丸仲田遺跡の調査では旧河川跡が3条検出されており、これらのうち東端の河川跡が藤川の旧流路であると指摘されている(文献71)。西端の河川跡は端気川の旧流路である可能性も考えられよう。以上のような現在名称が残る河川以外にも、小規模な網状の自然流路が台地面に刻まれていたことが想定され、このような自然水系を用水として利用した集落が、周囲にある微高地上に立地していたと推定される。

以上のような自然地形や水系をもつ前橋台地の地図に、弥生時代中期から古墳時代前期の主な遺跡を示したのは第293図である。榛名山麓には中期前半、前橋台地には中期後半からの遺跡があり、それぞれの水系と農耕適地の開発をおこなっていたことがわかる。前橋市街地や前橋市南部では発掘調査成果が少なく水系ごとの全体像を描き出すに至らないが、前橋台地も確実に弥生時代中期から開発されていることが判明しつつあるといえよう。

前橋台地1面は前述したように自然小河川に恵まれ、用水が確保でき、南北に長い地形面に農耕適地が広がっている発展性のある地域である。その北端にあたる、2面と1面の境界である標高80m付近の台地両端に群馬県を代表する前期古墳である、前橋八幡山古墳・前橋天神山古墳と元島名将軍塚古墳が、そして最南端に玉村地域最古の川井稲荷山古墳が造られたことには何等かの意味があるのだろう。前橋市徳丸仲田遺跡では上幅3.0～5.0m、深さ1.0～1.2mの古墳時代前期の水路(G区6号溝)が掘削されており、その南東2.1kmにある玉村町砂町遺跡(文献59)でも上幅3.5～7.0m、深さ約1.1mの用水路(7号溝)が検出されている。両水路は規模や形状・走向・遺構の時期が共通することから一連の水路ではないかと見られている。前橋台地における古墳時代前期後半の広域な灌漑用水路の掘削を伴う開発が想定されている^(註26)。そして、その開発は弥生時代からすでに始まっているのである。

このような地域のなかで上新田中道東遺跡の古墳時代

前期の集落は形成された。広い前橋台地のなかで、それぞれの水系ごとに効率的な用水配分をし、用水路を整備して、集落は関係しあいながら成立していたと考えられる。上新田中道東遺跡でみられた建物の多様性や、集落間での建物の組み合わせの違いには、このような水系ごと、あるいは複数の水系をまとめる地域構造が隠されているのだろう。断片的な調査ではあったが、上新田中道東遺跡の調査からも低平な水田下に隠された古墳時代の様相を理解していくための良好な資料を得ることができたといえよう。

中期・後期の土器 玉村町地域では、古代以降浅間Bテフラ降下までには、広い地域が水田化されたことがこれまでの発掘調査で判明している。上新田中道東遺跡でも後述するように発掘区のほぼ全域で、浅間Bテフラに覆われた水田が確認された。その耕作土は攪拌された灰褐色のシルト質土であるが、その耕土内に古墳時代中期から後期にかけての土器破片が含まれていた。壺・甕類の胴部破片はそれだけでは時期を判断することは困難であるが、数種の特徴のある土器破片によって古墳時代の土器であることが判明した。

これらの土器破片は、第5章の古代水田耕土内あるいは第6章の溝等出土遺物と遺構外出土遺物のなかで報告した。なかでも内斜口縁の土師器坏は形態の特徴で識別が容易であることから、多くの破片遺物の中から抽出することができた。内斜口縁坏は実測可能な大きさの破片だけでも、I区で4点、III区で1点、V区で1点、VIII区で2点(7号溝埋没土中)、IX区で3点(1号井戸・7号溝・11号溝埋没土中)が出土している。また、I区で有段の須恵器模倣坏が1点出土している。これらの遺物の出土は、周辺に5世紀後半から6世紀にかけての遺構がある可能性を示唆しているのだろう。

これまで、玉村町地域の発掘調査で検出された古墳時代の遺構は、福島飯塚遺跡(文献79)1区で6世紀の住居6軒、松原III遺跡(文献47)で5世紀の石製紡錘車・模造品を製作した住居2軒・溝など、角洲城遺跡(文献43)で5世紀前葉と4世紀末～5世紀前葉の住居2軒、5世紀前葉の特殊遺構1基が検出されている。^(註27)この時期の遺構の調査数は少ないが、町内に分布する古墳の状況を見れば、他地域と同様な古墳時代中後期の集落が立地することは明らかであり、今後の調査に期待したい。

(4) 古代の上新田中道東遺跡

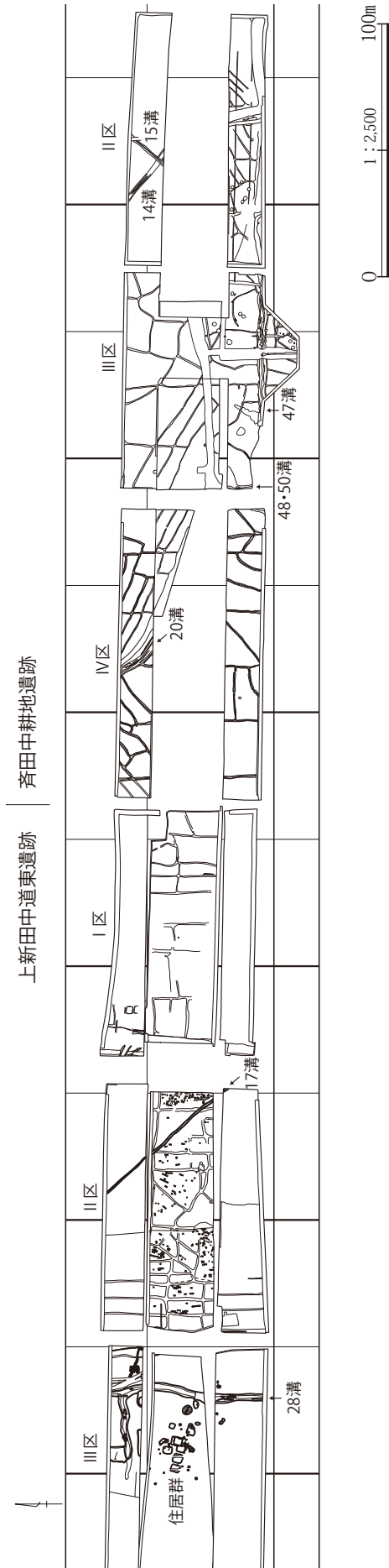
上新田中道東遺跡で検出された古代の遺構は、①古代洪水層関連の遺構面と②古墳時代前期と同じ遺構面で検出された遺構である。本文では①は独立させて第5章で、②は第6章で古墳時代前期の遺構とともに報告した。

古代洪水層関連の遺構 古代洪水層関連の遺構はI区・II区およびIII区の東半部で検出された。検出された遺構は、出土遺物から9世紀後半～末と考えられる洪水層で埋もれた用水路(III区28号溝(第146図))と、その東側に広がる水田痕跡(第147～149図)である。洪水一次堆積層がそのまま残されたIII区28号溝に対して、水田痕跡は洪水層がその後の耕作によって攪拌されて土壌化したとみられる土層の中位で疑似畦畔や耕作痕として検出された。

このI区～III区東半の地点は、東側にある齊田中耕地遺跡につながる古い埋没低地内にあたり、洪水堆積物層は齊田中耕地遺跡II～IV区にも及んでいた。齊田中耕地遺跡では洪水層の一次堆積層が残っており、洪水層に直接埋没した水田面が第5面として報告されている(文献83)。上新田中道東遺跡で洪水層の一次堆積が残っていたのはIII区28号溝内とIII区東端、II区17号溝内のみであった(PL.21-5)が、III区と齊田中耕地遺跡に一次堆積層が残っていることからすれば、中間にあたる上新田中道東遺跡II区・III区でも一次堆積層が存在したと推定される。疑似畦畔が残っていることは本来の水田区画が意識されていることが想定される。洪水被災からあまり時間を得ない復旧作業による土壌攪乱でV層が形成され、下位のVI層上面で疑似畦畔が確認できる状況が残されたのであろう。

第294図は上新田中道東遺跡古代洪水層関連の溝・水田痕跡の図と、齊田中耕地遺跡第5面の水田の図面を合成したものである。この図は層位や堆積物、出土遺物の状況から、9世紀後半～末の同一時期の生産域の様相を示していると考えられる。上新田中道東遺跡III区には西縁の微高地上で9世紀後半から10世紀にかけての住居が検出されており、水田の状況と合わせると洪水被災後も東側の埋没低地で耕作を継続したムラの存在を想定することができる。

上新田中道東遺跡III区28号溝、II区17号溝は洪水堆積物で埋まり廃棄された用水路である。III区28号溝は微高地縁辺、II区17号溝は水田域内に掘られていた。両溝と



第294図 上新田中道東遺跡と齊田中耕地遺跡の9世紀後半～末の水田

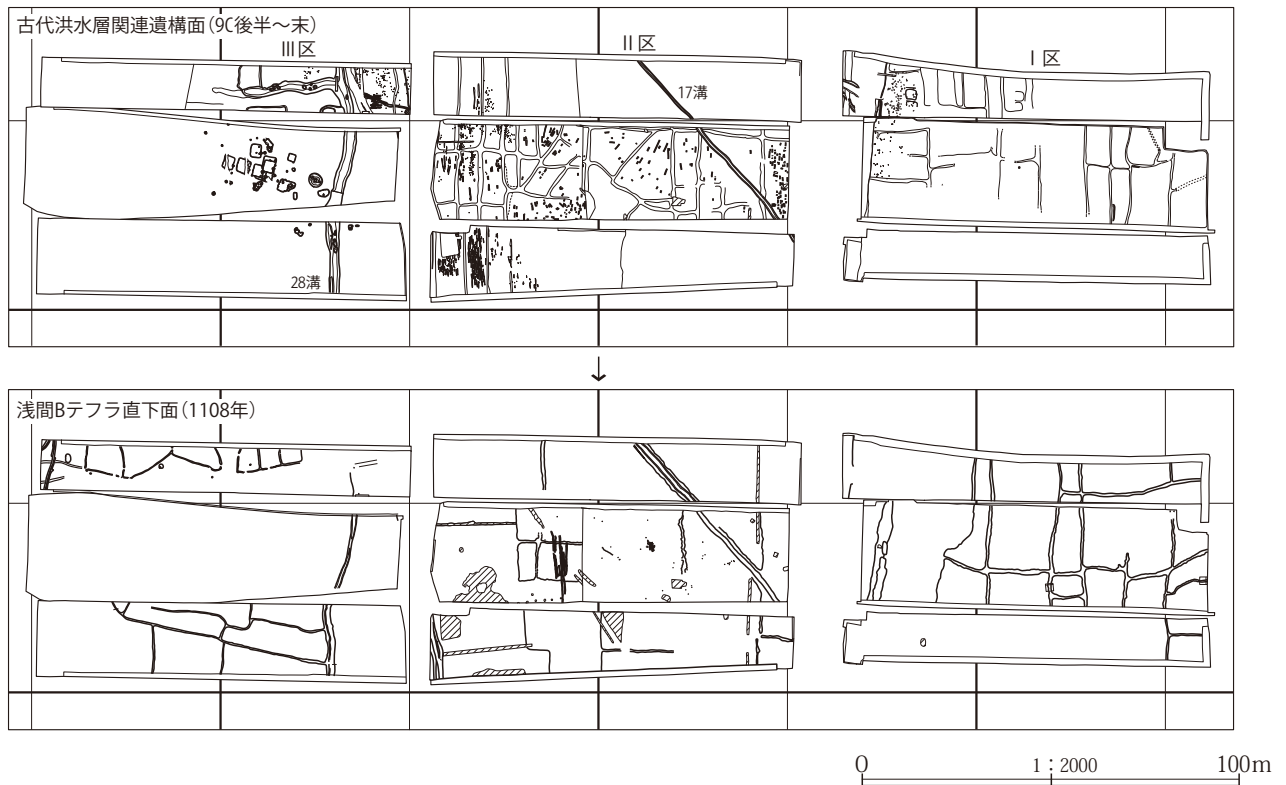
も上層に浅間Bテフラが凹地状に堆積しており、Ⅱ区17号溝には浅間Bテフラ直下でもアゼ状の高まりが検出された。17号溝は疑似畦畔と重複するが、北壁断面の観察から疑似畦畔確認面より上位から掘り込まれていたと観察されている。疑似畦畔を残した本来の水田面は9世紀後半～末の洪水層に覆われた水田と考えられ、17号溝はその水田の用水路として掘られたのであろう。水田面のアゼは方格地割に合致しているとみられるが、17号溝の走向はそれと斜交する。これは低地内を効率的に配水するため、自然地形の傾斜に即した用水路が掘られたためと推定される。

齊田中耕地遺跡のⅣ区20号溝、48号溝、50号溝、47号溝は、報告書によれば「水田址と重複するが、覆土が同一であるため、同一時期の遺構と認識される。」とされ、水田址に伴う水路と認識されている。47号溝はシルトや砂の水性堆積物で一気に埋まっており、洪水によって廃棄されたと推定されている。齊田中耕地遺跡では20号溝以東の水田区画は南北の方格地割は意識しながらも東西方向は斜行し、細長い区画や不整形の区画が多くなっている。これは下層の8面で検出された自然河道部分であり、ここでも凹地内を効率的に配水し、耕作作業を行う

ための所作と推定される。47号溝は方格地割にのった走向と推定される。ちょうど発掘区南端にあることが原因している可能性もあるが、齊田中耕地遺跡Ⅳ区・上新田中道東遺跡Ⅰ区～Ⅲ区ではその延長を確認することはできなかった。

両遺跡で検出された9世紀段階の水田面全体の地割は、斜行するアゼは認められるものの、南北アゼ・東西アゼがほぼ直交する方格地割を意識して造られている。特に南北方向のアゼはその方向と一定間隔を意識して設定されていることが看取できる。しかし、幅の広いいわゆる「大アゼ」と言える規模のアゼは両遺跡ともに検出されなかった。また齊田中耕地遺跡Ⅲ区・Ⅳ区では下層の自然流路に規制された方格地割に斜交する区画が残されていた。9世紀段階の地割は、一定間隔の方格地割が整備されていたが、その内部においては自然地形に対応した不定型な地割を採用していたことが上新田中道東遺跡とその周辺の発掘調査で明らかになった。

上新田中道東遺跡ではⅠ区西部と、Ⅱ区西端からⅢ区東端にかけて、疑似畦畔の確認面のやや上位、Ⅴ層下位からⅥ層上面にかけての層位で、牛の蹄跡が確認された。これらの踏み込み面は明らかでないが、層位や埋没する



第295図 上新田中道東遺跡の条里地割の変化

洪水堆積物からみて、9世紀後半の水田耕作にかかわって残された牛蹄跡と推定される。なお、Ⅲ区29号溝、30号溝から獣骨が出土しているが、29号溝出土獣骨は種名不明、30号溝出土獣骨は約10歳の牡馬の上顎臼歯破片であった。出土獣骨と遺構との関連性は現状では不明である。

第295図は上新田中道東遺跡Ⅰ～Ⅲ区で検出された9世紀後半～末の水田痕跡と上層の浅間Bテフラ直下水田の区画を並べたものである。Ⅱ区17号溝のような地割に斜交する用水路の存在や、微高地部分にもアゼが確認されたことなど浅間Bテフラ直下水田との相違点も確認されて細部では不一致のところもあるが、上層の浅間Bテフラ直下水田と概ね一致する方格地割が確認された。上新田中道東遺跡の9世紀後半～末の古代水田痕跡は浅間Bテフラ直下水田の前形態と考えられ、いわゆる条里地割の水田と考えられる。しかし後述するように、Ⅰ～Ⅲ区では浅間Bテフラ直下水田の大アゼが発掘区境にあることが推定される。残念ながら調査で検出された9世紀代の水田痕跡は、大アゼで区画された坪地割の内部の小規模なアゼである可能性が高い。文献史学の成果では、条里型の水田は、「条里地割と条里呼称法によって整備された条里プラン」として8世紀半ばに出現すると考えられている。^(註28) 上新田中道東遺跡のような層位の水田痕跡は、これまで県内で条里型水田の資料として主として検討されてきた浅間Bテフラ直下水田より出現期に近い遺構面として、今後も重要視されるべきであろう。

群馬県内には9世紀の水田と推定されている水田遺構は、高崎市南大類東沖遺跡(文献93)、旭町Ⅰ遺跡(文献94)、真町Ⅰ遺跡(文献95)、上大類野地田遺跡(文献96)、日高遺跡(文献97)、前橋市中原遺跡(文献98)などで報告されている。玉村町横丹遺跡(文献63)では現行条里に平行する9世紀後半～10世紀前半の幅の広い溝が検出されている。このような遺構は、下層遺構や上層の浅間Bテフラ直下水田との比較や同時期の居住域との関連性を確認することによって、古代の水田農耕の実態解明が期待できる。浅間Bテフラ直下水田より下層の水田および水田痕跡については、群馬県域における条里施行時期の確定に重要な意味を持つことから、なお一層の精査が必要と考えられる。

古代のその他の遺構 本書では、第6章で報告した古墳

時代から古代にかけての遺構は確認面が同一であったことから、時代を分けることなく編集した。これらのなかには、出土遺物がなくて時期を特定できない遺構も含まれているが、古代の遺構が古墳時代前期の遺構に混在してわかりにくくなったことが編集上の問題となったことは否めない。そこで、本項では出土遺物から古代の遺構と特定できた遺構について、名称と時期をあらためて列記しておきたい。

上新田中道東遺跡で検出された古代の遺構

Ⅲ区26号土坑(8世紀後半)、Ⅲ区32号土坑(7世紀)、Ⅲ区55号土坑(7世紀後半)、Ⅲ区97号土坑(9世紀後半)、Ⅲ区34号溝(7世紀後半～10世紀)、Ⅳ区49号土坑(8世紀)、Ⅳ区29号ピット(7世紀後半)、Ⅴ区1号竪穴遺構(7世紀後半)、Ⅴ区35号溝(6世紀)Ⅵ区6号井戸(8世紀前半)、Ⅵ区21号土坑(8世紀半ば)、Ⅵ区39号土坑(7世紀後半)、Ⅵ区41号土坑(8世紀前半)、Ⅵ区43号土坑(8世紀前半)、Ⅵ区48号土坑(7世紀前半)、Ⅸ区1号井戸(8世紀後半～9世紀前半)、Ⅸ区11号溝(7世紀)、

以上のように、上新田中道東遺跡発掘区内では古墳時代前期の遺構が廃絶した後、再度遺構が掘り込まれるようになるのは7世紀後半以降から9世紀にかけてであった。列記した遺構には比較的完形に近い土器が出土しており、上新田中道東遺跡周辺に居住域があるものと推定される。

(5) 中世以降の上新田中道東遺跡

上新田中道東遺跡で検出された中世以降の遺構は、①浅間Bテフラに関連する水田・畠、②浅間Bテフラより新しい土坑や溝および浅間A軽石の復旧溝であった。本書では、最近の中世史の成果^(註3)から、古代と中世の境を1086年の院政成立期からとし、浅間Bテフラ直下水田を中世とした。本文では①を第2章で、②を第1章で報告した。

浅間Bテフラ直下水田 上新田中道東遺跡では、Ⅰ～Ⅲ区とⅦ～Ⅸ区で浅間Bテフラ直下水田を検出した。中間にあたるⅣ～Ⅵ区では、後述するように浅間Bテフラ一次堆積層がなく、被災後の復旧が行われていたと考えられる。浅間Bテフラ直下水田面の各地区の状況は第4章で記載したが、浅間Bテフラ直下水田全体について、

ここでまとめておきたい。

第296図は、浅間Bテフラの一次堆積層残存状況と各区で検出されたアゼ遺構を示した。

I～III区では全域で浅間Bテフラ直下水田を検出したが、アゼは低く途切れたところも多くて、遺構の残存状態は不良であった。また、現状では低平に見える遺跡周辺だが、遺構面には微地形による高低差が顕著であった。

IV区では下層の18号・19号溝の上層に浅間Bテフラが溜まっているのが認められた程度で、発掘区全域で浅間Bテフラ一次堆積は無かった。浅間Bテフラを多量に含む暗褐色土層下面で疑似畦畔が明瞭に認められた。

V区では南東隅部の一部に浅間Bテフラ一次堆積の記載があるが、全体には一次堆積は検出されなかった。V区でも浅間Bテフラを多量に含む暗褐色土層下面で疑似畦畔が明瞭に認められた。

VI区では中央部に北西から南東方向に微高地があり、その東側では、VI区10号溝底面にのみ浅間Bテフラの一次堆積が残されていた(第51図)。

VII～IX区ではVIII区の微高地を除く全域で浅間Bテフラ直下水田を検出した。I～III区よりもアゼの残存状態は良好で、南北方向に長い長方形の水田区画が整然と残されていた。VIII区とIX区に微高地があり、I～III区と同様に浅間Bテフラの残存がなくアゼも検出されなかった。

以上のように、いずれの発掘区でも微高地部分では浅

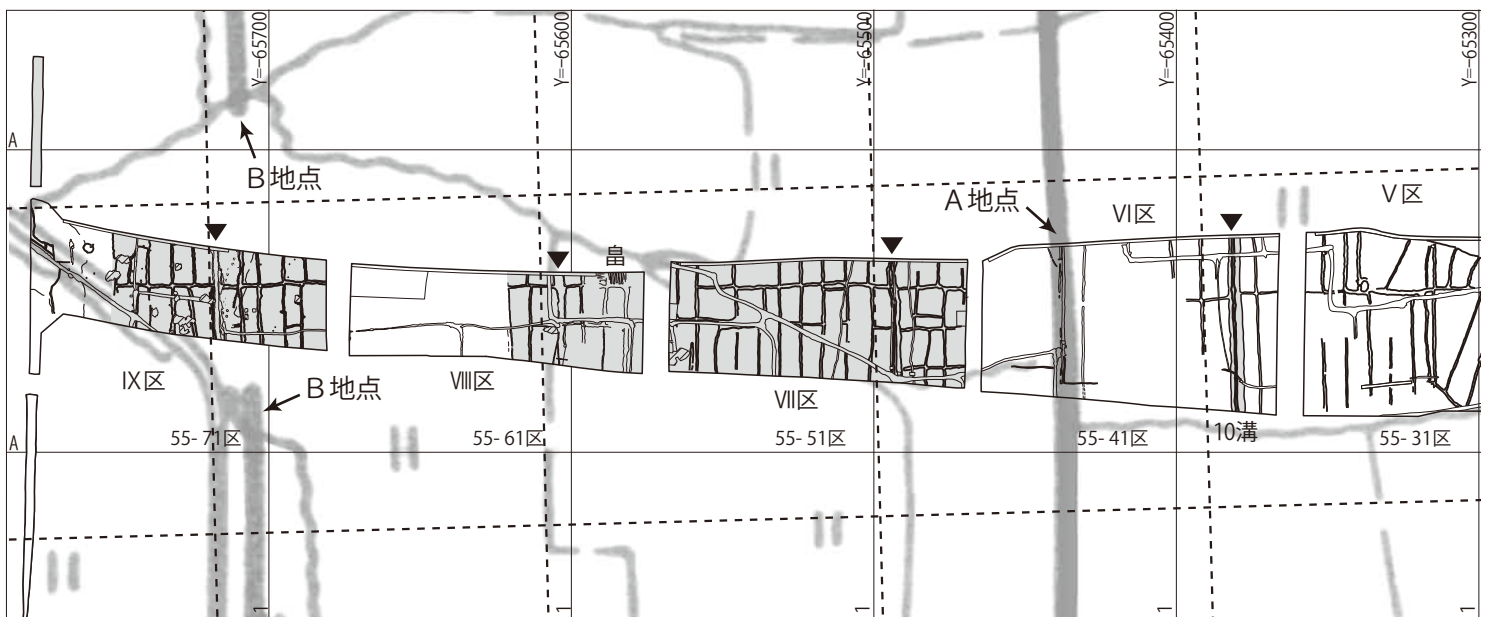
間Bテフラの一次堆積が残っておらず、アゼは検出されなかった。後世の削平の可能性も考えられるが、より上位の微高地上に浅間Bテフラで埋まった配水用の溝が掘られたという所見はないことから、微高地部分は水田化されていなかったと推定される。しかし、微高地部分をこえてアゼの走向は共通することから、条里地割は全体を規制していたと考えられよう。

また、VI～IX区では、幅の広い南北方向のアゼが4条検出された(第296図の▼)。これはいわゆる大アゼで、条里地割を示すと考えられる。VI区の大アゼは31区17ライン付近にあり、10号溝と両側に伴う疑似畦畔として検出した。西側のアゼは幅1.0m、東側のアゼは幅2.4mで、10号溝を含めた全体の幅は4.4m、走向は $N-1\sim 1.5^\circ-W$ である。10号溝の底面には浅間Bテフラの一次堆積層が残っていたことから、10号溝は小規模ではあるが大アゼに伴う水路の可能性はある。

VII区の大アゼは41区20ライン付近にあり、幅2.5～3.07m、高さ0.02～0.03mのアゼを浅間Bテフラ直下で検出した。走向は北半部がやや湾曲するが、南半の直線部分は $N-1^\circ-W$ である。近世の5号溝と重複していた。

VIII区の大アゼは61区1ライン付近にあり、幅1.95～3m、高さ0.03～0.05mのアゼを浅間Bテフラ直下で検出した。走向は $N-2^\circ-W$ である。

IX区の大アゼは71区5ライン付近にあり、幅2～3m



第296図 上新田中道東遺跡の浅間B下水田と条里地割

のアゼを浅間Bテフラ直下で検出した。アゼ頂部は近世の5号溝が壊しており、高さは不明である。走向はN-1.5°-Wである。

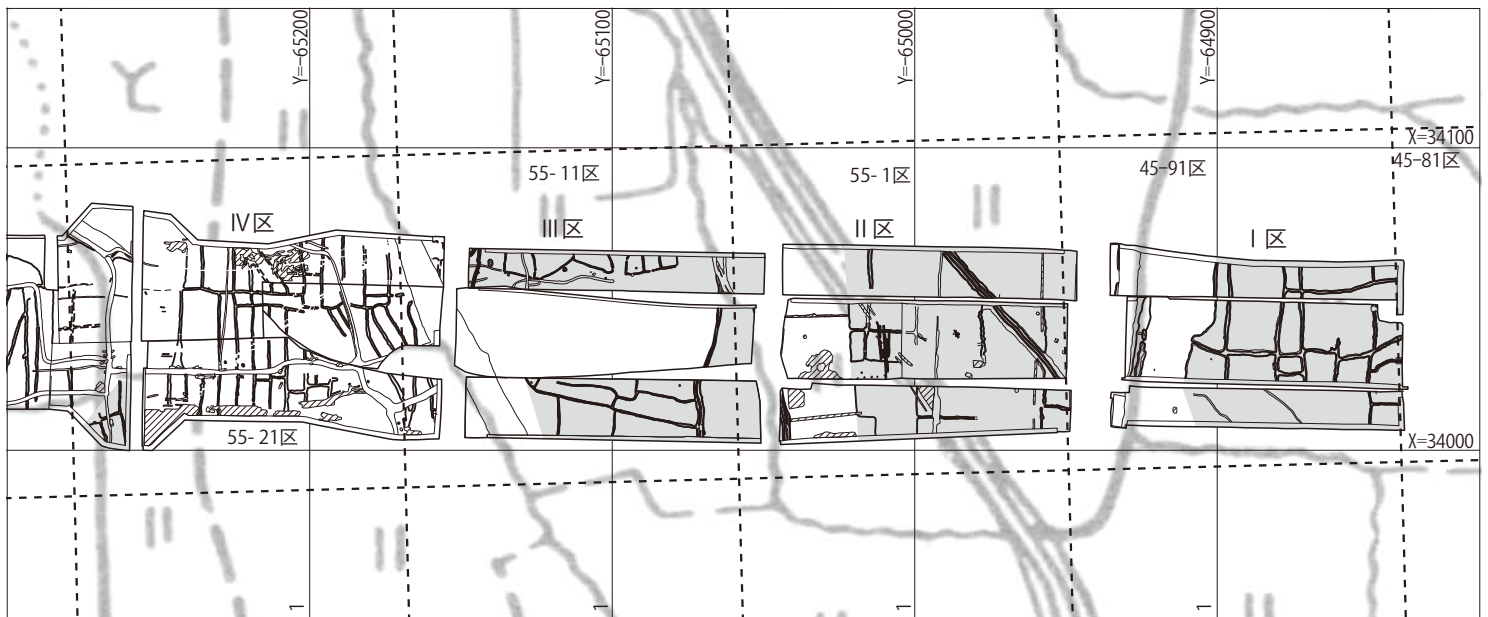
これらの4条の南北大アゼはほぼ平行し、それぞれの間隔は図面上の計測でⅥ区-Ⅶ区間が112.5m、Ⅶ区-Ⅷ区間が110m、Ⅷ区-Ⅸ区間が112.5mであった。微細な差はあるが、ほぼ一定の間隔を意識した位置にあると推定されよう。発掘区東半部のⅠ~Ⅴ区では、このような南北方向の大アゼは検出されなかったが、110mの間隔で東半部に当てはめると、Ⅴ区21区14ラインのほか、Ⅳ区とⅢ区間の既存道路部分(発掘調査除外部分)、Ⅱ区最西端、Ⅰ区最西端にあたり、調査が困難な地点にあたることになる。Ⅴ区21区14ラインには近世の6号溝が掘られており、消失した可能性が高い。他の地点でも今回の調査では大アゼの有無について確認することはできなかった。

また、上新田中道東遺跡では東西方向の大アゼは検出されなかった。Ⅶ区~Ⅸ区ではアゼの残存が良好で、三つの地区全体に延長できる東西方向のアゼ2条が、Lライン付近とIライン付近で検出された。このうちLライン付近のアゼを東へ延長してみると、浅間Bテフラ一次堆積が認められなかったⅥ・Ⅴ・Ⅳ区を乗り越えて、Ⅲ区では北区南端で認められた段差がこのラインに一致するが、Ⅱ区では一致あるいは近接するアゼは認められな

かった。Ⅰ区では一部で一致するアゼが検出されている。

玉村町地域では、本遺跡の発掘調査時にはすでに現行条里^(註29)は残されていないために、浅間Bテフラ直下水田大アゼと直接その位置を比較することはできなかった。そこで玉村町教育委員会が1992年に作成した条里地割遺存図(文献12付図)と合わせてみると、二カ所で地割の一致を確認することができた。まずⅥ区にあたる位置の南北方向の主要条里地割については、微高地部分であったために浅間Bテフラ一次堆積が残っていなかったことから、大アゼという形で検出することはできなかったが、小規模なアゼ痕跡と近世溝がほぼ一致して検出された(第296図A地点)。またⅨ区にあたる位置に図示された異種条里地割については、並行する水路が71区5ライン付近で検出された大アゼとほぼ一致した(第296図B地点)。B地点では現行地割と浅間Bテフラ直下水田の地割の継続性を確認することができたといえよう。

一方、2004年には、玉村町教育委員会の発掘成果から110m方眼の浅間B直下水田の条里地割復原線が発表されている。^(註30)その地割復原線を破線で第296図に示したが、上新田中道東遺跡で検出されたⅨ区の大アゼとⅣ区・Ⅵ区の小規模なアゼの二カ所で合致した。前者は現行条里がほぼ合致したB地点である。しかし、実際には上新田中道東遺跡では、大アゼ間の距離が110mのところと112.5mのところがあり、広域における同一規格の



浅間Bテフラ一次堆積層残存域

0 1 : 2,500 100m

方眼に合致することは期待できない。前橋台地のほぼ全域に確認できる現行条里の区画は、ある単位をもって順次施行されていったものと考えられる。その施行過程で誤差が生じたとすれば、全域を同一規格で復原した方眼は部分的に誤差を生むことになる。その点で、全体的な考察をおこなう過程で条里施行単位の分析という一段階を経る必要があるだろう。

また、浅間Bテフラ直下水田については休耕の問題が提起されている^(註31)。考古学的には軽石で覆われた水田面の状況を精緻に調査・記録することが求められている。上新田中道東遺跡の浅間Bテフラ直下水田面は細かな凹凸があり、全体としてのアゼの残存状況は不良であった。

また浅間Bテフラ直下の溝はI区18号・19号溝(第110図)、II区2号溝(第109図)、III区12号・15号・16号溝(第106図)、VI区10号溝(第103図)が検出されているが、いずれも浅く、浅間Bテフラ降下時に使用されていた用水路とは言えない状況であった。以上のことから、上新田中道東遺跡では浅間Bテフラ降下時点では全体としては、水田耕作をされていなかったと推定される。しかし、浅間Bテフラ直下の水田面に残された水田以外の痕跡には、II区の1号掘削痕(第83図)、VII区の畝畝間溝列(第95図)、IX区のピット列(第98図)が検出されている。これらの痕跡が部分的な耕作を示している可能性もあり、今後の検討課題である。

浅間Bテフラ直下水田の復旧 玉村町地域は近年まで地表面に条里地割が残されていた地域である。これまで浅間Bテフラ直下水田の大アゼが現行地割と一致する地点も確認されていることから、浅間Bテフラ被災後、条里地割が復旧されたことは明らかである。その復旧について議論する資料が今回の発掘調査で得られている。それは、発掘区によって浅間Bテフラの一次堆積の残存状況に違いが見られたことによって判明した。

前項で述べたように、I区～III区とVII区～IX区では、浅間Bテフラの一次堆積層が残っており、直下から水田が検出された。しかし、IV区からVI区およびII区中央区では浅間B軽石を多量に含んだ褐色土(浅間B混土と略称)下面で疑似畦畔や耕作痕跡からなる水田痕跡を検出した。(第296図)このうち、II区中央区では浅間Bテフラ一次堆積層直下の水田と、さらに上位の浅間Bテフラ

混土層の下面で耕作痕跡、上面でアゼ痕跡を検出することができた。

浅間Bテフラ一次堆積直下で検出されたVII区～IX区の東西方向のアゼ(Lライン付近)のラインを東へ延長してみると、浅間Bテフラ一次堆積が認められなかったVI区では最大3.125mほど南に、V区では1.25mほど南に、IV区では2.5mほど南にずれて湾曲しながらも、一連のラインで疑似畦畔をたどることができる。また、VI区10号溝の底面には浅間Bテフラ一次堆積が残されていたが、浅間B混土下面では10号溝には両脇に幅広のアゼ痕跡が伴い、周辺に連続する疑似畦畔が検出された。浅間B被災後の土壌攪拌が、10号溝を意識した形で行われたと推定される。

このような状況から、上新田中道東遺跡IV区～VI区で検出された疑似畦畔は、浅間Bテフラ直下水田のアゼを踏襲して復旧された際に形成されたものと考えられ、検出された水田痕跡は、検出された層位は異なるが、浅間Bテフラ直下水田と一連の区画を示していると考えられる。IV区からVI区では浅間Bテフラ被災直後の復旧が行われたのであろう。

一方で上新田中道東遺跡では直後の復旧とはいえない水田も検出された。I区～III区とVII区～IX区では、土壌攪拌がテフラ一次堆積上半部までにしか及んでいなかった。これは、復旧作業が同時に行われ攪拌の深さが隣接した地点ごとにこれほど異なっていたことは考えにくいことから、攪拌の作業に時間差があった可能性が高いと考えられる。その時期については明確にすることはできなかったが、示唆的なのは、II区中央区で上層の浅間B混土上面で疑似畦畔を検出しており、ここでは13世紀から15世紀の遺物が比較的まとまって出土した(第107図)ことである。ここでのアゼの位置は下層の浅間Bテフラ直下水田のアゼと若干ずれているように見えるが、大アゼではないので、地割の変化の有無を確認することはできなかった。調査では、条里地割を踏襲しつつ変化しながら継続して耕作されていく過程を垣間見ることができた。今後は、耕地の復旧や再開発、条里地割の継続等の課題に対応するために、浅間Bテフラより上層の水田開発時期に注意しながら調査にあたるべきであろう。

また、II区中央区の浅間B混土上面では馬蹄痕跡を検出した。水田域内で検出された馬蹄痕跡は馬耕を示唆す

るが、今回の調査では断片的な検出にとどまった。同層位で数種類の形状を示す耕作具痕跡も検出し、唐犁の可能性もある平面的な痕跡もあったが、馬蹄痕との直接的な関係をとらえられなかったことから、馬耕を断定するには至らなかった。さらにⅡ区北区で古代の遺構面でウマの右下顎臼歯破片が、中央区でウマ右上顎第3臼歯破片が出土しているが、馬耕に直接結び付けることができる出土状況ではなかった。Ⅲ区でもウマの歯の破片が出土しているが、集落内での馬の使用について言及できる資料を得ることはできなかった。発掘調査から耕作痕跡を抽出し、復元していくことは困難であるが、意識的な観察と記録が今後必要であろう。

以上のように、上新田中道東遺跡では、条里地割の水田の変遷について、9世紀後半～浅間Bテフラ降下時～火山災害復旧時の3段階の様相を記録することができた。特に復旧時の痕跡としては、検出層位の異なる2時期の遺構面を検出することができた。条里地割の水田の問題は制度史に関連する多くの問題を含むが、先行して提示されている文献史学の成果を援用するのではなく、考古学的成果から検証するという立場にたった調査が必要と思われる。考古学的には、上新田中道東遺跡の条里地割は9世紀後半～末まで遡ることができたというところが、今回の調査の成果ということになる。

近世の溝 上新田中道東遺跡でみられた浅間Bテフラ被災水田の復旧作業の区域の違いは、微地形による灌漑水系の違いを表しているとみられる。Ⅷ区西半、Ⅵ区中央、Ⅲ区西半、Ⅱ区西半、Ⅰ区西半には微高地があり、浅間Bテフラ直下水田の検出されていない部分になっている。浅間Bテフラ直下水田に伴う用水路はⅥ区10号溝、だけしか判明していないが、ここでは南北方向の条里地割に沿っていたと推定される。しかし溝内の軽石は残されていたことから、復旧作業においては用水系の改変が伴っていたと推定される。

上新田中道東遺跡で検出された近世溝の開削年代は、蛭堀が慶長年間以降に掘られたと推定できるほかは不明である。出土遺物ではⅢ区南区2号溝や48号溝に12世紀とみられる渥美陶器甕(第27図4～6)が出土しているが破片であり、これらの溝の開削年代を示すような出土状態でもなかった。しかし検出された近世溝が、この微地形によって区切られた地域内で完結しているのは偶

然ではないと思われる。また、近世溝であるⅨ区5号溝、Ⅶ区5号溝、Ⅴ区6号溝、Ⅰ区1号堀の位置や、Ⅷ区2号溝、Ⅶ区1号溝の屈曲部の条里地割との一致は、近世にも継続する条里地割の一端を示している。したがって、古墳時代以来の地形や水系の中で近世に整備された用水系の開削年代が、浅間Bテフラ被災復旧作業時までさかのぼる可能性も十分に考えられるであろう。

微高地上の開田が全体に及ぶようになった時期は微高地最高位にも用水路が掘られてからのことであって、微高地であるⅧ区西半部に掘られたⅧ区4号・3号溝やⅢ区とⅣ区の間にある蛭堀に先行するⅢ区1号・2号溝の開削年代が重要になるだろう。今回の調査では、残念ながらそれを明らかにすることはできなかった。周辺の今後の調査に期待したい。

近世の遺構としては他に、浅間A軽石復旧溝が各区で部分的に検出されている。Ⅳ区やⅤ区で近世の溝の地割に合致するように溝群が掘られていることから、近世の溝の掘削は浅間A軽石被災の1783(天明3)年より古いことも合わせて判明した。

以上のように、上新田中道東遺跡では縄文時代から近世の遺構と遺物が出土した。縄文時代・弥生時代の情報は少なかったが、今後も注意していくことになるだろう。特に弥生時代の遺構は今後の調査に期待したい。古墳時代前期の遺構は居住域数か所を含むエリアを調査することができた。今後は遺跡群としての展開や生産域との関連に興味を持たれるところである。古墳時代中・後期は今後も遺跡の発見に留意しなければならないだろう。埋没した微高地や現在の市街地における調査には注意してあたるべきであろう。また、洪水被災・火山災害を克服した古代以降・中世・近世にわたる水田耕作過程の一端を発掘によって確認することができた。本来なら継続して耕作している土壌には何の痕跡も残らないが、土壌を丁寧に観察することによって、それらの出来事の痕跡を明らかにすることができる。洪水堆積物やテフラの記載や写真記録は、一次堆積、自然営力による攪乱、人間活動による攪拌等を認識するための必要な資料になることから、今後の生産域調査においては充分留意すべきであろう。

2. 上新田中道東遺跡Ⅱ区8号土坑出土の 漆樹液の棒状塊について

(1) 調査の経過

上新田中道東遺跡Ⅱ区8号土坑から、棒状の遺物1点が出土した(第163図1)。この棒状遺物が出土したⅡ区8号土坑は、短軸0.13m、長軸1.17m、深さ0.97mの隅丸方形の土坑で、浅間C軽石を含む黒色粘質土で埋まっていた(第162図)。埋没土中から、完形に近い古墳時代前期の土器多数と棒状遺物が出土した。埋没土には地山土塊が含まれ、「埋め戻されたような」埋没状態であった。遺物の上層には焼土が厚さ10cmほど堆積していた。

出土した土器はS字甕・小型丸底壺・高坏などで、ほとんどがほぼ完形に復元できる大型破片である。棒状遺物は土坑の中位、北壁沿いで完形に近い土器の下位から出土したことから古墳時代前期の遺物としてよいと判断できる遺物である。

棒状遺物は、長さ21.3cm、直径0.8～1.2cm、わずかに湾曲する棒状で、細い方の端部は丸くすぼまり、最先端は平坦である。太い方の端部は、外側が薄膜状で、中央部は表面がガサガサしている。一方、後述する組織観察のために切断した面をみると一様な内容物が固結しているように見え、細かな気泡状の空隙が確認できる。表面には太さ1～数mmの条線圧痕が全体に薄く見える。表面には長さ3～4cmの裂痕が3条ある。最も大きな裂痕は幅2.5mmの幅がある。亀裂内面にも細かな空隙が看取できる。

本資料は当初、植物遺体と判断し、写真撮影と実測作業を実施した。樹種同定用の切片を採取しようとしたが、資料が固くてうまく採取できない状況であったことから、樹種同定を株式会社パレオ・ラボに委託したが、「植物遺体ではない」との結果であった。(報告は第8章-6)

そこで、材質を明らかにするために、組織観察で採取した試料を用いて株式会社パレオ・ラボに赤外分光分析を委託した。分析の結果、「生漆に近いスペクトルが得られた」との結果であった。また、棒状遺物の端部形状や外面の太さ1～数mmの条線圧痕について、タケ類の程内面の形状に酷似することから、棒状遺物は「液状でタケ類の程に入れられ、外側のタケ部分は風化した状態で出土した」可能性が指摘された(報告は第8章-7)。ま

た、埼玉県本庄市の久下前遺跡では外面にタケ類の組織が残る類例資料が出土していることがわかり、本庄市教育委員会のご厚意により資料を見せていただいた。^(註32)

これらの経過をふまえ対応を検討した結果、長年にわたり木製遺物の研究をされて、近年では原始・古代の木材利用研究全体のなかで、民俗研究も踏まえて漆の利用を追及しておられる首都大学東京山田昌久教授に、資料を見ていただくことにした。^(註33) 出土資料や既存研究の少ない古墳時代前期の漆資料である可能性がある資料を扱うにあたり、広い視野でのご助言を得たいと考えたからである。山田教授には漆の確定方法、漆資料とした場合の遺物の性格、類例資料等について広くご指導をいただいた。その詳細は本章(2)にまとめていただいた。

特に、資料の材質の確定については、直接脂質の質量を測る「熱分解-GC/MS分析」を勧められた。赤外分光分析は材質分析としてはごく一般的に普及した方法であるが、物質の赤外線吸収度の違いから材質を推定する方法であり、直接対象物質の脂質の質量を測る「熱分解-GC/MS分析」の方が確定的である。熱分解-GC/MS分析の機器は現状では数が限られており汎用的な分析方法ではないが、今回はこれまで類例のほとんどない資料であることから、「熱分解-GC/MS分析」^(註34)を実施し、材質を確定することとした。

また、本資料はタケ程内で凝固した漆である可能性があることから、山田教授から漆樹液の採取あるいは保管に関連する資料ではないかのご指摘をいただいた。そこで、タケ程での漆樹液採取および保管の実験を実施した。マンマーなどでは実際にタケ程で漆樹液を採取しており、それらを参考に実験したところ、タケ程で漆樹液を採取することができた。これについては、(3)の実験報告で記載した。

熱分解-GC/MS分析は、この方法を駆使して古代の樹脂や建築材料を研究されている東京文化財研究所の北野信彦先生に依頼して、資料中央部亀裂縁辺から採取した試料で実施した^(註35)。明治大学本多貴之先生にもご協力をいただいた。その結果、本資料は「漆」と確定することができた。また、資料の組織観察をしていただき、本資料の特徴である空隙と、夾雑物についてこれまでの漆資料と比較した観察所見をいただいた。詳細は(4)で報告していただいた。

(2) 資料対処法の助言

(山田昌久：首都大学東京都市教養学部人文・社会系歴史・考古学研究室)

2011年7月12日、群馬県埋蔵文化財事業団の小島敦子氏が出土物を大学へ持参された。それは、黒色で硬い細長い棒状の遺物だった。そして、赤外分光分析の結果、漆の可能性が高いとの結果が出ているとのことだった。表面に圧痕があり、また端部の形状とあいまって、竹の筒に納められていた可能性があるとのことだった。

かつて、東北地方の遺物調査の際に、類似したものを見た記憶があるが、遺物としては評価されないまま籠に入っていた。つまり、これまで、日本の遺跡からの報告例は無い資料である。この資料が、もし、ウルシ樹液が凝固したものであれば、それは人類の関与があるものと考えてよいが、しかし、一体どのような経緯で遺跡に残ったのか、判断する情報は全くない。そこで、これからどのような調査が必要かという意見を私に求められたのであった。

この10年間のウルシ関連遺物研究は、植物分類学・分析科学・考古学の各面で、以下のような大きな展開を見せている。

- ①遺跡出土試料同定法の向上で、ウルシ属の細分化が進み、木材・花粉・種実などの各部門で、ウルシの種レベルで認定できることになった。
 - ②従来、成分を特定できないとして解明が進まなかったウルシを赤外分光分析で同定しようという動きが起り、さらに、赤外分光分析でウルシ類似の結果が出た試料のなかに、熱分解-GC/MS分析ではウルシでないという結果が出て、出土品のウルシ同定の手法が目覚ましく動いた。
 - ③ウルシ木材遺物に、樹液を採取したと考えられる痕跡が観察される事例が蓄積した。
- といった、大きな変化が起こっている。

①については、過去のウルシ属と同定された資料に遡っての再検討がなされ、縄文時代草創期から各時期にわたるウルシの存在が確認されるようになった。日本列島内で明らかに縄文時代草創期からウルシの木が生育していたことが確かめられた。②については、長い間塗膜と混和物そして下地の研究に終始していた考古遺物の「ウルシ製品」研究が、赤外分光分析でウルシを同定する

方法が進み、さらに、直接試料の脂質の質量を測ることで、ウルシを同定する方法が確立されてきた。③樹液採取に係る痕跡のある出土木材には、石川県指江B遺跡や富山県桜町遺跡例のような、材周の一部分に幅のある多条溝が確認できるグループ、東京都下宅部遺跡や埼玉県吉見条里遺跡のような、材を一周する切り傷が間隔をあけて確認できるグループ、との二者が確認された。前者は、現在のウルシ樹液採取法と類似した刃付けと掻き篋採取が想定される遺物で、年代測定を行った事例からは、江戸時代の遺物と考えられる。後者の樹液採取法は、より古い段階の未知のもので、傷は篋で掻き取る手法をとりにくいもので、まだこの樹液採取法は明らかではない。しかし、古代から縄文時代に遡る遺物に対して、ウルシ掻きの痕跡という用語が使用され、独り歩きし始めた。私はそれを懸念して、以前、樹液採取法を具体的に規定しない用語で議論することが必要である、と指摘したことがある。縄文時代の石器でも、古代の鉄器でも、類似した傷が付けられており、関連器具はいまだ全体像を見せてはいない。

今回実見した遺物は、そうした現状へ新たな展開を引き起こす情報をもたらす可能性があると考えられた。しかし、そうした議論を早急に進める前に、安易に報告することは先の事例のように混乱を引き起こす懸念がある。そこで、試料分析と技術や人工物評価の研究の両面で、しっかりと手続きを踏んだ調査を行い、総合的な判断をして提示する必要があると考えた。

そこで、私は報告に向けて以下の3点を追求する必要性を提示した。

- ④この遺物がウルシであることを確定するために、「熱分解-GC/MS分析」で測定してみることに。
- ⑤この遺物がウルシであるならば、その固着状態がどのような状態を示し、それがどのような意味を持っているかを、考えることが必要であること。
- ⑥そのためには、報告書で纏めることが必要・可能な範囲で整理期間内に出来ることと、その後時間をかけても必要な調査内容、を区別して、検討を進める必要があること。

④については、関東圏では東京文化財研究所と明治大学に測定機器と研究者がいること、を紹介した。⑤については、実体顕微鏡などで固着物を観察し、混雑物の有

無や量の調査や状態観察を行い、遺物がどのような状態であるかを議論する基礎情報を提示すること、を指摘した。

そして、伊藤清三氏の『日本の漆』に記述がある、竹を利用した東南アジアの樹液採取法と、樹液の保管法との両方を見据えた検討のために、「シュミレーションによる実験」を行なったらどうか、とアドバイスした。整理期間内に、「樹液採取と保管に関する情報」を得るための実験実施を提案した。

◎に関連して、報告書刊行までに行うことは、熱分解-GC/MS分析による結果をだすこと、できれば、遺物の状態がどのようなものなのかを判断するための観察情報と専門研究者の所見を得ること、実験結果を示して、遺物の履歴を議論する情報を提示すること、の3点を求めた。また、報告書刊行までの時間を考えると、総ての検討を行うことが困難であるため、その後の追跡研究と分けて対処することをすすめた。

また、この検討は調査・報告の担当者によってなされるべきで、私は、サポートはするが私の仕事にすることはしてはいけないと考えていることを伝えた。そして、実験シュミレーションを担当者で企画することを求め、必要であれば実験地を提供することを申し出た。限られた時間内で、後節の報告にあるような実験が企画・実施され、採取・保管の議論に関する一定の成果が得られた。

しかし、まだ課題も多く残されている。採取用・保存用のいずれの竹管かは十分には特定できていない。もし、採取用としたならば、既発見の傷のあるウルシ木の傷とは整合しない。今回の実験では、樹液導入を考えた傷付けが必要であることも、見えてきたからである。

最後に、訪問時にこの遺物の名称についてどうしたらよいかとの意見を求められた。分析結果でウルシであることが確定できた場合には、ウルシ樹液棒状塊とでも命名できる。しかし、本来、古墳時代の人類がこの遺物の状態を望んでいたものではなく、むしろ、これは放置された、もしくは使用されなかったために残されたものと考えられる。つまり、樹液採取器具か樹液保存・移動器具の竹管に収まったままで凝固した結果、遺跡に残存した可能性がある遺物であろう。この遺物名称は、具体的な機能が判明するまでの状態を示す呼称として扱うべきである。と提案した。

(3) 漆樹液の採取実験報告

①実験の目的

上新田中道東遺跡Ⅱ区8号土坑出土の漆塊と推定される棒状遺物を報告するにあたり、その生成過程を明らかにするために、タケ程での漆樹液採取実験をおこなった。実験にあたっては、遺物について助言を受けた首都大学東京の山田昌久教授のご協力を得て、平成23年8月26日(金)・27日(土)に一戸町御所野縄文公園で行われた同大学考古学研究室夏季実習の場をお借りした。この公園内には10年ほど前に漆樹液を採取したウルシの木100本ほどの林が保存されている。

調査内容は、①漆の木に傷をつけて、日本産の漆がタケ程で採取できるかどうか、②漆を採取したタケ程を放置し棒状の漆樹液塊ができるかどうか確認することである。

②実験の経過

8月26日午後1時半より調査開始。初めに事前の22日・24日に山田教授がおこなった予備実験の経過を伺った。予備実験ではV字状と斜交1本の2種類の傷で採取し、V字の方がタケ程にうまく導入できることがわかった。雨天のためタケ程をそのまま放置できずに回収したが、3～5mlの漆樹液がタケ程内に溜まっていたとのことであった。また幹が比較的太く、葉数が多いものがよく樹液を滲出するとのことであった。

まず、直径約1cm、長さ20cm前後のマダケ6本を、ウルシの木に設置した。竹の下端は節で切り底を作り、上端は45度くらいの斜めに切っている。今回の実験では、幹につける傷はV字状とした。これまでに出土している古代以前のウルシの木の傷は横方向に一周するものであるが、その採取法は未解明である。今回はタケ程内で凝固するかどうかを確認することも実験の目的であったことから、東南アジアでの採取例があるV字状とした。採取作業の手順は次の通りであった。

①幹の表面の樹皮を鎌で剥ぐ。

②中央に1本ガイド用の傷をつけ、その下端にV字状の傷をつける。白い木の芯部まで見えるようにし、V字状の傷内に細い切込みをいれる。

③V字の下端にタケ程を差し込みための切込みをいれて、タケ程を差し込み、木片で2～3度叩くと固定された。あまり入れすぎると、樹液が流入する隙間

が狭くなる。

④細い切込みをいれた途端に白茶色の半透明の樹液が出てくる。V字の溝をたどってうまくタケ程に入る。

午後4時半に漆樹液滲出状況の記録と、上方に2本目の傷を追加した。最初の傷から2時間しかたっていないので、樹液滲出はほとんどなかったため、傷の追加は3本のみとした。

8月27日8時40分作業開始。

まず、樹液滲出状況を調査した。昨夕樹液を滲出していない木でも、朝滲出している木もあった。また、V字の傷の湾曲や小さな樹皮などのカスや傷の凹凸で、溝内で丸く固まりせき止められた木や、溝の下方に樹液が溢れてしまった木があった。樹液の濃度は気によって多少違う。濃い木や樹液の滲出量が少ない木は途中で固まってしまうようだ。

9時から、昨日のV字の傷の上に傷を追加する作業と、多くの漆樹液を回収するためにさらに新しくタケ程を設置した。設置したタケ程の数は全部で14本となった。V字の傷を追加するとき、下方の直上の傷から漆樹液は滲出せず、外側に延長した部分からのみ滲出する。樹液線の回復が1日ではできないのであろう。予備実験の時は2日置いた木では直上の傷から滲出していたとのことであった。午後2時に3本目の傷を追加する作業をおこなった。すべての木に実施しようとしたが、5時間ではやはり回復しないとみられ、直上の傷からの滲出はほとんど見られなかったことから、半分の7本にとどめた。

午後4時半に、14本のタケ程を回収した。直径7mmの円柱材を3～4cmに切りビニール手袋の指部分で覆って、タケ程の上端に差し込み、輪ゴムでとめて栓をした。14本のタケ程はタッパーウエアに保管した。

その後、12月8日に、実験で漆樹液を採取したタケ程の内部を確認した。実験記録で比較的滲出の多かった6と9のタケ程について、カッターで程を割いて内部を観察した。

6は程内面に黒色の薄膜状に漆樹液が固まっているのみで、内部は空洞であった。この薄い膜状の固形物は、上新田中道東遺跡II区8号土坑出土資料の上端部の薄い部分に似ていた。

9は上部は6と同様に黒い薄膜状に漆樹液が固まっていたが、最下部3cm分くらいは、程内に樹液が充満し、

なおかつ薄茶色に粘性のあるどろっとした液体の状態、一部黒茶色になっている部分もあった。その樹液の状態は、現代の漆掻きで得られた樹液を桶に集めた時の状態に似ていた。

出土資料と組織を比較するために観察試料切片を採取する計画であったが、漆樹液はまだ凝固していなかったため、組織比較は後日におこなうこととした。

③実験の成果

まず、タケ程での漆樹液採取が可能であることが確認できた。しかし、数時間おいてから追加した傷から効率的に漆樹液を滲出させることは難しいことが判明した。数日、間を空けた方が滲出量は安定すると思われる。近世以降の漆掻きが4日あけるといのは理にかなっている。出土資料と同様な大きさの漆樹液を得るためには数日あけて、V字状の3～4本の傷をつければ可能と思われる。

このようなタケ程での漆樹液採取はカンボジアやビルマ(ミャンマー)で行われていることが報告されている。

カンボジアでは「直径2～2.4cm、長さ20～24cmの」タケ程で「四～八日毎に溜まった漆の採取を行っている。」ビルマでは「直径2.5cm、長さ25cm細い」タケ程で「乾燥が速いため傷つけ作業後、三十分内外で収集するという。」^(註36)

また、ミャンマーでは「タケ程の大きさは長さ約15cm、直径約3.5cm」で、「10日後、中に溜まった漆樹液を「ゴ」という先が湾曲しているヘラ状の道具でかき集める。表面は少し固まっている。」「タケ程カップの中には10日間で平均40ccの漆が溜まっていた。1回目に比べると2回目の方が、漆が多く採取できる。」と報告されている。^(註36)

実験では、最初に付けた傷の角度や湾曲、小さな木屑によって、樹液の流れが滞り、その場で固結あるいは下方に溢れて、うまくタケ程に導入できなかった。これは不効率であって、掻きとって全部回収したいと思わせるほどであった。近世以降の日本の漆樹液採取法である「漆掻き」では、このような樹液も篋で掻き取っている。手をかけて漆樹液をすべて採取しようという思考が日本の近代以降の採取方法には見て取れる。一方、V字の傷でタケ程に導入する方法は東南アジアなどで行われているが、うまくV字傷をつけた漆の木に、日数をあけてタケ程を多量に設置し、木を回って順次タケ程を回収すれば

効率的に漆が採れるのではないかと感じた。

出土資料との組織比較はできなかったが、どのような状

況での漆樹液かを明らかにするために、タケ程内での凝固

を待つ、その漆樹液塊を組織観察することとしたい。

第25表 漆樹液採取実験木 一覧表

木No	形状	葉数	実の有無	経過						備考	回収		
				26日午後		26日夕方		27日朝				27日午後	
1	二股の太い方の幹	多	無	—		—		9:15	1回目	13:21	2回目	数時間では回復せず、外側から滲出することを確認。撮影。	16:35
2	二股の太い方の幹	多	無	13:58	1回目	16:37	滲出無	8:46	滲出確認	14:07	3本目	最初に作業した木。	16:41
3	二股の太い方の幹	多	無	13:52	1回目	16:38	2回目	9:09	滲出無	14:08	3本目	数時間では回復せず、外側から滲出することを確認。撮影。	16:42
4	三股の太い幹	多	無	14:40	1本目	16:39	滲出無	9:03	滲出無	14:10	2回目	傷の角度が鈍角で下方に溢れた。	16:43
5	二股の太い方の幹	多	無	—		—		9:39	1回目	14:15	2回目	—	16:45
6	二股の太い方の幹	多	無	14:19	1本目	16:37	滲出無	—		14:17	2回目	1回目の滲出量が多かった。	16:46
7	二股の太い方の幹	やや少ない	無	14:33	1回目	16:37	滲出無	8:47	2回目	14:18	3回目	滲出量少ない。	16:46
8	単独幹	多	無	14:20	1本目	16:49	滲出無	8:56	2回目	—		1回目の滲出量が多かった。傷に湾曲があり、夜のうちに溢れて固まっていた。	16:49
9	二股の太い方の幹	多	無	14:11	1回目	—		—		—		1回目の滲出量が多かった。	16:50
10	同じ木の別の幹	多	有	14:47	1回目	16:38	滲出無	9:07	2回目	—		—	16:50
11	同じ木の別の幹	多	有	—		—		9:44	2回目	—		—	16:52
12	同じ木の別の幹	多	無	—		—		記録なし				—	16:54
13	同じ木の別の幹	多	無	—		—		9:26	1回目	—		—	16:54
14	二股の太い方の幹	多	有	—		—		9:31	1回目	—		滲出量はほとんどない。	16:55



写真15 タケ程を打ちこんだウルシの幹とV字状の傷



写真16 滲出する漆樹液とタケ程



写真17 漆樹液が棒状に薄く凝固したタケ程(Na.9)内部

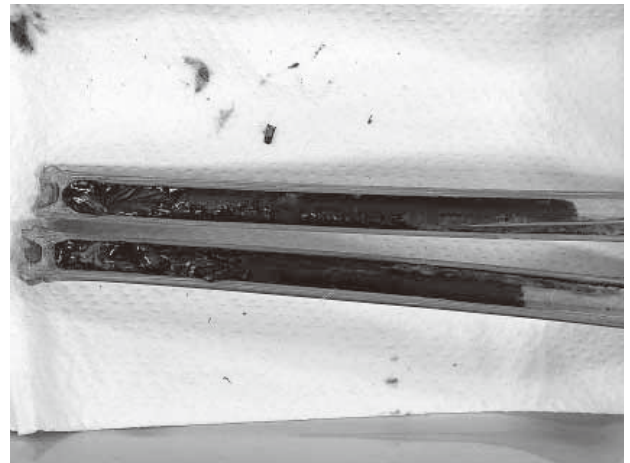


写真18 タケ程(Na.9)内下部の未凝固部分

(4) II区8号土坑出土棒状遺物の分析調査

(北野信彦：東京文化財研究所・保存修復科学センター・伝統技術研究室、本多貴之：明治大学・理工学部・応用化学科)

① 分析調査の方法

(a) 主要脂質成分の熱分解GC/MS質量分析

主要脂質成分の詳細な分析は、試料から直接採取した試料片(約0.7mg)を500°Cに設定した東京文化財研究所・保存修復科学センター設備のピロライザー(フロンティアラボ社製PY-3030D)にて熱分解し、ガス化した試料をガスクロマトグラフィー(アジレント社製7890A)に導入し、メタルカラム(フロンティアラボ社製UA-1(MS/HT))にて分離を行った後に、質量分析計(アジレント社製5975C)にて測定を行った。ガスクロマトグラフィーのオープンの条件は40°C(2分保持)→昇温：12°C/分→320°C(10分保持)の条件を用いた。分析は本多が担当した。

(b) 試料の顕微鏡観察

試料から直接採取した1mm×3mm角程度の剥落小片を、合成樹脂(エポキシ系樹脂/アラルダイトGY-1251J.P、ハードナーHY-837)に包埋した後、断面を研磨して薄層プレパラートに仕上げた。その上で、樹脂層内部の夾雑物の有無や断面細部の状態について金属顕微鏡を用いて透過および落射観察した。分析は北野が担当した。

② 調査結果

上新田中道東遺跡II区8号土坑出土棒状塊の分析を行い、以下の結果を得た。

まず、本試料の熱分解—ガスクロマトグラフィー/質量分析法を行った。また、本試料と合わせて日本産の漆の分析結果を比較対象として使用した。分析結果(イオンクロマトグラフィー：抽出イオン=108)を第298図に示す。この分析の結果、ウルシオールが存在を示す3-ペンタデシルフェノールが共に21.95分に検出された。また、漆を熱分解した際に発生しやすい3-ヘプチルフェノールも15.41分に確認された。これらの結果から、本試料は漆によって構成されていることが明らかになった。

さて本試料は、形状と寸法から、当初から約1cm径の筒状のタケ棹内に充填された樹脂であると想定されている。そのため、まずこの試料表面の拡大観察を行った。その結果、本試料の表面にはタケ科植物特有の細胞繊維の条線圧痕の形状が樹脂表面に圧着反転された状態で追認された(写真19)。次に、樹脂層内部の夾雑物の有無や断面細部の状態について顕微鏡観察した。その結果、本試料を特徴付ける状態の一つとして、十数～数十 μm 径の球状抜け穴が多数確認された(写真20,21)。この球状抜け穴は、通常を生漆内に観察される0.数 μm 程度のゴム質の球状抜け穴に比較して極めて大きな球状抜け穴である(写真22)。このような大きさの塗膜内の球状抜け穴は、生漆などの汲み置き漆塗料がやや厚みを持って固化塗膜を形成する際に観察される発泡状態と類似している(写真23)。今回、どのような条件であれば、このような十数～数十 μm 程度の比較的大きな径の球状抜け穴が漆塗膜内に生じるか幾つかの基礎実験を実施した。その結果、液体状の漆塗料に水を混入して固化させた場合、本試料とほぼ同様の径の発泡球状抜け穴が生じることがわかった(写真24)。

次に、本試料の漆樹脂内部における夾雑物の混入の有無について観察した。今回の観察に供した試料自体小さいため、漆掻きに伴う樹皮カスなどの夾雑物の有無は明確に観察されなかったが、微小な夾雑物が多数確認された(写真25,26)。そのため、この漆塗料は漆漉し布などを用いて漉して精製した漆塗料ではなく、生漆原液に近い状況であると理解した。

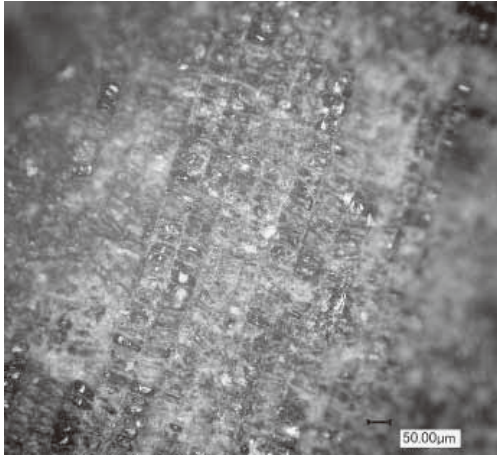


写真19 本試料表面の条線圧痕

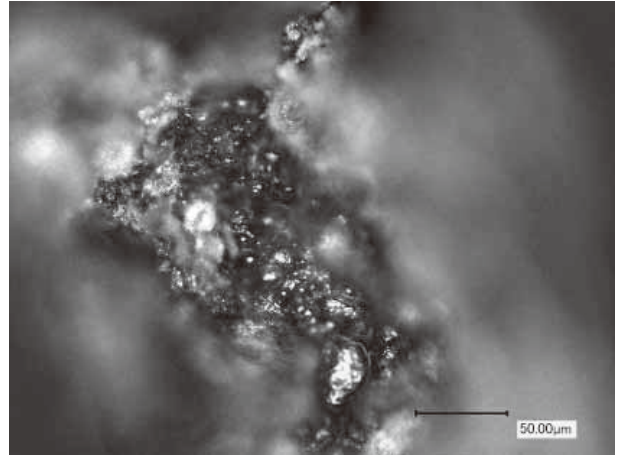


写真20 本試料の発泡状球状抜け穴(1)

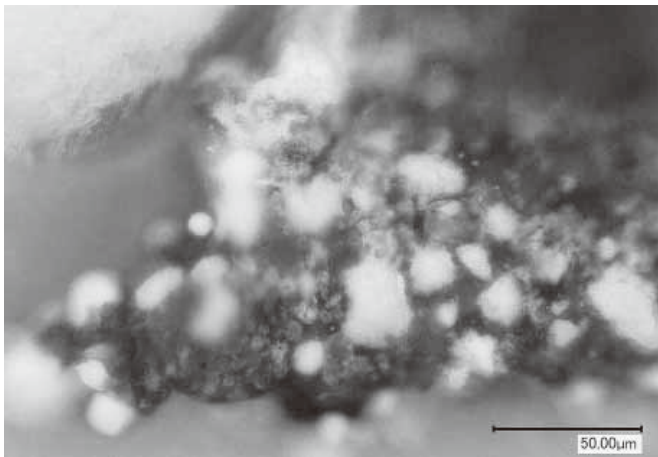


写真21 本試料の発泡状球状抜け穴(2)

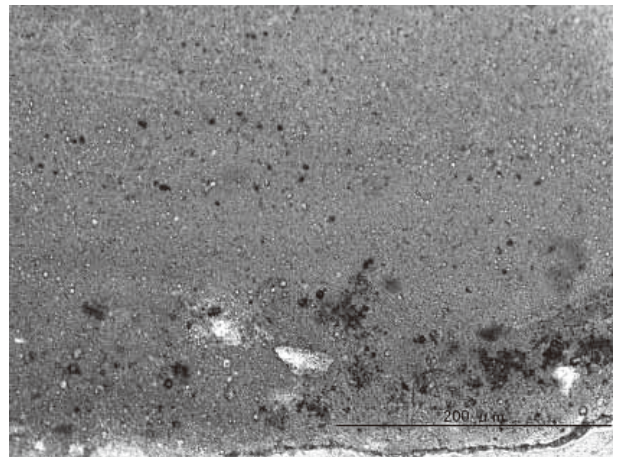


写真22 生漆内のゴム質球状抜け穴(参考例)

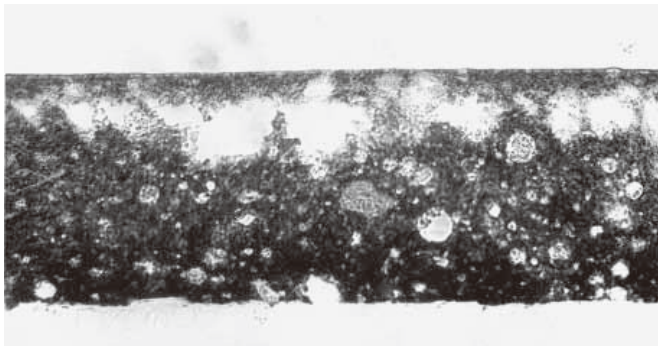


写真23 漆塗料の発泡固化状況(参考例)

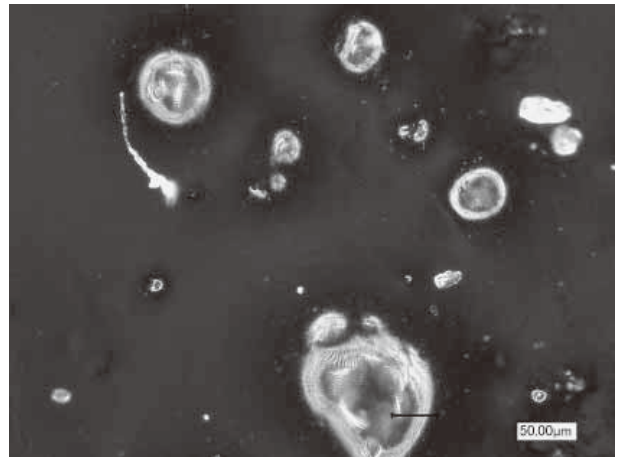


写真24 漆塗料に水を混入して固化させた実験塗膜

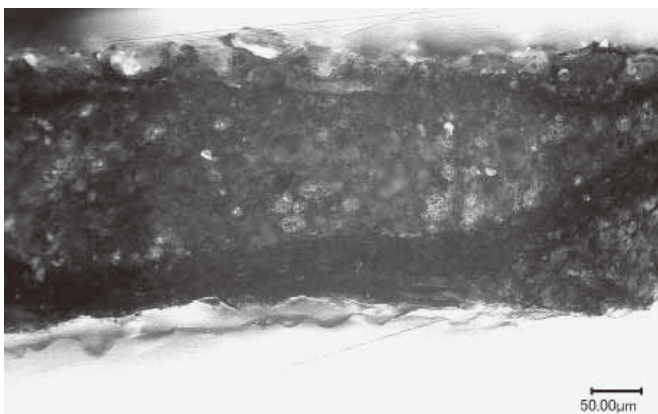


写真25 本試料における固化塗膜の断面観察

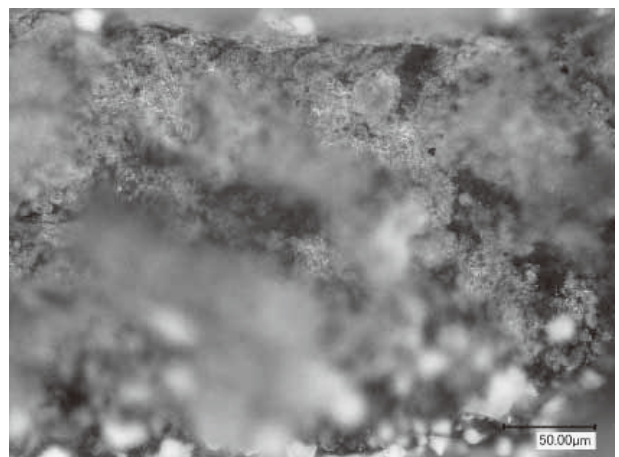
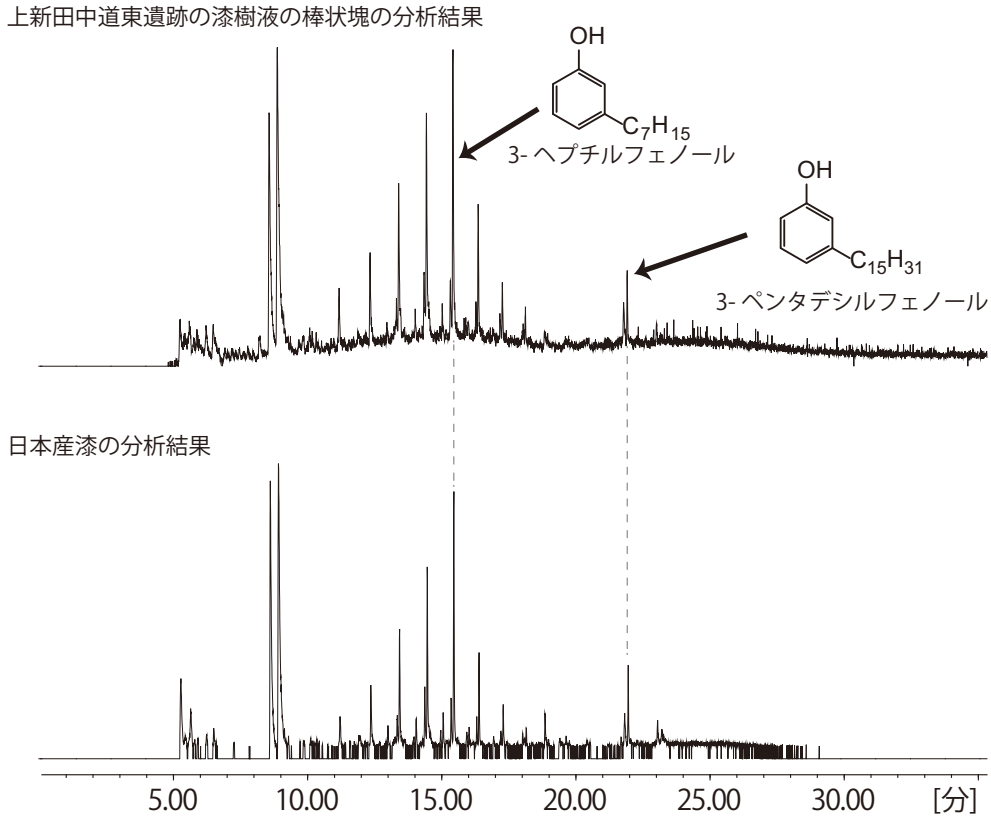


写真26 本試料内部に観察される夾雑物の状態



第297図 本試料と日本産漆の結果の比較 (m/z108の抽出イオンクロマトグラフ)

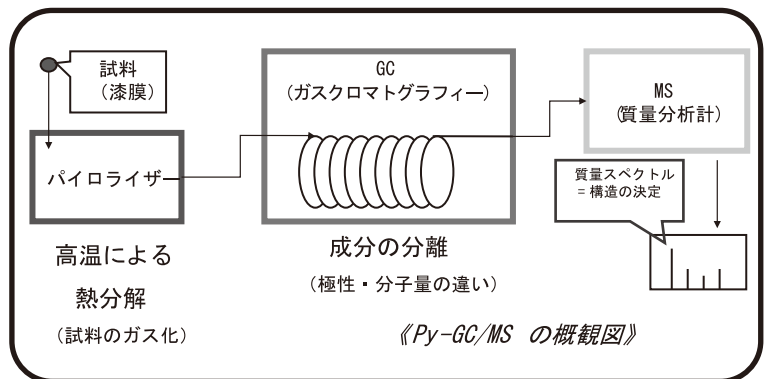
③ 本調査で採用した漆塗料の分析方法に関する解説

漆は様々な成分の混合体(第26表, [1])であるが、実際に硬化した漆を分析する際にその同定対象とするのは“ウルシオール”である。漆は硬化すると非常に硬く、化学的にも安定な構造となるため分析には熱分解ーガスクロマトグラフィー/質量分析法(Py-GC/MS)を用いる事が多くなっている。FT-IRでも十分な結果が得られることもあるが、漆と同じような構造を多数持つ天然のアスファルトや、漆に松ヤニ・天然油脂などを混合したものととの区別が困難であるのが実情である。

Py-GC/MSは、漆をヘリウム気流下で500℃に加熱を行い、試料をガス化させて分析する手法である。酸素存在下での加熱では単に燃焼して灰になってしまうので、“ヘリウム気流下”で熱分解は行われる。このガスになった試料をガスクロマトグラフィーで分子量・吸着力毎に分離する。分離した後にそのガスの重さ(分子量)を測定することで、元々の試料がどのような成分で構成されていたのかを分離する手法である(第299図)。

成分	外見	割合
ウルシオール		60~65%
ゴム質		5~7%
含窒素物		2~3%
水		20~30%
ラッカーゼ酵素		0.2%程度

第26表 漆を構成する成分



第298図 熱分解ーガスクロマトグラフィー/質量分析法全体の概略図

参考文献

1. 宮腰哲雄、永瀬喜助、吉田孝著2000『漆化学の進歩ーバイオポリマー漆の魅力ー』アイピーシー出版

(5)まとめ

これまで述べてきたように、上新田中道東遺跡Ⅱ区8号土坑(古墳時代前期)から出土した棒状遺物は、タケの程の中で凝固した漆樹液の棒状塊である可能性が強まった。しかし、これまでの調査では、この漆樹液の棒状塊がどのような状況で生成されたものかを明らかにすることはできなかった。

一般に、漆塗料製作工程では、漆樹液を採取し、ごみなどの夾雑物を取り除き、「くろめ」「ナヤシ」などの加熱・攪拌作業を経て、なめらかな塗料としての精製をおこなうといわれている。しかし、古代以前の漆樹液の採取・精製の工程についてはまだわかっていない。上新田中道東遺跡の資料は、古墳時代前期においてどのような漆利用の工程が行われていたかを考えるうえで、重要な視点を提供する可能性がある。本資料がどのような状況で生成されたものかを明らかにすることが、古墳時代における漆利用の一端を解明することにつながると思われる。

日本では、縄文時代以降多くの漆製品がつくられたことが豊富な出土遺物から判明しているが、どのように漆を採取していたかはよくわかっていない。漆樹液の採取方法は、近年まで継承されてきた近世の「漆掻き」の方法がわかっているだけで、中世以前の方法は明確でない。東京都東村山市の下宅部遺跡(縄文時代後・晩期)^(註38)や埼玉県吉見町西吉見条里遺跡(古代)^(註39)で出土したウルシの杭には10数cm間隔で細い傷がつけられており、下宅部遺跡例は漆樹液採取のための傷と推定されている。(文献113)これらの傷の形状は近世漆掻きの「刃つけ」とは全く形状が異なっており、これが漆樹液採取のための傷としても、古代以前には近世とは違った方法で漆樹液採取が行われていたと考えられるのである。^(註40)

本資料は熱分解-GC/MS分析によって漆樹液と確定された。また、出土資料の組織観察では、50～100 μ の空隙が認められた。この大きさはこれまで漆塗膜資料で確認されていた数 μ の空隙よりかなり大きなもので、北野先生の組織観察では生漆などの発泡状態に類似し、空隙＝「球状抜け穴」の大きさは水分が混入した可能性があることが示された。また、微少な夾雑物が多数確認されことから、生漆原液に近い状況であるとの観察結果であった。以上のような分析調査から本資料はタケ程で採取された、あるいは採取直後に移しかえられた漆樹液の棒状

塊といえることになろう。

出土資料と、形状や採取直後の漆樹液組織との比較を行う目的で実施したタケ程での樹液採取実験では、樹液を採取することができた。しかし、8月26・27日に採取した漆樹液は、12月8日の確認時点では、外面は全体に薄く凝固していたが、下端部に溜まった樹液は薄茶色の粘性のある液体状態であった。

したがって、採取直後の漆塊組織の顕微鏡観察は本報告には間に合わなかった。今後凝固した段階で観察し、本資料と比較検討したいと考えている。特に本資料の顕微鏡組織観察では、通常の塗膜資料に比べ大きな球状抜け穴と、微少な夾雑物が多数確認されて、これらが生漆原液に近いと理解できる状況になっている。今後は、実際にタケ程で実験採取した直後の樹液塊の断面観察と本資料との比較を実施して検証したい。一方で、4か月弱を経た実験漆塊が凝固していなかったことからすると、きちんと密封すればタケ程内で数か月保管できることも判明した。保管容器としてのタケ程利用の可能性も考慮する必要が生じたことになる。

また、古墳時代の漆利用の解明に向けて、ウルシの材についても注目する必要があるだろう。群馬県では古墳時代前期の出土木材樹種同定は比較的多く行われているが、「ウルシ属」あるいは「ウルシ」と同定された材は少ない。今のところ、確認できたのは玉村町砂町遺跡(文献59)7号溝出土の3点があるだけである。近年ウルシは種段階までの樹種同定が可能になったので、積極的な当該期のウルシの木の確認が期待される。さらに、本資料が漆樹液採取にかかわるものであれば、タケ程などの打ち込み痕跡のあるウルシ材も視野に入れる必要が出てくる。ウルシの木の同定とともに形状観察に意識的に取り組むことが必要であろう。また、低地内から出土する植物遺体に対しては、一層の詳細な観察が必要となった。本資料は一見、樹木の枝材と見間違えるような資料であり、河道などで他資料と混在していた場合は意識的な観察が不可欠である。

本資料については山田教授の助言の通り、課題が残された。意識的な調査を今後も継続していきたい。

註

第1章

- 註1 発掘調査において、本来の水田面が残っていない地点で検出されるアゼをいう。上新田中道東遺跡では、本来の水田直下層で、後の耕作による攪拌の及ばないアゼ部分が土色の違い等によってアゼと同じような盛り上がりとして残される疑似畦畔Bを、ⅢB層下面とⅣB層下面で検出した。
斎野裕彦1987「水田跡について」『富沢—富沢遺跡第15次発掘調査報告書』仙台市教育委員会
佐藤甲二1999「水田跡に関する疑似畦畔と連続耕作—仙台市富沢遺跡の事例から」『人類誌集報1999』東京都立大学
岡田憲一2010「中西遺跡第14次調査」『奈良県遺跡調査概報2009年度(第Ⅲ分冊)』奈良県立歴史考古学研究所
- 註2 杉山真二2004「自然科学分析が語る平安時代末期の水田跡」『1108—浅間山大噴火 中世への胎動』第12回特別展展示解説図録 かみつけの里博物館
飯島義男2010「浅間Bテフラ直下水田の総合的再検討に向けての予察—プラントオパール分析による放棄時期の問題提議をうけて」『財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団研究紀要 28』
- 註3 石井 進2002「中世のかたち」『日本の中世1』中央公論新社
元木泰雄2002「院政の展開と内乱」『院政の展開と内乱』日本の時代史7 吉川弘文館
木村茂光2009『中世社会の成り立ち』日本中世の歴史1 吉川弘文館

第2章

- 註4 新井房夫1962「北関東北西部地域の第四紀編年」『群馬大学教育学部紀要』10
- 註5 早田 勉・能登 健1990「第一章 群馬県の自然と風土 第五節 前橋台地と広瀬川低地帯 一後期更新世の地形発達史」『群馬県史 通史編1』群馬県
- 註6 新井雅之・矢口裕之1994「榛名火山の後期更新世末から完新世の噴火」『日本第四紀学会講演会要旨集』4
- 註7 矢口裕之2001「第1章 発掘調査の経過 2周辺地形環境」『徳丸仲田遺跡(1)』財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業 団
- 註8 早田 勉・能登 健1990「第一章 群馬県の自然と風土 第五節 前橋台地と広瀬川低地帯 二完新世の地形変化」『群馬県史 通史編1』群馬県
- 註9 玉村町教育委員会1992『玉村町の遺跡』
- 註10 早田・能登1990(前掲註8)
- 註11 玉村町1992『玉村町誌 通史編 上巻』
- 註12 玉村町教育委員会中島直樹氏のご教示による。

第9章

- 註13 「周溝をもつ建物」はこれまでの県内の研究で主として用いられた用語で、岡本(1997)や飯島(1998)で最初に用いられた。ここでは総称としてこの用語を用いるが、個々の遺構報告では調査時の遺構名称「住居」のまま記載した。
- 註14 大賀 健1993「古墳時代初頭の土坑」『赤城Ⅱ遺跡』玉村町教育委員会
笠原仁史1999「古墳時代前期の土坑について」『宇貫遺跡』玉村町教育委員会
- 註15 坂口 一1999「周溝の巡る住居について」『三和工業団地Ⅰ遺跡(2)』財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
- 註16 石守 晃2003「第2節 5～7区小結(2)周溝をもつ建物」『中内村前遺跡(2)』財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
- 註17 中村正芳2003「第1章歴史の舞台としての高崎の自然 三高崎の自然史 2高崎の台地をつくる地層」『新編高崎市史 通史編1』
- 註18 高崎台地と井野川低地帯の地形面区分については、自然地形学的議論があるが、地形の特徴を加味した人文的な地域区分からは農業用水の水系が異なる両地形面は区分しておく方がよいと考える。井野川低地帯の西端は高崎台地を開析する低地に連続するが、井野川低地帯には井野川に伴う小規模な自然堤防が形成されており、その上に高崎台地とは別水系の集落立地がある。
- 註19 1990年に早田勉氏によって発表された『群馬県史 通史編1』付図群馬県地形分類図は示唆的で、低平に見える群馬県平野部の隠された実態と考古学的事象を総合化する視点の必要性を考えた。前橋台地の遺跡分布を再検討することはその実践となる作業のひとつである。また、若狭徹氏はいち早く前橋台地を傾斜方向に図化し、地域を理解するための空間を設定したが、参考にさせていただいた。
若狭 徹2002「古墳時代の地域経営」『考古学研究』第49巻第2号
- 註20 矢口裕之2001(前掲註7)
- 註21 滝川は江戸時代の慶長年間に整備された用水路であるが、一部は自然河川を利用した流路とされている。(前掲註11)
- 註22 若狭徹2006「古墳時代における地域首長の政治領域」『考古学雑誌』第90巻第2号
先行河川については早田1990、佐藤明人1981の説に拠っている。
早田 勉1990(前掲註5)
佐藤明人1981「榛名山二ツ岳の爆裂に伴う氾濫層の規模、及び経路」『八幡原A・B 上滝 元島名A』財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
- 註23 若狭 徹2006(前掲註20)
- 註24 玉村町1992(前掲註11)
- 註25 梅沢重昭1987「第1章前橋台地 6 条里遺構と利根川の変流」『日本の古代遺跡 群馬東部』保育社
前原 豊 秋池 武 飯島義雄2001「利根川からの引水遺構である「女溝」の意義」『群馬文化』第266号
関口功一2011「研究ノート 前橋低地付近周辺の「開発」をめぐる二・三の憶説」『群馬歴史民俗』第32号
- 註26 坂口 一1999「かつて大開発があった—古墳時代前期の耕地拡大—」『創立20周年記念公開考古学講座研究発表要旨』財団法人群馬文化財調査事業団
大木紳一郎 2003 「G区6号溝」『徳丸仲田遺跡』
中里正憲 2007 「砂町遺跡における古代水田開発の変遷」『砂町遺跡(第1～3次調査) 尾柄町Ⅲ遺跡 中之坊遺跡』
- 註27 玉村町教育委員会中島直樹氏のご教示による。
- 註28 金田章裕1985『条里と村落の歴史地理的研究』
- 註29 ここでは「現行条里」は、現在は圃場整備によって失われているが、昭和45年の空中写真に残っている条里地割の意味で用いる。
- 註30 ここでは、2種類の復原方眼が示されている。中島直樹・吉澤 学2004「群馬県玉村町における条里地割の復原」『東国史論』第19号
その後、本遺跡の北側にある中道東遺跡、中道西Ⅱ遺跡、蛭堀東遺跡、中道東Ⅱ遺跡で砂町遺跡起点の方眼(上記文献で示された方眼のうち細い破線)に、より合致する大アゼが検出されたことが報告されている。(文献60)
これらの遺跡は、今回報告した上新田中道東遺跡のすぐ北側にあたり関連性が期待されるが、一定距離の方眼で復元する方法や適正な図の縮尺、座標の変換等、方法論を再考し、一遺跡でなく広域に分析することが不可欠であるので、国道354号関連の諸遺跡の成果を合わせて、改めて取り組むこととしたい。
- 註31 杉山2004(前掲註2)
- 註32 本庄市教育委員会のご厚意により、資料実見および類似資料の記載をさせていただいた。
- 註33 山田昌久2002「〈縄文時代〉漆器」『特集：実験考古学の未来と現在』季刊考古学第81号
山田昌久2006「植物素材容器の特性と研究課題」『特集 縄文時代の植物素材容器』考古学ジャーナルNo.542
山田昌久2008「総論：実験考古学の射程」『特集 実験考古学』考古学ジャーナルNo.574
- 註34 本多貴之2010「漆の分析法」『いわての漆』岩手県立博物館開館30周年記念特別企画展図録
本多貴之2011「石神貝塚出土漆器の化学分析からわかったこと」『漆器』明治大学博物館特別展図録

- 註35 北野信彦他2008「桃山文化期における輸入漆塗料の流通と使用に関する調査」『保存科学』47
北野信彦他2009「桃山文化期における輸入漆塗料の流通と使用に関する調査(Ⅱ)」『保存科学』48
北野信彦2011「美作国府跡井戸7出土黒漆様樹脂の分析調査」『美作国府跡 小田中遺跡 山北遺跡』岡山県教育委員会
- 註36 伊藤清三1979『日本の漆』P.30写真
- 註37 松島さくら子 2009「漆が語るアジアの文化ーミャンマーの漆文化Ⅰ」『宇都宮大学教育学部紀要』
- 註38 下宅部遺跡調査団・東村山市遺跡調査会2006『下宅部遺跡Ⅰ(旧石器・縄文時代編)』
- 註39 吉見町教育委員会2005『西吉見条里遺跡』
- 註40 前掲註32 山田2006

参 考 文 献

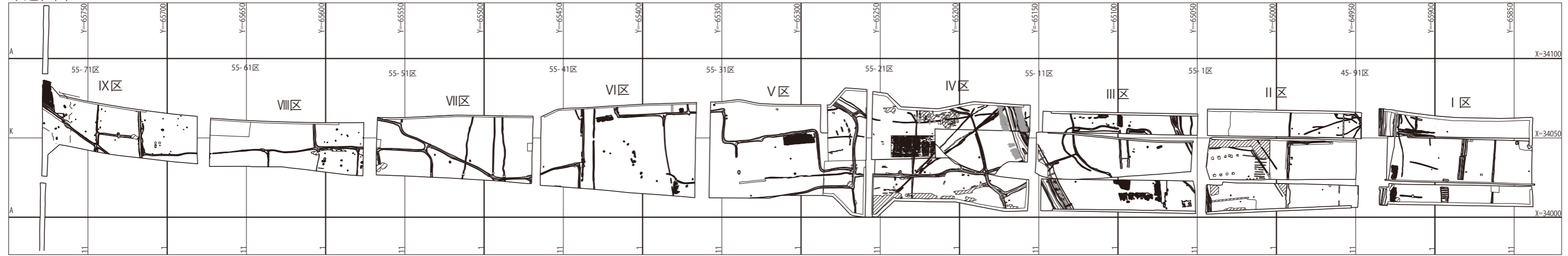
1. 玉村町誌編集委員会1992『玉村町誌 通史編 上巻』
2. 高崎市史編さん委員会1999『新編高崎市史 資料編1 原始古代Ⅰ』
3. 高崎市史編さん委員会2000『新編高崎市史 資料編2 原始古代Ⅱ』
4. 高崎市史編さん委員会2003『新編高崎市史 通史編1 原始古代』
5. 前橋市史編さん委員会1971『前橋市史 第1巻』
6. 山崎 一1978『群馬県古城塁址の研究』上巻
7. 山崎 一1979『群馬県古城塁址の研究』補遺篇上巻
8. 山崎 一1979『群馬県古城塁址の研究』補遺篇下巻
9. 群馬県教育委員会1988『群馬県の中世城館跡』
10. 玉村町教育委員会1989『金免遺跡』
11. 玉村町教育委員会1991『上之手八王子遺跡』
12. 玉村町教育委員会1992『玉村町の遺跡』
13. 玉村町教育委員会1992『神人村Ⅱ遺跡』
14. 玉村町教育委員会1992『尾柄町遺跡』
15. 玉村町教育委員会1992『尾柄町Ⅱ遺跡』
16. 玉村町教育委員会1993『蟹沢Ⅱ遺跡』
17. 玉村町教育委員会1993『蟹沢Ⅳ遺跡』
18. 玉村町教育委員会1993『上之手石塚Ⅲ遺跡』
19. 玉村町教育委員会1993『上之手石塚Ⅳ遺跡』
20. 玉村町教育委員会1993『藤川前遺跡』
21. 玉村町教育委員会1993『赤城Ⅱ遺跡』
22. 玉村町教育委員会1996『原浦Ⅱ遺跡』
23. 玉村町教育委員会1996『中道西遺跡(第1次・第2次調査)』
24. 玉村町教育委員会1997『三境遺跡・三境Ⅱ遺跡』
25. 玉村町教育委員会1997『上之手八王子Ⅱ遺跡 原屋敷Ⅱ遺跡』
26. 玉村町教育委員会1998『原浦遺跡』
27. 玉村町教育委員会1999『南東耕地遺跡』
28. 玉村町教育委員会1999『曲田遺跡』
29. 玉村町教育委員会1999『曲田Ⅱ遺跡』
30. 玉村町教育委員会1999『上之手地区遺跡群(1)・(2) 稲荷森遺跡 天神塚遺跡 宇貫地区遺跡群 稲荷山遺跡群 下茂木地区遺跡群 下茂木神明Ⅱ遺跡 上新田地区遺跡群』
31. 玉村町教育委員会1999『宇貫遺跡』
32. 玉村町教育委員会1999『滝川南遺跡』
33. 玉村町教育委員会2000『宮ノ下遺跡 若王子Ⅱ遺跡 天神巡りⅢ遺跡』
34. 玉村町教育委員会2000『行人塚Ⅲ遺跡』
35. 玉村町教育委員会2000『十王堂・十王堂Ⅱ遺跡』
36. 玉村町教育委員会2000『角洲城Ⅱ遺跡』
37. 玉村町教育委員会2000『上之手石塚遺跡』
38. 玉村町教育委員会2000『中袋遺跡』
39. 玉村町教育委員会2000『八幡原赤塚Ⅱ遺跡』
40. 玉村町教育委員会2000『田口下屋敷遺跡』
41. 玉村町教育委員会2000『前通遺跡』
42. 玉村町教育委員会2001『蟹沢遺跡』
43. 玉村町教育委員会2001『角洲城遺跡』
44. 玉村町教育委員会2002『福島治部前遺跡』
45. 玉村町教育委員会2002『角洲伊勢山遺跡・角洲伊勢山Ⅳ遺跡 下郷Ⅱ遺跡・天神塚Ⅱ遺跡 八幡原赤塚遺跡・薬師遺跡』
46. 玉村町教育委員会2002『上飯島芝根遺跡 上飯島芝根Ⅱ遺跡』
47. 玉村町教育委員会2003『松原Ⅲ遺跡』
48. 玉村町教育委員会2003『八幡原赤塚Ⅲ遺跡』
49. 玉村町教育委員会2003『天神前Ⅱ遺跡』
50. 玉村町教育委員会2003『一万田遺跡』
51. 玉村町教育委員会2003『オトカ塚遺跡』
52. 玉村町教育委員会2004『久保田遺跡』
53. 玉村町教育委員会2004『一本木遺跡』
54. 玉村町教育委員会2004『横堀遺跡 街道南遺跡』

55. 玉村町教育委員会2004『内田屋敷遺跡 原屋敷遺跡 上之手立野遺跡』
56. 玉村町教育委員会2004『赤城遺跡』
57. 玉村町教育委員会2005『宇貫Ⅱ遺跡(第1次・第2次調査)』
58. 玉村町教育委員会2006『神明遺跡 行人塚遺跡 十王堂Ⅲ遺跡 中郷遺跡 松原Ⅱ遺跡 杉山遺跡』
59. 玉村町教育委員会2007『砂町遺跡(第1～3次調査) 尾柄町Ⅲ遺跡 中之坊遺跡』
60. 玉村町教育委員会2008『中道東遺跡 中道西Ⅱ遺跡 蛭堀東遺跡(第2次調査) 中道東Ⅱ遺跡 中道東Ⅱ遺跡(第2次調査)』
61. 玉村町教育委員会2009『屋敷Ⅱ遺跡 屋敷Ⅱ遺跡(第2次調査)』
62. 玉村町教育委員会2009『福島稲荷木遺跡(第1～3次調査) 福島稲荷木Ⅱ遺跡 福島稲荷木Ⅲ遺跡』
63. 玉村町教育委員会2009『横丹遺跡』
64. 財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団2001『西善尺司遺跡』
65. 財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団2001『下阿内壱町畑遺跡 下阿内前田遺跡』
66. 財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団2001『徳丸仲田遺跡(1)』
67. 財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団2002『上福島尾柄町遺跡』
68. 財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団2002『福島曲戸遺跡 上福島遺跡』
69. 財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団2002『西田遺跡 村中遺跡』
70. 財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団2002『中内村前遺跡(1)』
71. 財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団2002『徳丸仲田遺跡(2)』
72. 財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団2002『鶴光路榎橋遺跡』
73. 財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団2002『横手南川端遺跡 横手湯田遺跡』
74. 財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団2003『福島久保田遺跡 福島大光坊遺跡』
75. 財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団2003『上福島中町遺跡』
76. 財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団2004『前田遺跡』
77. 財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団2005『徳丸高堰遺跡』
78. 財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団2007『福島飯塚遺跡(1)』
79. 財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団2008『福島飯塚遺跡(2)』
80. 財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団2008『福島飯玉遺跡』
81. 財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団2009『福島大島遺跡』
82. 財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団2009『上新田新田西遺跡 上新田赤塚遺跡』
83. 財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団2010『斉田中耕地遺跡』
84. 財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団2010『下斎田重土薬師遺跡』
85. 財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団2011『斉田竹之内遺跡』
86. 前橋市埋蔵文化財発掘調査団2009『南部拠点畜遺跡群No.1』
87. 前橋市埋蔵文化財発掘調査団2009『南部拠点畜遺跡群No.2』
88. 前橋市埋蔵文化財発掘調査団2010『南部拠点畜遺跡群No.3』
89. 前橋市埋蔵文化財発掘調査団2010『南部拠点畜遺跡群No.4』
90. 前橋市埋蔵文化財発掘調査団2010『南部拠点畜遺跡群No.5』
91. 群馬県教育委員会1980『下郷』
92. 財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団2009『荒砥前田Ⅱ遺跡』
93. 太田市教育委員会1999『唐桶田遺跡発掘報告書』
92. 新田町教育委員会2000『新田東部遺跡群Ⅱ』
93. 高崎市教育委員会1997『南大類東沖・稲荷遺跡』
94. 高崎市教育委員会1996『三島塚古墳・旭町Ⅰ遺跡』
95. 高崎市教育委員会1996『真町Ⅰ遺跡』
96. 高崎市教育委員会1995『上大類野地田遺跡』
97. 群馬県教育委員会1982『日高遺跡』
98. 前橋市教育委員会1993『中原遺跡群Ⅰ』
99. 能登 健1983『群馬県下における埋没田畠調査の現状と課題』『群馬県史研究』第17号
100. 横倉興一1986『上野国府周辺における条里遺構の問題点』『条里制研究』第2号
101. 岡田隆夫1991『特論 上野国の条里制』『群馬県史通史編2』
102. 横倉興一2000『概説 古代の水田・畠』『新編高崎市史資料編2 原始古代Ⅱ』
103. 新井 仁2001『群馬県における平安時代の水田開発について』『研究紀要』第19号 財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
104. 能登 健2006『天仁元年・浅間山噴火』『日本災害史』北原糸子編 吉川弘文館
105. 新井 仁2008『条里地割導入後の水田と集落の一樣相』『研究紀要』第26号 財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
106. 伊藤清三1949『うるし・漆樹と漆液』農林週報社
107. 伊藤清三1979『日本の漆』東京文庫出版局
108. 井野修二1999『利根の変流と民俗』『群馬文化』第257号
109. 和田健一2011『天狗岩用水開削研究序説—上毛傳説雑記』の検討からみえるもの—』『群馬歴史民俗』第32号
108. 永嶋正春編2006『特集：縄文・弥生時代の漆』季刊考古学第95号 雄山閣
109. 山田昌久編2006『特集：縄文時代の植物素材容器』月刊考古学ジャーナル542号
110. 山田昌久編2008『特集：実験考古学』月刊考古学ジャーナル574号
111. 永嶋正春編2009『特集：縄文人と漆』月刊考古学ジャーナル593号
112. 日本植生学会『植生史研究 特集：下宅部遺跡の縄文時代』第15巻第1号
113. 千葉敏朗2009『縄文の漆の里 下宅部遺跡』新泉社

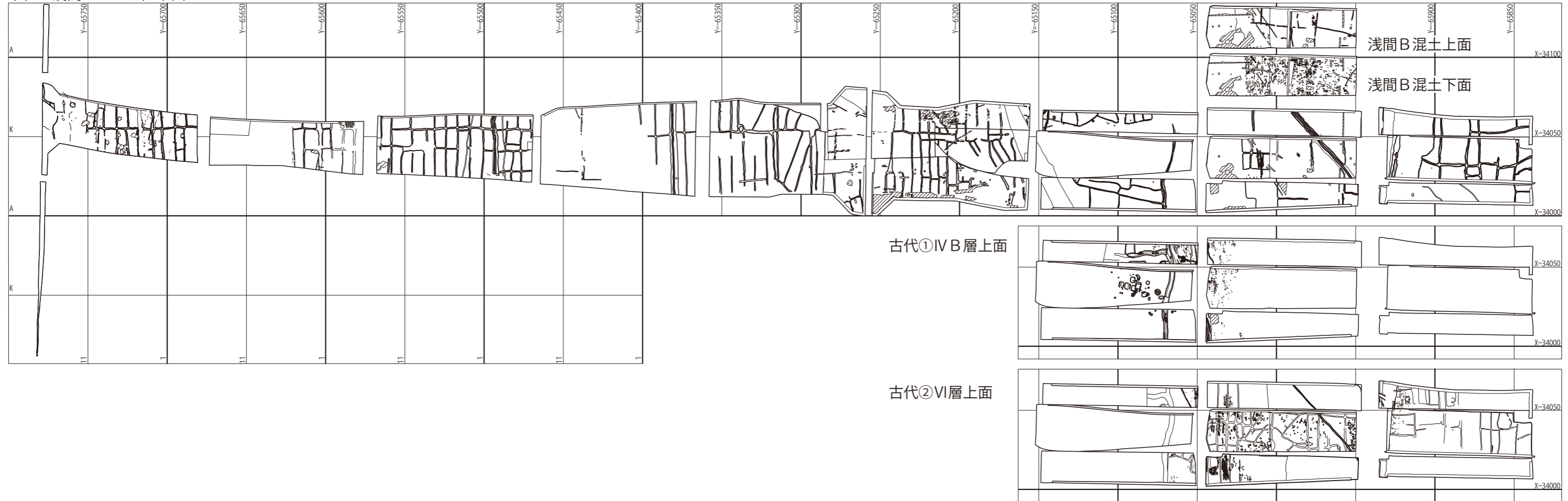
報 告 書 抄 録

書名ふりがな	かみしんでんなかみちひがし
書 名	上新田中道東遺跡
副書名	国道354号高崎玉村バイパス(玉村工区)社会資本総合整備(活力創出基盤整備)事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
巻 次	第8集
シリーズ名	財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書
シリーズ番号	528
編著者名	小島敦子
編集機関	財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
発行機関	財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
発行年月日	20120227
作成法人ID	21005
郵便番号	377-8555
電話番号	0279-52-2511
住 所	群馬県渋川市北橋町下箱田784番地2
遺跡名ふりがな	かみしんでんなかみちひがし
遺 跡 名	上新田中道東遺跡
所在地ふりがな	ぐんまけんさわぐんたまむらまちかみしんでん
遺跡所在地	群馬県佐波郡玉村町上新田
市町村コード	10464
遺跡番号	0675
北緯(日本測地系)	360001
東経(日本測地系)	1394957
北緯(世界測地系)	360012
東経(世界測地系)	1394945
調査期間	20040401-20050331/20081001-20090331/20091201-20100331/20100731-20110331
調査面積	50944㎡
調査原因	道路建設
種 別	集落
主な時代	縄文/弥生/古墳/奈良/中世/近世/近現代
遺跡概要	その他-縄文-遺構外-縄文土器+縄文石器/その他-弥生-遺構外-弥生土器/集落-古墳-竪穴住居5+掘立柱建物7+柱穴列2+方形周溝墓2+井戸5+土坑211+竪穴状遺構1+溝85+畠3-土師器+須恵器+石製模造品+ガラス小玉/集落-古代-竪穴住居8+土坑22+溝12+水田痕跡面1+畠2-土師器+須恵器/その他-中世-水田面1+水田痕跡面1+溝8+畠1-陶器+磁器+軟質土器+銭貨/その他-中近世以降-掘立柱建物3+溝121+堀3+土坑118+井戸2+耕作痕3+復旧溝20-陶器+磁器+軟質土器+石製品+銭貨
特記事項	古墳時代前期の周溝をもつ建物2棟を検出した。古墳時代前期の漆樹液の棒状塊が出土した。
要 約	前橋台地南半部の低平な水田地帯に埋没した数条の微高地と低地の遺跡。古墳時代前期には屋外周溝付の竪穴住居2軒が別の微高地に立地し、周辺に掘立柱建物からなる集落の一部が2か所検出された。古代には9世紀後半とみられる洪水層に埋没した用水路やその後の復旧あるいは再開発によって耕作された水田痕跡(疑似畦畔)が検出され、微高地西縁には洪水とその後の耕作期に対応すると考えられる時期の竪穴住居1～数軒が継続的に建てられていた。中世には、1108年に降下した浅間Bテフラによって埋まった水田が発掘区全体に検出され水田化が進んでいたことがわかった。IV～VI区にかけては浅間Bテフラ直下水田と区画が連続する水田痕跡が、浅間B軽石を多量に含んだ褐色土下面で検出されたことから、被災後の復旧が行われたことが推定された。さらに近世には、本地域で盛んに行われた新田開発に関わると推定される幹線水路とそれに関連する溝が各地点で検出された。

中近世面



中世 浅間Bテフラ直下面



古代～古墳時代面



第299 図 上新田中道東遺跡 全体図

遺構一覧表

凡例

1. 遺構一覧表は、遺構ごとに作成し、発掘区の遺構番号順に並べた。
2. 遺構面は、本文の記載に沿って記入した。
3. 以降名称および番号は本文記載の報告時のものである。整理作業時に番号を付け替えた遺構については、本文P. 17第2表に旧番号を併記した。
4. グリットは大区画を省略している。
5. 遺構の計測値は、重複等で計測できないものは計測不能とした。
6. 本文は掲載頁、挿図は掲載図番号、写真図版は遺構写真および遺物写真の掲載P L 番号を記載した。

目次

1. 竪穴住居一覧表	430
2. 掘立柱建物一覧表	430
掘立柱建物柱穴計測表	430
3. 井戸一覧表	431
4. 土坑一覧表	431
5. ピット一覧表	436
6. 周溝墓一覧表	441
7. 堀一覧表	441
8. 溝一覧表	441
9. 凹地一覧表	445
10. 田畠一覧表	445
11. 復旧溝一覧表	446

遺構一覧表

1. 竪穴住居・竪穴

区分	遺構面	遺構名称	グリッド	平面形	規模			主軸方位	本文	挿図	写真図版
					短軸	長軸	残存壁高				
III 中央	古代洪水層関連	1 住居	55-1-I-18・19	隅丸長方形	2.72m	3.51m	0.13m	N-83°-W	172	121	87・88・212
III 中央	古代洪水層関連	2 住居	55-1-H-19・20	不整形	3.23m	3.67m	0.08m	N-74°-W	174	122	88・89・213
III 中央	古代洪水層関連	3 住居	55-1-H-18	不整形	2.70m	3.16m	0.10m	N-74°-W	174	123	89・90・213
III 中央	古代洪水層関連	4 住居	55-1-H・I-18	隅丸方形	3.31m	3.54m	0.05m	N-71°-W	177	124	90・91
III 中央	古代洪水層関連	5 住居	55-1-G・H-18・19	隅丸方形	2.32m	3.13m	0.02m	N-74°-W	177~180	125	91・92・213
III 中央	古代洪水層関連	6 住居	55-1-G・H-18・19	隅丸方形	2.78m	2.44m以上	0.04m	N-75°-W	180・181	126	92・93・213
III 中央	古代洪水層関連	7 住居	55-1-H・I-20	隅丸長方形	2.69m	3.43m	0.03m	N-75°-W	181	127	94
III 中央	古代洪水層関連	8 住居	55-1-G・H-18	隅丸方形	1.86m以上	2.78m以上	0.03m	N-74°-W	181・182	128	94・95
III 中央	古代〜古墳時代	9 住居	55-1-H〜J-20〜11-H〜J-2	隅丸正方形	3.9m以上	4.0m以上	計測不能	N-1°-W	227	168・169	116・117・218・219
				屋外周溝全体	12.7m	13.0m	-	-			
V 北	古代〜古墳時代	1 住居	55-21-0-12・13〜P-12・13	方形	2.48m	計測不能	0.03m	N-0°-E	282	209	157・221
V 北	古代〜古墳時代	2 住居	55-21-N-12・13〜0-12・13	方形	4.30m	4.51m	計測不能	N-52°-W	282	210	157~159・221
VI	古代〜古墳時代	1 住居	55-41-H-3〜5-K-3〜6	隅丸正方形	3.22m	3.30m	0.10m	N-62°-W	301	224・225	170・171・223
				屋外周溝全体	14.14m	14.58m	-	-			
VI	古代〜古墳時代	2 住居	55-41-H-2〜I-3・4	方形	3.46m以上	4.0m以上	計測不能	計測不能	304	226	172
III 中央	古代洪水層関連	1 竪穴遺構	55-1-G-17	不整形	2.72m	4.07m	0.05m	N-72°-W	182	129	95
III 中央	古代洪水層関連	2 竪穴遺構	55-1-H・I-17	隅丸方形	1.85m	1.93m	0.05m	N-69°-W	182	129	95
III 中央	古代洪水層関連	3 竪穴遺構	55-1-G-18	不整形円形	3.61m	1.24m	0.10m	計測不能	182	129	95
III 中央	古代洪水層関連	4 竪穴遺構	55-1-G-18・19	不整形円形	3.07m	1.30m	0.06m	N-46°-E	184	129	95・213
VI	古代〜古墳時代	1 竪穴遺構	55-31-D・E-20-41-D・E-1	不整形円形	0.67m	2.69m	0.07m	N-45°-E	305	227	172

2. 掘立柱建物

区分	面	遺構名称	グリッド	形態	規模		主軸方位	本文	挿図	写真図版
					短軸	長軸				
III 南	中近世	1 掘立柱建物	55-1-B・C-11・12	3×2間 東西棟	3.27~0.34m	3.70~4.04m	N-86°-E	45	22	13
III 北	古代〜古墳時代	2 掘立柱建物	55-11-L・M-4・5	1×1間 東西棟	3.00m	4.80m	N-72°-W	227~230	170	118
III 北	古代〜古墳時代	3 掘立柱建物	55-1・11-K・L-20・1	2×2間 南北棟	3.01~3.05m	3.21~3.22m	N-25°-E	230	171	118~120
III 北	古代〜古墳時代	4 掘立柱建物	55-1-K・L-18	1×1間 東西棟	1.50m	1.64~1.75m	N-8°-E	230	173	120
III 北	古代〜古墳時代	5 掘立柱建物	55-1-L・M-7~9	3×2間 東西棟	4.15~4.20m	6.49~6.76m	N-44°-E	230・231	172	120~122・219
III 北	古代〜古墳時代	1 柱穴	55-11-L・M-9・10	3間	-	4.75m	N-46°-E	234	173	122・123
IV 西	古代〜古墳時代	1 掘立柱建物	55-21-M・N-11・12G	1×2間 東西棟	2.43~2.69m	2.64~2.69m	N-20°-W	261	193	141
VI 中央	古代〜古墳時代	1 掘立柱建物	55-41-L・M-4・5	1×2間 東西棟	3.23~3.40m	3.72~3.74m	N-20°-W	305	228	173
VI 中央	古代〜古墳時代	2 掘立柱建物	55-41-H・I-1~3	3×3+1間 南北棟	6.10m	6.33m	N-36°-W	305・306	229・230	173~175
VI 中央	古代〜古墳時代	3 掘立柱建物	55-31・41-E・F-20・1	1×3間 南北棟	5.10m	3.41~3.60m	N-29°-W	306	231	175・176
VI 中央	古代〜古墳時代	1 柱穴	55-41-F・G-4・5	3×3間	6.0m	6.30m	N-39°-W	306~312	232	176

III区1号掘立柱建物跡ビット計測表

建物全体規模		3×2間		面積		16.19 m ²	
主軸方向		N-86°-E		庇		西庇	
桁・梁の規模(m)	柱穴No	規模(m)			形状	次柱穴との間隔(m)	
		長径	短径	深さ			
北辺 4.95	P1	0.31	0.22	測定値なし	隅丸方形	0.54	
	P2	0.23	0.2	0.39	不整形円形	1.88	
	P3	0.41	0.3	0.26	楕円形	1.42	
東辺 3.27	P4	0.3	0.22	0.32	楕円形	1.51	
	P5	0.33	0.17	0.12	隅丸方形	1.85	
南辺 5.20	P6	0.28	0.28	0.26	隅丸方形	1.76	
	P7	0.5	0.36	0.3	不整形楕円形	1.88	
	P8	0.2	0.18	0.27	隅丸方形	0.42	
西辺 3.37	P9	0.27	0.18	0.43	不整形円形	1.68	
	P10	0.3	0.3	0.48	隅丸方形	1.72	
	P11	0.31	0.26	0.37	楕円形	P1まで1.14	
西庇 3.37	P12	0.35	0.24	0.27	不整形楕円形	3.34	
	P13	0.36	0.28	0.39	不整形楕円形	P6まで1.35	

III区2号掘立柱建物跡ビット計測表

建物全体規模		1×1間		面積		14.4 m ²	
主軸方向		N-72°-W		面積		無し	
桁・梁の規模(m)	柱穴No	規模(m)			形状	次柱穴との間隔(m)	
		長径	短径	深さ			
北辺 4.80	P1	0.64	0.3	0.42	楕円形	4.8	
	P2	0.48	0.33	0.49	楕円形	3.1	
南辺 4.50	P3	0.7	0.63	0.49	不整形楕円形	4.5	
西辺 2.78	P4	0.33	0.3	0.47	円形	2.8	

III区3号掘立柱建物跡ビット計測表 ★は独立棟持柱

建物全体規模		2×2間		面積		9.79 m ²	
主軸方向		N-25°-E		庇		無し	
桁・梁の規模(m)	柱穴No	規模(m)			形状	次柱穴との間隔(m)	
		長径	短径	深さ			
東辺 3.05	P1	0.28	0.26	0.4	円形	1.55	
	P2	0.24	0.22	0.36	円形	1.54	
南辺 3.22	P3	0.28	-	0.4	楕円形	P5まで3.18	
	P4★	-	0.18	0.46	円形	1.6	
西辺 3.01	P5	0.3	0.26	0.3	不整形円形	1.48	
	P6	0.27	0.21	0.21	楕円形	1.55	
北辺 3.21	P7	0.27	0.26	0.35	円形	P1まで3.12	
	P8★	0.2	0.18	0.2	楕円形	1.59	

III区4号掘立柱建物跡ビット計測表

建物全体規模		1×1間		面積		2.625 m ²	
主軸方向		N-8°-E		庇		無し	
桁・梁の規模(m)	柱穴No	規模(m)			形状	次柱穴との間隔(m)	
		長径	短径	深さ			
北辺 1.50	P1	-	0.25	-	楕円形	1.5	
	P2	0.31	0.26	0.15	不整形円形	1.64	
南辺 1.50	P3	0.27	0.23	0.1	不整形円形	1.5	
西辺 1.75	P4	0.25	0.24	0.21	不整形円形	1.75	

III区5号掘立柱建物跡ビット計測表 ★は独立棟持柱

建物全体規模		3×2間		面積		28.05 m ²	
建物全体規模		N-44°-E		庇		無し	
桁・梁の規模(m)	柱穴No	規模(m)			形状	次柱穴との間隔(m)	
		長径	短径	深さ			
北辺 6.76	P1	0.26	0.25	0.46	円形	2.33	
	P2	0.32	0.26	0.4	不整形円形	2.34	
	P3	0.37	0.32	0.55	隅丸方形	2.07	
東辺 4.15	P4	0.31	0.26	0.49	楕円形	P6まで4.15	
	P5★	0.3	0.24	0.28	楕円形	2.01	
南辺 6.49	P6	0.3	0.27	0.41	円形	2.21	
	P7	0.28	0.26	0.38	円形	2.01	
	P8	0.28	0.24	0.42	不整形円形	2.24	
西辺 4.20	P9	0.26	0.24	0.38	円形	P1まで4.20	
	P10★	0.24	0.16	0.21	楕円形	2.03	
	P11	0.29	0.24	0.29	楕円形	P7まで1.88	

III区1号柱穴列ビット計測表

柱列全体規模		3間		面積		無し	
柱列全体規模		N-46°-E		庇		無し	
桁・梁の規模(m)	柱穴No	規模(m)			形状	次柱穴との間隔(m)	
		長径	短径	深さ			
北辺 4.75	P1	-	0.19	0.29	不明	1.51	
	P2	0.21	0.21	0.29	円形	1.61	
P3	P3	0.26	0.22	0.19	楕円形	1.63	
	P4	0.21	0.18	0.3	楕円形		

4. 土坑

IV区1号掘立柱建物跡ピット計測表

建物全体規模		2×1間		面積		6.48㎡	
主軸方向		N-27°-W		庇		無し	
桁・梁行の規模(m)	柱穴No	規模(m)			形状	次柱穴との間隔(m)	
		長径	短径	深さ			
北辺 2.64	P1	0.32	0.26	0.2	楕円形	2.64	
東辺 2.29	P2	0.47	0.45	0.23	円形	1.12	
	P3	0.3	0.26	0.3	楕円形	1.17	
南辺 2.69	P4	0.28	0.25	0.22	楕円形	2.69	
西辺 2.43	P5	0.46	0.46	0.17	円形	1.2	
	P6	0.3	0.22	0.12	楕円形	1.23	

VI区1号掘立柱建物跡ピット計測表

建物全体規模		1×2間		面積		12.01㎡	
主軸方向		N-20°-W		庇		無し	
桁・梁行の規模(m)	柱穴No	規模(m)			形状	次柱穴との間隔(m)	
		長径	短径	深さ			
東辺 3.23	P1	0.5	0.35	0.37	楕円形	1.54	
	P2	0.49	0.43	0.38	楕円形	1.68	
南辺 3.10	P3	0.47	0.38	0.35	楕円形	3.74	
西辺 3.40	P4	0.4	0.36	0.36	楕円形	1.9	
	P5	0.46	0.44	0.42	不整形円形	1.58	
北辺 3.31	P6	0.63	0.46	0.5	不整形円形	3.68	

VI区3号掘立柱建物跡ピット計測表

建物全体規模		1×3間		面積		18.36㎡	
主軸方向		N-29°-W		庇		無し	
桁・梁行の規模(m)	柱穴No	規模(m)			形状	次柱穴との間隔(m)	
		長径	短径	深さ			
東辺 5.10	P1	0.43	0.38	0.36	不整形円形	1.66	
	P2	0.43	0.36	0.22	不整形円形	1.6	
	P3	0.43	計測不能	0.43	円形	1.8	
南辺 3.41	P4	0.3	0.26	0.17	楕円形	3.36	
西辺 5.10	P5	0.42	0.31	0.43	楕円形	1.74	
	P6	0.43	0.39	0.4	楕円形	1.35	
北辺 3.60	P7	0.5	0.37	0.41	楕円形	3.55	

3. 井戸

区分	面	遺構名称	グリッド	平面形	規模			長軸方位	本文	挿図	写真図版
					短軸	長軸	残存壁高				
III 中央	古代洪水層関連	1 井戸	55-1-G-H-15・16	楕円形	3.32m	3.71m	1.31m	N-40°-W	184	130・131	96・213
III 中央	古代洪水層関連	2 井戸	55-11-G-1	円形	0.79m	0.84m	0.76m	N-86°-E	186	130	96
III 中央	古代洪水層関連	3 井戸	55-1-G-18・19	円形	0.74m	0.62m	1.01m	N-44°-E	186	130	96・213
VI	中近世	1 井戸	55-41-H-2	楕円形	0.84m	0.91m	0.66m	N-23°-W	81	47	33
VI	中近世	2 井戸	55-41-F-1	楕円形	0.87m	1.09m	0.94m	N-61°-W	82	47	33
VI	古代～古墳時代	3 井戸	55-41-D-1・2	楕円形	0.73m	1.08m	0.80m	N-60°-E	312	233	177
VI	古代～古墳時代	4 井戸	55-31-G-20	円形	0.85m	0.88m	0.77m	N-37°-W	312	233	177・223
VI	古代～古墳時代	5 井戸	55-41-F-12	楕円形	0.81m	0.92m	0.90m	N-4°-W	312	233	177
VI	古代～古墳時代	6 井戸	55-31-F-19・20	楕円形	2.80m	3.66m	0.75m	N-77°-E	312	234	177・223
VI	古代～古墳時代	7 井戸	55-31-E-20	不定形	1.25m	1.27m	0.92m	N-53°-W	312～314	233	178・223
VII	中近世	1 井戸	55-51-H-2	楕円形	0.82m	1.06m	1.04m	N-14°-E	91	55	39
VIII	中近世	1 井戸	55-51-G-H-16	不定形	1.21m	1.26m	0.89m	N-38°-W	94	57	42
IX	古代～古墳時代	1 井戸	55-71-N-12・13	楕円形	2.62m	3.24m	0.62m	N-25°-W	343	256・257	203・226

4. 土坑

区分	面	遺構名称	グリッド	平面形	規模			長軸方位	本文	挿図	写真図版
					短軸	長軸	残存壁高				
I 北	中近世	1 土坑	45-81-K-19	円形	0.51m	0.51m	0.28m	-	29・30	11	2
I 北	中近世	2 土坑	45-91-K-5	円形	0.50m	0.52m	1.56m	N-63°-E	29・30	11	-
I 北	古代～古墳時代	3 土坑	45-91-M-5	楕円形	0.70m	0.90m	0.32m	N-35°-E	208	152	105
I 北	古代～古墳時代	4 土坑	45-91-M-7	隅丸方形	1.15m	1.24m	0.98m	N-82°-E	208・209	153・154	105
I 北	古代～古墳時代	5 土坑	45-91-L-3・4	楕円形	1.10m	2.02m	0.14m	N-73°-W	208・209	152	-
I 北	古代～古墳時代	6 土坑	45-91-L-4	長楕円形	0.59m	2.10m	0.52m	N-11°-E	208・209	152	-
I 北	古代～古墳時代	7 土坑	45-91-M-5	不整形楕円形	0.50m	2.49m	0.19m	N-8°-E	208・209	152	-
I 北	古代～古墳時代	8 土坑	45-91-L・M-5	不整形楕円形	0.90m	計測不能	0.09m	N-24°-W	208・209	152	-
I 北	古代～古墳時代	9 土坑	45-91-L-7	円形	0.69m	0.70m	0.27m	-	208・209	152	105
I 北	古代～古墳時代	10 土坑	45-91-N・O-7	楕円形	0.71m	1.18m	0.11m	N-23°-W	208・209	152	105
I 北	古代～古墳時代	11 土坑	45-91-M-4	不定形	0.30m	0.64m	0.30m	N-26°-E	208・209	152	106
I 北	古代～古墳時代	12 土坑	45-91-M-4	不定形	0.40m	計測不能	0.24m	N-53°-W	208・209	152	106
I 北	古代～古墳時代	13 土坑	45-91-M-4	不定形	0.36m	計測不能	0.28m	N-53°-W	208・209	152	106
I 北	古代～古墳時代	14 土坑	45-91-M-5	楕円形	0.47m	0.94m	0.24m	N-30°-E	208・209	152	106
I 北	古代～古墳時代	15 土坑	45-91-M-4	楕円形	0.38m	0.71m	0.26m	N-84°-W	208・209	152	106
I 北	古代～古墳時代	16 土坑	45-91-M-7	隅丸方形	0.35m	0.52m	0.69m	N-24°-E	208・209	152	106
I 中央	中近世	17 土坑	45-81-H-20	円形	0.38m	0.49m	0.13m	N-19°-E	29	11	2
I 中央	中近世	18 土坑	45-91-G-1	円形	0.31m	0.42m	0.06m	N-17°-W	29	11	3
I 中央	中近世	19 土坑	45-81-J-10	円形	1.81m	2.12m	0.08m	N-88°-E	30	11	3
I 中央	中近世	20 土坑	45-81-F-9	円形	0.31m	0.36m	0.05m	N-52°-E	30	11	-
I 中央	古代～古墳時代	21 土坑	45-81-E-11	不整形楕円形	1.72m	1.29m以上	0.06m	N-0°-E	208・209	152	81

VI区1号柱穴列ピット計測表

建物全体規模		3×3間		面積		無し	
主軸方向		N-39°-W		庇		無し	
桁・梁行の規模(m)	柱穴No	規模(m)			形状	次柱穴との間隔(m)	
		長径	短径	深さ			
北辺 6.00	P1	0.4	0.36	0.3	不整形円形	1.8	
	P2	0.3	0.32	0.3	楕円形	2.12	
	P3	0.32	0.25	0.24	不整形円形	2.08	
東辺 6.30	P4	0.47	0.28	0.25	楕円形	2.12	
	P5	0.39	0.29	0.37	楕円形	2.01	
	P6	0.39	0.32	0.33	楕円形	P8まで2.2	
(南辺)	P7	0.24	0.21	0.11	不整形円形	P8まで1.8	
	P8	0.27	0.22	0.33	不整形円形	1.87	
	P9	0.28	0.22	0.1	楕円形		

VI区2号掘立柱建物跡ピット計測表

建物全体規模		3×3間		面積		38.49㎡	
主軸方向		N-36°-W		庇		西辺	
桁・梁行の規模(m)	柱穴No	規模(m)			形状	次柱穴との間隔(m)	
		長径	短径	深さ			
東辺 6.08	P1	0.43	0.43	0.3	円形	0.36	
	P2	0.26	0.23	0.08	円形	1.7	
	P3	0.63	0.36	0.33	不整形楕円形	1.81	
	P4	0.46	0.24	0.33	楕円形	0.56	
	P5	0.62	0.49	0.08	円形	1.63	
南辺 4.67	P6	0.42	0.31	0.35	楕円形	3.1	
	P7	0.33	0.29	0.38	円形	1.56	
西辺 6.03	P8	0.49	0.36	0.5	楕円形	1.3	
	P9	0.47	0.38	0.22	楕円形	0.8	
	P10	0.48	0.41	0.28	不整形楕円形	P12まで1.83	
	P11	0.33	0.3	0.42	円形	P12まで1.98	
北辺 4.37	P12	0.52	0.42	0.33	不整形楕円形	1.71	
	P13	0.55	0.42	0.35	不整形楕円形	0.56	
	P14	0.38	0.3	0.31	楕円形	1.48	
	P15	0.39	0.31	0.39	楕円形	1.4	
	P16	0.32	0.26	0.12	楕円形	1.3	
	西底 6.14	P17	0.48	0.37	0.4	楕円形	P14まで2.0 P18まで2.15
		P18	0.57	0.55	0.38	円形	2.08
P19		0.33	0.31	0.4	不整形円形	2.17	
P20		0.49	0.25	0.4	楕円形	P8まで1.79	

遺構一覧表

区 細分	面	遺構名称	グリッド	平面形	規模			長軸方位	本文	挿図	写真図版
					短軸	長軸	残存壁高				
I 中央	古代洪水層関連	22 土坑	45-81-H-5	円形	1.16m	1.25m	0.11m	N-10°-W	166	116	81
I 中央	古代洪水層関連	23 土坑	45-81-I-5	不整楕円形	1.20m	1.36m	0.24m	N-18°-W	166	116	81
I 中央	古代洪水層関連	24 土坑	45-81-I・J-6	不整円形	1.50m	1.52m	0.19m	-	166	116	81
I 中央	古代洪水層関連	25 土坑	45-81-I-5	不整円形	1.27m	1.30m	0.15m	-	166	116	81
II 北	中近世	1 土坑	45-91-K-15	隅丸方形	0.62m	0.72m	0.40m	N-4°-E	38	17	8
II 北	中近世	2 土坑	45-91-M-13	楕円形	0.59m	0.93m	0.09m	N-43°-W	38	17	8
II 北	中近世	3 土坑	45-91-L-18・19	楕円形	0.42m	0.60m	0.12m	N-70°-E	38	17	8
II		4 土坑	欠番								
II 北	中近世	5 土坑	45-91-M-11	円形	1.09m	1.12m	0.17m	N-68°-E	38	17	8
II 北	中近世	6 土坑	45-91-L-10	隅丸方形	1.13m	1.35m	0.35m	N-82°-W	38	17	8
II 南	中近世	7 土坑	55-1-C-6	楕円形	0.48m	0.61m	0.12m	N-9°-W	38	17	8
II 北	古代～古墳時代	8 土坑	45-91-M-10・11	隅丸方形	1.13m	1.17m	0.97m	N-42°-W	222	162・163	114・115
II 中央	中近世	9 土坑	55-1-J-2	不整楕円形	1.25m	1.50m	0.23m	N-44°-E	38	17	8
II 中央	中近世	10 土坑	55-1-H-2	楕円形	0.31m	0.56m	0.12m	N-45°-E	38	17	8・9
III 南	中近世	1 土坑	55-1-D・E-12	隅丸長方形	0.81m	1.32m	0.39m	N-77°-E	45	23	14
III 北	中世	2 土坑	55-11-M-8・9	楕円形	1.33m	2.23m	0.12m	N-8°-W	129	86	61
III 北	中世	3 土坑	55-11-L・M-4	楕円形	0.94m	1.18m	0.15m	N-32°-W	129	86	61
III 北	中近世	4 土坑	55-11-L-2	不整楕円形	0.70m	0.87m	0.25m	N-59°-W	45~48	23	14
III 北	中近世	5 土坑	55-11-L-1	不整楕円形	0.48m	0.75m	0.26m	N-33°-W	45~48	23	14
III 北	中近世	6 土坑	55-1-L-19	楕円形	0.86m	1.09m	0.27m	N-66°-E	45~48	23	14
III 南	中近世	7 土坑	55-1-B-15	隅丸長方形	1.06m	2.50m	0.43m	N-11°-W	45~48	23	14
III 南	中近世	8 土坑	55-1-C・B-19	隅丸長方形	0.94m	1.82m	0.23m	N-86°-W	45~48	23	14
III 南	中近世	9 土坑	55-11-E-8	楕円形	1.10m	1.18m	0.46m	N-25°-W	45~48	23	14
III 南	中近世	10 土坑	55-11-E-8・9	不整楕円形	0.64m	1.33m	0.22m	N-18°-W	45	23	14
III 南	中近世	11 土坑	55-1-E-16	不整形	0.34m	0.61m	0.06m	N-23°-E	45	23	14・15
III 南	中近世	12 土坑	55-1-B-11・12	隅丸長方形	1.04m	1.26m	0.57m	N-30°-W	45~48	23	15
III 南	中近世	13 土坑	55-11-E-6	楕円形	0.59m	0.71m	0.24m	N-42°-W	45~48	24	15
III 南	中近世	14 土坑	55-1-B-14	不整楕円形	0.42m	1.07m	0.23m	N-10°-E	45~48	24	15
III 北	古代洪水層関連	15 土坑	55-1-K-11	楕円形	0.94m	1.18m	0.40m	N-32°-W	186	132	96
III 南	古代洪水層関連	16 土坑	55-1-E-13	不整楕円形	0.27m	0.93m	0.13m	N-81°-W	186	132	96
III 南	古代洪水層関連	17 土坑	55-1-E-14	ピットの集合か	0.71m	1.27m	0.23m	N-4°-E	186	132	96
III 南	古代洪水層関連	18 土坑	55-1-D-15	楕円形	0.54m	0.66m	0.13m	N-39°-E	186	132	96
III 南	古代洪水層関連	19 土坑	55-1-D-15	不整楕円形	0.66m	1.26m	0.11m	N-56°-W	186	132	96
III 南	古代洪水層関連	20 土坑	55-1-D-15・16	楕円形	1.00m	1.22m	0.10m	N-64°-E	186	132	96
III 南	古代洪水層関連	21 土坑	55-1-D-15・16	楕円形	0.32m	0.53m以上	0.12m	N-4°-W	186	132	96
III 南	古代～古墳時代	22 土坑	55-1-E-14	楕円形	0.97m	2.05m	0.25m	N-82°-W	235	174	123
III 南	古代～古墳時代	23 土坑	55-1-E-14	円形	0.59m	0.62m	0.38m	N-40°-E	235	174	123
III 南	古代～古墳時代	24 土坑	55-1-E-19	楕円形か	0.57m	計測不能	0.06m	N-2°-W	235	174	123
III 南	古代～古墳時代	25 土坑	55-1-E-19	楕円形か	1.01m以上	計測不能	0.27m	計測不能	235	174	123
III 南	古代～古墳時代	26 土坑	55-1-E-20	楕円形	0.86m	1.13m	0.34m	N-20°-E	235	174	123
III 南	古代～古墳時代	27 土坑	55-1-E-20	楕円形か	0.77m	計測不能	0.15m	N-26°-E	235	174	123
III 南	古代～古墳時代	28 土坑	55-1-E-20	円形か	0.86m	計測不能	0.15m	N-22°-W	235	174	123
III 南	古代～古墳時代	29 土坑	55-11-E-1	楕円形	0.78m	計測不能	0.21m	N-26°-W	235	174	123
III 南	古代～古墳時代	30 土坑	55-11-E-1	隅丸方形	0.80m	0.99m	0.20m	N-45°-W	235	174	123
III 南	古代～古墳時代	31 土坑	55-11-E-1	不整楕円形	0.29m	0.72m	0.09m	N-42°-W	235	174	123・124
III 南	古代～古墳時代	32 土坑	55-1-E-17・18	不整楕円形	0.56m	1.32m	0.14m	N-61°-W	235	174	124
III 南	古代～古墳時代	33 土坑	55-11-E-1	楕円形	0.66m	1.21m	0.13m	N-58°-E	235	174	124
III 南	古代～古墳時代	34 土坑	55-11-D-1	楕円形	1.08m	1.44m	0.12m	N-14°-E	235	174	124
III 南	古代～古墳時代	35 土坑	55-1-D-18・19	楕円形	0.88m	0.98m	0.16m	N-60°-E	235	175	124
III 南	古代～古墳時代	36 土坑	55-1-D-18	楕円形	0.58m	0.71m	0.09m	N-37°-W	235	175	124
III 南	古代～古墳時代	37 土坑	55-1-D-19	楕円形	0.43m	0.93m	0.17m	N-38°-W	235	175	124
III 南	古代～古墳時代	38 土坑	55-1-C-20	不整楕円形	0.38m	0.61m	0.14m	N-7°-E	235	175	124
III 北	古代～古墳時代	39 土坑	55-1-L-13	楕円形	0.65m	0.78m	0.52m	N-63°-E	235~238	175	125
III 北	古代～古墳時代	40 土坑	55-1-L-13	楕円形	0.51m	0.69m	0.16m	N-72°-E	235~238	175	125
III 北	古代～古墳時代	41 土坑	55-1-K・L-12・13	楕円形	0.63m	0.78m	0.50m	N-78°-W	235~238	175	125
III 北	古代～古墳時代	42 土坑	55-1-L-13・14	不整楕円形	0.86m	2.46m	0.35m	N-20°-W	235~238	175	125
III 北	古代～古墳時代	43 土坑	55-1-M-14	楕円形	0.94m	1.21m	0.33m	N-44°-E	235~238	175	125
III 北	古代～古墳時代	44 土坑	55-1-M-15	楕円形か	1.29m	計測不能	0.56m	N-42°-W	235~238	175	126
III 北	古代～古墳時代	45 土坑	55-1-M-16	楕円形	2.28m	3.46m	0.20m	N-62°-E	235~238	175	126
III 北	古代～古墳時代	46 土坑	55-11-M-4	隅丸長方形	1.08m	2.44m	0.40m	N-28°-E	235~238	176	126
III 南	古代～古墳時代	47 土坑	55-1-E-20	不整形か	1.02m	計測不能	0.17m	N-18°-W	235~238	175	124
III 南	古代～古墳時代	48 土坑	55-1-D-14	楕円形	0.58m	0.88m	0.08m	N-47°-E	235~238	176	125
III 南	古代～古墳時代	49 土坑	55-1-D-14	円形	0.64m	0.64m	0.03m	N-0°-E	235~238	176	125
III 南	古代～古墳時代	50 土坑	55-1-D-14	不整楕円形	0.77m	1.02m	0.24m	N-13°-E	235~238	176	125
III 北	古代～古墳時代	51 土坑	55-1-L-18	円形	0.99m	1.12m	0.43m	N-46°-E	235~238	176	126
III 北	古代～古墳時代	52 土坑	55-1-M-20	不整楕円形	0.93m	計測不能	0.15m	N-26°-W	235~238	176	126
III 北	古代～古墳時代	53 土坑	55-1-M-20	不整楕円形	0.95m	計測不能	0.11m	N-20°-W	235~238	176	126
III 北	古代～古墳時代	54 土坑	55-11-M-1	不整楕円形	0.63m	1.55m	0.17m	N-77°-E	235~238	176	126
III 北	古代～古墳時代	55 土坑	55-1-M-20	楕円形	0.78m	1.12m	0.22m	N-58°-W	235~238	176	126
III 北	古代～古墳時代	56 土坑	55-11-L・M-1・2	不整形	2.30m	4.58m	0.18m	N-91°-W	235~240	177	126
III 北	古代～古墳時代	57 土坑	55-11-M-2	楕円形か	1.14m	計測不能	0.45m	N-16°-E	235~240	176	127
III 北	古代～古墳時代	58 土坑	55-11-M-4	楕円形か	0.62m	計測不能	0.11m	N-49°-E	235~240	176	127
III 北	古代～古墳時代	59 土坑	55-11-M-6	円形	0.88m	0.96m	0.17m	N-19°-E	235~240	176	127
III 北	古代～古墳時代	60 土坑	欠番								
III 北	古代～古墳時代	61 土坑	55-11-M-5	不整楕円形	0.60m	0.88m	0.53m	N-41°-E	235~240	178	127
III 北	古代～古墳時代	62 土坑	55-11-M-4	不整楕円形	0.52m	0.57m	0.21m	N-37°-W	235~240	178	127
III 北	古代～古墳時代	63 土坑	55-11-M-7	円形	0.76m	0.76m	0.82m	N-0°-E	235~240	177	128
III 北	古代～古墳時代	64 土坑	55-11-M-6・7	不整楕円形	1.14m	測定不能	0.40m	N-53°-E	235~240	178	128
III 北	古代～古墳時代	65 土坑	55-11-M-6	不整楕円形	0.67m	1.04m	0.21m	N-17°-E	235~240	178	128
III 北	古代～古墳時代	66 土坑	55-11-M-5	不整楕円形	0.80m	1.00m	0.72	N-12°-W	235~240	178	128

4. 土坑

区 細分	面	遺構名称	グリッド	平面形	規模			長軸方位	本文	挿図	写真図版
					短軸	長軸	残存壁高				
Ⅲ北	古代～古墳時代	67 土坑	55-11-M-3	楕円形	0.42m	0.52m	0.18m	N-23°-E	235～240	178	128
Ⅲ北	古代～古墳時代	68 土坑	55-11-M-7	円形	0.40m	0.41m	0.33m	N-42°-E	235～240	178	128
Ⅲ		69 土坑	欠番								
Ⅲ北	古代～古墳時代	70 土坑	55-11-M-4	楕円形	0.49m	0.61m	0.10m	N-12°-W	235～240	-	127
Ⅲ北	古代～古墳時代	71 土坑	55-11-K・L-1・2	楕円形	0.69m	1.68m	0.09m	N-68°-W	235～240	178	128
Ⅲ北	古代～古墳時代	72 土坑	55-11-L-2	隅丸長方形	0.39m	1.57m	0.06m	N-71°-W	235～240	178	128・129
Ⅲ北	古代～古墳時代	73 土坑	55-11-L-2	楕円形	0.43m	0.90m	0.13m	N-82°-W	235～242	178	129
Ⅲ北	古代～古墳時代	74 土坑	55-11-K-1	隅丸長方形	0.38m	1.07m	0.09m	N-81°-E	235～242	179	129
Ⅲ北	古代～古墳時代	75 土坑	55-1-K-20	楕円形	0.31m以上	1.05m	0.13m	N-86°-E	235～242	179	129
Ⅲ北	古代～古墳時代	76 土坑	55-1-L-18・19	楕円形	0.55m	0.71m	0.18m	N-14°-W	235～242	179	129
Ⅲ北	古代～古墳時代	77 土坑	55-11-K・L-7	楕円形	0.88m	1.30m	0.06m	N-52°-W	235～242	179	129
Ⅲ北	古代～古墳時代	78 土坑	55-11-K-8	円形	0.39m	0.42m	0.19m	N-51°-W	235～242	179	129
Ⅲ北	古代～古墳時代	79 土坑	55-11-L・M-7	楕円形	0.60m	0.85m	0.19m	N-43°-E	235～242	179	129
Ⅲ北	古代～古墳時代	80 土坑	55-11-L-9	不整楕円形	1.06m	1.26m	0.11m	N-50°-W	235～242	179	129
Ⅲ北	古代～古墳時代	81 土坑	55-11-L・M-9	不整楕円形	0.87m	1.41m	0.11m	N-39°-E	235～242	179	130
Ⅲ北	古代～古墳時代	82 土坑	55-11-L・M-10	長方形	1.33m	3.33m	0.12m	N-16°-W	235～242	179	130
Ⅲ北	古代～古墳時代	83 土坑	55-11-L-10	楕円形	0.54m	0.78m	0.32m	N-43°-E	235～242	179	130
Ⅲ北	古代～古墳時代	84 土坑	55-11-M-9	楕円形	0.38m	0.51m	0.10m	N-54°-E	235～242	179	130
Ⅲ北	古代～古墳時代	85 土坑	55-1-K・L-14	楕円形	1.03m	2.58m	0.16m	N-11°-E	235～242	180	130
Ⅲ北	古代～古墳時代	86 土坑	55-1-L-15	隅丸長方形	1.20m	1.68m	0.14m	N-14°-E	235～245	180	130・131
Ⅲ北	古代～古墳時代	87 土坑	55-1-L-14	楕円形	0.54m	1.22m	0.42m	N-85°-E	235～245	179	131
Ⅲ北	古代～古墳時代	88 土坑	55-11-L-9	不整円形	0.25m	0.38m	0.16m	N-26°-E	235～245	180	131
Ⅲ北	古代～古墳時代	89 土坑	55-1-K-15・16	隅丸長方形	0.77m	1.21m	0.25m	N-74°-W	235～245	180	131
Ⅲ北	古代～古墳時代	90 土坑	55-1-L-16	楕円形	1.38m	1.72m	0.45m	N-17°-W	235～245	180	131
Ⅲ北	古代～古墳時代	91 土坑	55-1-K・L-14・15	楕円形	0.91m	2.87m	0.28m	N-4°-W	235～245	180	130・131
Ⅲ北	古代～古墳時代	92 土坑	55-1-L-16	楕円形	0.74m	1.11m	0.13m	N-23°-W	235～245	180	131・132
Ⅲ北	古代～古墳時代	93 土坑	55-1-L-14	楕円形	0.71m	1.50m	0.24m	N-6°-W	235～245	180	132
Ⅲ北	古代～古墳時代	94 土坑	55-11-M-5・6	長楕円形・溝状	0.58m	3.61m	0.24m	略N-90°-E	235～245	180	132
Ⅲ北	古代～古墳時代	95 土坑	55-11-M-5	長楕円形・溝状	0.34m	1.34m	0.20m	N-7°-W	235～240	178	128
Ⅲ北	古代～古墳時代	96 土坑	55-11-M-2	隅丸三角形	0.39m	0.56m	0.02m	N-77°-E	235～238	177	127
Ⅲ北	古代～古墳時代	97 土坑	55-11-L-2	楕円形か	0.82m	1.03m	0.10m	N-50°-W	235～238	177	127
Ⅲ北	古代～古墳時代	98 土坑	55-1-L-18	楕円形	0.48m	0.78m	0.42m	N-33°-W	235～245	180	132
Ⅲ北	古代～古墳時代	99 土坑	55-1-M-17・18	円形	0.98m	1.03m	0.16m	N-51°-W	235～245	181	132
Ⅲ北	古代～古墳時代	100 土坑	55-1-M-17	円形か	0.88m	計測不能	0.06m	N-51°-W	235～245	181	132
Ⅲ北	古代～古墳時代	101 土坑	55-11-L・M-9	楕円形か	0.52m	計測不能	0.09m	N-28°-W	235～242	180	130
Ⅲ北	古代～古墳時代	102 土坑	55-1-L-20	楕円形	0.34m	0.46m	0.09m	N-44°-E	235～245	181	132
Ⅲ北	古代～古墳時代	103 土坑	55-11-M-3	楕円形	0.72m	計測不能	0.14m	N-25°-E	235～245	181	132
Ⅲ北	古代～古墳時代	104 土坑	55-1-M-20	隅丸長方形	0.57m	1.09m	0.18m	N-38°-E	235～245	181	132
Ⅲ北	古代～古墳時代	105 土坑	55-11-M-7・8	長楕円形・溝状	0.73m	3.60m	0.31m	N-77°-E	235～245	181	133
Ⅲ北	古代～古墳時代	106 土坑	55-1-L・M-18・19	不定形	3.40m以上	4.45m	0.20m	N-32°-W	235～245	180	133
Ⅲ北	古代～古墳時代	107 土坑	55-1-M-18・19	不定形	3.20m以上	5.86m	0.25m	計測不能	235～245	180	133
Ⅲ北	古代～古墳時代	108 土坑	55-1-M-19・20	不整楕円形	0.68m	3.16m	0.19m	N-11°-E	235～245	181	133
Ⅲ北	古代～古墳時代	109 土坑	55-1-M-20	隅丸長方形	1.07m	2.82m以上	0.13m	N-0°-E	235～250	181	133
Ⅲ中央	中近世	110 土坑	55-1-H-19	楕円形	0.60m	0.77m	0.07m	N-25°-E	45～48	24	15
Ⅲ中央	古代洪水層関連	111 土坑	55-1-F・G-16・17	隅丸長方形	0.93m	1.84m	0.13m	N-1°-W	186	132	96・97
Ⅲ		112 土坑	欠番								
Ⅲ		113 土坑	欠番								
Ⅲ中央	古代～古墳時代	114 土坑	55-1-F・G-19	楕円形	0.81m	1.32m	0.11m	N-47°-E	235～250	181	133
Ⅲ中央	古代洪水層関連	115 土坑	55-1-F・G-15	楕円形	1.73m	2.98m	0.10m	N-83°-E	186	132	97
Ⅲ中央	古代～古墳時代	116 土坑	55-1-F-19	楕円形	0.57m	0.77m	0.16m	N-85°-E	235～250	181	133
Ⅲ中央	古代～古墳時代	117 土坑	55-1・11-G・H-20・1	不整円形	計測不能	計測不能	計測不能	N-6°-E	235～250	182	133
Ⅲ中央	古代～古墳時代	118 土坑	55-11-J-3	隅丸長方形	0.91m	1.84m	0.13m	N-28°-E	235～250	181	133
Ⅲ中央	中近世	119 土坑	55-11-I-7	隅丸長方形	0.68m	0.95m	0.21m	N-18°-W	45～48	24	15
Ⅳ南	中近世	1 土坑	55-11-F-8	不整隅丸長方形	1.06m	1.98m	0.31m	N-46°-E	63	34	23
Ⅳ南	中近世	2 土坑	55-11-F-6	不整楕円形	0.73m	1.10m	0.24m	N-10°-W	63	34	23
Ⅳ南	中近世	3 土坑	55-11-F-6	楕円形	0.54m	0.77m	0.22m	N-11°-W	63	34	23
Ⅳ南	中近世	4 土坑	55-11-F-5	楕円形	0.80m	0.97m	0.42m	N-15°-W	63	34	23
Ⅳ南	中近世	5 土坑	55-11-B-15	楕円形	0.43m	0.64m	0.27m	N-46°-E	63・64	34	23
Ⅳ南	中近世	6 土坑	55-11-C-14	楕円形	0.43m	0.70m	0.13m	N-71°-E	63・64	34	23
Ⅳ南	中近世	7 土坑	55-11-E-17	楕円形	0.48m	0.61m	0.16m	N-17°-W	63・64	34	23
Ⅳ南	中近世	8 土坑	55-11-F-19	不整楕円形	0.61m	0.81m	0.26m	N-42°-W	63・64	34	23
Ⅳ南	中近世	9 土坑	55-11-D-20	楕円形	0.34m	0.78m	0.09m	N-73°-E	63・64	34	23
Ⅳ南	古代～古墳時代	10 土坑	55-11-B-15	楕円形	0.74m	1.61m	0.70m	N-13°-E	262	194	142
Ⅳ南	中近世	11 土坑	55-11-D-8・9	不整円形	0.47m	0.65m	0.15m	N-36°-E	63・64	34	23
Ⅳ南	中近世	12 土坑	55-11-F-20	楕円形	0.57m	1.41m	0.14m	N-82°-E	63・64	34	23
Ⅳ南	古代～古墳時代	13 土坑	55-21-C-9	円形	0.56m	0.59m	0.16m	N-61°-E	262	194	141
Ⅳ南	古代～古墳時代	14 土坑	55-21-E-9・10	長方形	0.37m	0.74m	0.11m	N-80°-E	262	194	141
Ⅳ南	中近世	15 土坑	55-21-F-6	円形	0.43m	0.46m	0.07m	N-32°-W	63・64	34	23
Ⅳ南	古代～古墳時代	16 土坑	55-11-E-17	不整楕円形	0.41m	0.59m	0.13m	N-81°-E	262	194	142
Ⅳ南	古代～古墳時代	17 土坑	55-11-B・C-14・15	不整楕円形	1.01m	2.32m	0.50m	N-14°-W	262	194	142
Ⅳ南	古代～古墳時代	18 土坑	55-11-B-13	楕円形	0.48m	0.87m	0.70m	N-16°-W	262	194	142
Ⅳ南	古代～古墳時代	19 土坑	55-11-B-14	楕円形か	0.70m	計測不能	0.20m	計測不能	262	194	142
Ⅳ南	古代～古墳時代	25 土坑	欠番								
Ⅳ南	古代～古墳時代	26 土坑	欠番								
Ⅳ南	古代～古墳時代	27 土坑	55-11-D-15	円形	0.62m	0.67m	0.30m	N-81°-E	262	194	142
Ⅳ南	古代～古墳時代	28 土坑	55-11-D-15・16	円形	0.52m	0.63m	0.30m	N-36°-W	262	194	142
Ⅳ南	古代～古墳時代	29 土坑	55-11-D-14	円形	1.06m	1.11m	0.77m	N-16°-E	262	194	142・143
Ⅳ南	古代～古墳時代	30 土坑	55-11-D-20	不整楕円形	1.26m	1.45m	0.21m	N-33°-E	262	194	143
Ⅳ南	古代～古墳時代	31 土坑	55-11-C-20	楕円形	0.45m	0.77m	0.14m	N-62°-E	262	194	143
Ⅳ南	古代～古墳時代	32 土坑	55-11-C-19	楕円形	0.57m	0.94m	0.16m	N-81°-E	262	194	143

遺構一覧表

区 細分	面	遺構名称	グリッド	平面形	規模			長軸方位	本文	挿図	写真図版
					短軸	長軸	残存壁高				
IV 南	古代～古墳時代	33 土坑	55-11-B-17・18	円形	0.63m	0.77m	0.17m	N-5°-W	262～266	195	143
IV 南	古代～古墳時代	34 土坑	55-11-D-18	不整楕円形	0.75m	1.39m	0.12m	N-78°-E	262～266	195	143
IV 南	古代～古墳時代	35 土坑	55-11-C・D-13	長不整楕円形・溝状	0.61m	3.33m	0.19m	N-3°-W	262～266	195	-
IV 北	古代～古墳時代	38 土坑	55-21-P-10	不整楕円形	1.35m	1.59m	0.30m	N-33°-E	262～266	195	143
IV 北	古代～古墳時代	39 土坑	55-21-O-10	不整楕円形	0.88m	1.46m	0.45m	N-30°-E	262～266	195	143
IV 北	古代～古墳時代	40 土坑	55-21-O-11	楕円形	0.40m	0.71m	0.22m	N-58°-E	262～266	195	143
IV 北	古代～古墳時代	41 土坑	55-21-O-10	楕円形	0.58m	0.76m	0.09m	N-64°-E	262～266	195	143・144
IV 北	古代～古墳時代	42 土坑	55-21-O-10	楕円形	0.65m	0.80m	0.14m	N-44°-W	262～266	195	144
IV 北	古代～古墳時代	43 土坑	55-21-O-10	円形	0.50m	0.50m	0.18m	-	262～266	195	144
IV 北	古代～古墳時代	44 土坑	55-21-N-10	円形	0.63m	0.67m	0.22m	N-28°-W	262～266	195	144
IV 北	古代～古墳時代	45 土坑	55-21-N-10	隅丸方形	0.33m	0.35m	0.19m	N-29°-W	262～266	195	144
IV 北	古代～古墳時代	46 土坑	55-21-O-10	不整楕円形	0.57m	0.82m	0.25m	N-23°-E	262～266	195	144
IV 北	古代～古墳時代	47 土坑	55-21-N-11	楕円形	0.53m	0.76m	0.12m	N-5°-W	262～266	195	144
IV 北	古代～古墳時代	48 土坑	55-21-N-11	楕円形	0.51m	0.73m	0.11m	N-37°-W	262～266	197	144
IV 北	古代～古墳時代	49 土坑	55-21-M-10	不整楕円形	2.24m	2.60m	1.02m	N-28°-E	262～267	196	144・145
IV 北	古代～古墳時代	50 土坑	55-21-M-11	楕円形	0.50m	0.68m	0.56m	N-48°-W	262～267	197	145
IV 北	古代～古墳時代	56 土坑	55-21-O-10	楕円形	0.40m	0.82m	0.31m	N-10°-E	262～267	197	145
IV 北	古代～古墳時代	57 土坑	55-21-O-10	楕円形	0.53m	0.88m	0.07m	N-31°-E	262～267	197	145
IV 北	古代～古墳時代	63 土坑	55-21-P-10	不整楕円形	0.87m以上	1.09m	0.10m	N-58°-W	262～268	197	145
IV 北	古代～古墳時代	66 土坑	55-21-M-9	円形	0.31m	0.35m	0.25m	N-13°-E	262～268	197	145
IV 北	古代～古墳時代	67 土坑	55-21-M-9	楕円形	0.54m	0.62m	0.29m	N-53°-E	262～268	197	145
IV 中央	中近世	77 土坑	55-11-H-18	円形	0.77m	0.88m	0.40m	N-11°-W	63・64	34	23
IV 中央	中近世	78 土坑	55-11-K-13	楕円形か	0.83m	計測不能	0.23m	N-42°-E	63・64	34	23・24
V 南	古代～古墳時代	20 土坑	55-21-F-17・18	不整楕円形	0.76m	1.04m	0.20m	N-8°-W	284	211	159
V 南	古代～古墳時代	21 土坑	55-21-F-16	不整楕円形	0.51m	0.76m	0.28m	N-77°-E	284	211	159
V 南	古代～古墳時代	22 土坑	55-21-E-14・15	不整長方形	0.70m	1.44m	0.12m	N-57°-W	284	211	159
V 南	古代～古墳時代	23 土坑	55-21-E・F-14	不整楕円形	40.43m	0.84m	0.35m	N-44°-W	284	211	159
V 南	古代～古墳時代	24 土坑	55-21-F-13	不整楕円形	0.51m	0.83m	0.16m	N-81°-E	284	211	159・160
V 北	古代～古墳時代	36 土坑	55-21-M・N-14・15	ほぼ円形	1.09m	1.35m	0.66m	N-49°-W	284	211	160
V 北	古代～古墳時代	37 土坑	55-21-M-13・14	円形	0.57m	0.59m	0.47m	N-45°-E	284	211	160
V 北	古代～古墳時代	51 土坑	55-21-M-14	ほぼ円形	0.44m	0.56m	0.19m	N-26°-W	284	211	160
V 北	古代～古墳時代	52 土坑	55-21-L・M-14・15	楕円形	0.58m	0.73m	0.07m	N-64°-W	284	211	160
V 北	古代～古墳時代	53 土坑	55-21-O-16	ほぼ円形	0.64m	0.78m	0.52m	N-61°-E	284	211	160
V 北	古代～古墳時代	54 土坑	55-21-N-16	楕円形	0.57m	0.65m	0.11m	N-39°-E	284	211	160
V 北	古代～古墳時代	55 土坑	55-21-P-14	円形	0.50m	0.59m	0.11m	N-51°-E	284	211	160
V 北	古代～古墳時代	58 土坑	55-21-L・M-14	楕円形	0.62m	0.70m	0.53m	N-27°-W	284・285	212	161
V 北	古代～古墳時代	59 土坑	55-21-N-16	楕円形	0.86m	1.24m	0.98m	N-53°-W	284・285	212	161
V 北	古代～古墳時代	60 土坑	55-21-N-16	楕円形	0.38m	0.55m	0.27m	N-38°-W	284・285	212	161
V 北	古代～古墳時代	61 土坑	55-21-N-16	円形	0.65m	0.73m	0.17m	N-40°-E	284・285	212	161
V 北	古代～古墳時代	62 土坑	55-21-M-16	楕円形	0.97m	1.14m	0.32m	N-28°-W	284・285	212	161
V 北	古代～古墳時代	64 土坑	55-21-L-13	楕円形	0.47m	0.57m	0.08m	N-62°-W	284・285	212	161
V 北	古代～古墳時代	65 土坑	55-21-M-12	楕円形か	0.90m	計測不能	0.08m	N-44°-W	284・285	212	162
V 北	古代～古墳時代	68 土坑	55-21-N-16	楕円形	0.36m	0.55m	0.18m	N-33°-E	284・285	212	162
V 北	古代～古墳時代	69 土坑	55-21-F-15	円形	0.57m	0.62m	0.07m	N-39°-E	284・285	213	162
V 北	古代～古墳時代	70 土坑	55-21-J・K-15	隅丸長方形	0.58m	0.78m	0.12m	N-82°-W	284・285	213	162
V 北	古代～古墳時代	71 土坑	55-21-P-14	楕円形	0.36m	0.46m	0.12m	N-30°-E	284・285	213	162
V 北	古代～古墳時代	72 土坑	55-21-N-17	楕円形か	0.39m	計測不能	0.07m	計測不能	284・285	213	162
V		73 土坑	欠番								
V 北	古代～古墳時代	74 土坑	55-21-N-17	円形	0.38m	0.38m	0.35m	N-0°-E	284・285	213	162
V		75 土坑	欠番								
V 北	古代～古墳時代	76 土坑	55-21-P・Q-14	楕円形か	0.52m	計測不能	0.15m	計測不能	284・285	213	162
V 中央	中近世	79 土坑	55-31-F-1	不整円形	1.04m	1.17m	0.34m	N-62°-W	76	43	29
V 中央	中近世	80 土坑	55-31-F-8	隅丸長方形	1.11m	2.18m	0.26m	N-10°-W	76	43	29
V 中央	中近世	81 土坑	55-31-M-10	不整楕円形	0.73m	0.96m	0.23m	N-53°-E	76	43	29
V 中央	中近世	82 土坑	55-31-M-10	隅丸長方形	0.52m	0.99m	0.24m	N-83°-E	76	43	29
V 中央	中近世	83 土坑	55-31-O-11・12	不整楕円形	0.83m	1.03m	0.10m	N-68°-W	76	43	29
VI	中近世	1 土坑	55-41-L-8	細長楕円形・溝状	0.45m	1.88m	0.50m	N-8°-E	82	48	33
VI	中近世	2 土坑	55-41-H-8	不整円形	1.14m	1.24m	0.60m	N-84°-W	82	48	34
VI	中近世	3 土坑	不明	楕円形	計測不能	計測不能	計測不能	計測不能	82	48	34
VI	中近世	4 土坑	55-41-G・H-8	楕円形	0.44m	0.88m	0.17m	N-6°-E	82	48	34
VI	中近世	5 土坑	55-41-I-5	隅丸方形	0.84m	1.10m	0.17m	N-5°-W	82	48	34
VI	中近世	6 土坑	55-41-J-3	楕円形	0.76m	0.80m	0.33m	N-4°-E	82	48	34
VI	中近世	7 土坑	55-41-I-5	隅丸長方形	0.39m	0.81m	0.15m	N-88°-W	82	48	34
VI	古代～古墳時代	8 土坑	55-41-H・I-12	楕円形	0.77m	1.22m	0.33m	N-2°-E	314・315	235	179
VI	古代～古墳時代	9 土坑	55-41-G・H-2	楕円形	0.71m	1.59m	0.51m	N-65°-E	314・315	235	179
VI	中近世	10 土坑	55-41-I-2	不整楕円形	0.56m	1.21m	0.55m	N-10°-W	82	48	34
VI	中近世	11 土坑	55-41-G・H-1・2	不整楕円形	0.73m	1.47m	0.32m	N-60°-W	82	48	34
VI	中近世	12 土坑	55-41-G・H-2	円形	0.90m	0.95m	0.30m	N-23°-W	82～84	48	34
VI	中近世	13 土坑	55-41-F-1	楕円形	0.73m	計測不能	0.35m	N-18°-E	82～84	48	34
VI	中近世	14 土坑	55-41-J-2	不整楕円形	0.71m	1.18m	0.32m	N-54°-E	82～84	48	34
VI	中近世	15 土坑	不明	-	-	-	-	82～84	-	35	
VI	中近世	16 土坑	55-31-E-19	円形	0.70m	0.73m	0.40m	N-89°-E	82～84	48	35
VI	中近世	17 土坑	55-41-E・F-1	隅丸長方形	0.66m	1.38m	0.11m	N-28°-E	82～84	48	35
VI	中近世	18 土坑	55-41-H・I-2	不整楕円形	0.38m	0.87m	0.14m	N-9°-W	82～84	49	35
VI	中近世	19 土坑	55-31-D・E-15	不整楕円形	0.92m	1.49m	0.26m	N-59°-E	82～84	49	35
VI	中近世	20 土坑	55-31-E-14	不整多角形	0.57m	1.10m	0.24m	N-4°-E	82～84	49	35
VI	古代～古墳時代	21 土坑	55-31-E-16	楕円形	0.76m	0.87m	0.31m	N-50°-W	314・315	235	179
VI	中近世	22 土坑	55-41-H-1・2	不整楕円形	0.47m	0.64m	0.37m	N-54°-E	82～84	49	35
VI	中近世	23 土坑	55-41-H-2	円形	0.61m	0.68m	0.26m	N-84°-W	82～85	49	35

4. 土坑

区 細分	面	遺構名称	グリッド	平面形	規模			長軸方位	本文	挿図	写真図版
					短軸	長軸	残存壁高				
VI	中近世	24 土坑	55-41-G-2	楕円形	0.81m	1.08m	0.25m	N-88°-E	82 ~ 85	49	35
VI	古代～古墳時代	25 土坑	55-41-F-1・2	楕円形	0.86m	1.14m	0.32m	N-61°-E	314・315	235	35
VI	古代～古墳時代	26 土坑	55-31・41-G-20・1	楕円形	0.70m	計測不能	0.34m	N-53°-E	314・315	235	-
VI	古代～古墳時代	27 土坑	55-31-G-20	隅丸方形	0.78m	0.78m	0.51m	N-54°-E	314・315	235	179
VI	古代～古墳時代	28 土坑	55-41-H・I-17	不整楕円形	0.89m	1.31m	0.13m	N-58°-W	314・315	235	179
VI	古代～古墳時代	29 土坑	55-41-G-6	円形	0.84m	0.97m	0.21m	N-19°-W	314・315	235	179
VI	古代～古墳時代	30 土坑	55-41-G-5	不整楕円形	0.84m	1.30m	0.26m	N-15°-W	314・315	235	179
VI	古代～古墳時代	31 土坑	55-41-F-5	円形	0.43m	0.99m	0.67m	N-57°-E	314・315	235	179
VI	古代～古墳時代	32 土坑	55-41-E-4	円形	0.54m	0.59m	0.34m	N-23°-E	314・315	235	179
VI	古代～古墳時代	33 土坑	55-41-E-3	不整楕円形	0.66m	0.77m	0.07m	N-42°-W	314・315	235	179
VI	古代～古墳時代	34 土坑	55-41-D-3	楕円形	0.47m	0.66m	0.34m	N-32°-W	314・315	235	180
VI	古代～古墳時代	35 土坑	55-41-D-2	楕円形	0.54m	0.70m	0.0.43m	N-28°-W	314・315	236	180
VI	古代～古墳時代	36 土坑	55-41-G-1	楕円形	0.49m	0.60m	0.28m	N-42°-E	314 ~ 317	236	180
VI	古代～古墳時代	37 土坑	55-41-G-1	円形	0.58m	0.59m	0.15m	N-42°-W	314 ~ 317	236	180
VI	古代～古墳時代	38 土坑	55-41-F-1	楕円形	0.69m	0.83m	0.26m	N-64°-E	314 ~ 317	236	180
VI	古代～古墳時代	39 土坑	55-41-H-12	不整円形	0.66m	0.68m	0.30m	N-38°-W	314 ~ 317	236	180
VI	古代～古墳時代	40 土坑	55-41-G・H-12	隅丸方形	0.76m	0.84m	0.25m	N-27°-W	314 ~ 317	236	180
VI	古代～古墳時代	41 土坑	55-41-G-12	不整円形	0.72m	2.48m	0.59m	N-76°-W	314 ~ 317	236	180
VI	古代～古墳時代	42 土坑	55-41-H-8	不整隅丸長方形	0.71m	1.68m	0.21m	N-30°-E	314 ~ 317	236	180・181
VI	古代～古墳時代	43 土坑	55-31-F-19・20	楕円形	1.06m	1.33m	0.75m	N-57°-E	314 ~ 317	237	181
VI	古代～古墳時代	44 土坑	55-31-F-20	円形	1.19m	1.26m	0.46m	N-55°-E	314 ~ 317	237	181
VI	古代～古墳時代	45 土坑	55-41-G・H-1	不整円形	0.60m	0.77m	0.25m	N-41°-E	314 ~ 317	236	181
VI	古代～古墳時代	46 土坑	55-41-H-1・2	楕円形	0.97m	1.68m	0.35m	N-87°-E	314 ~ 317	236	181
VI	古代～古墳時代	47 土坑	55-41-I-2	隅丸三角形	0.52m	0.89m	0.31m	N-36°-W	314 ~ 317	237	181
VI	古代～古墳時代	48 土坑	55-41-I-1	不整楕円形	1.39m	1.84m	0.26m	N-60°-E	314 ~ 320	237	181
VI	古代～古墳時代	49 土坑	55-41-H・I-1	楕円形	0.60m	0.83m	0.07m	N-61°-E	314 ~ 320	237	181
VI	古代～古墳時代	50 土坑	55-31-G-19・20	不整円形	0.69m	0.73m	0.46m	N-39°-E	314 ~ 320	237	181
VI	古代～古墳時代	51 土坑	55-31-G-19・20	楕円形	0.42m	0.56m	0.31m	N-42°-E	314 ~ 320	237	182
VI	古代～古墳時代	52 土坑	55-41-H-1	不整円形	0.58m	計測不能	0.18m	N-60°-E	314 ~ 320	237	182
VI	古代～古墳時代	53 土坑	55-41-H・I-13	楕円形	0.57m	0.76m	0.27m	N-16°-W	314 ~ 320	237	182
VI	古代～古墳時代	54 土坑	55-41-F・G-8・9	不整楕円形	0.69m	2.27m	0.23m	N-17°-E	314 ~ 320	237	182
VII	中近世	1 土坑	55-51-H-17	楕円形	0.52m	0.74m	0.74m	N-20°-W	91	55	39
VII	中近世	2 土坑	55-51-G・H-5	楕円形	0.98m	1.19m	0.43m	N-12°-W	91	55	39
VIII	中近世	1 土坑	55-51-K・L-19	円形	0.97m	0.99m	0.31m	N-9°-E	94	57	42
VIII	中近世	2 土坑	55-51-H・I-16	楕円形	0.46m	0.62m	0.27m	N-80°-E	94	57	42
VIII	中近世	3 土坑	55-51-I-17	楕円形	0.52m	0.68m	0.32m	N-64°-E	94	57	42
VIII	中近世	4 土坑	55-51-G-16	楕円形	1.00m	1.09m	0.20m	N-53°-E	94	57	42
VIII	中近世	5 土坑	55-51-G-16	隅丸長方形	0.73m	0.93m以上	0.23m	N-4°-E	94	57	42
VIII	中近世	6 土坑	55-51-H-18・19	円形	0.86m	0.99m	0.51m	N-74°-E	94	57	42
VIII	中近世	7 土坑	55-51-G-19	楕円形	0.93m	1.03m	0.39m	N-24°-E	94	57	42
VIII	中近世	8 土坑	55-61-G-1	隅丸長方形	0.72m	1.08m	0.77m	N-18°-E	94	57	43
VIII	中近世	9 土坑	55-61-G・H-1	楕円形	0.68m	1.04m	0.38m	N-19°-E	94	57	43
VIII	中近世	10 土坑	55-61-G・H-1	不整円形	1.03m	1.43m	0.52m	N-45°-E	94 ~ 96	57	43
VIII	中近世	11 土坑	55-61-H-1	隅丸方形	1.08m	1.49m	0.26m	N-15°-E	96	57	43
VIII	古代～古墳時代	12 土坑	55-61-L-15	楕円形か	0.65m	計測不能	0.29m	N-80°-W	337	251	196
IX	中近世	1 土坑	55-71-K-14	楕円形	0.73m	0.86m	0.17m	N-28°-W	98	59	45
IX	中近世	2 土坑	55-71-J-14	楕円形	0.74m	1.48m	0.22m	N-4°-E	98	59	45
IX	中近世	3 土坑	55-71-K-14・15	楕円形	0.62m	1.09m	0.37m	N-66°-E	98	59	45
IX	中近世	4 土坑	55-71-M-13・14	楕円形	0.70m	0.97m	0.23m	N-26°-W	98	59	45
IX	中近世	5 土坑	55-71-M-13・14	不整円形	0.95m	1.12m	0.58m	N-38°-W	98	59	45
IX	中近世	6 土坑	55-71-M-14	円形	0.60m	0.61m	0.36m	N-10°-E	98	59	45
IX	中近世	7 土坑	55-71-M-14	楕円形	0.33m	0.42m	0.07m	N-36°-W	98	59	45
IX	中近世	8 土坑	55-71-L-1・14	楕円形	1.17m	1.82m	0.54m	N-47°-W	98	59	45
IX	中近世	9 土坑	55-71-K-11	不整円形	0.60m	0.67m	0.21m	N-45°-W	98	59	45・46
IX	中近世	10 土坑	55-71-K-9・10	楕円形	0.66m	0.91m	0.15m	N-68°-E	98	60	46
IX	中近世	11 土坑	55-71-K-7	楕円形	1.14m	1.42m	0.40m	N-64°-W	98	60	46
IX	中近世	12 土坑	55-71-M-3	楕円形	0.58m	0.69m	0.28m	N-4°-E	98	60	46
IX	中近世	13 土坑	55-71-L・M-1	楕円形	0.59m	0.50m以上	0.26m	計測不能	98	60	46
IX	中近世	14 土坑	55-71-L・M-1	円形	1.03m	1.07m	0.13m	N-8°-E	98	60	46
IX	中近世	15 土坑	55-71-J-9・10	楕円形	0.48m	0.72m	0.16m	N-2°-W	98	60	46
IX	中近世	16 土坑	55-71-J-9	不整楕円形	0.71m	0.98m	0.12m	N-84°-E	98	60	46
IX	中近世	17 土坑	55-71-J-4	楕円形	0.57m	0.80m	0.17m	N-7°-W	98・99	60	46
IX	中近世	18 土坑	55-61-L-18	不整楕円形	0.43m	0.69m	0.26m	N-50°-E	98・99	60	46・47
IX	中近世	19 土坑	55-71-M-13	楕円形	0.92m	1.04m	0.49m	N-20°-W	98・99	60	47
IX	中近世	20 土坑	55-71-N-13	不整楕円形	0.93m	1.23m	0.37m	N-8°-E	98・99	60	47
IX	中近世	21 土坑	55-71-N-13	円形	0.59m	0.64m	0.35m	N-12°-W	98・99	60	47
IX	中近世	22 土坑	55-71-N-13・14	円形	0.78m	0.84m	0.27m	N-69°-E	98・99	60	47
IX	中近世	23 土坑	55-71-L-16	楕円形	0.56m	0.88m	0.28m	N-44°-W	98・99	60	47
IX	古代～古墳時代	24 土坑	55-71-J-16	楕円形	0.31m	0.45m	0.21m	N-71°-W	343	258	203
IX	古代～古墳時代	25 土坑	55-71-O-14	楕円形	計測不能	0.63m	0.13m	N-23°-W	343	258	203
IX	古代～古墳時代	26 土坑	55-71-O-14	楕円形	0.55m	0.79m	0.05m	N-44°-W	343	258	203
IX	古代～古墳時代	27 土坑	55-71-O-14	円形	0.59m	0.62m	0.06m	N-8°-E	343	258	203
IX	古代～古墳時代	28 土坑	55-71-O-14	不整楕円形	0.79m	1.08m	0.17m	N-31°-W	343 ~ 346	258	203
IX	古代～古墳時代	29 土坑	55-71-O-14	不整楕円形	0.71m	0.93m	0.12m	N-19°-E	343 ~ 346	258	203
IX	古代～古墳時代	30 土坑	55-71-N・O-14	楕円形	0.64m	0.77m	0.15m	N-45°-E	343 ~ 346	258	203・204
IX	古代～古墳時代	31 土坑	55-71-N-14	隅丸長方形	0.71m	1.18m	0.29m	N-11°-W	343 ~ 346	258	204
IX	古代～古墳時代	32 土坑	55-71-M-14	楕円形	計測不能	0.75m	0.30m	N-32°-W	343 ~ 346	258	204
IX	古代～古墳時代	33 土坑	55-71-O-13	不整楕円形	0.63m	0.79m	0.25m	N-46°-W	343 ~ 346	258	204
IX	古代～古墳時代	34 土坑	55-71-M-13	楕円形	0.66m	0.79m	0.40m	N-19°-W	343 ~ 346	258	204
IX	古代～古墳時代	35 土坑	55-71-L-13	不整円形	0.67m	0.79m	0.23m	N-48°-E	343 ~ 346	258	204

遺構一覧表

区 細分	面	遺構名称	グリッド	平面形	規模			長軸方位	本文	挿図	写真図版
					短軸	長軸	残存壁高				
IX	古代～古墳時代	36 土坑	55-71-K-13	楕円形	0.63m	0.85m	0.20m	N-69°-E	343～346	258	204
IX	古代～古墳時代	37 土坑	55-71-I-14・15	楕円形	0.38m	0.41m以上	0.67m	N-45°-W	343～346	258	204

5. ピット

区 細分	面	遺構名称	グリッド	形態	規模			長軸方位	本文	挿図	写真図版
					短軸	長軸	残存壁高				
I 北	古代～古墳時代	1 ピット	45-91-M-7	楕円形	0.24m	0.30m	0.36m	N-48°-E	209	116	106
I 北	古代～古墳時代	2 ピット	45-91-M-7	楕円形	0.31m	0.45m	0.56m	N-22°-E	209～213	152	106
I 北	古代～古墳時代	3 ピット	45-91-M-8・9	楕円形	0.17m	0.22m	0.15m	N-44°-W	209	-	106
I 北	古代～古墳時代	4 ピット	45-91-M-7	円形	0.19m	計測不能	0.16m	N-0°-E	209	-	106
I 中央	古代洪水層関連	5 ピット	45-81-H-18	楕円形	0.32m	0.41m	0.25m	N-39°-E	166		
II 北	中近世	1 ピット	45-91-L-13	円形	0.36m	0.40m	0.19m	N-78°-W	38・39	18	9
II 北	中近世	2 ピット	45-91-K-18	円形	0.40m	0.52m	0.18m	N-27°-E	38・39	18	9
II 北	中近世	3 ピット	45-91-L・M-11	円形	0.29m	0.56m	0.12m	N-67°-E	38・39	18	9
II 北	中近世	4 ピット	45-91-L-12	円形	計測不能	0.10m	0.07m	計測不能	38・39	18	9
II 南	中近世	5 ピット	55-1-B-5	楕円形	0.29m	0.44m	0.15m	N-29°-E	38・39	18	9
II 南	中近世	6 ピット	55-1-C-3	楕円形	0.31m	0.34m	0.17m	N-47°-W	38・39	18	9
II 南	中近世	7 ピット	45-91-D-15	楕円形	0.20m	0.34m	0.18m	N-34°-E	38・39	18	9
II 北	中近世	8 ピット	55-1-K-8	楕円形	0.21m	0.25m	0.25m	N-63°-E	38・39	18	-
II 中央	中近世	9 ピット	45-91-F-17	楕円形	0.30m	0.36m	0.14m	N-23°-W	38・39	18	-
II 中央	中近世	10 ピット	45-91-E-17	円形	0.38m	0.38m	0.17m	-	38・39	18	-
II 中央	中近世	11 ピット	45-91-G-18	楕円形	0.22m	0.32m	0.08m	N-80°-E	38・39	18	-
II 中央	中近世	12 ピット	45-91-G-19	楕円形	0.30m	0.38m	0.09m	N-40°-W	38・39	18	9
II 中央	中近世	13 ピット	55-1-F-4	方形	0.45m	0.50m	0.38m	N-90°-E	38・39	18	9
II 中央	中近世	14 ピット	55-1-H-8・9	円形	0.50m	0.55m	0.11m	N-40°-W	38・39	18	9
II 中央	中近世	15 ピット	55-1-H-6	楕円形	0.33m	0.41m	0.06m	N-21°-W	38・39	18	9
III 北	中近世	1 ピット	55-11-L-4	円形	0.36m	0.44m	0.25m	N-66°-W	48	25	-
III 北	中近世	2 ピット	55-11-L-2	円形	0.30m	0.37m	0.33m	N-35°-E	48	25	-
III 北	中近世	3 ピット	55-11-L-1	円形	0.33m	0.35m	0.37m	N-69°-E	48	25	15
III 北	中近世	4 ピット	55-1-M-19	円形	0.25m	0.25m	0.17m	-	48	25	-
III 南	中近世	5 ピット	55-1-C-12	楕円形	0.14m	0.16m	0.12m	N-20°-W	48	25	-
III 北	古代洪水層関連	6 ピット	55-1-K-11	楕円形か	0.35m	計測不能	計測不能	計測不能	188	134	-
III 南	古代洪水層関連	7 ピット	55-1-D-16	円形	0.30m	0.34m	?	N-50°-E	188	134	-
III 南	古代～古墳時代	8 ピット	55-11-E-4	楕円形	0.33m	0.47m	0.16m	N-8°-E	250	184	134
III 北	古代～古墳時代	9 ピット	55-1-M-13	円形	0.26m	0.26m	0.12m	N-0°-E	250	184	134
III 北	古代～古墳時代	10 ピット	55-1-M-14	楕円形	0.32m	0.52m	0.20m	N-28°-W	250	184	134
III 北	古代～古墳時代	11 ピット	55-1-L-13	楕円形	0.34m	0.39m	0.16m	N-46°-W	250	184	134
III 北	古代～古墳時代	12 ピット	55-11-L-3	楕円形	0.22m	0.26m	0.35m	N-37°-W	250	184	134
III 北	古代～古墳時代	13 ピット	55-11-M-5	円形	0.34m	0.39m	0.14m	N-35°-E	250	184	134
III 北	古代～古墳時代	14 ピット	55-11-M-4	楕円形	0.34m	0.43m	0.55m	N-46°-W	250	184	134
III 北	古代～古墳時代	15 ピット	55-11-M-4	2号掘立柱建物P4							
III 北	古代～古墳時代	16 ピット	55-1-K-20	3号掘立柱建物P9							
III 北	古代～古墳時代	17 ピット	55-1-L-20	3号掘立柱建物P1							
III 北	古代～古墳時代	18 ピット	55-11-L-1	3号掘立柱建物P7							
III 北	古代～古墳時代	19 ピット	55-11-K-1	円形	0.34m	0.37m	0.17m	N-38°-E	250	184	134
III 北	古代～古墳時代	20 ピット	55-11-K-1	円形	0.25m	0.28m	0.20m	N-80°-E	250	184	134
III 北	古代～古墳時代	21 ピット	55-11-K-1	楕円形	0.39m	0.55m	0.15m	N-84°-W	250	184	134
III 北	古代～古墳時代	22 ピット	55-11-M-4	2号掘立柱建物P2							
III 北	古代～古墳時代	23 ピット	55-11-L-2	楕円形	0.25m	0.36m	0.18m	N-65°-E	250	184	134
III 北	古代～古墳時代	24 ピット	55-11-K-2	楕円形	0.38m	0.42m	0.20m	N-37°-E	250	184	134
III 北	古代～古墳時代	25 ピット	55-11-K-2	円形	0.31m	0.33m	0.40m	N-51°-W	250	184	134
III 北	古代～古墳時代	26 ピット	55-11-L-2	楕円形	計測不能	0.69m	0.22m	N-44°-E	250	184	134
III 北	古代～古墳時代	27 ピット	55-11-L-2	楕円形	0.63m	計測不能	0.29m	N-55°-W	250	184	134
III 北	古代～古墳時代	28 ピット	55-1-K-20	3号掘立柱建物P2							
III 北	古代～古墳時代	29 ピット	55-1-K-20	円形	0.22m	0.26m	0.12m	N-47°-E	250	184	134
III 北	古代～古墳時代	30 ピット	55-11-M-5	2号掘立柱建物P1							
III 北	古代～古墳時代	31 ピット	55-1-K・L-18	円形	0.31m	0.34m	0.39m	N-22°-W	250	184	134
III 北	古代～古墳時代	32 ピット	55-11-K-1	3号掘立柱建物P6							
III 北	古代～古墳時代	33 ピット	55-1-L-18	4号掘立柱建物P1							
III 北	古代～古墳時代	34 ピット	55-1-L-18	4号掘立柱建物P2							
III 北	古代～古墳時代	35 ピット	55-1-K-18	4号掘立柱建物P4							
III 北	古代～古墳時代	36 ピット	55-1-K-18	4号掘立柱建物P3							
III 北	古代～古墳時代	37 ピット	55-1-K-18	円形か	計測不能	0.37m	0.36m	計測不能	250	184	-
III 北	古代～古墳時代	38 ピット	55-11-L-2	円形	0.23m	0.25m	0.17m	N-32°-E	250	184	134
III 北	古代～古墳時代	39 ピット	55-11-L-2	楕円形	0.16m	0.19m	0.18m	N-10°-W	250	184	134
III 北	古代～古墳時代	40 ピット	55-11-M-7	楕円形	0.31m	0.39m	0.35m	N-2°-W	250	184	134
III 北	古代～古墳時代	41 ピット	55-11-M-7	5号掘立柱建物P5							
III 北	古代～古墳時代	42 ピット	55-11-M-7・8	5号掘立柱建物P4							
III 北	古代～古墳時代	43 ピット	55-11-M-7	楕円形	0.37m	0.47m	0.51m	N-47°-W	250	184	134
III 北	古代～古墳時代	44 ピット	55-11-M-8	5号掘立柱建物P3							
III 北	古代～古墳時代	45 ピット	55-11-M-7	5号掘立柱建物P6							
III 北	古代～古墳時代	46 ピット	55-11-M-7・8	5号掘立柱建物P11							
III 北	古代～古墳時代	47 ピット	55-11-M-8	5号掘立柱建物P2							
III 北	古代～古墳時代	48 ピット	55-11-L-9	5号掘立柱建物P1							
III 北	古代～古墳時代	49 ピット	55-11-L-7	5号掘立柱建物P7							
III 北	古代～古墳時代	50 ピット	55-11-L-8	5号掘立柱建物P8							
III 北	古代～古墳時代	51 ピット	55-11-L-8	5号掘立柱建物P9							
III 北	古代～古墳時代	52 ピット	55-11-L-8	5号掘立柱建物P10							
III 北	古代～古墳時代	53 ピット	55-11-L-9	1号柱穴列P3							
III 北	古代～古墳時代	54 ピット	55-11-K-10	1号柱穴列P2							
III 北	古代～古墳時代	55 ピット	55-11-K-10	1号柱穴列P1							

5. ピット

区 細分	面	遺構名称	グリッド	形態	規模			長軸方位	本文	挿図	写真図版
					短軸	長軸	残存壁高				
Ⅲ北	古代～古墳時代	56ピット	55-11-L-9	1号柱穴列P4							
Ⅲ北	古代～古墳時代	57ピット	55-1-K-15	円形	0.42m	0.47m	0.45m	N-40°-W	250	185	135
Ⅲ北	古代～古墳時代	58ピット	55-11-M-2	円形	0.22m	0.28m	0.18m	N-22°-E	250	185	135
Ⅲ北	古代～古墳時代	59ピット	55-11-M-4	楕円形	0.20m	0.26m	0.15m	N-68°-W	250	185	135
Ⅲ北	古代～古墳時代	60ピット	55-11-M-3	楕円形	0.21m	0.32m	0.27m	N-42°-E	250	185	135
Ⅲ北	古代～古墳時代	61ピット	55-11-K-1	3号掘立柱建物P5							
Ⅲ北	古代～古墳時代	62ピット	55-1-K-20	3号掘立柱建物P3							
Ⅲ北	古代～古墳時代	63ピット	55-11-L-1	円形	0.41m	0.45m	0.29m	N-42°-E	250	185	135
Ⅲ北	古代～古墳時代	64ピット	55-1-K-16・17	楕円形	0.20m	0.26m	0.10m	N-42°-E	250	185	135
Ⅲ北	古代～古墳時代	65ピット	55-1-L-17	楕円形	0.17m	0.26m	0.40m	N-72°-W	250	185	135
Ⅲ北	古代～古墳時代	66ピット	55-1-K-17	円形	0.27m	0.30m	0.38m	N-26°-W	250	185	135
Ⅲ北	古代～古墳時代	67ピット	55-1-K-17	円形	0.19m	0.22m	0.21m	N-19°-E	250	185	135
Ⅲ北	古代～古墳時代	68ピット	55-1-L-17	楕円形	0.11m	0.19m	0.21m	N-54°-E	250	185	135
Ⅲ北	古代～古墳時代	69ピット	55-11-L-3	楕円形	0.37m	0.36m	0.27m	N-44°-E	254	185	135
Ⅲ北	古代～古墳時代	70ピット	55-11-K-1	円形	0.31m	0.31m	0.10m	N-0°-E	250	185	136
Ⅲ北	古代～古墳時代	71ピット	55-11-K-2	円形	計測不能	0.22m	0.40m	計測不能	250	185	136
Ⅲ北	古代～古墳時代	72ピット	55-11-K-1	楕円形	0.19m	0.23m	0.08m	N-34°-E	250	185	136
Ⅲ北	古代～古墳時代	73ピット	55-1-L-20	3号掘立柱建物P8							
Ⅲ北	古代～古墳時代	74ピット	55-1-K-20	3号掘立柱建物P4							
Ⅲ北	古代～古墳時代	75ピット	55-11-M-9	楕円形	0.23m	0.29m	0.07m	N-49°-E	250	185	136
Ⅲ北	古代～古墳時代	76ピット	55-11-K-3	楕円形	0.53m	0.79m	0.20m	N-50°-W	250	185	136
Ⅲ北	古代～古墳時代	77ピット	55-1-L-17	円形	0.26m	0.29m	0.27m	N-8°-W	250	185	136
Ⅲ北	古代～古墳時代	78ピット	55-1-L-18	円形	0.17m	0.20m	0.11m	N-72°-E	250	185	136
Ⅲ北	古代～古墳時代	79ピット	55-1-L-18	円形	0.13m	0.15m	0.32m	N-58°-W	250	185	136
Ⅲ北	古代～古墳時代	80ピット	55-1-L-17	円形	0.20m	0.20m	0.18m	N-0°-E	250	185	136
Ⅲ北	古代～古墳時代	81ピット	55-11-L-2	楕円形	0.24m	0.34m	0.34m	N-19°-E	250	185	136
Ⅲ北	古代～古墳時代	82ピット	55-11-M-6	円形	0.53m	0.58m	0.44m	N-21°-E	250	185	-
Ⅲ北	古代～古墳時代	83ピット	55-1-M-16	楕円形	0.17m	199m	0.15m	N-57°-W	250	185	136
Ⅲ北	古代～古墳時代	84ピット	55-1-L・M-17	円形	0.38m	0.39m	0.41m	N-23°-W	250	185	136
Ⅲ南	中近世	85ピット	55-1-C-12	楕円形	0.18m	0.26m	0.34m	N-70°-W	48	25	-
Ⅲ中央	中近世	86ピット	55-1-I-18	円形	0.33m	0.41m	0.35m	N-56°-W	48	25	15
Ⅲ中央	中近世	87ピット	55-1-I-19	楕円形	0.26m	0.32m	0.07m	N-48°-E	48	25	15
Ⅲ中央	中近世	88ピット	55-1-I-18	円形	0.24m	0.28m	0.17m	N-20°-E	48	25	15
Ⅲ中央	古代洪水層関連	89ピット	55-1-G-17	楕円形	0.72m	0.92m	0.23m	N-22°-W	188～190	134	97
Ⅲ中央	古代洪水層関連	90ピット	55-1-G-17	楕円形	0.33m	0.43m	0.24m	N-4°-W	188～190	134	97
Ⅲ中央	古代洪水層関連	91ピット	55-1-G-17・18	楕円形	0.40m	0.52m	0.27m	N-36°-E	188～190	134	97
Ⅲ中央	古代洪水層関連	92ピット	55-1-I-18	楕円形	0.32m	0.36m	0.10m	N-26°-E	188～190	134	97
Ⅲ中央	古代洪水層関連	93ピット	55-1-J-19	楕円形	0.29m	0.32m	0.15m	N-7°-E	188～190	134	97
Ⅲ中央	古代洪水層関連	94ピット	55-1-J-19	楕円形か	0.29m	計測不能	0.18m	N-0°-E	188～190	134	97
Ⅲ中央	古代洪水層関連	95ピット	55-1-I-18	円形	0.56m	0.68m	0.26m	N-84°-E	188～190	134	97
Ⅲ中央	古代洪水層関連	96ピット	55-1-J-20	円形か	0.50m	計測不能	0.10m	計測不能	188～190	134	-
Ⅲ中央	古代洪水層関連	97ピット	55-1-I-20	楕円形	0.38m	0.41m	0.19m	N-26°-E	188～190	134	97
Ⅲ中央	古代～古墳時代	98ピット	55-11-I-1	楕円形	0.44m	0.48m	0.34m	N-43°-W	250～254	186	136
Ⅲ中央	古代洪水層関連	99ピット	55-11-J-1	楕円形	0.49m	0.68m	0.27m	N-41°-W	188～190	134	97
Ⅲ中央	古代～古墳時代	100ピット	55-11-J-1	楕円形	0.62m	0.73m	0.28m	N-34°-W	250～254	186	136
Ⅲ中央	古代洪水層関連	101ピット	55-1-H-19	楕円形	0.28m	0.34m	0.16m	N-71°-E	188～190	134	97
Ⅲ中央	古代洪水層関連	102ピット	55-1-H-20	楕円形	0.28m	0.39m	0.07m	N-38°-E	188～190	134	98
Ⅲ中央	古代洪水層関連	103ピット	55-1-G-20	円形	0.64m	0.65m	0.06m	N-51°-E	188～190	134	98
Ⅲ中央	古代洪水層関連	104ピット	55-1-G-20	楕円形	0.52m	0.63m	0.02m	N-33°-W	188～190	134	98
Ⅲ中央	古代～古墳時代	105ピット	55-11-I-3	方形	0.17m	0.18m	0.16m	N-4°-W	250～254	186	137
Ⅲ中央	古代～古墳時代	106ピット	55-11-I-4	方形	0.18m	0.22m	0.24m	N-42°-E	250～254	186	137
Ⅲ中央	古代～古墳時代	107ピット	55-11-I-4	不整形円形	0.27m	0.31m	0.44m	N-50°-W	250～254	186	137
Ⅲ中央	古代～古墳時代	108ピット	55-11-I-4	楕円形	0.29m	0.35m	0.40m	N-27°-E	250～254	186	137
Ⅲ中央	古代～古墳時代	109ピット	55-11-H・I-4	隅丸方形	0.189m	0.19m	0.28m	N-70°-W	250～254	186	137
Ⅲ中央	古代～古墳時代	110ピット	55-11-H-4	楕円形	0.26m	0.31m	0.73m	N-37°-W	250～254	186	137
Ⅲ中央	古代～古墳時代	111ピット	55-11-J-2	円形	0.48m	0.52m	0.19m	N-14°-W	250～254	186	137
Ⅲ中央	古代～古墳時代	112ピット	55-11-J-1	楕円形	0.37m	0.45m	0.36m	N-49°-E	250～254	186	137
Ⅲ中央	古代～古墳時代	113ピット	55-1-J-20	楕円形	0.39m	0.42m	0.30m	N-21°-W	250～254	186	137
Ⅲ中央	古代～古墳時代	114ピット	55-11-J-1	楕円形	0.36m	0.48m	0.16m	N-75°-E	250～254	186	137
Ⅲ中央	古代～古墳時代	115ピット	55-1-I-20	楕円形	0.32m	0.35m	0.15m	N-28°-E	250～254	186	137
Ⅲ中央	古代～古墳時代	116ピット	55-1-I-20	楕円形	0.37m	0.46m	0.23m	N-33°-E	250～254	186	137
Ⅲ中央	古代～古墳時代	117ピット	55-1-I-20	円形	0.42m	0.45m	0.45m	N-47°-E	250～254	186	137
Ⅲ中央	古代～古墳時代	118ピット	55-11-I-2	楕円形	0.47m	0.54m	0.14m	N-82°-W	250～254	186	137
Ⅲ中央	古代～古墳時代	119ピット	55-11-H・I-1	楕円形	0.38m	0.43m	0.18m	N-8°-W	250～254	186	137
Ⅲ中央	古代～古墳時代	120ピット	55-1-I-20	楕円形	0.20m	0.21m	0.11m	N-12°-W	250～254	186	-
Ⅲ中央	古代～古墳時代	9号住居P1	55-1-K-20	円形	0.39m	0.44m	0.75m	N-61°-W	227	168・169	116・117
Ⅲ中央	古代～古墳時代	9号住居P2	55-11-J-1	楕円形	0.42m	0.43m	0.48m	N-57°-E	227	168・169	116・117
Ⅲ中央	古代～古墳時代	9号住居P3	55-11-M-5	楕円形	0.40m	0.47m	0.68m	N-62°-W	227	168・169	116・117
Ⅲ中央	古代～古墳時代	9号住居P4	55-11-I-1	楕円形	0.36m	0.39m	0.64m	N-29°-E	227	168・169	116・117
Ⅳ南	中近世	1ピット	55-11-E-18	楕円形	0.41m	0.54m	0.26m	N-64°-E	64	34	24
Ⅳ南	中近世	2ピット	55-11-E-17	楕円形	0.35m	0.47m	0.17m	N-76°-E	64	34	24
Ⅳ南		3ピット	欠番								
Ⅳ南	古代～古墳時代	4ピット	55-11-G-20	不整形円形	0.30m	計測不能	0.48m	N-18°-W	268	198	145
Ⅳ南	古代～古墳時代	5ピット	55-21-E・F-2	楕円形	0.24m	0.46m	0.17m	N-53°-W	268	198	145
Ⅳ南	古代～古墳時代	6ピット	55-21-E-2	楕円形	0.39m	計測不能	0.12m	N-49°-W	268	198	145
Ⅳ南	古代～古墳時代	7ピット	55-21-E-2	楕円形	0.33m	計測不能	0.06m	N-49°-W	268	198	145
Ⅳ南	古代～古墳時代	8ピット	55-21-E-1・2	不整形円形	0.38m	1.07m	0.09m	N-81°-E	268	198	146
Ⅳ南	古代～古墳時代	10ピット	55-21-G-3	楕円形	0.24m	0.55m	0.03m	N-16°-W	268	198	146
Ⅳ南	古代～古墳時代	12ピット	55-11-E-19	円形	0.27m	0.31m	0.15m	N-61°-E	268	198	146
Ⅳ南	古代～古墳時代	13ピット	55-11-E-18	楕円形	0.27m	0.31m	0.08m	N-8°-W	268	198	146

遺構一覧表

区 細分	面	遺構名称	グリッド	形態	規模			長軸方位	本文	挿図	写真図版
					短軸	長軸	残存壁高				
IV 南	古代～古墳時代	14 ビット	55-21-D-1	円形	0.43m	0.48m	0.10m	N-71°-W	268	198	146
IV 南	古代～古墳時代	15 ビット	55-11-F-20	円形	0.36m	0.38m	0.27m	N-23°-W	268	198	146
IV 南	古代～古墳時代	16 ビット	55-11-F-20	楕円形	0.33m	0.54m	0.22m	N-37°-E	268	198	146
IV 南	古代～古墳時代	17 ビット	55-11-E-18	方形	0.27m	0.27m	0.15m		268	198	146
IV 南	古代～古墳時代	18 ビット	55-11-E-16	楕円形	0.25m	0.34m	0.06m	N-55°-W	268	198	146
IV 南	古代～古墳時代	19 ビット	55-11-F-16	楕円形	0.31m	0.38m	0.09m	N-23°-E	268	198	146
IV 南	古代～古墳時代	20 ビット	55-11-D-15・16	楕円形	0.23m	0.42m	0.12m	N-42°-W	268	198	146
IV 南	古代～古墳時代	21 ビット	55-11-D-19	円形	0.24m	0.26m	0.15m	N-18°-W	268	198	146
IV 南	古代～古墳時代	22 ビット	55-11-E-19	不整形円形	0.56m	0.97m	0.06m	N-71°-W	268	198	146
IV 南	古代～古墳時代	23 ビット	55-11-D-17	楕円形	0.15m	0.19m	0.18m	N-59°-W	268	198	146
IV 北	古代～古墳時代	24 ビット	55-21-D-10	楕円形	0.25m	0.42m	0.18m	N-68°-E	268	198	146
IV 北	古代～古墳時代	25 ビット	55-21-N-11	楕円形	0.26m	0.39m	0.23m	N-78°-W	268	198	147
IV 北	古代～古墳時代	26 ビット	55-21-M-11	円形	0.48m	0.51m	0.18m	N-55°-W	268	198	147
IV 北	古代～古墳時代	27 ビット	55-21-M-11	1号掘立柱建物P5							
IV 北	古代～古墳時代	28 ビット	55-21-M-11	円形	0.31m	0.34m	0.07m	N-66°-W	268	198	147
IV 北	古代～古墳時代	29 ビット	55-21-M-10・11	円形	0.47m	0.49m	0.15m	N-49°-E	268	198	147
IV 北	古代～古墳時代	30 ビット	55-21-M-11	楕円形	0.36m	0.43m	0.42m	N-38°-E	268	199	147
IV 北	古代～古墳時代	31 ビット	55-21-M-10	円形	0.38m	0.41m	0.14m	N-34°-E	268	199	147
IV 北	古代～古墳時代	32 ビット	55-21-N-10	楕円形	0.29m	0.31m	0.05m	N-42°-W	268	199	147
IV 北	古代～古墳時代	33 ビット	55-21-M・N-10	楕円形	0.28m	0.34m	0.11m	N-85°-W	268	199	147
IV 北	古代～古墳時代	34 ビット	55-21-M-10	楕円形	0.32m	0.41m	0.15m	N-47°-E	268	199	147
IV 北	古代～古墳時代	37 ビット	55-21-N-11	1号掘立柱建物P1							
IV 北	古代～古墳時代	38 ビット	55-21-M-11	1号掘立柱建物P6							
IV 北	古代～古墳時代	39 ビット	55-21-N-11	1号掘立柱建物P2							
IV 北	古代～古墳時代	40 ビット	55-21-N-11	1号掘立柱建物P3							
IV 北	古代～古墳時代	41 ビット	55-21-M-10・11	1号掘立柱建物P4							
IV 北	古代～古墳時代	42 ビット	55-21-M-10	円形	0.23m	0.24m	0.20m	N-57°-E	268	198	147
IV 北	古代～古墳時代	43 ビット	55-21-M-11	楕円形	0.22m	0.28m	0.23m	N-11°-E	268	199	147
IV 北	古代～古墳時代	94 ビット	55-21-P・Q-23	円形	0.24m	0.27m	0.20m	N-65°-W	268	199	147
IV 北	古代～古墳時代	95 ビット	55-21-P・Q-24	不整形円形	0.28m	0.36m	0.14m	N-82°-W	268	199	147
V 南	古代～古墳時代	9 ビット	55-21-C-13	方形	0.24m	0.30m	0.07m	N-33°-E	288	214	163
V 南	古代～古墳時代	11 ビット	55-21-F-17	楕円形	0.26m	0.42m	0.20m	N-13°-E	288	214	163
V 北	古代～古墳時代	35 ビット	55-21-L・M-14	不整形円形	0.41m	0.48m	0.20m	N-23°-W	288・289	214	163
V 北	古代～古墳時代	36 ビット	55-21-L・M-14	不整形円形	計測不能	計測不能	0.15m	計測不能	288・289	214	163
V 北	古代～古墳時代	44 ビット	55-21-N-16	円形	0.49m	0.39m以上	0.44m	N-0°-E	288・289	214	-
V 北	古代～古墳時代	45 ビット	55-21-0-13	楕円形	0.37m	0.59m	0.35m	N-22°-E	288・289	210	158
V 北	古代～古墳時代	46 ビット	55-21-N・0-13	楕円形	0.27m	0.34m	0.51m	N-74°-W	288・289	210	158
V 北	古代～古墳時代	47 ビット	55-21-0-12	楕円形	0.38m	0.50m	0.35m	N-70°-E	288・289	210	158
V 北	古代～古墳時代	48 ビット	55-21-P-13	円形	0.22m	0.23m	0.08m	N-24°-E	288・289	214	163
V 北	古代～古墳時代	49 ビット	55-21-P-14	円形	0.30m	0.32m	0.21m	N-38°-E	288・289	214	163
V 北	古代～古墳時代	50 ビット	55-21-0-14	楕円形	0.20m	0.25m	0.24m	N-58°-W	288・289	214	163
V 北	古代～古墳時代	51 ビット	55-21-0-15	方形	0.28m	0.30m	0.26m	N-68°-W	288・289	214	163
V 北	古代～古墳時代	52 ビット	55-21-0-15	楕円形	0.45m	0.52m	0.53m	N-81°-W	288・289	214	163
V 北	古代～古墳時代	53 ビット	55-21-0-15	円形	0.32m	0.32m	0.36m	N-0°-E	288・289	214	163
V 北	古代～古墳時代	54 ビット	55-21-0-15	円形	0.44m	0.45m	0.42m	N-22°-W	288・289	214	163
V 北	古代～古墳時代	55 ビット	55-21-0-15	円形	0.34m	0.40m	0.39m	N-53°-E	288・289	214	163
V 北	古代～古墳時代	56 ビット	55-21-0・P-15	楕円形	0.34m	0.41m	0.39m	N-40°-E	288・289	214	163
V 北	古代～古墳時代	57 ビット	55-21-P-15	楕円形	0.30m	0.36m	0.15m	N-41°-W	288・289	214	163
V 北	古代～古墳時代	58 ビット	55-21-P-14	楕円形	0.31m	0.38m	0.33m	N-11°-W	288・289	214	163
V 北	古代～古墳時代	59 ビット	55-21-P-14	楕円形	0.59m	0.84m	0.39m	N-78°-E	288・289	214	163・164
V 北	古代～古墳時代	60 ビット	55-21-P-14	楕円形	0.36m	0.42m	0.42m	N-42°-E	288・289	214	164
V 北	古代～古墳時代	61 ビット	55-21-Q・R-14	円形	0.42m	0.46m	0.61m	N-54°-E	288・289	214	164
V 北	古代～古墳時代	62 ビット	55-21-P-14	円形	0.28m	0.29m	0.26m	N-42°-E	288・289	215	164
V 北	古代～古墳時代	63 ビット	55-21-P-14	楕円形	0.37m	0.42m	0.23m	N-56°-E	288・289	215	164
V 北	古代～古墳時代	64 ビット	55-21-P-13	円形	0.27m	0.29m	0.21m	N-42°-E	288・289	215	164
V 北	古代～古墳時代	65 ビット	55-21-P-13	楕円形	0.40m	0.45m	0.30m	N-46°-E	288・289	215	164
V 北	古代～古墳時代	66 ビット	55-21-0-13	円形	0.23m	0.26m	0.12m	N-15°-E	288・289	210	158
V 北	古代～古墳時代	67 ビット	55-21-0-13・14	楕円形	0.32m	0.34m	0.50m	N-13°-E	288・289	215	164
V 北	古代～古墳時代	68 ビット	55-21-0-14	円形	0.23m	0.23m	0.19m	N-0°-E	288・289	215	164
V 北	古代～古墳時代	69 ビット	55-21-0-15	円形	0.23m	計測不能	0.15m	N-0°-E	288・289	215	164
V 北	古代～古墳時代	70 ビット	55-21-0-15	楕円形	0.15m	0.20m	0.14m	N-83°-W	288・289	215	164
V 北	古代～古墳時代	71 ビット	55-21-N-13	楕円形	0.47m	0.58m	0.19m	N-31°-W	288・289	210	158
V 北	古代～古墳時代	72 ビット	55-21-N-13	円形	0.33m	0.35m	0.25m	N-72°-E	288・289	210	158
V 北	古代～古墳時代	73 ビット	55-21-N-12	円形	0.37m	0.41m	0.13m	N-50°-W	288・289	215	158
V 北	古代～古墳時代	74 ビット	55-21-N-12	円形	0.54m	0.58m	0.22m	N-5°-W	288・289	215	164
V 北	古代～古墳時代	75 ビット	55-21-N-12	円形	0.36m	0.40m	0.23m	N-18°-W	288・289	215	164
V 北	古代～古墳時代	76 ビット	55-21-N-12	円形	0.40m	0.45m	0.24m	N-15°-E	288・289	215	164
V 北	古代～古墳時代	77 ビット	55-21-L-17	楕円形	0.20m	0.23m	0.19m	N-15°-E	288・289	215	164
V 北	古代～古墳時代	78 ビット	55-21-L-17	円形	0.31m	0.32m	0.31m	N-13°-W	288・289	215	164
V 北	古代～古墳時代	79 ビット	55-21-L-17	円形	0.25m	0.29m	0.25m	N-38°-E	288・289	215	165
V 北	古代～古墳時代	80 ビット	55-21-M-17	円形	0.36m	0.37m	0.16m	N-22°-W	288・289	215	165
V 北	古代～古墳時代	81 ビット	55-21-I-15	楕円形	0.29m	0.61m	0.58m	N-55°-E	288・289	215	165
V 北	古代～古墳時代	82 ビット	55-21-N-16	楕円形	0.23m	0.24m	0.26m	N-84°-W	288・289	215	165
V 北	古代～古墳時代	83 ビット	55-21-0-13	円形	0.29m	0.31m	0.42m	N-46°-E	288・289	215	165
V 北	古代～古墳時代	84 ビット	55-21-N-15	円形	0.16m	0.17m	0.12m	N-81°-W	288・289	215	165
V 北	古代～古墳時代	85 ビット	55-21-P・Q-14	楕円形か	0.48m	計測不能	0.11m	計測不能	288・289	216	162・165
V 北	古代～古墳時代	86 ビット	55-21-P・Q-14	円形か	0.25m	計測不能	0.30m	計測不能	288・289	216	165
V 北	古代～古墳時代	87 ビット	55-21-P・Q-14	楕円形か	0.32m	計測不能	0.19m	計測不能	288・289	216	165
V 北	古代～古墳時代	88 ビット	55-21-P・Q-14	楕円形か	計測不能	計測不能	0.30m	計測不能	288・289	216	165
V 北	古代～古墳時代	89 ビット	55-21-N-13	楕円形	0.55m	0.83m	0.28m	N-20°-W	288・289	210	159

5. ピット

区 細分	面	遺構名称	グリッド	形態	規模			長軸方位	本文	挿図	写真図版
					短軸	長軸	残存壁高				
V北	古代～古墳時代	90ピット	55-21-N-12・13	楕円形	0.32m	0.44m	0.24m	N-69°-E	288・289	210	-
V北	古代～古墳時代	91ピット	55-21-N-13	楕円形	0.31m	0.49m	0.33m	N-53°-E	288・289	210	158
V北	古代～古墳時代	92ピット	55-21-N・0-12・13	楕円形	0.28m	0.36m	0.31m	N-62°-E	288・289	210	158
V北	古代～古墳時代	93ピット	55-21-0-12・13	楕円形	0.23m	0.39m	0.46m	N-71°-E	288・289	210	159
V北	古代～古墳時代	96ピット	55-21-N-12	円形	0.23m	0.26m	0.11m	N-19°-E	288・289	210	159
V北	古代～古墳時代	97ピット	55-21-N-15	楕円形	0.18m	0.32m	0.10m	N-62°-E	288・289	216	165
V北	古代～古墳時代	98ピット	55-21-M-15	楕円形	0.26m	0.35m	0.33m	N-43°-E	288・289	216	165
V西	中近世	99ピット	55-31-H-2	隅丸方形	0.38m	0.64m	0.22m	N-5°-W	76	43	29
V西	中近世	100ピット	55-31-I-4	不整形円形	0.39m	0.49m	0.06m	N-56°-E	76	43	29
VI	中近世	1ピット	55-41-G-13	楕円形	0.41m	0.48m	0.30m	N-37°-E	85	49	35
VI	古代～古墳時代	2ピット	55-41-J-5	楕円形	0.43m	0.48m	0.14m	N-55°-W	320～326	238	182
VI	古代～古墳時代	3ピット	55-41-J-3	楕円形	0.46m	0.53m	0.14m	N-20°-E	320～326	238	182
VI	古代～古墳時代	4ピット	55-41-J-3	楕円形	0.34m	0.50m	0.26m	N-12°-W	320～326	238	182
VI	古代～古墳時代	5ピット	55-41-J-3	楕円形	0.37m	0.62m	0.16m	N-46°-E	320～326	238	182
VI	古代～古墳時代	6ピット	55-41-I-4	2号住居P5							
VI	古代～古墳時代	7ピット	55-41-I-4	2号住居P1							
VI	古代～古墳時代	8ピット	55-41-J-4	1号住居P5							
VI	古代～古墳時代	9ピット	55-41-J-4	1号住居P5							
VI	古代～古墳時代	10ピット	55-41-I-3	2号住居P6							
VI	古代～古墳時代	11ピット	55-41-I-4	不整形円形	0.50m	0.57m	0.07m	N-46°-W	320～326	238	-
VI	古代～古墳時代	12ピット	55-41-I-3	2号住居P2							
VI	古代～古墳時代	13ピット	55-41-H-3	2号住居P8							
VI	古代～古墳時代	14ピット	55-41-H-3	2号住居P4							
VI	古代～古墳時代	15ピット	55-41-H-3	2号住居P3							
VI	古代～古墳時代	16ピット	55-41-H-3	2号住居P7							
VI	古代～古墳時代	17ピット	55-41-N-6	楕円形	0.26m	0.42m	0.24m	N-54°-E	320～326	238	182
VI	古代～古墳時代	18ピット	55-41-N-6	楕円形	0.28m	0.38m	0.19m	N-56°-E	320～326	238	182
VI	古代～古墳時代	19ピット	55-41-N-6	楕円形	0.28m	0.38m	0.24m	N-69°-W	320～326	238	182
VI	古代～古墳時代	20ピット	55-41-N-6	不整形円形	0.32m	0.38m	0.22m	N-83°-W	320～326	238	182
VI	古代～古墳時代	21ピット	55-41-M-6	隅丸方形	0.25m	0.27m	0.26m	N-31°-W	320～326	238	-
VI	古代～古墳時代	22ピット	55-41-M-6	円形	0.27m	0.29m	0.22m	N-10°-W	320～326	239	-
VI	古代～古墳時代	23ピット	55-41-G-4	楕円形	0.28m	0.31m	0.30m	N-15°-E	320～326	239	-
VI	古代～古墳時代	24ピット	55-41-G-3	不整形円形	0.31m	0.45m	0.45m	N-3°-W	320～326	239	183
VI	古代～古墳時代	25ピット	55-41-H-2	楕円形	0.39m	0.57m	0.16m	N-19°-E	320～326	239	183
VI	古代～古墳時代	26ピット	55-41-M-5	1号掘立柱建物P6							
VI	古代～古墳時代	27ピット	55-41-M-4・5	1号掘立柱建物P1							
VI	古代～古墳時代	28ピット	55-41-L-6	円形	0.25m	0.29m	0.26m	N-10°-W	320～326	239	183
VI	古代～古墳時代	29ピット	55-41-M-4	1号掘立柱建物P2							
VI	古代～古墳時代	30ピット	55-41-G-5	不整形円形	0.30m	0.69m	0.34m	N-50°-W	320～326	239	183
VI	古代～古墳時代	31ピット	55-41-L-5	1号掘立柱建物P5							
VI	古代～古墳時代	32ピット	55-41-M-4	1号掘立柱建物P3							
VI	古代～古墳時代	33ピット	55-41-L-5	1号掘立柱建物P4							
VI	古代～古墳時代	34ピット	55-41-L-6	楕円形	0.22m	0.27m	0.24m	N-50°-E	320～326	239	183
VI	古代～古墳時代	35ピット	55-41-K-6	円形	0.23m	0.24m	0.13m	N-17°-W	320～326	239	183
VI	古代～古墳時代	36ピット	55-41-K-6	楕円形	0.22m	0.27m	0.11m	N-13°-E	320～326	239	183
VI	古代～古墳時代	37ピット	55-41-K-6	楕円形	0.42m	0.44m	0.14m	N-31°-E	320～326	239	183
VI	古代～古墳時代	38ピット	55-41-K-7	円形	0.31m	0.35m	0.31m	N-80°-E	320～326	239	183
VI	古代～古墳時代	39ピット	55-41-K-7	不整形円形	0.38m	0.44m	0.22m	N-7°-W	320～326	239	183
VI	古代～古墳時代	40ピット	55-41-K-7	不整形円形	0.27m	0.32m	0.27m	N-21°-W	320～326	239	183
VI	古代～古墳時代	41ピット	55-41-K-6	楕円形	0.31m	0.40m	0.32m	N-72°-W	320～326	239	183
VI	古代～古墳時代	42ピット	55-41-J・K-6	楕円形	0.29m	0.39m	0.43m	N-10°-W	320～326	239	183
VI	古代～古墳時代	43ピット	55-41-J-7	楕円形	0.25m	0.48m	0.21m	N-77°-E	320～326	239	-
VI	古代～古墳時代	44ピット	55-41-J-7	楕円形	0.37m	0.39m	0.09m	N-89°-E	320～326	239	-
VI	古代～古墳時代	45ピット	55-41-I-6	不整形円形	0.30m	0.41m	0.08m	N-45°-W	320～326	239	-
VI	古代～古墳時代	46ピット	55-41-I-6	楕円形	0.24m	0.32m	0.15m	N-10°-W	320～326	239	183
VI	古代～古墳時代	47ピット	55-41-I・J-6	不整形円形	0.23m	0.77m	0.24m	N-10°-E	320～326	239	183
VI	古代～古墳時代	48ピット	55-41-J-6	不整形円形	0.33m	0.72m	0.30m	N-3°-E	320～326	239	184
VI	古代～古墳時代	49ピット	55-41-H・I-17	不整形円形	0.28m	0.67m	0.52m	N-59°-W	320～326	240	184
VI	古代～古墳時代	50ピット	55-41-I-5・6	不整形円形	0.36m	0.70m	0.41m	N-50°-W	320～326	240	184
VI	古代～古墳時代	51ピット	55-41-H-16	不整形円形	0.48m	1.01m	0.61m	N-59°-W	320～326	240	184
VI	古代～古墳時代	52ピット	55-41-H-16	不整形円形	0.32m	0.62m	0.46m	N-50°-E	320～326	240	184
VI	古代～古墳時代	53ピット	55-41-H-6	楕円形	0.26m	0.45m	0.16m	N-40°-W	320～326	240	184
VI	古代～古墳時代	54ピット	55-41-G-5	不整形円形	0.25m	0.64m	0.27m	N-38°-W	320～326	240	-
VI	古代～古墳時代	55ピット	55-41-M-6	楕円形	0.32m	0.44m	0.30m	N-10°-E	320～326	240	184
VI	古代～古墳時代	56ピット	55-41-L・M-6	楕円形	0.44m	0.46m	0.50m	N-58°-W	320～326	240	184
VI	古代～古墳時代	57ピット	55-41-G-5	1号柱穴列P2							
VI	古代～古墳時代	58ピット	55-41-G-5	1号柱穴列P3							
VI	古代～古墳時代	59ピット	55-41-G-4・5	1号柱穴列P4							
VI	古代～古墳時代	60ピット	55-41-G-4	1号柱穴列P5							
VI	古代～古墳時代	61ピット	55-41-G-4	1号柱穴列P6							
VI	古代～古墳時代	62ピット	55-41-F-4	1号柱穴列P7							
VI	古代～古墳時代	63ピット	55-41-F-4	1号柱穴列P9							
VI	古代～古墳時代	64ピット	55-41-F-4	不整形円形	0.34m	1.17m	0.32m	N-46°-W	320～326	240	184
VI	古代～古墳時代	65ピット	55-41-F-4・5	楕円形	0.23m	0.27m	0.08m	N-38°-W	320～326	240	184
VI	古代～古墳時代	66ピット	55-41-F-4・5	不整形円形	0.30m	0.36m	0.34m	N-87°-W	320～326	240	184
VI	古代～古墳時代	67ピット	55-41-G-4	楕円形	0.24m	0.34m	0.12m	N-77°-W	320～326	240	184
VI	古代～古墳時代	68ピット	55-41-F・G-4	方形	0.21m	0.26m	0.10m	N-78°-E	320～326	240	-
VI	古代～古墳時代	69ピット	55-41-G-6	不整形円形	0.28m	0.28m	0.14m	N-49°-W	320～326	240	-
VI	古代～古墳時代	70ピット	55-41-D-1	不整形円形	0.24m	0.27m	0.21m	N-86°-E	320～326	240	184
VI	古代～古墳時代	71ピット	55-41-F-5	楕円形	0.26m	0.34m	0.25m	N-7°-E	320～326	240	184

遺構一覧表

区 細分	面	遺構名称	グリッド	形態	規模			長軸方位	本文	挿図	写真図版
					短軸	長軸	残存壁高				
VI	古代～古墳時代	72ピット	55-41-F-4	楕円形	0.26m	0.34m	0.10m	N-82°-W	320～326	240	184
VI	古代～古墳時代	73ピット	55-41-G-3	隅丸方形	0.25m	0.26m	0.21m	N-62°-W	320～326	240	185
VI	古代～古墳時代	74ピット	55-41-F-3	楕円形	0.43m	0.49m	0.21m	N-58°-W	320～326	240	185
VI	古代～古墳時代	75ピット	55-41-I-3	2号掘立柱建物P17							
VI	古代～古墳時代	76ピット	55-41-I-3	2号掘立柱建物P24							
VI	古代～古墳時代	77ピット	55-41-I-3	2号掘立柱建物P21							
VI	古代～古墳時代	78ピット	55-41-H-2・3	2号掘立柱建物P18							
VI	古代～古墳時代	79ピット	55-41-H・I-2・3	2号掘立柱建物P22							
VI	古代～古墳時代	80ピット	55-41-I-2	2号掘立柱建物P12							
VI	古代～古墳時代	81ピット	55-41-I-2	2号掘立柱建物P13							
VI	古代～古墳時代	82ピット	55-41-I-2	2号掘立柱建物P14							
VI	古代～古墳時代	83ピット	55-41-I-2	2号掘立柱建物P15							
VI	古代～古墳時代	84ピット	55-41-H-2	2号掘立柱建物P10							
VI	古代～古墳時代	85ピット	55-41-H-2	2号掘立柱建物P11							
VI	古代～古墳時代	86ピット	55-41-H-2	円形	0.38m	0.43m	0.64m	N-18°-E	320～326	240	185
VI	古代～古墳時代	87ピット	55-41-H-2	2号掘立柱建物P23							
VI	古代～古墳時代	88ピット	55-41-H-2	2号掘立柱建物P19							
VI	古代～古墳時代	89ピット	55-41-H-2	不整形円形	0.39m	0.48m	0.32m	N-60°-W	320～326	240	185
VI	古代～古墳時代	90ピット	55-41-H-2	不整形円形	0.37m	0.39m	0.31m	N-27°-W	320～326	241	185
VI	古代～古墳時代	91ピット	55-41-G-2	楕円形	0.39m	0.44m	0.24m	N-32°-E	320～326	241	185
VI	古代～古墳時代	92ピット	55-41-G-2	楕円形	0.36m	0.46m	0.29m	N-58°-E	320～326	241	185
VI	古代～古墳時代	93ピット	55-41-F-2	楕円形	0.22m	0.28m	0.13m	N-40°-E	320～326	241	185
VI	古代～古墳時代	94ピット	55-41-F-1・2	不整形円形	0.33m	0.37m	0.34m	N-22°-W	320～326	241	185
VI	古代～古墳時代	95ピット	55-41-F-2	不整形円形	0.35m	0.40m	0.33m	N-62°-E	320～326	241	185
VI	古代～古墳時代	96ピット	55-41-F-2	不整形円形	0.18m	0.23m	0.15m	N-13°-E	320～326	241	185
VI	古代～古墳時代	97ピット	55-41-F-1	3号掘立柱建物P7							
VI	古代～古墳時代	98ピット	55-41-F-1	楕円形	0.36m	0.52m	0.26m	N-28°-E	320～326	241	185
VI	古代～古墳時代	99ピット	55-31-G-20	3号掘立柱建物P1							
VI	古代～古墳時代	100ピット	55-41-F-1	楕円形	0.42m	0.45m	0.18m	N-10°-E	320～326	241	185
VI	古代～古墳時代	101ピット	55-41-E-1	不整形円形	0.29m	0.43m	0.21m	N-38°-E	320～326	241	185
VI	古代～古墳時代	102ピット	55-41-E-1	不整形円形	0.28m	0.30m	0.26m	N-77°-W	320～326	241	185
VI	古代～古墳時代	103ピット	55-41-E-1	楕円形	0.25m	0.48m	0.14m	N-50°-E	320～326	241	-
VI	古代～古墳時代	104ピット	55-41-E-1	隅丸方形	0.34m	0.44m	0.25m	N-22°-E	320～326	241	186
VI	古代～古墳時代	105ピット	55-31・41-F*20・1	楕円形	0.43m	0.58m	0.21m	N-80°-W	320～326	241	-
VI	古代～古墳時代	106ピット	55-31-F-20	3号掘立柱建物P6							
VI	古代～古墳時代	107ピット	55-41-E-1	楕円形	0.22m	0.43m	0.13m	N-40°-E	320～326	241	186
VI	古代～古墳時代	108ピット	55-41-G-11	楕円形	0.25m	0.28m	0.33m	N-0°-E	320～326	241	186
VI	古代～古墳時代	109ピット	55-41-G-11	楕円形	0.21m	0.25m	0.29m	N-82°-E	320～326	241	-
VI	古代～古墳時代	110ピット	55-41-G-11	不整形円形	0.33m	0.35m	0.27m	N-32°-W	320～326	241	186
VI	古代～古墳時代	111ピット	55-41-G-11	楕円形	0.19m	0.27m	0.37m	N-84°-E	320～326	241	186
VI	古代～古墳時代	112ピット	55-41-G-11	不整形円形	0.47m	0.56m	0.27m	N-65°-E	320～326	241	186
VI	古代～古墳時代	113ピット	55-41-G-12	楕円形	0.39m	0.49m	0.17m	N-87°-E	320～326	241	186
VI	古代～古墳時代	114ピット	55-41-G-12	不整形円形	0.36m	0.50m	0.27m	N-43°-E	320～326	241	186
VI	古代～古墳時代	115ピット	55-41-G-11	隅丸方形	0.28m	0.30m	0.09m	N-40°-E	320～326	242	186
VI	古代～古墳時代	116ピット	55-41-G-11	楕円形	0.33m	0.40m	0.18m	N-77°-E	320～326	242	186
VI	古代～古墳時代	117ピット	55-41-G-12	不整形円形	0.15m	0.55m	0.30m	N-48°-E	320～326	241	186
VI	古代～古墳時代	118ピット	欠番								
VI	古代～古墳時代	119ピット	55-41-E-1	楕円形	0.26m	0.37m	0.17m	N-27°-E	320～326	242	186
VI	古代～古墳時代	120ピット	55-41-E-1	楕円形	0.33m	0.48m	0.06m	N-24°-E	320～326	242	186
VI	古代～古墳時代	121ピット	55-41-E-1	隅丸方形	0.36m	0.36m	0.13m	N-12°-W	320～326	242	186
VI	古代～古墳時代	122ピット	55-41-D-1	不整形円形	0.25m	0.32m	0.14m	N-71°-W	320～326	242	186
VI	古代～古墳時代	123ピット	55-31-D-18・19	不整形円形	0.66m	0.85m	0.26m	N-61°-E	320～326	242	186
VI	古代～古墳時代	124ピット	55-31-C-18	楕円形か	0.54m	0.41m以上	0.14m	N-42°-W	320～326	242	186
VI	古代～古墳時代	125ピット	55-31-D-20	不整形円形	0.42m	0.49m	0.39m	N-48°-E	320～326	242	186
VI	古代～古墳時代	126ピット	55-31-D-20	不整形円形	0.24m	0.37m	0.13m	N-86°-W	320～326	242	187
VI	古代～古墳時代	127ピット	55-31-D-19・20	不整形円形	0.34m	0.41m	0.18m	N-31°-W	320～326	242	187
VI	古代～古墳時代	128ピット	55-31-D-19	不整形円形	0.41m	0.59m	0.09m	N-3°-W	320～326	242	-
VI	古代～古墳時代	129ピット	55-31-D-20	不整形円形	0.23m	0.33m	0.16m	N-30°-E	320～326	242	187
VI	古代～古墳時代	130ピット	55-31-D-20	楕円形	0.26m	0.33m	0.24m	N-44°-E	320～326	242	187
VI	古代～古墳時代	131ピット	55-31-D-20	不整形円形	0.26m	0.30m	0.16m	N-73°-W	320～326	242	187
VI	古代～古墳時代	132ピット	55-31-D-20	不整形円形	0.24m	0.27m	0.12m	N-16°-E	320～326	242	187
VI	古代～古墳時代	133ピット	55-31-D-20	不整形円形	0.42m	0.68m	0.34m	N-64°-E	320～326	242	187
VI	古代～古墳時代	134ピット	55-31-D-20	不整形円形	0.68m	1.10m	0.29m	N-55°-E	320～326	242	187
VI	古代～古墳時代	135ピット	55-31-D-20	不整形円形	0.30m	0.47m	0.06m	N-51°-W	320～326	242	-
VI	古代～古墳時代	136ピット	55-31-E-20	3号掘立柱建物P5							
VI	古代～古墳時代	137ピット	55-41-C・D-1	楕円形か	0.27m	計測不能	0.25m	計測不能	320～326	242	187
VI	古代～古墳時代	138ピット	55-31-E-19	不整形円形	0.23m	0.35m	0.18m	N-40°-E	320～326	242	187
VI	古代～古墳時代	139ピット	55-31-F-19	楕円形	0.39m	0.45m	0.25m	N-23°-W	320～326	242	187
VI	古代～古墳時代	140ピット	55-41-G-1	楕円形	0.33m	0.40m	0.32m	N-34°-E	320～326	243	187
VI	古代～古墳時代	141ピット	55-31・41-H-20・1	楕円形	0.36m	0.43m	0.12m	N-44°-W	320～326	243	187
VI	古代～古墳時代	142ピット	55-41-H-1	楕円形	0.42m	0.63m	0.16m	N-78°-E	320～326	243	187
VI	古代～古墳時代	143ピット	55-41-H-1	隅丸方形	0.32m	0.35m	0.11m	N-10°-E	320～326	243	187
VI	古代～古墳時代	144ピット	55-41-H-1	不整形円形	0.35m	0.50m	0.20m	N-31°-W	320～326	243	188
VI	古代～古墳時代	145ピット	55-41-H-2	不整形円形	0.28m	0.40m	0.11m	N-54°-W	320～326	243	188
VI	古代～古墳時代	146ピット	55-41-H-2	2号掘立柱建物P20							
VI	古代～古墳時代	147ピット	55-41-H-1	楕円形	0.40m	0.52m	0.52m	N-17°-W	320～326	243	188
VI	古代～古墳時代	148ピット	55-41-H・I-1	2号掘立柱建物P6							
VI	古代～古墳時代	149ピット	55-41-H・I-1	2号掘立柱建物P6							
VI	古代～古墳時代	150ピット	55-41-I-1	楕円形	0.24m	0.32m	0.07m	N-86°-W	320～326	243	188
VI	古代～古墳時代	151ピット	55-41-I-1	2号掘立柱建物P15							

区 細分	面	遺構名称	グリッド	形態	規模			長軸方位	本文	挿図	写真図版
					短軸	長軸	残存壁高				
VI	古代～古墳時代	152ピット	55-41-I-1	2号掘立柱建物P4							
VI	古代～古墳時代	153ピット	55-41-I-1	2号掘立柱建物P4							
VI	古代～古墳時代	154ピット	55-41-I-1	不整形円形	0.32m	0.32m	0.08m	-	320～326	243	188
VI	古代～古墳時代	155ピット	55-41-I-1	楕円形か	0.40m	0.41m以上	0.24m	N-16°-E	320～326	243	188
VI	古代～古墳時代	156ピット	55-41-I-2	楕円形	0.34m	0.44m	0.10m	N-60°-E	320～326	243	188
VI	古代～古墳時代	157ピット	55-41-I-1・2	2号掘立柱建物P5							
VI	古代～古墳時代	158ピット	55-41-I-1・2	2号掘立柱建物P3							
VI	古代～古墳時代	159ピット	55-41-I-2	2号掘立柱建物P6							
VI	古代～古墳時代	160ピット	55-41-I-2	2号掘立柱建物P2							
VI	古代～古墳時代	161ピット	55-41-I-J-2	2号掘立柱建物P1							
VI	古代～古墳時代	162ピット	55-41-J-1・2	楕円形	0.34m	0.43m	0.10m	N-82°-W	320～326	243	-
VI	古代～古墳時代	163ピット	55-41-J-2	楕円形	0.28m	0.29m	0.11m	N-36°-W	320～326	243	188
VI	古代～古墳時代	164ピット	55-41-J-2	不整形円形	0.29m	0.39m	0.18m	N-45°-W	320～326	243	188
VI	古代～古墳時代	165ピット	55-41-E-2	不整形円形	0.31m	0.31m	0.18m	-	320～326	243	188
VI	古代～古墳時代	166ピット	55-41-H-2	2号掘立柱建物P8							
VI	古代～古墳時代	167ピット	55-41-H-2	2号掘立柱建物P9							
VI	古代～古墳時代	168ピット	55-41-I-2	長楕円形・溝状	0.33m	0.78m以上	0.08m	N-23°-E	320～326	243	-
VI	古代～古墳時代	169ピット	55-41-I-2	楕円形	0.43m	0.60m	0.29m	N-26°-W	320～326	243	188
VI	古代～古墳時代	170ピット	55-41-J-2	不整形円形	0.24m	0.30m	0.11m	N-83°-E	320～326	243	188
VI	古代～古墳時代	171ピット	55-31-E-19	不整形円形	0.41m	0.52m	0.15m	N-30°-E	320～326	243	188
VI	古代～古墳時代	172ピット	55-31-F-20	3号掘立柱建物P4							
VI	古代～古墳時代	173ピット	55-31-F-20	3号掘立柱建物P2							
VI	古代～古墳時代	174ピット	55-41-H-2	不整形円形	0.37m	0.40m	0.13m	N-79°-W	320～326	243	188
VI	古代～古墳時代	175ピット	55-41-H-1・2	2号掘立柱建物P7							
VI	古代～古墳時代	176ピット	55-41-H-1	楕円形						243	188
VI	古代～古墳時代	177ピット	55-41-G-5	1号柱穴列P1							
VI	古代～古墳時代	178ピット	55-31-F-20	3号掘立柱建物P3							
VIII	古代～古墳時代	1ピット	55-61-H-10・11	円形	0.30m	0.30m	0.28m	-	337	251	196
VIII	古代～古墳時代	2ピット	55-61-L-7	円形	0.26m	0.30m	0.23m	N-80°-E	337	251	196
VIII	古代～古墳時代	3ピット	55-61-L-9	楕円形	0.26m	0.48m	0.14m	N-2°-W	337	251	196
IX	中世	1ピット列	55-71-J～M-2・3	不整形円形	0.25-0.5m	0.35-0.5m	0.01-0.11m	N-13°-E	143	98	47

6. 周溝墓

区 細分	面	遺構名称	グリッド	形態	規模			長軸方位	本文	挿図	写真図版
					墳丘長軸	墳丘短軸	周溝の残存壁高				
IV 南	古代～古墳時代	1 周溝墓	55-11-B-16～D-18	方形	8.90m	8.70m	0.36m	N-38°-W	270	200・201	148・149・221
IV 南	古代～古墳時代	2 周溝墓	55-11-E・F-19～1	方形	計測不能	計測不能	0.35m	N-5°-W	272	202	148・149

7. 堀

区 細分	面	遺構名称	グリッド	調査長	規模			走向	本文	挿図	写真図版
					最小幅	最大幅	残存壁高				
I 北	中近世	1 堀	45-91-B～L-6・7	17.12m	5.66m	6.30m	1.19m	N-5°-E	30	12・74	3・207
I 中央	中近世		45-91-E～K-6・7	27.0m	計測不能	計測不能	計測不能	N-8°-E			
I 南	中近世		45-91-B～D-7	10.3m	計測不能	計測不能	0.63m	N-9°-E			
III 南	中近世	蛭堀	55-11-B～E-6～10	21.80m	4.10m	5.30m	1.19m	N-34°-W	49	26・72	16・208
IV 北	中近世	蛭堀	55-11-L～N-12～14	18.33m	4.30m	6.30m	1.10m	N-20°-W	64・65	35・36・71	24・209
IV 中央	中近世		55-11-H～K-12～14	18.67m	4.30m	6.52m	1.11m	N-25°-W			

8. 溝

区 細分	面	遺構名称	グリッド	調査長	規模			走向	本文	挿図	写真図版
					最小幅	最大幅	残存壁高				
I 北	中近世	1 溝	45-91-L～N-5・6	10.05m	0.44m	0.72m	0.29m	N-8°-E	30	12・13・74	3
I 北	中近世	2 溝	45-91-K～N-5・6	11.48m	0.58m	0.80m	0.27m	N-6°-E	32	13・74	3
I 北	中近世	3 溝	45-91-K～N-5	11.30m	0.50m	0.76m	0.17m	N-7°-E	32	13・74	3
I 北	中近世	4 溝	45-91-K-5・6	3.68m	0.60m	1.50m	0.64m	N-7°-W	32	13・74	3・4
I 北	中近世	5 溝	45-91-K・L-1～4	18.80m	0.39m	0.82m	0.12m	N-82°-W	32	13・74	4
I 北	中近世	6 溝	45-91-K・L-1～5	17.36m	0.38m	0.50m	0.08m	N-82°-W	32	13・74	4
I 北	中近世	7 溝	45-81・91-K-20・1～5	23.30m	0.38m	0.70m	0.16m	N-82°-W	32	13・74	4
I 北	中近世	8 溝	45-91-K-2～4	9.34m	0.22m	0.38m	0.10m	N-83°-W	32	13・74	4
I 北			作図なし								
I 中央	中近世	9 溝	45-81-E～J-13	26.9m	0.60m	1.18m	0.36m	N-4°-E	32	13・74	4
I 南	中近世		45-81-B～D-13	7.00m	0.74m	1.00m	0.33m	N-5°-E			
I 北	中近世	10 溝	45-91-L・M-5	6.04m	0.23m	0.65m	0.03m	N-5°-E	32	13・74	4
I 北	中近世	11 溝	45-91-K-5	2.90m	0.34m	0.50m	0.11m	N-11°-W	32	13・74	3・4
I 中央	中近世		45-91-F～K-4・5	24.8m	0.10m	0.42m	0.07m	N-12°-W			
I 北	中近世	12 溝	45-91-K-5	1.70m	0.23m	0.34m	0.09m	N-75°-W	33	74	4
I 北	中近世	13 溝	45-91-L・M-3・4	11.40m	0.26m	0.80m	0.07m	N-30°-W	33	74	4
I 北	中近世	14 溝	45-91-M-2～4	7.48m	0.43m	1.03m	0.15m	N-76°-W	34	74	4
I 北	中近世	15 溝	45-91-L・M-3	8.35m	0.96m	1.24m	0.06m	N-8°-E	34	13・74	4
I 北	中近世	16 溝	45-91-K-3～5	13.00m	0.42m	1.02m	0.13m	N-81°-W		13・74	4
I 北	中近世	17 溝	45-91-K-2・3	8.84m	0.14m	0.44m	0.08m	N-82°-W		13・74	4
I 南	中世	18 溝	45-81-B～E-15～18	16.82m	0.38m	0.68m	0.02m	N-51°-W	118	75・110	50
I 南	中世	19 溝	45-81-91-B～D-20・1・2	16.10m	0.42m	0.60m	0.03m	N-55°-W	118	110	50
I 北	中近世	20 溝	45-91-K・L-3～5	10.00m	0.59m	0.89m	0.05m	N-77°-W		13・74	4
I 南	中近世	21 溝	45-91-C-2～5	14.00m	0.57m	0.64m	0.07m	N-86°-W	34	74	-
I 北	中近世		45-81-K～M-12・13	10.80m	0.90m	1.50m	0.17m	N-11°-W	213	155・268	107・216
I 中央	古代～古墳時代		45-81-E～J-11～13	25.6m	0.50m	1.00m	0.26m	N-9°-W			
I 南	中近世	22 溝	45-81-B-10～12	11.80m	0.90m	1.88m	0.15m	N-13°-W			
		23 溝	欠番								

遺構一覧表

区 細分	面	遺構名称	グリッド	調査長	規模			走向	本文	挿図	写真図版
					最小幅	最大幅	残存壁高				
I 中央 I 南	古代～古墳時代	24 溝	45-91-E~I-4・5	18.70m	0.15m	0.30m	0.16m	N-19°-W	213	155・268	108
			45-91-B~E-2・3	12.50m	0.24m	0.37m	0.26m	N-26°-E			
I 中央 I 南	古代～古墳時代	25 溝	45-91-E~J-2~4	24.65m	0.10m	0.23m	0.10m	N-25°-W	213	155・268	108
			45-91-B~E-1・2	11.30m	0.18m	0.24m	0.16m	N-11°-W			
I 中央 I 南	古代～古墳時代	26 溝	45-91-E~J-2~4	26.30m	0.92m	1.46m	0.23m	N-20°-W	213	155・268	108・109
			45-81・91-B~E-20・1	12.44m	1.30m	2.20m	0.24m	N-22°-W			
I 南	古代洪水層関連	27 溝	45-91-C~E-6・7	6.60m	0.88m	1.50m	0.17m	N-8°-E	156	150	75
I 南	古代洪水層関連	28 溝	45-91-B・C-6・7	4.00m	0.50m	2.00m	0.15m	N-10°-W	156	150	75
I 北	中近世	29 溝	45-91-K~N-7・8	17.21m	2.40m	3.00m	0.25m	N-4°-E	34	13・74	4
I 南	古代～古墳時代	30 溝	45-91-B・C-4	4.60m	0.20m	0.60m	0.04m	N-22°-W	215	156・268	109
I 南	古代～古墳時代	31 溝	45-91-B~D-3・4	9.28m	0.20m	0.94m	0.08m	N-26°-W	215	156・268	109
I 北	古代洪水層関連	32 溝	45-91-K・L-7・8	5.80m	0.64m	0.98m	0.15m	N-37°-W	156	111・149	75
I 北	古代洪水層関連	33 溝	45-91-L・M-7・8	4.80m	2.10m	2.79m	0.33m	N-63°-W	156	111・149	75
I 北	古代～古墳時代	34 溝	45-91-K~N-5・6	14.60m	0.68m	1.00m	0.17m	N-8°-E	215	111・151・268	110
								156		109・216	
I 北	古代～古墳時代	35 溝	45-91-M・N-5	5.04m	0.30m	0.40m	0.13m	N-8°-E	215	156・268	109
I 北	古代洪水層関連	36 溝	45-91-K~M-5・6	12.80m	0.90m	1.30m	0.20m	N-17°-E	156・216	151・157・268	110
			45-91-H~J-5・6	11.0m	0.90m	1.38m	0.24m	N-10°-E			
I 中央	古代～古墳時代	37 溝	45-91-K~M-3~5	16.40m	0.84m	3.30m	0.30m	N-39°-W	216	157・268	109・110
I 北	古代～古墳時代	38 溝	45-91-K~M-5・6	11.80m	0.58m	0.90m	0.26m	N-30°-E	216	156・157・268	109・110
I 北	古代～古墳時代	39 溝	45-91-K~M-7・8	16.56m	0.90m	1.60m	0.18m	N-9°-E	216	156・268	111・112・217
I 北	古代～古墳時代	40 溝	45-91-L~N-5・6	8.70m	0.76m	0.88m	0.16m	N-18°-E	215	157・268	109・110
I 北	古代～古墳時代	41 溝	45-91-K・L-5・6	4.40m	0.24m	0.43m	0.09m	N-28°-E	216	157・268	111
I 北	古代～古墳時代	42 溝	45-91-L・M-7・8	2.80m	2.00m	2.64m	0.25m	N-62°-W	219	156・268	111
I 北	古代～古墳時代	43 溝	45-91-M・N-5	4.00m	0.24m	0.50m	0.12m	N-10°-E	219	157・268	112
I 北	古代～古墳時代	44 溝	45-91-M・N-5	2.40m	0.37m	0.50m	0.09m	N-12°-E	219	157・268	112
I 北	古代～古墳時代	45 溝	45-91-M-5	1.30m	0.24m	0.30m	0.12m	N-17°-E	219	157・268	112
I 北	古代～古墳時代	46 溝	45-91-M-4	2.80m	0.20m	0.52m	0.01m	N-84°-W	219	161・268	112
I 中央	中近世	47 溝	45-91-I-1	4.65m	0.25m	0.34m	0.04m	N-6°-W	47	13・74	5
I 中央	中近世	48 溝	45-81-G-20, 91-G-1~3	18.05m	0.31m	0.47m	0.05m	N-71°-W	48	13・74	5
			45-91-G~I-5・6	9.65m	0.94m	1.90m	0.10m	N-10°-W	112・268	110	
I 中央	古代～古墳時代	49 溝						158・216	151・157		
									156・268	112	
I 中央	古代～古墳時代	50 溝	45-91-F・G-6	5.60m	0.42m	0.65m	0.10m	N-22°-E	219	156・268	112
I 中央	古代～古墳時代	51 溝	45-81-E~J-11~13	21.10m	0.50m	1.40m	0.11m	N-20°-W	219	156・268	112
I 中央	古代洪水層関連	52 溝	45-91-J-5・6	1.73m	0.29m	0.32m	0.06m	N-78°-W	158	111・151	76
I 中央	古代洪水層関連	53 溝	45-91-H-5・6	1.98m	0.18m	0.26m	0.06m	N-22°-E	158	111・151	76
I 中央	古代～古墳時代	54 溝	45-91-G・H-5	3.30m	0.16m	1.14m	0.09m	N-37°-W	219	268	76
I 中央	古代～古墳時代	55 溝	45-91-E-6・F-5・6	2.42m	0.12m	0.22m	0.05m	N-23°-E	220	156・268	113
II 北	中近世	1 溝	45-91-K~N-19	15.24m	0.57m	0.78m	0.13m	N-5°-E	40	19・73	10・207
II 中央	中近世		45-91-E-19~J-19	23.3m	1.00m	1.70m	0.24m	N-3°-E			
II 北	中世	2 溝	45-91-K~N-15~19	21.14m	1.23m	1.60m	0.07m	N-41°-W	121	78・109	53
II 中央	中世		45-91-E-11~J-5	31.70m	0.98m	1.38m	0.09m	N-43°-W			
II 北	中近世	3 溝	45-91-K~M-10~17	38.40m	0.30m	0.60m	0.15m	N-77°-E	40	19・73	10
II 北	中近世	4 溝	45-91-L-15・16	6.44m	0.18m	0.30m	0.02m	N-88°-E	40	73	10
II 北	中近世	5 溝	45-91-K-16	1.58m	0.18m	0.20m	0.04m	N-77°-W	40	73	10
II 北	中近世	6 溝	45-91-L・N-10・13	16.37m	0.18m	0.54m	0.01m	N-68°-W	40	73	10
II 北	中近世	7 溝	45-91-M-10~12	8.00m	0.17m	0.30m	0.03m	N-74°-W	41	73	10
II 北	中近世	8 溝	45-91-K・L-10~13	16.75m	0.18m	0.40m	0.02m	N-61°-E	42	73	10
II 北	中近世	9 溝	45-91-J~L-10・11	8.77m	0.30m	0.50m	0.08m	N-53°-E	42	73	10
II 北	中近世	10 溝	45-91-L~N-10・11	6.58m	0.83m	1.24m	0.11m	N-37°-E	42	19・73	10・207
II 南	中近世	11 溝	55-1-A~E-9	9.57m	0.60m	0.92m	0.14m	N-10°-W	42	73	-
II 南	中近世	12 溝	55-1-A~E-9	17.10m	0.80m	1.50m	0.16m	N-12°-W	42	73	-
II 南	中近世	13 溝	55-1-A~E-9	10.40m	0.48m	0.90m	0.27m	N-14°-W	42	73	-
II 南	古代洪水層関連	14 溝	55-1-A~C-9	8.10m	計測不能	計測不能	0.42m	N-5°-W	167	146	82
II 南	古代洪水層関連	15 溝	55-1-D・E-9	3.12m	計測不能	計測不能	0.13m	N-8°-W	167	146	82
II 北	古代洪水層関連	16 溝	55-1-K~N-8~9	14.0m	0.24m	0.50m	0.03m	N-18°-W	167	146	-
II 北	古代洪水層関連	17 溝	45-91-K~N-15~18	21.00m	0.44m	0.78m	0.06m	N-42°-W	168	118・148	82・83
II 中央	古代洪水層関連		45-91-E-11~J-15	31.70m	0.73m	1.14m	0.23m	N-41°-W			
II 南	古代洪水層関連	19 溝	45-91-D・E-10	1.83m	0.76m	0.86m	0.04m	N-32°-W	168	118・148	83
II 北	古代洪水層関連		45-91-M・N-10	2.04m	計測不能	計測不能	0.84m	N-45°-W			
II 中央	古代～古墳時代	20 溝	55-1-E-8~H-9	13.75m	0.15m	0.58m	0.04m	N-32°-W	225	165・267	115
II 南	古代～古墳時代		55-1-A~E-5~7	18.84m	0.17m	0.77m	0.05m	N-32°-W			
II 中央	中近世	21 溝	45-91-J-13~19	27.80m	0.50m	1.55m	0.38m	N-87°-W	42	19・73	10
II 中央	中近世	22 溝	45-91-G-20~I-3	11.30m	0.18m	0.49m	0.11m	N-30°-W	42	19・73	11
II 中央	中近世	23 溝	45-91-I-10~F-12	13.50m	0.15m	0.26m	0.07m	N-33°-E	42	19・73	11
II 中央	古代～古墳時代	24 溝	45-91-I-11~F-15	25.90m	0.22m	0.51m	0.08m	N-49°-E	220	165・267	83・84
II 中央	中近世	25 溝	55-1-I-8・9	7.30m	0.12m	0.35m	0.05m	N-82°-E	42	19・73	11
II 中央	中近世	26 溝	55-1-I-4~7	14.40m	0.17m	0.39m	0.14m	N-80°-W	42	19・73	11
II 中央	中近世	27 溝	55-1-F~I-2~4	17.50m	0.45m	1.20m	0.31m	N-35°-W	42	19・73	12・207
II 中央	中近世	28 溝	55-1-I~J-3・4	5.04m	0.14m	0.53m	0.05m	N-34°-W	42	19・73	12
III 南	中近世	1 溝	55-11-A~E-7~9	21.89m	1.16m	2.04m	0.31m	N-30°-W	51	26・27・72	16・208
III 中央	中近世	2 溝	55-11-E~J-8~11	22.41m	計測不能	計測不能	計測不能	N-28°-W	51	26・27・72	16・208
			55-11-A~E-6~9	21.97m	3.78m	4.40m	0.63m	N-23°-W			
III 南	中近世	3 溝	55-11-B-6・7	1.22m	0.62m	1.13m	0.35m	N-62°-E	51	28・72	17
III 南	中近世	4 溝	55-11-C・D-8・9	3.90m	0.21m	0.38m	0.17m	N-27°-W	51	28・72	17
III 北	中近世	5 溝	55-11-K~N-6・7	12.25m	0.62m	1.08m	0.20m	N-9°-W	51	28・72	17・18・208
III 中央	中近世		55-11-E~K-1~6	39.84m	0.58m	1.40m	0.23m	N-43°-W			
III 北	中近世	6 溝	55-11-K・L-20-1~7	35.40m	0.30m	1.00m	0.15m	N-86°-E	51	28・72	18
III 中央	中近世		55-11-F~K-4~8	30.20m	0.37m	0.92m	0.08m	弧状			
III 北	中近世	7 溝	55-11-K・L-5・6	4.63m	0.58m	0.62m	0.11m	N-85°-E	54	28・72	18

区 細分	面	遺構名称	グリッド	調査長	規模			走向	本文	挿図	写真図版				
					最小幅	最大幅	残存壁高								
Ⅲ北	中近世	8 溝	55-1-K・L-16~19	19.17m	0.40m	1.00m	0.12m	N-90°-E	54	28・72	18				
Ⅲ北	中近世	9 溝	55-1-K~M-12~14	5.18m	1.12m	1.23m	0.40m	N-25°-W	54	29・72	19				
Ⅲ北	中近世	10 溝	55-1-K~M-13・14	12.30m	0.99m	1.50m	0.44m	N-16°-W	54	29・72	19				
Ⅲ北	中近世	11 溝	55-1-K-13	2.56m	計測不能	計測不能	0.34m	N-16°-W	54	28・29・72	19・208				
Ⅲ北	中世	12 溝	55-1-K~M-13・14	6.60m	1.36m	1.40m	0.21m	N-7°-W	129	86・106	-				
Ⅲ中央	中世		55-1-H~J-13	20.25m	0.65m	1.30m	0.18m	N-11°-E							
Ⅲ南	中世		55-1-A~E-14・15	18.77m	0.94m	1.50m	0.21m	N-3°-W							
Ⅲ北	中近世	13 溝	55-1-K~M-11	11.90m	0.40m	0.70m	0.19m	N-3°-W	54	28・72	19				
Ⅲ南	中近世	14 溝	55-1-C~E-11・12	10.37m	0.57m	1.00m	0.11m	N-43°-W	54	28・72	-				
Ⅲ北	中世	15 溝	55-11-M・N-10	2.76m	0.39m	0.58m	0.04m	N-39°-E	130	86・106	61・62				
Ⅲ北	中世	16 溝	55-11-K~N-9・10	13.40m	0.38m	0.43m	0.09m	N-13°-E	130	86・106	61・62				
Ⅲ北	中近世	17 溝	55-1-L・M-13・14	5.12m	0.54m	0.80m	0.33m	N-23°-W	54	29・72	19				
Ⅲ北	中近世	18 溝	55-1-L・M-13	7.34m	0.78m	0.97m	0.28m	N-7°-W	54	29・72	-				
Ⅲ北	中近世	19 溝	55-1-K~M-12・13	12.50m	0.22m	0.41m	0.11m	N-10°-W	54	29・72	19				
Ⅲ北	中近世	20 溝	55-1-K~M-12・13	10.80m	0.24m	0.50m	0.06m	N-9°-W	54	29・72	19				
Ⅲ北	中近世	21 溝	55-1-K・L-17~19	10.24m	0.50m	0.80m	0.07m	N-89°-E	54	28・72	18				
Ⅲ		22 溝	欠番												
Ⅲ北	中近世	23 溝	55-1-L・M-13	4.05m	0.15m	0.39m	0.01m	N-12°-W	54	28・72	-				
Ⅲ北	中近世	24 溝	55-1-L-13	0.80m	0.44m	0.50m	0.08m	N-77°-E	54	29・72	-				
Ⅲ北	古代洪水層関連	25 溝	55-1-K・L-10~13	12.84m	0.24m	0.58m	0.16m	N-71°-W	190	135・146	98				
Ⅲ北	古代洪水層関連	26 溝	55-1-L-12・13	2.56m	0.30m	0.40m	0.09m	N-68°-W	190	135・146	98				
Ⅲ北	古代洪水層関連	27 溝	55-1-K・L-12	2.00m	0.22m	0.28m	0.07m	N-70°-W	190	135・146	98				
Ⅲ北	古代洪水層関連	28 溝	55-1-K~M-13・14	12.44m	1.98m	3.95m	0.30m	N-11°-W	190	135・138・146	98~100・214				
Ⅲ中央	古代洪水層関連		55-1-F~J-13~15	19.41m	2.80m	3.50m	0.57m	N-13°-E							
Ⅲ南	古代洪水層関連		55-1-A~E-14・15	18.97m	2.24m	3.60m	0.49m	N-4°-W							
Ⅲ北	古代洪水層関連	29 溝	55-1-L・M-14~19	24.78m	2.02m	3.04m	0.39m	N-83°-E	194	135・139・140 ・146	98~101・214・ 215				
Ⅲ北	古代洪水層関連		55-1・11L-19・20・1	8.00m	1.03m	1.80m	0.11m	N-83°-W							
Ⅲ北	古代洪水層関連	30 溝	55-1-L・M-18~20	6.08m	5.05m	6.60m	0.16m	N-1°-W	197	135・146	-				
Ⅲ北	古代洪水層関連	31 溝	55-1-K-14・15	6.84m	0.57m	1.38m	0.11m	計測不能	197	141・146	215				
Ⅲ北	古代~古墳時代	33 溝	55-11-K~M-5~7	11.70m	0.17m	0.54m	0.14m	N-40°-E	254	187・188・266	138・220				
Ⅲ中央	古代~古墳時代		55-11-I~K-6~9	22.00m	0.35m	0.77m	0.12m	N-47°-E							
Ⅲ北	古代~古墳時代	34 溝	55-1・11K~M- 14~20・1~4	51.70m	0.35m	1.06m	0.29m	N-78°-W	256	189・190・266	139・220				
Ⅲ北	古代洪水層関連	35 溝	55-1-K~M-11~13	13.6m	0.14m	0.58m	0.07m	N-27°-W	197	147	101				
Ⅲ中央	中近世	36 溝	55-1-I・J-11・12	4.05m	0.45m	0.72m	0.12m	N-29°-W	54	28・72	19				
Ⅲ中央	中近世	37 溝	55-1-I・J-11・12	8.90m	3.40m	0.74m	0.28m	N-27°-W	54	28・72	19				
Ⅲ中央	中近世	38 溝	55-1-G~J-19	17.80m	0.62m	1.30m	0.22m	N-4°-W	54	72	19				
Ⅲ中央	中近世	39 溝	55-1-G~J-20	18.98m	0.64m	1.20m	0.14m	N-5°-W	54	72	19				
Ⅲ中央	中近世	40 溝	55-11-G~I-6~10	14.96m	0.44m	1.26m	0.12m	N-43°-E	54	28・72	19				
Ⅲ中央	中近世	41 溝	55-11-G-8・9	4.72m	0.57m	0.75m	計測不能	N-75°-E	54	72	-				
Ⅲ中央	中近世	42 溝	55-11-F・G-9	5.77m	0.26m	0.80m	計測不能	N-45°-E	54	28・72	208				
Ⅲ中央	中世	43 溝	55-1-J-11	2.0m	計測不能	計測不能	0.09m	N-10°-W	130	86・106	-				
Ⅳ北	中近世	1 溝	55-11-L-19~21-N-2	23.0m	0.60m	1.20m	0.28m	計測不能	67	37・38・71	25・209・210				
Ⅳ中央	中近世		55-11-E-17~11-K-18	28.70m	0.70m	1.56m	0.57m	N-15°-W							
Ⅳ南	中近世		55-11-C~F-12~17	35.40m	1.80m	2.90m	0.69m	計測不能							
Ⅳ南	中近世	18 溝	55-11-B・C-15	8.04m	1.23m	2.70m	0.84m	N-14°-W	67	71	25				
Ⅳ南	中近世	2 溝	55-11・21-C~G- 12~20・1~14	71.2m	1.28m	3.19m	0.69m	N-90°-E	70	37・38・71	25				
Ⅳ中央	中近世		55-11E~H-12~17	24.60m	0.89m	1.28m	0.40m	N-73°-E							
Ⅳ北	中近世	8 溝	55-11-L~N-17~1	12.35m	0.15m	0.23m	0.09m	N-47°-E	70	71	26				
Ⅳ中央	中近世		55-21-I~K-1~3	16.8m	0.15m	0.20m	計測不能	N-45°-E							
Ⅳ南	中近世		55-21-D~H-4~9	26.70m	0.30m	1.16m	0.07m	N-44°-E							
Ⅳ南	中近世	9 溝	55-21-C~H-6・7	25.00m	0.28m	0.66m	0.07m	N-7°-E	70	37・71	-				
Ⅳ北	中近世	10 溝	55-11-L~N-15~19	12.00m	0.20m	0.60m	0.06m	N-50°-E	70	71	26				
Ⅳ中央	中近世		55-11-I~K-19・1・2	24.40m	0.26m	0.45m	0.10m	N-50°-E							
Ⅳ南	中近世		55-21-F~H-3~6	15.40m	0.20m	0.78m	0.04m	N-51°-E							
Ⅳ北	中近世	11 溝	55-11-L~N-15~19	21.5m	0.15m	0.32m	0.04m	N-50°-E	70	71	26				
Ⅳ中央	中近世		55-11-L~O-19・20	21.8m	0.15m	0.35m	計測不能	N-50~55°-E							
Ⅳ南	中近世	12 溝	55-21-H・I-4	3.00m	0.39m	0.43m	0.02m	N-46°-E	70	71	26				
Ⅳ南	中近世		55-21-F・G-5	2.60m	0.38m	0.40m	0.09m	N-42°-E							
Ⅳ南	中近世		55-21-D-8	4.77m	0.20m	0.40m	0.03m	N-48°-E							
Ⅳ南	中近世		55-21-E・F-7	1.43m	0.28m	0.36m	0.07m	N-38°-E							
Ⅳ南	中近世		55-21-E・F-9	2.08m	0.38m	0.58m	0.03m	N-9°-E							
ⅣV南	古代~古墳時代		16 溝	55-21-B~D-10~18	20.70m	0.20m	1.10m	0.15m				N-73°-W	273	203・265	150
Ⅳ南北	古代~古墳時代		17 溝	55-21-C~K-8・9	19.50m	0.60m	0.59m	0.18m				N-4°-E	273	203・265	150
Ⅳ南北	古代~古墳時代		18 溝	55-21-C~P-7~12	72.50m	0.13m	0.70m	0.06m				N-10°-W	273	203・265	150・151
Ⅳ南北	古代~古墳時代		19 溝	55-21-C~P-7~12	62.0m	0.10m	1.10m	0.45m				N-25°-W	273	203・265	150・151
Ⅳ南北	古代~古墳時代		20 溝	55-21-C~I-3~6	43.30m	0.28m	0.45m	0.06m				N-40°-W	275	203・265	152
Ⅳ南	古代~古墳時代		21 溝	55-11・21-E-G-20・1・2	14.5m	0.19m	0.48m	0.05m				N-60°-E	275	265	152
Ⅳ南	古代~古墳時代		22 溝	55-21-F-2	4.50m	0.23m	0.40m	0.04m				N-51°-W	275	265	152
Ⅳ南	古代~古墳時代	24 溝	55-11-D・E-12~14	8.83m	0.89m	1.56m	0.09m	N-42°-E	275	203・265	152・153				
Ⅳ南	古代~古墳時代	25 溝	55-11-E・F-18	2.54m	0.95m	1.07m	0.14m	N-27°-E	275	203・265	153				
Ⅳ南	古代~古墳時代	26 溝	55-11-C~E-18~20	10.90m	0.28m	0.67m	0.09m	N-72°-E	275	203・265	153				
Ⅳ南	古代~古墳時代	27 溝	55-11-C・D-18・19	4.10m	0.35m	0.69m	0.08m	N-24°-W	276	203・265	153				
Ⅳ南	古代~古墳時代	28 溝	55-11-D・E-18・19	3.05m	0.42m	0.75m	0.04m	N-40°-E	276	203・265	154				
Ⅳ南	古代~古墳時代	29 溝	55-11-F-17・18	2.01m	0.78m	1.83m	0.20m	N-39°-E	276	203・265	154				
Ⅳ南	古代~古墳時代	30 溝	55-11-E-12・13	3.94m	0.37m	0.98m	0.06m	N-34°-E	276	203・265	154				
Ⅳ北	古代~古墳時代	36 溝	55-21-J~L-6~11	31.00m	0.24m	1.40m	0.09m	N-70°-E	276	265	154				
Ⅳ北	古代~古墳時代	40 溝	55-11-M~O-17~19	11.60m	0.28m	0.38m	0.23m	N-57°-E	276	265	154				
Ⅳ中央	中近世	43 溝	55-11-G~K-17~19	24.00m	0.26m	0.72m	0.18m	N-16°-W	70	37・71	25				
Ⅳ		44 溝	欠番												

遺構一覧表

区 細分	面	遺構名称	グリッド	調査長	規模			走向	本文	挿図	写真図版
					最小幅	最大幅	残存壁高				
IV 北	中近世	45 溝	55-11-K~L-13	9.55m	0.88m	1.04m	0.13m	N-30°-W	67	36・71	24
IV 中央	中近世		55-11-J~K-12・13	6.45m	0.46m	0.85m	0.45m	N-32°-W			
IV 北	中近世	46 溝	55-11-K~N-12・13	16.80m	0.45m	0.50m	0.10m	N-26°-W	67	36・71	24
IV 中央	中近世		55-11-J・K-12	5.26m	0.39m	0.51m	0.46m	N-29°-W			
IV 北	中近世	47 溝	55-11-K~N-12~14	17.45m	0.85m以上	1.95m以上	0.42m	N-28°-W	67	36・71	24
IV 中央	中近世		55-11-J・K-12	4.54m	0.69m以上	1.05m以上	不明?	N-23°-W			
IV 北	中近世	48 溝	55-11-K・L-13	5.40m	0.60m	0.85m	0.07m	N-28°-W	67	36・71	24
IV 中央	中近世		55-11-J・K-12・13	8.38m	0.94m	1.45m	0.36m	N-33°-W			
IV 中央	中近世	49 溝	55-11-I~K-12・13	8.23m	0.45m以上	0.70m以上	不明?	N-33°-W	67	36・71	24
IV 北	中近世	50 溝	55-11・21-M-15~11	82.00m	0.28m	0.52m	0.03m	N-85°-E	70	71	-
V 南	中近世	2 溝	55-21-F-13・14	5.20m	1.18m	2.00m	0.39	N-90°-E	77	70	30
V 南	中近世	3 溝	55-21-D-14~18	17.83m	1.04m	1.61m	0.37m	N-87°-W	77	44・70	30・210
V W	中近世		55-21-31-D-C-18-7	46.16m	1.11m	1.48m	0.30m	N-73°-E			
V 南	中近世	4 溝	55-21-A~D-14	15.39m	0.50m	0.86m	0.21m	N-7°-W	77	44・70	29
V 南	中近世	5 溝	55-21-F-14~18	18.44m	0.94m	1.58m	0.26m	N-88°-E	77	44・70	30
V W	中近世		55-21-31-F-N-14-12	113.32m	0.95m	2.72m	0.35m	N-84°-E			
V 北	中近世	6 溝	55-21-D~N-14	16.70m	0.40m	1.94m	0.42m	N-2°-W	77	44・70	31
V 南	中近世	7 溝	55-21-F-14~18	18.46m	0.38m	0.84m	0.03m	N-76°-E	77	44・70	31
V W	中近世		55-21-31-E-F-18-5	37.00m	0.34m	0.58m	0.04m	N-83°-E			
V 南	古代~古墳時代	16 溝	55-21-C・D-13~18	10.43m	0.42m	2.14m	0.15m	N-72°-W	289	217・264	166
V 南	古代~古墳時代	23 溝	55-21-D~H-16~18	20.12m	0.35m	0.58m	0.15m	N-16°-W	289	217・264	166
V 北	中近世	31 溝	55-21-J・K-12~17	15.32m	0.18m	0.38m	0.10m	N-89°-E	77	70	32
V 北	中近世	32 溝	55-21-N-16・17	6.51m	0.47m	0.55m	0.08m	N-79°-E	77	70	32
V 北	中近世	33 溝	55-21-K-13	4.60m	0.14m	0.29m	0.06m	N-73°-W	77	70	32・210
V 北	中近世	34 溝	55-21-M~O-12~16	23.12m	0.80m	2.36m	0.43m	N-57°-W	77	44・70	31・32・210
V 北	古代~古墳時代	35 溝	55-21-N~P-13	12.50m	0.50m	0.73m	0.20m	N-7°-E	289	218・264	166・167
V 北	古代~古墳時代	36 溝	55-21-J~N-12~15	6.48m	0.22m	1.17m	0.05m	N-68°-E	289	217・264	165・222
V 北	古代~古墳時代	37 溝	55-21-L-16・17	4.28m	0.38m	0.45m	0.17m	N-87°-E	293	264	167
V 北	古代~古墳時代	38 溝	55-21-P-15	2.14m	0.48m	0.70m	0.29m	N-52°-W	293	217・264	167
V 北	古代~古墳時代	39 溝	55-21-P・Q-14	3.70m	0.20m	0.34m	0.07m	N-79°-W	293	217・264	167・168
V 北	古代~古墳時代	41 溝	55-21-O・P-13	6.50m	0.43m	0.62m	0.03m	N-43°-E	293	217・264	168
V 北	古代~古墳時代	42 溝	55-21-I-15~17	0.88m	0.27m	0.54m	0.03m	N-87°-E	293	264	168
VI	中近世	1 溝	55-41-D~G-8~13	39.90m	0.72m	1.38m	0.38m	N-79°-E	77	50・69	36・210
VI	中近世	2 溝	55-41-M・N-8・9	6.78m	0.21m	0.35m	0.04m	N-24°-W	78	51・69	36
VI	中近世	3 溝	55-41-G~N-8	16.91m	0.20m	0.66m	0.07m	N-1°-E	78	51・69	36
VI	中近世	4 溝	55-41-G~N-8	42.0m	0.42m	1.32m	0.09m	N-1°-E	78	51・69	36
VI	中近世	5 溝	55-41-D~N-6・7	45.27m	0.38m	0.80m	0.10m	N-0°-E	78	51・69	36
VI	中近世	6 溝	55-31-M-P-14-41-N-4	54.40m	0.76m	1.36m	0.20m	N-87°-E	78	51・69	36・211
VI	中近世	7 溝	55-41-N-4	4.40m	0.50m	1.08m以上	0.10m	N-2°-E	88	51・69	36
VI	中近世	8 溝	55-31-L・M-18	7.30m	0.40m	1.69m	0.11m	N-6°-W	88	51・69	36・37
VI	中近世	9 溝	55-31-F~N-17・18	52.00m	0.18m	1.50m	0.17m	N-3°-W	88	51・69	36・37
VI	中世	10 溝	55-31-C~O-16・17	57.25m	0.48m	1.55m	0.14m	N-2°-W	136	92・103	68
VI	中近世	11 溝	55-31-M~O-15	6.87m	0.56m	1.50m	0.12m	N-8°-W	88	51・69	36
VI	中近世	12 溝	55-41-H・I-1・2	4.21m	0.42m	0.74m	0.23m	N-22°-W	88	51・69	37
VI	中近世	13 溝	55-31-E・F-14~18	20.02m	0.38m	0.86m	0.06m	N-64°-W	89	51・69	37
VI	古代~古墳時代	14 溝	55-41-J・K-7	3.86m	0.49m	0.70m	0.07m	N-8°-W	326	244・263	189・224
VI	古代~古墳時代	15 溝	55-41-J-7	2.04m	0.65m	0.83m	0.31m	N-18°-E	326	244・263	189
VI	古代~古墳時代	16 溝	55-41-I・J-7・8	5.86m	0.30m	0.56m	0.21m	N-10°-E	327	244・263	189・190・224
VI	古代~古墳時代	17 溝	55-41-G・H-6・7	8.91m	0.36m	0.96m	0.09m	N-31°-W	327	244・263	190・191
VI	古代~古墳時代	18 溝	55-41-E・F-5・6	7.62m	0.88m	1.88m	0.37m	N-45°-W	327	245・246・263	191・224
VI	古代~古墳時代	19 溝	55-31-C-16-17-0-17	37.20m	0.26m	0.52m	0.19m	N-21°-W	327	246・263	192
VI	古代~古墳時代	20 溝	55-41-D~M-8~13	52.80m	0.28m	0.61m	0.17m	N-34°-W	329	246・263	192・194
VI	古代~古墳時代	21 溝	55-41-F~H-6~8	17.68m	0.39m	1.08m	0.49m	N-33°-W	329	247・248・263	192・224・225
VI	古代~古墳時代	22 溝	55-41-D・E-8~11	17.64m	0.22m	0.44m	0.17m	N-83°-W	329	246・263	193
VI	古代~古墳時代	23 溝	55-41-E~G-10・11	8.50m	0.16m	0.34m	0.07m	N-39°-E	329	246・263	193
VI	古代~古墳時代	24 溝	55-41-F-11~13	12.0m	0.36m	0.70m	0.41m	N-50°-E	329	249・263	193・225・226
VI	古代~古墳時代	25 溝	55-41-G・H-7~10	13.38m	0.40m	2.50m	0.26m	N-78°-E	334	246・263	193・194
VI	古代~古墳時代	26 溝	55-41-I・J-8	8.14m	0.34m	1.22m	0.10m	N-58°-E	334	249・263	194
VI	古代~古墳時代	27 溝	55-41-K-8~J-10	13.25m	0.34m	0.72m	0.18m	N-59°-E	334	246・263	194
VI	古代~古墳時代	28 溝	55-31-C-19~41-N-5	62.50m	0.16m	0.82m	0.17m	N-37°-W	334	249・263	194
VI	古代~古墳時代	29 溝	55-31-J-17~41-O-1	30.00m	0.30m	0.56m	0.04m	N-42°-W	336	246・263	194
VII	中近世	1 溝	55-41-E-15~51-M-14	117.50m	0.85m	1.82m	0.42m	N-63°-W	91	56・68	40・211
VII	中近世	2 溝	55-51-F-7~I-14	48.50m	0.76m	1.38m	0.21m	N-86°-W	92	56・68	40
VII	中近世	3 溝	55-51-G~I-14	9.00m	1.04m	1.30m	0.26m	N-11°-W	92	56・68	40
VII	中近世	4 溝	55-51-I・J-8	2.90m	1.56m	1.80m	0.33m	N-16°-E	92	56・68	40
VII	中近世	5 溝	55-41-F~M-19	36.60m	0.40m	0.70m	計測不能	N-3°-E	92	56・68	40
VII	中近世	6 溝	55-41-F~M-18	37.10m	0.40m	0.80m	計測不能	N-7°-W	93	68	40
VII	中近世	7 溝	55-51-E-3~M-2	40.00m	0.30m	0.75m	計測不能	N-13°-E	93	68	40
VIII	中近世	1 溝	55-51-I-16~19	5.20m	1.10m	1.40m	0.28m	N-88°-W	96	58・67	41・43
VIII	中近世	2 溝	55-51-F-17~61-L-2	59.30m	0.20m	1.80m	0.33m	N-88°-W	96	58・67	41・43
VIII	中近世	3 溝	55-61-I-1~I-8	33.30m	0.36m	1.30m	0.26m	N-81°-E	96	58・67	41・43
VIII	中近世	4 溝	55-61-G-8~I-15	46.60m	0.20m	2.50m	0.03m	N-84°-E	97	67	41
VIII	古代~古墳時代	5 溝	55-61-G-9~K-15	39.40m	0.50m	0.90m	0.19m	N-59°-W	337	252・262	196・197
VIII	古代~古墳時代	6 溝	55-61-G-12~I-14	23.70m	0.25m	0.54m	0.09m	N-44°-W	337	252・262	197
VIII	古代~古墳時代	7 溝	55-61-G-12~I-14	18.90m	1.90m	5.45m	0.51m	N-45°-W	338	252・253・262	197・226
VIII	古代~古墳時代	8 溝	55-61-G-13~L-8	33.10m	0.40m	1.70m	0.06m	N-42°-E	338	254・262	198・199
VIII	古代~古墳時代	9 溝	55-61-F-1~L-12	65.20m	1.40m	1.40m	0.32m	N-40°-W	338	254・262	198・199
VIII	古代~古墳時代	10 溝	55-61-I-3~G-10	35.60m	0.40m	1.00m	0.16m	N-64°-E	340	254・262	199・200
VIII	古代~古墳時代	11 溝	55-51-L-16~61-I-6	46.90m	0.36m	1.20m	0.15m	N-75°-E	340	253・254・262	199・200・226
VIII	古代~古墳時代	12 溝	55-51-I-16~L-20	28.50m	0.78m	1.40m	0.25m	N-51°-W	340	254・262	200・201

区 細分	面	遺構名称	グリッド	調査長	規模			走向	本文	挿図	写真図版
					最小幅	最大幅	残存壁高				
VIII	古代～古墳時代	13 溝	55-51-K-19～61-J-3	16.20m	0.25m	1.15m	0.13m	N-72°-E	342	262	201
VIII	古代～古墳時代	14 溝	55-51-J-16～F-19	11.75m	0.36m	0.94m	0.21m	N-45°-E	342	254・262	201
IX	中近世	1 溝	55-71-H-8～0-16	50.25m	0.80m	1.90m	0.50m	N-55°-W	101	61・66	48・211
IX	中近世	2 溝	55-71-K-9～0-9	17.24m	0.20m	0.45m	0.09m	N-9°-E	101	61・66	48・211
IX	中近世	3 溝	55-71-J-4～K-9	20.02m	0.60m	1.30m	0.14m	N-84°-W	101	61・66	48
IX	中近世	4 溝	55-71-I-9～K-9	17.30m	0.40m	0.90m	0.15m	N-4°-E	101	61・66	48・211
IX	中近世	5 溝	55-71-H-4～N-4	29.40m	1.10m	1.80m	0.31m	N-4°-W	103	62・66	49
IX	中近世	6 溝	55-61-I-17～71-I-4	36.70m	0.45m	1.00m	0.07m	N-87°-E	103	62・66	49
IX	古代～古墳時代	7 溝	55-71-K-15～N-14	14.90m	0.25m	0.50m	0.10m	N-25°-E	346	259・261	205
IX	古代～古墳時代	8 溝	55-71-I-10～N-10	24.60m	0.65m	2.25m	0.05m	N-3°-W	348	259・261	205・206
IX	古代～古墳時代	9 溝	55-71-K-2～N-4	14.00m	1.85m	3.28m	0.18m	N-23°-W	348	259・261	205・206
IX	古代～古墳時代	10 溝	55-61-L-17～71-N-3	34.20m	0.47m	1.01m	0.16m	N-73°-W	348	259・261	205・206
IX	古代～古墳時代	11 溝	55-61-K-17～M-19	13.20m	1.97m	3.72m	0.36m	N-45°-W	348	259・261	205・206・226

9. 凹地

区 細分	面	遺構名称	グリッド	調査長	規模			長軸方位	本文	挿図	写真図版
					最少幅	最大幅	残存壁高				
IV 南	古代～古墳時代	1 凹地	55-21-C-7・8-M-7-9	61.33m	2.42m	9.02m	0.08m	N-16°-W	277	204・265	156・221
IV 南	古代～古墳時代		55-21-C-5～E-7	14.15m	1.10m	5.88m	0.07m	N-50°-W			
IV 北	古代～古墳時代		55-21-H-7・8～0-9	9.30m	4.80m	8.30m	0.09m	N-12°-W			
V 南	古代～古墳時代	2 凹地	55-21-A-B-14・C-D-15-16	4.08m	1.80m	3.04m	0.05m	N-12°-W	296	219・264	168
V 北	古代～古墳時代	3 凹地	55-21-I-16～0-17	28.50m	0.89m	2.36m	0.10m	N-6°-W	296	219・264	168・222
V 北	古代～古墳時代	4 凹地	55-21-I-13～L-16	22.16m	2.68m	4.51m	0.06m	N-55°-W	296	264	165

10. 田畠

区 細分	面	遺構名称	グリッド	検出層位	備考	本文	挿図	全体図	写真図版
I 北南	中世	1 水田	45-81-B～N-8～20、 91-B～N-1～8	浅間Bテフラ直下		118-120	75・76	110	50～53
I 中央	古代洪水層関連	牛蹄跡	45-91-G～N-3～6	洪水層下		158-160	111	149	76
I 北	古代洪水層関連	2 水田痕跡	45-81-E～M-9～20、 91-E～N-1～6	洪水層下		160	112	149	77
I 中央	古代洪水層関連		1 畠	45-91-B～G-3～6	洪水層下		160・161	113・114	150
I 中央	古代洪水層関連	2 畠	45-91-G～I-4・5	洪水層下		160・166	115	150	79・80
II 中央	中世	1 水田痕跡	45-91～1-G-10～H-4 45-91-H・I-16	浅間B混土上面		122	79・81	107	54・55・211・212
II 中央	中世	1 耕作痕	45-91-G-11	浅間B混土上面		123	80	107	55
II 中央	中世	2 耕作痕	45-91-F-15	浅間B混土下面		128	84	108	59
II 中央	中世	3 耕作痕	45-91-F-12	浅間B混土下面		128	84	108	-
II 北南	中世	2 水田痕跡	45-91～55-1-B-10～N-4	浅間Bテフラ直下		124～126	82	109	56～59
II 中央	中世		55-1-F-2～J-5						
II 中央	中世	1 掘削痕	45-91-H-18	浅間Bテフラ直下		124～126	83	109	59
II 北南	古代洪水層関連	牛蹄跡	55-1-K-6～N-9	VI層上面		168	-	148	84
II 中央	古代洪水層関連		55-1-I-5～G-9						
II 北南	古代洪水層関連	3 水田痕跡	55-1-A-4～C-9	VI層上面		170	119	148	84～86
II 中央	古代洪水層関連		45-91-E-11～I-8						
III 南	中近世	1 耕作痕	55-1-D・E-19・20、 11-E-1で記録	浅間Bテフラ上面	鋤先痕跡	58	-	72	20
III 北南	中世	1 水田	55-1-A～M-15～20、 11-B～M-1～10	浅間Bテフラ直下		130～133	87・88	106	62・212
III 北	古代洪水層関連	2 耕作痕	55-1-K・L-12・13	VI層下	鋤痕	198	142	146	102
III 南	古代洪水層関連	3 耕作痕	55-1-L・M-11・12	洪水層下水田下	鋤痕	198	142	147	103
III 北	古代洪水層関連	牛蹄跡	55-1-K～M-10～16	IVB～VI層		198	-	146	102
III 北南	古代洪水層関連	2 水田	55-1-K～M-10～13、 1-B～E-10～14	IV層上面		199	143	147	102・103
IV 北	中近世	1 耕作痕	55-21-H-K-4～9で記録	浅間Bテフラ上面	鋤先痕跡	72	-	71	26・27
IV	中世	水田痕跡	55-11-B～0-12～20、 21-C～N-1～10	浅間B混土下面		133・134	89	105	63～65
IV 南	古代～古墳時代	1 畠	55-21-C～E-3～8、 21-F～H-7・8	浅間C軽石混黒色土 下面		277・278	206	265	155
IV 南	古代～古墳時代	3 畠	55-11-B～D-12・13	浅間C軽石混黒色土 下面		277・278	205	265	155
V 北南	中世	水田痕跡	55-21-A～K-13～20、 31-C～0-1～12	浅間B混土下面		134・135	91	104	66・67・212
V 南	古代～古墳時代	2 畠	55-21-D～F-17	浅間C軽石混黒色土 下面		297	220	264	168
VI	中近世	1 耕作痕	55-31-N-15・16で記録	浅間Bテフラ上面	鋤先痕跡	89	52	69	38
VI	中世	水田痕跡	55-31-C～N-14～20、 41-E・F-6～11	浅間B混土下面		136・137	92	103	68・69
VII	中世	水田	55-41-E～M-15～20、 51-E～M-1～14	浅間Bテフラ直下		137・138	93	102	70・212
VIII	中世	水田	55-51-F～L-16～20、 61-F～L-1～5	浅間Bテフラ直下		138～140	94	101	71・72
VIII	中世	1 畠	55-51-L-17～19	浅間Bテフラ直下		140	95	101	72
IX	中近世	水田痕跡	54-80-G-17	浅間B混土下面		106	63	66	-
IX	中世	水田	55-61-G～N-17～20、 71-G～0-1～11	浅間Bテフラ直下		141・142	96	100	73・74
IX	中世	水田	55-72-B～G-15・16	浅間Bテフラ直下		142	97	-	-

遺構一覧表

11. 復旧溝

区分	面	遺構名称	グリッド	溝数	溝群の規模・方位			本文	挿図	写真図版
					短辺	長辺	方位			
I 北	中近世	1 復旧溝	不明	3条	不明	不明	不明	34・35	15	5
I 北	中近世	2 復旧溝	45-91-K・L-5~N-5	1条	0.80m	1.45m	N-6°-E	34・35	14	5
I 南	中近世	3 復旧溝	45-91-B-6~D-5・6	13条	4.20m	8.98m	N-87°-W	34・35	15	5・6
I 中央	中近世		45-91-E~G-5・6	13条	4.00m	8.50m	N-78°-W			
I 南	中近世	4 復旧溝	45-81-B-19・20~D-19・20	9条	5.23m	9.55m	N-85°-W	34・35	14	6
I 中央	中近世		45-81-E-19	2条	3.43m	1.27m	N-13°-E			
I 中央	中近世	5 復旧溝	45-81-H-17~J-16	3条	3.35m	10.07m	N-8°-E	34・35	15	6
I 中央	中近世	6 復旧溝	45-81-E-17~H-17	4条	3.45m	14.70m	N-7°-E	34~37	14	6
II 中央	中近世	1 復旧溝	49-91-G-19	2条	1.20m	5.00m	N-88°-W	43	20	-
III 南	中近世	1 復旧溝	55-1-C-16~C・D-20	32条	5.07m	21.30m	N-10~15°-W	58・59	30	20
III 南	中近世	2 復旧溝	55-1-B-14~E-16	27条	8.75m	13.22m	N-85~90°-W	58・59	31	21
III 北	中近世	3 復旧溝	55-1-L-20~11-M-1	4条	3.10m	7.52m	N-3°-W	58・59	32	21
III 北	中近世	4 復旧溝	55-11-M-2~M-6	5条余	2.42m	21.70m	N-87°-W	58~60	32	21
III 南	中近世	5 復旧溝	55-1-B-15	1条	0.70m	1.18m	N-81°-E	58~60	31・32	-
III 中央	中近世	6 復旧溝	55-1-J-15	2条	3.35m	1.27m	N-69°-E	58~60	32	21
IV 北	中近世	1 復旧溝	55-11-K-12~N-14	31条	8.19m	15.20m	N-76°-E	72~74	39	27・28
IV 北	中近世	2 復旧溝	55-11-K-14~O-16	28条	7.57m	15.70m	N-66°-E	72~75	39	27・28・210
IV 北	中近世	3 復旧溝	55-21-L-3~N-7	不詳	5.32m	15.54m	N-7°-E	72~75	40	28
IV 中央	中近世	4 復旧溝	55-11-H-13~J-14	16条	4.90m	10.80m	N-72°-E	72~75	41	28
V 西	中近世	1 復旧溝	55-21・31-J・K-19~3	38条	6.26m	19.72m	N-6°-E	80・81	45	33
VI	中近世	1 復旧溝	55-41-M-4~M-6	16条	3.50m	10.26m	N-14°-W	89	53	38
VI	中近世	2 復旧溝	55-31-D-16・17~E-16・17	19条か	4.25m	8.02m	N-88°-E	89・90	53	38
IX	中近世	1 復旧溝	55-71-N-15~Q-16	14条	6.82m	19.70m	N-2°-E	103・104	64	49
IX 北	中近世	2 復旧溝	55-71-R-16~72-A-16	2条	15.40m	3.60m	N-6°-W N-58°-W	103~106	64	-
IX 南	中近世	3 復旧溝	80-H-17~J-17	2条	0.5m以上	9.40m	N-5°-E	106	64	49

遺物観察表

凡例

1. 遺物観察表は石器・土器・金属器・木器・ガラス器ごとに、本文第3～6章の遺物掲載順に並べた。
2. 法量欄の()内の数値は、土器については復元値、石器については残存値である。
3. 出土位置欄は、遺構出土の遺物については遺構内の遺物の平面的位置と、床面あるいは底面との比高を併記した。遺構外の遺物については判明する限りの平面的な位置と層位を記載した。
4. 外観の特徴のうち、土器の胎土は特徴的な挟雑物について記載した。土器の焼成は酸化焰焼成か還元焰焼成か、あるいは軟調かどうかを記載した。各観察者によって記載方法が異なるが、そのままとした。土師器・須恵器の胎土記号は下位の通りである。

土師器

- A：黒色鉱物(角閃石か輝石)、透明鉱物、白色から淡黄色岩片?含む。赤色粒僅かに含む。
- B：鉱物を含むが黒色鉱物と透明鉱物は少ない。
- C：挟雑物は少なく緻密。鉱物を含むが黒色鉱物と透明鉱物は少ない。
- D：透明鉱物細粒を多く含み、キラキラ光る。
- E：黒色鉱物(角閃石か輝石)と赤色粒多く含む。透明から白色鉱物少量含む。
- F：片岩粒含む。雲母?細片含む。
黒色鉱物粒、透明鉱物粒を含む。片岩は三波川帯地域の土器ほど多く含まず、ごく僅かである。海面骨針は含まない。
- G：雲母?細片少量含む。白色鉱物細粒少量含む。他の土器と明らかに胎土が異なる。

須恵器

- A：白色鉱物と透明鉱物の細粒含む。
- B：土師器Aと同様。角閃石か輝石、透明鉱物、白色から淡黄色岩片?含む。灰色粒僅かに含む。
- C：鉱物粒を含む。透明?細粒鉱物が多く、キラキラ光るのが目立つ。
- D：鉱物類中に片岩含む。雲母含む。片岩は三波川帯地域の土器ほど多く含まず、ごく僅かである。海面骨針は含まない。
片岩以外はBに類似。

5. 外観の特徴のうち、色調は『標準土色帖』を用い、最も大きな面積を占める器面の色名を記載した。
なお焼成に伴う黒斑は別途記載した。

目次

1. 陶磁器・在出土器観察表	448
2. 金属製品観察表	450
3. 銭貨観察表	451
4. 石製品観察表	451
5. ガラス製品観察表	452
6. 土師器・須恵器観察表	453
7. 土製品観察表	468
8. 木製品観察表	468
9. 弥生土器観察表	468
10. 縄文土器観察表	469
11. 縄文石器観察表	469

1. 陶磁器・在地土器観察表

図番号	写真	種別	器種	出土位置	残存	口径cm	底径cm	器高cm	色調	成形と調整の特徴および遺物の時期
第12図 1	PL.207	肥前陶器	碗	I北区1号堀埋没土中	碗	-	(4.9)	-	灰	外面染付。底部器壁厚し。18世紀前半。
第12図 2	PL.207	瀬戸・美濃陶器	碗 転用	I北区1号堀埋没土中	底部(1部欠)	-	3.8	-	淡黄	内面鉄釉。貼り付け高台。高台脇を細かい敲打により円盤状に整形。江戸時代。
第12図 3	PL.207	瀬戸・美濃陶器	皿か坏	I北区1号堀埋没土中	1/2	-	(3.4)	-	黄	焼成不良。高台折り込む。底部内面重なる痕跡残る。森田分類14世紀後半-16世紀。
第12図 4	PL.207	瀬戸・美濃陶器	碗	I北区1号堀埋没土中	碗	(11.2)	-	-	白	平碗。外面ゴム印判。近現代。
第12図 5	PL.207	瀬戸・美濃陶器	碗	I北区1号堀埋没土中	口縁部1/3、 底部完	(8.0)	3.0	4.7	白	機軸輪成形。外面ゴム印判。近現代。
第12図 6	PL.207	肥前陶器	碗	I北区1号堀埋没土中	口縁部1部、 底部1/2	(7.0)	3.6	5.9	白	体部から口縁部筒状。外面染付。19世紀前半-中頃。
第12図 7	PL.207	常滑陶器	片口鉢	I北区1号堀埋没土中	口縁部片	-	-	-	灰	口縁部丸みを帯び、内面僅かに窪む。尾張型。中世。
第12図 8	PL.207	常滑陶器	甕	I北区1号堀埋没土中	体部下位片	-	-	-	黄灰	断面中央暗灰色。外面器表赤褐色。中世。
第19図 1	PL.207	肥前陶器	碗	II中央区1号溝埋没土中	1/4	-	(4.0)	-	灰	体部内湾して開く。内面花弁文。外面重圍線か。江戸時代。
第19図 2	PL.207	瀬戸・美濃陶器	灯火受皿	II北区10号溝埋没土中	口縁部1部、 底部1/4	(9.8)	(5.0)	1.9	灰	鉢軸輪成形。外面の軸拭う。19世紀前半-中頃。
第19図 3	PL.207	瀬戸・美濃陶器	碗	II中央区27号溝埋没土中	1/4	-	(4.2)	-	白	体部内面下位薄い2重圍線。体部外面染付。高台やや歪み。高台推定径かやや大きい可能性高い。19世紀前半-中頃。
第19図 4	PL.207	肥前陶器	碗	II中央区27号溝埋没土中	1/2	6.6	3.2	4.8	白	高台高い。口縁部外面雷文帯。内面重圍線。体部外面筋文。江戸時代。
第21図 1	PL.207	瀬戸・美濃陶器	盃	II南区遺構外	1/3	(5.5)	2.0-2.4	3.0	白	口縁部小さく外反。高台脇に桜の花びら5枚配置。高台は桜の花形で端部無軸。口縁部はピンクの釉下彩。口縁部内面に金色上絵の文字。文字はほとんど剥落し、さちつた左面が残る程度。記念盃であろう。近現代。
第21図 2	PL.207	肥前陶器	端反碗	II南区遺構外	1/8	(10.2)	(4.4)	5.5	白	口縁部外反。口縁部内外面同文様。体部外面グラデーションのある幅広横線間に細線で弧状文。底部内面不明文様。19世紀前半-中頃。
第21図 3	PL.207	肥前陶器	皿	II南区遺構外	1/4	(13.4)	(7.8)	3.5	灰	高台内1重圍線。口縁部内外面染付。波佐見系。18世紀中頃-19世紀初頭。
第21図 4	PL.207	瀬戸・美濃陶器	不詳 転用か	II南区遺構外	底部	-	4.9	-	灰白	高台脇水平に近く広がり、体部やや立ち上がる。底部右回転糸切り後。高台脇と内面のみ狭く削り、低い高台を削り出す。内面鉄釉。目痕4力所。体部を粗く打ち欠いた可能性がある。時期不詳。
第21図 5	PL.207	瀬戸・美濃陶器	天目鉢	II中央区遺構外	体部下位片	-	-	-	灰黄	内外面施釉後、体部外面下位の軸削り取る。内外面に、にぶい赤褐色の禾目が認められる。大窯か。
第21図 6	PL.207	瀬戸・美濃陶器	すり鉢 転用	II南区遺構外	壳形	-	-	-	灰白	すり目突部が摩滅した体部片の周囲を細かく打ち欠いて円盤状に整形。内外面磨釉。江戸時代。
第26図 1	PL.208	瀬戸・美濃陶器	甕燗	III南区蛭堀埋没土中	下半部	-	4.0	-	灰白	内面から体部外面鉄釉。内面は白濁し、一部縮れた状態をなす。底部右回転糸切無調整で、中央部に小孔をあける。灯芯立て欠損。やや焼成不良。18世紀後半-19世紀中頃。
第26図 2	製作地不詳陶器	猪口		III南区蛭堀埋没土中	下半部	-	3.6	-	灰白	内面から外面体部下端施釉。外面茨羽根文。外面体部下端面取り、底部蛇の目凹形無軸。近現代。
第26図 3	製作地不詳陶器	不詳		III南区蛭堀埋没土中	底部片	-	(7.0)	-	灰	内面から体部外面下位灰釉。体部外面から底部外面回転糸削り。内面輪軸目顯著。燗徳利か。江戸時代以降。
第26図 4	瀬美陶器	甕		III南区蛭堀埋没土中	体部下位片か	-	-	-	灰	外面叩き目。内面自然釉。12世紀。
第26図 5	在地系土器	片口鉢		III南区蛭堀埋没土中	口縁部片	-	-	-	灰	器表の調整が丁寧で形は整う。口縁部内面突き出す。中世。
第27図 1	PL.208	在地系土器	片口鉢か	III南区1号溝117-90底面上5cm	口縁部片	-	-	-	褐灰	器表灰色。口縁部回転横溝で、口縁部内外面輪軸目状に窪む。体部内面使用により平滑。口縁部内面寄り緩やかな波状に摩滅。中世。
第27図 4	瀬美陶器	甕		III南区2号溝埋没土中	体部片	-	-	-	灰	外面叩き目。12世紀。
第27図 5	瀬美陶器	甕		III南区2号溝埋没土中	体部下位片	-	-	-	灰	外面総方向の寛尺工具による溝で、内面の一部に自然釉かかる。12世紀。
第27図 6	瀬美陶器	甕		III区2号溝埋没土中	肩部片	-	-	-	灰	外面叩き目。外面自然釉かかる。12世紀。
第28図 1	PL.208	製作地不詳陶器	ミニチュア	III区5号溝埋没土中	壳形	2.1	0.9	1.4	灰白	製作りのミニチュア碗。無軸。玩具か。近現代。
第28図 3	PL.208	瀬戸・美濃陶器	灯火受皿	III区42号溝埋没土中	3/4	(7.1)	3.6	1.6	浅黄	全面飾施軸後底部外面付近を拭う。19世紀前半-中頃。
第32図 1	在地系土器	皿		III北区4号復旧溝跡南東溝底面上6cm	底部	-	4.8	-	灰白	底部左回転糸切無調整。時期不詳。
第33図 1	PL.208	龍泉系青磁	碗	III南区遺構外	体部片	-	-	-	灰白	外面筋溝弁文。太宰府分類 II-b類。
第33図 2	PL.208	龍泉系青磁	碗	III南区遺構外	底部片	-	(3.0)	-	灰白	釉は厚く、高台端部釉境赤く紫色。残存部無文。太宰府分類碗III-1aか。
第33図 3	PL.208	瀬戸・美濃陶器	折縁皿	III南区遺構外	口縁部片	(11.7)	-	-	灰白	口縁部玉縁状。内外面灰釉。太宰府分類。16世紀末。
第33図 4	不詳	瀬戸・美濃陶器	不詳	III南区遺構外	口縁部片	(12.2)	-	-	灰白	内面から口縁部灰釉。細かい貫入はいる。時期不詳。
第33図 5	瀬戸・美濃陶器	皿		III南区遺構外	底部片	-	(6.2)	-	灰	内面から高台外面長石釉。釉やや厚い。17世紀。
第33図 6	常滑陶器	片口鉢		III北区遺構外	口縁部片	-	-	-	灰	器表にぶい黄褐色。口縁部付近の器壁は薄くなり、端部は平坦。内面現状に自然釉かかる。13世紀か。
第33図 7	常滑陶器	甕		III北区遺構外	口縁部片	-	-	-	灰	器表にぶい黄褐色。口縁部小さいN字状。13世紀中頃-後半。
第33図 8	PL.208	製作地不詳陶器	一次加工品	III北区遺構外	底部	-	10.4	-	白	体部8角形。底部内面磨釉物の染付。体部外面染付。19世紀。
第33図 9	PL.208	製作地不詳陶器	碗	III南区遺構外	底部片	-	2.4	-	白	内面から高台外面透明釉。高台端部から高台内無軸。高台外面重圍線。高台脇を外面から小さく打ち欠いて円盤状に整形。時期不詳。
第33図 10	PL.208	肥前陶器?	碗	III北区遺構外	底部片	-	(4.4)	-	灰白	高台脇以下無軸。外面鉄釉。内面透明釉。底部内面梅花状の染付。17世紀。
第35図 1	龍泉系青磁	碗		IV北区蛭堀埋没土中	口縁部小片	-	-	-	灰白	鉢蓮弁の幅狭く、軸厚い。横田・森田分類II類。
第35図 2	肥前陶器	碗		IV北区蛭堀埋没土中	1/2	-	(3.6)	-	灰白	高台外面1重圍線。体部外面僅かに染付残る。高台端部外面から高台内無軸。完全に磁化せず、粗い貫入はいる。やや焼成不良。17世紀。
第35図 3	瀬戸・美濃陶器	皿		IV北区蛭堀埋没土中	1/4	(11.4)	(5.6)	2.4	白	内面ゴム印による染付。高台内1重圍線内に「記念口」、「新町口」の文字。現代。
第35図 4	製作地不詳陶器	湯飲み碗		IV北区蛭堀埋没土中	壳形	74	3.1	5.1	白	富士と秋の染付で、雪は白土で表現する。外面に藍色の上絵でマークと「昭和産業記念館」と「昭和産業記念館」との文字を添う。高台脇のみ磨釉。他は遠明釉。現代。
第35図 5	製作地不詳陶器	急須蓋		IV北区蛭堀埋没土中	ほぼ壳形	つまみ 1.5	6.1	1.9	暗赤褐	天井部外面1条の沈線。近現代。
第35図 6	PL.209	製作地不詳陶器	灯火受皿	IV北区蛭堀埋没土中	1/4	(6.3)	(2.5)	1.1	淡黄	内面から口縁部細かい貫入はいる灰釉。受け部切り込み欠損。外面回転磨削り。19世紀か。
第35図 7	在地系土器	焙烙		IV北区蛭堀埋没土中	1/8	-	-	-	黄灰	断面中央暗灰-灰白色。器表付近黄灰色。器表暗灰色。外面中位紐作り痕跡残る。体部外面下位以下型別。底部外面型の後身明瞭。江戸時代。

1. 陶磁器・在土器観察表

図	番号	写真	種別	器種	出土位置	残存	口径cm	底径cm	器高cm	色調	成形と調整の特徴および遺物の時期
第35図	8		美濃陶器	輪弁鉢	IV北区蛭堀埋没土中	1/5	(20.0)	-	-	灰白	内外面灰釉。貫入はいる。18世紀中頃-後半
第35図	9		瀬戸・美濃陶器	輪弁皿	IV北区蛭堀埋没土中	1/3	-	(7.4)	-	灰白	高台内湾。高台脇削り込む。底部内面釉かけ部と凸帯にずれがあり、重ね焼き部分が釉で溶着している。内面から高台脇長石釉。17世紀。
第38図	6		龍泉窯系青磁	碗	IV南区1号溝埋没土中	底部片	-	-	-	灰白	龍運弁文飾。横帯・森分類 1-5-b類。
第38図	7		肥前磁器	筒形碗か	IV南区1号溝埋没土中	下半部	-	4.5	-	灰白	高台外面2重圓線。体部外面灰付僅かに残る。体部外面下端僅かに窪むが、意図的でない可能性が高い。波佐見系。江戸時代。
第38図	8	PL. 209	肥前磁器	皿	IV南区1号溝埋没土中	1/4	(13.0)	(7.0)	2.9	白	底部内面底の目袖削ぎ。内面唐草文。底部内面五弁花コンニャク文。19世紀前半-中頃。
第38図	9	PL. 209	在地系土器	皿	IV南区1号溝埋没土中	1/4-3/4	(9.3)	5.0	2.4	白	底部右回転糸切無調整。江戸時代。
第38図	10	PL. 209	瀬戸・美濃陶器	腰楕圓	IV南区1号溝埋没土中	1/2	-	(5.6)	-	灰白	内面から高台内灰釉。高台内周縁釉置き取り、円錐ピンを置く。底部内面菊花状押印。17世紀。
第38図	11		瀬戸・美濃陶器	丸皿	IV南区1号溝埋没土中	1/6	(10.6)	(6.0)	1.8	灰白	外面と高台内灰釉。内面細い貫入はいる灰釉。18世紀前半-中頃。
第38図	12		瀬戸・美濃陶器	丸皿	IV南区1号溝埋没土中	1/4	(11.6)	3.9	5.0	灰白	内面から高台内側長石釉。17世紀中頃-後半。
第38図	13		製作地不詳陶器	波瓶か	IV南区1号溝埋没土中	口縁部片	-	-	-	青灰	口縁部短く、上部外面に取っ手を貼り付け。内外面錆色の鉄釉。上部中央円盤状の粘土貼付痕残る。近現代。
第38図	15	PL. 209	製作地不詳陶器	ホイッスル	IV南区1号溝埋没土中	壳形	3.9	2.1	2.0	にぶい	左右の型で成形した後表面を撫で調整し、歌口部分をへらで削りぬいて作る。中の玉も陶器製。一部に黒色物が残っており、黒色に塗られている可能性が高い。近現代。戦前の陶磁器代用品。
第38図	16		在地系土器	焙烙	IV南区1号溝埋没土中	1/9	(31.0)	(31.6)	3.0	灰	器裏黒色。底部外面器表、周縁を除き灰色。内面体部から底部磨きにより光沢を有する。取っ手貼付。近現代
第38図	17	PL. 209	瀬戸陶器	すり鉢	IV南区1号溝埋没土中	口縁部片	-	-	-	白	内外面錆釉。口縁部上面波状の削れ。17世紀中頃-後半。
第38図	18		在地系土器	焙烙	IV南区1号溝埋没土中	小片	-	-	-	にぶい	丸底。体部外面下端工具による無で。江戸時代末-近現代。
第38図	19		在地系土器	焙烙	IV南区1号溝埋没土中	小片	-	-	-	白	断面中央暗灰色。器表付近灰白色。器表暗灰色。外面上段紐作り痕明瞭。江戸時代。
第38図	20		搬入系土器	練灰おこし	IV南区1号溝埋没土中	ほぼ壳形	9.0	9.0	10.2	明赤褐	本体と通風管接合。底部外面、3重口縁内に外型による「杉」銘。近現代。
第39図	1		瀬戸陶器	すり鉢	IV北区1号復旧溝埋没土中	1/4	-	(14.4)	-	淡黄	底部底部右回転糸切無調整。内外面錆釉。江戸時代。
第39図	2		美濃陶器	汁次	IV北区1号復旧溝埋没土中	底部下位片	-	-	-	淡黄	内面から体部下位灰釉。一部銅緑釉。銅緑釉部分の器表に盛り上がりがあり、取っ手下部と考えられる。江戸時代。
第42図	1		肥前磁器	碗	IV北区遺構外	1/4	(10.0)	-	-	灰白	外面梅樹文。波佐見系。18-19世紀前半。
第42図	2	PL. 210	古瀬戸	鉢類	IV北区遺構外	体部下位片	-	-	-	灰白	内面から外面体部下位灰釉。古瀬戸後期。15世紀。
第44図	3		搬入系土器	植木鉢か	V南区5号溝埋没土中	底部片	-	-	-	褐灰	高台左一子状に伏す。残存底部面に水抜き孔は認められない。金雲母細片多く含む。近現代。
第44図	4		在地系土器	皿	V南区5号溝埋没土中	1/6	(10.0)	(6.4)	2.1	灰黄褐	底部左回転糸切無調整。体部下位張る。江戸時代。
第44図	4		瀬戸・美濃磁器	猪口	V南区6号溝埋没土中	ほぼ壳形	3.8	2.8	4.1	白	外面に「ミホカリ」・「美峰盛」の文字。高崎市の現、美峰酒類株式会社製の製品。近現代。
第44図	5		在地系土器	焙烙	V北区6号溝埋没土中	口縁-体部小片	-	-	-	褐灰	断面中央灰白色。断面中央から器表付近にぶい黄褐色。器表褐灰から暗灰色。口縁部に補修孔1箇所残る。補修孔付近の割れ口は黒くぼくぼく色する。江戸時代。
第44図	6		在地系土器	片口鉢	V北区6号溝埋没土中	口縁部小片	-	-	-	灰	還元炎。器表やや摩滅。口縁部内外に突き出る。中世。
第44図	8		瀬戸陶器	すり鉢	V北区34号溝埋没土中	口縁部片	-	-	-	黄灰	口縁部外方に折り返す。内外面錆釉。残存する口縁部全て削れが剥離する。18世紀前半。
第44図	9	PL. 210	製作地不詳陶器	瓢箪か文楽の三ツカ	V北区34号溝埋没土中	先端欠損。	-	-	-	白	胎土は土器質で酸化炎焼成。一部に透明釉残る。持ち手上部上面に花卉状の彫り込み。時期不詳。
第46図	1	PL. 210	瀬戸・美濃陶器	広東碗	V北区遺構外	1/2	-	(6.0)	-	灰白	外面染付。底部内面重圓線に梅鉢状の文様。19世紀前半。
第46図	2	PL. 210	瀬戸・美濃磁器	防衛食器	V南区遺構外	口縁部破片	(8.2)	-	-	白色	外面「人印」により緑色で「防衛食」。「大日本防空會社株式會社」・「四角内に「防. 12 または「13」の染付。口縁部内面から端部上面釉を置き取る。左端に文字の一部が認められる。第二次大戦中。
第50図	7		瀬戸・美濃陶器	灯火受皿	V区1号溝埋没土中	1/4	(10.3)	(4.3)	2.0	灰	銅軸施軸後、外面の軸拭う。受け部「U」字状に伏す。19世紀前半-中頃。
第50図	8		瀬戸・美濃陶器	蓋	V区1号溝埋没土中	1/3	(6.2)	(3.8)	-	灰黄	天井部外面から口縁部灰釉。つまみ欠損。天井部内面右回転糸切無調整。時期不詳。
第50図	9		在地系土器	焙烙	V区1号溝埋没土中	小片	-	-	-	灰黄褐	器表暗灰色。体部内湾。丸底。器表にきらきら光る微細な鉱物があり、キラの可能性が高い。近現代。
第51図	1		信楽陶器か	灯火皿	V区6号溝埋没土中	口縁部片	(10.9)	-	-	灰白	内面錆目。内面から口縁部暗灰色。貫入はいる。外面回転割り。19世紀か。
第51図	2		肥前陶器	皿	V区6号溝埋没土中	底部片	-	(7.5)	-	にぶい	内面から高台脇細い貫入はいる透明釉。底部内面鉄絵。削り出し高台で高台内湾の抉り深い。京焼風陶器。17世紀後半-18世紀前半。
第56図	1	PL. 211	土製品	人形	V区1号溝埋没土中	1/2	-	-	-	白	前後2分割で作成された背側。内面圧痕。時期不詳。
第56図	2	PL. 211	製作地不詳陶器	人形	V区1号溝埋没土中	頭部欠損	-	-	-	白色	銅込み成形。旭日旗を手にした人形。側面には型の合わせた目目を調整した痕跡が明瞭に残る。近現代。
第58図	1	PL. 211	美濃陶器	皿	V区3・4号溝埋没土中	底部	-	(6.0)	-	灰白	木瓜形の御深井皿。内面から高台脇灰釉。18世紀前半。
第58図	2	PL. 211	美濃陶器	尾呂茶碗か	V区1・2号溝埋没土中	底部	-	5.2	-	灰白	内面鉄絵。一部に葉灰釉かか。外面無釉。18世紀中頃-後半。
第58図	3		瀬戸・美濃陶器	香炉	V区2・3号溝埋没土中	1/3	-	(8.0)	-	灰白	残存部側1箇所貼付。体部外面鉄絵。体部外面下位張る。江戸時代。
第58図	4	PL. 211	瀬戸・美濃陶器	煎じよく	V区3・4号溝埋没土中	1/4	(6.0)	(5.6)	3.4	灰白	内面から体部下位灰釉。底部右回転糸切無調整。江戸時代。
第58図	5		瀬戸・美濃磁器	碗	V区3・4号溝埋没土中	1/4	(12.6)	-	-	白	内外面染付。口縁部内面唐文帯。兵須の発色は濃い。19世紀。
第58図	6		瀬戸・美濃磁器	碗	V区1・2号溝埋没土中	1/3	-	(4.0)	-	白	内面面縁を除き型紙摺。近現代。
第58図	7		製作地不詳陶器	碗	V区2号溝埋没土中	底部	-	4.0	-	白	面縁を除き型紙摺。近現代。
第58図	8		製作地不詳陶器	鉢	V区2・3号溝埋没土中	口縁部破片	(13.9)	-	-	白	内外面花文文。口縁部必須で塗る。近現代。
第58図	9		瀬戸・美濃磁器	湯飲み	V区3・4号溝埋没土中	1/4	(5.6)	(3.8)	5.6	白色	内面から口縁部暗灰色。高台内湾透明釉。外面クローーム青磁釉。口縁部外面黒色の上絵。近現代。
第58図	10		在地系土器	焙烙	V区3・4号溝埋没土中	小片	-	-	-	にぶい	器表暗灰色。体部内湾。外面体部下から底部外面型別。器表にきらきら光る微細な鉱物付目立つ。近現代。
第61図	1	PL. 211	瀬戸・美濃陶器	戸車	V区1号溝埋没土中	2/3	6.2	7.0	1.7	灰白	孔内面と外縁摩滅し、釉が認められない。外縁部分的に片減りが認められる。江戸時代以降。

図番号	写真	種別	器種	出土位置	残存	口径cm	底径cm	器高cm	色調	成形と調整の特徴および遺物の時期
第61図	2	肥前磁器	碗	IX区1号溝埋没土中	1/4	-	4.4	-	白	外面染付。高台内1重輪内に不明銘。波佐見系。江戸時代。
第61図	3	中国磁器	皿	IX区1号溝埋没土中	1/4	-	(6.0)	-	白	内外面染付。端反皿である。15-16世紀。
第61図	4	美濃陶器	尾呂茶碗	IX区1号溝埋没土中	底部	-	4.9	-	灰	内面から高台筋釉。内面裏面灰釉流れる。高台筋以下酸化粧。18世紀。
第61図	5	美濃陶器	皿	IX区1号溝埋没土中	1/6	(11.8)	(6.0)	1.6	灰白	内面中央以下回転轆削り。内面から高台筋釉。底部内面高台の重ね焼き痕残る。高台筋部に糸切り痕残る。17世紀中頃-後半。
第61図	6	美濃陶器	尾呂茶碗	IX区1号溝埋没土中	底部	-	5.8	-	灰白	内面から外部外面筋釉。高台から高台内鉄化粧。高台径やや大きくシャープに作る。内面裏面灰釉ごく一部にかかると。17世紀末-18世紀前半。
第61図	7	瀬戸・美濃陶器	鉢	IX区1号溝埋没土中	底部片	-	(14.2)	-	黄灰	底部外面筋釉。内面から高台外面筋釉。薄く施釉。17世紀-18世紀前半。
第61図	8	美濃陶器	徳利	IX区1号溝埋没土中	1/2	-	(5.5)	-	灰	外部外面回転轆削り。外部外面から高台内鉄化粧。18世紀後半-19世紀前半。
第61図	14	肥前磁器	兵器手碗	IX区2号溝埋没土中	1/3	-	(5.0)	-	灰白	内外面灰釉。貫入はいる。17世紀後半。
第61図	15	肥前磁器	碗	IX区4号溝埋没土中	1/2	-	4.0	-	白	外面花文染付。19世紀前半-中頃。
第65図	1	肥前磁器	鉢	IX区遺構外	底部片	-	(8.0)	-	浅黄	京焼風陶器。内面鉄化粧。内面貫入のはいる透明釉。高台内「木下跡」押印。17世紀後半。
第81図	1	龍泉窯系青磁	皿	II中央区中世面遺構外 91-1176 III層中	1/6	-	(7.0)	-	青磁釉をやや厚くかけた後、高台筋部の釉を削り取る。露胎部との境は明赤褐色に発色する。外部外面に片切り彫りによると考えられる文様があるが小片のため不明瞭。いわゆる口赤の口赤と同時期か。	
第81図	2	龍泉窯系青磁	碗	II中央区中世面遺構外	口縁部小片	-	-	-	片切り彫りによる筋運弁文碗。森田・横田分類 I-5-a類。	
第81図	3	中国白磁	皿	II中央区中世面遺構外	底部小片	-	-	-	平底全面筋釉で底部外面の釉は薄い。底部内面縁線。稜をなして窪む。いわゆる口赤の口赤である。森田分類A群。13世紀中頃-14世紀前半。	
第81図	4	在地系土器	片口鉢	II中央区中世面遺構外 91-120 III層中	口縁部片	-	-	-	断面中央から外へ黄褐色、灰白色、暗灰色。口縁部縁く外反。口縁部内側に折り返したような、接合痕の低い段差が起る。19世紀か。	
第81図	5	古瀬戸	瓶類	II中央区中世面遺構外	体部片	-	-	-	外面面による筋文後、灰釉施釉。貫入する。古瀬戸中期か。	
第85図	1	在地系土器	片口鉢	II北区遺構外	口縁部片	-	-	-	黄灰	断面暗灰色。器表から器表付近黄灰色。口縁部やや内湾し、端部尖り気味で上面に向く。片口部部残存。14世紀中頃。
第85図	2	在地系土器	片口鉢	II北区遺構外	口縁部片	-	-	-	黄灰から赤褐色	器表摩滅。体部から口縁部外反。口縁部上面平坦。摩滅のため端部内面の突出は不明。15世紀。
第85図	3	尾張陶器	片口鉢	II北区遺構外	口縁部片	-	-	-	灰白	口縁部小さく外反。内面自然釉薄くかかる。尾張型。中世。
第86図	1	在地系土器	すり鉢	II北区15号溝埋没土中	体部下位片	-	-	-	灰	内面木瓜状のすり目を施す。中世。
第88図	1	在地系土器	内耳鍋	III北区As-8下水田面	口縁部片	-	-	-	にぶい黄褐色	外面器表黒色。外反部欠損。口縁部小さく内湾し、端部平坦。口縁部上位やや内湾。中世。
第88図	2	在地系土器	内耳鍋	III北区As-8下水田面	口縁部片	-	-	-	にぶい黄褐色	器表摩滅。口縁部外反し、屈曲部内面をなす。内面屈曲部の段差はない。中世。
第88図	3	在地系土器	内耳鍋	III北区As-8下水田面	口縁部片	-	-	-	灰	還元炎。口縁部横撫で。外反部欠損。中世。
第90図	1	龍泉窯系青磁	碗	IV北区遺構外III層中	口縁部片	-	-	-	灰白	片切り彫りによる運弁文。鏡不明瞭。横田・森田分類 1-5-a類。
第91図	1	在地系土器	片口鉢	V南区遺構外III層中	口縁部片	-	-	-	黄灰	断面中央暗灰色。器表付近黄灰色。口縁部尖る。中世。
第93図	1	在地系土器	皿	VI区As-8混土水田大ア7せ上層	1/2	(7.3)	4.8	1.8	にぶい黄褐色	底部左回転糸切無調整。残存部の口縁部筋付近全てに油もしくは油煙付着し、灯火としての使用を伺わせる。中世。
第99図	1	在地系土器	片口鉢	IX区遺構外III層中	口縁部片	-	-	-	灰	片口部の一部が残る。口縁部外面端部付近のみ横撫で。口縁部内面に大きく突き出るが、外面の張り出しは小さい。端部上面小さい段をなす。中世。
第99図	2	在地系土器	内耳鍋	IX区遺構外III層中	体部片	-	-	-	褐灰	還元炎焼成。体部下片。内面撫で。外面下位一部筋削り。丸底の可能性高い。中世。

2. 金属製品観察表

図番号	写真	種別	器種	出土位置	残存	長さmm	幅mm	厚さmm	重さg	材質	成形と調整の特徴および遺物の時期
第16図	5	金属製品	煙管 雁首	II南区遺構外	火皿	-	-	-	-	銅	脂返以下は欠損。
第16図	6	金属製品	猪俵か	I中央区遺構外	軸端部欠	34.6	34.5	-	-	銅鉄	軸先端部欠損。おもり部周縁は上面水平となり、軸に向かつてすり鉢状をなす。銅鉄製。
第21図	8	金属製品	煙管 雁首	II中央区遺構外	一部欠損	41.7	14.8	8.4	-	銅	火皿径14.8mm。小口径8.4mm。頸部は小口から次第に細くなり脂返しに至る。火皿はやや大きい。軸着部明瞭。
第21図	9	金属製品	煙管 吸口	II中央区遺構外	完形	75	10.0	4.3	-	真鍮製か	全長75mm。雁字側直径10mm。吸口直径3mmと細く長い。小口から次第に細くなり、口付付近やや太くなる。軸着部明瞭。真鍮製か。
第21図	10	金属製品	煙管 吸口	II中央区遺構外	破片	-	-	3.0	-	真鍮製か	狭義の吸口部。小口側から次第に細くなり口付に至る。軸着部明瞭。真鍮製か。
第21図	11	金属製品	釘	II中央区遺構外	完形	75.5	7.7	7.8	-	鉄	断面方形の鉄釘。先端は尖らず片お状に仕上げられる。頸部は上部から叩きつぶしたような形状を呈する。
第21図	12	金属製品	円弾	II中央区遺構外	完形	13.38	-	13.48	-	鉛	鉛製円弾であろう。湯口不明。溝れや擦れ痕は認められない。
第29図	3	金属製品	葉莖	IV北区2号復旧溝埋没土中	端部欠損	-	-	-	-	銅	ピアワイヤ。後部直径12.0mm。ピンは3.2mm突き出る。ピン直径2.21mm。前端部付近の厚み0.55-0.57mm。ピン先端は下端に達しており、発射された可能性もある。後部は無銘。
第42図	4	金属製品	葉莖	IV南区遺構外	端部欠損	-	-	-	-	銅	センターファイヤー。前面側欠損。後部直径11.74mm。後部の銘不詳。
第51図	5	金属製品	煙管 吸口	VI区6号溝埋没土中	完形	69	11	8	-	真鍮製か	小口径11cm。口付後0.8cm。口付部手前できびれる。軸着部削りかれ、小口付近ひびか入る。真鍮製か。
第51図	6	金属製品	煙管 吸口	VI区6号溝埋没土中	完形	72	10	7	-	真鍮製か	小口径10cm。口付後0.7cm。口付端部は包み込およびよに曲げ、内径1.7mmとする。小口部は直線的で肩部は稜をなし、狭義の吸口は中央が細くくびれる。軸着部削りかれ。真鍮製か。
第61図	9	金属製品	煙管 吸口	IX区1号溝埋没土中	小口欠損か	-	-	-	-	真鍮製か	口付付近折れ曲がり、小口は欠損か。小口付近溝れる。軸着部明瞭。真鍮製か。

4. 石製品観察表

図	番号	写真	種別	器種	出土位置	残存	長さmm	幅mm	厚さmm	重さg	材質	成形と調整の特徴および遺物の時期
第81図	6	Pl. 211	金属製品	不詳	II 中央区中世面遺構外91-N-156 III層中	不詳	-	-	-	-	鉄	鉄の残存は横一部のみで、割れ口に錆の重層構造がみえ、鍛造品と考えられる。図示した部分は砂が錆で固まった部分である。砂の塊に低く直線的な立面上がりがあり、この部分が鉄製品の形状を反映していると考えられる。中央部縦方向の割れ口にも平坦面があり、中心線に沿って裏面にも延びていると推定される。全体形状不明。
第117図	7	Pl. 212	金属製品	鎌	I 北区遺構外VI層中	破片	-	-	2.4	-	鉄	鉄鎌の基部片と考えられる。刃部側は基部を除き欠損。
第123図	7	Pl. 213	金属製品	釘	III区3号住居北部床面直上	中央部	49	8	8	-	鉄	断面方形の鉄製。釘であろう。
第132図	3	Pl. 213	金属製品	釘	III区11号土坑中央部+北部床面直上	ほぼ完形	65	7	7	-	鉄	先端部はほぼ直角に曲がり、先端僅かに欠損。断面方形。頭部は叩き伸ばして直角に近く曲げる。
第191図	18	Pl. 220	金属製品	不詳	III北区11-N-46VII層中	完形	17	16	2.4	-	銅もしくは銅との合金	径2.4mmの合金。径2.4mmの細棒を「U」字状に曲げる。軟らかく曲がりやすい。

3. 銭貨観察表

図	番号	写真	種別	器種	出土位置	残存	外径mm	厚さmm	重さg	成形と調整の特徴および遺物の時期
第16図	1	Pl. 207	銭貨	元□黄	I 南区遺構外	一部欠	23.75~24.07	1.15~1.30	2.06	北宋初鑄。
第16図	2	Pl. 207	銭貨	熙寧元寶	I 区表面採集	完形	23.90~23.51	1.19~1.25	2.42	篆書。北宋、1068年初鑄。
第16図	3	Pl. 207	銭貨	熙寧元寶	I 北区遺構外	一部欠	24.90~24.35	0.99~1.21	2.12	元の一部欠損。篆書。北宋、1068年初鑄。
第16図	4	Pl. 207	銭貨	真永通寶	I 南区遺構外	完形	24.44~24.28	1.19~1.27	3.27	古篆永。
第21図	13	Pl. 208	銭貨	淳化元寶	II 南区遺構外	完形	24.51~24.49	1.05~1.14	2.69	真書。北宋、990年初鑄。右側やや湾曲する。
第21図	14	Pl. 208	銭貨	咸平元寶	II 南区遺構外	完形	24.82~24.78	1.09~1.19	3.41	真書。北宋、998年初鑄。
第21図	15	Pl. 208	銭貨	元豐通寶	II 中央区遺構外	完形	24.32~23.98	1.30~1.45	3.53	篆書。北宋、1078年初鑄。方孔を星形に加工。
第21図	16	Pl. 208	銭貨	元豐通寶	II 南区遺構外	完形	23.43~23.32	1.03~1.12	1.97	篆書。北宋、1078年初鑄。
第21図	17	Pl. 208	銭貨	真永通寶	II 中央区遺構外	完形	23.49~23.52	1.13~1.16	2.15	新篆永。
第21図	18	Pl. 208	銭貨	不詳	II 南区遺構外	完形	24.25~24.50	1.08~1.31	2.69	判断不能。
第21図	19	Pl. 208	銭貨	真永通寶	II 南区遺構外	完形	25.19~25.21	1.11~1.28	2.96	文銭。中央部で曲がる。
第21図	20	Pl. 208	銭貨	1朱銀	II 中央区遺構外	完形	17.43~10.22	1.87~1.98	2.62	文政12年(1829)初鑄。額面は「以十六換一兩」と表記。「銀座常是」の左上に小さい「定」の刻印。
第27図	2	Pl. 208	銭貨	熙寧元寶	III 南区1号溝11-E-9(底面上5cm)	完形	23.57~23.65	1.23~1.39	2.00	篆書。北宋、1068年初鑄。
第27図	3	Pl. 208	銭貨	熙寧元寶	III 南区1号溝埋没土中	2/3	24.56	1.04~1.15	-	篆書。北宋、1038年初鑄。「通」部分欠損。
第33図	11	Pl. 208	銭貨	治平元寶	III 北区遺構外	完形	23.54~23.61	1.16~1.25	2.99	真書。北宋、1064年初鑄。
第33図	12	Pl. 208	銭貨	□宋通寶	III 北区遺構外	1/4欠	24.47	1.07~1.12	-	皇宋通寶の可能性高い。
第33図	13	Pl. 209	銭貨	文久永寶	III 北区遺構外	一部欠	25.79~26.06	0.80~0.91	2.08	真書。4文銭。文久3(1863)年~慶応元(1865)年7鑄造。
第33図	14	Pl. 209	銭貨	真永通寶	III 北区遺構外	完形	21.85~21.75	1.01~1.12	1.38	額による劣化や薄い。
第33図	15	Pl. 209	銭貨	真永通寶	III 南区遺構外	完形	22.93~22.90	1.02~1.10	2.28	新篆永。
第33図	16	Pl. 209	銭貨	真永通寶	III 北区遺構外	完形	23.04~23.23	1.06~1.16	2.38	新篆永。
第35図	10	Pl. 209	銭貨	政和通寶	IV 北区蛭塚埋没土中	完形	23.50~23.50	1.19~1.30	1.87	篆書。北宋、1111年初鑄。額による劣化や薄い。
第38図	21	Pl. 209	銭貨	文久永寶	IV 南区1号溝埋没土中	完形	26.90~27.13	1.17~1.26	3.99	草書。4文銭。文久3(1863)年~慶応元(1865)年7鑄造。
第38図	22	Pl. 210	銭貨	真永通寶	IV 南区1号溝埋没土中	完形	24.88~24.70	1.17~1.24	3.17	額によりやや劣化。新篆永か。
第38図	23	Pl. 210	銭貨	真永通寶	IV 南区1号溝埋没土中	完形	28.33~28.42	1.21~1.26	4.10	4文銭。11波。鉄分を含むよううで磁石に反応する。
第38図	24	Pl. 210	銭貨	真永通寶	IV 南区1号溝埋没土中	完形	22.37~22.51	1.21~1.24	2.10	新篆永。
第44図	7	Pl. 210	銭貨	五十銭銀貨	V 北区6号溝埋没土中	完形	31.17~31.04	1.94~1.97	12.78	通称。龍50銭銀貨。「大日本」「明治三十年」「50SENI」の文字。
第46図	4	Pl. 210	銭貨	祥符元寶	V 北区遺構外21-0-146	完形	23.13~22.76	1.16~1.31	2.53	北宋、1008年初鑄。
第46図	5	Pl. 210	銭貨	真永通寶	V 北区遺構外	完形	22.47~22.50	1.11~1.19	2.75	新篆永。方孔を星形に加工。
第46図	6	Pl. 210	銭貨	真永通寶	V 北区遺構外	完形	24.52~24.30	1.00~1.02	2.14	新篆永。
第46図	7	Pl. 210	銭貨	真永通寶	V 区表面採集	完形	28.24~28.23	1.05~1.12	3.60	4文銭。11波。鉄分を含むよううで磁石に弱くつく。
第4図	3	Pl. 211	銭貨	真永通寶か	VI 区遺構外	完形	24.42~24.59	1.40~1.56	3.44	鉄分を含むよううで磁石に弱くつく。
第81図	12	Pl. 212	銭貨	淳化元寶	II 中央区中世面遺構外91-E-186 III層中	完形	24.64~24.62	1.07~1.16	2.97	草書。北宋、990年初鑄。

4. 石製品観察表

図	番号	写真	種別	器種	出土位置	残存	長さcm	幅cm	厚さcm	重さg	石材	成形と調整の特徴および遺物の時期
第23図	1	Pl. 208	礎石	礎石	III区6号土坑埋没土中	破片	(5.1)	(6.5)	1.5	63.7	砂岩	偏平円盤を用いる。表面も摩耗痕・削跡打痕。
第26図	6	Pl. 208	石製品	切り砥石	III 南区蛭塚埋没土中	上端部欠損	(10.8)	3.9	1.9	116.1	デイスカイト	4面使用。両側面に刃ならし傷。
第28図	2	Pl. 208	礎石	礎石	III区1号溝埋没土中	完形	13.5	9.4	2.8	374.8	デイスカイト凝灰岩	偏平円盤を用いる。削跡・向端の小口部に敲打痕。
第33図	17	Pl. 209	石製品	礎石	III 南区遺構外	完形	(6.1)	(6.5)	(1.2)	65.4	輝緑凝灰岩	背面側は海苔のみ痕跡が残る。
第33図	18	Pl. 209	礎石	礎石	III 北区遺構外	完形	15.0	6.2	4.5	671.5	ホルンフェルス	棒状。小口部両端を粗く削離。
第25図	11	Pl. 209	礎石	礎石	IV 北区蛭塚埋没土中	完形	18.2	5.5	2.5	850.2	粗粒輝石安山岩	偏平棒状盤を用いる。上端側両側縁が敲打され、ノッチ状に窪む。ノッチ部は巻縛することを意図しているように見える。

図	番号	写真	種別	器種	出土位置	残存	長さ cm	幅 cm	厚さ cm	重さ g	石材	成形と調整の特徴および遺物の時期
第37図	1	Pl. 209	石製品	碓	IV南区1号溝埋没土中	底部破片	(5.0)	(4.3)	0.8	11.4	珪質粘板岩	底面部破片。小口部には折断時の斜位線条痕が残る。側面は折断後、磨き整形。
第37図	2	Pl. 209	石製品	切り砥石	IV南区1号溝埋没土中	破片	(7.3)	(3.4)	2.4	73.6	流紋岩	背面のみ使用面が残る。右側面には粗い線条痕が等間隔にある。切断痕か、折断後側面は磨き整形。
第37図	3	Pl. 209	石製品	切り砥石	IV南区1号溝埋没土中	両端部欠損	(6.9)	3.2	2.1	54.0	流紋岩	使用面等は風化が激しく不明。
第37図	4	Pl. 209	石製品	切り砥石	IV南区1号溝埋没土中	上端部欠損	(7.1)	4.0	2.9	119.0	砥沢石	4面使用。小口部は磨き整形。下端部欠損。
第37図	5	Pl. 209	石製品	切り砥石	IV南区1号溝埋没土中	両端部欠損	(4.6)	3.5	3.2	64.8	流紋岩	表裏面を使用。両側縁は磨き整形。下端部欠損。
第42図	3	Pl. 210	石製品	火打ち石	IV北区遺構外	完形	2.1	2.0	1.2	4.5	玉髓	破片。角磨縁部が敲打され、濡れる。
第46図	3	Pl. 210	石製品	火打ち石	V区遺構外21-0-136	完形	(7.5)	(3.2)	1.4	43.9	珪質粘板岩	背面のみ使用面が残る。右側面はノミ状の工具痕が残る。裏面側は摩耗しており、破損後も使用。
第61図	10	Pl. 211	石製品	切り砥石	IX区1号溝埋没土中	両端部欠損	(3.6)	(2.6)	1.4	16.9	デイスサイト	背面のみ使用。破損品の再利用であり、破損面は磨き整形。
第61図	11	Pl. 211	石製品	火打ち石	IX区1号溝埋没土中	完形	3.4	3.6	2.5	23.9	石英	分割際、エッジが敲打され、小割離痕が連続する。
第61図	12	Pl. 211	石製品	火打ち石	IX区1号溝埋没土中	完形	1.9	3.1	1.4	9.4	石英	破片。両サイドのエッジを機能部とする。エッジは濡れる。
第61図	13	Pl. 211	石製品	火打ち石	IX区1号溝埋没土中	完形	8.3	4.9	5.0	294.0	石英	分割際、分割して生じたエッジを打痕。
第65図	2	Pl. 211	石製品	石臼	IX区表面採集	上白破片	(径18.3)		10.5	2650.0	粗粒輝石安山岩	上白小破片であり、分割不明。割溝は雑に切り直され、方向性が乱れる。
第81図	7	Pl. 211	石製品	茶臼	II中央区中世面遺構外91-井-19C Ⅱ層中	下白破片	(径32.0)		(5.0)	192.6	粗粒輝石安山岩	下白受り部破片。やや多孔質石材を用い、受り部の整形は雑。
第81図	11	Pl. 212	石製品	垂飾り	II中央区中世面遺構外	完形	2.5	2.2	0.6	4.2	蛇紋岩	小型、薄型偏平縁の上端側に孔を穿つ。表裏面とも多方向に粗く研磨。
第85図	4	Pl. 212	石製品	切り砥石	II南区遺構外	両端部欠損	(5.7)	(4.5)	1.7	67.7	砥沢石	4面使用。背面側の両サイドは刀子精列器により面取り整形。上下両端を欠損する。
第131図	15	Pl. 213	石製品	礫砥石	III区1号井戸埋没土中	完形	10.6	16.9	10.8	2255.4	粗粒輝石安山岩	背面のみ使用。使用面に粗い斜位線条痕。
第156図	2	Pl. 217	礫石器	敲石	I北区39号溝埋没土中 Ⅱ層中(2号島嶼部)	端部欠損	16.7	6.3	2.7	380.9	雲母石英片岩	扁平縁状を使用している。左右両辺が敲打・磨耗。小口部両端に敲打痕。
第160図	17	Pl. 217	石製品	勾玉	I北区遺構外91-46 Ⅱ層中	完形	3.1	1.7	0.8	5.5	玉髓	片側穿孔。裏面側は薄くレンズ状に刺磨。穿孔時剥落のようだが、リングは頭部背面側から及んでおり、穿孔前の素材面とするべきか。
第187図	1	Pl. 220	石製品	勾玉	III北区33号溝埋没土中 2.5cm	完形	2.1	1.3	0.6	2.5	ようろう石	表裏面は光沢を帯び平坦、頭部・内湾した腹面等に面取り整形面を残す
第190図	7	Pl. 220	石製品	白玉	III北区34号溝埋没土中 中	完形	0.5	1.0	0.4	0.7	滑石	側面微凸研磨痕、上下両端は折断後に粗く研磨
第191図	16	Pl. 220	石製品	管玉	III区遺構外11-L-36Ⅲ層中	完形	1.6	0.4	0.4	0.4	安山岩類灰岩	暗緑色。両側穿孔、側面は面取り整形後に研磨。上下両端の小口部は分割・研磨仕上げ
第191図	17	Pl. 220	礫石器	敲石	III北区遺構外	破片	(7.5)	(4.8)	(3.1)	111.2	ホルンフェルス	小口部に打痕・衝撃剥離痕。破損は凍結等による。
第210図	1	Pl. 221	礫石器	敲石	V北区71号c Ⅱ底面上 5cm	完形	7.9	2.5	1.5	45.2	砂岩	棒状縁を用いる。小口部表裏面を粗く打ち欠き、エッジを作出。エッジは濡れる。
第223図	61	Pl. 223	礫石器	敲石	V北区遺構外21-P-146 Ⅱ層中	完形	18.4	6.1	4.1	547.9	変質デイスサイト	棒状縁を用いる。上下両端の小口部が敲打され、平坦面形成。
第223図	63	Pl. 223	石製品	管玉	V区遺構外	完形	0.8	0.7	0.8	0.7	蛇紋岩	青緑色。破損後側面に小孔(両側穿孔)を穿つ。
第246図	21	Pl. 224	礫石器	敲石	VI区18号溝埋没土中	完形	23.2	8.3	4.6	1236.5	変質デイスサイト	扁平長円縁を用いる。側縁の敲打痕が著しい。敲打時に破損、分割。

5. ガラス製品観察表

図	番号	写真	種別	器種	出土位置	残存	口径 cm	底径 cm	器高 cm	色調	成形と調整の特徴および遺物の時期
第50図	1	Pl. 210	ガラス製品	瓶	V区1号溝埋没土中	完形	1.91	18.3X 27.8	6.14	緑灰色透明	口径部内径1.3cm。気泡含み、底部厚み不均。体部横断面楕円形で、頸部以上円形。底部外面に☆印。側面に「B」、「J」の浮き文字。型痕は体部下端から頸部外面まで。
第50図	2	Pl. 210	ガラス製品	瓶	V区1号溝埋没土中	完形	1.78	2.67	3.34	黄褐色透明	型痕や気泡は認められない。口径部から頸部内面がすりガラス状を呈し、共蓋と考えられる。
第50図	3	Pl. 210	ガラス製品	瓶	V区1号溝埋没土中	完形	0.99	0.91	3.55	黄褐色透明	型痕や気泡は認められない。口径部栓か。
第50図	4	Pl. 210	ガラス製品	石蹴か	V区1号溝埋没土中	1/2	5.0	-	0.93	緑灰色透明	円盤状のガラス中央を型押しで覆ませ、中央部に文様を浮き出させる。文様不明。気泡含む。
第50図	5	Pl. 210	ガラス製品	石蹴か	V区1号溝埋没土中	1/2	3.6	-	0.75	オリーブ/灰半透明	表面の星状文を浮き出させ、その中に「忠勇」の浮き文字。表裏面擦れる。
第50図	6	Pl. 210	ガラス製品	石蹴か	V区1号溝埋没土中	1/2	5.4	-	0.58	明紫/淡透明	表面周囲の周縁状高まり内に旭日旗?と「藤」の浮き文字。気泡多く含む。
第51図	3	Pl. 211	ガラス製品	瓶	VI区6号溝埋没土中	完形	1.97	3.32	4.26	緑灰色透明	口径部内径1.5cm。小型のインク瓶状の形態。肩部分表面裏面に「MEIRO」の浮き文字。体部側面は一段低く作られ、ラベルが貼られていたであろう。ネジ蓋。底部は高台状を呈する。型痕は体部外面下端から口径部上端まで。気泡含み、底部厚み不均。
第51図	4	Pl. 211	ガラス製品	石蹴か	VI区6号溝埋没土中	一部欠	4.05	-	1.05	緑灰色透明	厚みがありドーム状を呈する。表に巴文や囀歯状などを型で表す。
第54図	1	Pl. 211	ガラス製品	瓶	VI区遺構外	口径部欠	1.10	-	5.68	無色透明	イチジウ状の丸蓋瓶で表面に「藤中兼 金丹」裏面に「連盛 大黒屋」の浮き文字。コルク栓であろう。体部厚さ10.4mm。体部幅33.0mm。型痕は口径部側面から体部側面に残る。
第54図	2	Pl. 211	ガラス製品	瓶	VI区遺構外	口径部欠	1.46	13.7X 2.53	5.93	瑠璃色透明	横断面扁平八角形の瓶。底部は高台状を呈する。型痕は体部下端から口径部外面に達するが、口径部は欠損のため不明。コルク栓であろう。気泡含み、底部厚み不均。
第58図	11	Pl. 211	ガラス製品	瓶	Ⅷ区2号溝埋没土中	完形	1.58	1.55	6.62	無色透明	口径部内径1.0cm。表面にヘルプ、裏面に「定置倉高台録」の浮き文字。津村敬天堂の健胃薬であろう。外面の型痕は体部外面から頸部外面まで。コルク栓であろう。気泡含み、底部厚み不均。広告資料から、ヘルプとしては古い瓶の可能性もある。
第223図	62		ガラス製品	小玉	V北区遺構外	完形	0.6	0.8	0.5	紺色	紺色。上下両端で折断後に側面を面取り整形。アルカリ石灰ガラスとされるものに近い。

図	番号	写真	種別	器種	出土位置	残存	口径cm	底径cm	器高cm	胎土	色調	焼成	成形と調整の特徴および遺物の時期
第131図	5	Pl. 213	須恵器	埴	Ⅲ区1号井戸埋没土中	ほぼ完形	12.3	5.3	3.9~5.0	B	にぶい黄橙	酸化	高台や口縁部の歪み著しい。轆轤右回転整形。底部内面蹴状輪軸目。高台貼り付け。高台内右回転系切り痕残る。体部下位内面蹴状亀裂が底部に沿って残る。
第131図	6		須恵器	埴	Ⅲ区1号井戸埋没土中	下半部(轆轤台部欠損)	-	-	-	B	灰黄	還元	断面中央灰白色。還元気味だが焼き締まりはない。貼り付け高台欠損。高台内右回転系切り痕残る。
第131図	7		土師器	甕	Ⅲ区1号井戸埋没土中	1/6	(15.2)	-	-	B	にぶい橙	酸化	口縁部横無で、口縁部外面屈曲部強い横無で、外面の横無で弱い部分には接合痕と蹴状亀裂残る。肩部外面蹴削り。
第131図	8		土師器	甕	Ⅲ区1号井戸埋没土中	1/8	(21.3)	-	-	B	にぶい黄褐	酸化	「コ」の字口縁部であるが、肩部外面の蹴削りにより肩の張りがない。口縁部横無で、口縁部中位外面には横無でが及ばず、蹴状亀裂と接合痕残る。肩部外面横無で。
第131図	9		須恵器	瓶	Ⅲ区1号井戸埋没土中	口縁部1/4、肩部1/4	(12.6)	-	-	A	黄灰	還元	焼き締まりない。口縁部外反し後に立ち上がる。
第131図	10		須恵器	甕か	Ⅲ区1号井戸埋没土中	甕部片	-	-	-	B	にぶい黄	酸化	断面にぶい橙褐色で器表のみ還元気味。焼き締まりない。断面方形に近い髷を貼り付ける。18と同一個体の可能性がある。
第131図	11		須恵器	甕	Ⅲ区1号井戸埋没土中	口縁部片	-	-	-	B	浅黄	酸化	断面にぶい橙褐色。口縁部縁部をなす。断面外面2条の浅い凹線通る。
第131図	12		須恵器	甕	Ⅲ区1号井戸埋没土中	肩部片	-	-	-	B	にぶい黄橙	酸化	外面器表と頸部内面器表のみ若干還元気味だが、大半はにぶい橙褐色。頸部外面下端に頸部貼り付け時の回転無で認められるが、他は調整痕不明。器表と割れ口やや摩滅する。
第131図	13	Pl. 213	須恵器	羽釜	Ⅲ区1号井戸埋没土中	口縁部片	(31.0)	-	-	B	にぶい橙	酸化	口縁部長い。断面三角形の窪貼り付け。残存部に窪貼りは認められない。
第131図	14		須恵器	不詳	Ⅲ区1号井戸埋没土中	台部片か	-	(18.0)	-	B	にぶい橙	酸化	器壁厚く外反する。瓶下端部か。
第131図	16		土師器	埴	Ⅲ区3号井戸埋没土中	1/6	(11.0)	-	-	B	橙	酸化	口縁部外反。器表摩滅し、調整痕不明。
第131図	17	Pl. 213	須恵器	埴	Ⅲ区3号井戸埋没土中	下半部	-	6.8	-	C	灰	還元	底部内面同心円状の輪軸目。高台貼り付け。高台内右回転系切り痕残る。
第131図	18		須恵器	甕か	Ⅲ区3号井戸埋没土中	甕部片	-	-	-	B	にぶい黄橙	還元	断面にぶい橙褐色で器表のみ還元気味。焼き締まりない。断面方形に近い髷を貼り付ける。10と同一個体の可能性がある。
第132図	3	Pl. 214	須恵器	埴	Ⅲ区115号土坑南西部底面上	ほぼ完形	12.8	5.9	3.4	B	灰	還元	焼き締まりやや弱い。体部縁く内湾し、口縁部小さく外反。底部右回転系切無調整。口縁部5mm×7mmの隙が抜け落ちて穴があく。
第132図	4	Pl. 214	須恵器	埴	Ⅲ区115号土坑北東隅底面上	1/6	(11.9)	(6.2)	3.3	B	灰	還元	焼き締まりやや弱い。底部右回転系切無調整。
第132図	5	Pl. 214	土師器	埴	Ⅲ区115号土坑北東隅底面上	ほぼ完形	12.3	8.8	3.3~3.6	A	橙	酸化	器形歪む。平底気味で体部から口縁部内湾気味に立ち上がる。口縁部端部小さく内湾。体部内面から口縁部外面横無で、体部外面横無で。体部内面蹴状亀裂残る。底部外面蹴削り。
第132図	6	Pl. 214	土師器	埴	Ⅲ区115号土坑北東隅底面上	3/4	11.8	-	3.8	A	にぶい黄橙	酸化	口縁部小さく歪み多し。丸底で体部から口縁部均一に内湾。横無での横で上げ部、内外面で一致する。口縁部外面下位横無で時の凹線通る。丸線は横無で無で上げ部で歪み通る。体部外面、整形時の歪みと蹴状亀裂残る。
第132図	7	Pl. 214	土師器	埴	Ⅲ区115号土坑中央部底面上	3/4	12.0	8.0	3.2	A	橙	酸化	口縁部に、窪か短かかった粘土紐を繋げた歪みか1方所認められる。体部内面から口縁部外面横無で。横無で無で上げ部外面で一致する。底部外面蹴削り。体部外面蹴状亀裂残る。
第132図	8	Pl. 214	土師器	埴	Ⅲ区115号土坑中央部底面上	1/4	(12.4)	-	-	B	にぶい橙	酸化	体部縁く外反し、口縁部短く立ち上がる。体部内面から口縁部外面横無で。体部外面顕著な蹴状亀裂多く残る。
第132図	9	Pl. 214	土師器	埴	Ⅲ区115号土坑中央部底面上	1/2	(11.9)	(8.0)	3.6	A	橙	酸化	体部は平底気味の底部から直線的に開く。口縁部端部小さく内湾。体部内面から口縁部外面横無で。外面体部以上蹴状亀裂残る。底部と体部の境不明瞭。体部から口縁部縁く内湾。体部内面から口縁部外面横無で。外面底部周縁から体部外面蹴状亀裂明瞭に残る。
第132図	10	Pl. 214	土師器	埴	Ⅲ区115号土坑北東隅底面上	1/4	(12.0)	(8.0)	3.3	A	橙	酸化	口縁部と体部の境不明瞭。体部から口縁部縁く内湾。体部内面から口縁部外面横無で。口縁部中位外面蹴状亀裂少量残る。体部上位横位窪削り、下半位窪削り。体部内面横無で無で。
第132図	11	Pl. 214	土師器	台付甕	Ⅲ区115号土坑東部底面上	1/3	(12.5)	-	-	B	橙	酸化	口縁部「コ」の字状。口縁部と上半外面の屈曲部強い横無で。口縁部中位外面蹴状亀裂少量残る。体部上位横位窪削り、下半位窪削り。体部内面横無で無で。
第132図	12	Pl. 214	土師器	台付甕	Ⅲ区115号土坑埋没土中	底へ台部上	-	-	-	B	橙	酸化	体部外面線状窪削り。台接合部横無で、底部内面横無で。
第133図	1	Pl. 213	須恵器	埴	Ⅲ南区20号土坑中央部底面上	ほぼ完形	14.2	6.2	5.3	C	黄褐	還元	部分的に酸化気味。体部内湾し、口縁部外反。轆轤右回転整形。高台貼り付け。高台内右回転系切り痕残る。
第133図	2	Pl. 213	須恵器	埴	Ⅲ区111号土坑南西部底面上	完形	13.2~13.7	7.0	4.9~5.2	A	灰白	還元	焼き締まりなりなく軟質。口縁部歪む。底部内面凹み多い。貼り付け高台。高台内右回転系切り痕残る。
第134図	1		土師器	埴	Ⅲ区89号ビツ埋没土中	破片	-	-	-	B	橙	酸化	体部内面から口縁部外面横無で。体部外面下半平子。体部外面上半蹴状亀裂多く残る。平底状。底部外面蹴削り。
第134図	2		土師器	鉢か	Ⅲ区91号ビツ埋没土中	口縁部片	(10.6)	-	-	D	灰褐	酸化	口縁部外反。口縁部横無で。頸部内面削り状の窪無で。外面体部以下窪削り。
第134図	3		須恵器	埴か	Ⅲ区94号ビツ埋没土中	口縁部片	-	-	-	A	灰	還元	焼き締まり弱い。口縁部端部小さく外反。
第134図	4		須恵器	埴か	Ⅲ区103号ビツ埋没土中	口縁部片	(14.0)	-	-	D	灰黄・にぶい黄橙	還元	口縁部端部付近酸化気味。焼き締まりなく軟質。口縁部小さく外反。
第134図	5		土師器	甕	Ⅲ区103号ビツ埋没土中	口縁部片	-	-	-	A	褐	酸化	小型台付「コ」の字口縁部である。口縁部横無で。口縁部外面屈曲部強い横無で。強い横無で間に蹴状亀裂残る。肩部外面横位窪削り。
第136図	1	Pl. 214	須恵器	埴	Ⅲ北区28号溝 29号溝との屈曲部底面上	完形	12.0	6.0	4.4	D	灰白からにぶい黄橙	酸化	口縁部と体部の境不明瞭。体部から口縁部縁く内湾。体部内面から口縁部外面横無で。口縁部中位外面蹴状亀裂少量残る。体部上位横位窪削り、下半位窪削り。体部内面横無で無で。
第136図	2	Pl. 214	須恵器	埴	Ⅲ北区28号溝東縁底面上	3/4	13.6	7.0	5.5	D	灰白	還元	一部にぶい黄褐色を呈し、完全に還元してはいない。口縁部外反。高台貼り付け。右回転轆轤整形。高台内右回転系切り痕残る。器表やや摩滅。
第136図	3	Pl. 214	須恵器	埴	Ⅲ南区28号溝西縁中段部底面上	口縁部1/2、底部完	(14.9)	6.5	5.2~5.5	D	灰白	還元	焼き締まりなく軟質。体部直線的に開き、口縁部外反。高台歪な貼り付け。高台内右回転系切り痕残る。口縁部歪む。
第137図	4	Pl. 214	須恵器	埴	Ⅲ南区28号溝埋没土中	口縁部1/4、下半部	(13.6)	6.4	5.0	D	灰	還元	焼き締まりなりなく軟質。体部直線的に開き、口縁部外反。高台貼り付け。高台内右回転系切り痕残る。
第137図	5	Pl. 214	須恵器	埴	Ⅲ南区28号溝南西部底面上	口縁部1/4、底部完	(14.4)	7.0	5.8	B	灰白	還元	焼き締まりなりなく軟質。体部直線的に開き、口縁部小さく外反。体部外面細かい轆轤目。高台貼り付け。高台内右回転系切り痕残る。
第137図	6	Pl. 214	須恵器	埴	Ⅲ南区28号溝埋没土中	口縁部1/4、底部1/2	(13.7)	(6.0)	5.0	D	外・内: 灰・黄褐	還元	右回転轆轤整形。体部内湾し、口縁部外反。口徑に比して高台径小さい。高台貼り付け。高台内右回転系切り痕残る。
第137図	7		須恵器	埴	Ⅲ南区28号溝埋没土中	1/2	-	7.0	-	D	灰白	還元	焼き締まりなく軟質。体部器壁厚く内湾。高台歪な貼り付け。高台内右回転系切り痕残る。
第137図	8		須恵器	埴	Ⅲ南区28号溝中央部底面上	体部1/2、底部ほぼ完	-	(5.7)	-	D	灰白	還元	焼き締まりなく軟質。体部外反。高台歪な貼り付け。磨滅により高台内切り離し痕不明瞭。

図	番号	写真	種別	器種	出土位置	残存	口径cm	底径cm	器高cm	胎土	色調	焼成	成形と調整の特徴および遺物の時期
第137図	9		須恵器	埴	Ⅲ北区28号溝東縁底面上 10.8cm	底部	-	6.3	-	D	灰白	還元	焼き締まりなく軟質。高台貼り付け。高台内回転系切り痕残る。器表摩滅。
第137図	10	Pl. 214	須恵器	皿	Ⅲ中央区28号溝埋没土中	底部	-	6.9	-	A	黄灰	還元	器壁や薄く焼き締まる。外面輪軸目顕著。高台貼り付け。高台端部凹線状に窪む。高台内右回転系切り痕残る。
第137図	11		須恵器	埴	Ⅲ中央区28号溝埋没土中	1/3	-	(6.7)	-	C	黒	還元	外面器表の一部灰白色で他は黒色。高台貼り付け。高台やや歪む。高台内右回転系切り痕残る。
第137図	12	Pl. 214	須恵器	環	Ⅲ南区28号溝埋没土中 11cm	1/4	(12.2)	-	-	D	にぶい赤褐	酸化	口縁部小さく外反。外面輪軸目細かい。底部切り離し技法不明。
第137図	13	Pl. 214	須恵器	環	Ⅲ南区28号溝北中部底面上 11cm	口縁部1/2、 底部完	(12.4)	6.5	3.7	D	黄灰	還元	焼き締まりなく軟質。口縁部外反。底部右回転系切り無調整。
第137図	14	Pl. 214	須恵器	環	Ⅲ南区28号溝北中部底面上 11cm	口縁部1/2、 底部完	(13.2)	5.8	4.0~ 4.3	B	灰白	還元	焼き締まりなく軟質。底径小さく体部開く。体部内湾し、口縁部外反。底部右回転系切り無調整。
第137図	15	Pl. 214	須恵器	環	Ⅲ南区28号溝南底部面上 5.7cm	1/2	-	(7.0)	-	A	灰	還元	焼き締まる。体部内湾。底部右回転系切り無調整。
第137図	16	Pl. 214	土師器	環	Ⅲ南区28号溝埋没土中	口縁部1 1/2、 底部	(11.9)	(6.4)	3.2	B	橙	酸化	口縁部外反。体部内面から口縁部外面横無で。体部外面破砕亀裂顕著に残る。底部外面輪軸目で、中央は無調整。底部外面中央の無調整部に破砕痕跡が残る。
第137図	17	Pl. 214	土師器	環	Ⅲ南区28号溝埋没土中	1/2	(11.9)	(7.9)	3.3	A	灰褐	酸化	口縁部外反し端部僅かに立ち上がり気味。体部内面から口縁部外面横無で。体部外面破砕亀裂顕著に残る。底部外面輪軸目で、中央は無調整。底部外面中央の無調整部に破砕痕跡が残る。
第138図	18	Pl. 214	灰釉陶器	埴	Ⅲ南区28号溝埋没土中	1/2	15.2	8.0	4.9	東濃か	灰白	還元	口縁部から体部灰釉滴掛け。口縁部端部折り返すように外反。高台貼り付け。
第138図	19	Pl. 214	須恵器	瓶	Ⅲ南区28号溝埋没土中	1/2	(8.9)	-	-	A	赤灰	還元	焼き締まるが比重は軽い。内面自然釉がかかる。口縁部外反し、器部上方につまみ上げる。
第138図	20	Pl. 214	灰釉陶器	瓶	Ⅲ南区28号溝中央部底面上 11.5cm	下半部	-	9.0	-	東濃か	灰白	還元	底部内面4カ所に火ぶくれ。高台貼り付け。高台内右回転系切り痕残る。体部外面下位回転部削り。
第138図	21	Pl. 214	須恵器	大口甕	Ⅲ南区28号溝中央部底面上 16.8cm	1/7	(25.5)	-	-	C	灰白	還元	頸部屈曲し、口縁部外反。口縁部上下につまみ出し縁帯をなす。
第139図	2	Pl. 214	土師器	高坏	Ⅲ北区29号溝東底部底面上 24.5cm	脚柱部	-	-	-	B	橙	酸化	細く長い脚部で中央部に影らみを持つ。器表摩滅。外面総位磨きか。
第139図	3	Pl. 214	須恵器	甕か	Ⅲ北区29号溝埋没土中	体部上位片	-	-	-	B	灰白	酸化	輪軸形跡。貼り付けた際に直径5mm程の孔を焼成前における。一部のため全体数や配置は不明。
第139図	4	Pl. 214	須恵器	甕か	Ⅲ北区29号溝西部底面上 13.5cm	1/4	-	(21.0)	-	B	にぶい黄褐	酸化	焼き締まりなく軟質。底部外方に広がる。
第139図	5	Pl. 215	須恵器	甕	Ⅲ北区29号溝西部底面上 8cm	口縁部1 部、 底部	(31.8)	-	-	CかD	橙	酸化	焼き締まりなく軟質。下部に行くに従い器壁厚みを増す。底部外面回転部削り。5と同一個体の可能性が高い。
第139図	6	Pl. 214	須恵器	甕	Ⅲ北区29号溝西部底面上 13.5cm	1/4	-	(17.0)	-	CかD	赤褐	酸化	同一個体の可能性が高い。
第140図	7	Pl. 215	土師器	環	Ⅲ北区29号溝埋没土中	1/4	(13.8)	-	-	A	橙	酸化	内面黒色処理。口縁部屈曲して外反し、端部小さくつまみ上げる。内面から口縁部外面横無で。底部外面無で。底部外面輪軸目削り。頸部外面凹線状に窪ませる。
第140図	8		土師器	環	Ⅲ北区29号溝埋没土中	1/6	(12.7)	-	-	A	橙	酸化	平底気味。体部直線的に開く。口縁部内湾。体部内面から口縁部外面横無で。底部外面輪軸目削り。体部外面破砕亀裂残る。
第140図	9	Pl. 215	須恵器	環	Ⅲ北区29号溝東底部底面上 10cm	2/3	12.2	(6.2)	4.0	D	灰白・灰	還元	焼き締まりなく軟質。体部内湾して開く。口縁部小さく外反。底部右回転系切り無調整。器表やや摩滅。
第140図	10	Pl. 215	須恵器	環	Ⅲ北区29号溝西部底面上 4cm	口縁部1/2、 底部2/3	12.8	6.1	3.4	C	褐灰	還元	焼き締まりなく軟質。体部内湾して開く。口縁部小さく外反。底部右回転系切り無調整。器表やや摩滅。
第140図	11		須恵器	環	Ⅲ北区29号溝埋没土中	1/6	(12.4)	(7.2)	3.4	A	黄灰	還元	焼き締まりなく軟質。外面器表のみ灰色。外面器表のみ灰色。底面右回転系切り無調整。
第140図	12	Pl. 215	須恵器	環	Ⅲ北区29号溝埋没土中	1/2	(12.4)	-	-	CかD	黒褐	還元	焼き締まりなく軟質。体部内湾して開き、口縁部水平に近く外反。器表摩滅。底部右回転系切り無調整。
第140図	13		須恵器	環	Ⅲ北区29号溝西部底面上 14.5cm	2/3	-	6.0	-	C	灰白	還元	焼き締まりなく軟質。体部内湾。底部右回転系切り無調整。
第140図	14		須恵器	環	Ⅲ北区29号溝東底部底面上 1.5cm	1/2	-	(6.4)	-	C	暗灰から黒	還元	内面器表の1部灰白色。焼き気味の焼成。焼き締まりなく軟質。
第140図	15		須恵器	埴	Ⅲ北区29号溝西部底面上 2.5cm	1/4	-	(6.2)	-	D	灰白	還元	器表暗灰色。器表焼き気味。焼き締まりなく軟質。貼り付け高台。高台欠損。高台内右回転系切り無調整。
第140図	16	Pl. 215	須恵器	埴	Ⅲ北区29号溝西部底面上 13.5cm	口縁部1部、 底部ほぼ完	(14.6)	(6.2)	4.6	C	暗灰	還元	器表約1/3黄灰色。体部から口縁部直線的に延び、端部丸く肥厚。貼り付け高台で2/3張り付け高台から剥がれる。高台内右回転系切り痕残る。
第140図	17		須恵器	埴	Ⅲ北区29号溝西部底面上 21.5cm	2/3	-	4.7	-	D	灰白	還元	焼き締まりなく軟質。整形が雑で底部凹凸自立。高台の貼り付け非常に雑で形状歪。器表摩滅著しい。体部下位の線、右回転系切り痕残る。
第140図	18		須恵器	埴	Ⅲ北区29号溝東底部底面上 8cm	1/2	-	(7.0)	-	C	灰白	還元	焼き締まりなく軟質。器表摩滅。高台貼り付け。高台内右回転系切り痕残る。
第140図	19		須恵器	埴	Ⅲ北区29号溝西部底面上 11cm	1/4	-	-	-	D	灰白	還元	器表暗灰色。器表焼き気味。焼き締まりなく軟質。貼り付け高台。高台欠損。高台内右回転系切り無調整。
第140図	20		須恵器	瓶類か埴	Ⅲ北区29号溝埋没土中	底部片	-	(9.6)	-	B	灰	還元	やや焼き締まる。底部内面螺旋状に輪軸目顕著に残る。高台貼り付け。高台内右回転系切り痕残る。体部外面下位回転部削り。
第140図	21	Pl. 215	須恵器	瓶	Ⅲ北区29号溝東底部底面上	底部	-	7.2	-	B	灰白	還元	器壁が厚い。
第140図	22	Pl. 215	須恵器	甕	Ⅲ北区29号溝埋没土中	口縁部小片	-	-	-	B	灰	還元	硬質に焼き締まる。外面幅広の波状文。
第140図	23	Pl. 215	須恵器	甕	Ⅲ北区29号溝東底部底面上 23.5cm	口縁部片	-	-	-	A	灰	還元	断面中央にぶい橙色で中心部まで還元していない。外面波状文。
第141図	1	Pl. 215	須恵器	環	Ⅲ北区31号溝東底部底面上	1/2	(11.8)	(7.0)	3.1~ 3.6	A	灰白	還元	夾雑物少なく密着な胎土。焼き締まる。体部下位外面側に厚くなる。口縁部ゆるく外反。口縁部歪む。底部右回転系切り無調整。
第144図	4		須恵器	環	Ⅲ南区7号土坑底面上	1/2	-	(6.6)	-	B	灰	還元	底部右回転系切り無調整。体部外面輪軸目顕著。

図	番号	写真	種別	器種	出土位置	残存	口径cm	底径cm	器高cm	胎土	色調	焼成	成形と調整の特徴および遺物の時期
第144図	5	Pl. 215	須恵器	杯	Ⅲ区遺構外1-M-196	1/4	(12.0)	(5.2)	3.9	B	灰白	還元	焼き締まり弱い。口縁部外反。摩滅のため底部切り履し技法不明。
第144図	6		須恵器	杯	Ⅲ区39号溝埋没土中	1/3	-	(5.9)	B	灰	灰	還元	やや焼き締まる。底部右回転系切無調整。
第144図	7		須恵器	血か	Ⅲ区遺構外	底部	-	6.2	B	灰	灰	還元	やや硬質に焼き締まる。体部直線的に開く。底部右回転系切無調整。
第144図	8		須恵器	杯	Ⅲ南区遺構外	1/2	-	(5.3)	A	黄灰	黄灰	還元	焼き締まりなく軟質。底部左回転系切無調整。
第144図	9		須恵器	杯	Ⅲ北区遺構外	1/2	-	6.0	D	黄灰	黄灰	還元	焼き締まりなく軟質。底部右回転系切無調整。体部内面黒色物薄く付着。
第144図	10		須恵器	杯	Ⅲ区39号溝埋没土中	1/2	-	(5.8)	A	にぶい黄橙	にぶい黄橙	酸化	焼き締まりなく軟質。底部右回転系切無調整。
第145図	11	Pl. 215	須恵器	碗	Ⅲ区遺構外1-M-196	3/4	17.2	6.3	7.0~7.2	C	灰白・黒	燻し	1部灰白色、大部分は黒色。大型の碗で体部内湾し口縁部外反。貼り付け高台、高台内右回転系切り履残る。外面輪軸目細かく明瞭。高台貼り付け。器蓋摩滅。
第145図	12		須恵器	碗	Ⅲ北区11号溝埋没土中	底部	-	(7.4)	D	にぶい黄橙	にぶい黄橙	酸化	内面内湾色で腫し気味。焼き締まりなく軟質。体部直線的に開く。高台貼り付け。高台内右回転系切り履残る。高台端部摩滅。
第145図	13		須恵器	碗	Ⅲ区遺構外	下半部	-	6.4	D	にぶい褐・褐灰	にぶい褐・褐灰	還元	やや硬質に焼き締まる。内湾気味の高台を貼り付け。
第145図	14		須恵器	碗	Ⅲ区遺構外	1/4	-	(7.1)	B	黄灰	黄灰	還元	焼き締まりなく軟質。右回転輪軸整形。高台貼り付け。高台中央に右回転系切り履残る。
第145図	15	Pl. 215	須恵器	碗	Ⅲ区遺構外1-M-196	底部	-	7.9	C	灰	灰	還元	焼き締まりなく軟質。高台はにぶい橙で完全な還元ではない。焼き締まりなく軟質。高台貼り付け。高台の平面形は楕円形。高台内面右回転系切り履残る。
第145図	16		須恵器	碗	Ⅲ南区遺構外	底部	-	6.9~7.4	D	褐灰	褐灰	還元	断面白色。器表のみ灰色から暗灰色。焼き締まりなく軟質。内外面輪軸目明瞭。内縁の輪軸目凸部摩滅。
第145図	17		須恵器	杯か	Ⅲ南区遺構外	1/7	(12.9)	-	A	灰	灰	還元	やや焼き締まる。高台貼り付け部で削がれる。高台内と削がれ部に右回転系切り履残る。高台脇強い回転輪軸でにより窪み、明瞭な接をなす。
第145図	18		須恵器	碗	Ⅲ北区遺構外	底部	-	-	B	灰白	灰白	還元	焼き締まりなく軟質。高台貼り付け。高台内周縁、高台貼り付け時の撫でつけにより凹線状に窪む。
第145図	19		須恵器	瓶類	Ⅲ区遺構外	1/2	-	(9.8)	B	黄灰	黄灰	還元	断面中央灰白色。器表付近にぶい橙。器蓋灰黄色。輪軸整形。体部上位外面に薄く鋳貼り付け。口縁部外反。口縁部欠損。
第145図	20		須恵器	甔	Ⅲ北区遺構外(Hトレンチ)	体部上位片	-	-	B	灰白	灰白	酸化	内に直径6mmの溝状穿孔1カ所残存。
第145図	21		土師器	杯	Ⅲ南区遺構外	1/8	(13.3)	-	B	橙	橙	酸化	内面器蓋の摩滅著しく、底部外面の器蓋摩滅。口縁部外面横撫で。底部外面磨削りたが単位と方向不明瞭。
第145図	22	Pl. 215	土師器	杯	Ⅲ区遺構外	1/4	(11.8)	-	3.3	A	橙	酸化	器蓋物少なく器壁薄い。平底気味。体部から口縁部直線的に開く。体部内面から口縁部外面横撫で。体部外面破綻電裂多く残る。底部外面磨削り。底部内面輪軸目凸部は窪み凸部は窪み。
第145図	23		土師器	杯	Ⅲ区遺構外	1/5	(12.2)	-	A	浅黄橙	浅黄橙	酸化	器蓋物少なく器壁薄い。平底気味。体部から口縁部直線的に開く。体部内面から口縁部外面横撫で。体部外面破綻電裂多く残る。底部外面磨削り。
第145図	24		土師器	甔	Ⅲ区5号溝埋没土中	1/9	(16.1)	-	A	にぶい黄	にぶい黄	酸化	器蓋やや厚い。口縁部「コ」の字状を呈する。口縁部横撫で。
第145図	25		土師器	甔	Ⅲ区遺構外11-K-16	口縁部片	(19.2)	-	A	明褐	明褐	酸化	口縁部「コ」の字状。器蓋摩滅し調整度不明。屈曲部外面強い横撫でにより凹線状に窪む。
第145図	26		土師器	小型台付甔	Ⅲ区38号溝埋没土中	1/3	-	(9.0)	D	にぶい赤褐	にぶい赤褐	酸化	台部と底部境界面と裾端部横撫で。裾端部は横撫でによりゆるく屈曲する。台部外面下位成形時凹凸残る。
第145図	27		土師器	甔	Ⅲ区遺構外	口縁部片	-	-	A	褐	褐	酸化	口縁部「コ」の字状。口縁部横撫で。裾端部は横撫でによりゆるく屈曲する。台部外面下位成形時凹凸残る。
第145図	28		須恵器	羽釜	Ⅲ区5号溝埋没土中	口縁部片	-	-	B	橙	橙	酸化	口縁部短く、断面三角形の髑を貼り付ける。
第152図	1	Pl. 215	土師器	高杯	I 北区3号土坑埋没土中	杯身部口縁部片	13.6	-	-	細砂粒	橙	良好	杯身部の体部から口縁部下位に放射状へら磨き。内外面磨き
第152図	2	Pl. 215	土師器	甔	I 北区11~13号土坑埋没土中	口縁部片	18.0	-	-	細砂粒・褐粒	にぶい黄橙	良好	口縁部は横ナデか、胴部は内外面とも器蓋摩滅のため不明。
第152図	3	Pl. 215	土師器	高杯	I 北区15号土坑埋没土中	胴部上半	-	-	-	にぶい橙	にぶい橙	良好	脚部は貼付。内外面と器蓋摩滅のため不鮮明。内面はへらナデか。脚部に透孔あり。
第153図	1	Pl. 215	土師器	小型甔	I 北区4号土坑埋没土中	ほぼ完形	7.6	4.8	16.5	にぶい橙	にぶい橙	良好	口縁部上半は横ナデ、下半は胴部はへら磨き、底部もへら磨きか、摩滅のため不鮮明。内面は口縁部から胴部へら磨き。外面下半部は黒斑、内面口縁部へら磨き
第153図	2	Pl. 215	土師器	小型甔	I 北区4号土坑埋没土中	完形	5.8	4.5	15.2	淡橙	淡橙	良好	口縁部から胴部へら磨き、底部はへら磨き。内面は口縁部から胴部へら磨き。内面口縁部へら磨き
第153図	4	Pl. 216	土師器	甔	I 北区4号土坑埋没土中	3/4(口縁部上半欠損)	-	10.6	-	にぶい橙	にぶい橙	良好	内面に磨きみ痕が残る。口縁部から胴部は横ナデ、胴部はへら磨き、底部はへら磨き。内面は胴部から胴部へら磨き。胴部から大きく出た蓋、外面磨き、外面脚部黒斑
第154図	5	Pl. 215	土師器	甔	I 北区4号土坑埋没土中	口縁部片	-	-	-	灰白	灰白	良好	外面赤色彩色。口縁部から胴部はへら磨き。器蓋摩滅のため単位不鮮明。内面は胴部から胴部へら磨き。赤彩、磨き
第154図	6	Pl. 216	土師器	S字甔	I 北区4号土坑埋没土中	口縁部片	15.3	-	-	にぶい黄橙	にぶい黄橙	良好	口縁部横ナデ、胴部は縦位のハケ目(5~6本)後肩に横位のハケ目。内面は胴部から胴部へら磨き。肩部横ナデ目
第154図	7	Pl. 216	土師器	S字甔	I 北区4号土坑埋没土中	台	-	7.4	-	にぶい黄橙	にぶい黄橙	良好	台部は貼付、台部の端部は内側に折り返し。胴部から台部上位はハケ目(4~5本)。内面は胴部から胴部へら磨き。台部はナデ。外面胴部に磨き付着。外面褐色気味、底部外面に砂粒貼付。
第154図	8	Pl. 216	土師器	S字甔	I 北区4号土坑埋没土中	肩部破片	-	-	-	にぶい黄橙	にぶい黄橙	良好	胴部は縦位のハケ目後肩に横位のハケ目。内面はナデ。肩部横ナデ目、外面一部褐色
第154図	9	Pl. 215	土師器	甔	I 北区4号土坑埋没土中	口縁部(口縁部交差)~胴部片	-	-	-	灰白	灰白	良好	外面赤色彩色。口縁部はへら磨き。塗彩のため単位不明。赤彩、磨き、一部黒斑
第154図	10	Pl. 215	土師器	甔	I 北区4号土坑埋没土中	底~胴部下位片	-	-	-	灰白	灰白	良好	外面赤色彩色。底部と胴部はへら磨き。内面はへら磨きか、器蓋摩滅のため不明。赤彩、磨き、一部黒斑
第155図	1	Pl. 216	土師器	S字甔	I 北区22号溝中央部底面上	底~台部	-	-	-	にぶい橙	にぶい橙	良好	台部は貼付、胴部から台部はハケ目。底部は内外面に砂粒を多く含め粘土が貼付。内外面に砂粒土を貼布、台端部欠損後も使用
第155図	2	Pl. 216	土師器	S字甔	I 南区22号溝中央部底面上	台部	-	8.2	-	橙	橙	良好	台部は貼付か。胴部から台部上位はハケ目。内面は台部から胴部へら磨き。磨滅著しい
第156図	1	Pl. 216	土師器	杯	I 北区34号溝埋没土中	口縁部片	-	-	-	にぶい赤褐	にぶい赤褐	良好	口縁部横ナデ、体部はナデ。内面体部はへら磨き。内面磨きか、磨滅気味

図	番号	写真	種別	器種	出土位置	残存	口径cm	底径cm	器高cm	胎土	色調	焼成	成形と調整の特徴および遺物の時期
第156図	3	PL. 217	土師器	杯	I北区39号溝中央部底面直上	ほぼ完形	10.8	-	3.9	細砂粒・粗砂粒・角閃石	橙	良好	口唇部横ナデ、口縁部ナデ、体部から底部は手持ちヘラ削り。やや磨滅
第156図	4	PL. 217	土師器	杯	I北区39号溝埋没土中	1/4(底部中央欠損)	10.8	-	-	細砂粒	橙	良好	口縁部横ナデ、体部上半ナデ、下半から底部は手持ちヘラ削り。やや磨滅
第156図	5	PL. 217	土師器	杯	I北区39号溝埋没土中	1/4(底部中央欠損)	10.6	-	-	細砂粒	明赤褐	良好	口唇部横ナデ、体部から底部は手持ちヘラ削り。やや磨滅
第156図	6		土師器	甕	I北区39号溝埋没土中	口縁～胴部上位片	-	7.4	-	細砂粒	にぶい黄橙	良好	底部はヘラ削り、胴部はハケ目(一部はハケ目)。内面はヘラナデ。底部外面に一部黒斑
第156図	7	PL. 217	土師器	S字甕	I北区39号溝埋没土中	口縁～胴部上位片	17.2	-	-	細砂粒	灰黄褐	良好	口縁部横ナデ、胴部はハケ目(6～7本)。内面は頸部がヘラナデ、胴部はナデ。外面一部黒斑
第160図	1	PL. 217	土師器	杯	I北区遺構外	1/3	10.8	-	3.3	細砂粒	橙	良好	口縁部横ナデ、口縁部ナデから体部は手持ちヘラ削り。器面磨滅のため単位不明。やや磨滅
第160図	2		土師器	杯	I南区遺構外	口縁～底部片	11.8	-	-	細砂粒	橙	良好	口縁部は横ナデ、体部はナデ、底部は手持ちヘラ削り。器面磨滅のため単位不明。やや磨滅
第160図	3	PL. 217	土師器	杯	I南区遺構外	口縁～底部片	11.8	-	-	細砂粒	橙	良好	口縁部は横ナデ、体部は手持ちヘラ削り。器面磨滅のため単位不明。やや磨滅
第160図	4	PL. 217	土師器	杯	I北区遺構外	口縁～体部片	12.8	-	-	細砂粒	橙	良好	口唇部横ナデ、体部(後下)から底部は手持ちヘラ削り。有段口縁部杯、内外面漆塗りか、漆が部分的に残存。
第160図	5	PL. 217	須恵器	短頸壺か	I南区遺構外	底～胴部片	-	6.0	-	細砂粒	灰	還元	口唇部横ナデ、口縁部横ナデ、体部から胴部下半は手持ちヘラ削り。
第160図	6		須恵器	杯	I北区遺構外	底～体部片	-	10.0	-	細砂粒・白粒	灰	還元	口唇部横ナデ、口縁部横ナデ、体部は回転ヘラ削り、体部下位にも1段の回転ヘラ削り。
第160図	7	PL. 217	土師器	杯	I区遺構外	口縁～体部片	10.8	-	-	細砂粒・褐粒	橙	良好	口縁部は横ナデ、体部はナデ、底部はヘラ削り。内面は底部から体部に斜めのヘラ磨き。
第160図	8	PL. 217	土師器	杯	I北区遺構外	口縁～体部片	13.0	-	-	細砂粒	橙	良好	口縁部横ナデ、体部上半ナデ、下半から底部は手持ちヘラ削り。外面底部黒斑、磨滅気味、内面放射状磨き
第160図	9	PL. 217	土師器	杯	I北区遺構外	口縁～体部片	13.8	-	-	細砂粒	橙	良好	口縁部横ナデ、体部はナデ。磨滅気味、内面磨き
第160図	10	PL. 217	土師器	甕	I北区遺構外	口縁部破片	15.4	-	-	細砂粒・褐粒	にぶい橙	良好	口縁部横ナデ、胴部は器面磨滅のため不明。内面は胴部がヘラナデ。磨滅気味
第160図	11	PL. 217	土師器	甕	I北区遺構外	口縁～頸部片	-	-	-	細砂粒	橙	良好	器面磨滅のため不鮮明、口縁部は横ナデか。磨滅著しい
第160図	12	PL. 217	土師器	高杯	I北区遺構外	胴部(裾部欠損)	-	-	-	細砂粒	浅黄橙	良好	胴部は杯身に貼付、杯身底部中央に脚部へのボツ状差し込みあり。脚部はヘラナデ、裾部は横ナデ。内面は上半がナデ、下半はヘラ削りか。外面縦磨き
第160図	13	PL. 217	土師器	埴口蓋 まなは埴	I北区遺構外91-L-46VII層中	1/3	10.8	-	5.7	細砂粒	灰黄褐	良好	口縁部横ナデ、胴部は器面磨滅のため不鮮明、ヘラ削りか。内面は底部から胴部がヘラナデ。磨滅著しい
第160図	14	PL. 217	土師器	埴口蓋	I北区遺構外91-N-26VII層中	胴部上半片	-	-	-	細砂粒	橙	良好	外面胴部は器面磨滅のため整形不明。内面はヘラナデ。磨滅著しい。
第160図	15		土師器	甕	I北区遺構外91-L-66VII層中	底部	-	10.8	-	細砂粒・褐粒	浅黄橙	良好	内外面とも器面磨滅のため不鮮明。胴部にハケ目が残る、底部ヘラナデか。外面一部黒斑。
第160図	16	PL. 217	土師器	壺	I北区遺構外	口縁片	-	-	-	赤粒、白岩片、チャート粗砂	灰白	軟調	二重口縁壺の下段部と思われる、外縁にそって歯歯具による刻みを施す。
第162図	2	PL. 217	土師器	埴か	II北区8号土坑埋没土中	上半部破片	-	-	-	細砂粒多	にぶい赤褐	や軟質	口縁部は横ナデ、胴部は内外面とも器面磨滅のため不明。内外面赤変か・磨滅剥離著しい。
第162図	3	PL. 217	土師器	埴口蓋	II北区8号土坑底面上62cm	底～胴部下	-	3.0	-	細砂粒・粗砂粒	淡黄橙	良好	内外面とも器面磨滅のため整形不明。磨滅・剥離著しい。
第162図	4	PL. 217	土師器	小型埴	II北区8号土坑底面上79cm	ほぼ完形	10.2	-	6.4	細砂粒	橙	良好	内外面とも器面磨滅のため整形不明、口縁部は横ナデ、胴部から底部はヘラ削りか、単位不明。磨滅著しい、内面磨き僅かに残る。
第162図	5	PL. 217	土師器	小型埴	II北区8号土坑底面上80cm	3/4	10.6	-	6.7	細砂粒	にぶい橙	良好	口縁部は横ナデ、内面は器面剥落のため不明。
第162図	6	PL. 217	土師器	小型埴	II北区8号土坑埋没土中	口縁～頸部片	12.8	-	-	細砂粒	橙	良好	口縁部は横ナデ、内面は器面剥落部分があり不鮮明。
第162図	7	PL. 217	土師器	小型埴	II北区8号土坑底面上91cm	口縁～底部片	9.4	5.0	4.5	細砂粒	橙	良好	口縁部は横ナデ、体部から胴部は器面磨滅のため不明。
第162図	8	PL. 217	土師器	器台	II北区8号土坑底面上40cm	完形	8.0	11.7	8.0	細砂粒	灰白	良好	受付口縁部は横ナデ、底部はヘラ削り、胴部はヘラナデ。内面は胴部上半がナデ、下半はハケ目。胴部に透孔が径6か所。
第162図	9	PL. 217	土師器	壺	II北区8号土坑底面上90cm	口縁部破片	13.0	-	-	細砂粒	灰黄褐	良好	口縁部は折り返し。口唇部は横位、口縁部は縦位のヘラ磨き。内面は縦位のヘラ磨き。
第163図	10	PL. 217	土師器	壺	II北区8号土坑底面上62cm	口縁～胴部上位	16.1	-	-	細砂粒	にぶい黄橙	良好	口縁部は上半が横ナデ、下半はハケ目(6本)、頸部は横ナデ。内面は胴部がヘラナデ。
第163図	11	PL. 218	土師器	壺	II北区8号土坑底面上67cm	口縁～胴部上半	15.8	-	-	細砂粒・褐粒	浅黄橙	良好	有段口縁内外面に輪積み痕が残る。内外面とも器面磨滅のため不鮮明。胴部はヘラ削り後ハケ目。内面は頸部に指頭痕が残る。
第163図	12	PL. 218	土師器	S字甕	II北区8号土坑底面上62cm	ほぼ完形	13.5	8.4	26.3	細砂粒	浅黄橙	良好	脚部は貼付、端部は内側に折り返し。口縁部は横ナデ、頸部から胴部、脚部上位はハケ目(10本)、脚部はナデ。内面は胴部と脚部がナデ、底面は縦位の多い粗土が貼付。
第163図	13	PL. 218	土師器	S字甕	II北区8号土坑底面上67cm	ほぼ完形	13.0	8.3	23.2	細砂粒	浅黄橙	良好	脚部は貼付、端部は内側に折り返し。口縁部は横ナデ、胴部はハケ目(8本)、脚部はナデ。内面は胴部と脚部がナデ、脚部側底面に粗土の多い粘土が貼付。
第163図	14	PL. 218	土師器	S字甕	II北区8号土坑底面上77cm	口縁～胴部上位片	16.8	-	-	細砂粒・長石	にぶい黄橙	良好	口縁部横ナデ、胴部はハケ目(6本)。内面は胴部がナデ。
第163図	15	PL. 218	土師器	S字甕	II北区8号土坑底面上86cm	口縁～胴部上位片	14.8	-	-	細砂粒	にぶい黄橙	良好	口縁部横ナデ、胴部はハケ目(6本)。内面は胴部がヘラナデ。
第163図	16	PL. 218	土師器	S字甕	II北区8号土坑底面上90cm	台部	-	10.2	-	細砂粒	淡黄橙	良好	台部端部は内面に折り返し。胴部から台部上位はハケ目(9～10本)。内面は胴部がヘラナデ、台部はナデ。底部は胴部・脚部の両側に粗土が貼付、台部端部は内側に折り返し。胴部から台部上位は縦位のハケ目(6本)、脚部はナデ。内面は胴部、台部ともヘラナデ。
第163図	17	PL. 218	土師器	S字甕	II北区8号土坑底面上48cm	台部・胴下	-	-	-	細砂粒・褐粒	浅黄橙	良好	台部は貼付、台部端部は内側に折り返し。胴部から台部上位は縦位のハケ目(6本)、脚部はナデ。内面は胴部、台部ともヘラナデ。

図	番号	写真	種別	器種	出土位置	残存	口径cm	底径cm	器高cm	胎土	色調	焼成	成形と調整の特徴および遺物の時期	
第163図	18	Pl. 218	土師器	甕	Ⅱ北区8号土坑底面上96cm	口縁部破片	26.0	-	-	細砂粒	にぶい黄橙	良好	口縁部上半は構ナテ、下半から胴部はへら削り後ハケ目。内面は口縁部下半位ハケ目、胴部はへらナテ。	
第167図	1	Pl. 218	土師器	杯	Ⅱ南区20号溝埋没土中	口縁～体部片	-	-	-	細砂粒	灰白	やや軟質	口縁部構ナテ、体部(膝下)は手持ちへら削り、器面磨滅のため単位不明、須恵器様做仮。	
第167図	2	Pl. 218	土師器	埴	Ⅱ区遺構外	口縁～胴部上位片	9.8	-	-	細砂粒	にぶい黄橙	良好	外面口縁部に輪積み痕が残る。口縁部は構ナテ、胴部は器面磨滅のため不明、内面胴部はへらナテ。	
第167図	3	Pl. 218	土師器	器台	Ⅱ区遺構外	受け～脚部上半	8.0	-	-	細砂粒・長石・角閃石・磁石・楕粒	橙	良好	脚部内面以外は器面磨滅のため不明、内面胴部はへらナテ。脚部に透孔が3カ所。	
第167図	4	Pl. 218	土師器	高杯	Ⅱ区遺構外	杯身部片	20.8	-	-	細砂粒	にぶい赤褐	良好	口縁部は構ナテ、体部はへら削り。内面は口唇部が構ナテ、口縁部から底部がへらナテ。	
第167図	5	Pl. 218	土師器	S字甕	Ⅱ区遺構外	口縁～胴部上位片	13.8	-	-	細砂粒	にぶい橙	良好	口縁部は構ナテ、胴部はハケ目(6本)、内面胴部はへらナテ。	
第167図	6	Pl. 218	土師器	S字甕	Ⅱ区遺構外	口縁～胴部上位片	12.8	-	-	細砂粒	にぶい黄橙	良好	口縁部は構ナテ、胴部はハケ目(7本)、内面胴部はへらナテ。	
第169図	1	Pl. 218	土師器	壺	Ⅲ区9号住居東周溝埋没土中	1/5	(22.9)	-	A	浅黄橙	酸化	酸化	断面暗灰色。器表付近から器表浅黄橙。2段口縁。内面器表磨滅。口縁部外面縦位置磨き。頸部外面に断面三角形粘土帯粘り付。粘土帯外側にはやや粗い楕円状工具による刺突痕を認らう。口縁部中央と端部、口縁部外面上半の半の付粘土帯に楕円状工具による刺突文を施す。	
第169図	2	Pl. 218	土師器	壺	Ⅲ区9号住居東周溝埋没土中	口縁部片	-	-	A	浅黄橙	酸化	酸化	断面暗灰色。器表付近から器表浅黄橙。2段口縁。内面器表磨滅。口縁部外面縦位置磨き。口縁部中央と端部、口縁部外面上半の付粘土帯に楕円状工具による刺突文を施す。	
第169図	3	Pl. 218	土師器	器台	Ⅲ区9号住居東周溝埋没土中	胴部中央	-	-	A	にぶい褐	酸化	酸化	脚部中央焼成前穿孔。脚部外面縦位置磨き。脚部内面磨滅で、脚部円孔1カ所残存。	
第169図	4	Pl. 219	土師器	壺	Ⅲ区9号住居東周溝埋没土中	下半部	-	5.5	B	にぶい赤褐	酸化	酸化	体部外面粗い刷毛目の後雑な無で、体部外面下端から底部外面磨削り。内面粗い刷毛目の後、底部を除いて磨滅で。	
第169図	5	Pl. 218	土師器	直口壺	Ⅲ区9号住居西周溝埋没土中	1/4	(7.9)	-	B	明赤褐	酸化	酸化	口縁部内湾し、端部は薄く仕上げられる。口縁部外面縦位置磨き。口縁部接合部明瞭。頸型壺。	
第169図	6	Pl. 218	土師器	高杯	Ⅲ区9号住居西周溝埋没土中	脚部	-	10.3	D	にぶい赤褐	酸化	酸化	長脚中央の高杯脚部。脚部外面縦位置磨きで、下位には刷毛目を消しきざり残る。裾部磨滅で。	
第169図	7	Pl. 218	土師器	S字甕	Ⅲ区9号住居東周溝埋没土中	1/5	(16.0)	-	A	にぶい黄橙	酸化	酸化	断面暗灰色。器表にぶい橙色。口縁部上半肥厚して開く。端部内面僅かに面取り状に磨滅で。	
第169図	8	Pl. 218	土師器	S字甕	Ⅲ区9号住居西周溝埋没土中	1/4	(12.9)	-	B	にぶい黄橙	酸化	酸化	断面暗灰色。器表付近から器表浅黄橙。2段口縁。内面器表磨滅。口縁部外面縦位置磨き。口縁部中央と端部、口縁部外面上半の付粘土帯に楕円状工具による刺突文を施す。	
第169図	9	Pl. 218	土師器	S字甕	Ⅲ区9号住居東周溝埋没土中	底～台部上半	-	-	A	にぶい褐	酸化	酸化	底部付近の断面のみ暗灰色。外面刷毛目。底部内面と台天井部砂を多く含む粘土を塗りつける。	
第169図	10	Pl. 218	土師器	S字甕	Ⅲ区9号住居西周溝埋没土中	底～台部	-	-	B	にぶい橙	酸化	酸化	断面灰白色。外面刷毛目。底部内面と台天井部砂を多く含む粘土を塗りつける。底部内面磨滅で。天井部無で。	
第172図	1	Pl. 219	土師器	ニニチュウア	Ⅲ北区5号竪立柱建物4底面上7cm	ほぼ台部	1.3	4.5	4.1	D	にぶい黄橙	酸化	手つくね。口縁部外面上半を髹状につまみ出す。口縁部成形時のひびが複数存在する。	
第174図	1	Pl. 219	土師器	壺	Ⅲ南区26号土坑埋没土中	1/8	(12.0)	-	A	橙	酸化	酸化	平底臭味で体部は開く。磨滅のため調整痕不明瞭。口縁部外面磨滅で、体部外面磨削りだが単位不明。	
第174図	2	Pl. 219	須恵器	杯	Ⅲ南区26号土坑埋没土中	1/4	(12.1)	(6.5)	4.0	B	灰褐	酸化	断面にぶい橙色。外面器表灰白色。内面器表灰褐色。体部内湾し、口縁部小さく外反。底部右回転糸切無調整。	
第174図	3	Pl. 219	須恵器	蓋	Ⅲ南区26号土坑埋没土中	端部片	(18.0)	-	C	黄灰	還元	還元	口縁部外反し、端部を内側に折り返す。右回転軸磨削形。	
第174図	4	Pl. 219	土師器	杯	Ⅲ南区32号土坑埋没土中	口縁部片	-	-	D	褐	酸化	酸化	体部内湾し、口縁部外反。体部成形時の凹凸が残る。体部内面から口縁部外面磨滅で。体部外面の一部に縦状亀裂が残る。底部外面磨削り。	
第175図	1	Pl. 219	土師器	S字甕	Ⅲ北区42号土坑底面上28cm	1/4	(13.1)	-	B	にぶい橙	酸化	酸化	口縁部「S」字状を呈するが、口縁部上半は立ち上がり気味。肩部外面刷毛目。肩部内面接合痕残る。	
第175図	2	Pl. 219	土師器	S字甕	Ⅲ北区42号土坑底面上8cm	台部	-	-	B	にぶい赤褐	酸化	酸化	外面刷毛目。台部天井部と底部内面砂を多く含む粘土を塗りつける。	
第176図	1	Pl. 219	土師器	杯	Ⅲ北区55号土坑底面上4cm	1/8	(15.8)	-	B	橙	酸化	酸化	丸底で口縁部外反。器表磨滅し、調整痕不明瞭。底部外面磨削り。	
第176図	2	Pl. 219	土師器	壺	Ⅲ北区55号土坑底面上	口縁部片	(15.8)	-	B	橙	酸化	酸化	器表の磨滅著しく、調整痕不明。	
第176図	3	Pl. 219	土師器	杯	Ⅲ北区58号土坑埋没土中	口縁部片	-	-	A	橙	酸化	酸化	体部内面から口縁部黒色。内面黒色処理。口縁部内湾し、口縁部磨滅で。底部外面磨削り。	
第177図	1	Pl. 219	土師器	S字甕	Ⅲ北区56号土坑底面上3.5cm	口縁部片	-	-	B	にぶい黄橙	酸化	酸化	器表や磨滅。口縁下半部器壁厚い。口縁上半部立ち上がり気味で開かない。肩部外面刷毛目。	
第177図	2	Pl. 219	土師器	S字甕	Ⅲ北区56号土坑底面上	台部	-	(7.6)	-	B	にぶい黄橙	酸化	酸化	器表磨滅。調整痕不明瞭。外面の一部に刷毛目残る。底部内面と台部内面天井部に砂を多く含む粘土を塗りつける。台端部内面に大きく折り返す。
第177図	3	Pl. 219	須恵器	杯	Ⅲ北区97号土坑底面上24cm	1/4	(12.6)	(6.0)	3.4	D	灰	還元	還元	焼き過ぎりなく軟質。器表磨滅し、磨削回転方向や切り離し技法、方向不明。
第177図	4	Pl. 219	土師器	直口壺	Ⅲ北区63号土坑底面上3.8cm	完形	9.8	4.0	13.7～14.1	D	橙	酸化	酸化	体部は丸く、口縁部は直線的に延びる。口縁部内面から折れ外面磨滅で。口縁部外面中央の磨滅は弱く刷毛目多く残る。括弧部外面は強い磨滅により窪む。体部外面磨滅で、上位に刷毛目残る。
第177図	5	Pl. 219	土師器	S字甕	Ⅲ北区63号土坑底面上64.8cm	1/2	(13.7)	(9.0)	27.4～28.1	B	にぶい橙	酸化	酸化	頸部の屈曲若く弱く、口縁部上半は僅かに外反。頸部内面取付状の磨滅で、体部外面から台部外面上位刷毛目。体部外面上位の刷毛目差部に鈍削り痕残る。体部内面天井部は磨滅で。底部内面と台天井部に砂を多く含む粘土を塗りつける。
第178図	1	Pl. 219	土師器	S字甕	Ⅲ北区65号土坑底面上8.1cm	1/6	-	(11.3)	-	B	にぶい黄橙	酸化	酸化	断面暗灰色。器表磨滅。外面上位刷毛目。端部内面に折り返す。
第178図	2	Pl. 219	土師器	杯	Ⅲ北区66号土坑底面上49.5cm	口縁部片	-	-	B	橙	酸化	酸化	器表磨滅し調整痕不明。口縁部外反。	
第178図	3	Pl. 219	土師器	S字甕	Ⅲ北区72号土坑埋没土中	口縁部片	-	-	Fか	にぶい橙	酸化	酸化	断面暗灰色。器表にぶい橙色。頸部の屈曲やや弱く、器壁厚い。口縁部上半は外反。上半端部内面磨滅により小さく窪ませる。肩部内面刷毛目やや粗い。	
第178図	4	Pl. 219	土師器	高杯	Ⅲ北区72号土坑底面上6cm	脚柱部	-	-	Bか	にぶい橙	酸化	酸化	柱部に縦向き、下部は内湾する。裾部は大きく開く。杯部内面と柱部外面天井部が砂を踏ませる。裾部磨滅。柱部内面磨滅で。内面下部較り目残る。	
第179図	1	Pl. 219	土師器	壺	Ⅲ北区74号土坑底面上14cm	1/4	21.8	-	B	にぶい橙	酸化	酸化	断面灰白色。2段口縁で上半部短い。外面空部はシャープな三角形形状。口縁部は上方より小さく立ち上げる。端部外面浅い凹線状に窪む。口縁部外面縦位置磨き。外面器表磨滅。	
第179図	2	Pl. 219	土師器	S字甕	Ⅲ北区74号土坑底面上7.5cm	1/2	-	(8.8)	-	B	にぶい黄橙	酸化	酸化	断面黒色。端部内面に折り返す。外面上位刷毛目。内外面磨滅で。内面上部に砂を多く含む粘土を塗りつける。
第179図	3	Pl. 219	土師器	小型丸底壺	Ⅲ北区75号土坑底面上13cm	3/4	-	2.7	-	Bか	にぶい橙	酸化	酸化	夾雑物少なく緻密。平底で中央部やや窪む。口縁部大きく開く。外面上半縦位置磨き。外面下半縦位置磨き。体部内面磨滅で。底部内面磨滅で。

6. 土師器・須恵器観察表

図	番号	写真	種別	器種	出土位置	残存	口径cm	底径cm	器高cm	胎土	色調	焼成	成形と調整の特徴および遺物の時期
第190図	1	PL.220	土師器	杯	Ⅲ北区34号溝底面上22cm	3/4	13.2	-	4.5	B	橙	酸化	口縁部内湾。体部内面から口縁部外面横無で、底部外面筒削り。口縁部歪む。
第190図	2		土師器	杯	Ⅲ北区34号溝埋没土中	口縁部片	(12.8)	-	-	D	黒褐	酸化	断面に、橙色、器表黒褐色で仕上げ段階で焼く気味の焼成。器壁厚く外反。口縁部外面細い凹線2条廻る。口縁部横無で、軟質で器表摩滅。口縁部肥厚して外反。高台貼り付け。高台内右回転糸切り痕残る。
第190図	3	PL.220	須恵器	碗	Ⅲ北区34号溝底面上16cm	3/4	13.9	6.6	5.2~5.9	C	灰白	還元	焼成は軟質で器表摩滅著しい。高台貼り付け。高台内回転糸切り痕残るが、回転方法不明。
第190図	4		須恵器	皿	Ⅲ北区34号溝底面上16cm	底部	-	6.9	-	B	黄灰	還元	肩部は直線的に1/2ほどに及び、橙色の酸化状態。高台貼り付け。体部直線的に開く。器表摩滅著しい。
第190図	5		須恵器	皿か	Ⅲ北区34号溝底面上15cm	底部	-	(5.8)	-	C	褐灰	還元	肩部は直線的に体部下位で内湾。頸部内湾。口縁部直線的に開く。器表摩滅不明。
第191図	1		土師器	壺	Ⅲ区遺構外11-K-9GⅦ層中	口縁部片	-	-	-	A	にぶい橙	酸化	体部外面削り。口縁部外反し、端部僅かに上方に折り曲げる。口縁部内面から体部外面上位横無で、体部外面横位筒削り。体部内面横位磨きか。
第191図	2	PL.220	土師器	杯	Ⅲ区遺構外	口縁部小片	-	-	-	A	橙	酸化	断面灰白色。器表摩滅し調整痕不明。外面口縁部下縁に段をなす。口縁部外反。
第191図	3		土師器	杯	Ⅲ北区遺構外	口縁部小片	-	-	-	B	にぶい黄橙	酸化	口縁部外反。内面器表摩滅著しい。口縁部外面横無で、底部外面筒削り。外面口縁部下明瞭な段をなす。
第191図	4	PL.220	土師器	杯	Ⅲ北区遺構外	口縁部1/2	(15.0)	-	5.0	A	橙	酸化	器壁やや厚く、口縁部外反。器表摩滅。底部外面筒削りだが単位と方向不明。
第191図	5	PL.220	土師器	杯	Ⅲ区遺構外11-L-13GⅦ層中	1/4	(10.5)	-	-	F	橙	酸化	底部深く平底気味。口縁部中位で内湾。器表摩滅し、調整痕不明。底部外面筒削りである。
第191図	6		土師器	杯	Ⅲ区遺構外1-E-20GⅦ層中	1/6	9.8	-	2.0	A	橙	酸化	硬質で焼き締まる。口縁部内面湾み、端部は上下に小さく引き出す。端部外面湾む。
第191図	7		土師器	壺	Ⅲ南区2号溝埋没土中	口縁部片	-	-	-	A	灰	還元	硬質で焼き締まる。口縁部外反。口縁部内面湾む。口縁部外面沈線間に波状文。
第191図	8		土師器	壺	Ⅲ区遺構外	頸部片	-	-	-	A	にぶい黄橙	酸化	外面器表のみ黄灰色。外面波状文。頸部下端接合部で割られる。内面器表剥離著しい。
第191図	9		土師器	壺	Ⅲ区5号瓶立柱建物内部礎	底部	-	7.6	-	F	明赤褐	酸化	頸部は直角に近い角度で立ち上がる肩部外面叩き目。肩部内面当て具痕残る。
第191図	10		土師器	壺	Ⅲ区遺構外	底部	-	7.7	-	F	明赤褐	酸化	体部外面削り状の磨滅で、一部磨き状を呈する。内面筒無で後、底部内面に砂を多く含む粘土塗りつける。砂内に片岩含む。底部外面削線の高い部分を筒削り。
第191図	11		須恵器	甗	Ⅲ区遺構外	底部片	-	(9.1)	-	B	橙・黒	酸化	底部外面下位の器表黒色。体部外面筒削り。体部内面筒削り。体部内面筒削り。底部面取り状に無で。
第191図	12	PL.220	須恵器	甗	Ⅲ北区8号溝埋没土中	口縁部片	-	-	-	B	浅黄橙	酸化	酸化皮が硬質に焼きあがる。口縁部外反。口縁部内面湾く窪む。端部内外面小さく引き出す。
第191図	13	PL.220	須恵器	甗	Ⅲ南区1号溝埋没土中	1/10	(23.2)	-	-	A	灰	還元	硬質で焼き締まる。口縁部内面湾み、端部は上下に小さく引き出す。端部外面湾む。
第191図	14	PL.220	須恵器	甗	Ⅲ南区2号溝埋没土中	口縁部片	-	-	-	A	灰	還元	硬質で焼き締まる。口縁部内面湾み、端部は上下に小さく引き出す。端部外面湾む。
第191図	15		須恵器	甗	Ⅲ区5号瓶立柱建物内部礎	頸部片	-	-	-	A	灰白	還元	外面器表のみ黄灰色。外面波状文。頸部下端接合部で割られる。内面器表剥離著しい。
第191図	19		土師器	小型丸底壺	Ⅲ区遺構外11-K-1G	口縁部一部、体部1/8	(11.8)	-	-	B	明赤褐	酸化	頸部は直角に近い角度で立ち上がる肩部外面叩き目。肩部内面当て具痕残る。
第191図	20		土師器	小型丸底壺	Ⅲ区28号溝(中世)埋没土中	1/8	(11.5)	-	-	A	明褐	酸化	頸部下面湾く内湾。器表摩滅。口縁部横無でか。
第191図	21		土師器	小型丸底壺	Ⅲ区41号溝埋没土中	1/8~1/4	(14.6)	-	-	A	にぶい赤褐	酸化	口縁部直線的に開き、頸部は小さく括れる。口縁部内面強い横無で、より端部尖り気味に仕上げられる。底部は浅い丸底。口縁部上半横無で下半は無で。口縁部外面横位筒削り。体部外面筒削り。底部内面無で。
第192図	22	PL.220	土師器	壺	Ⅲ区遺構外11-L-16GⅦ層中	1/4	(9.4)	-	-	B	にぶい黄橙	酸化	口縁部縁く内湾。口縁部外面上半筒削り。下半筒削りの後口縁部横無で、体部外面筒削り。体部内面筒削り。
第192図	23	PL.220	土師器	壺	Ⅲ区遺構外	口縁部小片	-	-	-	A	橙	酸化	断面黒色。口縁部外方に折り返し突帯状の段を作る。段の下面に頸状工具による刻目。口縁部横無で、外面口縁部下位叩毛目。
第192図	24		土師器	直口壺	Ⅲ区1号溝埋没土中	1/4	(15.8)	-	-	A	にぶい黄橙	酸化	体部外面削り状の磨滅で、頸部から肩部外面と底部外面筒削り後磨き。体部外面叩毛目。若くは叩毛状に磨滅した頸状工具による磨き。頸部内面叩毛目。
第192図	25		土師器	高坏	Ⅲ区遺構外11-K-1G	1/8	(15.8)	-	-	F	にぶい橙	酸化	脚部下方に小さく縮み出す。外面密な磨き。内面下半横無で。内面下半筒削りの後無で。残存部に孔認められない。
第192図	26		土師器	高坏か	Ⅲ区遺構外11-L-1G	頸部一部、脚部1/4	-	(11.9)	-	B	黄褐	酸化	頸部近隣の断面灰白色。頸部突帯脱落。頸部受け口状をなす。口縁部横無で、外面下位は叩毛目残る。口縁部直線的に開くが、端部に湾む。口縁部摩滅するが、シャープではない。
第192図	27		土師器	壺	Ⅲ南区遺構外	1/7	(16.5)	-	-	A	にぶい橙	酸化	断面から器表近灰白色。器表磨滅し調整痕不明。土師器としては硬質に焼きあがる。口縁部直線的に開くが、端部近隣内湾気味。頸部外面突帯貼り付け。口縁部内面筒削り。口縁部内面筒削り。
第192図	28		土師器	直口壺	Ⅲ区11-L-6GⅦ層中	1/5	(14.9)	-	-	A	橙	酸化	断面灰白色。器表磨滅し調整痕不明。土師器としては硬質に焼きあがる。口縁部直線的に開くが、端部近隣内湾気味。頸部外面突帯貼り付け。口縁部内面筒削り。口縁部内面筒削り。
第192図	29		土師器	高坏	Ⅲ区28号溝(中世)埋没土中	坏底部	-	-	-	B	浅黄	酸化	口縁部内湾。口縁部外面筒削り。体部内面器表剥離部分多い。坏底部外面無で。
第192図	30		土師器	S字甗	Ⅲ区遺構外	1/6	(10.7)	-	-	B	褐灰	酸化	断面灰白色。口縁部上半外反し、内面取り状に横無で。頸部外面屈曲部細い棒状工具による無で。肩部外面叩毛目。頸部内面下位面取り状に磨滅。
第192図	31		土師器	S字甗	Ⅲ区遺構外11-K-1G	1/4	(15.8)	-	-	B	橙	酸化	器表摩滅。調整痕不明。内面の磨滅著しく、器表ほとんど残らない。断面黒色から暗灰色。
第192図	32		土師器	壺	Ⅲ区遺構外11-K-5GⅦ層中	底部	-	8.5	-	D	にぶい黄橙	酸化	断面黒色。口縁部上半外反し、内面横無でにより平坦とする。肩部外面叩毛目。口縁部横無で、外面内面筒削り。口縁部内面筒削り。
第192図	33	PL.220	土師器	S字甗	Ⅲ区遺構外1-L-15GⅦ層中	口縁部~肩部	11.5	-	-	B	にぶい黄橙	酸化	断面黒色。口縁部上半外反し、内面横無でにより平坦とする。肩部外面叩毛目。口縁部横無で、外面内面筒削り。口縁部内面筒削り。
第192図	34		土師器	S字甗	Ⅲ南区遺構外	1/4	(14.6)	-	-	F	灰褐	酸化	断面黒色。口縁部上半外反し、内面横無でにより平坦とする。肩部外面叩毛目。口縁部横無で、外面内面筒削り。口縁部内面筒削り。
第192図	35		土師器	S字甗	Ⅲ区6号溝埋没土中	口縁部下	(12.4)	-	-	B	灰褐	酸化	断面黒色。口縁部上半外反し、内面横無でにより平坦とする。肩部外面叩毛目。口縁部横無で、外面内面筒削り。口縁部内面筒削り。
第192図	36		土師器	S字甗	Ⅲ区遺構外1-K-15GⅦ層中	1/4	(12.7)	-	-	F	にぶい黄橙	酸化	断面黒色。口縁部下半器壁厚い。口縁部上半立ち上がり気味に開く。口縁部上半内面湾かに窪む。肩部外面から口縁部下外内面叩毛目。
第192図	37	PL.220	土師器	不詳	Ⅲ区1号住居埋没土中	台部	-	(9.6)	-	B	にぶい黄橙	酸化	調整痕や形状は、形状口縁部の台部と同様であるが、底部と台部が器台のように貫通する。一部の大ききさや形状、個数は不明であるが、焼成以前に開けた窓が認められる。台部外面叩毛目は下半のみ残り、上半は無で消す。
第192図	38		土師器	S字甗	Ⅲ区40号溝埋没土中	底部	-	-	-	A	にぶい橙	酸化	体部外面から頸部外面叩毛目。台部外面横無で。台部内面筒削り。台部外面下位の叩毛目交差部に横位筒削り残り。粘土を塗りつける。底部内面は砂を含む粘土塗りつけられ、下部に磨滅でにより放射状の成痕を付ける。
第192図	39	PL.220	土師器	S字甗	Ⅲ区遺構外11-K-1G	台部	-	10.0	-	B	にぶい橙	酸化	調整痕や形状は、形状口縁部の台部と同様であるが、底部と台部が器台のように貫通する。一部の大ききさや形状、個数は不明であるが、焼成以前に開けた窓が認められる。台部外面叩毛目は下半のみ残り、上半は無で消す。
第192図	40	PL.220	土師器	S字甗	Ⅲ区2号住居埋没土中	1/4	-	(9.4)	-	A	黄灰	酸化	台部内面から頸部外面叩毛目。台部外面横無で。台部内面筒削り。台部外面下位の叩毛目交差部に横位筒削り残り。粘土を塗りつける。底部内面は砂を含む粘土塗りつけられ、下部に磨滅でにより放射状の成痕を付ける。

植物観察表

図	番号	写真	種別	器種	出土位置	残存	口径cm	底径cm	器高cm	胎土	色調	焼成	成形と調整の特徴および遺物の時期
第192図	41	PL. 220	土師器	S字甕	Ⅲ区遺構外11-K-1G	ほぼ完形	11.5	8.2	25.6	F	にぶい橙	酸化	断面暗灰色。口縁部の屈曲やや弱く、稜線は丸みを持つ。口縁部下位外面から台部外面副毛目。部分的に副毛目以前の磨削り痕が残る。口縁部横無で。頸部屈曲外面意匠工具による無で。底部内面と台天井部に砂を多く含む粘土を塗る。台端部内面に折り返す。台部内面無で。
第196図	1		土師器	直口壺	Ⅳ北区49号土坑埋没土中	1/8	(10.0)	-	-	D	橙	酸化	口縁部面線的に延びる。括れ部外面意匠工具による無で。器表摩滅し調整痕不明。
第196図	2	PL. 221	土師器	S字甕	Ⅳ北区49号土坑埋没土中	1/4	(9.6)	-	-	F	橙	酸化	口縁部上半内面小さく窪む。口縁部横無で。体部外面細かい副毛目。
第196図	3		土師器	環	Ⅳ北区49号土坑埋没土中	1/4	(11.0)	-	-	B	橙	酸化	平底気味。口縁部外傾して立ち上がる。器高やや高い。器表摩滅し調整痕不明。体部外面磨滅状亀裂が残る。
第196図	4	PL. 221	土師器	環	Ⅳ北区49号土坑中央部底面上15.5cm	1/4	(12.8)	-	-	A	橙	酸化	底部深く平底気味。口縁部外傾して開く。体部内面から口縁部外面横無で。底部外面磨削り。体部外面意匠指痕状の窪み廻る。
第196図	5		土師器	環	Ⅳ北区49号土坑埋没土中	1/7	(12.4)	-	-	A	橙	酸化	底部深く平底気味。口縁部外傾して開く。体部内面から口縁部外面横無で。底部外面磨削り。体部外面意匠指痕状の窪み廻る。
第196図	6	PL. 221	土師器	環	Ⅳ北区49号土坑埋没土中	1/4	(11.4)	-	-	A	橙	酸化	平底気味。器表摩滅し調整痕不明。体部外面横無で。底部外面磨削り。
第196図	7	PL. 221	土師器	環	Ⅳ北区49号土坑埋没土中	1/4	(12.6)	-	-	A	橙	酸化	丸底。体部内湾し、口縁部外反。器表摩滅し、調整痕不明。体部外面横無で。底部外面磨削り。
第196図	8	PL. 221	須臾器	蓋	Ⅳ北区49号土坑中央部底面上16.2cm	1/2(端部欠損)	楕円3.1	-	-	B	にぶい橙	酸化	右回転軸輪整形。天井部外面回転磨削り。捺み貼り付け。
第196図	9	PL. 221	土師器	甕	Ⅳ北区49号土坑西部底面上2.5cm	上半部	(17.0)	-	-	F	褐灰	酸化	口縁部横無で。肩部外面横位磨削り。体部内面磨滅で。底部外面磨削り。
第196図	10		須臾器	甕	Ⅳ北区49号土坑埋没土中	体部片	-	-	-	B	褐灰	還元	焼き締まる。外面格子状叩き目。内面同心円状当て具痕。
第197図	1	PL. 221	土師器	器台か	Ⅳ北区50号土坑埋没土中	口縁部一部、体部1/8	(9.6)	-	-	B	にぶい褐	酸化	口縁部外反。外面口縁部下突帯明瞭。口縁部横無で。体部内面放射状磨滅。体部外面磨滅で。
第197図	2		土師器	S字甕	Ⅳ北区50号土坑埋没土中	口縁部一部、体部1/8	(9.8)	-	-	A	にぶい橙	酸化	断面暗灰色。口縁部上位外反し、内面は明瞭な線をなして窪む。肩部外面副毛目右下がり。外面の副毛目は口縁部下半外面にまで至る。
第197図	3	PL. 221	土師器	S字甕	Ⅳ北区50号土坑埋没土中	1/3	(9.8)	-	-	B	にぶい橙	酸化	口縁部下半厚く上半は薄い。口縁部中央位の屈曲は丸みをもつ。括れ部外面意匠工具による無で。肩部外面左下がり副毛目の後横位副毛目。
第197図	4		土師器	高坏	Ⅳ北区50号土坑底面直上	1/4	(24.0)	-	-	B	橙	酸化	口縁部僅かに内湾して開く。器表摩滅し調整痕不明。
第198図	1	PL. 221	土師器	環	Ⅳ北区29号土坑西部底面直上	ほぼ完形	9.8	-	3.2	A	にぶい橙	酸化	口縁部内湾。体部内面から口縁部外面横無で。口縁部外面下位磨滅状亀裂が残る。体部外面から底部外面磨削り。
第201図	1	PL. 221	土師器	壺か高坏	Ⅳ南区1号船溝墓南東周溝中央部底面上24.5cm	口縁部片	-	-	-	B	にぶい黄橙	酸化	口縁部外反し、外面は細い紐作り痕を横線状に残す。口縁部端部刻み目。
第201図	5	PL. 221	土師器	甕	Ⅳ南区1号船溝墓南東周溝中央部底面上36cm	1/8	(12.0)	-	-	A	橙	酸化	口縁部横無で。肩部外面粗い縦位副毛目の後、横線状の粗い横位副毛目。頸部内面粗い副毛目。夾雑物多く含む。近工系か。
第203図	1		土師器	壺	Ⅳ北区18号溝埋没土中	口縁部片	(14.7)	-	-	A	橙	酸化	器表摩滅し、調整痕不明。口縁部外反し、端部付近外方に折り返して無でつける。括れ部突帯貼り付け。口縁部外面縦位磨滅で。口縁部内面赤色塗彩。
第203図	2		土師器	直口壺か	Ⅳ北区19号溝埋没土中	体部一部、底部1/2	(10.5)	(4.0)	-	B	にぶい橙	酸化	器表摩滅し、調整痕不明。底部外面浅い壺首底状を呈する。
第204図	1	PL. 221	土師器	環	Ⅳ北区1号凹地埋没土中	1/4	(9.7)	-	2.9	B	橙	酸化	口縁部内湾。体部内面横無で。底部外面磨削りだが単位と方向不明。
第204図	2	PL. 221	土師器	有孔鉢	Ⅳ北区1号凹地21-K-10G	3/4	(17.3)	-	-	B	にぶい橙	酸化	口縁部外方に折り返す。口縁部外面横無で。体部内面から口縁部端面上粗い副毛目。体部外面やや細かい副毛目を無で消す。体部外面縦方向の磨滅亀裂少量残る。
第204図	3	PL. 221	土師器	壺	Ⅳ北区1号凹地埋没土中	1/3	(14.8)	-	-	B	にぶい黄橙	酸化	断面の内面寄り部分黒色。器表摩滅し調整痕不明。頸部外面から肩部外面僅かに副毛目残る。
第204図	4		土師器	環	Ⅳ南区1号凹地21-D-7G	1/8	(14.2)	-	-	B	褐灰	還元気味	断面灰白色。内面器表付近にぶい黄橙色。器表褐灰色。口縁部横無で。
第208図	1	PL. 221	土師器	環	Ⅳ北区遺構外	1/4	(11.3)	-	-	A	橙	酸化	口縁部内湾気味に立ち上がる。端部内面から口縁部外面横無で。底部外面磨削りだが磨滅のため単位と方向不明。
第208図	2		土師器	環	Ⅳ北区遺構外	1/4	(11.0)	-	2.8	A	橙	酸化	口縁部内湾。器表摩滅し調整痕不明。底部凹凸多く、外面窪み部に磨滅状亀裂が残る。
第208図	3		土師器	壺	Ⅳ北区遺構外	1/4	(10.5)	-	-	B	浅黄橙	酸化	体部丸く、下位内面に接合痕残る。器表摩滅し、調整痕不明。
第208図	4	PL. 221	土師器	有孔鉢	Ⅳ南区遺構外11-E-15GVI層中	底部	-	5.5	-	B	灰白	酸化	断面中心部暗灰色。体部外面摩滅著しいが、一部副毛目残る。体部内面幅広の磨滅。底部内面無で。底部中央に焼成前の穿孔。
第208図	5		瓦	平瓦か	Ⅳ北区遺構外21-K-5G	破片	-	-	1.0	-	橙	-	表面布片残る。裏面は磨滅が著しく、器表はほとんど遺存しない。古代の遺物であろう。
第209図	1	PL. 221	土師器	小型丸底壺	Ⅳ北区1号住居南西隅床面上7.1cm	1/8	(11.2)	-	-	A	にぶい橙	酸化	器壁薄く口縁部外面細かい副毛目の後、端部付近外面と下位外面を横無により無で消す。口縁部内面斜位磨滅。端部外面縦位磨滅。括れ部外面意匠工具による無で。体部内面丁字拿無で。体部外面磨削りか。
第209図	2	PL. 221	土師器	壺	Ⅳ北区1号住居中央部床面上5cm	肩部片	-	-	-	赤粒、石英の細砂	暗褐	硬調	櫛歯具による羽状刺突列点文を施す。内面はケズリ後ナデ。東海西部系加飾壺。
第211図	1	PL. 221	土師器	壺	Ⅳ北区36号土坑底面上27.4cm	1/2	-	4.2	-	B	橙	酸化	体部球状をなし、底部は壺首底状を呈する。器表摩滅著しく、調整痕不明。底部内面副毛目。底部内面周縁接合痕明瞭に残る。
第211図	2		土師器	壺	Ⅳ北区53号土坑底面上15.4cm	端部一部、口縁部1/4	(22.0)	-	-	A	にぶい黄橙	酸化	二重口縁蓋の口縁部。下半の器壁厚く、上半は薄い。内外面細かい磨滅。口縁部端部のシャープさはないが、中位外面の突帯は高い。口縁部外面凹線状に窪む。
第212図	1	PL. 221	土師器	器台	Ⅳ北区58号土坑底面上27.5cm	1/2	(8.9)	-	-	B	橙	酸化	体部面線的に延び、口縁部外反。脚部内面縦位磨滅。脚部内面縦位目状の磨滅。円孔は3カ所残存する。片部器表摩滅著しい。
第212図	2	PL. 221	土師器	壺	Ⅳ北区58号土坑底面直上	下半部	(22.1)	7.0	5.8	B	にぶい赤褐	酸化	平底。体部外面細かい磨滅の後赤色塗彩。内面副毛目。体部下位の接合部から穴損し、欠損部はいわゆる偽口縁を呈する。
第212図	3	PL. 221	土師器	S字甕	Ⅳ北区58号土坑底面上33cm	ほぼ完形	11.6	7.5	19.5	F	灰白	酸化	断面暗灰色。小型。口縁部内湾し、口縁部内縁上半凹線状に窪む。頸部外面磨滅状工具による無で。肩部外面から台部外面副毛目。外面上位の副毛目交差部に縦位磨削り痕残る。台端部内面に折り返す。底部内面と台天井部に砂を多く含む粘土を塗る。砂の含有量は少ない。
第212図	4	PL. 221	土師器	S字甕	Ⅳ北区58号土坑底面上28.8cm	口縁部片	(13.3)	-	-	F	にぶい黄橙	酸化	断面暗灰色。口縁部上半外反し、内面は面取り状に平坦となる。頸部内面横無により平坦面を作る。頸部外面磨削り工具による無で。口縁部内面副毛目の後、横位副毛目。体部内面縦位磨滅で。
第212図	5	PL. 221	土師器	S字甕	Ⅳ北区59号土坑底面上2.5cm	1/4	(13.5)	-	-	F	褐	酸化	断面暗灰色。口縁部上半副毛目残る。体部内面縦位磨滅で。頸部内面副毛目。頸部外面は磨削り工具による切り込み状の無で。
第212図	6		土師器	小型丸底壺	Ⅳ北区61号土坑埋没土中	1/8	-	-	-	A	灰黄褐	酸化	断面暗灰色。口縁部上半外反。体部外面細かい副毛目。体部内面縦位磨滅で。

図	番号	写真	種別	器種	出土位置	残存	口径cm	底径cm	器高cm	胎土	色調	焼成	成形と調整の特徴および遺物の時期
第213図	1	PL. 222	土師器	器台	V北区71号土坑底面上 11.7cm	3/4	(7.5)	9.9	9.1	B	明赤褐	酸化	口縁部刷毛目の後構無で、坏部内面は放射状磨き。脚部外面器表摩滅。脚部外面縦位磨き。脚部内面刷毛目の後器部構無で、円孔は3カ所残存。
第213図	2	PL. 222	土師器	甕	V北区74号土坑底面上 19.5cm	1/2	15.2	-	-	F	にぶい黄橙	酸化	断面灰白色。口縁部上方に引き上げ、受け口状を呈する。端部外面凹線状に窪む。口縁部構無で、肩部外面縦位磨き。
第217図	1		土師器	甕	V北区36号溝南西部底面上	1/8	(19.8)	-	-	B	橙	酸化	器表摩滅著しく調整痕不明。口縁部外反。口縁部中央位ゆるく内側に屈曲。第221図6と同一個体か。
第217図	2	PL. 222	土師器	甕	V北区36号溝埋没土中	2/3	(17.6)	-	-	B	橙	酸化	断面灰白色。口縁部内面窪み、端部外面は面取りする。器表摩滅し調整痕不明。
第217図	3	PL. 222	土師器	甕	V北区36号溝 標高値不明	底部	-	7.0	-	D	橙	酸化	断面器表から器表付近暗灰色。外面縦位磨き。内面刷毛目。外部低い蛇の目高台状を呈する。
第217図	4	PL. 222	土師器	S字甕	V北区36号溝 標高値不明	2/3	(8.6)	-	-	B	にぶい黄橙	酸化	断面器表、外面上位刷毛目。台端部内面に折り返す。底部内面と台天井部に砂を多く含む粘土を塗りつける。
第218図	1		須恵器	坏身か蓋	V北区35号溝埋没土中	1/4	-	-	-	A	黄灰	還元	やや焼き過ぎる。外面左回転磨削り。
第218図	2		土師器	坏	V北区35号溝埋没土中	1/8	(11.8)	-	-	A	橙	酸化	器壁厚い。口縁部外反。口縁部構無で、内面斜位磨き。底部外面縦位磨き。
第218図	3		土師器	甕か甌	V北区35号溝埋没土中	口縁部片	(11.8)	-	-	A	明褐	酸化	口縁部外反し、端部外面凹線状に窪む。外部外面縦位磨き。体部外面刷毛目。口縁部構無で、
第219図	1	PL. 222	土師器	S字甕	V北区3号凹地21-N-176	1/3	(13.8)	-	-	A	にぶい黄橙	酸化	口縁部上半外反。頸部外面屈曲部現状工具による無で、肩部外面刷毛目。口縁部構無で、
第219図	2		土師器	S字甕	V北区3号凹地21-N-176	底へ台部上	-	-	-	B	にぶい橙	酸化	断面器表、外面刷毛目。底部内面と台天井部に砂を多く含む粘土を塗りつける。
第219図	3	PL. 222	土師器	甕	V北区3号凹地21-N-176	口縁部片	-	-	-	D	橙	酸化	口縁部外反し端部外面に折り返す。器表摩滅し調整痕不明。外面折り返し以下縦位磨き。図示したより口縁部が開く可能性高い。
第221図	1	PL. 222	土師器	坏	V北区遺構外	1/4	(11.2)	-	-	C	明赤褐	酸化	器表摩滅著しいが形成は硬質。口縁部下内湾し、口縁部は直立気味。摩滅により調整痕不明。
第221図	2	PL. 222	土師器	坏	V北区遺構外	1/4	(10.6)	-	-	A	明赤褐	酸化	平底器味。口縁部直線的に延びる。口縁部内面小さく窪ませる。体部内面から口縁部外面構無で、体部外面無で、縦位磨き。底面外面磨削り。
第221図	3		土師器	坏	V北区遺構外	1/10	(13.8)	-	-	F	明褐	酸化	口縁部内面から口縁部外面構無で、体部外面無で、縦位磨き多く残る。底部外面磨削り。口縁部やや歪むため、実隙の径は推定値より小さい可能性高い。
第221図	4	PL. 222	土師器	坏	V北区遺構外	1/8	(14.3)	-	-	A	橙	酸化	口縁部外反。体部内面から口縁部外面構無で、体部内面無で、
第221図	5		土師器	鉢	V北区遺構外21-0-126	1/8	(13.8)	-	-	B	橙	酸化	夾雑物多く含む。口縁部外反。体部外面無で、体部内面無で、
第221図	6		土師器	甕	V北区遺構外	1/4	(16.4)	-	-	B	橙	酸化	口縁部中央位で僅かに内湾し、端部付近で小さく外反。器表摩滅し調整痕不明。第217図1と同一個体か。
第221図	7		土師器	甕	V北区遺構外21-0-126	1/6	(15.8)	-	-	B	にぶい橙	酸化	口縁部外反。外面器表摩滅し、調整痕不明。口縁部から体部内面横位磨き。
第221図	8	PL. 222	土師器	小型鉢	V北区遺構外	1/5	(17.7)	-	-	A	にぶい橙	酸化	内外面赤色塗彩。口縁部外反。口縁部構無で、体部内外面下湾無で、
第221図	9	PL. 222	土師器	小型丸底蓋	V北区遺構外21-0-126	底部	6.4	2.0	1.8	A	橙	酸化	器表摩滅著しく、調整痕不明。平底気味で体部内湾。
第221図	10		土師器	鉢か	V北区遺構外	底部破片	-	-	-	G	赤褐	酸化	焼成良好で土師器としては硬質。器表と部孔口やや磨滅。底部外面無で、底部内面放射状磨き。13と同一個体か。
第221図	11		土師器	直口壺	V北区遺構外21-0-136	1/4	(12.6)	-	-	B	橙	酸化	口縁部内湾気味に延びる。外面縦位磨き。内面刷毛目の後粗い磨き。
第221図	12		土師器	器台	V北区遺構外21-0-146VII層中	坏底・脚部上	-	-	-	B	明赤褐	酸化	坏部外面磨き。脚部外面縦位磨き。穿孔部から脚部内面上位磨削り。脚部内面下位刷毛目。脚部円孔は三方で3カ所残存。
第221図	13	PL. 222	土師器	鉢	V北区遺構外21-0-136	1/8	(17.2)	-	-	G	赤褐	酸化	焼成良好で土師器としては硬質。器壁やや薄く、口縁部「S」字状を呈する。口縁部構無で、口縁部外面下半ナテ。体部外面から縦位磨き。10と同一個体か。
第221図	14		須恵器か	蓋	V北区34号溝埋没土中	揃み部	揃み 3.25	-	-	B	明褐	酸化	丸みを帯び、上部中央が窪む。
第221図	15		不詳	蓋	V北区34号溝埋没土中	揃み部	揃み 3.85	-	-	土師A	にぶい橙	酸化	下面にカキヤブリ圧痕残る。胎土は土師質。時期不詳。
第221図	16	PL. 222	土師器	小型丸底蓋	V北区遺構外21-0-126	1/4	(14.2)	-	6.0	A	にぶい赤褐	酸化	底部湾み、屈曲して口縁部開く。口縁部内湾気味。口縁部斜位磨き。底部内面放射状磨き。底部外面磨削り。底部外面器表割離著しい。
第221図	17		土師器	小型丸底蓋	V北区遺構外21-K-136VII層中	1/6	(12.6)	-	-	B	橙	酸化	器表摩滅著しく調整痕不明。口縁部直線的に延びる。括れ部外面丸みを帯びるが、内面は移をなす。
第221図	18	PL. 222	土師器	器台	V北区遺構外21-0-136VII層中	揃み部1/3、上部完	-	(11.1)	-	B	明赤褐	酸化	脚部直線的に開き、裾部は小さく外反。器表摩滅し調整痕不明。外面刷毛目の後縦位磨き。内面上半磨削り。内面下半横無で、円孔四方で4カ所残存。
第221図	19	PL. 222	土師器	鉢	V北区遺構外21-N-136VII層中	1/5	(19.4)	-	-	B	明褐	酸化	口縁部内面から頸部外面刷毛目の後横位磨き。頸部外面の凹線状窪み内は磨きかた及ぼす、刷毛目が明瞭に残る。体部内面縦位磨き。体部外面磨削り後の横位磨き。
第221図	20	PL. 222	土師器	鉢	V北区遺構外21-0-126	1/8	(16.6)	-	-	B	橙	酸化	内湾する体部から屈曲して口縁部開く。外面刷毛目の後、口縁部構無で、体部外面横位磨き。体部内面横位磨き。
第221図	21	PL. 222	土師器	小型丸底蓋か	V北区遺構外	1/2	-	-	-	B	にぶい橙	酸化	器表摩滅し調整痕不明。頸部で屈曲して口縁部開く。底部付近の器壁厚い。
第221図	22		土師器	小型短頸壺	V北区遺構外	1/4	(8.5)	-	-	A	にぶい橙	酸化	口縁部外反。体部内面から口縁部外面密な横位磨き。体部外面器表割離。
第221図	23		土師器	壺か	V北区遺構外	1/4	-	(2.4)	-	D	明赤褐	酸化	底部外面磨削りにより窪ませる。体部外面叩き目状の粗い刷毛目。内面磨無で、
第221図	24	PL. 222	土師器	直口壺か	V北区遺構外21-0-136VII層中	1/4	-	-	-	B	にぶい黄橙	酸化	外面器表摩滅。体部丸みを帯び口縁部外反。頸部外面は接合部から割離。体部内面無で、25と同一個体か。
第221図	25		土師器	直口壺か	V北区遺構外21-0-136VII層中	体部片	-	-	-	B	にぶい黄橙	酸化	外面刷毛目。内面磨無で、24と同一個体か。
第221図	26		土師器	直口壺	V北区遺構外21-M-176VII層中	1/4	(18.5)	-	-	B	橙	酸化	器表摩滅著しく、調整痕不明。口縁部直線的に開く。
第221図	27		土師器	壺	V北区遺構外	1/4	(15.0)	-	-	A	橙	酸化	断面灰白色。口縁部器壁厚く直線的に開く。口縁部付近は横無でより薄くし、端部僅かに外反。器表摩滅し調整痕不明。外面上位に刷毛目残る。
第221図	28	PL. 222	土師器	壺	V北区遺構外21-0-136VII層中	1/2	(12.0)	-	-	B	橙	酸化	器壁厚く、口縁部直線的に延びる。口縁部内面横位磨き。口縁部端部外面磨削り。端部以下刷毛目の後、縦位磨き。肩部外面刷毛目の後、斜め位磨き。頸部に磨きき上真の先端部が1列残る。肩部内面横位磨き。

図	番号	写真	種別	器種	出土位置	残存	口径cm	底径cm	器高cm	胎土	色調	焼成	成形と調整の特徴および遺物の時期
第221図	29	Pl. 222	土師器	直口壺	V北区遺構外21-p-13GVI層中	下半	-	2.9	-	A	橙	酸化	底部球状で底部外面やや窪む。底部外面斜位磨き。内面刷毛目。一部に刷毛目残る。底部周辺以下円形の黒斑。
第221図	30	Pl. 222	土師器	有孔鉢	V北区34号遺構外21-n-12G	1/8	(13.6)	-	-	C	橙	酸化	焼成は良好で硬質だが、器表の磨減が著しく調整痕不明。口縁部外面折り返す。
第221図	31	Pl. 222	土師器	有孔鉢	V北区遺構外	口縁部片	-	-	-	A	にぶい黄橙	酸化	口縁部外面に折り返す。口縁部横撫で。
第221図	32	Pl. 222	土師器	壺	V北区遺構外	口縁部片	-	-	-	B	にぶい橙	酸化	二重口縁の上半部が、外面に縦位点文。器表磨減し調整痕不明。
第221図	33	Pl. 222	土師器	壺	V北区遺構外	肩部片	-	-	-	石英、礫石、白岩片の粗砂	橙	普通	横撫具による整った縦位ハケ目を垂下し、同一具で羽状刺突列点文を廻らす。内面はケズリ後ナデ。東海西部系加筋壺。
第221図	34	Pl. 222	土師器	壺	V北区遺構外	肩部片	-	-	-	石英、礫石、白岩片の粗砂	橙	普通	横撫具による整った縦位ハケ目を垂下し、同一具で羽状刺突列点文を廻らす。内面はケズリ後ナデ。東海西部系加筋壺。
第222図	35	Pl. 222	土師器	壺	V北区遺構外21-0-13G	1/7	(16.9)	-	-	A	にぶい橙	酸化	二重口縁の口縁部はシャープで、上方に揃み上げる。口縁部外面は2条の横線状に窪む。器表磨減。内外面磨き。内外面赤色塗彩。
第222図	36	Pl. 222	土師器	壺	V北区遺構外21-0-13GVI層中	1/4	(21.9)	-	-	B	橙	酸化	二重口縁の上半部。屈曲外面の突帯やや明瞭。口縁部上面は小さく突き出し、外面は凹線状に窪む。口縁部横撫で。
第222図	37	Pl. 222	土師器	壺	V北区遺構外21-p-13GVI層中	上半部	(18.0)	-	-	B	橙	酸化	器表磨減し調整痕不明。シャープさを欠く二重口縁で、屈曲外面や口縁部端部の痕はにぶい。頸部外面に刷毛目残る。体部内面無漆。
第222図	38		土師器	壺	V北区遺構外21-n-12GVI層中	1/4	-	-	-	A	橙	酸化	器表やや磨減。外面斜位磨き。内面上半刷毛目、下半無で。
第222図	39		土師器	壺	V北区遺構外21-p-12GVI層中	底部	-	8.3	-	D	橙	酸化	内外面磨き。器表厚い。底部外面磨削り。底部外面中央やや窪む。
第222図	40		土師器	壺	V北区遺構外21-0-12・13G	1/3	(6.1)	-	-	D	にぶい褐	酸化	底部外面中央窪み、周縁部磨削り。底部内面刷毛目。体部外面丁寧な磨き。
第222図	41	Pl. 222	土師器	壺	V北区遺構外	1/4	(7.2)	-	-	D	にぶい黄橙	酸化	底部内面窪む。底部外面周縁部刷毛目。底部内面無漆。体部外面無で。
第222図	42	Pl. 223	土師器	S字甕	V北区遺構外21-0-15G	1/4	(10.0)	-	-	B	灰黄	酸化	口縁部横撫で。体部外面横位磨削り。頸部内面取柄状の横撫で。
第222図	43		土師器	S字甕	V北区遺構外21-n-12GVI層中	1/4	(9.1)	-	-	B	にぶい赤褐	酸化	断面と器表同色。口縁部上半外反。口縁部横撫で。肩部外面刷毛目。体部内面無で。
第222図	44	Pl. 223	土師器	S字甕	V北区遺構外21-n-13GVI層中	1/4	(9.9)	-	-	A	にぶい黄橙	酸化	断面黒色。口縁部上半外反弱く立ち上がり気味。口縁部内面から肩部外面上位まで横撫で、肩部外面の刷毛目を無で消す。頸部内面丸みを持つ。頸部内面取柄状の無で。
第222図	45	Pl. 223	土師器	S字甕	V北区遺構外	1/8	(16.2)	-	-	B	にぶい黄橙	酸化	断面黒色。口縁部上半外反し、内面小さく窪む。頸部外面屈曲部、細い棒状工具による磨で、頸部内面取柄状の無で。肩部外面横撫で。
第222図	46	Pl. 223	土師器	S字甕	V北区遺構外21-0-13GVI層中	1/2	(14.8)	-	-	A	にぶい橙	酸化	断面黒色。口縁部上半水平に近く開く。頸部内面取柄状の無で。体部外面刷毛目。肩部から体部上位刷毛目間に磨削り痕を残す。断面同色。口縁部上半横く外反し、内面は平坦にする。頸部外面細い棒状工具による磨で、肩部外面横撫で。
第222図	47	Pl. 223	土師器	S字甕	V北区遺構外	口縁部破片	-	-	-	B	灰褐	酸化	器表と断面同色。口縁部上半外反し、内面横撫で。頸部外面細い棒状工具による磨で、肩部外面横撫で。
第222図	48	Pl. 223	土師器	S字甕	V北区遺構外	肩部小片	-	-	-	B	にぶい黄褐	酸化	断面黒色。口縁部上半欠損。口縁部横撫で。頸部外面屈曲部、細い棒状工具による磨で凹線状に窪む。肩部外面屈曲部と肩部外面上位の2方所細い棒状工具による磨で。
第223図	49	Pl. 223	土師器	S字甕	V北区遺構外21-0-14GVI層中	1/7	(13.0)	-	-	B	にぶい褐	酸化	断面黒色。口縁部上半曲するよう外反。口縁部内面から肩部外面上位まで横撫で、肩部外面の刷毛目を無で消す。
第223図	50	Pl. 223	土師器	S字甕	V北区遺構外21-0-13G	1/8	(15.2)	-	-	A	にぶい黄	酸化	口縁部上半外反。口縁部上半内面小さく窪む。肩部外面斜位刷毛目。以前に括弧外面細い棒状工具による磨で。
第223図	51	Pl. 223	土師器	S字甕	V北区遺構外	1/4	(13.8)	-	-	F	にぶい橙	酸化	口縁部開く。口縁部横撫で。括弧外面磨削りによる磨で。肩部外面刷毛目斜位刷毛目の後横位刷毛目。頸部内面取柄状の無で。
第223図	52		土師器	S字甕	V北区遺構外21-k-14GVI層中	1/7	(13.9)	-	-	F	灰黄	酸化	断面暗灰色。口縁部上半外反。口縁部上半内面やや窪む。頸部内面取柄状の無で。肩部外面刷毛目。
第223図	53	Pl. 223	土師器	S字甕	V北区遺構外21-0-14GVI層中	1/5	(13.7)	-	-	D	にぶい橙	酸化	断面暗灰色。口縁部上半器壁薄い。口縁部上半外反し、内面凹線状に窪む。肩部外面斜位刷毛目の後、刷毛目を2段に磨で消す。
第223図	54	Pl. 223	土師器	S字甕	V北区遺構外21-p-13GVI層中	1/4	(16.5)	-	-	B	灰白	酸化	断面と器表同色。口縁部器壁やや厚い。口縁部上半内面やや平坦とする。頸部外面屈曲部、細い棒状工具による磨で。肩部外面斜位刷毛目。
第223図	55		土師器	S字甕	V北区遺構外	1/7	(17.1)	-	-	D	にぶい黄褐	酸化	断面黄色。口縁部上半外反し、内面横撫で。頸部内面取柄状の無で。頸部外面から肩部外面斜位刷毛目を横撫でにより一部無で消す。
第223図	56		土師器	S字甕	V北区遺構外21-l-14GVI層中	1/6	(16.9)	-	-	B	にぶい黄橙	酸化	断面灰白色。口縁部上半屈曲気味に外反。口縁部上半内面凹線状に窪む。肩部外面斜位刷毛目を横撫でにより一部無で消す。
第223図	57		土師器	S字甕	V北区遺構外	口縁部片	-	-	-	F	灰黄褐	酸化	断面黒色。口縁部上半外反。頸部外面括弧部から肩部外面取柄状に無で。
第223図	58	Pl. 223	土師器	S字甕	V北区遺構外21-n-12・13GVI層中	1/2	(9.2)	-	-	B	にぶい橙	酸化	断面と器表同色。外面刷毛目。内面無で、端部に折り返す。底部内面と台天井部に砂を多く含む粘土を塗りつける。
第223図	59	Pl. 223	土師器	S字甕	V北区遺構外21-0-13GVI層中	体部下位~台上半	-	-	-	A	灰黄褐	酸化	断面黒色。外面刷毛目。内面上半無で。内面下半刷毛目。底部内面と台天井部に砂を多く含む粘土を塗りつける。
第223図	60		土師器	S字甕	V北区遺構外21-0-13GVI層中	1/2	(22.6)	-	-	B	灰褐	酸化	口縁部上半長く延びる。口縁部上半外反。口縁部下半外面の一部に刷毛目残る。口縁部横撫で。
第224図	1	Pl. 223	土師器	S字甕	VI区1号住居P4埋没土中	1/4	(12.0)	-	-	B	にぶい黄橙	酸化	断面灰白色。口縁部中位屈曲し、上半外反。肩部外面刷毛目。肩部内面無で。
第224図	2		土師器	器台	VI区1号住居埋没土中	1/2	(8.2)	-	-	B	橙	酸化	器表磨減著しい。円孔3方所残存。配置から四方であろう。
第227図	1		土師器	環	VI区1号壁六遺構埋没土中	口縁部小片	-	-	-	C	橙	酸化	器表磨減著しいが焼成は硬質。断面灰色。口縁部面線的に開く。口縁部内面窪む。器表磨減し調整痕不明。
第227図	2		土師器	環	VI区1号壁六遺構埋没土中	口縁部小片	-	-	-	B	橙	酸化	断面同色。口縁部内窪む。器表磨減し調整痕不明。
第229図	1		土師器	S字甕	VI区2号掘立柱建物9埋没土中	1/4	(8.4)	-	-	B	にぶい黄橙	酸化	底部内面のみ暗灰色。上部外面刷毛目。内面無で、端部に折り返す。底部内面と台天井部に砂を多く含む粘土を塗りつける。
第223図	1		土師器	高坏	VI区3号井戸埋没土中	脚部	-	-	-	B	橙	酸化	脚上部中実。器表磨減。脚部外面縦位磨削。底部内面磨削。円孔3方所で3カ所残存。
第223図	2		土師器	S字甕	VI区3号井戸埋没土中	1/6	(14.8)	-	-	A	灰黄褐	酸化	断面黒色。口縁部上半外反し、内面凹線状に窪む。肩部外面刷毛目。頸部内面取柄状の無で。肩部内面無で。

図	番号	写真	種別	器種	出土位置	残存	口径cm	底径cm	器高cm	胎土	色調	焼成	成形と調整の特徴および遺物の時期
第249図	1		土師器	甕	VI区24号溝埋没土中	口縁部片	-	-	-	B	にぶい橙	酸化	成形と調整の特徴および遺物の時期 口縁部外反。外面接合部折り返し状の突帯とする。器表摩滅し調整痕不明。
第249図	2	PL. 225	土師器	S字甕	VI区24号溝埋没土中	1/8	(13.0)	-	-	B	浅黄	酸化	断面器表と同色。頸部外面横溝により丸みを持つ。頸部内面取り状の無で、肩部外面斜位副毛目の後横位副毛目。
第249図	3	PL. 225	土師器	直口壺	VI区24号溝埋没土中	口縁部	11.2	-	-	B	橙	酸化	器表摩滅著しい。外面縦位縦溝さか。
第249図	4		土師器	甕	VI区24号溝埋没土中	1/3	-	-	-	A	橙・灰黄褐	酸化	器表摩滅し調整痕不明。体部下位部強く内溝。
第249図	5	PL. 225	土師器	S字甕	VI区24号溝埋没土中	1/3	(14.0)	-	-	A	にぶい橙	酸化	断面暗灰色。口縁部上半外反し端部肥厚。頸部外面細い横溝工具による無でにより凹線状に窪む。肩部外面以下副毛目。頸部内面丸みを帯びる。
第249図	6		土師器	S字甕	VI区24号溝埋没土中	体部下位部 台部上半	-	-	-	A	にぶい橙	酸化	断面暗灰色。外面副毛目。内面無で、底部内面と台天井部に砂を多く含む粘土を塗りつける。
第249図	7	PL. 226	土師器	S字甕	VI区24号溝埋没土中	2/3	25.2	-	-	B	にぶい黄橙	酸化	断面暗灰色。口縁部曲部以上が直線的に長く延びる。口縁部端部丁寧な横溝で、口縁部外面副毛目の後横溝で、肩部外面斜位副毛目。頸部内面取り状の無で、肩部内面無で。
第249図	8	PL. 226	土師器	S字甕	VI区24号溝埋没土中	台部	-	(6.5)	-	B	浅黄橙	酸化	断面灰白色。台部開き弱く、外面副毛目は頸部にまで及ぶ。端部内面に折り返す。底部内面と台天井部に砂を多く含む粘土を塗りつける。
第249図	9	PL. 226	土師器	高坏 (心打办)	VI区24号溝埋没土中	脚部	-	-	-	B	橙	酸化	手づくねで形状は歪。器表の凹凸多く、底部内面に脚部との接合痕明瞭に残る。
第249図	10		土師器	S字甕	VI区26号溝埋没土中	台部上半	-	-	-	B	淡黄	酸化	断面灰白色。外面副毛目。底部内面と台天井部に砂を多く含む粘土を塗りつける。台部内面無で。
第250図	1		土師器	環	VI区遺構外	口縁部片	-	-	-	C	橙・内面黒	酸化	器表摩滅著しいが焼成は硬質。口縁部短く外反。外面口縁部下小さい段差と縁線。内面器表黒色。
第250図	2		土師器	環	VI区遺構外	口縁部片	-	-	-	C	橙	酸化	器表摩滅著しいが焼成は硬質。口縁部やや肥厚して外反。外面口縁部下明瞭な縁と段差。
第250図	3		土師器	環	VI区遺構外	口縁部片	-	-	-	C	橙	酸化	口縁部僅かに外反。外面口縁部下は丸みを帯びる。体部内面から口縁部外面横溝で、底部外面縦削り。
第250図	4		須恵器	碗	VI区遺構外	1/4	-	(6.6)	-	A	灰白	還元	焼き締まりなり軟質。高台貼り付け。高台内面回転糸切り痕残る。
第250図	5		土師器	環	VI区11号土坑埋没土中	1/8	(9.9)	-	-	C	褐灰	酸化	器表摩滅著しいが焼成は硬質。口縁部外反。図示したより口径は大きい可能性高い。丸底であろう。
第250図	6		土師器	環	VI区遺構外	1/8	-	(6.4)	-	C	褐灰	還元	焼き締まりなり軟質。高台貼り付け。
第250図	7		灰釉陶器	碗	VI区遺構外	1/5	-	(7.0)	-	東濃	灰黄	還元	丸みを帯びた高台貼り付ける。底部内面やや摩滅し平滑となる。
第250図	8	PL. 226	土師器	壺	VI区5号溝埋没土中	1/4	(22.0)	-	-	B	にぶい橙	酸化	断面灰白色。口縁部中位で屈曲し上下は外反。口縁部端部縁帯をなす。縁帯部と屈曲部外面に櫛状工具による刺突文廻らす。口縁部縁帯でか。
第250図	9		土師器	壺	VI区遺構外	1/8	(22.8)	-	-	B	橙	酸化	断面灰白色。器表摩滅著しい。外面下部接合痕により段を形成。外面副毛目残る。
第250図	10		土師器	壺	VI区遺構外	底部	-	-	-	B	にぶい黄橙	酸化	器表やや摩滅。外面副毛目。内面内溝でか。
第250図	11		土師器	S字甕	VI区遺構外	1/6	(12.8)	-	-	B	にぶい褐	酸化	断面黒色。器壁薄。口縁部上半直線的に開き、内面浅く窪む。口縁部内面から肩部外面上部横溝で。
第250図	12		土師器	S字甕	VI区遺構外	台部	-	-	-	B	灰白	酸化	断面暗灰色。外面上半副毛目。下半無。端部内面に折り返す。底部内面と台天井部に砂を多く含む粘土を塗りつける。
第250図	13		土師器	S字甕	VI区6号溝埋没土中	台部上半	-	-	-	B	浅黄橙	酸化	断面暗灰色。器表摩滅。外面副毛目。底部内面と台天井部に砂を多く含む粘土を塗りつける。
第250図	14		土師器	S字甕	VI区1号溝埋没土中	台部上半	-	-	-	A	にぶい橙	酸化	断面と器表と同色。外面副毛目。内面内溝で。底部内面に砂を多く含む粘土を塗りつけるが、台天井部には塗っていない。
第253図	1	PL. 226	土師器	鉢か	VIII区7号溝埋没土中	口縁部 小片	-	-	-	B	浅黄橙	酸化	断面黒色。頸部屈曲し口縁部内溝。体部外面縦位副毛目。縦位副毛目の後、一部に横位副毛目。横位副毛目は横線を意識したものか。
第253図	2		土師器	S字甕	VIII区7号溝埋没土中	1/7	-	-	-	B	浅黄橙	酸化	断面黒色。口縁部上半やや内傾して立ち上がる。肩部外面副毛目。
第253図	3		土師器	壺	VIII区7号溝埋没土中	底部	-	-	-	B	褐灰	酸化	断面灰白色。器表摩滅し調整痕不明。
第253図	4	PL. 226	土師器	甕	VIII区7号溝埋没土中	1/3	(16.4)	-	-	B	橙	酸化	断面灰白色。口縁部直線的に延びる。器表摩滅し調整痕不明。
第253図	5		土師器	S字甕	VIII区7号溝埋没土中	底 唇～台部上	-	-	-	D	明褐灰	酸化	断面から底部内面暗灰色。外面副毛目。底部内面と台天井部に砂を多く含む粘土を塗りつける。
第253図	6	PL. 226	土師器	環	VIII区11号溝埋没土中	1/4	(13.0)	-	-	B	橙	酸化	底部から体部球状。口縁部外反し、端部上方に瘤み上げる。体部内面やや摩滅。口縁部内面から体部上位外面横溝で。体部から底部内面横溝で。体部から口縁部内面横溝で。
第254図	1		土師器	S字甕	VIII区14号溝埋没土中	1/3	-	(9.3)	-	B	浅黄橙	酸化	断面黒色。器表やや摩滅。外面上半副毛目。内面無で。端部内側に折り返す。底部内面に砂を多く含む粘土を塗りつける。
第255図	1	PL. 226	須恵器	短頸高か	VIII区遺構外	肩部片	-	-	-	A	にぶい赤褐	還元	器表のみが灰色。夾雑物少なく緻密な胎土。断面は白くゆるセピア色。硬質に焼き締まる。
第257図	1	PL. 226	土師器	環	IX区1号井戸埋没土中	1/2	(13.0)	-	5.3	C	にぶい橙	酸化	体部から底部半球状。口縁部短く外反。器表摩滅。口縁部横溝で。体部内面横位副毛目。体部から底部外面横溝でか。
第257図	2		土師器	環	IX区1号井戸埋没土中	1/2	(11.9)	-	3.9	C	橙	酸化	口縁部外面下端に稜をなして外反。器表摩滅し調整痕不明。
第257図	3	PL. 226	土師器	環	IX区1号井戸埋没土中	1/2	(12.4)	-	3.5	A	橙	酸化	器表摩滅し調整痕不明。口縁部僅かに外反。体部外面縦位副毛目残る。
第257図	4	PL. 226	土師器	環	IX区1号井戸埋没土中	1/2	(12.5)	-	-	F	灰	酸化	体部内溝し、底部との境明瞭。底部僅かに丸底。口縁部外面横溝で。内面縦溝で。体部から底部外面横溝で。
第257図	5	PL. 226	須恵器	環	IX区1号井戸埋没土中	ほぼ球形	12.3	6.2	3.8	B	灰白	還元	焼き締まりなり軟質。体部から口縁部直線的に延び、口縁部短く外反。底部回転糸切無調整。5mm×8mmの鎌合む。
第257図	6	PL. 226	須恵器	環	IX区1号井戸底面上66cm	3/4	13.0	6.1	3.5～ 4.0	B	灰白	還元	底部から体部の一部暗灰色で焼き締まりなり軟質。口縁部歪む。底部回転糸切無調整。
第257図	7	PL. 226	須恵器	環	IX区1号井戸埋没土中	1/2	(12.2)	5.8	3.6	B	にぶい黄橙	酸化	器表摩滅。体部や口縁部位に比して底部厚い。体部から口縁部直線的に延びる。底部回転糸切無調整。
第257図	8	PL. 226	須恵器	環	IX区1号井戸底面上68cm	1/3	(12.9)	5.6	4.0	B	にぶい橙	酸化	器表摩滅著しい。一部に残る器表暗灰色。焼成最終段階のみ焼き気味か。口縁部外反。底部切り離し技法不明。
第257図	9	PL. 226	土師器	高坏	IX区1号井戸埋没土中	環部1/2	(18.7)	-	-	A	明赤褐	酸化	口縁部外反し、端部肥厚して丸みを帯びる。器表摩滅し調整痕不明。
第257図	10	PL. 226	土師器	高坏	IX区1号井戸埋没土中	環部	(18.7)	-	-	A	橙	酸化	内溝する環底部から縁の稜をなし口縁部外反。器表摩滅著しい。
第257図	11		土師器	高坏	IX区1号井戸埋没土中	環部1/8	(16.0)	-	-	C	にぶい黄橙	酸化	断面暗灰色。器表摩滅著しい。器壁やや薄。環底部から明瞭な稜をなし口縁部外反。
第257図	12	PL. 226	土師器	高坏	IX区1号井戸埋没土中	脚部	-	(13.6)	-	D	橙	酸化	裾部僅かに反り返るより外反。裾部外面器表摩滅。脚柱部外面横溝で。脚部内面二部縦削り目。中位以下縦削り。裾部内面横溝。脚柱部内面中位接合痕明瞭に残る。
第257図	13	PL. 226	土師器	高坏	IX区1号井戸埋没土中	脚部	-	13.5	-	F	橙	酸化	裾部大きく開く。器表摩滅し調整痕不明。柱部内面縦削り痕残る。
第257図	14	PL. 226	土師器	高坏	IX区1号井戸底面上48cm	脚部	-	(12.1)	-	A	にぶい橙	酸化	裾部大きく開く。柱部外面横溝で。裾部横溝。柱部内面縦削り目と無で。
第257図	15	PL. 226	土師器	高坏	IX区1号井戸埋没土中	脚部2/3	-	15.1	-	D	明赤褐	酸化	外面器表摩滅。裾部水平に近く開く。脚柱部外面横溝でか。裾部横溝。柱部内面縦削り。
第257図	16		土師器	甕	IX区1号井戸埋没土中	1/6	(22.5)	-	-	A	橙	酸化	口縁部短く外反。口縁部外面中位開く。器表摩滅し調整痕不明。
第257図	17		土師器	甕	IX区1号井戸埋没土中	1/8	(22.3)	-	-	A	橙	酸化	口縁部直線的に開く。器表摩滅し調整痕不明。口縁部端部やや強い横溝で。
第259図	1		土師器	環	IX区8号溝埋没土中	1/8	(10.8)	-	-	A	にぶい橙	酸化	口縁部短く外反。口縁部横溝で。体部内面横溝でか。体部から底部内面横溝で。体部から底部外面横溝で。
第259図	2	PL. 226	土師器	環	IX区11号溝埋没土中	1/4	(13.8)	-	4.6	A	明赤褐	酸化	器壁厚し。口縁部外反。口縁部外面から体部外面上位横溝で。体部から底部内面横溝で。体部外面以下縦削り。

図	番号	写真	種別	器種	出土位置	残存	口径cm	底径cm	器高cm	胎土	色調	焼成	成形と調整の特徴および遺物の時期
第259図	3	Pl. 226	須置器	蓋か	Ⅸ区11号溝埋没土中	1/10	10.5	-	A	灰白	還元	成形と調整の特徴および遺物の時期 焼き締まりなく軟質。口縁部上位外面に凹線1条。	
第259図	4		土師器	甕	Ⅸ区11号溝埋没土中	1/8	(15.4)	-	B	橙	酸化	器表磨滅し調整痕不明。体部内面磨滅。	
第260図	1		須置器	坩	Ⅸ区遺構外Ⅲ層中	底部	-	5.8	B	灰白	還元	断面暗灰色。焼き締まりなく軟質。高台貼り付け。高台内左回転糸切り痕残る。	
第260図	2		土師器	壺	Ⅸ区1号土坑埋没土中	底部	-	7.0	B	にぶい黄橙	酸化	底部器壁厚し。内面無で。外面無で。	

7. 土製品観察表

図	番号	写真	種別	器種	出土位置	残存	長さcm	幅cm	厚さcm	重さg	胎土	色調	焼成	成形と調整の特徴および遺物の時期
第81図	8	Pl. 212	土製品	土埴	Ⅱ中央区中世面遺構外	ほぼ完形	4.4	1.9	孔0.4	12.6	角砂粒・角閃石	にぶい橙	良好	表面はナズ。
第81図	9	Pl. 212	土製品	土埴	Ⅱ中央区中世面遺構外1H-86Ⅲ層中	ほぼ完形	4.5	2.2	孔0.4	20.1	微砂粒	明黄褐	良好	表面はナズ。
第81図	10	Pl. 212	土製品	土埴	Ⅱ中央区中世面遺構外1H-12GⅢ層中	完形	5.2	2.3	孔0.4	21.1	微砂粒	灰白	良好	表面はナズ。
第88図	21	Pl. 212	土製品	土埴	Ⅲ区As-B下水田耕土内	ほぼ完形	3.6	2.0	1.6	9.9	B	明褐	酸化	孔径3.6mm。形状はやや歪。色調が異なる部分か幅広い線状をなしており、十分な調整が行われていないと考えられる。
第91図	2	Pl. 212	土製品	土埴	V南区遺構外Ⅲ層中	ほぼ完形	4.6	1.9	2.0	13.6	A	橙	酸化	外面無で。孔径3.4mm。
第117図	8	Pl. 212	土製品	土埴	I北区遺構外91H-56VⅢ層中	ほぼ完形 (端部比寸許かに欠)	4.7	1.9	孔0.4 14.8	14.8	微砂粒	浅黄橙	良好	表面はナズ。
第123図	9	Pl. 213	土製品	土埴	Ⅲ区3号住居埋没土中	ほぼ完形	2.4	0.7	0.7	1.3	A	にぶい黄橙	酸化	小形の一部欠損。孔径は3mm。
第123図	8	Pl. 213	土製品	土埴	Ⅲ区3号住居使用面上4cm	ほぼ完形	3.5	1.7	1.0	7.9	A	にぶい黄	酸化	一方の端部欠損。中央の径が大きく、端部は細い。外径の割に孔径は2mmと細い。
第126図	5	Pl. 213	土製品	土埴	Ⅲ区6号住居掘り方埋没土中	ほぼ完形	3.9	1.0	1.5	3.6	A	暗赤褐	酸化	中部が太く、端部が細い。孔径は2.4mm。孔径はHAKUBA 10×スケールルーベにて計測。
第132図	1	Pl. 214	土製品	土埴	Ⅲ区115号土坑北東隅底面上	1/3	-	-	-	2.5	D	黒褐	焼し	中央付近から縦方向に欠損。器表から断面黒褐色。
第132図	2	Pl. 214	土製品	土埴	Ⅲ区115号土坑南隅底面上	1/3	-	-	-	2.0	D	黒褐	焼し	中央付近から縦方向に欠損。器表から断面黒褐色。
第139図	1	Pl. 215	土製品	土埴	Ⅲ区北29号溝中央部底面上	1部欠	5.5	1.8	1.6	14.1	B	灰黄	酸化	形状はやや歪で。孔直径4.2×4.8mmと大きい。
第144図	1	Pl. 215	土製品	土埴	Ⅲ区38号溝埋没土中	完形	2.25	0.9	0.75	1.9	A	にぶい黄褐	酸化	器表無調整でやや歪む。両端は焼成前に切断される。孔径は2.4mm。
第144図	2	Pl. 215	土製品	土埴	Ⅲ区遺構外	ほぼ完形	3.2	1.6	1.4	6.1	B	にぶい黄褐	酸化	断面から器表の1/2ほどが黒色を呈し、焼し気味の焼成。形状は歪。孔直径3mm。
第144図	3	Pl. 215	土製品	土埴	Ⅲ区遺構外	完形	5.4	1.3	1.2	7.9	B	にぶい橙	酸化	形状はやや歪で一方が太い。横断面形もやや歪。孔直径3mm。
第187図	2	Pl. 220	土製品	土埴	Ⅲ区33号溝埋没土中	1/2	-	0.75	0.75	1.3	A	にぶい黄橙	酸化	細い土埴。孔径直径2mm。断面暗灰色。
第190図	6	Pl. 220	土製品	土埴	Ⅲ区北2区34号溝底面上23cm	完形	3.2	1.0	0.9	2.8	A	褐灰	焼し	中央部が太く両端が細い。孔径2.0×2.6mm。表面無で。一部に磨滅があるが意図的ではない可能性が高い。

8. 木製品観察表

図	番号	写真	種別	器種	出土位置	残存	長さcm	幅cm	厚さcm	樹種	焼成	成形と調整の特徴および遺物の時期
第21図	7	Pl. 207	木製品	加工材	Ⅱ区遺構外	端部欠損	10.4	3.0	1.4	スズギ		中の狭い板材の一端を面削加工し尖らせている。
第35図	12	Pl. 209	木製品	下駄	Ⅳ北区庭堀埋没土中	完形(一足)	22	8.6	2.5	ヒノキ		台と脚を一体でつくる二本つくり。脚はすり減っている。巾広で脚の位置が後寄りであることから近現代のもものと推定される。台後ろ寄りに脚の彫りこみ文様が施されている。
第44図	1	Pl. 210	木製品	下駄	V区2号溝埋没土中	ほぼ完形。上端部欠損	18.8	8	1.5-2.1	針葉樹		台と脚を一体でつくる一本つくり。脚はすり減っている。近現代のもものと推定される。
第154図	11	Pl. 216	加工材	杭	I北区4号土坑埋没土中	下端部のみ残存	6.8	2.9		アカガシ亜属		1面加工し、先端をとがらせている。一部表面が炭化している。
第154図	12	Pl. 216	加工材	杭	I北区4号土坑底面上16.5cm	上端部欠損	17	4.5		アカガシ亜属		全体に樹皮残す。3面の加工で下端部を削り出す。
第154図	13	Pl. 216	加工材	杭	I北区4号土坑底面上26.4cm	上端部欠損	27	4.5		アカガシ亜属		3年輪の細い木を使用。3面の加工で下端部を削り出す。
第154図	14	Pl. 216	加工材	杭	I北区4号土坑底面上7cm	上端部欠損	41.5	4.3	4	クヌギ節		全体に樹皮残す。2面の加工で先端を削り出し出す。
第154図	15	Pl. 216	加工材	杭	I北区4号土坑底面上34.5cm	上端部欠損	58.6	6		アカガシ亜属		樹皮残る。下端部が5面の加工で削り出されている。端部の加工は丸い。
第154図	16	Pl. 216	加工材	杭	I北区4号土坑底面上19cm	上端部湾曲	67.5	7		クヌギ節		肉厚の樹皮を残す。下端部は6面の細かな加工で削り出す。
第154図	17	Pl. 216	加工材	角材	I北区4号土坑底面上2cm	完形	36	5.8	5.3	クヌギ節		全体に加工された材。断面は平行四辺形である。一部表面が炭化している。
第154図	18	Pl. 216	加工材	角材	I北区4号土坑底面上2cm	上端部欠損	55	11.3	5.8	クヌギ節		断面三角形に削り出された材。一面は炭化している。
第162図	1	Pl. 217	漆樹液の棒状塊		Ⅱ北区8号土坑底面上45cm	上端部欠損	21.5	1.2		漆樹液塊		緩やかに湾曲した丸棒状の固形物。下端は丸く、上端は欠損している。外面には樹皮の糸網の圧痕がある。内部には多量の細かな空隙が見える。側面には長さ2.2cmと4.8cmの亀裂がある。上端部には棒状本体部分を被覆する付着物がある。外面の条線が被覆物の下面および上面につながつている。

9. 弥生土器観察表

図	写真	番号	種別	器種	出土位置	残存	口径cm	底径cm	器高cm	胎土	色調	焼成	成形と調整の特徴および遺物の時期
第153図	Pl. 215	3	弥生土器	甕	I北区4号土坑底面上8cm	完形	12.6	5.8	18.5	石英、輝石、白岩片の粗砂	暗褐色	普通	口縁折り返し。口唇から胴上半に横位線文(L・R)帯を重ねて纏らす。胴上半約1/4に別原体(直前段多条孔)を挿入し部分的な現状構成となす。原形は2cm。胴下半の無文部は横位ミカキ。内面はナズリ後横位ミカキ。底面→胴下縁はナズリのみ。
第201図	Pl. 221	2	弥生土器	甕	Ⅳ南区1号高溝北西周溝南西隅底面上14cm	口縁部片	(19.0)	-	-	石英、白岩片の粗砂	黄橙	やや硬調	口縁上縁と下縁をわずかに無文帯として横位線文(付加条1種L・R+2Rと取られる)帯を廻らす。無文部及び内面に横位ミカキ。北縁地縁後縁跡生土器に類似。

図	写真番号	種別	器種	出土位置	残存	口径cm	底径cm	器高cm	胎土	色調	焼成	成形と調整の特徴および遺物の時期
第201図	PL.221	弥生土器	小型甕	IV南区1号周溝墓北西周溝底面上17cm	口縁部欠	(7.0)	6.3	9.0	石英、安山岩片の粗砂	にぶい黄緑	外部片面に黒斑	成形と調整の特徴および遺物の時期 体部全体に横位縄文(Rを左巻きとした絡条体)帯をめぐらす。内面はナデ。二次的加熱痕認められず。
第201図	PL.221	弥生土器	甕	IV南区1号周溝墓北西周溝底面上25.5cm	体部片	-	-	-	チャート、石英、有色岩片の粗砂	普通	普通	体部上半に横位縄文(LR)帯を廻らす。無文部と内面は横位ミカキ。
第269図	PL.227	弥生土器	(壺)	I北区29号溝埋没土中	-	-	-	-	白岩片、石英の粗砂	やや軟調	やや軟調	4条の細い沈線帯を平行に施す。沈線は1本描出。中期後半。
第269図	PL.227	弥生土器	不明	I北区遺構外	頸部片	-	-	-	安山岩片、赤粒	普通	普通	横位に斜縄文(RL)を施す。一部に原体末端押捺。内面ミカキ。
第269図	PL.227	弥生土器	不明	I北区遺構外	肩部片	-	-	-	白岩片、石英の粗砂	やや軟調	やや軟調	横位に横位縄文か縹状文を廻らし、下位に斜縄文(RL)を施す。内面ナデ。縹状文は深く不鮮明。
第269図	PL.227	弥生土器	壺	I北区遺構外	頸部片	-	-	-	石英、安山岩片の粗砂	軟調	軟調	上下に刺突列を廻らし、区内に縄文と思われる模様を充満。剥離著しく不明瞭。御新田式に類似。
第269図	PL.227	弥生土器	不明	II北区遺構外	(肩部片)	-	-	-	砂岩、石英、安山岩片粗砂	褐灰	軟調	ヘラ先による二列の刺突列を描く。文様構成不明。
第269図	PL.227	弥生土器	小型甕	IV南区1号溝埋没土中	口縁部片	推定10.0	-	-	白岩片、石英の粗砂	にぶい	普通	外面の口縁上端に粘土紐接合痕を残し、頸部に縹状文、口縁と胴上半に縹波状文を廻らす。内面はミカキ。樽式。
第269図	PL.227	弥生土器	壺	V北区遺構外21-N-12GVI層中	口縁部片	-	-	-	安山岩片、赤粒	普通	普通	口縁折り返し、縹波状文を廻らす。内面はミカキ。樽式。
第269図	PL.227	弥生土器	不明	V北区遺構外21-O-12G	肩部片	-	-	-	白岩片、石英の粗砂	やや軟調	やや軟調	三連止めと思われる縹状文を廻らす。器面荒れ著しい。樽式か。
第269図	PL.227	弥生土器	不明	V北区遺構外	肩部片	-	-	-	チャート、石英、有色岩片の粗砂	普通	普通	縹波状文を廻らす。器面荒れ著しい。樽式か。
第269図	PL.227	弥生土器	不明	IV南区遺構外	頸部片	-	-	-	白岩片、石英の粗砂	普通	普通	縹波状文を廻らす。樽式か。
第269図	PL.227	弥生土器	不明	IV南区遺構外	頸部片	-	-	-	砂岩、安山岩片の粗砂	灰	軟調	縹波状文を廻らす。器面荒れ著しい。樽式か。

10. 縄文石器類観察表

図	写真番号	種別	器種	出土位置	残存	口径cm	底径cm	器高cm	胎土	色調	焼成	成形と調整の特徴および遺物の時期
第270図	PL.227	縄文土器	深鉢	I南区遺構外	胴部破片	-	-	-	粗砂、細礫	赤褐	良好	燃糸文Rを地文とし、隆帯により渦巻文を伴う懸垂文を施す。加曾利E 2式。
第270図	PL.227	縄文土器	深鉢	V北区遺構外	胴部破片	-	-	-	粗砂、細礫	にぶい赤褐	ふつう	胴中でくびれる縹。隆帯によるU字状、逆U字状モチーフを施し、RLを充填施す。加曾利E 4式。
第270図	PL.227	縄文土器	深鉢	IX区遺構外	胴部破片	-	-	-	粗砂、白色粒	暗灰黄	ふつう	沈線による縹円モチーフ、ワラビ手状懸垂文を施す。加曾利E 3式。
第270図	PL.227	縄文土器	深鉢	V北区遺構外	口縁部破片	-	-	-	粗砂、細礫	にぶい赤褐	ふつう	2と同一個体。横位、垂下する隆帯を施す。加曾利E 4式。
第270図	PL.227	縄文土器	深鉢	IV南区1号周溝墓埋没土中	胴部破片	-	-	-	粗砂、黒色粒	にぶい橙	良好	列点を充填施す。後期前葉。
第270図	PL.227	縄文土器	深鉢	I北区遺構外	胴部破片	-	-	-	粗砂、白色粒、石英	灰黄褐	ふつう	矢羽根状の沈線帯を施す。箱之内1式。

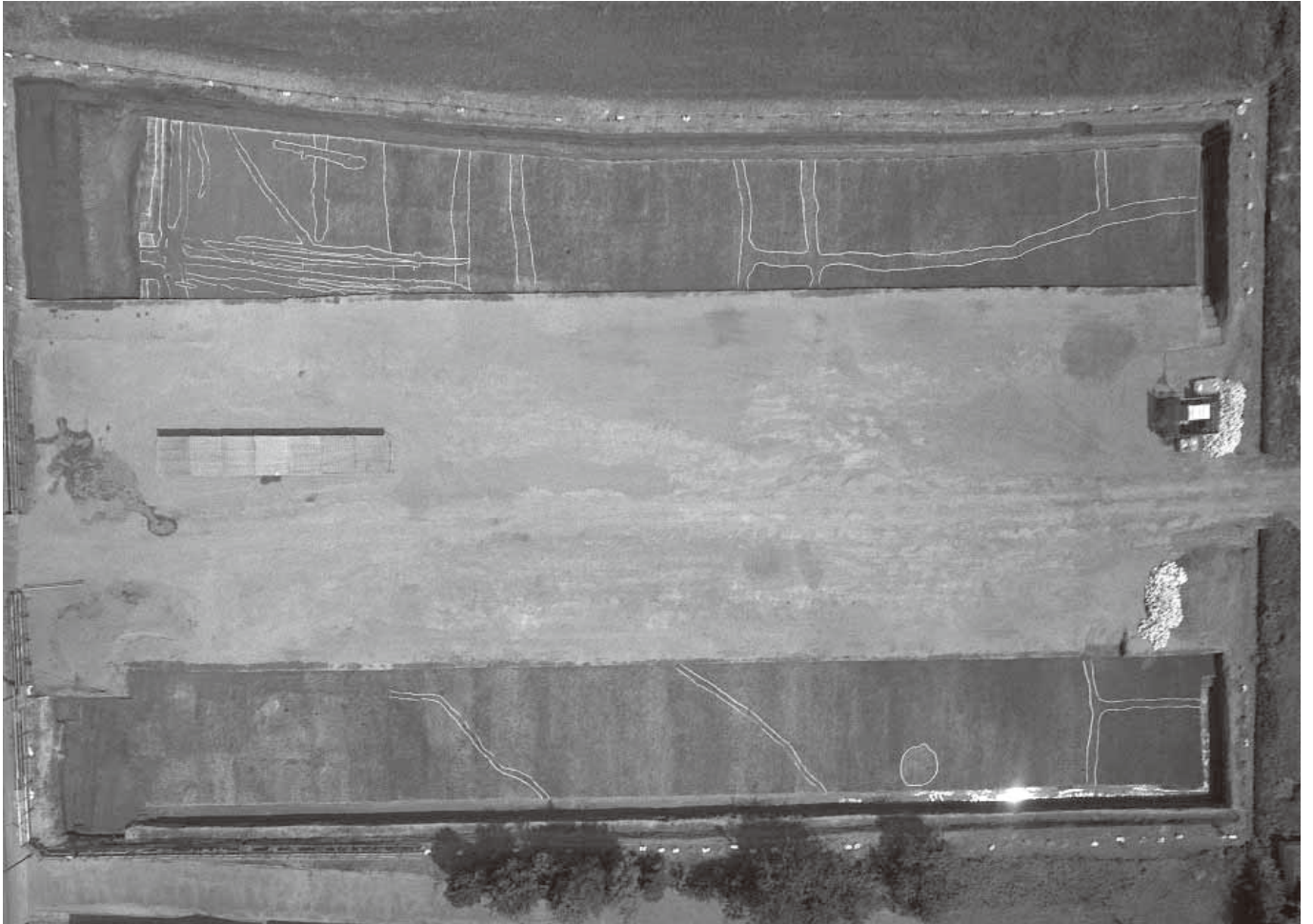
11. 縄文石器類観察表

図	写真番号	種別	器種	出土位置	残存	長さcm	幅cm	厚さcm	重さg	石材	成形と調整の特徴および遺物の時期
第272図	PL.227	剥片石器	石鏃	VI南区遺構外21-H-66VII層中	完形	2.0	1.7	0.8	0.8	チャート	凹基無茎鏃。完成状態。U字状に基部を括る鋭形鏃。
第272図	PL.227	剥片石器	石鏃	I北区42号溝埋没土中	先端部欠損	(1.5)	1.5	0.6	0.6	黒曜石	凹基無茎鏃。表裏面とも基部部研磨後に加工。先端部の欠損は衝撃剥離痕?
第272図	PL.227	剥片石器	石鏃	V南区3号溝埋没土中	左辺返し部欠損	1.7	1.4	0.7	0.7	黒曜石	平基無茎鏃。未成品。返し部の作出が不十分。左辺返し部欠損。
第272図	PL.227	剥片石器	石鏃	III北区28号溝1-L-126埋没土中	左右返し部欠損	(2.1)	(1.7)	0.6	0.9	黒曜石	凹基無茎鏃。完成状態。返し部を左右とも欠く。
第272図	PL.227	剥片石器	石鏃	III南区遺構外11-C-36VII層中	完形	2.1	1.5	0.5	0.9	チャート	平基無茎鏃。完成状態。返し部は僅か抉れる程度で、作出意図として抉り、は意識していない。
第272図	PL.227	剥片石器	石鏃	IV南区遺構外	先端部欠損	2.7	1.7	1.0	1.8	チャート	平基無茎鏃。完成状態。返し部は僅か抉れる程度、やや厚く重厚感のある作り。
第272図	PL.227	剥片石器	石鏃	IV北区18号溝埋没土中	完形	2.5	1.8	0.5	1.1	チャート	平基無茎鏃。完成状態。13に類似。
第272図	PL.227	剥片石器	石鏃	V北区21-O-16GAs-B下木田耕土中	完形	2.6	1.6	0.6	1.2	チャート	凹基無茎鏃。完成状態。加工は粗く、最終的な側縁整形は省かれているように見える。
第272図	PL.227	剥片石器	石鏃	V北区遺構外21-O-14GVI層中	先端部欠損	(2.0)	1.4	0.8	0.6	チャート	凹基無茎鏃。完成状態。先端部を僅か欠損。
第272図	PL.227	剥片石器	石鏃	II区中世遺構外III層中	先端部欠損	(1.9)	1.5	0.7	0.5	黒色頁岩	凹基無茎鏃。完成状態。先端部は衝撃破損。
第272図	PL.227	剥片石器	石鏃	III南区2号溝埋没土中	先端部欠損	(2.4)	1.7	0.7	1.2	チャート	凹基無茎鏃。完成状態。先端部を欠損。
第272図	PL.227	剥片石器	石鏃	V北区遺構外	完形	2.5	1.7	0.8	1.6	チャート	凹基無茎鏃。完成状態。左辺側の返し部を断で破損。
第272図	PL.227	剥片石器	石鏃	II北区遺構外91-L-20GVI層中	完形	2.4	1.5	0.6	1.1	黒曜石	凹基無茎鏃。完成状態。背面側先端部辺に縹状剥離痕の剥離、裏面側の剥離はこれを切る。
第272図	PL.227	剥片石器	石鏃	V北区遺構外	先端部欠損	(2.7)	1.7	0.5	1.3	黒色安山岩	凹基無茎鏃。完成状態。先端部欠損。
第272図	PL.227	剥片石器	石鏃	III北区As-B下木田耕土中	先端部、左辺返し部欠損	(2.6)	(1.9)	1.0	1.9	チャート	凹基無茎鏃。完成状態。先端部の破損は側縁加工時か?
第272図	PL.227	剥片石器	石鏃	IV北区18号溝埋没土中	左辺返し部欠損	(2.9)	(2.1)	0.8	1.9	黒曜石	凹基無茎鏃。完成状態。左辺返し部先端部を僅か欠損。
第272図	PL.227	剥片石器	石鏃	IV南区遺構外11-E-15GVI層中	右辺返し部欠損	(3.0)	(2.0)	0.7	1.5	チャート	凹基無茎鏃。完成状態。右辺返し部欠損。先端は突出気味で、レダクションが明らかである。
第272図	PL.227	剥片石器	石鏃	IV南区3号風倒木3層中	先端部、左辺返し部欠損	(3.1)	(2.0)	0.7	1.7	黒曜石	凹基無茎鏃。完成状態。右辺返し部欠損。先端は衝撃剥離して欠損。
第272図	PL.227	剥片石器	石鏃	IV区遺構外	完形	2.9	2.0	0.7	1.5	黒色安山岩	凹基無茎鏃。完成状態。大型の部類に入る石鏃で、16に相同。

遺物観察表

図	写真	番号	種別	器種	出土位置	残存	長さcm	幅cm	厚さcm	重さg	石材	成形と調整の特徴および遺物の時期
第272図	PL.227	20	剥片石器	石鏃	Ⅲ北区遺構外	先端部欠損	(3.9)	(1.7)	0.8	2.2	黒色安山岩	凹基無茎鏃。完成状態。大型で加工は丁寧。
第272図	PL.227	21	剥片石器	石鏃	Ⅲ北区遺構外1-M-12GV8層中	先端部欠損	(3.1)	2.2	0.9	1.8	チャート	凹基無茎鏃。完成状態。大型の部類の石鏃で、先端を僅か欠損。
第272図	PL.228	22	剥片石器	石鏃	Ⅲ北区34号溝1-L-20G埋没土中	茎部欠損	(2.8)	1.5	0.8	1.6	黒色頁岩	凹基無茎鏃。完成状態。側縁形状は刃状で、先端は折れ気味、形態的には23に近い。
第272図	PL.228	23	剥片石器	石鏃	Ⅲ北区As-B下水田耕土中	完形	3.5	1.4	0.5	1.7	黒色頁岩	有茎鏃。完成状態。円基鏃様の丸い基部に小さい茎が付く、側縁形状は鋸歯状の部類に入る。
第272図	PL.228	24	剥片石器	石鏃	Ⅳ南区18号溝底面上10cm	完形	(2.9)	1.8	1.0	1.7	黒色安山岩	有茎鏃。未成品か?側縁は有段、返し部は尖り気味、加工状態は粗い。
第272図	PL.228	25	剥片石器	有茎公頭器	Ⅳ区遺構外21-N-11GV1層中	先端部・茎部欠損	7.0	2.3	0.7	10.5	黒色頁岩	柳葉形。完成状態。鋸歯状の側縁、先端・基部を欠損、小瀬ヶ沢タイプの夔型。
第272図	PL.228	26	剥片石器	有茎公頭器	Ⅰ北区遺構外81-M-20GIV6層中	下半部欠損	3.0	(1.8)	0.7	1.6	チャート	柳葉形。完成状態。表裏面とも甲圧剥離、先端部破片。
第272図	PL.228	27	剥片石器	有茎公頭器	Ⅰ北区遺構外91-G-2GV1層中	完形	5.2	1.7	1.2	5.5	黒色頁岩	柳葉形。完成状態。上半部は軽く先端に移行、砲弾型を呈す。返し部は明確。
第273図	PL.228	1	剥片石器	石匙	Ⅷ区3・4号溝埋没土中	完形	7.5	5.2	1.3	45.4	珪質頁岩	線型。刃部背面側は相く浅い剥離、裏面側はヒンジ。
第273図	PL.228	2	剥片石器	削器	Ⅲ北区遺構外1-M-17G	完形	4.5	7.1	1.1	31.5	珪質頁岩	幅広剥片を用いる。右辺側の表面を除く各辺を加工、加工は平坦剥離様。
第273図	PL.228	3	剥片石器	打製石斧	Ⅳ北区1号溝埋没土中	完形	12.2	9.1	1.9	240	硬質泥岩	分銅型。完成状態。刃部摩擦・巻縛痕あり。刃部再生。
第273図	PL.228	4	剥片石器	打製石斧	Ⅲ北区遺構外	下半部欠損	(6.3)	(4.0)	1.8	42.8	ホルンフェルス	短冊型。完成状態。頭部破片。側縁摩擦。
第273図	PL.228	5	礫石器	石皿	V北区34号溝埋没土中	上端・下端欠損	25.5	11.8	5.5	2612.5	緑色片岩	無縁。表裏面とも摩擦。

写真図版



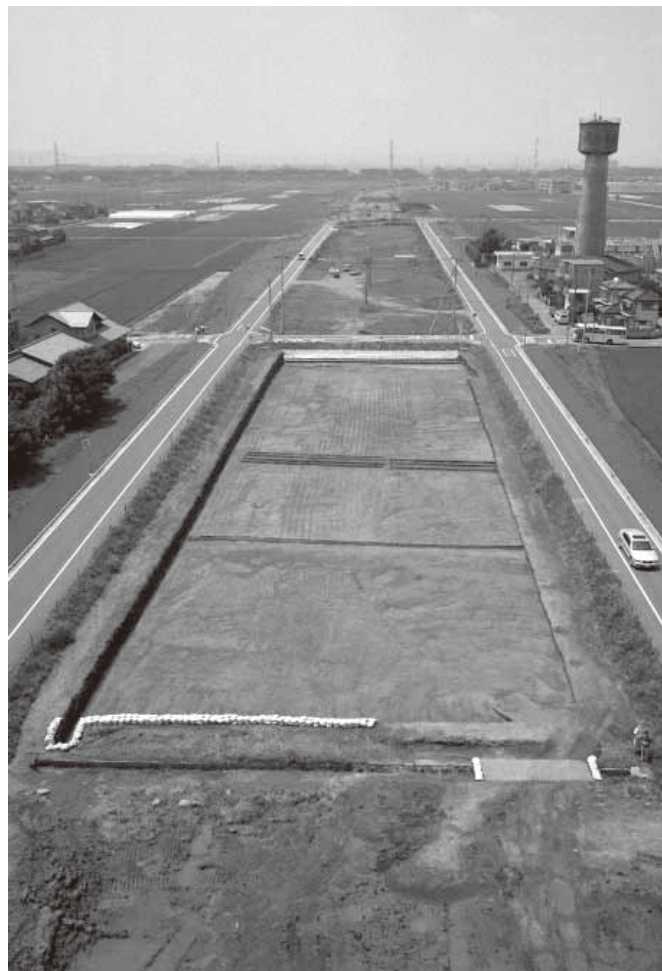
1. I区中近世面全景(北・南区/上空から)



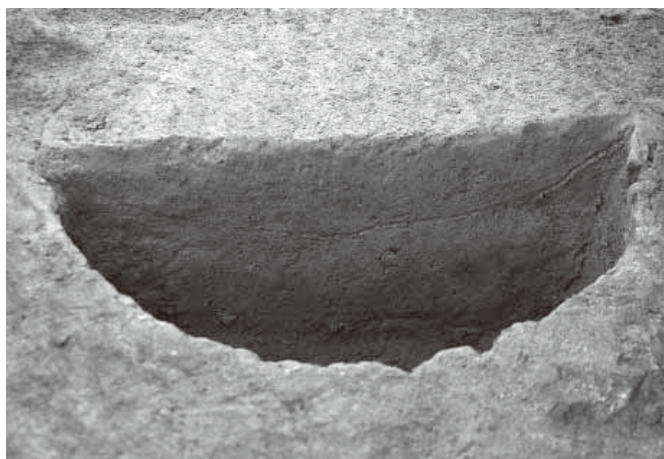
2. I区中近世面全景(中央区/上空から)



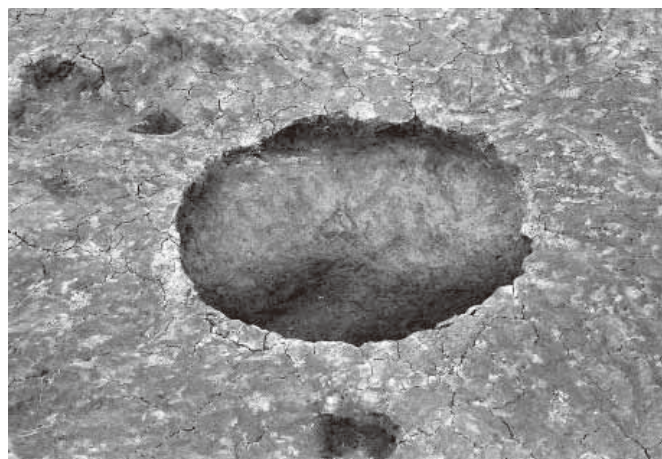
1. I区中近世面全景(南・北区/東上空から)



2. I区中近世面全景(中央区/東上空から)



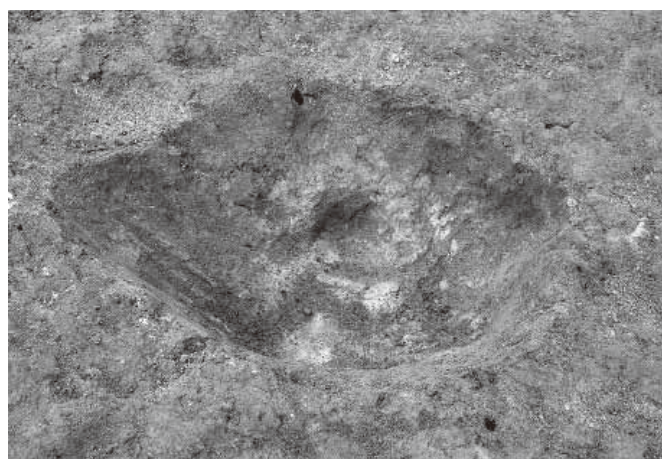
3. I区1号土坑土層断面(南から)



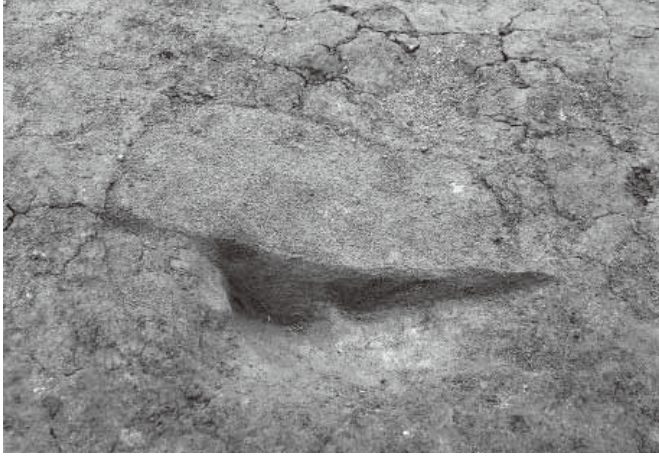
4. I区1号土坑全景(南から)



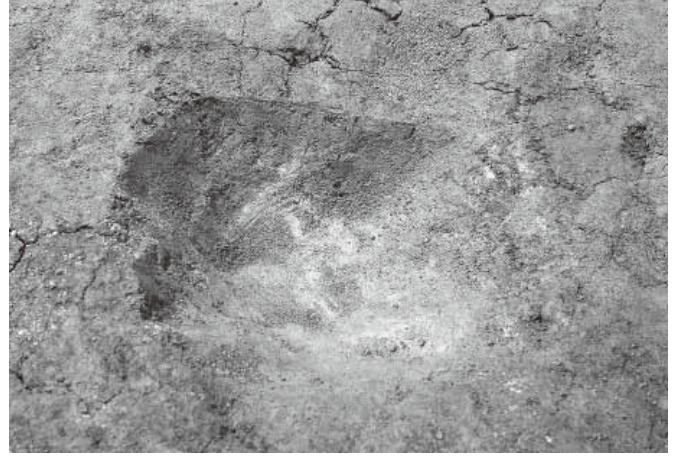
5. I区17号土坑土層断面(西から)



6. I区17号土坑全景(東から)



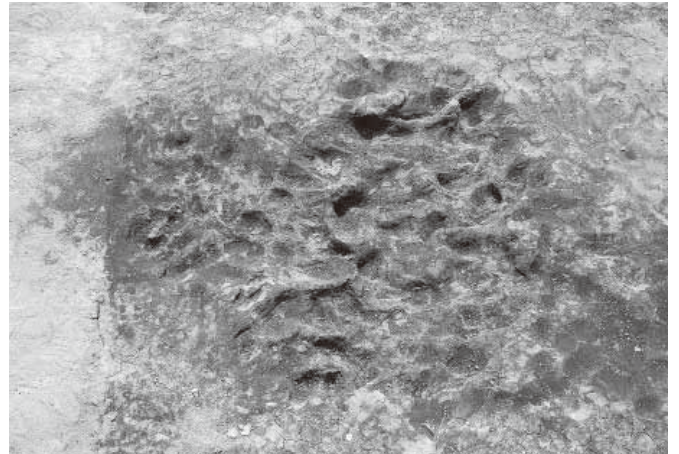
1. I区18号土坑土層断面(北西から)



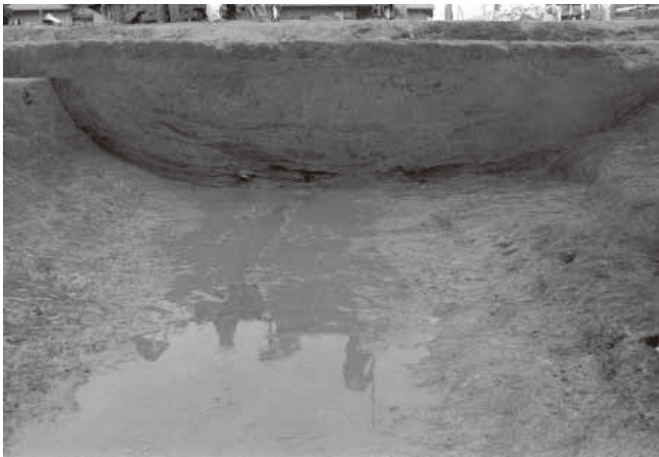
2. I区18号土坑全景(北東から)



3. I区19号土坑土層断面(西から)



4. I区19号土坑全景(北から)



5. I区1号堀土層断面(北から)



6. I区1号堀全景(南から)



7. I区1号～4号・11号溝全景(南西から)



8. I区1号～4号・11号溝全景(南から)



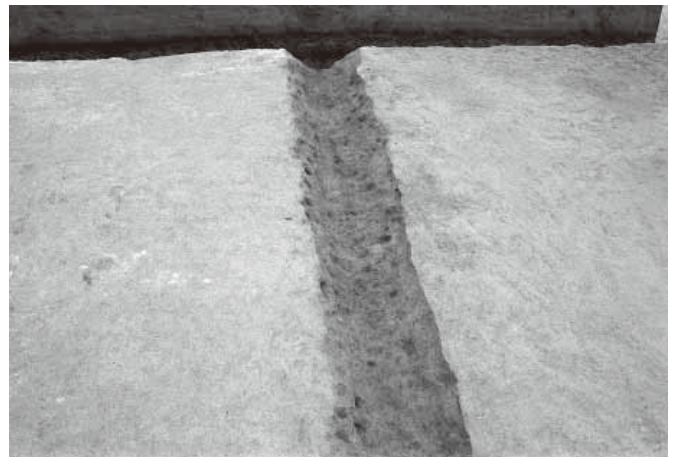
1. I区4号溝土層断面(北から)



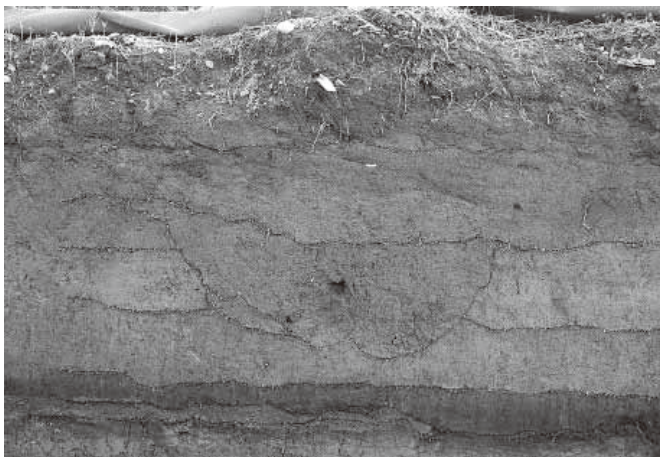
2. I区4号溝全景(南から)



3. I区5号～8号・10号～17号溝全景(東から)



4. I区9号溝全景(北区/北から)



5. I区9号溝土層断面(北から)



6. I区9号溝全景(中央区/北から)



7. I区11号溝全景(北から)

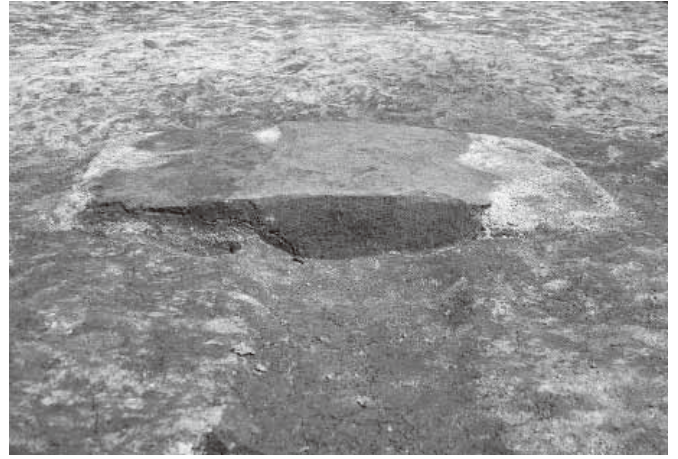


8. I区29号溝全景(南から)

I区中近世の遺構 溝・復旧溝



1. I区47号溝土層断面(南から)



2. I区48号溝土層断面(東から)



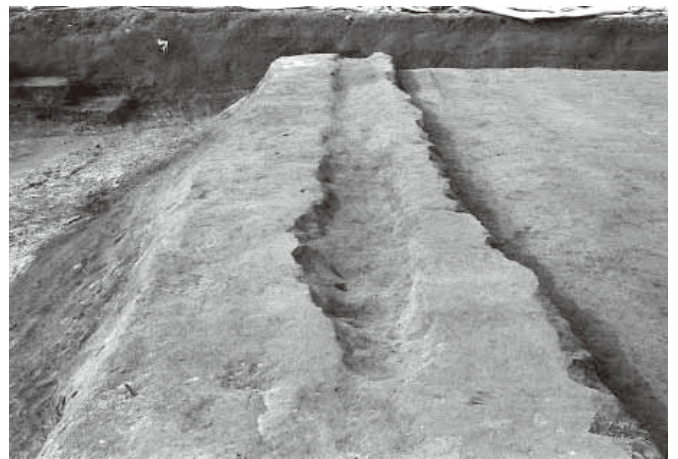
3. I区47号溝全景(南から)



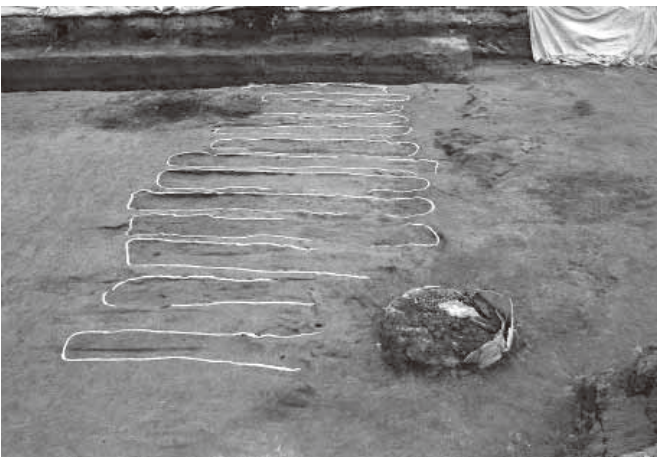
4. I区48号溝全景(東から)



5. I区1号復旧溝群土層断面(北から)



6. I区2号復旧溝群全景(南から)



7. I区3号復旧溝群全景(北から)



8. I区3号復旧溝群土層断面(東から)



1. I 区 3号復旧溝群全景(西から)



2. I 区 4号復旧溝群全景(北区/北から)



3. I 区 4号復旧溝群土層断面(東から)



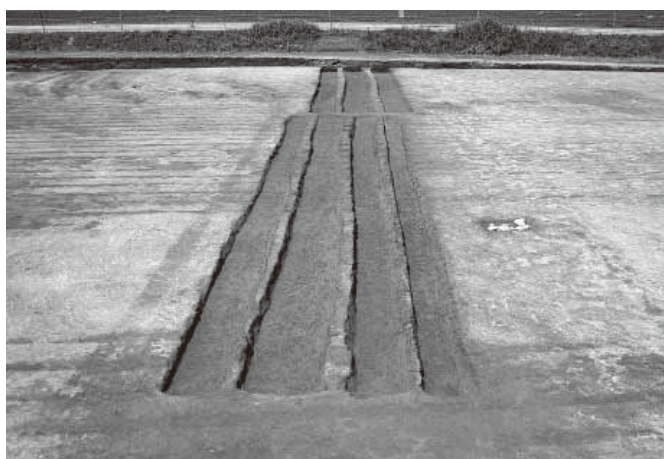
4. I 区 4号復旧溝群全景(中央区/北東から)



5. I 区 5号復旧溝群土層断面(南から)



6. I 区 6号復旧溝群土層断面(南から)



7. I 区 5号・6号復旧溝群全景(南から)



8. I 区 6号復旧溝群調査風景(南から)



1. Ⅱ区中近世面全景(南・北区/東上空から)



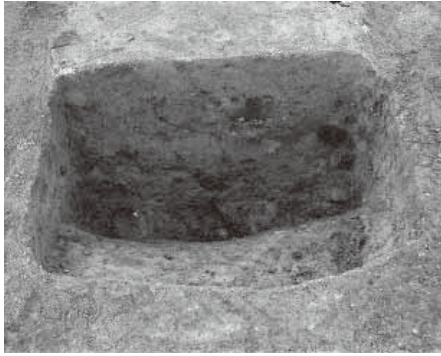
2. Ⅱ区中近世面全景(北区/上空から)



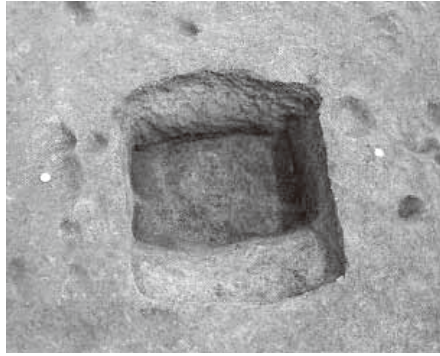
3. Ⅱ区中近世面全景(中央区西半部/東から)



4. Ⅱ区中近世面全景(中央区西半部/北から)



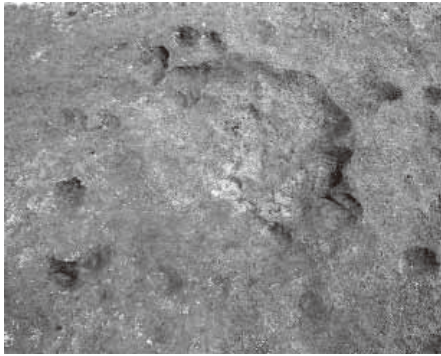
1. Ⅱ区1号土坑土層断面(南から)



2. Ⅱ区1号土坑全景(南から)



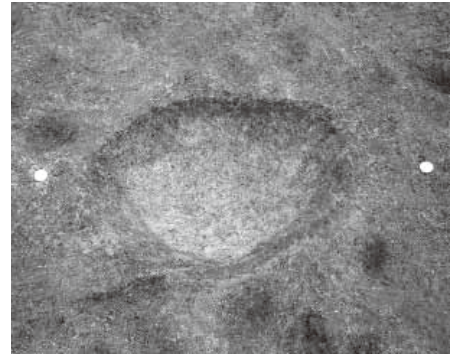
3. Ⅱ区2号土坑土層断面(北から)



4. Ⅱ区2号土坑全景(南から)



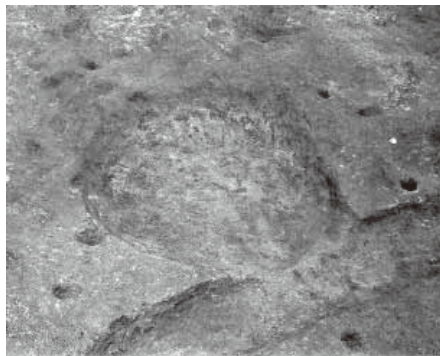
5. Ⅱ区3号土坑土層断面(南から)



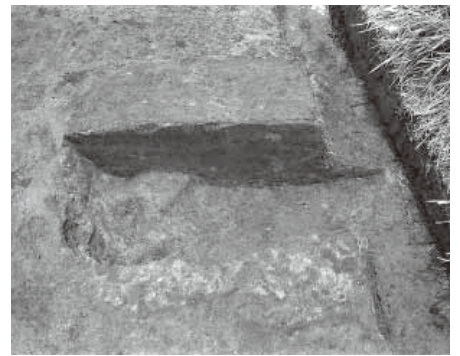
6. Ⅱ区3号土坑全景(南から)



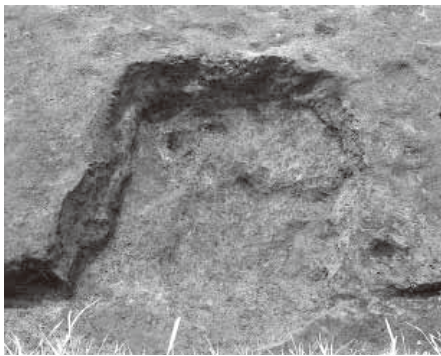
7. Ⅱ区5号土坑土層断面(南から)



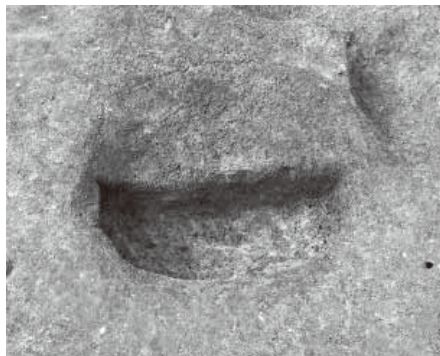
8. Ⅱ区5号土坑全景(南から)



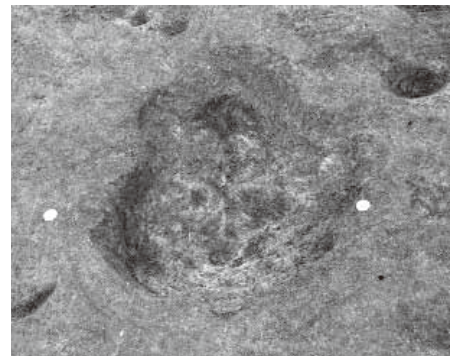
9. Ⅱ区6号土坑土層断面(南から)



10. Ⅱ区6号土坑全景(東から)



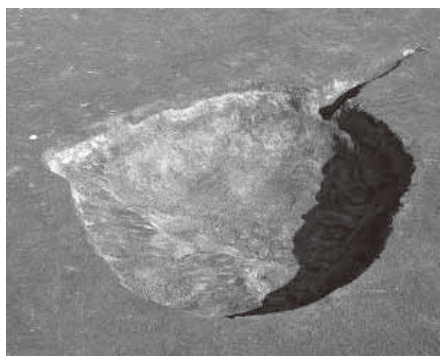
11. Ⅱ区7号土坑土層断面(南から)



12. Ⅱ区7号土坑全景(南から)



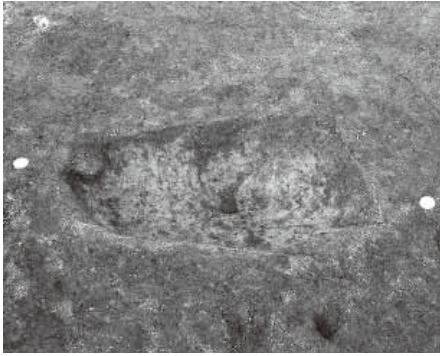
13. Ⅱ区9号土坑土層断面(北東から)



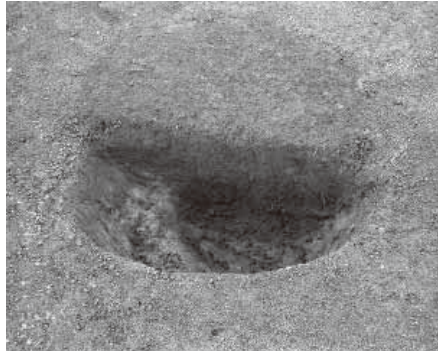
14. Ⅱ区9号土坑全景(南西から)



15. Ⅱ区10号土坑土層断面(南東から)



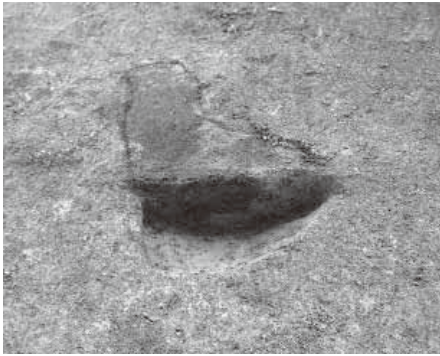
1. Ⅱ区10号土坑全景(南西から)



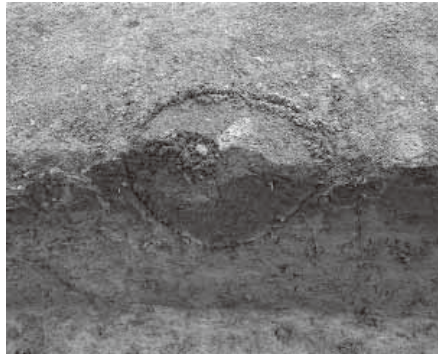
2. Ⅱ区1号ピット土層断面(南から)



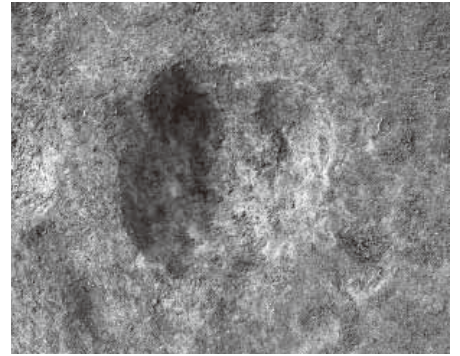
3. Ⅱ区2号ピット土層断面(北から)



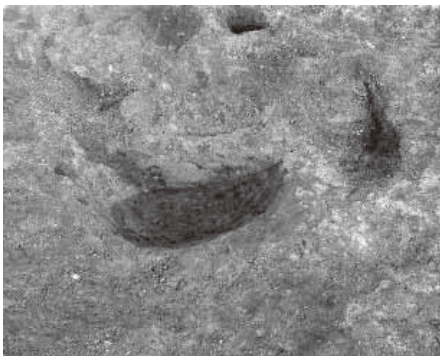
4. Ⅱ区3号ピット土層断面(東から)



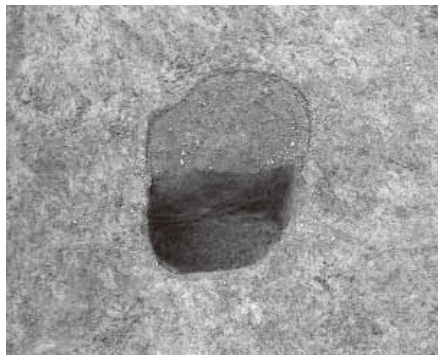
5. Ⅱ区4号ピット土層断面(西から)



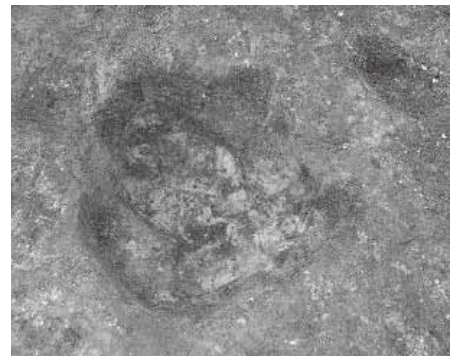
6. Ⅱ区5号ピット全景(南から)



7. Ⅱ区6号ピット土層断面(西から)



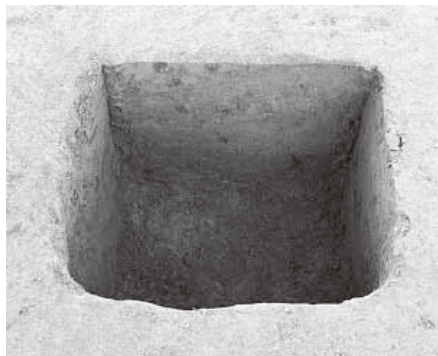
8. Ⅱ区7号ピット土層断面(南から)



9. Ⅱ区12号ピット全景(南から)



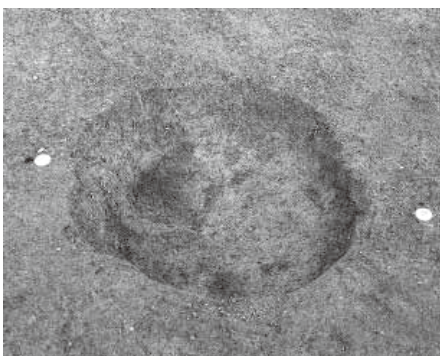
10. Ⅱ区13号ピット土層断面(南から)



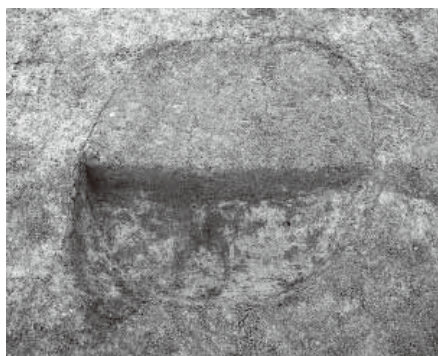
11. Ⅱ区13号ピット全景(南から)



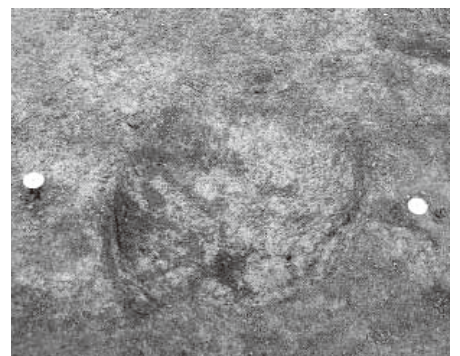
12. Ⅱ区14号ピット土層断面(南から)



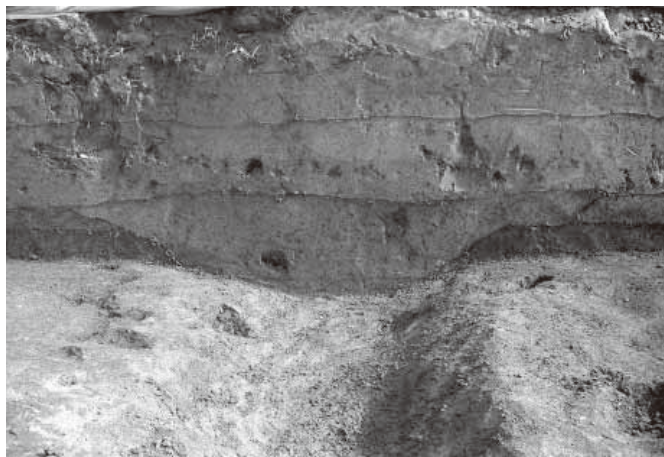
13. Ⅱ区14号ピット全景(南から)



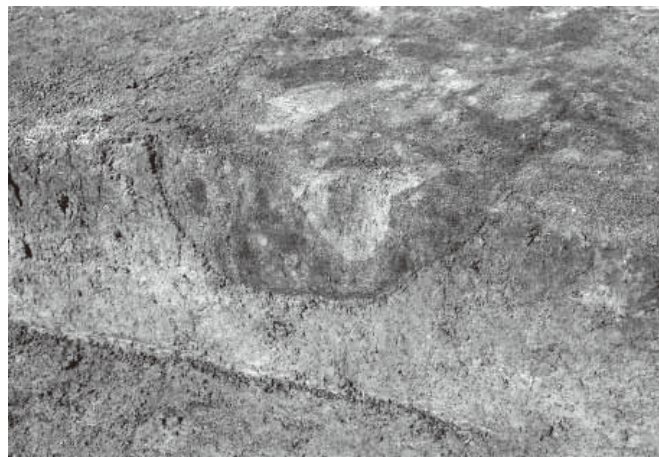
14. Ⅱ区15号ピット土層断面(南東から)



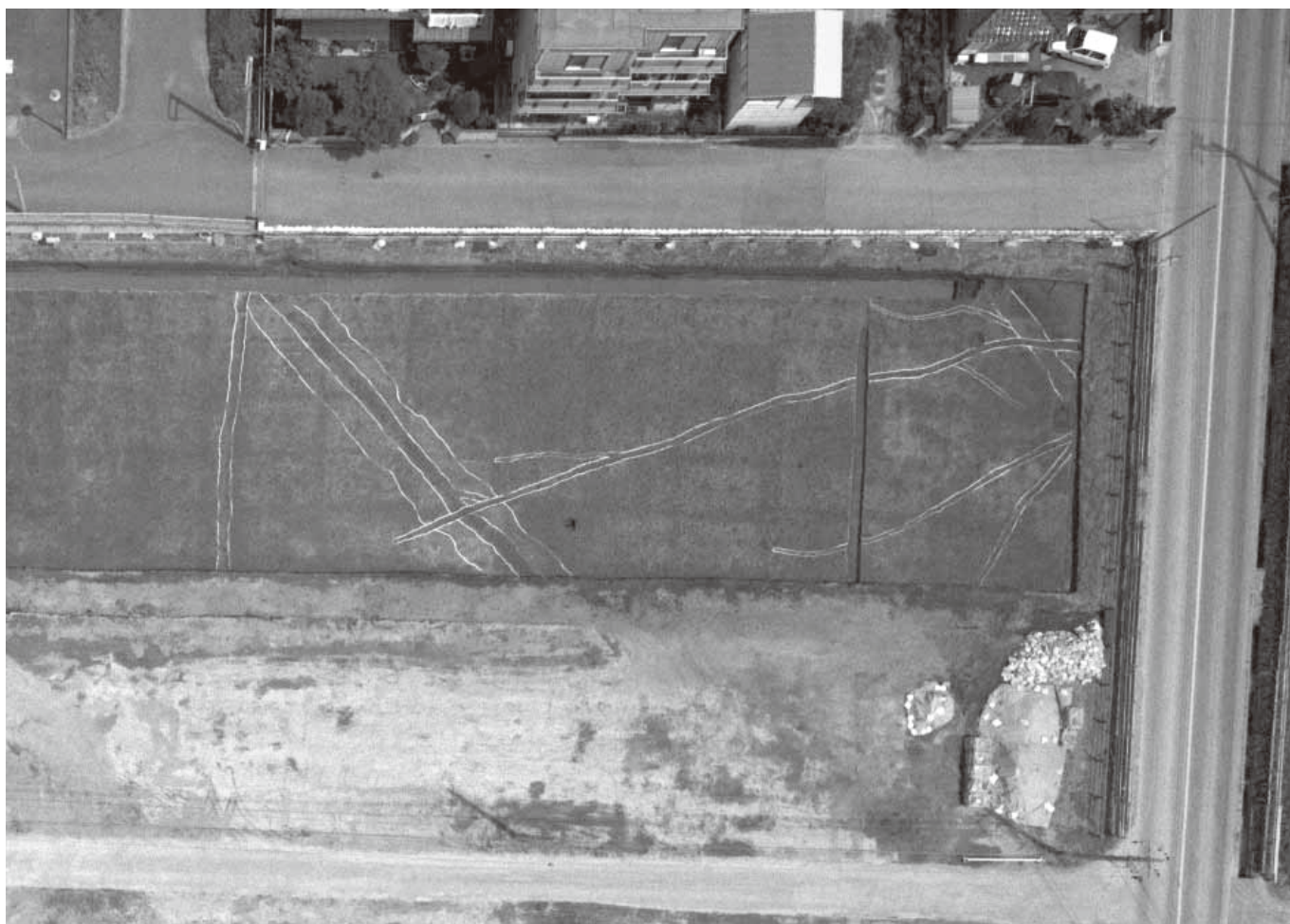
15. Ⅱ区15号ピット全景(南東から)



1. Ⅱ区1号溝土層断面(北から)



2. Ⅱ区3号溝土層断面(西から)



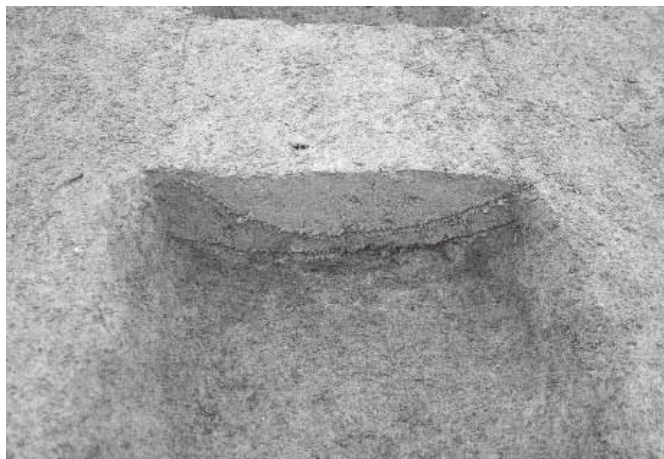
3. Ⅱ区3号～10号溝全景(上空から)



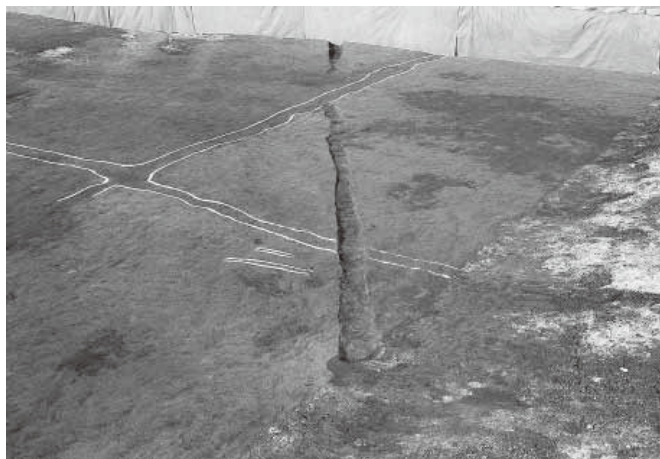
4. Ⅱ区21号溝土層断面(西から)



5. Ⅱ区21号溝全景(東から)



1. Ⅱ区22号溝土層断面(南から)



2. Ⅱ区22号溝全景(南東から)



3. Ⅱ区23号溝土層断面(西から)



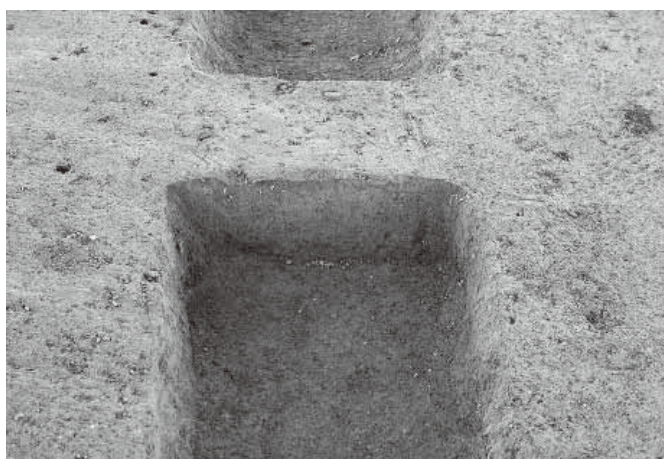
4. Ⅱ区23号溝全景(南から)



5. Ⅱ区25号溝土層断面(東から)



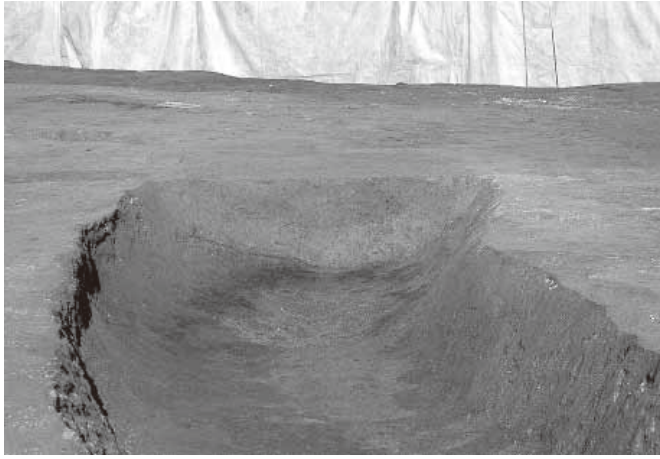
6. Ⅱ区25号溝全景(東から)



7. Ⅱ区26号溝土層断面(東から)



8. Ⅱ区26号溝全景(東から)



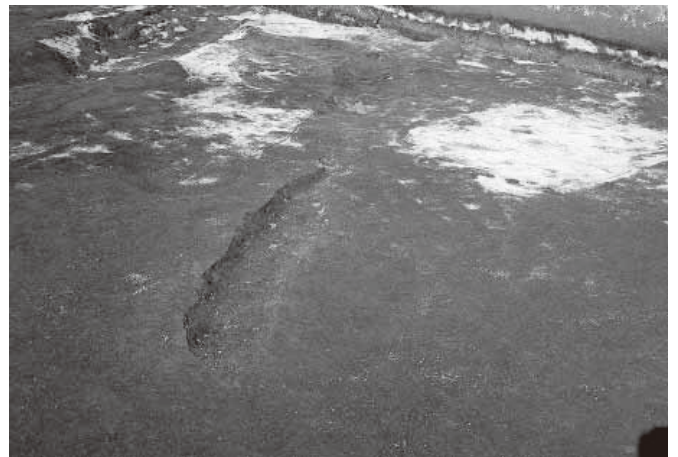
1. Ⅱ区27号溝土層断面(南東から)



2. Ⅱ区27号溝全景(南東から)



3. Ⅱ区28号溝土層断面(南東から)



4. Ⅱ区28号溝全景(南東から)



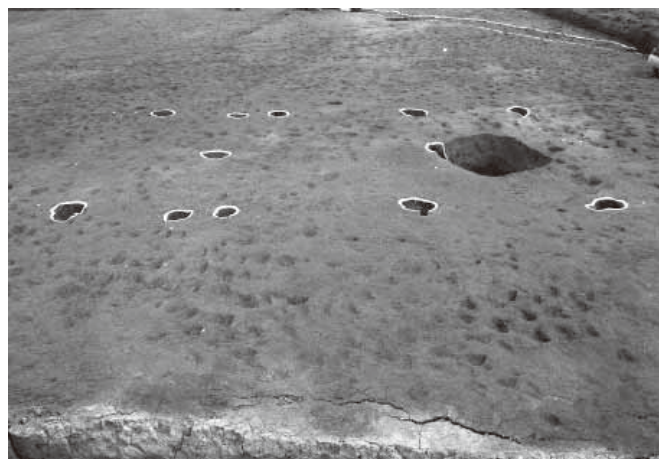
5. Ⅱ区中近世面全景(中央区東半部/西から)



1. Ⅲ区中近世面全景(北・南区/上空から)



2. Ⅲ区中近世面全景(南・北区/東から)



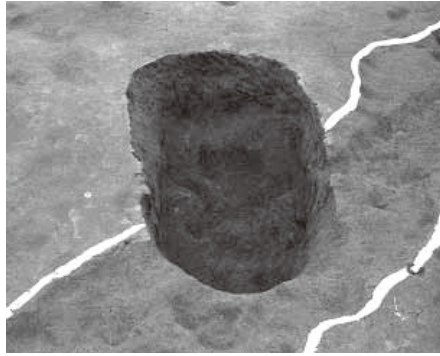
3. Ⅲ区1号掘立柱建物全景(南から)



4. Ⅲ区1号掘立柱P13礫出土状態(南から)



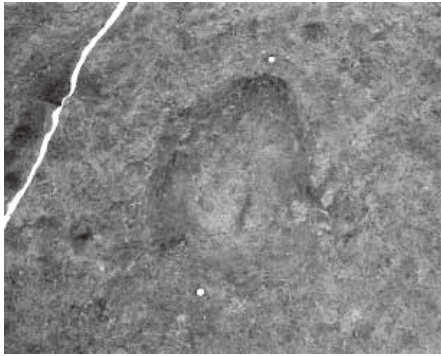
1. Ⅲ区1号土坑土層断面(東から)



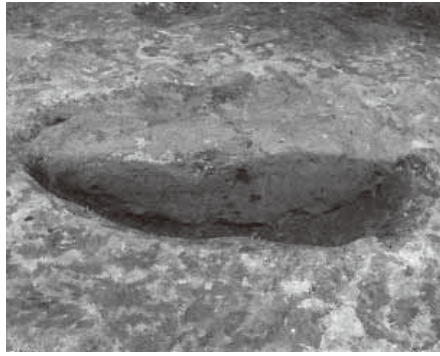
2. Ⅲ区1号土坑全景(東から)



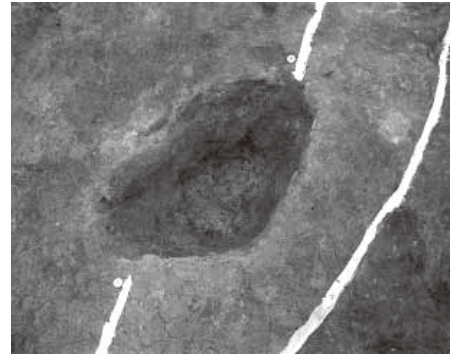
3. Ⅲ区4号土坑土層断面(北から)



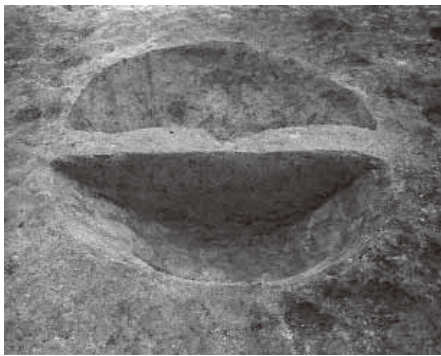
4. Ⅲ区4号土坑全景(東から)



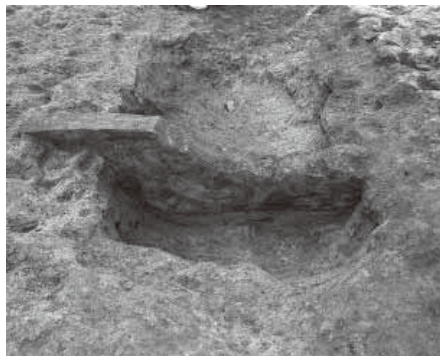
5. Ⅲ区5号土坑土層断面(南から)



6. Ⅲ区5号土坑全景(東から)



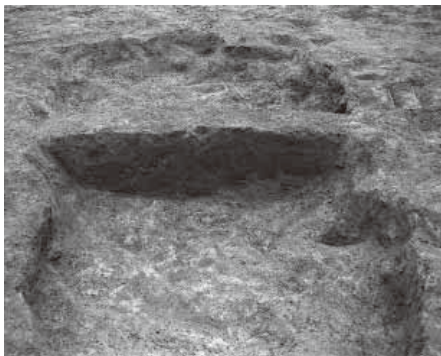
7. Ⅲ区6号土坑土層断面(西から)



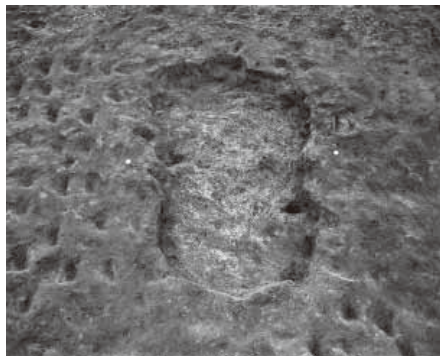
8. Ⅲ区7号土坑土層断面(南から)



9. Ⅲ区7号土坑全景(西から)



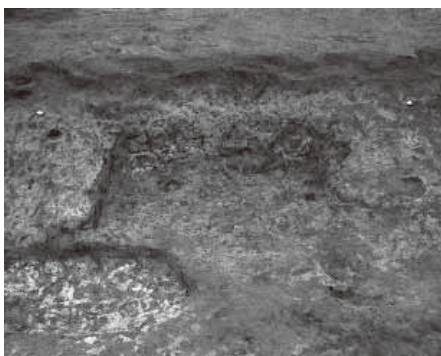
10. Ⅲ区8号土坑土層断面(東から)



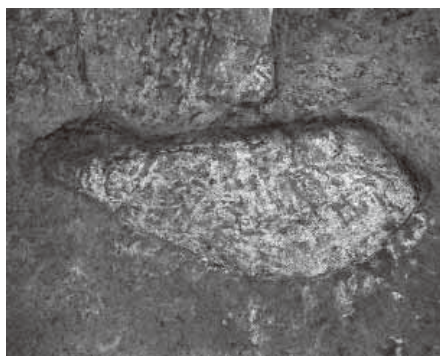
11. Ⅲ区8号土坑全景(東から)



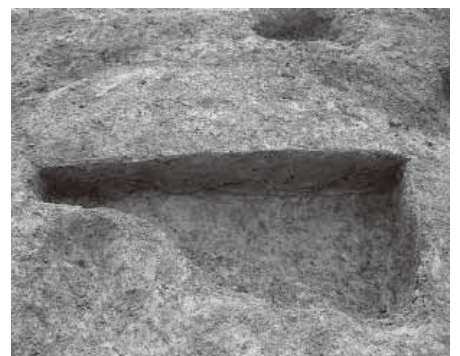
12. Ⅲ区9号土坑土層断面(西から)



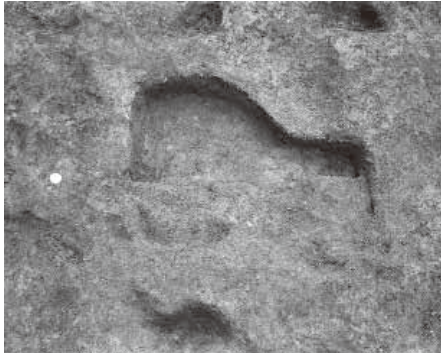
13. Ⅲ区9号土坑全景(西から)



14. Ⅲ区10号土坑全景(西から)



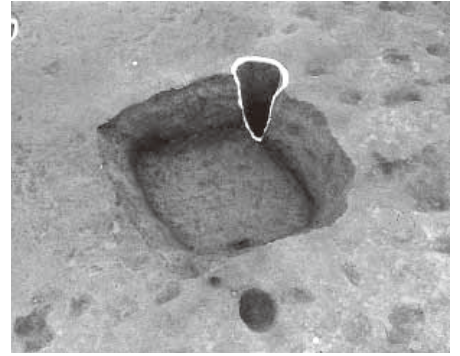
15. Ⅲ区11号土坑土層断面(東から)



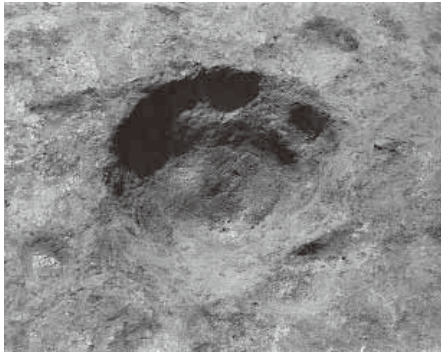
1. Ⅲ区11号土坑全景(西から)



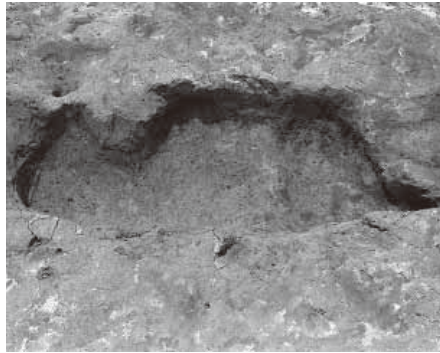
2. Ⅲ区12号土坑土層断面(南から)



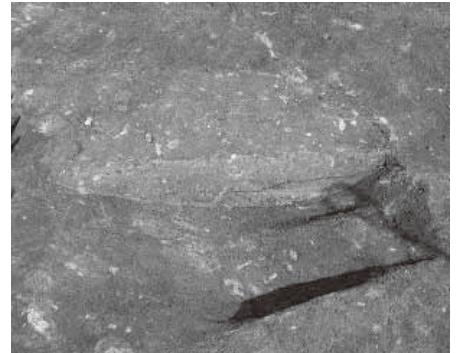
3. Ⅲ区12号土坑全景(東から)



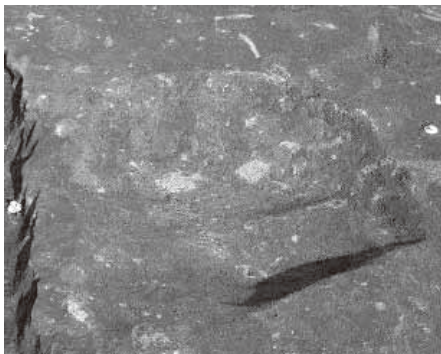
4. Ⅲ区13号土坑全景(東から)



5. Ⅲ区14号土坑全景(東から)



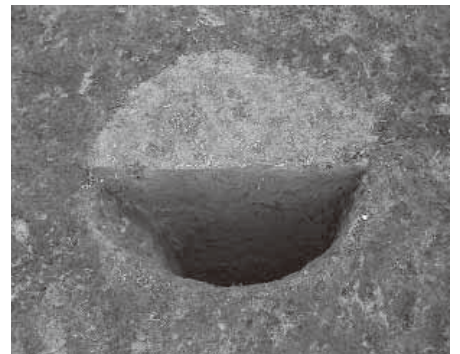
6. Ⅲ区110号土坑土層断面(南から)



7. Ⅲ区110号土坑全景(南から)



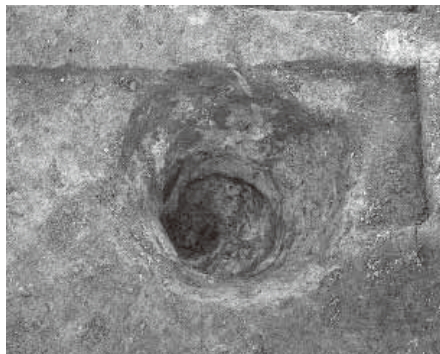
8. Ⅲ区119号土坑土層断面(南から)



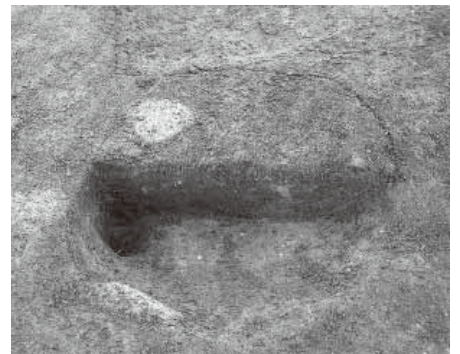
9. Ⅲ区3号ピット土層断面(南から)



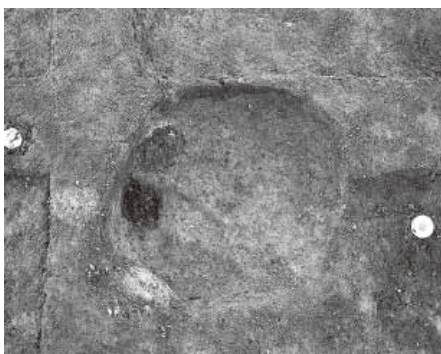
10. Ⅲ区86号ピット土層断面(南から)



11. Ⅲ区86号ピット全景(南から)



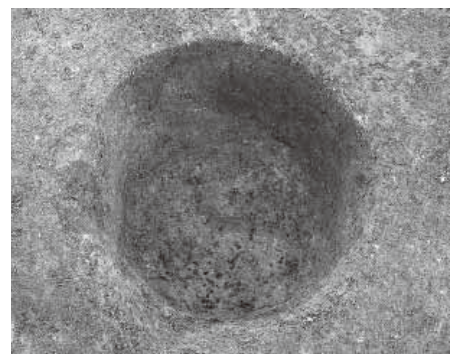
12. Ⅲ区87号ピット土層断面(南から)



13. Ⅲ区87号ピット全景(南から)



14. Ⅲ区88号ピット土層断面(南から)



15. Ⅲ区88号ピット全景(南から)



1. Ⅲ区蛭堀土層断面(南区/北東から)



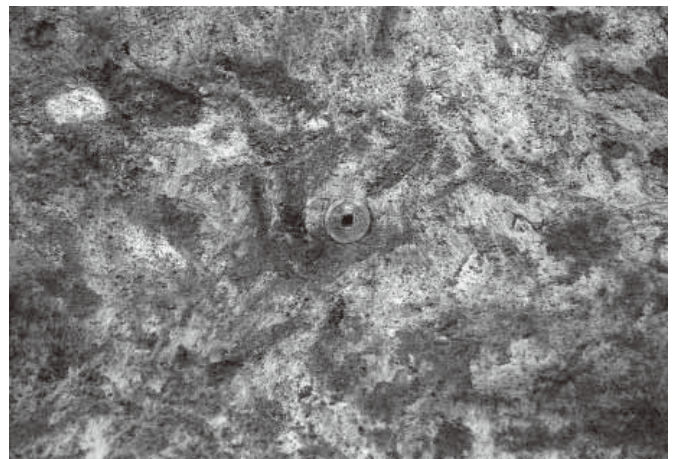
2. Ⅲ区蛭堀全景(南区/南から)



3. Ⅲ区1号溝全景(南から)



4. Ⅲ区1号溝土層断面(北から)



5. Ⅲ区1号溝銭貨出土状態(西から)

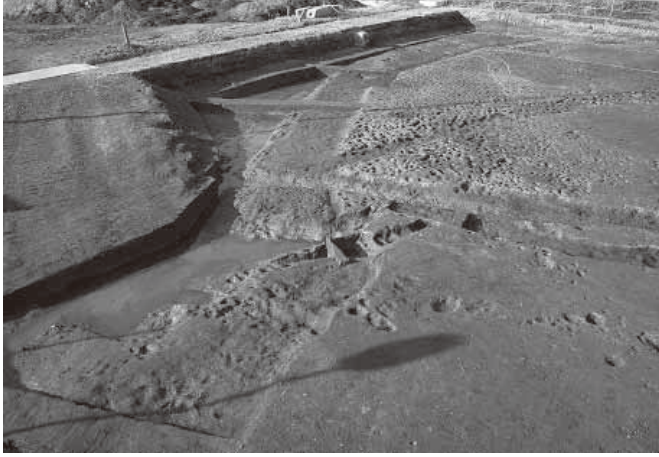


6. Ⅲ区1号・2号溝土層断面(北西から)



7. Ⅲ区2号溝遺物出土状態(北から)

Ⅲ区中近世の遺構 溝



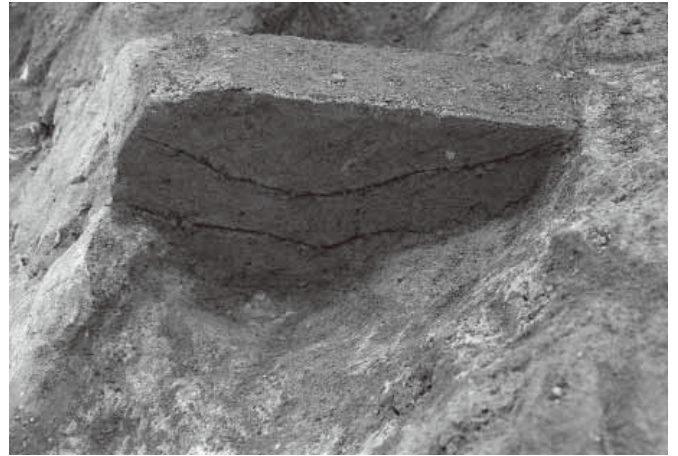
1. Ⅲ区2号・41号・42号溝全景(南東から)



2. Ⅲ区3号溝土層断面(西から)



3. Ⅲ区2号溝全景(南から)



4. Ⅲ区4号溝土層断面(南から)



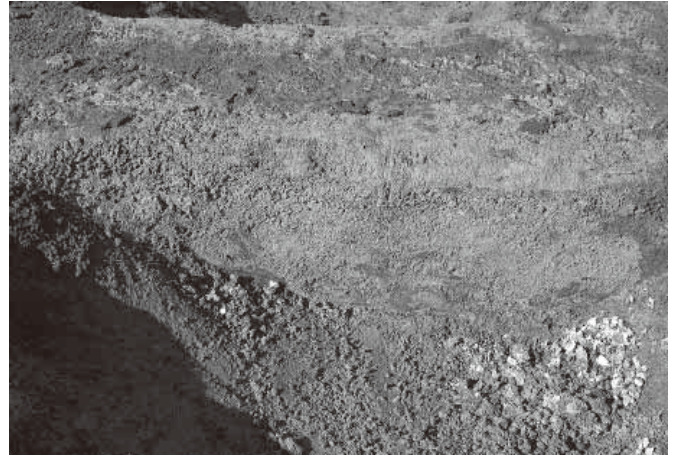
6. Ⅲ区5号溝全景(南から)



5. Ⅲ区5号溝土層断面(北から)



1. Ⅲ区5号・6号・40号溝他全景(東から)



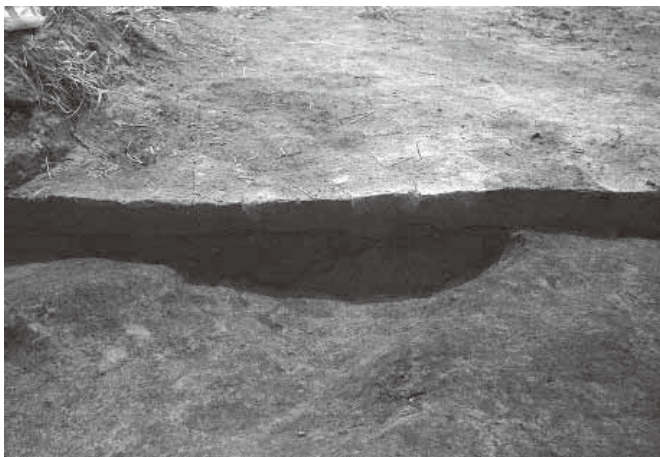
2. Ⅲ区5号溝土層断面(南から)



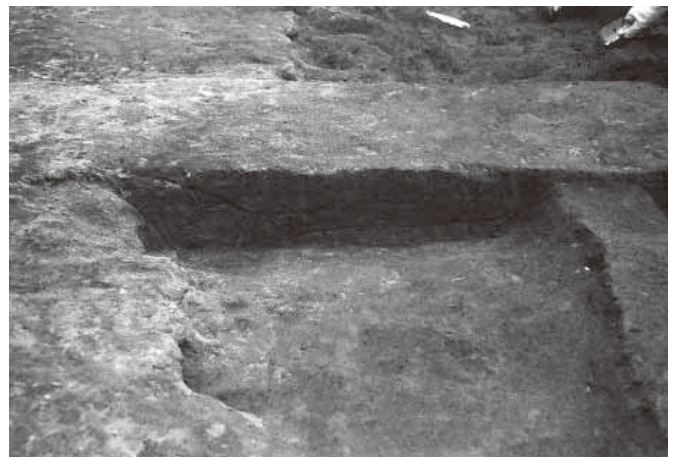
3. Ⅲ区5号・6号・40号溝全景(南東から)



4. Ⅲ区6号溝土層断面(南から)



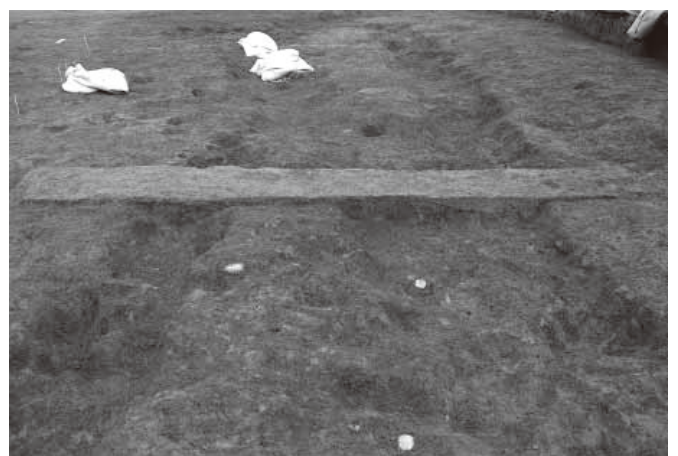
5. Ⅲ区6号溝土層断面(北から)



6. Ⅲ区6号溝土層断面(西から)

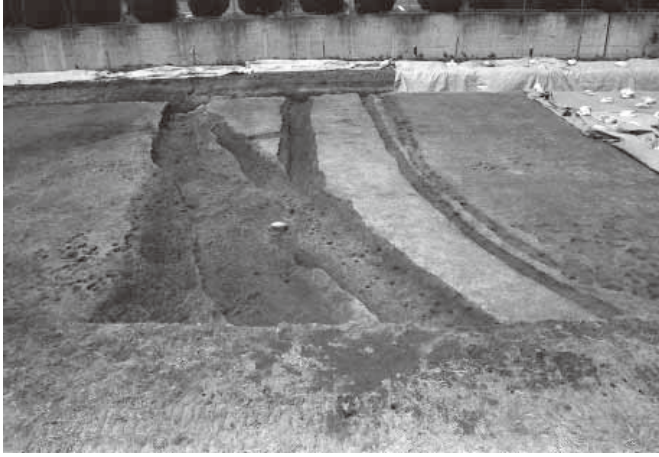


7. Ⅲ区7号溝土層断面(北から)



8. Ⅲ区8号・21号溝土層断面(西から)

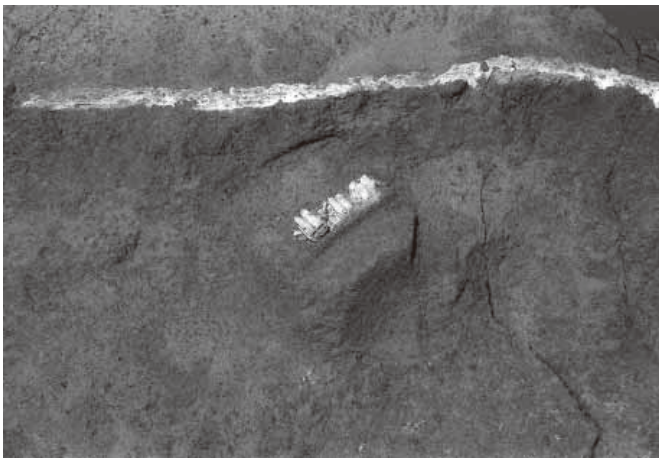
Ⅲ区中近世の遺構 溝



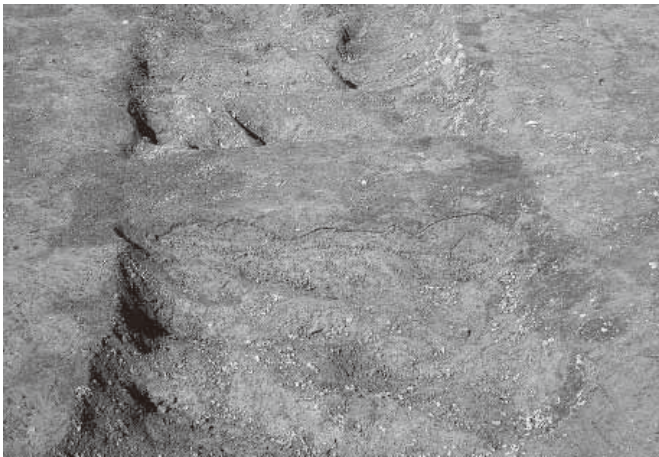
1. Ⅲ区9号～12号・17号～20号溝全景(南から)



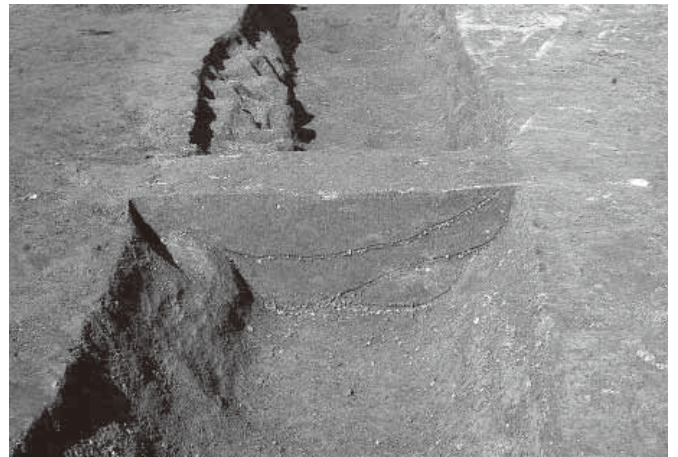
3. Ⅲ区13号溝全景(南から)



2. Ⅲ区18号溝牛歯出土状態(南から)



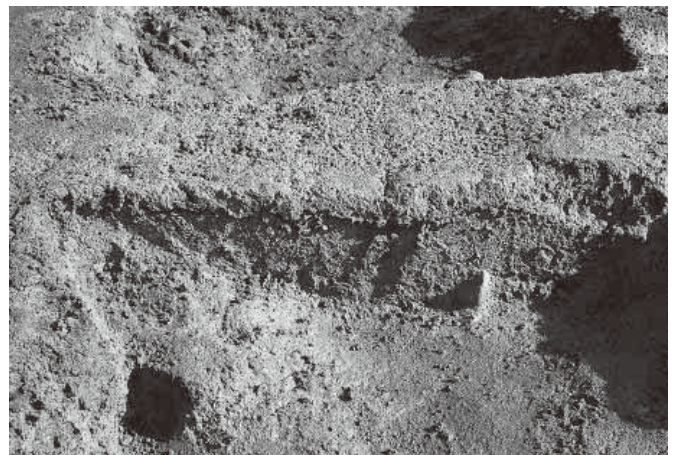
4. Ⅲ区36号溝土層断面(南から)



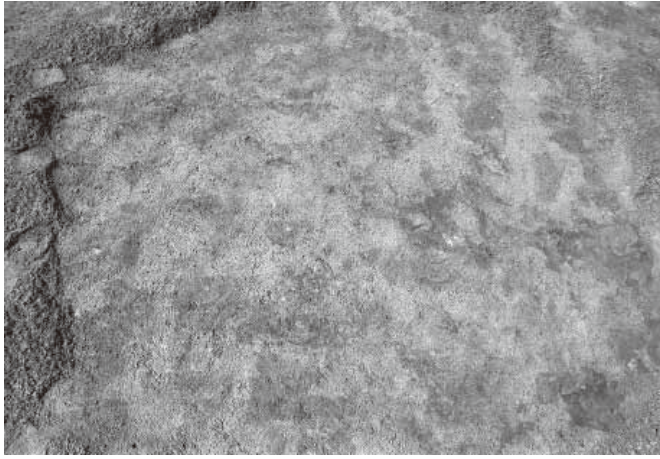
5. Ⅲ区37号溝土層断面(南から)



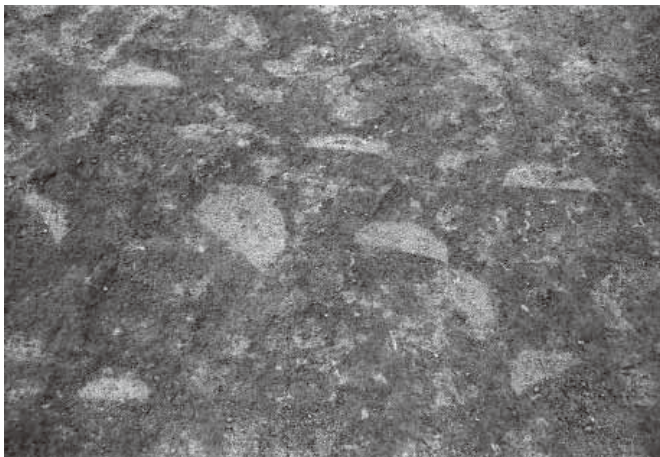
6. Ⅲ区39号・38号溝全景(南から)



7. Ⅲ区40号溝土層断面(西から)



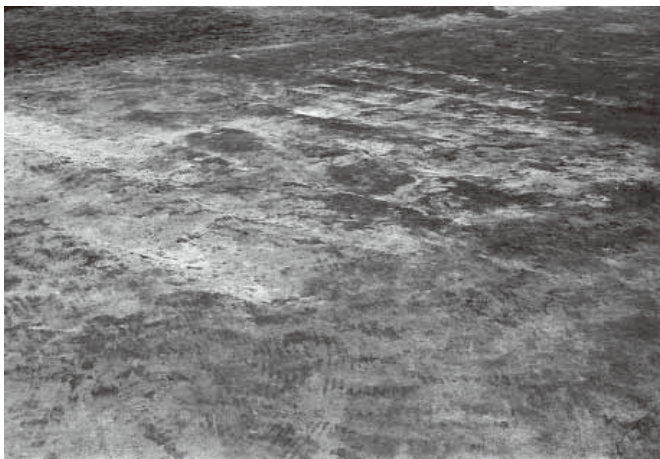
1. Ⅲ区浅間B軽石上耕作痕検出状況(南区)



2. Ⅲ区浅間B軽石上耕作痕の形態(南区)



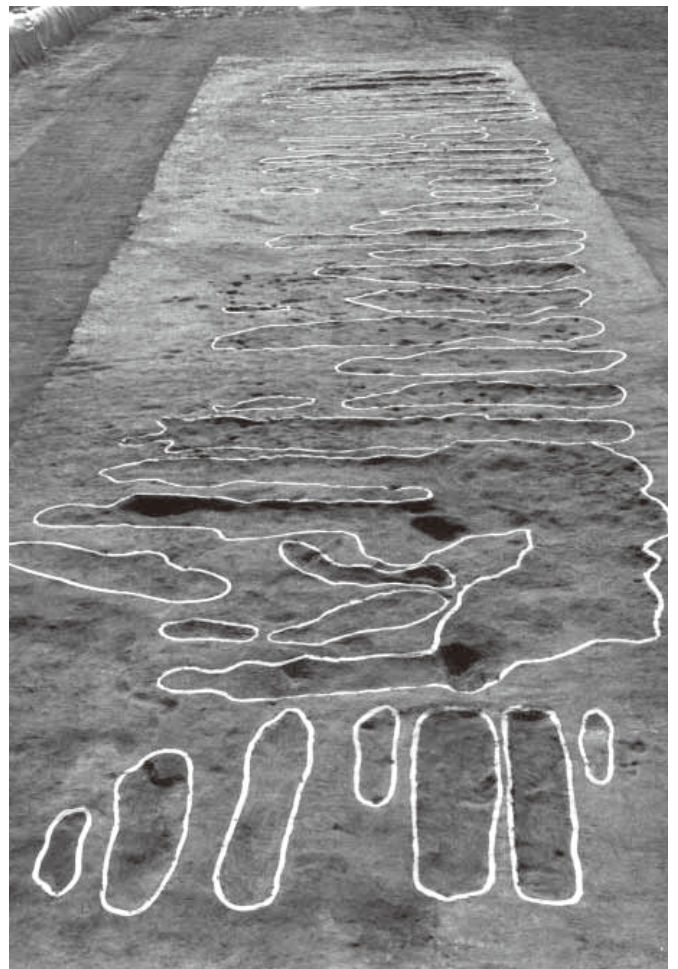
3. Ⅲ区浅間B軽石上耕作痕全景(南区/東から)



4. Ⅲ区1号復旧溝群検出状況全景(南から)



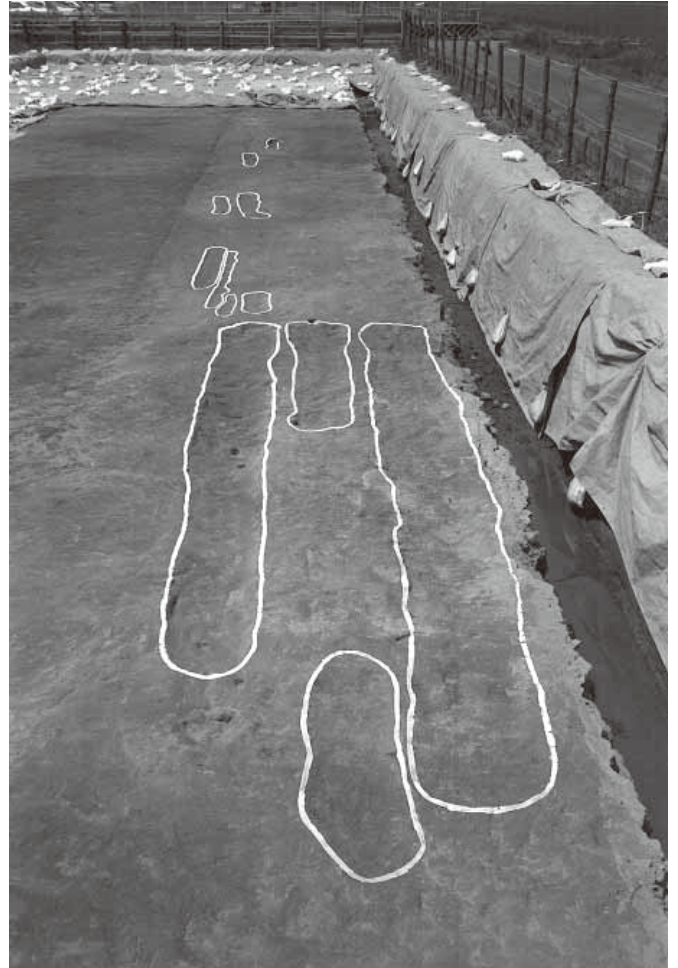
5. Ⅲ区1号復旧溝群近景(東から)



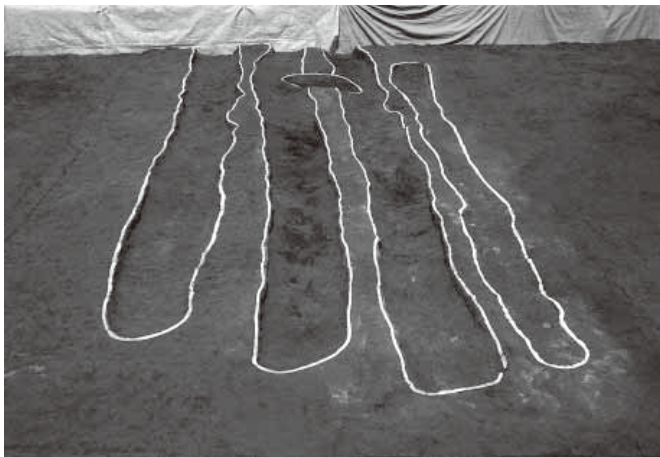
6. Ⅲ区1号復旧溝群全景(東から)



1. Ⅲ区2号復旧溝群全景(北から)



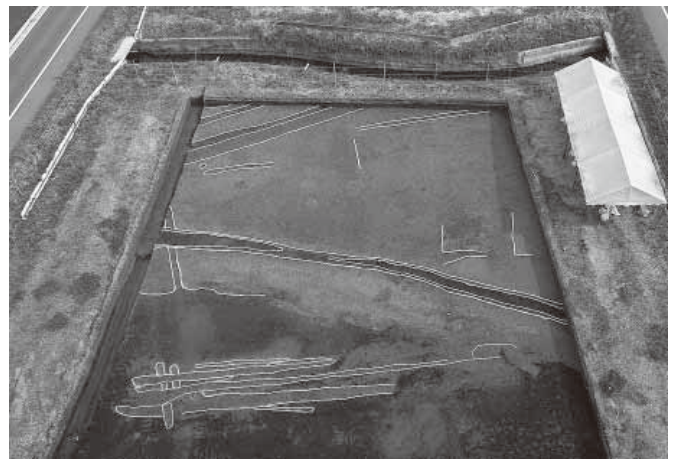
3. Ⅲ区4号復旧溝群全景(東から)



2. Ⅲ区3号復旧溝群全景(南から)



4. Ⅲ区6号復旧溝群全景(北から)



5. Ⅲ区浅間B軽石上層遺構全景(南区/西から)



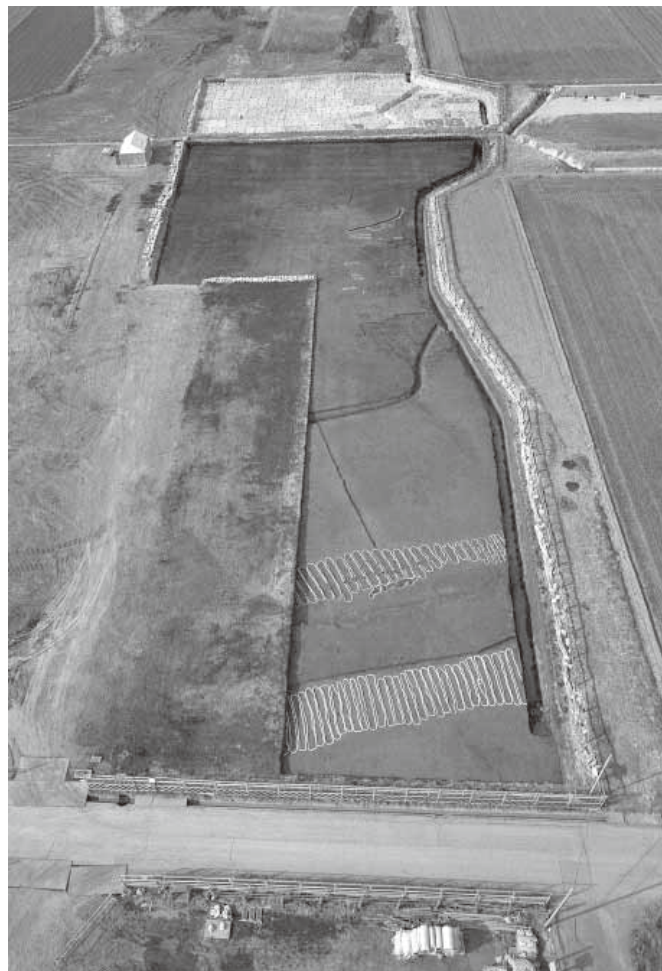
6. Ⅲ区浅間A軽石復旧溝群土層断面(中央区/南から)



7. Ⅲ区遺構確認調査風景(東から)



1. IV区中近世面全景(南区/東から)



2. IV区中近世面全景(北区/東から)



3. IV区中近世面全景(中央区/東から)



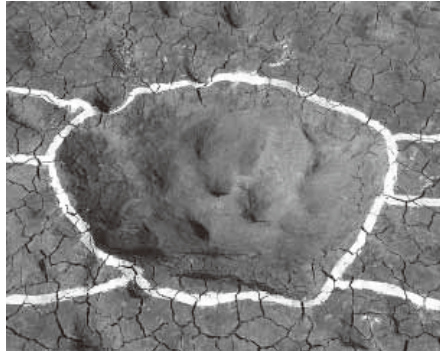
4. IV区中近世面全景(北区/上空から)



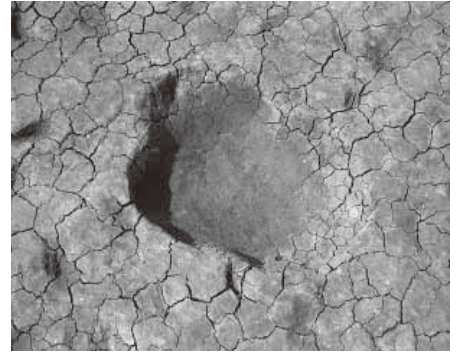
5. IV区中近世面全景(南区/上空から)



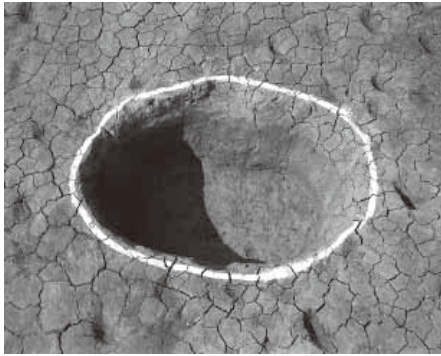
1. IV区1号土坑全景(北から)



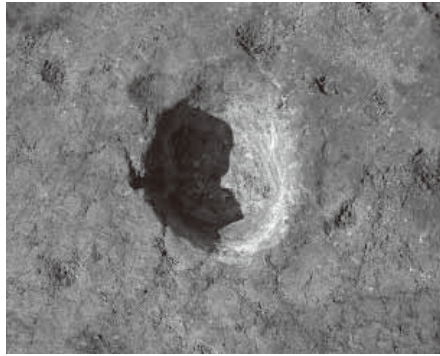
2. IV区2号土坑全景(東から)



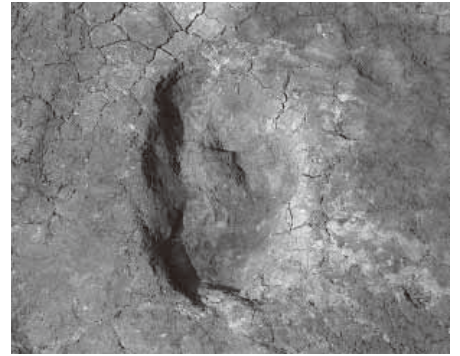
3. IV区3号土坑全景(北から)



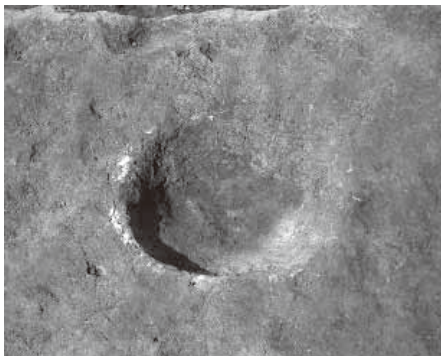
4. IV区4号土坑全景(北から)



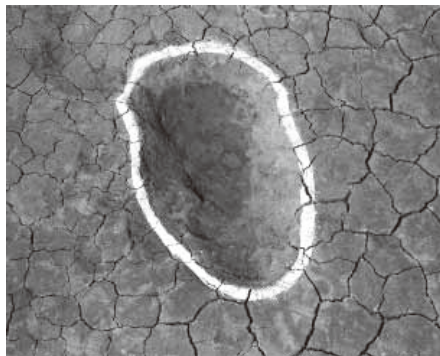
5. IV区5号土坑全景(北から)



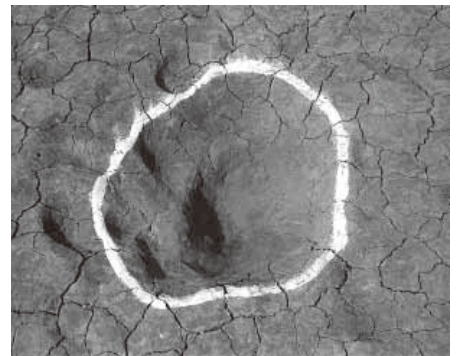
6. IV区6号土坑全景(北から)



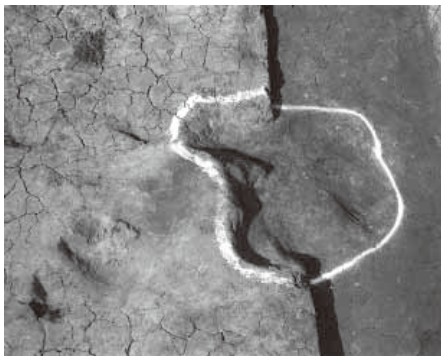
7. IV区7号土坑全景(北から)



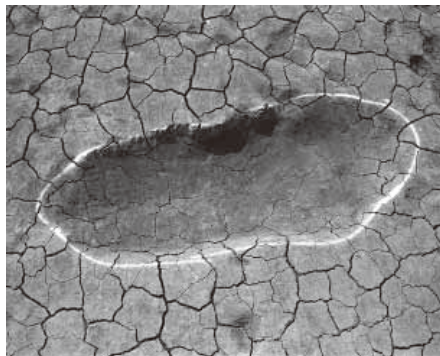
8. IV区8号土坑全景(北から)



9. IV区9号土坑全景(北から)



10. IV区11号土坑全景(北から)



11. IV区12号土坑全景(北から)



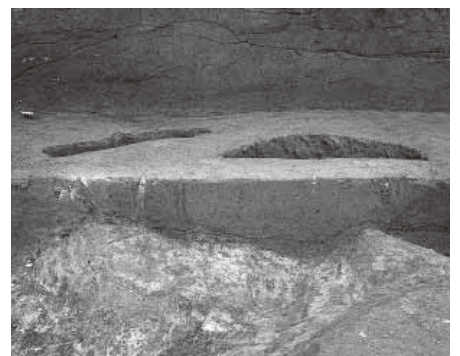
12. IV区15号土坑全景(東から)



13. IV区77号土坑土層断面(南から)



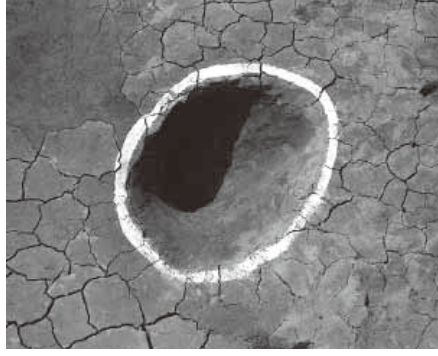
14. IV区77号土坑全景(南から)



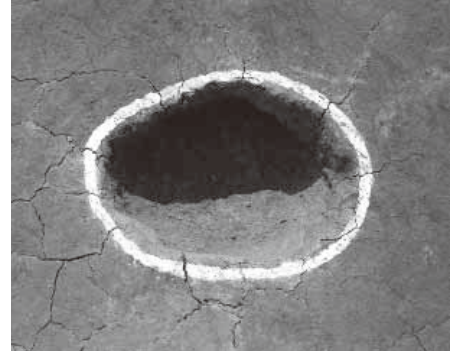
15. IV区78号土坑土層断面(南から)



1. IV区78号土坑全景(北から)



2. IV区1号ピット全景(北から)



3. IV区2号ピット全景(北から)



4. IV区蛭堀全景(北区/北から)



5. IV区蛭堀土層断面(北区/北から)



6. IV区45号～49号溝土層断面(北から)



7. IV区蛭堀・45号～49号溝全景(中央区/南から)



8. IV区蛭堀土層断面(中央区/南東から)



9. IV区45号～49号溝土層断面(中央区/南東から)

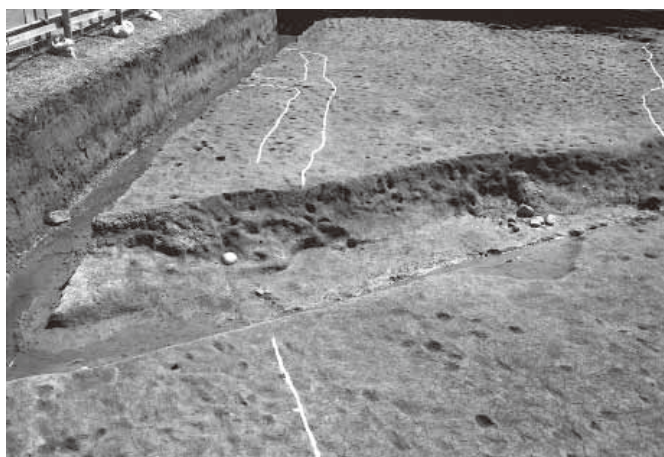
IV区中近世の遺構 溝



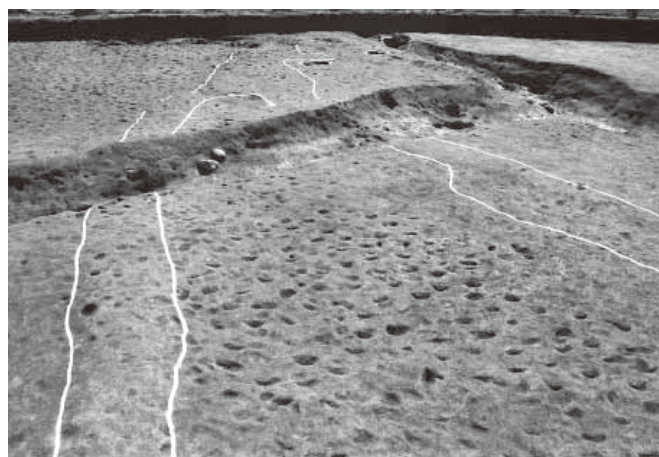
1. IV区1号溝全景(南東から)



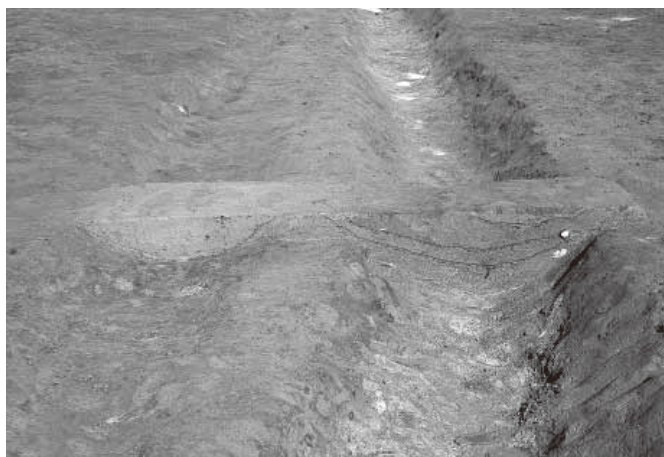
2. IV区1号溝土層断面(西から)



3. IV区1号溝全景(北から)



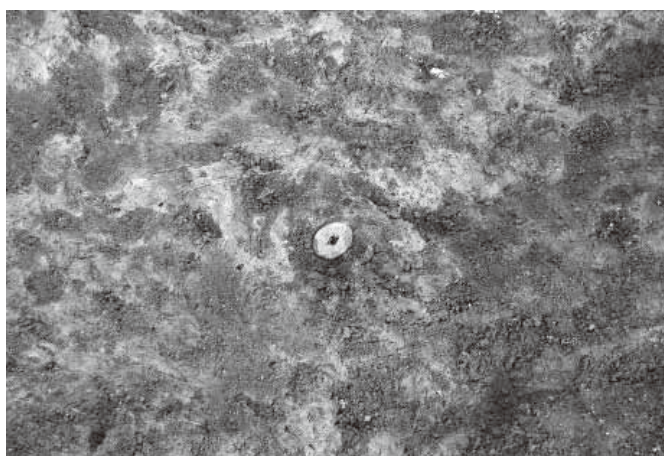
4. IV区1号溝全景(北から)



5. IV区43号・1号溝土層断面(南から)



6. IV区43号・1号溝全景(南から)



7. IV区1号溝遺物出土状態



8. IV区2号溝全景(西から)



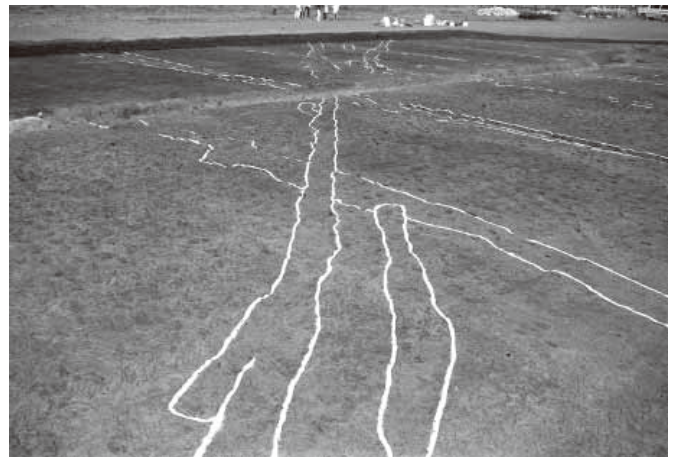
1. IV区8号溝全景(南から)



2. IV区8号・10号溝全景(南西から)



3. IV区11号・10号溝全景(南西から)



4. IV区8号・13号溝全景(西から)



5. IV区浅間B軽石上耕作痕全景(北区/上空から)



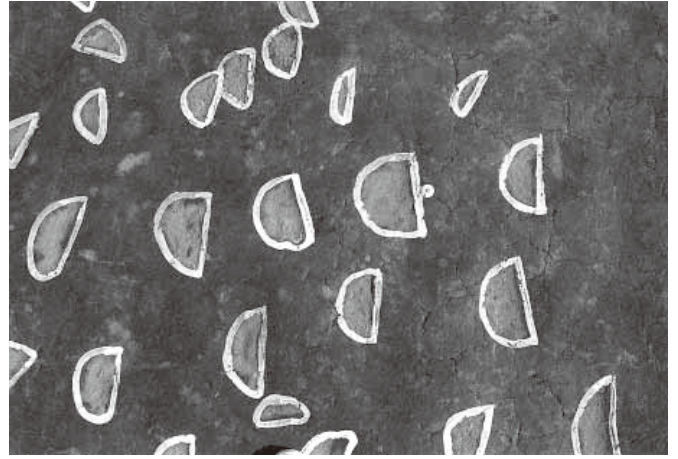
6. IV区8号・10号～12号溝全景(北東から)



7. IV区耕作痕と溝・アゼの重複状況(北区/南から)



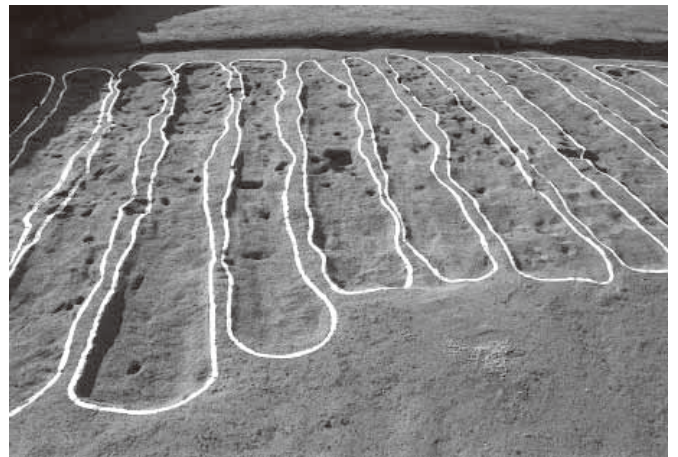
1. IV区耕作痕の分布状況(北区/北東から)



2. IV区耕作痕の形態(北区/西から)



3. IV区1号復旧溝群土層断面(南から)



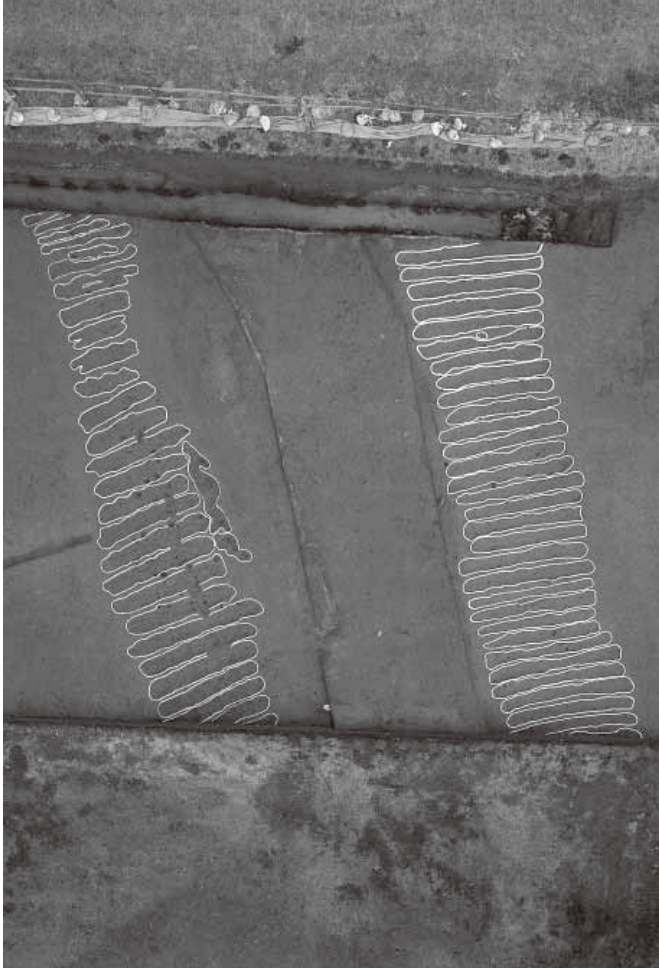
4. IV区1号復旧溝群近景(東から)



5. IV区1号復旧溝群全景(南から)



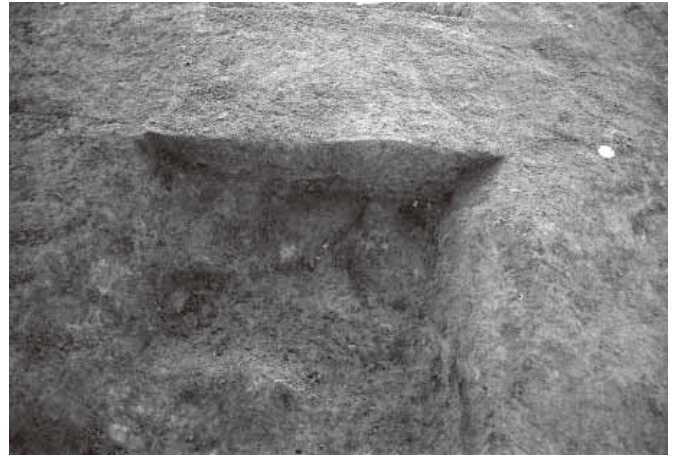
6. IV区2号復旧溝群全景(南から)



1. IV区2号・1号復旧溝群全景(南から)



2. IV区2号復旧溝群近景(東から)



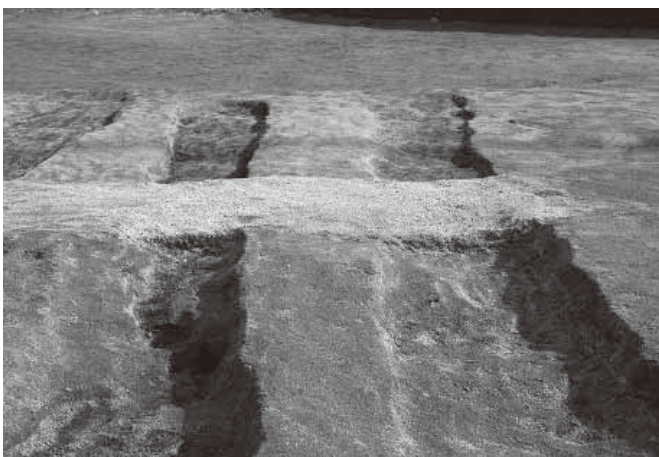
3. IV区3号復旧溝群土層断面(南東から)



4. IV区3号復旧溝群近景(南から)



5. IV区3号復旧溝群全景(南から)



6. IV区4号復旧溝群土層断面(西から)



7. IV区4号復旧溝群全景(南西から)



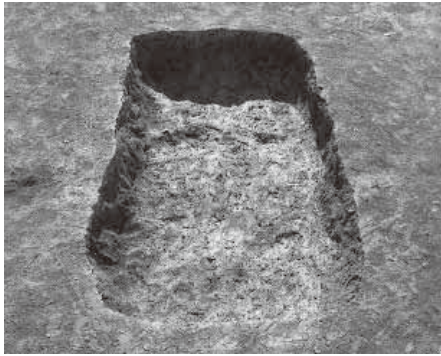
1. V区79号土坑土層断面(南から)



2. V区79号土坑全景(北から)



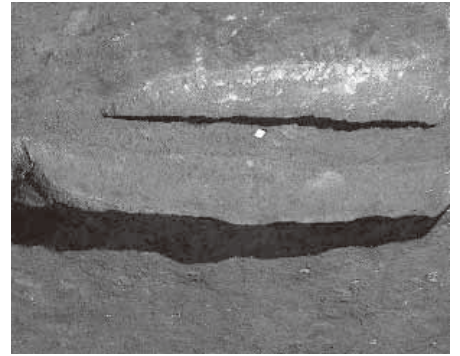
3. V区80号土坑土層断面(南から)



4. V区80号土坑全景(北から)



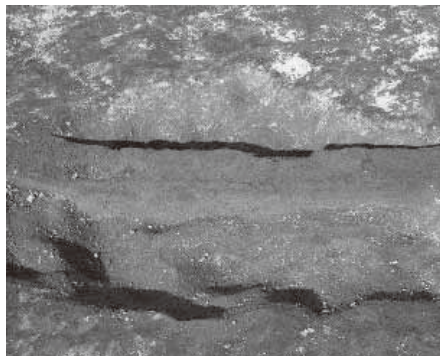
5. V区81号土坑土層断面(南から)



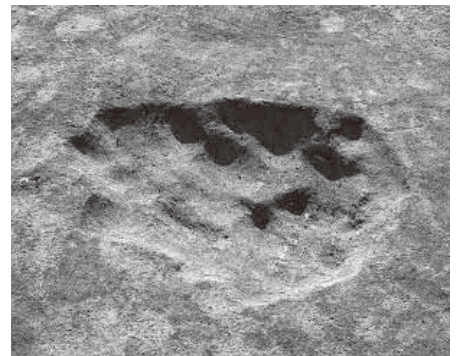
6. V区82号土坑土層断面(南から)



7. V区81号・82号土坑全景(北から)



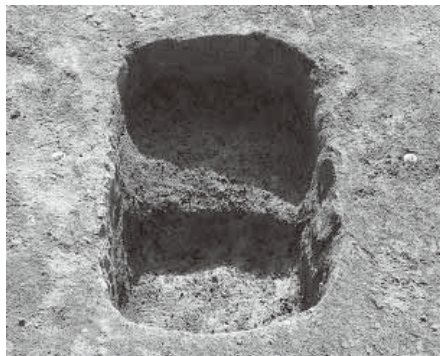
8. V区83号土坑土層断面(南から)



9. V区83号土坑全景(北から)



10. V区99号ピット土層断面(南から)



11. V区99号ピット全景(北から)



12. V区100号ピット土層断面(南から)



13. V区100号ピット全景(北から)



14. V区4号溝全景(北から)



15. V区4号溝土層断面(北から)



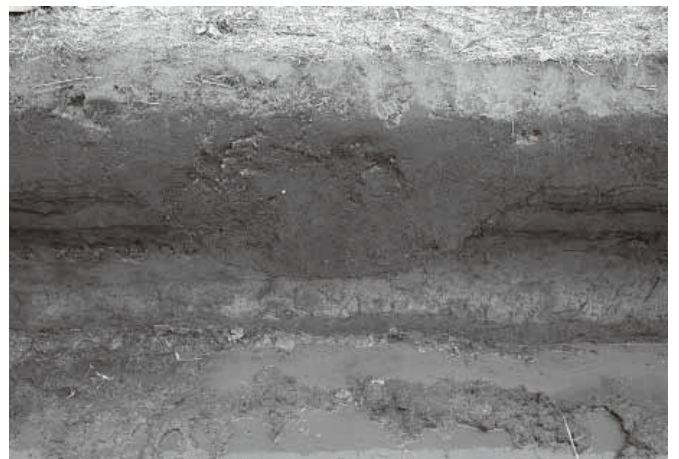
1. IV・V区中近世面全景(北区/西から)



2. IV・V区中近世面全景(南区/西から)



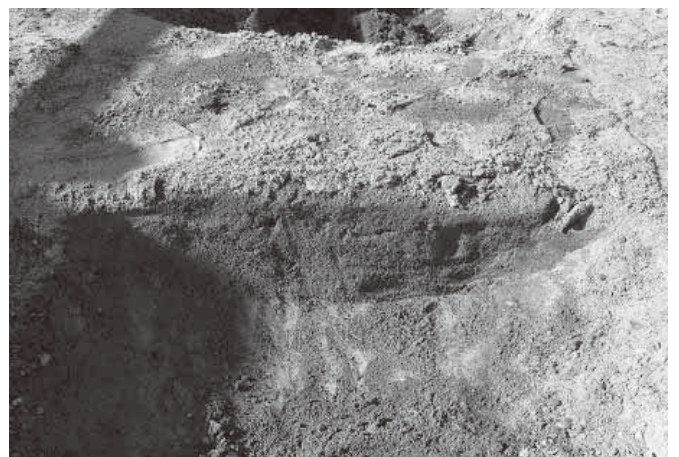
3. V区中近世面全景(南区/東から)



4. V区2号溝土層断面(西から)



5. V区3号・5号・7号溝全景(北から)



6. V区3号溝土層断面(東から)

V区中近世の遺構 溝



1. V区中近世面全景(西区/東から)



2. V区5号溝土層断面(中央区/東から)



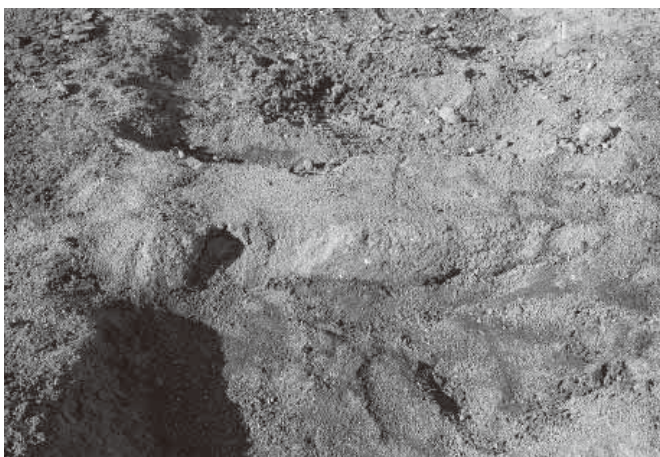
3. V区5号溝近景(西から)



5. V区6号・34号溝全景(南から)



4. V区7号溝全景(北区/東から)



6. V区7号溝土層断面(東から)



7. V区7号溝全景(中央区/東から)



1. V区31号溝全景(西から)



2. V区32号溝全景(西から)



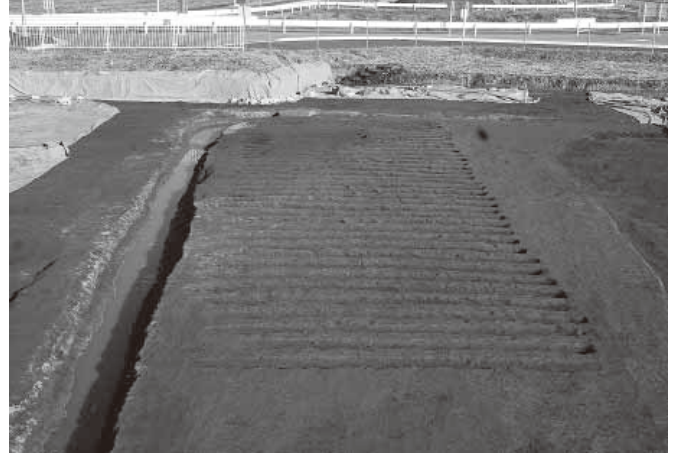
3. V区33号溝全景(西から)



4. V区34号溝全景(東から)



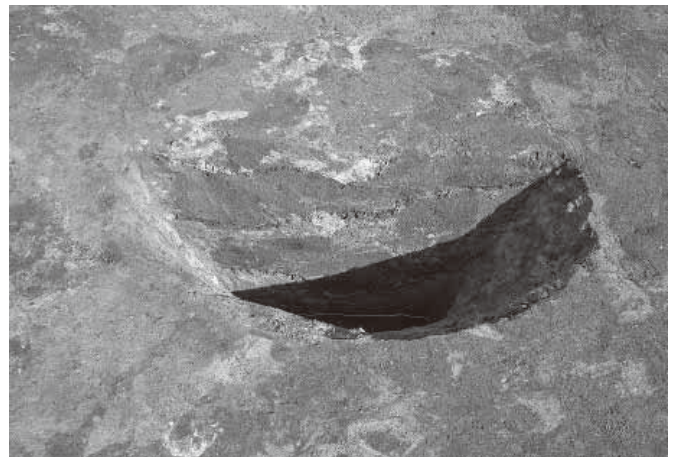
1. V区1号復旧溝群全景(南から)



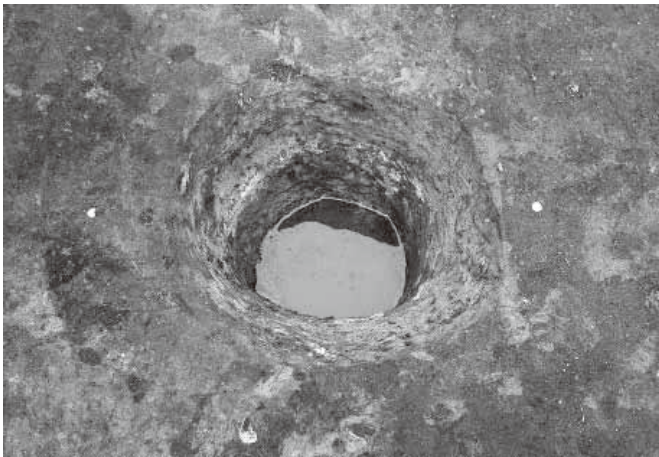
2. V区1号復旧溝群全景(西から)



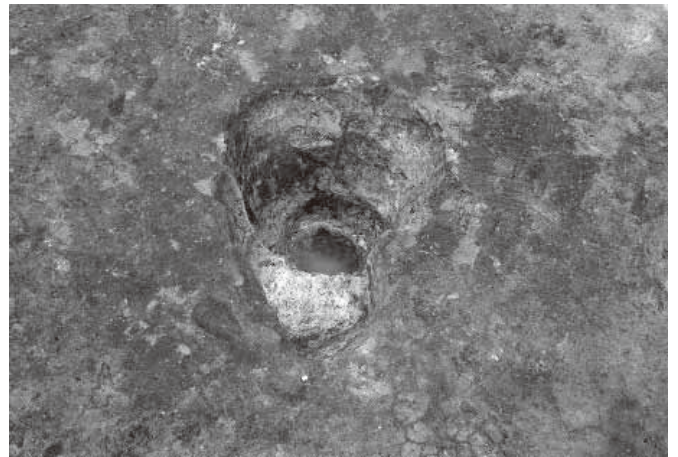
3. VI区中近世面・中世面全景(西から)



4. VI区1号井戸土層断面(南から)



5. VI区1号井戸全景(南から)



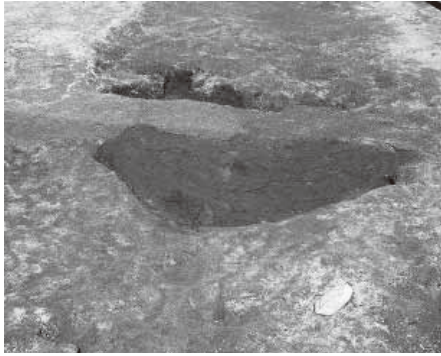
6. VI区2号井戸・13号土坑全景(南から)



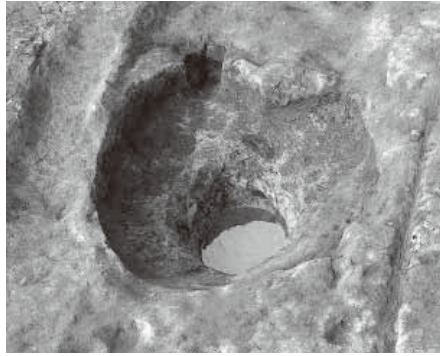
7. VI区1号土坑土層断面(南から)



8. VI区1号土坑全景(南から)



1. Ⅵ区2号土坑土層断面(南から)



2. Ⅵ区2号土坑全景(南から)



3. Ⅵ区3号土坑土層断面(東から)



4. Ⅵ区4号土坑土層断面近景(南から)



5. Ⅵ区4号土坑土層断面(南から)



6. Ⅵ区5号土坑土層断面(南から)



7. Ⅵ区5号土坑全景(南から)



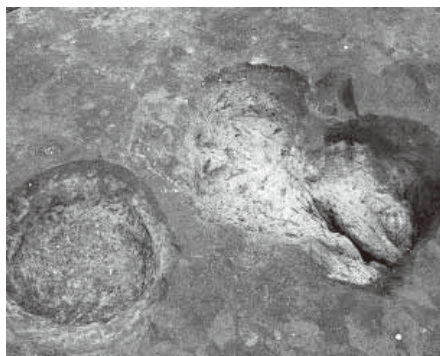
8. Ⅵ区6号土坑土層断面(南から)



9. Ⅵ区7号土坑土層断面(南から)



10. Ⅵ区10号土坑土層断面(南から)



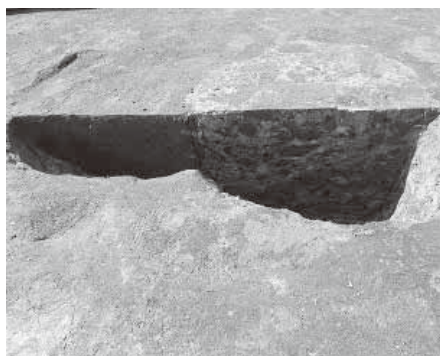
11. Ⅵ区12号・11号土坑全景(南から)



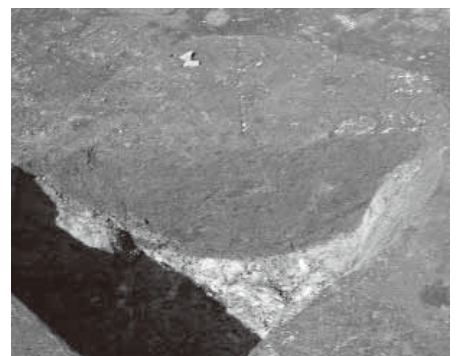
12. Ⅵ区11号土坑土層断面(西から)



13. Ⅵ区12号土坑土層断面(西から)



14. Ⅵ区13号土坑・2号井戸土層断面(東から)



15. Ⅵ区14号土坑土層断面(南から)



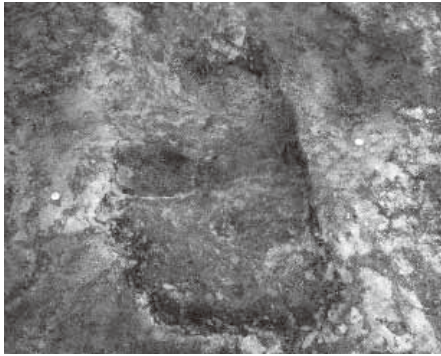
1. VI区15号土坑土層断面(北東から)



2. VI区16号土坑土層断面(南から)



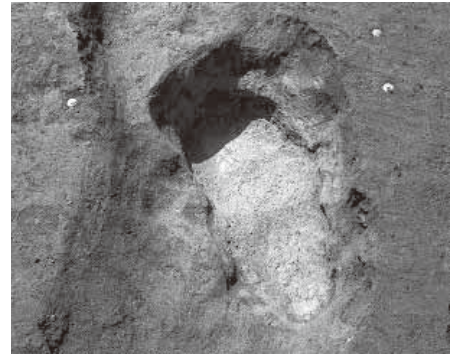
3. VI区17号土坑土層断面(南から)



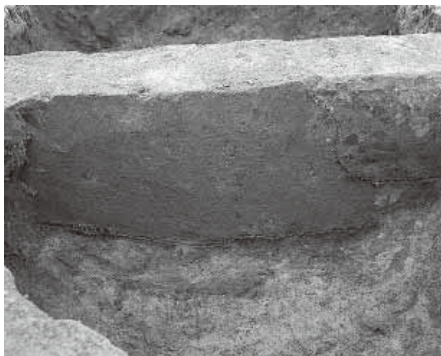
4. VI区17号土坑全景(南から)



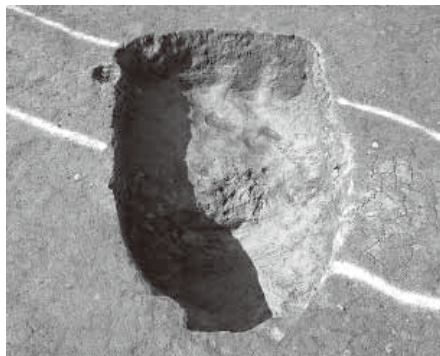
5. VI区18号土坑土層断面(南から)



6. VI区18号土坑全景(北から)



7. VI区19号土坑土層断面(北東から)



8. VI区19号土坑全景(北東から)



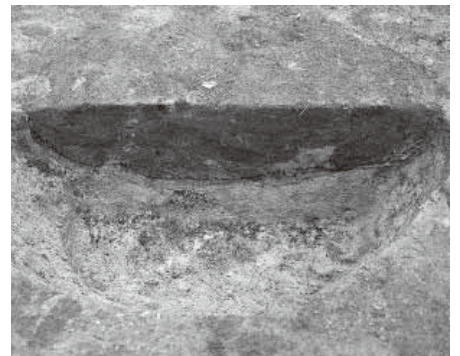
9. VI区20号土坑土層断面(東から)



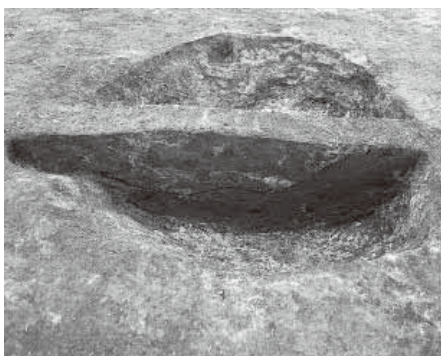
10. VI区20号土坑全景(東から)



11. VI区22号土坑土層断面(南西から)



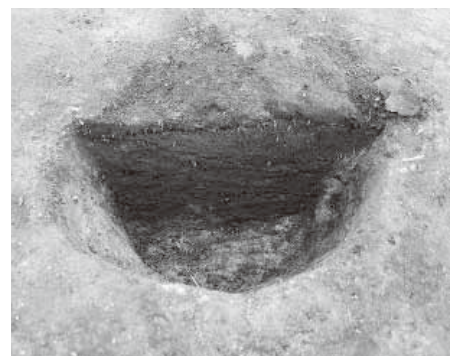
12. VI区23号土坑土層断面(南から)



13. VI区24号土坑土層断面(西から)



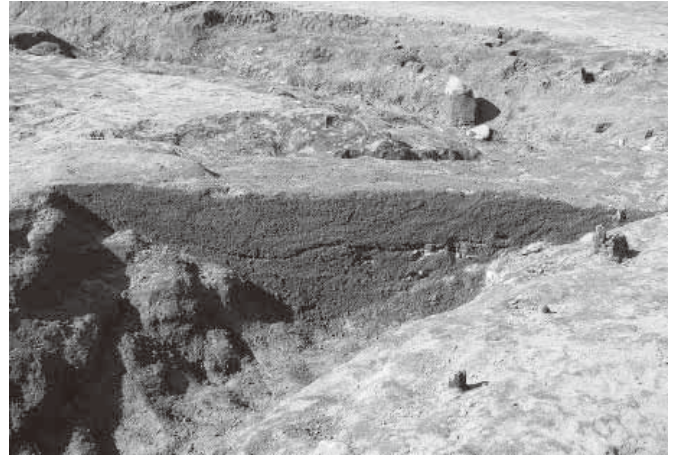
14. VI区25号土坑土層断面(南から)



15. VI区1号ピット土層断面(南から)



1. VI区1号溝土層断面(東から)



2. VI区1号溝土層断面(南から)



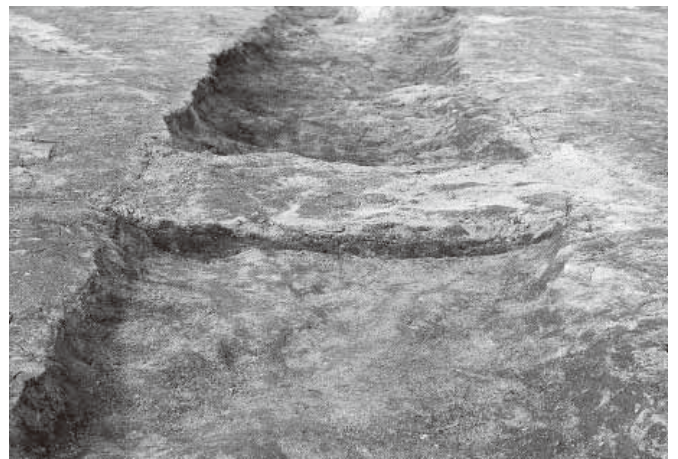
3. VI区2号溝土層断面(南から)



4. VI区2号溝全景(南東から)



5. VI区3号・4号溝土層断面(南から)



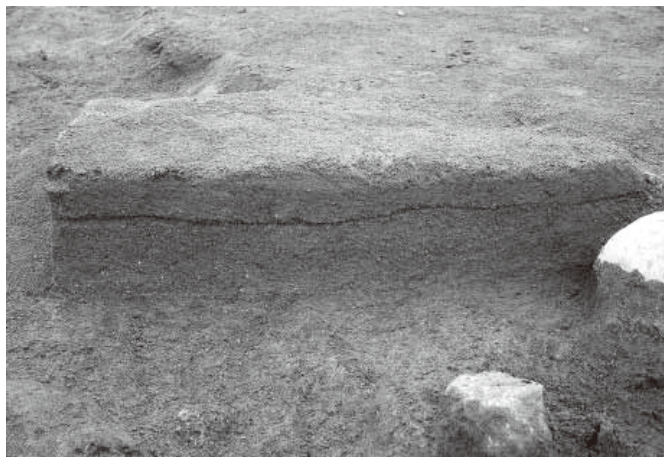
6. VI区5号溝土層断面(南から)



7. VI区6号・7号溝土層断面(南から)



8. VI区6号～11号溝全景(東から)



1. VI区8号溝土層断面(南から)



2. VI区9号溝土層断面(南から)



3. VI区9号・13号溝近景(東から)



4. VI区10号溝全景(北東から)



5. VI区12号溝土層断面(南から)



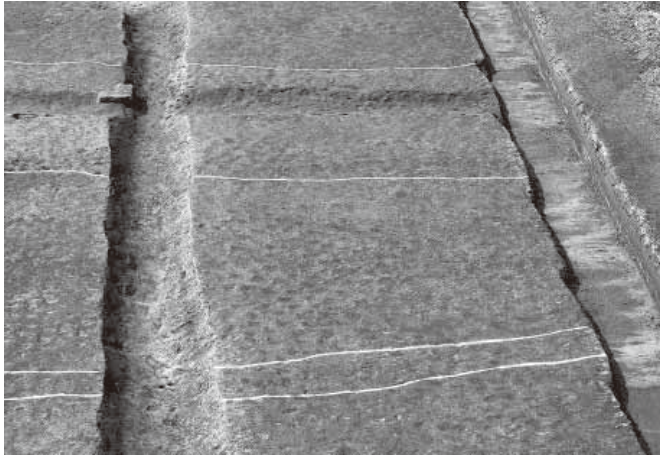
6. VI区9号・13号溝土層断面(東から)



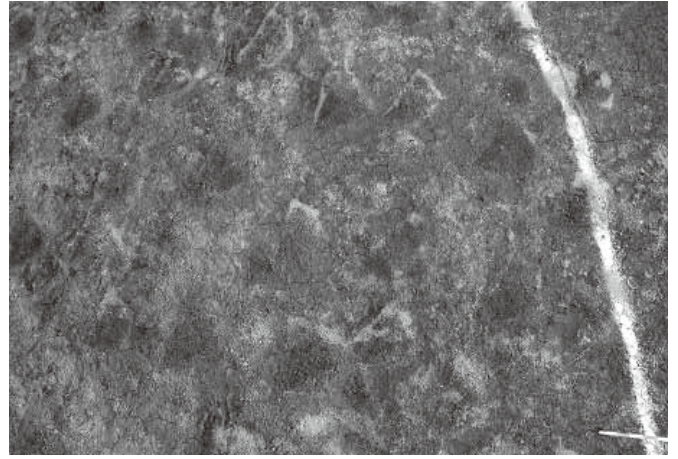
7. VI区10号・13号溝土層断面(東から)



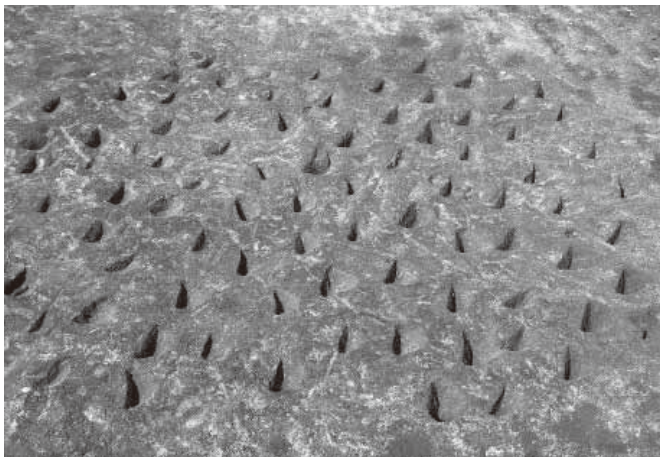
8. VI区13号溝全景(北東から)



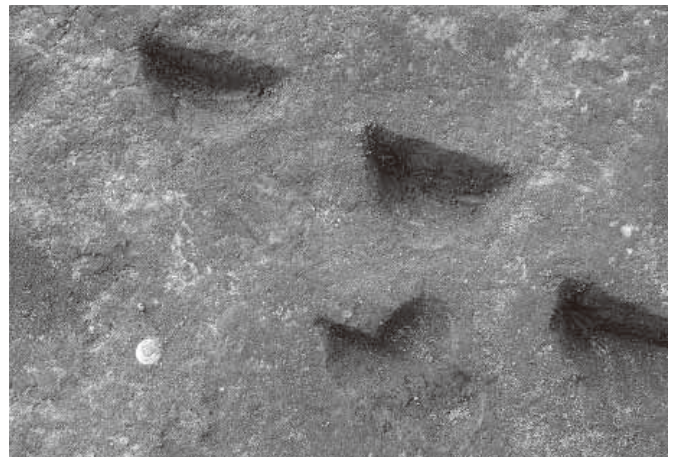
1. Ⅵ区1号耕作痕検出状況全景(東から)



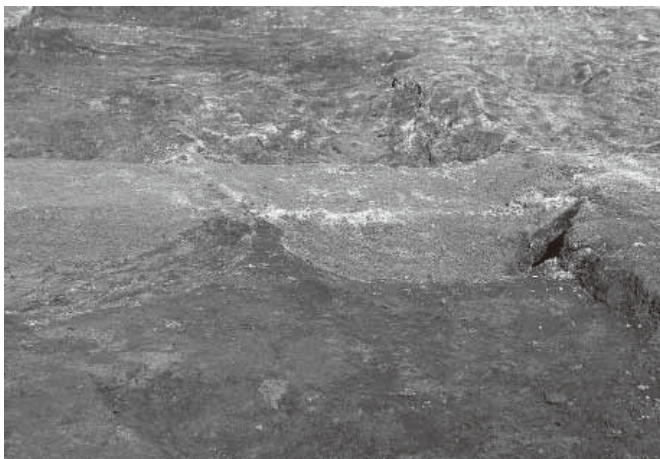
2. Ⅵ区1号耕作痕の分布状況(南から)



3. Ⅵ区1号耕作痕の分布(南から)



4. Ⅵ区1号耕作痕の形態(南から)



5. Ⅵ区1号復旧溝土層断面(南から)



6. Ⅵ区1号復旧溝群全景(西から)



7. Ⅵ区2号復旧溝土層断面(西から)



8. Ⅵ区2号復旧溝群全景(西から)



1. Ⅶ区中近世面全景(東から)



2. Ⅶ区中近世面全景(西から)



3. Ⅶ区1号井戸土層断面(南から)



4. Ⅶ区1号土坑土層断面(南から)



5. Ⅶ区1号土坑全景(北から)



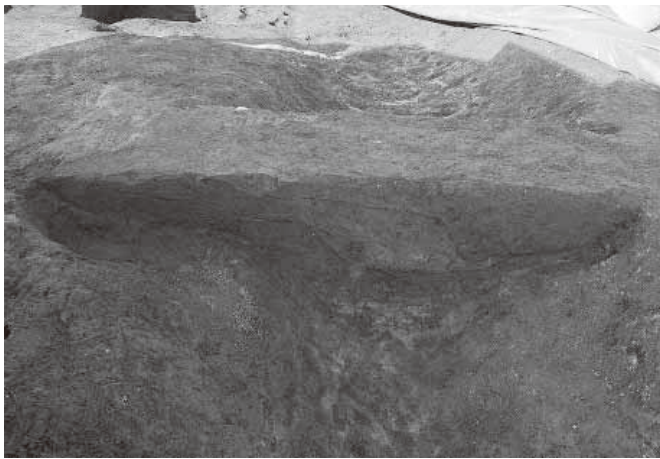
6. Ⅶ区2号土坑土層断面(南から)



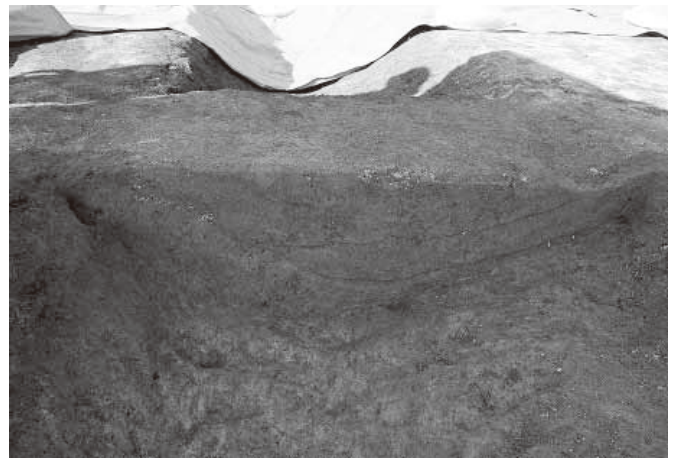
1. Ⅶ区1号～7号溝全景(東から)



2. Ⅶ区1号・2号溝全景(西から)



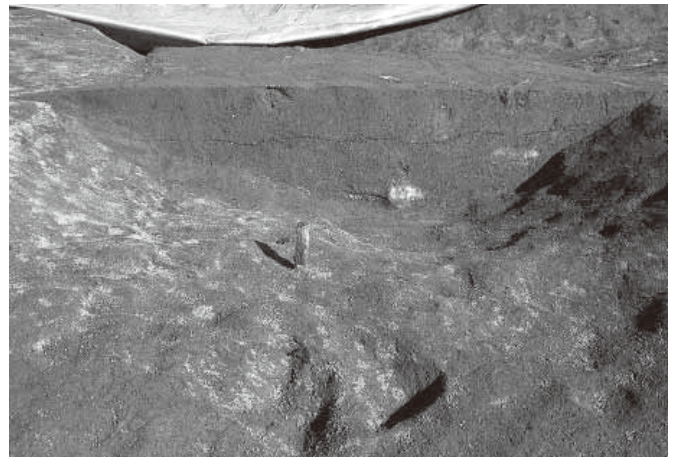
3. Ⅶ区1号溝土層断面(東から)



4. Ⅶ区2号溝土層断面(東から)



5. Ⅶ区3号溝土層断面(北から)



6. Ⅶ区4号溝土層断面(南から)



7. Ⅶ区中近世面調査風景



8. Ⅶ区中近世面測量風景



1. Ⅷ区中近世面全景(東から)



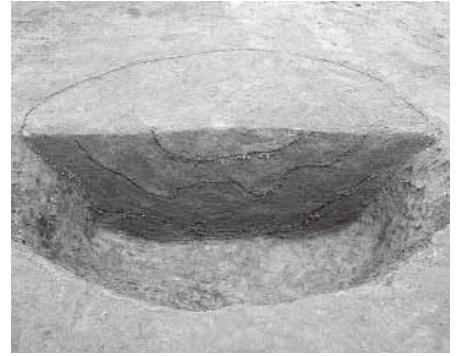
2. Ⅷ区中近世面全景(北から)



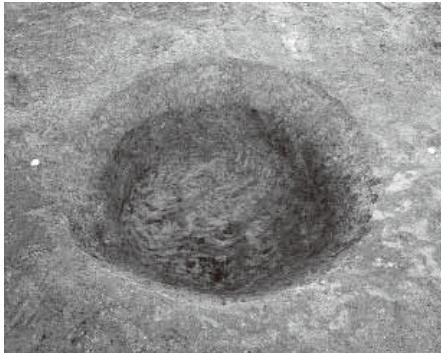
1. Ⅷ区1号井戸土層断面(南から)



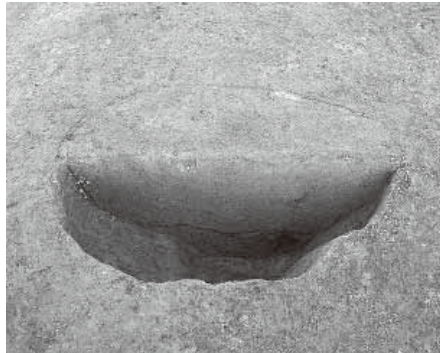
2. Ⅷ区1号井戸全景(南から)



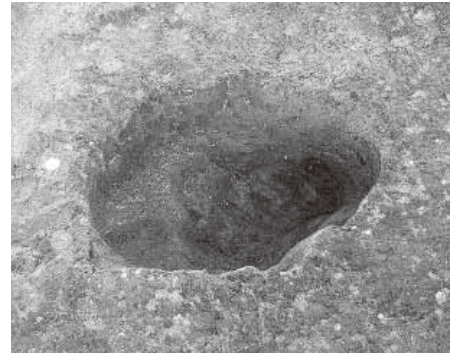
3. Ⅷ区1号土坑土層断面(南から)



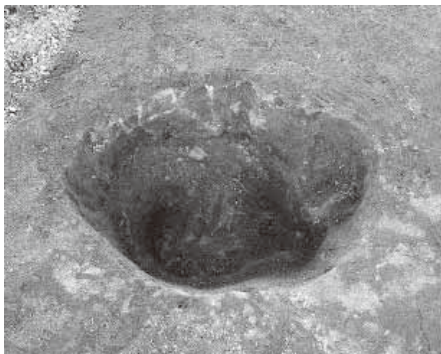
4. Ⅷ区1号土坑全景(南から)



5. Ⅷ区2号土坑土層断面(南から)



6. Ⅷ区2号土坑全景(南から)



7. Ⅷ区3号土坑全景(南から)



8. Ⅷ区4号土坑土層断面(南から)



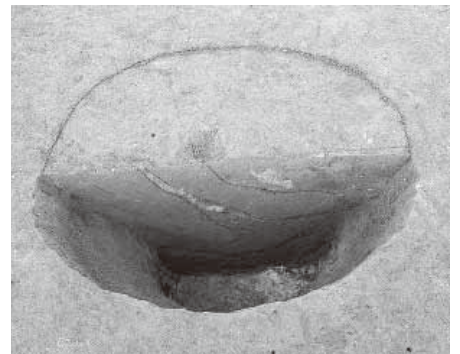
9. Ⅷ区4号・5号土坑全景(南から)



10. Ⅷ区4・5号土坑・1号井戸全景(南から)



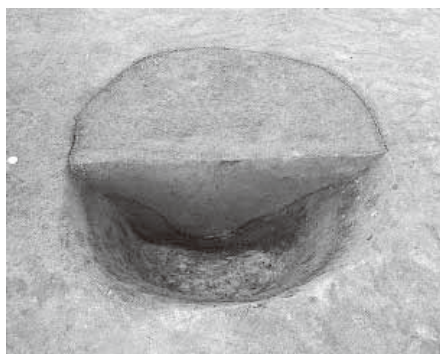
11. Ⅷ区5号土坑土層断面(南から)



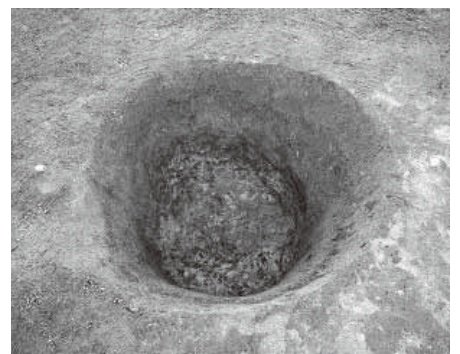
12. Ⅷ区6号土坑土層断面(南から)



13. Ⅷ区6号土坑全景(南から)



14. Ⅷ区7号土坑土層断面(南から)



15. Ⅷ区7号土坑全景(南から)



1. Ⅷ区8号土坑土層断面(東から)



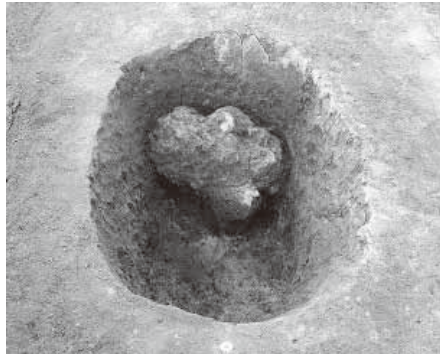
2. Ⅷ区8号・11号土坑全景(東から)



3. Ⅷ区8号土坑全景(南から)



4. Ⅷ区9号土坑土層断面(東から)



5. Ⅷ区9号土坑全景(南から)



6. Ⅷ区10号土坑土層断面(南から)



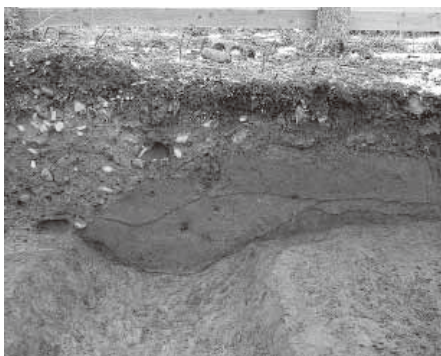
7. Ⅷ区10号土坑全景(南から)



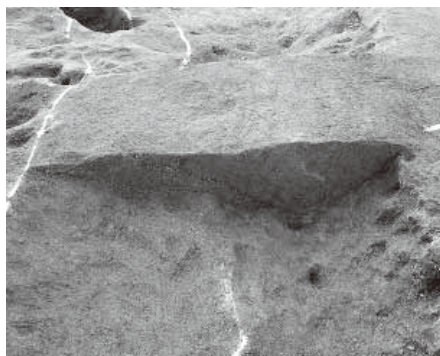
8. Ⅷ区11号土坑土層断面(東から)



9. Ⅷ区11号土坑全景(東から)



10. Ⅷ区1号溝土層断面(西から)



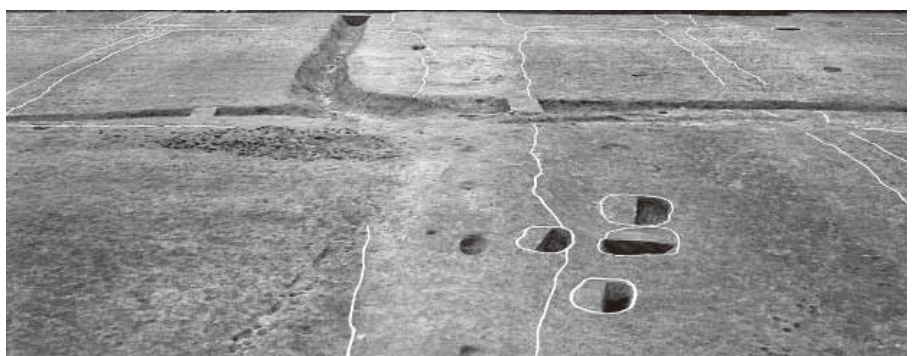
11. Ⅷ区2号溝土層断面(東から)



12. Ⅷ区2号溝調査風景(東から)



13. Ⅷ区3号溝土層断面(東から)



14. Ⅷ区中近世土坑群と溝(南から)



1. IX区中近世面全景(西から)



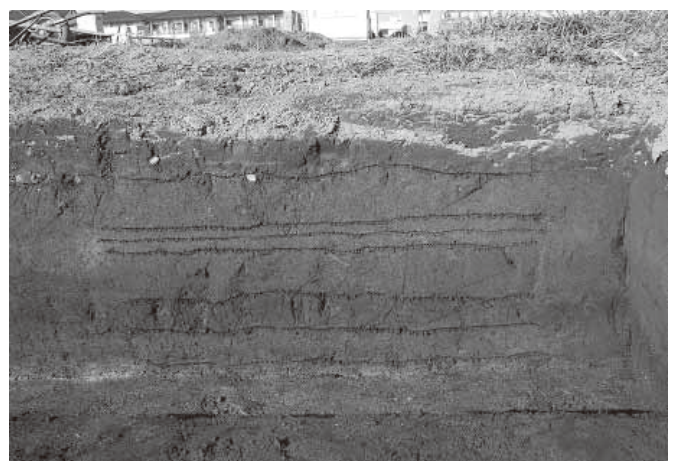
2. IX区中近世面全景(東から)



3. IX区中近世面全景(南区/南から)



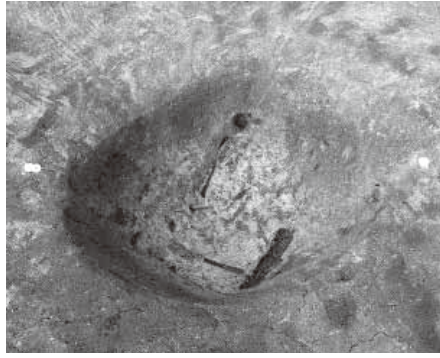
4. IX区北壁剥ぎ取り地点土層断面(中央区/南から)



5. IX区北壁土層断面(南区/南から)



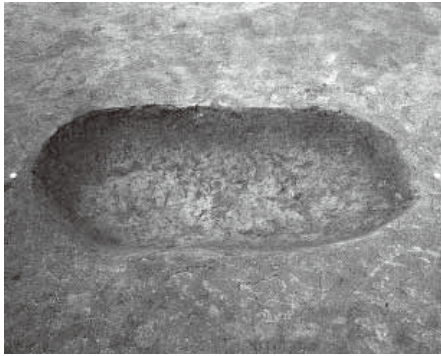
1. IX区1号土坑土層断面(東から)



2. IX区1号土坑全景(東から)



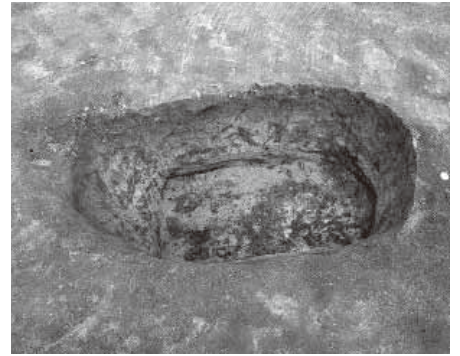
3. IX区2号土坑土層断面(東から)



4. IX区2号土坑全景(東から)



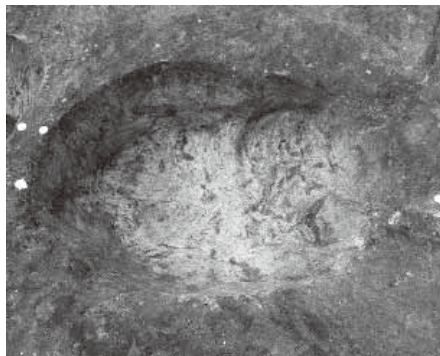
5. IX区3号土坑土層断面(南東から)



6. IX区3号土坑全景(南から)



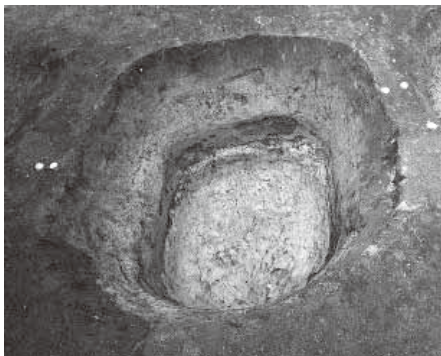
7. IX区4号土坑土層断面(東から)



8. IX区4号土坑全景(東から)



9. IX区5号土坑土層断面(東から)



10. IX区5号土坑全景(東から)



11. IX区6号・7号土坑土層断面(南から)



12. IX区6号・7号土坑全景(南から)



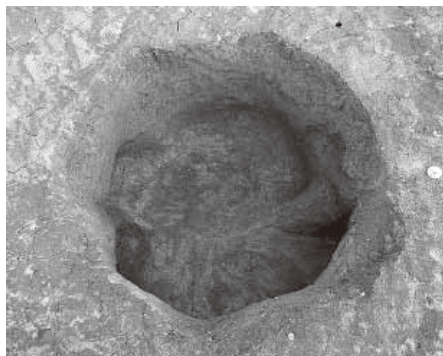
13. IX区8号土坑土層断面(北から)



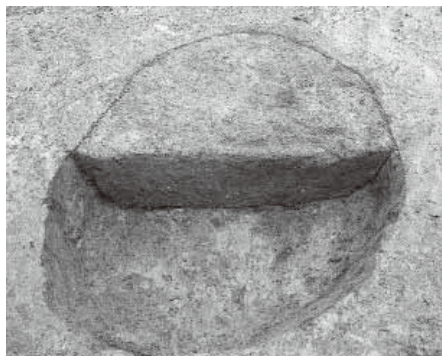
14. IX区8号土坑全景(北から)



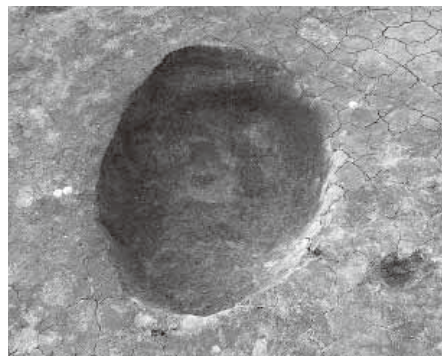
15. IX区9号土坑土層断面(南から)



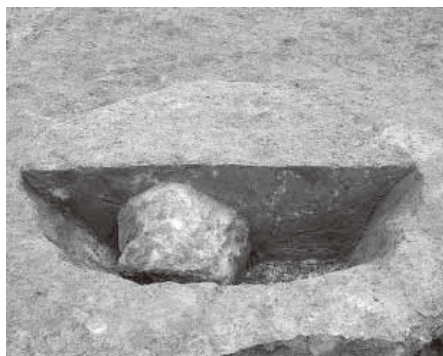
1. IX区9号土坑全景(南から)



2. IX区10号土坑土層断面(東から)



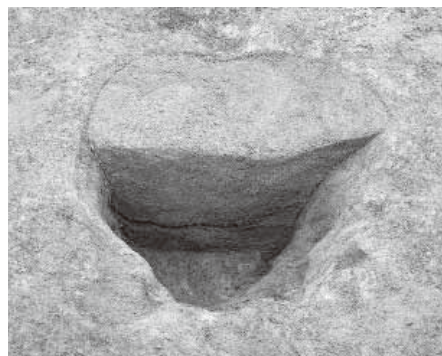
3. IX区10号土坑全景(東から)



4. IX区11号土坑土層断面(南から)



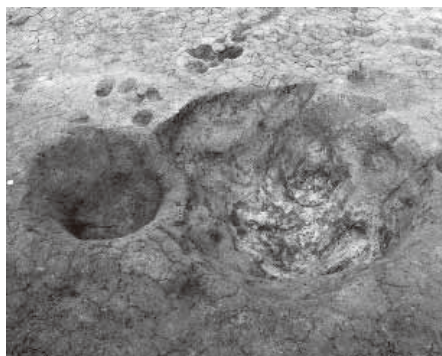
5. IX区11号土坑全景(南から)



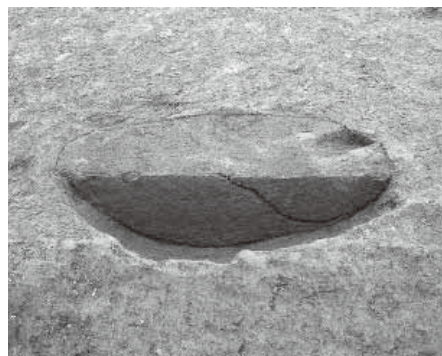
6. IX区12号土坑土層断面(南から)



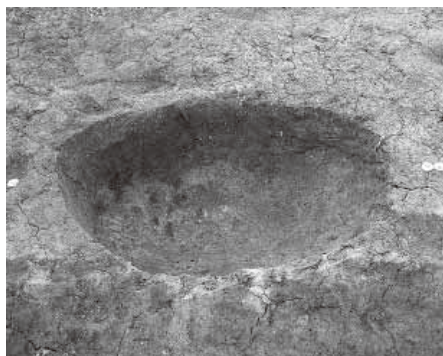
7. IX区13号・14号土坑土層断面(南から)



8. IX区13号・14号土坑全景(南から)



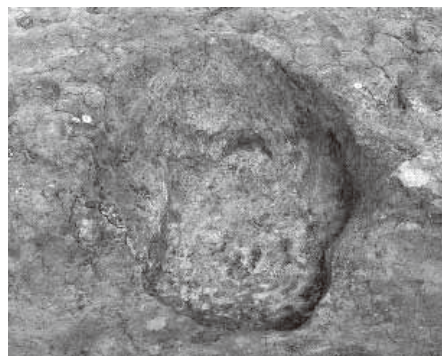
9. IX区15号土坑土層断面(東から)



10. IX区15号土坑全景(東から)



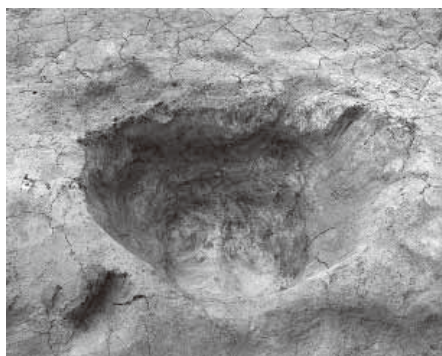
11. IX区16号土坑土層断面(西から)



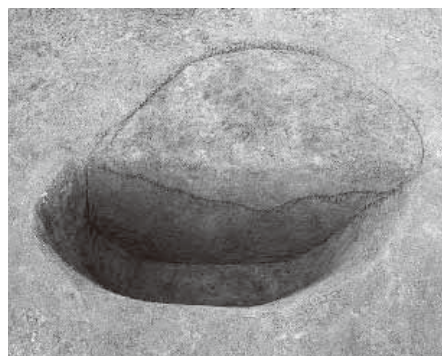
12. IX区16号土坑全景(西から)



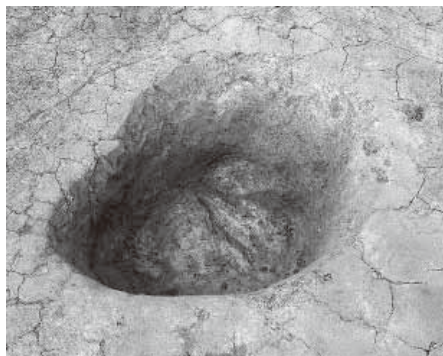
13. IX区17号土坑土層断面(東から)



14. IX区17号土坑全景(東から)



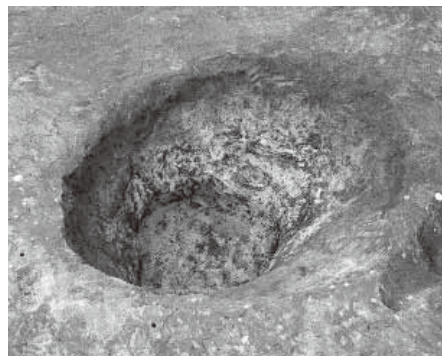
15. IX区18号土坑土層断面(南から)



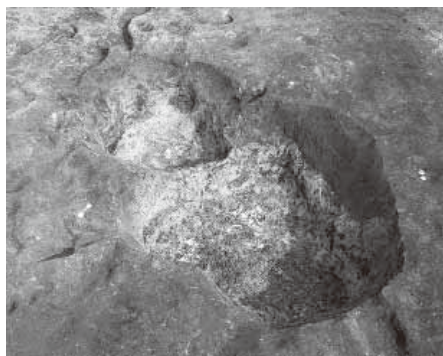
1. IX区18号土坑全景(南から)



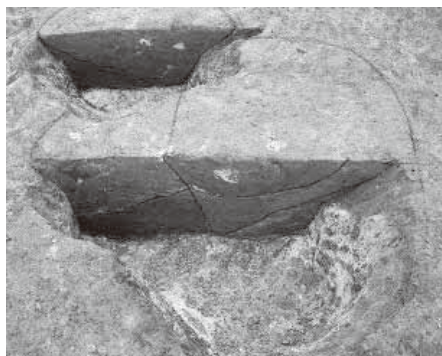
2. IX区19号土坑土層断面(東から)



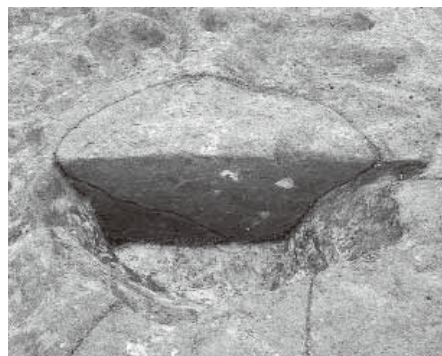
3. IX区19号土坑全景(東から)



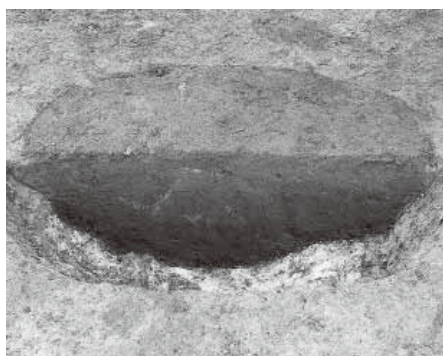
4. IX区20号～22号土坑全景(南から)



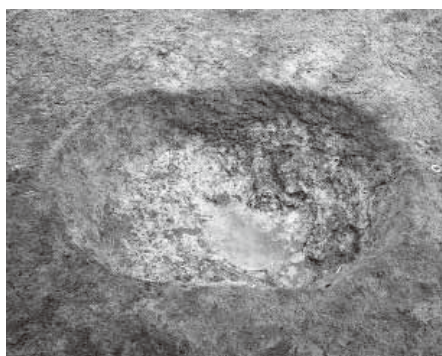
5. IX区20号・21号土坑土層断面(南から)



6. IX区22号土坑土層断面(南から)



7. IX区23号土坑土層断面(北東から)



8. IX区23号土坑全景(南西から)



9. IX区ピット列土層断面(東から)



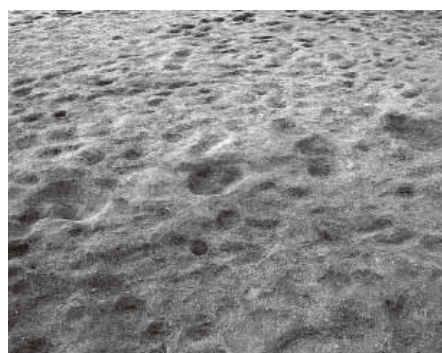
10. IX区ピット列検出状況(南から)



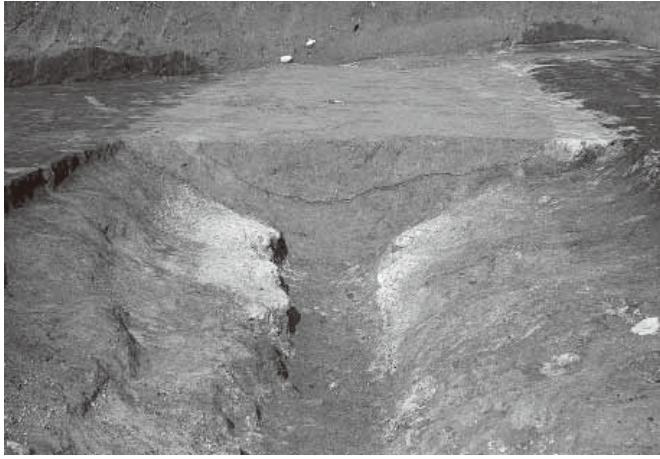
11. IX区ピット列全景(南から)



12. IX区ピット列土層断面(東から)



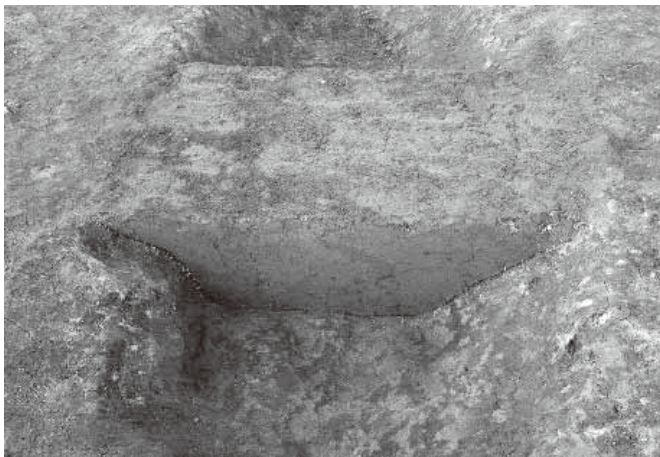
13. IX区ピット列部分近景(南東から)



1. IX区1号溝土層断面(南東から)



2. IX区1号溝全景(南東から)



3. IX区2号溝土層断面(南から)



4. IX区2号・4号溝全景(南から)



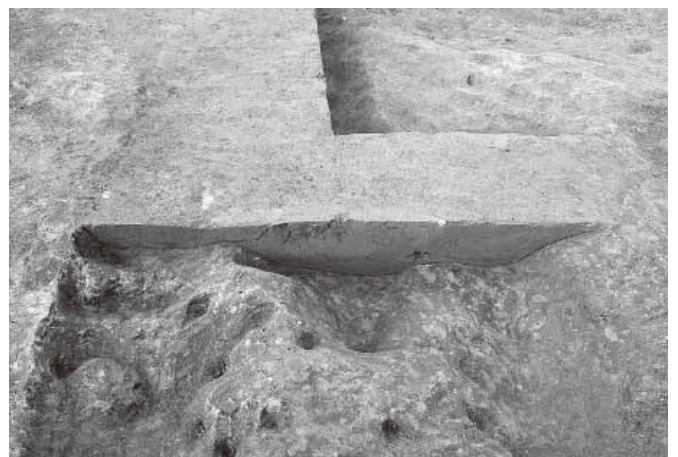
5. IX区3号溝土層断面(東から)



6. IX区3号溝全景(西から)



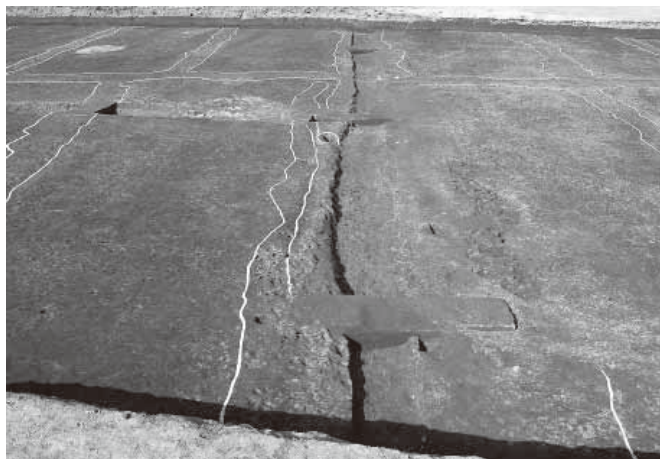
7. IX区4号溝土層断面A-A' (南から)



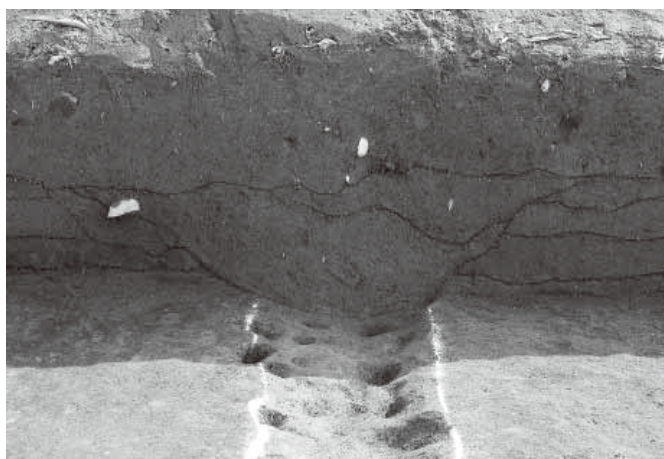
8. IX区4号溝土層断面B-B' (南から)



1. IX区5号溝・大アゼ土層断面(北から)



2. IX区5号溝全景(南から)



3. IX区6号溝土層断面(西から)



4. IX区6号溝全景(南から)



5. IX区1号復旧溝検出状況(南から)



6. IX区1号復旧溝全景(南から)



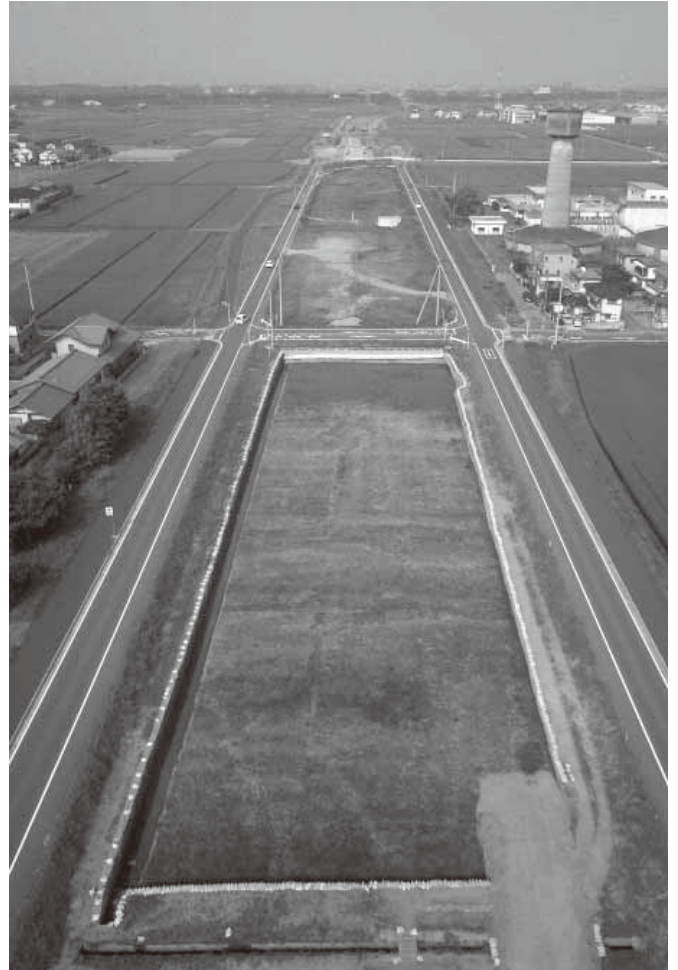
7. IX区1号復旧溝土層断面部分(南から)



8. IX区3号復旧溝全景(南から)



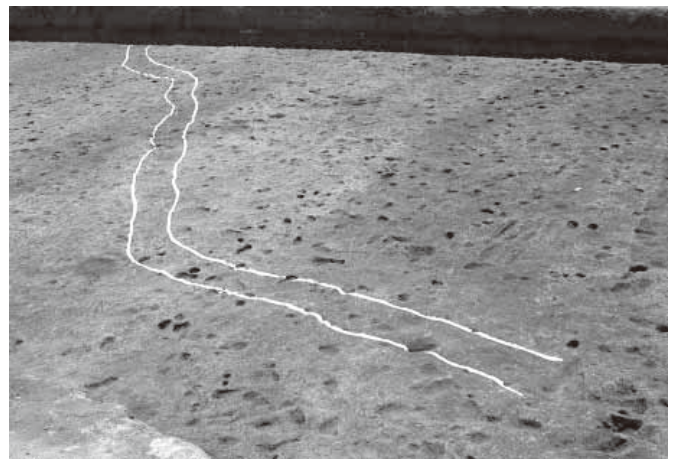
1. I区浅間Bテフラ直下水田全景(南・北区/東から)



2. I区浅間Bテフラ直下水田全景(中央区/東から)



3. I区18号溝全景(北から)



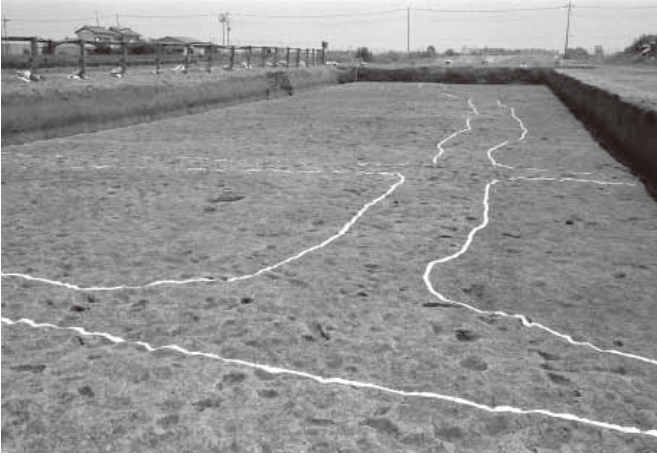
4. I区19号溝全景(北西から)



5. I区浅間Bテフラ直下水田アゼ近景(北区/東から)



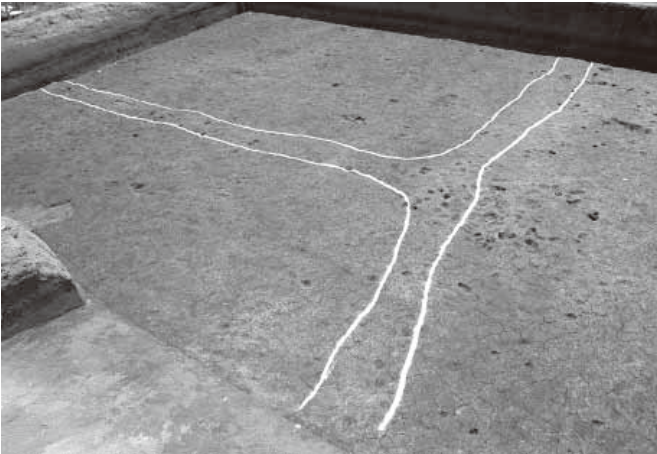
6. I区浅間Bテフラ直下水田アゼ近景(北区/南から)



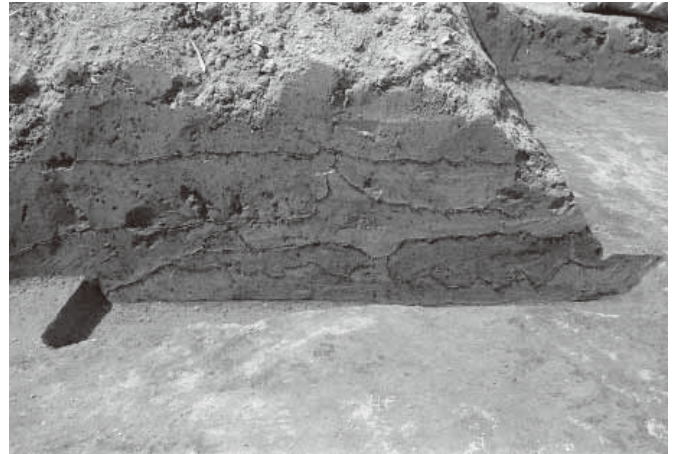
1. I区浅間Bテフラ直下水田アゼ近景(北区/西から)



2. I区浅間Bテフラ直下水田アゼ交差部近景(北区/西から)



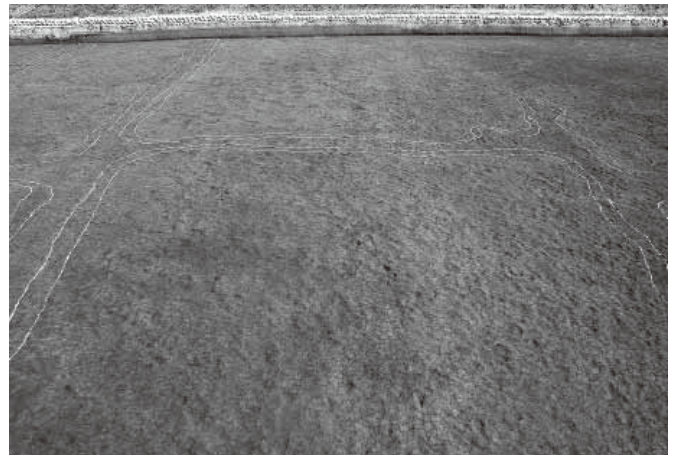
3. I区浅間Bテフラ直下水田アゼ近景(北区/北西から)



4. I区道状遺構土層断面



5. I区浅間Bテフラ直下水田アゼ近景(中央区東端/南から)



6. I区浅間Bテフラ直下水田アゼ近景(中央区東半/南から)



7. I区浅間Bテフラ直下水田アゼ近景(中央区中央/南から)



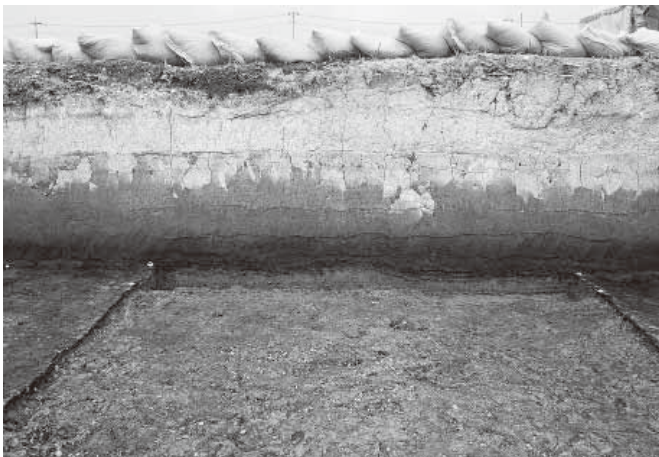
8. I区浅間Bテフラ直下水田アゼ近景(中央区西半/南から)



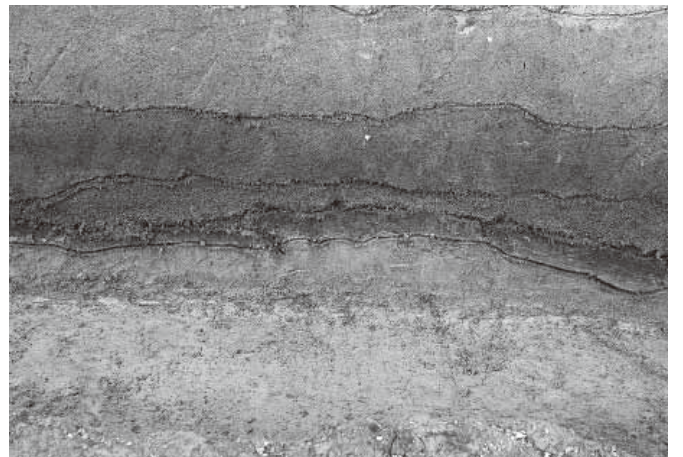
1. I区浅間Bテフラ直下水田アゼ土層断面E-E' (中央区/西から)



2. I区浅間Bテフラ直下水田アゼ断割り調査(中央区/西から)



3. I区浅間Bテフラ直下水田アゼE-E'断割り土層断面(中央区/西から)



4. I区浅間Bテフラ直下水田アゼE-E'断割り土層断面近景(中央区/西から)



5. I区浅間Bテフラ直下水田遺構確認面調査風景



6. I区浅間Bテフラ直下水田面精査風景



7. I区浅間Bテフラ直下水田面確認状況



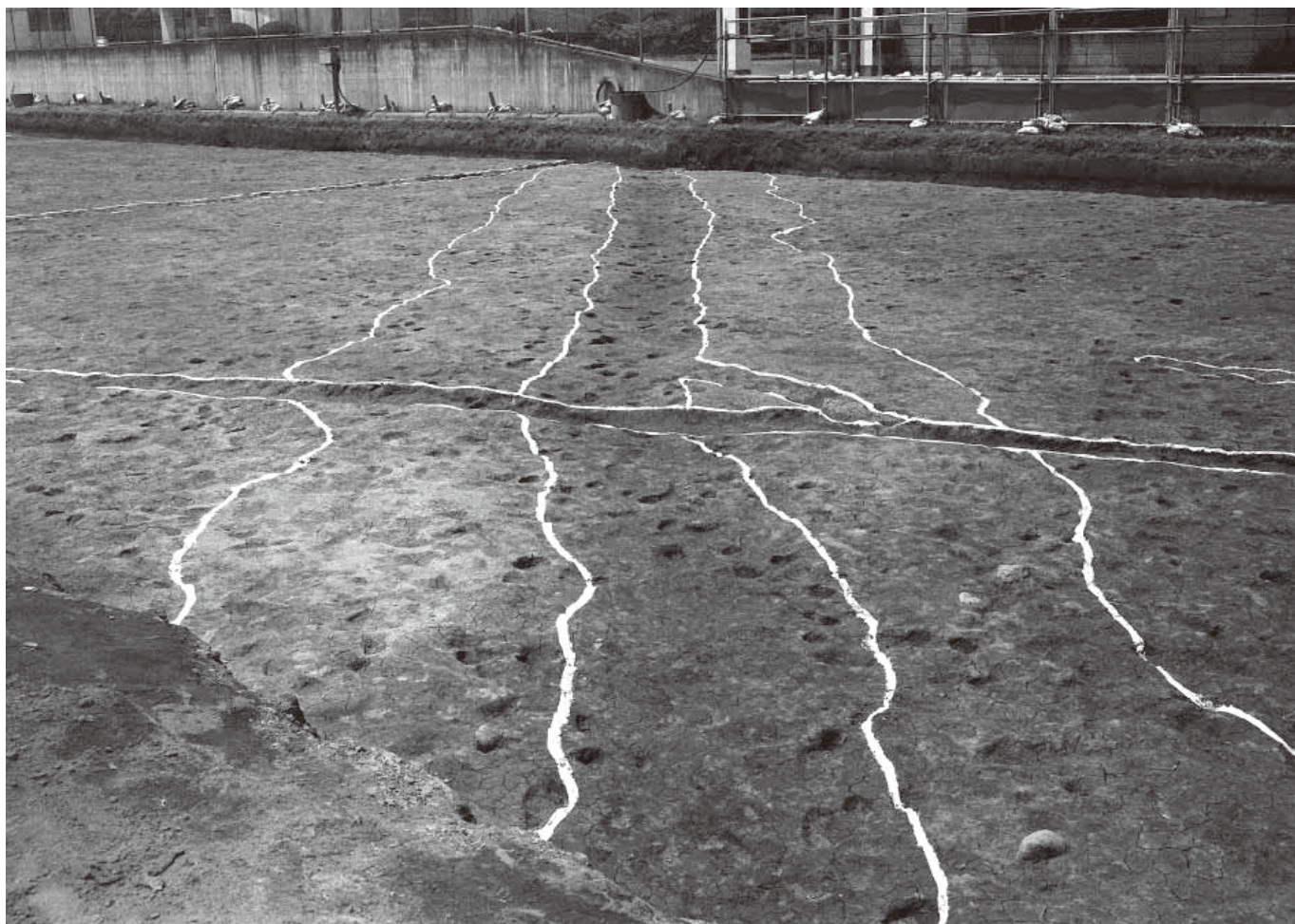
8. I区浅間Bテフラ直下水田耕土土層断面(南から)



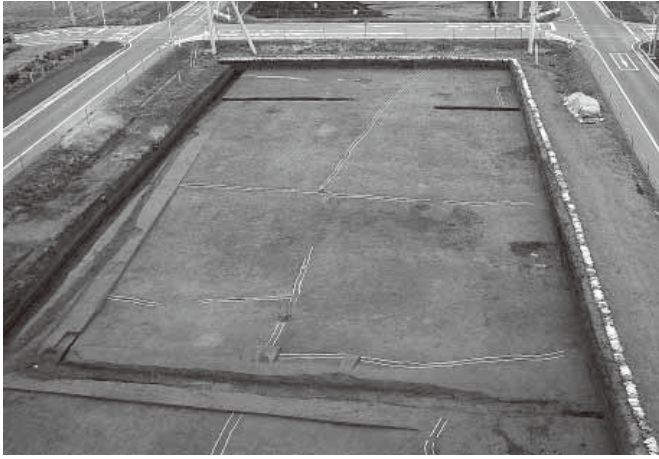
1. Ⅱ区浅間Bテフラ直下水田全景(南・北区/東上空から)



2. Ⅱ区浅間Bテフラ直下水田全景(中央区/東上空から)



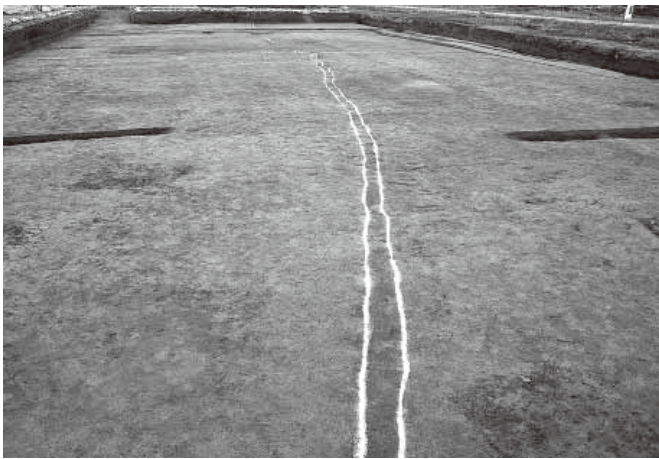
3. Ⅱ区2号溝とアゼ(南東から)



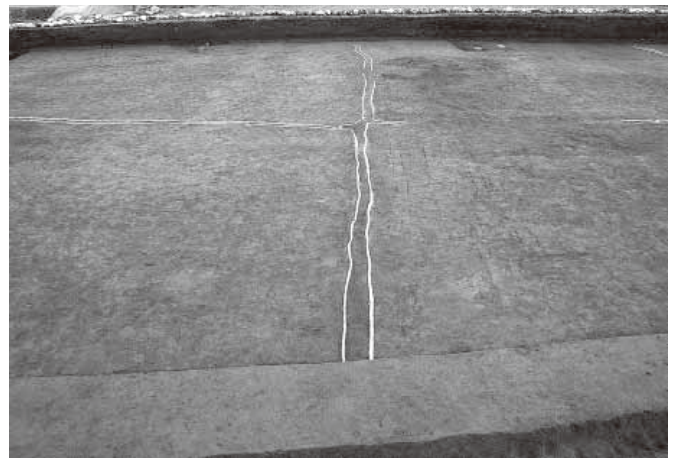
1. Ⅱ区浅間B混土上面水田痕跡全景(中央区西半/西から)



2. Ⅱ区浅間B混土上面疑似畦畔近景(中央区西半/東から)



3. Ⅱ区浅間B混土上面疑似畦畔近景(中央区東半/東から)



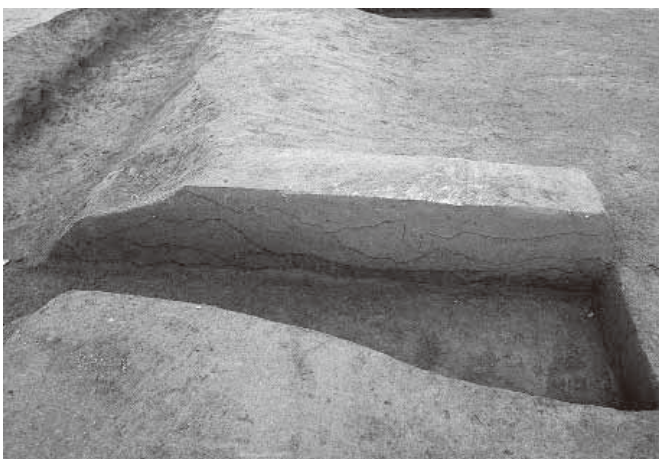
4. Ⅱ区浅間B混土上面疑似畦畔近景(中央区東半/北から)



5. Ⅱ区浅間B混土上面疑似畦畔土層断面(中央区東半/東から)



6. Ⅱ区浅間B混土上面大アゼ調査風景(中央区東半/北から)



7. Ⅱ区浅間B混土上面大アゼ土層断面A-A'(中央区東半/南から)



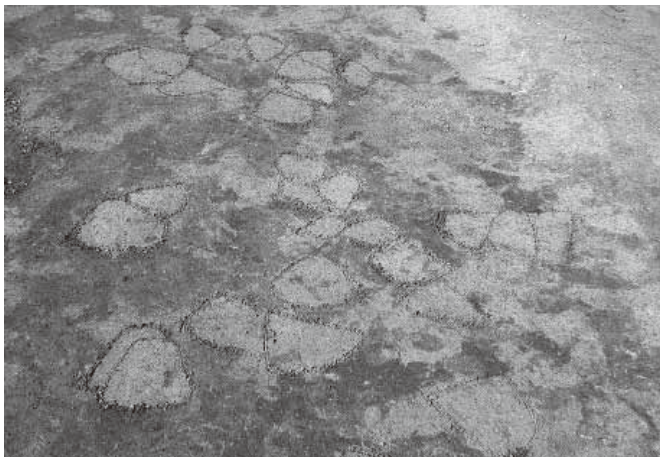
8. Ⅱ区浅間B混土上面大アゼ土層断面B-B'(中央区東半/南から)



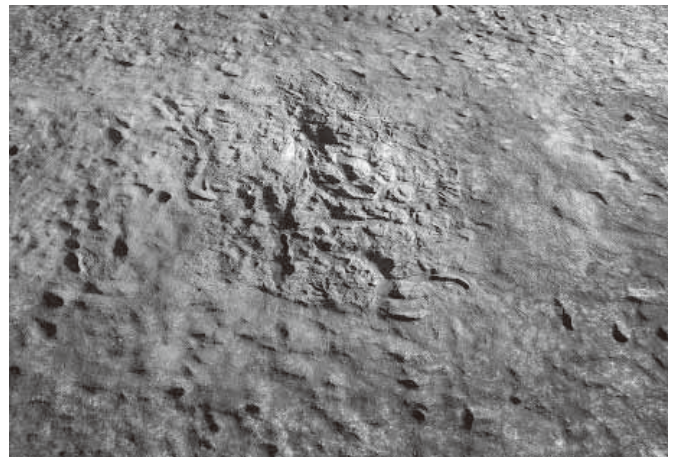
1. II区浅間B 混土上面大アゼ土層断面C-C' (中央区東半/北から)



2. II区浅間B 混土上面水田痕跡調査風景(中央区東半/南東から)



3. II区1号耕作痕検出状況(中央区東半/東から)



4. II区1号耕作痕全景(中央区東半/南から)



5. II区茶臼出土状態(中央区東半/東から)



6. II区土錘出土状態(中央区東半/南から)



7. II区土錘出土状態(中央区西半/北東から)



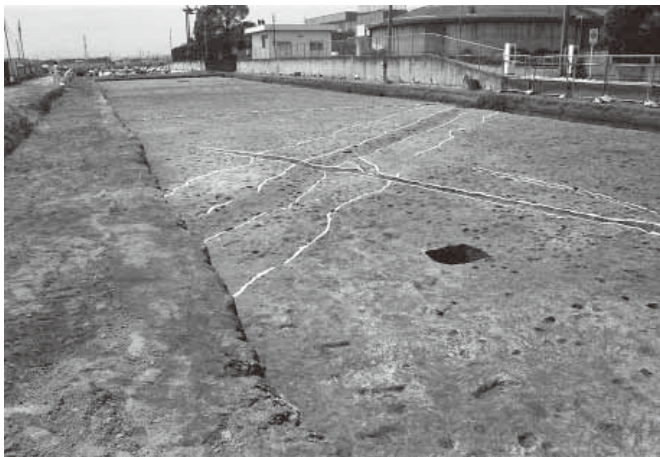
8. II区不明金属製品出土状態(中央区東半/北から)



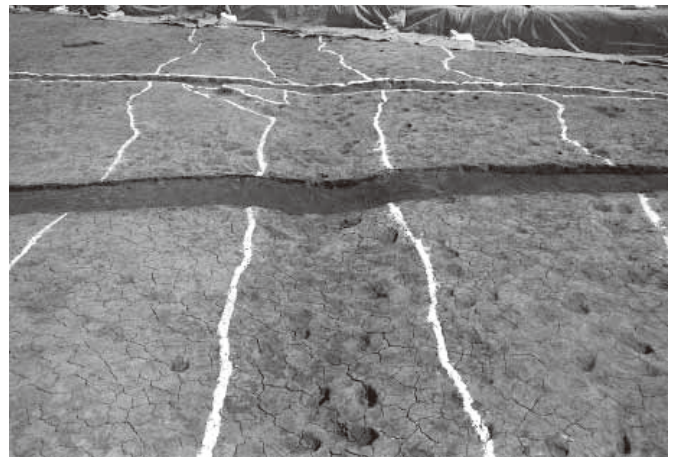
1. Ⅱ区2号溝土層断面(北区/北から)



2. Ⅱ区2号溝土層断面(北区/南から)



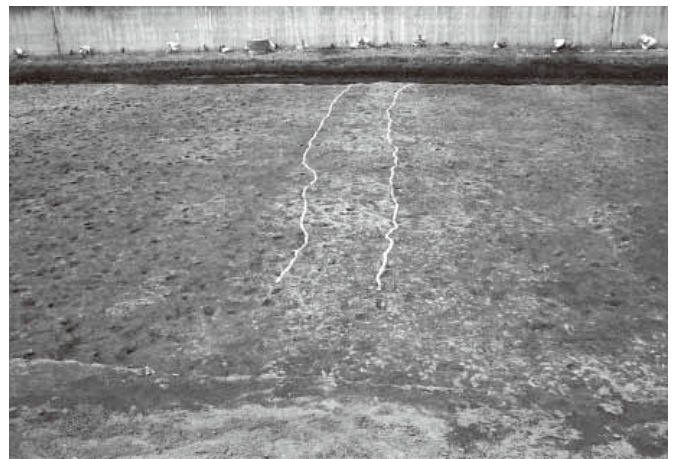
3. Ⅱ区浅間Bテフラ直下水田アゼ近景(北区/南東から)



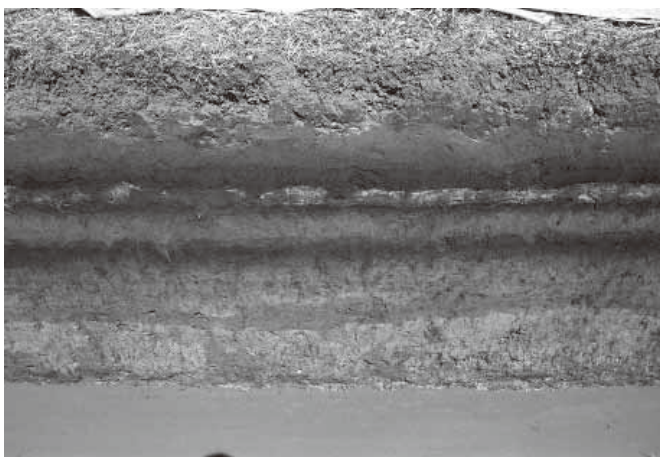
4. Ⅱ区浅間Bテフラ直下水田アゼと2号溝(北区/北西から)



5. Ⅱ区浅間Bテフラ直下水田アゼ(南区/北から)



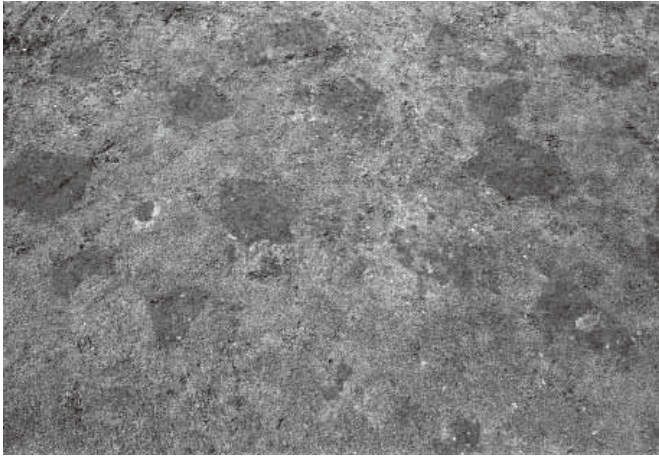
6. Ⅱ区浅間Bテフラ直下水田アゼ(南区/南から)



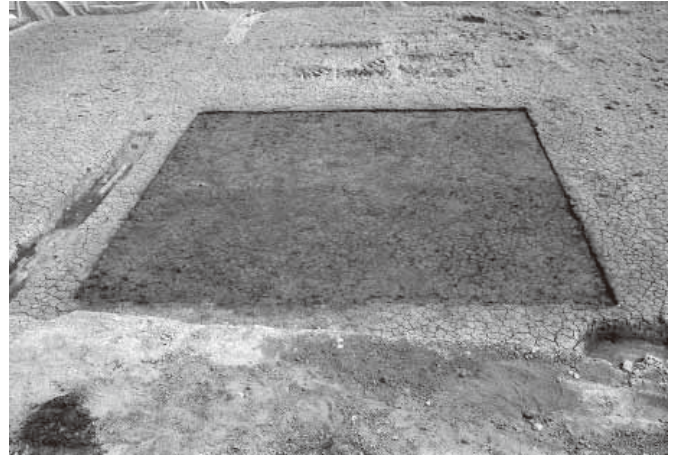
7. Ⅱ区浅間Bテフラ直下水田土層断面(北区/南から)



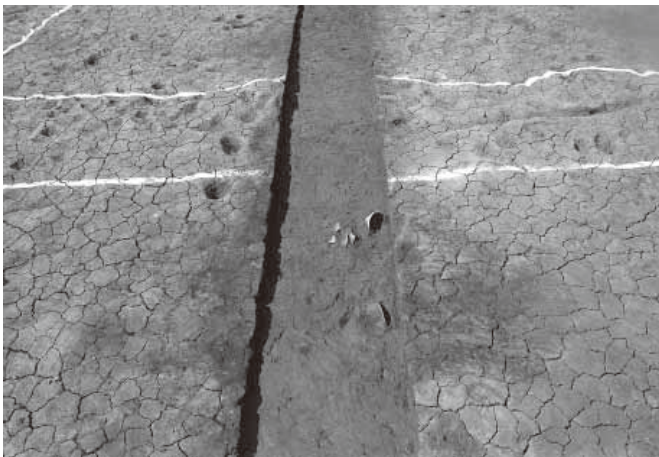
8. Ⅱ区浅間Bテフラ上面耕作痕(南区/東から)



1. Ⅱ区浅間Bテフラ上面耕作痕(南区/東から)



2. Ⅱ区浅間Bテフラ上面耕作痕確認状況(南区/東から)



3. Ⅱ区浅間Bテフラ直下水田耕土遺物出土状態(南区/南から)



4. Ⅱ区浅間Bテフラ直下水田耕土遺物出土状態(南区/南から)



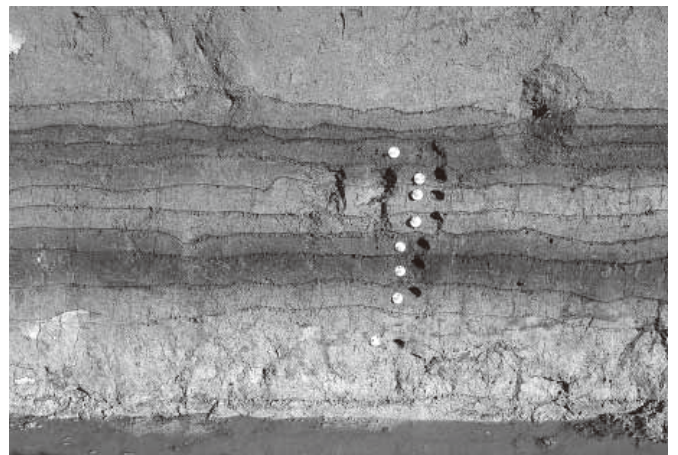
5. Ⅱ区浅間Bテフラ直下水田全景(中央区西半/上空から)



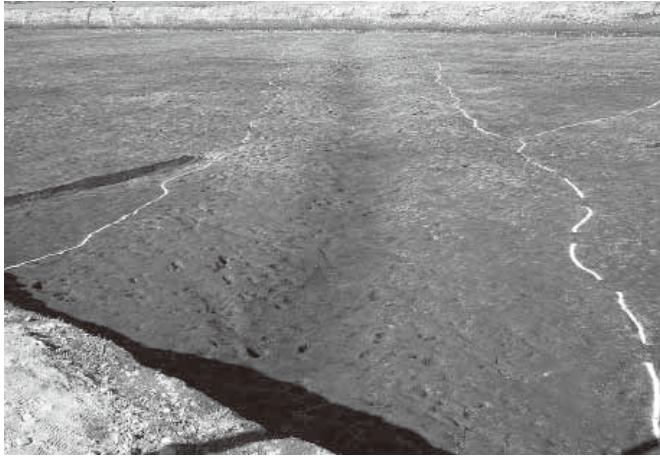
6. Ⅱ区浅間Bテフラ直下水田全景(中央区東半/上空から)



7. Ⅱ区北壁土層断面(中央区/南から)



8. Ⅱ区北壁土層断面(中央区/南から)



1. Ⅱ区2号溝全景(中央区東半/南東から)



2. Ⅱ区浅間Bテフラ直下水田アゼ近景(中央区東半/南から)



3. Ⅱ区浅間Bテフラ直下水田アゼ近景(中央区東半/南東から)



4. Ⅱ区浅間Bテフラ直下水田アゼ近景(中央区中央/南から)



5. Ⅱ区浅間Bテフラ直下水田全景(中央区西半/東から)



6. Ⅱ区浅間Bテフラ直下水田全景(中央区西半/南から)



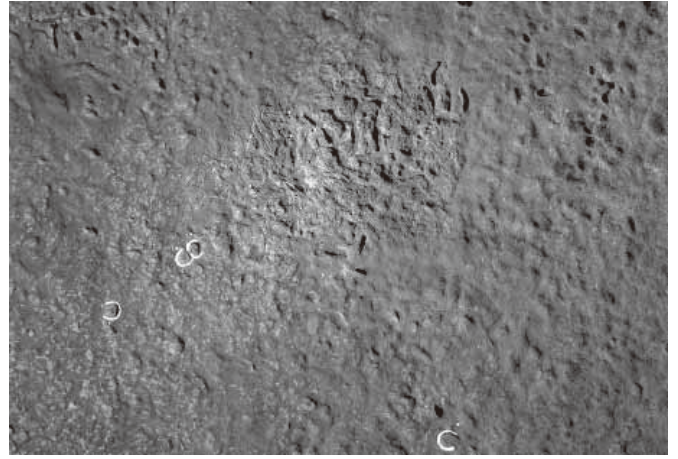
7. Ⅱ区浅間Bテフラ直下水田アゼ近景(中央区西半/南東から)



8. Ⅱ区浅間Bテフラ直下水田アゼ近景(中央区西半交差部/南から)



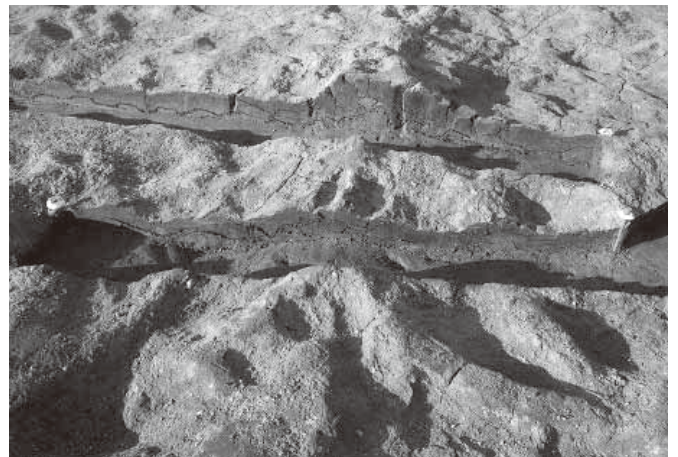
1. II区浅間Bテフラ直下水田全景(中央区西半/北から)



2. II区1号掘削痕(中央区東半/上空から)



3. II区1号掘削痕全景(中央区東半/南から)



4. II区1号掘削痕土層断面(中央区東半/南から)



5. II区2号耕作痕調査風景(中央区東半/北から)



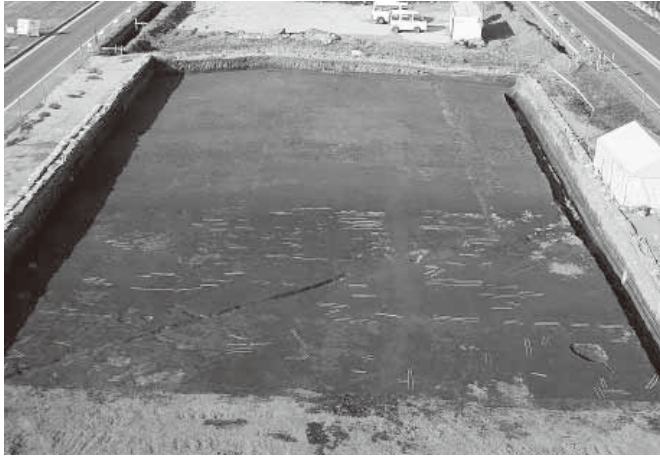
6. II区2号耕作痕全景(中央区東半/北から)



7. II区馬蹄痕37全景(中央区西半/北から)



8. II区馬蹄痕全景(中央区西半/北から)



1. Ⅱ区浅間B混土下面耕作痕全景(中央区西半/東から)



2. Ⅱ区浅間B混土下面耕作痕近景(中央区西半/東から)



3. Ⅱ区浅間B混土下面耕作痕確認状況(中央区西半/東から)



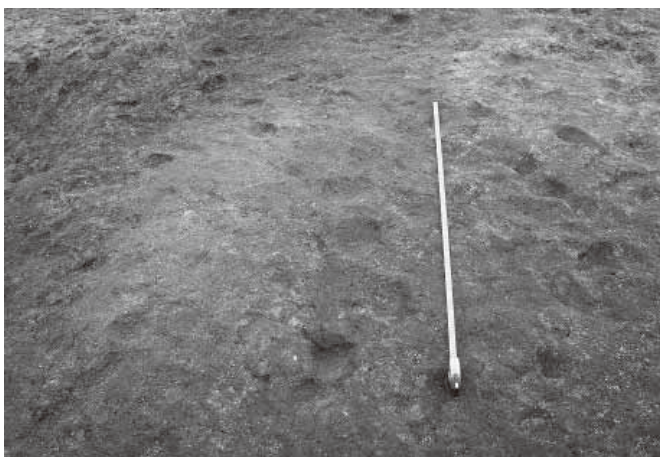
4. Ⅱ区浅間B混土下面耕作痕近景(中央区西半/東から)



5. Ⅱ区浅間B混土下面耕作痕近景(中央区西半/北西から)



6. Ⅱ区浅間B混土下面耕作痕土層断面(中央区西半/西から)



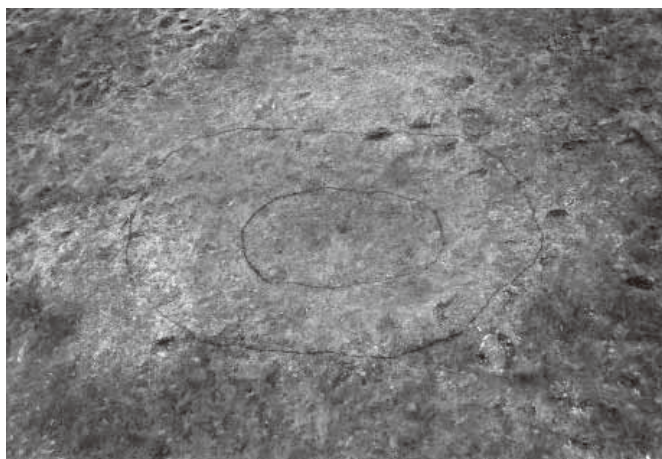
7. Ⅱ区浅間B混土下面耕作痕幅広の近景(中央区西半/西から)



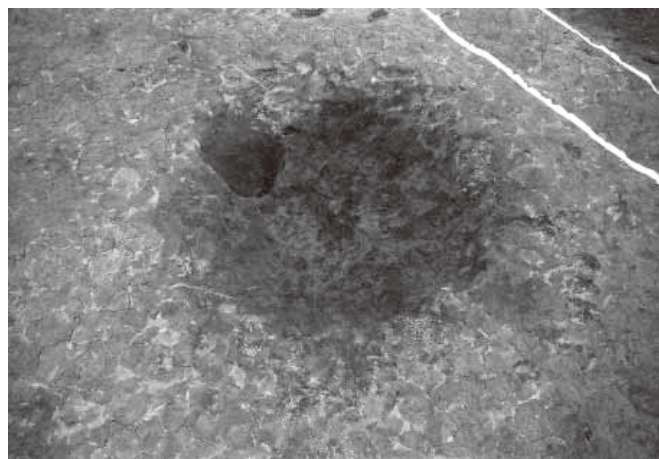
8. Ⅱ区浅間B混土下面耕作痕幅狭の近景(中央区西半/西から)



1. Ⅲ区浅間Bテフラ直下水田全景(北・南区/上空から)



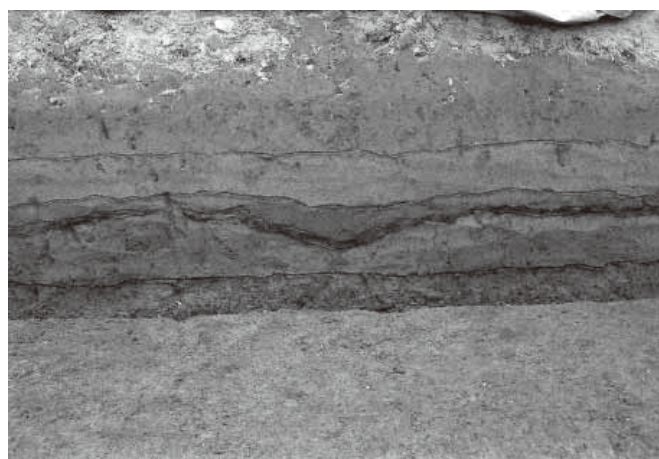
2. Ⅲ区2号土坑全景(東から)



3. Ⅲ区3号土坑全景(東から)



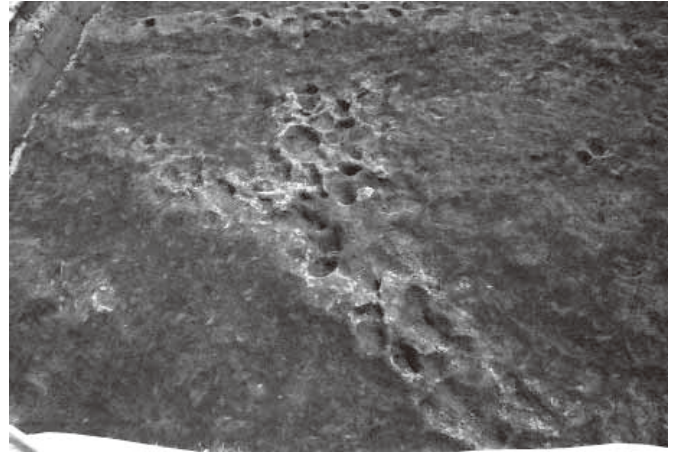
4. Ⅲ区15号溝土層断面(南から)



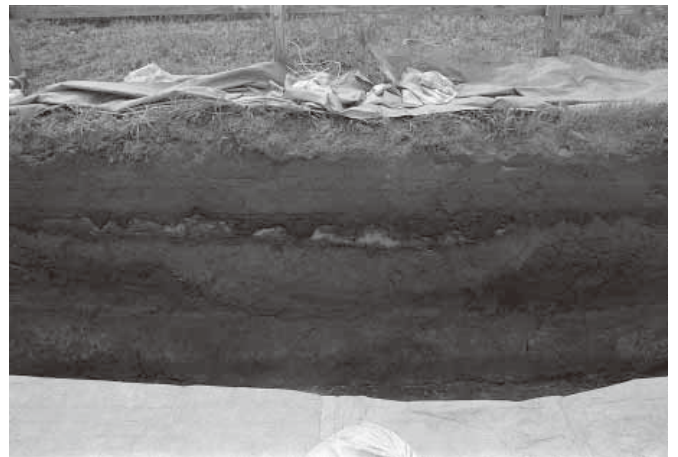
5. Ⅲ区16号溝土層断面(南から)



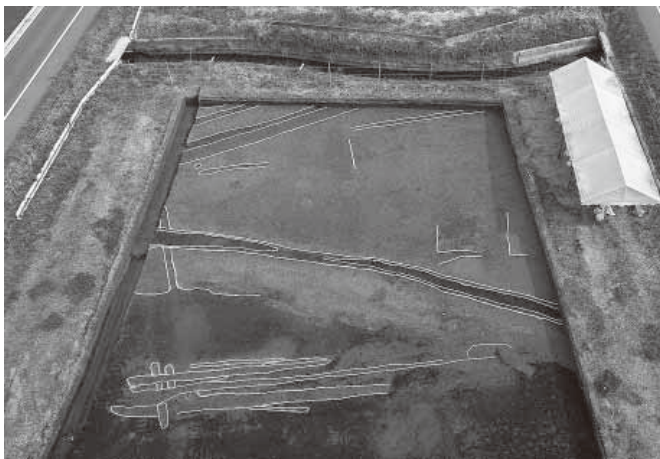
1. Ⅲ区16号溝全景(南から)



2. Ⅲ区15号溝全景(南から)



3. Ⅲ区12号溝南壁土層断面(北から)



4. Ⅲ区12号溝全景(中央区/西から)



5. Ⅲ区浅間Bテフラ直下水田アゼ近景(南区/北から)



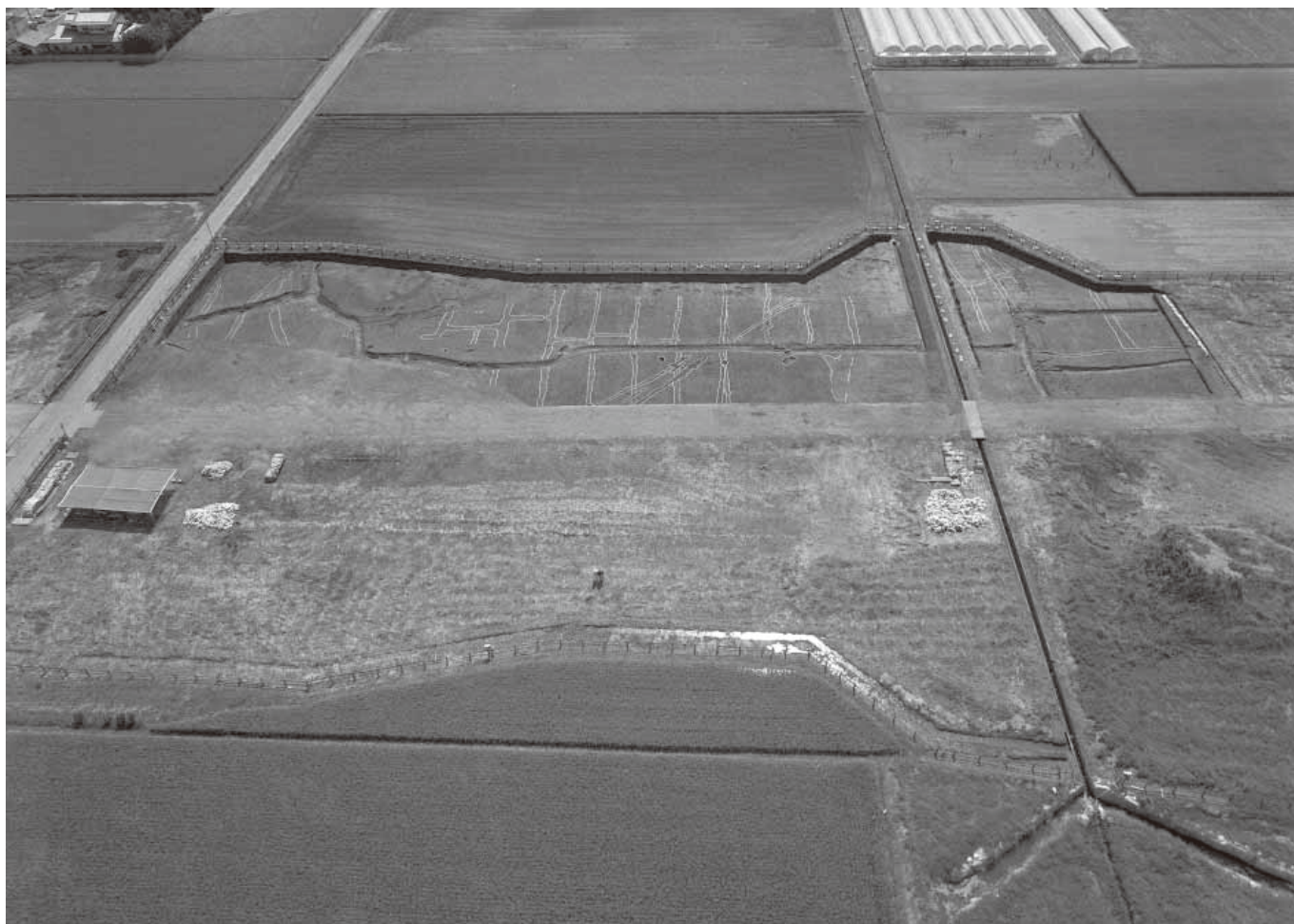
6. Ⅲ区浅間Bテフラ直下水田アゼ近景(北区/東から)



7. Ⅲ区浅間Bテフラ直下水田アゼ近景(北区/北東から)



1. IV区浅間B混土下面水田痕跡全景(北区/南上空から)



2. IV区浅間B混土下面水田痕跡全景(南区/北上空から)



1. IV区浅間B混土下面水田痕跡アゼ近景(北区西端/南から)



2. IV区浅間B混土下面水田痕跡アゼ近景(北区西半/南西から)



3. IV区浅間B混土下面水田痕跡アゼ近景(北区西半/南から)



4. IV区浅間B混土下面水田痕跡アゼ近景(北区西半/南東から)



5. IV区浅間B混土下面水田痕跡アゼ近景(北区西半/東から)



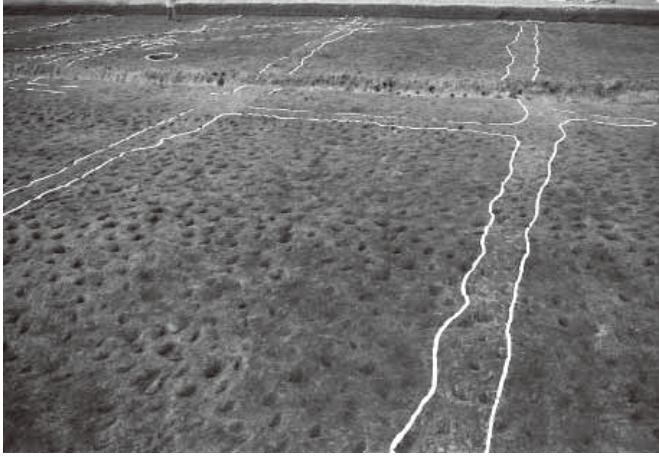
6. IV区浅間B混土下面水田痕跡アゼ近景(北区西半/西から)



7. IV区浅間B混土下面水田痕跡アゼ近景(北区西半/北西から)



8. IV区浅間B混土下面水田痕跡アゼ近景(南区西半/西から)



1. IV区浅間B混土下面水田痕跡アゼ近景(南区中央/南から)



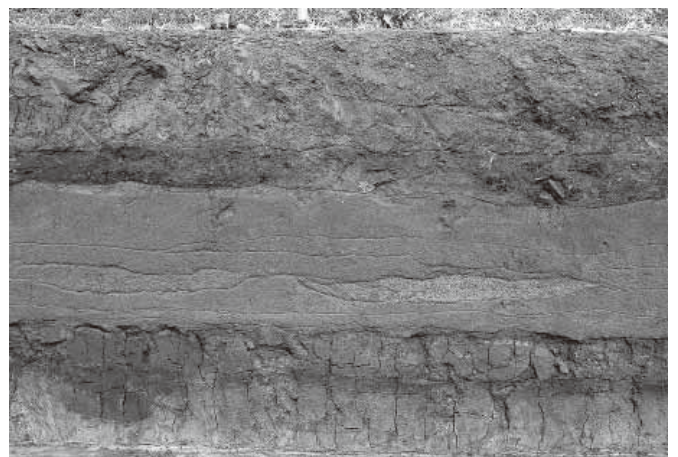
2. IV区浅間B混土下面水田痕跡アゼ近景(南区中央/南西から)



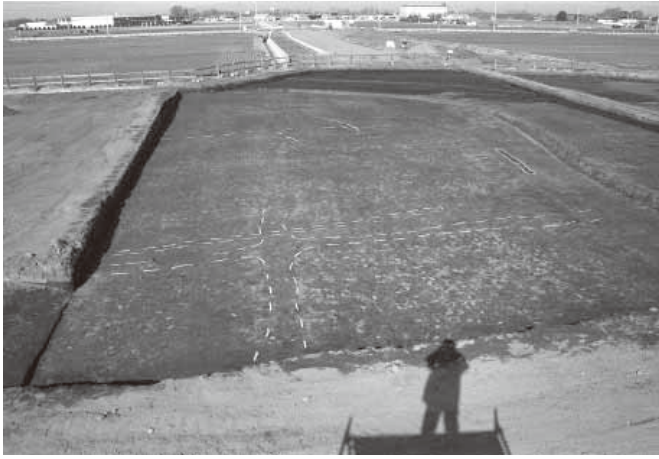
3. IV区浅間B混土下面水田痕跡全景(中央区/東から)



4. IV区浅間B混土下面水田痕跡アゼ近景(中央区/東から)



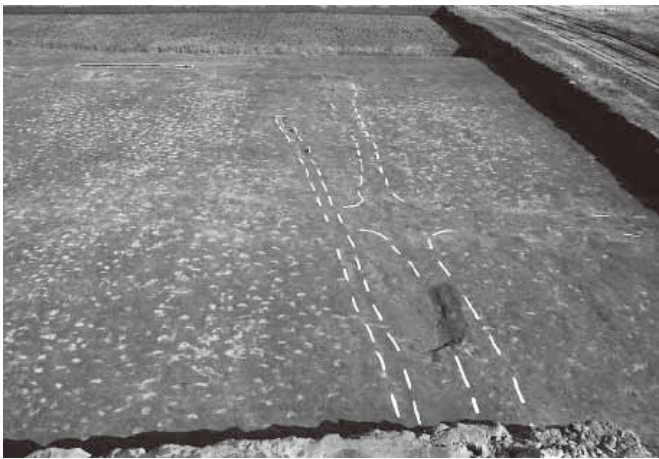
5. IV区北壁基本土層断面(中央区/南から)



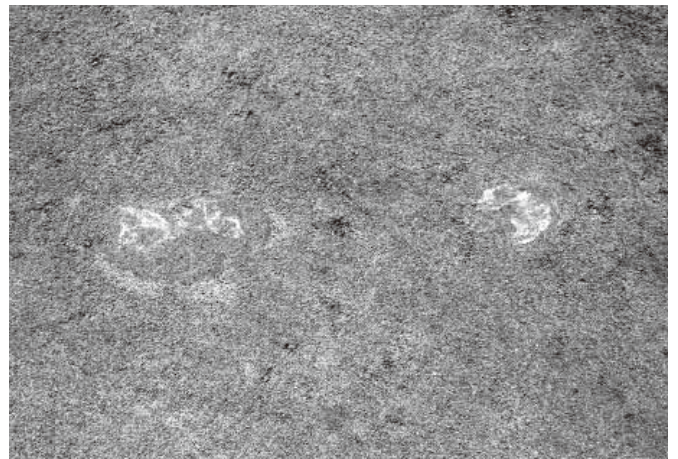
1. V区浅間B混土下面水田痕跡全景(北区/南から)



2. V区浅間B混土下面水田痕跡アゼ近景(南区/北から)



3. V区浅間B混土下面水田痕跡アゼ近景(南区/西から)



4. V区浅間B混土下面水田痕跡馬蹄痕(南区/上から)



5. V区浅間B混土下面水田痕跡全景(西区/東から)



1. V区浅間B混土下面水田痕跡アゼ近景(西区南端/東から)



2. V区浅間B混土下面水田痕跡アゼ近景(西区南半/東から)



3. V区浅間B混土下面水田痕跡アゼ近景(西区北半/東から)



4. V区浅間B混土下面水田痕跡アゼ近景(西区北端/東から)



5. V区浅間B混土下面水田痕跡アゼ近景(西区北半/西から)



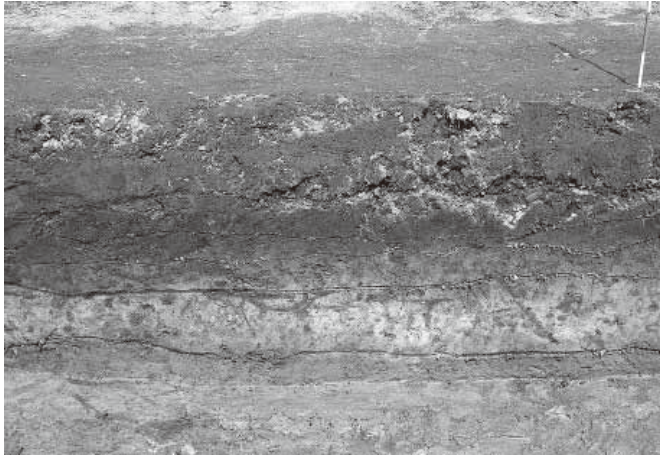
6. V区浅間B混土下面水田痕跡アゼ近景(西区南半/西から)



7. V区浅間B混土下面水田痕跡調査風景(西区/東から)



8. V区浅間B混土下面水田痕跡調査風景(西区/北西から)



1. VI区北壁基本土層(南から)



2. VI区10号溝土層断面(南から)



3. VI区10号溝近景(北東から)



4. VI区浅間B混土上面耕作痕近景(東から)



5. VI区浅間B混土下面水田痕跡全景(東から)



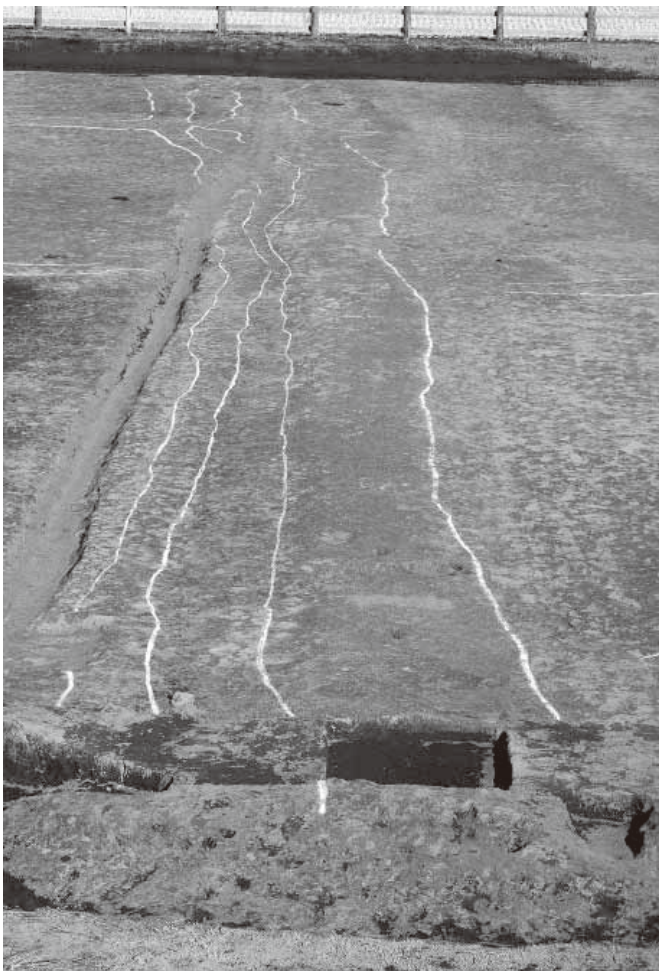
1. VI区浅間B混土下面水田痕跡全景(西から)



2. VI区6号・11号溝全景(東から)



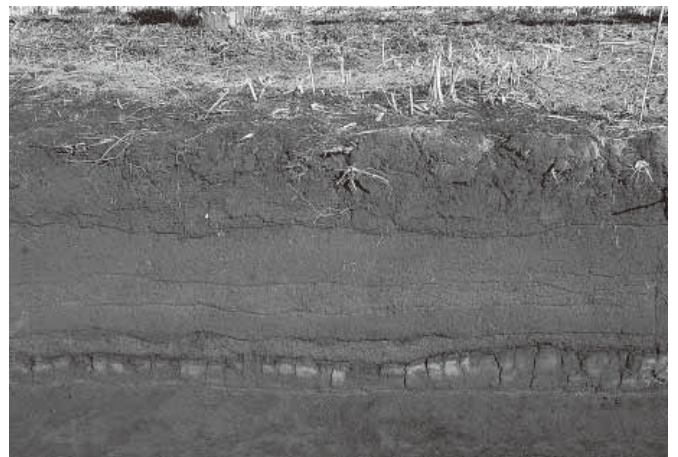
1. Ⅶ区浅間Bテフラ直下水田全景(東から)



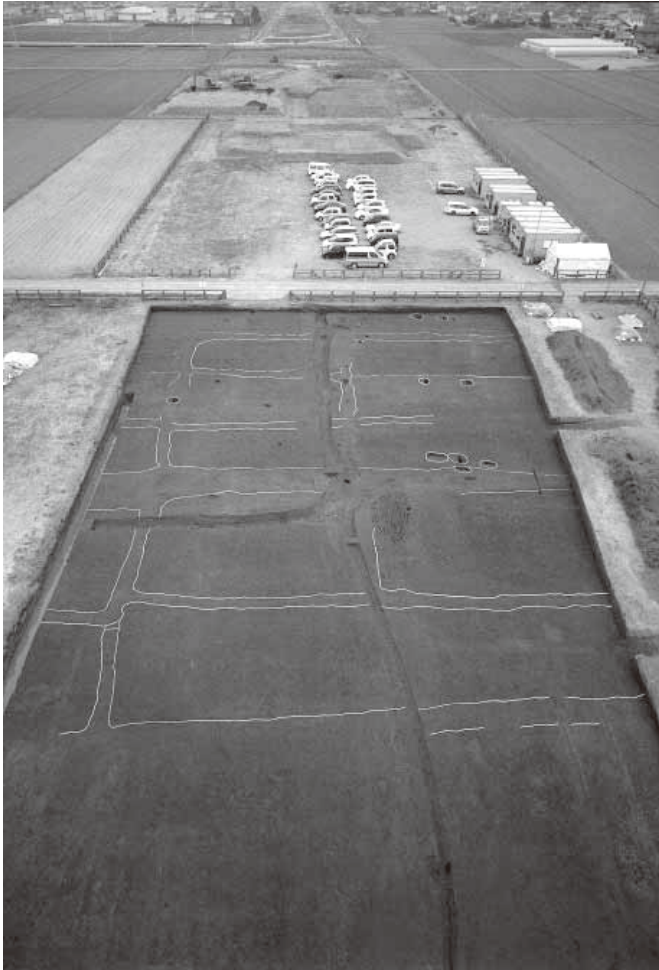
2. Ⅶ区浅間Bテフラ直下水田大アゼ全景(南から)



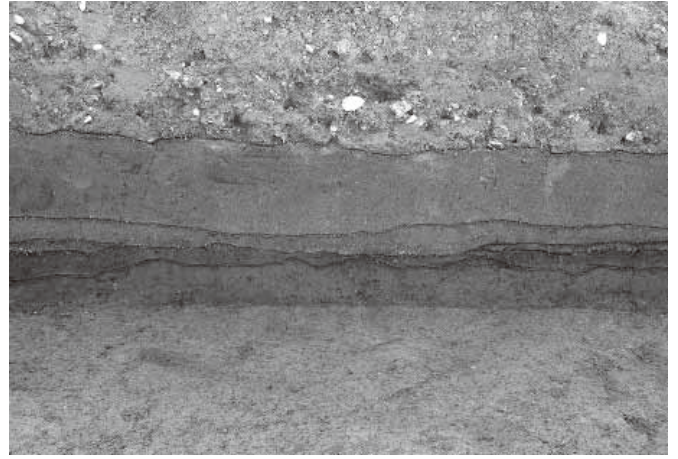
3. Ⅶ区浅間Bテフラ直下水田全景(西から)



4. Ⅶ区北壁基本土層(南から)



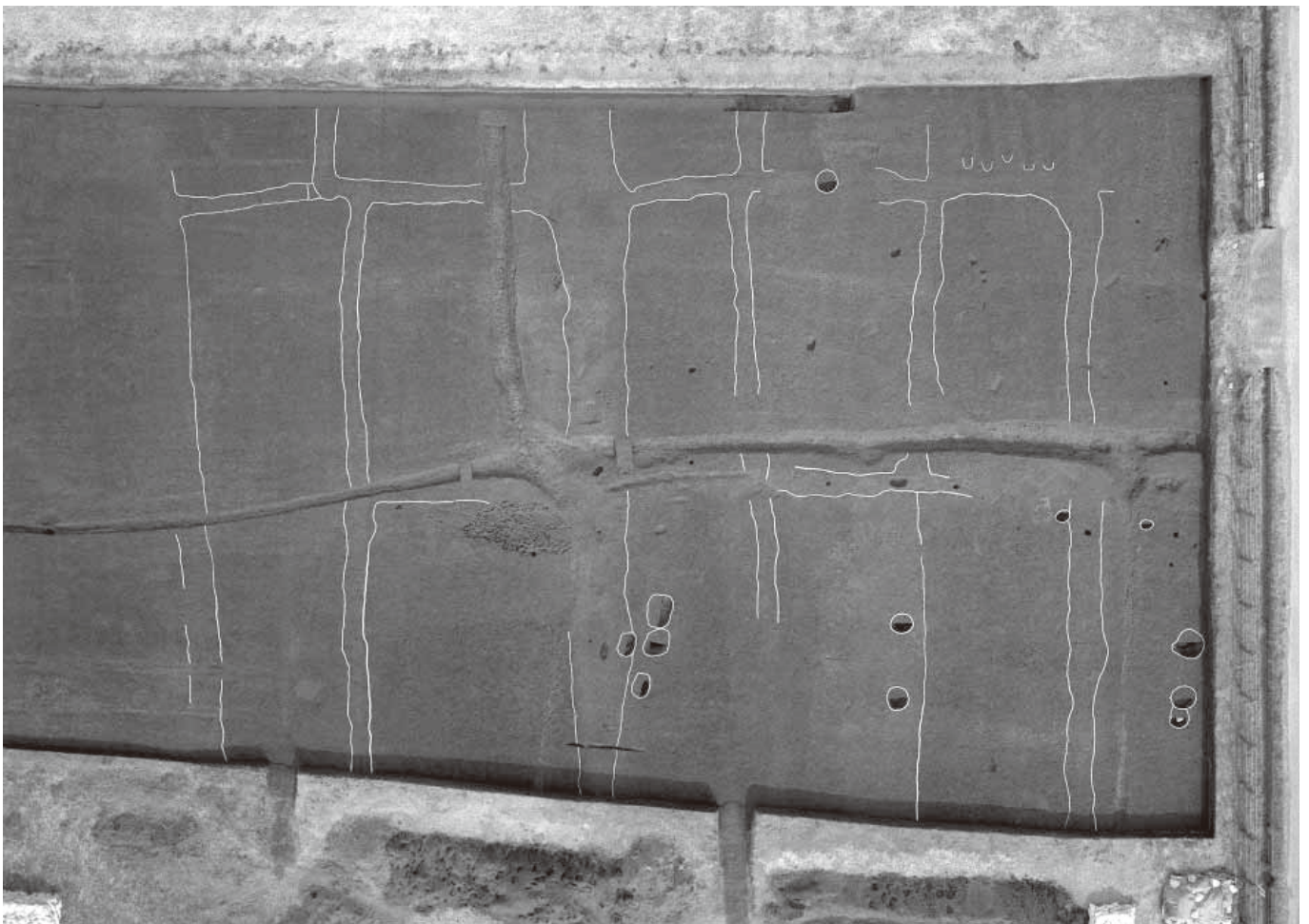
1. Ⅷ区浅間Bテフラ直下水田全景(西から)



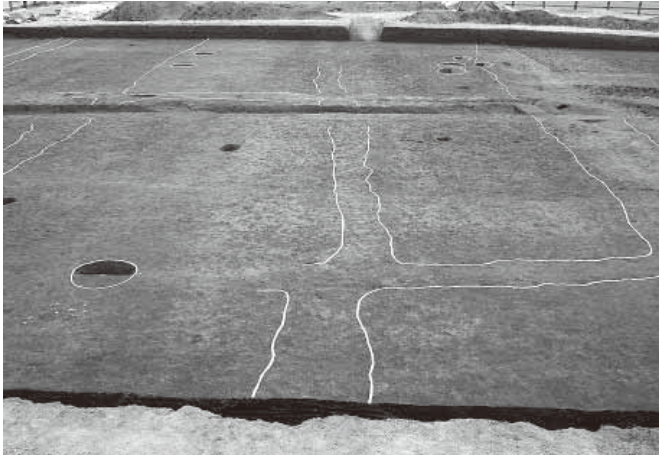
2. Ⅷ区浅間Bテフラ直下水田アゼ土層断面(北から)



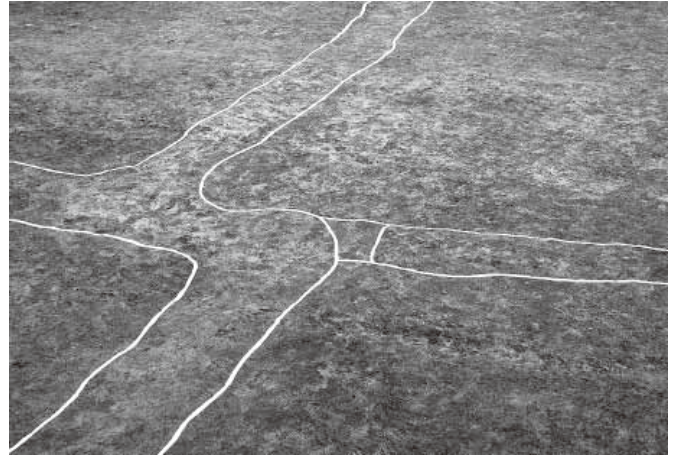
3. Ⅷ区浅間Bテフラ直下水田大アゼ近景(北から)



4. Ⅷ区浅間Bテフラ直下水田全景(上空から)



1. Ⅷ区浅間Bテフラ直下水田アゼ近景(北から)



2. Ⅷ区浅間Bテフラ直下水田水口検出状況(北から)



3. Ⅷ区浅間Bテフラ直下水田と馬蹄痕(南東から)



4. Ⅷ区浅間Bテフラ直下水田部分(北から)



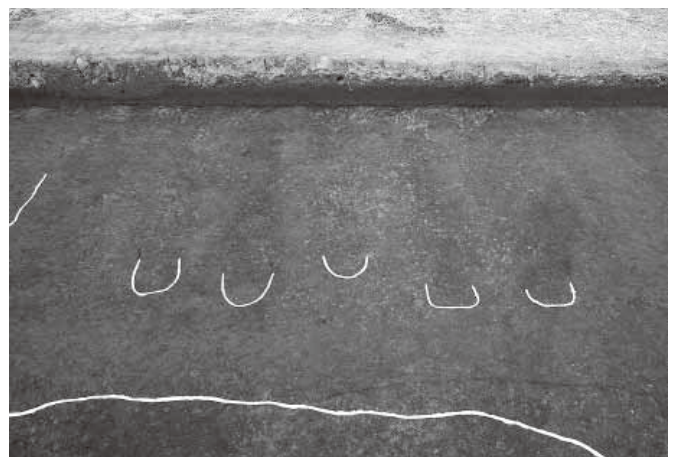
5. Ⅷ区浅間Bテフラ直下畠全景(南から)



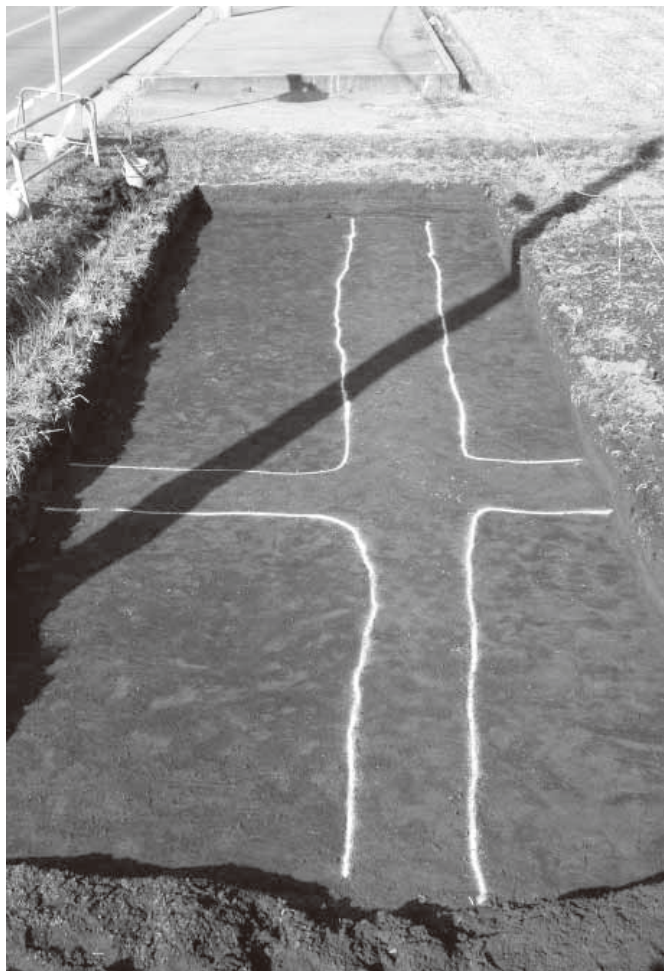
6. Ⅷ区浅間Bテフラ直下畠検出状況(南から)



7. Ⅷ区浅間Bテフラ直下畠土層断面(南から)



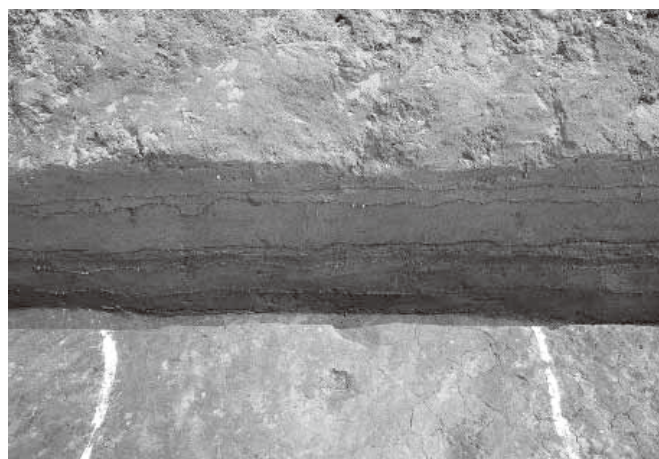
8. Ⅷ区浅間Bテフラ直下畠近景(西から)



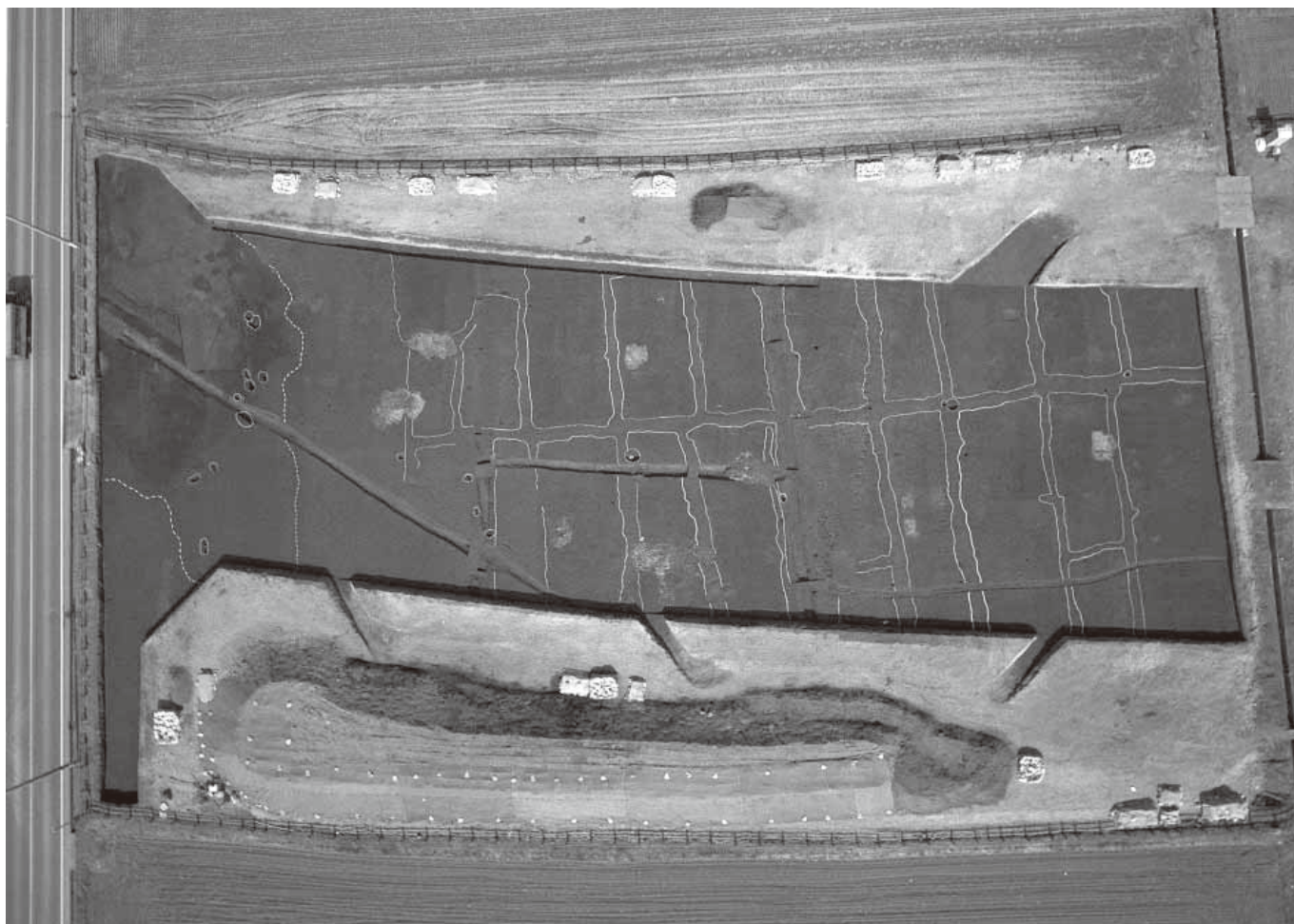
1. IX区浅間Bテフラ直下水田全景(北1区北半/南から)



2. IX区浅間Bテフラ直下水田アゼ土層断面B-B' (北1区/南から)



3. IX区浅間Bテフラ直下水田アゼ土層断面C-C' (西から)



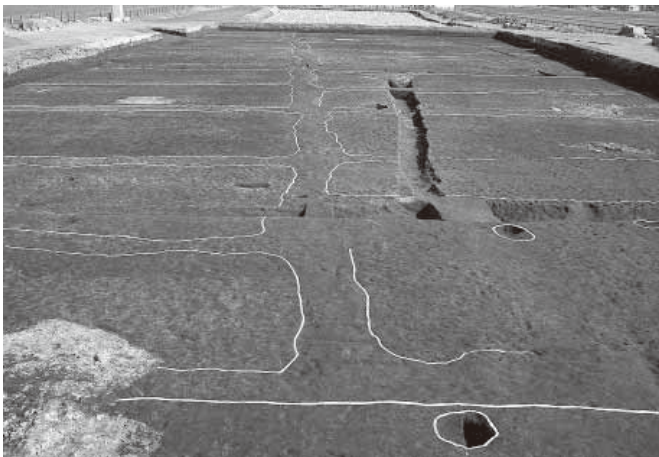
4. IX区浅間Bテフラ直下水田全景(上空から)



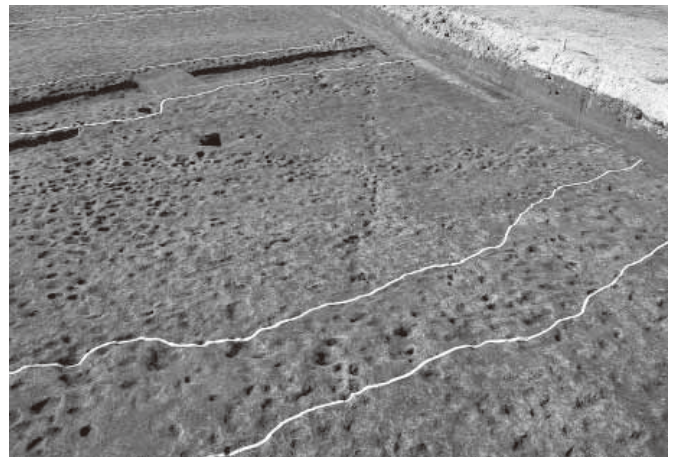
1. IX区浅間Bテフラ直下水田全景(東から)



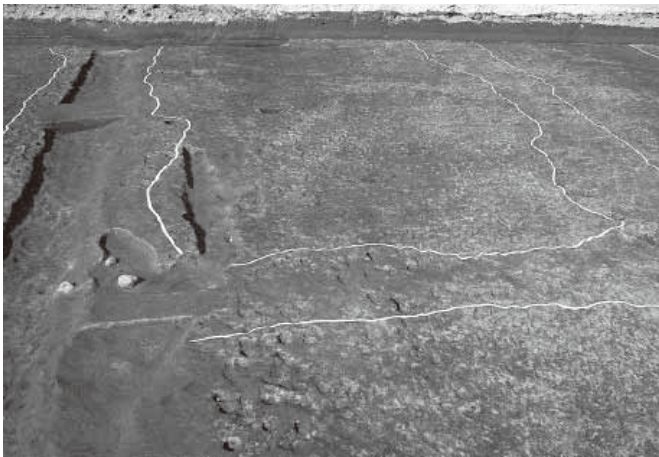
2. IX区浅間Bテフラ直下水田全景(西半/東から)



3. IX区浅間Bテフラ直下水田全景(西から)



4. IX区浅間Bテフラ直下水田アゼ近景(東から)



5. IX区浅間Bテフラ直下水田アゼ近景(南から)



6. IX区浅間Bテフラ直下水田馬蹄痕(南から)



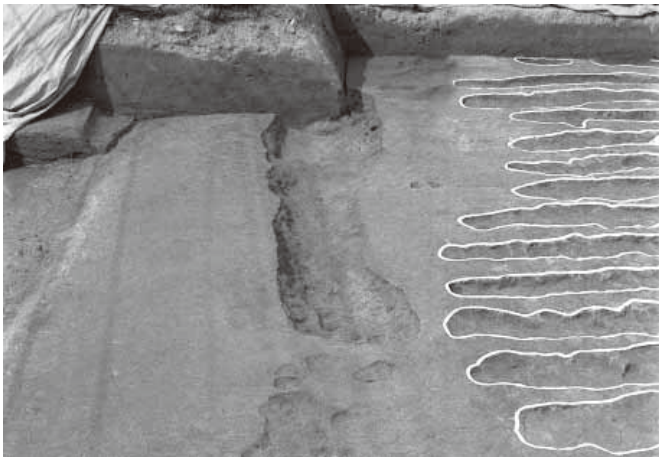
7. IX区北壁剥ぎ取り作業風景(南から)



8. IX区浅間Bテフラ直下水田調査風景(南西から)



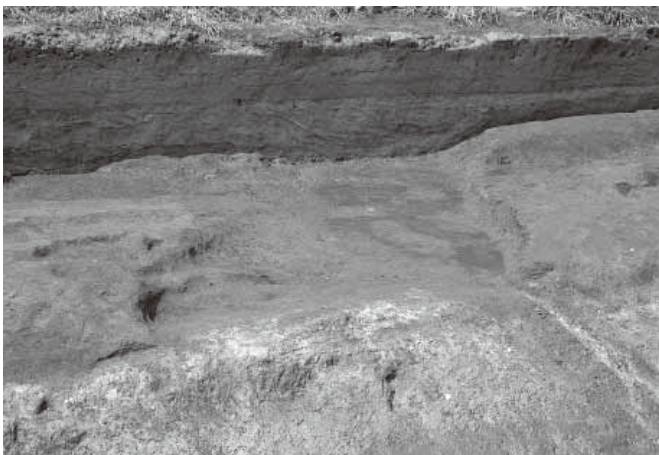
1. I区古代洪水層関連遺構面全景(北区/上空から)



2. I区27号溝土層断面(南から)



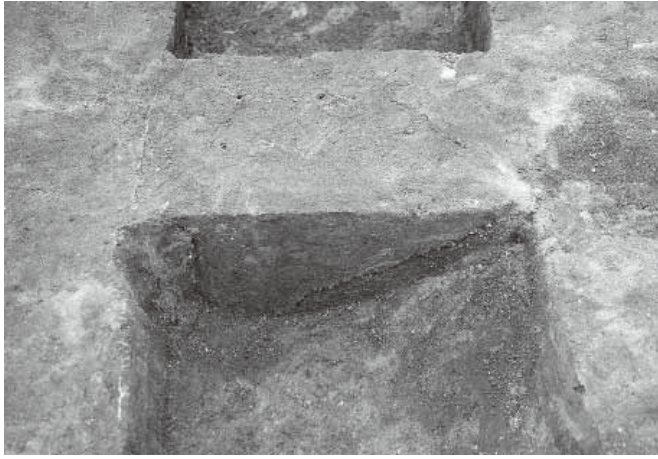
3. I区27号・28号溝全景(南から)



4. I区33号溝全景(東から)



5. I区32号・33号溝全景(東から)



1. I区52号溝土層断面(東から)



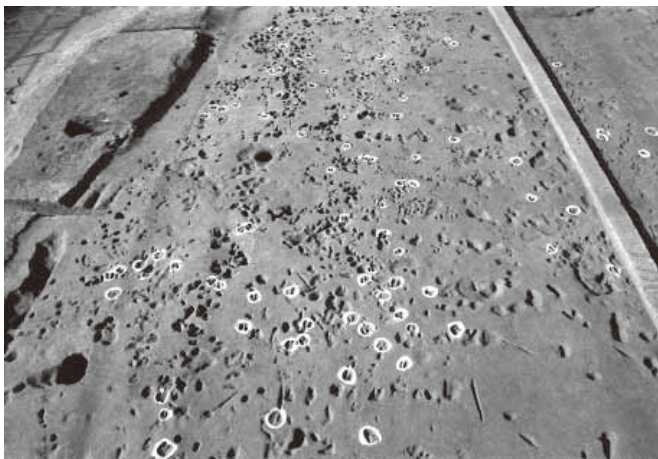
2. I区52号溝全景(西から)



3. I区53号溝土層断面(南から)



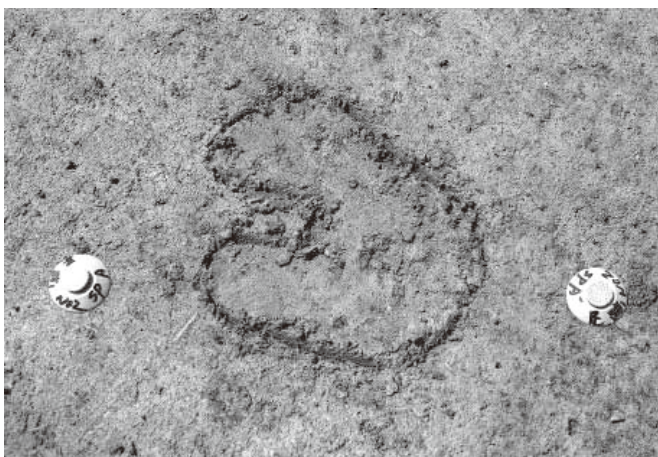
4. I区54号溝土層断面(南から)



5. I区古代①IV B層上面牛蹄跡検出状況(南から)



6. I区古代①IV B層上面牛蹄跡掘り下げ後状況(南から)



7. I区古代①IV B層上面牛蹄跡検出状況近景(北から)



8. I区古代①IV B層上面牛蹄跡検出状況近景(東から)

I区古代洪水層関連の遺構 水田痕跡



1. I区古代②VI層上面水田痕跡近景(中央区北西部/東から)



2. I区古代②VI層上面水田痕跡近景(中央区東半/北から)



3. I区古代②VI層上面水田痕跡近景(中央区中央/北から)



4. I区古代②VI層上面水田痕跡近景(南東から)



5. I区1号大アゼ全景(南から)



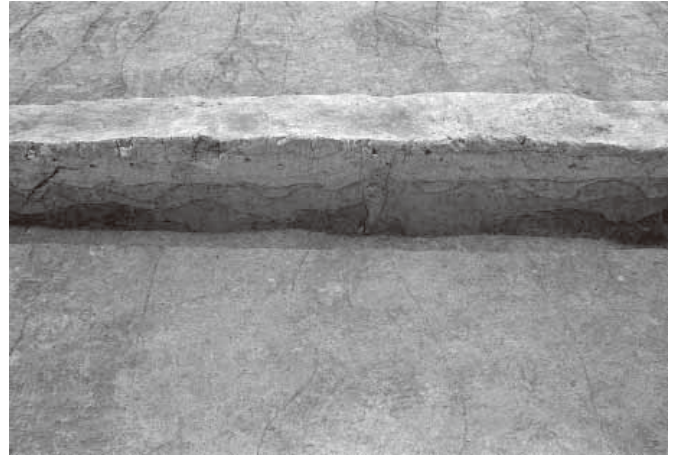
6. I区1号大アゼトレンチ土層断面(南から)



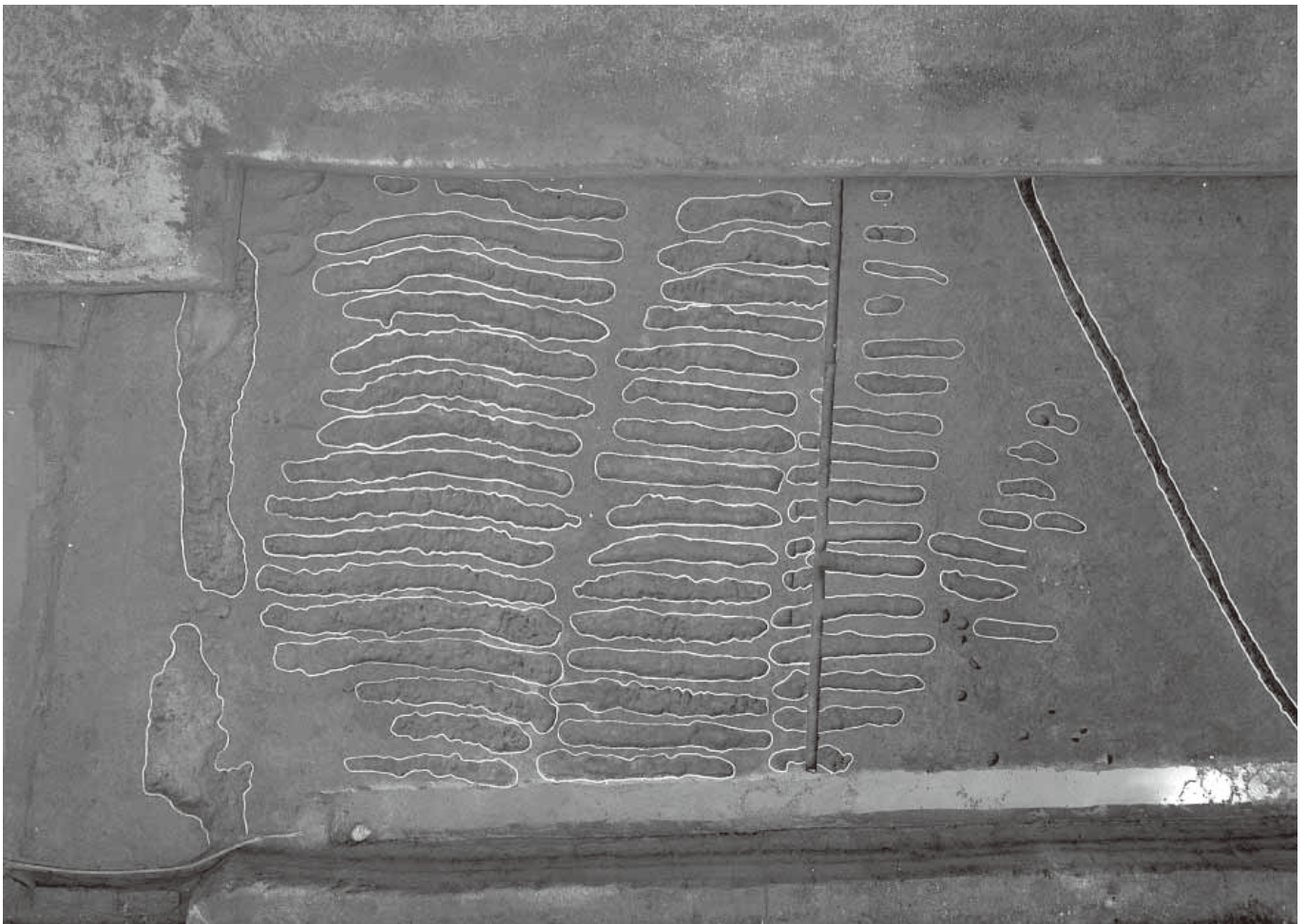
7. I区古代②VI層上面土錘出土状態(東から)



1. I区1号畠土層断面南半(東から)



2. I区1号畠土層断面北半(東から)



3. I区1号畠全景



4. I区1号畠確認状況(北西から)



5. I区1号畠全景(西から)

I区古代洪水層関連の遺構 島



1. I区1号島検出状況全景(東から)



2. I区1号島調査風景(西から)



3. I区2号島最終面確認全景(南から)



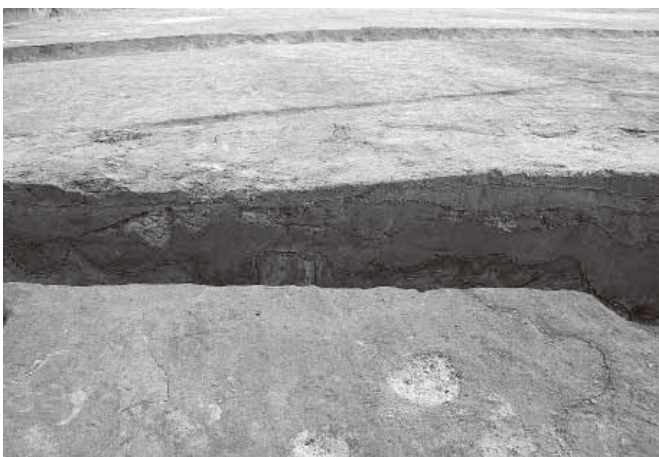
4. I区勾玉出土状態(北から)



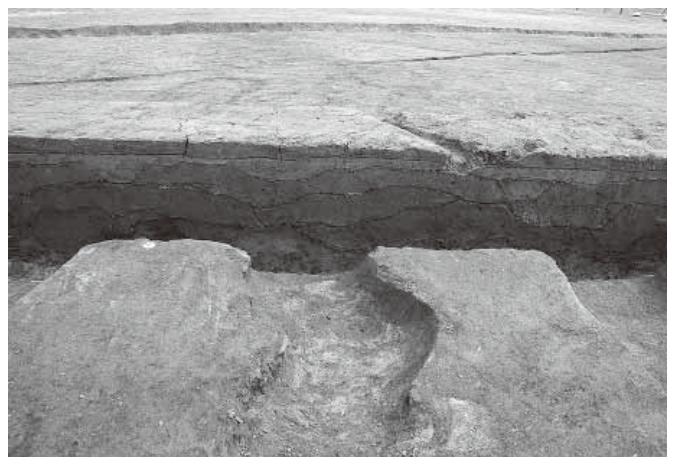
5. I区2号島土層断面(南西から)



6. I区2号島土層断面拡大(1)(西から)



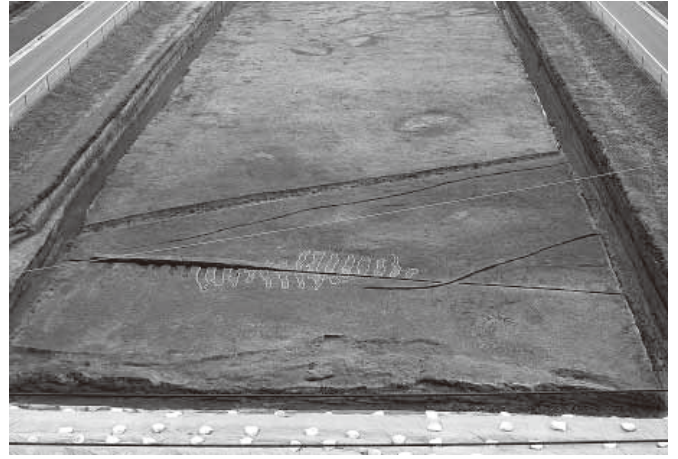
7. I区2号島土層断面拡大(2)(西から)



8. I区2号島土層断面拡大(3)(西から)



1. I区2号畠土層断面拡大(4) (西から)



2. I区2号畠全景(西から)



3. I区2号畠全景北半(西から)



4. I区2号畠全景南半(西から)



5. I区2号畠耕作痕全景(東から)



6. I区2号畠最終面全景(西から)

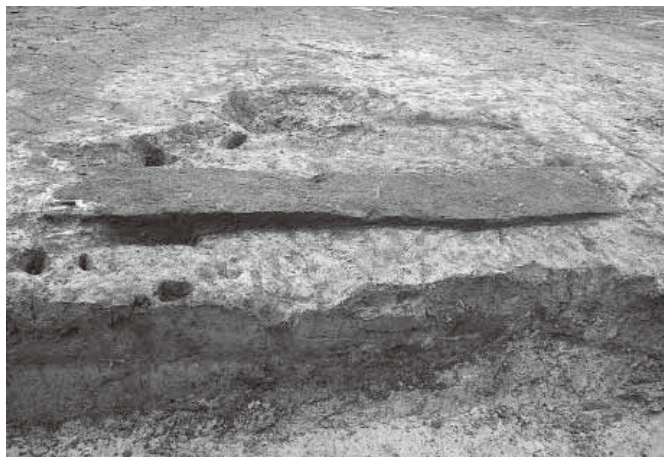


7. I区2号畠最終面全景(東から)

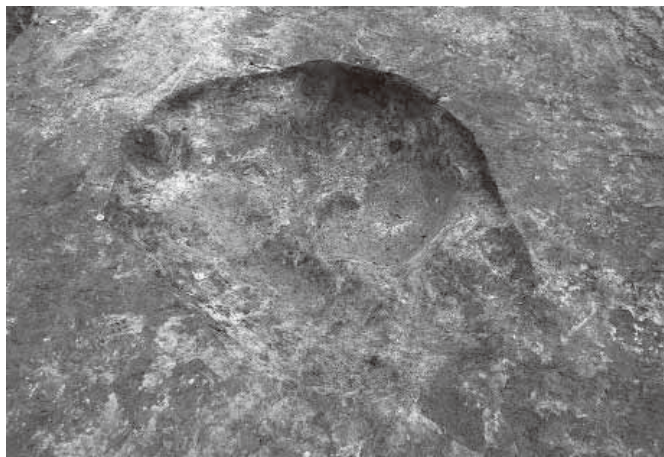


8. I区2号畠最終面調査風景(東から)

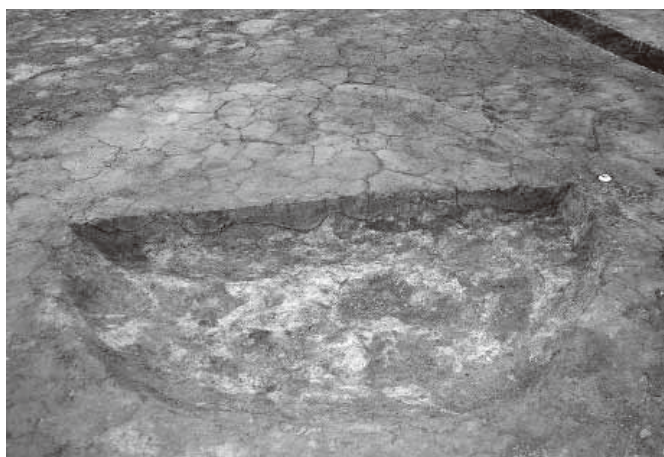
I区古代洪水層関連の遺構 土坑



1. I区21号土坑土層断面(南から)



2. I区24号土坑全景(北から)



3. I区22号土坑土層断面(南から)



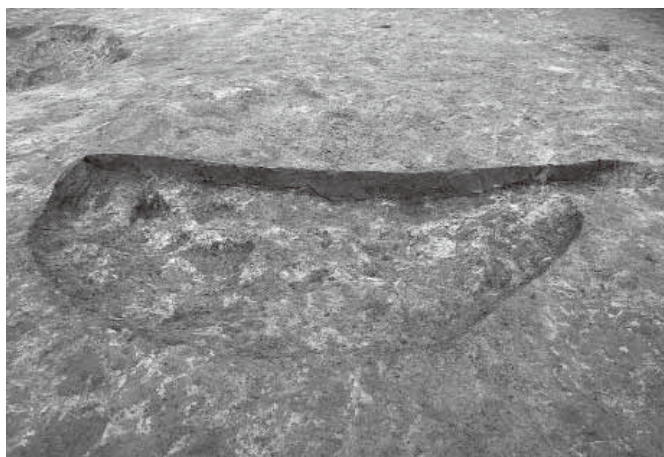
4. I区22号土坑全景(西から)



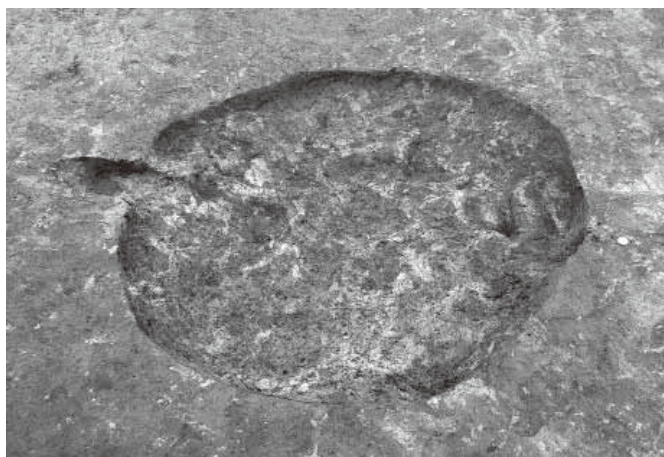
5. I区23号土坑土層断面(東から)



6. I区23号土坑全景(北から)



7. I区25号土坑土層断面(南から)



8. I区25号土坑全景(北から)



1. Ⅱ区古代洪水層関連遺構面全景(北・南区/南から)



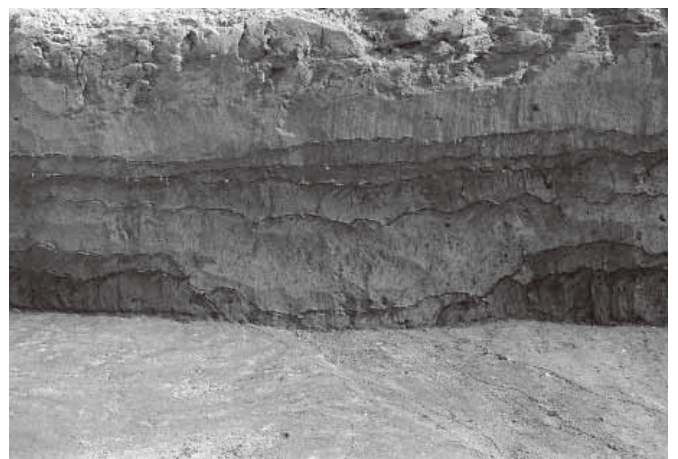
2. Ⅱ区古代洪水層関連遺構面全景(中央区/西から)



3. Ⅱ区14号溝全景(南から)



4. Ⅱ区15号溝全景(南から)



5. Ⅱ区17号溝土層断面(北から)

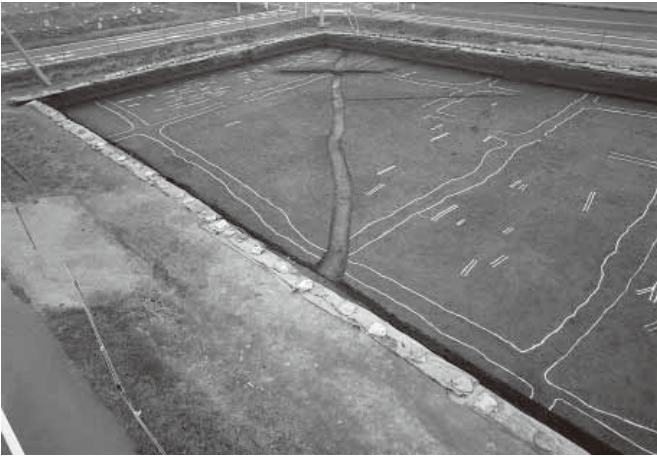
Ⅱ区古代洪水層関連の遺構 溝



1. Ⅱ区17号溝全景(北区/南から)



2. Ⅱ区17号溝土層断面(西から)



3. Ⅱ区古代洪水層関連遺構面全景(中央区東半/北西から)



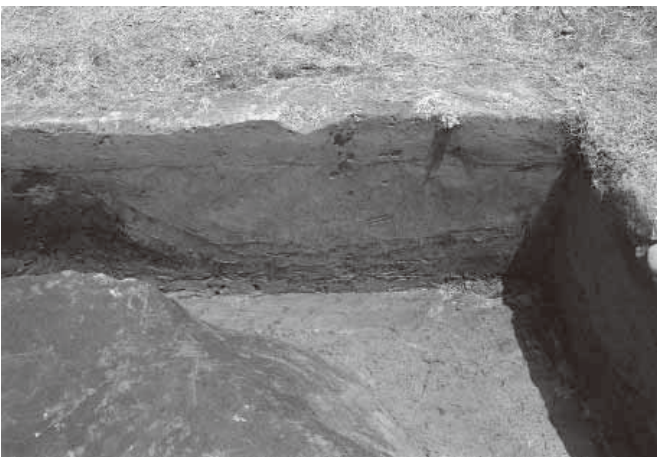
4. Ⅱ区17号溝土層断面(南から)



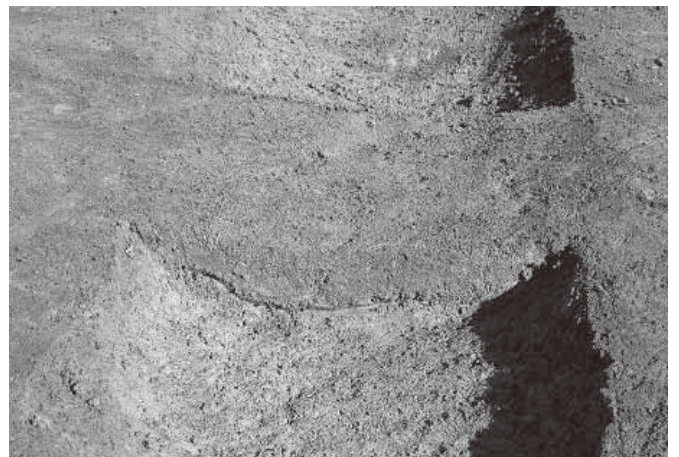
5. Ⅱ区17号溝土層断面(南東から)



6. Ⅱ区17号溝全景(南東から)



7. Ⅱ区19号溝土層断面(南から)



8. Ⅱ区24号溝土層断面(南から)



1. Ⅱ区24号溝全景(南西から)



2. Ⅱ区24号溝下層部全景(南西から)



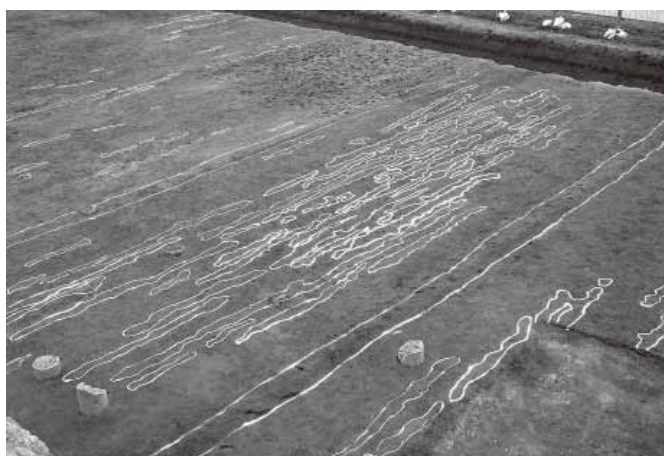
3. Ⅱ区古代①ⅣB層上面牛蹄跡検出状況(南区/北から)



4. Ⅱ区古代①ⅣB層上面牛蹄跡掘り下げ状況(南区/北から)



5. Ⅱ区古代②Ⅵ層上面水田耕作痕全景(南区/東から)

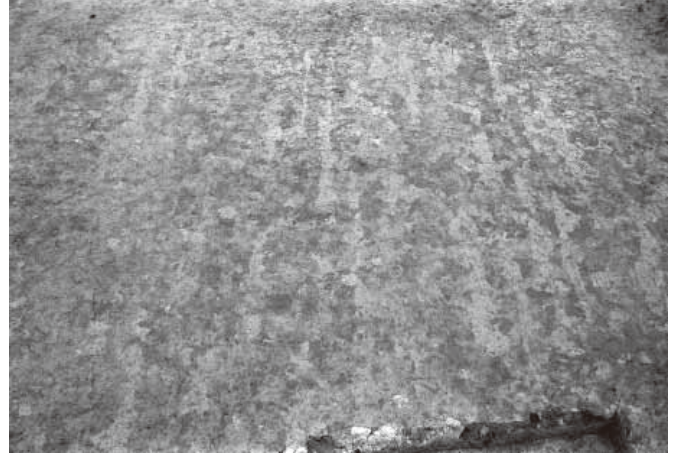


6. Ⅱ区古代②Ⅵ層上面水田耕作痕近景(南区/北西から)

Ⅱ区古代洪水層関連の遺構 水田痕跡



1. Ⅱ区古代②VI層上面水田耕作痕近景(南区/北から)



2. Ⅱ区古代②VI層上面水田耕作痕検出状況(南区/北から)



3. Ⅱ区古代②VI層上面水田痕跡全景(中央区西半/上空から)



4. Ⅱ区古代②VI層上面水田痕跡全景(中央区東半/上空から)



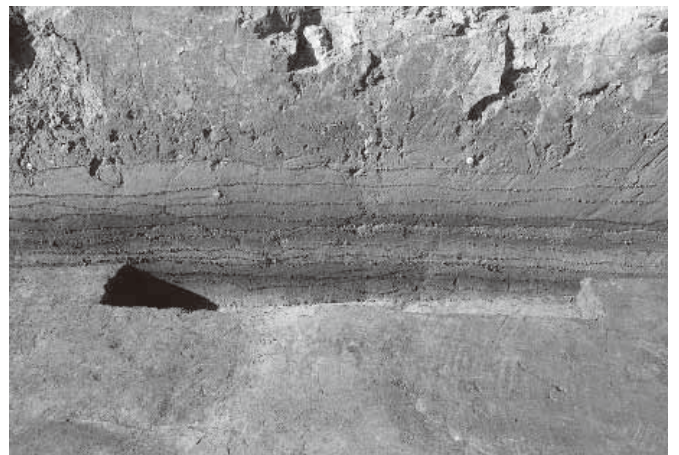
5. Ⅱ区古代②VI層上面水田痕跡近景(中央区東半/南東から)



6. Ⅱ区古代②VI層上面水田痕跡近景(中央区東半/南から)



7. Ⅱ区古代②VI層上面水田耕作痕跡全景(中央区東半/南から)



8. Ⅱ区西壁土層断面(中央区東半/東から)



1. Ⅱ区古代②VI層上面水田痕跡近景(中央区東半/南から)



2. Ⅱ区古代②VI層上面水田痕跡近景(中央区西端/南から)



3. Ⅱ区古代②VI層上面水田痕跡近景(中央区西半/南から)



4. Ⅱ区古代②VI層上面水田痕跡馬蹄痕(中央区西半/南から)



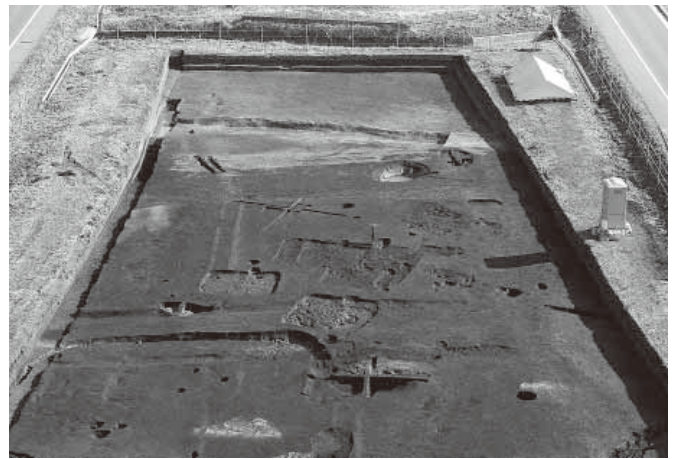
5. Ⅱ区・Ⅲ区古代②VI層上面遺構面全景(北・南区/西から)



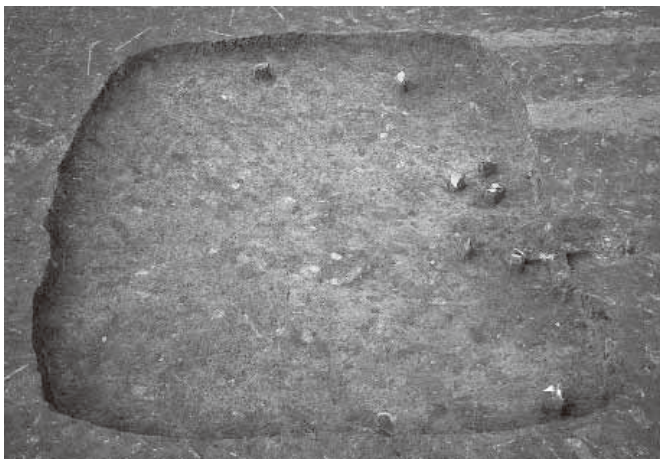
1. Ⅲ区古代洪水層関連遺構面全景(中央区/東から)



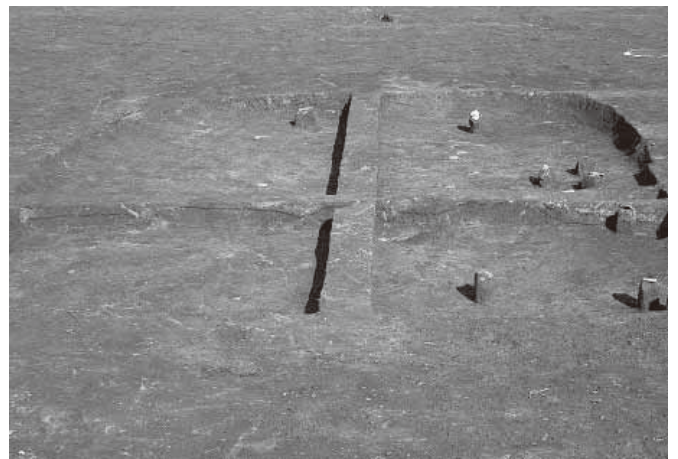
2. Ⅲ区古代遺構群全景(中央区/東から)



3. Ⅲ区古代遺構群全景(中央区/西から)



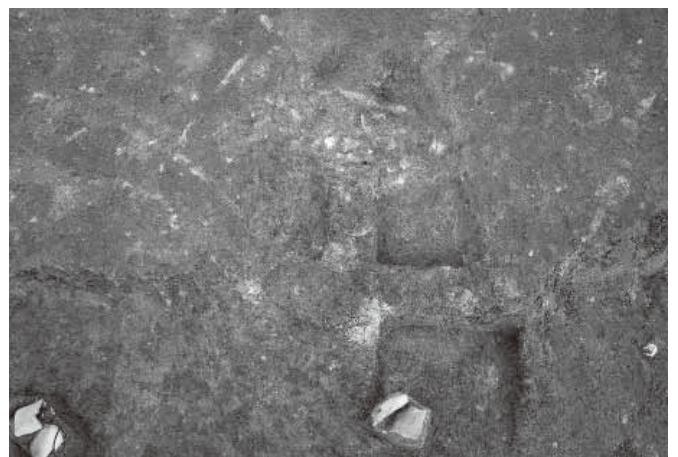
4. Ⅲ区1号住居全景(南から)



5. Ⅲ区1号住居土層断面(南から)



6. Ⅲ区1号住居土層断面(東から)



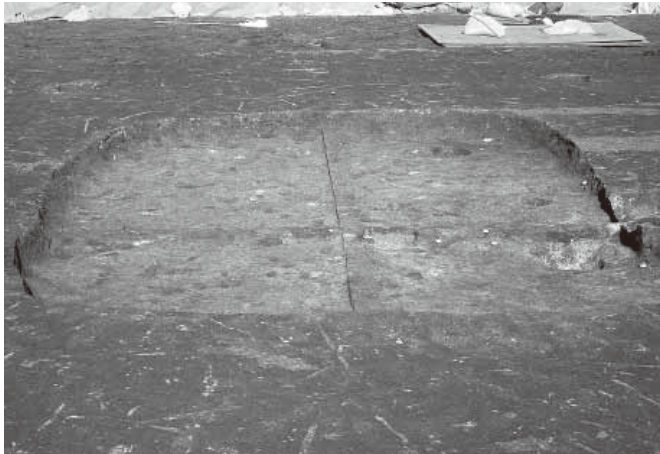
7. Ⅲ区1号住居カマド全景(西から)



1. Ⅲ区1号住居カマド土層断面(南から)



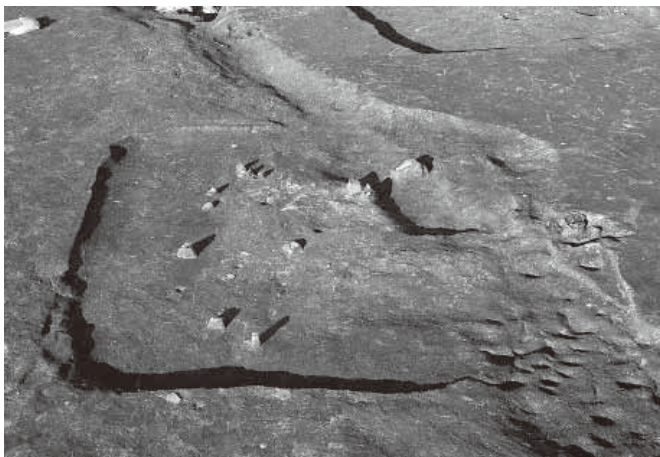
2. Ⅲ区1号住居掘り方全景(南から)



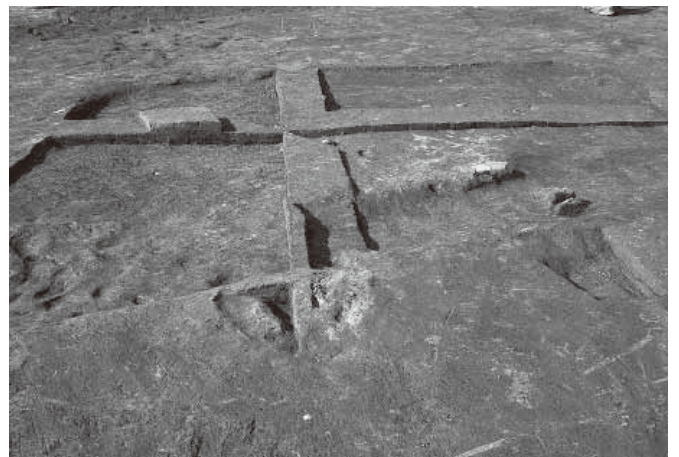
3. Ⅲ区1号住居掘り方土層断面(南から)



4. Ⅲ区1号住居カマド掘り方土層断面(西から)



5. Ⅲ区2号住居全景(南から)



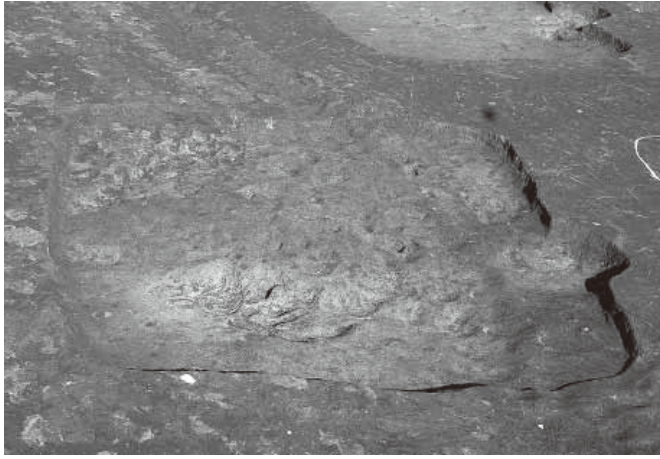
6. Ⅲ区2号住居土層断面(東から)



7. Ⅲ区2号住居カマド全景(西から)



8. Ⅲ区2号住居カマド土層断面(西から)



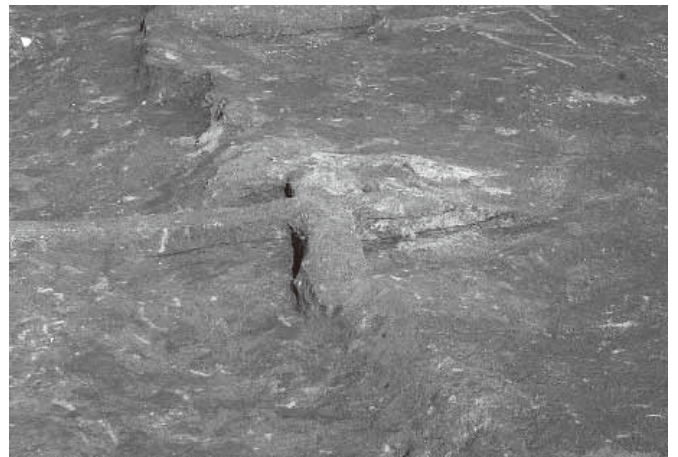
1. Ⅲ区2号住居掘り方全景(南から)



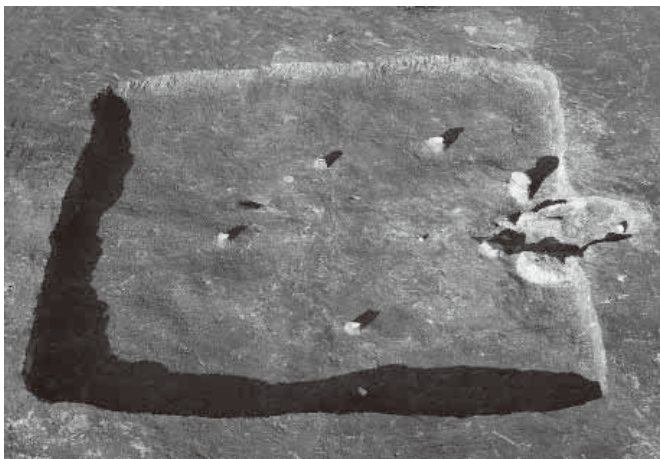
2. Ⅲ区2号住居掘り方土層断面(南から)



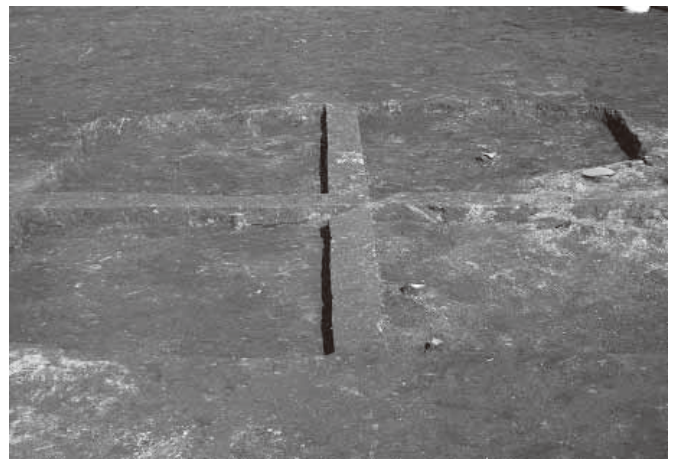
3. Ⅲ区2号住居カマド掘り方土層断面(西から)



4. Ⅲ区2号住居カマド土層断面(南から)



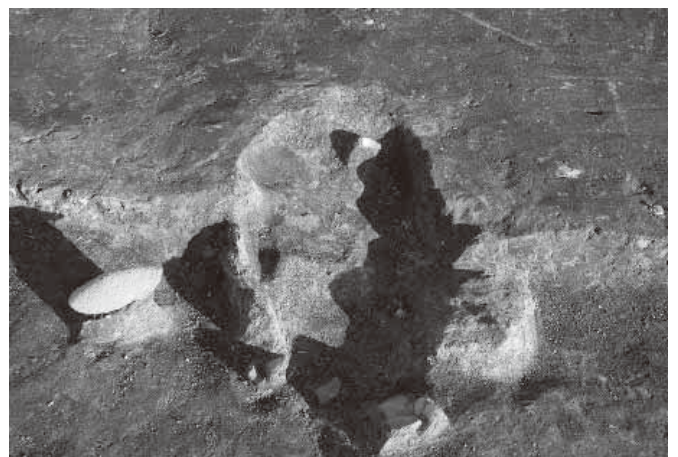
5. Ⅲ区3号住居全景(南から)



6. Ⅲ区3号住居土層断面(南から)



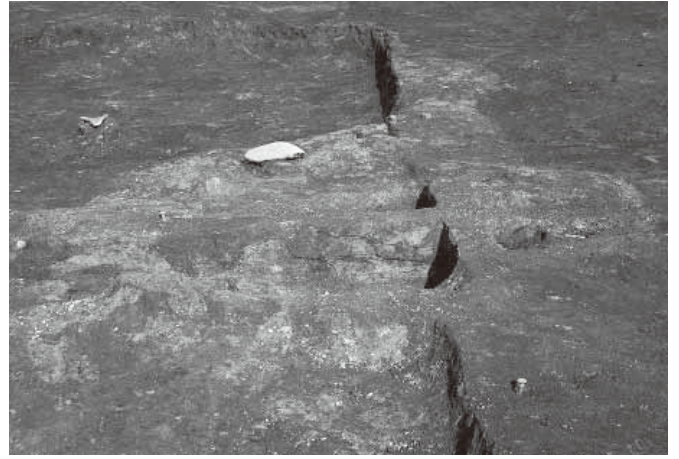
7. Ⅲ区3号住居土層断面(東から)



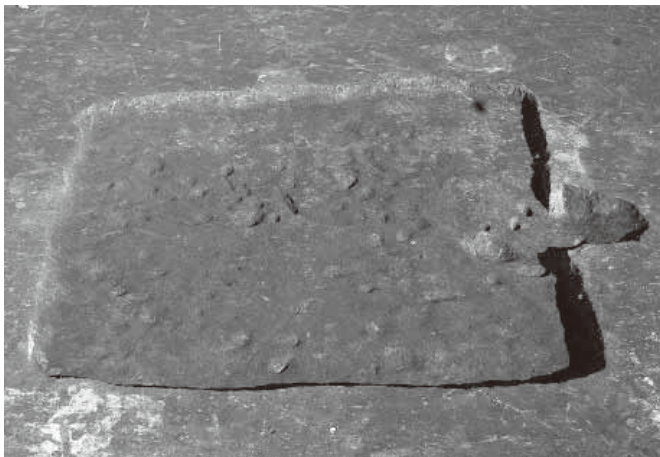
8. Ⅲ区3号住居カマド全景(西から)



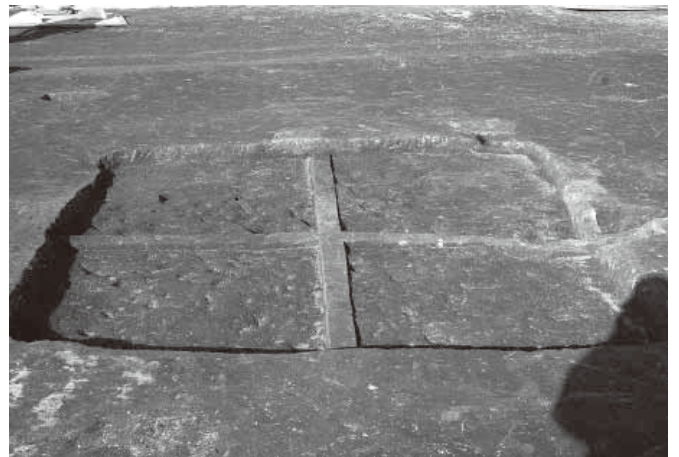
1. Ⅲ区3号住居カマド土層断面(西から)



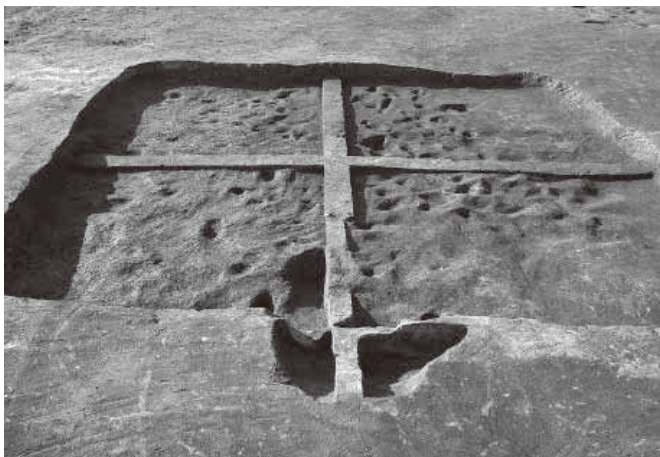
2. Ⅲ区3号住居カマド土層断面(南から)



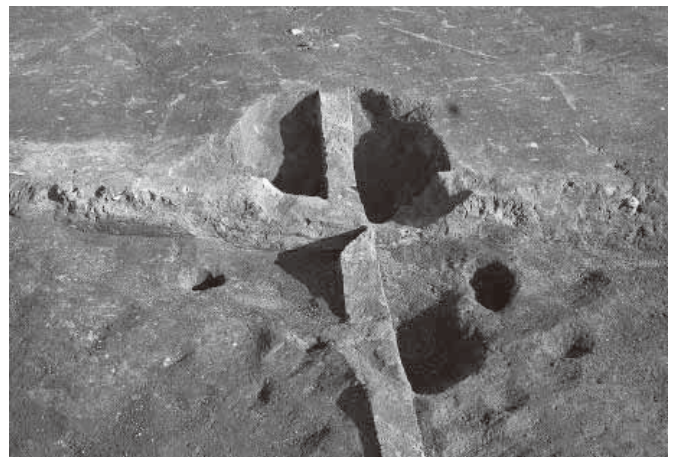
3. Ⅲ区3号住居掘り方全景(南から)



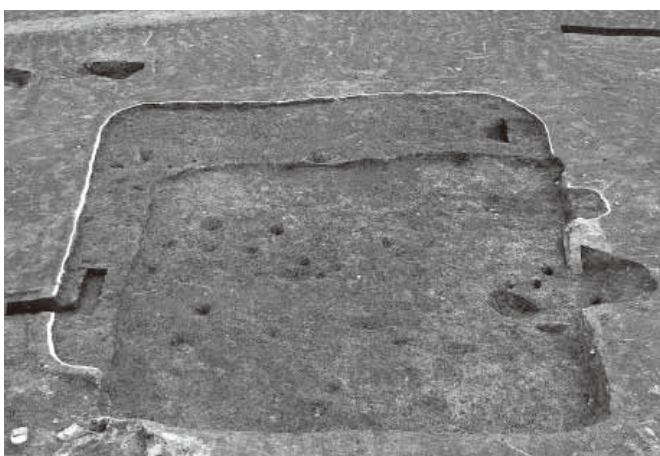
4. Ⅲ区3号住居掘り方土層断面(南から)



5. Ⅲ区3号住居掘り方土層断面(東から)



6. Ⅲ区3号住居カマド掘り方土層断面(西から)



7. Ⅲ区4号住居全景(南から)



8. Ⅲ区4号住居土層断面(南から)



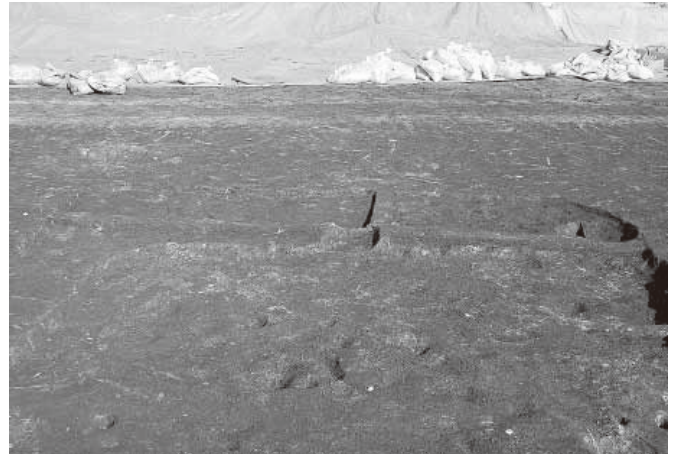
1. Ⅲ区4号住居カマド掘り方土層断面(西から)



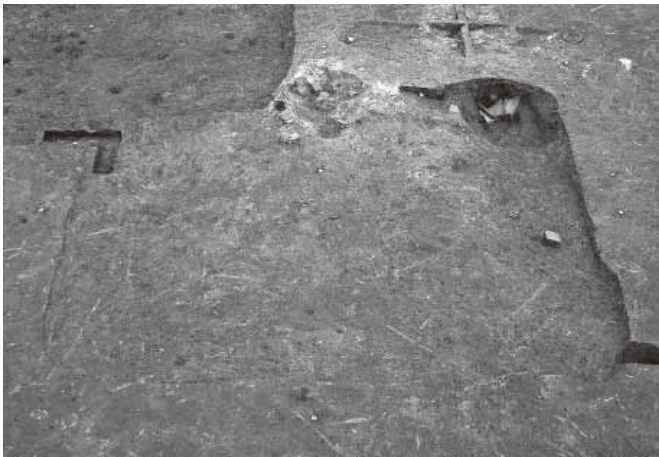
2. Ⅲ区4号住居カマド掘り方土層断面(南から)



3. Ⅲ区4号住居掘り方全景(南から)



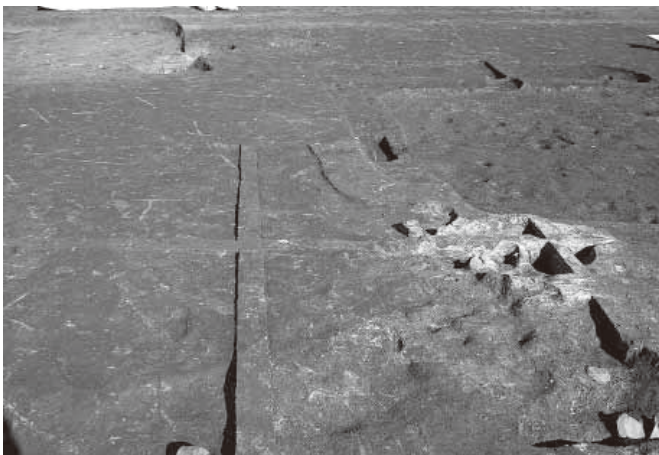
4. Ⅲ区4号住居掘り方土層断面(南から)



5. Ⅲ区5号住居全景(西から)



6. Ⅲ区5号住居土層断面(東から)



7. Ⅲ区5号住居土層断面(南から)



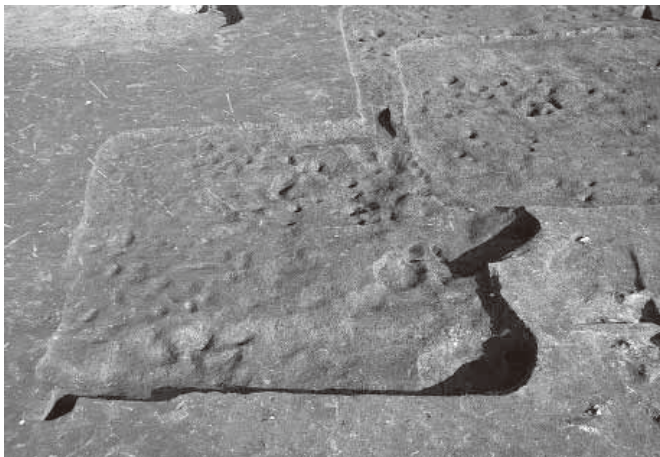
8. Ⅲ区5号住居貯蔵穴土層断面(南から)



1. Ⅲ区5号住居カマド土層断面(南から)



2. Ⅲ区5号住居カマド土層断面(西から)



3. Ⅲ区5号住居掘り方全景(南から)



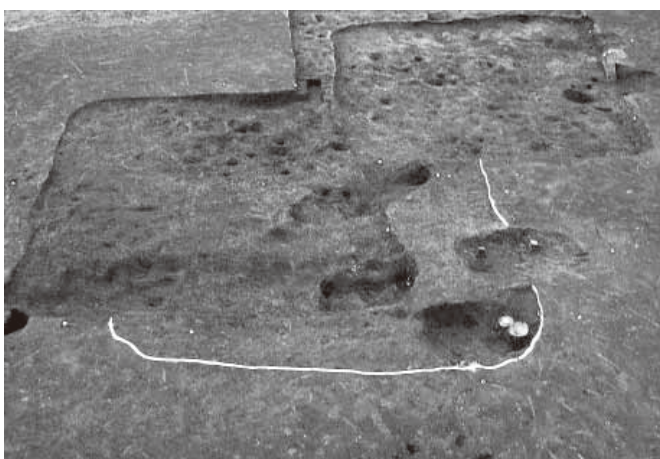
4. Ⅲ区5号住居掘り方土層断面(南から)



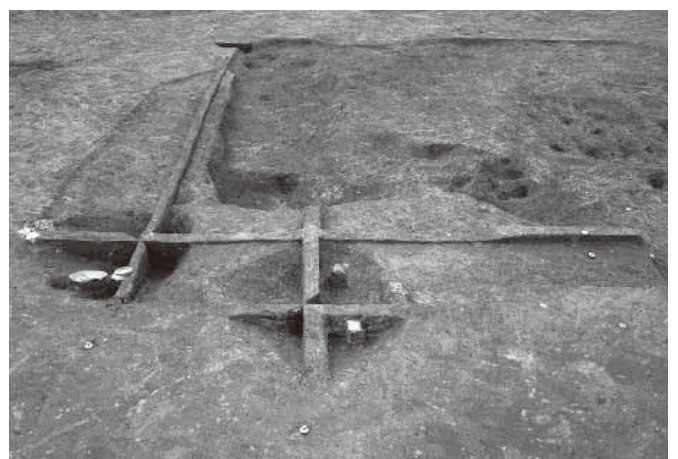
5. Ⅲ区5号住居カマド掘り方土層断面(南から)



6. Ⅲ区5号住居カマド掘り方土層断面(西から)



7. Ⅲ区6号住居全景(南から)



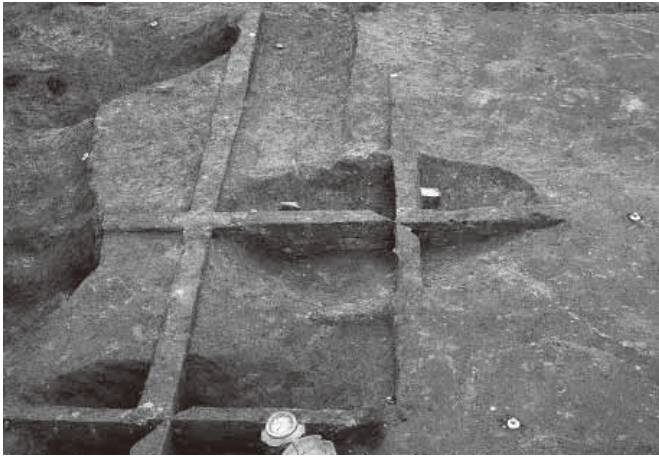
8. Ⅲ区6号住居土層断面(東から)



1. Ⅲ区6号住居貯蔵穴土層断面(東から)



2. Ⅲ区6号住居貯蔵穴土層断面(南から)



3. Ⅲ区6号住居カマド土層断面(南から)



4. Ⅲ区6号住居カマド土層断面(西から)



5. Ⅲ区6号住居掘り方全景(南から)



6. Ⅲ区6号住居カマド掘り方土層断面(西から)



7. Ⅲ区6号住居カマド掘り方土層断面(南から)



8. Ⅲ区6号住居掘り方全景(西から)



1. Ⅲ区7号住居全景(西から)



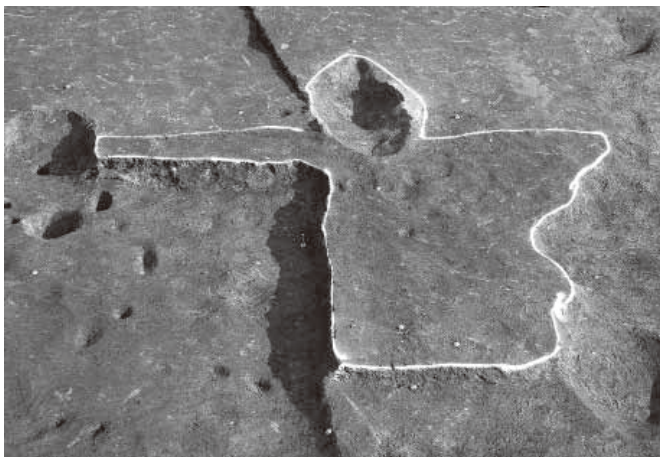
2. Ⅲ区7号住居掘り方全景(西から)



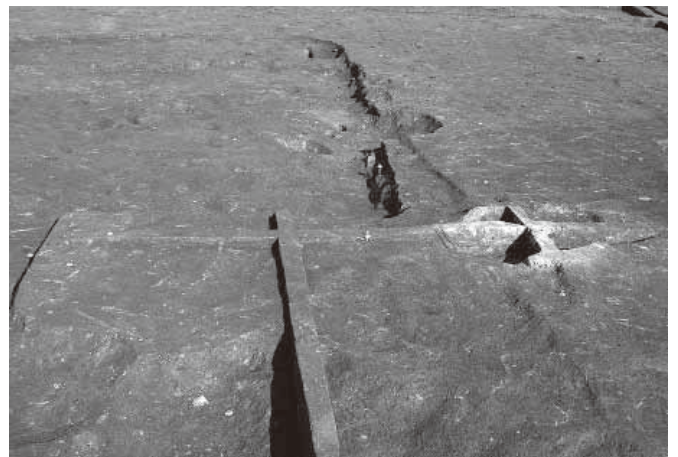
3. Ⅲ区7号住居掘り方土層断面(東から)



4. Ⅲ区7号住居掘り方土層断面(南から)



5. Ⅲ区8号住居全景(西から)



6. Ⅲ区8号住居土層断面(南から)



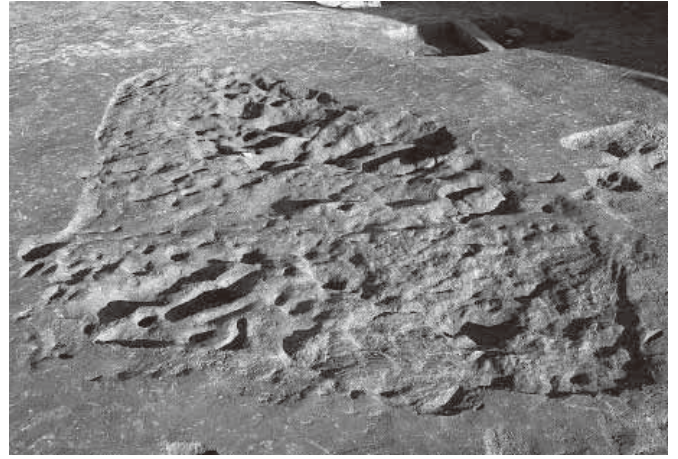
7. Ⅲ区8号住居カマド土層断面(西から)



8. Ⅲ区8号住居カマド掘り方土層断面(西から)



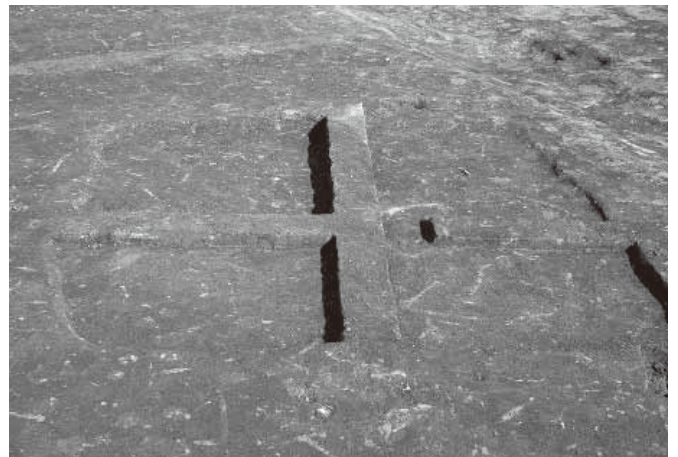
1. Ⅲ区8号住居掘り方全景(西から)



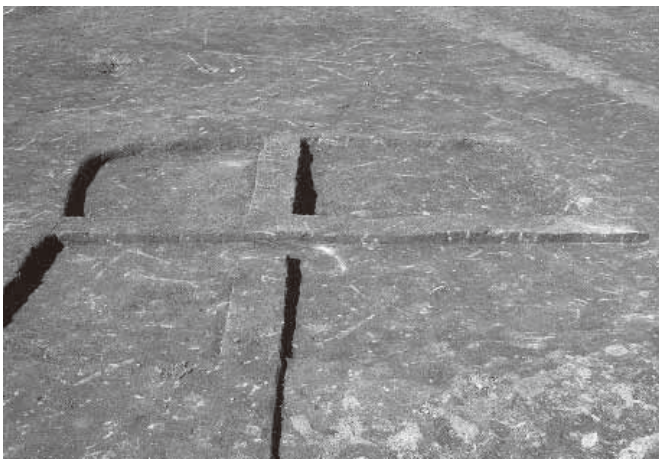
2. Ⅲ区1号竪穴遺構全景(西から)



3. Ⅲ区1号竪穴遺構土層断面(東から)



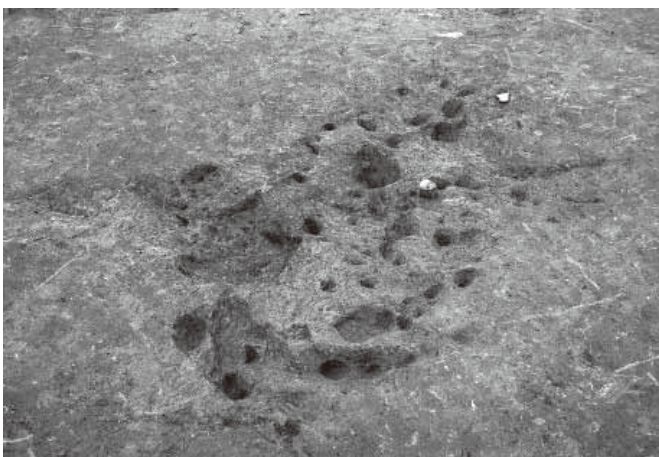
4. Ⅲ区2号竪穴遺構土層断面(南から)



5. Ⅲ区2号竪穴遺構土層断面(東から)



6. Ⅲ区3号竪穴遺構土層断面(南から)



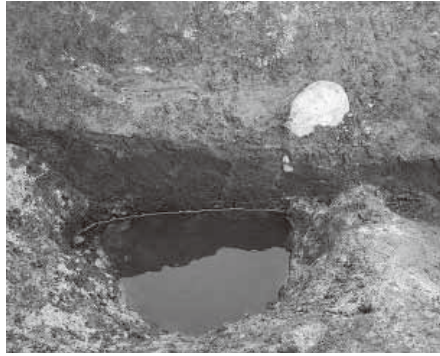
7. Ⅲ区4号竪穴遺構全景(南から)



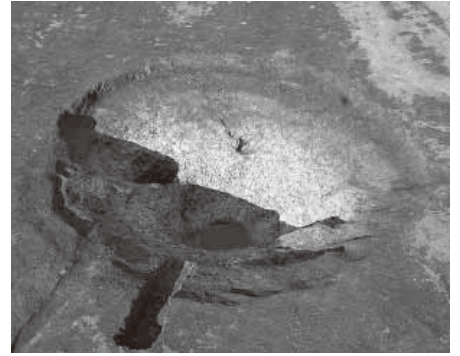
8. Ⅲ区4号竪穴遺構土層断面(南から)



1. Ⅲ区1号井戸土層断面(南から)



2. Ⅲ区1号・3号井戸土層断面(南から)



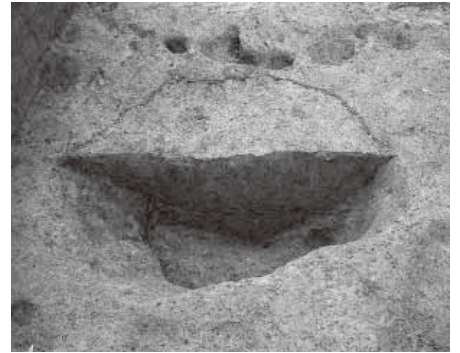
3. Ⅲ区1号・3号井戸全景(南から)



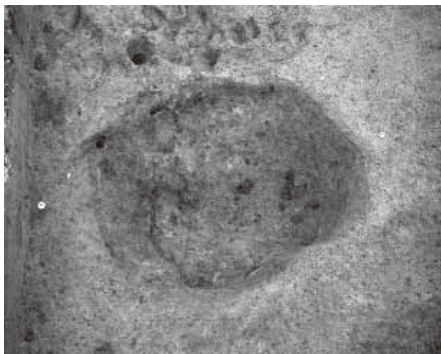
4. Ⅲ区2号井戸土層断面(南から)



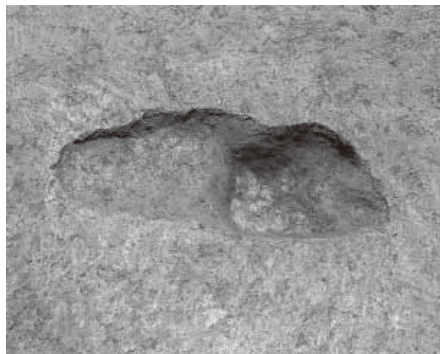
5. Ⅲ区2号井戸全景(南から)



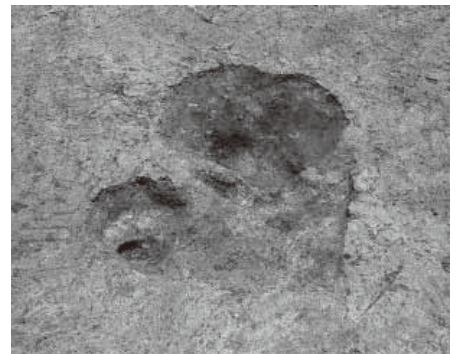
6. Ⅲ区15号土坑土層断面(東から)



7. Ⅲ区15号土坑全景(東から)



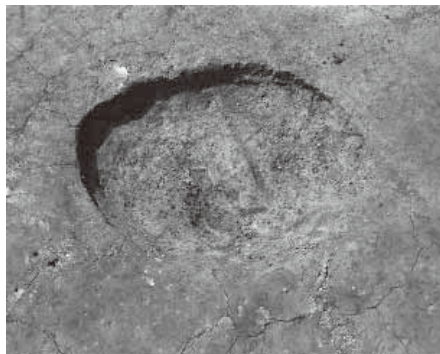
8. Ⅲ区16号土坑全景(北から)



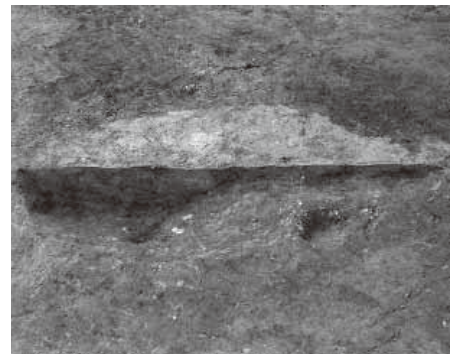
9. Ⅲ区17号土坑全景(北から)



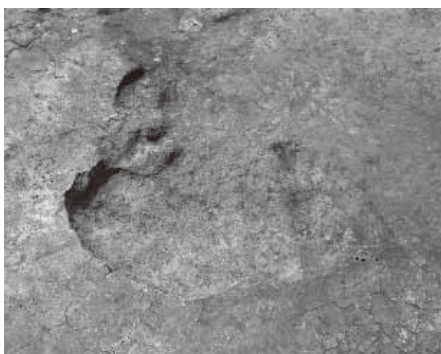
10. Ⅲ区18号土坑土層断面(東から)



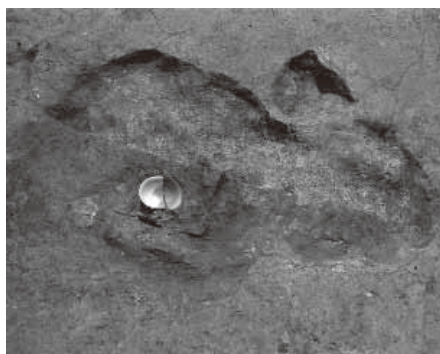
11. Ⅲ区18号土坑全景(南から)



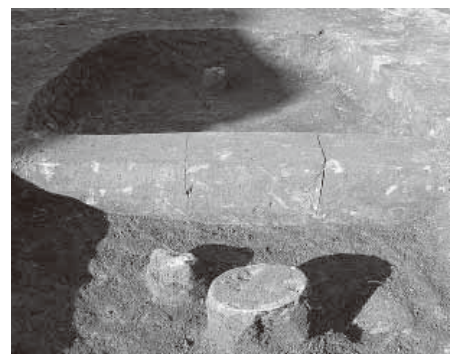
12. Ⅲ区19号土坑土層断面(南から)



13. Ⅲ区19号土坑全景(南から)



14. Ⅲ区20号・21号土坑全景(西から)



15. Ⅲ区111号土坑土層断面(南から)



1. Ⅲ区111号土坑全景(南から)



2. Ⅲ区115号土坑土層断面(東から)



3. Ⅲ区115号土坑土層断面(南から)



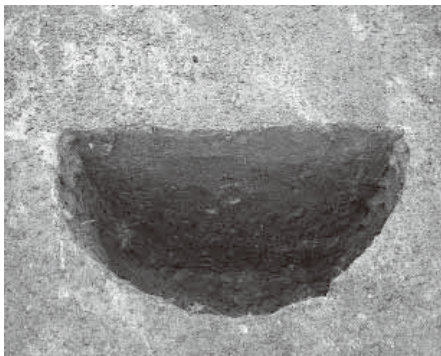
4. Ⅲ区115号土坑土層断面(東から)



5. Ⅲ区115号土坑全景(南から)



6. Ⅲ区89号ピット土層断面(南から)



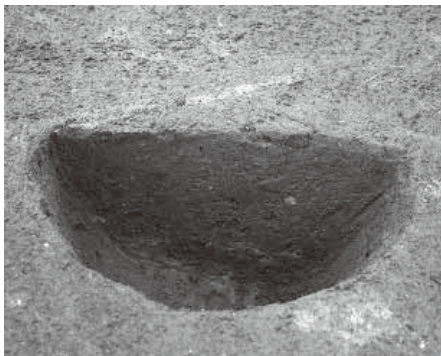
7. Ⅲ区90号ピット土層断面(南から)



8. Ⅲ区91号ピット土層断面(南から)



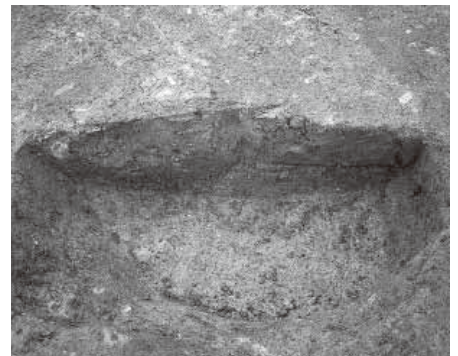
9. Ⅲ区92号ピット土層断面(南から)



10. Ⅲ区93号ピット土層断面(南から)



11. Ⅲ区94号ピット土層断面(南から)



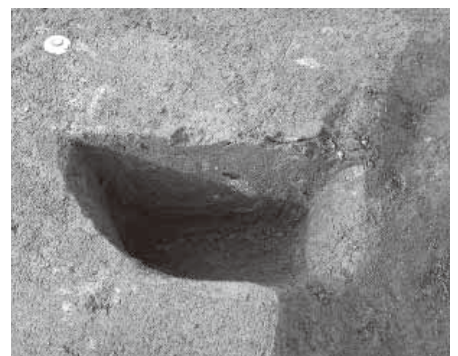
12. Ⅲ区95号ピット土層断面(南から)



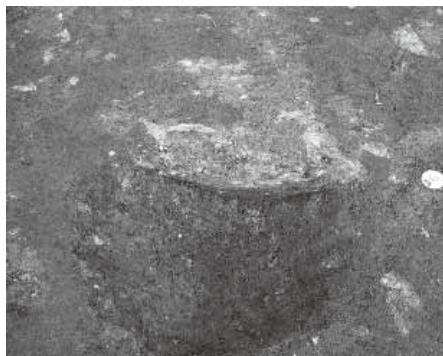
13. Ⅲ区97号ピット土層断面(南から)



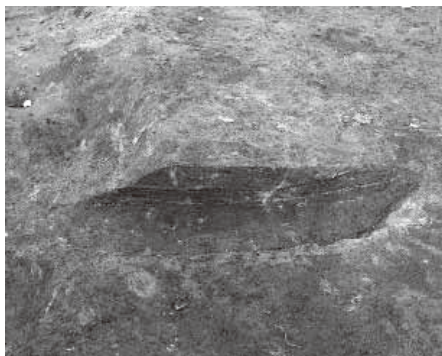
14. Ⅲ区99号ピット土層断面(南から)



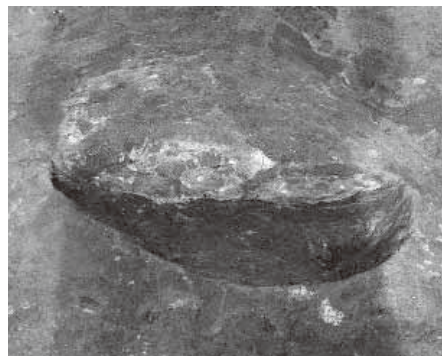
15. Ⅲ区101号ピット土層断面(東から)



1. Ⅲ区102号ピット土層断面(東から)



2. Ⅲ区103号ピット土層断面(東から)



3. Ⅲ区104号ピット土層断面(東から)



4. Ⅲ区25号溝土層断面(西から)



5. Ⅲ区26号溝土層断面(西から)



6. Ⅲ区25号～27号溝全景(西から)



7. Ⅲ区27号溝土層断面(西から)



8. Ⅲ区古代遺構群調査風景(東から)



9. Ⅲ区28号・29号溝土層断面(北から)

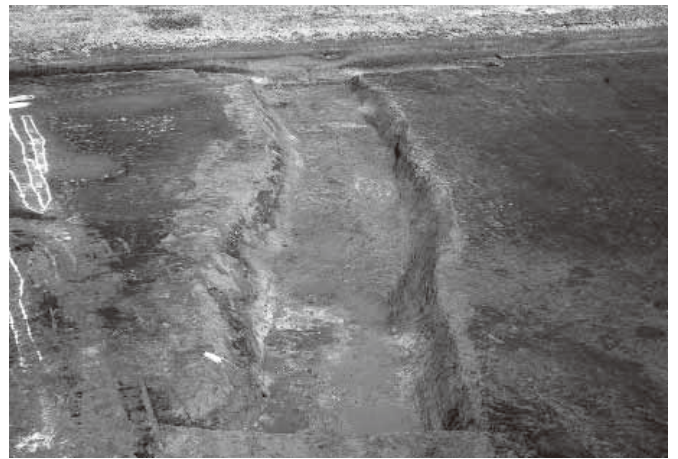
Ⅲ区古代洪水層関連の遺構 全景・溝



1. Ⅲ区古代洪水層関連遺構面全景(南・北区/東から)



2. Ⅲ区28号・29号溝全景(北区/南から)



3. Ⅲ区28号溝全景(中央区/南から)



4. Ⅲ区古代洪水層関連遺構面全景(北・南区/上空から)



5. Ⅲ区28号溝全景(南区/南から)



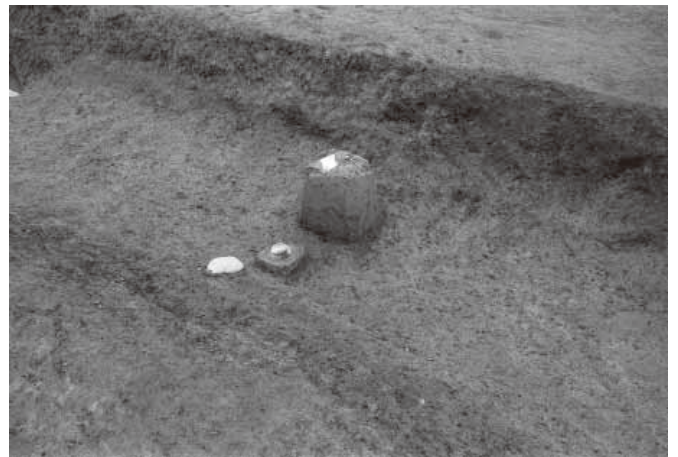
1. Ⅲ区28号溝遺物出土状態(南区/南から)



2. Ⅲ区28号溝遺物出土状態(南区/北から)



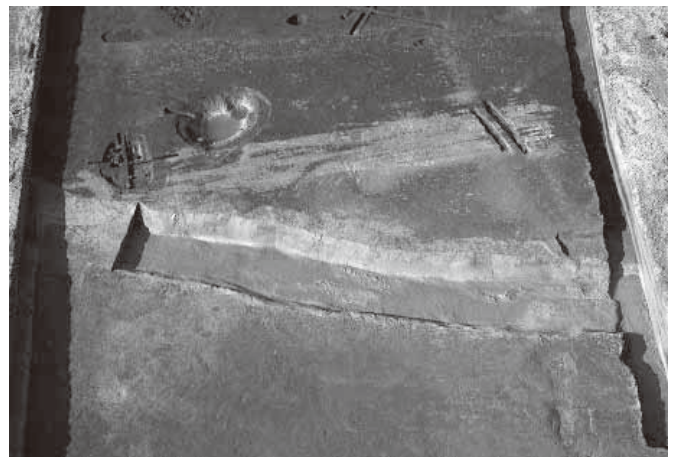
3. Ⅲ区28号溝遺物出土状態(北区/南から)



4. Ⅲ区28号溝遺物出土状態(南区/南から)



5. Ⅲ区28号溝土層断面(中央区/南から)



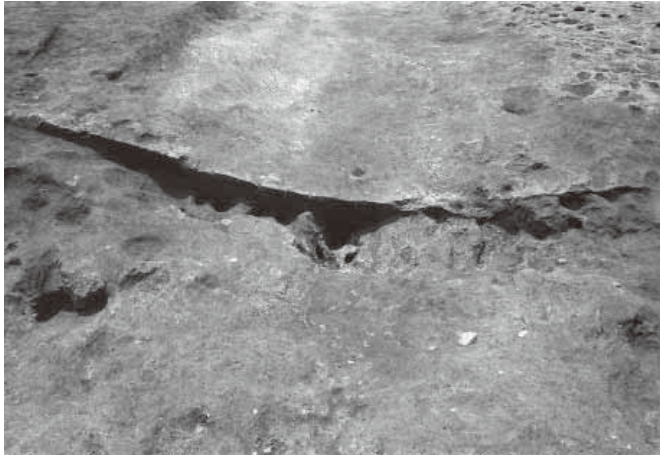
6. Ⅲ区28号溝全景(中央区/東から)



7. Ⅲ区28号溝土層断面(北区東半/北西から)



8. Ⅲ区28号溝土層断面(北区西半/北西から)



1. Ⅲ区29号溝遺物出土状態(東から)



2. Ⅲ区29号溝全景(東から)



3. Ⅲ区29号溝全景(西から)



4. Ⅲ区29号溝西部遺物出土状態(東から)



5. Ⅲ区29号溝土錘出土状態(東から)



6. Ⅲ区29号溝東部遺物出土状態(東から)



7. Ⅲ区13号・35号溝土層断面(北から)



8. Ⅲ区35号溝全景(南から)



1. Ⅲ区2号耕作痕検出状況(北区/西から)



2. Ⅲ区古代①ⅣB層上面耕作痕・牛蹄跡全景(北区/南から)



3. Ⅲ区古代①ⅣB層上面牛蹄跡検出状況(北区/西から)



4. Ⅲ区古代①ⅣB層上面牛蹄跡分布状況(北区/南から)



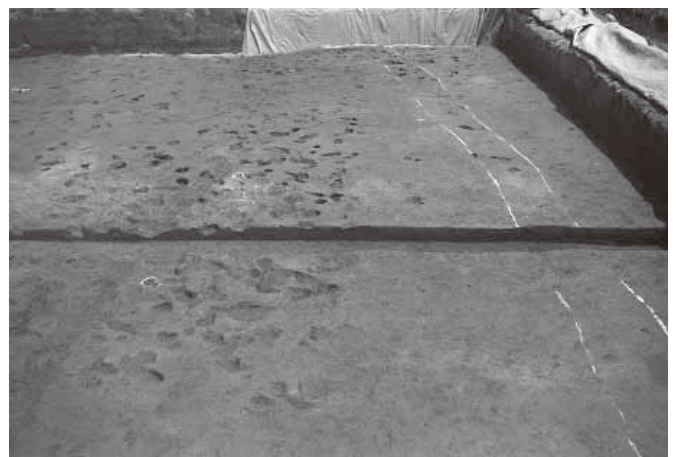
5. Ⅲ区古代②Ⅵ層上面水田痕跡全景(南区/西から)



6. Ⅲ区古代②Ⅵ層上面水田痕跡土層断面(北区/南東から)



7. Ⅲ区古代②Ⅵ層上面水田痕跡西部土層断面(北区/南から)



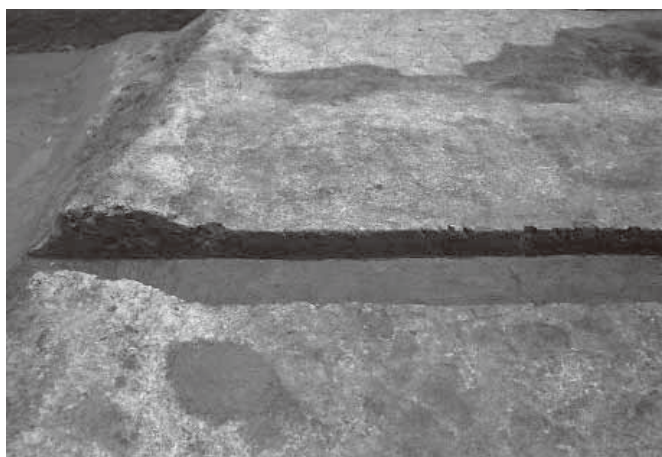
8. Ⅲ区古代②Ⅵ層上面水田痕跡東部土層断面(北区/南から)



1. Ⅲ区古代②Ⅵ層上面水田痕跡土層断面(南区/南東から)



2. Ⅲ区古代②Ⅵ層上面水田痕跡東部土層断面(南区/南から)



3. Ⅲ区古代②Ⅵ層上面水田痕跡西部土層断面(南区/南から)



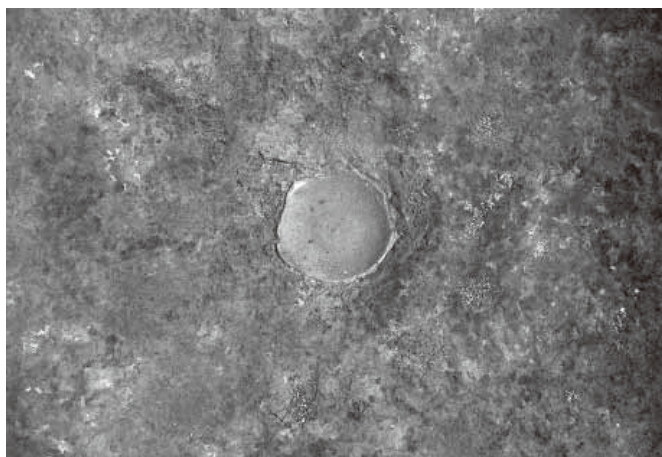
4. Ⅲ区3号耕作痕全景(北区/南から)



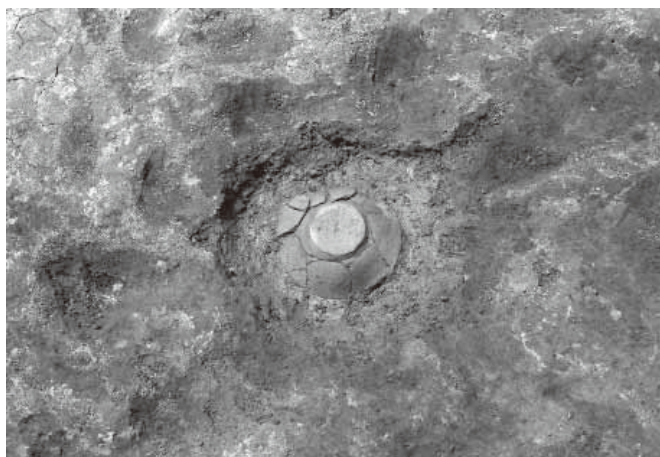
5. Ⅲ区古代①ⅣB層管玉出土状態(北区/北から)



6. Ⅲ区古代②Ⅵ層石鏃出土状態(北区/東から)



7. Ⅲ区古代①ⅣB層土師器出土状態



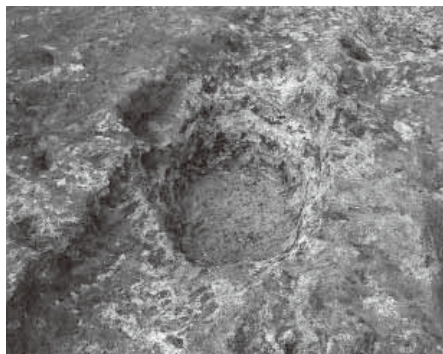
8. Ⅲ区古代①ⅣB層須恵器出土状態



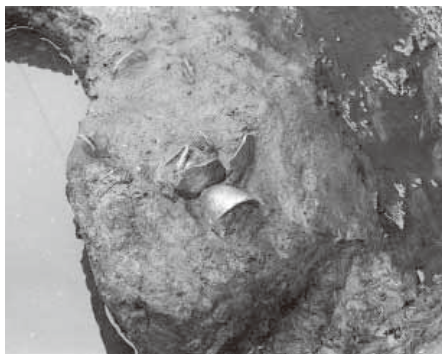
1. I区古代～古墳時代遺構面全景(北区西半/上空から)



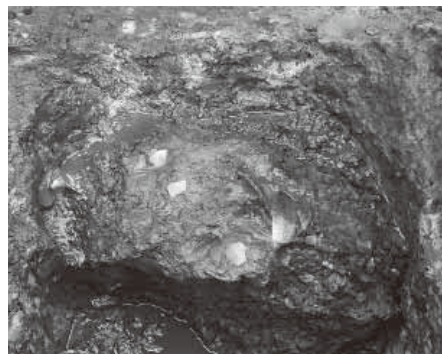
2. I区古代～古墳時代遺構面全景(中央区/東から)



1. I区3号土坑全景(南から)



2. I区4号土坑S字甕出土状態(北から)



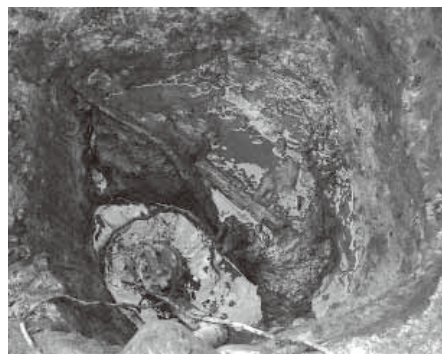
3. I区4号土坑上層遺物出土状態(東から)



4. I区4号土坑中層遺物出土状態(東から)



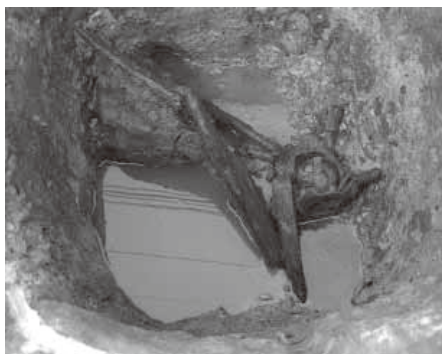
5. I区4号土坑下層遺物出土状態(東から)



6. I区4号土坑最下層遺物出土状態(東から)



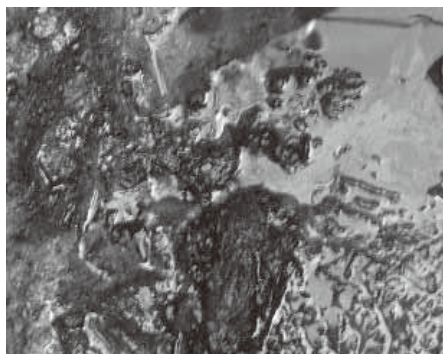
7. I区4号土坑弥生甕出土状態



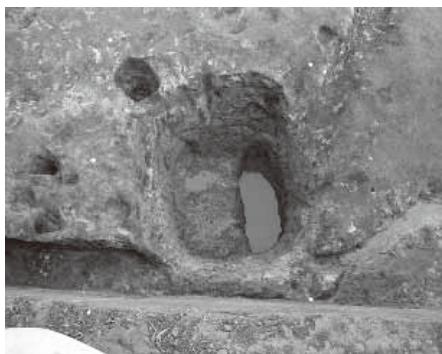
8. I区4号土坑杭出土状態(東から)



9. I区4号土坑小型壺出土状態



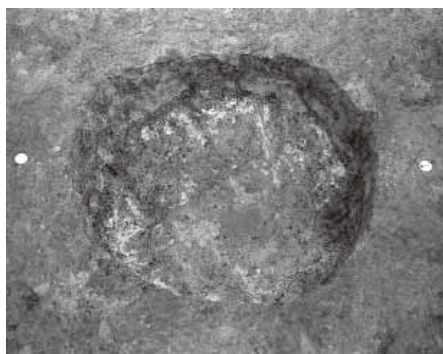
10. I区4号土坑底面検出状況



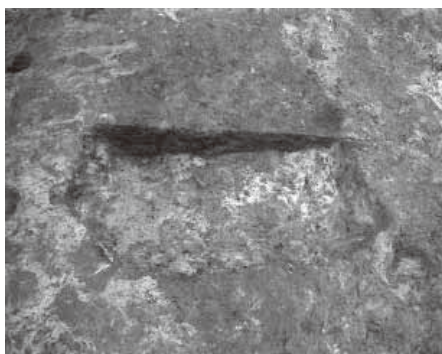
11. I区4号土坑・1号・3号・4号ピット全景(西から)



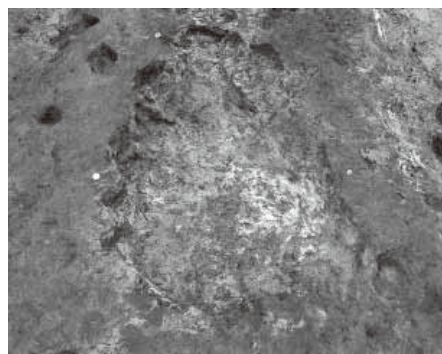
12. I区9号土坑土層断面(南から)



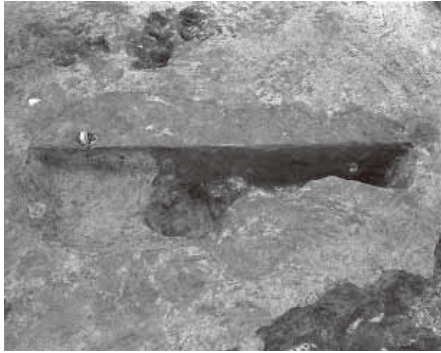
13. I区9号土坑全景(南から)



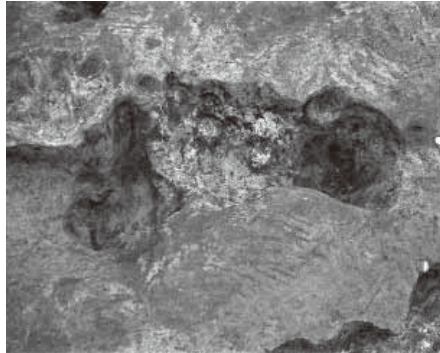
14. I区10号土坑土層断面(南から)



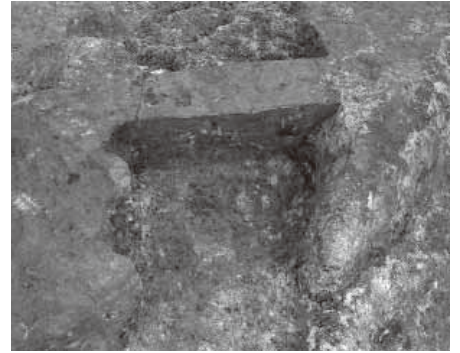
15. I区10号土坑全景(南から)



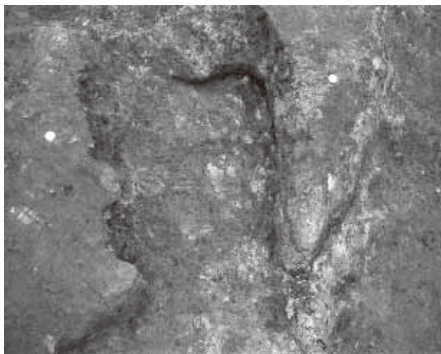
1. I区11号～13号土坑土層断面(南から)



2. I区11号～13号土坑全景(南から)



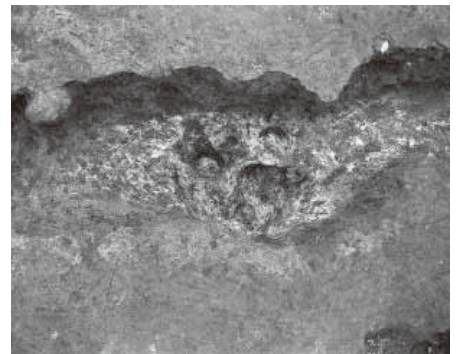
3. I区14号土坑土層断面(南から)



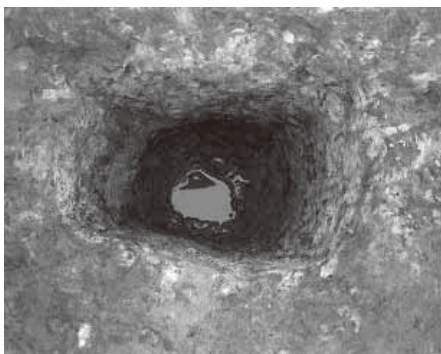
4. I区14号土坑全景(南から)



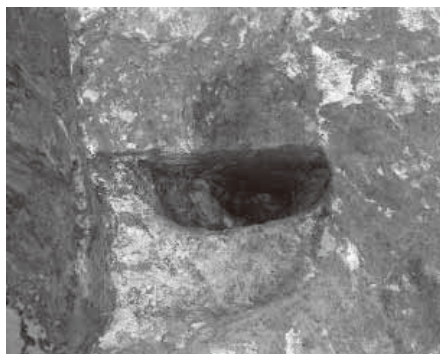
5. I区15号土坑遺物出土状態(南から)



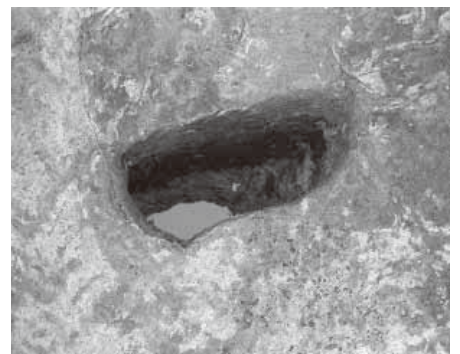
6. I区15号土坑全景(南から)



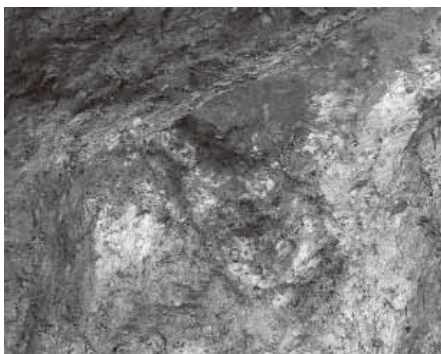
7. I区16号土坑全景(東から)



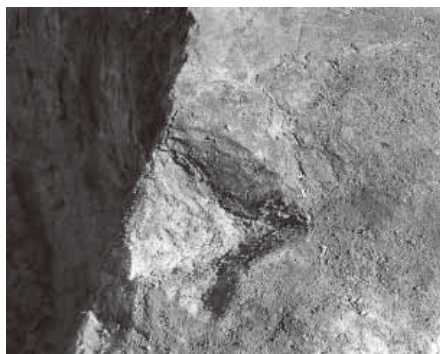
8. I区1号ピット土層断面(南東から)



9. I区2号ピット土層断面(南東から)



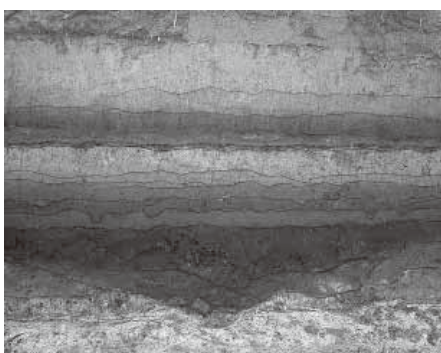
10. I区3号ピット土層断面(南東から)



11. I区4号ピット土層断面(南から)



12. I区谷調査風景(北西から)



13. I区谷土層断面(北から)

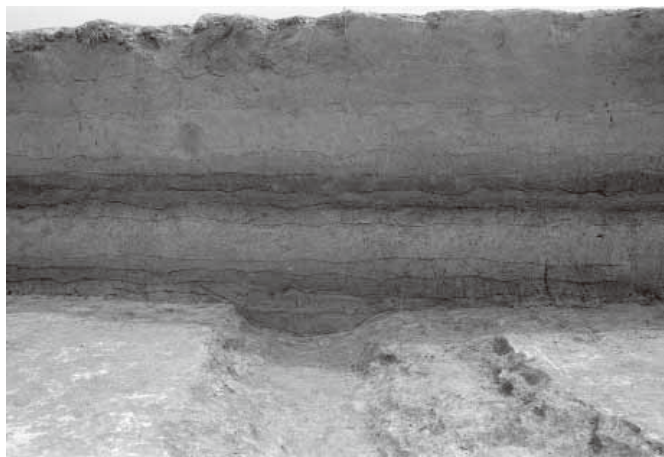


14. I区谷全景(北東から)



15. I区谷全景(南東から)

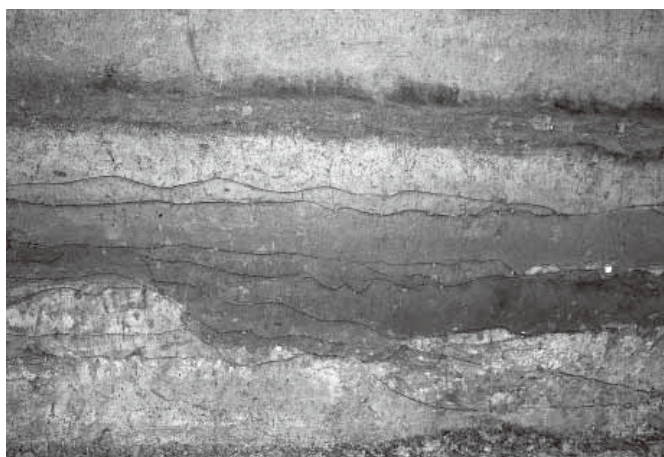
I区古代～古墳時代の遺構 溝



1. I区22号溝土層断面(北区/北から)



2. I区22号溝全景(北区/北から)



3. I区22号溝土層断面(中央区/北から)



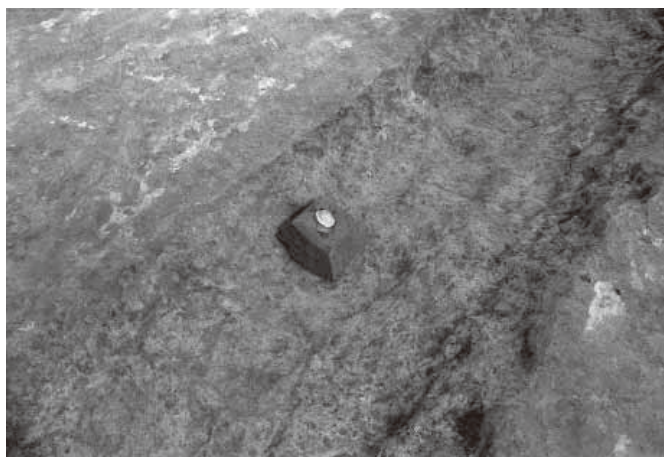
4. I区22号溝全景(中央区/南から)



5. I区22号溝土層断面(南区/南から)



6. I区23号溝全景(南区/南から)



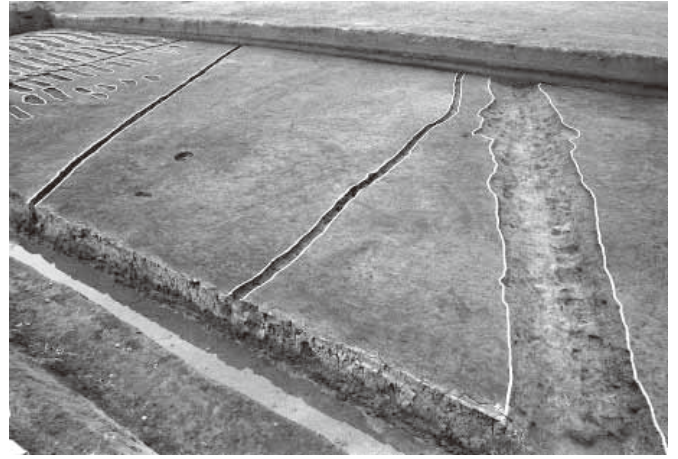
7. I区22号溝遺物出土状態(北から)



8. I区22号溝遺物出土状態(南から)



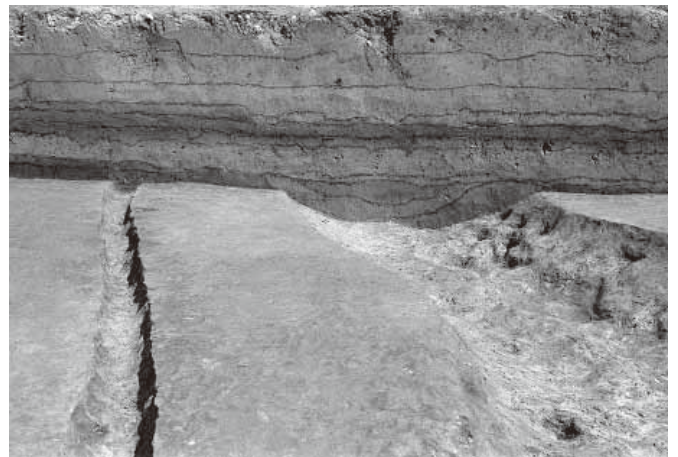
1. I区24号～26号溝全景(南区/上空から)



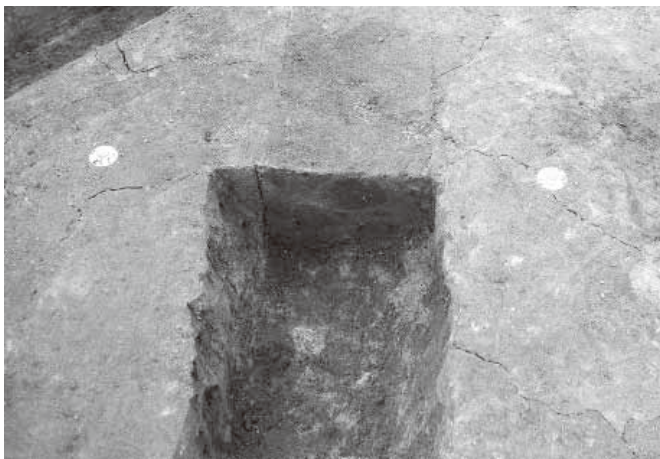
2. I区24号～26号溝全景(南区/南から)



3. I区24号溝土層断面(南区/南から)



4. I区25号溝土層断面(南区/南から)



5. I区24号溝土層断面(中央区/南東から)



6. I区24号溝全景(中央区/南から)



7. I区25号溝土層断面(中央区/北から)



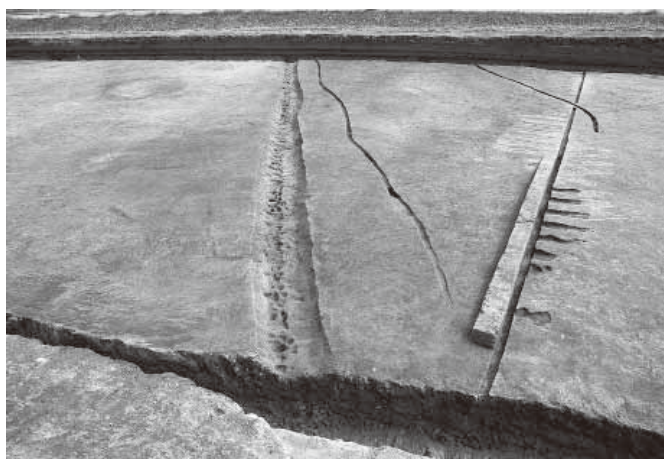
8. I区25号溝土層断面(中央区/南東から)



1. I区26号溝土層断面(中央区/北から)



2. I区26号溝土層断面(中央区/南から)



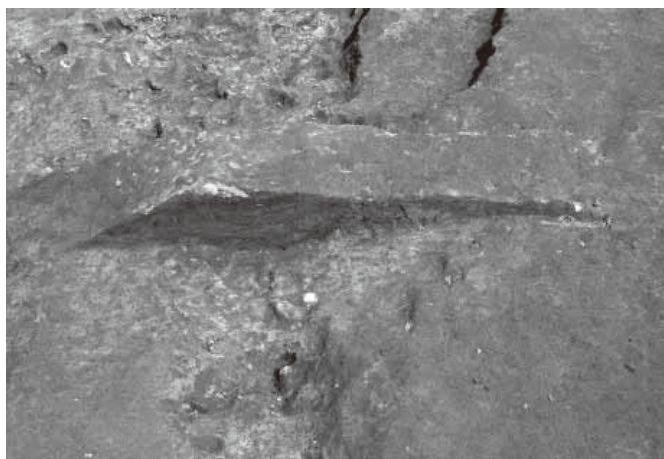
3. I区24号～26号溝全景(中央区/北西から)



4. I区30号・31号溝全景(南から)



5. I区34号～38号・40号・41号溝全景(南から)



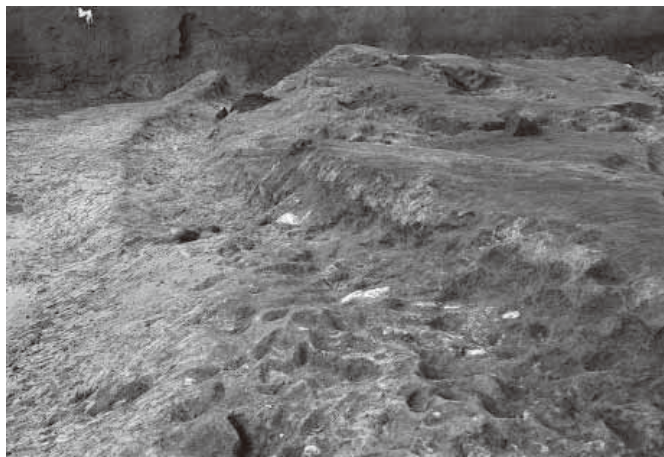
6. I区34号・38号溝土層断面(南から)



7. I区40号溝土層断面(南から)



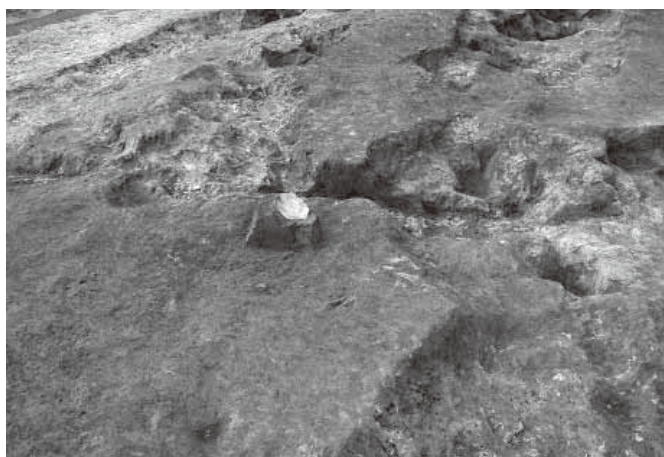
8. I区34号・40号溝遺物出土状態(南から)



1. I区34号・40号溝全景(南から)



2. I区35号溝土層断面(南から)



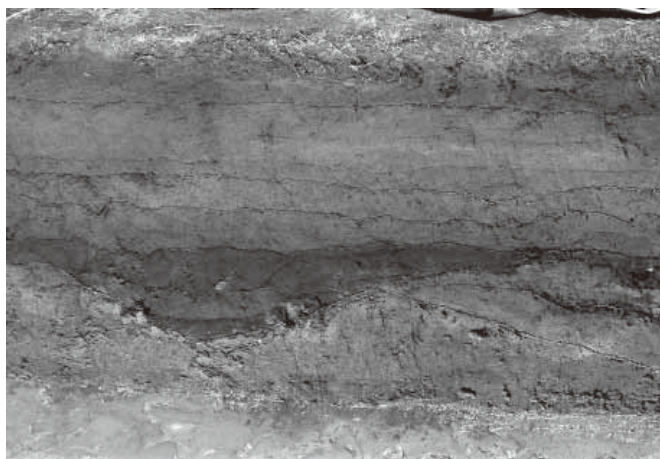
3. I区35号溝・7号土坑遺物出土状態(南から)



4. I区36号・49号・50号溝全景(南から)



5. I区36号・49号溝土層断面(南から)



6. I区37号溝土層断面(南から)

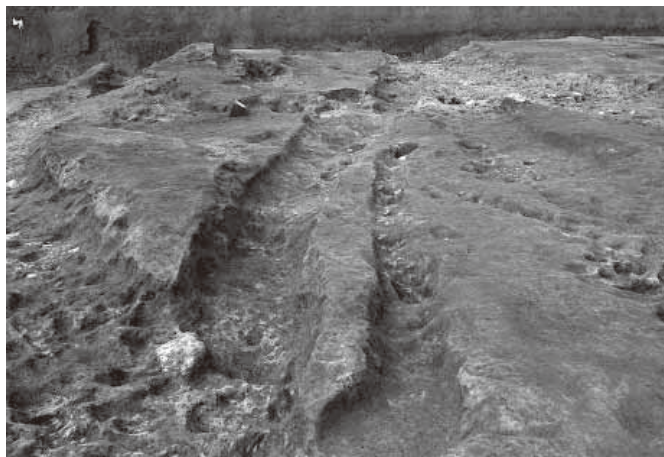


7. I区37号溝遺物出土状態(南から)

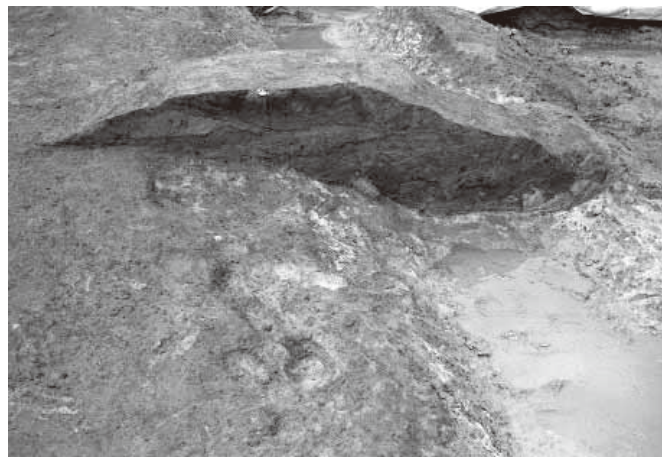


8. I区37号溝調査風景(北区/南から)

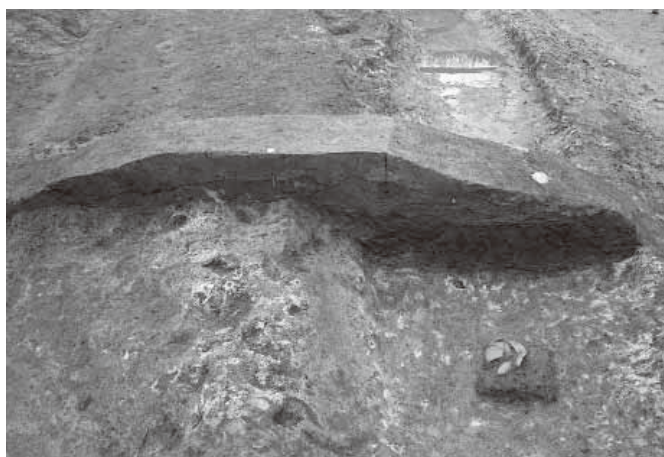
I区古代～古墳時代の遺構 溝



1. I区38号・41号溝遺物出土状態(南から)



2. I区39号溝土層断面A-A' (南から)



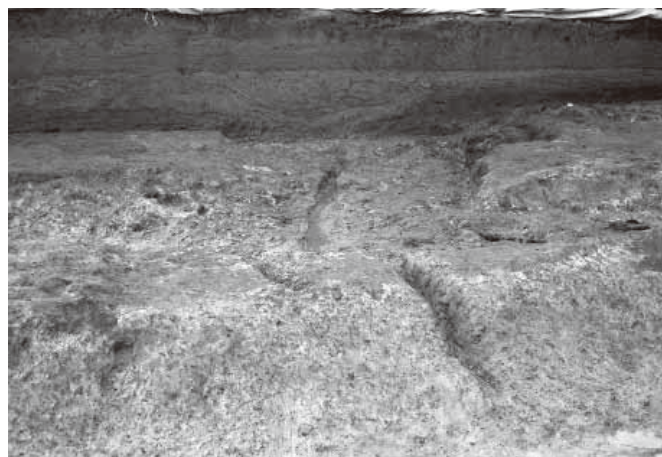
3. I区39号溝土層断面B-B' (南から)



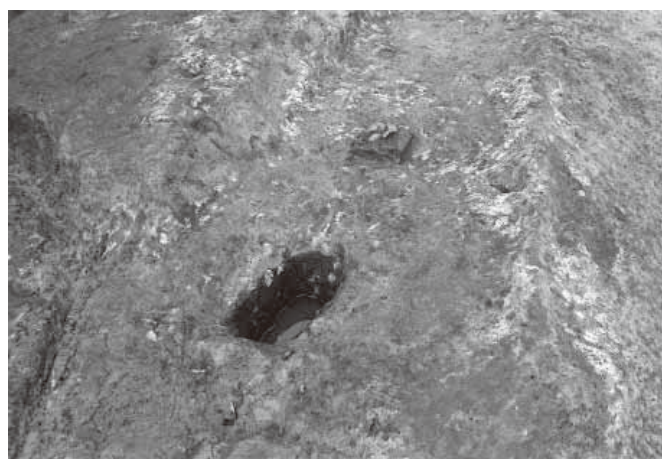
4. I区39号溝土層断面北壁B-B' (南から)



5. I区39号・42号溝全景(南から)



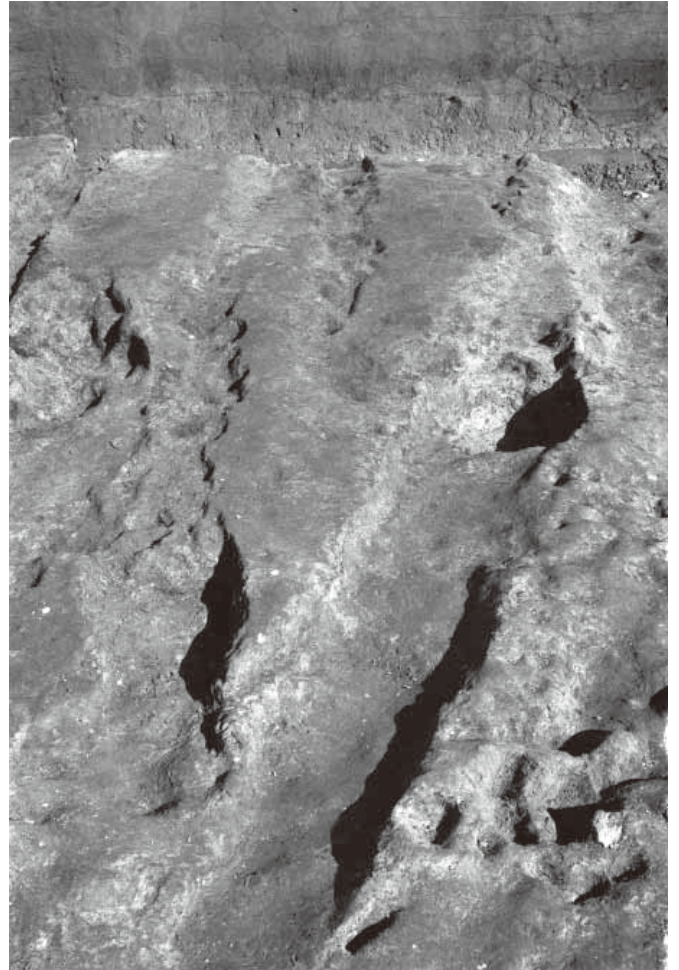
6. I区42号溝全景(東から)



7. I区39号溝遺物出土状態(南から)



1. I区39号溝遺物出土状態(北から)



2. I区43号～45号溝全景(南から)



3. I区46号溝全景(西から)



4. I区古代～古墳時代遺構面調査風景(南西から)



5. I区50号溝土層断面(南から)



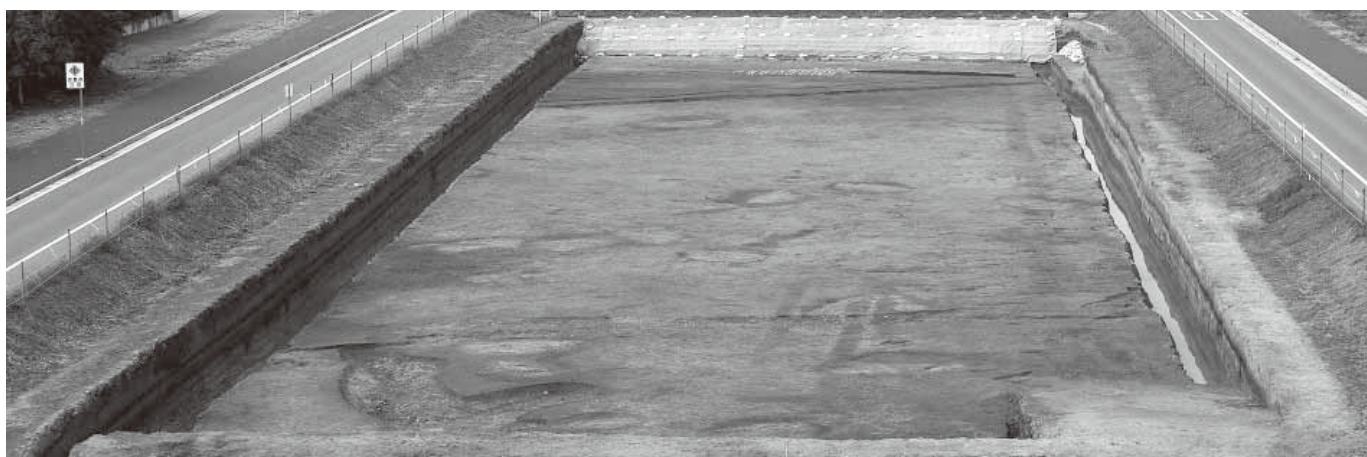
6. I区51号溝土層断面(南から)



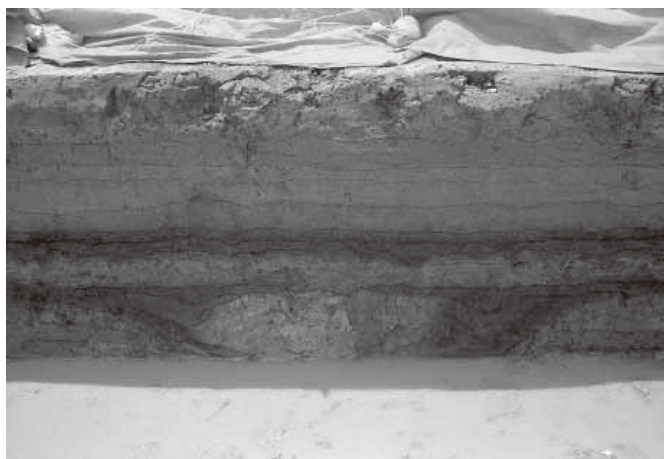
1. I区55号溝土層断面(南から)



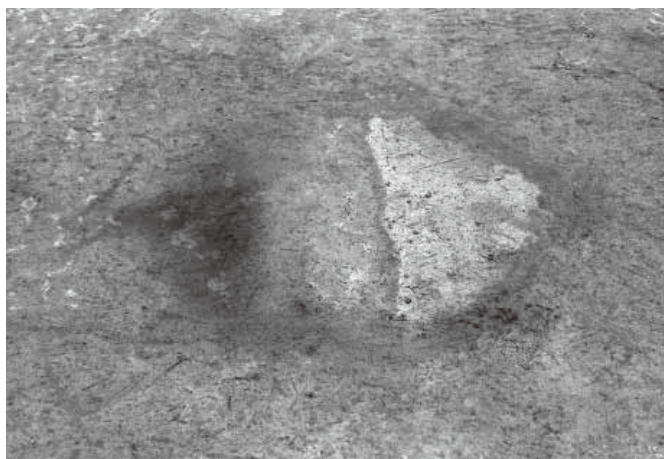
2. I区55号溝全景(南から)



3. I区古代～古墳時代遺構面倒木痕全景(中央区/東から)



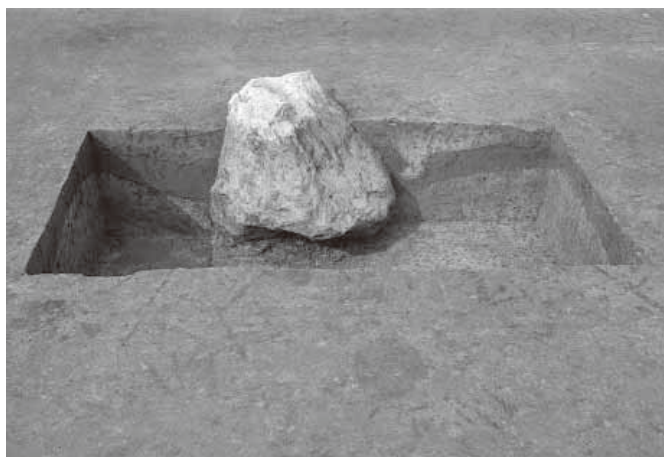
4. I区古代～古墳時代遺構面倒木痕土層断面(南区/北から)



5. I区古代～古墳時代遺構面倒木痕全景(北区/南から)



6. I区古代～古墳時代遺構面倒木痕土層断面(北区/南から)



7. I区古代～古墳時代遺構面粗粒輝石安山岩出土状態(北区/南から)



1. Ⅱ区古代～古墳時代遺構面遺構確認状況(南区/東から)



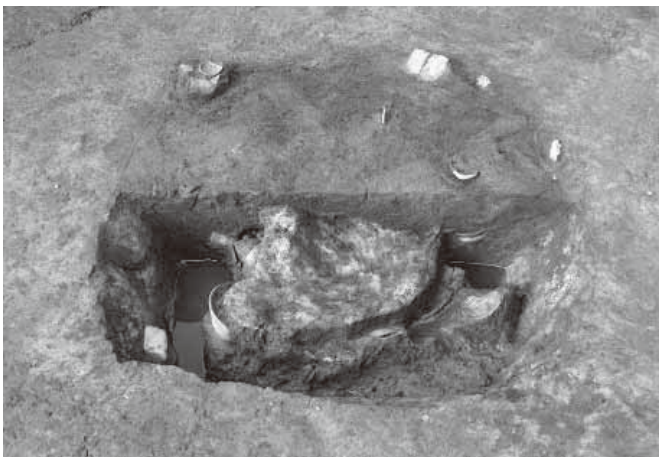
2. Ⅱ区南壁土層断面(南区/北から)



3. Ⅱ区古代～古墳時代遺構面全景(中央区東半/西から)



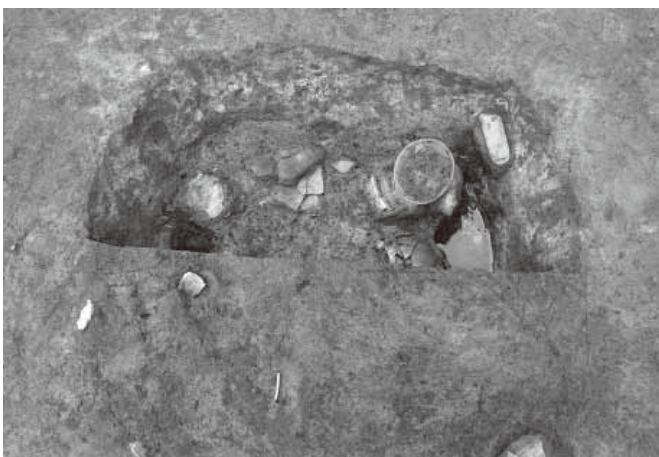
4. Ⅱ区古代～古墳時代遺構面全景(中央区西半/東から)



5. Ⅱ区8号土坑遺物・焼土検出状況(南から)



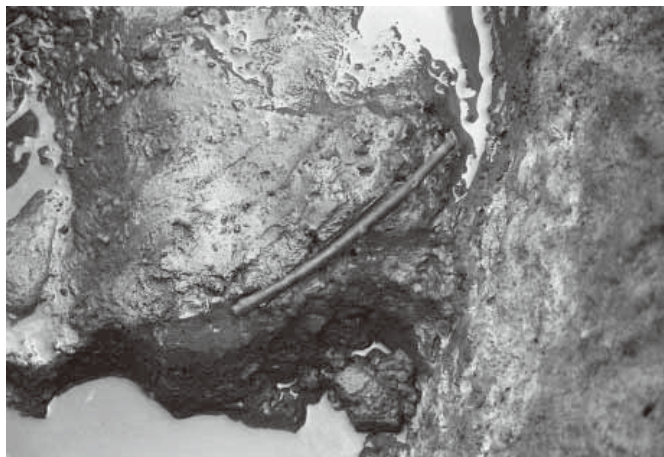
6. Ⅱ区8号土坑焼土除去後土層断面(南から)



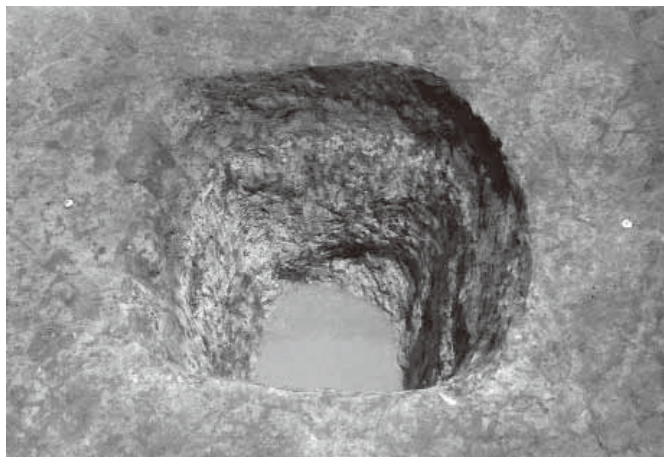
7. Ⅱ区8号土坑遺物出土状態(北から)



8. Ⅱ区8号土坑遺物出土状態(南から)



1. Ⅱ区8号土坑漆樹液の棒状塊出土状態(北東から)



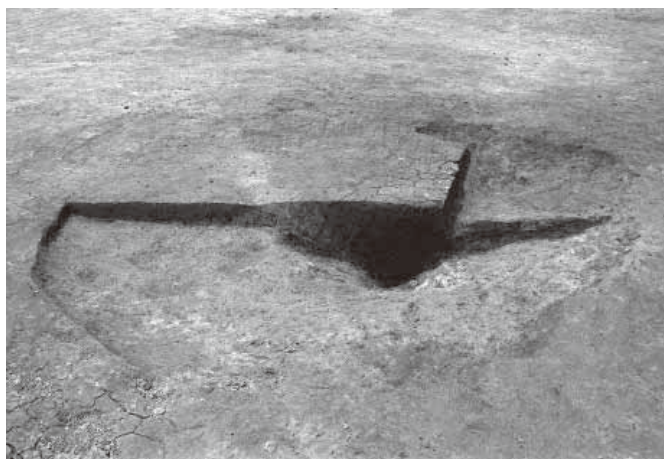
2. Ⅱ区8号土坑全景(東から)



3. Ⅱ区20号溝土層断面(南から)



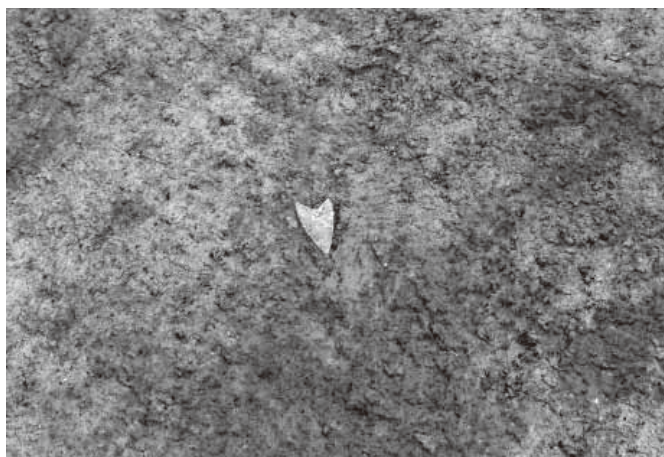
4. Ⅱ区20号溝全景(南から)



5. Ⅱ区1号倒木痕土層断面(北から)



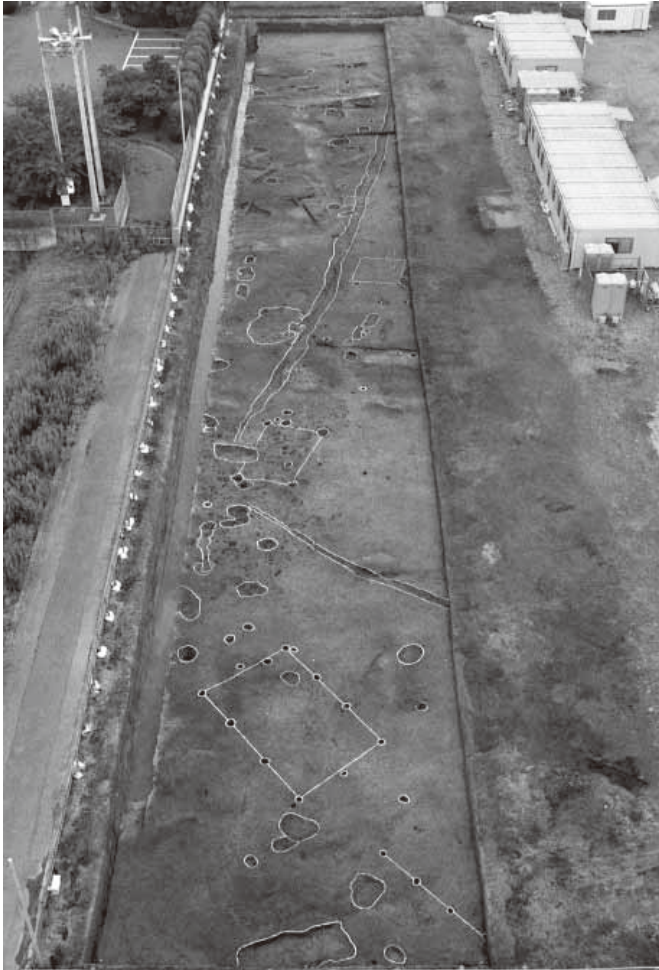
6. Ⅱ区2号倒木痕土層断面(西から)



7. Ⅱ区古代～古墳時代遺構面石鏃出土状態(北区/南から)



8. Ⅱ区古代～古墳時代遺構面北東隅遺物出土状態(北区/南から)



1. Ⅲ区古代～古墳時代遺構面全景(北区/西から)



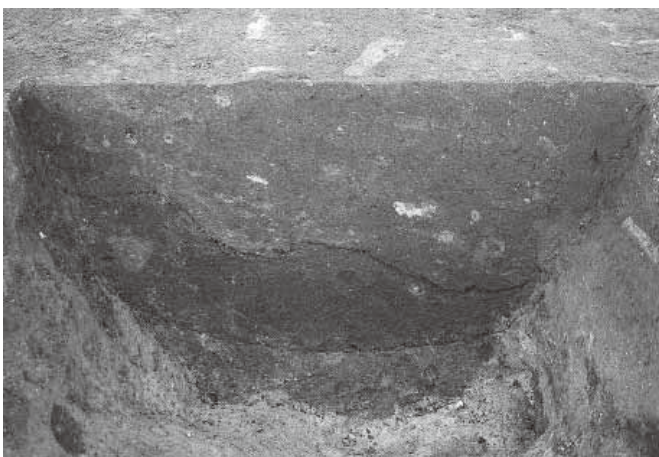
2. Ⅲ区古代～古墳時代遺構面全景(中央区/西から)



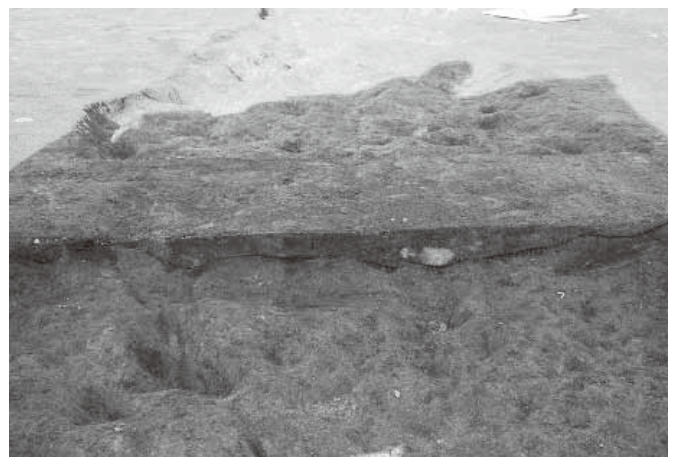
3. Ⅲ区古代～古墳時代遺構面遺構群近景(中央区/東から)



4. Ⅲ区9号住居全景(南から)



5. Ⅲ区9号住居東周溝土層断面(南から)



6. Ⅲ区9号住居西周溝土層断面(南から)



1. Ⅲ区9号住居東周溝遺物出土状態(北から)



2. Ⅲ区9号住居東周溝遺物出土状態(南から)



3. Ⅲ区9号住居P1土層断面(南から)



4. Ⅲ区9号住居P2土層断面(南から)



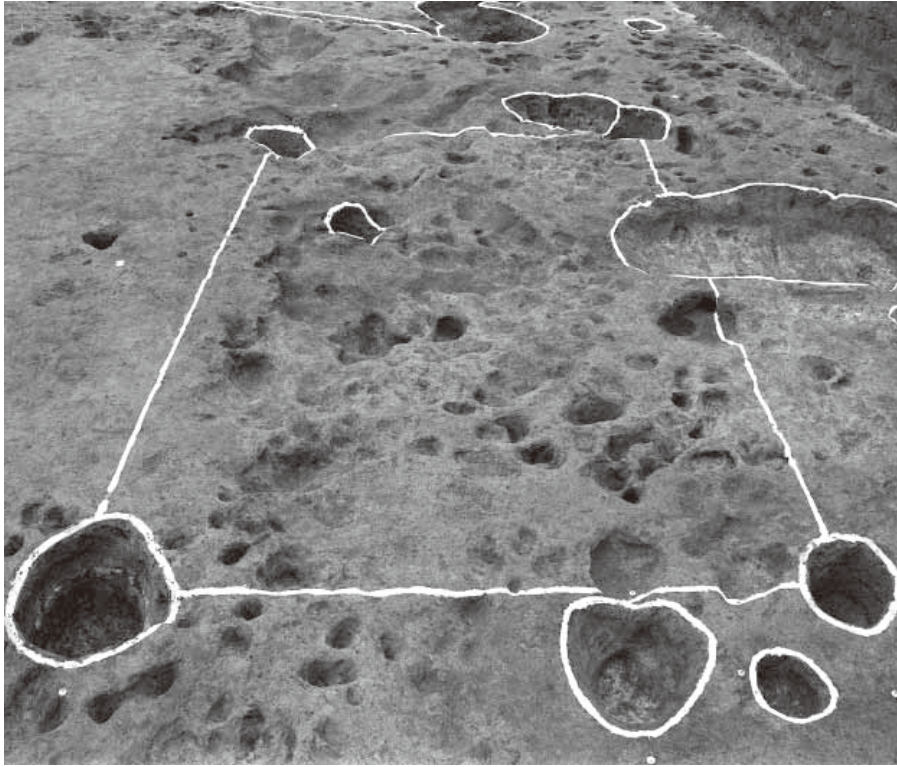
5. Ⅲ区9号住居P3土層断面(南から)



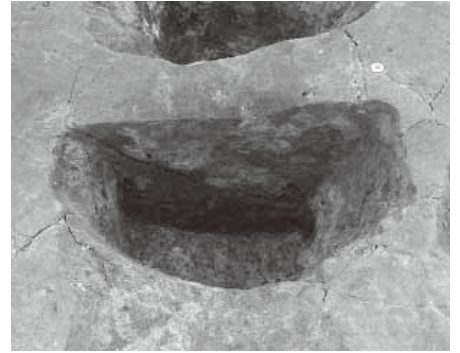
6. Ⅲ区9号住居P4土層断面(南から)



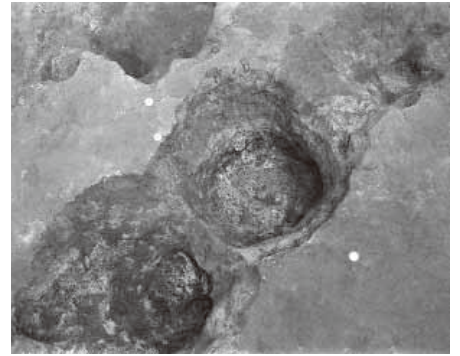
7. Ⅲ区古代～古墳時代遺構面全景(北区/上空から)



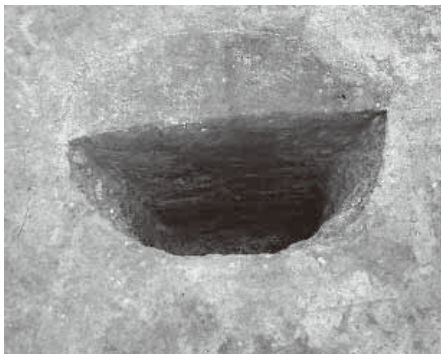
1. Ⅲ区2号掘立柱建物全景(東から)



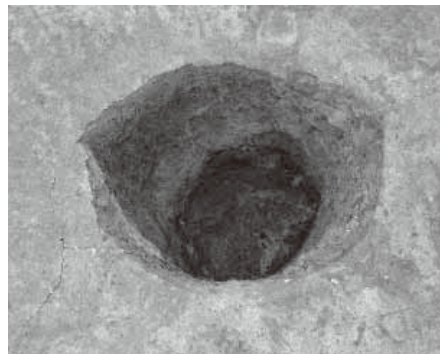
2. Ⅲ区2号掘立P 1土層断面(北から)



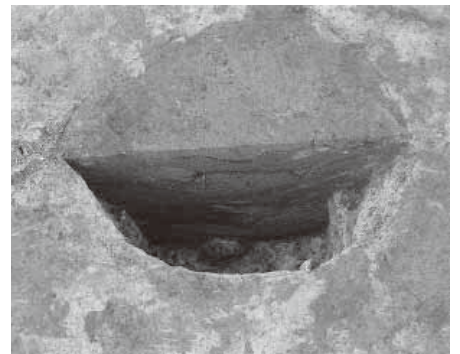
3. Ⅲ区2号掘立P 1全景(南から)



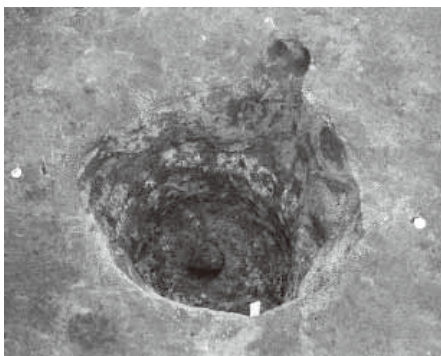
4. Ⅲ区2号掘立P 2土層断面(南から)



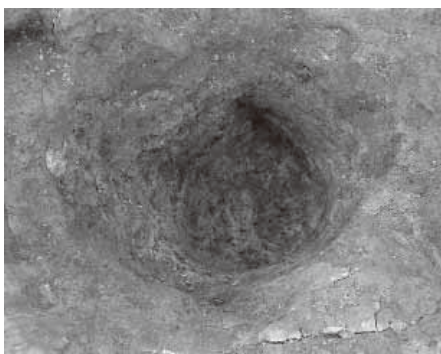
5. Ⅲ区2号掘立P 2全景(南から)



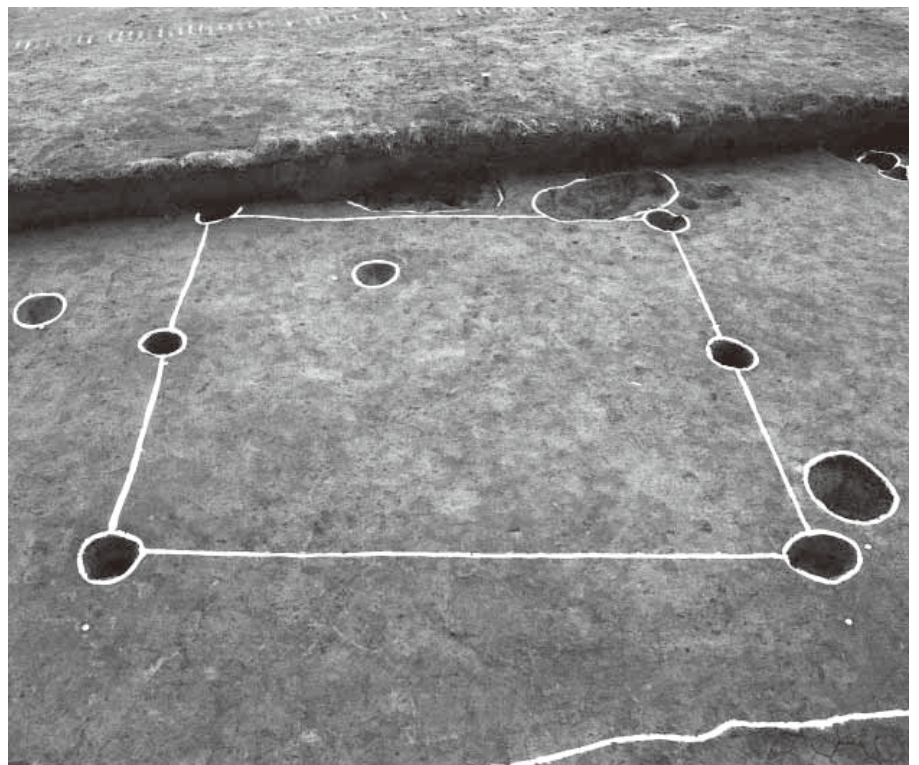
6. Ⅲ区2号掘立P 3土層断面(南から)



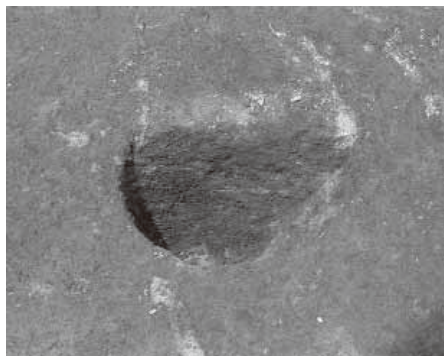
7. Ⅲ区2号掘立P 3全景(南から)



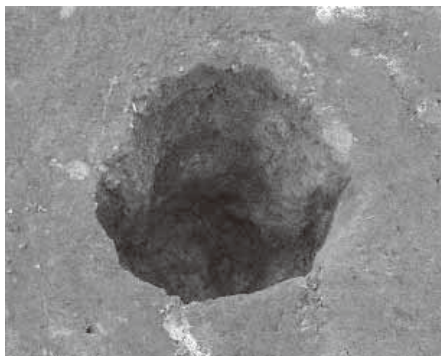
8. Ⅲ区2号掘立P 4全景(南から)



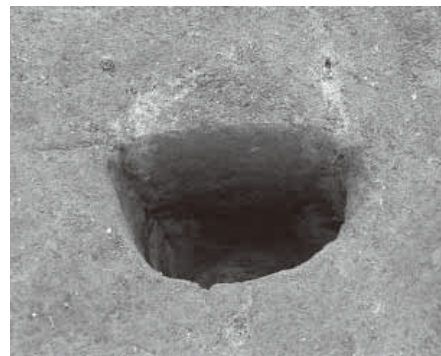
9. Ⅲ区3号掘立柱建物全景(北から)



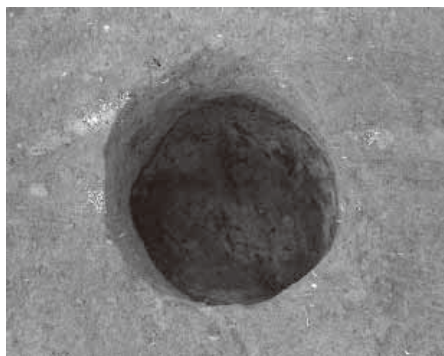
1. Ⅲ区3号掘立P 1 土層断面(東から)



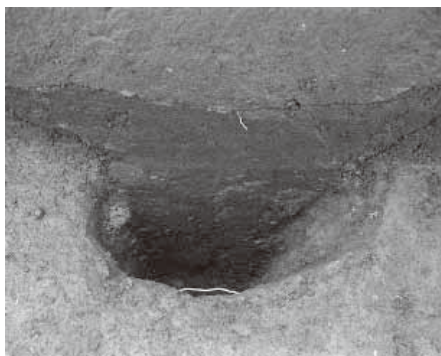
2. Ⅲ区3号掘立P 1 全景(東から)



3. Ⅲ区3号掘立P 2 土層断面(東から)



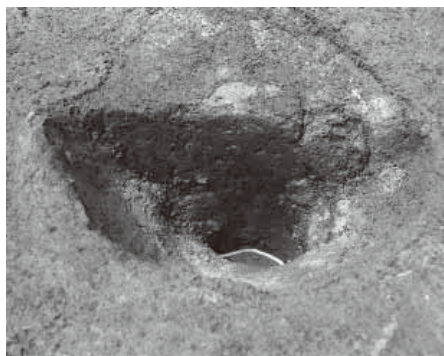
4. Ⅲ区3号掘立P 2 全景(南から)



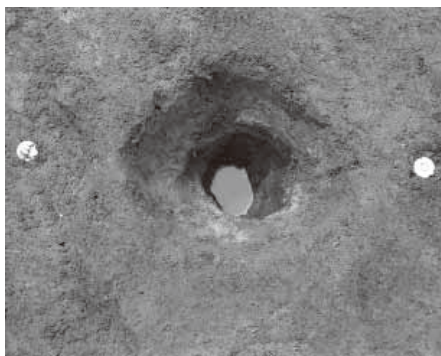
5. Ⅲ区3号掘立P 3 土層断面(北から)



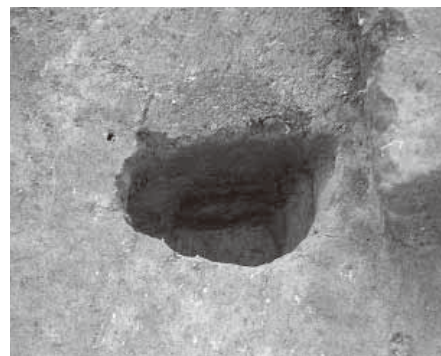
6. Ⅲ区3号掘立P 4 土層断面(南から)



7. Ⅲ区3号掘立P 5 土層断面(東から)



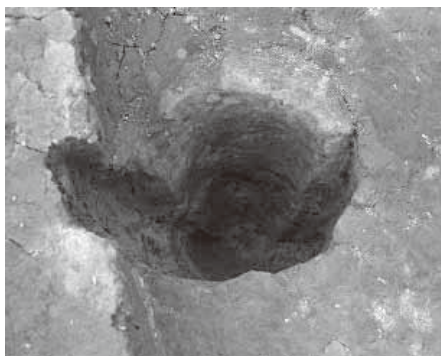
8. Ⅲ区3号掘立P 5 全景(東から)



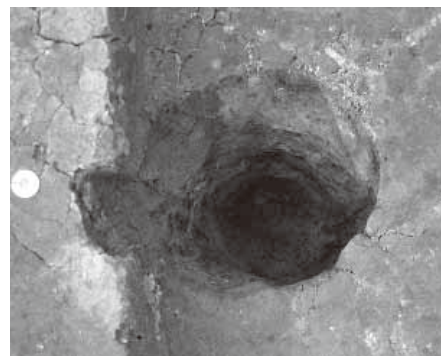
9. Ⅲ区3号掘立P 6 土層断面(東から)



10. Ⅲ区3号掘立P 6 全景(南から)



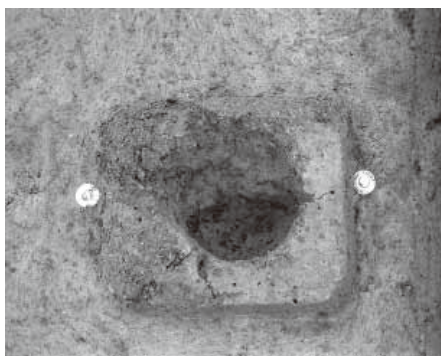
11. Ⅲ区3号掘立P 7 土層断面(南から)



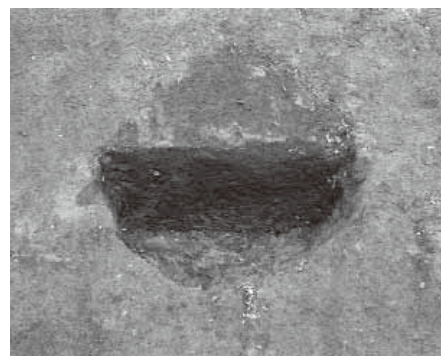
12. Ⅲ区3号掘立P 7 全景(南から)



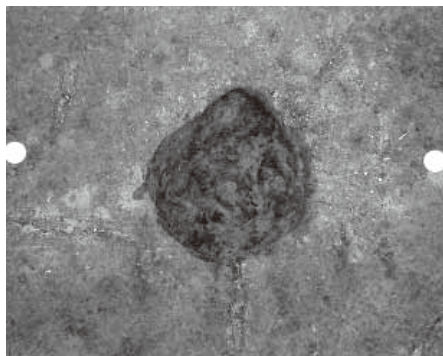
13. Ⅲ区3号掘立P 8 土層断面(南から)



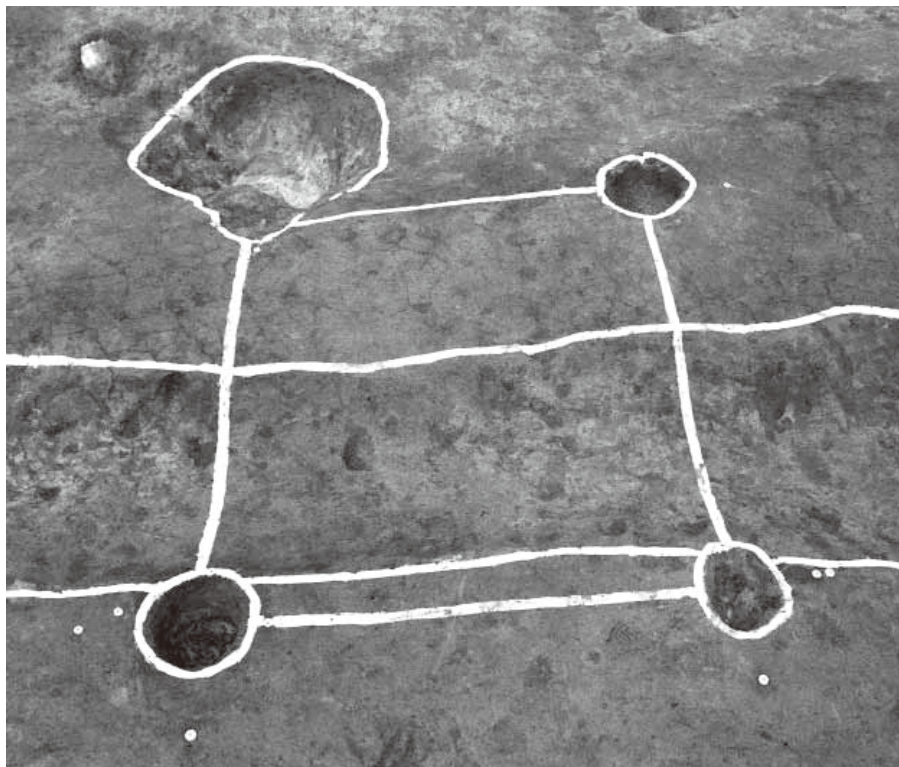
14. Ⅲ区3号掘立P 8 全景(南から)



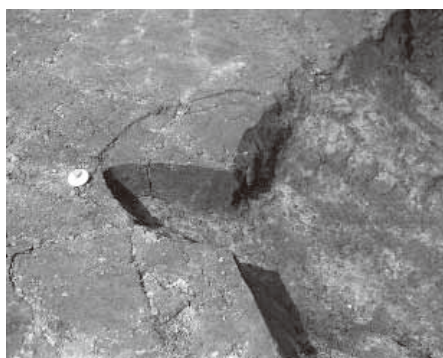
15. Ⅲ区3号掘立P 9 土層断面(南から)



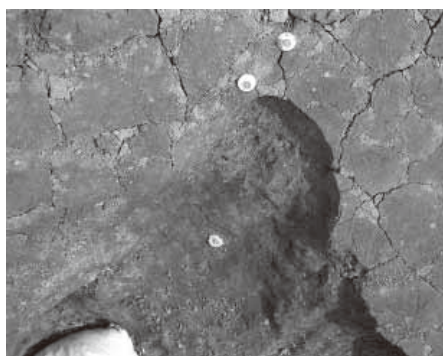
1. Ⅲ区3号掘立P9全景(南から)



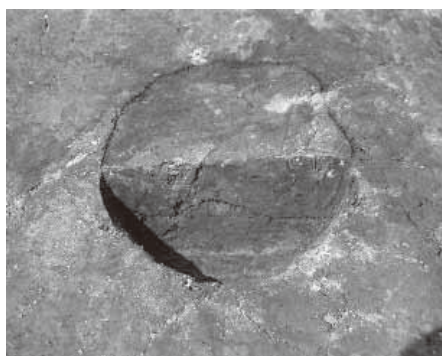
2. Ⅲ区4号掘立柱建物全景(南から)



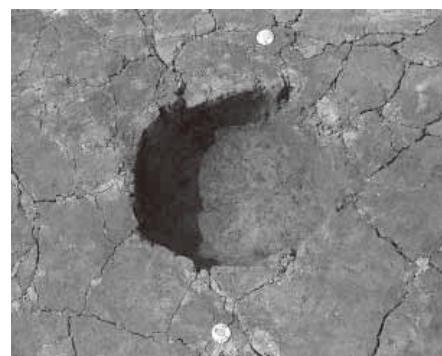
3. Ⅲ区4号掘立P1土層断面(東から)



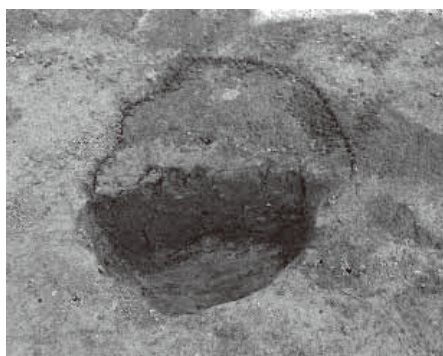
4. Ⅲ区4号掘立P1全景(南から)



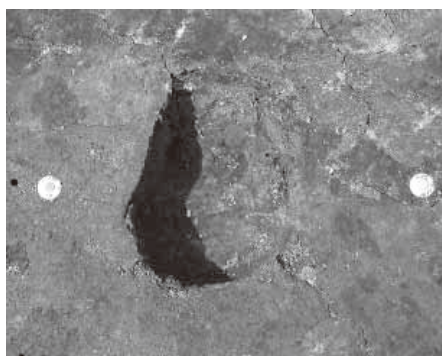
5. Ⅲ区4号掘立P2土層断面(東から)



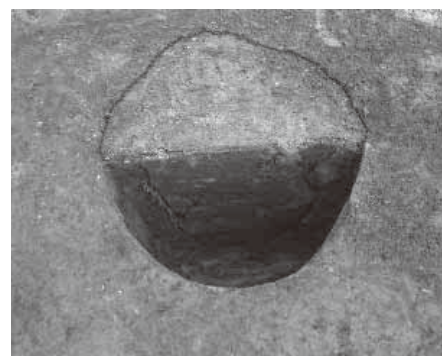
6. Ⅲ区4号掘立P2全景(南から)



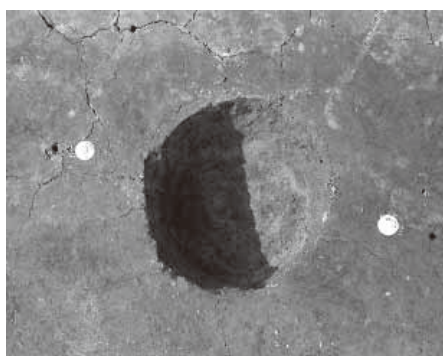
7. Ⅲ区4号掘立P3土層断面(南から)



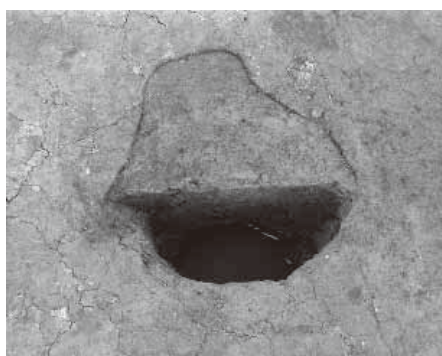
8. Ⅲ区4号掘立P3全景(南から)



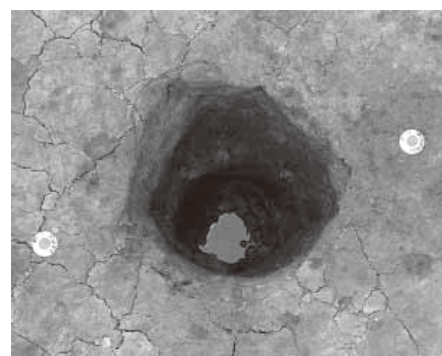
9. Ⅲ区4号掘立P4土層断面(南から)



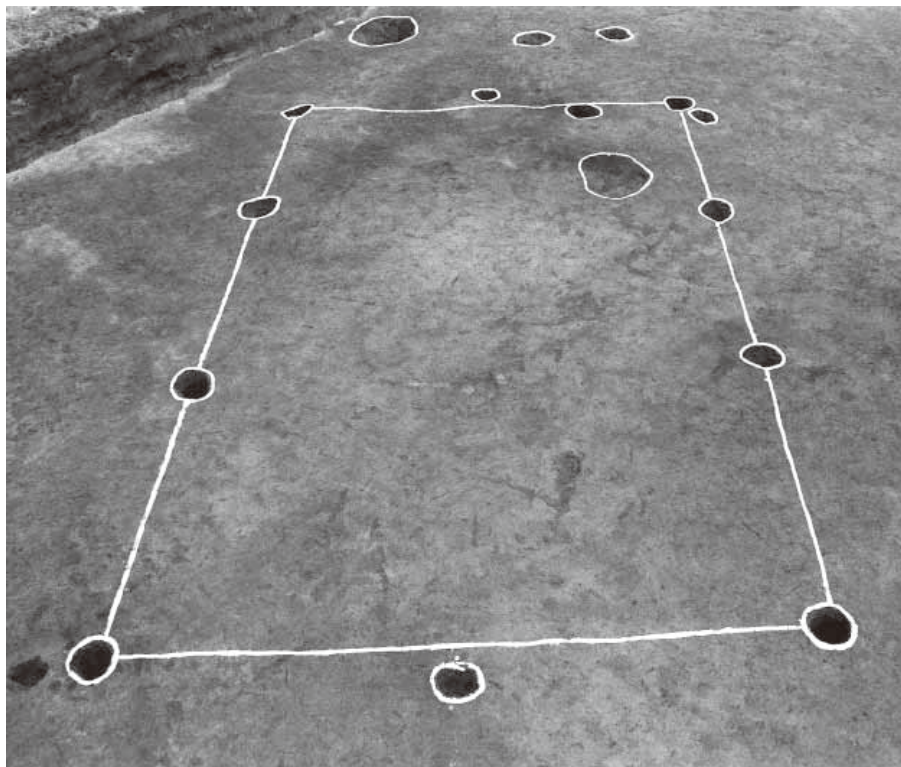
10. Ⅲ区4号掘立P4全景(南から)



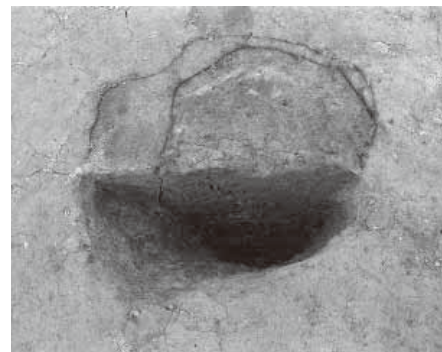
11. Ⅲ区5号掘立P1土層断面(南から)



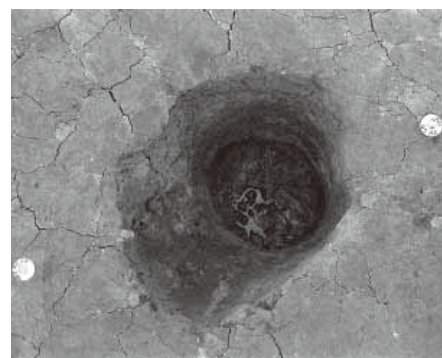
12. Ⅲ区5号掘立P1全景(南から)



1. Ⅲ区5号掘立柱建物全景(西から)



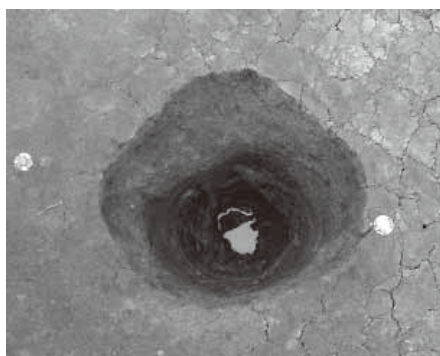
2. Ⅲ区5号掘立P 2土層断面(南から)



3. Ⅲ区5号掘立P 2全景(南から)



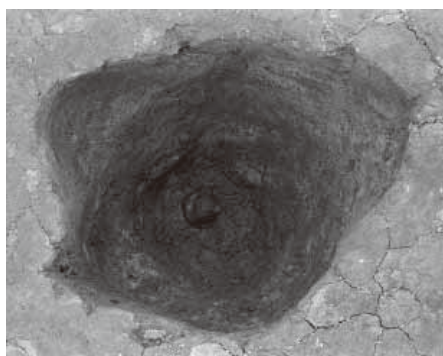
4. Ⅲ区5号掘立P 3土層断面(南から)



5. Ⅲ区5号掘立P 3全景(南から)



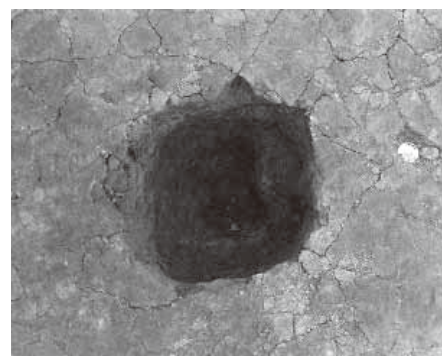
6. Ⅲ区5号掘立P 4土層断面(南から)



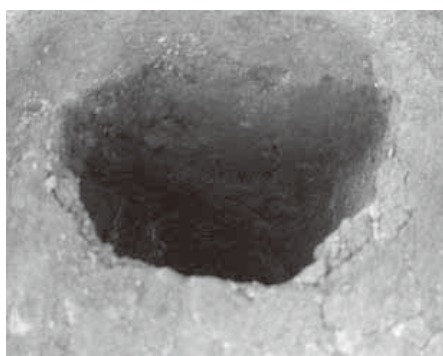
7. Ⅲ区5号掘立P 4遺物出土状態(南から)



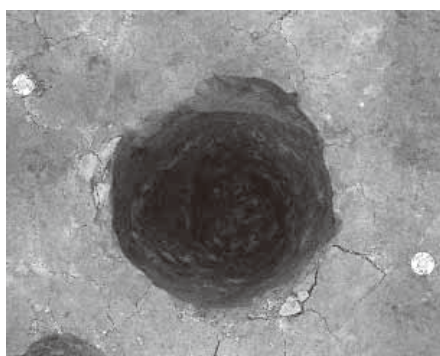
8. Ⅲ区5号掘立P 5土層断面(南から)



9. Ⅲ区5号掘立P 5全景(南から)



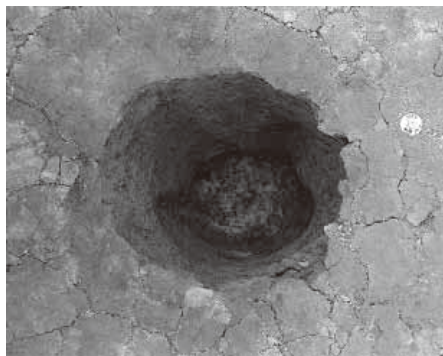
10. Ⅲ区5号掘立P 6土層断面(南から)



11. Ⅲ区5号掘立P 6全景(南から)



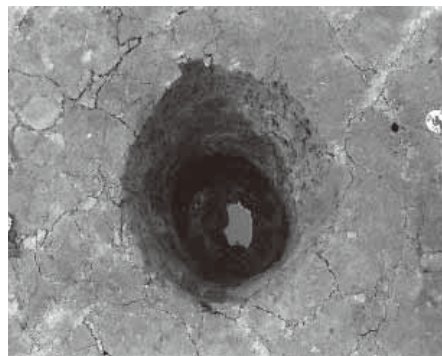
12. Ⅲ区5号掘立P 7土層断面(南から)



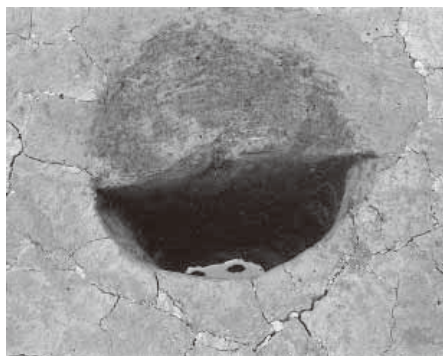
1. Ⅲ区5号掘立P7全景(南から)



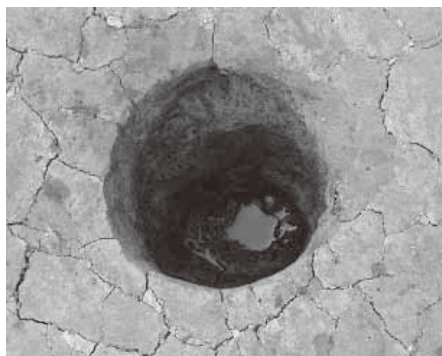
2. Ⅲ区5号掘立P8土層断面(南から)



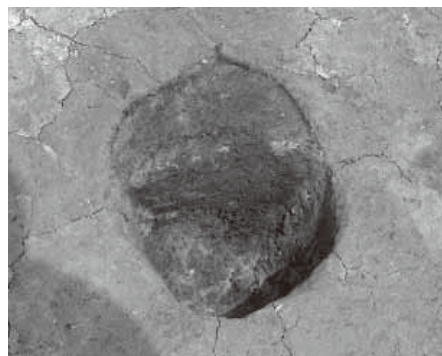
3. Ⅲ区5号掘立P8全景(南から)



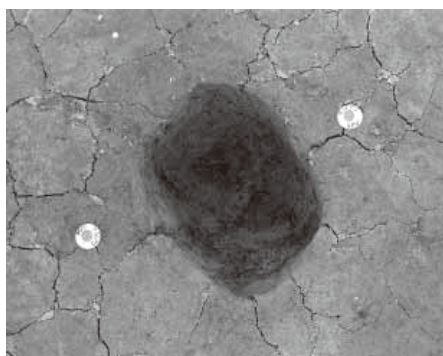
4. Ⅲ区5号掘立P9土層断面(南から)



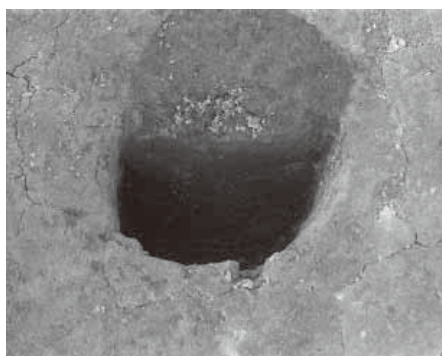
5. Ⅲ区5号掘立P9全景(南から)



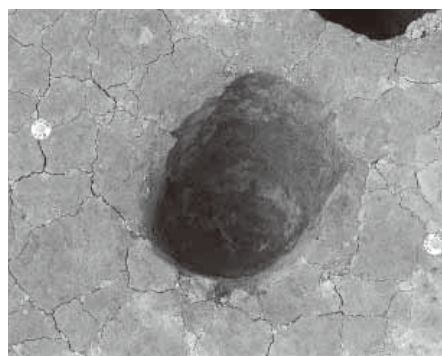
6. Ⅲ区5号掘立P10土層断面(南から)



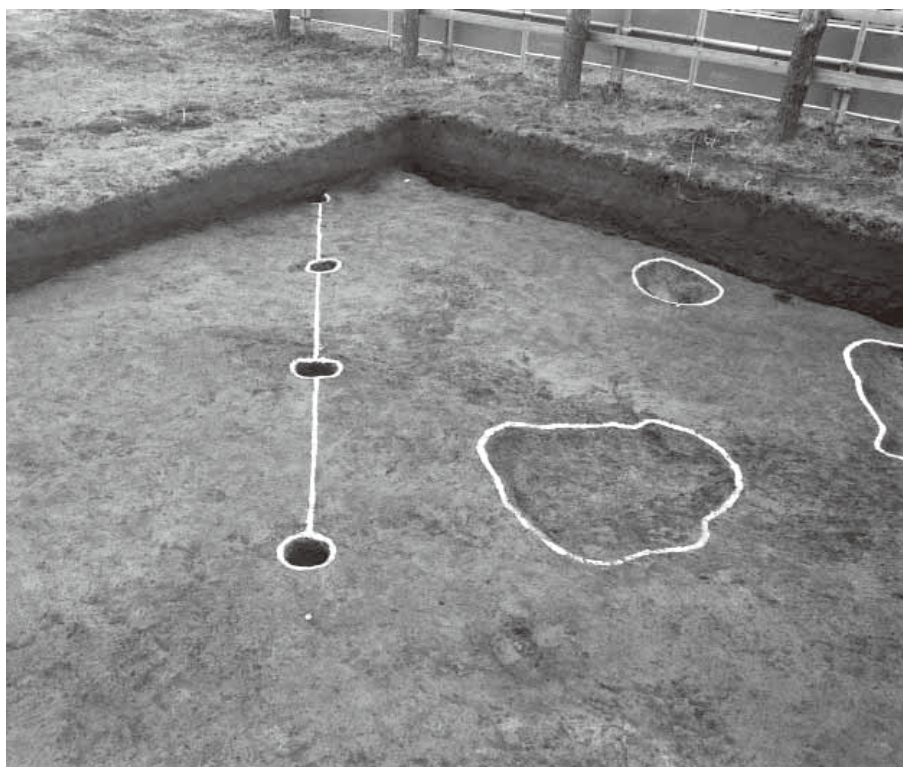
7. Ⅲ区5号掘立P10全景(南から)



8. Ⅲ区5号掘立P11土層断面(南から)



9. Ⅲ区5号掘立P11全景(南から)



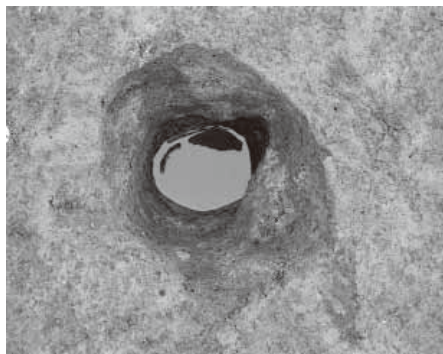
10. Ⅲ区1号柱穴列全景(北から)



11. Ⅲ区1号柱穴列P1土層断面(南から)



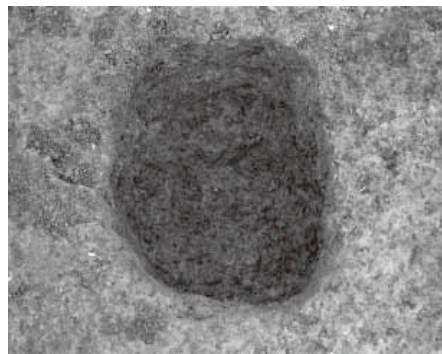
12. Ⅲ区1号柱穴列P2土層断面(南から)



1. Ⅲ区1号柱穴列P 2全景(南から)



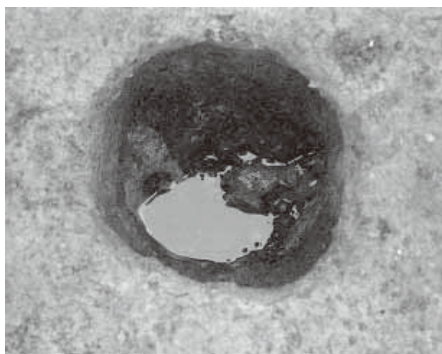
2. Ⅲ区1号柱穴列P 3土層断面(南から)



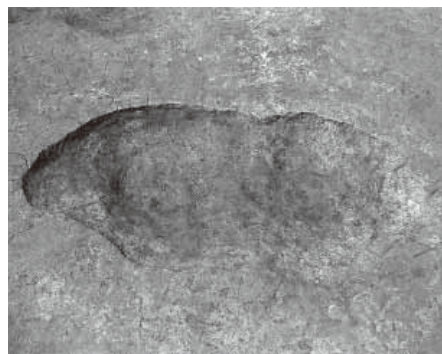
3. Ⅲ区1号柱穴列P 3全景(南から)



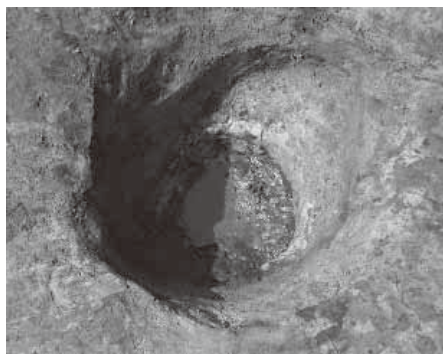
4. Ⅲ区1号柱穴列P 4土層断面(南から)



5. Ⅲ区1号柱穴列P 4全景(南から)



6. Ⅲ区22号土坑全景(南から)



7. Ⅲ区23号土坑全景(南から)



8. Ⅲ区24号土坑全景(南から)



9. Ⅲ区25号土坑土層断面(南から)



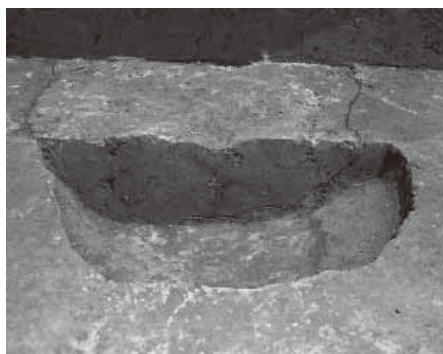
10. Ⅲ区26号～28号土坑全景(南から)



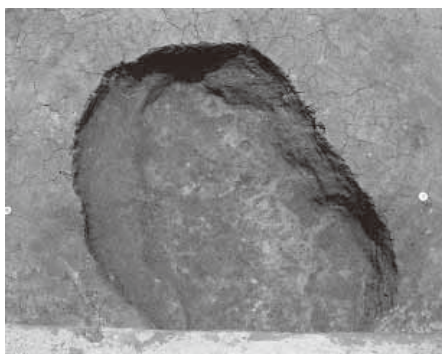
11. Ⅲ区27号土坑土層断面(南東から)



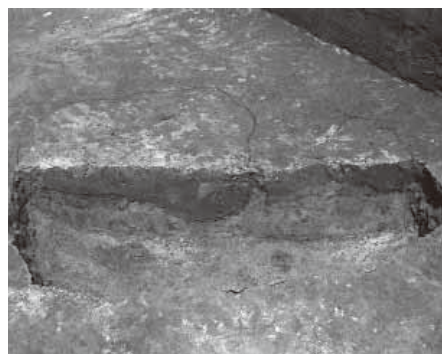
12. Ⅲ区28号土坑土層断面(南から)



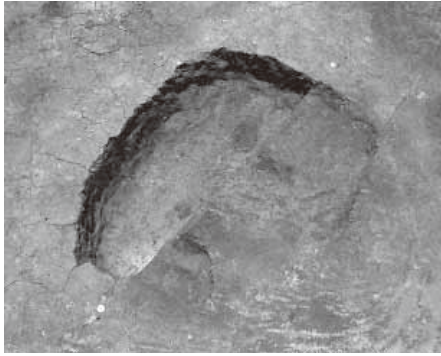
13. Ⅲ区29号土坑土層断面(南から)



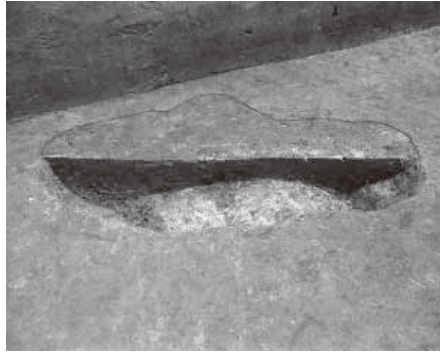
14. Ⅲ区29号土坑全景(北から)



15. Ⅲ区30号・31号土坑土層断面(南から)



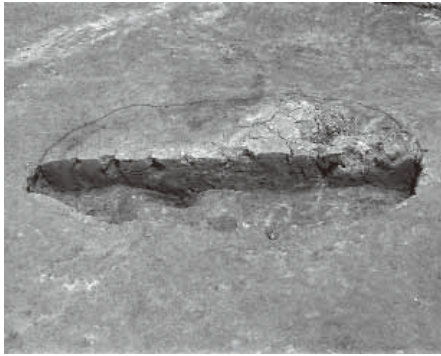
1. Ⅲ区30号・31号土坑全景(北から)



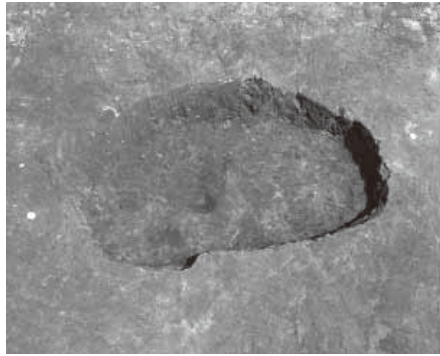
2. Ⅲ区32号土坑土層断面(南から)



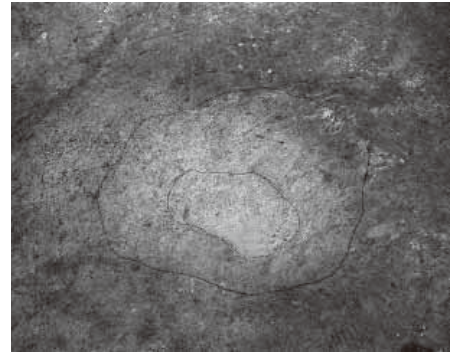
3. Ⅲ区32号土坑全景(南から)



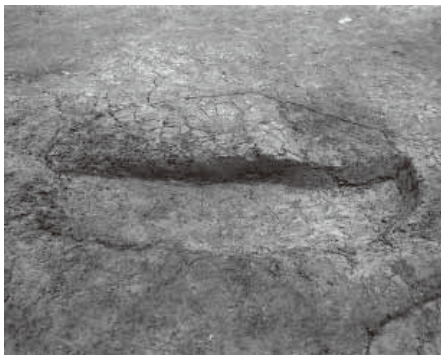
4. Ⅲ区33号土坑土層断面(南から)



5. Ⅲ区33号土坑全景(南から)



6. Ⅲ区34号土坑全景(南から)



7. Ⅲ区35号土坑土層断面(南から)



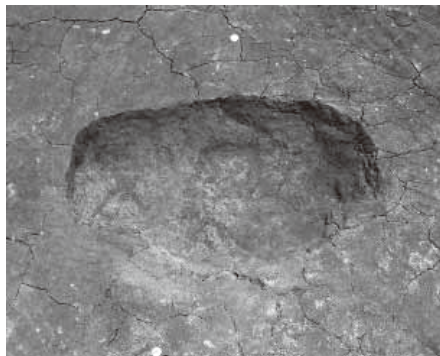
8. Ⅲ区36号土坑土層断面(東から)



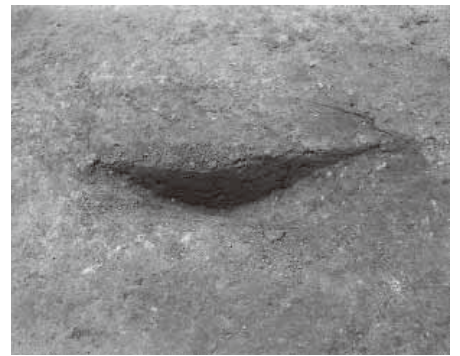
9. Ⅲ区35号・36号土坑全景(南から)



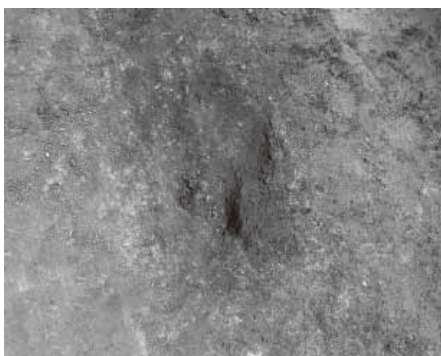
10. Ⅲ区37号土坑土層断面(南から)



11. Ⅲ区37号土坑全景(南から)



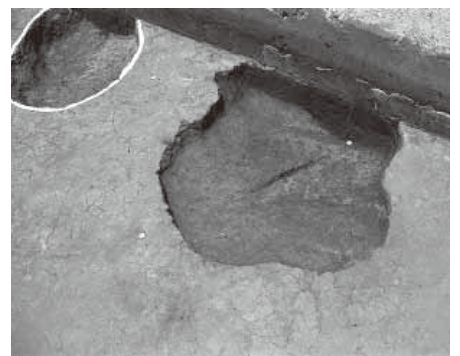
12. Ⅲ区38号土坑土層断面(東から)



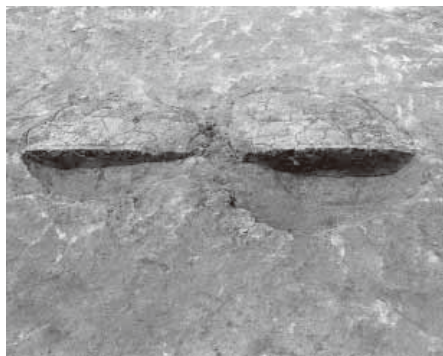
13. Ⅲ区38号土坑全景(南から)



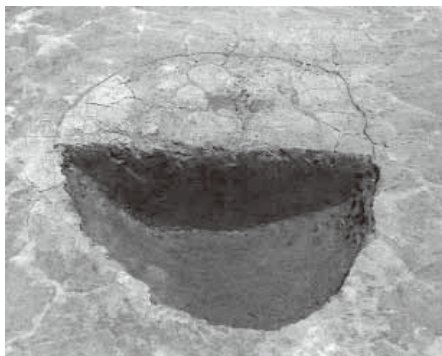
14. Ⅲ区47号土坑土層断面(東から)



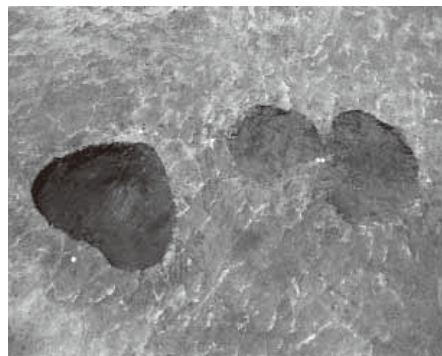
15. Ⅲ区47号土坑全景(南から)



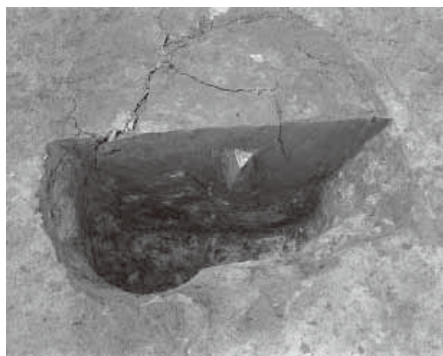
1. Ⅲ区49号・48号土坑土層断面(東から)



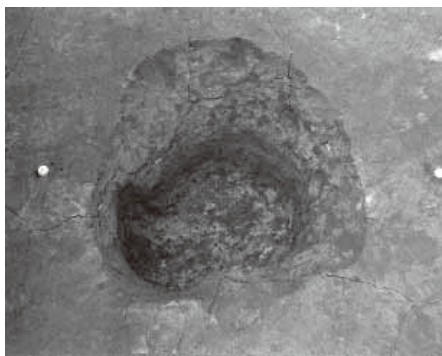
2. Ⅲ区50号土坑土層断面(南から)



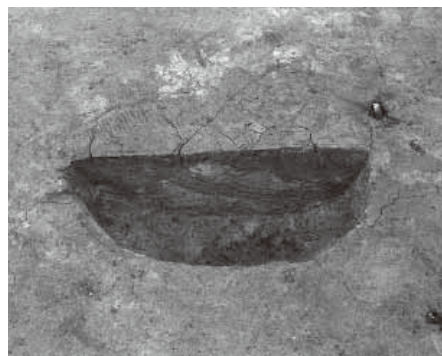
3. Ⅲ区50号・49号・48号土坑全景(東から)



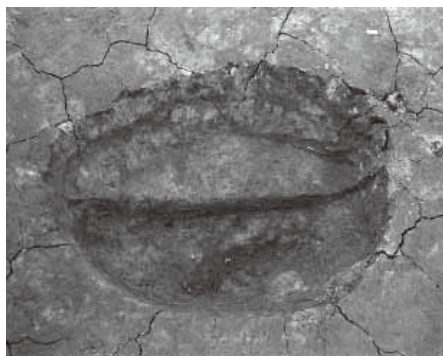
4. Ⅲ区39号土坑土層断面(南から)



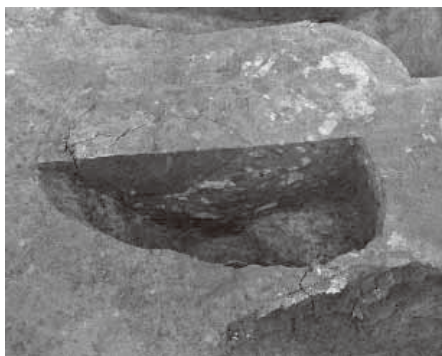
5. Ⅲ区39号土坑全景(南から)



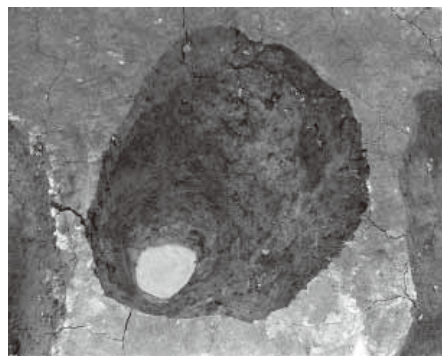
6. Ⅲ区40号土坑土層断面(南から)



7. Ⅲ区40号土坑全景(南から)



8. Ⅲ区41号土坑土層断面(南から)



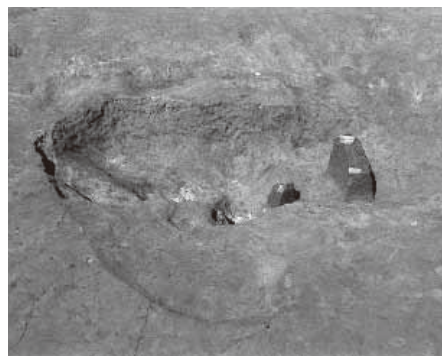
9. Ⅲ区41号土坑全景(西から)



10. Ⅲ区42号土坑土層断面(南から)



11. Ⅲ区42号土坑土層断面(西から)



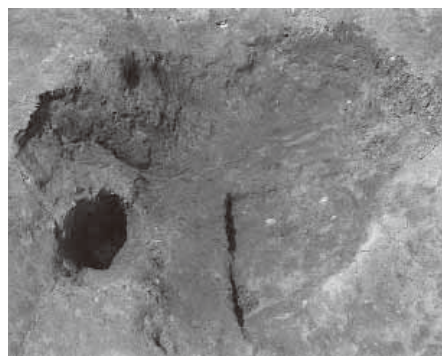
12. Ⅲ区42号土坑全景(東から)



13. Ⅲ区43号土坑土層断面(南から)



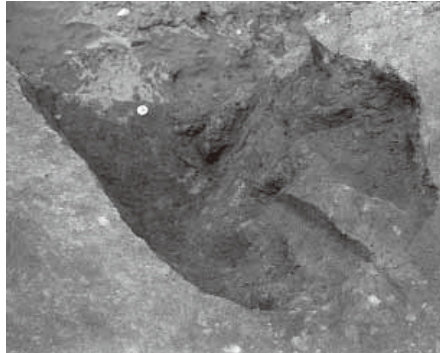
14. Ⅲ区43号土坑土層断面(東から)



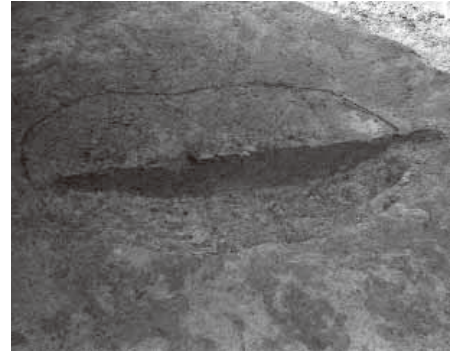
15. Ⅲ区43号土坑全景(南から)



1. Ⅲ区44号土坑土層断面(南から)



2. Ⅲ区44号土坑全景(南から)



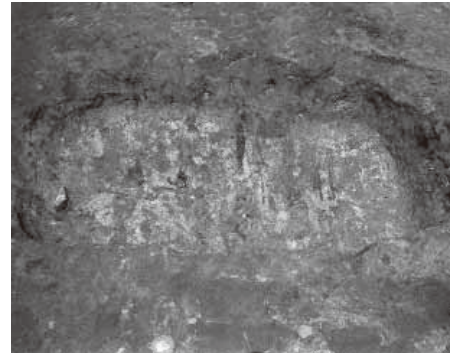
3. Ⅲ区45号土坑土層断面(南から)



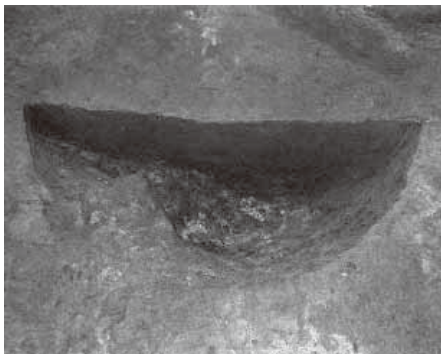
4. Ⅲ区45号土坑全景(南から)



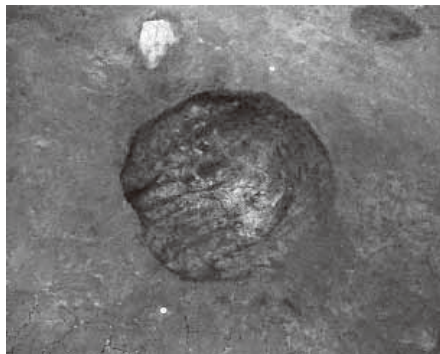
5. Ⅲ区46号土坑土層断面(東から)



6. Ⅲ区46号土坑全景(東から)



7. Ⅲ区51号土坑土層断面(東から)



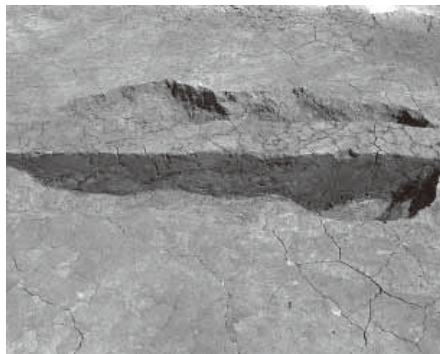
8. Ⅲ区51号土坑全景(南から)



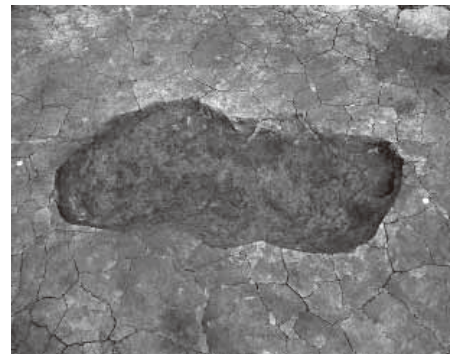
9. Ⅲ区52号・53号土坑土層断面(南から)



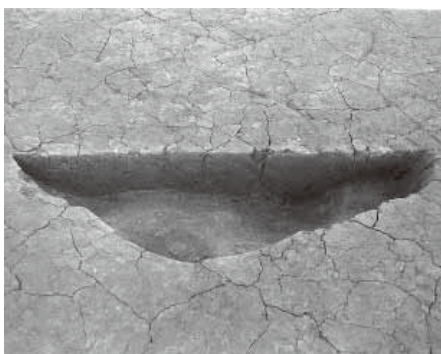
10. Ⅲ区52号・53号土坑全景(南から)



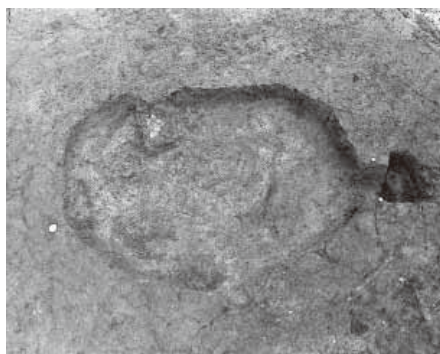
11. Ⅲ区54号土坑土層断面(南から)



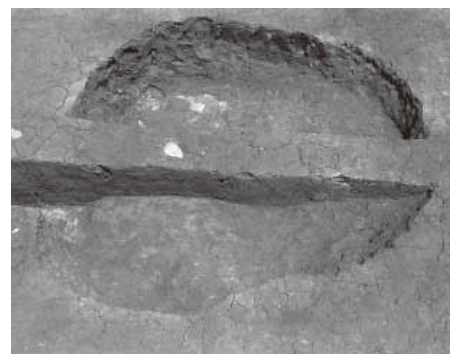
12. Ⅲ区54号土坑全景(南から)



13. Ⅲ区55号土坑土層断面(南から)



14. Ⅲ区55号土坑全景(南から)



15. Ⅲ区56号土坑焼土出土状態(南から)

Ⅲ区古代～古墳時代の遺構 土坑



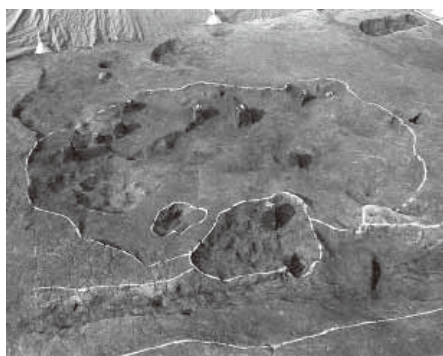
1. Ⅲ区56号・96号土坑土層断面(西から)



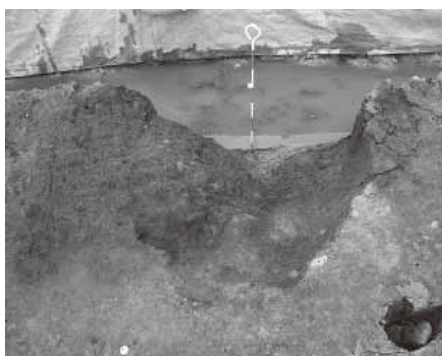
2. Ⅲ区56号土坑土層断面(南から)



3. Ⅲ区97号土坑土層断面(東から)



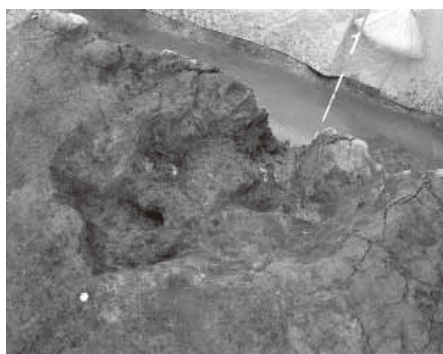
4. Ⅲ区56・96・97号土坑全景(南から)



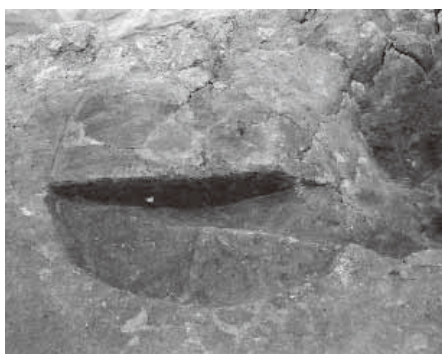
5. Ⅲ区57号土坑全景(南から)



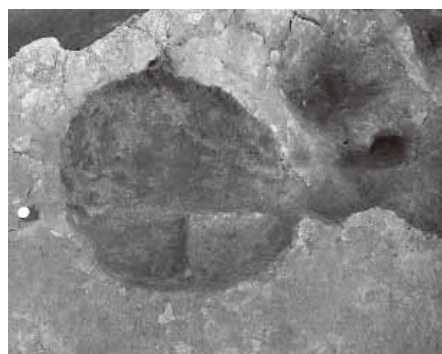
6. Ⅲ区58号土坑土層断面(南から)



7. Ⅲ区58号土坑全景(南から)



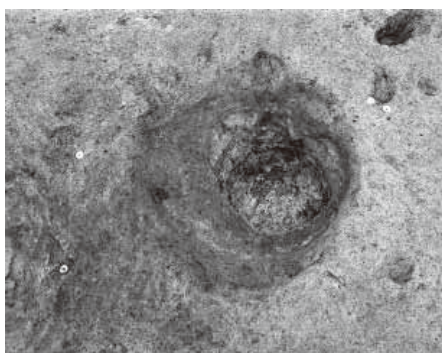
8. Ⅲ区70号土坑土層断面(南から)



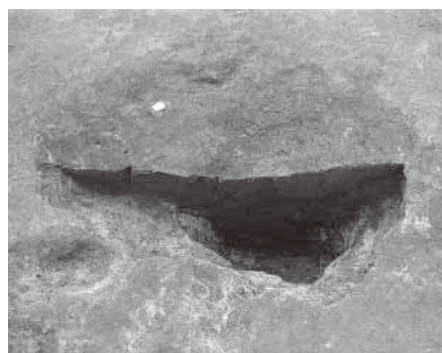
9. Ⅲ区70号土坑全景(南から)



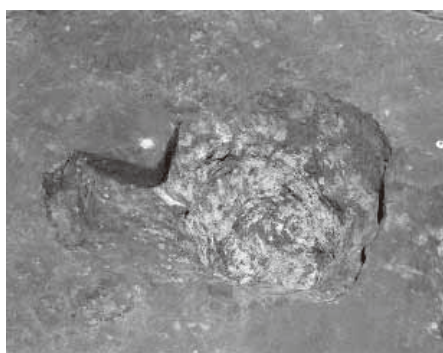
10. Ⅲ区59号土坑土層断面(南から)



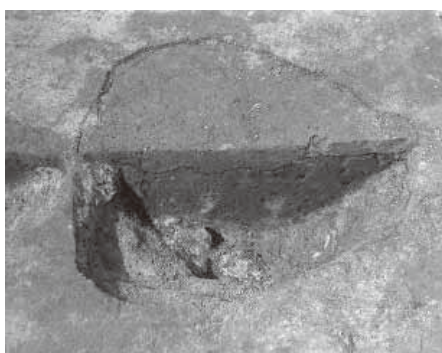
11. Ⅲ区59号土坑全景(南から)



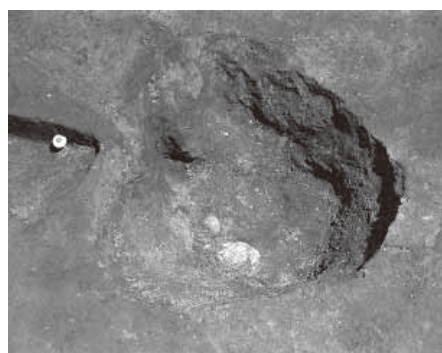
12. Ⅲ区61号土坑土層断面(東から)



13. Ⅲ区61号土坑全景(南から)



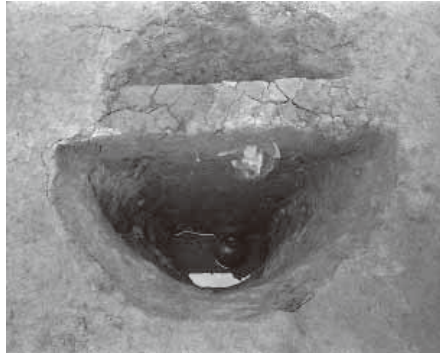
14. Ⅲ区62号土坑土層断面(南から)



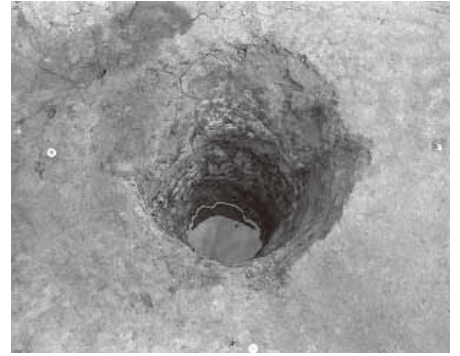
15. Ⅲ区62号土坑全景(南から)



1. Ⅲ区63号土坑遺物出土状態(南から)



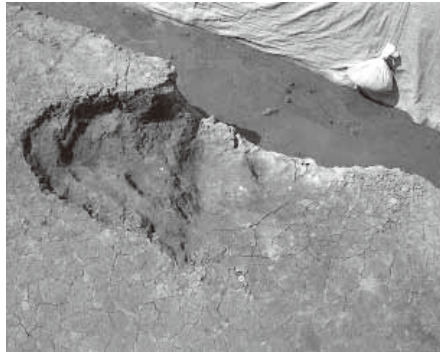
2. Ⅲ区63号土坑土層断面(南から)



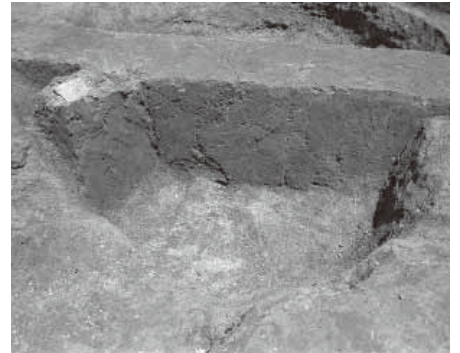
3. Ⅲ区63号土坑全景(南から)



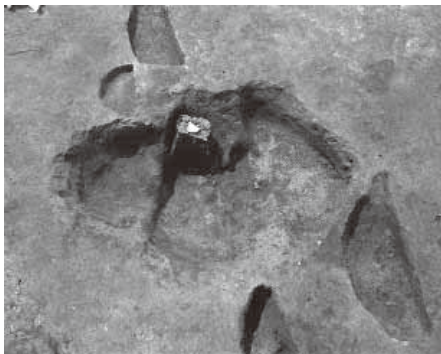
4. Ⅲ区64号土坑土層断面(北から)



5. Ⅲ区64号土坑全景(東から)



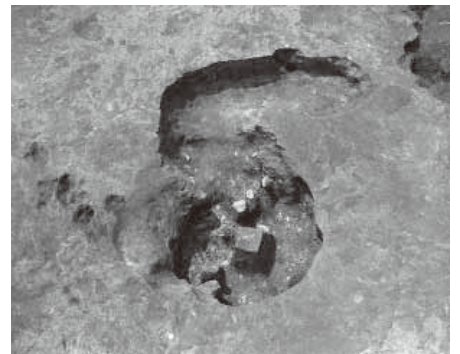
6. Ⅲ区65号土坑土層断面(南から)



7. Ⅲ区65号土坑全景(東から)



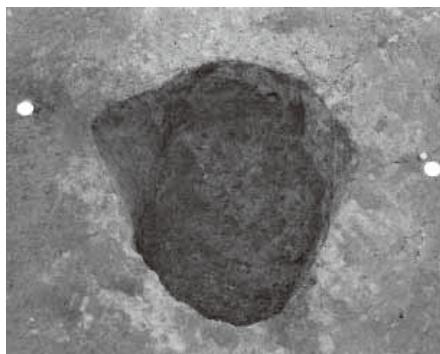
8. Ⅲ区66号・95号土坑土層断面(南から)



9. Ⅲ区66号・95号土坑全景(東から)



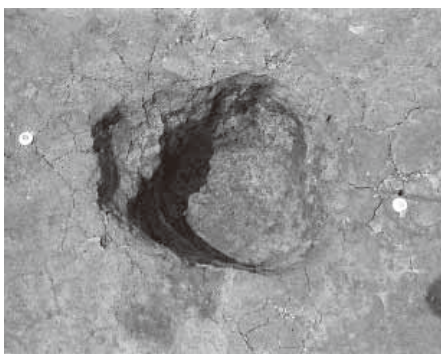
10. Ⅲ区67号土坑土層断面(南から)



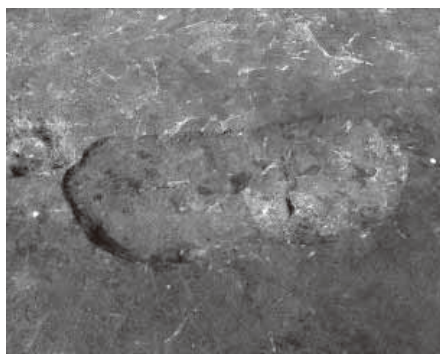
11. Ⅲ区67号土坑全景(南から)



12. Ⅲ区68号土坑土層断面(東から)



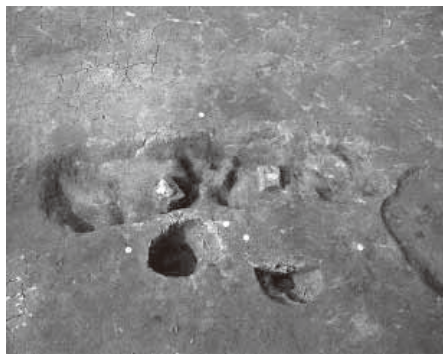
13. Ⅲ区68号土坑全景(南から)



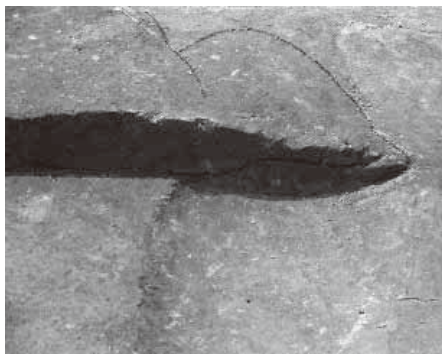
14. Ⅲ区71号土坑全景(南から)



15. Ⅲ区72号土坑土層断面(東から)



1. Ⅲ区72号土坑全景(南から)



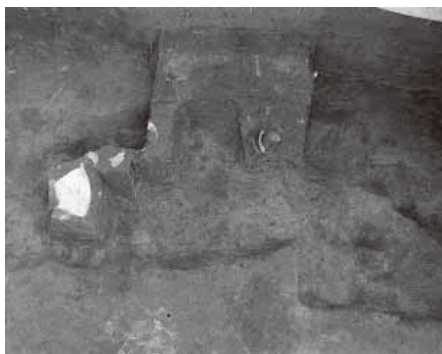
2. Ⅲ区73号土坑土層断面(東から)



3. Ⅲ区73号土坑全景(南から)



4. Ⅲ区74号土坑土層断面(西から)



5. Ⅲ区74号土坑全景(北から)



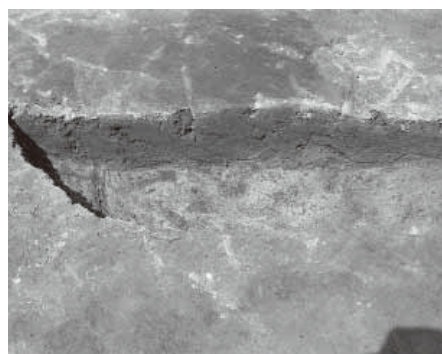
6. Ⅲ区75号土坑土層断面(北から)



7. Ⅲ区76号土坑土層断面(東から)



8. Ⅲ区76号土坑全景(東から)



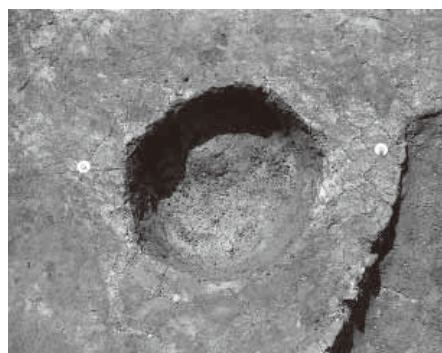
9. Ⅲ区77号土坑土層断面(南から)



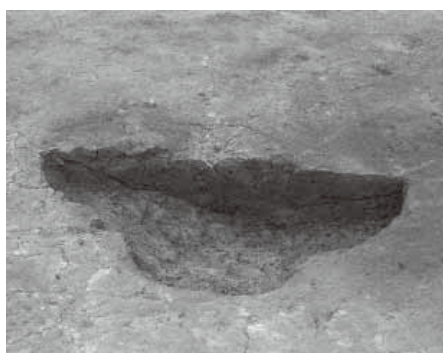
10. Ⅲ区77号土坑全景(北から)



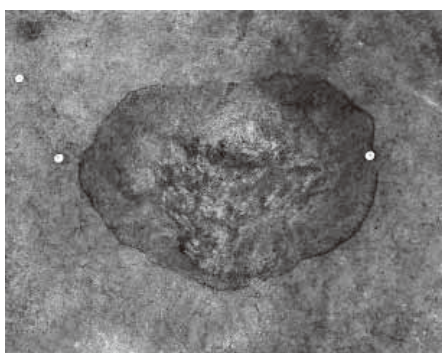
11. Ⅲ区78号土坑土層断面(東から)



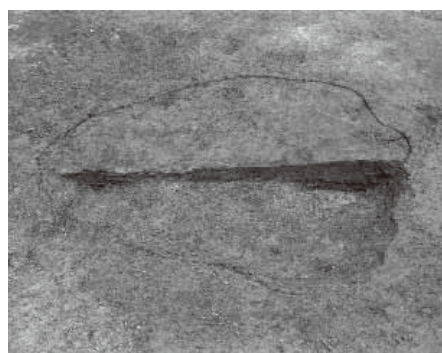
12. Ⅲ区78号土坑全景(東から)



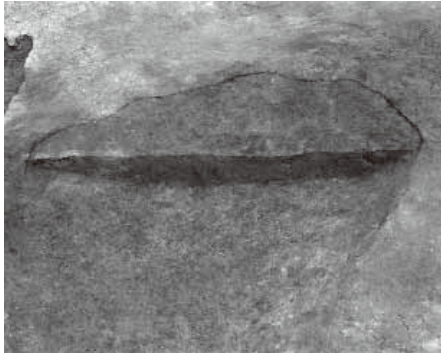
13. Ⅲ区79号土坑土層断面(南から)



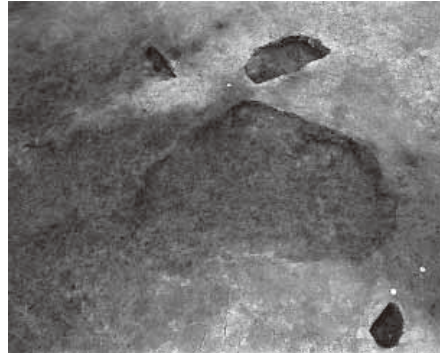
14. Ⅲ区79号土坑全景(南から)



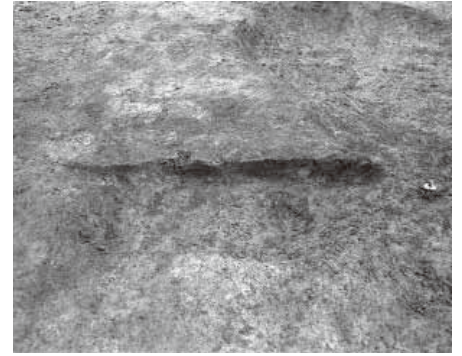
15. Ⅲ区80号土坑土層断面(南から)



1. Ⅲ区81号土坑土層断面(南から)



2. Ⅲ区81号土坑全景(東から)



3. Ⅲ区101号土坑土層断面(西から)



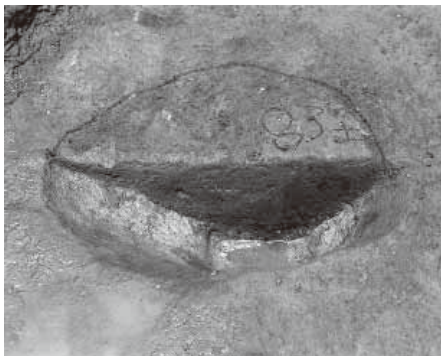
4. Ⅲ区82号土坑土層断面(南から)



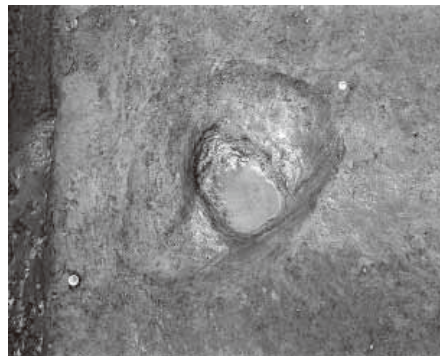
5. Ⅲ区82号土坑土層断面(東から)



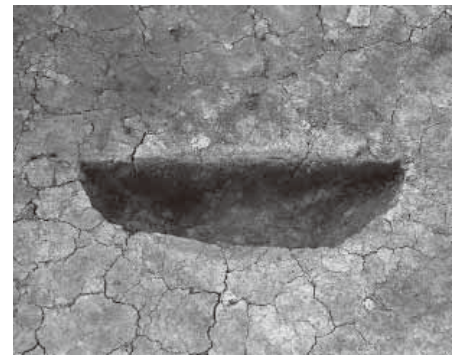
6. Ⅲ区82号土坑全景(東から)



7. Ⅲ区83号土坑土層断面(南から)



8. Ⅲ区83号土坑全景(東から)



9. Ⅲ区84号土坑土層断面(南から)



10. Ⅲ区85・86・91号土坑全景(南から)



11. Ⅲ区85号土坑焼土確認状況(東から)



12. Ⅲ区85号土坑焼土確認状況(南から)



13. Ⅲ区85号土坑土層断面(南から)

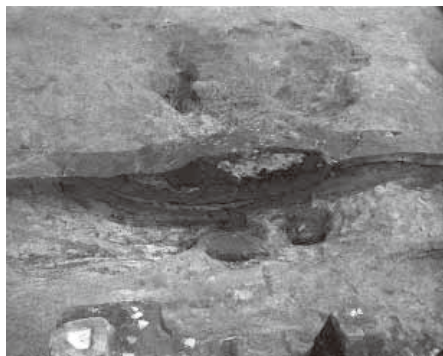


14. Ⅲ区85・86・91号土坑土層断面(南から)



15. Ⅲ区85号土坑全景(西から)

Ⅲ区古代～古墳時代の遺構 土坑



1. Ⅲ区86号土坑土層断面(南から)



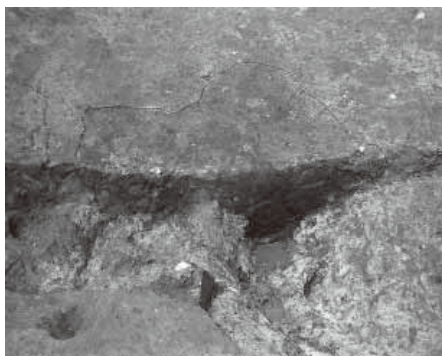
2. Ⅲ区86号土坑全景(西から)



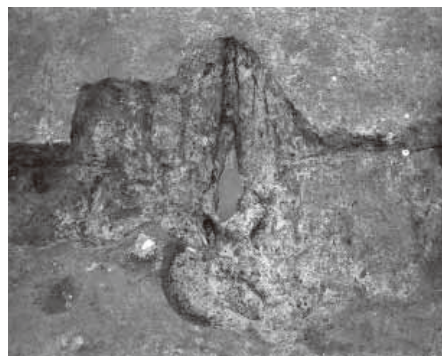
3. Ⅲ区91号土坑土層断面(西から)



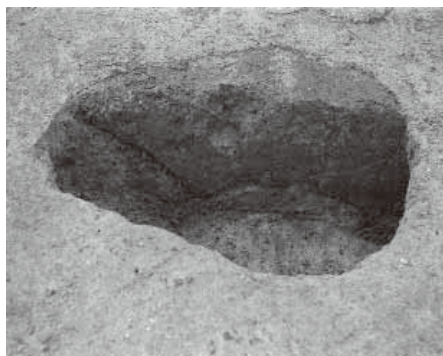
4. Ⅲ区91号土坑全景(西から)



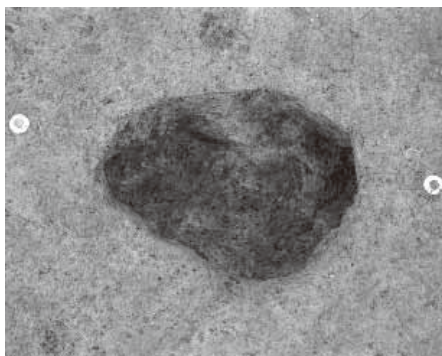
5. Ⅲ区87号土坑土層断面(東から)



6. Ⅲ区87号土坑全景(東から)



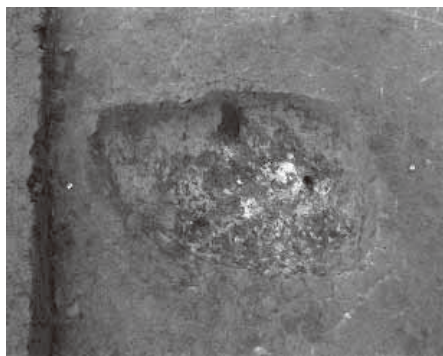
7. Ⅲ区88号土坑土層断面(南から)



8. Ⅲ区88号土坑全景(南から)



9. Ⅲ区89号土坑土層断面(南から)



10. Ⅲ区89号土坑全景(南から)



11. Ⅲ区90号土坑焼土確認状況(南から)



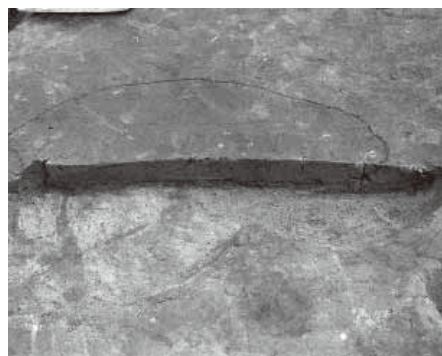
12. Ⅲ区90号土坑土層断面(南から)



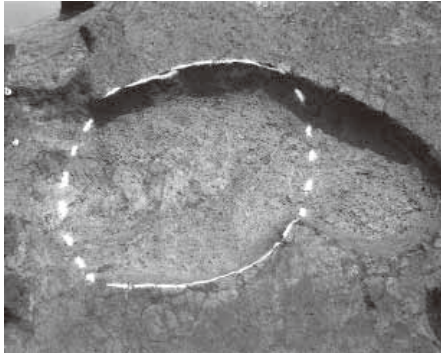
13. Ⅲ区90号土坑土層断面(西から)



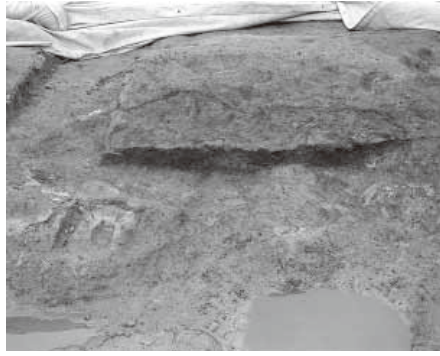
14. Ⅲ区90号土坑全景(南から)



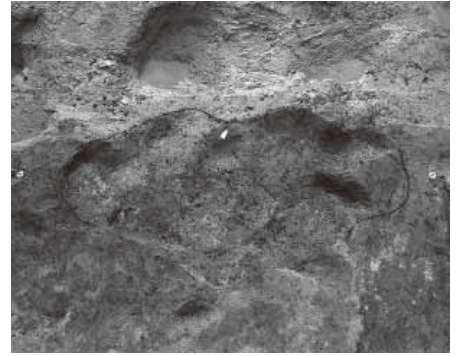
15. Ⅲ区92号土坑土層断面(西から)



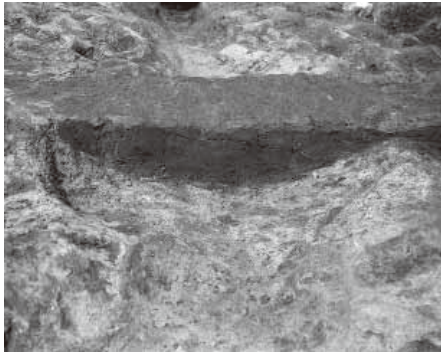
1. Ⅲ区92号土坑全景(西から)



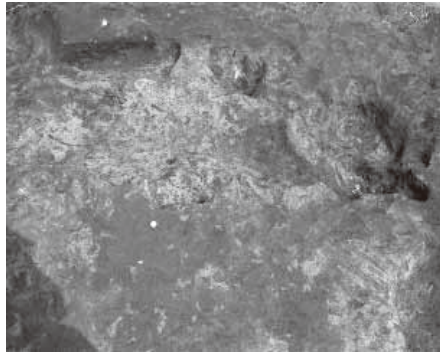
2. Ⅲ区93号土坑土層断面(西から)



3. Ⅲ区93号土坑全景(南から)



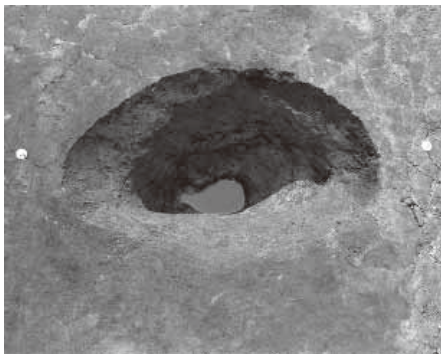
4. Ⅲ区94号土坑土層断面(東から)



5. Ⅲ区94号土坑全景(南から)



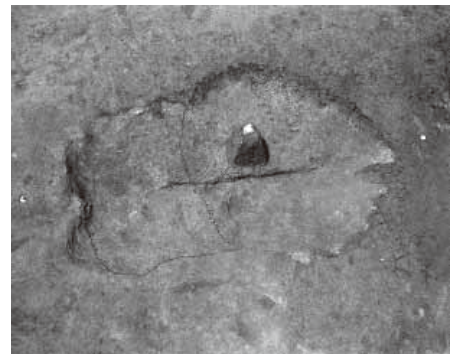
6. Ⅲ区98号土坑土層断面(東から)



7. Ⅲ区98号土坑全景(東から)



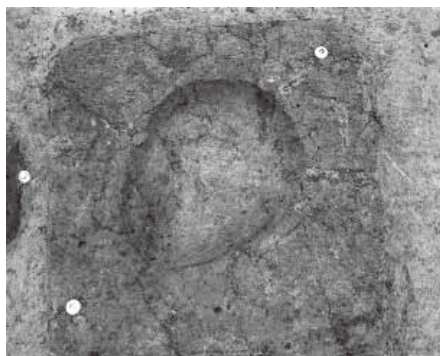
8. Ⅲ区99号・100号土坑土層断面(東から)



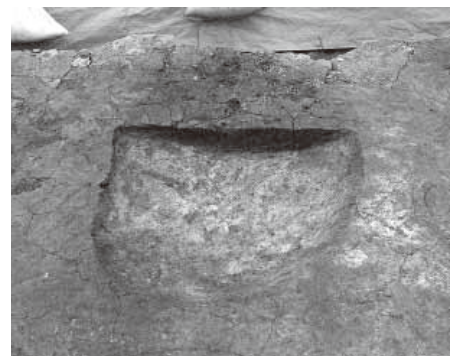
9. Ⅲ区99号・100号土坑全景(東から)



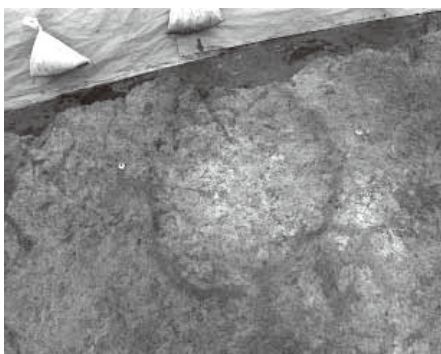
10. Ⅲ区102号土坑土層断面(南から)



11. Ⅲ区102号土坑全景(南から)



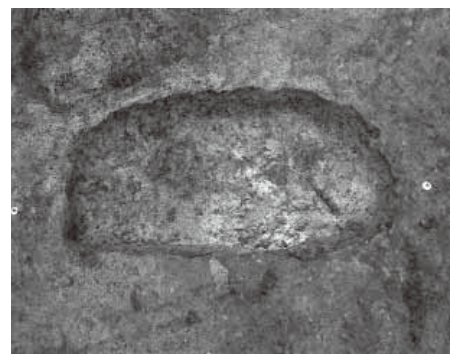
12. Ⅲ区103号土坑土層断面(南から)



13. Ⅲ区103号土坑全景(南から)



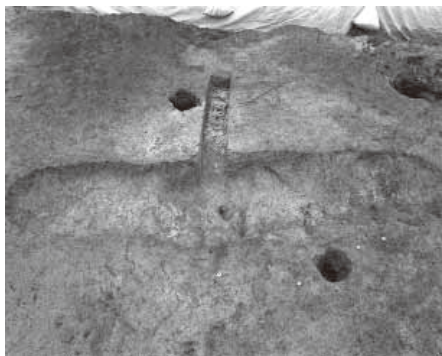
14. Ⅲ区104号土坑土層断面(南から)



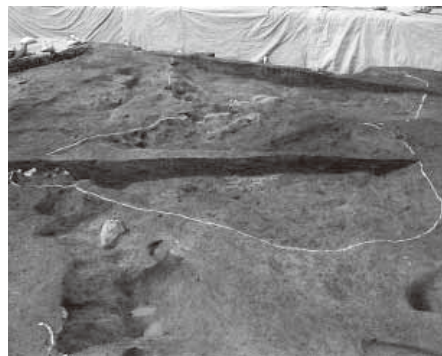
15. Ⅲ区104号土坑全景(南から)



1. Ⅲ区105号土坑土層断面(西から)



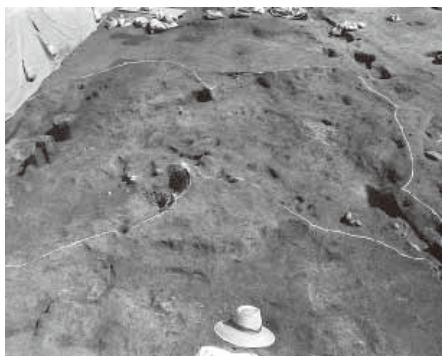
2. Ⅲ区105号土坑全景(南から)



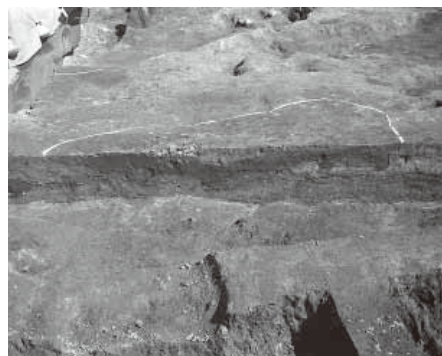
3. Ⅲ区106号土坑土層断面(南から)



4. Ⅲ区107号土坑土層断面(南から)



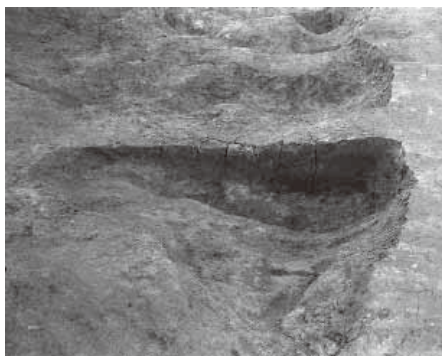
5. Ⅲ区106号・107号土坑全景(西から)



6. Ⅲ区108号土坑土層断面(西から)



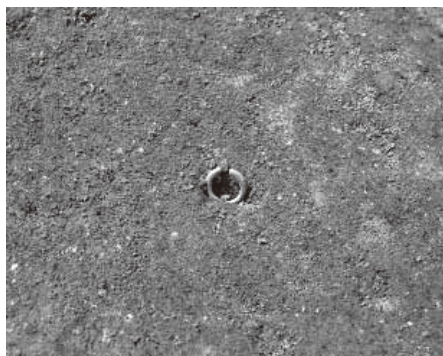
7. Ⅲ区108号土坑全景(西から)



8. Ⅲ区109号土坑土層断面(南から)



9. Ⅲ区109号土坑全景(西から)



10. Ⅲ区北区耳環出土状態(東から)



11. Ⅲ区114号土坑土層断面(南から)



12. Ⅲ区116号土坑土層断面(南から)



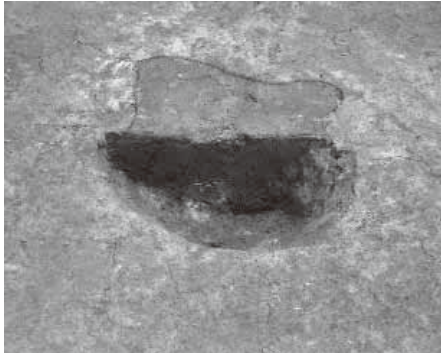
13. Ⅲ区117号土坑土層断面(南から)



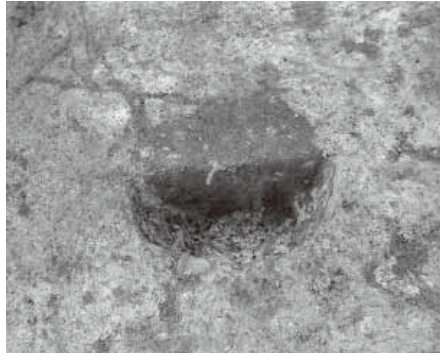
14. Ⅲ区117号土坑土層断面(西から)



15. Ⅲ区118号土坑全景(南から)



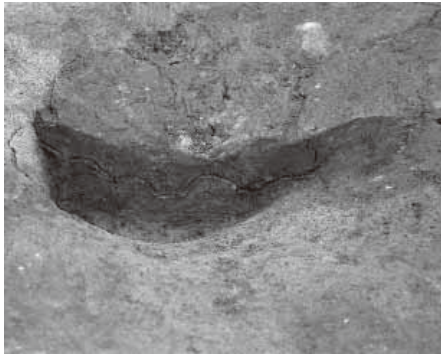
1. Ⅲ区8号ピット土層断面(南から)



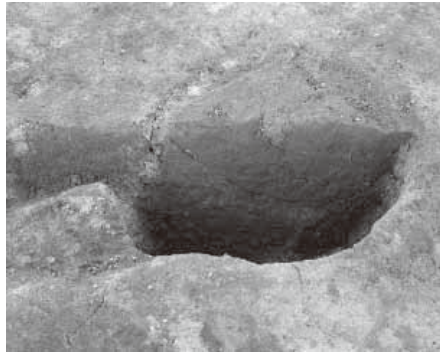
2. Ⅲ区9号ピット土層断面(南から)



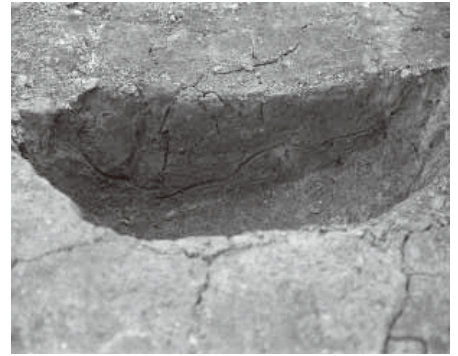
3. Ⅲ区10号ピット土層断面(南から)



4. Ⅲ区11号ピット土層断面(南から)



5. Ⅲ区12号ピット土層断面(南から)



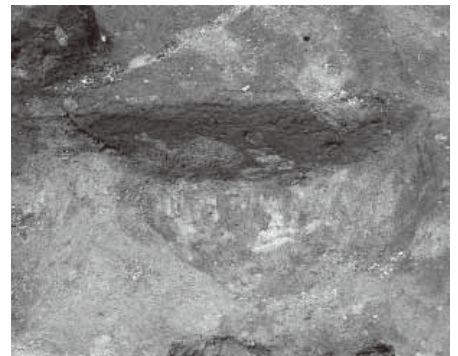
6. Ⅲ区13号ピット土層断面(南から)



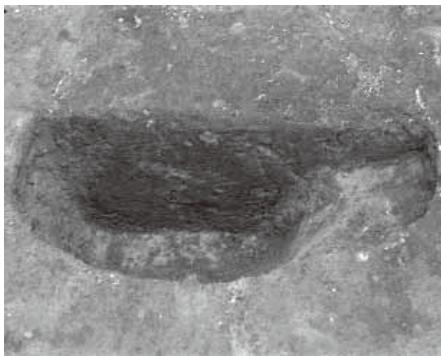
7. Ⅲ区14号ピット土層断面(西から)



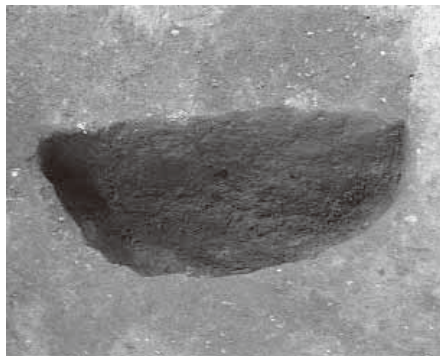
8. Ⅲ区19・20号ピット土層断面(北から)



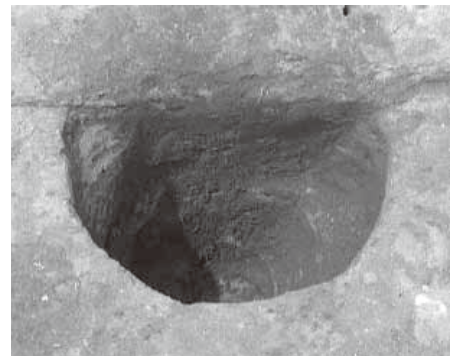
9. Ⅲ区21号ピット土層断面(東から)



10. Ⅲ区23号ピット土層断面(南から)



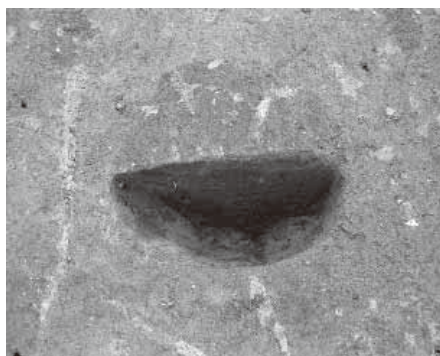
11. Ⅲ区24号ピット土層断面(東から)



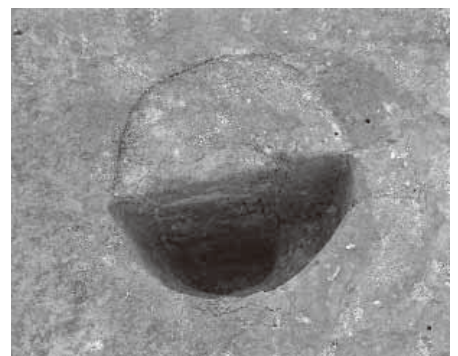
12. Ⅲ区25号ピット土層断面(東から)



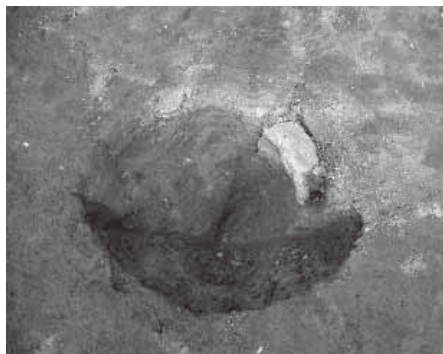
13. Ⅲ区26・27号ピット土層断面(南から)



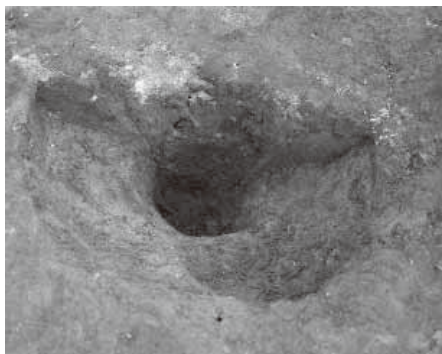
14. Ⅲ区29号ピット土層断面(東から)



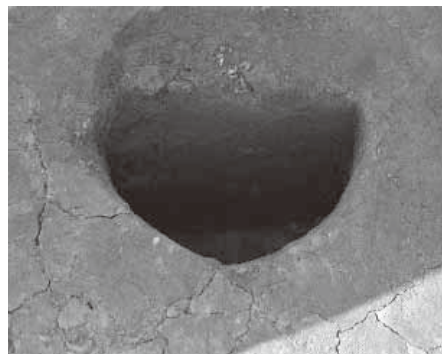
15. Ⅲ区31号ピット土層断面(東から)



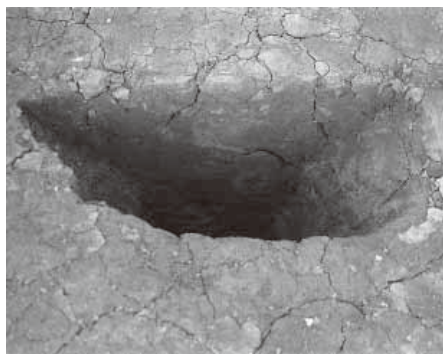
1. Ⅲ区38号ピット全景(東から)



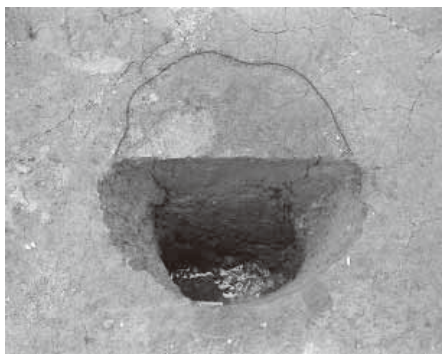
2. Ⅲ区39号ピット土層断面(南から)



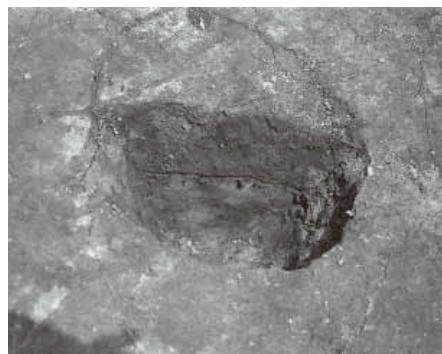
3. Ⅲ区40号ピット土層断面(南から)



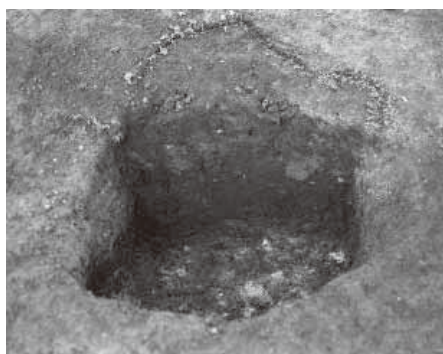
4. Ⅲ区43号ピット土層断面(南から)



5. Ⅲ区57号ピット土層断面(南から)



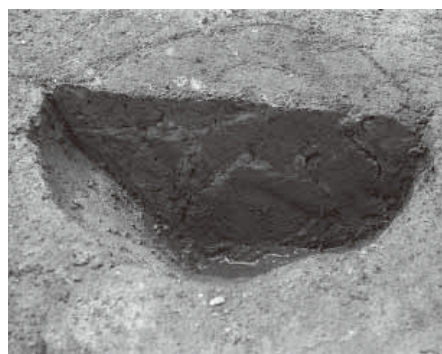
6. Ⅲ区58号ピット土層断面(南から)



7. Ⅲ区59号ピット土層断面(東から)



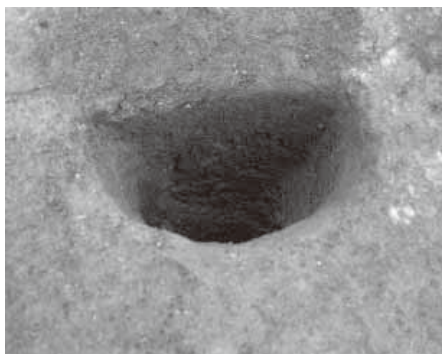
8. Ⅲ区60号ピット土層断面(東から)



9. Ⅲ区63号ピット土層断面(東から)



10. Ⅲ区64号ピット土層断面(南から)



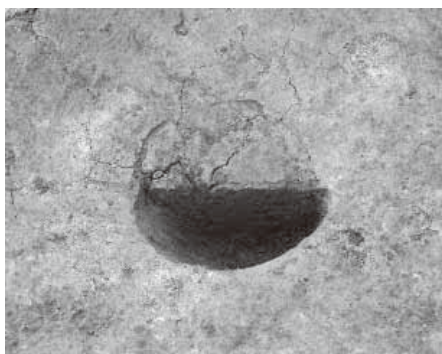
11. Ⅲ区65号ピット土層断面(東から)



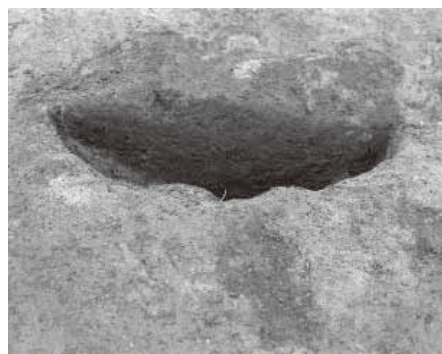
12. Ⅲ区66号ピット土層断面(東から)



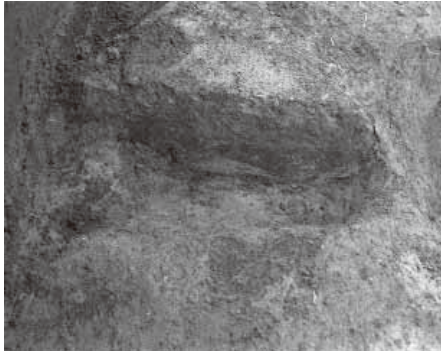
13. Ⅲ区67号ピット土層断面(東から)



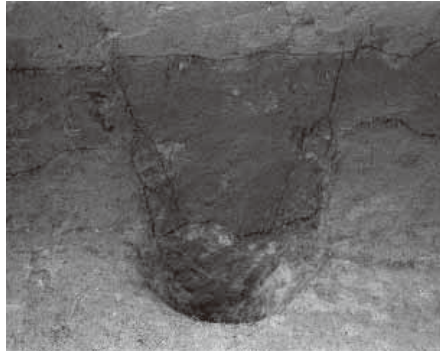
14. Ⅲ区68号ピット土層断面(南から)



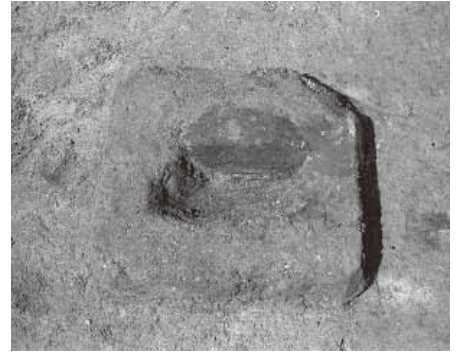
15. Ⅲ区69号ピット土層断面(東から)



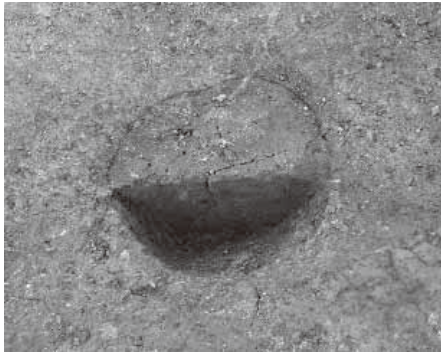
1. Ⅲ区70号ピット土層断面(東から)



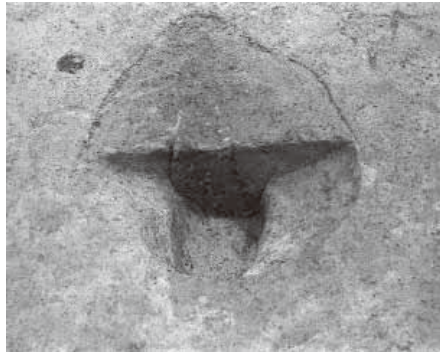
2. Ⅲ区71号ピット土層断面(北から)



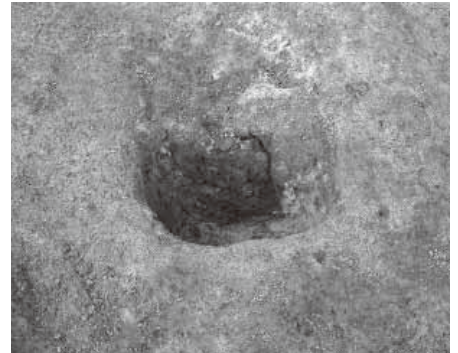
3. Ⅲ区72号ピット土層断面(南から)



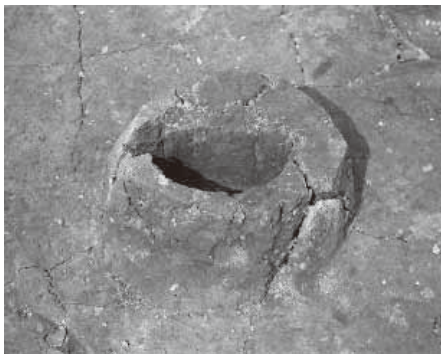
4. Ⅲ区75号ピット土層断面(東から)



5. Ⅲ区76号ピット土層断面(南から)



6. Ⅲ区77号ピット土層断面(西から)



7. Ⅲ区78号ピット土層断面(西から)



8. Ⅲ区79号ピット土層断面(西から)



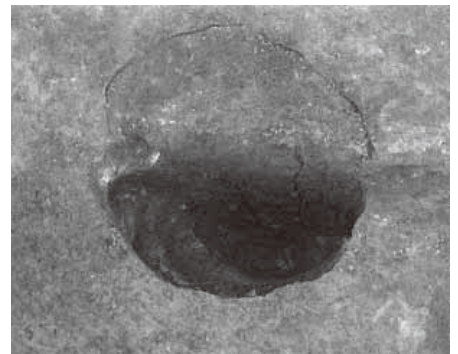
9. Ⅲ区80号ピット土層断面(西から)



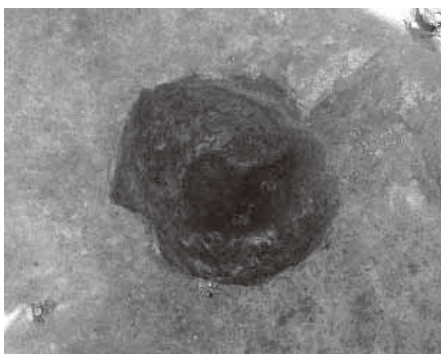
10. Ⅲ区81号ピット土層断面(東から)



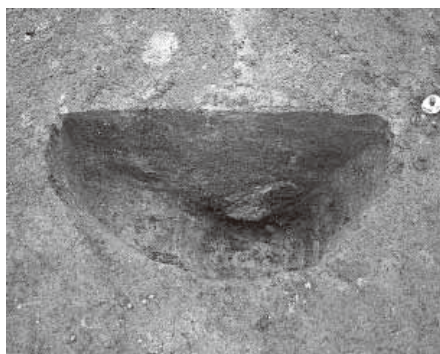
11. Ⅲ区83号ピット土層断面(西から)



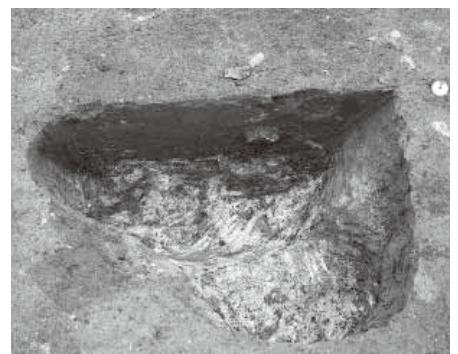
12. Ⅲ区84号ピット土層断面(南から)



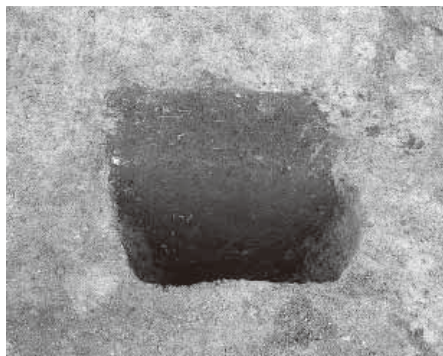
13. Ⅲ区84号ピット全景(南から)



14. Ⅲ区98号ピット土層断面(南から)



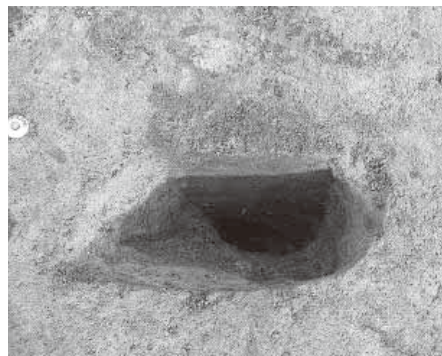
15. Ⅲ区100号ピット土層断面(南から)



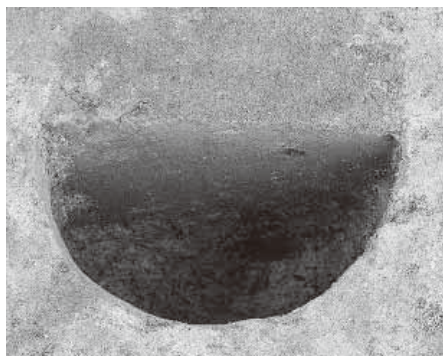
1. Ⅲ区105号ピット土層断面(東から)



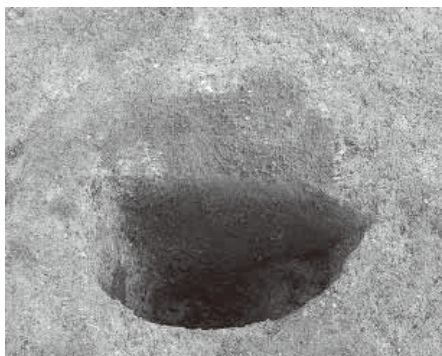
2. Ⅲ区106号ピット土層断面(東から)



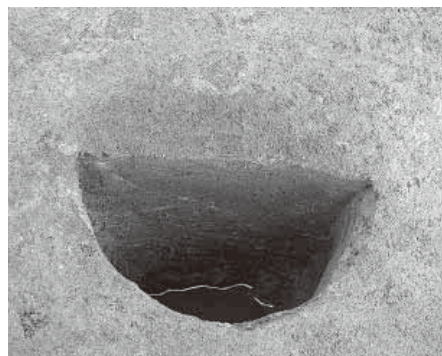
3. Ⅲ区107号ピット土層断面(南から)



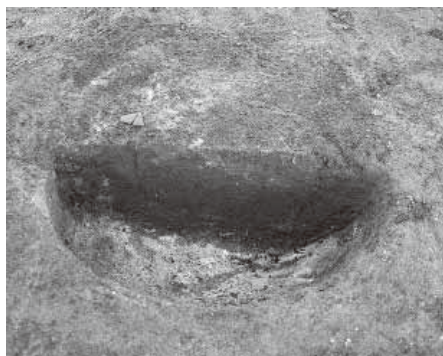
4. Ⅲ区108号ピット土層断面(南から)



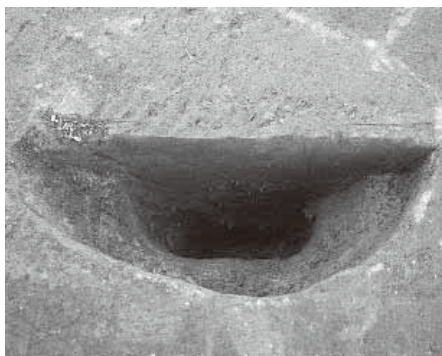
5. Ⅲ区109号ピット土層断面(南から)



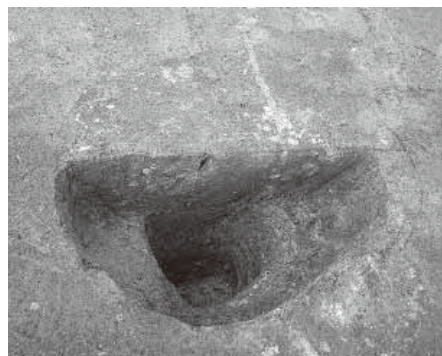
6. Ⅲ区110号ピット土層断面(南から)



7. Ⅲ区111号ピット土層断面(南から)



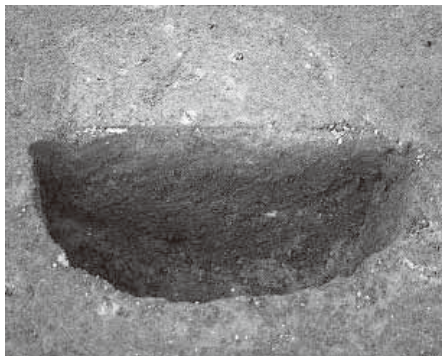
8. Ⅲ区112号ピット土層断面(南から)



9. Ⅲ区113号ピット土層断面(南から)



10. Ⅲ区114号ピット土層断面(南から)



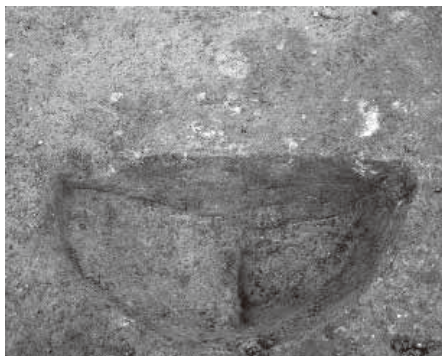
11. Ⅲ区115号ピット土層断面(南から)



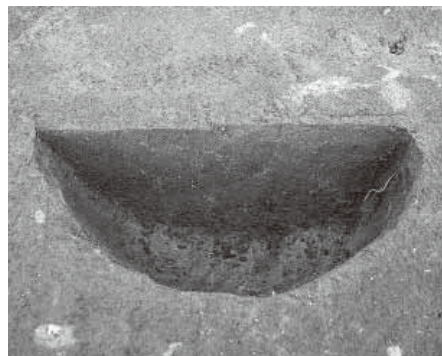
12. Ⅲ区116号ピット土層断面(南から)



13. Ⅲ区117号ピット土層断面(南から)



14. Ⅲ区118号ピット土層断面(南から)



15. Ⅲ区119号ピット土層断面(南から)



1. Ⅲ区33号溝全景(北区/北から)



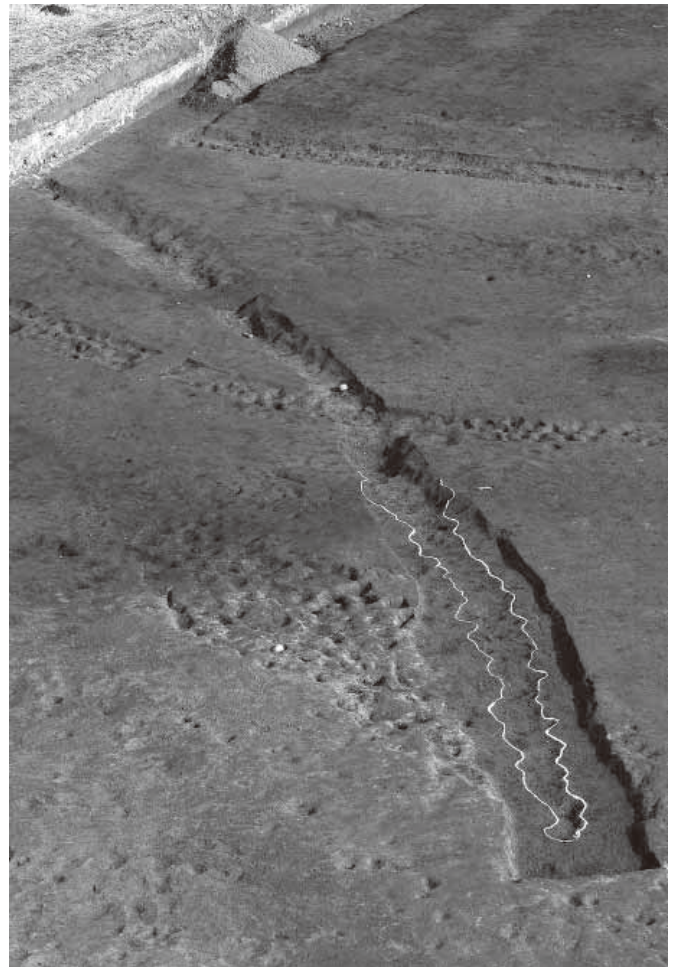
2. Ⅲ区33号溝遺物出土状態(北区/北から)



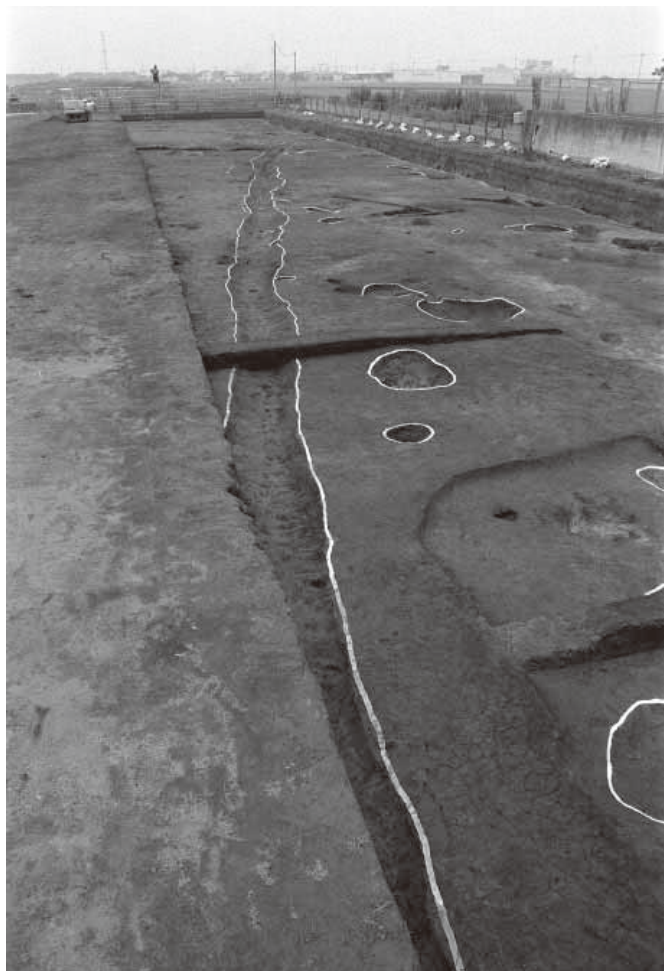
3. Ⅲ区33号溝土層断面(北区/北から)



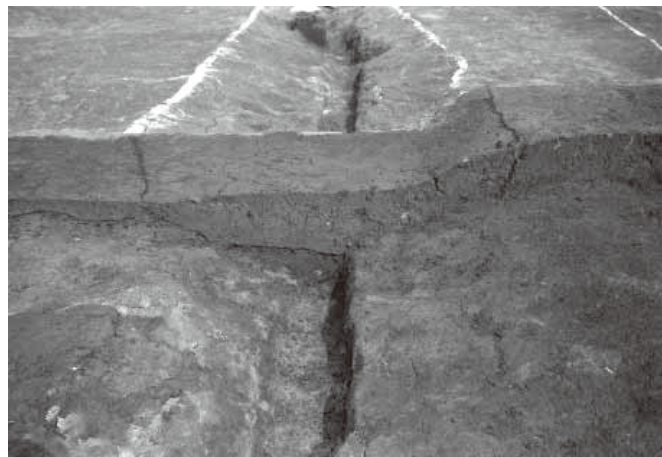
4. Ⅲ区33号溝勾玉出土状態(北区)



5. Ⅲ区33号溝全景(中央区/西から)



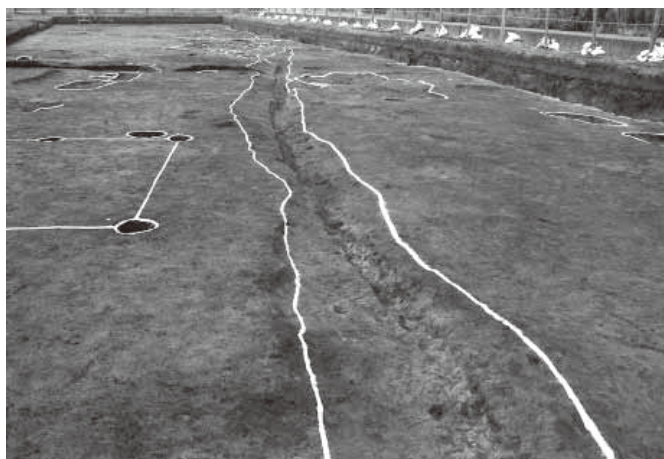
1. Ⅲ区34号溝全景(東から)



2. Ⅲ区34号溝土層断面A-A' (西から)



3. Ⅲ区34号溝土層断面B-B' (西から)



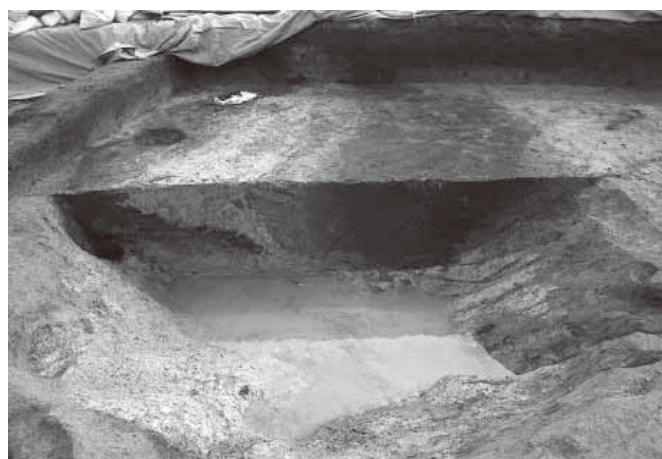
4. Ⅲ区34号溝全景(東から)



5. Ⅲ区34号溝須恵器出土状態(西から)



6. Ⅲ区34号溝土錘出土状態(西から)



7. Ⅲ区倒木痕土層断面(南から)



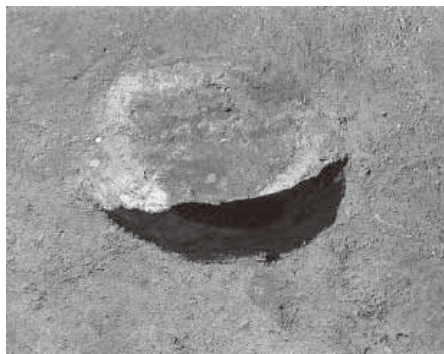
1. IV区古代～古墳時代遺構面全景(南区/東から)



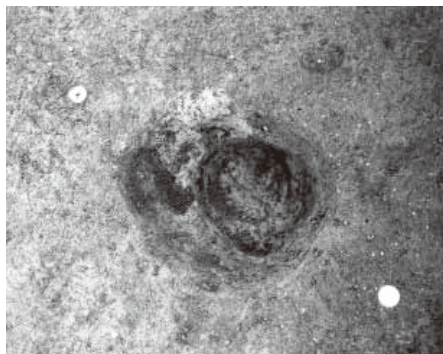
2. IV区古代～古墳時代遺構面全景(北区/東から)



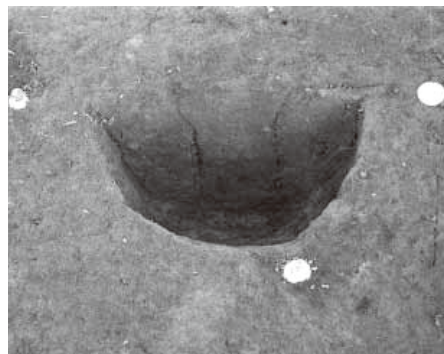
3. IV区・V区古代～古墳時代遺構群近景(北区/上空から)



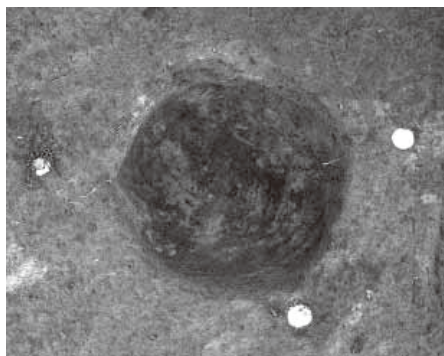
1. IV区1号掘立P 1 土層断面(南西から)



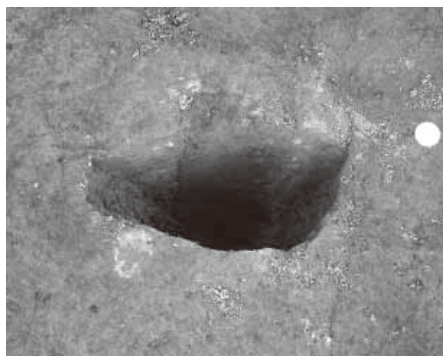
2. IV区1号掘立P 1 全景(南から)



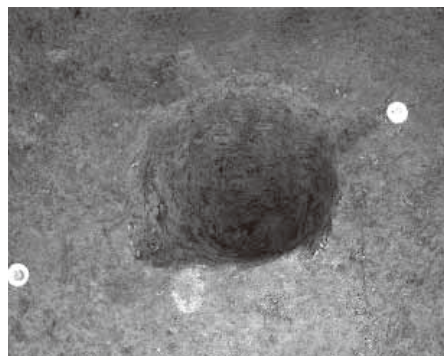
3. IV区1号掘立P 2 土層断面(西から)



4. IV区1号掘立P 2 全景(西から)



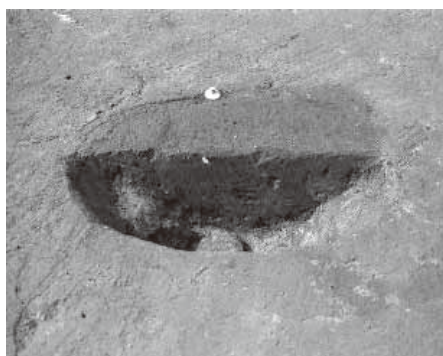
5. IV区1号掘立P 3 土層断面(西から)



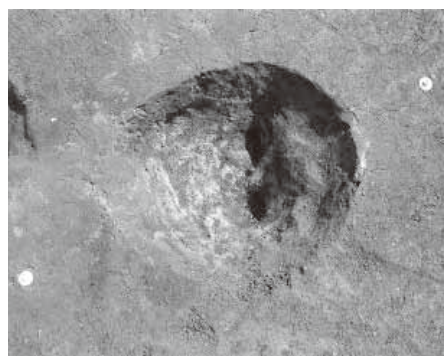
6. IV区1号掘立P 3 全景(西から)



7. IV区1号掘立P 4 土層断面(南西から)



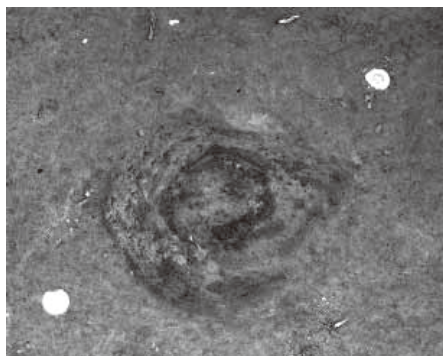
8. IV区1号掘立P 5 土層断面(東から)



9. IV区1号掘立P 5 全景(西から)



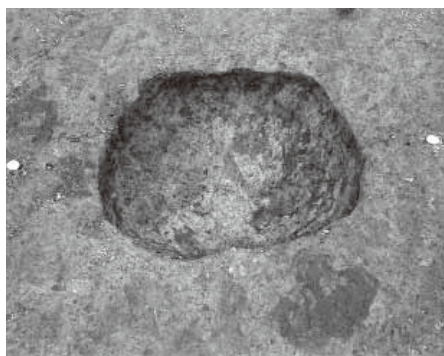
10. IV区1号掘立P 6 土層断面(南西から)



11. IV区1号掘立P 6 全景(西から)



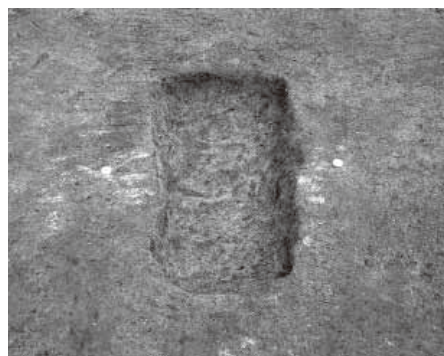
12. IV区13号土坑土層断面(東から)



13. IV区13号土坑全景(西から)



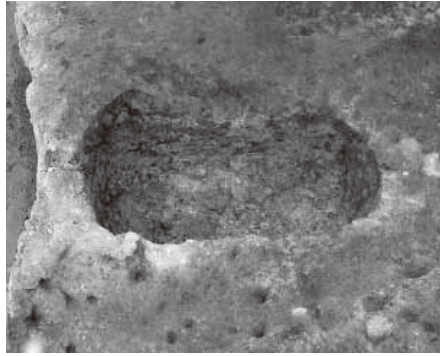
14. IV区14号土坑土層断面(南から)



15. IV区14号土坑全景(南から)



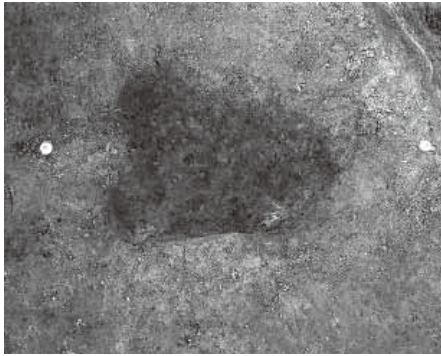
1. IV区10号土坑土層断面(東から)



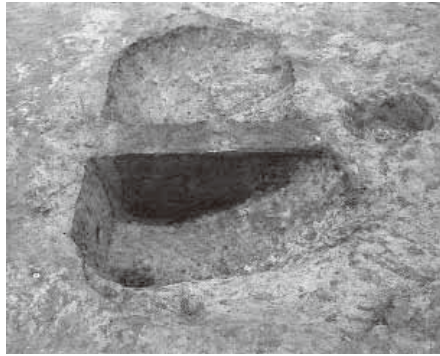
2. IV区10号土坑全景(東から)



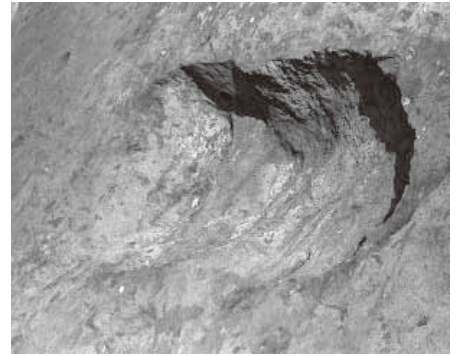
3. IV区16号土坑土層断面(南から)



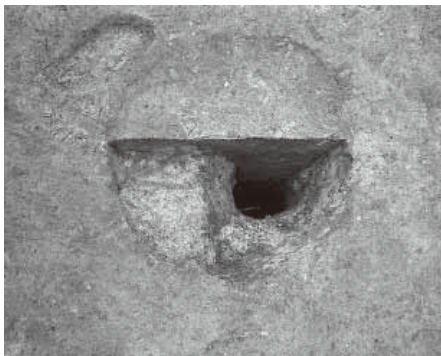
4. IV区16号土坑全景(南から)



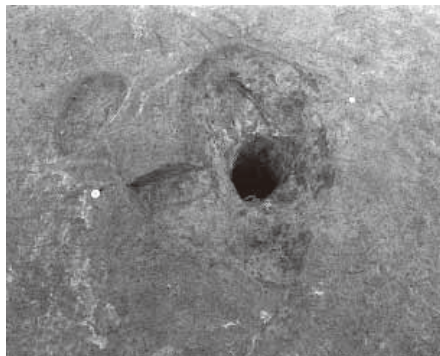
5. IV区17号土坑土層断面(北から)



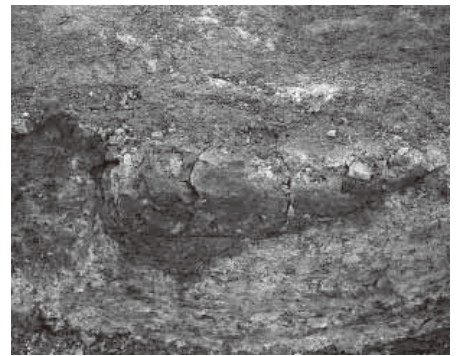
6. IV区17号土坑全景(南から)



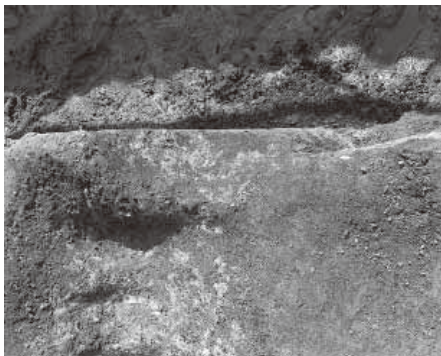
7. IV区18号土坑土層断面(南から)



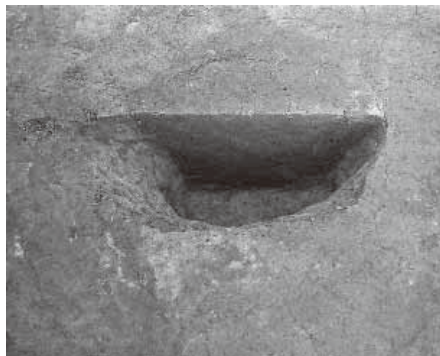
8. IV区18号土坑全景(南から)



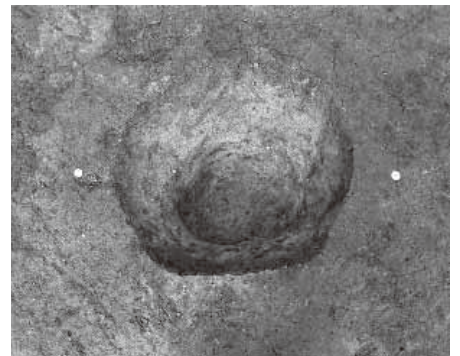
9. IV区19号土坑土層断面(南から)



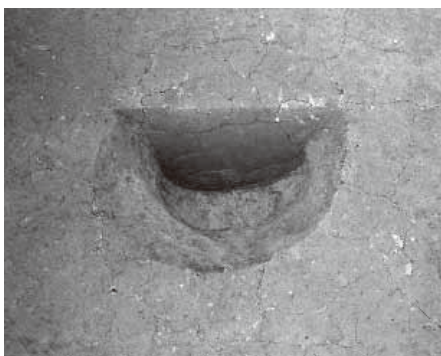
10. IV区19号土坑全景(西から)



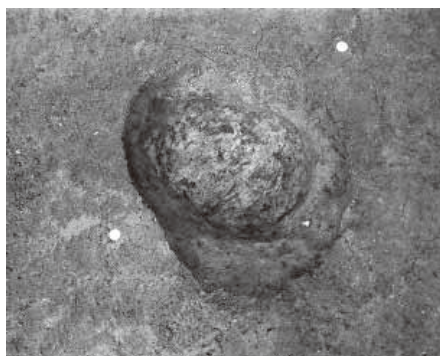
11. IV区27号土坑土層断面(南から)



12. IV区27号土坑全景(南から)



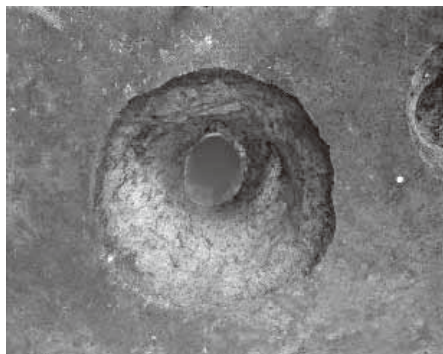
13. IV区28号土坑土層断面(南から)



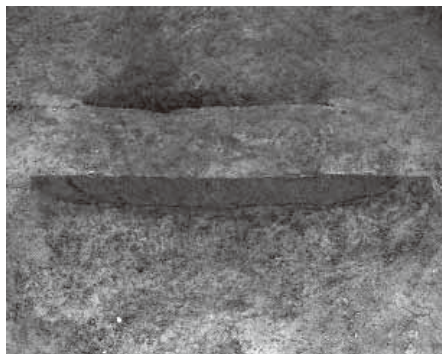
14. IV区28号土坑全景(南から)



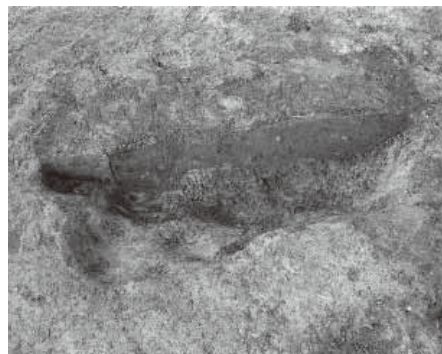
15. IV区29号土坑土層断面(東から)



1. IV区29号土坑全景(南から)



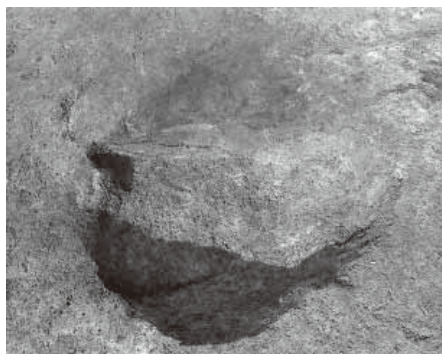
2. IV区30号土坑土層断面(北から)



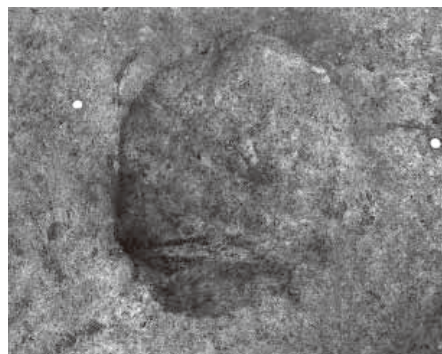
3. IV区31号土坑土層断面(南から)



4. IV区32号土坑土層断面(南から)



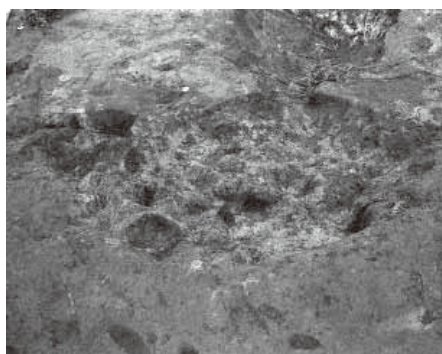
5. IV区33号土坑土層断面(南から)



6. IV区33号土坑全景(南から)



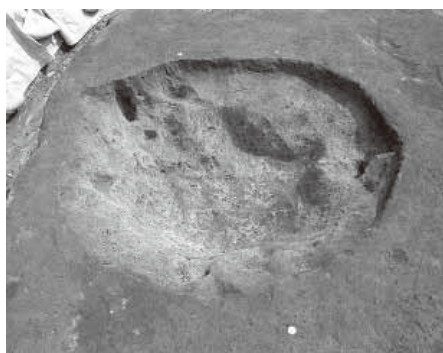
7. IV区34号土坑土層断面(南から)



8. IV区34号土坑全景(南から)



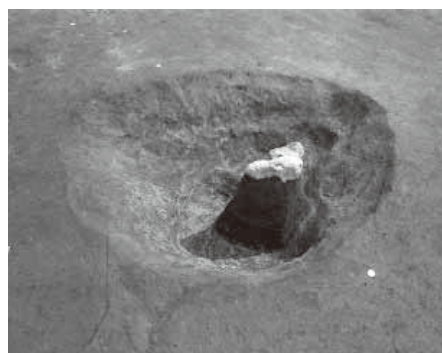
9. IV区38号土坑土層断面(南から)



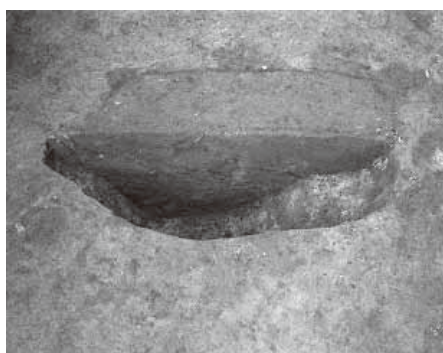
10. IV区38号土坑全景(西から)



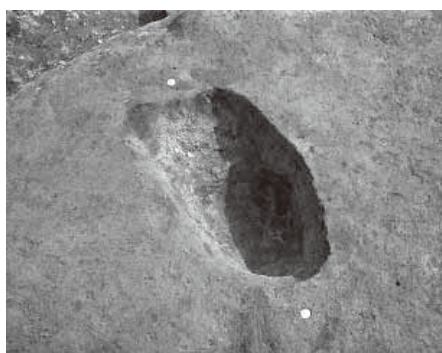
11. IV区39号土坑土層断面(南から)



12. IV区39号土坑遺物出土状態(西から)



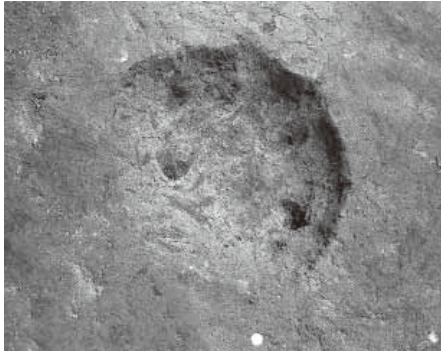
13. IV区40号土坑土層断面(南から)



14. IV区40号土坑全景(西から)



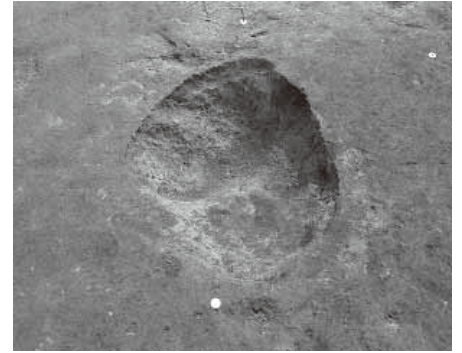
15. IV区41号土坑土層断面(南から)



1. IV区41号土坑全景(西から)



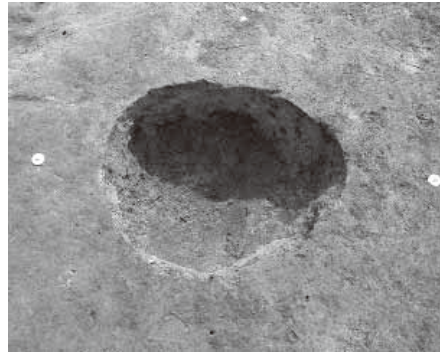
2. IV区42号土坑土層断面(西から)



3. IV区42号土坑全景(南から)



4. IV区43号土坑土層断面(南から)



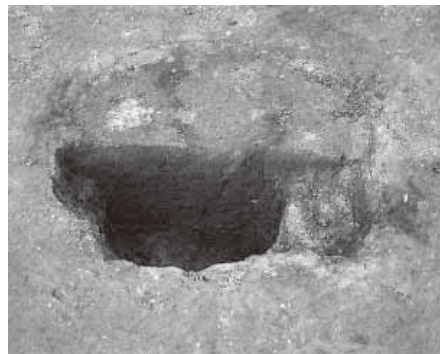
5. IV区43号土坑全景(西から)



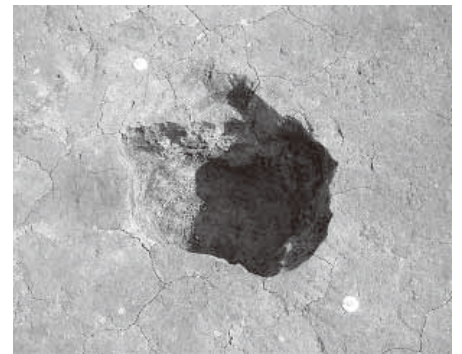
6. IV区44号土坑土層断面(南から)



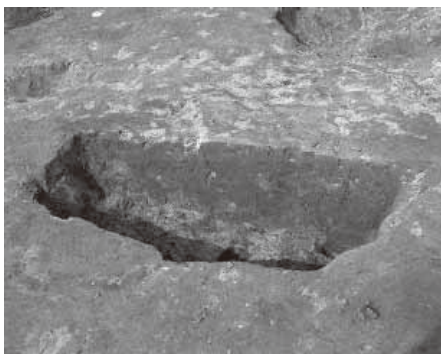
7. IV区44号土坑全景(西から)



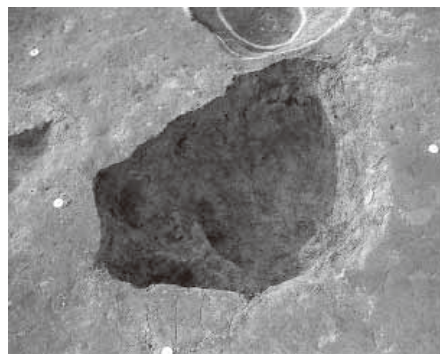
8. IV区45号土坑土層断面(南から)



9. IV区45号土坑全景(西から)



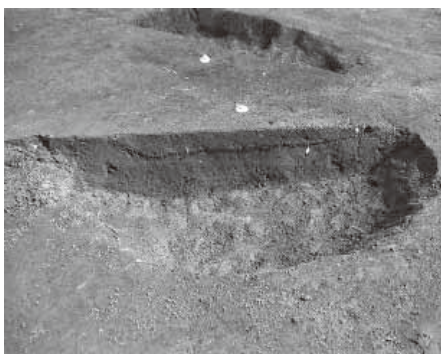
10. IV区46号土坑土層断面(南東から)



11. IV区46号土坑全景(東から)



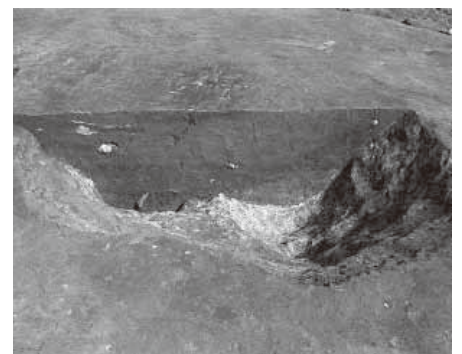
12. IV区47号土坑土層断面(東から)



13. IV区48号土坑土層断面(南西から)



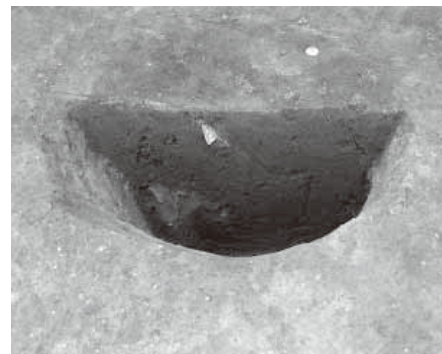
14. IV区47号・48号土坑全景(東から)



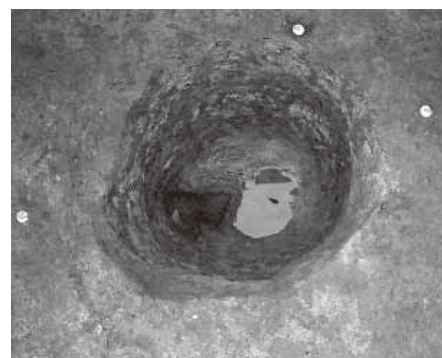
15. IV区49号土坑土層断面(南から)



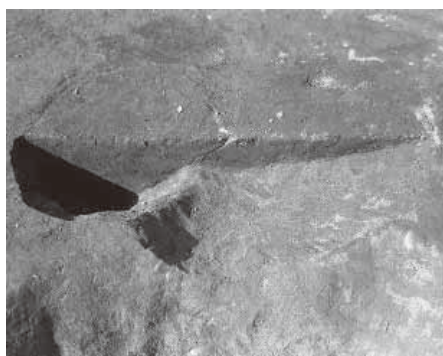
1. IV区49号土坑全景(東から)



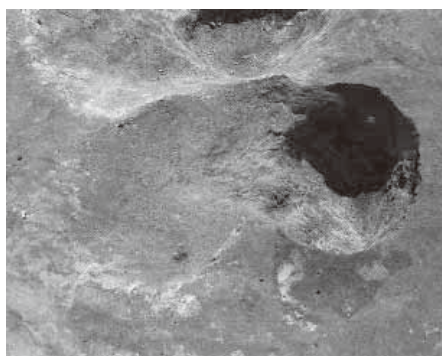
2. IV区50号土坑土層断面(東から)



3. IV区50号土坑全景(東から)



4. IV区56号・57号土坑土層断面(南から)



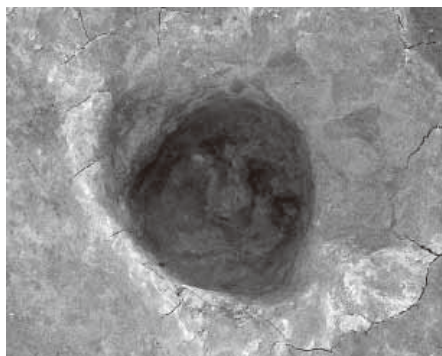
5. IV区56号・57号土坑全景(北から)



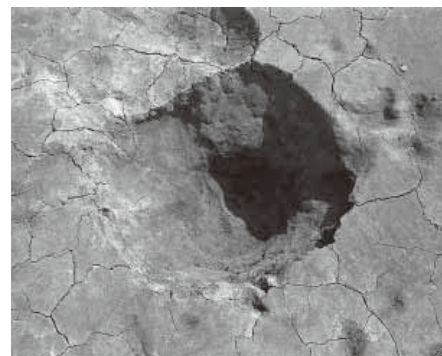
6. IV区63号土坑土層断面(南から)



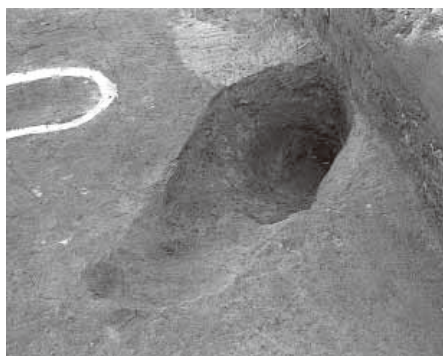
7. IV区63号土坑全景(東から)



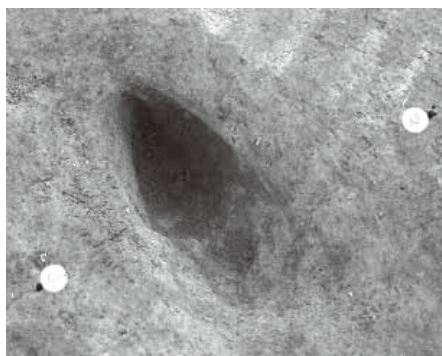
8. IV区66号土坑全景(北から)



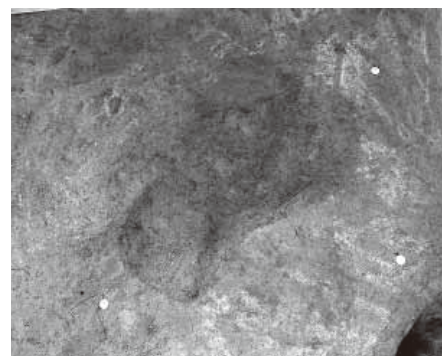
9. IV区67号土坑全景(北から)



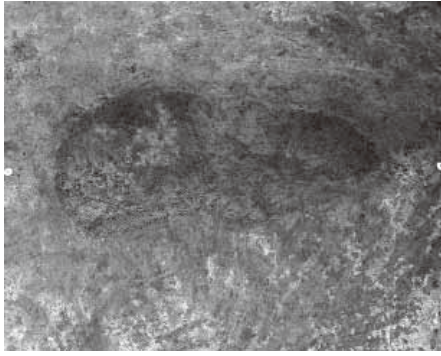
10. IV区4号ピット全景(東から)



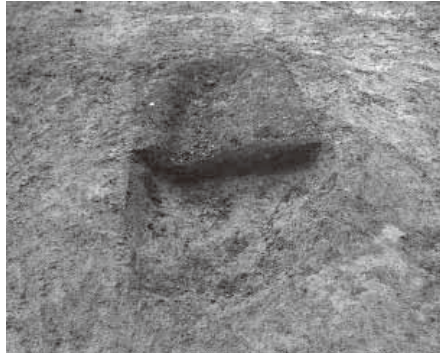
11. IV区5号ピット全景(北から)



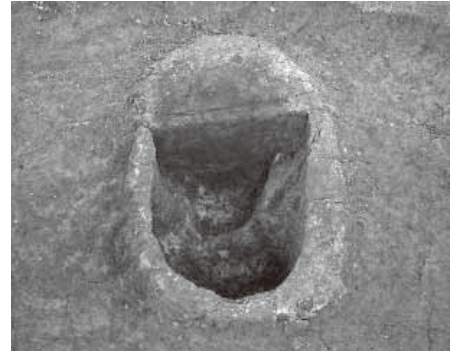
12. IV区6号・7号ピット全景(東から)



1. IV区8号ピット全景(北から)



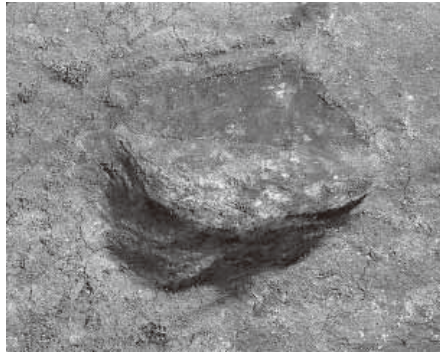
2. IV区10号ピット土層断面(東から)



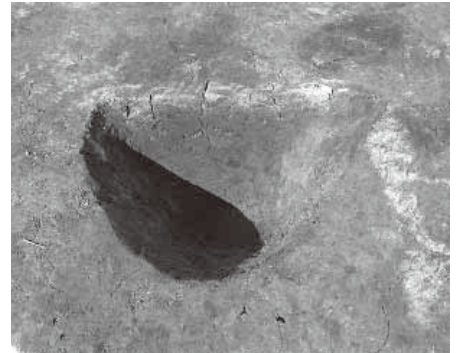
3. IV区12号ピット土層断面(西から)



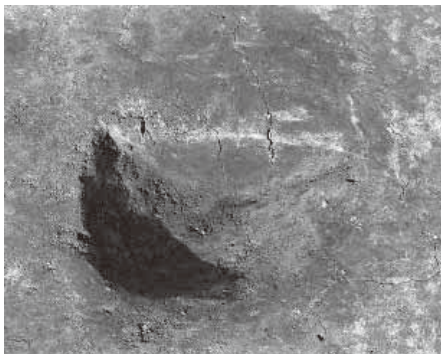
4. IV区13号ピット土層断面(西から)



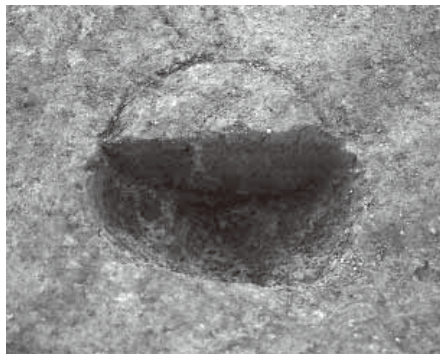
5. IV区14号ピット土層断面(南から)



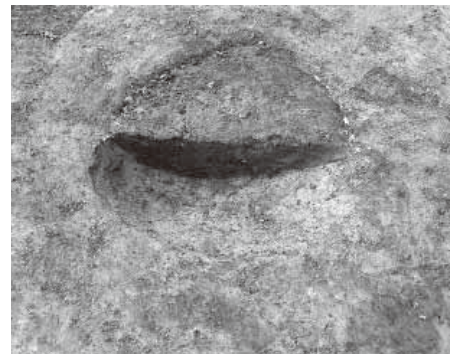
6. IV区15号ピット土層断面(南から)



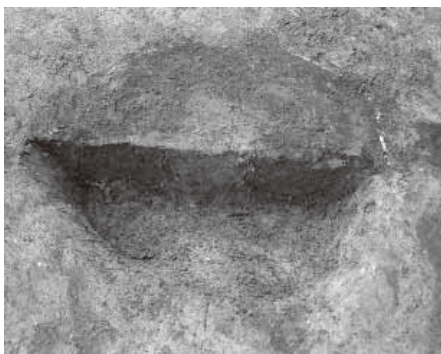
7. IV区16号ピット土層断面(南から)



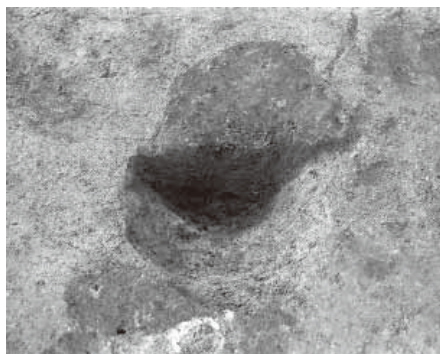
8. IV区17号ピット土層断面(南から)



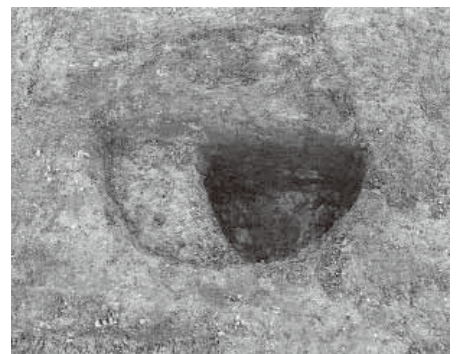
9. IV区18号ピット土層断面(東から)



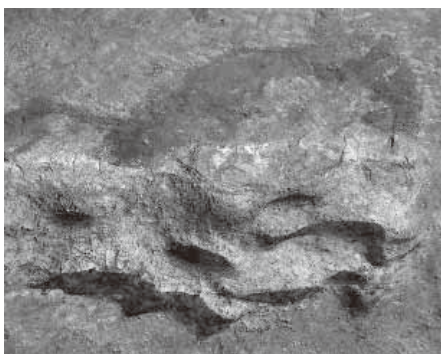
10. IV区19号ピット土層断面(東から)



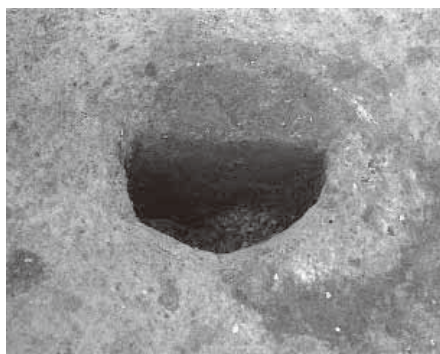
11. IV区20号ピット土層断面(東から)



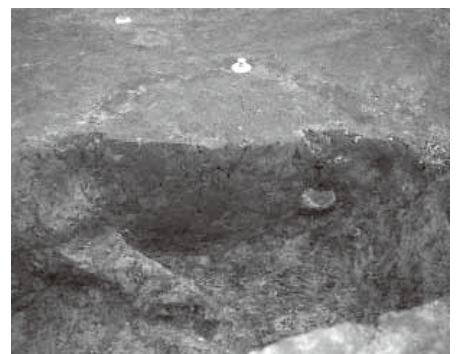
12. IV区21号ピット土層断面(南西から)



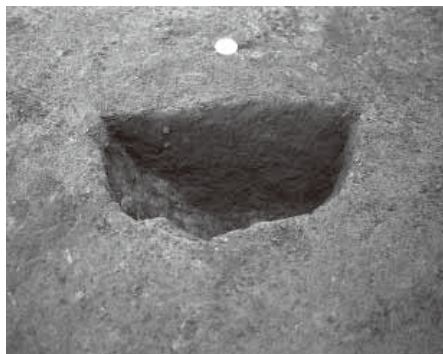
13. IV区22号ピット土層断面(南から)



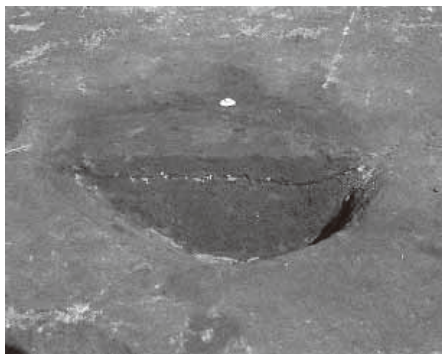
14. IV区23号ピット土層断面(南から)



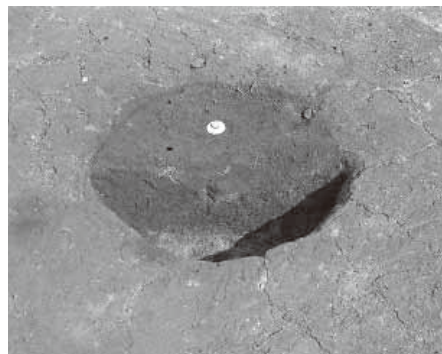
15. IV区24号ピット土層断面(西から)



1. IV区25号ピット土層断面(南から)



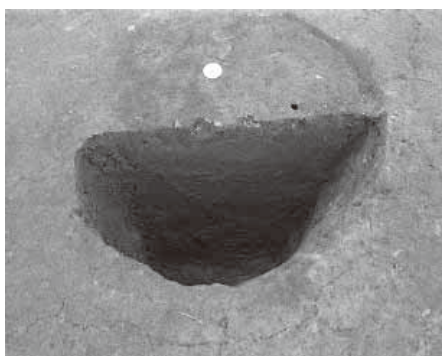
2. IV区26号ピット土層断面(南から)



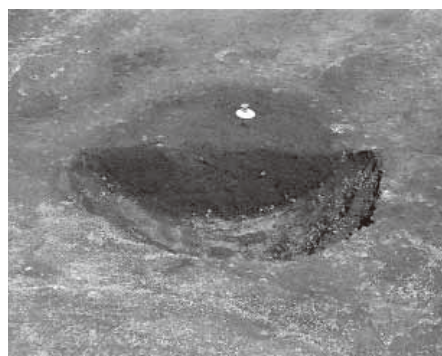
3. IV区28号ピット土層断面(南から)



4. IV区29号ピット土層断面(南から)



5. IV区30号ピット土層断面(南から)



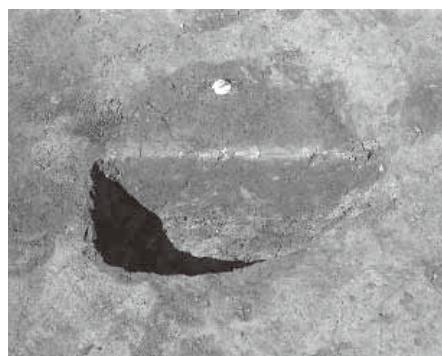
6. IV区31号ピット土層断面(南から)



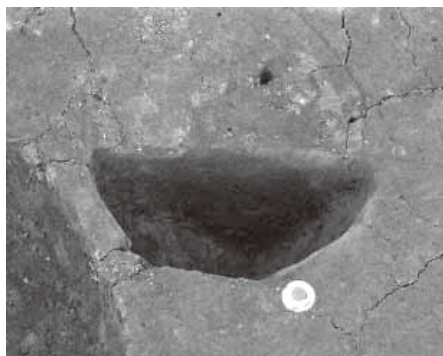
7. IV区32号ピット土層断面(南東から)



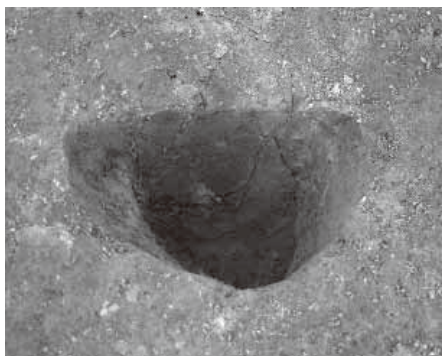
8. IV区33号ピット土層断面(南から)



9. IV区34号ピット土層断面(南東から)



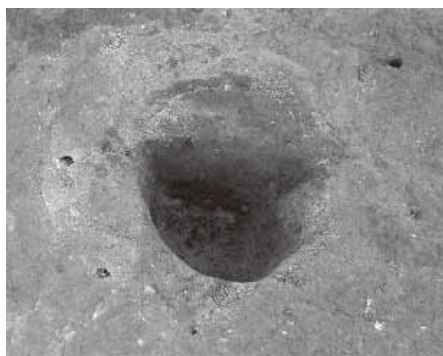
10. IV区42号ピット土層断面(南から)



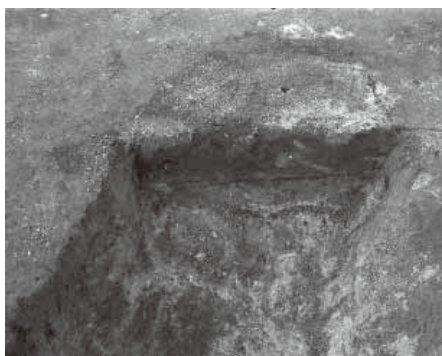
11. IV区43号ピット土層断面(南から)



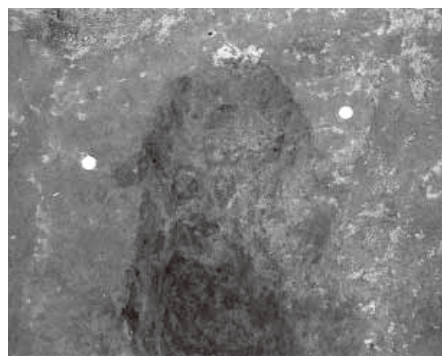
12. IV区古代～古墳時代遺構面調査風景



13. IV区94号ピット土層断面(南から)



14. IV区95号ピット土層断面(南から)



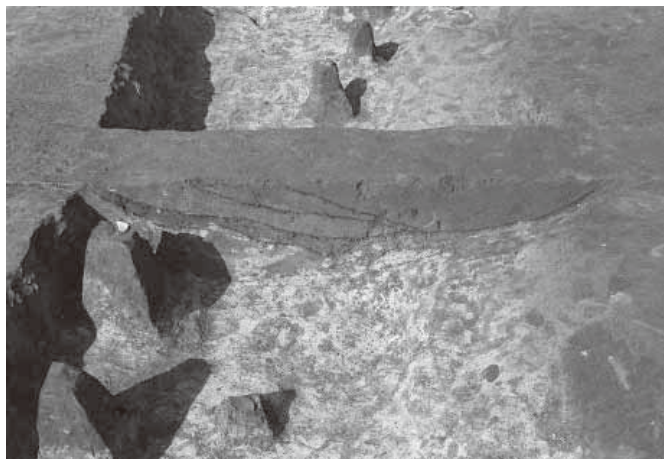
15. IV区95号ピット全景((南から)



1. IV区1号・2号方形周溝墓全景(上空から)



2. IV区1号方形周溝墓全景(北西から)



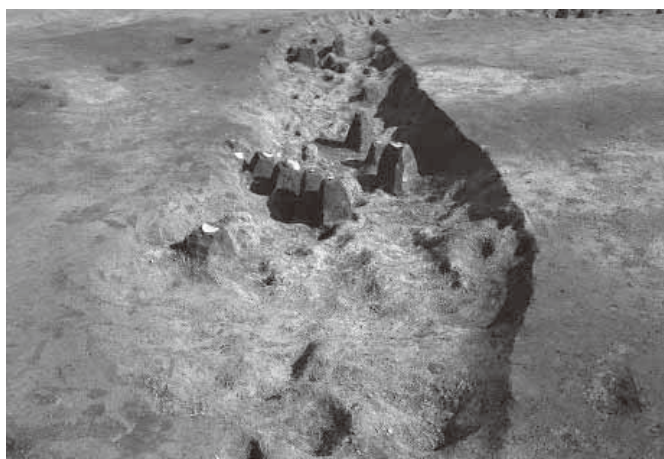
1. IV区1号方形周溝墓周溝土層断面(南東から)



2. IV区1号方形周溝墓周溝土層断面(南西から)



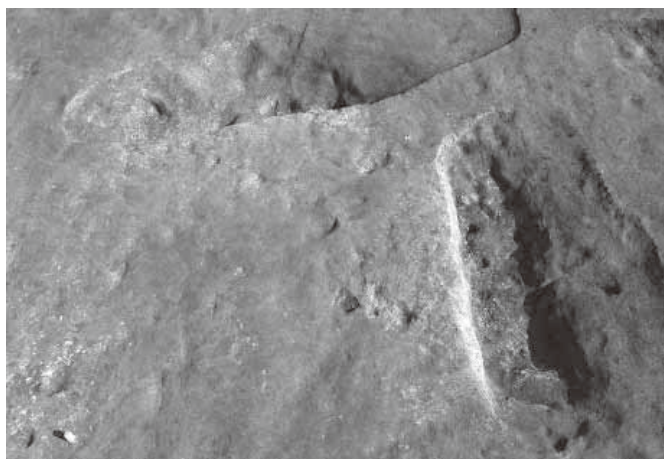
3. IV区1号方形周溝墓周溝遺物出土状態(北東から)



4. IV区1号方形周溝墓周溝遺物出土状態(南西から)



5. IV区1号方形周溝墓全景(北東から)



6. IV区2号方形周溝墓全景(上空から)



7. IV区2号方形周溝墓周溝土層断面(西から)



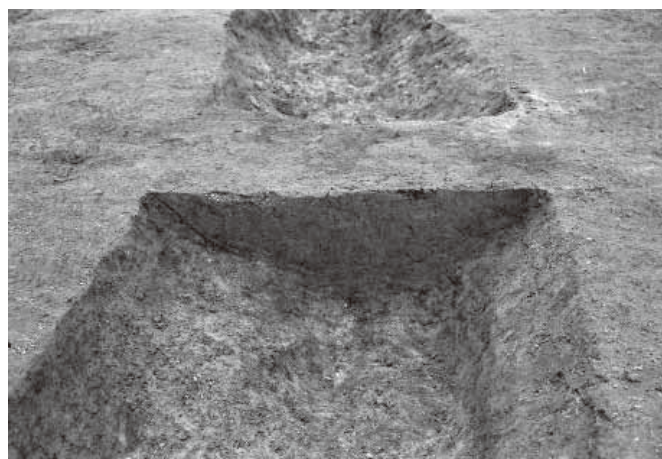
8. IV区2号方形周溝墓周溝土層断面(北から)



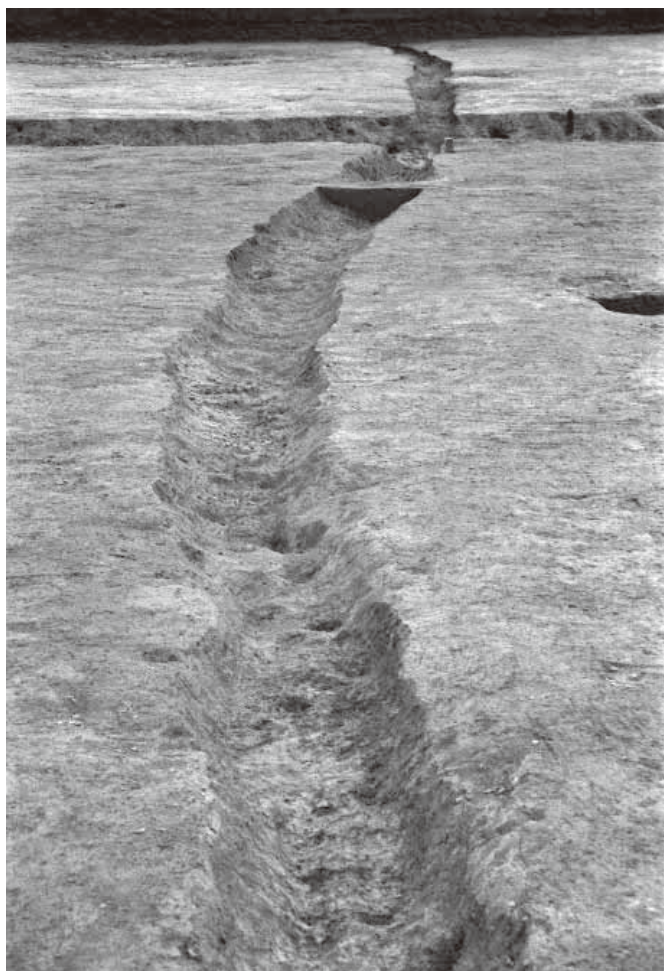
1. IV区17号溝全景(南から)



2. IV区16号溝全景(西から)



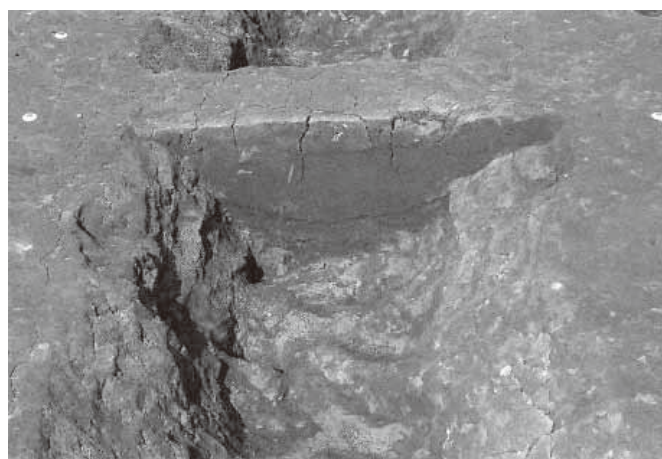
3. IV区17号溝土層断面(南から)



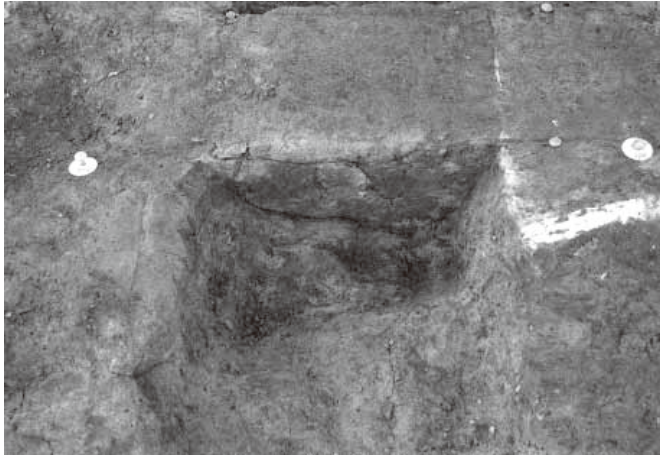
4. IV区17号溝全景(南から)



5. IV区18号溝土層断面(南から)



6. IV区18号溝土層断面(南東から)



1. IV区19号溝土層断面(南から)



2. IV区18号・19号溝・1号凹地全景(南区/南から)



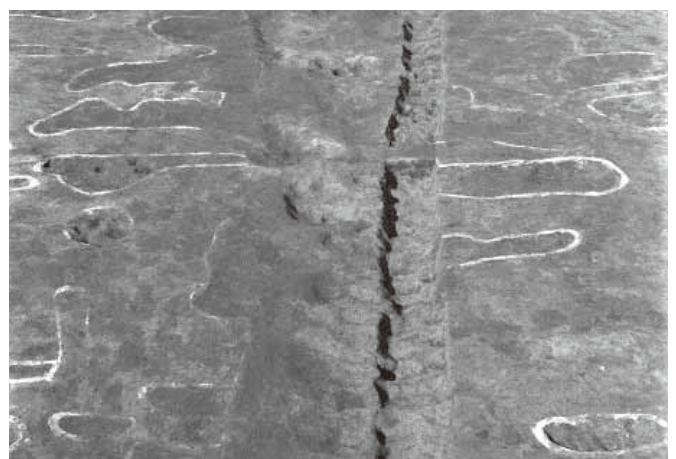
3. IV区18号・19号溝土層断面(南から)



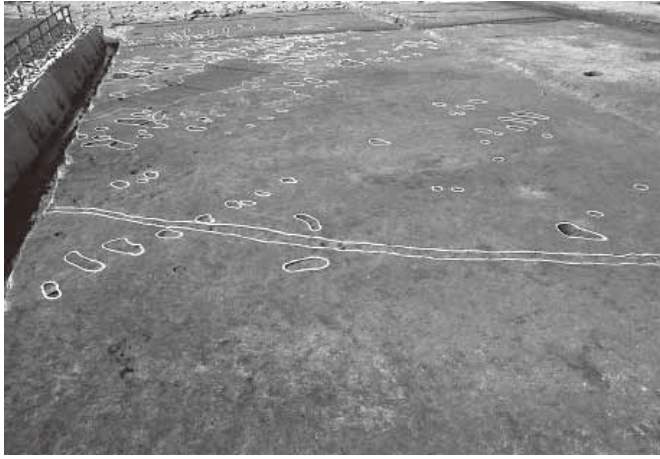
4. IV区18号・19号溝・1号凹地全景(北区/上空から)



5. IV区南区18号・19号溝全景(南区/南から)



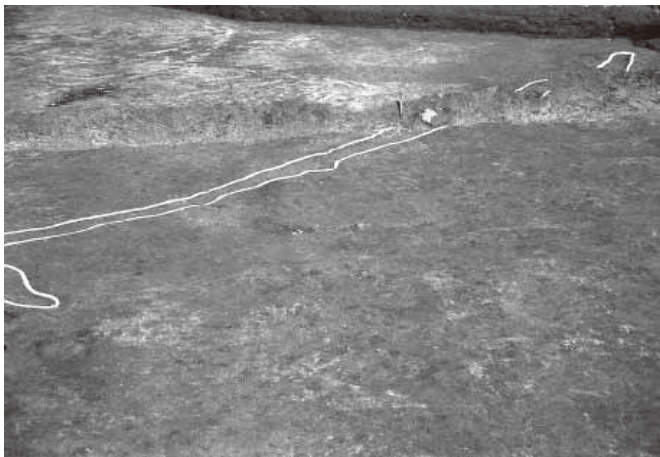
6. IV区南区18号・19号溝近景(南区/南から)



1. IV区20号溝南半全景(東から)



2. IV区20号溝北半全景(南東から)



3. IV区21号溝全景(東から)



4. IV区20号～22号溝全景(東から)



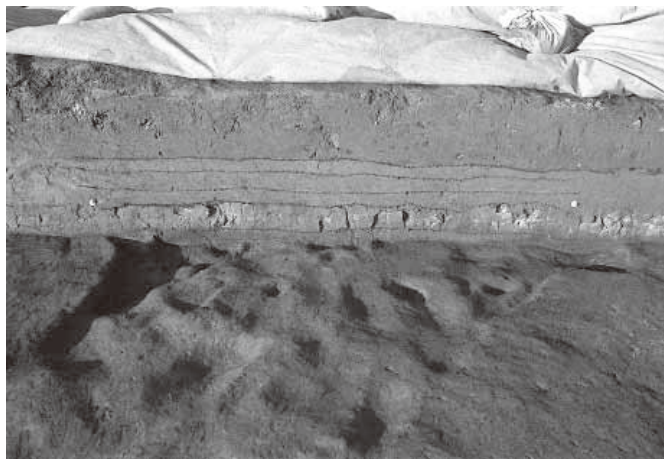
5. IV区20号溝全景(南から)



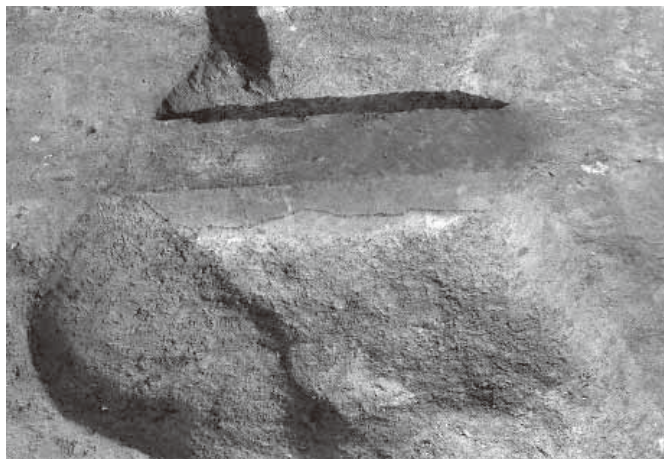
6. IV区21号溝土層断面(南から)



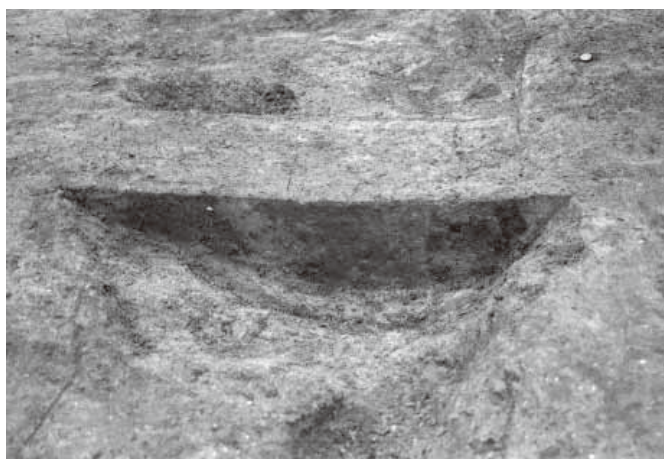
7. IV区24号溝全景(南西から)



1. IV区24号溝土層断面(南から)



2. IV区25号溝土層断面(南から)



3. IV区26号溝土層断面(西から)



4. IV区27号溝土層断面(北から)



5. IV区26号溝・34号土坑全景(北東から)



6. IV区27号溝遺物出土状態全景(北から)



1. IV区29号溝全景(南から)



2. IV区28号溝土層断面(北東から)



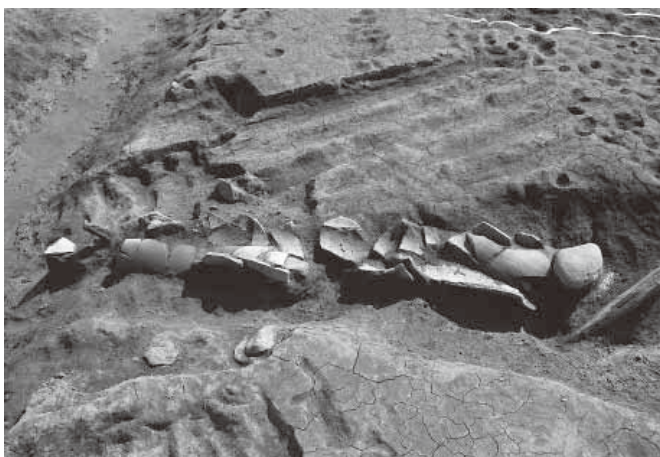
3. IV区30号溝土層断面(南から)



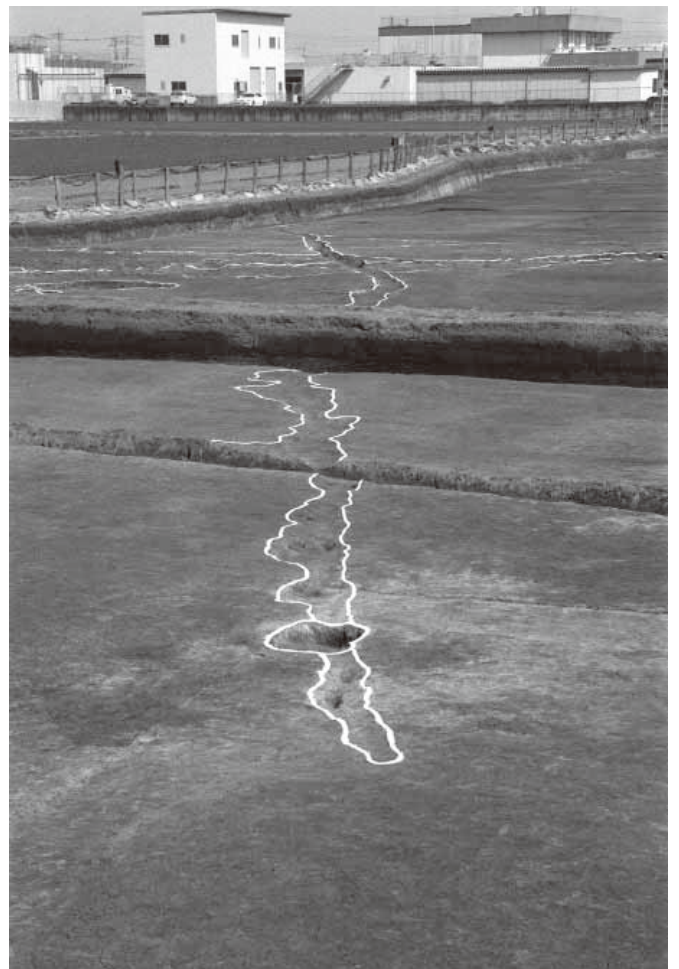
4. IV区28号溝全景(北から)



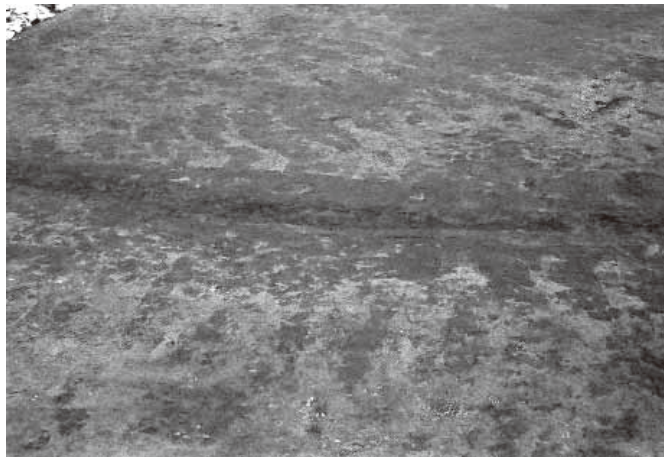
5. IV区30号溝全景(南から)



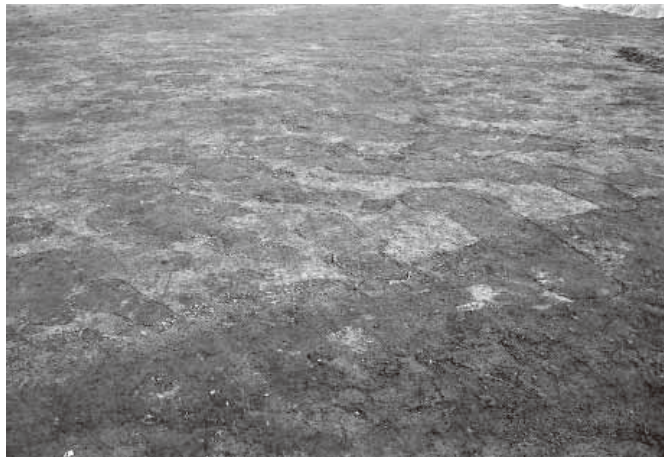
6. IV区36号溝全景(西から)



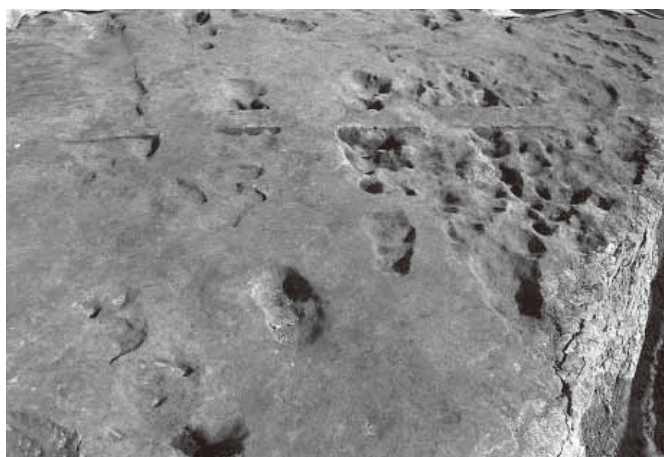
7. IV区40号溝・75号土坑全景(南西から)



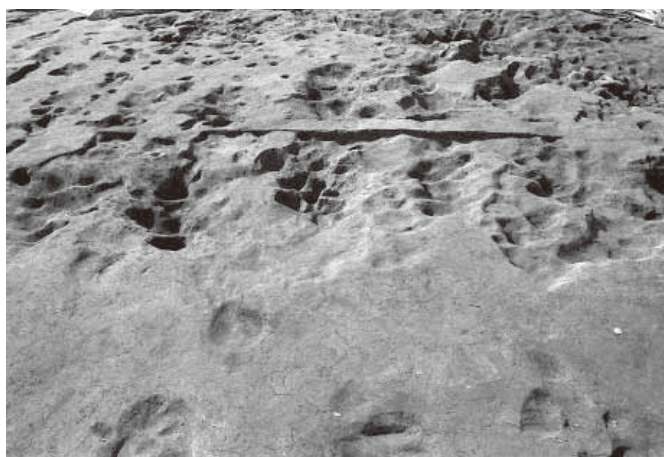
1. IV区1号島南半確認状況(東から)



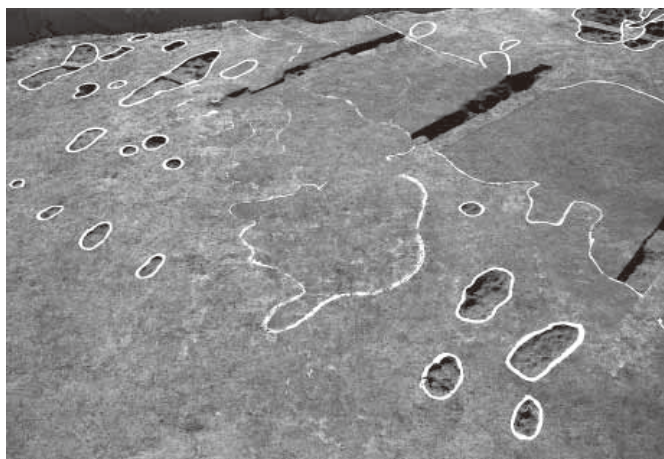
2. IV区1号島北半確認状況(東から)



3. IV区1号島土層断面(南西から)



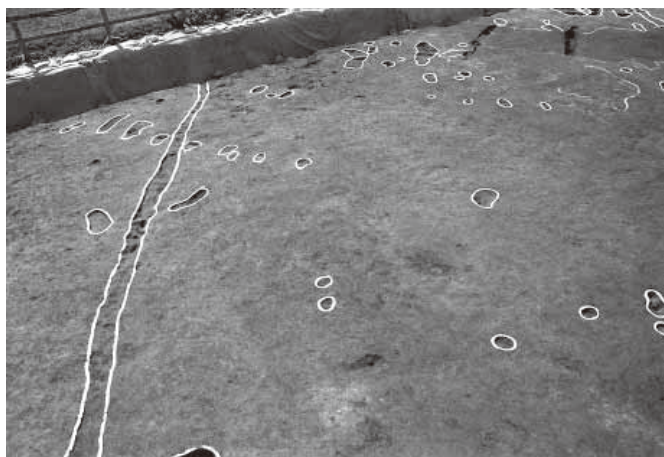
4. IV区1号島土層断面(北東から)



5. IV区1号島・1号凹地近景(北東から)



6. IV区1号島近景(北東から)



7. IV区1号島・2号溝全景(北東から)



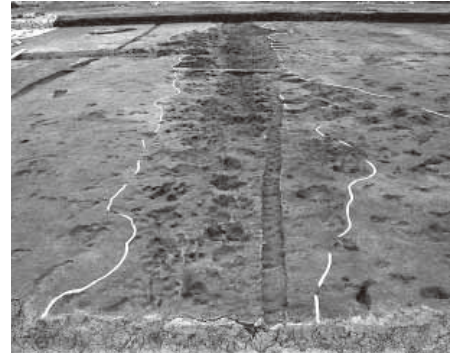
8. IV区3号島全景(北から)



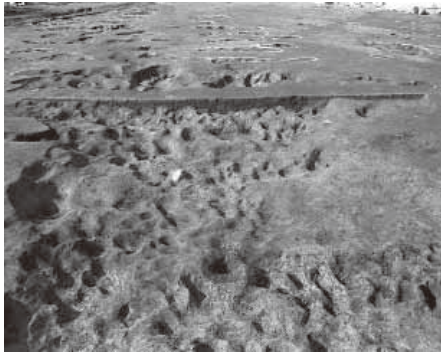
1. IV区1号凹地全景(北から)



2. IV区1号凹地土層断面(南から)



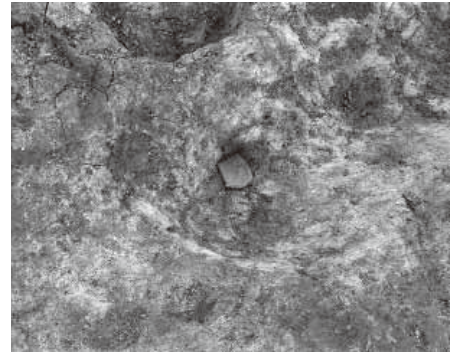
3. IV区1号凹地全景(南から)



4. IV区1B号凹地土層断面(南から)



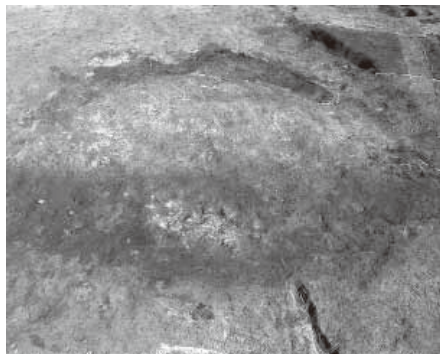
5. IV区1B号凹地全景(南から)



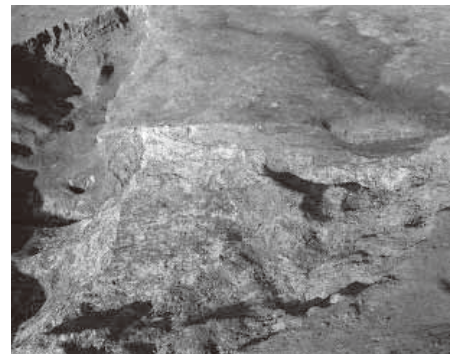
6. IV区1号凹地遺物出土状態(南から)



7. IV区1号倒木痕土層断面(南から)



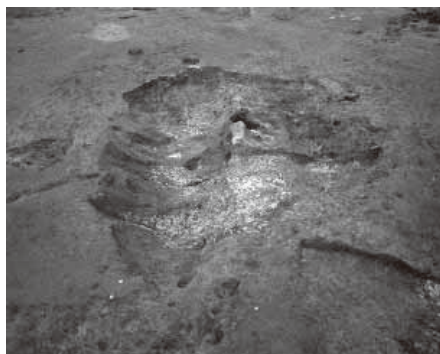
8. IV区2号倒木痕焼土(西から)



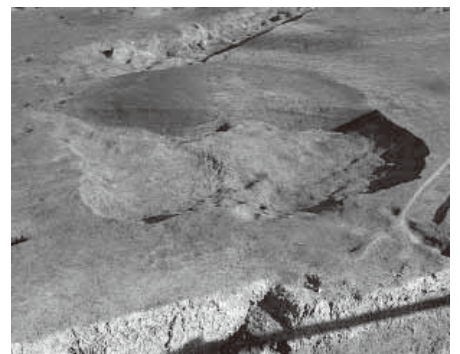
9. IV区2号倒木痕土層断面(南から)



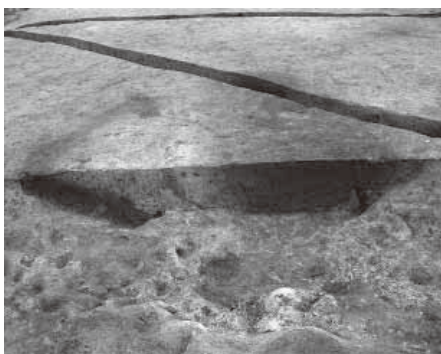
10. IV区2号倒木痕焼土断面(南東から)



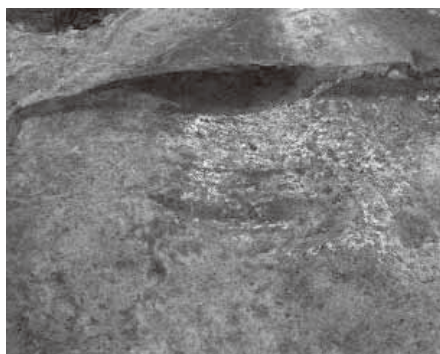
11. IV区2号倒木痕全景(南から)



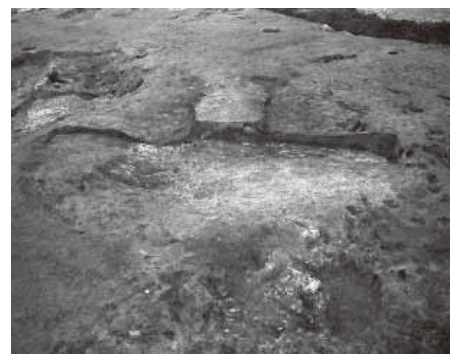
12. IV区3号倒木痕土層断面(南から)



13. IV区4号倒木痕土層断面(北西から)



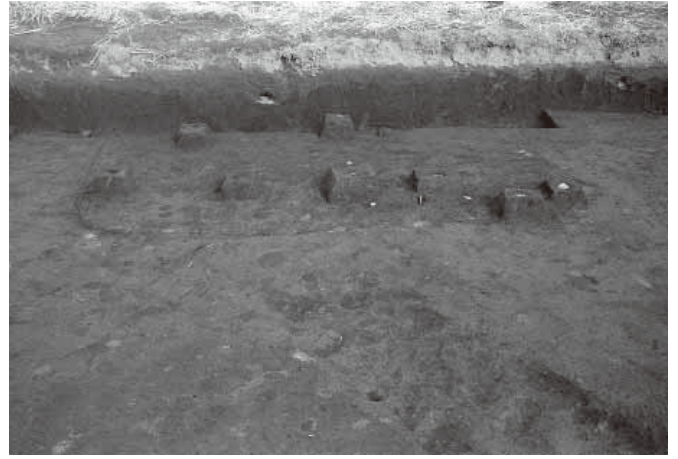
14. IV区5号倒木痕土層断面(南から)



15. IV区5号倒木痕全景(南から)



1. V区古代～古墳時代遺構面全景(西区/東から)



2. V区1号住居確認状況(西から)



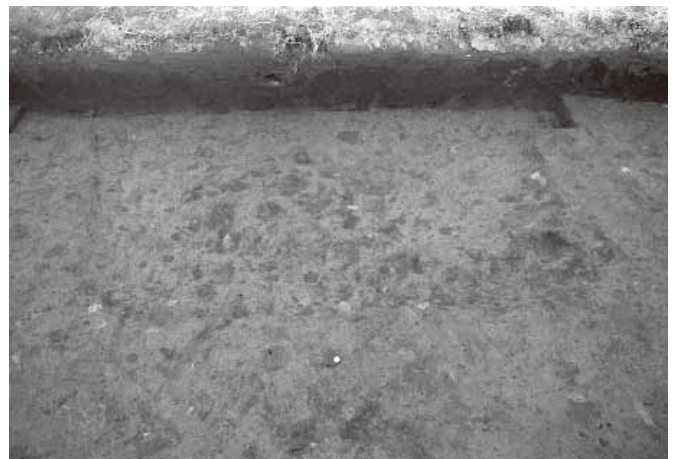
3. V区古代～古墳時代遺構面全景(東から)



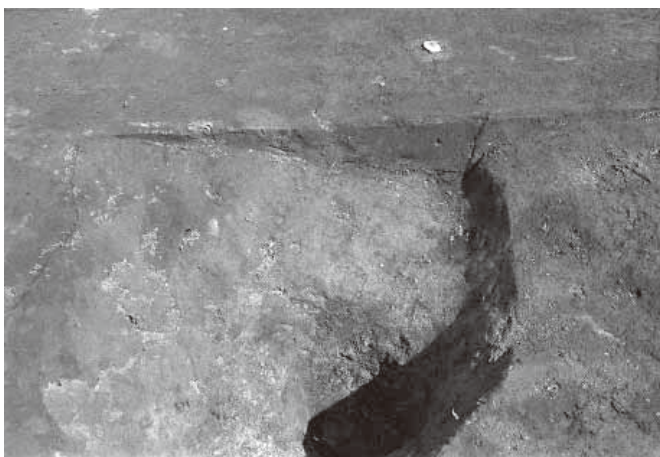
4. V区1号住居土層断面(南から)



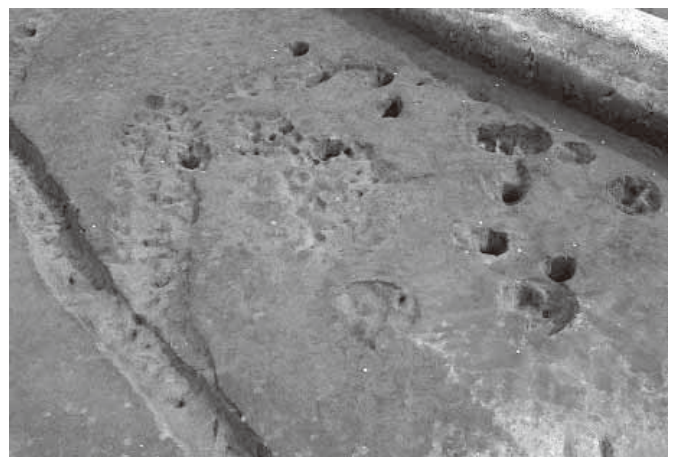
5. V区2号住居掘り方土層断面(南西から)



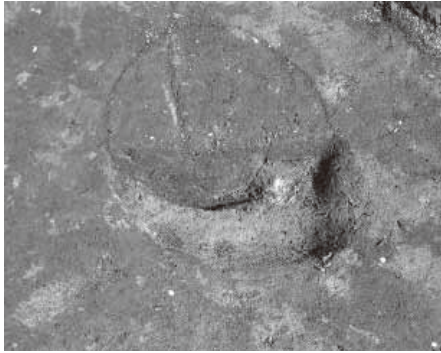
6. V区1号住居全景(西から)



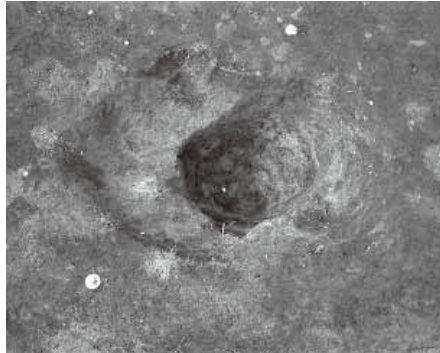
7. V区2号住居掘り方東側部土層断面(南西から)



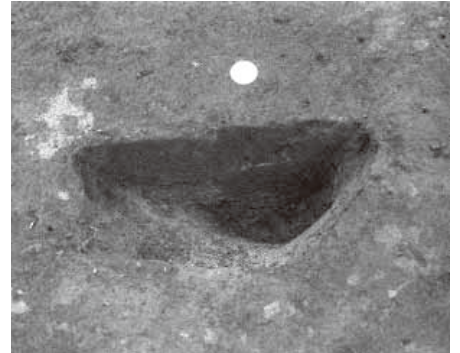
8. V区2号住居全景(南西から)



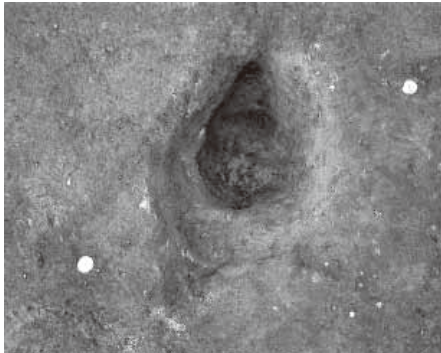
1. V区45号ピット土層断面(南西から)



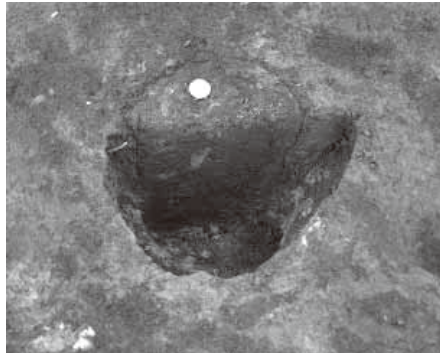
2. V区45号ピット全景(東から)



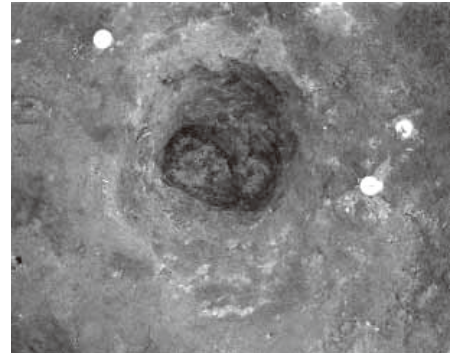
3. V区92号ピット土層断面(南から)



4. V区92号ピット全景(南西から)



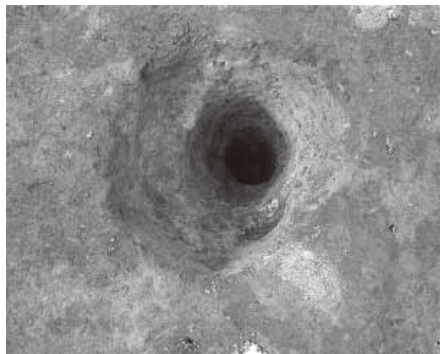
5. V区91号ピット土層断面(南から)



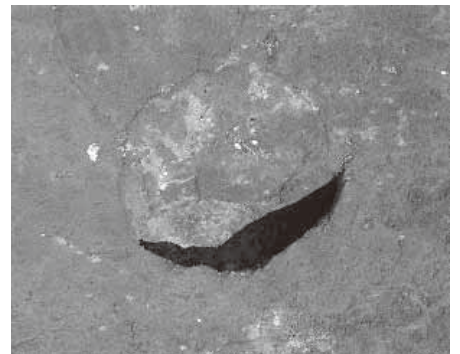
6. V区91号ピット全景(北から)



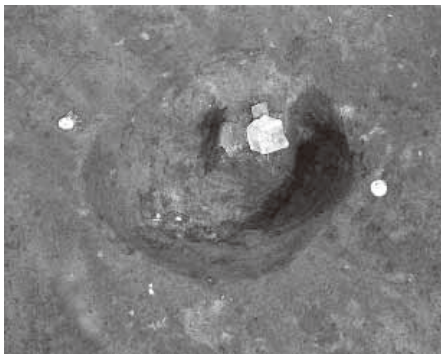
7. V区46号ピット土層断面(南から)



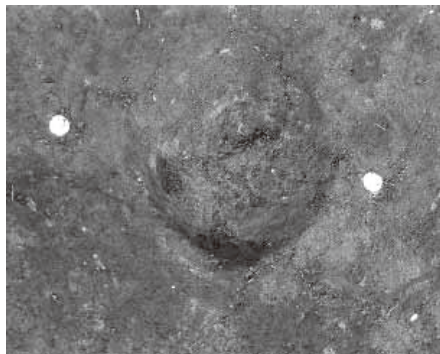
8. V区46号ピット全景(東から)



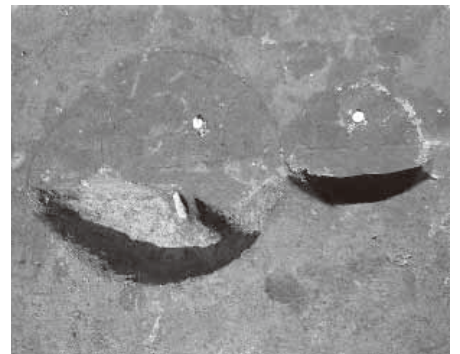
9. V区47号ピット土層断面(南から)



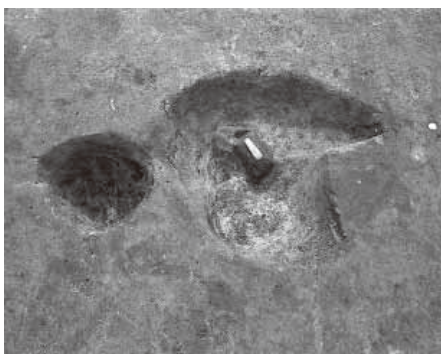
10. V区47号ピット遺物出土状態(南から)



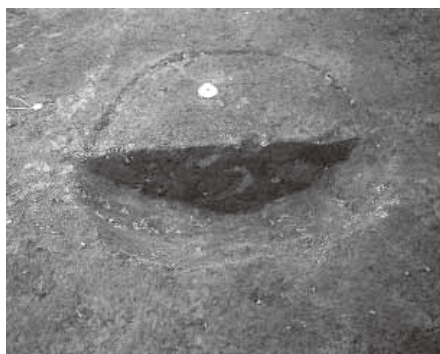
11. V区66号ピット全景(南から)



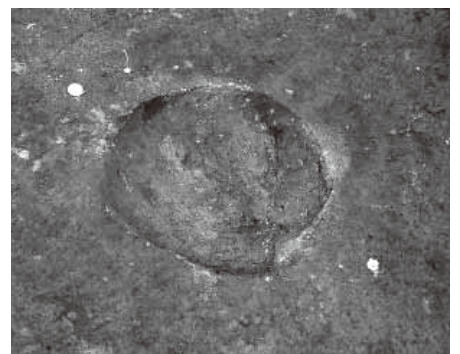
12. V区71号・72号ピット土層断面(南から)



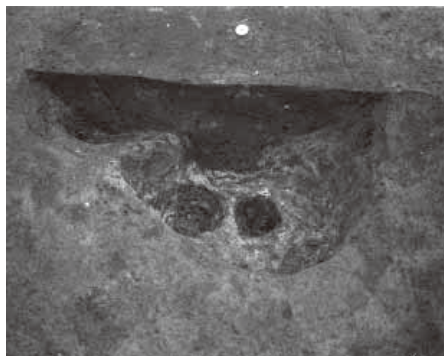
13. V区72号・71号ピット全景(北から)



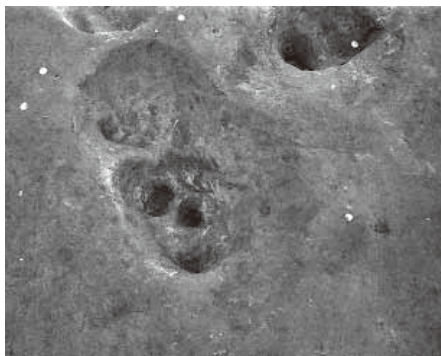
14. V区73号ピット土層断面(南から)



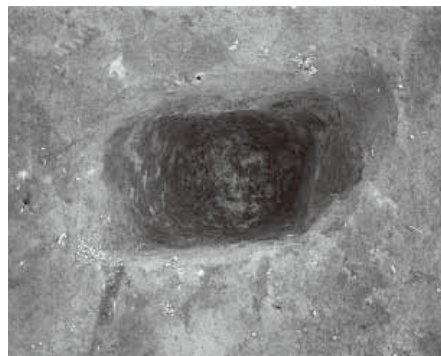
15. V区73号ピット全景(南から)



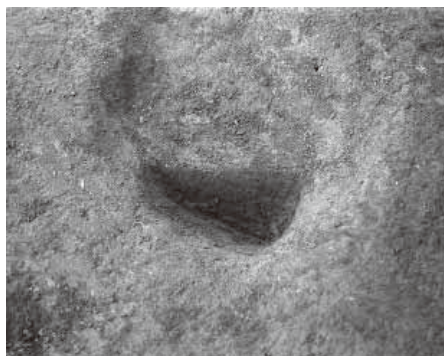
1. V区89号ピット土層断面(北から)



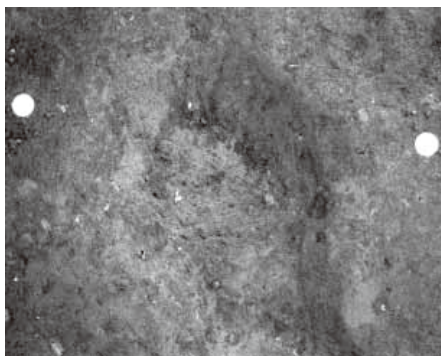
2. V区89号ピット全景(北から)



3. V区93号ピット全景(北から)



4. V区96号ピット土層断面(南から)



5. V区96号ピット全景(北から)



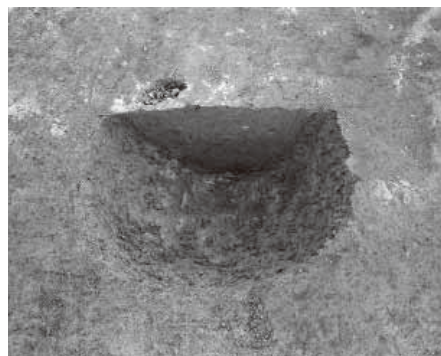
6. V区2号住居調査風景



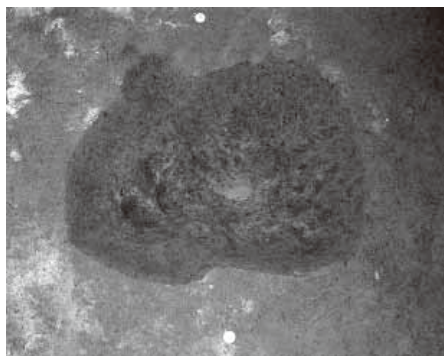
7. V区20号土坑土層断面(東から)



8. V区20号土坑全景(東から)



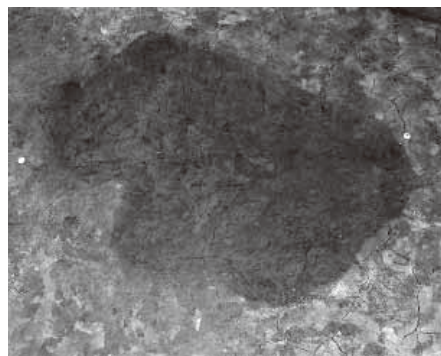
9. V区21号土坑土層断面(西から)



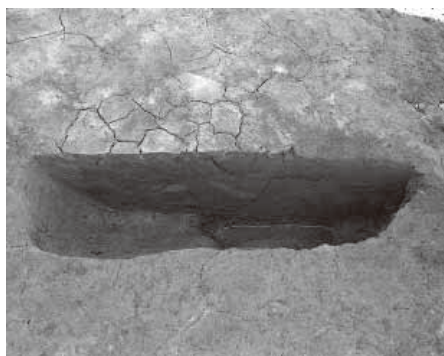
10. V区21号土坑全景(北から)



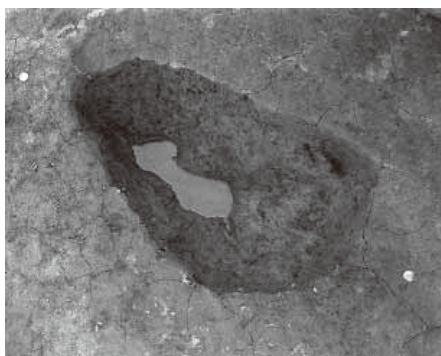
11. V区22号土坑土層断面(南から)



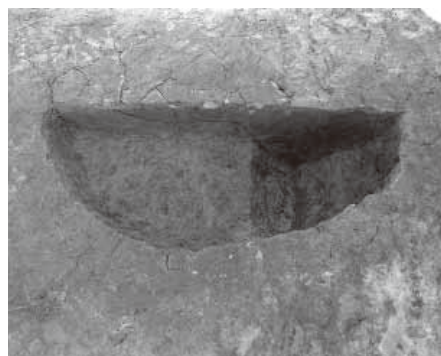
12. V区22号土坑全景(北から)



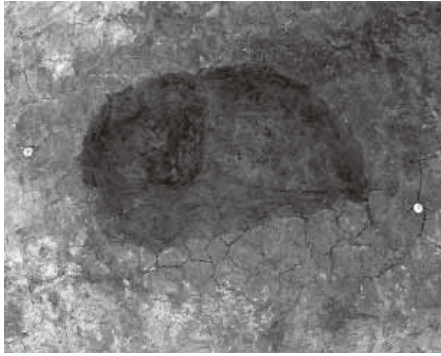
13. V区23号土坑土層断面(南から)



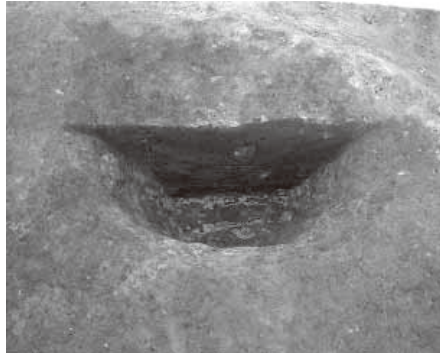
14. V区23号土坑全景(西から)



15. V区24号土坑土層断面(南から)



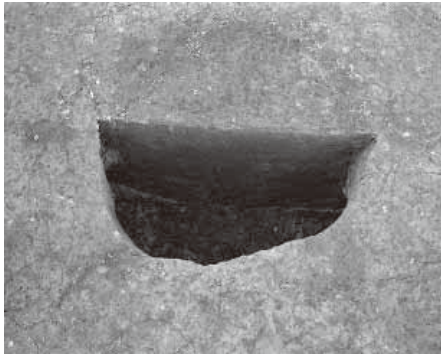
1. V区24号土坑全景(北から)



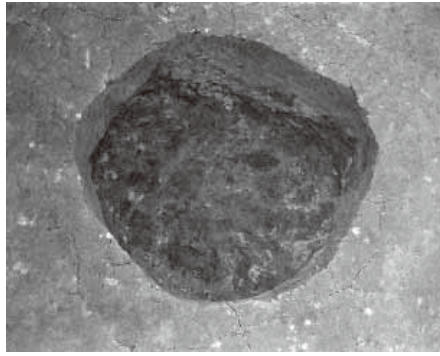
2. V区36号土坑土層断面(南から)



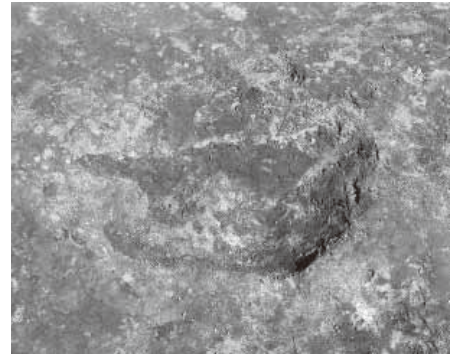
3. V区36号土坑遺物出土状態(南西から)



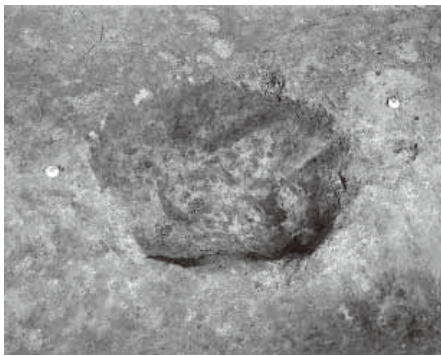
4. V区37号土坑土層断面(南から)



5. V区37号土坑全景(東から)



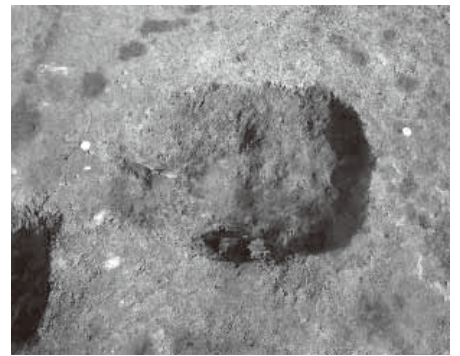
6. V区51号土坑土層断面(西から)



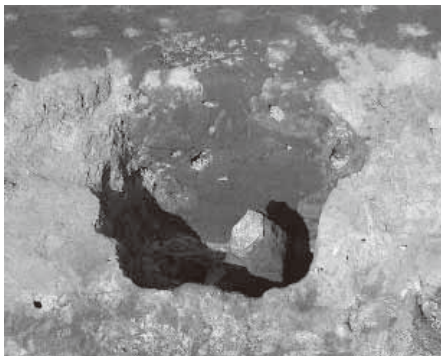
7. V区51号土坑全景(西から)



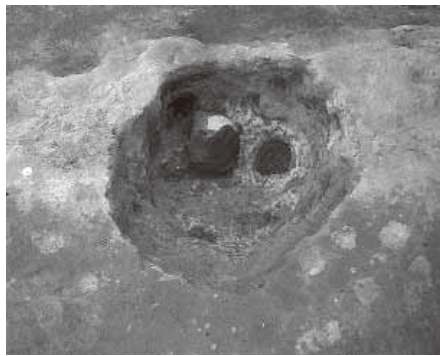
8. V区52号土坑土層断面(南から)



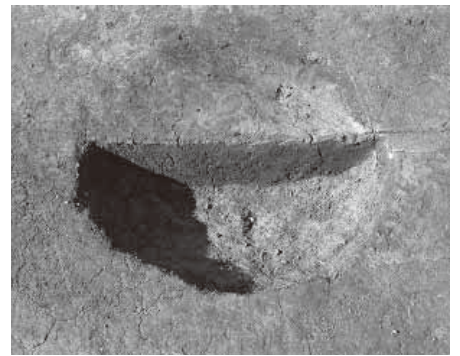
9. V区52号土坑全景(南から)



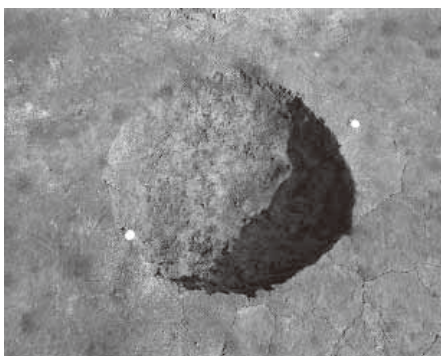
10. V区53号土坑土層断面(南西から)



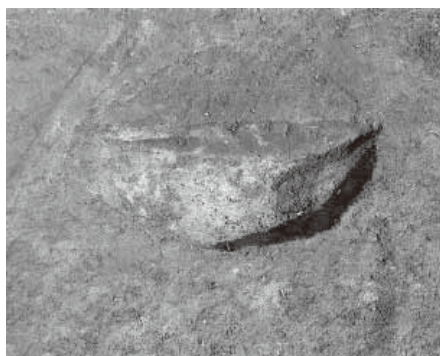
11. V区53号土坑遺物出土状態(北から)



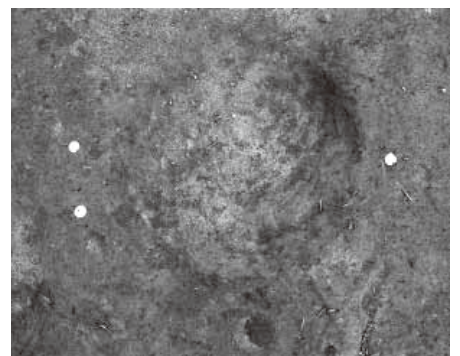
12. V区54号土坑土層断面(南から)



13. V区54号土坑全景(南から)



14. V区55号土坑土層断面(南から)



15. V区55号土坑全景(南から)



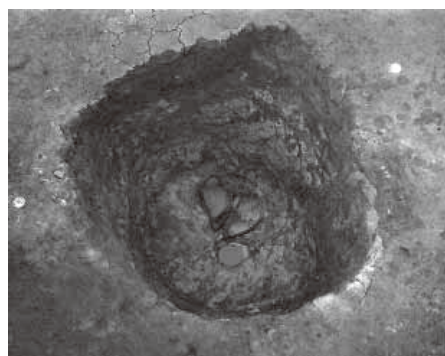
1. V区58号土坑上層土層断面(東から)



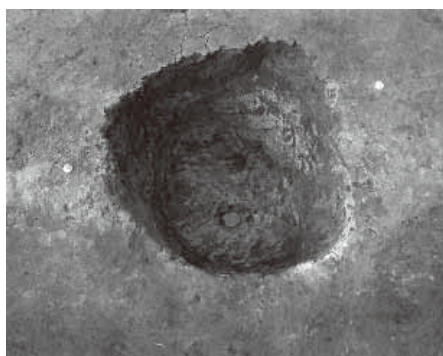
2. V区58号土坑土層断面(東から)



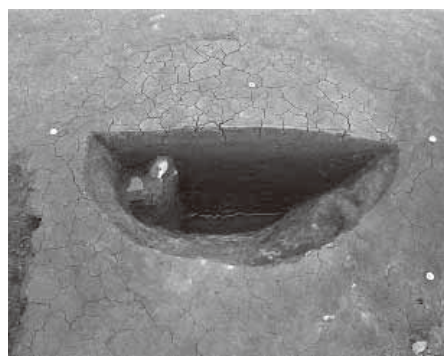
3. V区58号土坑上層遺物出土状態(東から)



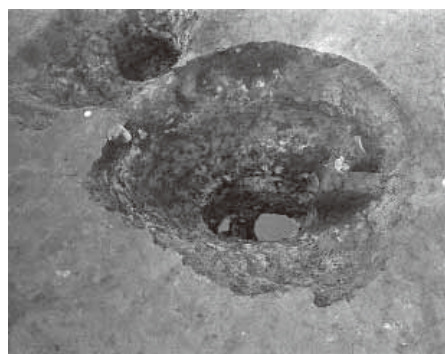
4. V区58号土坑下層遺物出土状態(東から)



5. V区58号土坑全景(東から)



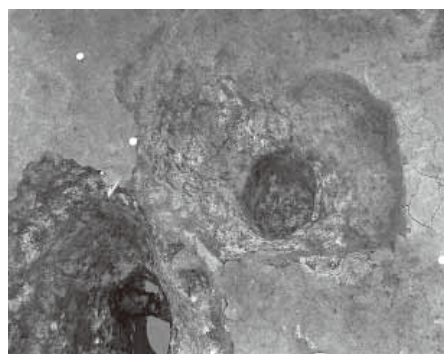
6. V区59号土坑土層断面(南西から)



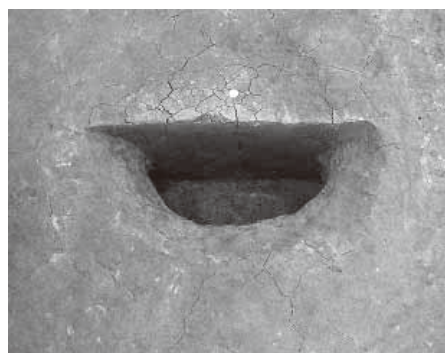
7. V区59号土坑全景(北から)



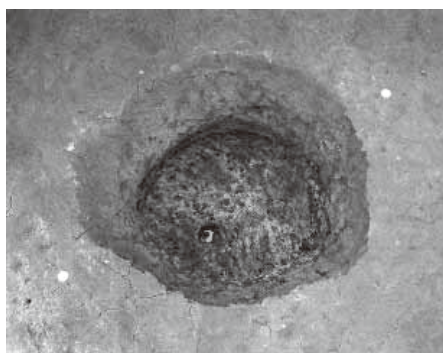
8. V区60号土坑土層断面(南から)



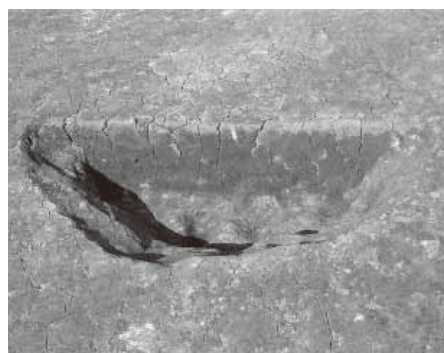
9. V区60号土坑全景(西から)



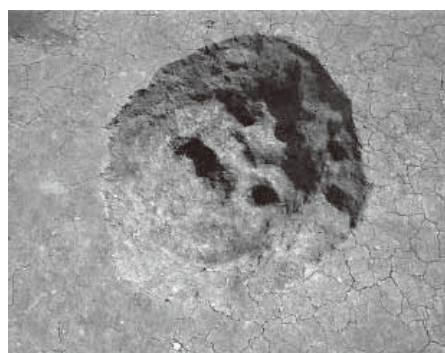
10. V区61号土坑土層断面(東から)



11. V区61号土坑全景(西から)



12. V区62号土坑土層断面(南から)



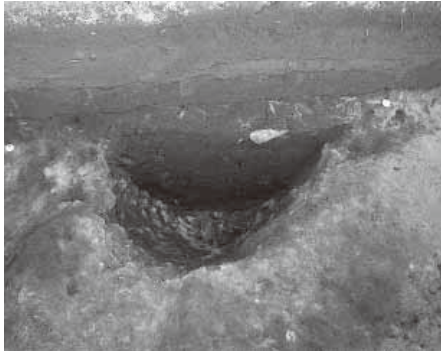
13. V区62号土坑全景(西から)



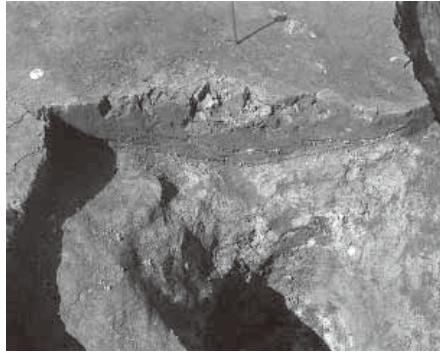
14. V区64号土坑土層断面(南から)



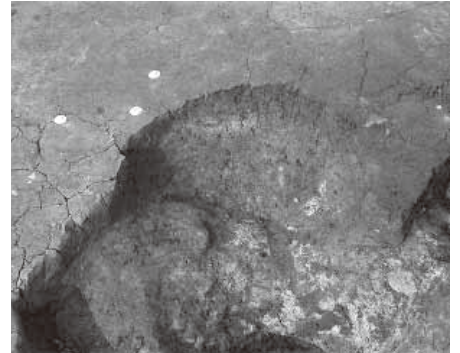
15. V区64号土坑全景(南から)



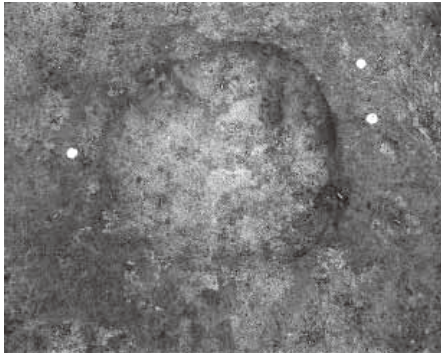
1. V区65号土坑土層断面(西から)



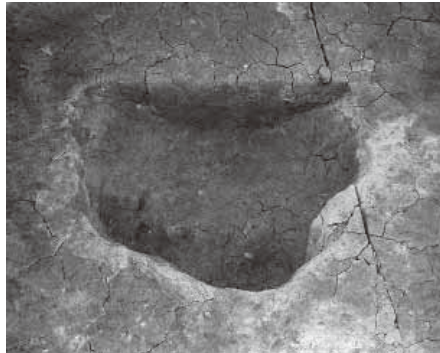
2. V区68号土坑土層断面(南東から)



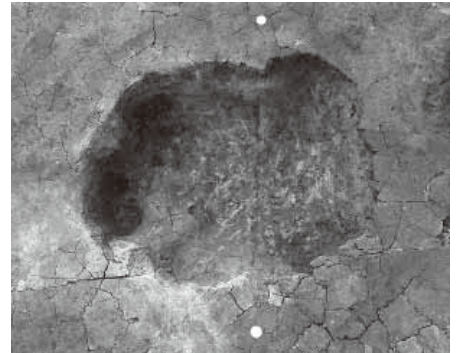
3. V区68号土坑全景(東から)



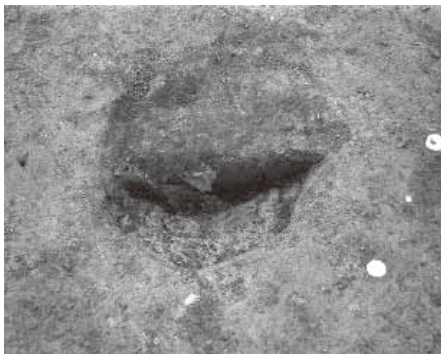
4. V区69号土坑全景(南から)



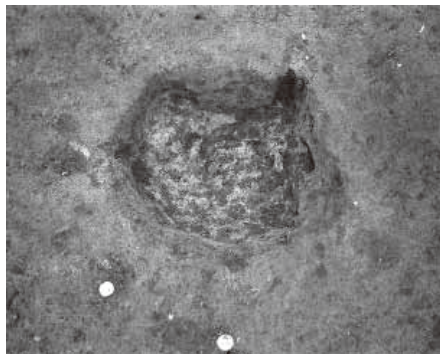
5. V区70号土坑土層断面(東から)



6. V区70号土坑全景(北から)



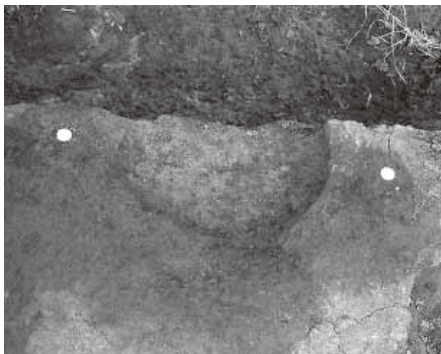
7. V区71号土坑土層断面(南から)



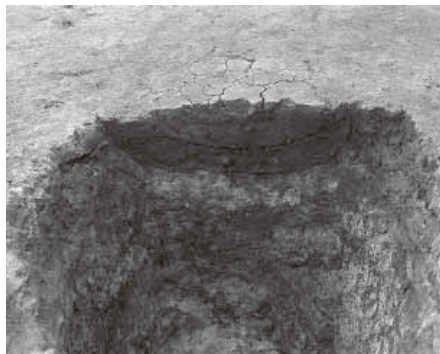
8. V区71号土坑全景(東から)



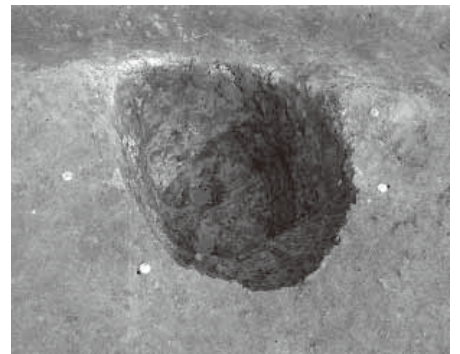
9. V区72号土坑土層断面(北から)



10. V区72号土坑全景(南から)



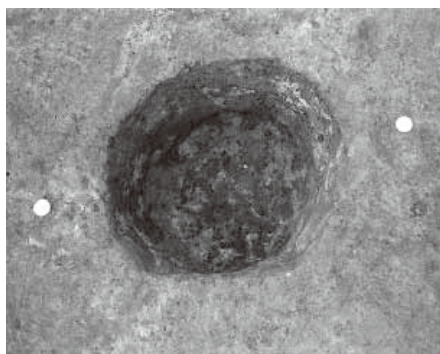
11. V区73号土坑土層断面(北東から)



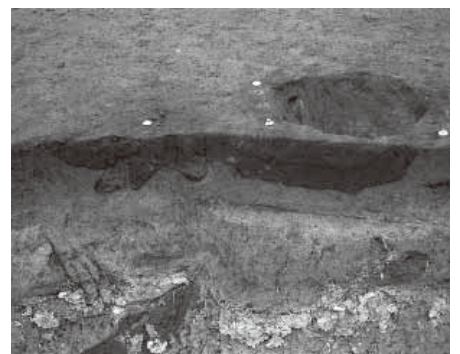
12. V区73号土坑全景(西から)



13. V区74号土坑土層断面(南から)



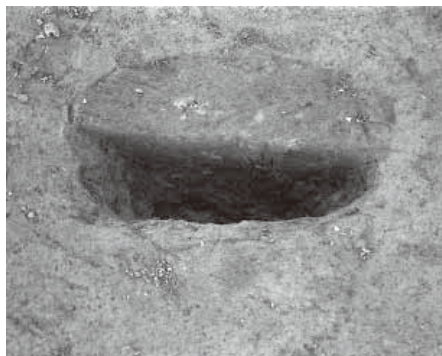
14. V区74号土坑全景(南から)



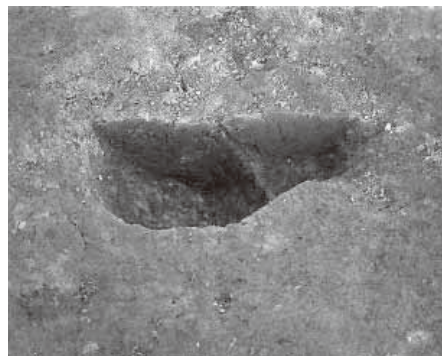
15. V区76号土坑・85号ピット土層断面(北から)



1. V区9号ピット土層断面(南から)



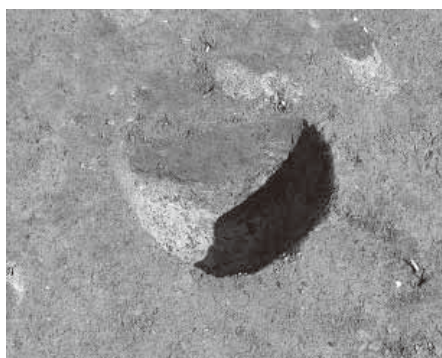
2. V区11号ピット土層断面(東から)



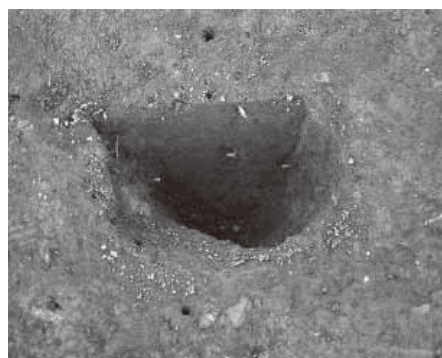
3. V区35・36号ピット土層断面(南西から)



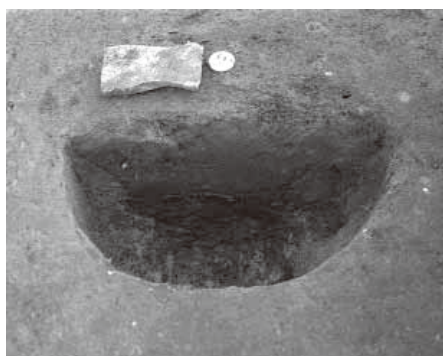
4. V区48号ピット土層断面(南から)



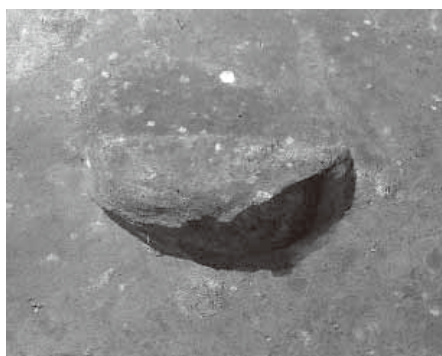
5. V区49号ピット土層断面(南から)



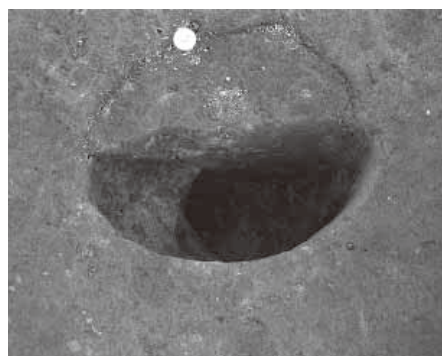
6. V区50号ピット土層断面(南から)



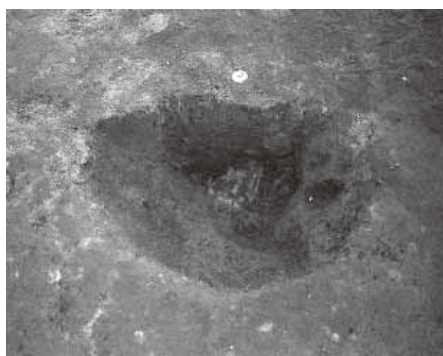
7. V区51号ピット土層断面(南から)



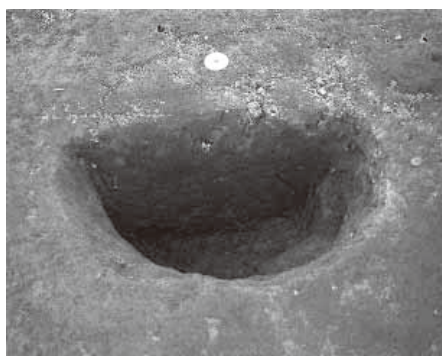
8. V区52号ピット土層断面(南東から)



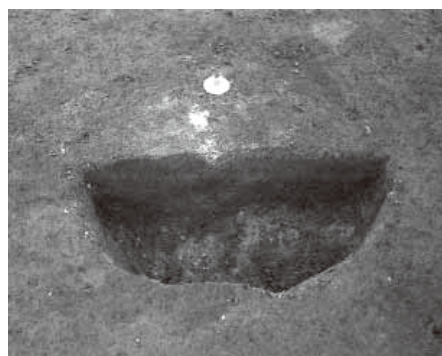
9. V区53号ピット土層断面(南から)



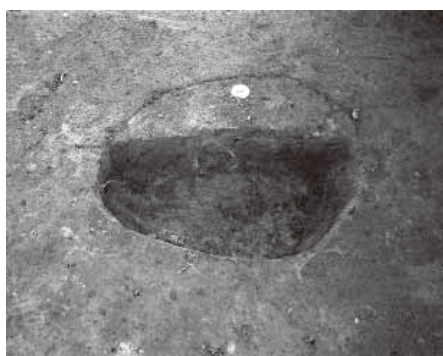
10. V区54号ピット土層断面(南から)



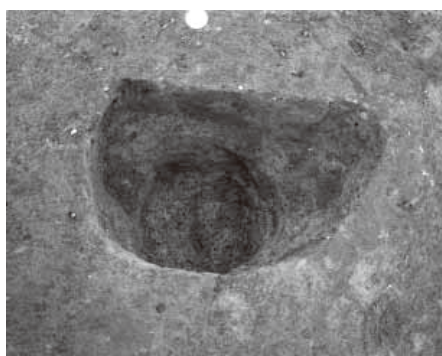
11. V区55号ピット土層断面(南から)



12. V区56号ピット土層断面(南から)



13. V区57号ピット土層断面(南から)



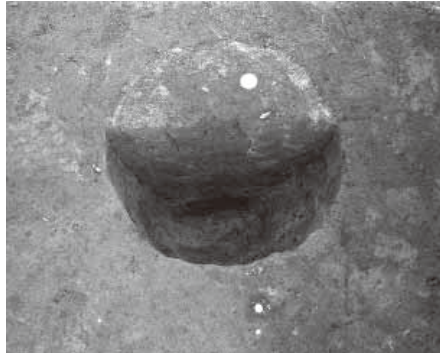
14. V区58号ピット土層断面(東から)



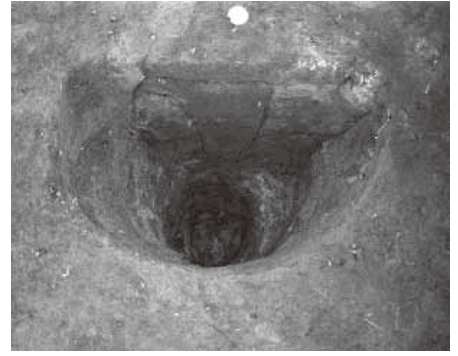
15. V区59号ピット土層断面(南から)



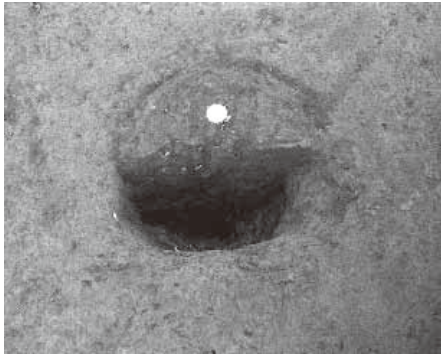
1. V区59号ピット遺物出土状態(東から)



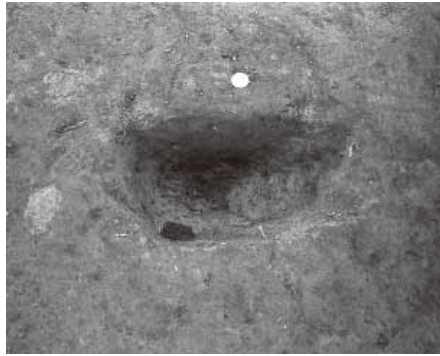
2. V区60号ピット土層断面(南から)



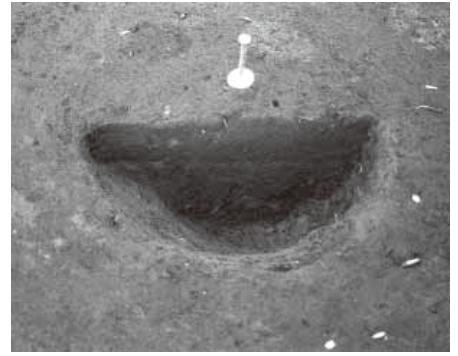
3. V区61号ピット土層断面(南西から)



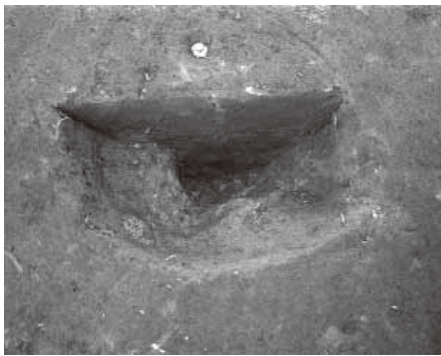
4. V区62号ピット土層断面(南から)



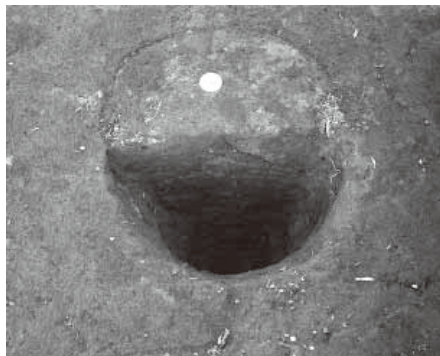
5. V区63号ピット土層断面(南から)



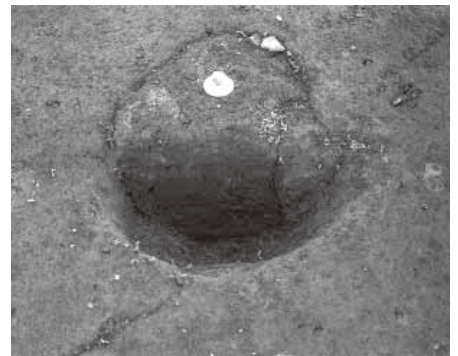
6. V区64号ピット土層断面(南から)



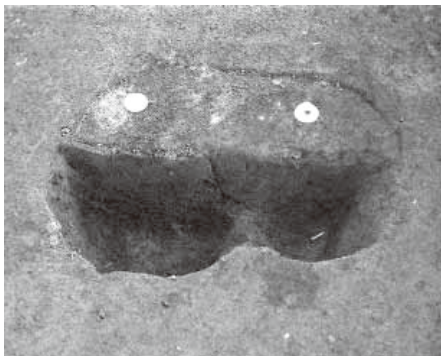
7. V区65号ピット土層断面(南から)



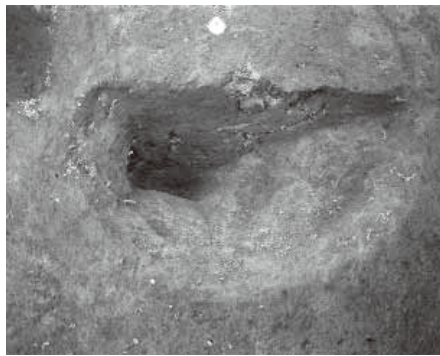
8. V区67号ピット土層断面(南から)



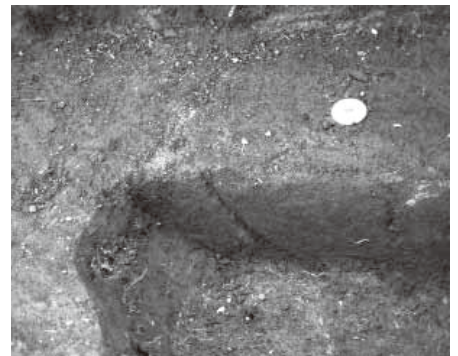
9. V区68号ピット土層断面(南西から)



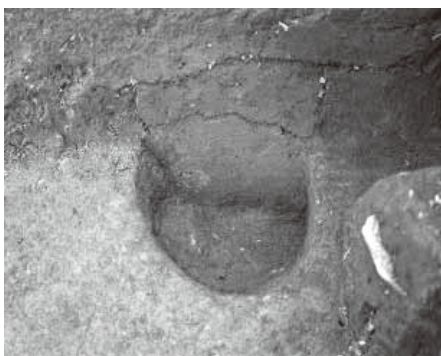
10. V区69・70号ピット土層断面(南西から)



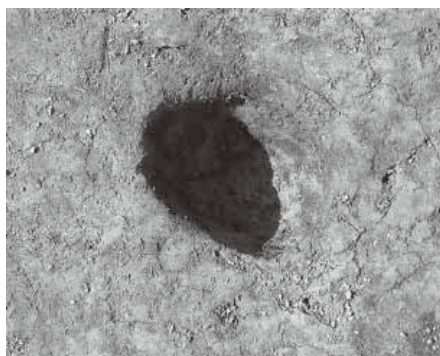
11. V区74号ピット土層断面(南から)



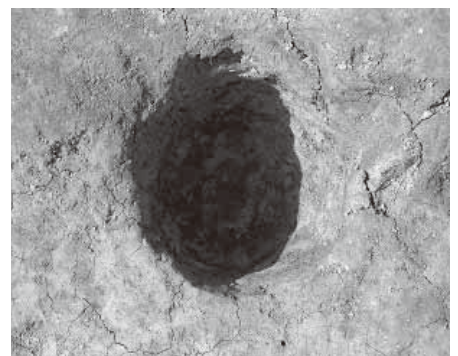
12. V区75号ピット土層断面(西から)



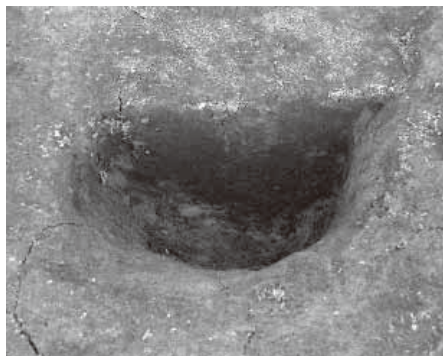
13. V区76号ピット土層断面(西から)



14. V区77号ピット全景(東から)



15. V区78号ピット全景(東から)



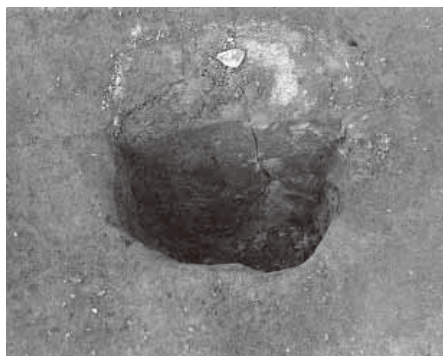
1. V区79号ピット土層断面(南から)



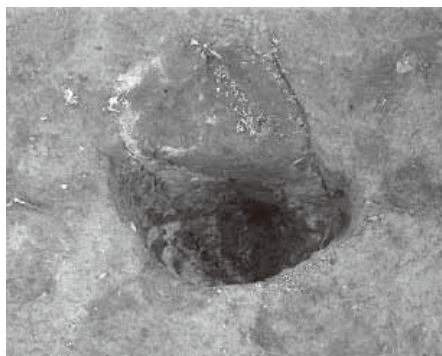
2. V区80号ピット土層断面(南から)



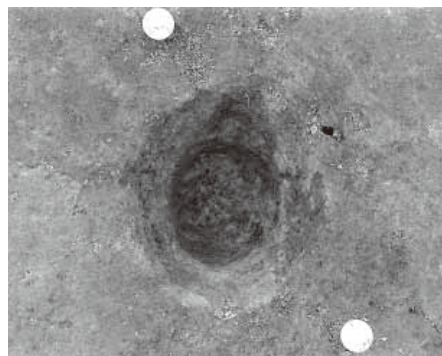
3. V区81号ピット土層断面(南東から)



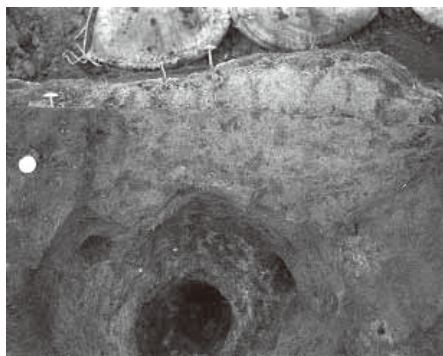
4. V区82号ピット土層断面(東から)



5. V区83号ピット土層断面(南東から)



6. V区84号ピット全景(東から)



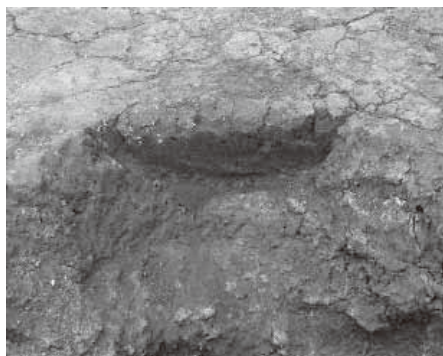
7. V区85号ピット全景(南から)



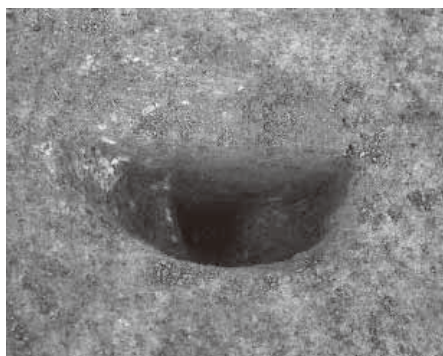
8. V区86・87号ピット土層断面(北から)



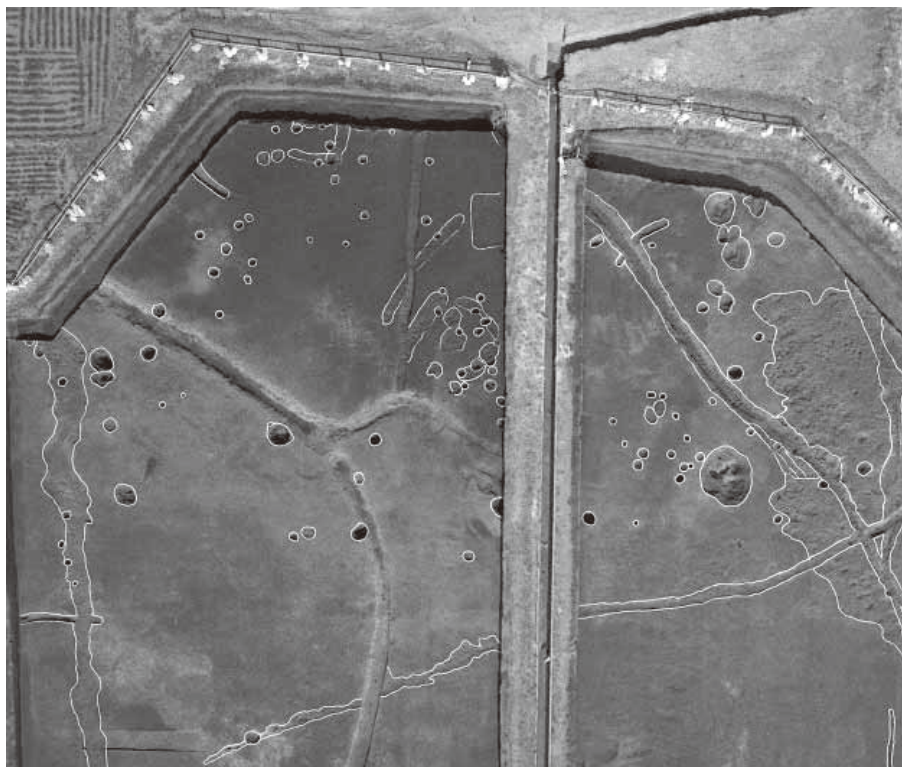
9. V区88号ピット土層断面(北から)



10. V区97号ピット土層断面(南東から)



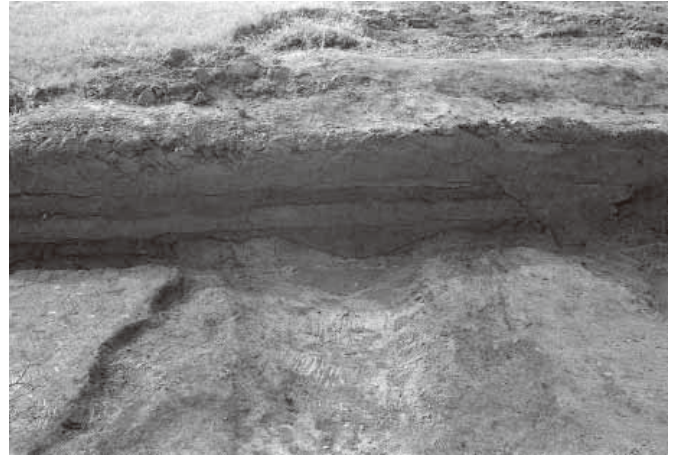
11. V区98号ピット土層断面(西から)



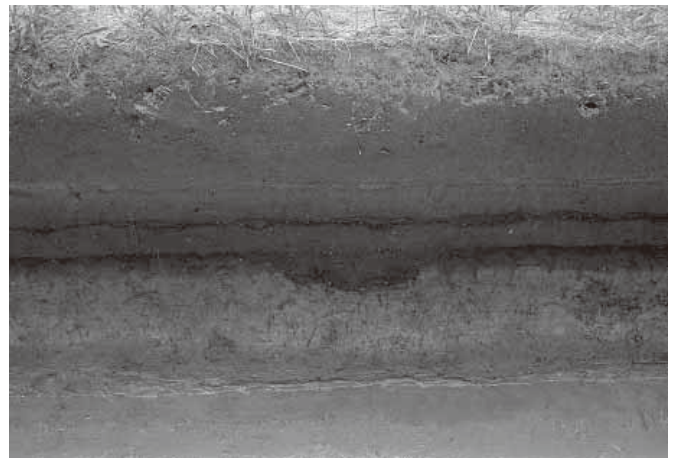
12. IV区・V区古代～古墳時代遺構群集中部近景(上空から)



1. V区16号溝全景(東から)



2. V区16号溝土層断面(東から)



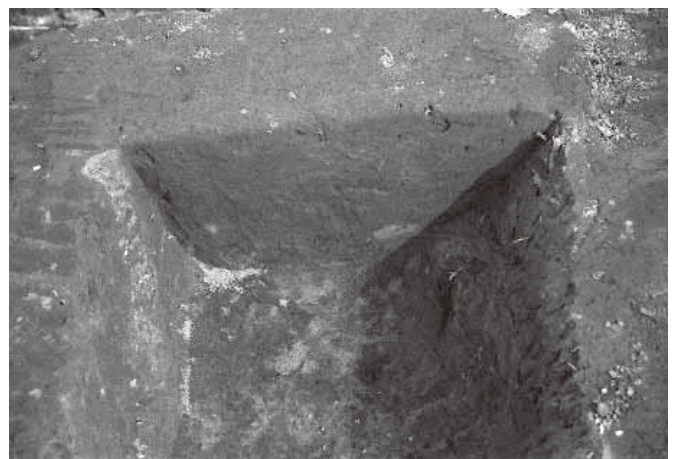
3. V区16号溝土層断面(西から)



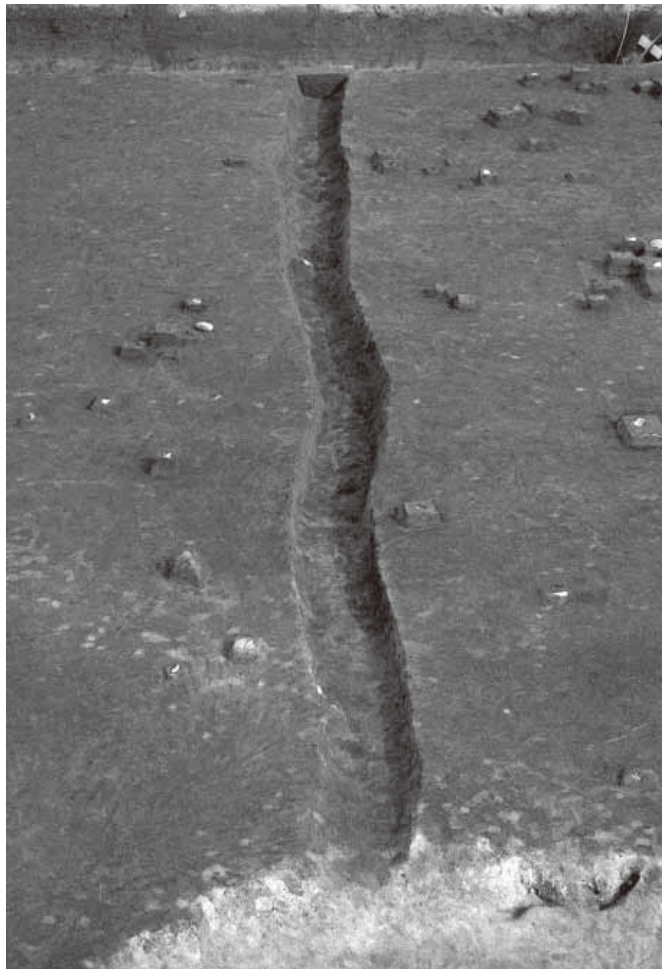
4. V区23号溝全景(南から)



5. V区23号溝土層断面(南から)



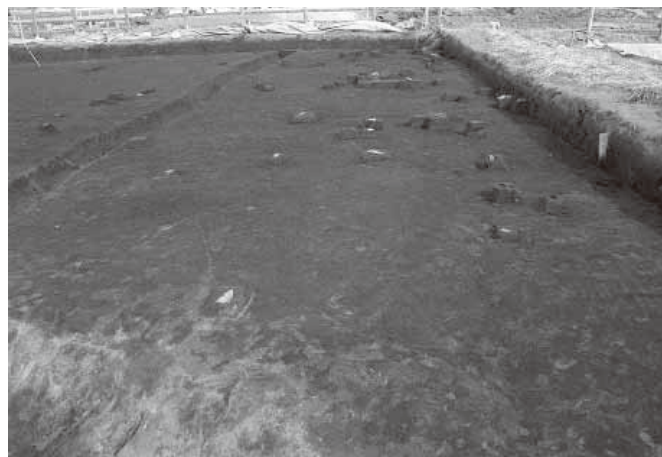
6. V区35号溝土層断面(南から)



1. V区35号溝全景(南から)



2. V区古代～古墳時代遺構面遺物出土状態(南から)



3. V区古代～古墳時代遺構面東端遺物出土状態(南から)



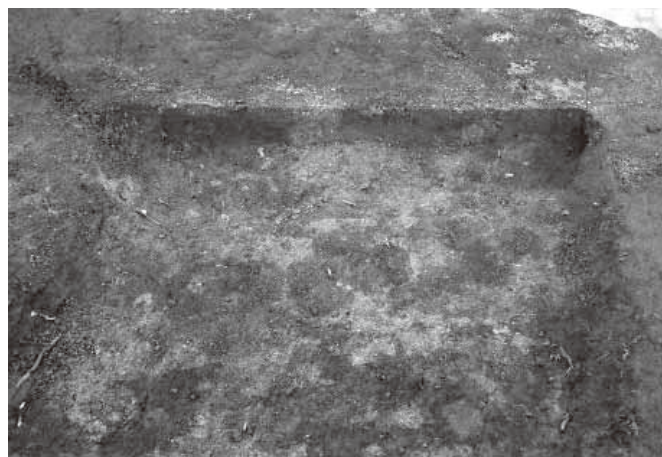
4. V区37号溝全景(西から)



5. V区38号溝土層断面(東から)



6. V区38号溝全景(北西から)



7. V区39号溝土層断面(南から)



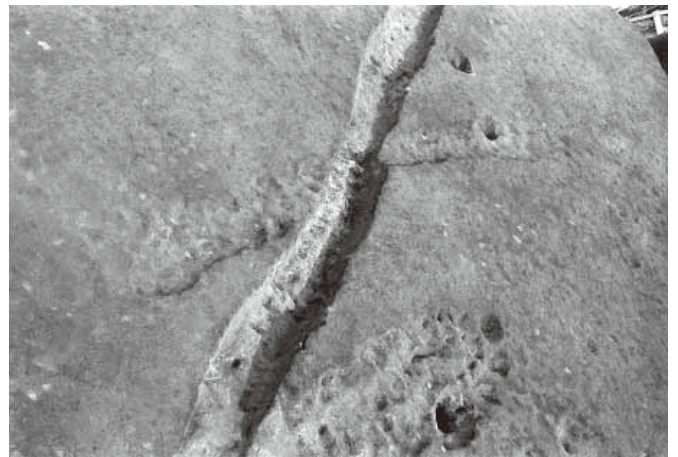
1. V区39号溝全景(北から)



2. V区41号溝土層断面(南西から)



3. V区42号溝全景(西から)



4. V区41号溝全景(南から)



5. V区2号畠土層断面(南から)



6. V区2号凹地土層断面(北から)



7. V区3号凹地全景(北から)



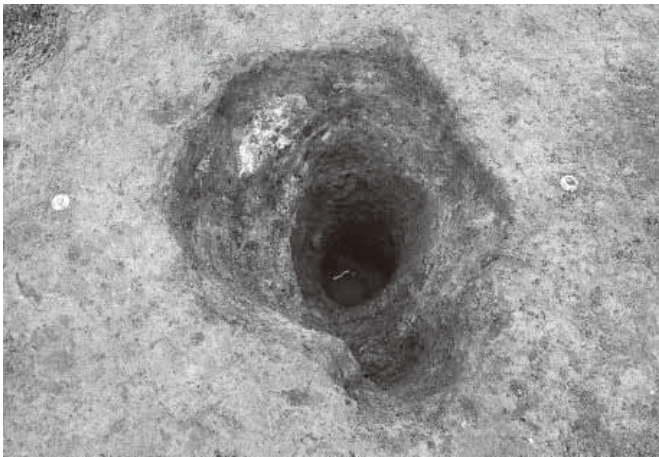
1. VI区古代～古墳時代遺構面全景(西から)



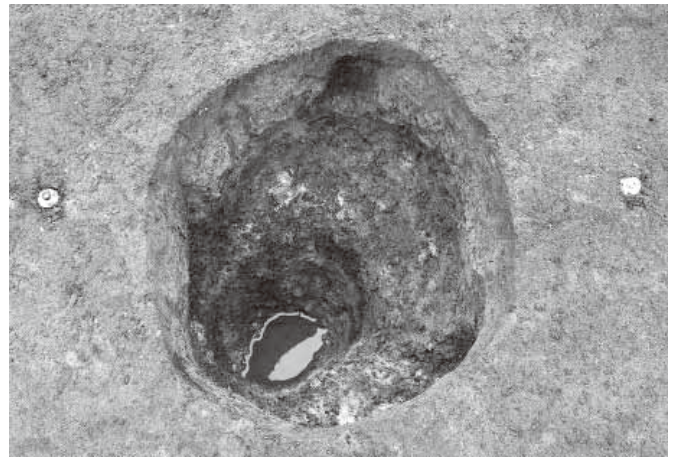
2. VI区古代～古墳時代遺構面全景(東から)



1. VI区1号住居全景(南から)



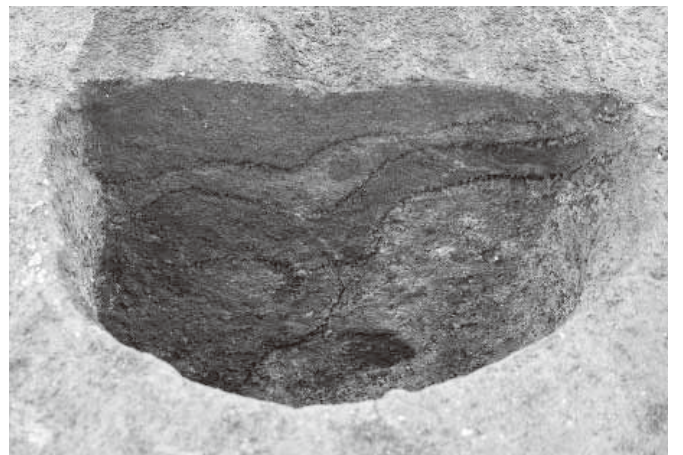
2. VI区1号住居P1全景(南から)



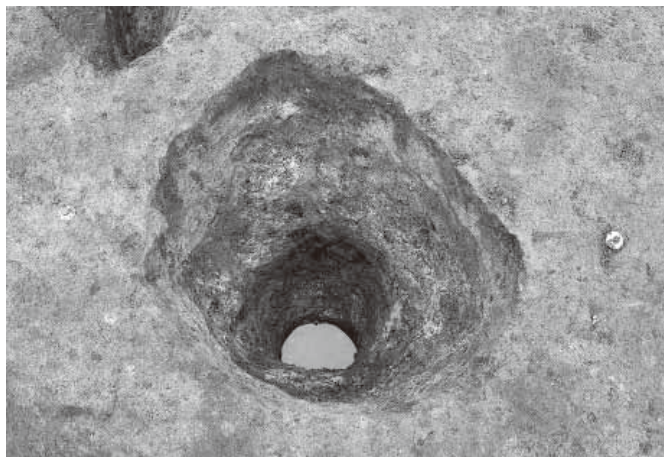
3. VI区1号住居P2全景(南から)



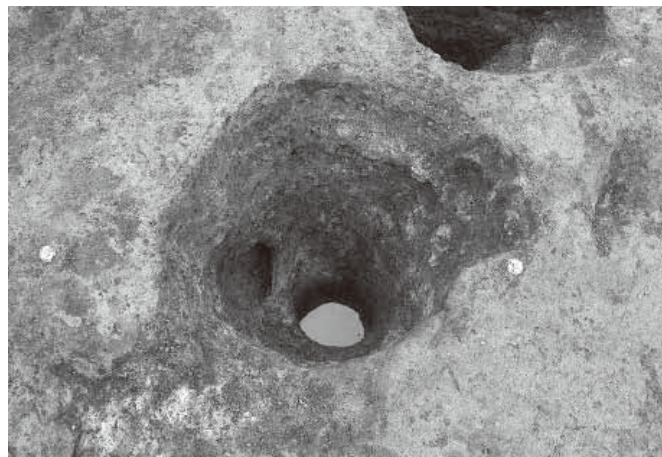
4. VI区1号住居P1土層断面(南から)



5. VI区1号住居P2土層断面(南から)



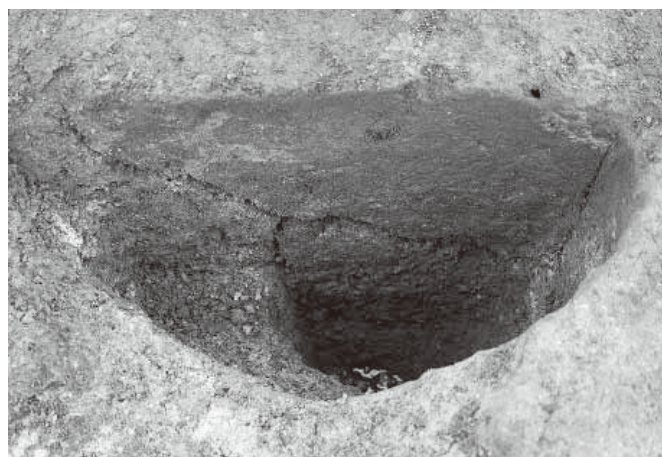
1. VI区1号住居P3全景(南から)



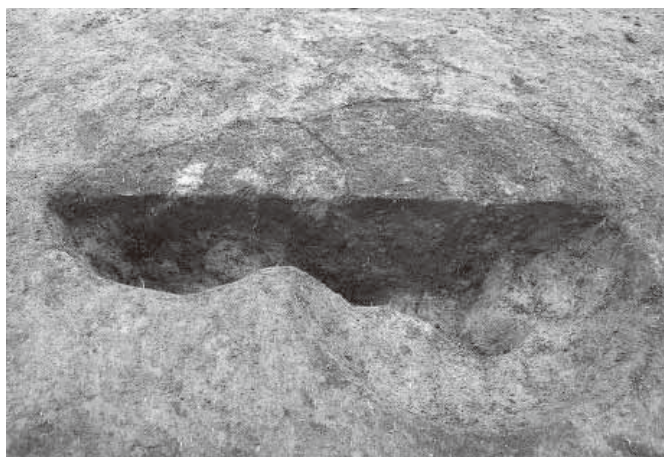
2. VI区1号住居P4全景(南から)



3. VI区1号住居P3土層断面(南から)



4. VI区1号住居P4土層断面(南から)



5. VI区1号住居P5土層断面(南から)



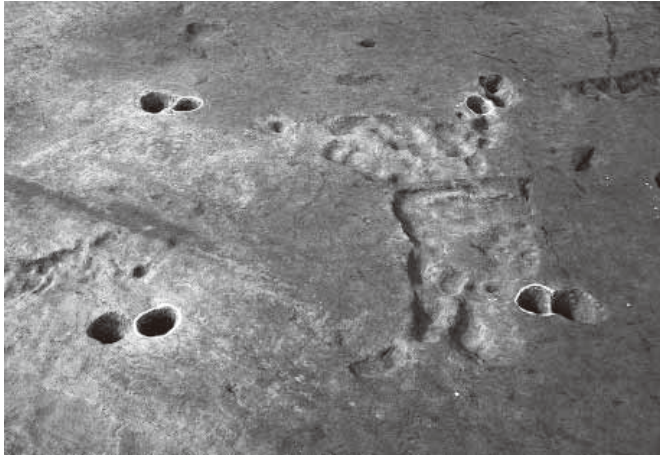
6. VI区1号住居P6土層断面(南から)



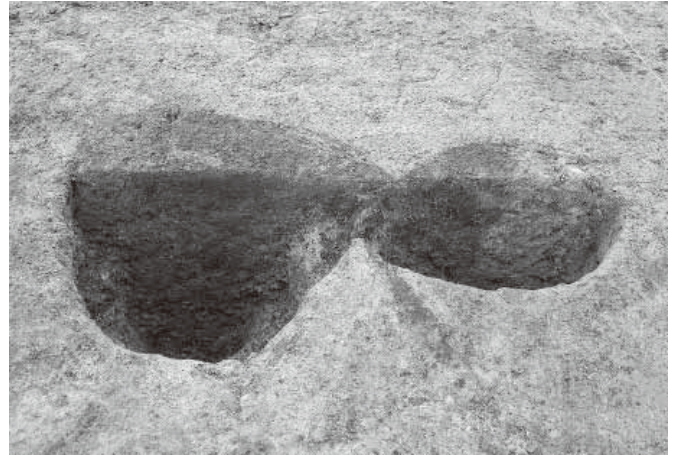
7. VI区1号住居周溝土層断面(南から)



8. VI区1号住居確認状況全景(南から)



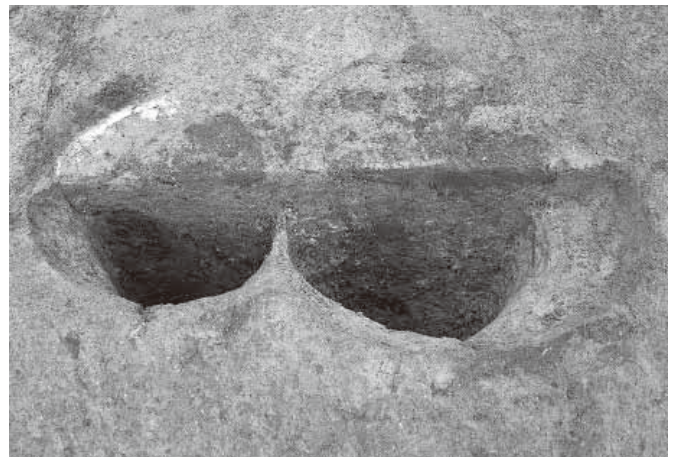
1. VI区2号住居全景(南東から)



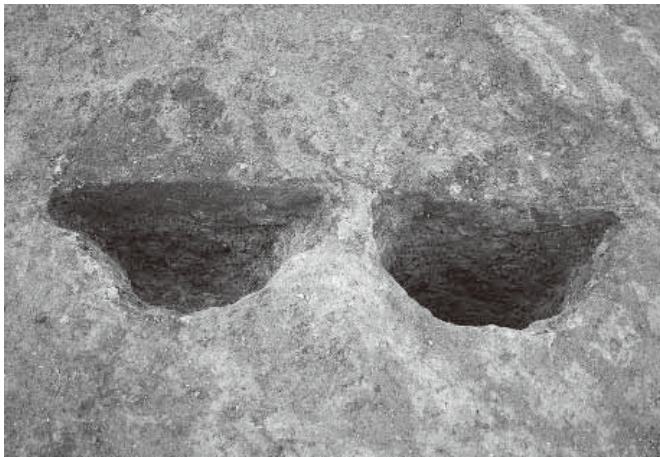
2. VI区2号住居P 1・P 5土層断面(南から)



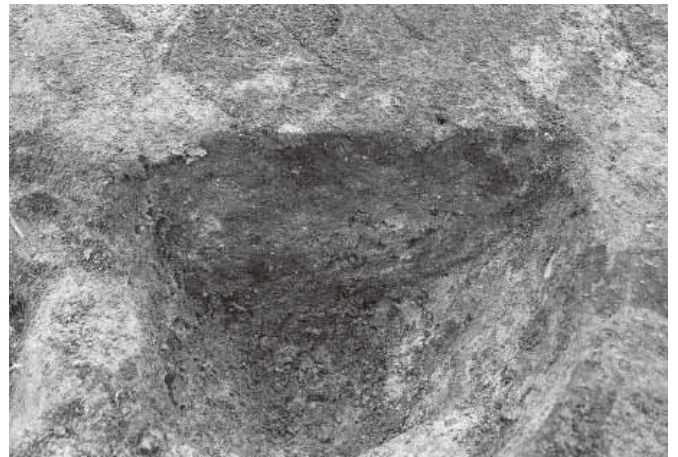
3. VI区2号住居P 2土層断面(南から)



4. VI区2号住居P 3・P 7土層断面(南から)



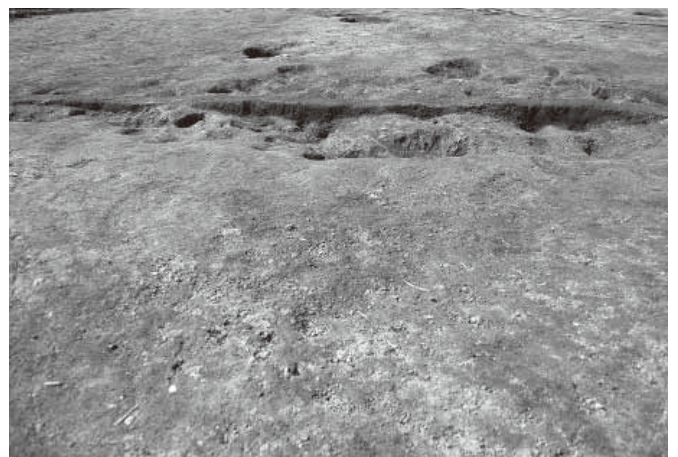
5. VI区2号住居P 4・P 8土層断面(南東から)



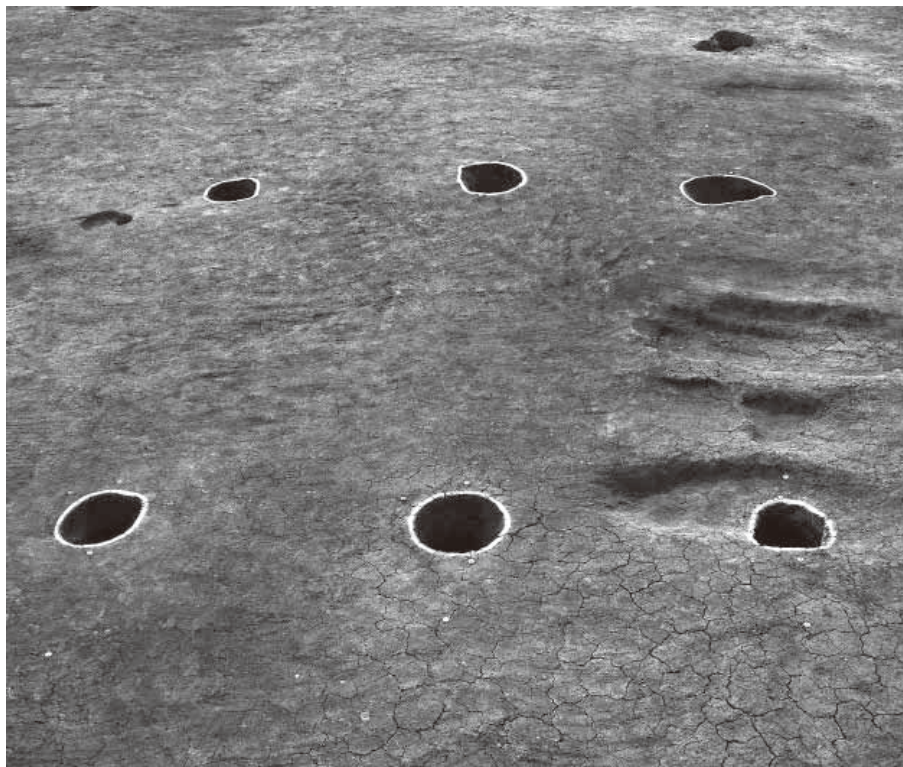
6. VI区2号住居P 6土層断面(南から)



7. VI区1号竪穴遺構全景(東から)



8. VI区1号竪穴遺構土層断面(南東から)



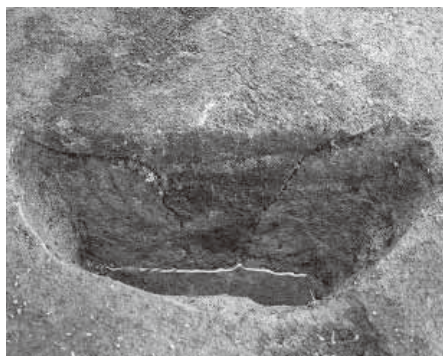
1. VI区1号掘立柱建物全景(北東から)



2. VI区1号掘立P 1土層断面(南から)



3. VI区1号掘立P 2土層断面(南から)



4. VI区1号掘立P 3土層断面(南から)



5. VI区1号掘立P 4土層断面(南から)



6. VI区1号掘立P 5土層断面(南から)



7. VI区1号掘立P 6土層断面(南から)



9. VI区2号掘立P 1土層断面(南から)



8. VI区2号掘立柱建物全景(南東から)



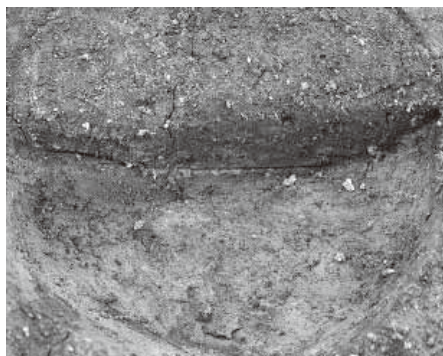
1. Ⅵ区2号掘立P 2土層断面(南から)



2. Ⅵ区2号掘立P 3土層断面(南から)



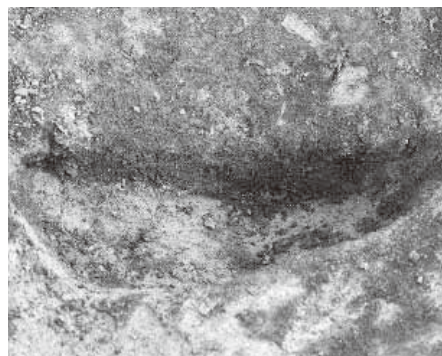
3. Ⅵ区2号掘立P 4土層断面(南から)



4. Ⅵ区2号掘立P 5土層断面(南から)



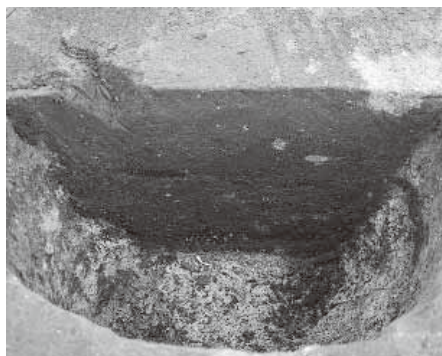
5. Ⅵ区2号掘立P 6土層断面(南から)



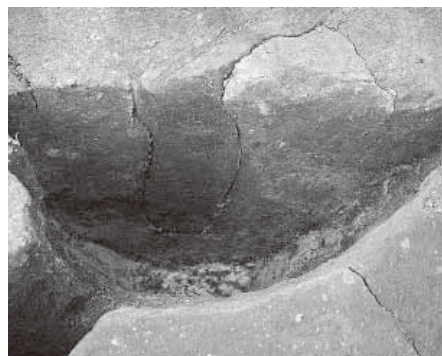
6. Ⅵ区2号掘立P 7土層断面(南から)



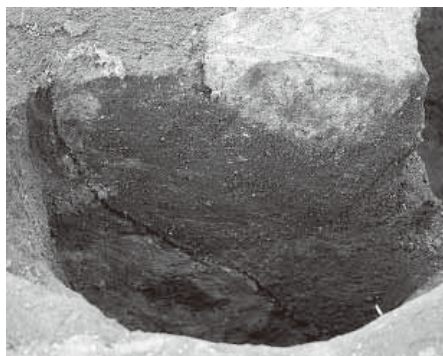
7. Ⅵ区2号掘立P 8土層断面(南から)



8. Ⅵ区2号掘立P 9土層断面(南から)



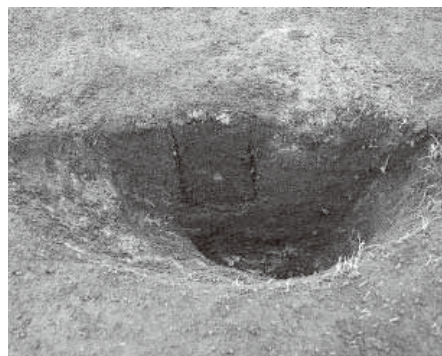
9. Ⅵ区2号掘立P 10土層断面(南から)



10. Ⅵ区2号掘立P 11土層断面(南から)



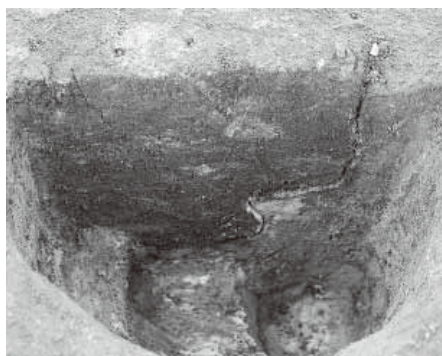
11. Ⅵ区2号掘立P 12土層断面(南から)



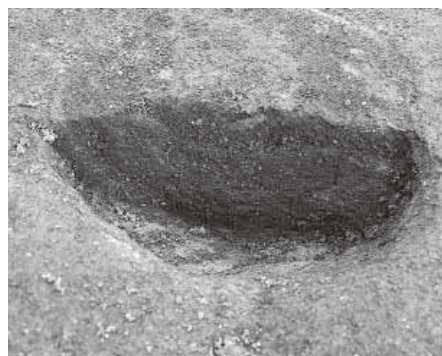
12. Ⅵ区2号掘立P 13土層断面(南から)



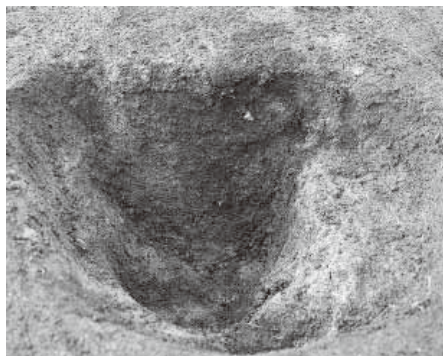
13. Ⅵ区2号掘立P 14土層断面(南から)



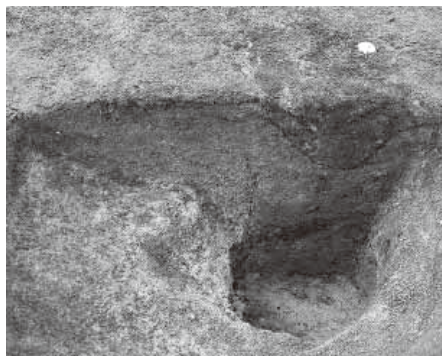
14. Ⅵ区2号掘立P 15土層断面(南から)



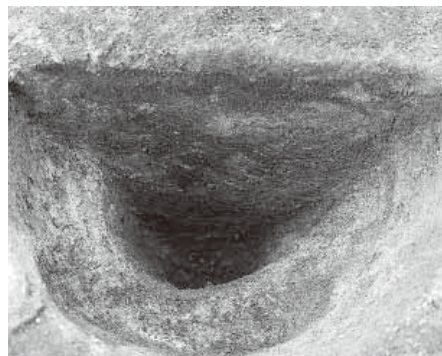
15. Ⅵ区2号掘立P 16土層断面(南から)



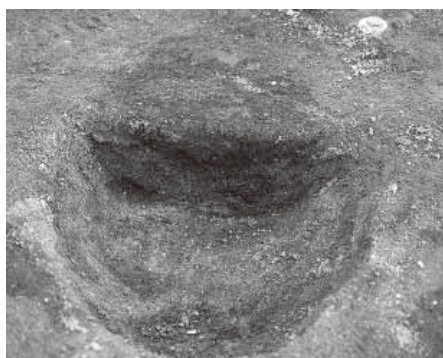
1. VI区2号掘立P17土層断面(南から)



2. VI区2号掘立P18土層断面(南から)



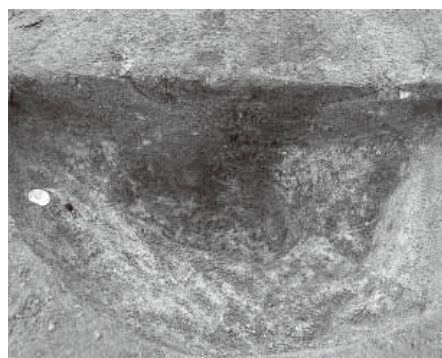
3. VI区2号掘立P19土層断面(南から)



4. VI区2号掘立P20土層断面(南から)



5. VI区2号掘立P21土層断面(南から)



6. VI区2号掘立P22土層断面(南から)



7. VI区2号掘立P23土層断面(南から)



8. VI区2号掘立P24土層断面(南から)



10. VI区3号掘立P1土層断面(南から)



9. VI区3号掘立柱建物全景(南西から)



11. VI区3号掘立P2土層断面(南から)



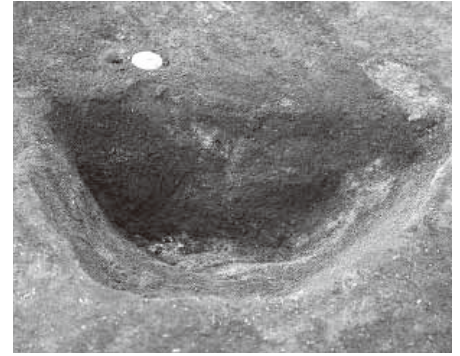
12. VI区3号掘立P4土層断面(南から)



1. Ⅵ区3号掘立P 5土層断面(南から)



2. Ⅵ区3号掘立P 6土層断面(南から)



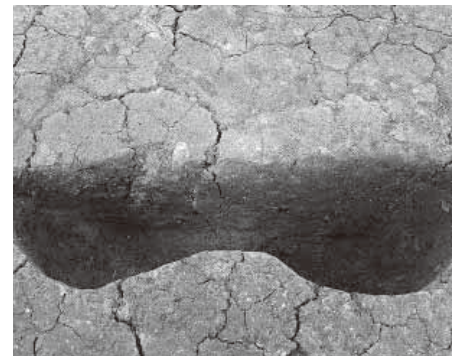
3. Ⅵ区3号掘立P 7土層断面(南から)



4. Ⅵ区1号柱穴列全景(南東から)



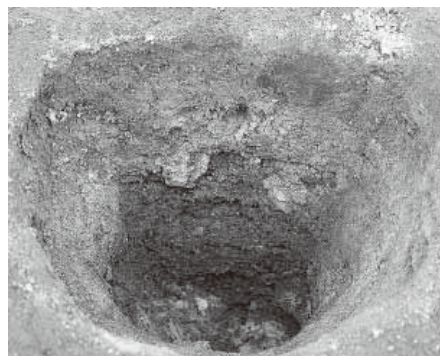
5. Ⅵ区1号柱穴列P 1土層断面(南から)



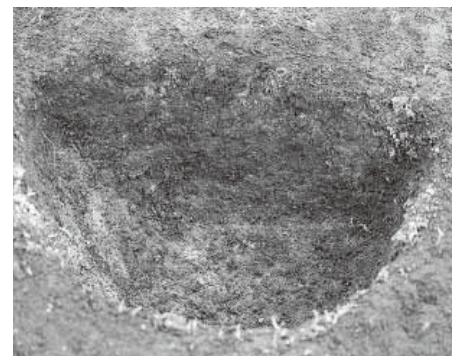
6. Ⅵ区1号柱穴列P 2土層断面(南から)



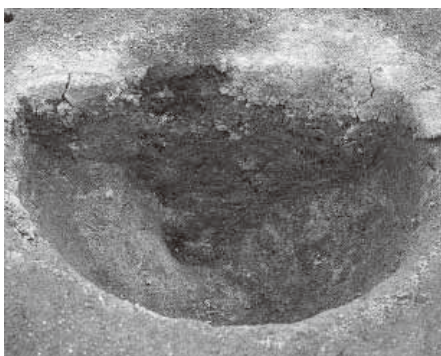
7. Ⅵ区1号柱穴列P 3土層断面(南から)



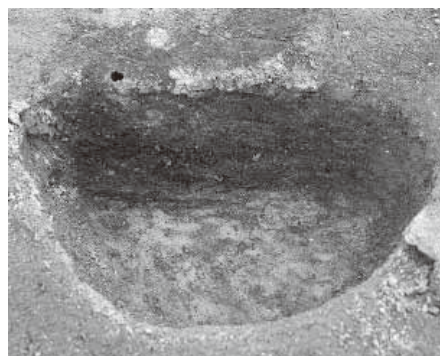
8. Ⅵ区1号柱穴列P 4土層断面(南から)



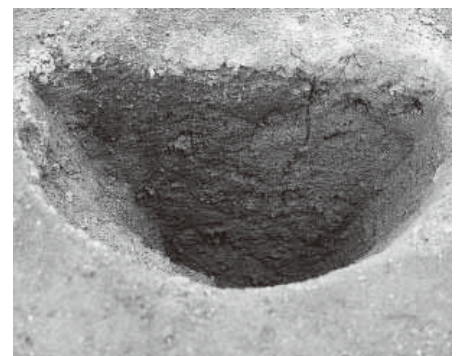
9. Ⅵ区1号柱穴列P 5土層断面(南から)



10. Ⅵ区1号柱穴列P 6土層断面(南から)



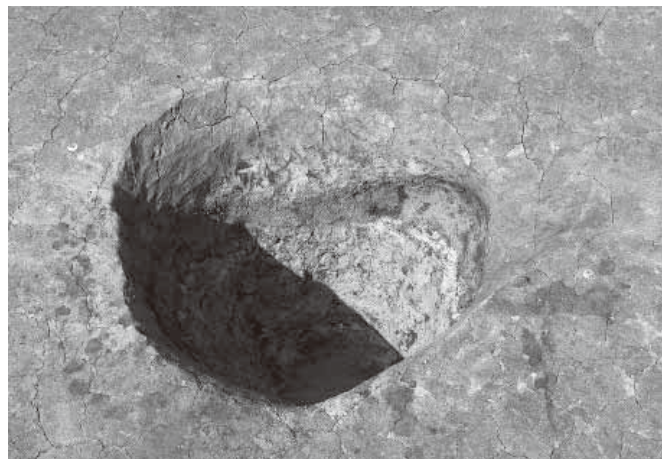
11. Ⅵ区1号柱穴列P 7土層断面(南から)



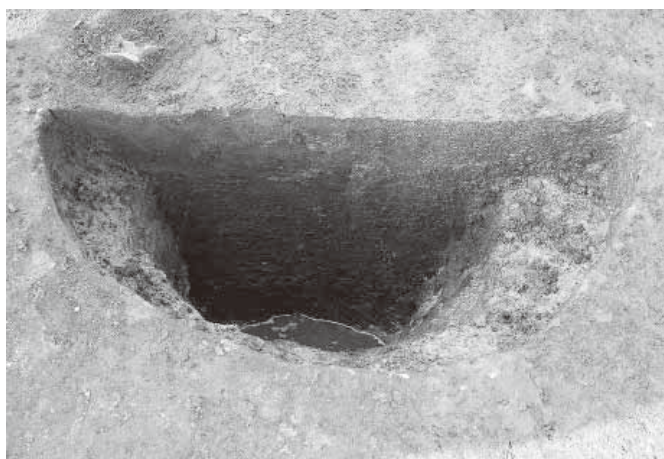
12. Ⅵ区1号柱穴列P 8土層断面(南から)



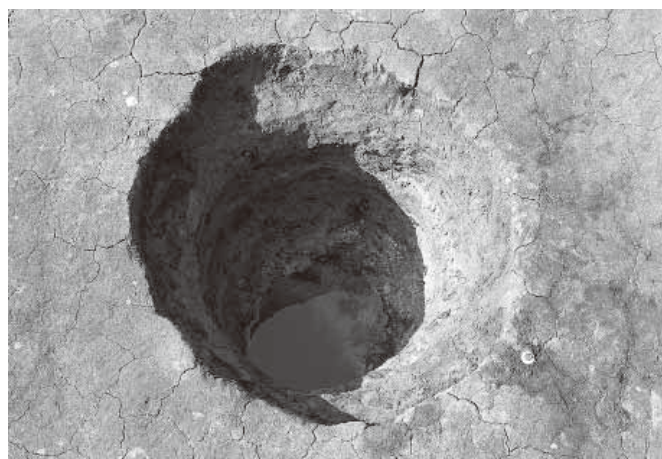
1. VI区3号井戸土層断面(南から)



2. VI区3号井戸全景(南から)



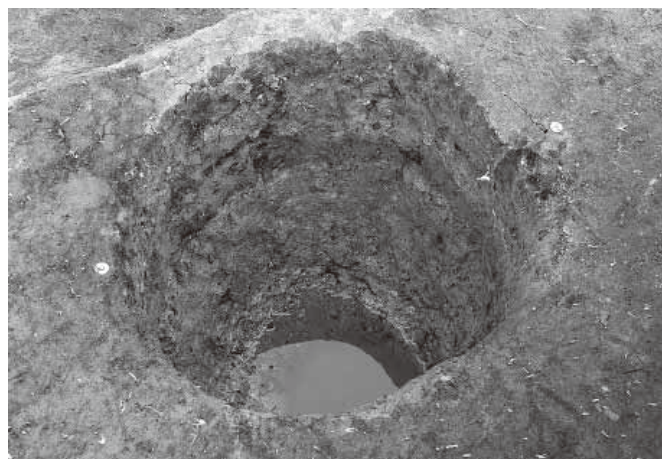
3. VI区4号井戸土層断面(南から)



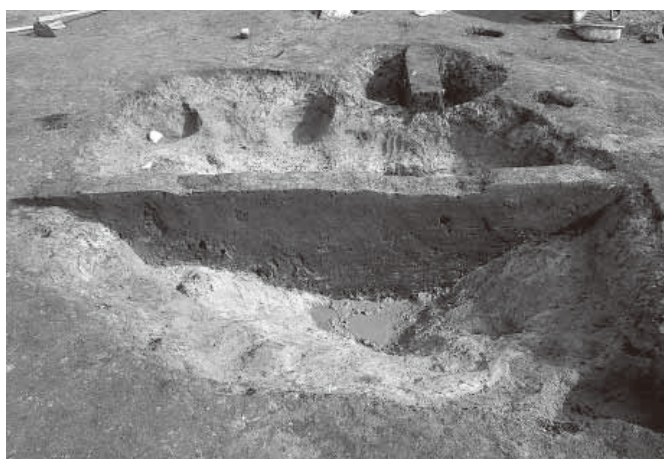
4. VI区4号井戸全景(南から)



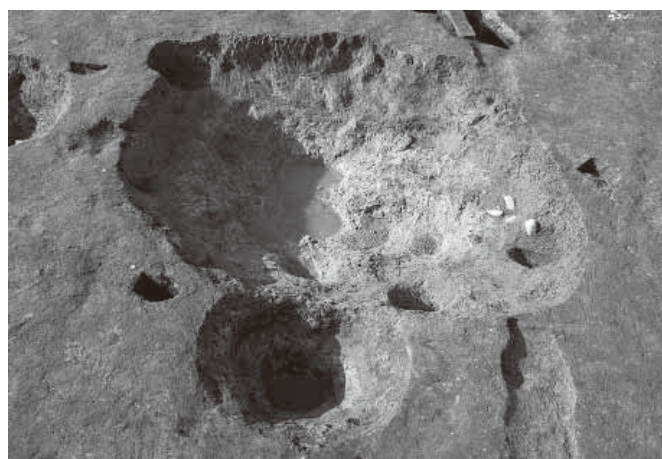
5. VI区5号井戸土層断面(南から)



6. VI区5号井戸全景(南から)



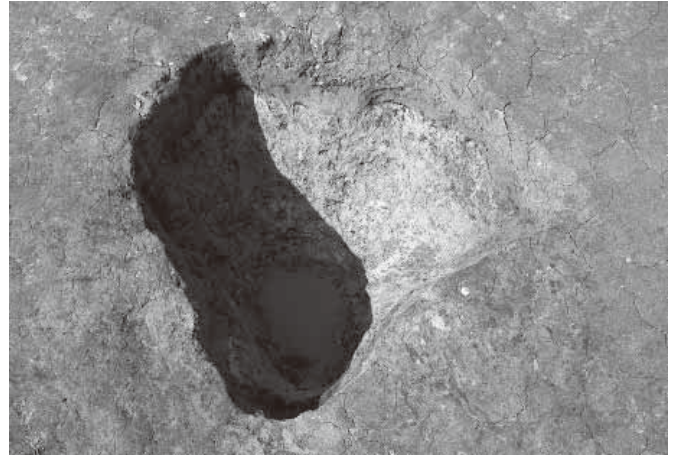
7. VI区6号井戸土層断面(北西から)



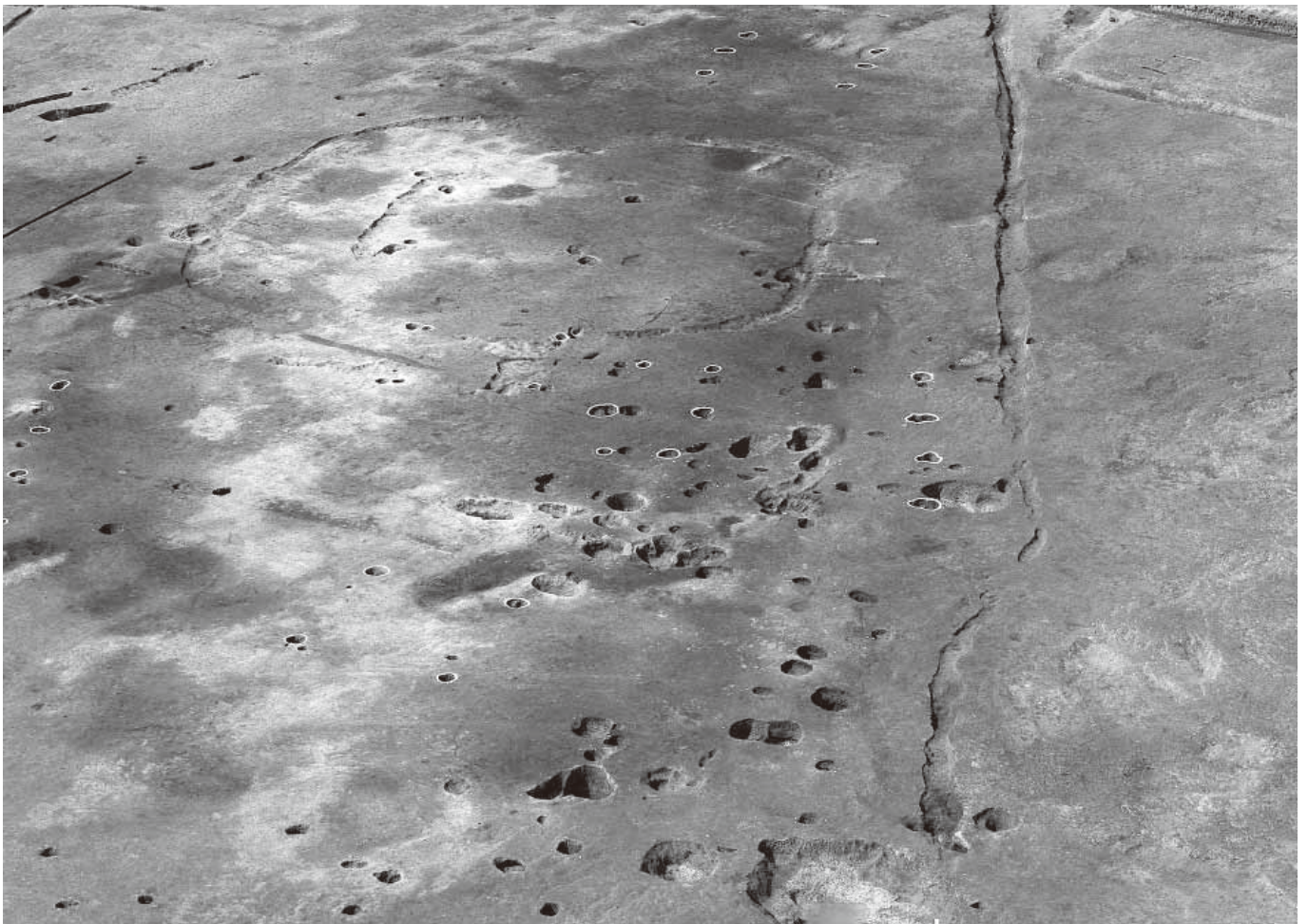
8. VI区6号井戸・43号土坑全景(南から)



1. Ⅵ区7号井戸土層断面(南から)



2. Ⅵ区7号井戸全景(南から)



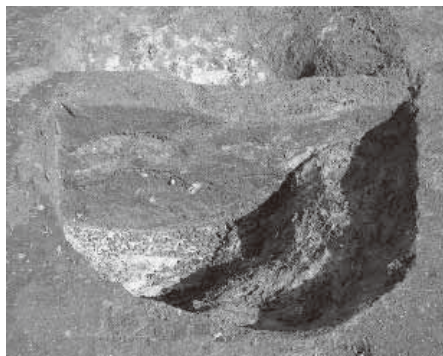
3. Ⅵ区古代～古墳時代遺構面遺構集中部近景(南東から)



4. Ⅵ区古代～古墳時代遺構面遺構集中部近景(西から)



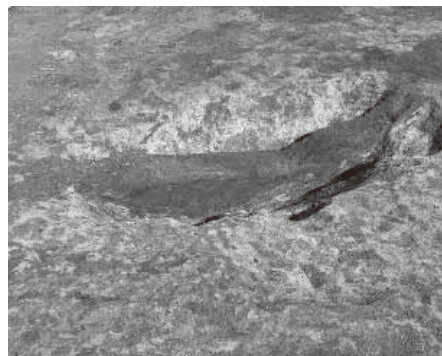
5. Ⅵ区古代～古墳時代遺構面調査風景(南西から)



1. VI区8号土坑土層断面(南から)



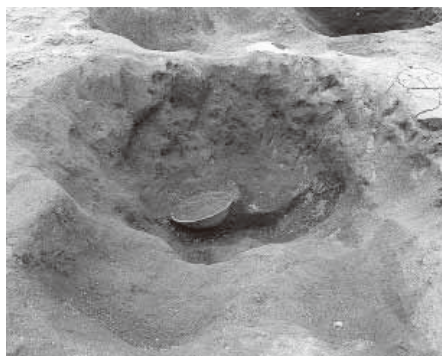
2. VI区8号・10号土坑全景(南から)



3. VI区9号土坑土層断面(南から)



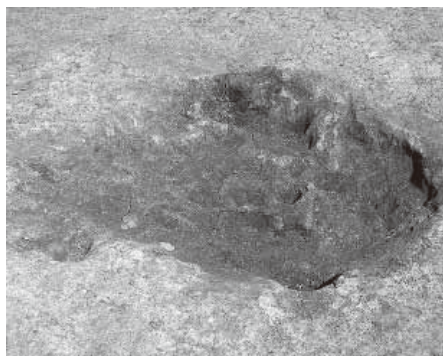
4. VI区21号土坑全景(東から)



5. VI区21号土坑土層断面(東から)



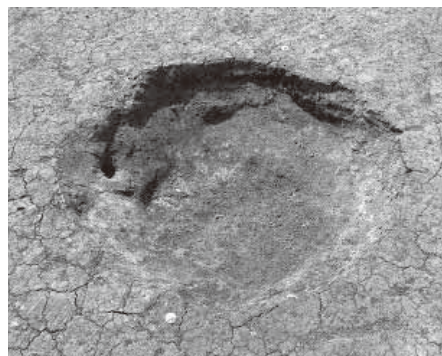
6. VI区27号土坑土層断面(南から)



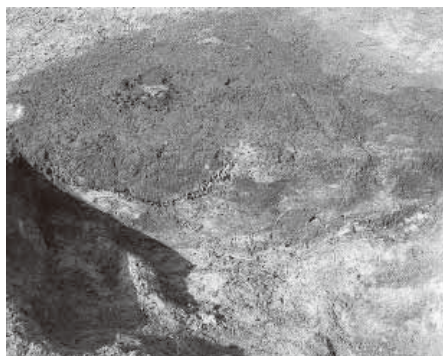
7. VI区28号土坑全景(南から)



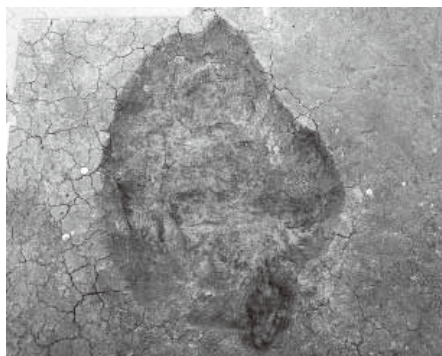
8. VI区29号土坑土層断面(南から)



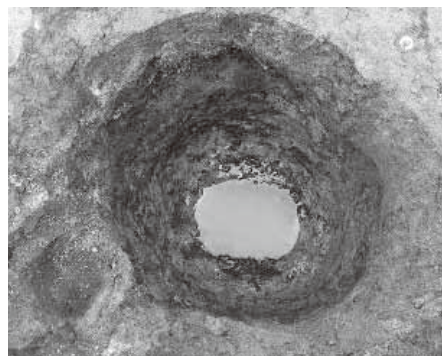
9. VI区29号土坑全景(南から)



10. VI区30号土坑土層断面(南から)



11. VI区30号土坑全景(南から)



12. VI区31号土坑全景(南から)



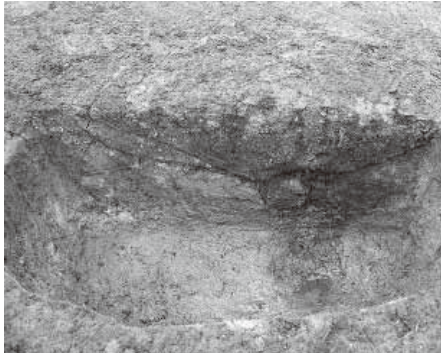
13. VI区32号土坑土層断面(南から)



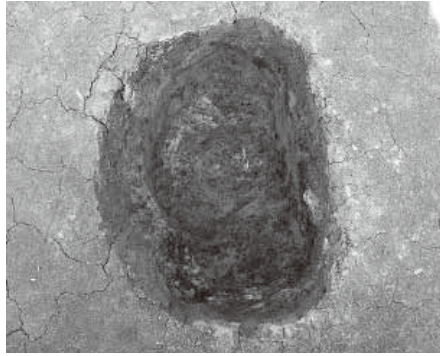
14. VI区32号土坑全景(南から)



15. VI区33号土坑土層断面(南から)



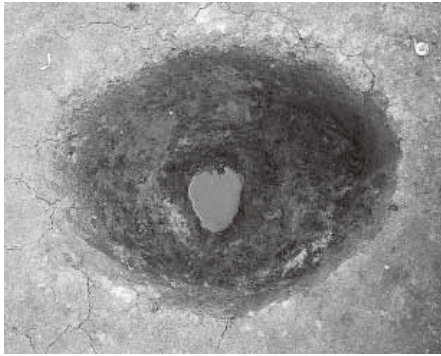
1. VI区34号土坑土層断面(南から)



2. VI区34号土坑全景(南から)



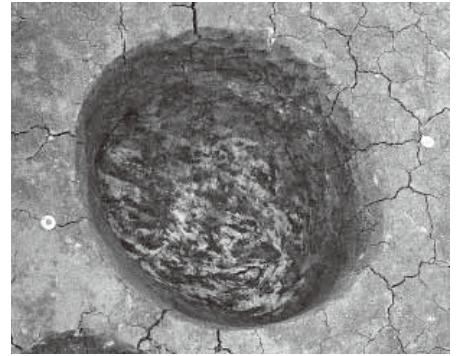
3. VI区35号土坑土層断面(南から)



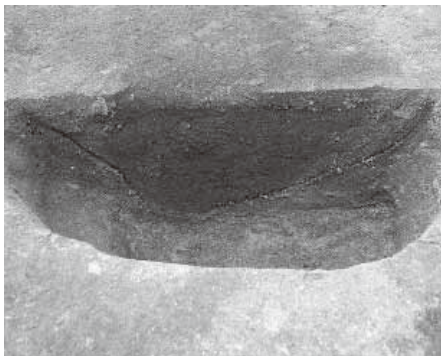
4. VI区35号土坑全景(南から)



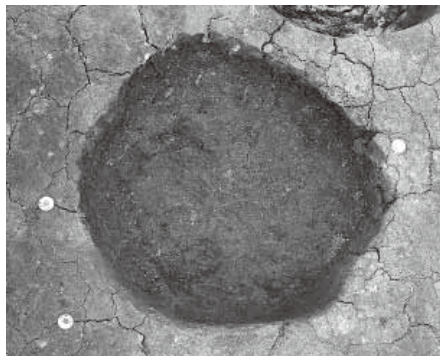
5. VI区36号土坑土層断面(南西から)



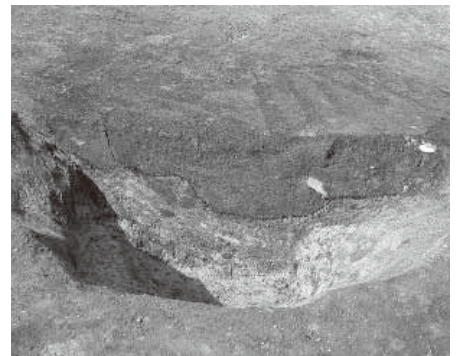
6. VI区36号土坑全景(東から)



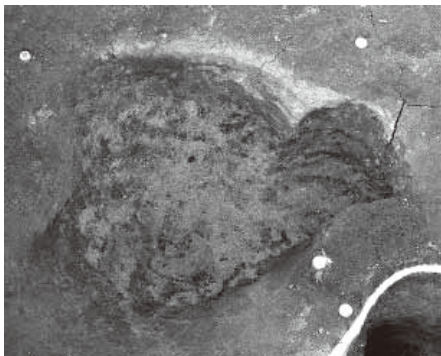
7. VI区37号土坑土層断面(南東から)



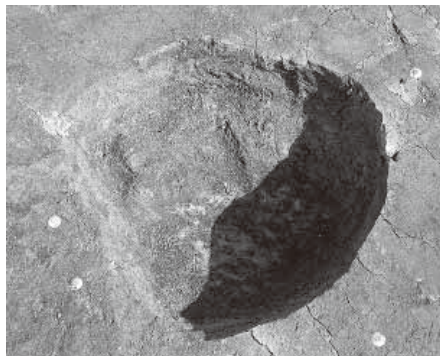
8. VI区37号土坑全景(東から)



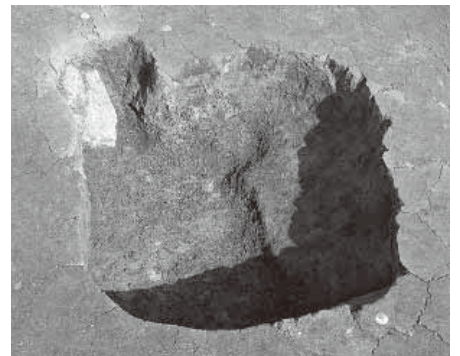
9. VI区38号土坑土層断面(南から)



10. VI区38号土坑全景(東から)



11. VI区39号土坑全景(南から)



12. VI区40号土坑全景(南から)



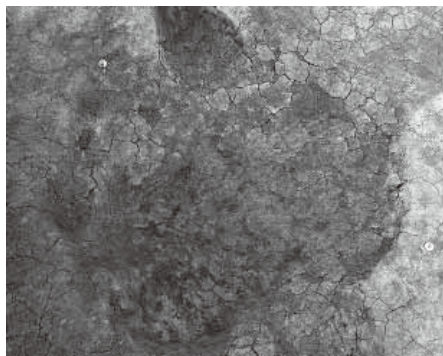
13. VI区41号土坑土層断面(南から)



14. VI区41号土坑全景(南から)



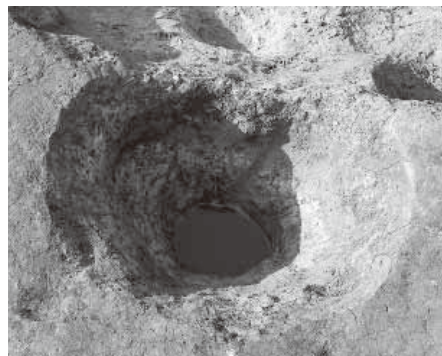
15. VI区42号土坑土層断面(南西から)



1. Ⅵ区42号土坑全景(東から)



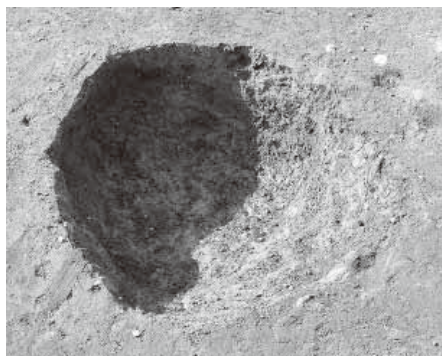
2. Ⅵ区43号土坑土層断面(南西から)



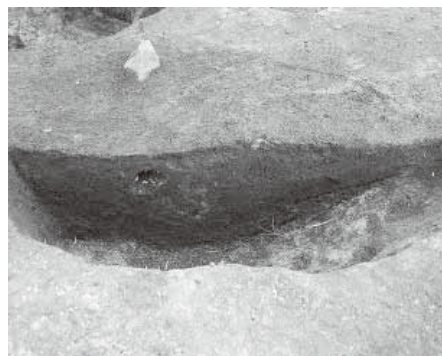
3. Ⅵ区43号土坑全景(南から)



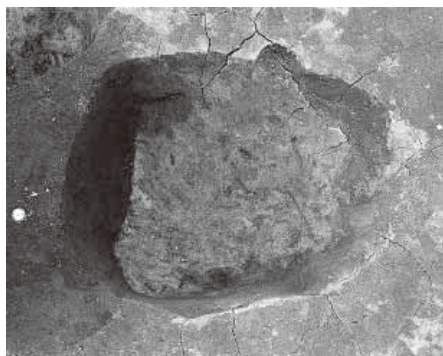
4. Ⅵ区44号土坑土層断面(南西から)



5. Ⅵ区44号土坑全景(南から)



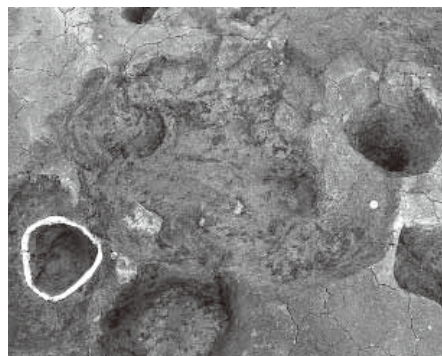
6. Ⅵ区45号土坑土層断面(南から)



7. Ⅵ区45号土坑全景(東から)



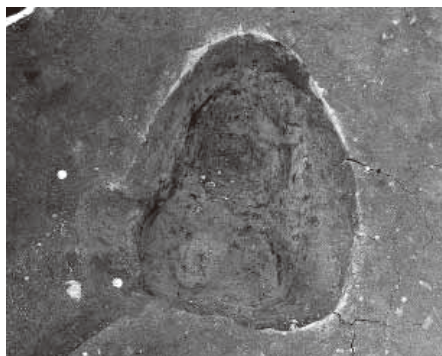
8. Ⅵ区46号土坑土層断面(南から)



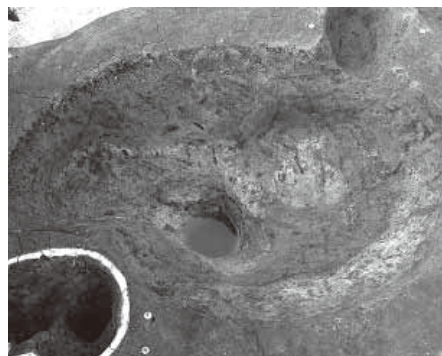
9. Ⅵ区46号土坑全景(東から)



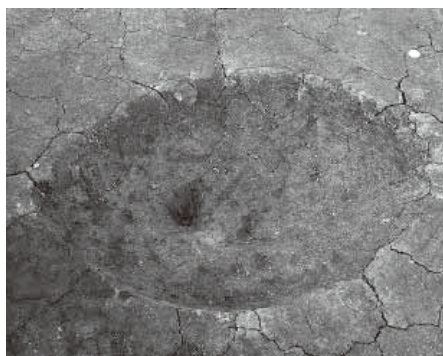
10. Ⅵ区47号土坑土層断面(南から)



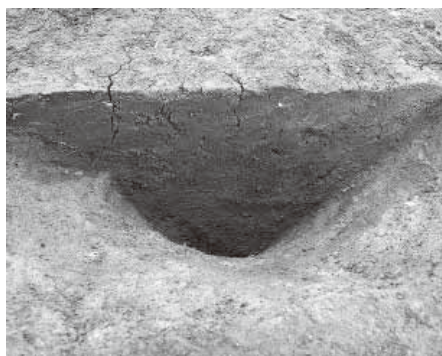
11. Ⅵ区47号土坑全景(東から)



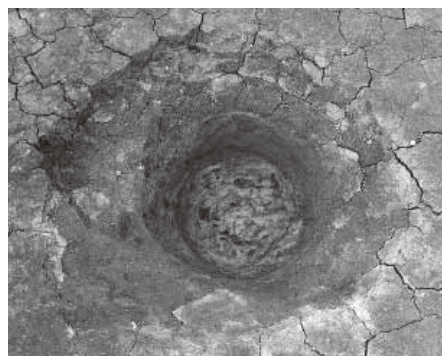
12. Ⅵ区48号土坑全景(東から)



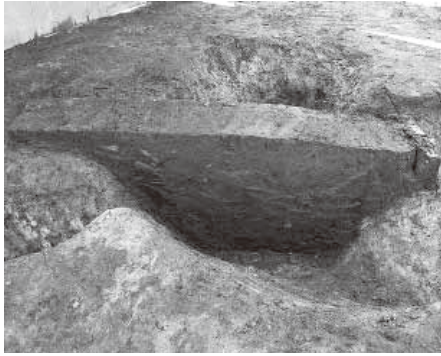
13. Ⅵ区49号土坑全景(東から)



14. Ⅵ区50号土坑土層断面(南から)



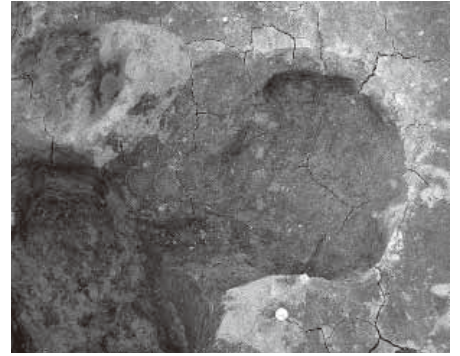
15. Ⅵ区50号土坑全景(東から)



1. VI区51号土坑土層断面(南から)



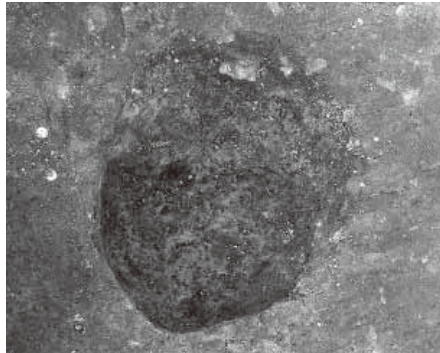
2. VI区52号土坑土層断面(東から)



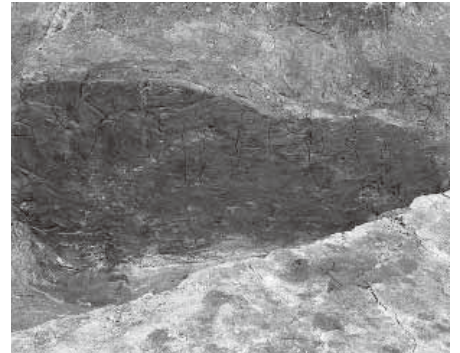
3. VI区52号土坑全景(東から)



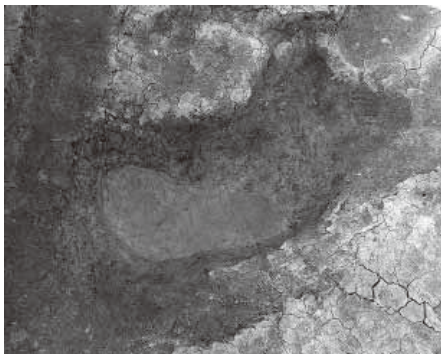
4. VI区53号土坑土層断面(南から)



5. VI区53号土坑全景(東から)



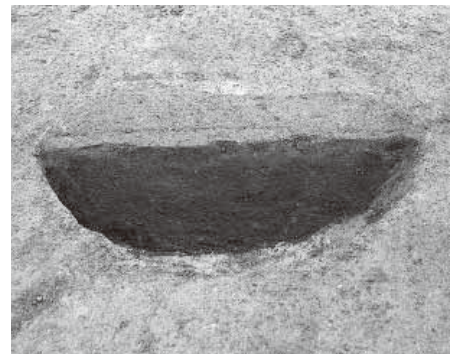
6. VI区54号土坑土層断面(南から)



7. VI区54号土坑全景(東から)



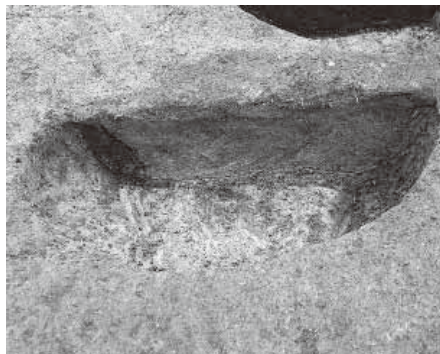
8. VI区2号ピット土層断面(南から)



9. VI区3号ピット土層断面(南から)



10. VI区4号ピット土層断面(南から)



11. VI区5号ピット土層断面(南から)



12. VI区17号ピット土層断面(南から)



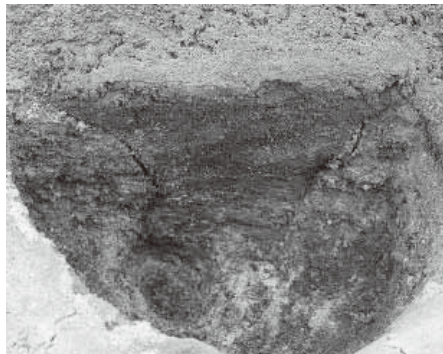
13. VI区18号ピット土層断面(南から)



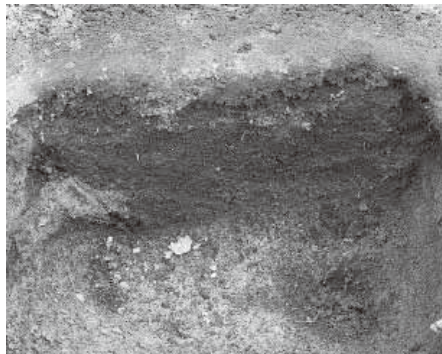
14. VI区19号ピット土層断面(南から)



15. VI区20号ピット土層断面(南から)



1. Ⅵ区24号ピット土層断面(南から)



2. Ⅵ区25号ピット土層断面(南から)



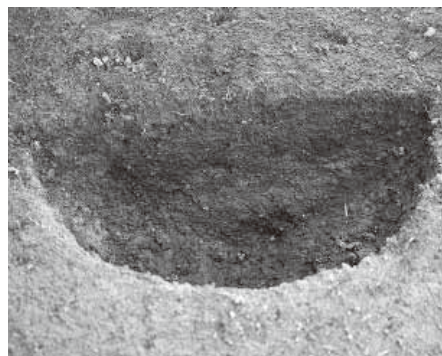
3. Ⅵ区28号ピット土層断面(南から)



4. Ⅵ区30号ピット土層断面(南から)



5. Ⅵ区34号ピット土層断面(南から)



6. Ⅵ区35号ピット土層断面(南から)



7. Ⅵ区36号ピット土層断面(南から)



8. Ⅵ区37号ピット土層断面(南から)



9. Ⅵ区38号ピット土層断面(南から)



10. Ⅵ区39号ピット土層断面(東から)



11. Ⅵ区40号ピット土層断面(東から)



12. Ⅵ区41号ピット土層断面(南から)



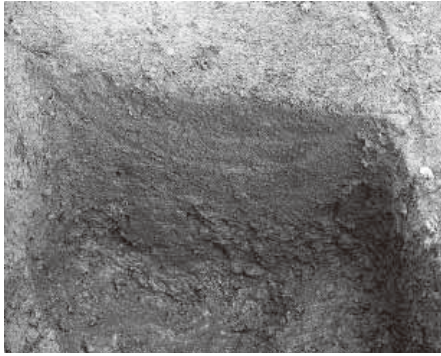
13. Ⅵ区42号ピット土層断面(南から)



14. Ⅵ区46号ピット土層断面(東から)



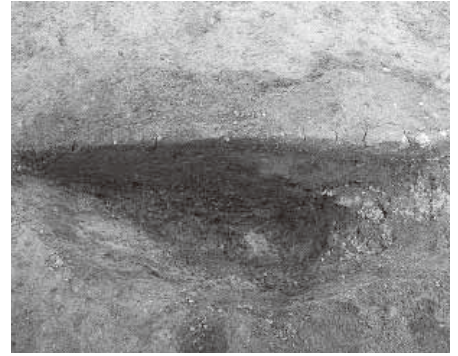
15. Ⅵ区47号ピット土層断面(東から)



1. VI区48号ピット土層断面(東から)



2. VI区49号ピット土層断面(南から)



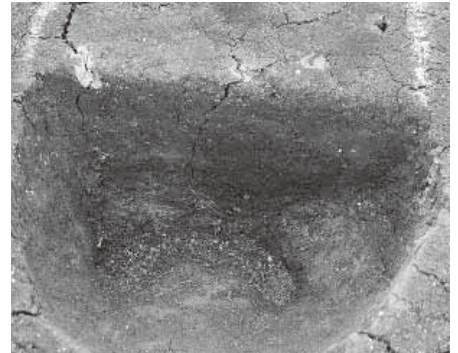
3. VI区50号ピット土層断面(南から)



4. VI区51号ピット土層断面(南から)



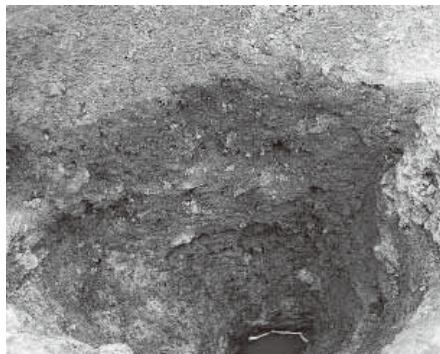
5. VI区52号ピット土層断面(南から)



6. VI区53号ピット土層断面(南から)



7. VI区55号ピット土層断面(南から)



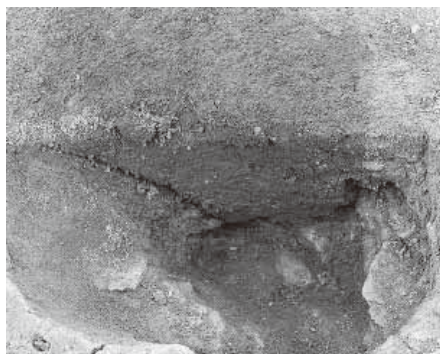
8. VI区56号ピット土層断面(南から)



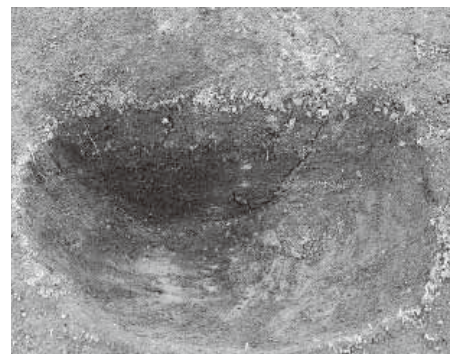
9. VI区64号ピット土層断面(南から)



10. VI区65号ピット土層断面(南から)



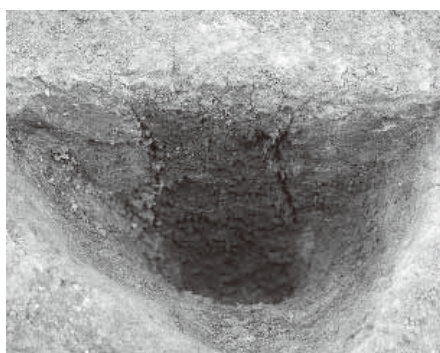
11. VI区66号ピット土層断面(南から)



12. VI区67号ピット土層断面(南から)



13. VI区70号ピット土層断面(南から)



14. VI区71号ピット土層断面(南から)



15. VI区72号ピット土層断面(南から)



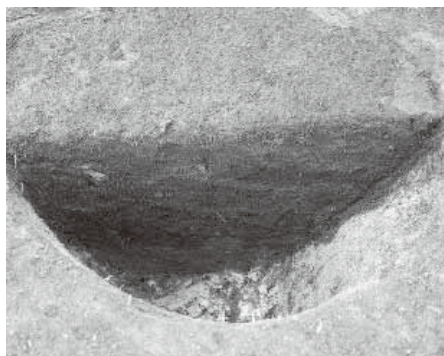
1. VI区73号ピット土層断面(南から)



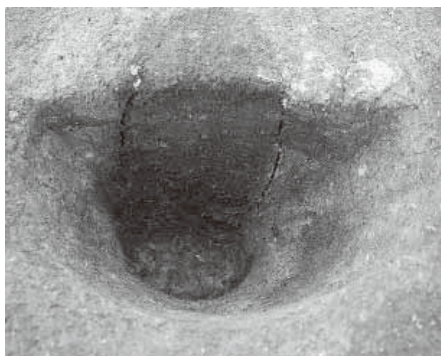
2. VI区74号ピット土層断面(南から)



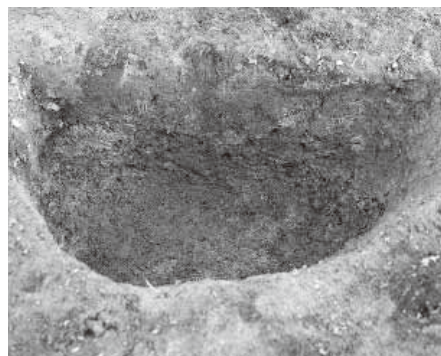
3. VI区86号ピット土層断面(南から)



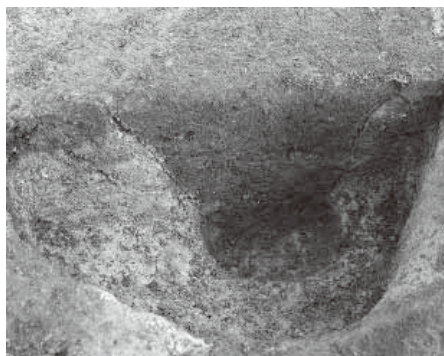
4. VI区89号ピット土層断面(南から)



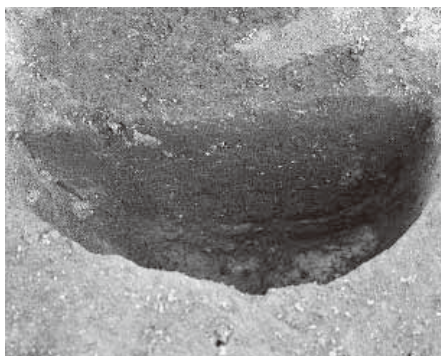
5. VI区90号ピット土層断面(南から)



6. VI区91号ピット土層断面(南から)



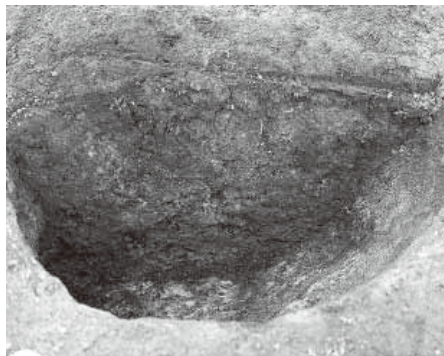
7. VI区92号ピット土層断面(南から)



8. VI区93号ピット土層断面(南から)



9. VI区94号ピット土層断面(南から)



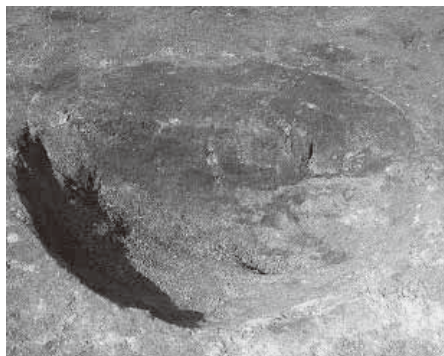
10. VI区95号ピット土層断面(南から)



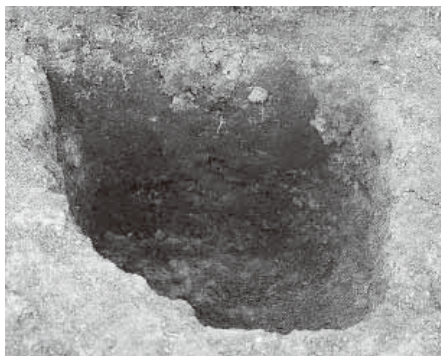
11. VI区96号ピット土層断面(南から)



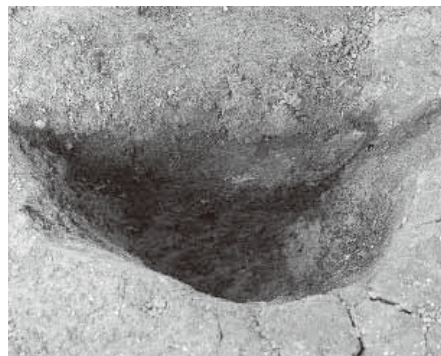
12. VI区98号ピット土層断面(南から)



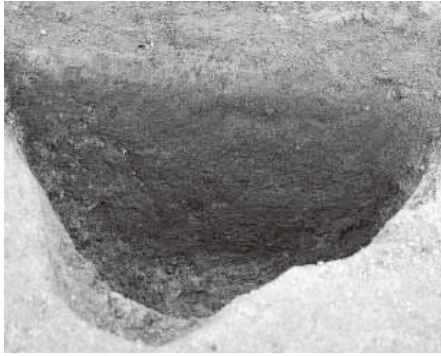
13. VI区100号ピット土層断面(南から)



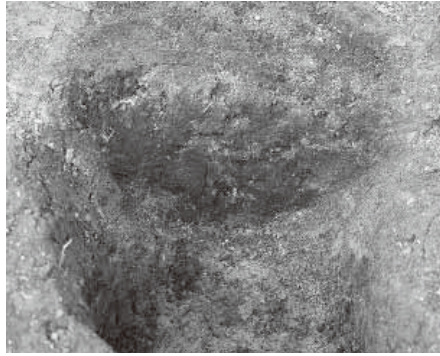
14. VI区101号ピット土層断面(南から)



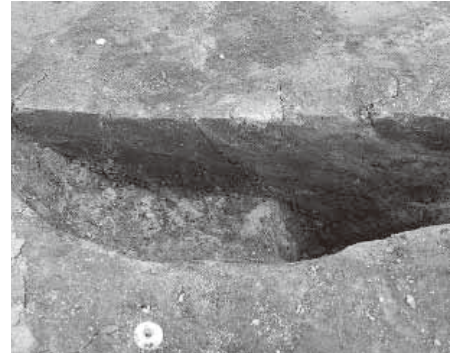
15. VI区102号ピット土層断面(南から)



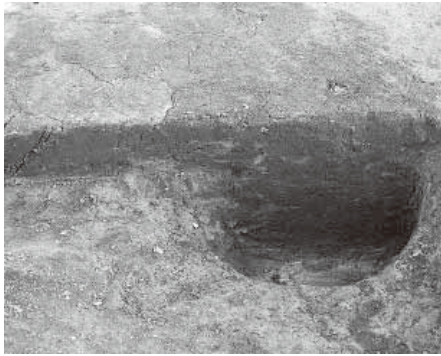
1. Ⅵ区104号ピット土層断面(南から)



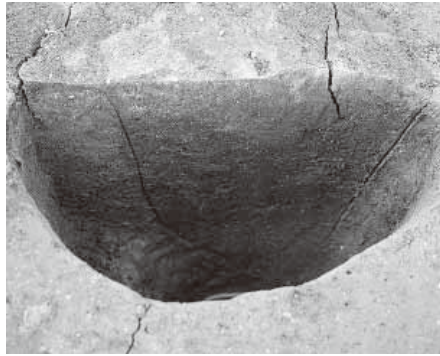
2. Ⅵ区107号ピット土層断面(南から)



3. Ⅵ区108号ピット土層断面(西から)



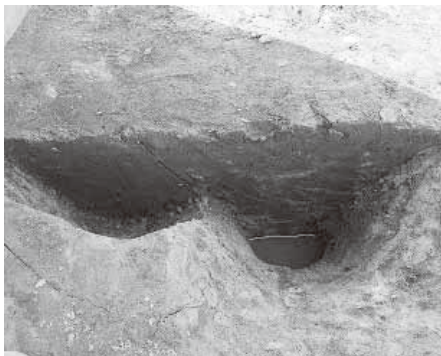
4. Ⅵ区110号ピット土層断面(西から)



5. Ⅵ区111号ピット土層断面(南から)



6. Ⅵ区112号ピット土層断面(東から)



7. Ⅵ区114・113号ピット土層断面(東から)



8. Ⅵ区115・116号ピット土層断面(南から)



9. Ⅵ区117号ピット土層断面(南から)



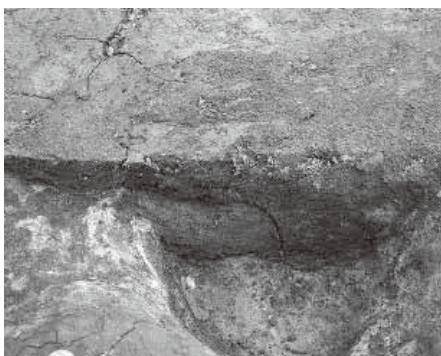
10. Ⅵ区119号ピット土層断面(南から)



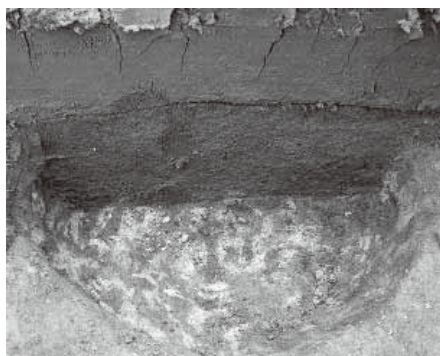
11. Ⅵ区120・121号ピット土層断面(南から)



12. Ⅵ区122号ピット土層断面(南から)



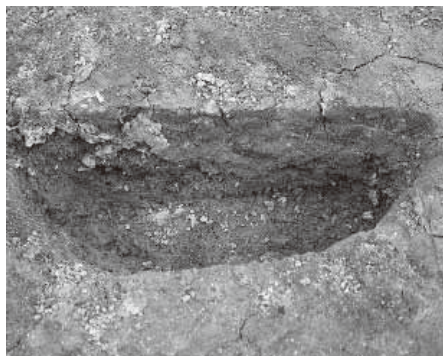
13. Ⅵ区123号ピット土層断面(南から)



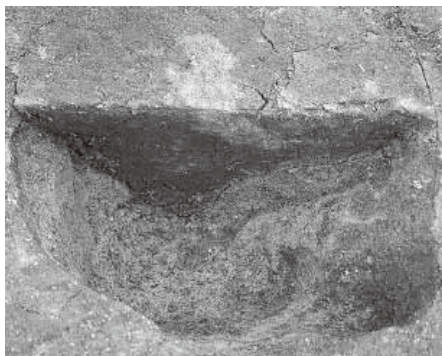
14. Ⅵ区124号ピット土層断面(南から)



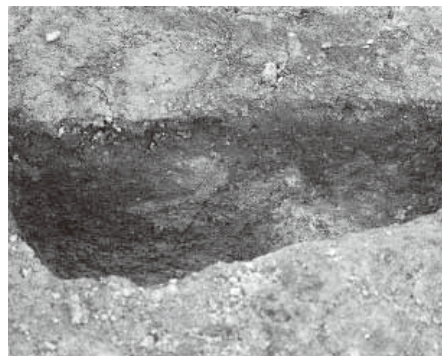
15. Ⅵ区125号ピット土層断面(南から)



1. Ⅵ区126号ピット土層断面(南から)



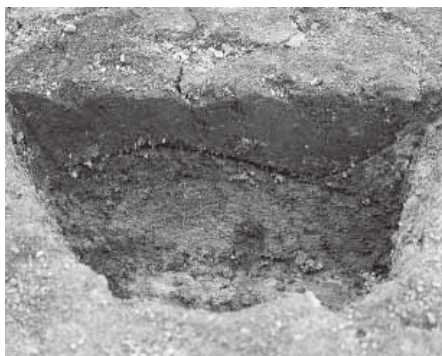
2. Ⅵ区127号ピット土層断面(南から)



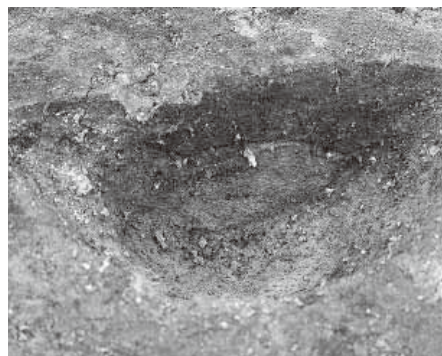
3. Ⅵ区129号ピット土層断面(南から)



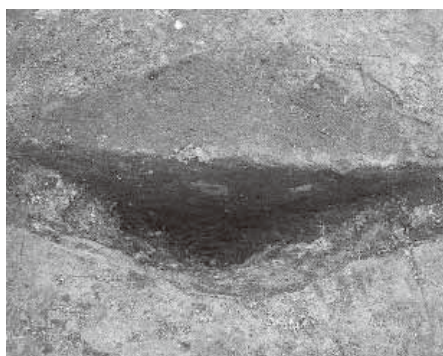
4. Ⅵ区130号ピット土層断面(南から)



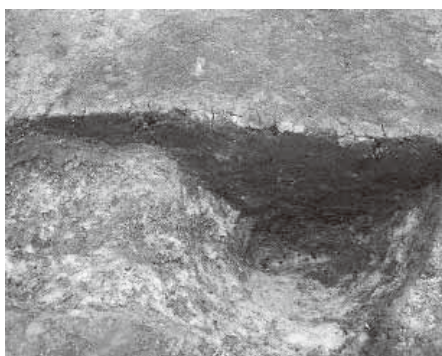
5. Ⅵ区131号ピット土層断面(南から)



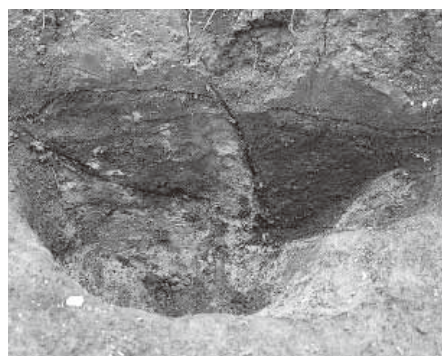
6. Ⅵ区132号ピット土層断面(南から)



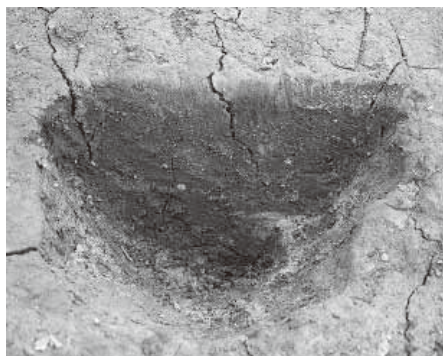
7. Ⅵ区133号ピット土層断面(南から)



8. Ⅵ区134号ピット土層断面(南から)



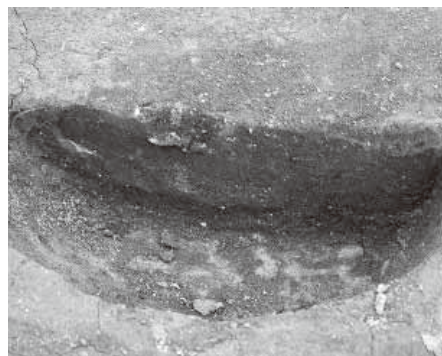
9. Ⅵ区137号ピット土層断面(南から)



10. Ⅵ区138号ピット土層断面(南から)



11. Ⅵ区139号ピット土層断面(南から)



12. Ⅵ区140号ピット土層断面(南から)



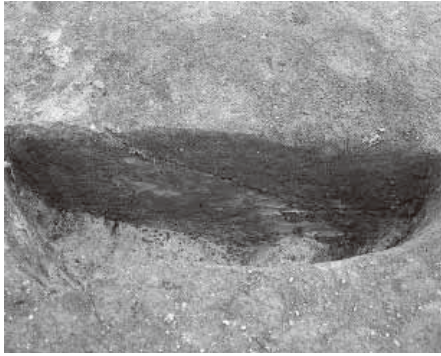
13. Ⅵ区141号ピット土層断面(南から)



14. Ⅵ区142号ピット土層断面(南から)



15. Ⅵ区143号ピット土層断面(南から)



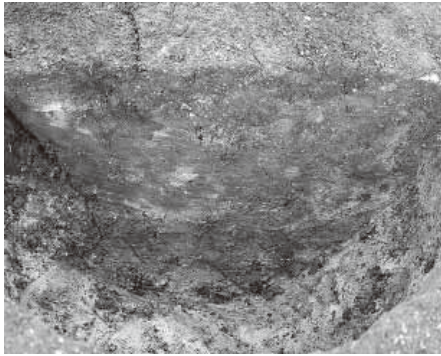
1. Ⅵ区144号ピット土層断面(南から)



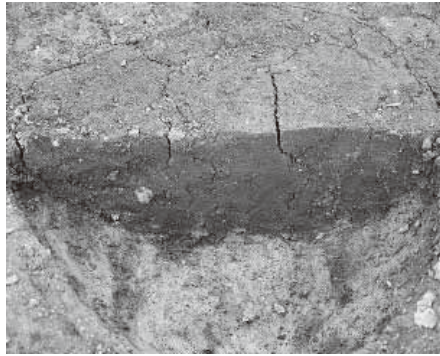
2. Ⅵ区145号ピット土層断面(南から)



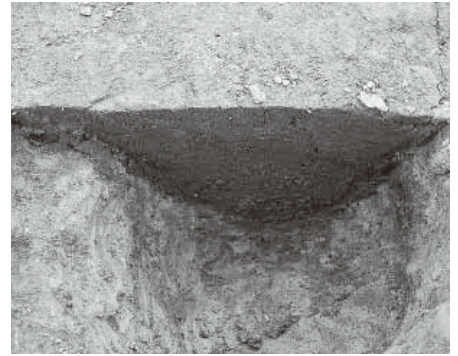
3. Ⅵ区147号ピット土層断面(南から)



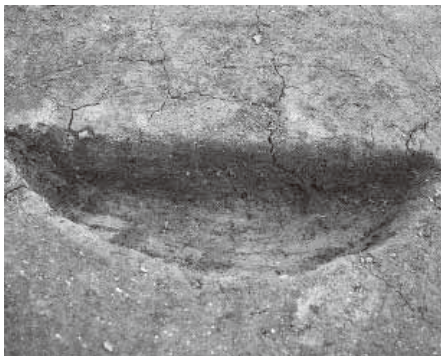
4. Ⅵ区149号ピット土層断面(南から)



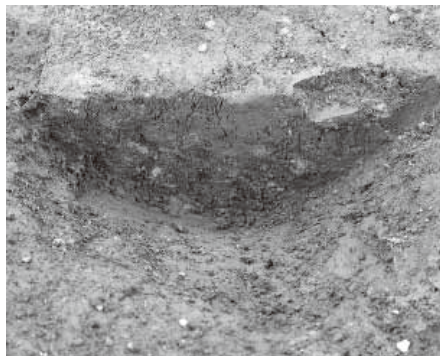
5. Ⅵ区154号ピット土層断面(南から)



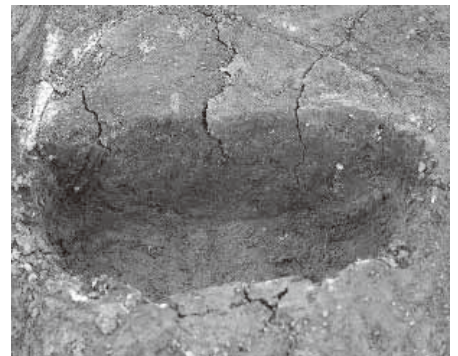
6. Ⅵ区155号ピット土層断面(北から)



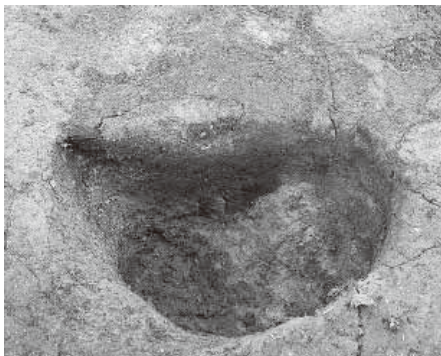
7. Ⅵ区156号ピット土層断面(南から)



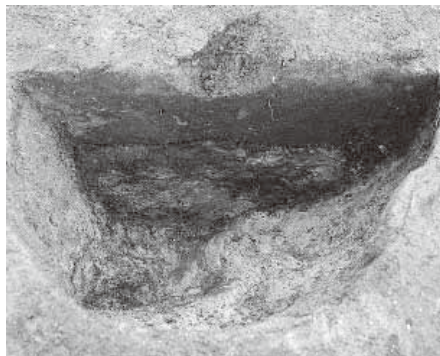
8. Ⅵ区163号ピット土層断面(東から)



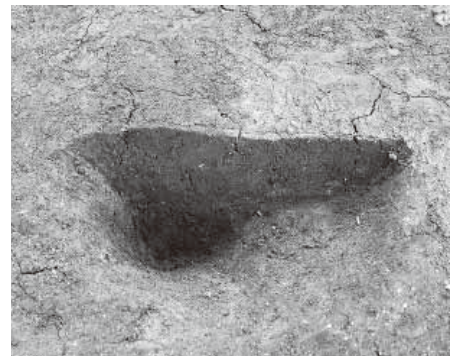
9. Ⅵ区164号ピット土層断面(南から)



10. Ⅵ区165号ピット土層断面(南から)



11. Ⅵ区169号ピット土層断面(南東から)



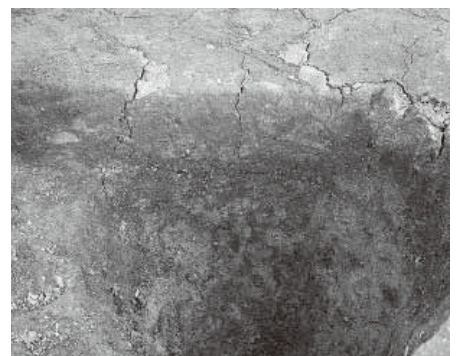
12. Ⅵ区170号ピット土層断面(南東から)



13. Ⅵ区171号ピット土層断面(南から)



14. Ⅵ区174号ピット土層断面(南から)



15. Ⅵ区176号ピット土層断面(南から)



1. VI区15号・14号溝全景(南から)



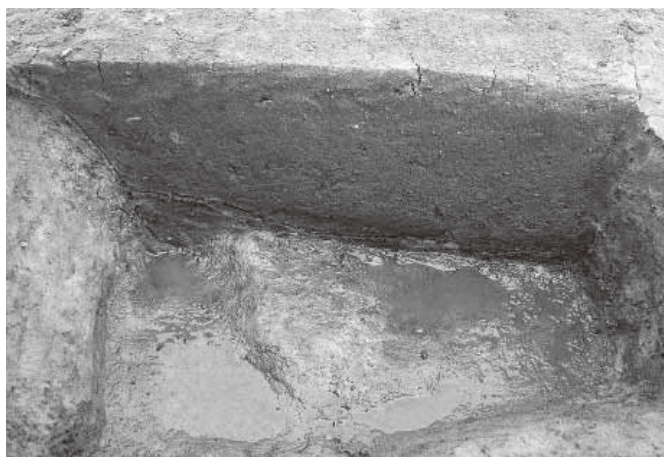
2. VI区14号溝土層断面(南から)



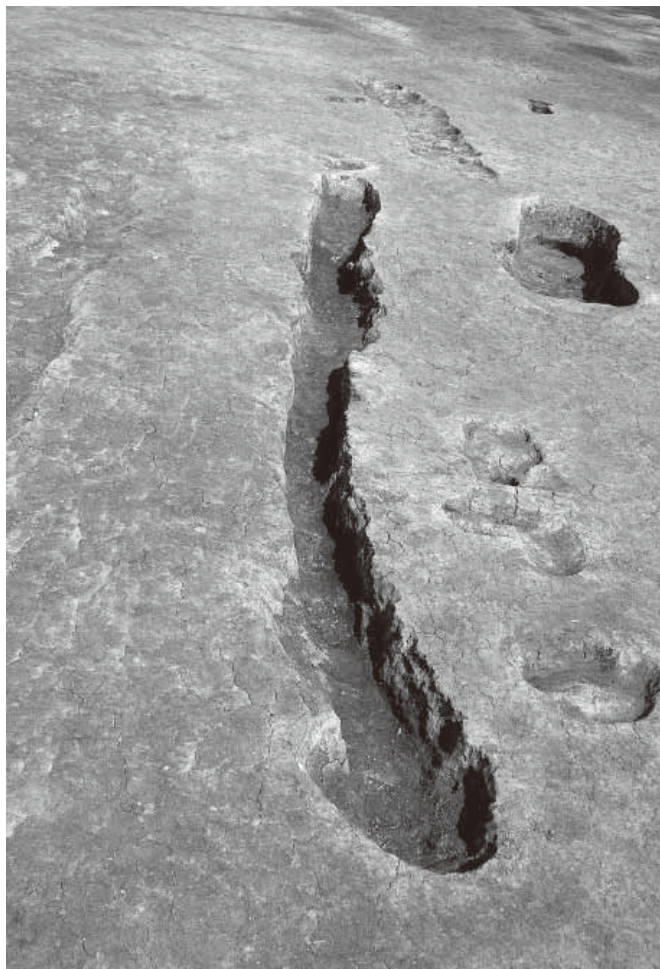
3. VI区14号溝遺物出土状態(北から)



4. VI区14号溝上層遺物出土状態(北から)



5. VI区15号溝土層断面(南から)



6. VI区16号溝全景(南から)



1. VI区16号溝遺物出土状態全景(北から)



2. VI区16号溝遺物出土状態近景(南から)



3. VI区16号溝土層断面(南から)



4. VI区16号溝遺物出土状態(北から)



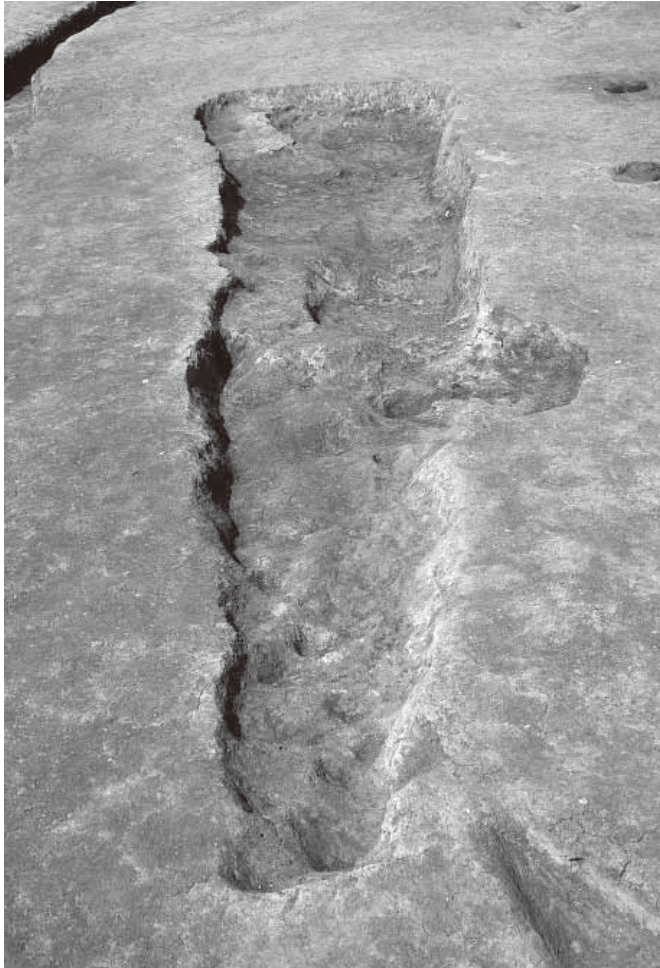
5. VI区16号溝遺物出土状態(南東から)



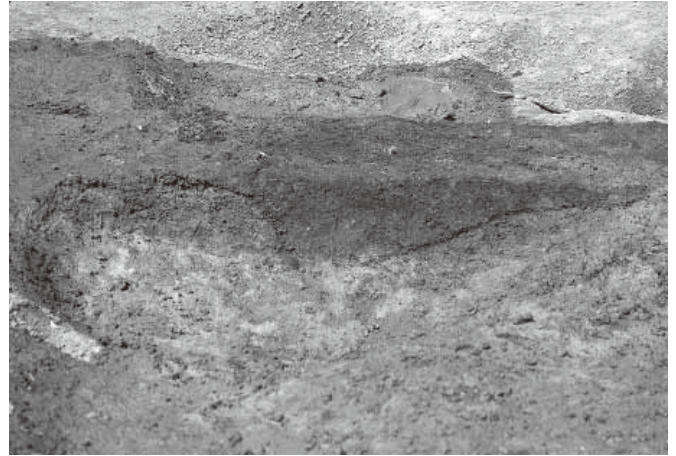
6. VI区16号溝遺物出土状態(南から)



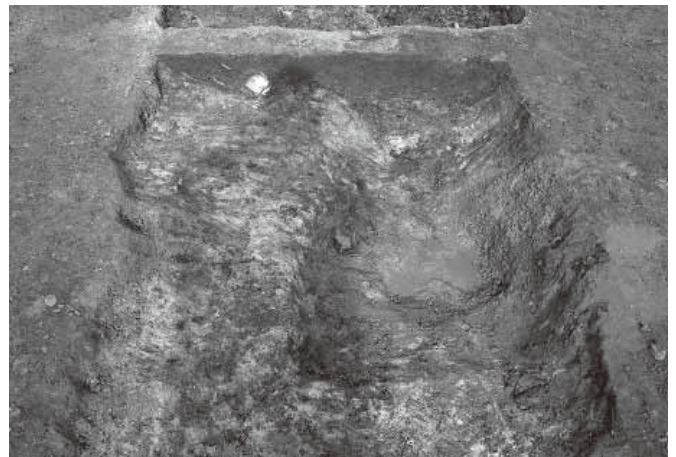
7. VI区17号溝全景(南から)



1. VI区18号溝全景(南東から)



2. VI区17号溝土層断面(南から)



3. VI区18号溝遺物出土状態(南東から)



4. VI区18号溝遺物集中出土状態(東から)



5. VI区18号溝遺物出土状態(南から)



6. VI区18号溝遺物集中出土状態(南から)



7. VI区18号溝遺物出土状態(南から)



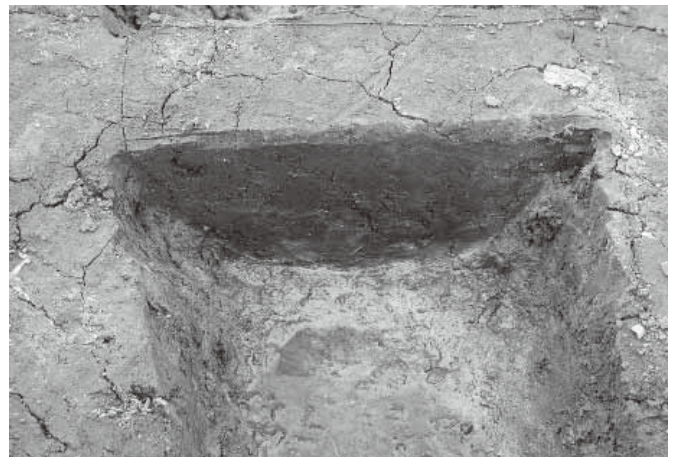
1. Ⅵ区19号溝全景(南東から)



2. Ⅵ区19号溝土層断面(南から)



3. Ⅵ区20号溝全景(南東から)



4. Ⅵ区20号溝土層断面(南から)



5. Ⅵ区21号溝全景(南東から)



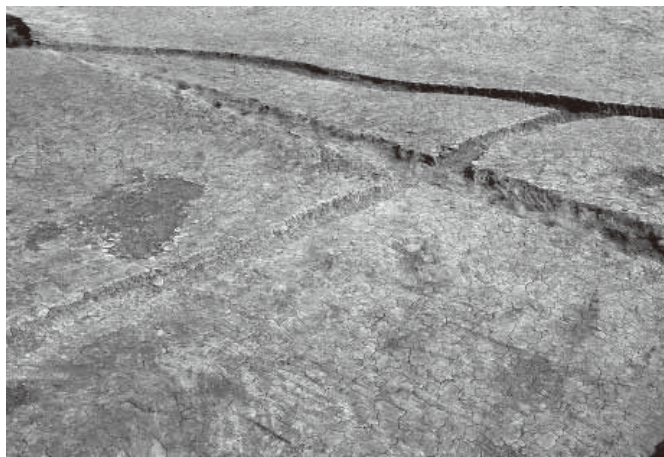
6. Ⅵ区21号溝土層断面(南東から)



7. Ⅵ区21号溝遺物出土状態(北から)



8. Ⅵ区21号溝遺物出土状態(南から)



1. VI区22号溝全景(南西から)



2. VI区22号溝土層断面(東から)



3. VI区23号溝全景(南東から)



4. VI区23号溝土層断面(南西から)



5. VI区24号溝全景(南東から)



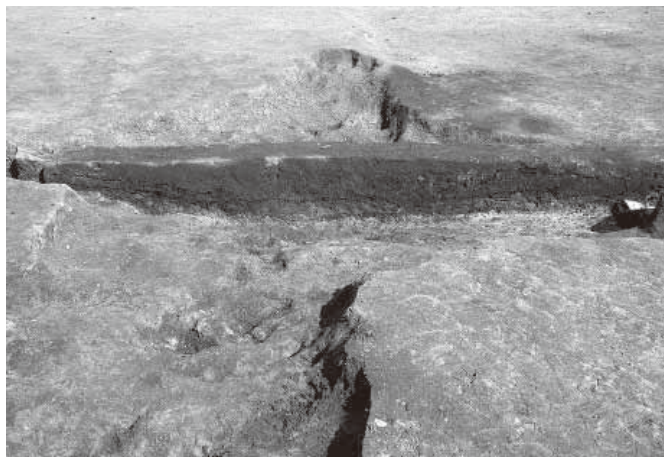
6. VI区24号溝土層断面(東から)



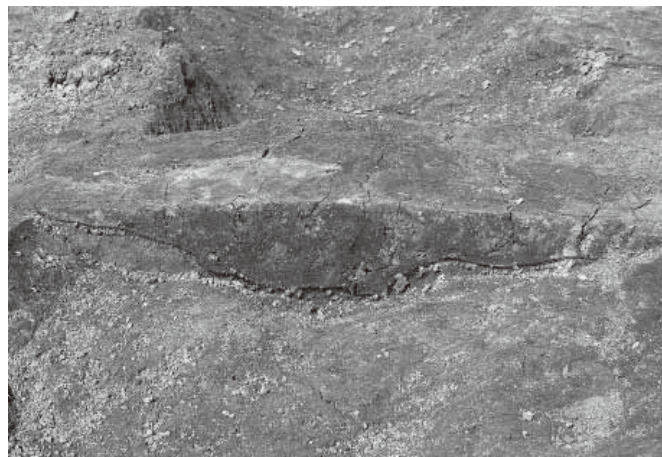
7. VI区24号溝遺物出土状態(西から)



8. VI区25号溝全景(南東から)



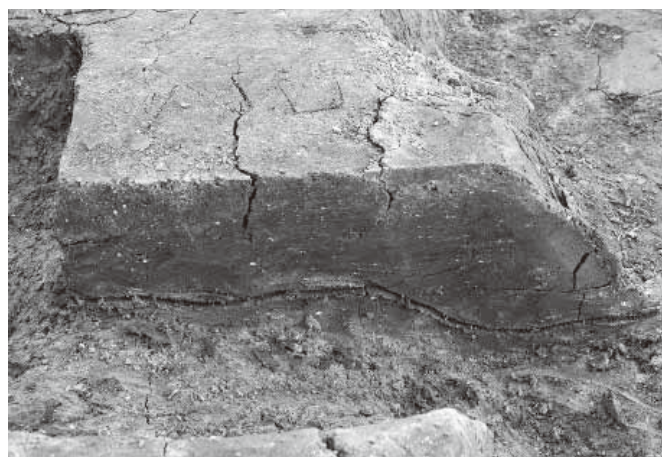
1. Ⅵ区25号溝土層断面(西から)



2. Ⅵ区26号溝土層断面(南から)



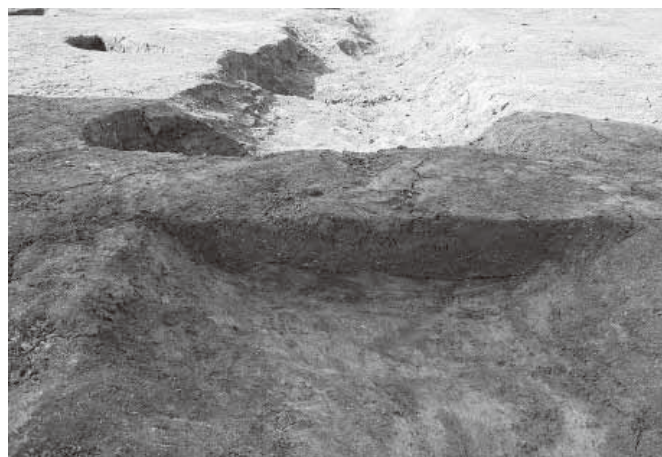
3. Ⅵ区27号溝土層断面(北東から)



4. Ⅵ区27号・20号溝土層断面(北から)



5. Ⅵ区28号溝全景(南東から)



6. Ⅵ区28号溝土層断面(南から)



7. Ⅵ区29号溝全景(東から)



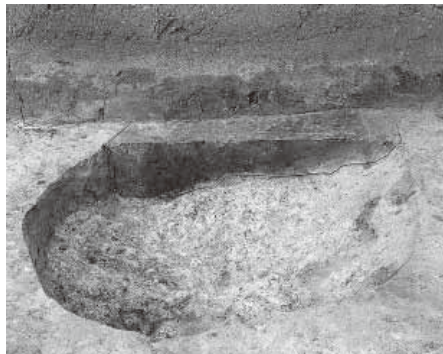
8. Ⅵ区29号溝土層断面(南から)



1. Ⅷ区古代～古墳時代遺構面全景(東から)



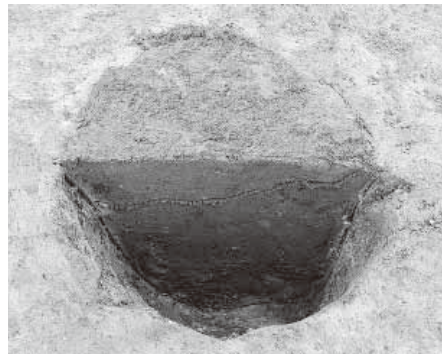
2. Ⅷ区古代～古墳時代遺構面全景(上空から)



1. Ⅷ区12号土坑土層断面(東から)



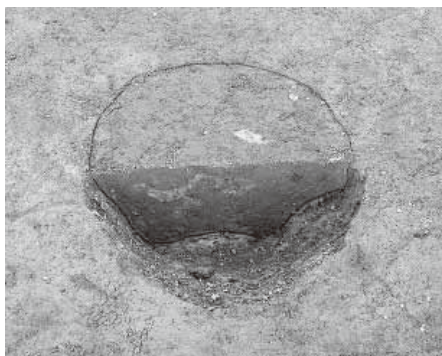
2. Ⅷ区12号土坑全景(東から)



3. Ⅷ区1号ピット土層断面(南西から)



4. Ⅷ区2号ピット土層断面(南から)



5. Ⅷ区3号ピット土層断面(南から)



6. Ⅷ区5号溝土層断面(東から)



7. Ⅷ区5号溝全景(南東から)



8. Ⅷ区5号溝全景(北西から)



9. Ⅷ区5号溝土層断面(南東から)



10. Ⅷ区5号・8号溝土層断面(南西から)



11. Ⅷ区5号溝土層断面(北東から)



1. Ⅷ区5号～7号溝全景(北西から)



2. Ⅷ区6号溝土層断面(東から)



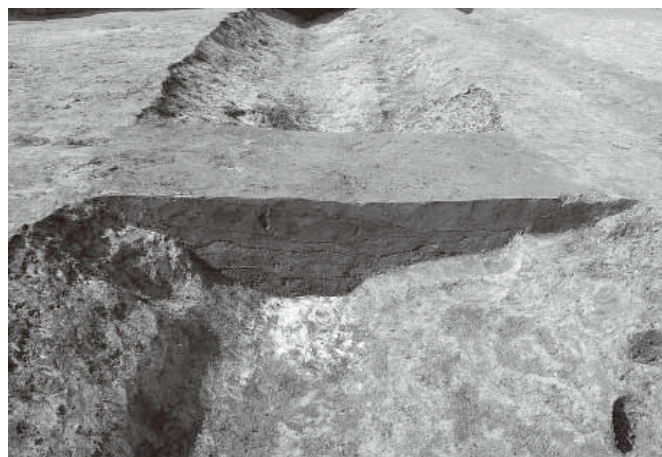
3. Ⅷ区6号溝土層断面(東から)



4. Ⅷ区6号・7号溝全景(北西から)



5. Ⅷ区7号溝土層断面(東から)



6. Ⅷ区7号溝土層断面(南東から)



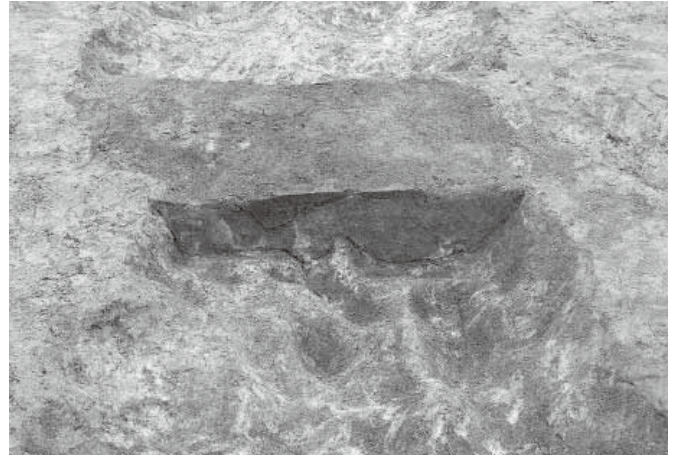
7. Ⅷ区7号溝土層断面(北から)



8. Ⅷ区7号溝全景(南東から)



1. Ⅷ区8号溝全景(北東から)



2. Ⅷ区8号溝土層断面(南西から)



3. Ⅷ区1号ピット列全景(南西から)



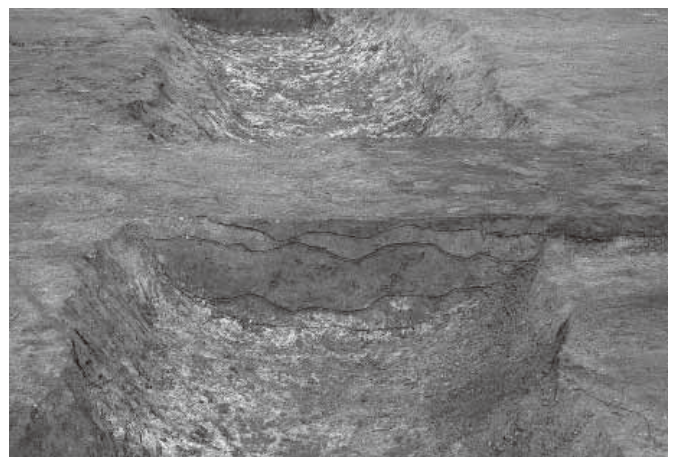
4. Ⅷ区1号ピット列土層断面(1)(南東から)



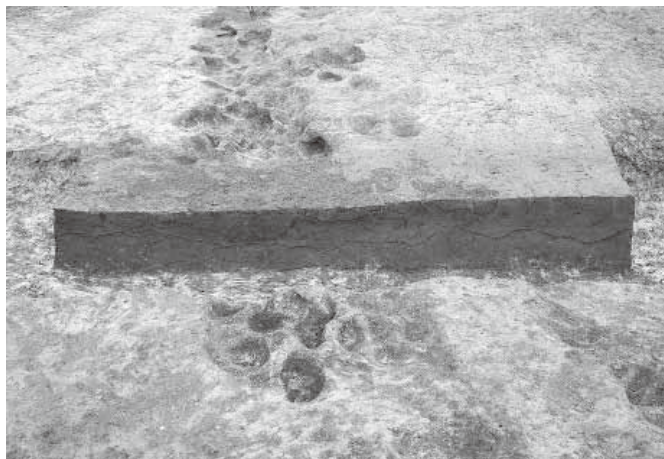
5. Ⅷ区1号ピット列土層断面(2)(南東から)



6. Ⅷ区9号溝土層断面A-A'(南東から)



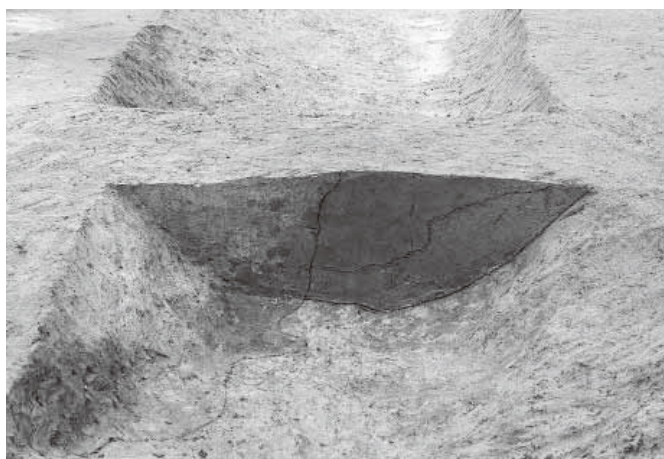
7. Ⅷ区9号溝土層断面B-B'(南東から)



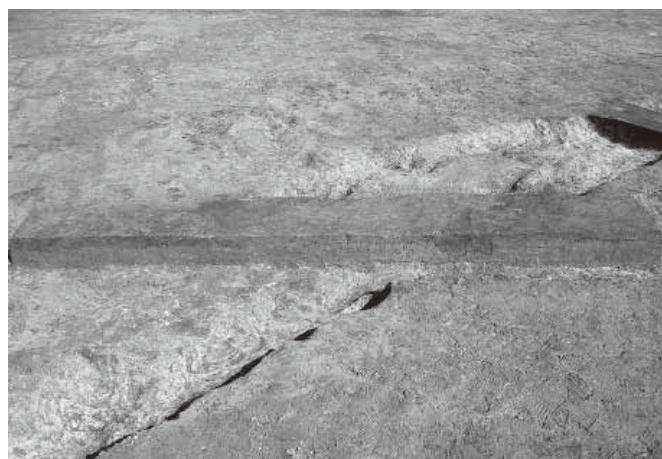
1. Ⅷ区8号・9号溝土層断面C-C' (南西から)



2. Ⅷ区9号溝土層断面E-E' (東から)



3. Ⅷ区9号溝土層断面D-D' (東から)



4. Ⅷ区9号～11号溝土層断面(南から)



5. Ⅷ区9号溝全景(北西から)



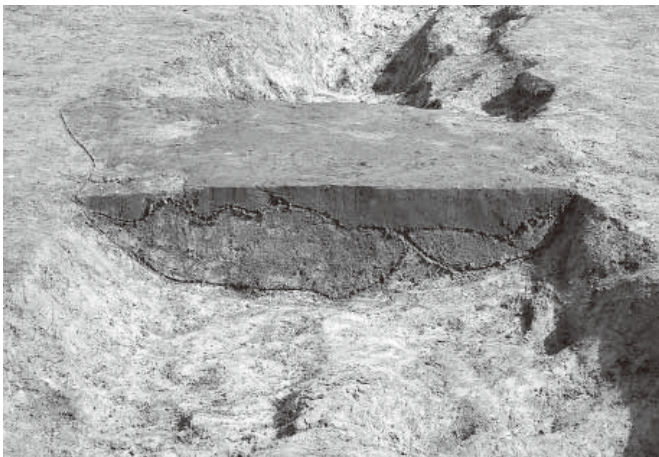
6. Ⅷ区10号溝全景(北東から)



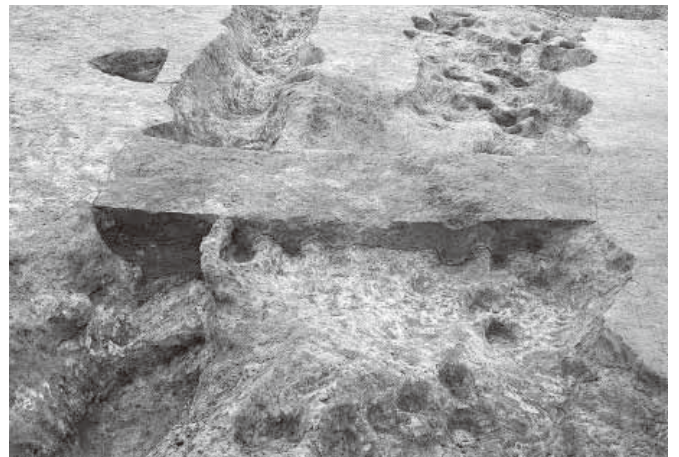
1. Ⅷ区10号・11号溝全景(北東から)



2. Ⅷ区10号溝土層断面(南から)



3. Ⅷ区10号・11号溝土層断面(南西から)



4. Ⅷ区3号・11号溝土層断面(北東から)



5. Ⅷ区11号溝全景(南西から)



6. Ⅷ区12号溝全景(南東から)



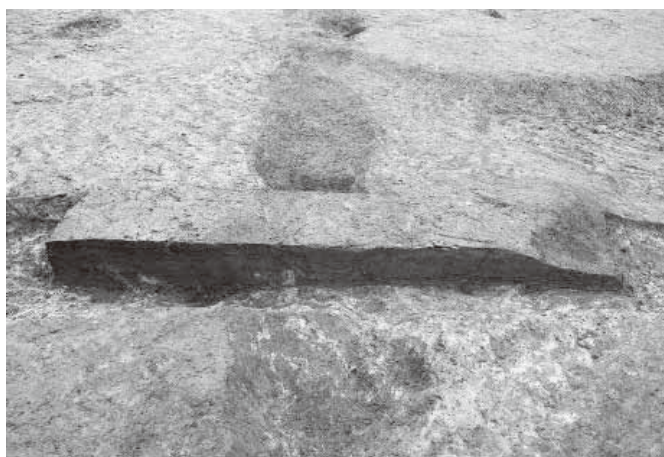
7. Ⅷ区12号溝全景(北西から)



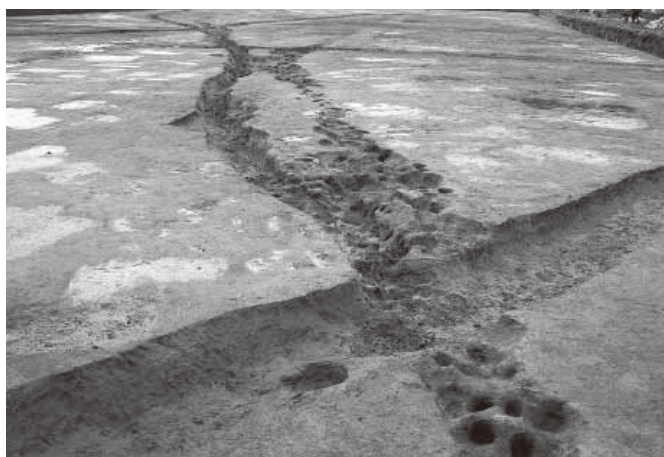
1. Ⅷ区12号溝土層断面(南東から)



2. Ⅷ区12号溝土層断面(東から)



3. Ⅷ区12号・14号溝土層断面(北東から)



4. Ⅷ区13号溝全景(東から)



5. Ⅷ区13号溝全景(西から)



6. Ⅷ区14号溝全景(北東から)



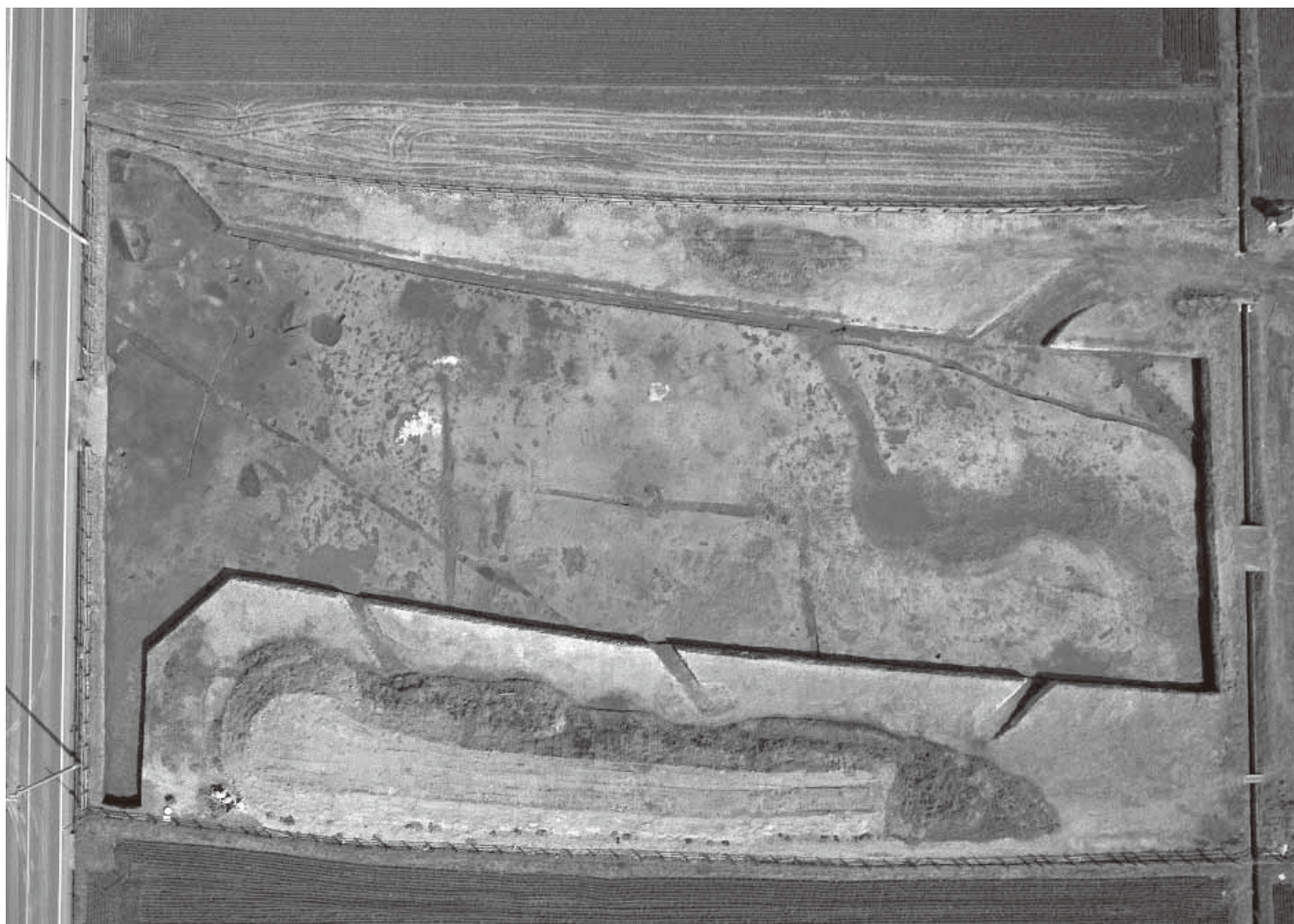
7. Ⅷ区14号溝全景(南から)



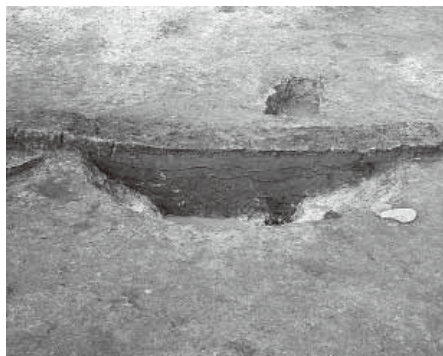
8. Ⅷ区14号溝土層断面(南西から)



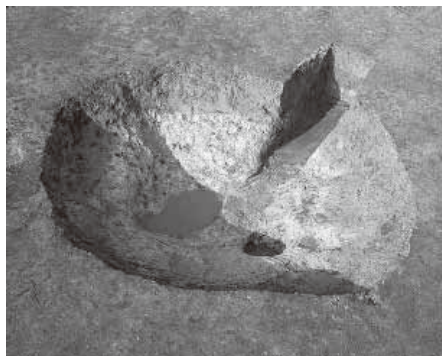
1. IX区古代～古墳時代遺構面全景(東から)



2. IX区古代～古墳時代遺構面全景(上空から)



1. IX区1号井戸土層断面(南西から)



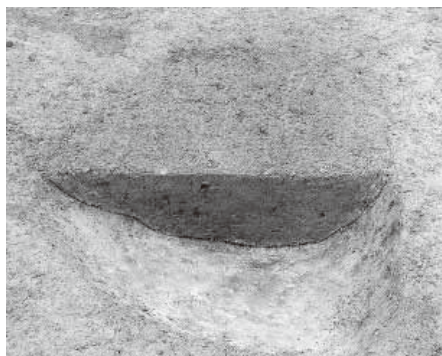
2. IX区1号井戸全景(南から)



3. IX区1号井戸遺物出土状態(南から)



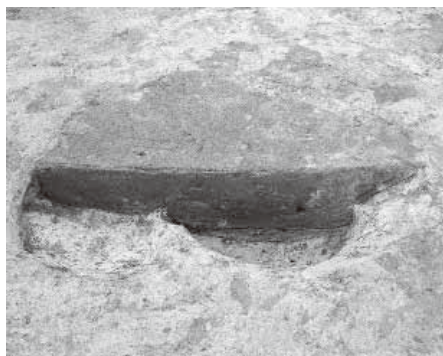
4. IX区1号井戸完掘状況(南から)



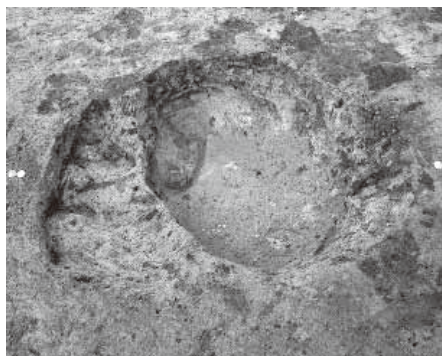
5. IX区24号土坑土層断面(東から)



6. IX区24号土坑全景(東から)



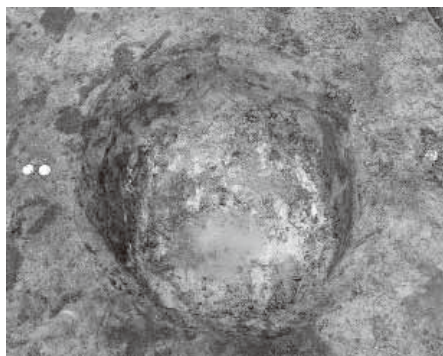
7. IX区25号・26号土坑土層断面(南から)



8. IX区25号・26号土坑全景(南から)



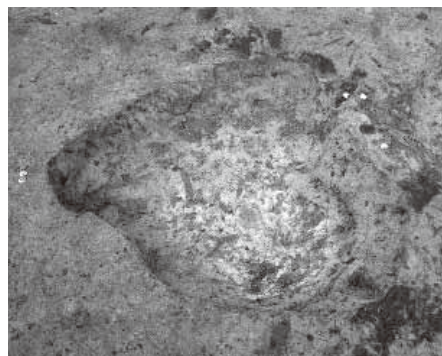
9. IX区27号土坑土層断面(南から)



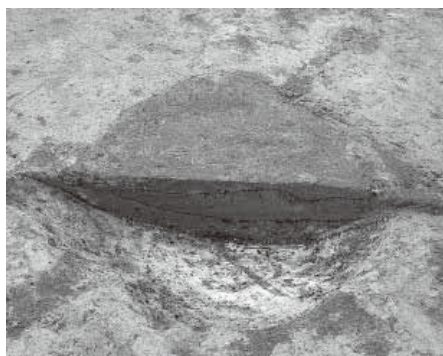
10. IX区27号土坑全景(南から)



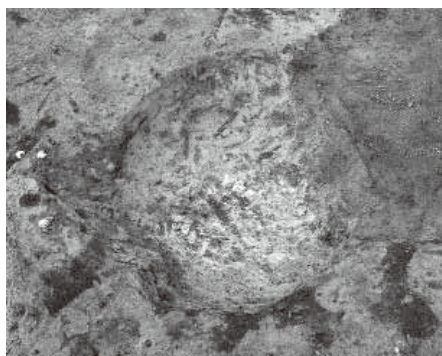
11. IX区28号土坑土層断面(南から)



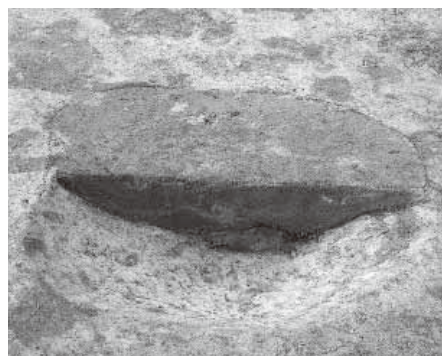
12. IX区28号土坑全景(南から)



13. IX区29号土坑土層断面(南から)



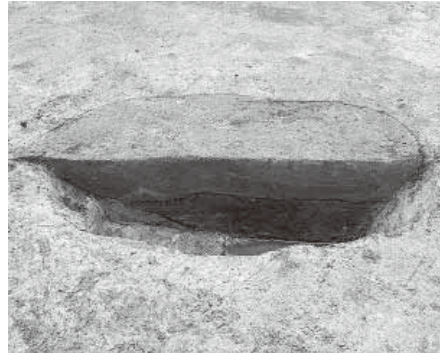
14. IX区29号土坑全景(南から)



15. IX区30号土坑土層断面(南から)



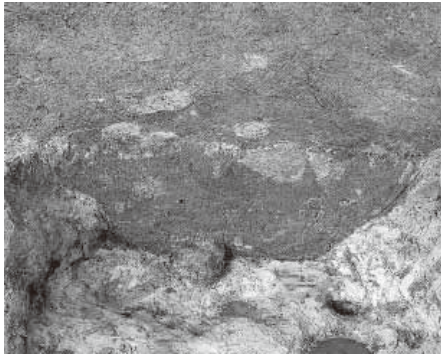
1. IX区30号土坑全景(南から)



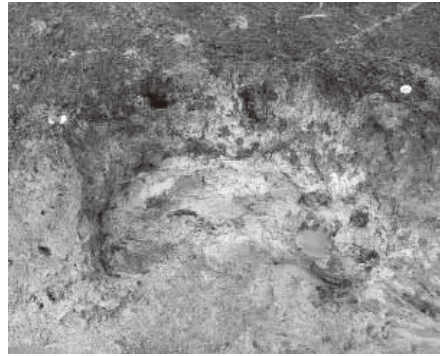
2. IX区31号土坑土層断面(東から)



3. IX区31号土坑全景(東から)



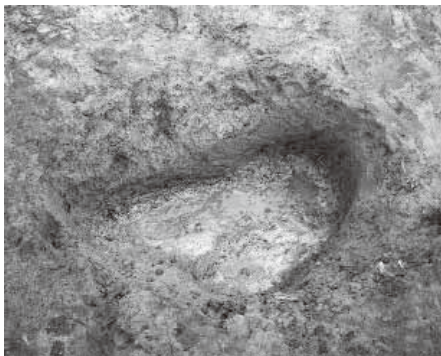
4. IX区32号土坑土層断面(南から)



5. IX区32号土坑全景(南西から)



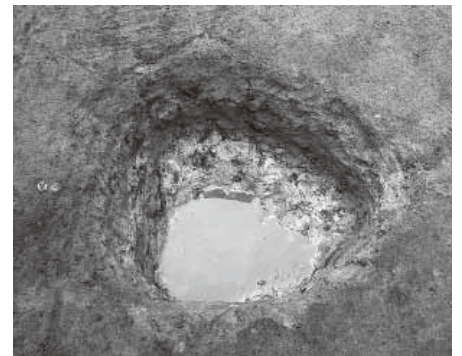
6. IX区33号土坑土層断面(南西から)



7. IX区33号土坑全景(南西から)



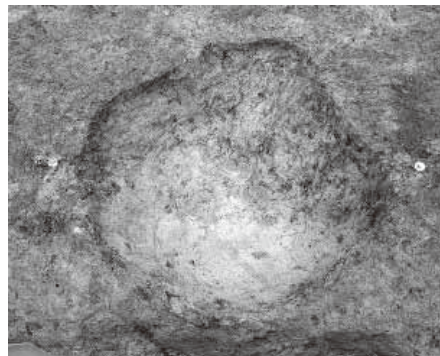
8. IX区34号土坑土層断面(北東から)



9. IX区34号土坑全景(東から)



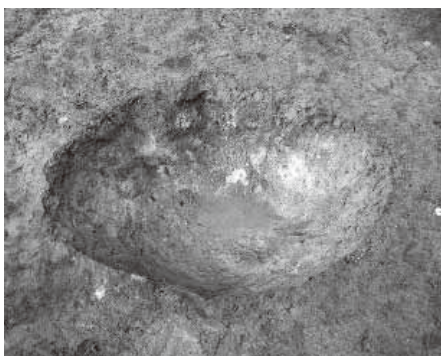
10. IX区35号土坑土層断面(南西から)



11. IX区35号土坑全景(南西から)



12. IX区36号土坑土層断面(南から)



13. IX区36号土坑全景(南から)



14. IX区37号土坑土層断面(北西から)



15. IX区37号土坑全景(北西から)



1. IX区7号溝全景(北から)



2. IX区7号溝土層断面(南から)



3. IX区8号溝全景(南から)



4. IX区8号溝土層断面(北から)



5. IX区9号溝全景(南東から)



6. IX区9号・10号溝土層断面(南東から)



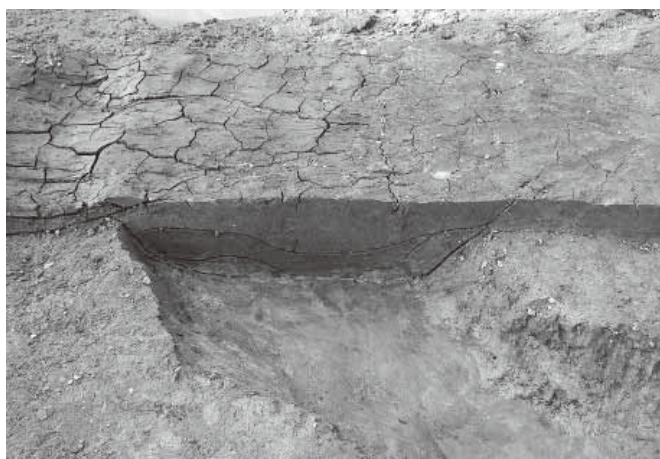
7. IX区10号・11号溝全景(南東から)



1. IX区10号溝全景(西から)



2. IX区10号溝土層断面(東から)



3. IX区9号・10号溝土層断面(南東から)



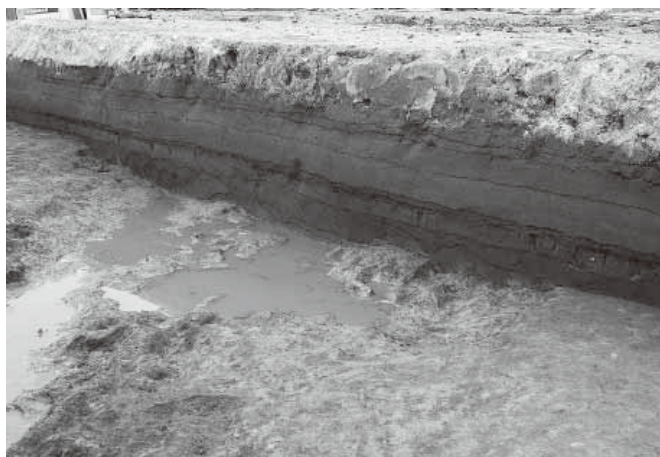
4. IX区11号溝全景(北西から)



5. IX区11号溝全景(南東から)

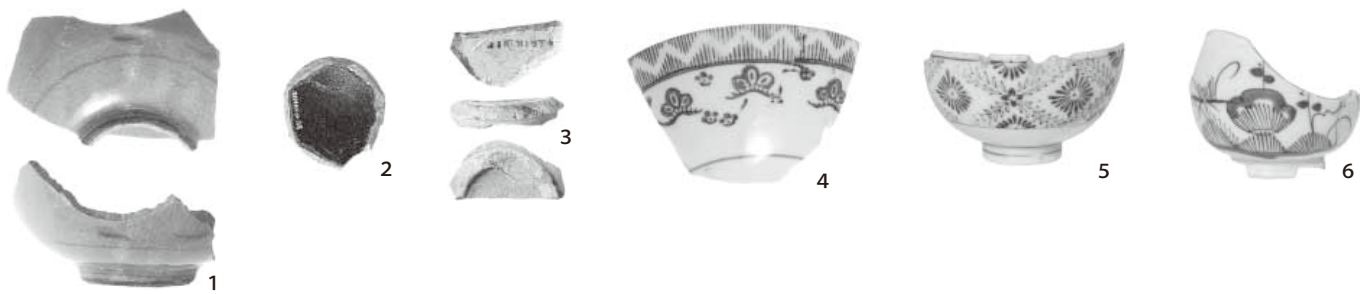


6. IX区11号溝土層断面A-A' (南東から)

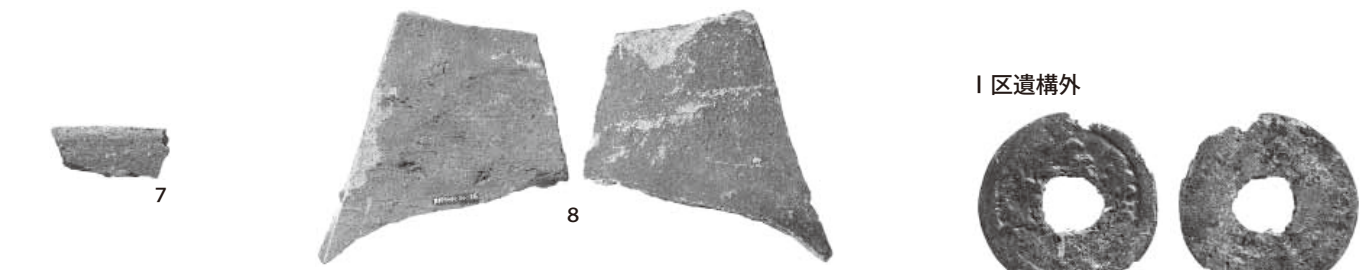


7. IX区11号溝土層断面B-B' (南東から)

I 区 1 号 堀



I 区 遺 構 外



II 区 1 号 溝



II 区 10 号 溝



II 区 27 号 溝



II 区 遺 構 外



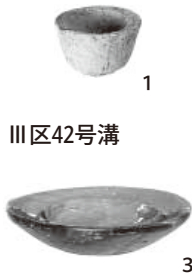


III区6号土坑

III区蛭堀

III区5号溝

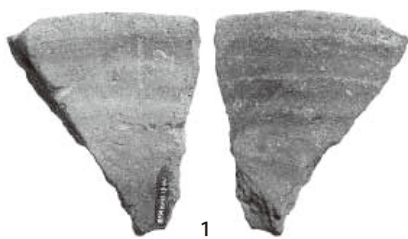
III区11号溝



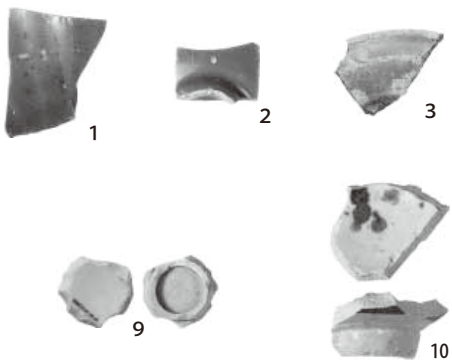
III区42号溝

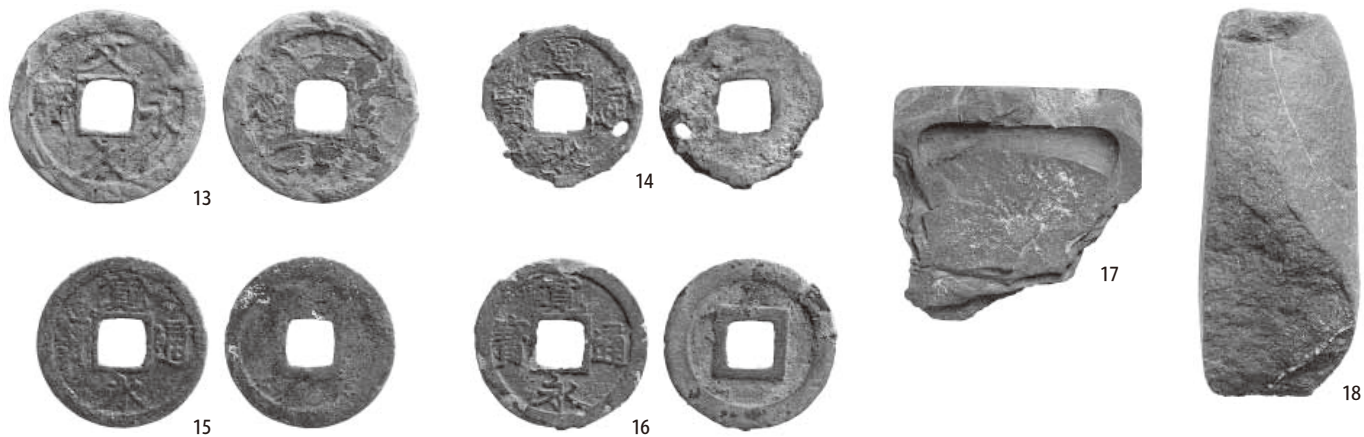


III区1号溝

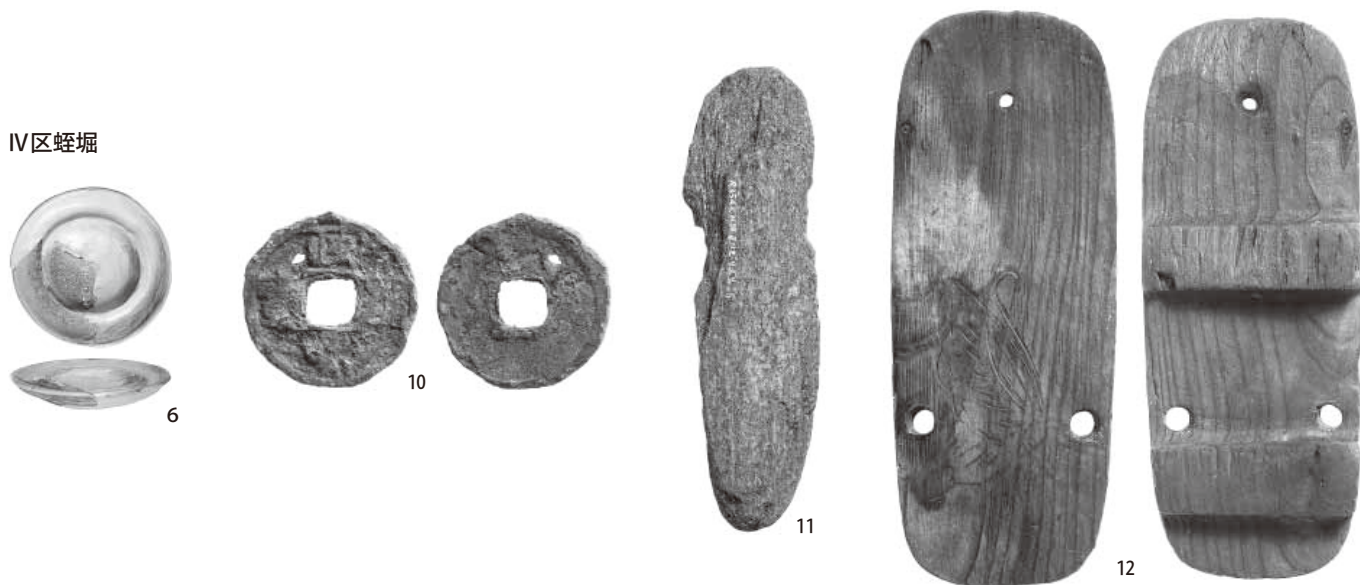


III区遺構外

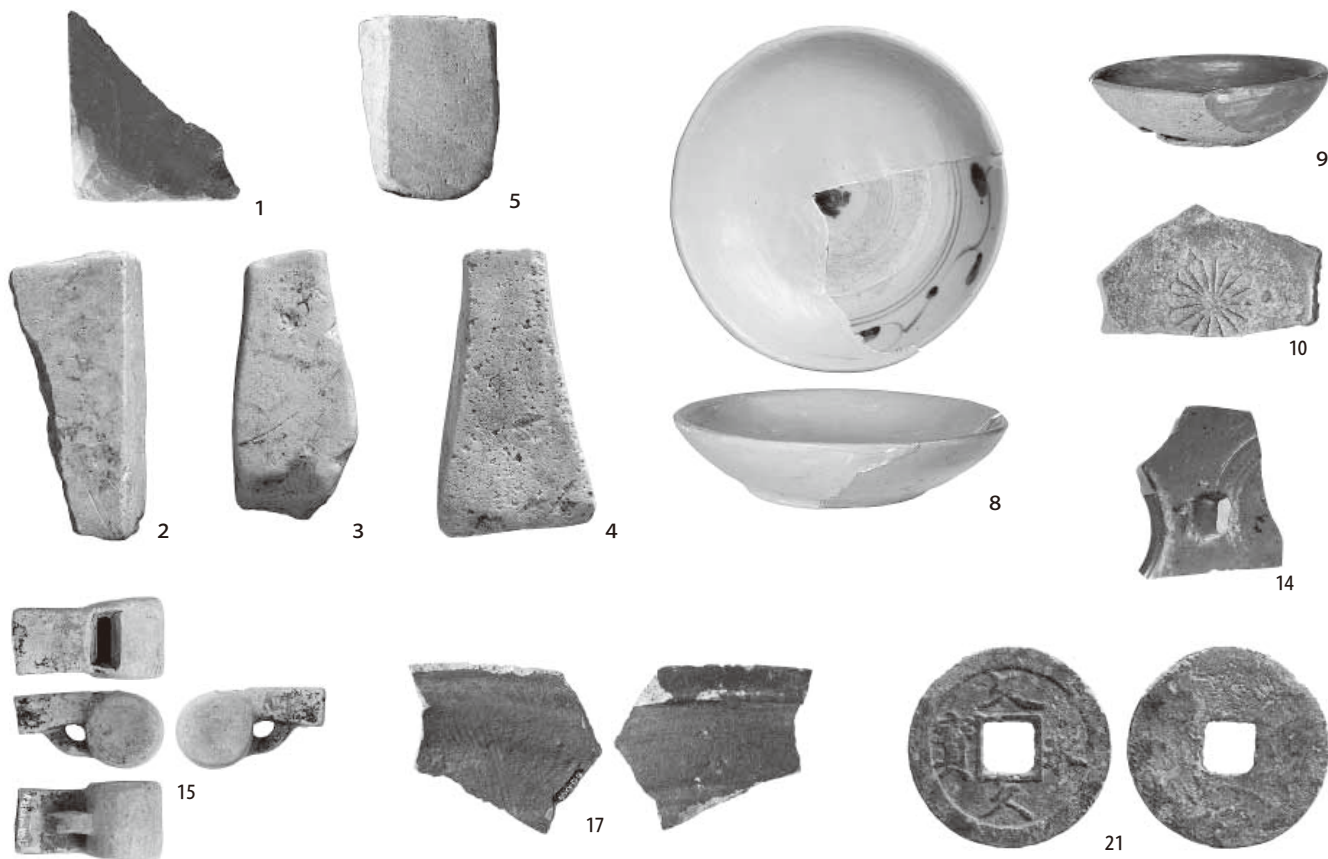




IV区蛭堀



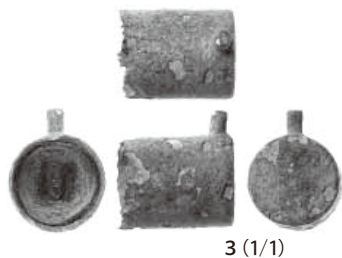
IV区1号・2号溝



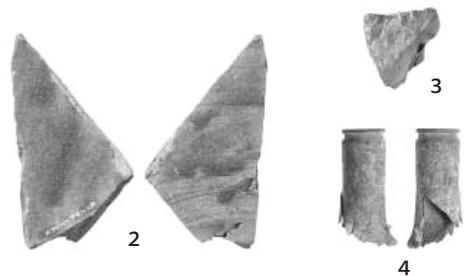
PL.210



IV区 2号復旧溝



IV区遺構外



V区34号溝



V区 3号溝



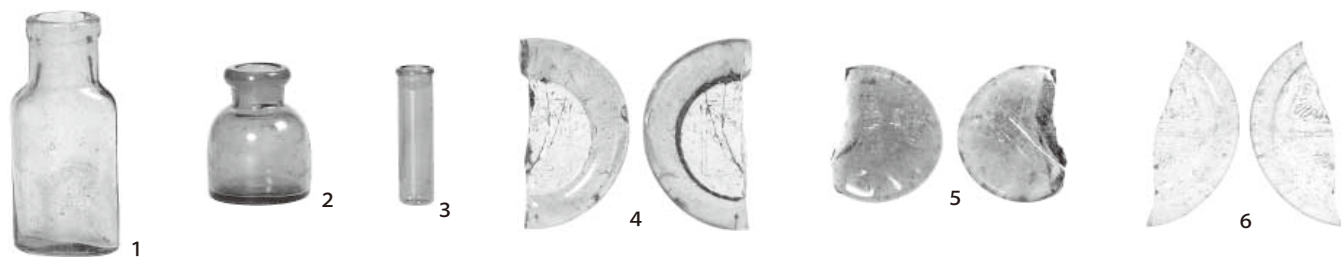
V区遺構外



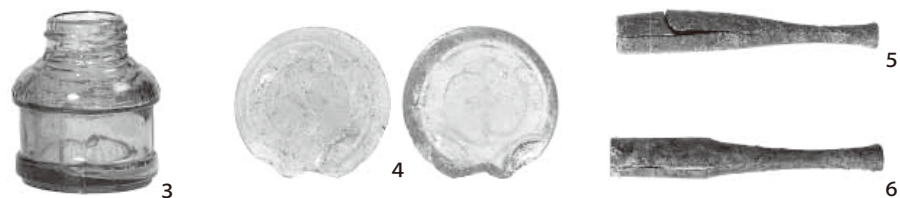
V区33号溝



VI区 1号溝



VI区6号溝



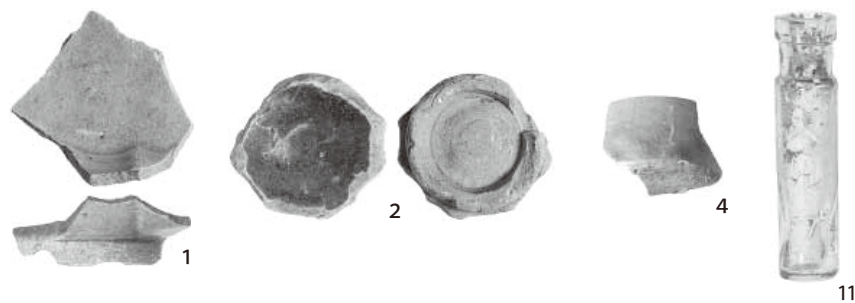
VII区1号溝



VI区遺構外



VIII区1号~4号溝



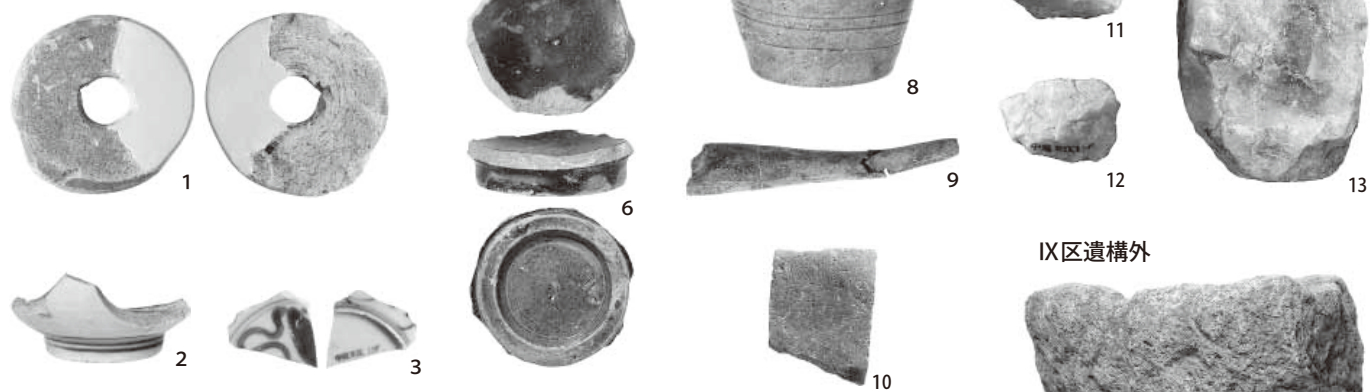
IX区2号溝



IX区4号溝



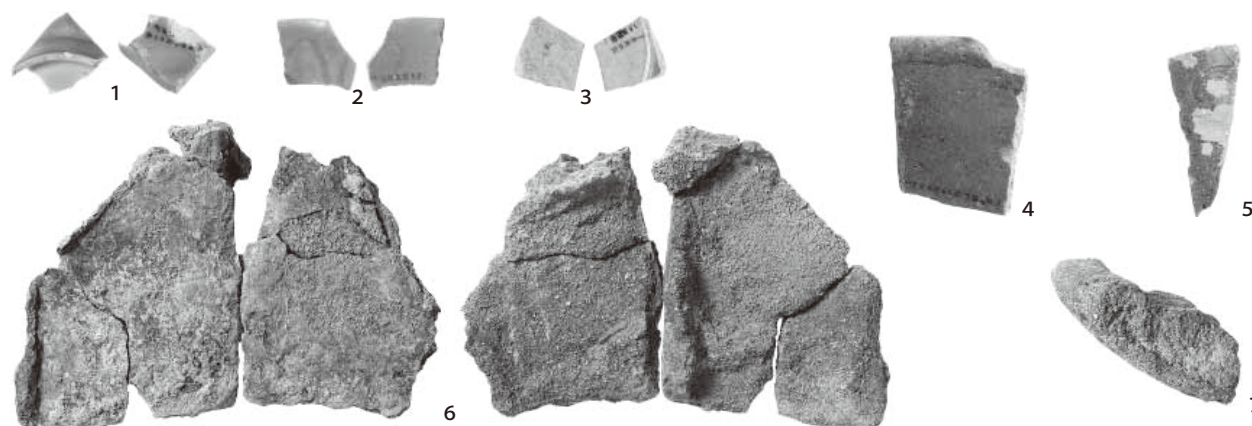
IX区1号溝



IX区遺構外



II区浅間B混土上層水田痕跡



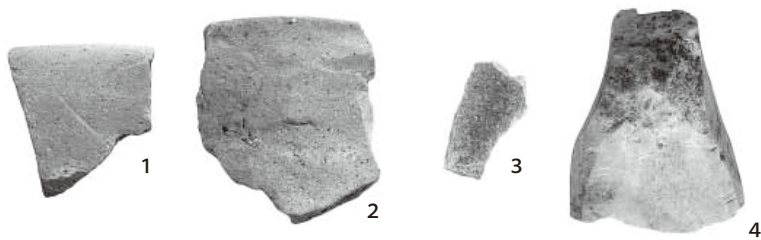
PL.212

II区浅間B混土上層水田痕跡

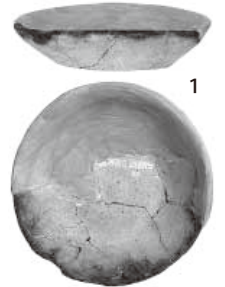


VII区浅間Bテフラ直下水田

II区遺構外



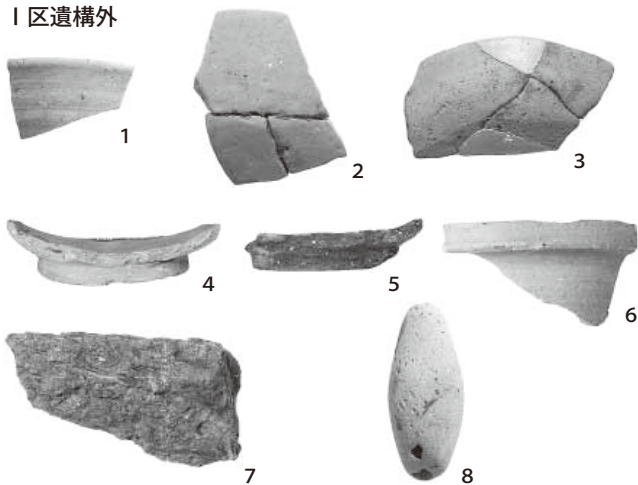
V区B混土下面水田痕跡



III区浅間Bテフラ直下水田



I区遺構外



II区遺構外



III区1号住居



III区2号住居



1



5



8

III区3号住居



1



4



7



2



8



9

III区5号住居



1



2

III区6号住居



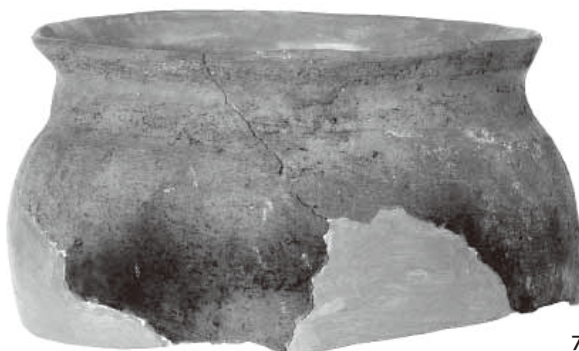
2



4



5



7

III区4号竖穴



3

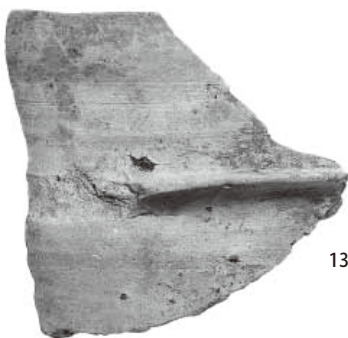


7

III区1号井戸



5



13



15

III区3号井戸



17

III区20号土坑



1

III区111号土坑



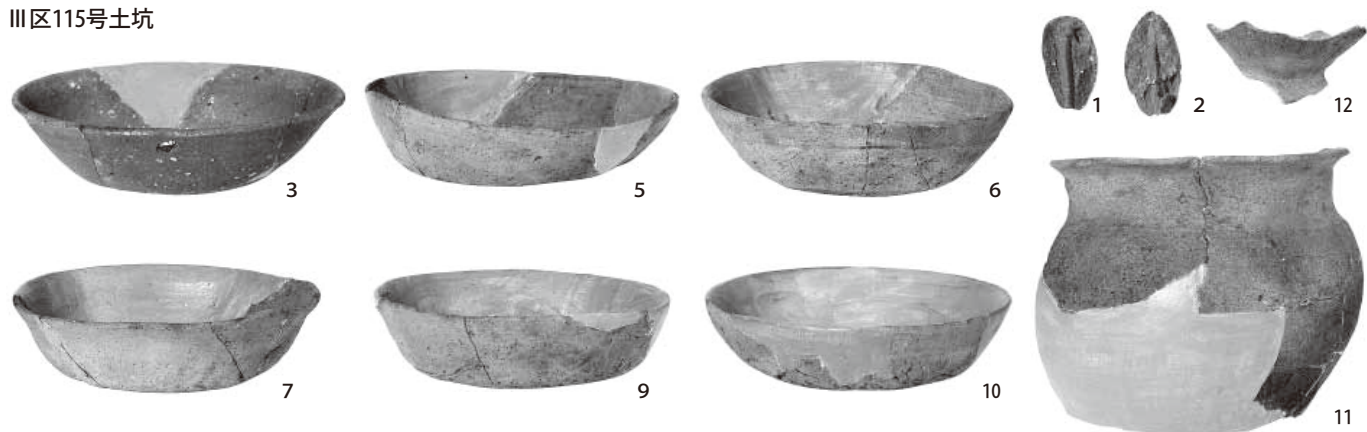
2



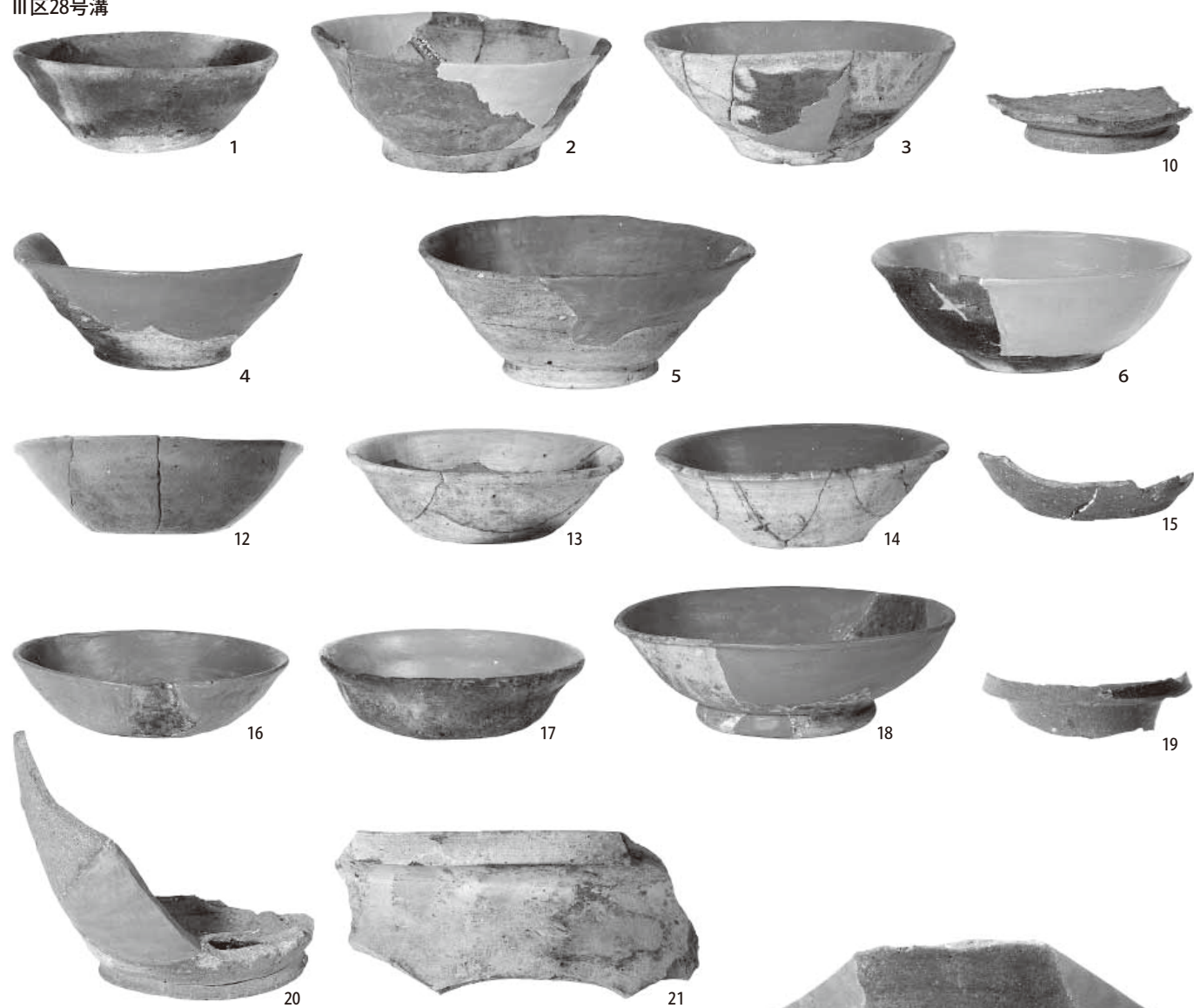
3

PL.214

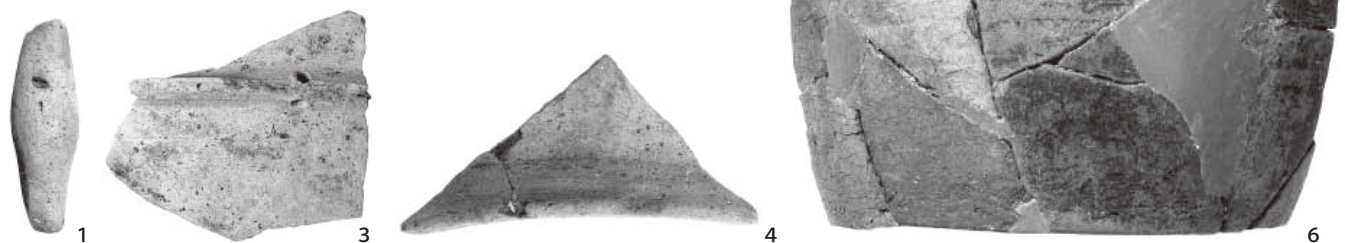
III区115号土坑



III区28号溝



III区29号溝





III区31号溝



III区遺構外



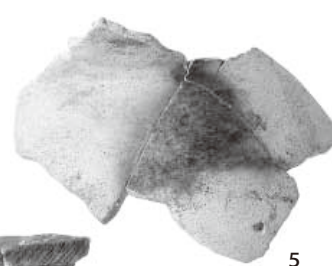
I区3号土坑



I区11~13号土坑

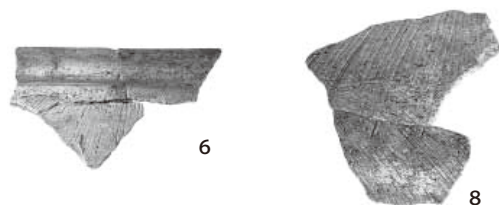
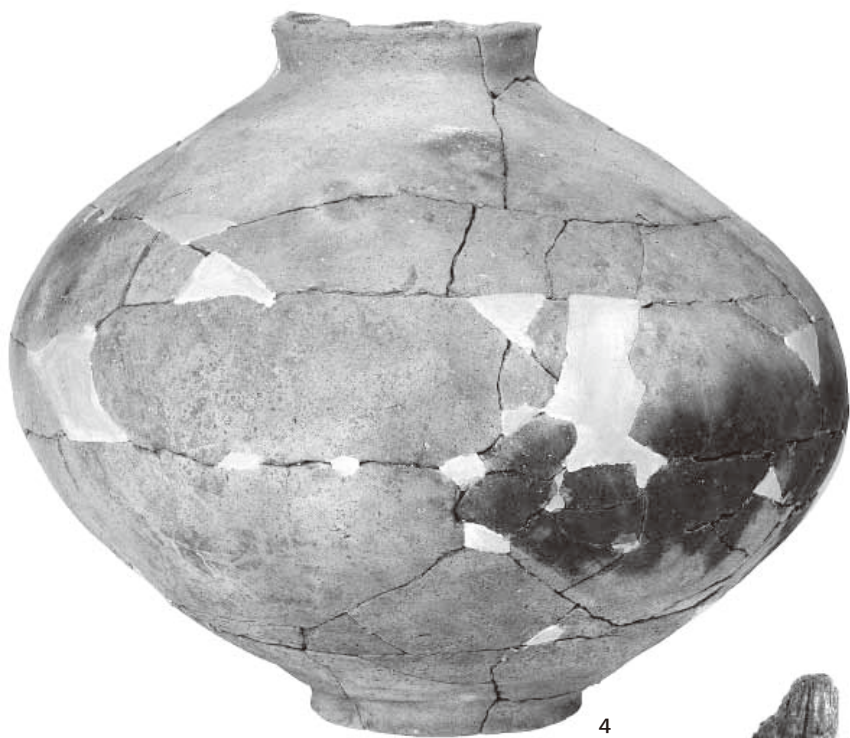


I区15号土坑



I区4号土坑





I 区22号溝



I 区34号溝



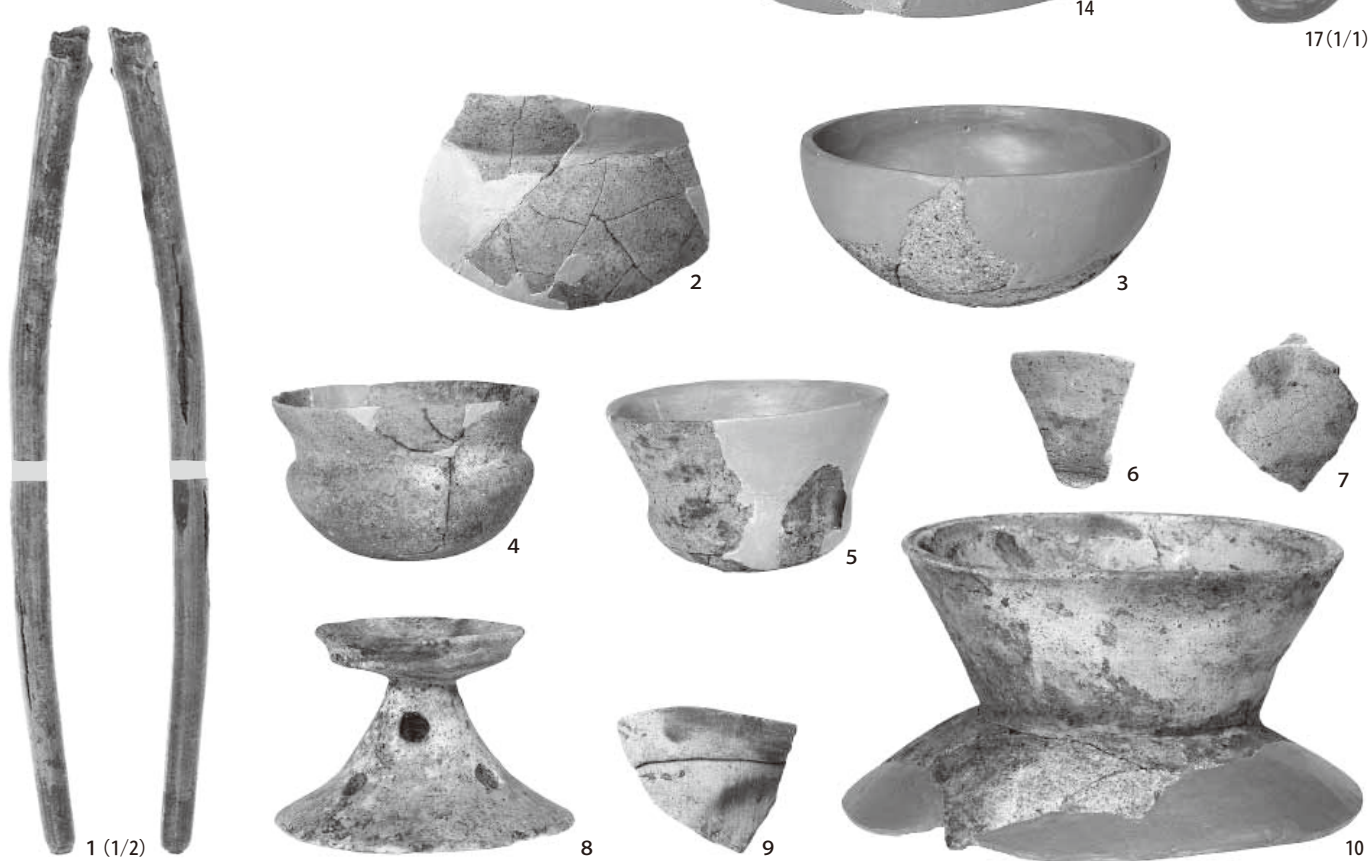
I 区39号溝



I 区遺構外



II 区8号土坑





11



12



14



15



13



16



17

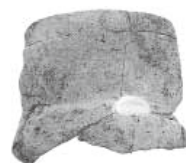


18

II区遺構外



1



2



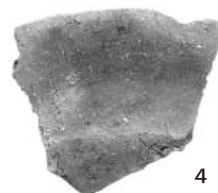
5



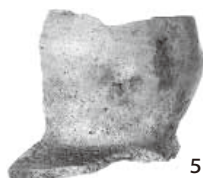
6



3



4



5



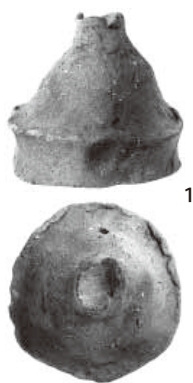
6

III区9号住居



1

III区5号掘立



1

III区26号土坑

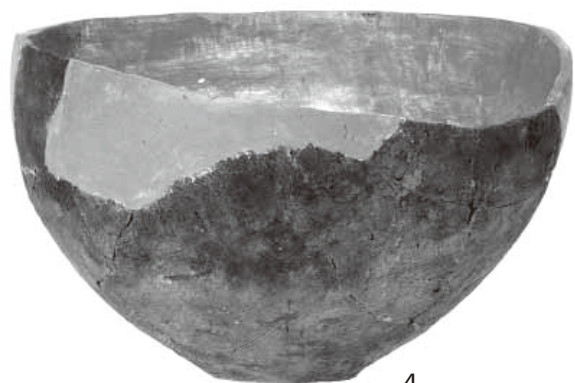


2

III区55号土坑



2



4

III区56号土坑



2

III区75号土坑



3

III区74号土坑



1



2

III区63号土坑



4



5

III区89号土坑



4

III区117号土坑



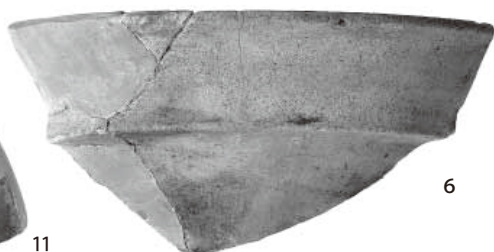
1



2



11



6



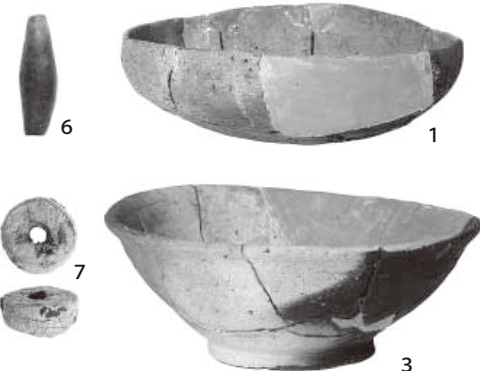
7

PL.220

III区33号溝



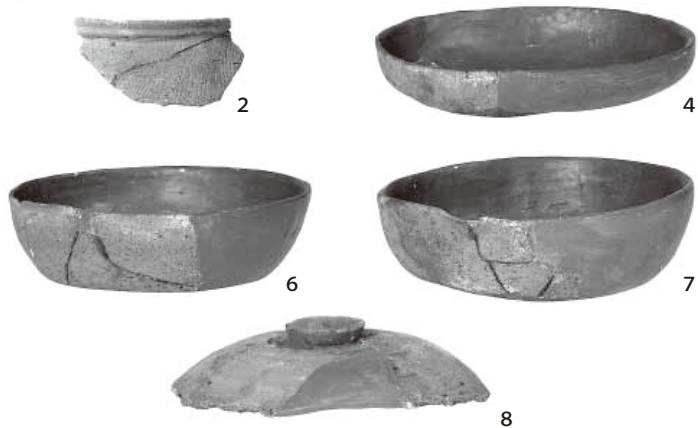
III区34号溝



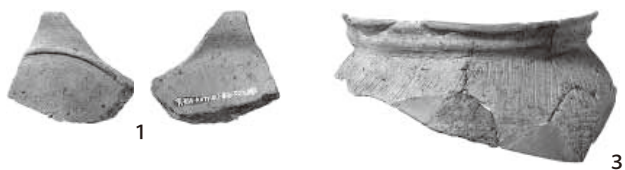
III区遺構外



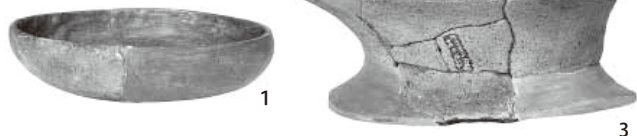
IV区49号土坑



IV区50号土坑



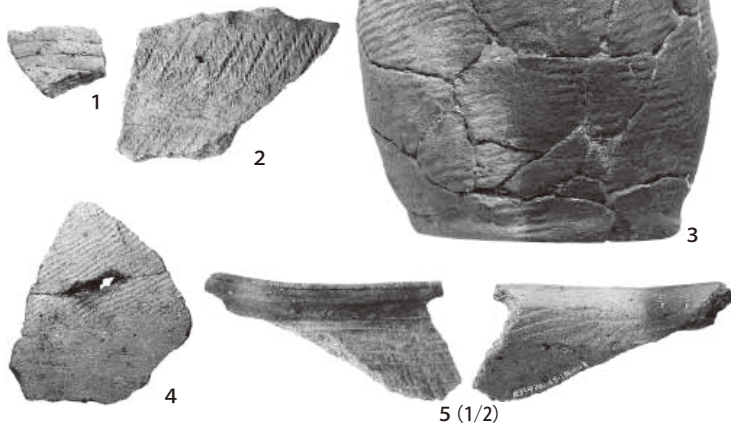
IV区1号凹地



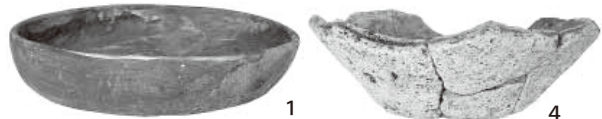
IV区29号ピット



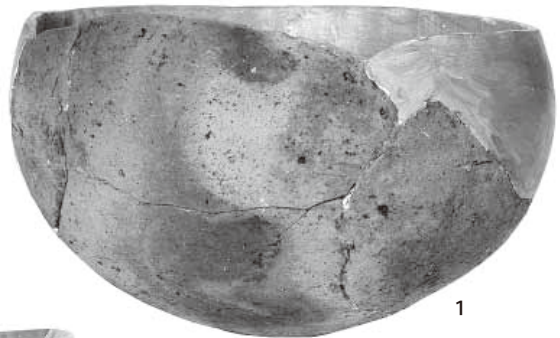
IV区1号方形周溝墓



IV区遺構外



V区36号土坑



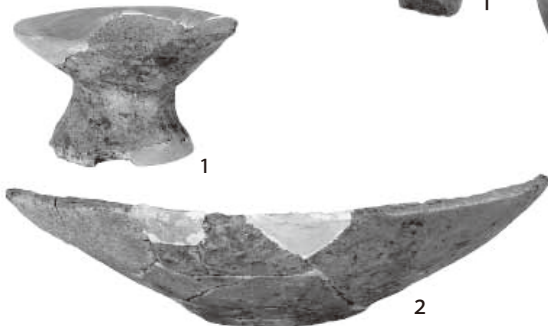
V区1号住居



V区2号住居



V区58号土坑

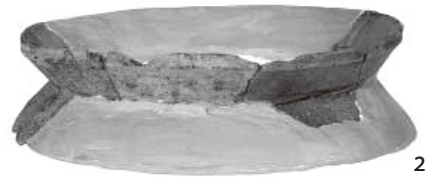


PL.222

V区71号土坑



V区74号土坑



V区3号凹地

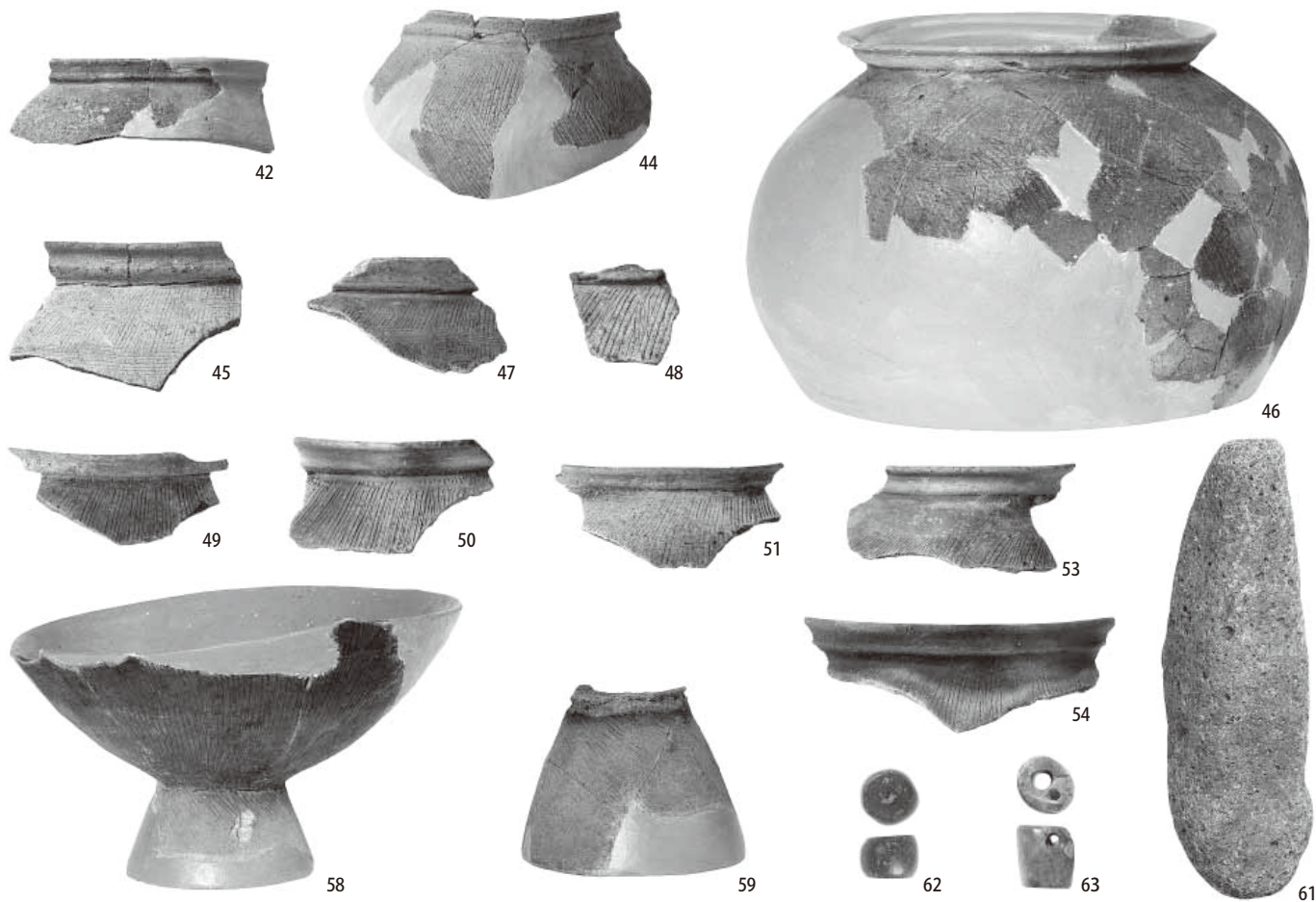


V区36号溝



V区遺構外





VI区1号住居



VI区4号井戸



VI区6号井戸



VI区7号井戸



VI区21号土坑



VI区27号土坑



VI区39号土坑



PL.224

VI区41号土坑



2

VI区43号土坑



2

VI区30号ピット



1

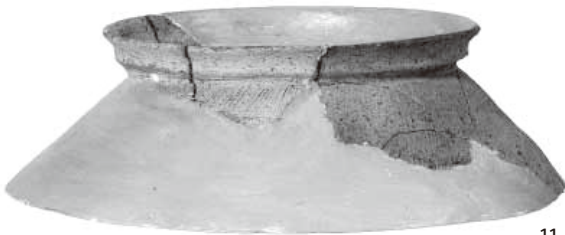
VI区18号溝



3



20



11



21

VI区21号溝



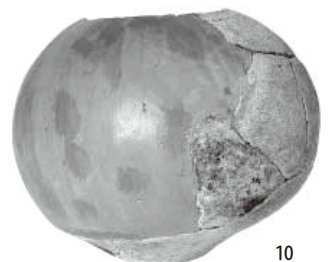
1



3



7



10

VI区14号溝



2



4



5

VI区16号溝



9



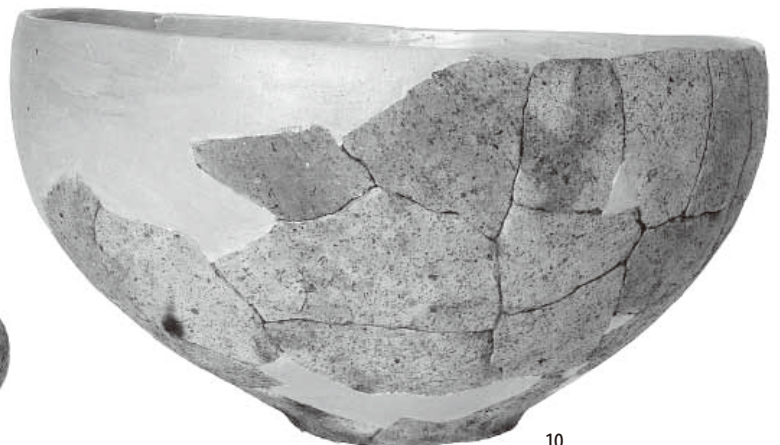
13



11



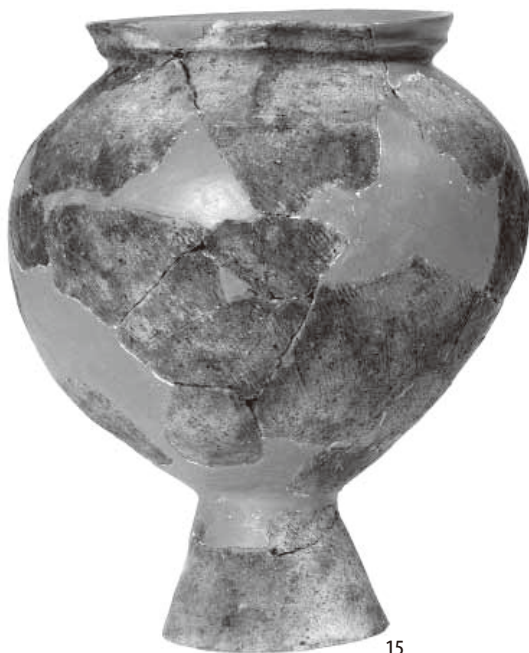
12



10



11



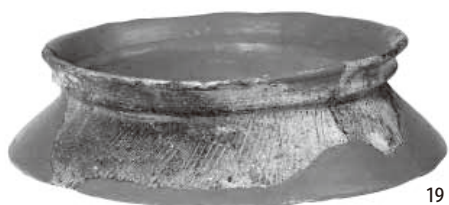
15



17



16



19



21



18

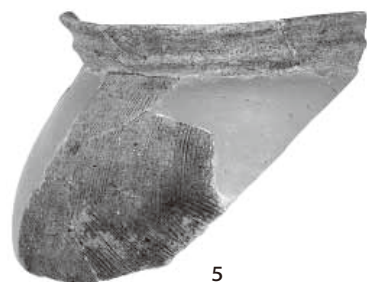
VI区24号溝



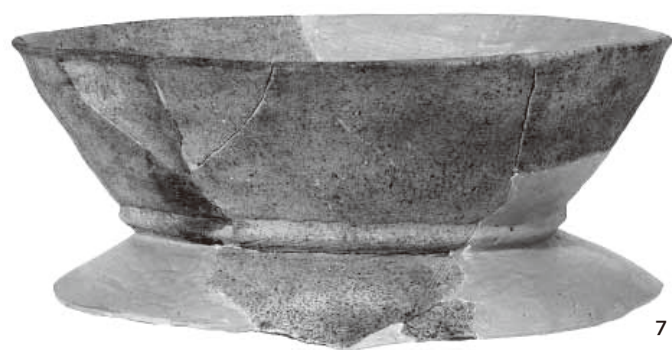
2



3



5



7



8



9

VI区遺構外



8

VIII区11号溝

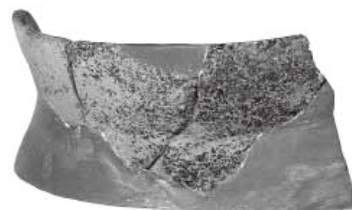


6

VIII区7号溝



1



4

IX区1号井戸



1



2

VIII区遺構外



1

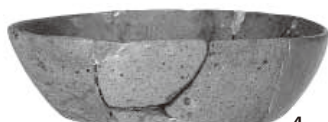
IX区遺構外



1



3



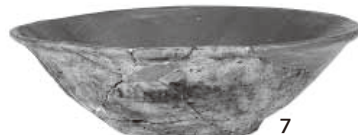
4



5



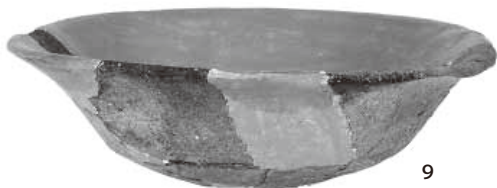
6



7



8



9



10



12



13

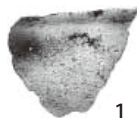


14



15

IX区8号溝



1

IX区11号溝

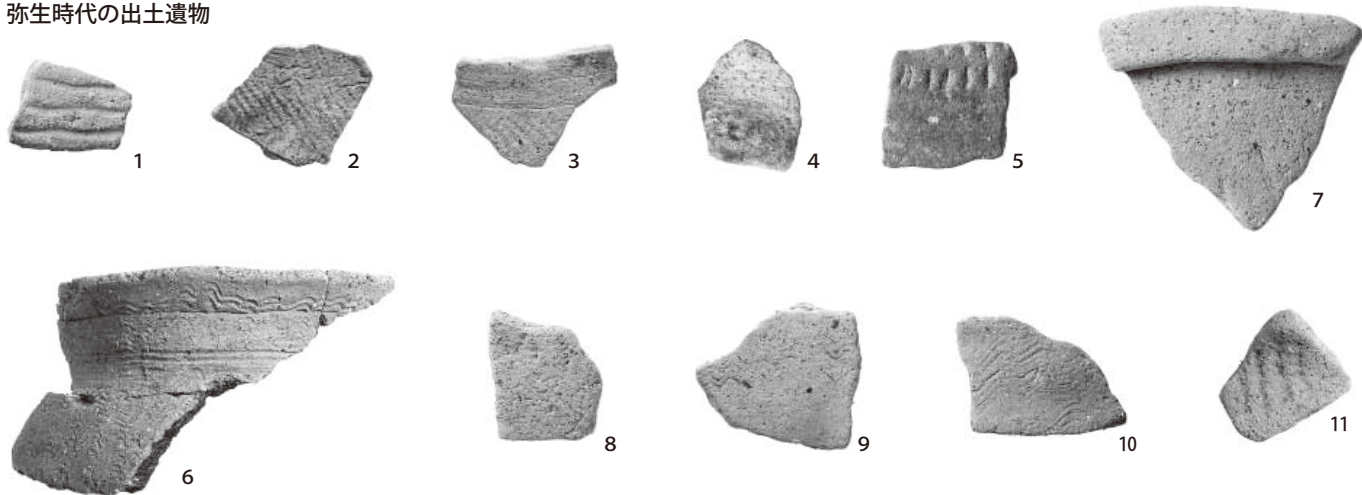


2

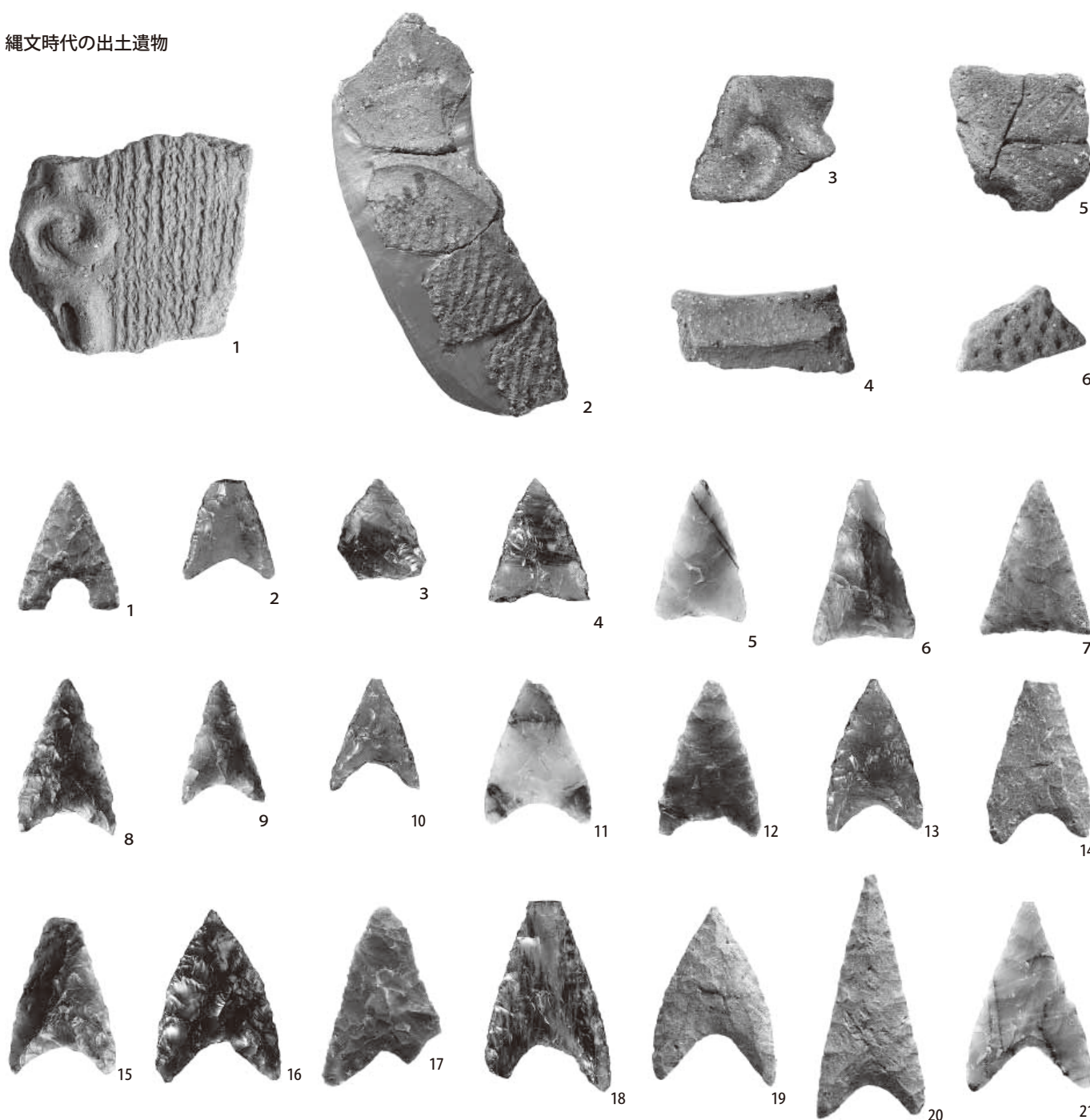


3

弥生時代の出土遺物



縄文時代の出土遺物





22



23



24



25



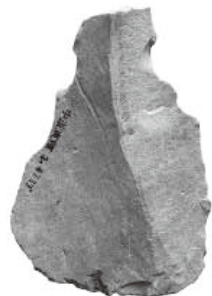
26



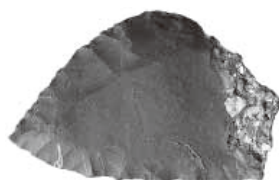
27



30



1



2



3



4



5

財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書 第528集

上新田中道東遺跡

国道354号高崎玉村バイパス(玉村工区)社会資本総合整備
(活力創出基盤整備事業)に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

平成24(2012)年2月20日 印刷

平成24(2012)年2月27日 発行

編集・発行/財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団

〒377-8555 群馬県渋川市北橘町下箱田784番地2

電話(0279)52-2511(代表)

ホームページアドレス <http://www.gunmaibun.org/>

印刷/●●●●●●●●●●

